

IBM® DB2 Universal Database™



メッセージ・リファレンス 第 2 巻

バージョン 8.2

IBM® DB2 Universal Database™



メッセージ・リファレンス 第 2 巻

バージョン 8.2

ご注意！

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： GC09-4841-01
IBM® DB2 Universal Database™
Message Reference, Volume 2
Version 8.2

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.8

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1993 - 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

第 1 章 メッセージの概要	1
メッセージ構造	1
メッセージ・ヘルプの呼び出し	1
その他の DB2 メッセージ	3
その他のメッセージ・ソース	3
第 2 章 SQL メッセージ	5
SQL0000 - SQL0099	5
SQL0100 - SQL0199	13
SQL0200 - SQL0299	28
SQL0300 - SQL0399	50
SQL0400 - SQL0499	64
SQL0500 - SQL0599	87
SQL0600 - SQL0699	104
SQL0700 - SQL0799	117
SQL0800 - SQL0899	124
SQL0900 - SQL0999	133
SQL1000 - SQL1099	151
SQL1100 - SQL1199	170
SQL1200 - SQL1299	186
SQL1300 - SQL1399	205
SQL1400 - SQL1499	219
SQL1500 - SQL1599	230
SQL1600 - SQL1699	235
SQL1700 - SQL1799	242
SQL1800 - SQL1899	252
SQL1900 - SQL1999	261
SQL2000 - SQL2099	261
SQL2100 - SQL2199	272
SQL2200 - SQL2299	274
SQL2300 - SQL2399	277
SQL2400 - SQL2499	279
SQL2500 - SQL2599	284
SQL2600 - SQL2699	297
SQL2700 - SQL2799	299
SQL2800 - SQL2899	305
SQL3000 - SQL3099	308
SQL3100 - SQL3199	321
SQL3200 - SQL3299	335
SQL3300 - SQL3399	343
SQL3400 - SQL3499	348
SQL3500 - SQL3599	352
SQL3600 - SQL3699	359
SQL3700 - SQL3799	361
SQL3800 - SQL3899	363
SQL3900 - SQL3999	365
SQL4000 - SQL4099	369
SQL4100 - SQL4199	372
SQL4300 - SQL4399	380
SQL4400 - SQL4499	382
SQL4900 - SQL4999	383

SQL5000 - SQL5099	392
SQL5100 - SQL5199	397
SQL5500 - SQL5599	402
SQL6000 - SQL6099	402
SQL6100 - SQL6199	417
SQL6500 - SQL6599	420
SQL7000 - SQL7099	427
SQL8000 - SQL8099	430
SQL8100 - SQL8199	434
SQL9300 - SQL9399	435
SQL10000 - SQL10099	436
SQL20000 - SQL20099	440
SQL20100 - SQL20199	458
SQL20200 - SQL20299	472
SQL21000 - SQL21099	484
SQL22000 - SQL22099	484
SQL22200 - SQL22299	486
SQL22400 - SQL22499	497
SQL27900 - SQL27999	499
SQL29000 - SQL29099	506
SQL30000 - SQL30099	508
SQL30100 - SQL30199	523

第 3 章 SQLSTATE メッセージ	525
クラス・コード 00 無条件正常終了	526
クラス・コード 01 警告	526
クラス・コード 02 データなし	529
クラス・コード 07 動的 SQL エラー	529
クラス・コード 08 接続例外	530
クラス・コード 09 トリガー・アクション	530
クラス・コード 0A サポートされていない機能	530
クラス・コード 0D ターゲット・タイプ指定が無効	531
クラス・コード 0F 無効なトークン	531
クラス・コード 0K RESIGNAL ステートメントが 無効	531
クラス・コード 20 CASE ステートメントにケース が見つからない	531
クラス・コード 21 カーディナリティー違反	531
クラス・コード 22 データ例外	532
クラス・コード 23 制約違反	533
クラス・コード 24 無効なカーソル状態	533
クラス・コード 25 無効なトランザクション状態	534
クラス・コード 26 無効な SQL ステートメント ID	534
クラス・コード 27 トリガー・データ変更違反	534
クラス・コード 28 無効な許可指定	535
クラス・コード 2D 無効なトランザクション終了	535
クラス・コード 2E 無効な接続	535
クラス・コード 34 無効なカーソル名	535
クラス・コード 36 無効なカーソル指定	535
クラス・コード 38 外部関数例外	536

クラス・コード 39	外部関数呼び出し例外	537
クラス・コード 3B	SAVEPOINT が無効	537
クラス・コード 40	トランザクション・ロールバック	537
クラス・コード 42	構文エラーまたはアクセス規則違反	538
クラス・コード 44	WITH CHECK OPTION 違反	548
クラス・コード 46	Java DDL	549
クラス・コード 51	無効なアプリケーション状態	549
クラス・コード 53	無効なオペランドまたは矛盾する指定	550
クラス・コード 54	SQL または製品の限界の超過	550
クラス・コード 55	前提条件の状態にないオブジェクト	551
クラス・コード 56	その他の SQL または製品エラー	552
クラス・コード 57	リソースが使用不可、またはオペレーターの介入	554
クラス・コード 58	システム・エラー	555

付録 A. 通信エラー 557

TCP/IP	557
APPC	560
NETBIOS	562
MQ	564
SOAP	564

付録 B. DB2 Universal Database 技術情報 567

DB2 資料とヘルプ	567
DB2 資料の更新	567
DB2 インフォメーション・センター	568
DB2 インフォメーション・センターのインストール・シナリオ	570
DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (UNIX)	572
DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (Windows)	575
DB2 Information Center の起動	578

コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 インフォメーション・センターの更新インストール	579
DB2 Information Center のトピックを希望の言語で表示する	580
DB2 PDF 資料および印刷された資料	581
DB2 の基本情報	581
管理情報	582
アプリケーション開発情報	583
ビジネス・インテリジェンス情報	584
DB2 Connect 情報	584
入門情報	584
チュートリアル情報	585
オプション・コンポーネント情報	585
リリース・ノート	586
PDF ファイルからの DB2 資料の印刷方法	587
DB2 の印刷資料の注文方法	588
DB2 ツールからコンテキスト・ヘルプを呼び出す	589
コマンド行プロセッサからメッセージ・ヘルプを呼び出す	590
コマンド行プロセッサからコマンド・ヘルプを呼び出す	590
コマンド行プロセッサから SQL 状態ヘルプを呼び出す	591
DB2 チュートリアル	591
DB2 トラブルシューティング情報	592
アクセス支援	593
キーボードによる入力およびナビゲーション	593
アクセスしやすい表示	594
支援テクノロジーとの互換性	594
アクセスしやすい資料	594
ドット 10 進シンタックス・ダイアグラム	595
DB2 Universal Database 製品の共通基準認証	597

付録 C. 特記事項 599

商標	601
----	-----

索引 603

IBM と連絡をとる 605

製品情報	605
------	-----

第 1 章 メッセージの概要

本書では、DB2 がインストールされたオペレーティング・システムの機能をよくご存じであることが前提となっています。以下の章に記載されている情報を使用すれば、エラーや問題を識別し、適切なリカバリー処置を行って問題を解決することができます。さらに、この情報を使用すると、メッセージが生成され記録される場所を理解することができます。

メッセージ構造

メッセージ・ヘルプは、メッセージの原因と、そのメッセージへの応答として行うべき処置を説明します。

メッセージ ID は、3 文字のメッセージ接頭部と、それに続く 4 桁または 5 桁のメッセージ番号と、それに続く 1 文字の接尾部から成り立っています。たとえば、*SQL1042C* です。メッセージ接頭部のリストについては、『メッセージ・ヘルプの呼び出し』 および 3 ページの『その他の DB2 メッセージ』を参照してください。1 文字の接尾部は、エラー・メッセージの重大度を示します。

一般に、*C* で終わるメッセージ ID は重大メッセージです。*E* で終わるものは緊急メッセージです。*N* で終わるメッセージ ID はエラー・メッセージ、*W* で終わるものは警告メッセージ、そして *I* は通知メッセージを示しています。

ADM メッセージでは、*C* で終わるメッセージ ID は重大メッセージです。*E* で終わるものは緊急メッセージです。*W* で終わるメッセージ ID は重要メッセージで、*I* は通知メッセージを示しています。

SQL メッセージでは、*N* で終わるメッセージ ID はエラー・メッセージです。*W* で終わっているメッセージ ID は、警告または通知メッセージです。*C* で終わっているメッセージ ID は、重大なシステム・エラーを示しています。

メッセージ・ヘルプの呼び出し

以下の DB2 メッセージは、コマンド行プロセッサから利用できます。

接頭部 記述

AMI	MQ Application Messaging Interface で生成されるメッセージ
ASN	DB2 レプリケーションで生成されるメッセージ
CCA	クライアント構成アシスタントで生成されるメッセージ
CLI	コール・レベル・インターフェースで生成されるメッセージ
DBA	データベース管理ツールで生成されるメッセージ
DBI	インストールおよび構成で生成されるメッセージ
DBT	データベース・ツールで生成されるメッセージ
DWC	データウェアハウス・センターで生成されるメッセージ

- DB2** コマンド行プロセッサで生成されるメッセージ
- DLFM** データ・リンク・ファイル・マネージャー (DLFM) で生成されるメッセージ
- DQP** Query Patroller で生成されるメッセージ
- GSE** DB2 Spatial Extender で生成されるメッセージ
- ICC** インフォメーション・カタログ・センターで生成されるメッセージ
- SQL** MQ Listener で生成されるメッセージ
- SAT** サテライト環境で生成されるメッセージ
- SPM** 同期点マネージャーで生成されるメッセージ
- SQL** 警告やエラー状態が検出されたときにデータベース・マネージャーで生成されるメッセージ

メッセージ・ヘルプを呼び出すには、コマンド行プロセッサを開いて、以下を入力します。

? XXXnnnnn

SQLSTATE 値に関連したメッセージ・テキストは、次のコマンドを実行して検索できます。

? nnnnn

または

? nn

ここで、*nnnnn* は 5 桁の SQLSTATE (英数字) のことで、*nn* は 2 桁の SQLSTATE クラス・コード (SQLSTATE 値の最初の 2 桁) です。

注: **db2** コマンドのパラメーターとして受け入れられるメッセージ ID では、大文字小文字の区別はありません。

そのため、以下のコマンドの結果は同じになります。

- ? SQL0000N
- ? sql0000
- ? SQL0000w

UNIX ベースのシステムのコマンド行でメッセージ・ヘルプを呼び出すには、以下を入力します。

db2 "? XXX nnnnn"

where *XXX* represents a valid message prefix
and *nnnnn* represents a valid message number.

ご使用の画面に対しメッセージ・テキストが長すぎる場合は、次のコマンドを使用します (UNIX ベース・システムおよび「more」をサポートしている他のシステムの場合)。

db2 "? XXX nnnnn" | more

その他の DB2 メッセージ

DB2 コンポーネントの中には、オンラインで使用不可であるメッセージや本書で解説されていないメッセージを戻すものもあります。メッセージ接頭部の中には、以下が入っていることがあります。

ADM 多くの DB2 コンポーネントで生成されるメッセージ。これらのメッセージは管理通知ログ・ファイルに書き込まれ、システム管理者に追加情報を提供するためのものです。

注: ADM メッセージは参照用として使用可能ですが、オンラインでは利用できません。

AUD DB2 監査機能で生成されるメッセージ。

DIA 多くの DB2 コンポーネントで生成される診断メッセージ。これらのメッセージは、db2diag.log という診断ログ・ファイルに書き込まれ、ユーザーや DB2 サービス担当者がエラーを調査する際に、追加情報を提供することが目的です。

GOV DB2 管理プログラム・ユーティリティーで生成されるメッセージ。

ほとんどの場合、これらのメッセージから警告やエラーの原因を判別するのに十分な情報が得られます。メッセージを生成したコマンドやユーティリティーに関する詳細な情報は、該当するコマンドやユーティリティーに関して文書化されている適切な資料を参照してください。

その他のメッセージ・ソース

システムで他のプログラムを実行している場合は、本書で解説されていない接頭部が付いたメッセージを受け取ることがあります。

それらのメッセージについては、該当するプログラム製品の資料を参照してください。

第 2 章 SQL メッセージ

各メッセージは、接頭部 (SQL) とメッセージ番号で構成されたメッセージ ID を持っています。メッセージはメッセージ番号順にリストされています。

メッセージには、次の 3 つの SQL メッセージ・タイプがあります: 通知、警告、および重大。N で終わっているメッセージ ID は、エラー・メッセージです。W で終わっているメッセージ ID は、警告または通知メッセージです。C で終わっているメッセージ ID は、重大なシステム・エラーを示しています。

メッセージ番号は、*SQLCODE* とも呼ばれます。SQLCODE は、そのメッセージ・タイプ (N、W、または C) に応じて、正または負の番号でアプリケーションに渡されます。N と C は負の数で、W は正の値になります。

DB2 は SQLCODE をアプリケーションに戻し、アプリケーションはその SQLCODE と関連したメッセージを得ることができます。

また DB2 は、SQL ステートメントの結果の可能性のある条件については、*SQLSTATE* 値も戻します。一部の SQLCODE 値は、関連した SQLSTATE 値を持っています。指定された SQLCODE (該当する場合) に関連した SQLSTATE 値は、各メッセージと一緒に記載されています。

SQL メッセージの変数パラメーターは、記述名で示されています。

SQL0000 - SQL0099

SQL0000W ステートメントは正常に処理されました。

説明: 警告状態が起きていなければ、SQL ステートメントは正常に処理されました。

ユーザーの処置: SQLWARN0 をチェックして、ブランクであることを確認してください。ブランクの場合は、ステートメントが正常に実行されています。ブランクでない場合は、警告が発生しています。他の警告標識をチェックして、特定の警告状態を判別してください。たとえば、SQLWARN1 がブランクでない場合は、ストリングが切り捨てられています。

「アプリケーション開発ガイド」を参照してください。

sqlcode: 0

sqlstate: 00000, 01003, 01004, 01503, 01504, 01506, 01509, 01517

SQL0001N バインド、またはプリコンパイルが失敗しました。

説明: 前のメッセージ中に示された理由のために、バインドまたはプリコンパイル要求が失敗しました。

パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイル内のメッセージを参照してください。コマンドを再サブミットしてください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

SQL0002N バインド・ファイル名が無効です。

説明: 前のメッセージ中に示された理由のために、指定されたバインド・ファイル名を使用できません。

パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイル内のメッセージを参照してください。コマンドを再サブミットしてください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

SQL0003N データベース名が無効です。

説明: 前のメッセージ中に示された理由のために、指定されたデータベース名を使用できません。

パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイル内のメッセージを参照してください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL0004N パスワードが無効です。

説明: パスワードに無効な文字が入っているか、またはパスワードが長すぎます。

パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: 有効なパスワードを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL0005N メッセージ・ファイル名が無効です。

説明: 前のメッセージ中に示された理由のために、指定されたメッセージ・ファイル名を使用できません。

パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイル内のメッセージを参照してください。メッセージ・ファイルの名前をチェックしてください。メッセージ・ファイルがある場合にはその属性をチェックしてください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL0006N datetime format パラメーターが無効です。

説明: datetime format パラメーターの値が 0 から 3 の有効な範囲内にありません。

パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: 有効な format パラメーターを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL0007N text の後の文字 character が無効です。

説明: 示された character は、SQL ステートメントの有効な文字ではありません。「text」フィールドは、無効な文字の前にある 20 文字の SQL ステートメントを示します。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 一部のデータ・ソースは、character および text メッセージ・トークンに適切な値を提供しません。この場合、character および text は、“<data source>:UNKNOWN” の形式になります。これは、指定されたデータ・ソースの実際の値が不明であることを示しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 無効な文字を取り除くか、または有効な文字で置き換えてください。

sqlcode: -7

sqlstate: 42601

SQL0008N ホスト変数宣言のトークン token が無効です。

説明: ホスト変数宣言に構文の誤りがあります。プリコンパイラーがホスト変数を識別できません。

ステートメントは処理できません。ステートメント (セミコロンまで) で宣言されたすべてのホスト変数が受け付けられません。

ユーザーの処置: ホスト変数宣言の構文を確認してください。

SQL0009W プリコンパイラー・オプションをオーバーライドしようとしたが、無視されました。

説明: プリコンパイラー・オプションのオーバーライドが試みられました。

オプションは無視されます。

ユーザーの処置: すべてのプリコンパイラー・オプションが正しく指定されていることを確認してください。

SQL0010N string で始まるストリング定数に、終わりの区切り文字がありません。

説明: ステートメントに、string で始まるストリング定数が入っていますが、正しく終了していません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントを調べて、示されているストリング定数にアポストロフィが抜けていないことを確認してください。

sqlcode: -10

sqlstate: 42603

SQL0011N コメントが終了していません。

説明: コメントが正しく終了していません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントを調べて、示されているコメントに区切り文字が抜けていないこと、または余分な区切り文字がないことを確認してください。

SQL0012W 列 *column* で修飾のない相関が発生しました。

説明: 示された列は SELECT ステートメント中にありますが、明示的に修飾されておらず、外部の SELECT ステートメントの FROM 文節に指定されている表にあります。従って、SELECT ステートメントの列に対する参照は外部参照と見なされ、相関が発生します。

ステートメントは、相関が指定されたものとして処理されました。

ユーザーの処置: 相関が必要であることを確認してください。外部参照を用いるときには、必ず明示的に修飾してください。

sqlcode: +12

sqlstate: 01545

SQL0013N 空の区切り ID は無効です。

説明: プリコンパイル時に、空のストリングとして指定された、カーソル名、ステートメント名、データベース名、または許可 ID が見つかりました。これは有効ではありません。ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 有効なカーソル名、ステートメント名、データベース名、または許可 ID を指定してください。

SQL0014N ソース・ファイル名が無効です。

説明: プリコンパイラーの呼び出しに指定したソース・ファイル名に無効な文字が入っているか、またはソース・ファイル名へのポインターが無効です。

パッケージは作成されませんでした。

ユーザーの処置: 正しいソース・ファイル名を使用してください。

SQL0015N ホスト変数のデータ・タイプ *token-1* が無効です。代わりに *token-2* を使用してください。

説明: WCHARTYPE CONVERT プリコンパイル・オプションが有効な場合には、GRAPHIC ホスト変数はデータ・タイプ 'sqlbchar' ではなく、'wchar_t' で宣言されていなければなりません。

WCHARTYPE NOCONVERT プリコンパイル・オプションが有効で (デフォルト)、'wchar_t' がこのプラットフォームに 4 バイト整数として定義されている場合には、GRAPHIC ホスト変数はデータ・タイプ 'wchar_t' ではなく、'sqlbchar' で宣言されていなければなりません。

ユーザーの処置: ホスト変数の現行のデータ・タイプを、メッセージに指定されたデータ・タイプと置き換えてください。

SQL0017N RETURN ステートメントを指定し、SQL 関数またはメソッドで実行する必要があります。

説明: SQL 関数またはメソッドが RETURN ステートメントを含んでいないか、あるいは関数または方式が RETURN ステートメントの実行を終了していませんでした。

ユーザーの処置: 関数または方式が RETURN ステートメントを実行しているかを確認してください。

sqlcode: -17

sqlstate: 42632

SQL0020W BIND またはプリコンパイル・オプション (名前または値) *option-name(s)* は、ターゲット・データベースでサポートされていないため、無視されます。

説明: この警告は次の状況の場合に返されます。

- プリコンパイル/BIND 時に指定された 1 つ以上のオプションが、ターゲット DBMS によってサポートされていない。
- プリコンパイル/BIND 時に指定された 1 つ以上のオプションのオプション値が、ターゲット DBMS によってサポートされていない。

サポートされていないオプション/値は無視されます。

メッセージにあるオプション名は DB2 UWO で使用される条件に対応している点に気を付けてください。

DB2 UWO でサポートされるオプションのリストを得るには、"db2 ? bind" または "db2 ? prep" と入力してください。

ユーザーの処置: この DBMS への接続中、BIND またはプリコンパイル *option-name(s)* あるいは関連したオプション値の指定は、意図されていたことを確認してください。

SQL0021W 無効なプリコンパイラー・オプション *option* が無視されました。

説明: メッセージに示されたオプションは、有効なプリコンパイラー・オプションではありません。

オプションは無視されます。

ユーザーの処置: すべてのプリコンパイラー・オプションが正しく指定されていることを確認してください。

SQL0022W 重複するプリコンパイラー・オプション option が無視されました。

説明: プリコンパイラー・オプション option が重複しています。

オプションは無視されます。

ユーザーの処置: すべてのプリコンパイラー・オプションが 1 回だけ指定されていることを確認してください。

SQL0023N データベース名が無効です。

説明: 指定されたデータベース名は、有効な名前ではありません。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: データベース名のつづりが正しく、短 ID の規則に従っていることを確認してください。

SQL0024N データベース名が指定されませんでした。

説明: プリコンパイル時にデータベース名が指定されていませんでした。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: データベース名を指定してください。

SQL0025W バインドまたはプリコンパイルが、警告付きで完了しました。

説明: バインドまたはプリコンパイルは成功しましたが、警告が出されました。パッケージとバインド・ファイルのいずれか、または両方が、コマンドで要求された通りに作成されました。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイル内のメッセージを参照してください。必要に応じて、問題を訂正してコマンドを再サブミットしてください。

SQL0026N パスワードが無効です。

説明: 指定されたパスワードは、有効なパスワードではありません。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: 指定したパスワードが、パスワードの規則に従っていることを確認してください。

SQL0028C バインド・ファイルのリリース番号が無効です。

説明: バインド・ファイルのリリース番号が、インストールされているバージョンのデータベース・マネージャーのリリース番号と互換ではありません。

このバインド・ファイルは、現行バージョンのデータベース・マネージャーでは使用できません。コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 可能であれば、現在のデータベース・マネージャーを使用して、プリコンパイル処理を繰り返してください。または、互換リリース・レベルのデータベース・マネージャーで作成されたバインド・ファイルのみを使用してください。

SQL0029N INTO 文節が必要です。

説明: アプリケーション・プログラムに組み込まれている非カーソル SELECT または VALUES ステートメントには、ステートメントの結果を入れる場所を指示するための INTO 文節が必要です。動的 SELECT ステートメントには、INTO 文節を使用できません。

ユーザーの処置: INTO 文節を SELECT または VALUES ステートメントに追加して、もう一度アプリケーション・プログラムをプリコンパイルしてください。

sqlcode: -29

sqlstate: 42601

SQL0030N ソース・ファイル名が指定されませんでした。

説明: プリコンパイル時にソース・ファイル名が指定されていませんでした。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: ソース・ファイル名を指定してください。

SQL0031C ファイル name がオープンできませんでした。

説明: ファイル name が指定されていますが、オープンできませんでした。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: 示されたファイル名が正しく、ファイル・システム内に存在し、ファイル許可が正しいことを確認してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。エラーが続く場合は、データベース・マネージャーを再インストールした後に、サンプル・データベースをインストールしてください。

SQL0032C ファイル *name* が使用できません。

説明: ファイル *name* の読み取りまたは書き込み中に、エラーが起きました。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: もう一度プリコンパイルしてください。

SQL0033N *name* は、有効なバインド・ファイルではありません。

説明: 示されたバインド・ファイル *name* が、有効なバインド・ファイルではありません。

バインドは終了します。

ユーザーの処置: 正しいファイル名が指定されていることを確認してください。

SQL0034N バインド・ファイル名が指定されませんでした。

説明: バインド時にバインド・ファイル名が指定されていませんでした。

バインドは終了します。

ユーザーの処置: バインド・ファイル名を指定してください。

SQL0035N ファイル *name* がオープンできません。

説明: メッセージ・ファイル *name* がオープンできませんでした。

バインドまたはプリコンパイルは終了しました。

ユーザーの処置: システムがそのファイルにアクセスできることを確認してください。

SQL0036N ファイル名 *name* の構文が無効です。

説明: ファイルがプリコンパイラへの入力の場合は、使用する言語に対する正しい拡張子を持っている必要があります。ファイルがバインド・プログラムへの入力の場合は、拡張子 *.bnd* を持っている必要があります。また、プラットフォームの最大長を超える完全に解決されたファイル名も、このエラーの原因となります。

プリコンパイルまたはバインドは終了します。

ユーザーの処置: 示されたファイル名が正しいことを確認してください。

SQL0037W メッセージ・ファイル *name* の構文が無効です。

説明: メッセージ・ファイル名 *name* は、この関数に対して構文的に正しくありません。

システムは出力を標準出力装置に切り替えます。

ユーザーの処置: 示されたファイル名が正しいことを確認してください。

SQL0038W BIND オプション SQLERROR CONTINUE は、この DB2 提供リスト・ファイルを DB2/MVS、SQL/DS、または OS/400 とバインドする時に必要となるために、活動化されています。

説明: 次の DB2 提供リスト・ファイルをバインドする時には、SQLERROR CONTINUE BIND オプションが必要です。

- ddcsmvs.lst
- ddcsvm.lst
- ddcsvse.lst
- ddcs400.lst

このオプションは、バインド・ファイルに SQL ステートメントがある場合にも、これを無効と見なすために、DRDA サーバーにパッケージの作成を指示します。すべての DRDA サーバーが DB2 提供リスト・ファイルに入っているすべての SQL ステートメントをサポートしていないので、リスト・ファイルのすべてのバインド・ファイルに対してパッケージが作成されるように保証するためには、SQLERROR CONTINUE BIND オプションを使用しなければなりません。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。必要な BIND オプション SQLERROR CONTINUE が指定されています。今後、この警告の受信を回避するためには、SQLERROR CONTINUE BIND オプションを指定してください。

SQL0039N バインド・ファイルが無効なため、バインド・プログラムが処理を完了できませんでした。

説明: バインド・プログラムがバインド・ファイルを処理できませんでした。バインド・ファイルの内容が偶発的に変更されたため、そのバインド・ファイルは無効となっている可能性があります。

バインド・ファイルは処理されません。

ユーザーの処置: 可能であれば、新しいバインド・ファイルを作成するために、プリコンパイル処理を繰り返す

てください。または、バインド・ファイルの新しいコピーを取得してください。

SQL0040N リスト *name* のバインド・ファイルでエラーが発生しました。次のファイルがバインドされませんでした: *list*

説明: メッセージ・ファイル内の前のメッセージに示された理由のため、1 つ以上のバインド・ファイルがバインドされませんでした。バインドされなかったファイルのリストは 1 から始まる数字で構成されており、その数字はリスト・ファイル内のバインドされなかったファイルの相対位置を示します。 *name* には、リスト・ファイルのパス情報が入っていません。

メッセージには、エラーがあった最初の 20 個のバインド・ファイルしかリストされません。20 個を超えるバインド・ファイルにエラーがあった場合は、リストの最後のバインド・ファイル名の後に、省略記号 (...) が挿入されます。

パッケージは作成されませんでした。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイル内のメッセージを参照してください。リスト・ファイルをチェックして、有効な名前が入っていることを確認してください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL0041N 致命的エラーが発生して処理が終了されたため、リスト *name* のファイル番号 *number* に続くファイルでは、バインドが試行されませんでした。

説明: バインド処理中の一部のエラーは致命的なエラー(すなわち、システム・エラーまたはメモリー・エラー)と考えられます。リスト・ファイルのファイルの処理中にこれらのエラーの 1 つが起こった場合には、処理は終了されます。リスト・ファイルの残りのファイルをバインドする試みは行われません。

リスト内で指定されたバインド・ファイルをバインド中に、このようなエラーが起こりました。バインド・ファイルの識別に使用される数字が、リスト・ファイルのファイルの相対位置を示していることに注意してください。

ユーザーの処置: 起こったエラーを解決するためには、これに伴って出されたその他のメッセージを参照してください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL0051N 単一プログラムのすべての SQL ステートメントを保留するために必要なスペースが、最大許可値を超えています。

説明: プログラムに必要なすべての SQL ステートメントに必要なスペースが、SYSIBM.SYSPLAN の列

SECT_INFO に適合しません。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: プログラムを単純にするか、個別の小さいプログラムに分割するか、またはその両方を行ってください。

SQL0053W プログラムに SQL ステートメントがありません。

説明: 指定されたソース・ファイルには、SQL ステートメントが入っていません。

バインドの場合には、空のパッケージが作成されます。

ユーザーの処置: プリコンパイルまたはバインド中のプログラムが正しいことを確認してください。

SQL0055N ソース入力ファイルが空です。

説明: プログラム・ソース入力ファイルに、データが入っていません。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: 正しい入力ファイルが指定されていることを確認してください。

SQL0056N ネストされたコンパウンド・ステートメントに SQLSTATE または SQLCODE 変数宣言があります。

説明: SQLSTATE または SQLCODE 変数宣言が、SQL ルーチンで最外部のコンパウンド・ステートメントではなく、ネストされたコンパウンド・ステートメントにあります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQLSTATE および SQLCODE 変数は、SQL ステートメントで最外部のコンパウンド・ステートメントでのみ宣言してください。

sqlcode: -56

sqlstate: 42630

SQL0057N SQL 関数またはメソッド内の RETURN ステートメントには、戻り値が入っていないければなりません。

説明: 返す値の指定なしで、RETURN ステートメントが SQL 関数またはメソッドに指定されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: RETURN ステートメントに値を指定してください。

sqlcode: -57

sqlstate: 42631

SQL0058N SQL プロシージャ内の RETURN ステートメント値のデータ・タイプは **INTEGER** でなければなりません。

説明: INTEGER データ・タイプではない値または式で、RETURN ステートメントが SQL プロシージャに指定されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: INTEGER のデータ・タイプを持つ RETURN ステートメントで値を指定してください。

sqlcode: -58

sqlstate: 428F2

SQL0060W *name* プリコンパイラーが処理中です。

説明: このメッセージは、プリコンパイラーの処理開始時に、標準出力装置に書き込まれます。トークン *name* は、呼び出された特定言語のプリコンパイラーを示します。

処理を続行します。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL0061W バインド・プログラムが処理中です。

説明: このメッセージは、バインド・プログラムの処理開始時に、標準出力装置に書き込まれます。

処理を続行します。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL0062W ファイル *name* の **INCLUDE** 開始中です。

説明: INCLUDE ステートメントが指定されています。現在、プリコンパイラーは INCLUDE ファイルを処理しています。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL0063W ファイル *name* の **INCLUDE** が完了しました。

説明: プリコンパイラーが INCLUDE ファイルの処理を完了しました。INCLUDE ステートメントを含んでいるファイルの処理が再開されます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL0064N ファイル *name* が直接または間接的に、自己 **INCLUDE** しています。

説明: 循環 INCLUDE が指定されています。プリコンパイラー入力ファイルはそのファイル自体を INCLUDE することはできず、そのファイルを INCLUDE するファイルに INCLUDE されることもできません。

示されたファイルは INCLUDE されません。

ユーザーの処置: INCLUDE ファイルのネストをチェックして、循環を取り除いてください。

SQL0065N ホスト変数宣言内で、予期しない行の終わりに達しました。

説明: ホスト変数宣言に構文の誤りがあります。宣言が完了する前に、行の終わりが見つかりました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ホスト変数宣言の構文を確認してください。

SQL0078N ルーチン *routine-name* にパラメーターを指定しなければなりません。

説明: ルーチン *routine-name* では、すべてのパラメーターについてパラメーター名が指定されていません。ルーチンが LANGUAGE SQL または SQLMACRO で定義されている場合、定義済みパラメーターごとにパラメーター名が必要です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 定義済みパラメーターすべてがパラメーター名を持っていることを確認してください。

sqlcode: -78

sqlstate: 42629

SQL0079N 宣言されたグローバル一時表または索引 *name* のスキーマ名は、*schema-name* ではなく、**SESSION** でなければなりません。

説明: 宣言された一時表、または宣言されたグローバル一時表の索引のスキーマ名 *name* は、SESSION でなければなりません。このステートメントは、宣言されたグローバル一時表または宣言されたグローバル一時表の索引の明示的スキーマ名 *schema-name* を指定しています。これは許可されていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法でステートメントを変更してください。

- スキーマ名を SESSION に変更する

- スキーマ名を除去し、DB2 にデフォルト値 SESSION を使用させる

sqlcode: -79

sqlstate: 428EK

SQL0081N プリコンパイル/バインド中に、
SQLCODE *sqlcode* が返されました。

説明: プログラムのプリコンパイル中またはバインド中に、予期しない **SQLCODE** *sqlcode* がデータベース・マネージャーから返されました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: **SQLCODE** を調べて問題を判別し、適切なアクションを取ってください。

SQL0082C エラーが発生したため、処理は終了しました。

説明: 前に起きた非 SQL エラーのために、処理が終了しました。

プリコンパイル/バインド/再バインドは終了します。パッケージは作成されませんでした。

ユーザーの処置: 前のエラーの原因を訂正して、もう一度やり直してください。

SQL0083C メモリーの割り振りエラーが発生しました。

説明: 処理を実行するために必要なメモリーが足りなくなりました。

ユーザーの処置: 解決策は以下のとおりです。

- システムに十分な実メモリーおよび仮想メモリーがあることを確認してください。
- バックグラウンド処理を終了してください。

提案されたソリューションの試行後もこのメッセージを受け取る場合は、IBM お客様サポートに連絡してください。

SQL0084N EXECUTE IMMEDIATE ステートメントに、SELECT または VALUES ステートメントが含まれています。

説明: SELECT または VALUES ステートメントが EXECUTE IMMEDIATE ステートメントで使用されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 暗黙関数はサポートされていません。SELECT または VALUES ステートメントを準備してく

ださい。その後に、OPEN、FETCH、および CLOSE を使用してください。

sqlcode: -84

sqlstate: 42612

SQL0085N ステートメント名 *name* は、すでに定義されています。

説明: 今回の DECLARE ステートメント内で指定されたステートメント名は、前回の DECLARE ステートメントですでに使用されています。

今回の DECLARE ステートメントは処理できません。前回の DECLARE ステートメントの指定が、現在も有効です。

ユーザーの処置: 今回のステートメントには、別の名前を使用してください。

SQL0086C メモリーの割り振りエラーが発生しました。

説明: 処理を実行するために必要なメモリーが足りなくなりました。

ユーザーの処置: 解決策は以下のとおりです。

- システムに十分なメモリーがあることを確認してください。
- バックグラウンド処理を終了してください。

SQL0087N ホスト変数 *name* が、構造参照が許されていない場所で使用された構造です。

説明: 構造参照を SQL ステートメントで使用すると、そのコンポーネント・フィールドのコンマで区切られたリストが、その代わりに使用されたかのように扱われます。ホスト変数のリストは PREPARE などの SQL ステートメントで使用できないので、複数フィールドを持つ構造に対する参照にもなりません。

ユーザーの処置: ATOMIC ホスト変数、または完全に修飾された構造フィールド名を持つ構造参照を置き換えてください。

SQL0088N ホスト変数 *name* が未確定です。

説明: ホスト変数 *name* を一意的に識別できません。同じ修飾を持つ複数のホスト変数が検出される可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ホスト変数の修飾を増やすか、またはすでに完全に修飾されたものが存在している場合は、名前変更してください。

SQL0089N エラーが 100 個に達したので、処理が終了しました。

説明: エラーが 100 個に達したので、プリコンパイラまたはバインド・プログラムが処理を終了します。

ユーザーの処置: メッセージ・ログに示されているエラーを修正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL0091W プリコンパイルまたはバインドが、
number-1 エラーと *number-2* 警告で終了しました。

説明: プリコンパイルまたはバインドが、上記の番号の警告とエラーで終了しました。

プリコンパイルまたはバインドは終了します。

ユーザーの処置: 警告またはエラーが起きた場合は、必要に応じてプログラムを修正し、プリコンパイルまたはバインドを再試行してください。

SQL0092N 前のエラーにより、パッケージが作成されませんでした。

説明: 前のエラーのために、パッケージが作成されませんでした。

ユーザーの処置: エラーを修正して、プリコンパイルまたはバインドを再試行してください。

SQL0093N EXEC SQL のステートメント終止符が現れる前に、入力ファイルの終わりに達しました。

説明: SQL ステートメントの処理中、そのステートメントが終了する前にソースが終了しました。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントが正しく終了していることを確認してください。

SQL0094N ユーザーの割り込み要求で、バインドが終了しました。

説明: 割り込み要求 (ユーザーが割り込みキーを押した可能性があります) のために、バインドが終了しました。

SQL0100 - SQL0199

SQL0100W FETCH、UPDATE または DELETE の対象となる行がないか、または照会の結果が空の表です。

説明: 以下に示す条件の 1 つが成立しています。

処理は終了しました。 パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: 必要な場合には、もう一度バインドのサブミットを行ってください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

SQL0095N 前のエラーにより、バインド・ファイルが作成されませんでした。

説明: 前のエラーのために、バインド・ファイルが作成されませんでした。

バインド・ファイルは作成されません。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、プリコンパイルを再試行してください。

SQL0097N LONG VARCHAR または LONG
VARGRAPHIC データ・タイプの変数またはパラメーターが SQL ルーチンでサポートされていません。

説明: SQL ルーチン (プロシージャ、関数、または方式) は、LONG VARCHAR または LONG VARGRAPHIC データ・タイプの変数またはパラメーターをサポートしていません。

ユーザーの処置: LONG VARCHAR または LONG VARGRAPHIC データ・タイプの変数またはパラメーターを SQL ルーチンで使用しないでください。 LONG VARCHAR の場合は、明示的な長さを持つ VARCHAR を使用してください。 LONG VARGRAPHIC の場合は、明示的な長さを持つ VARGRAPHIC を使用してください。

sqlcode: -97

sqlstate: 42601

- UPDATE または DELETE ステートメントに指定された探索条件を満たす行が見つかりません。
- SELECT ステートメントの結果が空の表でした。
- 結果表の最後の行の後ろにカーソルを位置付けたときに、FETCH ステートメントが実行されました。

- INSERT ステートメントで使用された SELECT の結果が空です。

データの検索、更新、または削除は実行されませんでした。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。処理を続行します。

sqlcode: +100

sqlstate: 02000

SQL0101N ステートメントが長すぎるか、または複雑すぎます。

説明: ステートメントの長さまたは複雑さがシステムの制限を超えているか、または組み込まれた制約またはトリガーが多すぎるために、ステートメントが処理できませんでした。

ステートメントが、パックされた記述の作成または変更を行うステートメントの場合は、新しくパックされた記述が、システム・カタログの対応する列に対して長すぎる可能性があります。

フェデレーテッド・システム・ユーザーは、ステートメントが次のいずれかの状態であることもチェックしてください。

- 長さまたは複雑さのフェデレーテッド・サーバー・システム限度またはデータ・ソース・システム限度のいずれかを超えている。
- その他のデータ・ソース特定限度に違反している。

ステートメントは処理できません。

注: 異なったコード・ページのもとで実行されるアプリケーションおよびデータベースに対して文字データ変換が実行された場合には、変換の結果の長さが限界を超えます。

ユーザーの処置: 次のいずれかを行ってください。

- ステートメントをより短い、またはより簡単な SQL ステートメントに分割してください。
- データベース構成ファイルのステートメント・ヒープ (stmtheap) の大きさを増やしてください。
- ステートメントのチェックの数または関連する制約の数を減らすか、あるいは外部キーの索引の数を減らしてください。
- ステートメントのトリガーの数を減らしてください。
- フェデレーテッド・システム・ユーザー: どちらのデータ・ソースがステートメントを失敗させているかを判別 (障害の起きたデータ・ソースを識別する手順については、「問題判別の手引き」に従ってください) して、拒否の原因を判別してください。フェデレーテ

ッド・サーバーが原因で拒否が起こる場合は、データベース構成ファイルのステートメント・ヒープ (stmtheap) の大きさを増やしてください。

sqlcode: -101

sqlstate: 54001

SQL0102N *string* で始まるストリング定数が長すぎます。

説明: 以下のいずれかが起こりました。

- COMMENT ON ステートメントのコメントが 254 バイトより大きくなっています。
- SQL CONNECT ステートメントに指定されるアプリケーション・サーバー名が、18 文字より大きくなっています。
- *string* で始まるストリング定数の長さが 32672 バイトを超えています。32672 バイトを超える長さを持つ文字ストリング、または 16336 文字を超える長さを持つ GRAPHIC ストリングは、ホスト変数からの割り当てを通じてのみ指定することができます。DB2 ファミリーの他のサーバーが、文字ストリングに対して別のサイズ制限を指定している可能性があります。詳細については、該当する DB2 製品のマニュアルをご覧ください。
- フェデレーテッド・システム・ユーザー: データ・ソース特有の制限がパススルー・セッションで超えないようにしてください。たとえば、パススルー・セッションで DB2 for OS/390 に送信されるステートメントに含まれる 254 バイト以上の文字リテラルは上記のエラーを起こします。

これは、データ変換が行われて、その結果のストリングが長過ぎる状態になる可能性があります。アプリケーションと、異なったコード・ページのもとで実行されるデータベースとの接続では、ストリング定数はアプリケーション・コード・ページからデータベース・コード・ページに変換されます。特定の状況 (データベースが EUC コード・ページで作成された時など) では、GRAPHIC ストリング定数は、データベース・コード・ページから UCS-2 (UNICODE) エンコードにさらに変換される場合があります。これは、入力ストリングより長い結果のストリングをもつ可能性があることを意味します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 表のコメントまたは列のコメントの場合は、コメントのサイズを短くしてください。SQL CONNECT ステートメントの場合は、アプリケーション・サーバー名の長さを減らしてください。ストリング定数の場合は、要求された関数は対話形式では使用で

きません。アプリケーション・プログラムに組み込まれている CONNECT SQL ステートメント以外でエラーが起きた場合は、ホスト変数に長ストリングを割り当て、SQL ステートメントのストリング・リテラルとそ
の変数を置き換えてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: パススルー・セッションの場合、どのデータ・ソースがエラーの原因であるかを判別してください (障害の起きたデータ・ソースについては、「問題判別の手引き」を参照してください)。データ・ソースでどの特定限度を超えたのか判別するために SQL ダイアレクトを調べ、失敗したステートメントを必要に応じて調整してください。

sqlcode: -102

sqlstate: 54002

SQL0103N 数値リテラル *literal* が無効です。

説明: 示された *literal* は数字で始まっていますが、有効な整数、10 進数、または浮動小数リテラルではありません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: データ・ソース特有のリテラルの表示エラーがパススルー・セッションで起きました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 無効な数値リテラルを訂正してください。フェデレーテッド・システム・ユーザーは、エラーがパススルー・セッションで発生した場合、どのデータ・ソースがエラーの原因であるかを判別してください (障害の起きたデータ・ソースについては、「問題判別の手引き」を参照してください)。データ・ソースでどのリテラル表示規則が違反しているのか判別するために SQL ダイアレクトを調べ、失敗したステートメントを必要に応じて調整してください。

sqlcode: -103

sqlstate: 42604

SQL0104N *text* に続いて予期しないトークン *token* が見つかりました。予期されたトークンに *token-list* が含まれている可能性があります。

説明: SQL ステートメントの構文エラーが、テキスト *text* の後の示されたトークンに見つかりました。

「*text*」フィールドは、無効なトークンの前にある 20 文字の SQL ステートメントを示しています。

解決の手掛かりして、*token-list* として、SQLCA の「SQLERRM」フィールドに有効なトークンの一部のリストが提供されます。このリストは、その時点までのステートメントが正しいと想定しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 示されたトークンの領域内のステートメントを調べて、修正してください。

sqlcode: -104

sqlstate: 42601

SQL0105N *string* で始まるストリング定数が無効です。

説明: ステートメントに、*string* で始まる無効なストリング定数が入っています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しい形式のストリング定数を指定してください。GRAPHIC ストリング、対の区切り文字、およびストリング内の文字が偶数バイトであることをチェックしてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合、「問題判別の手引き」を参照して、どのデータ・ソースがエラーの原因であるかを判別してください。

sqlcode: -105

sqlstate: 42604

SQL0106N SQL ステートメントは正しく開始されていますが、不完全です。

説明: SQL ステートメントは、入力が検出されなくなる点までは正しいものでした。これは、リテラルが正しく終わっていないことが原因である可能性があります。ストリング・リテラルには終わりの引用符が必要です。

この SQL ステートメントの処理が終了しました。

ユーザーの処置: 関数を完成するために必要なパーツのすべてをステートメントが持っているか、またすべての文節が完了しているかを調べてください。

PL/I の場合: SQL ステートメントがセミコロンの前で終わっているかを確認してください。アセンブラの場合: 継続規則に正しく従っているかを確認してください。(ブランク以外の文字が 72 列目になければならず、継続行は 16 列目以降から開始されていなければなりません。)

COBOL の場合: SQL ステートメントが END-EXEC の前で終わっているかを確認してください。

sqlcode: -106

sqlstate: 42601, 42603

SQL0107N 名前 *name* が長すぎます。最大長は *length* です。

説明: *name* として戻された名前が長すぎます。このタイプの名前に許される最大の長さは、*length* で示されています。

索引および制約の名前の最大長は 18 バイトです。列の名前の最大長は 30 バイトです。保管点、表、ビュー、および別名の最大長は 128 バイトです。(ここにはエスケープ文字は含まれません。)

SQL ルーチン内の SQL 変数名、条件名、およびラベルは、長さが 64 バイトを超えてはなりません。

ユーザー定義タイプの場合は最大 8 バイトですが、スキーマ名 (オブジェクト修飾子) の長さとして最大 30 バイトが許可されています。

ホスト変数名の長さは、255 バイトを超えてはなりません。

SQL CONNECT ステートメントの場合、プリコンパイル時には最大 18 文字のアプリケーション・サーバー名が受け入れられます。ただし、実行時には、8 文字を超える長さのアプリケーション・サーバー名はエラーになります。

また、SQL CONNECT ステートメントでは、長さが 18 文字以内のパスワード、および長さが 30 文字以内の許可 ID が受け入れられます。

パッケージ・バージョン ID の長さは、64 バイト以下でなければなりません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: パススルー・セッションの場合、データ・ソース特有の制限を超えている可能性があります。

ステートメントは処理できません。

注: 異なったコード・ページのもとで実行されるアプリケーションおよびデータベースに対して文字データ変換が実行された場合には、変換の結果の長さが限界を超えます。

ユーザーの処置: 短縮名を使用するか、またはオブジェクト名のつづりを訂正してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: パススルー・セッションの場合、どのデータ・ソースがエラーの原因であるかを判別してください (障害の起きたデータ・ソースについては、「問題判別の手引き」を参照してください)。データ・ソースでどの特定限度を超えたのかを判別するために SQL ダイアレクトを調べ、失敗したステートメントを必要に応じて調整してください。

sqlcode: -107

sqlstate: 42622

SQL0108N 名前 *name* の修飾子の数が正しくありません。

説明: 名前 *name* の修飾が正しくありません。

名前 *name* を提供するオブジェクトは、修飾子を 1 つしか持てません。

修飾子付きか修飾子なしの表名、または相関名で、列名は修飾されます。場合によっては、列名には表名修飾子が必要になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: オブジェクトの名前が正しく修飾されていることを確認してください。

sqlcode: -108

sqlstate: 42601

SQL0109N *clause* 文節は使用できません。

説明: 示された文節は、SQL ステートメント内では使用できません。

副照会、INSERT ステートメント、または CREATE VIEW ステートメントには、INTO、ORDER BY、または FOR UPDATE 文節を指定できません。SELECT INTO ステートメントには、ORDER BY 文節または FOR UPDATE 文節を指定できません。組み込み SELECT ステートメントには、副照会内を除いて、セット演算子を使用できません。カーソル宣言で使用される SELECT または VALUES ステートメントには、INTO 文節を指定できません。RAISE_ERROR 関数は、CAST 指定でいくつかのデータ・タイプにキャストされている場合にのみ、選択リストとして使用できます。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: パススルー・セッションの場合、データ・ソース特有の制約事項に違反している可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 文節を取り除いて、SQL ステートメントを修正してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: パススルー・セッションの場合、どのデータ・ソースがエラーの原因であるかを判別してください (障害の起きたデータ・ソースについては、「問題判別の手引き」を参照してください)。エラーの原因となったデータ・ソースの SQL ダイアレクトを調べて、どの特定制約事項に違反したのかを判別し、失敗したステートメントを必要に応じて調整してください。

sqlcode: -109

sqlstate: 42601

SQL0110N *string* は無効な 16 進数です。

説明: 16 進数 *string* が無効です。問題は以下のいずれかです。

- 無効な 16 進数が指定されています。 '0 から 9'、'A から F'、および 'a から f' のみを使用できます。
- 偶数でない 16 進数が指定されています。
- 8000 以上の 16 進数が指定されています。

ユーザーの処置: 定数を訂正して、もう一度ステートメントのサブミットを行ってください。

sqlcode: -110

sqlstate: 42606

SQL0111N 列関数 *name* に、列名が指定されていません。

説明: 列関数 *name* (AVG、MIN、MAX、SUM または COUNT(DISTINCT)) が指定されましたが、オペランドに列名が含まれていないため無効です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 列名を、列関数に対するオペランドである式に指定してください。

注: このエラーは、バージョン 2 以前の DB2 のリリースにのみ適用されます。

sqlcode: -111

sqlstate: 42901

SQL0112N 列関数 *name* のオペランドに、列関数、スカラー全選択、または副照会が含まれています。

説明: 列関数のオペランドは、以下を含むことはできません。

- 列関数
- スカラー全選択
- 副照会

SELECT リストでは、算術演算子のオペランドは DISTINCT キーワードの入った列関数で使用できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 列関数の使用を訂正して無効な式を取り除き、もう一度やり直してください。

sqlcode: -112

sqlstate: 42607

SQL0113N *identifier* が許可されていない文字を含んでいるか、または文字を含んでいません。

説明: SQL 変数名、パラメーター名、または条件名 *identifier* に無効な文字が入っています。許可されているのは、SQL 通常 ID として有効な文字だけです。ID が区切られているため、大文字への変換が行われず、大文字と小文字がお互いに異なるものとして扱われることに注意してください。

ユーザーの処置: ID を訂正して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -113

sqlstate: 42601

SQL0117N 割り当てられた値の数が、指定された列の数、または暗黙に指定されている列の数と同じではありません。

説明:

- INSERT ステートメントの値リスト内の挿入値の数が、明示的または暗黙的に指定された列数と等しくありません。列リストが指定されていない場合は、表またはビューのすべての列の入った列リストが暗黙に指定されたものと見なされます。
- SET 遷移変数ステートメントまたは UPDATE ステートメントの SET 文節の割り当ての右側の値の数が、左側の列の数と一致しません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントを修正して、指定した列または暗黙に指定される列ごとに 1 つの値を指定してください。

sqlcode: -117

sqlstate: 42802

SQL0118N INSERT、DELETE または UPDATE ステートメントのターゲットとなる表またはビューが、FROM 文節でも指定されています。

説明: INSERT、DELETE または UPDATE ステートメントのターゲットとして指定された表またはビューが、ステートメント内の副照会の FROM 文節中にも指定されています。

INSERT、UPDATE または DELETE のターゲットとなる表またはビューを使って、挿入される値を渡したり、または挿入、更新、削除される行を修飾することはできません。

ステートメントは処理できません。

このメッセージは、バージョン 1.2 以前のサーバーと、DB2 Connect を介してアクセスされるホストにのみ適用されます。

ユーザーの処置: 暗黙関数はサポートされていません。希望する結果を得るには、オブジェクトとする表またはビューの一時的なコピーを作成し、そのコピーへの副選択を指定してください。

sqlcode: -118

sqlstate: 42902

SQL0119N **SELECT** 文節、**HAVING** 文節、または **ORDER BY** 文節に指定された *expression-start* で始まる式が、**GROUP BY** 文節に指定されていないか、あるいは **GROUP BY** 文節の指定されていない列関数のある **SELECT** 文節、**HAVING** 文節、または **ORDER BY** 文節に入っています。

説明: **SELECT** ステートメントには、以下に示すエラーのいずれかがあります。

- 識別可能な式と列関数が、**SELECT** 文節、**HAVING** 文節、または **ORDER BY** 文節に入っていますが、**GROUP BY** 文節がありません。
- 識別可能な式が **SELECT** 文節、**HAVING** 文節、または **ORDER BY** 文節に入っていますが、**GROUP BY** 文節に入っていない。

識別可能な式は、*expression-start* で始まる式です。式は単一系列名にすることもできます。

NODENUMBER または **PARTITION** 関数を **HAVING** 文節で指定した場合、表のすべてのパーティション・キー列が **HAVING** 文節にあると見なされます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: **SELECT** 文節、**HAVING** 文節、または **ORDER BY** 文節の **GROUP BY** 文節に列を組み込むか、あるいは列関数を **SELECT** 文節から削除して、ステートメントを訂正してください。

sqlcode: -119

sqlstate: 42803

SQL0120N 集約関数または **OLAP** 関数の使用が無効です。

説明: 集約関数または **OLAP** 関数は、全選択の選択リスト、**HAVING** 文節、または制限つきで **WHERE** 文節か **GROUP BY** 文節で使用できます。

WHERE 文節が **HAVING** 文節の副照会で使用され、か

つ関数の引き数がグループに対する相関参照である場合にのみ、その **WHERE** 文節に集約関数または **OLAP** 関数を入れることができます。

GROUP BY 文節については、関数の引き数が、**GROUP BY** 文節の入った副選択とは異なる副選択の列に対する相関参照である場合にのみ、この文節に集約関数または **OLAP** 関数を入れることができます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 集約関数または **OLAP** 関数が使用されないように、またはそれらの関数がサポートされる場所でのみ使用されるように、ステートメントを変更してください。

sqlcode: -120

sqlstate: 42903

SQL0121N 列 *name* が **INSERT**、**UPDATE**、または **SET** 遷移変数ステートメントで、2 回以上指定されています。

説明: 同じ列 *name* が、**INSERT** ステートメントの列リスト、**UPDATE** ステートメントの **SET** 文節の割り当ての左側、または **SET** 遷移変数ステートメントの割り当ての左側に 2 回以上指定されています。ビューの 2 つ以上の列が基本表の同じ列にもとづいているビューの更新または挿入を行うときに、このエラーが起きる可能性があることに注意してください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントの構文を修正し、各列名を一度だけ指定するようにしてください。

sqlcode: -121

sqlstate: 42701

SQL0122N **GROUP BY** 文節のない **SELECT** ステートメントの **SELECT** 文節に、列名と列関数が入っているか、または **SELECT** 文節に含まれている列名が、**GROUP BY** 文節に入っていない。

説明: **SELECT** ステートメントには、以下に示すエラーのいずれかがあります。

- 列名と列関数が **SELECT** 文節中に入っていますが、**GROUP BY** 文節がありません。
- 列名が **SELECT** 文節中に入っていますが、**GROUP BY** 文節中に入っていない。

列がスカラー関数の中に入っている可能性があります。

NODENUMBER または PARTITION 関数を SELECT 文節で指定した場合、表のすべてのパーティション・キー列が SELECT 文節にあると見なされます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SELECT 文節内の GROUP BY 文節に列を組み込むか、または SELECT 文節から列を削除して、ステートメントを訂正してください。

sqlcode: -122

sqlstate: 42803

SQL0123N 関数 *name* の位置 *n* のパラメーターは、定数かキーワードでなければなりません。

説明: 関数 *name* の位置 *n* のパラメーターは、定数でなければならない場合に定数でなく、キーワードでなければならない場合にキーワードではありません。

ユーザーの処置: 関数の各引き数を、対応するパラメーターの定義に一致させてください。

sqlcode: -123

sqlstate: 42601

SQL0125N ORDER BY 文節の列番号が、1 より小さいか、結果表の列数より大きくなっています。

説明: ステートメント内の ORDER BY 文節に含まれる列の番号が、1 以下かまたは結果表の列数 (SELECT 文節内の項目数) より大きくなっています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ORDER BY 文節の構文を修正して、各列の ID が結果表の列を正しく識別するようにしてください。

sqlcode: -125

sqlstate: 42805

SQL0127N DISTINCT が 2 回以上指定されていません。

説明: DISTINCT 修飾子は、以下のように使用することはできません。

- SELECT 文節および列関数の両方で使用する。
- 同一の SELECT ステートメント内の複数の列関数で使用する。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このエラーは、バージョン 2 以前の DB2 のリリースと、DB2 Connect を介してアクセスさ

れるホストのみに適用されます。

sqlcode: -127

sqlstate: 42905

SQL0129N ステートメントに含まれている表名が多すぎます (最大値は 15 です)。

説明: SQL ステートメントに入っている表名が多すぎます。1 個の SQL ステートメントが参照できる最大の表数は 15 です。参照される任意のビューの各表がこの限度内に含まれます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを複数の単純ステートメントに分割して、各ステートメントが 15 またはそれ以下の表参照となるようにしてください。

このメッセージは、バージョン 1.2 以前のサーバーと、DB2 Connect を介してアクセスされるホストにのみ適用されます。

sqlcode: -129

sqlstate: 54004

SQL0130N ESCAPE 文節が単一文字でないか、またはパターン・ストリングに、エスケープ文字の無効なオカレンスが含まれています。

説明: エスケープ文字は、2 バイト以下の長さの単一文字でなければなりません。これがパターン・ストリングに現れるのは、エスケープ文字自身、パーセント記号、または下線が後に続く場合だけです。LIKE 述部の ESCAPE 文節に関する詳細については、「SQL リファレンス」を参照してください。

ユーザーの処置: パターン・ストリングまたはエスケープ文字を訂正してください。

sqlcode: -130

sqlstate: 22019, 22025

SQL0131N LIKE 述部のオペランドに適合しないデータ・タイプが含まれています。

説明: LIKE または NOT LIKE の左側が文字タイプの場合は、右側も文字タイプでなければなりません。

左側が GRAPHIC タイプの場合は、右側も GRAPHIC タイプでなければなりません。

式の左側のタイプが BLOB の場合は、右側も BLOB タイプでなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: LIKE 述部をチェックし、同じデータ・タイプに修正してください。

sqlcode: -131

sqlstate: 42818

SQL0132N 最初のオペランドがストリング式でないか、または 2 番目のオペランドがストリングではないため、LIKE 述部、または POSSTR スカラー関数が無効です。

説明: 最初のオペランドがストリング式でないか、または 2 番目のオペランドがストリングではないため、ステートメントの LIKE 述部または POSSTR スカラー関数が無効です。

LIKE または NOT LIKE 述部の左側のオペランド、または POSSTR の最初のオペランドは、ストリング表現でなければなりません。述部の右側または POSSTR のオペランドにある値は、以下のいずれでもかまいません。

- 定数
- 特殊レジスター
- ホスト変数
- 上記のいずれかのオペランドを持つスカラー関数
- 上記を連結する式

以下の制約があります。

- 式の要素は LONG VARCHAR、CLOB、LONG VARGRAPHIC、または DBCLOB のタイプにはできません。さらに、BLOB ファイル参照変数にはできません。
- 式の実際の長さは、4000 バイトを超えることができません。

LIKE 述部または POSSTR スカラー関数は、DATE、TIME、TIMESTAMP では使用できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: LIKE および POSSTR の構文をチェックし、訂正してください。

sqlcode: -132

sqlstate: 42824

SQL0134N ストリング列、ホスト変数、定数、または関数 *name* の使用が不適切です。

説明: ストリング *name* の使用は許されていません。

以下では、結果が最大 255 バイトを超えるストリング・データ・タイプになる式は許可されていません。

- SELECT DISTINCT ステートメント

- GROUP BY 文節
- ORDER BY 文節
- DISTINCT を持つ列関数
- UNION ALL 以外のセット演算子の SELECT または VALUES ステートメント

以下では、結果が LONG VARCHAR または LONG VARGRAPHIC データ・タイプになる式は許可されていません。

- EXISTS または NULL 以外の述部
- 列関数
- EXISTS または NULL 以外の述部の副照会の SELECT 文節
- INSERT ステートメント内の副選択の SELECT 文節
- 式が LONG VARCHAR または LONG VARGRAPHIC ホスト変数でない場合の UPDATE ステートメント内の SET 文節の値式
- セット演算子の SELECT ステートメント (UNION ALL 以外)
- VARGRAPHIC スカラー関数

フェデレーテッド・システム・ユーザー: パススルー・セッションでは、データ・ソース特有の制約事項がこのエラーの原因である可能性があります。障害のあるデータ・ソースについては、「SQL リファレンス」の資料を参照してください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ストリングで要求された処理はサポートされていません。

注: 255 バイトの限界を超えているかどうか不明な場合には、文字ストリング式を評価するために、コード・ページ変換の操作が必要となるかを考慮してください。ソースとターゲットのコード・ページによっては、ターゲットがソースより長い属性をもつ場合もあります。詳細に関しては、ストリングの制限およびストリングの変換について、「SQL リファレンス」を参照してください。

sqlcode: -134

sqlstate: 42907

SQL0135N INSERT ステートメントまたは UPDATE ステートメントの長ストリング列の入力は、ホスト変数からのものか、またはキーワード NULL でなければなりません。

説明: UPDATE または INSERT は、NULL またはホスト変数を使用している定数、列名、または副照会を使用しています。

長ストリング列は LONG VARCHAR、LONG VARCHAR(n) のいずれか (n は 254 より大きく 32767 以下)、または VARCHAR(n) (n は 127 より大きく 16383 未満) です。

ユーザーの処置: 長ストリングの使用に関しては、「DB2 for VM Application Programming manual」を参照してください。ステートメントを訂正してください。もう一度やり直してください。

sqlcode: -135

sqlstate: 56033

SQL0137N operation の結果の長さが、maximum-value よりも長くなっています。

説明: 指定されたオペランドの連結結果が、結果タイプによってサポートされている長さを超えました。

いずれかのオペランドが CLOB でない限り、文字ストリングの結果は 32,700 バイトに制限されます。いずれかのオペランドが CLOB の場合は、制限は 2 ギガバイトです。

いずれかのオペランドが DBCLOB でない限り、GRAPHIC ストリングの結果は 16,350 文字に制限されます。いずれかのオペランドが DBCLOB の場合は、制限は 1,073,741,823 (1 ギガバイトより 1 少ない数) の 2 バイト文字です。

バイナリー・ストリングの結果 (オペランドは BLOB) は 2 ギガバイトに制限されます。

ユーザーの処置: オペランドの長さの合計が、サポートされている値を超えないようにして、もう一度やり直してください。

sqlcode: -137

sqlstate: 54006

SQL0138N SUBSTR 関数の 2 番目または 3 番目の引き数の値が、有効な値の範囲外になっています。

説明: 下記のいずれかの状態が発生しました。

- SUBSTR 関数の 2 番目の引き数が 1 より小さいか、M より大きい。

- SUBSTR 関数の 3 番目の引き数が 0 より小さいか、M-N+1 より大きい値を持つ式となっている。

固定長の場合、M は最初の引き数の長さであり、可変長の場合、M は最初の引き数の最大長です。N は 2 番目の引き数の値です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SUBSTR 関数の 2 番目と 3 番目の引き数の値が、上記の規則に従っていることを確認してください。

sqlcode: -138

sqlstate: 22011

SQL0139W 列 column の指定に重複した文節がありません。

説明: 列指定内の文節が重複しています。

ステートメントは正常に処理されましたが、重複した文節は無視されました。

ユーザーの処置: 列指定を訂正してください。

sqlcode: +139

sqlstate: 01589

SQL0142N この SQL ステートメントはサポートされていません。

説明: 他の IBM リレーショナル・データベース製品では、有効な組み込み SQL ステートメントかもしれませんが、データベース・マネージャーではサポートされていません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: SQL ステートメントをサポートしないデータ・ソースで SQL ステートメントが検出されたかどうかを調べてください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントの構文を変更するか、そのステートメントをプログラムから取り除いてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 理由が不明な場合は、要求を失敗させたデータ・ソースに対して問題を分離し (障害の起きたデータ・ソースを識別するための手順については「問題判別の手引き」を参照してください)、そのデータ・ソースの SQL ダイアレクトを調べてください。

SQL0143W この SQL ステートメントはサポートされておらず、無効な構文は無視されます。

説明: 他の IBM リレーショナル・データベース製品では、有効な組み込み SQL ステートメントかもしれませんが、データベース・マネージャーではサポートされていません。

このステートメントは一貫性のない、または望ましくない結果を招く可能性があります。

ユーザーの処置: SQL ステートメントの構文を変更するか、そのステートメントをプログラムから取り除いてください。

SQL0150N INSERT、DELETE、UPDATE あるいは MERGE ステートメントのターゲットの全選択、ビュー、型付き表、マテリアライズ照会表、またはステージング表は、要求された操作が許可されていないターゲットです。

説明: INSERT、UPDATE、DELETE あるいは MERGE ステートメント内で指定されている全選択、ビュー、型付き表、マテリアライズ照会表、またはステージング表は、要求された挿入、更新、または削除操作が実行できないように定義されています。

ビューまたは全選択は、ビューまたは全選択の SELECT ステートメントに以下のいずれかがある場合にのみ、読み取り専用となります。

- DISTINCT キーワード
- SELECT リスト内の列関数
- GROUP BY または HAVING 文節
- 以下のいずれかの項目を指定する FROM 文節
 - 複数の表またはビュー
 - 読み取り専用のビュー (SYSCAT.SYSVIEWS の READONLY 列が 'Y' に設定されています)
- セット演算子 (UNION ALL 以外)
- フェデレーテッド・システム・ユーザー: ビューを更新不可能にするデータ・ソース特有の制限

上記の条件は SELECT ステートメントまたは全選択の副照会には適用されません。

NOT DETERMINISTIC あるいは EXTERNAL ACTION で定義されている副照会かルーチンを参照する WHERE 文節を、直接または間接に含むビューは、MERGE ステートメントのターゲットとして使用されません。

WITH ROW MOVEMENT 文節で定義されたビューは、更新処理を含む MERGE ステートメントのターゲットとして使用できません。

インスタンス化が可能でない構造化タイプに定義されている型付き表に、行を直接挿入することはできません。この表の副表では挿入が許可されています。

一般的に、システムが保守するマテリアライズ照会表およびステージング表には、挿入、更新、あるいは削除操作を行うことはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 要求された関数は全選択、ビュー、システムで保守されるマテリアライズ照会表、またはステージング表に対して実行できません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 理由が不明な場合は、要求を失敗させたデータ・ソースに対して問題を分離し (障害の起きたデータ・ソースを識別するための手順については「問題判別の手引き」を参照してください)、そのデータ・ソースのオブジェクト定義と更新制約を調べてください。

sqlcode: -150

sqlstate: 42807

SQL0151N 列 *name* は更新できません。

説明: 以下のいずれかの状態のため、示された列は更新できません。

- オブジェクト表がビューで、示された列が、列を更新できないスカラー関数、式、キーワード、定数、またはビューの列から派生した列です。
- 指定された列は、システム・カタログの更新不能列か、または明示的に READ ONLY とマークされた列です。

フェデレーテッド・システム・ユーザーは、他のデータ・ソース特有の制限が列の更新を妨げていないかを調べてください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 示された列が、スカラー関数、式、キーワード、または更新できない列から派生した列である場合は、更新の SET 文節の列または挿入の列を省略してください。更新可能カタログ (および更新可能列) のリストについては、「SQL リファレンス」を参照してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 理由が不明な場合は、要求を失敗させたデータ・ソースに対して問題を分離し (「問題判別の手引き」を参照してください)、そのデータ・ソースのオブジェクト定義と更新制約を調べてください。

sqlcode: -151

sqlstate: 42808

SQL0152N 制約 *constraint-name* は、
expected-constraint-type 制約ではなく、
actual-constraint-type 制約です。

説明: 制約 *constraint-name* の変更またはドロップが試行されましたが、この制約は指定された *actual-constraint-type* 制約ではなく、*expected-constraint-type* として定義されています。

ユーザーの処置: 変更またはドロップしようとしている制約の名前とタイプを検証してください。

sqlcode: -152

sqlstate: 42809

SQL0153N 必要な列リストがステートメントにありません。

説明: 以下の場合には、CREATE VIEW ステートメント、共通表式、または AS 副照会文節を含む CREATE TABLE ステートメントに列リストを指定する必要があります。

- 全選択の SELECT リストのすべてのエレメントが、列名以外で AS 文節を使用して名前が指定されていません。
- AS 文節を使用して名前が変更されていない同一の列名を持つ 2 つのエレメントが存在します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: CREATE VIEW ステートメント、共通表式、CREATE TABLE ステートメントに列名リストを指定するか、または AS 文節を使用して、全選択の SELECT リストに列の名前を指定してください。

sqlcode: -153

sqlstate: 42908

SQL0155N トリガー遷移表は変更できません。

説明: トリガーに、OLD_TABLE または NEW_TABLE が識別された REFERENCING 文節が入っています。DELETE、INSERT または UPDATE トリガー SQL ステートメントが、変更する表として指定されている OLD_TABLE または NEW_TABLE と同じ名前を使用しました。

ユーザーの処置: DELETE、INSERT または UPDATE トリガー SQL ステートメントを、トリガー・アクションから取り除くか、または遷移表の名前を変更して、変更する表と矛盾しないようにしてください。

sqlcode: -155

sqlstate: 42807

SQL0156N この処理に使用されている名前が、表名ではありません。

説明: SQL ステートメント ALTER TABLE、DROP TABLE、SET CONSTRAINTS、CREATE TRIGGER、CREATE INDEX、LOCK TABLE、および RENAME TABLE は表にのみ適用され、ビューには適用できません。RUNSTATS および LOAD ユーティリティーも、表にのみ適用可能で、ビューには適用できません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: いくつかのユーティリティーおよびステートメントは、フェデレーテッド環境ではサポートされていません。詳細については「管理ガイド」を参照してください。

ステートメントまたはユーティリティーは処理されません。

ユーザーの処置: 正しい表名がステートメントに指定されていることを確認してください。別名を指定する場合は、別名が表名に変換されることを確認してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: オブジェクトがニックネームではないことを確認してください。

sqlcode: -156

sqlstate: 42809

SQL0157N 基本表を識別していないため、*name* は FOREIGN KEY 文節では許可されていません。

説明: オブジェクト *name* が、CREATE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節に指定されました。FOREIGN KEY 文節は基本表を識別していなければなりません。

ステートメントは処理できません。指定した表は作成または変更されません。

ユーザーの処置: ステートメントを修正して、FOREIGN KEY 文節内に基本表名を指定してください。

別名を指定する場合は、別名が基本表名に変換されることを確認してください。

sqlcode: -157

sqlstate: 42810

SQL0158N *name* 用に選択した列数が、結果表にある列数と同じではありません。

説明: ID *name* は、次の中から識別できます。

- CREATE VIEW ステートメントで命名されたビュー
- 共通表式の表名
- ネストされた表の式の関連名
- CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントに指定されているマテリアライズ照会表
- CREATE FUNCTION ステートメントに指定されている関数
- CREATE METHOD ステートメントに指定されている方式
- CREATE STAGING TABLE ステートメントに指定されているステージング表名

指定された列名の数は、関連した全選択の結果表内の列数と同じでなくてはなりません。 *name* がステージング表であり、関連するマテリアライズ照会表に GROUP BY 文節がある場合、指定する列名の数は、ステージング表が定義されているマテリアライズ照会表の列数より 2 つ多くなければなりません。関連するマテリアライズ照会表に GROUP BY 文節がない場合、指定する列名の数はマテリアライズ照会表の列の数よりも 3 つ多くなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: *name* に定義されている列名のリストが結果表の各列に対して名前を指定するよう、構文を訂正してください。

sqlcode: -158

sqlstate: 42811

SQL0159N ステートメントは、*expected-object-type* よりむしろ *object-type* を識別する *object* を参照します。

説明: ステートメントまたはコマンドの一部として指定されているオブジェクト *object* は、予想されるタイプ *expected-object-type* ではなく、*object-type* のオブジェクト・タイプを参照します。

ステートメントまたはコマンドで指定するオブジェクトのタイプは、*expected-object-type* で識別されるタイプと同じでなければなりません。たとえば、ステートメントが DROP ALIAS *PBIRD.TI* の場合、*PBIRD.TI* は別名でなければなりません。 *object-type* が TABLE の場合、発行したステートメントの表タイプが誤っている可能性があります。

ユーザーの処置: *expected-object-type* で識別されるオブ

ジェクトのタイプと、正しく一致するようステートメントまたはコマンドを変更します。

sqlcode: -159

sqlstate: 42809

SQL0160N WITH CHECK OPTION 文節は指定されたビューには無効です。

説明: 以下の場合には、WITH CHECK OPTION 文節をビュー定義で使用することはできません。

- このビューは読取専用として定義されています。SELECT ステートメントに、以下に示す項目のいずれかが入っている場合、ビューは読み取り専用となります。(以下の条件は SELECT ステートメントの副照会には適用されませんので、注意してください。)
 - DISTINCT キーワード
 - 選択されたリスト内の列関数
 - GROUP BY または HAVING 文節
 - 以下のいずれかを示す FROM 文節
 - 複数の表またはビュー
 - 読み取り専用ビュー
 - セット演算子 (UNION ALL 以外)
- 副照会の入った CREATE VIEW ステートメントの SELECT ステートメント (いくつかのカatalog表の特定の統計列を除く)
- 指定されたビュー定義が従属しているビューに、INSTEAD OF トリガーが定義されている
- 指定されたビュー定義が従属しているビューに、テキスト検索関数が含まれている

フェデレーテッド・システム・ユーザー: WITH CHECK オプションは、更新可能なニックネームを参照するビューではサポートされていません。

ステートメントは処理できません。指定したビューは作成されません。

ユーザーの処置: 上記の規則に従うように、WITH CHECK OPTION 文節を除去するか、またはビュー定義を変更してください。

sqlcode: -160

sqlstate: 42813

SQL0161N INSERT または **UPDATE** の結果の行が、ビュー定義に準拠していません。

説明: WITH CHECK OPTION 文節が、挿入または更新処理、もしくはターゲットとしてビューを使用する挿入または更新処理で指定された FROM 文節のオブジェ

クトである、ビュー定義で指定されました。その結果、処理結果がビュー定義に一致するように、そのビュー内の行に対する挿入または更新処理のすべてがチェックされます。

ビューをターゲットとする挿入または更新処理が FROM 文節にある場合、挿入または更新処理は、そのビューに WITH CHECK OPTION 定義がなされているかのように常に処理されます。

ステートメントは処理できません。挿入または更新処理は実行されず、ビューおよび基本表の内容は変更されませんでした。

ユーザーの処置: ビュー定義を調べて、要求した挿入または更新処理が拒否された理由を判別してください。これは、データ固有の条件の場合があることに注意してください。

要求した挿入または更新処理が、ターゲットの列の範囲外の値を設定しようとした可能性があります。システム・カタログ更新に関しては、カタログのさまざまな更新可能な列の値の有効な範囲について、「SQL リファレンス」を参照してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーは、理由が不明な場合は、要求を失敗させたデータ・ソースに対して問題を分離し（「問題判別の手引き」を参照してください）、そのデータ・ソースのオブジェクト定義とビュー定義を調べてください。

sqlcode: -161

sqlstate: 44000

SQL0170N 関数 *name* の引き数の数が間違っています。

説明: 示されたスカラー関数 *name* 内の引き数の数が、少なすぎるかまたは多すぎます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: そのスカラー関数に指定した引き数の数が正しいことを確認してください。

sqlcode: -170

sqlstate: 42605

SQL0171N ルーチン *name* の引き数 *n* のデータ・タイプ、長さまたは値が誤っています。

説明: ルーチン *name* の引き数 *n* のデータ・タイプ、長さまたは値が誤っています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ルーチンの引き数が、ルーチンの規則に従っていることを確認してください。

sqlcode: -171

sqlstate: 42815

SQL0172N *name* は、有効な関数名ではありません。

説明: SQL ステートメントに、認識できないスカラー関数が入っています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 示された関数名のつづりが正しいことを確認してください。

sqlcode: -172

sqlstate: 42601

SQL0176N TRANSLATE スカラー関数の 2 番目、3 番目、または 4 番目の引き数が間違っています。

説明: ステートメントが以下の 1 つ以上の理由により正しくありません。

- TRANSLATE スカラー関数では、異なるバイト数でエンコードされた他の文字による、文字の置き換えが許されない。たとえば、1 バイト文字が 2 バイト文字で置き換えられないだけでなく、2 バイト文字も 1 バイト文字で置き換えることができません。
- TRANSLATE スカラー関数の 2 番目と 3 番目の引き数は、正しい形式の文字で終わる必要があります。
- TRANSLATE スカラー関数の最初の引き数が CHAR または VARCHAR の場合、4 番目の引き数は、正しい形式の 1 バイト文字でなければなりません。
- TRANSLATE スカラー関数の最初の引き数が GRAPHIC または VARGRAPHIC の場合、4 番目の引き数は、正しい形式の 2 バイト文字でなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: TRANSLATE スカラー関数の 2 番目、3 番目、4 番目の引き数が正しい値を持っていることを確認してください。

sqlcode: -176

sqlstate: 42815

SQL0180N 日時値のストリング表記の構文が、間違っています。

説明: 日付、時刻、またはタイム・スタンプの値のストリング表記が、指定されたデータ・タイプまたは暗黙的なデータ・タイプの構文に合っていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 日付、時刻、またはタイム・スタンプの値の構文が、そのデータ・タイプの構文に従っていることを確認してください。そのストリングを日付、時刻、またはタイム・スタンプの値として使用していない場合は、使用時に、そのデータ・タイプにならないことを確認してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 問題はデータ・ソースでの日付/時刻表示の問題が原因である可能性があります。理由が不明な場合は、要求を失敗させたデータ・ソースに対して問題を分離し(「トラブルシューティング・ガイド」を参照してください)、そのデータ・ソースの日付/時刻表示の制約事項を調べてください。

sqlcode: -180

sqlstate: 22007

SQL0181N 日時値のストリング表記が許容範囲を超えています。

説明: 日付、時刻、またはタイム・スタンプの値のストリング表記に、許容範囲を超える値が入っています。

このエラーは、アプリケーションが日時値の作成に使用したフォーマットとは異なる日時フォーマットのテリトリ・コードを使って、アプリケーションから日時値にアクセスしたことが原因で発生した可能性があります。たとえば、dd/mm/yyyy の形式で保管されたストリングの日付時刻値は、mm/dd/yyyy 形式を採用するアプリケーションを使用するときには無効になります。

日付、時刻、またはタイム・スタンプの値の有効な範囲は、次のとおりです。

- 年の場合、0001 から 9999。
- 月の場合、1 から 12。
- 日の場合、1 から 31 (月が 1、3、5、7、8、10、12 の場合)。
- 日の場合、1 から 30 (月が 4、6、9、11 の場合)。
- 日の場合、1 から 28 (月が 2 (うるう年でない) 場合)。
- 日の場合、1 から 29 (月が 2 (うるう年) の場合)。
- 時間の場合、0 から 24。時刻が 24 の場合、他の表示データは 0 になります。時間形式が USA の場合は、時刻を 12 より大きくすることはできません。
- 分の場合、0 から 59。
- 秒の場合、0 から 59。
- マイクロ秒の場合、0 から 999999。
- 年間通算日の場合、001 から 365 (うるう年でない)。
- 年間通算日の場合、001 から 366 (うるう年)。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 問題はデータ・ソースでの日付/時刻表示の問題が原因である可能性があります。データ・ソースでの日付と時刻の値の範囲については、データ・ソースの資料を参照してください。理由が不明な場合は、要求を失敗させたデータ・ソースに対して問題を分離し(「トラブルシューティング・ガイド」を参照してください)、そのデータ・ソースの日付/時刻表示の制約事項を調べてください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 指定した値が有効な範囲内にあることを確認してください。また、アプリケーションの日付時刻形式がそのストリング値と同じであることも確認してください。

sqlcode: -181

sqlstate: 22007

SQL0182N 日時値またはラベル付き期間の表現が無効です。

説明: 指定された表現に、正しくない日付の値、時刻の値、タイム・スタンプの値、またはラベル付き期間が使用されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを調べて問題の原因を判別し、ステートメントを訂正してください。

sqlcode: -182

sqlstate: 42816

SQL0183N 日時算術演算または日時スカラー関数の結果が、有効な日付の範囲を超えています。

説明: 演算処理の値が日付またはタイム・スタンプで、0001-01-01 から 9999-12-31 までの範囲を超えています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを調べて、問題の原因を判別してください。問題がデータによるものであれば、エラーが起きたときに処理されていたデータを調べてください。

sqlcode: -183

sqlstate: 22008

SQL0187N 現在の日付/時刻特殊レジスターに対する参照が無効です。

説明: 日付/時刻情報の検索時に、オペレーティング・システムがエラーを見つけました。

ユーザーの処置: システム TOD クロックと時間帯の設定が正しいことを確認してください。

sqlcode: -187

sqlstate: 22506

SQL0190N ALTER TABLE *table-name* が、既存の列と互換性のない列 *column-name* の属性を指定しました。

説明: ALTER TABLE ステートメントにある表 *table-name* の列 *column-name* で ALTER COLUMN 文節に指定されている属性に、既存の列の属性との互換性がありません。以下のいずれかの理由で、エラーが返されました。

- SET DATA TYPE 文節が指定されている場合、既存の列は以下のとおりです。
 - 変更できるデータのタイプではない
 - 既存の列の長さが、文節に指定されている長さを超えている
- SET EXPRESSION 文節が指定されている場合、既存の列が、式によって生成されたものとして定義されていない
- DROP DEFAULT が指定されている場合に、列がデフォルトの属性を使用して定義されていない
- DROP IDENTITY が指定されている場合に、列が ID 列として定義されていない
- DROP EXPRESSION が指定されている場合に、列が生成式を使用して定義されていない
- SET DEFAULT が指定されている場合に、列が生成の別の形式 (ID または式) で既に定義されていて、対応する DROP が同じステートメントに含まれていない
- SET GENERATED ALWAYS AS (式) が指定されている場合に、生成の 1 つの形式 (デフォルト、ID、または式) を使用して列が既に定義されていて、対応する DROP が同じステートメントに含まれていない
- SET GENERATED ALWAYS AS IDENTITY または SET GENERATED BY DEFAULT AS IDENTITY が指定されている場合に、生成の 1 つの形式 (デフォルト、ID、または式) を使用して既に列が定義されていて、対応する DROP が同じステートメントに含まれていない
- SET GENERATED ALWAYS または SET GENERATED BY DEFAULT が指定されている場合に、列が ID 列でない

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 指定された属性に既存の列との互換性

を与え、属性指定を除去するか、または異なる列名を指定してください。

sqlcode: -190

sqlstate: 42837

SQL0191N フラグメント化された MBCS 文字のためにエラーが発生しました。

説明: 考えられる理由は、以下のとおりです。

1. ユーザー・データに正しくない形式のマルチバイト文字が入っていた。たとえば、DBCS 文字の最初のバイトは見つかったが、2 番目のバイトが見つからないというような場合です。
2. SUBSTR または POSSTR などのスカラー関数がマルチバイト・ストリングを不正に切り捨てた。これらの関数については、データベース・コード・ページのコンテキスト内で、開始および長さの値がバイト単位で正しくなければなりません。Unicode データベースについては、これと共通の原因として、UTF-8 ストリングの開始および長さが正しくない可能性があります。
3. TRANSLATE などのスカラー関数がマルチバイト・ストリングを変更した。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースでも検出できます。

ユーザーの処置:

1. 入力データを訂正して、もう一度やり直してください。
2. 文字がデータベース・コード・ページに変換される時に開始および長さの値を変更して、マルチバイト文字が不正に切り捨てられないようにしてください。
3. エラーのある TRANSLATE を訂正してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: データが正しい場合は、要求を失敗させたデータ・ソースに対して問題を分離し (「トラブルシューティング・ガイド」を参照してください)、そのデータ・ソースの DBCS 制約事項を調べてください。データが正確であるようならば、IBM サービスに連絡してください。

sqlcode: -191

sqlstate: 22504

SQL0193N ALTER TABLE ステートメントでは、列 *column-name* が **NOT NULL** として指定されており、**DEFAULT** 文節が指定されていないか、**DEFAULT NULL** として指定されています。

説明: すでに存在する表に新しい列を追加する場合は、すべての既存の行の新しい列に対して、値を割り当てる必要があります。デフォルトでは、null 値が割り当てられます。ただし、列が **NOT NULL** として定義されているので、NULL 以外のデフォルト値を定義する必要があります。

ユーザーの処置: 列の **NOT NULL** 制約を取り除くか、または列に対して NULL 以外のデフォルト値を指定してください。

sqlcode: -193

sqlstate: 42601

SQL0197N 修飾された列名は、ORDER BY 文節では許されていません。

説明: セット演算子 (**UNION**、**EXCEPT**、**INTERSECT**) の入った全選択の **ORDER BY** 文節は、修飾された列名を持つことができません。

ユーザーの処置: **ORDER BY** 文節のすべての列名が無修飾であることを確認してください。

sqlcode: -197

sqlstate: 42877

SQL0198N PREPARE または EXECUTE IMMEDIATE ステートメントのステートメント・ストリングが、ブランクまたは空です。

説明: **PREPARE** または **EXECUTE IMMEDIATE** ステートメントのオブジェクトであるホスト変数がすべてブランクであるか、または空のストリングです。

PREPARE または **EXECUTE IMMEDIATE** ステートメントは完了されません。

ユーザーの処置: プログラムの論理を修正して、ステートメントが実行される前に、**PREPARE** または **EXECUTE IMMEDIATE** ステートメントのオペランドに有効な SQL ステートメントを指定してください。

sqlcode: -198

sqlstate: 42617

SQL0200 - SQL0299

SQL0199N text に続く予約語 *keyword* の使用が無効です。予期されたトークンに *token-list* が含まれている可能性があります。

説明: 予約語 *keyword* が *text* の後に現れときに、ステートメントのその部分で、SQL ステートメントの構文エラーが見つかりました。「*text*」フィールドは、予約語の前にある 20 文字の SQL ステートメントを示しています。ステートメント内の文節が間違った順になっている可能性があります。

解決の手掛かりして、*token-list* として、SQLCA の「**SQLERRM**」フィールドに有効なトークンの一部のリストが提供されます。このリストは、その時点までのステートメントが正しいと想定しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: キーワード域のステートメントを調べてください。コロンの場合は、追加してください。文節が正しい順序で指定されていることを確認してください。メッセージに示されている予約語が予約語としてリストされている場合は、その語を区切り ID にしてください。

注: このエラーは、バージョン 2 以前の DB2 のリリースにのみ適用されます。

sqlcode: -199

sqlstate: 42601

SQL0203N 参照する列 *name* が確定できません。

説明: 列 *name* がステートメントで使用されており、その列が参照可能な列が複数ありました。これは、以下のいずれかによる可能性があります。

- FROM 文節に指定された、同じ名前の列を持つ 2 つの表
- 選択リストの複数の列に適用される名前を参照する ORDER BY 文節
- それが古いまたは新しい遷移変数を参照する場合は、指示するための相関名を使用しない CREATE TRIGGER ステートメントの対象表の列に対する参照

列名には、どの表の列なのかを明確にするために、より詳細な情報が必要です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 列名に修飾子を追加してください。修飾子は表名または相関名です。選択リストの列の名前の変更が必要になる場合があります。

sqlcode: -203

sqlstate: 42702

SQL0204N *name* は未定義の名前です。

説明: このエラーは、以下のいずれかが原因です。

- *name* によって示されているオブジェクトが、データベースに定義されていません。
- データ・タイプが使用されています。このエラーは、以下の理由で起きる可能性があります。
 - *name* が修飾されている場合は、この名前のデータ・タイプがデータベースに存在しません。
 - *name* が修飾されていない場合は、ユーザーの関数パスに、必要なデータ・タイプが属しているスキーマが入っていません。
 - パッケージがバインド時間より前の作成タイム・スタンプのデータベースには、データ・タイプはありません (静的ステートメントに該当します)。
 - データ・タイプが CREATE TYPE ステートメントの UNDER 文節にある場合は、タイプ名は定義されたタイプと同じ可能性があります。これは有効ではありません。
- 関数が以下のいずれかで参照されています。
 - DROP FUNCTION ステートメント
 - COMMENT ON FUNCTION ステートメント
 - CREATE FUNCTION ステートメントの SOURCE 文節

name が修飾されている場合は、関数が存在しません。 *name* が修飾されていない場合は、この名前の関数が現在の関数パスのいずれのスキーマにも存在しません。関数が COALESCE、NULLIF、あるいは VALUE の組み込み関数に基づくことはできないことに注意してください。

この戻りコードは、すべてのタイプのデータベース・オブジェクトに対して生成されます。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: *name* によって識別されるオブジェクトがデータベースで定義されていないか、*name* が DROP NICKNAME ステートメントでニックネームになっていません。

一部のデータ・ソースは、*name* に適切な値を提供しません。この場合、メッセージ・トークンは "OBJECT:<data source> TABLE/VIEW" の形式になります。これは、指定されたデータ・ソースの実際の値が不明であることを示します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: オブジェクト名 (必須の修飾子を含む) が、SQL ステートメントに正しく指定されており、それが存在することを確認してください。SOURCE 文節にデータ・タイプまたは関数が抜けている場合は、オブジェクトが存在しない可能性があるか、またはオブジェクトはどこかに存在しているが、スキーマが関数パスに存在しない可能性があります。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: ステートメントが DROP NICKNAME の場合は、オブジェクトが実際にニックネームであるかどうかを確認してください。オブジェクトはフェデレーテッド・データベースまたはデータ・ソースに存在しない可能性があります。フェデレーテッド・データベース・オブジェクトとデータ・ソースオブジェクト (存在する場合) の存在を確認してください。

sqlcode: -204

sqlstate: 42704

SQL0205N 列または属性 *name* が、*object-name* で定義されていません。

説明: *object-name* が表またはビューである場合は、*name* は、*object-name* で定義されていない列です。*object-name* が構造化タイプである場合は、*name* は、*object-name* で定義されていない属性です。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: *object-name* はニックネームを参照できます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: *object-name* が表またはビューである場合は、列および表またはビュー名 (必須の修飾子を含む) が、SQL ステートメントに正しく指定されていることを確認してください。 *object-name* が構造化タイプの場合は、属性およびタイプ名 (必須の修飾子を含む) が SQL ステートメントに正しく指定されていることを確認してください。

また、REORG または IMPORT 時にこのエラーを受け取った場合は、索引の列名が「管理ガイド」で定義されているデータベース・マネージャー命名規則に違反している可能性があります。

sqlcode: -205

sqlstate: 42703

SQL0206N 使用されているコンテキストで、*name* は無効です。

説明: このエラーは、以下の場合に起きる可能性があります。

- INSERT または UPDATE ステートメントの場合は、指定された列が表の列でないか、あるいは挿入または更新のオブジェクトとして指定されたビューではありません。
- SELECT または DELETE ステートメントの場合は、示された列が、ステートメント内の FROM 文節で識別された表またはビューの列ではありません。
- ORDER BY 文節については、指定した列が、許可されない副選択の相関参照となっています。
- CREATE TRIGGER、CREATE METHOD、または CREATE FUNCTION ステートメントの場合は、以下のとおりです。
 - 参照名 *name* は、列名、ローカル変数、または遷移変数には解決されません。
 - SIGNAL ステートメントに指定された条件名 *name* は、まだ宣言されていません。
- CREATE TRIGGER ステートメントの場合は、以下のとおりです。
 - OLD または NEW 相関名を使用せずに、参照が対象となる表の列に対して行われました。
 - トリガー・アクションの SET 遷移変数ステートメントの割り当ての左側が、新しい遷移変数のみがサポートされる場所で、古い遷移変数を指定しました。
- PREDICATES 文節を指定された CREATE FUNCTION ステートメントの場合は、以下の通りです。

- SQL 関数の RETURN ステートメントが、パラメーターではない変数、または RETURN ステートメントの有効範囲にない他の変数を参照しています。
 - FILTER USING 文節が、パラメーター名ではない、または WHEN 文節内の式名ではない変数を参照しています。
 - 索引指数規則の検索ターゲットが、作成中の関数のパラメーター名に一致していません。
 - 索引指数規則の検索引き数が、EXPRESSION AS 文節内の式名、または作成中の関数のパラメーター名に一致していません。
- CREATE INDEX EXTENSION ステートメントの場合、RANGE THROUGH 文節または FILTER USING 文節が、文節で使用できるパラメーター名ではない変数を参照しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 名前が SQL ステートメントに正しく指定されていることを確認してください。 SELECT ステートメントの場合は、すべての必須の表が FROM 文節に指定されていることを確認してください。 ORDER BY 文節の副選択については相関列参照がないので、注意してください。表に対して相関名を使用している場合は、後続の参照が、表名ではなく、相関名を使用していることを確認してください。

CREATE TRIGGER ステートメントの場合は、新しい遷移変数のみが SET 遷移変数ステートメントの割り当ての左側に指定されており、対象となる表の列に対する参照に、相関名が指定されていることを確認してください。

sqlcode: -206

sqlstate: 42703

SQL0207N セット演算子を使用する SELECT ステートメントの ORDER BY 文節では、列名を使用できません。

説明: セット演算子を持つ SELECT ステートメントに、列名を指定する ORDER BY 文節が入っています。この場合、ORDER BY 文節の列のリストは、整数しか持つことができません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ORDER BY 文節の列リストの中には、整数のみを指定してください。

注: このエラーは、バージョン 2 以前の DB2 と DB2 Connect を介してアクセスされるホストにのみ適用されます。

sqlcode: -207

sqlstate: 42706

SQL0208N 列 *name* は結果表に含まれないので、**ORDER BY** 文節は無効です。

説明: ORDER BY リスト中に指定されている列 *name* が、SELECT リスト中に指定されておらず、結果表にも無いため、ステートメントは無効ではありません。SELECT ステートメントの全選択が副選択でない場合、結果表の列のみが、その結果の順序付けに使用できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 示された列を結果表へ追加するか、または ORDER BY 文節から削除して、ステートメントの構文を訂正してください。

sqlcode: -208

sqlstate: 42707

SQL0212N *name* は、重複した表指定であるか、あるいはトリガー定義の **REFERENCING** 文節に重複指定されています。

説明: *name* によって指定されている表、ビュー、別名、または相関名が、同一の FROM 文節中にある表、ビュー、別名、または相関名と同じです。

ステートメントが CREATE TRIGGER の場合は、REFERENCING 文節が、対象となる表と同じ名前を指定する場合は、あるいは OLD または NEW 相関名、あるいは NEW_TABLE または OLD_TABLE ID の複数に対して、同じ名前を持つ場合があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SELECT ステートメントの FROM 文節を訂正してください。相関名を表名、ビュー名、別名に関連させて、表名、ビュー名、別名、または相関名が FROM 文節内の他の表名、ビュー名、別名、または相関名と同じにならないようにしてください。

CREATE TRIGGER ステートメントの場合は、REFERENCING 文節内の名前を、重複しないように変更してください。

sqlcode: -212

sqlstate: 42712

SQL0214N **ORDER BY** 文節の位置の式、または *clause-type* 文節の *expression-start-or-order-by-position* で始まる式が無効です。理由コード = *reason-code*

説明: 以下のような *reason-code* で示された理由で、*clause-type* 文節の式 *expression-start-or-order-by-position* の最初の部分で定義した式が無効です。

- 1 SELECT ステートメントの全選択は、副選択ではありません。このタイプの SELECT ステートメントについては、ORDER BY 文節に式は許可されません。 *clause-type* が ORDER BY である場合のみ、この理由コードが起きます。
- 2 SELECT 文節に DISTINCT が指定され、SELECT リストの式にちょうど一致する式ではありません。 *clause-type* が ORDER BY である場合のみ、この理由コードが起きます。
- 3 ORDER BY 文節に列関数があるため、グループ化が起きています。 *clause-type* が ORDER BY である場合のみ、この理由コードが起きます。
- 4 GROUP BY 文節の式はスカラー全選択を含めることはできません。 *clause-type* が GROUP BY である場合のみ、この理由コードが起きます。
- 5 GROUP BY 文節では、間接参照演算子の左方は可変関数にできません。 *clause-type* が GROUP BY である場合のみ、この理由コードが起きます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 次のように *reason-code* が指定する理由に基づき、SELECT ステートメントを修正してください。

- 1 ORDER BY 文節から式を除去してください。結果の列を参照する場合は、ソート・キーを単一整数または単一系列名の形式に変更してください。
- 2 SELECT 節から DISTINCT を除去するか、またはソート・キーを単一整数または単一系列名の形式に変更してください。
- 3 GROUP BY 文節を追加するか、または ORDER BY 文節から列関数を除去してください。
- 4 GROUP BY 文節から、あらゆるスカラー全選択を除去してください。スカラー全選択に基づいた結果の列をグループ化させる場合は、ネス

トした表の式または共通の表の式を使用し、結果の列としての式で結果の表をまず提供してください。

- 5 GROUP BY 文節で、間接参照演算子の左方から任意の変関数を除去してください。

sqlcode: -214

sqlstate: 42822

SQL0216N 述部演算子の両側にあるエレメントの数的一致しません。述部演算子は *predicate-operator* です。

説明: 述部には、述部演算子の右または左側（または両側）に、エレメントのリストが備えられています。エレメント数は両側で同じものでなくてはなりません。これらのエレメントは括弧で囲まれた式のリスト内に、または全選択にリストを選択するエレメントとして表示される可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 述部演算子で、エレメント数が一致していない述部を訂正してください。

sqlcode: -216

sqlstate: 428C4

SQL0217W 情報の EXPLAIN 要求しか実行されていないので、ステートメントは実行されませんでした。

説明: いずれかの EXPLAIN 特殊レジスターの現在の値が、EXPLAIN に設定されています。この値を使えば、動的 SQL ステートメントの準備と解釈を行うことはできますが、動的ステートメントを実行することはできません。

ユーザーの処置: この状態になったインターフェースまたはアプリケーションから、適切な SET ステートメントを発行して、EXPLAIN 以外を設定するように、該当する EXPLAIN 特殊レジスターの値を変更してください。

sqlcode: +217

sqlstate: 01604

SQL0219N 必須の EXPLAIN 表 *name* がありません。

説明: EXPLAIN 機能が呼び出されましたが、必須の EXPLAIN 表 *name* を見つけることができませんでした。EXPLAIN 機能を呼び出す前に、EXPLAIN 表を作成する必要があります。

ユーザーの処置: 必須の EXPLAIN 表を作成してください。sqllib の下の misc ディレクトリーの EXPLAIN.DDL というファイルで使用可能な EXPLAIN 表を作成するには、SQL データ定義言語ステートメントが必要です。

sqlcode: -219

sqlstate: 42704

SQL0220N EXPLAIN 表 *name*、列 *name2* は定義が正しくないか、または欠落しています。

説明: EXPLAIN 機能が呼び出されましたが、EXPLAIN 表 *name* の定義が予期されたものではありませんでした。以下の原因のため、定義が正しくありません。

- 正しくない列数が定義されています。(*name2* が数値の場合)
- 正しくないデータ・タイプが列に割り当てられています。(*name2* が列名の場合)
- 表の CCSID が間違っています。

ユーザーの処置: 示された EXPLAIN 表の定義を訂正してください。sqllib の下の misc ディレクトリーの EXPLAIN.DDL というファイルで使用可能な EXPLAIN 表を作成するには、SQL データ定義言語ステートメントが必要です。

sqlcode: -220

sqlstate: 55002

SQL0222N カーソル *cursor-name* を使用するホールに対して操作が試行されました。

説明: SQLSTATE が 24510 の場合、エラーが発生しました。SENSITIVE STATIC と定義されているカーソル *cursor-name* を使って位置指定の更新または削除が試みられ、現在行は、削除ホールまたは更新ホールと識別されました。ホールが発生するのは、カーソル *cursor-name* の結果表の現在行に対応するデータベース内の行を DB2 が更新または削除しようとしたときに、それに対応する行がもう基本表内に存在しない場合です。

SQLSTATE が 02502 の場合、これは警告です。カーソル *cursor-name* のフェッチの処理中に削除ホールまたは更新ホールが検出されました。ホールが発生するのは、カーソル *cursor-name* の結果表の現在行に対応する行をデータベースから DB2 が再フェッチしようとしたときに、それに対応する行がもう基本表内に存在しない場合です。データは戻されません。

削除ホールが起きるのは、基本表内の対応する行が削除されてしまっている場合です。

更新ホールが起きるのは、基本表内の対応行が更新されてしまっていて、カーソルの SELECT ステートメントに指定されている検索条件をその更新後の行がもう満足しなくなった場合です。

ステートメントは処理できません。カーソルはホール上に置かれたままになります。

ユーザーの処置: FETCH ステートメントを発行し、ホールではない行上にカーソルを位置付けます。

sqlcode: -222

sqlstate: 02502, 24510

SQL0224N 結果表がカーソル *cursor-name* を使用した基本表と一致しません。

説明: 位置指定 UPDATE または DELETE が、カーソル *cursor-name* (SENSITIVE STATIC として定義) を使用して、結果表の列の値が基本表行の現行値と一致しない行で試行されました。基本表の行が、結果表に取り出されたときから位置指定 UPDATE または DELETE が処理されたときまでに更新されたため、行は一致しません。

ステートメントは処理できません。カーソルの位置は変更されません。

ユーザーの処置: 分離レベルを変更して、基本表の行をカーソル操作中に再度更新できないようにするか、あるいは FETCH INSENSITIVE を行うようにアプリケーションを変更して、位置付けされた UPDATE または DELETE を再試行してください。

sqlcode: -224

sqlstate: 24512

SQL0225N カーソルが SCROLL として定義されていないため、カーソル *cursor-name* の FETCH ステートメントが無効です。

説明: スクロール不能カーソル *cursor-name* に、次のいずれかのスクロール可能カーソル・キーワードとともに FETCH ステートメントが指定されました。PRIOR、FIRST、LAST、BEFORE、AFTER、CURRENT、ABSOLUTE、または RELATIVE。スクロール不能カーソルに指定できるのは NEXT だけです。データは取り出されません。

ステートメントは処理できません。カーソルの位置は変更されません。

ユーザーの処置: FETCH ステートメントの現在の取り出し方向キーワード (PRIOR または FIRST) を除去し、NEXT を指定してください。また、カーソルの定義をスクロール可能に変更する方法もあります。

sqlcode: -225

sqlstate: 42872

SQL0227N カーソル *cursor-name* の位置が不明のため、FETCH NEXT、PRIOR、CURRENT、または RELATIVE は許可されません (*sqlcode*、*sqlstate*)。

説明: *cursor-name* のカーソル位置が不明です。カーソル *cursor-name* の直前の複数行 FETCH が、取り出された複数の行の処理中にエラー (SQLCODE *sqlcode*、SQLSTATE *sqlstate*) になっています。要求された行はエラーのためプログラムに戻すことはできず、カーソル位置は不明のままになりました。

標識構造が直前の複数行 FETCH で提供されていた場合は、正の SQLCODE が返され、取り出された行はすべてアプリケーション・プログラムに返されています。

ステートメントは処理できません。カーソルの位置は変更されません。

ユーザーの処置: カーソルをクローズして再オープンし、位置をリセットしてください。スクロール可能カーソルの場合は、FETCH ステートメントを変更して、他の取り出しステートメント (FIRST、LAST、BEFORE、AFTER、ABSOLUTE など) の 1 つを指定し、有効なカーソル位置を設定して、データの行を取り出してください。

sqlcode: -227

sqlstate: 24513

SQL0228N FOR UPDATE 文節が読み取り専用カーソル *cursor-name* に指定されました。

説明: カーソル *cursor-name* は INSENSITIVE SCROLL として定義されていますが、対応する SELECT ステートメントに FOR UPDATE 文節が入っています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 読み取り専用カーソルを定義するには、INSENSITIVE を DECLARE CURSOR に指定しますが、カーソルの SELECT ステートメントの一部として FOR UPDATE 文節を指定しないでください。

sqlcode: -228

sqlstate: 42620

SQL0231W カーソル *cursor-name* の現在位置が現在の行の **FETCH** には無効です。

説明: **FETCH CURRENT** または **FETCH RELATIVE 0** ステートメントがスクロール可能カーソル *cursor-name* に発行されました。カーソルが結果表の行に位置付けられていないため、操作は無効です。**FETCH BEFORE** または **FETCH AFTER** ステートメントに続く、あるいは **SQLCODE +100** になった **FETCH** ステートメントに続く現在の行の **FETCH** は許可されません。

ステートメントは処理できません。カーソルの位置は変更されません。

ユーザーの処置: 現在の行の取り出しを行う前に、カーソルが結果表の行に位置付けられていることを確認してください。

sqlcode: +231

sqlstate: 02000

SQL0236W **SQLDA** が *integer1* **SQLVAR** 項目しか指定していません。 *integer2* **SQLVAR** 項目が *integer3* 列に必要です。 **SQLVAR** 項目が設定されていません。

説明: **SQLDA** の「**SQLN**」フィールドの値は、少なくとも結果セットの列数と同じ大きさでなければなりません。

データベース・マネージャーは **SQLVAR** 項目を設定しません (さらに、**SQLDOUBLED** フラグは「オフ」(すなわち、スペース文字) に設定されます)。

ユーザーの処置: **SQLDA** の「**SQLN**」フィールドの値を、メッセージに示されている値まで増やして (**SQLDA** がその容量をサポートするための十分な大きさになるように)、ステートメントの再サブミットを行ってください。

sqlcode: +236

sqlstate: 01005

SQL0237W **SQLDA** が *integer1* **SQLVAR** 項目しか指定していません。記述している列の少なくとも 1 つは異なるタイプであるため、*integer2* **SQLVAR** 項目を指定する必要があります。2 次 **SQLVAR** 項目が設定されていません。

説明: 結果セットの列の少なくとも 1 つが異なるタイプなので、結果セットの列数と同じ数の **SQLVAR** 項目について、スペースを 2 回指定する必要があります。データベース・マネージャーは基本 **SQLVAR** 項目のみを設定します (さらに、**SQLDOUBLED** フラグはオフ

(すなわち、スペース文字) に設定されます)。

ユーザーの処置: 結果セットの異なるタイプに関する追加情報が必要でない場合は、アクションを行う必要はありません。異なるタイプの情報が必要な場合は、**SQLDA** の「**SQLN**」フィールドの値を、メッセージに示されている値まで増やして (その容量をサポートするのに十分な大きさの **SQLDA** があることを確認した後)、ステートメントの再サブミットを行う必要があります。

sqlcode: +237

sqlstate: 01594

SQL0238W **SQLDA** が *integer1* **SQLVAR** 項目しか指定していません。記述している列の少なくとも 1 つが **LOB** または構造化タイプであるため、*integer3* 列に *integer2* **SQLVAR** 項目が必要です。 **SQLVAR** 項目が設定されていません。

説明: 結果セットの列の少なくとも 1 つが **LOB** または構造化タイプなので、結果セットの列数と同じ数の **SQLVAR** 項目について、スペースを 2 回指定する必要があります。結果セットの 1 つ以上の列が異なるタイプである可能性にも注意してください。

データベース・マネージャーは **SQLVAR** 項目を設定しません (さらに、**SQLDOUBLED** フラグはオフ (すなわち、スペース文字) に設定されます)。

ユーザーの処置: **SQLDA** の「**SQLN**」フィールドの値を、メッセージに示されている値まで増やして (その容量をサポートするのに十分な大きさの **SQLDA** があることを確認した後)、ステートメントの再サブミットを行ってください。

sqlcode: +238

sqlstate: 01005

SQL0239W **SQLDA** が *integer1* **SQLVAR** 項目しか指定していません。記述している列の少なくとも 1 つが特殊タイプまたは参照タイプであるため、*integer3* 列に *integer2* **SQLVAR** 項目が必要です。 **SQLVAR** 項目が設定されていません。

説明: 結果セットの列が特殊タイプまたは参照タイプの場合、結果セットの列数と同じ数の **SQLVAR** 項目について、スペースを 2 回指定する必要があります。

データベース・マネージャーは **SQLVAR** 項目を設定しません (さらに、**SQLDOUBLED** フラグはオフ (すなわち、スペース文字) に設定されます)。

ユーザーの処置: 特殊タイプまたは参照タイプの情報が必要な場合は、**SQLDA** の「**SQLN**」フィールドの値

を、メッセージに示されている値まで増やして (その容量をサポートするのに十分な大きさの SQLDA があることを確認した後)、ステートメントの再サブミットを行う必要があります。結果セットの特殊タイプまたは参照タイプに関する追加情報が必要でない場合は、結果セットの列数に適合するのに十分な SQLVAR 項目のみを指定して、ステートメントの再サブミットを行うことができます。

sqlcode: +239

sqlstate: 01005

SQL0242N タイプ *object-type* の *object-name* というオブジェクトが、オブジェクトのリストで複数回指定されました。

説明: タイプ *object-type* のオブジェクト名のリストで、*object-name* というオブジェクトが複数回指定されました。ステートメントの操作をオブジェクトで複数回実行することはできません。

ユーザーの処置: リスト内の重複したオブジェクトを訂正し、重複するオカレンスを取り除いてください。

sqlcode: -242

sqlstate: 42713

SQL0243N SENSITIVE カーソル *cursor-name* を指定された SELECT ステートメントに定義できません。

説明: カーソル *cursor-name* は SENSITIVE と定義されていますが、SELECT ステートメントの内容では、カーソルの一時結果表が DB2 で作成されなければならず、このカーソル外部で加えられた変更を必ず表示できるとは限りません。この状況は、照会の内容に応じて結果表が読み取り専用になったときに起きます。たとえば、照会に結合が入っている場合は、結果表は読み取り専用になります。これは、SQL データ変更ステートメントから選択する場合にも発生します。これらの場合、カーソルは INSENSITIVE または ASENSITIVE として定義されている必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 結果表が読み取り専用でなくなるように照会の内容を変更するか、またはカーソルのタイプを INSENSITIVE または ASENSITIVE に変更してください。

sqlcode: -243

sqlstate: 36001

SQL0244N FETCH で指定された SENSITIVITY

sensitivity がカーソル *cursor-name* では無効です。

説明: FETCH で指定されたセンシティブィティ・オプション *sensitivity* がカーソル *cursor-name* で有効になっているセンシティブィティ・オプションと矛盾しています。下のリストに、FETCH で指定可能なオプションが示されています。

DECLARE CURSOR

FETCH Statement

INSENSITIVE	INSENSITIVE
SENSITIVE STATIC	SENSITIVE or INSENSITIVE
SENSITIVE DYNAMIC	SENSITIVE
SENSITIVE	SENSITIVE
ASENSITIVE	INSENSITIVE or SENSITIVE (depending on the effective sensitivity of the cursor)

スクロール不能カーソルの場合、センシティブィティ・オプションは指定できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: FETCH で指定されたセンシティブィティ・オプションを変更または除去してください。

sqlcode: -244

sqlstate: 428F4

SQL0257N ロー・デバイス・コンテナは、現在のプラットフォームではサポートされていません。

説明: 「DEVICE」コンテナの使用が試みられました。これは、現在のプラットフォームではサポートされていません。

ユーザーの処置: 代わりに、「FILE」コンテナまたはシステム管理表スペースを使用してください。

sqlcode: -257

sqlstate: 42994

SQL0258N 表スペースの再平衡のペンディングまたは進行中は、コンテナ操作を実行することはできません。

説明: 以下に示す条件の 1 つが成立しています。

1. コンテナ操作に必要な ALTER TABLESPACE ステートメントが、以前にこのアプリケーションか別

のアプリケーションによって発行されていますが、まだコミットされていません。

2. コンテナ操作に必要な ALTER TABLESPACE ステートメントが発行およびコミットされ、表スペースは現在、再平衡化中です。

ユーザーの処置:

1. 可能であれば、コミットされていない作業単位をロールバックし、単一の ALTER TABLESPACE ステートメントを発行して、すべてのコンテナ操作を実行してください。可能でない場合は、再平衡が完了するまで待った後で、もう一度やり直してください。同じ ALTER TABLESPACE ステートメントで、表スペースへのページの追加と、表スペースからのページの除去の両方を行うことはできません。
2. 再平衡が完了するまで待った後で、もう一度やり直してください。

sqlcode: -258

sqlstate: 55041

SQL0259N 表スペースのコンテナ・マップが複雑過ぎます。

説明: マップ構造は、表スペースのアドレス・スペースがさまざまなコンテナにマップされる方法に関するレコードを保持しています。これが複雑になりすぎると、表スペース・ファイルに適合しなくなります。

ユーザーの処置: コンテナ間でデータをもっと均等に分散するために、表スペースの再平衡が必要になる場合があります。そうすれば、マッピングが簡潔になる可能性があります。

これがうまくいかない場合は、可能な限り同じサイズのコンテナを作成してください。表スペースをバックアップした後で、データベース管理ユーティリティを使用してコンテナを変更すれば、既存のコンテナ・サイズを変更することができます。その後で、表スペースを新しいコンテナにリストアしてください。

sqlcode: -259

sqlstate: 54037

SQL0260N LONG 列、DATALINK 列、または構造化タイプ列であるため、列 column-name はパーティション・キーに属することができません。

説明: パーティション・キーは LONG タイプ列、DATALINK 列、または構造化タイプ列を持つことができません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: パーティション・キーに LONG 列、DATALINK 列、または構造化タイプ列を使用しないでください。

表に LONG 列、DATALINK 列、または構造化タイプ列しかない場合、パーティション・キーに使用できる列をその表に追加するか、またはパーティション・キーなしで単一データベース・パーティション・グループに表を定義してください。

sqlcode: -260

sqlstate: 42962

SQL0262N パーティション・キーとして使用できる列が存在しないため、表 table-name をデータベース・パーティション・グループ group-name に作成できません。

説明: 表 table-name をデータベース区分グループに作成できません。この表には、パーティション・キーとして使用できる少なくとも 1 つの列が存在する必要があります。以下のデータ・タイプの列は、パーティション・キーで使用できません。

- LONG VARCHAR、LONG VARGRAPHIC、BLOB、CLOB、DBCLOB
- DATALINK
- 構造型
- 上記データ・タイプのいずれかを基にしたユーザー定義データ・タイプ

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: パーティション・キーに使用できる 1 つ以上の列を持つ表を作成するか、単一データベース・パーティション・グループにこの表を作成してください。

sqlcode: -262

sqlstate: 428A2

SQL0263N node-number-1 から node-number-2 までのノード範囲は無効です。2 次ノード番号は最初のノード番号より大きいか、または同等にしてください。

説明: 指定されたノード範囲が有効ではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このステートメント内のノード範囲を訂正し、要求を再試行してください。

sqlcode: -263

sqlstate: 428A9

SQL0264N 表が複数ノードのノード・グループ *name* で定義された表スペースに表が常駐しているため、パーティション・キーの追加またはドロップはできません。

説明: 単一データベース・パーティション・グループ内の表のパーティション・キーのみを追加またはドロップできます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 次の 1 つを実行し、要求を再試行してください:

- パーティション・キーを使用する同一表を定義してください。
- 単一のデータベース・パーティション・グループにデータベース・パーティション・グループを再配布してください。

sqlcode: -264

sqlstate: 55037

SQL0265N ノード *node-number* は重複ノードです。

説明: CREATE NODEGROUP ステートメントに対し、ON NODES 文節内で一度のみノード表示が可能です。

CREATE TABLESPACE および ALTER TABLESPACE ステートメントに対し、ノードは一度のみ、1 つの ON NODES 文節でのみ表示可能です。

ALTER NODEGROUP ステートメントまたは REDISTRIBUTE NODEGROUP コマンドで、以下のいずれかが発生しました。

- ノードが ADD NODES または DROP NODES 文節で複数回表示された。
- ノードが ADD NODES および DROP NODES 文節の両方で複数回表示された。
- 追加されるノードは、すでにデータベース・パーティション・グループのメンバーである。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ON NODES、ADD NODES、または DROP NODES 文節内のデータベース・パーティション名またはデータ・パーティション番号を必ずユニーク化してください。CREATE TABLESPACE および ALTER TABLESPACE ステートメントに対し、ノードが複数の ON NODES 文節で表示されていないかを確認してください。

さらに、ALTER NODEGROUP ステートメントまたは

REDISTRIBUTE NODEGROUP コマンドでは、次のようにしてください。

- ADD NODES および DROP NODES 文節の両方でノードを指定しないでください。
- ノードがすでにデータベース・パーティション・グループに定義されている場合は、ADD NODES 文節からそのノードを除去してください。

sqlcode: -265

sqlstate: 42728

SQL0266N ノード *node-number* は定義されていません。

説明: このノード *node-number* は次のいずれかの理由のため有効ではありません。

- ノード番号が有効な範囲である 0 から 999 までの間がない
- ノードがノード構成ファイル内がない
- ノードはデータベース・パーティション・グループの一部でないため、要求された操作を処理できない

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 次の条件に従います。

- 有効範囲内のノード番号を伴うステートメント、コマンドまたは API を発行する
- システムにノードを追加するプロシーチャーを続ける
- ステートメント、コマンドまたは API 内の指定されたノードから、ノードを除去する

sqlcode: -266

sqlstate: 42729

SQL0268N ノード・グループを再分散している間は *operation* を実行できません。

説明: 次のいずれかが起きていると思われます。

- このノード・グループは再分散されています。現行操作が完了するまで、このノード・グループを変更、ドロップまたは再分散できません。
- 表のノード・グループが再分散されている間は、表のパーティション・キーをドロップできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 再分散が完了するまで待ち、要求を再試行してください。

sqlcode: -268

sqlstate: 55038

SQL0269N データベースにパーティション・マップの最大数が含まれています。

説明: データベースに最大数のパーティション・マップ (32,768) が入っているため、新規データベース・パーティション・グループの作成、データベース・パーティション・グループの変更、または既存のデータベース・パーティション・グループの再配布を行うことができません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: データベースの 1 つ以上のデータベース・パーティション・グループをドロップしてください。

注: データベース・パーティション・グループをドロップすると、データベース・パーティション・グループに常駐する表スペース、表およびビューなどのデータベース・オブジェクトがすべてドロップされます。

sqlcode: -269

sqlstate: 54033

SQL0270N 関数をサポートしていません。(理由コード = *reason-code*)。

説明: 次の理由コードによって示されているような制限に違反しているため、このステートメントを処理できません。

- 1 主キー、各ユニーク制約、および各ユニーク索引には表のパーティション列 (列はほかの順序で表示している可能性があります) がすべて入っているようにしている。
- 2 パーティション・キー列の値の更新はサポートされていない。
- 3 外部キーが ON DELETE SET NULL で定義されているとき、NULL 可能なパーティション・キー列をこの外部キーに組み込むことはできません。このような制約を定義した結果、パーティション・キー列を更新することになるため、これは理由コード 2 の特殊事例です。
- 4 カタログ・パーティション以外の複数パーティション・ノード・グループあるいは単一パーティション・ノード・グループを使用している定義済み表は DATA CAPTURE CHANGES をサポートしません。
- 5 WITH CHECK OPTION 文節で作成されたビューは、次の場合関数 (または関数を使用する参照ビュー) を使用できません。
 - 非決定的の場合
 - 副次作用がある場合

- データの配置に関連する場合 (たとえば、ノード番号またはパーティション関数)。

これらの関数は、新しいビューが CASCADED チェック・オプションで作成された場合に参照ビュー内にあってはなりません。

- 6 ユーザー定義の特殊タイプに対してトランスフォームは定義できません。
- 7 長いフィールドは、4K のページ・サイズの表スペースを使用するときのみに、定義できません。LARGE TABLESPACE は、4K のページ・サイズを使用してのみ作成できます。
- 8 構造化タイプは、DB2 バージョン 7.1 以前の表または構造化タイプ属性データ・タイプの列としてサポートされていません。
- 9 トリガーは型付き表ではサポートされません。
- 10 単一のデフォルト表スペースは、4K ページ・サイズを指定した表スペースに位置する必要がある LOB 列が表にあるため、および表の行サイズあるいは列数に、8K ページ・サイズを指定した表スペースが必要であるため、選択することができません。
- 11 型付き表あるいはビューは、属性を持たない構造化タイプを使用して作成することができません。
- 12 ソース・キー・パラメーターのタイプは、ユーザー定義の構造化タイプか、または LOB、DATALINK、LONG VARCHAR、あるいは LONG VARGRAPHIC から生成されたものではない特殊タイプである必要があります。
- 13 チェック制約は型付き表で定義することができないか、または WITH CHECK OPTION 文節が型付きビューで指定することができません。
- 14 参照制約は型付き表に定義することができないか、または型付き表である親表に定義することができません。
- 15 デフォルト値は参照タイプ列で定義されません。
- 16 参照データ・タイプあるいは構造化データ・タイプを、DB2 バージョン 7.1 以前のパラメーター・データ・タイプまたはユーザー定義関数の戻りデータ・タイプとして使用することはできません。また、有効範囲参照データ・タイプを、ルーチンのパラメーター・データ・タイプまたは戻りタイプとして使用することはできません。構造化タイプを表または行関数の戻り列として使用することはできません。

- 17 SET CONSTRAINTS ステートメントは型付き表に対して使用することができません。
- 18 列レベル UPDATE と REFERENCES 特権は、型付き表またはビューでは付与されません。
- 19 特定のデフォルト値は、型付き表の列に対するデフォルト定義の時に指定する必要があります。
- 20 ALTER TABLE はマテリアライズ照会表ではサポートされていません。
- 21 マテリアライズ照会表の基本表である表で列の長さを変更することはできません。
- 22 マテリアライズ照会表は、CREATE SCHEMA ステートメントに定義できません。
- 23 REPLICATED は REFRESH DEFERRED で定義されたマテリアライズ照会表にのみ指定できます。
- 24 BEFORE トリガーで起動されたアクションは、REFRESH IMMEDIATE で定義されたマテリアライズ照会表を参照できません。
- 25 SET CONSTRAINTS ステートメントには、1つのマテリアライズ照会表しか指定できません。
- 26 再分散されているノード・グループに、複製されたマテリアライズ照会表が少なくとも1つ含まれています。
- 27 複製されたマテリアライズ照会表は、この複製された表を構成する1つ以上の列にユニーク索引が存在しない表には定義できません。
- 28 型付き表またはマテリアライズ照会表は名前変更できません。
- 29 FOR EXCEPTION 文節は、SET CONSTRAINTS ステートメントのマテリアライズ照会表には指定できません。
- 30 型付き表および型付きビューは CREATE SCHEMA ステートメントで定義できません。
- 31 パーティション・キーは 500 を超える列では定義できません。
- 32 カタログ・パーティション以外の複数パーティション・ノード・グループまたは単一パーティション・ノード・グループを使用して定義された表は、FILE LINK CONTROL で定義された DATALINK 列をサポートしません。
- 33 REFRESH IMMEDIATE で定義されたマテリアライズ照会表の基礎表を、カスケード効果を持つ (つまり、ON DELETE CASCADE または ON DELETE SET NULL オプションを持つ) 参照制約の子にすることはできません。
- 34 基礎オブジェクトの関連機能は、現在のリリースではサポートされていません。
- 35 シーケンス列または ID 列を、バージョン 7 データベースのマルチノード・データベース環境で作成することはできません。
- 36 シーケンス列または ID 列が存在する場合、バージョン 7 データベースのマルチノード・データベースのデータベース活動化は許可されていません。
- 38 索引拡張子を使用する索引は、DB2 バージョン 8.1 修正パッケージ 6 より前の複数パーティション・ノード・グループではサポートされていません。
- 39 ニックネームまたは OLE DB 表関数は、SQL 関数または SQL 方式の本体で直接的に、または間接的に参照できません。
- 40 IDENTITY_VAL_LOCAL 関数は、トリガーまたは SQL 関数で 使用することはできません。
- 41 SQL 変数ステートメントは、ローカル変数と遷移変数の両方に割り当てられます。これはサポートされていません。
- 42 マルチノード・データベース内での、SQL 制御ステートメントを使ったトリガー、方式、または関数の実行、および動的コンパウンド・ステートメントの実行は許可されません。
- 43 要求した 1 つ以上のオプションが、現在サポートされていません。
- 44 以下の EXPLAIN MODES は、MPP、SMP、および Data Joiner ではサポートされていません。
- COUNT CARDINALITIES
 - COMPARE CARDINALITIES
 - ESTIMATE CARDINALITIES
- 45 多ディメンション・クラスタリング (MDC) 表では、APPEND モードはサポートされていません。
- 46 多ディメンション・クラスタリング (MDC) 表では、INPLACE 再編成はサポートされていません。
- 47 多ディメンション・クラスタリング (MDC) 表では、索引の拡張はサポートされていません。

- 48 多ディメンション・クラスタリング (MDC) 表のディメンション仕様に対する変更は、サポートされていません。
- 49 多ディメンション・クラスタリング (MDC) 表では、クラスター索引はサポートされていません。
- 50 多ディメンション・クラスタリング (MDC) 表では、ユーザー定義一時表は、サポートできません。
- 51 非カタログ・データベース・パーティションからの、LANGUAGE SQL を指定した CREATE PROCEDURE は、サポートされていません。
- 52 生成された列が ORGANIZE BY 文節で使用されている場合、その列の式を変更したり、式を使用して生成されたのでない列に追加したりできません。
- 53 LONG VARCHAR、LONG VARCHAR、LONG VARGRAPHIC、DATALINK、LOB タイプ、このいずれかのタイプの特殊タイプ、または構造化タイプを持つ列は、スクロール可能カーソルの選択リストには指定できません。
- 54 指定されたカタログ表では、INPLACE 表の再編成はサポートされていません。
- 55 フェデレーテッド・データベース・サポートとコンセントレーター機能を同時にアクティブにすることはできません。
- 56 オンライン索引の再編成は、ALLOW WRITE モードの地理情報索引ではサポートされていません。
- 57 オンライン索引の再編成は、ALLOW WRITE モードの多ディメンション・クラスタリング (MDC) 表ではサポートされていません。
- 58 XML データ・タイプは一時データ・タイプとしてしか使用できず、データベースに保管したり、アプリケーションに戻すことはできません。
- 59 SQL ステートメントを含む関数または方式は、並列環境では使用できません。
- 60 型付き表に依存する、タイプ付きまたはタイプなしのタイプ VIEW があるため、ALTER TABLE ALTER COLUMN SET INLINE LENGTH ステートメントは許可されません。
- 61 テキスト検索関数をチェック制約または生成された列の式に使用することはできません。
- 62 WITH CHECK OPTION 文節を、直接テキスト検索関数を参照しているビューまたはテキスト検索関数を参照している他のビューに依存するビューと一緒に使用することはできません。
- 63 LOB タイプ、LOB タイプ上の特殊タイプ、または構造化タイプの列は、インセンシティブ・スクロール可能カーソルの選択リストには指定できません。
- 64 このプラットフォームでは、フェデレーテッド・プロセッシングはサポートされていません。
- 65 ニックネームのローカル・タイプを現行タイプから指定タイプに変更することはできません。
- 66 組み込みトランスフォーム・グループ SYSSTRUCT はサポートされていません。
- 67 ニックネームまたはビューのニックネームは、MERGE ステートメントのターゲットとして指定することができません。
- 68 パーティション・データベースでは、SQL ステートメントでサポートされる DE NEXT VALUE 式の明確な最大数は 55 です。
- 69 ビューから削除すると、複数のパスにより、下層表をビュー定義に現れる複数の表に連結削除します。下層表に定義されたチェック制約またはトリガーのどちらかを、不確定な最終結果に従って廃止する必要があります。
- 70 照会最適化に使用可能なビューの基本表である表で列の長さを変更することはできません。
- 71 並列環境において、トリガー、SQL 関数、SQL メソッド、または動的コンパウンド・ステートメントの中で CALL ステートメントを使用することはできません。
- 72 NULL 可能な列を ID 列となるように変更することはできません。
- 73 パーティション・データベース環境のバックアップ・イメージにログを含めることはできません。
- ユーザーの処置:** 理由コードに対応するアクションは、次のとおりです。
- 1 CREATE TABLE、ALTER TABLE または CREATE UNIQUE INDEX ステートメントを訂正する。
- 2 複数パーティションの表のパーティション・キー列を更新しない、または、パーティション列の新規値を使用して行を削除した後に挿入しようとする。
- 3 パーティション・キー列を NULL 使用不能にするか、別の ON DELETE アクションを指定

- するか、または表のパーティション・キーを変更して、外部キーにパーティション・キーの列が組み込まれないようにしてください。
- 4 DATA CAPTURE NONE を指定するかあるいは表がカタログ・パーティションを指定する単一パーティション・ノード・グループの表スペースにあるかどうか確認してください。
 - 5 WITH CHECK OPTION 文節を使用したり、ビュー定義から関数またはビューを除去しないでください。
 - 6 トランスフォームはユーザー定義の特殊タイプに対して自動的に行われます。CREATE TRANSFORM ステートメントはユーザー定義の構造化タイプのみで使用してください。
 - 7 長いフィールドの入った任意の表に対して、4K ページ・サイズの表スペースを使用してください。DMS 表スペースを使用する場合は、長いフィールドを、4K ページ・サイズの表スペース、または別のページ・サイズの表、表スペースか索引データで位置づけられます。LARGE TABLESPACE を定義する場合は、PAGESIZE 4K を使用してください。
 - 8 DB2 バージョン 7.1 以前のサーバーであれば、CREATE TABLE ステートメントまたは ALTER TYPE ADD COLUMN ステートメントに構造化タイプの列データ・タイプがないことを確認してください。CREATE TYPE ステートメントまたは ALTER TYPE ADD ATTRIBUTE ステートメントでのどの属性データ・タイプも構造化タイプでないことを確認してください。
 - 9 型付き表ではトリガーを定義しないでください。
 - 10 表の行サイズあるいは列の数を減らすか、またはロング・データが 4K ページ・サイズを指定した表スペースにあり、基本データが 8K ページ・サイズを指定した表スペースにあるような 2 つの表スペースを指定してください。
 - 11 型付き表あるいはビューを作成する場合は、最低でも 1 つの属性を定義している構造化タイプを指定します。
 - 12 ソース・キー・パラメーターのタイプである場合、ユーザー定義の構造化タイプか、または LOB、DATALINK、LONG VARCHAR、あるいは LONG VARGRAPHIC から生成されたものではない特殊タイプだけを使用してください。
 - 13 型付き表の CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントでは、チェック制約を指定しないようにします。型付きビューの CREATE VIEW ステートメントでは、WITH CHECK OPTION 文節を指定しないでください。
 - 14 CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントでは、型付き表をチェック制約を指定しないようにします。
 - 15 CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントで参照データ・タイプを指定した列に対して、DEFAULT 文節を指定しないようにします。
 - 16 DB2 バージョン 7.1 以前のサーバーであれば、ユーザー定義関数の作成時に構造化タイプ・パラメーターまたは戻りタイプを指定しないでください。また、有効範囲内参照タイプをパラメーターまたは戻りタイプとして指定しないでください。構造化タイプを表または行関数の戻り列として指定しないでください。
 - 17 SET CONSTRAINTS ステートメントにある型付き表を指定しないようにします。
 - 18 型付き表またはビューに対して REFERENCES または UPDATE 特権を付与するときに、特定の列名を組み込まないようにします。
 - 19 型付き表の列で DEFAULT 文節を指定する時に、特定の値を組み込むようにします。
 - 20 マテリアライズ照会表をドロップし、任意の属性を指定して再作成します。
 - 21 マテリアライズ照会表をドロップし、基本表の列の長さを変更してマテリアライズ照会表を再作成します。
 - 22 CREATE SCHEMA ステートメントの外側で CREATE SUMMARY TABLE ステートメントを発行してください。
 - 23 REPLICATED 指定を除去するか、またはマテリアライズ照会表の定義に REFRESH DEFERRED が指定されていることを確認します。
 - 24 BEFORE トリガーのトリガー・アクションにあるマテリアライズ照会表への参照を除去します。
 - 25 各マテリアライズ照会表ごとに、別々の SET CONSTRAINTS IMMEDIATE CHECKED ステートメントを発行します。
 - 26 ノード・グループにある複製されたマテリアライズ照会表をすべてドロップし、

- REDISTRIBUTE NODEGROUP コマンドを再発行します。複製されたマテリアライズ照会表を再作成します。
- 27** マテリアライズ照会表に定義された列のサブセットが、基本表のユニーク索引を構成する列のセットでもあることを確認します。
- 28** 型付き表あるいはマテリアライズ照会表名を変更するには、その表をドロップして、新しい名前で作成し直すしか方法がありません。表をドロップした場合、その表に依存する他のオブジェクトにも影響する可能性があり、その表に対する特権は失われます。
- 29** SET CONSTRAINTS ステートメントから FOR EXCEPTION 文節を除去します。
- 30** CREATE SCHEMA ステートメントの外部で、型付きビューまたは型付き表の CREATE ステートメントを発行します。
- 31** パーティション・キー内の列の数を減らします。
- 32** DATALINK 列に NO LINK CONTROL を指定するか、またはカタログ・パーティションを指定する単一パーティション・ノード・グループの表スペースに表が置かれていることを確認します。複数パーティション・ノード・グループに再配分する場合は、再配分を継続するために表をドロップする必要があります。
- 33**
- REFRESH IMMEDIATE を使って子として定義されているマテリアライズ照会表の基礎表に、カスケード効果を持つ (つまり、ON DELETE CASCADE または ON DELETE SET NULL オプションを指定した) 参照制約を定義しないでください。または
 - カスケード効果を持つ (つまり、ON DELETE CASCADE または ON DELETE SET NULL オプションを指定した) 参照制約の子である基礎表を持つ REFRESH IMMEDIATE マテリアライズ照会表を定義しないでください。
- 34** エラーはサポートされていないオブジェクトの関連機能の使用を除去することによって訂正することができます。
- 35** “GENERATED [ALWAYS | BY DEFAULT] AS IDENTITY ...” 属性を作成あるいは除去しないでください。
- 36** 新規ノードをドロップして、単一ノード構成に戻してください。ノードがさらに必要であれば、新規ノードを追加する前に、ID 列のあるシーケンスまたは表をドロップする必要があります。
- 38** 索引拡張子を使用する索引を、複数パーティション・ノード・グループの表に作成することはできません。索引拡張子を使用する索引がノード・グループ内の表に存在している間、そのノード・グループを複数パーティション・ノード・グループにすることはできません。このような索引をドロップしてパーティションをノード・グループに追加する (この場合、索引を再作成できません) か、またはノード・グループを未変更のままにしてください。
- 39** ニックネームまたは OLE DB 表関数への参照を除去するか、または間接的にこれらのいずれかを参照しているオブジェクトへの参照を除去してください。
- 40** IDENTITY_VAL_LOCAL 関数の呼び出しをトリガー定義または SQL 関数定義から除去してください。
- 41** 割り当てを 2 つの別々のステートメントに分割します。一方のステートメントは SQL 変数にのみ値を割り当て、もう一方のステートメントは遷移変数にのみ値を割り当てなければなりません。
- 42** 新規ノードをドロップして、単一ノード構成に戻してください。ノードがさらに必要であれば、制御ステートメントをもっているトリガー、関数、または方式をドロップしなければなりません。
- 43** runstats コマンドを再発行し、サポートされていないオプションを設定してください。
- 44** これらの EXPLAIN モードを SMP、MPP、および Data Joiner で使用することはできません。可能であれば、順次モードで照会を実行してみてください。あるいは、EXPLAIN モードを YES または EXPLAIN に設定すると、実際のカーディナリティ以外の情報については、同じ情報が提供されます。
- 45** 多ディメンション・クラスタリング (MDC) 表に対する ALTER TABLE ステートメントに APPEND 文節を指定しないでください。
- 46** INPLACE オプションを指定せずに、REORG コマンドを再発行してください。
- 47** 多ディメンション・クラスタリング (MDC) 表に対して、CREATE INDEX ステートメントに EXTENSION 文節を指定しないでください。
- 48** 多ディメンション・クラスタリング (MDC) 表

- をドロップし、変更したディメンション指定を使って表を再作成してください。
- 49** 多ディメンション・クラスタリング (MDC) 表に対して、CREATE INDEX ステートメントに CLUSTER 文節を指定しないでください。
- 50** 宣言済みグローバル一時表に対し、CREATE TABLE ステートメントに ORGANIZE BY 文節を指定しないでください。
- 51** カタログ・データベース・パーティションから LANGUAGE SQL を指定して CREATE PROCEDURE を発行してください。
- 52** 式を変更したり既存の列に追加したりしないでください。PARTITIONING KEY 文節、ORGANIZE BY 文節、また生成された列であるそのメンバーの生成式の構成を変更するには、その表をドロップし、再作成して、表に再移植する必要があります。
- 53** スクロール可能カーソルの選択リストを変更するか、これらのタイプに列を組み込まないでください。
- 54** INPLACE オプションを指定せずに、REORG コマンドを再発行してください。
- 55** コンセントレーターまたはフェデレーテッド・データベース・システム・サポートをオフにしてください。コンセントレーターをオフにするには、データベース・マネージャー・パラメーター MAX_CONNECTIONS を MAX_COORDAGENTS 以下に設定してください。フェデレーテッド・データベース・システムのサポートをオフにするには、データベース・マネージャー構成の FEDERATED パラメーターを NO に設定してください。
- 56** REORG INDEXES コマンドを再発行し、ALLOW NONE または ALLOW READ を指定してください。
- 57** REORG INDEXES コマンドを再発行し、ALLOW NONE または ALLOW READ を指定してください。
- 58** XML 入力を受け入れる関数の 1 つに XML データを入力し、関数の出力をデータベースに保管するか、アプリケーションに戻してください。
- 59** 並列環境では、NO SQL オプションを指定して定義された関数と方式だけを使用してください。
- 60** 型付き表に依存するビューをドロップしてください。型付き表で ALTER TABLE ALTER COLUMN SET INLINE LENGTH ステートメントを再発行し、ドロップされたビューを再作成してください。
- 61** テキスト検索関数をチェック制約または生成された列の式に使用しないでください。可能であれば、CONTAINS ではなく LIKE 関数を使用してください。
- 62** このビューで WITH CHECK OPTION 文節を指定しないでください。
- 63** スクロール可能カーソルの選択リストを変更するか、これらのタイプに列を組み込まないでください。
- 64** このプラットフォームでは、フェデレーテッド・プロセッシングを実行しないでください。
- 65** ニックネームのローカル・タイプを現行タイプから指定タイプに変更しないでください。
- 66** SYSSTRUCT をトランスフォーム・グループとして指定しないでください。
- 67** ニックネームまたはビューのニックネームを、MERGE ステートメントのターゲットとして指定しないでください。
- 68** ステートメントの明確な NEXT VALUE 式の数を減らすか、または非パーティション・データベースに変更してください。
- 69** ビューから削除しないでください。
- 70** 照会最適化に使用可能になっているビューを使用不可にした後、基本表の列長を変更してから、それらのビューを照会最適化用に使用可能にしてください。
- 71** 並列環境においては、トリガー、SQL 関数、SQL メソッド、または動的コンパウンド・ステートメントの中で CALL ステートメントを使用しないでください。
- 72** 列が NULL 可能なら、それを ID 列にすることはできません。そのように変更するには、表をドロップした後、NULL 可能でない列を使用して再作成して再びデータを入れる必要があります。新しい列を ID 列として追加することもできます。
- 73** INCLUDE LOGS オプションを指定しないで BACKUP コマンドを発行してください。

sqlcode: -270

sqlstate: 42997

SQL0271N *fid fid* を伴う表の索引ファイルがないか、無効です。

説明: *fid fid* を伴う表の索引ファイルは処理中に要求されます。このファイルは無くなっているか、有効でないかのいずれかです。

このステートメントを処理することができず、アプリケーションは、まだデータベースに接続されています。この条件は、この表の索引を使用しないほかのステートメントには影響を及ぼしません。

ユーザーの処置: すべてのユーザーが、そのデータベースから切断されていることを確認し、すべてのノードに **RESTART DATABASE** コマンドを発行してください。その後、要求を再試行してください。

この索引 (または索引群) は、データベースが再始動されるときに再作成されます。

sqlcode: -271

sqlstate: 58004

SQL0276N リストア・ペンディング状態にあるため、データベース *name* に接続することはできません。

説明: 接続が完了する前にデータベースをリストアしてください。

接続は行われていません。

ユーザーの処置: データベースをリストアし、再度 **CONNECT** ステートメントを発行してください。

sqlcode: -276

sqlstate: 08004

SQL0279N データベース接続が **COMMIT** または **ROLLBACK** 処理中に終了しました。トランザクションが確定していない可能性があります。理由コード = *reason-code*

説明: コミット処理がエラーを検出しました。このトランザクションは、コミット状態に入っていますが、コミット処理は完了していない可能性があります。このアプリケーションのデータベース接続は、終了しています。

エラーの原因は、*reason-code* に示されています。

- 1 トランザクションで呼び出されたノードまたはデータ・ソースが失敗しています。
- 2 ノードの一つに対してコミットが拒否されました。詳細については管理通知ログをチェックしてください。

ユーザーの処置: エラーの原因を判別してください。最も一般的なエラーの原因はノード障害または接続障害なので、システム管理者に連絡して援助を求める必要があります。 **RESTART DATABASE** コマンドはこのトランザクションのコミット処理を完了します。

sqlcode: -279

sqlstate: 08007

SQL0280W ビュー、トリガー、またはマテリアライズ照会表 *name* が、既存の作動不能のビュー、トリガーまたはマテリアライズ照会表を置換しました。

説明: 既存の作動不能のビュー、トリガー、またはマテリアライズ照会表 *name* が以下のように置き換えられました。

- **CREATE VIEW** ステートメントの結果としての新しいビュー定義
- **CREATE TRIGGER** ステートメントの結果としての新しいトリガー定義
- **CREATE SUMMARY TABLE** ステートメントの結果としての新しいマテリアライズ照会表定義

ユーザーの処置: 必要ありません。

sqlcode: +280

sqlstate: 01595

SQL0281N 表スペース *tablespace-name* はシステム管理表スペースであるため、追加コンテナールでは変更できません。

説明: 追加コンテナールはシステム管理表スペースに追加できません。この場合に対する例外は、データベース・パーティション・グループが表スペースなしでノードを追加するように修正され、次にコンテナールが **ALTER TABLESPACE** コマンドを使用して新規ノード上に一度追加された場合です。一般的に、追加のコンテナールを加えるには、表スペースがデータベースに管理されている必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: システム管理表スペースにさらにコンテナールを増やすには、表スペースをドロップしてからコンテナールを増やして表スペース再度作成し、それぞれのコンテナールがコンテナール・サイズの限度と同じサイズであるか、あるいはそれより小さいサイズであるか、を確認するか、また **DMS** 表スペースに変更してください。

sqlcode: -281

sqlstate: 42921

SQL0282N 表スペース内の少なくとも 1 つの表 *table-name* が、他の表スペースに 1 つ以上の部分を持っているため、表スペース *tablespace-name* がドロップできません。

説明: 示された表スペースの表に、その表のすべての部分が入っているわけではありません。複数の表スペースが指定された場合は、指定された表スペースのいずれかにある表に、リスト内にその表のすべての部分が入っているわけではありません。基本表、索引、または長いデータが他の表スペースに存在する可能性があるため、表スペースのドロップによって表が完全にドロップされません。そのため、表が不整合状態に置かれ、そのために表スペースをドロップできません。

ユーザーの処置: 表スペースのドロップを試行する前に表スペース *tablespace-name* に入っているすべてのオブジェクトがこの表スペースのすべての部分を収容していることを確認するか、またはリスト内の部分の入ったこれらの表スペースをドロップに組み込みます。

これには、表スペースをドロップする前に、表 *table-name* のドロップが必要になる場合があります。

sqlcode: -282

sqlstate: 55024

SQL0283N **SYSTEM TEMPORARY** 表スペース *tablespace-name* だけが、データベース内で *page-size* ページ・サイズを持つ **SYSTEM TEMPORARY** 表スペースであるため、ドロップすることはできません。

説明: データベースには、カタログ表スペースのページ・サイズと同じページ・サイズの **SYSTEM TEMPORARY** 表スペースが少なくとも 1 つ入っている必要があります。表スペース *tablespace-name* をドロップすると、*page-size* ページ・サイズを持つ最後の **SYSTEM TEMPORARY** 表スペースがデータベースからドロップされます。

ユーザーの処置: この表スペースのドロップを試行する前に、データベースに他の *page-size* ページ・サイズの **SYSTEM TEMPORARY** 表スペースがあることを確認してください。

sqlcode: -283

sqlstate: 55026

SQL0284N 文節 *clause* の後に続く表スペース *tablespace-name* が *tablespace-type* 表スペースであるため、表は作成されませんでした。

説明: CREATE TABLE または DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE ステートメントが、文節 *clause* の後に、この文節に有効な表スペースのタイプではない表スペース *tablespace-name* を指定しました。

これは以下の状況で起きます。

- 通常の表の場合、*tablespace-name* が IN 文節に指定されていて、表スペースが REGULAR 表スペースではありません。
- 宣言された一時表の場合、*tablespace-name* が IN 文節に指定されていて、表スペースが USER TEMPORARY 表スペースではありません。
- *tablespace-name* が LARGE 文節に指定されていますが、表スペースが、データベースによって管理される LARGE ではありません。
- *tablespace-name* が INDEX IN 文節に指定され、表スペースが、データベース、表スペースによって管理される REGULAR または LARGE ではありません。

ユーザーの処置: CREATE TABLE ステートメントを訂正して、*clause* 文節に適切なタイプで表スペースを指定してください。

sqlcode: -284

sqlstate: 42838

SQL0285N **PRIMARY** 表スペース *tablespace-name* がシステム管理表スペースであるため、表 *table-name* の索引と長い列のいずれか、または両方を、独立表スペースに割り当てることができません。

説明: PRIMARY 表スペースがシステム管理表スペースの場合は、表のすべての部分はその表スペースに入っている必要があります。PRIMARY 表スペース、索引表スペース、長い表スペースがデータベース管理表スペースの場合にのみ、表の部分を独立表スペースに持つことができます。

ユーザーの処置: PRIMARY 表スペースにデータベース管理表スペースを指定するか、または表の部分を他の表スペースに割り当てないでください。

sqlcode: -285

sqlstate: 42839

SQL0286N 許可 ID *user-name* が使用を許可されている少なくとも *pagesize* のページ・サイズを持つデフォルトの表スペースが検出されませんでした。

説明: CREATE TABLE または DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE ステートメントで表スペースが指定されませんでした。また、許可 ID *user-name* が USE 特権を持っている正しいタイプ (宣言済み一時表では USER TEMPORARY) の表スペースで十分なページ・サイズ (*pagesize* 以上) のものが見つかりませんでした。

表に、十分なページ・サイズがあるかどうかは、行のバイト・カウントあるいは列の数で判別されます。

ユーザーの処置: *pagesize* 以上のページ・サイズがある正しいタイプ (REGULAR または USER TEMPORARY) の表スペースが存在すること、また、その表スペースに対して許可 ID *user-name* が USE 特権を持っていることを確認してください。

sqlcode: -286

sqlstate: 42727

SQL0287N SYSCATSPACE はユーザー・オブジェクトには使用できません。

説明: CREATE TABLE または GRANT USE OF TABLESPACE ステートメントが、カタログ表のために予約されている表スペース SYSCATSPACE を指定しました。

ユーザーの処置: 別の表スペース名を指定してください。

sqlcode: -287

sqlstate: 42838

SQL0288N 大きな表スペースは、MANAGED BY SYSTEM を使って定義できません。

説明: 定義される表スペースは、ラージ・オブジェクトと長ストリングで使用されます。これらは、データベース管理スペースに定義された表スペースにのみ格納することができます。従って、システム管理スペースを使用するように、大きな表スペースを定義できません。

ユーザーの処置: キーワード LARGE を除去するか、CREATE TABLESPACE ステートメントで MANAGED BY DATABASE に変更してください。

sqlcode: -288

sqlstate: 42613

SQL0289N 表スペース *tablespace-name* の新規ページを割り振れません。

説明: 以下に示す条件の 1 つが成立しています。

1. この SMS 表スペースに割り当てられたコンテナのいずれかが、最大ファイル・サイズに達しました。これが、エラーの原因である可能性があります。
2. この DMS 表スペースに割り当てられているすべてのコンテナがいっぱいです。これが、エラーの原因である可能性があります。
3. この DMS 表スペースの表スペース・オブジェクト表がいっぱいです。
4. 再平衡が進行中ですが、新しく追加されるスペースを使用可能にするのに十分なものにまでは進んでいません。
5. リダイレクト・リストアの実行先のコンテナが小さ過ぎます。
6. リダイレクト・リストアに続いてロールフォワードが実行されていますが、この表スペースに割り当てられたコンテナはすべていっぱいです。
7. コンテナ追加をスキップするロールフォワードが実行され、この表スペースに割り当てられたすべてのコンテナがいっぱいになっています。
8. 5 つ未満の使用可能エクステントを使って表スペースを作成しようとしてしました。

ユーザーの処置: エラーの原因に対応するアクションを実行してください。

1. DMS TABLESPACE に切り替えるか、あるいは (ディレクトリー数) >= (最大表サイズ/最大ファイル・サイズ) のようなディレクトリー (パス) を使用して、SMS TABLESPACE を再作成してください。最大ファイル・サイズはオペレーティング・システムによって変わることにご注意してください。
2. 再平衡プログラムが新しいページを使用可能にした後で、新しいコンテナを DMS 表スペースに追加して、操作をやり直してください。
3. この DMS 表スペースから不要な表をドロップしてください。
4. 再平衡プログラムが進行するのを待ってください。
5. リダイレクト・リストアを大きなコンテナで再度実行してください。
6. リダイレクト・リストアを大きなコンテナで再度実行してください。
7. コンテナの追加を許可してロールフォワードを再度実行するか、リダイレクト・リストアを大きなコンテナに対して実行してください。

8. 表スペースが少なくとも 5 つの使用可能エクステン
トを持っていることを確認して、CREATE
TABLESPACE ステートメントを再サブミットしてく
ださい。

sqlcode: -289

sqlstate: 57011

SQL0290N 表スペースへのアクセスは許可されていま
せん。

説明: 意図されたアクセスに対して無効な状態にある表
スペースにアクセスしようとする処理は、許されていま
せん。

- 表スペースが静止状態の場合は、表スペースを静止状
態に保留している処理のみが、その表スペースに対す
るアクセスを許されます。
- 表スペースが他のいずれかの状態の場合は、指定され
たアクションを実行する処理のみが、その表スペース
に対するアクセスを許されます。
- アクティブのシステムまたは宣言された一時表の入っ
た、SYSTEM または USER TEMPORARY 表スペー
スはドロップできません。
- 表スペースが「リストア・ペンディング」状態でない
限り、SET CONTAINER api はコンテナ・リスト
の設定に使用できません。

ユーザーの処置: 可能なアクションは以下のとおりで
す。

- 表スペースが静止状態の場合は、その表スペースで静
止共有または静止更新の獲得を試みてください。ある
いは、表スペースのリセットの静止を試みてくださ
い。
- 表スペースが他のいずれかの状態の場合は、アクセス
する前に、その表スペースが通常の状態に戻るまで待
ってください。

表スペースの状態に関する詳細については「管理ガイ
ド」を参照してください。

sqlcode: -290

sqlstate: 55039

SQL0291N 状態遷移は、表スペースでは使用できませ
ん。

説明: 表スペースの状態の変更が試みられました。新し
い状態が表スペースの現在の状態との整合性を持って
いないか、または特定状態をオフにしようとしたが、表
スペースがその状態ではありません。

ユーザーの処置: 表スペースの現在の状態に応じて、バ
ックアップの完了、ロードの完了、ロールフォワードの
完了などが起きると、表スペースの状態が変わります。
表スペース状態に関する詳細については、「システム管
理ガイド」を参照してください。

sqlcode: -291

sqlstate: 55039

SQL0292N 内部データベース・ファイルが作成できま
せんでした。

説明: 内部データベース・ファイルが作成できませんで
した。

ユーザーの処置: そのファイルの入ったディレクトリー
が、アクセス可能 (たとえば、取り付けられている) で
あること、およびデータベース・インスタンス所有者に
よって書き込み可能であることをチェックしてくださ
い。

sqlcode: -292

sqlstate: 57047

SQL0293N 表スペース・コンテナへのアクセス・エラ
ーです。

説明: このエラーは、以下のいずれかの条件によって発
生した可能性があります。

- コンテナ (ディレクトリー、ファイルまたはロー・
デバイス) が見つかりませんでした。
- コンテナに、適切な表スペースに所有されているこ
とを示すタグが付いていません。
- コンテナ・タグが壊れています。

このエラーはデータベースの始動時および ALTER
TABLESPACE SQL ステートメントの処理時に返されま
す。

ユーザーの処置: 次のアクションを試行してください。

1. ディレクトリー、ファイル、または装置が存在し、
ファイル・システムがマウントされている (それが独
立したファイル・システム上にある場合) ことを確か
めてください。コンテナは、データベース・イン
スタンス所有者によって、読み書き可能でなければ
なりません。
2. 最新のバックアップがある場合は、表スペースまた
はデータベースのリストアを試みてください。正し
くないコンテナのためにリストアが失敗し、コン
テナが DEVICE タイプでない場合は、まず手操作
でそのコンテナを取り除いてください。

エラーが SWITCH ONLINE オプション付きの ALTER TABLESPACE SQL ステートメントの処理から返された場合は、上記で記述された問題を訂正した後にステートメントを再発行してください。

エラーが残る場合、IBM サービス担当者に連絡してください。

sqlcode: -293

sqlstate: 57048

SQL0294N コンテナはすでに使用中です。

説明: 表スペース・コンテナが共有できないことがあります。このエラーの原因として可能性のあるものは次のとおりです。

- CREATE TABLESPACE または ALTER TABLESPACE ステートメントに、他の表スペースですでに使用中のコンテナが組み込まれていました。
- CREATE TABLESPACE または ALTER TABLESPACE ステートメントに、ドロップされている表スペースからのコンテナが組み込まれていましたが、DROP ステートメントはコミットされていませんでした。
- ノードを追加するのに使用される ALTER NODEGROUP ステートメントが、同じ物理ノードにある LIKE ノードのコンテナを使用していました。そのため、これらのコンテナはすでに使用中となっています。
- CREATE TABLESPACE または ALTER TABLESPACE ステートメントが、単一の物理ノードの 2 つ以上の論理ノードにある同じコンテナを使用しようとしていました。同じコンテナを、同じ物理ノードの 2 つ以上のノードに対して使用することはできません。
- ADD NODE コマンドまたは API が、同じ物理ノードにある LIKE ノードの SYSTEM TEMPORARY 表スペースからコンテナを使用しました。そのため、これらのコンテナはすでに使用中となっています。
- CREATE TABLESPACE または ALTER TABLESPACE ステートメントに、もう存在していないけれども正しくドロップされていない、別のデータベースからの DMS コンテナが組み込まれていました。実際、このコンテナは使用されていませんが、使用中であるとタグ付けされています。そのため、タグが外されるまで、DB2 はコンテナの使用を許可しません。ただし、タグが外されるときに、このコンテナが同じデータベースまたは別のデータベースによって使用中ではないことを確認することができます。

重要です。タグを外したときにコンテナが使用中であれば、関係するデータベースは損傷を受けます。

ユーザーの処置: コンテナがユニークであるかを確認してください。

- CREATE または ALTER TABLESPACE ステートメントに対し、表スペースに別のコンテナを指定してください。
- ドロップされた表スペースに属するコンテナが組み込まれた CREATE または ALTER TABLESPACE ステートメントの場合、DROP ステートメントがコミットされてから再度試行するか、あるいは別のコンテナを指定してください。
- ALTER NODEGROUP ステートメントに対し、WITHOUT TABLESPACES 文節を使用してこのステートメントを再発行し、新規ノードのユニーク・コンテナを作成するのに ALTER TABLESPACE ステートメントを使用してください。
- 物理ノード上に複数の論理ノードが組み込まれた環境にある CREATE または ALTER TABLESPACE ステートメントの場合、同じコンテナがこのような論理ノードで指定されていないことを確認してください。
- ADD NODE コマンドまたは API に対し、WITHOUT TABLESPACES 文節を使用してステートメントを再発行し、SYSTEM TEMPORARY 表スペースの新規ノードでユニーク・コンテナを作成するのに ALTER TABLESPACE ステートメントを使用してください。
- もう存在しなくても正しくドロップされていないデータベースに属していた DMS コンテナの使用を試みている場合、db2untag ユーティリティを使用し、DB2 コンテナ・タグを外すことができます。このタグが外されると DB2 はコンテナの解放を考慮し、このコンテナは CREATE TABLESPACE または ALTER TABLESPACE ステートメントで使用できます。

注: db2untag の使用には十分に気を付けてください。データベースによって使用されているコンテナに対して db2untag コマンドを出すと、そのコンテナを使用していたデータベース、および現在でも使用しているデータベースの両方が損傷を受けます。

sqlcode: -294

sqlstate: 42730

SQL0295N 表スペースのすべてのコンテナ名を結合した長さが、長すぎます。

説明: コンテナのリストを格納するために必要な合計スペースが、表スペース・ファイルのこの表スペースに割り当てられたスペースを超えました。

ユーザーの処置: 以下の 1 つ以上を試みてください。

- 記号リンク、取り付けられたファイル・システムなどを使用して、新しいコンテナ名を短くしてください。
- 表スペースのバックアップを行った後で、データベース管理ユーティリティを使用して、コンテナの数と名前の長さ、またはそのいずれかを減らしてください。その後で、表スペースを新しいコンテナにリストアしてください。

sqlcode: -295

sqlstate: 54034

SQL0296N 表スペースの限界を超えています。

説明: このデータベースには、最大数の表スペースが入っています。もう作成することはできません。

ユーザーの処置: もう使用されていない表スペースを削除してください。表スペースのすべてのデータを 1 つの表スペースに移動し、他の表スペースを削除して、小さな表スペースを結合してください。

sqlcode: -296

sqlstate: 54035

SQL0297N コンテナのパス名が長すぎます。

説明: コンテナ名を指定する絶対パスが、最大許容長を超えています。データベース・ディレクトリーに関連するパスとして、コンテナが指定されている場合は、それら 2 つの値の連結が最大長を超えてはなりません。

管理通知ログで詳細を参照できます。

ユーザーの処置: パスの長さを短くしてください。

sqlcode: -297

sqlstate: 54036

SQL0298N コンテナ・パスが正しくありません。

説明: コンテナ・パスが、以下のいずれかの要件に違反しています。

- コンテナ・パスは、有効な完全修飾された絶対パス、または有効な相対パスでなければなりません。文字は、データベース・ディレクトリーに関連して解釈されます。
- EXTEND、REDUCE、RESIZE および DROP 操作に対し、指定されたコンテナ・パスが存在している必要があります。

- パスはインスタンス ID に対して読み書き可能でなければなりません (UNIX ベース・システムのファイル許可をチェックしてください)。
- コンテナはコマンドに指定したタイプでなければなりません (ディレクトリー、ファイルまたは装置)。
- システム管理表スペースのコンテナ (ディレクトリー) は、コンテナとして指定された場合は空でなければならず、他のコンテナの下にネストしてはなりません。
- 1 つのデータベースに対するコンテナは、別のデータベースのディレクトリーの下に位置してはならず、別のデータベースに対して現れるディレクトリーの下にもなれない場合があります。この規則は、形式が SQLnnnnn ('n' は数字) のディレクトリーには適用されません。
- コンテナは、オペレーティング・システムのファイル・サイズ制限内でなければなりません。
- ドロップ済みデータベース管理表スペースのコンテナ (ファイル) は、すべてのエージェントが終了および開始した後で、システム管理表スペースのコンテナ (ディレクトリー) としてのみ再使用できます。
- リダイレクト・リストア中に、SMS コンテナが DMS 表スペースに指定されたか、あるいは DMS コンテナが SMS 表スペースに指定されました。
- EXTEND、REDUCE、RESIZE、または DROP 操作に対して指定されたコンテナ・タイプは、コンテナが作成されたときに指定されたコンテナ・タイプ (FILE または DEVICE) と一致しません。

このメッセージは、コンテナへのアクセスを DB2 に禁止する、その他の予期しないエラーが発生した場合にも返されます。

ユーザーの処置: 別のコンテナ・ロケーションを指定するか、またはコンテナを変更して DB2 に受け入れ可能にし (ファイル許可の変更など)、もう一度やり直してください。

sqlcode: -298

sqlstate: 428B2

SQL0299N コンテナは、すでに表スペースに割り当てられています。

説明: 追加しようとしたコンテナが、すでに表スペースに割り当てられていました。

ユーザーの処置: 別のコンテナを選択して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -299

sqlstate: 42731

SQL0300 - SQL0399

SQL0301N 入力ホスト変数またはパラメーター番号 *number* の値は、そのデータ・タイプのため、使用できません。

説明: *number* の位置にあるホスト変数またはパラメーターは、そのデータ・タイプが、意図された値の使用法と非互換であるため、ステートメントに指定されたように使用できませんでした。

このエラーは、EXECUTE または OPEN ステートメント上の SQLDA 内に正しくないホスト変数または SQLTYPE 値を指定した場合に起きます。ユーザー定義構造化タイプの場合、ホスト変数または SQLTYPE の関連する組み込みタイプがステートメントのトランスフォーム・グループで定義された TO SQL トランスフォーム関数のパラメーターと互換性がないことが考えられます。文字データ・タイプと GRAPHIC データ・タイプ間で暗黙または明示的 cast を実行する場合、このエラーは、非 Unicode 文字または GRAPHIC スtring を使ってそのような cast が試行されたことを示しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメント中のすべてのホスト変数のデータ・タイプがその使用法との間に互換性があることを確認してください。

sqlcode: -301

sqlstate: 07006

SQL0302N EXECUTE または OPEN ステートメント内のホスト変数の値が大きすぎます。

説明: 入力ホスト変数値が、SELECT、VALUES、または準備されたステートメントに定義された使用法に対して大きすぎます。以下のいずれかが起きました。

- SQL ステートメントで使用されている対応するホスト変数またはパラメーター・マーカーがストリングとして定義されていますが、入力ホスト変数が長すぎるストリングを持っています。
- SQL ステートメントで使用されている対応するホスト変数またはパラメーター・マーカーが数値として定義されていますが、入力ホスト変数が大きすぎる数値を持っています。
- 終了のための NUL 文字が C 言語の NULL で終了する文字ストリング・ホスト変数から抜けています。
- フェデレーテッド・システム・ユーザー: パススルー・セッションの場合、データ・ソース特有の制約事項に違反している可能性があります。

このエラーは、EXECUTE または OPEN ステートメント上の SQLDA に正しくないホスト変数、または正しくない SQLLEN 値を指定したときに起きます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 入力ホスト変数値のタイプと長さが正しいことを確認してください。入力ホスト変数でパラメーター・マーカーに値を与えている場合は、その値がパラメーター・マーカーの暗黙的なデータ・タイプと長さに合うようにしてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: パススルー・セッションの場合、エラーの原因であるデータ・ソースを判別してください (障害の起きたデータ・ソースを識別する手順については、「問題判別の手引き」を参照してください)。どの特定制約事項が違反されたのか判別するデータ・ソースでどの特定制約事項を違反したのか判別するために SQL ダイアレクトを調べ、失敗したステートメントを必要に応じて調整してください。

sqlcode: -302

sqlstate: 22001, 22003

SQL0303N データ・タイプに互換性がないため、SELECT、VALUES、または FETCH ステートメントのホスト変数に、値を割り当てられません。

説明: 組み込まれた SELECT または VALUES ステートメントが、ホスト変数に値を割り当てようとしたが、変数のデータ・タイプと、対応する SELECT-list または VALUES-list エレメントのデータ・タイプに互換性がありません。両方ともに数値、文字、または GRAPHIC でなければなりません。ユーザー定義のデータ・タイプの場合、ホスト変数は、ステートメントのトランスフォーム・グループで定義された FROM SQL トランスフォーム関数の結果タイプとは互換性のない関連した組み込みデータ・タイプを使用して定義される場合があります。たとえば、列のデータ・タイプが日付または時刻の場合は、変数のデータ・タイプは適切な最小長を持つ文字でなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 表定義が現在のものであり、ホスト変数が適切なデータ・タイプであることを確認してください。ユーザー定義のデータ・タイプの場合、ホスト変数の関連する組み込みタイプが、ステートメントのトランスフォーム・グループで定義された FROM SQL トランスフォーム関数の互換性のあるタイプと互換性があることを確認してください。

sqlcode: -303

sqlstate: 42806

SQL0304N 値がホスト変数のデータ・タイプの範囲外なので、その値をホスト変数に割り当てることができません。

説明: ホスト変数リストへの FETCH、VALUES、または SELECT は、ホスト変数が検索された値を保留するのに十分な大きさでないため、失敗しました。

ステートメントは処理できません。データは取り出されません。

ユーザーの処置: 表定義が現在のものであり、ホスト変数が適切なデータ・タイプであることを確認してください。SQL データ・タイプの範囲については、「SQL リファレンス」を参照してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: データ・ソースから返されたデータ・タイプの範囲については、そのデータ・ソースの資料を参照してください。

sqlcode: -304

sqlstate: 22001, 22003

SQL0305N 標識変数が指定されていないので、SELECT または FETCH ステートメント内のホスト変数に NULL 値を割り当てられません。

説明: FETCH または組み込まれた SELECT または VALUES 処理が、標識変数が指定されていないホスト変数に挿入される NULL 値を取り出しました。列が NULL 値を返す可能性がある場合は、標識変数を指定する必要があります。

ステートメントは処理できません。データは取り出されません。

ユーザーの処置: FETCH または SELECT オブジェクト表の定義、または VALUES リストの要素を調べてください。それらの列の NULL 値を取り出すことができるすべてのホスト変数に対して、標識変数を指定するように、プログラムを修正してください。

sqlcode: -305

sqlstate: 22002

SQL0306N ホスト変数 *name* が定義されていません。

説明: ホスト変数 *name* が DECLARE SECTION で宣言されていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ホスト変数が宣言されていること、またその名前のつづりが正しいことを確認してください。

SQL0307N ホスト変数 *name* はすでに定義されています。

説明: ホスト変数 *name* は、すでに DECLARE SECTION で定義されています。

定義は無視されます。代わりに、前回の定義が使用されます。

ユーザーの処置: ホスト変数のつづりが正しく、名前は 1 つのプログラムにつき 1 回だけ定義されていることを確認してください。

SQL0308N ホスト変数の数の制限に達しました。

説明: ホスト変数の数の制限は、SYSPLAN の HOST_VARS 列に指定された値によって異なります。この制限に達しました。

残りの変数宣言は無視されます。

ユーザーの処置: プログラムを単純にするか、個別の小さいプログラムに分割してください。

SQL0309N OPEN ステートメントのホスト変数の値が NULL ですが、対応する他のステートメントでは NULL 値は使用できません。

説明: 入力ホスト変数の値が NULL でしたが、SELECT、VALUES、または準備されたステートメントでの対応する使用法に、標識変数が指定されていませんでした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: USING 文節を使用する必要があることを確認してください。別の方法としては、必要な場合にのみ標識変数が指定されていることを確認してください。

sqlcode: -309

sqlstate: 07002

SQL0310N SQL ステートメントに含まれるホスト変数が多すぎます。

説明: ステートメント中のホスト変数が最大数を超過しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントのホスト変数を減らすか、またはステートメントが複雑すぎないことを確認してください。

SQL0311N ホスト変数番号 *var-number* の長さが、負であるか、または最大を超えています。

説明: 評価時に、SQLDA の項目が <*var-number*> (1 に基づく) で示されるストリング・ホスト変数の長さ指定が負であるか、またはそのホスト変数に定義された最大長より長くなっています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: プログラムを訂正して、すべてのストリング・ホスト変数の長さが負の値ではないか、あるいは最大長より短くするようにしてください。

sqlcode: -311

sqlstate: 22501

SQL0312N ホスト変数 *host-name* が動的 SQL ステートメント、ビュー定義、またはトリガー定義で使用されています。

説明: ホスト変数 *host-name* が SQL ステートメントで使用されていますが、ホスト変数は動的 SQL ステートメント、ビュー定義の SELECT ステートメント、またはトリガー定義のトリガー・アクションで使用することができません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 動的 SQL ステートメントについては、ホスト変数の代わりに、パラメーター・マーカー (?) を使用してください。ホスト変数およびパラメーター・マーカーを、ビュー定義またはトリガー定義で使わないでください。

sqlcode: -312

sqlstate: 42618

SQL0313N EXECUTE または OPEN ステートメントのホスト変数の数が、必要な数の数と等しくありません。

説明: EXECUTE または OPEN ステートメントで指定されているホスト変数の数が、SQL ステートメントのパラメーター・マーカー (?) で要求されているホスト変数の数と同じではありません。

ユーザーの処置: EXECUTE または OPEN ステートメントで指定されているホスト変数の数と、SQL ステートメントのパラメーター・マーカーの数が同じになるように、アプリケーション・プログラムを訂正してください。

sqlcode: -313

sqlstate: 07001, 07004

SQL0314N ホスト変数 *name* の宣言が正しくありません。

説明: ホスト変数 *name* の宣言が、以下のいずれかの理由により正しくありません。

- 指定したタイプがサポートされていません。
- 指定した長さがゼロか、負か、または大きすぎます。
- 初期化指定子を使用しています。
- 指定した構文が正しくありません。

変数は定義されません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーがサポートする宣言のみを、正しく指定していることを確認してください。

SQL0315N ホスト変数の宣言が正しくありません。

説明: ホスト変数の宣言が、以下のいずれかの理由により正しくありません。

- 指定したタイプがサポートされていません。
- 指定した長さがゼロか、負か、または大きすぎます。
- 指定した構文が正しくありません。

変数は定義されません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーがサポートする宣言のみを、正しく指定していることを確認してください。

SQL0317N BEGIN DECLARE SECTION の後に END DECLARE SECTION がありません。

説明: DECLARE SECTION の処理中に、入力の終わりに達しました。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: DECLARE SECTION を終了させるための END DECLARE SECTION ステートメントを追加してください。

SQL0318N 先行する BEGIN DECLARE SECTION がない END DECLARE SECTION が見つかりました。

説明: END DECLARE SECTION ステートメントが見つかりましたが、先行する BEGIN DECLARE SECTION がありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: END DECLARE SECTION の前に BEGIN DECLARE SECTION を入力してください。

SQL0324N *usage* 変数 *name* は間違ったタイプです。

説明: INDICATOR 変数 *name* が短整数でないか、または STATEMENT 変数 *name* が文字データ・タイプではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 変数が正しいタイプで、正しく指定されていることを確認してください。

SQL0332N ソース・コード・ページ *code-page* からターゲット・コード・ページ *code-page* への変換は使用できません。理由コード *reason-code*。

説明: ソース・コード・ページからターゲット・コード・ページへのデータの変換はサポートされていません。このエラーは、以下の状態で起きる可能性があります。

- SQL ステートメントの実行中に、エラーが起きました。データは、データベース・マネージャーによって処理されません。
- WSF または IXF ファイルのインポートまたはエクスポート中に、エラーが起きました。インポートまたはエクスポートは失敗します。
- フェデレーテッド・システム・ユーザー: データ・ソースは示されたコード・ページの変換をサポートしていません。
- DB2 Connect ユーザー: ソース・コード・ページおよびターゲット・コード・ページの両方がホストの CCSID または AS/400 システムを参照している可能性があります。
- 暗号化されたデータとともに保管されているコード・ページからターゲット・コード・ページへの変換中にエラーが発生しました。

理由コードは以下のとおりです。

- 1 ソースとターゲット・コード・ページの組み合わせを、データベース・マネージャーがサポートしていません。
- 2 ソースとターゲット・コード・ページの組み合わせを、データベース・マネージャーまたはクライアント・ノードのオペレーティング・システム文字変換ユーティリティのいずれかがサポートしていません。
- 3 ソースとターゲット・コード・ページの組み合わせを、データベース・マネージャーまたはサーバー・ノードのオペレーティング・システム文字変換ユーティリティのいずれかがサポートしていません。

ユーザーの処置: 解決策は以下のとおりです。

- ソースとターゲットのコード・ページのデータ変換が、データベース・マネージャーによってサポートされていることを確認してください。データベース・マネージャーのコード・ページ・サポートについては、「概説およびインストール」をチェックしてください。DB2 Connect が使用されている場合は、「DB2 Connect 概説およびインストール」をチェックしてください。
- 一部のコード・ページ組み合わせのデータ変換は、ソースまたはターゲットのコード・ページの言語グループによって、データベース・マネージャー・インストール・オプションを介してサポートされる場合があります。戻された理由コードに示される通り、適切なものがインストールされていて、データベース・マネージャーおよびクライアント・アプリケーションにアクセス可能であることを確認してください。インストール・オプションのリストについては、「概説およびインストール」または「DB2 Connect 概説およびインストール」を参照してください。
- 一部のコード・ページ組み合わせのデータ変換は、ソースまたはターゲットのコード・ページの言語グループによって、オペレーティング・システム供給文字変換ユーティリティを介したデータベース・マネージャーによってサポートされる場合があります。サポートされている変換機能のリストについては、オペレーティング・システムの資料をチェックし、適切な変換機能がインストールされており、戻された理由コードで示されているデータベース・マネージャーとクライアント・アプリケーションに対してアクセス可能であることを確認してください。使用されているオペレーティング・システムの変換ユーティリティのリストについては、「概説およびインストール」または「DB2 Connect 概説およびインストール」を参照してください。
- サポートされていないコード・ページを、記述されている対のいずれかに変更してください。

AS/400 ユーザーは、AS/400 CCSID 65535 がサポートされていないことに留意してください。CCSID 65535 を使用してエンコードされた AS/400 データは、DB2 Connect を使用してアクセスするためには、サポートされている CCSID に変換される必要があります。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: データ・ソース・コード・ページのサポートについては、「フェデレーテッド・システム・ガイド」を参照してください。

sqlcode: -332

sqlstate: 57017

SQL0334N コード・ページ *source* からコード・ページ *target* への変換中に、オーバーフローが発生しました。ターゲット域の最大サイズは、*max-len* でした。ソース・ストリングの長さは *source-len* で、その 16 進数表記は *string* でした。

説明: SQL ステートメントの実行中に、コード・ページ変換処理の結果が、ターゲット・オブジェクトの最大サイズより大きなストリングになりました。

ユーザーの処置: 以下を行って、状況に応じて、オーバーフロー条件が起きないようにデータを修正してください。

- ソース・ストリングの長さを短くするか、あるいはターゲット・オブジェクトのサイズを大きくしてください (下記の注を参照してください)。
- 操作を変えてください。
- 暗号化されたデータ値を暗号解除関数で使用する前に、バイト数のより多い VARCHAR ストリングにキャストしてください。
- アプリケーション・コード・ページとデータベース・コード・ページが同じであることを確認してください。同じであれば、ほとんどの接続でコード・ページ変換は必要なくなります。

注: 文字変換の一部として、文字または GRAPHIC ストリングのデータ・タイプの自動プロモーションは行われません。結果のストリングの長さがソース・ストリングのデータ・タイプの最大長を超えた場合には、オーバーフローが起こります。この状況を訂正するには、ソース・ストリングのデータ・タイプを変更するか、変換してストリング長を長くするためにデータ・タイプをキャストします。

sqlcode: -334

sqlstate: 22524

SQL0336N 10 進数の位取りをゼロにする必要があります。

説明: 10 進数は、位取りがゼロでなければならないコンテキストにおいて使用されます。これは、10 進数が START WITH、INCREMENT、MINVALUE、MAXVALUE、または RESTART WITH の CREATE または ALTER SEQUENCE ステートメントで指定されたときに起きます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 10 進数を変更して、10 進区切りの右側からゼロ以外の数字を除去してください。

sqlcode: -336

sqlstate: 428FA

SQL0338N JOIN 演算子または MERGE ステートメントに関連付けられている ON 文節が無効です。

説明: JOIN 演算子または MERGE ステートメントに関連した ON 文節が、次の理由の 1 つのため、有効ではありません。

- ON 文節には副照会を組み込むことはできません。
- ON 分節内の列参照は、ON 文節のスコープ内にある表の列のみを参照しています。
- スカラー全選択は、ON 文節の式では使用できません。
- 全外部結合の ON 文節で参照される関数は決定的なものであり外部アクションは必要ありません。
- 間接参照操作 (->) は使用できません。
- SQL 関数または SQL メソッドを使用できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ON 文節を訂正して、該当する列を参照するか、または他の副照会あるいはスカラー全選択を削除してください。間接参照操作、SQL 関数、または SQL メソッドを ON 文節から除去してください。

全外部結合を使用する場合には、ON 文節のすべての関数が決定的なもので外部アクションが必要のないことを確認してください。

sqlcode: -338

sqlstate: 42972

SQL0340N 共通表式 *name* が、同じステートメント内の共通表式定義の他のオカレンスと同じ ID を持っています。

説明: 共通表式名 *name* が、ステートメントの複数の共通表式の定義で使用されています。共通表式の記述に使用される名前は、同じステートメント内でユニークでなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 共通表式のいずれかの名前を変更してください。

sqlcode: -340

sqlstate: 42726

SQL0341N 共通表式 *name1* と *name2* の間に、循環参照が存在しています。

説明: 共通表式 *name1* が全選択内の FROM 文節の *name2* を参照し、*name2* が全選択内の FROM 文節の *name1* を参照しています。上記の形態の循環参照は許されていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: いずれかの共通表式から循環参照を取り除いてください。

sqlcode: -341

sqlstate: 42835

SQL0342N 共通表式 *name* が再帰的なため、**SELECT DISTINCT** は使用できず、**UNION ALL** を使用する必要があります。

説明: 上記 2 つの説明は以下のとおりです。

- 共通表式が再帰的なため、共通表式 *name* 内の全選択は、**SELECT DISTINCT** で開始することができません。
- 共通表式 *name* 内の全選択が、再帰的な共通表式に必要な **UNION ALL** の代わりに、**UNION** を指定しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: キーワード **DISTINCT** を共通表式から取り除いて、**UNION** の後にキーワード **ALL** を追加するか、または共通表式内の再帰参照を取り除いてください。

sqlcode: -342

sqlstate: 42925

SQL0343N 再帰共通表式 *name* には、列名が必要です。

説明: 再帰共通表式 *name* は、共通表式の ID の後に列名を指定する必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 共通表式の ID の後に、列名を追加してください。

sqlcode: -343

sqlstate: 42908

SQL0344N 再帰共通表式 *name* には、列 *column-name* に適合しないデータ・タイプ、長さ、コード・ページがあります。

説明: 再帰共通表式 *name* が、共通表式の繰り返し全選択で参照される列 *column-name* を持っています。データ・タイプ、長さ、およびコード・ページは、この列の初期化全選択にもとづいて設定されます。繰り返し全選択の列 *column-name* に対する式の結果が、その列に値を割り当てない可能性がある異なるデータ・タイプ、長さ、またはコード・ページになりました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 再帰共通表式的全選択で使用している列を、初期化列が繰り返し列と一致するように修正してください。

sqlcode: -344

sqlstate: 42825

SQL0345N 再帰的共通表式 *name* の全選択は、2 つ以上の全選択の **UNION** でなければならず、列関数、**GROUP BY** 文節、**HAVING** 文節、**ORDER BY** 文節、または **ON** 文節を含む明示的な結合を含むことはできません。

説明: 共通表式 *name* に、それ自体に対する参照が入っているため、以下のようになります。

- 2 つ以上の全選択の合併でなければなりません。
- **GROUP BY** 文節を組み込むことはできません。
- 列関数を持つことはできません。
- **HAVING** 文節を組み込むことはできません。
- 繰り返し全選択に **ORDER BY** 文節を含むことはできません。
- **ON** 文節との明示的な結合を組み込むことはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 以下のように共通表式を変更してください。

- 2 つ以上の全選択の合併を作成する。
- 一部の列関数、**GROUP BY** 文節、**HAVING** 文節、**ORDER BY** 文節、または **ON** 文節を含む明示的な結合を除去する。
- 再帰参照を取り除く。

sqlcode: -345

sqlstate: 42836

SQL0346N 同じ FROM 文節、または副照会の FROM 文節に 2 回目のオカレンスがあるため、共通表式 *name* に対する無効な参照が最初の全選択で起きました。

説明: 共通表式 *name* に、以下のいずれかによって記述されている、それ自体に対する無効な参照が入っています。

- UNION ALL セット演算子の前にある最初の全選択の再帰参照。最初の全選択は初期化でなければならず、再帰参照を組み込むことはできません。
- 同じ FROM 文節の同じ共通表式に対する複数の参照。上記の参照は、再帰共通表式では許されていません。
- 副照会の FROM 文節の再帰照会。再帰循環は、副照会では定義できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを行ってください。

- 合併演算子の前にある全選択を、再帰参照を組み込まないように変更してください。
- 同じ共通表式に対する複数の参照の入った FROM 文節を、ただ 1 つの参照に変更してください。
- 副照会の FROM 文節を、共通表式を参照しないように変更してください。

sqlcode: -346

sqlstate: 42836

SQL0347W 再帰共通表式 *name* に、無限ループが含まれている可能性があります。

説明: *name* という名前の再帰共通表式が、完了しない可能性があります。この警告は、再帰共通表式の繰り返し部分の一部として、特定の構文が見つけれないことに基づいています。予期されている構文は、以下のとおりです。

- 繰り返し選択リストの INTEGER 列の 1 ずつの増加
- "counter_col < constant" または "counter_col < :hostvar" 形式の繰り返し部分の文節の WHERE 文節の述部。

再帰共通表式にこの構文がないため、結果として無限ループになる可能性があります。再帰共通表式のデータまたは他の特性のおかげで、ステートメントが正常に完了する場合があります。

ユーザーの処置: 無限ループを避けるには、上記の構文を組み込んでください。

sqlcode: +347

sqlstate: 01605

SQL0348N *sequence-expression* はこのコンテキストでは指定できません。

説明: ステートメントに、無効なコンテキストで NEXTVAL 式または PREVVAL 式が入っています。以下のコンテキストには、NEXTVAL 式および PREVVAL 式を指定できません。

- 完全外部結合の結合条件
- CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメント内の列の DEFAULT 値
- CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメント内の生成された列定義
- CHECK 制約の条件
- CREATE TRIGGER ステートメント (NEXTVAL 式が指定される可能性があります、PREVVAL 式は指定されません)
- CREATE VIEW ステートメント、CREATE METHOD ステートメントまたは CREATE FUNCTION ステートメント

以下のコンテキストには、NEXTVAL 式を指定できません。

- CASE 式
- 総計関数のパラメーター・リスト
- INSERT、UPDATE または VALUES INTO ステートメントの全選択を除く副照会
- 外部 SELECT に DISTINCT 演算子を備えた SELECT ステートメント
- 外部 SELECT に GROUP BY 文節を備えた SELECT ステートメント
- 結合の結合条件
- 外部 SELECT ステートメントが、UNION、INTERSECT、または EXCEPT セット演算子を使用する別の SELECT ステートメントと結合した SELECT ステートメント
- ネストされた表の式
- 表関数のパラメーター・リスト
- 最外部の SELECT ステートメント、DELETE、または UPDATE ステートメントの WHERE 文節
- 最外部の SELECT ステートメントの ORDER BY 文節
- UPDATE ステートメントの SET 文節における、式の全選択の SELECT 文節
- SQL ルーチンにおける IF、WHILE、DO...UNTIL、または CASE ステートメント

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: シーケンス式への参照を除去して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -348

sqlstate: 428F9

SQL0349N 位置 *column-position* にある列の **NEXTVAL** 式の指定は、すべての行の同じ列の他のすべての式の指定に一致していなければなりません。

説明: 複数行 INSERT ステートメントの VALUE 文節または VALUE 式の位置 *column-position* にある列に指定された式に、NEXTVAL 式が入っています。NEXTVAL 式の入った式がこれらのいずれかにある列の値を指定するために使用されているとき、その同じ式がすべての行のその列に指定されていなければなりません。たとえば、以下の INSERT ステートメントは正常に処理されます。

```
INSERT INTO T1
VALUES(
  NEXTVAL FOR sequence1 + 5, 'a'
),
(
  NEXTVAL FOR sequence1 + 5, 'b'
),
(
  NEXTVAL FOR sequence1 + 5, 'c'
)
```

ただし、以下の INSERT ステートメントは失敗します。

```
INSERT INTO T1
VALUES(
  NEXTVAL FOR sequence1 + 5, 'a'
),
(
  NEXTVAL FOR sequence1 + 5, 'b'
),
(
  NEXTVAL FOR sequence1 + 4, 'c'
)
```

ユーザーの処置: 構文を訂正して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -349

sqlstate: 560B7

SQL0350N LOB、DATALINK、または構造化タイプ列 *column-name* は索引、キー、ユニーク制約、機能上の従属関係、生成された列、または宣言された一時表では使用できません。

説明: 索引やキーの最大サイズ、またはユニーク制約または機能上の従属関係の制約に違反していない場合でも、LOB 列、DATALINK 列、または構造化タイプ列は索引、キー、またはユニーク制約では使用できません。これらのデータ・タイプはまた、生成された列または宣言された一時表の列タイプとしてもサポートされません。この制限には、LOB または DATALINK に基づく特殊タイプ列の使用が入っています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: LOB、DATALINK、または構造化タイプ列を、索引、キー、ユニーク索引、機能上の従属関係、生成された列、または宣言済み一時表の指定から除去してください。構造化タイプ列で指定された索引は、索引拡張子を使用して定義された可能性があります。

sqlcode: -350

sqlstate: 42962

SQL0351N サポートされていない **SQLTYPE** が出力 **SQLDA** (選択リスト) の位置 *position-number* で検出されました。

説明: 位置 *position-number* の SQLDA のエレメントは、アプリケーション・リクエストまたはアプリケーション・サーバーがサポートしないデータ・タイプのためのもので、アプリケーションが SQLDA ディレクトリーを使用していない場合は、*position-number* は選択リストまたは CALL ステートメントのパラメーターのエレメントの位置を表します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントを変更して、サポートされていないデータ・タイプを除去してください。select ステートメントについては、サポートされていないデータ・タイプを持つ選択リスト内の列の名前を除去するか、照会でキャストを使用して、サポートされているデータ・タイプに列をキャストしてください。

sqlcode: -351

sqlstate: 56084

SQL0352N サポートされていない **SQLTYPE** が入力リスト (**SQLDA**) の位置 *position-number* で検出されました。

説明: 位置 *position-number* の **SQLDA** のエレメントは、アプリケーション・リクエスターまたはアプリケーション・サーバーがサポートしないデータ・タイプのためのもので、アプリケーションが **SQLDA** ディレクトリーを使用していない場合は、*position-number* は入力ホスト変数、パラメーター・マーカー、または **CALL** ステートメントのパラメーターの位置を表します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントを変更して、サポートされていないデータ・タイプを除去してください。

sqlcode: -352

sqlstate: 56084

SQL0355N 定義されている列 *column-name* が、ログに記録するには大きすぎます。

説明: ラージ・オブジェクト・データ・タイプ (**BLOB**、**CLOB**、**DBCLOB**) は、最大 2 ギガバイト (2,147,483,647 バイト) のサイズで作成される可能性があります。データ値のロギングは、サイズが 1 ギガバイト (1,073,741,823 バイト) 以下のオブジェクトに対してのみ許されています。従って、サイズが 1 ギガバイトを超える巨大なオブジェクトは、ログに記録することができません。

ユーザーの処置: 列の作成中に **NOT LOGGED** 句を使用して、明示的にデータのロギングが必要ないことを示すか、または列の最大サイズを 1 ギガバイトまたはそれ以下まで減らしてください。

sqlcode: -355

sqlstate: 42993

SQL0357N **DB2 Data Links Manager** *name* が現在使用できません。理由コード = *reason-code*

説明: ステートメントには、**DB2 Data Links Manager** *name* での処理が必要です。理由コードで示されたように、**DB2 Data Links Manager** は現在使用できません。

- 01** **DB2 Data Links Manager** を使用できません。
- 02** 操作が試行されたデータ・サーバー、インスタンス、またはデータベースが、該当する **DB2 Data Links Manager** に登録されていません。
- 03** **DB2 Data Links Manager** へのアクセスが現在

許可されていないか、**DB2** が **DB2 Data Links Manager** に接続できないかのいずれかです。

- 04** **DB2 Data Links Manager** は、不明なサーバーです。
- 05** **DB2 Data Links Manager** との通信中にエラーが発生しました。
- 06** **DB2 Data Links Manager** のインストール・タイプに、データベースに登録されているタイプとの互換性がありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 理由コードに応じたアクションは以下のとおりです。

- 01** **DB2 Data Links Manager** または通信リンクがダウンしている可能性があります。しばらく待機してから再試行するか、または **DB2 Data Links Manager** 管理者に問い合わせてください。問題が解決しない場合は、データベースからアプリケーションを切断し、もう一度接続した後で再試行してください。
- 02** データベース・サーバー、インスタンス、またはデータベースを **DB2 Data Links Manager** に登録してください。
- 03** **DB2 Data Links Manager** へのアクセスは、それが一貫性のある状態にあることを **DB2** が確認できるまで許可されません。 **DB2** がこれを行おうまで待ってください。他の理由コードの状態のために、**DB2** がこれを行うことができない可能性もあります。このため、問題が続く場合は、インスタンスの `db2diag.log` ファイルでその状態を調べて訂正してください。情報がさらに必要であれば、**DB2 Data Links Manager** のクラッシュ・リカバリーについて「管理ガイド」を参照してください。また、この **DB2 Data Links Manager** への接続のためのすべてのホスト設定をチェックしてください。
- 04** **DB2 Data Links Manager** がネットワーク上で使用可能であることを確認してください。
- 05** **DB2 Data Links Manager** および通信リンクが立ち上がっているかを確認してください。問題が解決しない場合は、データベースからアプリケーションを切断し、もう一度接続した後で再試行してください。
- 06** **DB2 Data Links Manager** が **DFS** にインストールされている場合、**CELL** としてデータベースに追加する必要があります。また、ネイテ

イブ・ファイル・システムにインストールされている場合、NODE として追加する必要があります。ADD DATALINKS MANAGER コマンドの詳細については、コマンド・リファレンスを参照してください。

sqlcode: -357

sqlstate: 57050

SQL0358N DATALINK 値が参照したファイルにアクセスできません。理由コード =
reason-code

説明: DATALINK 値を割り当てられません。以下の理由コードが考えられます。

- 21 DATALINK 値データ・ロケーション形式は無効です。
- 22 DATALINK 値 DB2 Data Links Manager がデータベースに登録されていないか、またはデータベース・マネージャーの構成パラメーター DATALINKS が YES に設定されていません。
- 23 DATALINK リンク・タイプ値が無効です。
- 24 DB2 リンク・マネージャーが DATALINK 値参照ファイルを見つけられません。
- 25 DATALINK 値参照ファイルがすでにデータベースにリンクされています。
- 26 DATALINK 値参照ファイルはリンクのためにアクセスできません。これは、セット・ユーザー ID (SUID) またはセット・グループ ID (SGID) の許可ビットがオンになっているディレクトリー、シンボリック・リンク、またはファイルであるか、または DLFS (データ・リンク・ファイル・システム) として定義されていないファイル・システムに置かれたファイルである可能性があります。
- 27 DATALINK 値データ・ロケーションまたはコメントが長すぎます。
- 28 DB2 Data Links Manager の既存のレジストリーが、このファイルにリンクすることを許可していません (DLFM に一致する接頭部がありません)。
- 29 DB2 Data Links Manager が、DB2 ユーザーがこのファイルにリンクすることを許可していません。
- 30 別のアプリケーションで、ファイルに対するリンクがすでに進行中です。
- 31 DB2 Data Links Manager によるファイル・コ

ピーが、リンク解除されるファイルについて完了していません。ステートメントは処理できません。

- 32 DATALINK 値に、有効な書き込みトークンが含まれていません。
- 33 DLPREVIOUSCOPY スカラー関数によって構成される DATALINK 値は、WRITE PERMISSION ADMIN および RECOVERY YES を使って定義された DATALINK 列にしか割り当てできません。
- 34 DLNEWCOPY または DLPREVIOUSCOPY スカラー関数によって構成される DATALINK 値が、列にすでに存在する値と一致していません。
- 35 DLNEWCOPY または DLPREVIOUSCOPY スカラー関数によって構成される DATALINK 値は、新しい値を割り当てるために、INSERT ステートメントで使用することはできません。
- 36 DATALINK 値データ・ロケーションに組み込まれた書き込みトークンが、DATALINK 値参照ファイルのオープンに使用されるトークンと一致していません。
- 37 DATALINK 値参照ファイルは、更新中状態にあります。
- 38 スキーム DFS を持つ DATALINK 値は、WRITE PERMISSION ADMIN を使って定義された DATALINK 列に割り当てできません。
- 39 DLNEWCOPY スカラー関数によって構成される DATALINK 値は、WRITE PERMISSION BLOCKED を使って定義された DATALINK 列に割り当てできません。
- 40 DATALINK 参照ファイルの直前のアーカイブ・コピーが、アーカイブ・サーバーから見つかりません。
- 41 DLNEWCOPY または DLPREVIOUSCOPY スカラー関数で構成される同じ DATALINK 値を同一トランザクション内で複数回割り当てたり、DLNEWCOPY または DLPREVIOUSCOPY で構成された同じデータ・リンク値の割り当てがまだコミットされていないうちに、同じデータ・リンク値のリンクを解除することはできません。
- 42 DLREPLACECONTENT スカラー関数によって構成される DATALINK 値は、2 つ目の引き数 (置換ファイルのロケーション) がゼロの長さのストリングか、NULL である場合にのみ、NO LINK CONTROL を使って定義された DATALINK 列に割り当てできます。

- 43 DLREPLACECONTENT スカラー関数に指定された置換ファイルのリンク解除操作がコミットされていません。
- 44 DLREPLACECONTENT スカラー関数に指定された置換ファイルは、すでに別の置換処理で使用されています。
- 45 DATALINK 参照ファイルは、別の操作の置換ファイルとしてすでに指定されています。
- 46 DLREPLACECONTENT スカラー関数に指定された置換ファイルのフォーマットが無効です。
- 47 DLREPLACECONTENT スカラー関数に指定された置換ファイルのフォーマットを、ディレクトリやシンボリック・リンクにすることはできません。
- 48 DLREPLACECONTENT スカラー関数に指定された置換ファイルは、すでにデータベースにリンクされています。
- 49 DLREPLACECONTENT スカラー関数に指定された置換ファイルが、データ・リンク・ファイル・マネージャーによって見つかりません。
- 50 DLNEWCOPY スカラー関数によって構成されるように、データ・ロケーションに書き込みトークンを持つ DATALINK 値は、WRITE PERMISSION ADMIN を使って定義された DATALINK 列にしか割り当てできません。
- ユーザーの処置:** 理由コードを基に、以下のようにアクションを実行します。
- 21 データ・ロケーション形式を訂正してください。
- 22 正しい DB2 Data Links Manager が指定されていることを確認して、正しい場合はデータベースに登録してください。登録された DB2 Data Links Manager は、データベース・マネージャー構成パラメーター・データ・リンクが YES に設定されていない場合は無視されます。
- 23 リンク・タイプ値を訂正してください。
- 24 正しいファイルが指定され、このファイルが存在しているか、チェックします。
- 25 ファイルの既存の参照をリンク解除するか、またはこのステートメントでファイルを指定しないようにしてください。
- 26 ディレクトリーのリンクは許可されていません。シンボリック・リンクではなく、実際のファイル名を使用してください。SUID または SGID がオンの場合、またはファイルが非 DLFS ファイル・システムに置かれている場合は、DATALINK タイプを使用してこのファイルをリンクすることはできません。
- 27 データ・ロケーション値またはコメントの長さを小さくしてください。
- 28 DB2 Data Links Manager 管理者に連絡して、このファイルへのリンクに必要な登録を追加してください。
- 29 DB2 Data Links Manager 管理者に連絡して、必要な許可を入手してください。
- 30 このファイルをリンクせず、あとでやり直してください。
- 31 ファイルのコピーが完了するように時間をとってあとでやり直してください。
- 32 有効な書き込みトークンでデータ・ロケーション値を指定してください。書き込みトークンは、WRITE PERMISSION ADMIN を使って定義された DATALINK 列の SELECT ステートメントにある DLURLCOMPLETEWRITE または DLURLPATHWRITE スカラー関数からの戻り値の一部として生成されます
- 33 代わりに、DLVALUE スカラー関数を使用してください。
- 34 行のデータ・ロケーションと一致するように、データ・ロケーションを訂正してください。
- 35 新しい DATALINK 値を割り当てる場合は、代わりに DLVALUE スカラー関数を使用してください。
- 36 ファイルのオープンおよび変更で使用される書き込みトークンが組み込まれたデータ・ロケーションを指定してください。トークンが失われている場合は、一連のデータ・リンク・ファイル・マネージャー (DLFM) コマンドを使って、その書き込みトークンを検索することができます。DLM コマンドの詳細については、「Data Links Manager 管理ガイドおよびリファレンス」を参照してください。
- 37 DATALINK 値参照ファイルが更新されていません。最初に、DATALINK 列に対して DLNEWCOPY または DLPREVIOUSCOPY スカラー関数を使って SQL UPDATE を発行して、ファイルの変更をコミットまたはバックアウトしてください。その後、同じステートメントを再試行してください。
- 38 これは、DFS スキームを持つ DATALINK 値は WRITE PERMISSION ADMIN を使って定義された DATALINK 列に割り当てできないという制限です。ファイルを別のタイプのファ

- イル・システムに移動し、別のスキームを使って DATALINK 値を割り当ててください。
- 39 代わりに、DLVALUE スカラー関数を使用してください。
- 40 アーカイブ・サーバーが稼働中かどうかを確認してください。その後で、再試行してください。
- 41 別のトランザクションで UPDATE 操作を再試行してください。
- 42 置換ファイルのロケーションとして、ゼロの長さのストリングまたは NULL を使用してください。
- 43 現在のトランザクションをコミットしてください。その後で、再試行してください。
- 44 置換ファイルに別の名前を使用するか、後で再試行してください。
- 45 このファイルをリンクしないか、後で再試行してください。
- 46 置換ファイル・ロケーションのストリング・フォーマットを訂正してください。
- 47 ファイルが指定されていることを確認してください。置換ファイルには、シンボリック・リンクではなく、実際のファイル名を使用してください。
- 48 ファイルをリンク解除してください。
- 49 正しいファイルが指定され、このファイルが存在しているか、チェックします。
- 50 データ・ロケーション値からトークンを除去します。

sqlcode: -358

sqlstate: 428D1

SQL0359N ID 列またはシーケンスの値の範囲を使い果たしました。

説明: DB2 は ID 列またはシーケンス・オブジェクトに値を生成しようとしたますが、すでにすべての許容できる値が割り当てられています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ID 列の場合、ID 列の値の範囲を大きくして、表を再定義してください。値の範囲が列のデータ・タイプの範囲より小さくなるように制限する MAXVALUE または MINVALUE が指定されている場合、列を変更して有効値の範囲を拡張できます。これを行わない場合、ID 列を再作成する必要があります

が、そのためには表を再作成しなければなりません。最初に既存の表をドロップして、ID 列に異なるデータ・タイプを指定して表を再作成します。ID 列の現在のデータ・タイプより大きい値の範囲を持つデータ・タイプを指定してください。

シーケンス・オブジェクトの場合、値の範囲を大きくしてシーケンスを再定義してください。MAXVALUE または MINVALUE 文節によって値の範囲がシーケンス・オブジェクトのデータ・タイプの範囲よりも小さくなるように制限されている場合、シーケンスを変更して有効値の範囲を拡張してください。これを行わない場合、シーケンス・オブジェクトをドロップし、より大きな値の範囲を許可するデータ・タイプを指定して CREATE SEQUENCE ステートメントを再発行してください。

sqlcode: -359

sqlstate: 23522

SQL0360W 表 *table-name* がデータ・リンク調整ペンディング (DRP) またはデータ・リンク (DRNP) 状態にあるため、DATALINK 値が無効である可能性があります。

説明: 表がデータ・リンク調整ペンディング (DRP) またはデータ・リンク調整不可 (DRNP) 状態にあるため、表 *table-name* の DATALINK 値が無効である可能性があります。これらのいずれかの状態にある間は、DB2 Data Links Manager でのファイルのコントロールは保証されません。

ステートメント処理が続行しています。

ユーザーの処置: データ・リンク調整ペンディング (DRP) およびデータ・リンク調整不可 (DRNP) 状態で該当するアクションを取るための情報については、「管理ガイド」を参照してください。

sqlcode: +360

sqlstate: 01627

SQL0368N DB2 Data Links Manager *dln-name* がデータベースに登録されていません。

説明: DB2 Data Links Manager *dln-name* がデータベースに登録されていません。データベース・マネージャー構成パラメーター DATALINK が NO に設定されている場合は、登録された DB2 Data Links Manager は無視されます。DB2 Data Links Manager は DROP DATALINKS MANAGER コマンドでドロップされた可能性があります。DB2 Data Links Manager が同じ名前でも新たに登録されていることが考えられます。この場合エラーは、その DB2 Data Links Manager の以前にドロップされた登録に関連しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャー構成パラメーター `DATALINK` が `YES` に設定されていることを確認してください。以前にドロップされた DB2 Data Links Manager へのリンクである `DATALINK` 値を、調整ユーティリティーを使用してドロップする必要があります。詳細については、「コマンド・リファレンス」にある `DROP DATALINKS MANAGER` コマンドの使用上の注意を参照してください。

sqlcode: -368

sqlstate: 55022

SQL0370N 位置 *n* のパラメーターは、**LANGUAGE SQL** 関数 *name* の **CREATE FUNCTION** ステートメントで指定しなければなりません。

説明: `LANGUAGE SQL` で定義されたすべての関数パラメーターには、それぞれ *parameter-name* が必要です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 関数の各パラメーターにパラメーター名を組み込みます。

sqlcode: -370

sqlstate: 42601

SQL0372N 表で許可されている **IDENTITY** または **ROWID** 列は 1 つだけです。

説明: 以下のいずれかを試みました。

- 複数の `ID` 列を持つ表を作成
- すでに 1 つの `ID` 列を持つ表に同じ列を追加
- 複数の `ROWID` 列を持つ表を作成
- すでに 1 つの `ROWID` 列を持つ表に同じ列を追加

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: `CREATE TABLE` ステートメントの場合、`ROWID` データ・タイプまたは `IDENTITY` 属性を持つ列を 1 つだけ選択してください。 `ALTER TABLE` ステートメントの場合、すでに `ROWID` 列または `ID` 列が表に存在しています。データ・タイプ `ROWID` または `IDENTITY` 属性を持つ別の列を表を追加しないでください。

sqlcode: -372

sqlstate: 428C1

SQL0373N **GENERATED** 列 *column-name* に **DEFAULT** 文節を指定できません。

説明: `GENERATED` 列として識別されている列に、`DEFAULT` 文節を指定することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: `DEFAULT` 文節を除去して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -373

sqlstate: 42623

SQL0374N **LANGUAGE SQL** 関数 *function-name* の **CREATE FUNCTION** ステートメントで *clause* 文節が指定されていませんが、関数本体ではこの指定を要求しています。

説明: 次の状態がエラーの原因だと思われます。

次のいずれかの条件が関数本体に適用する場合は、`NOT DETERMINISTIC` を指定しなければなりません。

- `NOT DETERMINISTIC` プロパティーをコールした関数。
- 特殊レジスターがアクセスされた。

`LANGUAGE SQL` を指定して定義された関数の本文で `SQL` データを変更する可能性がある場合、または `SQL` データを修正する可能性のある関数またはプロシージャを呼び出す場合は、`MODIFIES SQL DATA` を指定する必要があります。

`LANGUAGE SQL` を指定して定義された関数の本文に副選択が入っている、または `SQL` データを読み取れる関数を呼び出す場合は、`READ SQL DATA` を指定しなければなりません。

`LANGUAGE SQL` を指定して定義された関数の本文が `EXTERNAL ACTION` プロパティーを備えた関数を呼び出す場合は、`EXTERNAL ACTION` を指定しなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 文節を指定するか、または関数の本体を変更してください。

sqlcode: -374

sqlstate: 428C2

SQL0385W SQL ルーチンで SQLSTATE または SQLCODE 変数への割り当てが上書きされたと思われるため、ハンドラーを活動化しません。

説明: 値を SQLSTATE または SQLCODE 特殊変数に割り当てているステートメントが少なくとも 1 つ、SQL ルーチンに入っています。これらの変数には、SQL ルーチンでの SQL ステートメントの処理によって値が割り当てられています。そのため、SQL ステートメント処理の結果、割り当てられている値が上書きされたと考えられます。さらに、SQLSTATE 特殊変数への値の割り当ては、どのハンドラーも活動化しません。

ルーチン定義は正常に処理されました。

ユーザーの処置: 必要ありません。この警告が出されないようにするには、SQLSTATE または SQLCODE 特殊変数への割り当てを除去してください。

sqlcode: +385

sqlstate: 01643

SQL0388N 関数 *function-name* の CREATE CAST ステートメントでは、ソース *source-data-type-name* およびターゲット *target-data-type-name* の両方が組み込まれたタイプかまたは同じタイプです。

説明: データ・タイプのどちらかがユーザー定義のタイプでなければなりません。ソース・タイプおよびターゲット・タイプの両方が同じデータ・タイプであってはなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ソースまたはターゲットのデータ・タイプを変更してください。

sqlcode: -388

sqlstate: 428DF

SQL0389N CREATE CAST ステートメントで識別された特定の関数インスタンス *specific-name* は、1 つ以上のパラメーターがあるか、ソース・データ・タイプと一致しないパラメーターがあるか、またはターゲットと一致しないデータ・タイプを戻します。

説明: cast 関数には、

- 1 つのパラメーターがなければなりません。
- パラメーターのデータ・タイプがソース・データ・タイプと同じでなければなりません。

- 結果データ・タイプはターゲット・データ・タイプと同じでなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 別の関数を選択するか、ソース・データ・タイプまたはターゲット・データ・タイプを変更してください。

sqlcode: -389

sqlstate: 428DG

SQL0390N 関数 *function-name* は使用されているコンテキストの中で無効な特定の関数 *specific-name* に変わりました。

説明: 関数は、使用されているコンテキストの中で無効な特定の関数に変わりました。 *specific-name* が空ストリングの場合、関数は *function-name* で示される組み込み関数に変わります。推定される状態としては、以下のものがあります。

- 特定の関数は、スカラー、列、あるいは行関数のみが予想される (元になるスカラー関数のような) 表関数です。
- 特定の関数は、表関数のみが予想される (照会の FROM 文節のような) スカラー、列、あるいは行関数です。
- 特定の関数は、スカラーあるいは列関数のみが予想される行関数です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しい関数名および引き数が指定されていることと、現行パスに正しい関数が定義されているスキーマが入っていることを確認してください。関数名、現行パス、(SET CURRENT FUNCTION PATH または FUNCPATH BIND オプション使用) を変更するか、あるいは関数が使用されているコンテキストを変更してください。

sqlcode: -390

sqlstate: 42887

SQL0391N 関数 *function-name* に基づいた行の使用が無効です。

説明: ステートメントは、次の理由のいずれか 1 つから、使用できない行ベースの関数 *function_name* を使用しています。

- 関数は GROUP BY または HAVING 文節で使用されますが、選択リストには入っていません。
- 関数は、ステートメントの再帰的本質のため、このコンテキストで使用されません。

- 関数は、チェック制約で使用されません。
- 関数は、生成された列で使用されません。
- 関数は、WITH CHECK OPTION 文節が指定されているビュー定義、または WITH CHECK OPTION 文節を指定するようなビューに従属するビューでは使用されません。
- 関数には、基本表の行に変わらない引き数があります。これは、NULL 生成行が可能な外部結合の結果列を伴う状態が含まれます。
- この関数は複製されたマテリアライズ照会表の行では使用できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: *function-name* が使用できないコンテキストから、これを除去してください。

sqlcode: -391

sqlstate: 42881

SQL0392N カーソル *cursor* に提供される **SQLDA** が、以前のフェッチ以降に変更されていません。

説明: アプリケーションが **DB2** 規則で実行されており、1 つの FETCH ステートメントの LOB として、また他の FETCH ステートメントのロケータとして

SQL0400 - SQL0499

SQL0401N 演算 *operator* のオペランドのデータ・タイプの互換性がありません。

説明: SQL ステートメント内の演算 *operator* に、数値と非数値オペランドが混在しているか、または演算オペランドが互換ではありません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: このデータ・タイプ違反は、データ・ソースまたはフェデレーテッド・サーバーで起きた可能性があります。

一部のデータ・ソースは、*operator* に適切な値を提供しません。この場合、メッセージ・トークンは “<data source>:UNKNOWN” の形式になります。これは、指定されたデータ・ソースの実際の値が不明であることを示します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: すべてのオペランドのデータ・タイプをチェックして、データ・タイプが比較可能であること、およびステートメント内の使用法に互換性があることを確認してください。

SQL ステートメントのオペランドがすべて正しく、しかもビューにアクセスしている場合には、ビューのすべ

LOB データを返すことを要求しています。これは許されていません。

ユーザーの処置: ステートメントは処理できません。

DB2 規則 を使用しないようにするか、または連続したフェッチ間で LOB から SQLDA のロケータへの (またはその逆の) データ・タイプ・コードの変更を行わないように、アプリケーションを変更してください。

sqlcode: -392

sqlstate: 42855

SQL0396N *Object-type object-name (特定名 specific-name)* が最終呼び出し処理中に、**SQL** ステートメントを実行しようとした。

説明: ルーチン *object-name* (特定名 *specific-name*) が FINAL CALL (呼び出しタイプ = 255) 処理中に、(カーソルの CLOSE 以外の) SQL ステートメントを実行しようとした。これは許可されていません。

ユーザーの処置: FINAL CALL (呼び出しタイプ = 255) 処理中に SQL ステートメントを発行しないよう、ルーチンを変更してください。

sqlcode: -396

sqlstate: 38505

てのオペランドのデータ・タイプをチェックしてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 原因が不明の場合、要求の失敗を引き起こすデータ・ソースと問題を分離して (障害の起こったデータ・ソースを識別するための手順については「問題判別の手引き」を参照してください。) そのデータ・ソースのデータ・タイプ制約事項を検証してください。

sqlcode: -401

sqlstate: 42818

SQL0402N 算術関数または演算 *operator* のオペランドのデータ・タイプが、数値ではありません。

説明: 非数値オペランドが、算術関数または演算子 *operator* に対して指定されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントの構文を調べ、指定された関数または演算子のすべてのオペランドが数値となるように修正してください。

範囲がクラスター化された表: 範囲定義の終了の値は開始の値よりも大きくなります。

sqlcode: -405

sqlstate: 42820

SQL0406N UPDATE または INSERT ステートメント内の数値が、ターゲット列の範囲内にありません。

説明: UPDATE または INSERT SQL ステートメントの処理中に計算された、ホスト変数の値または数値がターゲット列の範囲外です。この問題は、オブジェクトの列で発生する値、それらの値で実行される SQL 処理、またはその両方によって起きる可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 数値データ・タイプに許されている範囲については、メッセージ SQL0405 の説明を参照してください。

注: システム・カタログの更新に関しては、「SQL リファレンス」を参照して、更新可能なカタログのさまざまな列の有効な範囲を確認してください。

sqlcode: -406

sqlstate: 22003

SQL0407N NULL 値の NOT NULL 列 *name* への割り当ては許されていません。

説明: 以下のいずれかが起きました。

- 更新値または挿入値は NULL ですが、オブジェクトとなる列が表定義で NOT NULL として宣言されています。従って、以下の制約を受けます。
 - NULL 値はその列に挿入できない。
 - 更新はその列の値を NULL に設定できない。
 - トリガーの SET 遷移変数ステートメントは、その列の値を NULL に設定できない。
- 更新値または挿入値は DEFAULT ですが、オブジェクトとなる列が表定義で WITH DEFAULT のない NOT NULL として宣言されています。従って、以下の制約を受けます。
 - NULL のデフォルト値はその列に挿入できない。
 - 更新はその列の NULL のデフォルト値を設定できない。
 - トリガーの SET 遷移変数ステートメントは、その列の NULL のデフォルト値を設定できない。
- INSERT ステートメントの列名リストに、表定義で NOT NULL および WITH DEFAULT なしで宣言された列がありません。

- INSERT ステートメントのビューに、基本表定義で NOT NULL および WITH DEFAULT なしで宣言された列がありません。

name の値が形式 “TBSPACEID=n1, TABLEID=n2, COLNO=n3” であれば、エラーが出されたときに SQL ステートメントの列名が使用可能ではありませんでした。示されている値は、NULL 値を許可していない基本表の表スペース、表、および列番号を表しています。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この状態は、フェデレーテッド・サーバーまたはデータ・ソースによって検出されます。一部のデータ・ソースは、*name* に適切な値を提供しません。この場合、メッセージ・トークンは “<data source>:UNKNOWN” の形式になります。これは、指定されたデータ・ソースの実際の値が不明であることを示します。

ステートメントは処理できません。

注: いくつかの状況では、トークン *name* が充てんされない場合があります (SQLCA の「sqlerrmc」フィールドが充てんされません)。

ユーザーの処置: オブジェクト表定義を調べて、NOT NULL 属性を持つ表の列と、WITH DEFAULT 属性を持たない表の列を判別した後で、SQL ステートメントを修正してください。

name の値が形式 “TBSPACEID=n1, TABLEID=n2, COLNO=n3” であれば、以下の照会を使用して表名および列名を判別することができます。

```
SELECT C.TABSCHEMA, C.TABNAME,
       C.COLNAME
FROM SYSCAT.TABLES AS T,
     SYSCAT.COLUMNS AS C
WHERE T.TBSPACEID = n1
      AND T.TABLEID = n2
      AND C.COLNO = n3
      AND C.TABSCHEMA = T.TABSCHEMA
      AND C.TABNAME = T.TABNAME
```

この照会で識別される表および列は、SQL ステートメントに障害があったビューの基本表だと考えられます。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 理由が不明な場合は、要求を失敗させたデータ・ソースに対して問題を分離し (障害の起きたデータ・ソースを識別するための手順については「問題判別の手引き」を参照してください)、そのデータ・ソースのオブジェクト定義を調べてください。デフォルト (NULL および NOT NULL) はデータ・ソースの間で同じである必要はないことに注意してください。

sqlcode: -407

sqlstate: 23502

SQL0408N 値には、その割り当てターゲットのデータ・タイプとの互換性がありません。ターゲット名は *name* です。

説明: SQL ステートメントによって列、パラメーター、SQL 変数、または遷移変数に割り当てられる値のデータ・タイプに、その割り当てターゲットの宣言されたデータ・タイプとの互換性がありません。両方が、以下のデータ・タイプでなければなりません。

- 数値
- 文字
- GRAPHIC
- 日付または文字
- 時刻または文字
- タイム・スタンプまたは文字
- データ・リンク
- 同一の特殊タイプ
- 値のターゲット・タイプが、列のターゲット・タイプのサブタイプである参照タイプ
- 同じユーザー定義構造化タイプ: そうでなければ、値の静的タイプは、ターゲットの静的タイプ (宣言されたタイプ) のサブタイプでなければなりません。ホスト変数が入っている場合、関連するホスト変数の組み込みタイプが、ステートメントのトランスフォーム関数に定義されている TO SQL トランスフォーム関数のパラメーターと互換性がなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメント (およびターゲット表またはビュー) を調べて、ターゲット・データ・タイプを判別してください。割り当てられている変数、式、またはリテラル値が割り当てターゲットとして正しいデータ・タイプであることを確認してください。ユーザー定義の構造化タイプの場合、ステートメントに対するトランスフォーム・グループで定義された TO SQL トランスフォーム関数のパラメーターを、割り当て済みターゲットとしても考慮してください。

sqlcode: -408

sqlstate: 42821

SQL0409N COUNT 関数のオペランドが無効です。

説明: SQL ステートメントに指定されているような、COUNT 関数のオペランドは SQL 構文の規則に適合しません。COUNT(*) および COUNT(DISTINCT 列) のみが許されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: COUNT(*) または COUNT(DISTINCT 列) を指定してください。

注: このメッセージは、バージョン 2 以前の DB2 のバージョンにのみ適用されます。

sqlcode: -409

sqlstate: 42607

SQL0410N 浮動小数点リテラル *literal* が、30 文字を超えています。

説明: 示された浮動小数点リテラルが、先行する 0 を除いても 30 文字を超える長さになっています。浮動小数点リテラルの最大長は 30 文字です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 示されたリテラルを短くしてください。

sqlcode: -410

sqlstate: 42820

SQL0412N 1 つの列しか許可されていない副照会から複数の列が返されました。

説明: SQL ステートメントのコンテキストでは、結果として 1 つの列だけを持つよう全選択が指定されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: スカラー全選択のみが許可されている場合は、1 つの列だけを指定してください。

sqlcode: -412

sqlstate: 42823

SQL0413N 数値データ・タイプの変換中に、オーバーフローが発生しました。

説明: SQL ステートメントの処理中、ある数値タイプのデータを別のタイプへ変換するときにオーバーフローが起きました。数値変換は SQL の標準規則に従って実行されます。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 数値変換は、フェデレーテッド・サーバー、データ・ソース、またはその両方で起きる可能性があります

ステートメントは処理できません。データの検索、更新、または削除は実行されませんでした。

ユーザーの処置: SQL ステートメントの構文を調べて、エラーの原因を判別してください。問題がデータに依存する場合は、エラーが起きたときに処理されていたデータを調べる必要があります。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 理由が不明な場合は、要求を失敗させたデータ・ソースに対して問題を分離し (障害の起きたデータ・ソースを識別するための手順については「問題判別の手引き」を参照してください)、そのデータ・ソースのデータ範囲制約事項を調べてください。

sqlcode: -413

sqlstate: 22003

SQL0415N 対応する列のデータ・タイプは、セット演算子を含む全選択または **INSERT** または全選択の **VALUES** 文節の複数行で互換性がありません。

説明: このエラーが発生する可能性のあるステートメントはたくさんあります。

- このエラーは、セット操作 (**UNION**、**INTERSECT**、または **EXCEPT**) の入った **SELECT** または **VALUES** ステートメント内で発生する可能性があります。 **SELECT** または **VALUES** ステートメントを作成する副選択または全選択の対応する列は、互換性がありません。
- このエラーは、複数行に挿入している **INSERT** ステートメント内で発生する可能性があります。 この場合、**VALUES** 文節内で指定された行の対応する列は、互換性がありません。
- このエラーは、複数行を伴い使用される **VALUES** 文節がある **SELECT** または **VALUES** ステートメント内で発生する可能性があります。 この場合、**VALUES** 文節内で指定された行の対応する列は、互換性がありません。

以下のいずれかの理由で列に互換性がありません。

- 2 つの列が両方とも文字になっていない。
- 2 つの列が両方とも数字になっていない。
- 2 つの列が両方とも日付になっていない。
- 2 つの列が両方とも時刻になっていない。
- 2 つの列が両方ともタイム・スタンプになっていない。
- 2 つの列が両方とも **GRAPHIC** になっていない。
- 2 つの列が同じユーザー定義の異なるタイプになっていない。

列のデータ・タイプが文字、日付、時刻またはタイム・スタンプの場合、対応する列が文字ストリング定数になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: **SELECT** ステートメントで使用され

る列名または **VALUES** 文節の式を訂正し、対応するすべての列が互換タイプになるようにしてください。

sqlcode: -415

sqlstate: 42825

SQL0416N **UNION ALL** 以外のセット演算子で接続された **SELECT** または **VALUES** ステートメントには、254 バイトを超える結果列を指定できません。

説明: セット演算子で接続された **SELECT** または **VALUES** ステートメントのいずれかが、254 バイトより長い結果列を指定しています。 254 バイトより長い **VARCHAR** または **VARGRAPHIC** 結果列は、**UNION ALL** セット演算子とのみ使用することができます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: **UNION** 演算子の代わりに、**UNION ALL** を使用するか、または 254 バイトより長い結果列を、**SELECT** または **VALUES** ステートメントから取り除いてください。

sqlcode: -416

sqlstate: 42907

SQL0417N 準備されたステートメント・ストリングに、同じ演算子のオペランドとしてパラメーター・マーカーが含まれています。

説明: **PREPARE** または **EXECUTE IMMEDIATE** のオブジェクトとして指定されたステートメント・ストリングに、**CAST** 指定のない同一の演算子のオペランドとして使用されているパラメーター・マーカーを持つ述部または式が含まれています。 例:

```
? > ?
```

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このような構文はサポートされていません。 **CAST** 指定を使用して、少なくとも 1 つのパラメーター・マーカーをデータ・タイプに指定してください。

sqlcode: -417

sqlstate: 42609

SQL0418N ステートメントに、無効なパラメーター・マーカーの使用が含まれています。

説明: タイプなしパラメーター・マーカーは、以下では使用できません。

- **SELECT** リスト内
- 日時算術処理の唯一の引き数として

- いくつかの場合には、スカラー関数の唯一の引き数として
- GROUP BY 文節中のソート・キーとして

パラメーター・マーカーは、以下で使用することはできません。

- 準備されたステートメントではないステートメント内
- CREATE VIEW ステートメントの全選択内
- CREATE TRIGGER ステートメントのトリガー・アクション内
- DB2 Query Patroller によってキャプチャーされた照会内

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントの構文を訂正してください。タイプなしパラメーター・マーカーが許されない場合は、CAST 指定を使用して、パラメーター・マーカーをデータ・タイプに指定してください。

sqlcode: -418

sqlstate: 42610

SQL0419N 結果の位取りが負になるため、10 進数の除算は無効です。

説明: 指定された 10 進除算は、結果の位取りが負の値になるために有効ではありません。

10 進除算の結果の位取りを計算するために内部的に使用される公式は、以下のとおりです。

Scale of result = 31 - np + ns - ds

ここで、np は分子の精度、ns は分子の位取り、ds は分母の位取りを表します。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 10 進数除法は、フェデレーテッド・サーバー、データ・ソース、またはその両方で起きる可能性があります指定された 10 進数除法の結果は、そのデータ・ソースの位取りが無効になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 10 進除算で使用される可能性のあるすべての列の精度と位取りを調べてください。整数または短整数は、計算のために 10 進数に変換される場合があることに注意してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 理由が不明な場合は、要求を失敗させたデータ・ソースに対して問題を分離し (障害の起きたデータ・ソースを識別するための手順については「問題判別の手引き」を参照してください)、そのデータ・ソースのデータ範囲制約事項を調べてください。

sqlcode: -419

sqlstate: 42911

SQL0420N 無効な文字が、関数 *function-name* の文字ストリング引き数で見つかりました。

説明: 関数 *function-name* が、数値 SQL 定数では無効な文字の入った文字ストリング引き数を持っています。関数は、ターゲット・データ・タイプとして *function-name* を使用する CAST 指定の使用の結果として、呼び出された可能性があります。SQL ステートメントに使用された関数またはデータ・タイプが、*function-name* の同義語である可能性があります。

10 進文字を DECIMAL 関数に指定する場合は、それがデフォルト 10 進文字の代わりに使用する必要がある文字になります。

ユーザーの処置: 指定する場合は、数値タイプに変換される文字ストリングが、10 進文字を使用する数値 SQL 定数に有効な文字のみを備えていることを確認してください。

sqlcode: -420

sqlstate: 22018

SQL0421N セット演算子のオペランドまたは VALUES 文節が、列数と同じ数ではありません。

説明: UNION、EXCEPT、INTERSECT などのセット演算子のオペランドは、列数と同じ数でなければなりません。VALUES 文節の行は、列数と同じ数を持つ必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを修正して、各オペランドまたは VALUES 文節の各行が、列数とまったく同じ数を持つようにしてください。

sqlcode: -421

sqlstate: 42826

SQL0423N ロケーター変数 *variable-position* は、現在、どんな値も表していません。

説明: ロケーター変数にエラーがあります。有効な結果セットロケーターまたはそれに割り当てられた LOB ロケーター変数値がないか、変数と関連したロケーターが解放されているか、あるいは結果セット・カーソルがクローズされています。

variable-position が提供される場合には、エラーのある変数の序数位置が指定される変数セットに示されます。エラーを検出した時点によっては、データベース・マネ

ユーザーが *variable-position* を判別できないことがあります。

variable-position は序数位置の代わりに、関数名が識別したユーザー定義の関数から戻ったロケータ値がエラーであること示す "function-name RETURNS" 値を備えている可能性があります。

ユーザーの処置: ステートメントの実行の前に、SQL ステートメントで使用されるロケータ変数に有効な値があるように、プログラムを訂正してください。LOB 値は、SELECT INTO ステートメント、VALUES INTO ステートメント、あるいは FETCH ステートメントによって、ロケータ変数に割り当てることができます。結果セット・ロケータは、ASSOCIATE LOCATORS ステートメントから返されます。結果セット・ロケータ値は、基となる SQL カーソルがオープンしている場合にのみ有効です。コミットまたはロールバック操作で SQL カーソルがクローズされると、カーソルと関連した結果セット・ロケータはもはや有効ではありません。

戻りカーソルであった場合、割り振りの前にカーソルがオープンされていることを確認してください。

sqlcode: -423

sqlstate: 0F001

SQL0426N アプリケーションの実行環境では、動的コミットは無効です。

説明: CONNECT TYPE 2 環境 または CICS などの分散トランザクション処理 (DTP) 環境で実行中のアプリケーションが、SQL 動的 COMMIT ステートメントを実行しようとした。SQL 動的 COMMIT ステートメントは、この環境では実行できません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: SQL 動的 COMMIT ステートメントをパススルー・セッションで実行することはできません。

ユーザーの処置:

- DTP 環境によって提供されるコミット・ステートメントを使用して、コミットを実行してください。たとえば、CICS 環境の場合、これは CICS SYNCPOINT コマンドになります。
- このステートメントがストアード・プロシージャ内で実行された場合は、ステートメントを完全に切り離してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: COMMIT ステートメントをコメントにするか、または静的ステートメントとしてコーディングしてください。その後、プログラムを再サブミットしてください。

sqlcode: -426

sqlstate: 2D528

SQL0427N アプリケーションの実行環境では、動的ロールバックは無効です。

説明: CONNECT TYPE 2 環境 または CICS などの分散トランザクション処理 (DTP) 環境で実行中のアプリケーションが、SQL 動的 ROLLBACK ステートメントを実行しようとした。SQL 動的 ROLLBACK ステートメントは、この環境では実行できません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: SQL 動的 ROLLBACK ステートメントをパススルー・セッションで実行することはできません。

ユーザーの処置:

- DTP 環境によって提供されるロールバック・ステートメントを使用して、ロールバックを実行してください。たとえば CICS 環境の場合、これは CICS SYNCPOINT ROLLBACK コマンドになります。
- このステートメントがストアード・プロシージャ内で実行された場合は、ステートメントを完全に切り離してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: ROLLBACK ステートメントをコメントにするか、または静的ステートメントとしてコーディングしてください。その後、プログラムを再サブミットしてください。

sqlcode: -427

sqlstate: 2D529

SQL0428N SQL ステートメントは、作業単位の最初のステートメントとしてのみ許可されています。

説明: この SQL ステートメントは、作業単位を開始する他の SQL ステートメントよりも前に実行する必要があります。以下の状況が考えられます。

- SQL ステートメントは作業単位の先頭になければならず、SQL が作業単位内の接続に対して出されている
- SQL ステートメントは作業単位の先頭になければならず、WITH HOLD カーソルが接続に対してオープンされている

ステートメントが DISCONNECT ALL である場合、すべての接続に対して DISCONNECT が実行されるため、いずれかの接続が上記の制限に違反すると、要求が失敗することに注意してください。

ユーザーの処置: SQL ステートメント処理の前に、COMMIT または ROLLBACK を出してください。WITH HOLD カーソルがある場合、それらをクローズする必要があります。ステートメントが SET INTEGRITY であれば、COMMIT THRESHOLD 文節を除去してください。

sqlcode: -428

sqlstate: 25001

SQL0429N 並行 LOB ロケーターの最大数を超えました。

説明: 作業単位ごとに、最大 32,000 の並行 LOB ロケーターが、DB2 ではサポートされています。

ユーザーの処置: もっと少ない並行 LOB ロケーターしか必要としないようにプログラムを修正して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -429

sqlstate: 54028

SQL0430N ユーザー定義関数 *function-name* (特定名 *specific-name*) が異常終了しました。

説明: 示された UDF にコントロールがあるときに、異常終了が起きました。

ユーザーの処置: UDF を修正する必要があります。UDF の作成者またはデータベース管理者に連絡してください。修正されるまで、その UDF は使用するべきではありません。

sqlcode: -430

sqlstate: 38503

SQL0431N ユーザー定義関数 *function-name* (特定名 *specific-name*) が、ユーザーによって割り込まれました。

説明: 示された UDF にコントロールがあるときに、ユーザー/クライアント割り込みが起きました。

ユーザーの処置: これは、無限ループまたは待機などの UDF の問題を示している可能性があります。問題が続く場合 (すなわち、割り込みを行うことが必要になった場合に、同じエラー状態になる) は、UDF 作成者またはデータベース管理者に連絡してください。問題が修正されるまでは、その UDF を使用するべきではありません。

sqlcode: -431

sqlstate: 38504

SQL0432N パラメーター・マーカが、ユーザー定義タイプ名、または参照ターゲット・タイプ名 *udt-name* を持つことができません。

説明: ステートメントのパラメーター・マーカが、それが使用されているコンテキストに基づいて、ユーザー定義タイプ *udt-name* またはターゲット・タイプ *udt-name* を持つ参照タイプを持っていると判断されました。パラメーター・マーカは、データ・タイプが割り当ての一部 (INSERT の VALUES 文節、または UPDATE の SET 文節) ではないか、あるいは CAST 指定を使用したユーザー定義特殊データ・タイプまたは参照データ・タイプに明示的にキャストされていない場合は、そのデータ・タイプとしてユーザー定義タイプまたは参照タイプを持つことはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: パラメーター・マーカのユーザー定義特殊データ・タイプまたは参照データ・タイプに、明示キャストを使用してください。あるいは、ユーザー定義特殊データ・タイプの列を対応するソース・データ・タイプにキャストするか、参照データ・タイプの列を対応するタイプにキャストしてください。

sqlcode: -432

sqlstate: 42841

SQL0433N 値 *value* が長すぎます。

説明: 値 *value* が、その値をいくつかの方法でトランスフォームするために呼び出される、システム (組み込み) キャストまたは調整関数による切り捨てを要求しました。この値が使用されている場所では、切り捨てが許されていません。

トランスフォームされる値は、以下のいずれかです。

- ユーザー定義関数 (UDF) に対する引き数
- UPDATE ステートメントの SET 文節に対する入力
- 表に INSERT される値
- 他の特定のコンテキストでのキャストまたは調整関数に対する入力
- そのデータ・タイプおよび長さが反復の初期化部分で判別され、反復の反復部分で大きくできる反復して参照される列

ステートメントは失敗します。

ユーザーの処置: *value* が SQL ステートメントのリテラル・ストリングの場合は、その使用目的に対して長すぎます。

value がリテラル・ストリングでない場合は、SQL ステートメントを調べて、トランスフォーメーションが行われる場所を判別してください。トランスフォーメーシ

ョンに対する入力長が長すぎるか、またはターゲットが短すぎます。

問題を訂正して、ステートメントを再実行してください。

sqlcode: -433

sqlstate: 22001

SQL0434W 文節 *clause* のサポートされない値が、値 *value* で置き換えられました。

説明: 文節 *clause* に指定された値がサポートされておらず、示されたサポートされている値 *value* で置き換えられました。

ユーザーの処置: 選択された値が受け入れ可能であれば、変更する必要はありません。そうでない場合は、*clause* に有効な値を指定してください。

sqlcode: +434

sqlstate: 01608

SQL0435N アプリケーション定義の無効な **SQLSTATE** *sqlstate* が指定されました。

説明: RAISE_ERROR 関数、SIGNAL ステートメント、または RESIGNAL ステートメントで指定された SQLSTATE の値は、アプリケーション定義 SQLSTATE の規則に従っていません。

ユーザーの処置: SQLSTATE に指定された値を訂正してください。SQLSTATE の値は、5 文字の文字ストリングでなければなりません。これは、長さ 5 で定義された CHAR タイプ、または長さ 5 以上で定義された VARCHAR タイプでなければなりません。SQLSTATE の値は、アプリケーション定義 SQLSTATE の規則に従う必要があります。

SIGNAL または RESIGNAL ステートメントに指定する SQLSTATE の値の規則は、以下のとおりです。

- 各文字は、数字のセット ('0' から '9')、またはアクセントの付かない大文字 ('A' から 'Z') でなければなりません。
- SQLSTATE クラス (最初の 2 文字) を '00' にすることはできません。

RAISE_ERROR 関数に指定する SQLSTATE の値の規則は、以下のとおりです。

- 各文字は、数字のセット ('0' から '9')、またはアクセントの付かない大文字 ('A' から 'Z') でなければなりません。
- エラー・クラスではないので、SQLSTATE クラス (最初の 2 文字) を '00'、'01'、または '02' することはできません。

- SQLSTATE クラス (最初の 2 文字) が文字 '0' から '6' または 'A' から 'H' で始まっている場合、サブクラス (最後の 3 文字) は 'I' から 'Z' までの文字で始まらなければなりません。

- SQLSTATE クラス (最初の 2 文字) が文字 '7'、'8'、'9' または 'I' から 'Z' で始まっている場合、サブクラス (最後の 3 文字) は '0' から '9' または 'A' から 'Z' のいずれでもかまいません。

sqlcode: -435

sqlstate: 428B3

SQL0436N C 言語の NULL 終了文字ストリング・ホスト変数から、終了の NULL 文字が抜けています。

説明: C プログラミング言語の入力ホスト変数コードの値には、ストリングの最後に NULL 終止符が必要です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 入力ホスト変数の値が、NULL 終止符で終了していることを確認してください。

sqlcode: -436

sqlstate: 22024

SQL0437W この複合照会のパフォーマンスが最適ではない可能性があります。理由コード:
reason-code

説明: 照会が複雑なために、使用できないリソースを要求しているか、または最適化境界条件が見つかったために、ステートメントのパフォーマンスが次善のパフォーマンスになる可能性があります。以下が理由コードのリストです。

- 1 メモリーの制約のため、結合列挙方式が変更されました。
- 2 照会の複雑さのため、結合列挙方式が変更されました。
- 3 オプティマイザーのアンダーフローが起きました。
- 4 オプティマイザーのオーバーフローが起きました。
- 5 照会最適化クラスが低すぎました。
- 6 オプティマイザーが無効な統計を無視しました。

ステートメントは処理されます。

ユーザーの処置: 以下の 1 つ以上を行ってください。

- データベース構成ファイルのステートメント・ヒープ (stmtheap) の大きさを増やしてください。(理由コード 1)
- ステートメントをより簡単な SQL ステートメントに分割してください。(理由コード 1,2,3,4)
- 述部に必要以上の応答セットを指定していないことを確認してください。(理由コード 3)
- 現在の照会最適化クラスを、低い値に変更してください。(理由コード 1,2,4)
- 照会に関連した表に対して、Runstats を発行してください。(理由コード 3,4)
- 現在の照会最適化クラスを、高い値に変更してください。(理由コード 5)
- 照会で呼び出された表およびその対応索引に対して、RUNSTATS を再発行します。つまり、表と索引の統計が一致するように、AND INDEXES ALL 文節を使用します。(理由コード 6)

sqlcode: +437

sqlstate: 01602

SQL0438N アプリケーションで次の診断テキストを持つエラーが起きました: *text*

説明: このエラーまたは警告は、トリガーの RAISE_ERROR 関数または SIGNAL SQLSTATE ステートメントの実行の結果として発生しました。'01' または '02' で始まる SQLSTATE 値は警告を示します。

ユーザーの処置: アプリケーションの資料を参照してください。

sqlcode: -438, +438

sqlstate: アプリケーション定義

SQL0439N ユーザー定義関数 *function-name* が関数 *source-function* によって間接的に実行され、その結果、エラー *sqlcode* が発生しました。

説明: 関数 *function-name* がユーザーのステートメント内で参照されていました。ただし、SOURCE 文節がこの関数の定義に使用されていたため、関数 *source-function* が実際にその関数を実施することは避けられました。(*function-name* から *source-function* へは、直接または間接的な定義パスが存在する可能性があります。) コンパイル時に、*source-function* のカプセル化プログラム (関数に代わって作動する DB2 コード) が、*sqlcode* で示されるエラーを返しました。

ユーザーの処置: 修正を行う前に、実際のエラー状況を理解する必要があります。 *sqlcode* の説明を調べてくだ

さい。 *source-function* が組み込み関数の場合、組み込み関数がユーザーのステートメントで直接参照されたときには、*sqlcode* が問題を示します。 *source-function* がユーザー定義関数の場合は、メッセージが、引き数のいずれかまたは関数の結果を使用して、最も可能性のある問題を示します。

問題を訂正して再度試行してください。

sqlcode: -439

sqlstate: 428A0

SQL0440N 互換性のある引き数を持つ、タイプ *routine-type* の *routine-name* という名前の許可されたルーチンが見つかりませんでした。

説明: これは、データベース・マネージャーが参照を実行するために使用できるルーチンを見つけられない場合、ルーチン *routine-name* への参照で起こります。原因は以下のとおりです。

- *routine-name* が間違って指定されたか、またはデータベースに存在しません。
- 修飾付き参照が行われましたが、修飾子の指定が正しくありませんでした。
- ユーザーの SQL パスに、必要な関数または方式が属しているスキーマが入っていなかったために、無修飾参照が使用されました。
- 間違った数の引き数が組み込まれていました。
- 正しい数の引き数が関数または方式参照に組み込まれていましたが、引き数の 1 つ以上のデータ・タイプが正しくありませんでした。
- ルーチンが、パッケージのバインド時に使用されたものと同じ関数 ID を持つデータベースに存在しません (静的ステートメントに該当します)。
- UPDATE ステートメントで使用されている属性割り当てに対応する mutator 方式が見つかりませんでした。属性の新しい値のデータ・タイプが、属性のデータ・タイプと同じ、またはプロモート可能なデータ・タイプではありません。
- ルーチンの起動側が、ルーチンを実行するよう許可されていません。

ユーザーの処置: 問題を修正して、やり直してください。これには、カタログ・アクセス、ステートメントに対する変更、ルーチンの起動側への実行特権、新しい関数の追加、および SQL パスに対する変更も含まれます。

sqlcode: -440

sqlstate: 42884

SQL0441N *function-name* 関数を持つキーワード **DISTINCT** または **ALL** の使用が無効です。

説明: 原因としては、次のものが考えられます。

- キーワード **DISTINCT** または **ALL** が関数 *function-name* を参照する括弧内で検出され、関数はスカラー関数として解決されました。スカラー関数でのキーワード **DISTINCT** または **ALL** の使用は無効です。
- キーワード **DISTINCT** が、サポートされていない列関数で使用されました。これらの関数には、**COVARIANCE**、**CORRELATION**、および **REGR** で始まる線形回帰関数が含まれます。
- 関数がキーワード **ALL** または **DISTINCT** をサポートしている列関数であるという前提でしたが、それが解決した関数は列関数ではありませんでした。

ユーザーの処置:

- スカラー関数を使用されている場合は、キーワード **DISTINCT** または **ALL** を除去してください。スカラー関数には無効です。
- 関数が **DISTINCT** または **ALL** キーワードをサポートしない列関数である場合は、キーワードを除去してください。
- 列関数を使用されている場合は、関数解決に問題があります。関数パスをチェックして必要な関数がいずれかのスキーマに存在するかどうかを調べ、関数名のつづり、パラメーターの数およびタイプについて **SYSFUNCTIONS** カタログもチェックしてください。

エラーを訂正して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -441

sqlstate: 42601

SQL0442N ルーチン *routine-name* の参照中にエラーが起きました。引き数の最大許容数 (90) を超えました。

説明: ルーチン *routine-name* への参照に指定された引き数が多すぎます。最大許容数は 90 です。

ユーザーの処置: ステートメントに、正しい数の引き数を使用されていることを確認して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -442

sqlstate: 54023

SQL0443N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) が、診断テキスト *text* とともにエラー **SQLSTATE** を返しました。

説明: ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) がメッセージ・テキスト *text* とともに **SQLSTATE** を DB2 に返しました。このルーチンは、ユーザー定義関数またはユーザー定義方式だと考えられます。

ユーザーの処置: エラーの意味を理解する必要があります。データベース管理者、またはルーチンの作成者に連絡してください。

SYSFUN スキーマの IBM 提供関数によって検出されたエラーは、すべて **SQLSTATE 38552** を戻します。メッセージのメッセージ・テキスト部分は、次の形式となっています。

SYSFUN:nn

この場合の **nn** は次の意味をもつ理由コードです。

- | | |
|-----------|--|
| 01 | 数値が範囲外 |
| 02 | ゼロによる除算 |
| 03 | 算術オーバーフローまたはアンダーフロー |
| 04 | 無効なデータ形式 |
| 05 | 無効な時刻形式 |
| 06 | 無効なタイム・スタンプ形式 |
| 07 | タイム・スタンプ期間の無効な文字表示 |
| 08 | 無効なインターバル・タイプ (1、2、4、8、16、32、64、128、256 のいずれかでなければならない。) |
| 09 | ストリングが長すぎる |
| 10 | ストリング関数の長さまたは位置が範囲外になっている |
| 11 | 浮動小数点数では無効な文字表示である |
| 12 | メモリー不足 |
| 13 | 予期しないエラー |

SYSIBM または **SYSPROC** スキーマの IBM 提供ルーチンによって検出されたエラー、および **SYSFUN** スキーマの IBM 提供プロシージャーによって検出されたエラーは、すべて **SQLSTATE 38553** を戻します。メッセージのメッセージ・テキスト部分には、メッセージ番号が含まれています。このメッセージ番号は、**SQLCODE** (**SQL0572N** など)、**DBA** エラー・メッセージ (**DBA4747** など)、またはルーチンが遭遇したエラーを示すその他の内容の場合があります。メッセージ番号のメッセージにトークンが定期的に含まれる場合は、これらのトークンの値は **db2diag.log** ファイルだけにあります。

sqlcode: -443

sqlstate: (ルーチンから戻る SQLSTATE)

SQL0444N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) が、アクセスできないライブラリーまたはパス *library-or-path*、関数 *function-code-id* のコードで実行されています。理由コード: *code*

説明: DBMS が、ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) を実行するコードの本体にアクセスを試みましたが、理由コード *code* (下のリストで説明) によってアクセスできません。ルーチンを実行するファイルは *library-or-path* で、関数は *function-code-id* で示されています。

(提供可能なトークンの合計長の制約のために、最後の 2 つのトークンが切り捨てられる場合があります。これが起きた場合は、ルーチンに定義されているライブラリーまたは全パス、および関数コード ID を判別するために、カタログ内のルーチンの定義へのアクセスが必要になる場合があります。)

ユーザーの処置: 与えられる理由コードは、以下のとおりです。

- 1 パス名 *library-or-path* が、最大値 (255 バイト) を超えています。ルーチン定義をもっと短いパスを指定するように変更する必要があるか、または DB2 インスタンス・パス名が長すぎます。カタログ定義を調べて、どちらの場合であるかを判別してください。関数本体を、もっと短いパス名のディレクトリーに移動することが必要になる場合があります。
- 2 DB2 インスタンス・パス名が DB2 から検索できませんでした。システム管理者にご相談ください。
- 3 パス *library-or-path* が見つかりませんでした。ルーチンの作成者またはデータベース管理者に連絡してください。ルーチン定義またはルーチンそれ自身のロケーションを訂正しなければなりません。
- 4 *library-or-path* でファイルが見つかりませんでした。ルーチンの作成者またはデータベース管理者に連絡してください。ルーチン定義またはルーチンのロケーションを訂正するか、ルーチンを再リンクしなければなりません。パーティション・データベースでは、ファイルはデータベースのすべてのパーティションで“<ライブラリーまたはパス>”としてアクセス可能である必要があります。

上記に加えて、ルーチンが共有ライブラリーあるいは DLL を必要として、共有ライブラリーが見つからない (UNIX ベース・システムでは LIBPATH 環境変数で、INTEL システムでは PATH 環境変数で指定されるディレクトリーの連結を使用する) 場合、この理由コードが結果として発生します。この理由コードの前に、複数レベルの間接原因がある場合があります。たとえば、ルーチン本体 X が見つかった場合、共有ライブラリー Y が必要となります。Y はここで検出されるものです。ただし、Y には Z が必要で、Z が見つからない場合には、SQL0444N 理由コード 4 が結果として出されます。

- 5 関数の入ったライブラリーをロードするためのメモリーが足りないか、1 つ以上の記号を解決できませんでした。ルーチンの作成者またはデータベース管理者に連絡して、ライブラリーが正しくリンクされているかを確認してください。外部関数などの関連する記号を解決するために、すべての必須ライブラリーが使用可能でなければなりません。メモリー不足と判別した場合は、DB2 に使えるメモリーを増やすようにシステム構成を変更する必要があります。
- 6 関数 *function-code-id* が、指定されたモジュールで見つかりませんでした。ルーチンの作成者またはデータベース管理者に連絡してください。ルーチン定義または関数それ自身を訂正しなければなりません。
- 7 関数名として指定された記号 (*function-code-id*) は、指定されたライブラリーにある有効な関数の名前ではありません。ルーチンの作成者またはデータベース管理者に連絡してください。ルーチン定義または関数それ自身を訂正しなければなりません。
- 8 上記の理由以外で、「ロード」システム関数が失敗しました。モジュールがリンクされていないか、または正しくリンクされていない可能性があります。
- 9 メモリーが不足しているため、*library-or-path* で識別されるライブラリーの関数名 *function-code-id* を解決できません。ルーチンの作成者またはデータベース管理者に連絡して、関数の入ったライブラリーが正しくリンクされているかを確認してください。DB2 サーバーがもっと多くのメモリーを使用できるように、システム構成の変更が必要になる場合があります。

10 loadquery システム呼び出しが失敗しました。これは、UNIX ベース・システムでのみ発生し、データベース・マネージャー自体が正しくインストールされていないことの症状です。システム管理者に連絡してください。

11 エージェント処理が、libdb2.a library に存在しているべき特定のデータベース・マネージャー関数を検索していましたが、見つかりませんでした。これは、UNIX ベース・システムでのみ発生し、データベース・マネージャーが正しくインストールされていないことの症状です。システム管理者に連絡してください。

15 アクセスが拒否されています。これは、Windows NT 環境で、ルーチン定義ステートメントの EXTERNAL NAME 指定に絶対パスが指定されていない場合や、関数が <db2 installation path>%function ディレクトリーに存在しないため、PATH 環境変数を使った検索が必要になる場合に発生することがあります。たとえば、PATH で、関数の含まれるディレクトリーの前に LAN ドライブが含まれており、DB2 インスタンスが SYSTEM アカウントで実行されている場合、この理由コードの結果になることがあります。ルーチン定義ステートメントに指定されている EXTERNAL NAME が絶対パスで指定されていること、または <db2 installation path>%function ディレクトリーに関数が存在することを確認してください。上記の 2 つとも正しい場合に、DB2 インスタンスを実行するアカウントが PATH 環境変数内の関数を含むディレクトリーの前で LAN ドライブにアクセスできないために、エラーが発生する場合は、DB2 サービスを構成して、PATH 環境変数内のすべてのネットワーク・パスへのアクセス権があるユーザー・アカウントで DB2 サービスが実行されるようにしてください。DB2 サービスにユーザー・アカウントを割り当てる場合は、「概説およびインストール」ブックに記載されている必要なすべての拡張ユーザー権限をアカウントに許可してください。

その他: 未確認システム障害が起きました。コードを書き留めて、システム管理者に連絡してください。

このメッセージの情報でエラーを診断できない場合、システム管理者に連絡して援助を求める必要がある場合があります。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: このユーザー定義関数が関数テンプレートである場合 (そのため、フェデレーテッド・サーバーに存在するためのコードが必

要ない場合)、この関数がリモート・データ・ソースで評価されるようにするために、SQL ステートメントまたは統計の変更を考慮する必要があります。

sqlcode: -444

sqlstate: 42724

SQL0445W 値 *value* が切り捨てられました。

説明: 値 *value* が、その値をいくつかの方法でトランスフォームするために呼び出される、システム (組み込み) キャストまたは調整関数によって切り捨てられました。これは警告状況です。

トランスフォームされる値がルーチン (ユーザー定義関数 UDF またはメソッド) の出力で、ルーチン定義に CAST FROM の指定があるため、または UDF が他の関数から呼び出されているために、結果のトランスフォームが必要なため、トランスフォームが行われます。

ユーザーの処置: 出力が予期されていること、および切り捨てが予期しない結果の原因とならないことを確認してください。

sqlcode: +445

sqlstate: 01004

SQL0447W ステートメントに、文節 *clause* を含む重複指定があります。

説明: *clause* キーワードが、ステートメントに 2 回以上入っています。これは警告状態です。

ユーザーの処置: 冗長が意図されたものである場合、またはそれが障害を起さないと判断した場合は、対応する必要はありません。「障害」とは、たとえば、他の必須キーワードが抜けていることを示しています。

sqlcode: +447

sqlstate: 01589

SQL0448N ルーチン *routine-name* の定義中にエラーが起きました。パラメーターの最大許容数 (90 がユーザー定義関数とメソッド用、32767 がストアド・プロシージャ用) を超えました。

説明: ルーチン *routine-name* の定義中、指定されたパラメーターが多すぎます。ルーチン定義ステートメントは CREATE FUNCTION、CREATE PROCEDURE、CREATE TYPE (方式定義)、または ALTER TYPE (方式定義) だと思われます。

ユーザーの処置: ステートメントを変更して、パラメーターの数を減らしてください。

sqlcode: -448

sqlstate: 54023

SQL0449N ステートメント定義ルーチン *routine-name* で、無効な形式のライブラリー/関数識別が **EXTERNAL NAME** 文節に含まれています。

説明: ユーザー定義関数 (UDF)、ユーザー定義メソッド、またはプロシージャ *routine-name* の CREATE ステートメントの **EXTERNAL NAME** 文節にエラーが検出されました。ライブラリー/関数識別の規則は、以下の通りです。

LANGUAGE C の場合、名前の形式は '*<a>*' または '*<a>!*' です。ただし、

- *<a>* は、呼び出すルーチン (関数) を含むファイル名
- ** は、ルーチン本体として呼び出される *<a>* 内の入り口点 (関数)。 ** を省略した場合は、デフォルトの入力点として *<a>* が使用されます。

LANGUAGE OLE の場合、名前の形式は '*<a>!*' です。ただし、

- *<a>* は、OLE オブジェクトのプログラマチック ID または クラス ID
- ** は、呼び出すオブジェクトのメソッド

LANGUAGE JAVA および LANGUAGE CLR の場合、名前の形式は '*<a>:!<c>*' です。ただし、

- *<a>* は、クラスの存在する jar ID (LANGUAGE JAVA) またはアセンブリー・ファイル (LANGUAGE CLR) です。 LANGUAGE JAVA の場合、 '*<a>:*' はオプションであり、それを省略した場合は、関数ディレクトリーか CLASSPATH の中に対応するクラスが存在していなければなりません。
- ** は、呼び出すメソッドを含むクラス
- *<c>* は、呼び出すメソッド。 LANGUAGE JAVA の場合、 '*!<c>*' の代わりに '*.<c>*' を使用できます。

どの言語でも、先頭や末尾にブランク文字を含めたり、単一引用符、オブジェクト ID、または区切り文字の間にブランク文字を含めることはできません (たとえば、 '*<a>!*' は無効)。一方、パス名とファイル名には、プラットフォームで許可されている限り、ブランクを含めることができます。

どのファイル名の場合も、ファイルは名前の短い形式 (例: *math.a* (UNIX)、*math.dll* (Windows)) か、または完全修飾パス名 (例: */u/slick/udfs/math.a* (UNIX)、*d:\udfs\math.dll* (Windows)) を使用して指定できます。ファイル名の短い形式を使用する場合、そのファイルは次のようにして探索されます。

- UNIX プラットフォームの場合、またはルーチンが LANGUAGE CLR ルーチンの場合: 関数ディレクトリー
- プラットフォームが Windows の場合: システム PATH

ファイル拡張子 (例: *.a* (UNIX)、*.dll* (Windows)) は、常にファイル名に含めてください。

ユーザーの処置: 問題を訂正して再度試行してください。原因として、ブランクが含まれているか、名前の先頭または最後に '!' または ':' が入っている可能性があります。

sqlcode: -449

sqlstate: 42878

SQL0450N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) が、長すぎる結果値、**SQLSTATE** 値、メッセージ・テキスト、またはスクラッチパッドを生成しました。

説明: ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) からの戻りにおいて、以下のいずれかに割り振られているバイト数を超えるバイト数を返されたことを DB2 が見つけました。

- 結果値 (ルーチン定義に基づきます)。原因としては、次のものが考えられます。
 - 結果バッファーに移動したバイトが多すぎる。
 - データ・タイプは VARCHAR のようにデータ値を null で区切る必要があり、区切りの null は定義されたサイズの範囲内ではない。
 - DB2 はこの値の前に 2- あるいは 4- バイト長の値を予想し、この長さが結果に定義されたサイズを超過しています。
 - ルーチンが LOB ロケーターを戻しました。このロケーターに関連する LOB 値の長さは結果の定義されたサイズを超えています。

ルーチンの結果引き数の定義は、データ・タイプの要件に適合している必要があります。詳細については、「アプリケーション開発ガイド」を参照してください。

- SQLSTATE 値 (NULL 終止符を含めて 6 バイト)
- メッセージ・テキスト (NULL 終止符を含めて 71 バイト)
- スクラッチパッドの内容 (CREATE FUNCTION で宣言された長さ)

これは許されていません。

また、スクラッチパッドの長さフィールドがルーチンによって変更された場合にも、このメッセージが返されません。

ユーザーの処置: データベース管理者、またはルーチンの作成者に連絡してください。

sqlcode: -450

sqlstate: 39501

SQL0451N ルーチン *routine-name* を定義しているステートメント内の *data-item* 定義に、与えられている言語で作成された非ソース関数には適切でないデータ・タイプ *type* が含まれています。

説明: ルーチン *routine-name* を定義しているステートメントの *data-item* 部分でエラーが起きました。ユーザーのステートメントに、無効なタイプ *type*、または無効なタイプ *type* に基づいているユーザー定義タイプ (UDT) が入っています。ルーチン定義は CREATE FUNCTION、CREATE PROCEDURE、CREATE TYPE (方式定義)、または ALTER TYPE (方式定義) だと思われる。

data-item は、ステートメントの問題の領域を識別するトークンです。たとえば、"PARAMETER 2"、"RETURNS"、または "CAST FROM" です。

ユーザーの処置: どの状態が起きたかを判別して、適切なアクションを取ってください。修正アクションには、以下が含まれます。

- ルーチン定義をサポートされているタイプに変更 (たとえば DECIMAL から FLOAT) してください。ここでは、ルーチン本体それ自身の変更がかかわってくる可能性があり、ルーチンの使用での cast 関数の使用も関与する可能性があります。
- 新しい (適切な) ユーザー定義タイプを作成するか、または既存の UDT の定義を変更してください。

sqlcode: -451

sqlstate: 42815

SQL0452N ホスト変数 *variable-position* によって参照されているファイルにアクセスできません。理由コード: *reason-code*

説明: "nth" (この場合、n は *variable-position*) ホスト変数によって参照されるファイルへのアクセスしようとしたとき、またはアクセス中にエラーが発生しました。理由は *reason-code* です。ホスト変数の位置を判別できなかった場合、<*variable-position*> は 0 に設定されません。以下の理由コードが考えられます。

- 01 - ファイル名の長さが無効か、またはファイル名とパスのいずれか、または両方の形式が無効です。
- 02 - ファイル・オプションが無効です。以下のいずれかの値を持つ必要があります。

SQL_FILE_READ

- 既存のファイルから読み込む

SQL_FILE_CREATE

- 書き込み用に新しいファイルを作成する

SQL_FILE_OVERWRITE

- 既存のファイルを上書きする
ファイルが存在しない場合は、

ファイルを作成する

SQL_FILE_APPEND

- 既存のファイルに追加する
ファイルが存在しない場合は、

ファイルを作成する

- 03 - ファイルが見つかりませんでした。
- 04 - SQL_FILE_CREATE オプションが、既存のファイルと同じ名前を持つファイルに指定されました。
- 05 - ファイルへのアクセスが拒否されました。ユーザーが、ファイルをオープンするための許可を持っていません。
- 06 - ファイルへのアクセスが拒否されました。ファイルが非互換モードで使用中です。書き込まれるファイルが、排他モードでオープンされています。
- 07 - ファイルへの書き込み中に、ディスクがいっぱいになりました。
- 08 - ファイルの読み取り中に、予期しないファイル終わりが見つかりました。
- 09 - ファイルのアクセス中に、メディア・エラーが起きました。
- 10 - ファイルから読み取り中に、不完全または無効なマルチバイト文字が検出されました。
- 11 - ファイル・コード・ページからアプリケーションの GRAPHIC 文字コード・ページにデータを変換中に、エラーが検出されました。

ユーザーの処置:

理由コード 01 の場合は、ファイル名の長さ、ファイル名およびパスを訂正してください。

理由コード 02 の場合は、有効なファイル・オプションを指定してください。

理由コード 03 の場合は、ファイルにアクセスする前に、指定したファイルが存在することを確認してください。

理由コード 04 の場合は、ファイルが必要ないときは、そのファイルを削除するか、または存在しないファイル名を指定してください。

理由コード 05 の場合は、ユーザーが、ファイルに対す

るアクセス (正しいファイル許可) を持っていることを確認してください。

理由コード 06 の場合は、別のファイルを使用するか、またはそのファイルにアクセスする必要があるときは、ファイルが同時にアクセスされないように、アプリケーションを変更してください。

理由コード 07 の場合は、不必要なファイルを削除して、ディスク・スペースを解放するか、または十分なディスク・スペースを持つ別のドライブ/ファイル・システムに常駐するファイルを指定してください。また、オペレーティング・システムまたはユーザー・ファイル・サイズの限界に達していないことを確認してください。ユーザーのアプリケーションのコード・ページがマルチバイト・エンコード・スキーマを使用していて、最後の文字の部分だけが書き込み可能な場合には、そのファイルに完全書式の文字だけが入っていることを確認してください。

理由コード 08 の場合は、ファイルが入力に使用されているときは、ファイル全体が読み取られる前に、そのファイルが変更されていないことを確認してください。

理由コード 09 の場合は、ファイルが常駐しているメディアのすべてのエラーを修正してください。

理由コード 10 の場合は、アプリケーションのコード・ページに基づいて有効なマルチバイト文字だけがファイルに入っていることを確認するか、あるいはファイルの内容と同じコード・ページのもとで実行している間にその要求を投入してください。

理由コード 11 の場合には、日本語 EUC などのファイルのコード・ページと、UCS-2 などのアプリケーションの GRAPHIC コード・ページとの間の文字変換サポートがインストールされていることを確認してください。

sqlcode: -452

sqlstate: 428A1

SQL0453N ルーチン *routine-name* を定義しているステートメントの **RETURNS** 文節で、問題が識別されています。

説明: ルーチン *routine-name* の結果をキャストする問題が識別されました。CAST FROM データ・タイプが、RETURNS データ・タイプにキャストできないので、問題が起きました。データ・タイプ間のキャストの詳細については、「SQL リファレンス」を参照してください。

ユーザーの処置: RETURNS または CAST FROM 文節を変更して、CAST FROM データ・タイプが RETURNS データ・タイプにキャストできるようにしてください。

sqlcode: -453

sqlstate: 42880

SQL0454N ルーチン *routine-name* の定義で与えられているシグニチャーが、すでにスキーマに存在する他のルーチンまたはタイプのシグニチャーに一致しています。

説明: 関数のシグニチャーは関数名、関数に定義されているパラメーターの数、およびパラメーターのタイプの順序リスト (パラメーター・タイプは考慮されません) によって構成されています。

方式のシグニチャーは、方式名、方式のサブジェクト・タイプ、方式に定義されているパラメーターの数、およびパラメーターのタイプの順序リスト (パラメーター・タイプは考慮されません) によって構成されています。

プロシーチャーのシグニチャーは、プロシーチャーの名前およびプロシーチャーに定義されているパラメーターの数 (データ・タイプは考慮されていません) から構成されています。

この場合、以下のいずれかが考えられます。

- 作成される関数と同じシグニチャーを持つ関数またはプロシーチャー (*routine-name*) が、すでにスキーマに存在します。
- 追加される方式指定、または作成される方式本体として同じシグニチャーを持つサブジェクト・タイプの方式 (*routine-name*) が存在します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 既存のルーチンが必要な機能を提供しているかどうかを判別してください。提供していない場合、ルーチンのシグニチャーを変更しなければなりません。(たとえば、ルーチン名を変更)

sqlcode: -454

sqlstate: 42723

SQL0455N ルーチン *routine-name* において、**SPECIFIC** 名として与えられているスキーマ名 *schema-name1* が、ルーチンのスキーマ名 *schema-name2* に一致していません。

説明: SPECIFIC 名が 2 つの部分の名前として指定されている場合、*schema-name1* 部分は、*routine-name* の *schema-name2* 部分と同じでなければなりません。*routine-name* の *schema-name2* 部分が、直接指定されている場合があること、またはステートメントの許可 ID に対するデフォルトを持っている場合があることに注意してください。ルーチンが方式であれば、*schema-name*

は、その方式のサブジェクト・タイプのスキーマ名を指します。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -455

sqlstate: 42882

SQL0456N ルーチン *routine-name* の定義において、**SPECIFIC** 名 *specific-name* はすでにスキーマに存在しています。

説明: ユーザーは明示 **SPECIFIC** 名 *specific-name* をルーチン *routine-name* の定義に与えましたが、この名前はスキーマ内の関数、方式、またはプロシージャの **SPECIFIC** 名として存在しています。

ユーザーの処置: 新しい **SPECIFIC** 名を選択して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -456

sqlstate: 42710

SQL0457N システム使用のために予約されているため、名前 *name* を関数、方式、ユーザー定義データ・タイプ、または構造化データ・タイプ属性に付けることはできません。

説明: 示されている名前はシステム使用のために予約されているので、ユーザー定義関数、方式、ユーザー定義データ・タイプ、または構造化データ・タイプを作成できません。関数名、特定タイプ名、構造化タイプ名、あるいは属性名に対して使用されない名前には、以下のものがあります。

```
"=", "<", ">", ">=", "<=",  
"&=", "&>", "&<=",  
"!=", "!>", "!<", "<>,"  
SOME, ANY, ALL, NOT, AND, OR,  
BETWEEN, NULL, LIKE, EXISTS, IN,  
UNIQUE, OVERLAPS, SIMILAR, and MATCH.
```

ユーザーの処置: システム使用のために予約されていない関数、方式、ユーザー定義データ・タイプ、あるいは構造化データ・タイプ属性の名前を選択してください。

sqlcode: -457

sqlstate: 42939

SQL0458N シグニチャーによるルーチン *routine-name* への参照において、一致するルーチンが見つかりませんでした。

説明: シグニチャーによる関数、方式、またはストアード・プロシージャ *routine-name* への参照において、

一致する関数、方式、またはストアード・プロシージャが見つかりませんでした。

パラメーターを受け入れることができるデータ・タイプが使用されている場合、タイプ・パラメーターはオプションです。たとえば **CHAR**(12) の場合、**CHAR**(12) とパラメーターを指定でき、また **CHAR**() とパラメーターを省略することができます。パラメーターを指定すると、**DBMS** は、データ・タイプとデータ・タイプ・パラメーターに正確に一致するものだけを受け入れません。パラメーターを省略すると、**DBMS** データ・タイプのみで一致するものを受け入れます。**CHAR**() 構文は、一致する関数が見つかったときにデータ・タイプ・パラメーターを無視するよう **DBMS** に指示する方法を提供します。

DROP FUNCTION/PROCEDURE および **COMMENT ON FUNCTION/PROCEDURE** ステートメントでは、無修飾参照がステートメント許可 ID で修飾され、問題が見つかる可能性があるスキーマになることにも注意してください。**CREATE FUNCTION** の **SOURCE** 文節では、修飾が現在の関数パスから作成されます。この場合、一致する関数はパス全体に存在しません。

関数は、**COALESCE**、**NULLIF**、**NODENUMBER**、**PARTITION**、**RAISE_ERROR**、**TYPE_ID**、**TYPE_NAME**、**TYPE_SCHEMA**、または **VALUE** 組み込み関数に基づくことはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 以下の対応を行ってください。

- 正しいスキーマが備わるように、関数パスを変更します。
- データ・タイプの指定からパラメーターを取り除きます。
- **SPECIFIC** 名を使用して、シグニチャーの代わりに、関数あるいはプロシージャを参照します。

sqlcode: -458

sqlstate: 42883

SQL0461N データ・タイプ *source-data-type* を持つ値を、タイプ *target-data-type* に **CAST** できません。

説明: ステートメントに、データ・タイプ *target-data-type* にキャストされるデータ・タイプ *source-data-type* を持つ最初のオペランドが指定された **CAST** が入っています。このキャストはサポートされていません。

ユーザーの処置: キャストがサポートされるように、ソースまたはターゲットのいずれかのデータ・タイプを変更してください。事前定義されたデータ・タイプにつ

いては、「SQL リファレンス」を参照してください。
ユーザー定義の異なるタイプの入ったキャストの場合、
キャストは基本データ・タイプとユーザー定義の異なる
タイプ間、または基本データ・タイプにプロモート可能
なデータ・タイプから、ユーザー定義の異なるタイプに
対してのみ行われます。

sqlcode: -461

sqlstate: 42846

SQL0462W ルーチン *routine-name* (特定名
specific-name) が、診断テキスト *text* と
ともに警告 **SQLSTATE** を返しました。

説明: ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*)
が、メッセージ・テキスト *text* とともに形式 01Hxx の
SQLSTATE を DB2 に返しました。

ユーザーの処置: 警告の意味を理解する必要があります。
データベース管理者、またはルーチンの作成者に連絡
してください。

sqlcode: +462

sqlstate: 01Hxx

SQL0463N ルーチン *routine-name* (特定名
specific-name) が、診断テキスト *text* と
ともに無効な **SQLSTATE** *state* を返しまし
た。

説明: ルーチンが返すことができる有効な **SQLSTATE**
は 38xxx (エラー)、38502 (エラー)、および 01Hxx (警
告) です。このルーチン *routine-name* (特定名
specific-name) が、無効な **SQLSTATE** *state* をメッセ
ージ・テキスト *text* とともに返しました。ルーチンはエ
ラー状態です。

ユーザーの処置: ルーチンを修正する必要があります。
データベース管理者、またはルーチンの作成者に連絡し
てください。間違った **SQLSTATE** のアプリケーション
重要度をルーチンの作成者から得ることもできます。

sqlcode: -463

sqlstate: 39001

SQL0464W プロシージャ *procedure-name* が
generated-nbr-results 照会結果セットを返
しました。このプロシージャは、定義さ
れた制限 *max-nbr-results* を超えていま
す。

説明: *procedure-name* と名付けられたストアード・プ
ロシージャが正常に完了しました。しかし、そのス
トアード・プロシージャは、プロシージャが返すこ

とができる照会結果セットの数について定義された制限
を超えていました。

generated-nbr-results

ストアード・プロシージャによって返された
照会結果セットの数を示します。

max-nbr-results

ストアード・プロシージャの照会結果セット
数について定義された制限を示します。

最初の *max-nbr-results* の照会結果セットのみが SQL
CALL ステートメントを発行した SQL プログラムに返
されます。

考えられる原因は次のとおりです: クライアントによっ
て課された DRDA 制限のため、ストアード・プロシー
ジャが *generated-nbr-results* 結果セットを返せない。
DRDA クライアントが、MAXRSLCNT DDM コード・
ポイントによってこの制限を確立した。

ユーザーの処置: SQL ステートメントが成功しまし
た。SQLWARN9 フィールドが 'Z' に設定されまし
た。

sqlcode: +464

sqlstate: 0100E

SQL0465N **fenced** モード処理の開始、初期化、また
は通信を行うことができません。理由コ
ード *code*

説明: **fenced** モード・ルーチン (ユーザー定義関数また
は方式) の実行に関係する、システム関連問題がありま
す。問題の正確な特質は、*code* で示されています。こ
れは、ユーザーの問題ではありません。考えられる理
由コードは次のとおりです。

ルーチン処理エラー

- 21:** 内部データまたはアプリケーション・データの
初期化が失敗しました。
- 22:** シグナル・ハンドラーの登録が失敗しました。
- 23:** エージェント処理に、REQUEST QUEUE のア
クセス授与を付与することに失敗しました。
- 24:** ルーチン処理の共有メモリーへの接続が失敗し
ました。
- 25:** REPLY QUEUE のオープンが失敗しました。
- 26:** REPLY QUEUE への書き込みが失敗しまし
た。
- 27:** REQUEST QUEUE の作成が失敗しました。
- 28:** REQUEST QUEUE からの読み取りが失敗しま
した。

- 29: ルーチン処理が停止しました。
- 30: ルーチン処理が USER INTERRUPT シグナルを受け取りました。
- 31: ルーチン・モジュールをアンロードできませんでした。
- 32: モジュールのロード/アンロードに使用される制御ブロックに対するストレージの割り振りが失敗しました。
- 33: エージェント処理からルーチン処理に SIGINT の送信できませんでした。
- 34: OLE ライブラリーの初期化に失敗しました。
- 35: OLE DB 初期化サービス・コンポーネントの初期化に失敗しました。
- 40: ルーチン処理で内部エラーが発生しました。

エージェント処理エラー

- 41: ルーチン処理を spawn できませんでした。
- 42: REPLY QUEUE の作成が失敗しました。
- 43: REPLY QUEUE からの読み取りが失敗しました。
- 44: REQUEST QUEUE のオープンが失敗しました。
- 45: REQUEST QUEUE への書き込みが失敗しました。
- 47: ルーチン処理に、UDFP 共有メモリー・セットに対するアクセス許可を付与できませんでした。
- 48: ルーチン処理に REPLY QUEUE に対するアクセス許可を付与できませんでした。
- 49: モジュールのロード/アンロードに使用される制御ブロックに対するストレージの割り振りが失敗しました。
- 50: ルーチン・コードまたはエージェント・コードの実行中にエージェント処理が停止しました。
- 51: unfenced ルーチン・コードの実行中に、エージェント処理が USER INTERRUPT を受け取りました。
- 60: ルーチン処理で内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: データベースまたはシステム管理者に連絡してください。

sqlcode: -465

sqlstate: 58032

SQL0466W プロシージャ *procedure-name* が、ストアード・プロシージャから *number-results* の結果セットを返しました。

説明: このメッセージは、CALL SQL ステートメントの発行の結果として返されます。これは、ストアード・プロシージャ *procedure-name* に、関連する *number-results* の結果セットがあることを示しています。

ステートメントは正しく完了しました。

ユーザーの処置: 必要ありません。

sqlcode: +466

sqlstate: 0100C

SQL0467W プロシージャ *procedure-name* には、別の結果セットが含まれています。合計 *max-nbr-results* の結果セットがあります。

説明: このメッセージはカーソルのクローズの結果として戻されます。これは、ストアード・プロシージャ *procedure-name* に別の結果セットが存在し、次の結果セットでカーソルがオープンされたことを示しています。ストアード・プロシージャには、合計 *max-nbr-results* の結果セットがあります。

ステートメントは正しく完了しました。

ユーザーの処置: 必要ありません。フェッチは、次の結果セットで続行できます。

sqlcode: +467

sqlstate: 0100D

SQL0469N パラメーター・モード (IN、OUT、または INOUT) は、特定名 *specific-name* のプロシージャ *procedure-name* のパラメーター (パラメーター番号 *number*、名前 *parameter-name*) には無効です。

説明: 次のエラーのいずれかが発生していると考えられます。

- SQL プロシージャのパラメーターが OUT と宣言され、プロシージャ本体の入力として使用されている
- SQL プロシージャのパラメーターが IN と宣言され、プロシージャ本体で変更されている

ユーザーの処置: パラメーターの属性を INOUT に変更するか、またはプロシージャ内でのパラメーターの使用を変更してください。

sqlcode: -469

sqlstate: 42886

SQL0470N ユーザー定義ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) には、パスされなかった引き数 *argument* の NULL 値がありません。

説明: ルーチンには NULL 標識を渡さないパラメーター・スタイルで定義された NULL 値のある入力引き数が入っているか、あるいはこのパラメーターのデータ・タイプは NULL 値をサポートしません。

ユーザーの処置: ルーチンが NULL 値で呼び出される場合は、パラメーター・スタイルと入力タイプが NULL 値を受け入れ可能であることを確認してください。関数の場合、“RETURNS NULL ON NULL INPUT” で関数を作成することができます。

sqlcode: -470

sqlstate: 39004

SQL0471N 理由 *reason-code* のためにルーチン *name* の呼び出しが失敗しました。

説明: DB2 Universal Database for OS/390 サーバーでルーチン *name* が呼び出されました。DB2 理由コード *reason-code* で説明されている条件のため、ルーチンの呼び出しは失敗しました。

ステートメントは処理できません。MVS システム・コンソール上でこのエラーを説明する DSNX9xx メッセージを表示できます。

ユーザーの処置: DB2 Universal Database for OS/390 サーバーの資料を調べて、DB2 理由コードで説明されている条件を正してください。

sqlcode: -471

sqlstate: 55023

SQL0472N 1 つ以上のカーソルが、関数または方式 *routine-name* (特定名 *specific-name*) によってオープンされたままでした。

説明: 関数または方式 *routine-name* (特定名 *specific-name*) は、呼び出しているステートメントが完了する前にすべてのカーソルをクローズしませんでした。呼び出しているステートメントが完了する前に、関数および方式はすべてのカーソルをクローズする必要があります。

ユーザーの処置: 関数または方式の開発者に問い合わせてください。呼び出しているステートメントが完了する前にすべてのカーソルがクローズされていることを確認するために、関数または方式を再書き込みする必要があります。

sqlcode: -472

sqlstate: 24517

SQL0473N システム事前定義タイプと同じ名前を持つユーザー定義データ・タイプは作成できません。

説明: 作成されるデータ・タイプの名前に、システム事前定義データ・タイプと同一名であるか、または BOOLEAN である無修飾名があります。これは許可されていません。区切り文字を追加しても、有効な名前にはなりません。

ステートメントを処理できませんでした。

ユーザーの処置: 他の ID を使用するように、ステートメントを修正してください。

sqlcode: -473

sqlstate: 42918

SQL0475N SOURCE 関数の結果タイプ *type-1* は、ユーザー定義関数 *function-name* の RETURNS タイプ *type-2* にはキャストできません。

説明: ソースであるユーザー定義関数 (UDF) の CREATE を有効にするには、ソース関数の結果タイプ (*type-1*) が作成される関数の RETURNS タイプ (*type-2*) にキャスト可能でなければなりません。これらのデータ・タイプ間でサポートされるキャストはありません。データ・タイプ間のキャストの詳細については、「SQL リファレンス」を参照してください。

ユーザーの処置: RETURNS データ・タイプまたは SOURCE 関数識別を変更して、SOURCE 関数の結果タイプが RETURNS データ・タイプにキャストできるようにしてください。

sqlcode: -475

sqlstate: 42866

SQL0476N ルーチン *function-name* への参照がシグニチャーなしで行われましたが、ルーチンはそのスキーマでユニークではありません。

説明: 関数あるいはストアード・プロシージャに対するシグニチャーのない参照は許されていますが、示された関数あるいはストアード・プロシージャ *function-name* がそのスキーマ内でユニークでなければならないのに、ユニークではありませんでした。ルーチンが方式であれば、シグニチャーのない参照が許可されていますが、ここで示されている方式はデータ・タイプとしてユニークではありません。

DROP FUNCTION/PROCEDURE および COMMENT ON FUNCTION/PROCEDURE ステートメントでは、無修飾参照がステートメント許可 ID で修飾され、問題が見つかる可能性があるスキーマになることに注意してください。CREATE FUNCTION の SOURCE 文節では、修飾は現在の関数パスから作成されます。この場合は、この名前を持つ関数の入ったパスの最初のスキーマが、同じ名前の別の関数を持っています。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: パススルー・セッションでは、ステートメントが CREATE FUNCTION MAPPING ステートメントの場合、このエラーは、関数のマッピングを 1 つのリモート関数から複数のローカル関数に作成しようとしたことを示します。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを行って、参照を訂正してください。

- シグニチャーを完了する
- 目的のルーチンの SPECIFIC 名を使用する
- SQL パスを変更する

その後で再試行してください。

sqlcode: -476

sqlstate: 42725

SQL0478N オブジェクト・タイプ *object-type1* は、このオブジェクトに從属するタイプ *object-type2* のオブジェクト *object-name* が存在するため、**DROP** または **REVOKE** できません。

説明: この *object-type1* には從属関係が存在するため、要求された DROP または REVOKE は処理できません。タイプ *object-type2* (オブジェクト *object-name* はその一例) のオブジェクトに定義されている制約從属関係があります。

この從属関係は間接的である可能性があります。つまり、指定されたオブジェクトは、ドロップされるオブジェクトに從属しているか、REVOKE の影響を受けるオブジェクトに從属する別のオブジェクトに從属しています。

例:

- 関数 F1 のソースが関数 F2 である
- ビュー V1 が F1 を使って定義されている
- F2 での F1 の直接依存性、および F2 での V1 の間接依存性のために、F2 をドロップする試みが失敗する

ユーザーの処置: このオブジェクトに対する從属関係を

除去してから、要求を再発行してください。

sqlcode: -478

sqlstate: 42893

SQL0480N プロシージャ *procedure-name* は呼び出されていません。

説明: ASSOCIATE LOCATORS ステートメントで識別されているプロシージャがアプリケーション処理内で呼び出されていないか、またはプロシージャは呼び出されていますが、ステートメントの前に暗黙的または明示的なコミットが行われました。

ユーザーの処置: CALL ステートメントにプロシージャ名を指定するための構文が、ASSOCIATE LOCATORS ステートメントの構文と同じになるよう、ステートメントを訂正してください。修飾されていない名前がプロシージャを呼び出すために使用されている場合、別のステートメントに 1 部分の名前も指定しなければなりません。ステートメントを出し直してください。

sqlcode: -0480

sqlstate: 51030

SQL0481N GROUP BY 文節に、*element-2* 内でネストされている *element-1* が含まれていません。

説明: 次のネストのタイプは、GROUP BY 文節内で許可されていません:

- CUBE CUBE、ROLLUP、または GEL 内
- ROLLUP CUBE、ROLLUP、または GEL 内
- () CUBE、ROLLUP、または GEL 内
- GROUPING SET GROUPING SET、CUBE、ROLLUP、または GEL 内

GEL は GROUP BY 文節の構文図でグループ化式リストとして表示されるエレメントを表しています。

いくつかのインスタンスでは、値 “---” が *element 2* について示されます。この場合、“---” は CUBE、ROLLUP、GROUPING SET、または GEL のいずれかを表しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ネストを除去する GROUP BY 文節を修正してください。

sqlcode: -481

sqlstate: 428B0

SQL0483N ユーザー定義関数 *function-name* の **CREATE** のパラメーターの数が、**SOURCE** 関数のパラメーターの数と一致しません。

説明: 別の関数がソースであるユーザー定義関数 *function-name* の作成が試みられました。以下のいずれかの状態になっています。

- **SOURCE** 文節が、関数名 (入力パラメーター・リスト) を使用してソース関数を識別しましたが、リスト内のタイプの数が、作成される関数のパラメーターの数と異なります。
- **SOURCE** 文節が、異なる構文を使用してソース関数を識別しましたが、その関数のタイプの数が、作成される関数のパラメーターの数と異なります。

ユーザーの処置: **SOURCE** 関数と作成される関数のパラメーターの数は、同じでなければなりません。

SOURCE 関数の識別を、以下のように変更する必要があります。

- 入力パラメーター・リストを修正する。
- 適切な関数を識別するように、関数名または関数特定名を修正する。

関数の正しい解決が行われるように、関数パスの修正が必要になる場合もあります。

sqlcode: -483

sqlstate: 42885

SQL0486N **BOOLEAN** データ・タイプは、現在内部的にのみサポートされています。

説明: ステートメントの 1 つ以上のデータ・タイプが **BOOLEAN** です。これは、DB2 の現在のバージョンではサポートされていません。

ユーザーの処置: データ・タイプを変更して、ステートメントの再サブミットを行ってください。

sqlcode: -486

sqlstate: 42991

SQL0487N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) が、**SQL** ステートメントを実行しようと試みました。

説明: ルーチンの本体を実行するためのプログラムは、**SQL** ステートメントの実行を許可されていません。このルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) には、**SQL** ステートメントが入っています。

ユーザーの処置: **SQL** ステートメントを除去した後

で、プログラムを再コンパイルしてください。ルーチンを定義しているステートメントへの指定を許可されている **SQL** のレベルを調べてください。

sqlcode: -487

sqlstate: 38001

SQL0489N **SELECT** または **VALUES** リスト項目内の関数 *function-name* が、**BOOLEAN** 結果を作成しました。

説明: 関数 *function-name* が、ブール結果を戻す述部としての使用を定義されています。このような結果は、選択リストでは無効です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 関数名を訂正するか、関数の使用を除去してください。

sqlcode: -489

sqlstate: 42844

SQL0490N **SQL** ステートメントに直接指定されている数値 *number* は、このコンテキストにおける許容値 (*minval,maxval*) の範囲外です。

説明: 数値 (*number*) は、指定されたコンテキストで無効です。このコンテキストでの最小の許容値は、*minval* です。このコンテキストで許容される最大値は、*maxval* です。n は *minval* と *maxval* で指定された範囲内でなければなりません (*minval* =< n => *maxval*)。

ユーザーの処置: ステートメントで、値 n を有効な値に変更してください。

sqlcode: -490

sqlstate: 428B7

SQL0491N ルーチン *routine-name* の定義には **RETURNS** 文節、さらに **EXTERNAL** 文節 (他の必須キーワードとともに)、**RETURN** ステートメント、または **SOURCE** 文節のいずれかが必要です。

説明: 必要な文節が、ルーチン *routine-name* の定義に見つかりません。 **EXTERNAL** が指定されている場合は、次のいずれかの文節も指定されている必要があります: **LANGUAGE**、**PARAMETER STYLE**、**DETERMINISTIC** または **NOT DETERMINISTIC**、および **EXTERNAL ACTION** または **NO EXTERNAL ACTION**。

ユーザーの処置: 足りない文節を追加した後で、もう一度やり直してください。

sqlcode: -491

sqlstate: 42601

SQL0492N ユーザー定義関数 *function-name*、パラメーター番号 *number* の **CREATE** に問題があります。 **SOURCE** 関数との不一致になる場合があります。

説明: 関数 *function-name* の位置 *number* にあるパラメーターがエラーであるため、**CREATE** が実行できません。ソース関数の位置 *number* にあるパラメーターが、作成中の関数の対応するパラメーターにキャストできません。

ユーザーの処置: 適切な処置には以下が含まれます。

- 別のソース関数を識別します。
- 作成中の関数のパラメーターのデータ・タイプを変更して、ソース関数のデータ・タイプがこのデータ・タイプにキャストできるようにします。

sqlcode: -492

sqlstate: 42879

SQL0493N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) が、構文的または数值的に無効な日付、時刻、またはタイム・スタンプ値を返しました。

説明: ユーザー定義関数 (UDF) またはメソッド *routine-name* (特定名 *specific-name*) の本体が、無効な日付、時刻、またはタイム・スタンプ値を返しました。

構文的に無効な日付の値の例は '1994-12*25' で、'*' を '-' にする必要があります。数知的に無効な時刻の値の例は '11.71.22' で、時間には 71 分は存在しません。

ユーザーの処置: ルーチンを修正する必要があります。データベース管理者、またはルーチンの作成者に連絡してください。

sqlcode: -493

sqlstate: 22007

SQL0495N コスト・カテゴリー *cost-category* で、*estimate-amount1* プロセッサ秒の見積もられたプロセッサ・コスト (*estimate-amount2* サービス単位) が、*limit-amount* サービス単位のリソース制限エラーしきい値を超えています。

説明:

動的 INSERT、UPDATE、DELETE、または SELECT SQL ステートメントの準備の結果、リソース限定表

(RLST) で指定されたエラーしきい値を超えたコスト見積もりになりました。

DB2 のコスト・カテゴリー値が "B" になった場合もこのエラーが発行され、RLST の RLF_CATEGORY_B 列で指定されたデフォルトのアクションがエラーを発行します。

estimate_amount1

準備された INSERT、UPDATE、DELETE または SELECT ステートメントが実行された場合のコスト見積もり (プロセッサ秒)。

estimate_amount2

準備された INSERT、UPDATE、DELETE または SELECT ステートメントが実行された場合のコスト見積もり (サービス単位)。

cost-category

この SQL ステートメントについての DB2 のコスト・カテゴリー。使用可能な値は A または B です。

limit-amount

RLST の RLFASUERR 列で指定されたエラーしきい値 (サービス単位)。

動的 INSERT、UPDATE、DELETE、または SELECT ステートメントの準備に失敗しました。

ユーザーの処置: コスト・カテゴリー値が "B" であるためにこの SQLCODE が返された場合は、ステートメントがパラメーター・マーカーを使用しているか、参照される表と列について使用できない統計が存在する可能性があります。管理者が、参照された表でユーティリティ RUNSTATS を実行したことを確認してください。また、ステートメントが実行されるときに UDF が呼び出されるか、INSERT、UPDATE、または DELETE ステートメントについては、変更された表にトリガーが定義されている可能性もあります。このステートメントについて DSN_STATEMNT_TABLE または IFCID 22 レコードをチェックして、この SQL ステートメントがコスト・カテゴリー "B" になった理由を判別してください。問題を変えられない場合、または統計を入手できない場合は、管理者に問い合わせして RLST の RLF_CATEGORY_B 列の値をステートメントを実行できるようにする "Y" に変更するか、エラーではなく警告を返す "W" に変更してください。

SQL ステートメントがプロセッサ・リソースを多く使用しすぎていることが警告の原因である場合は、ステートメントが効率良く実行されるために書き直してみてください。あるいは、管理者に RLST のエラーしきい値を増やすように依頼してください。

sqlcode: -495

sqlstate: 57051

SQL0499N カーソル *cursor-name* は、プロシージャ *procedure-name* から、この結果セットまたは別の結果セットに対して、すでに割り当てられています。

説明: 結果セットにカーソルを割り当てようとしたが、複数のカーソルがすでにプロシージャ *procedure-name* に割り振られています。

ユーザーの処置: ターゲットの結果セットが以前にカー

SQL0500 - SQL0599

SQL0501N **FETCH** または **CLOSE** ステートメントに指定されたカーソルが、オープンしていません。

説明: 指定されたカーソルがオープンされていないときに、プログラムが、(1) **FETCH** (カーソルを使用)、または (2) **CLOSE** (カーソルのクローズ) を試みました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: カーソルをクローズした可能性がある前のメッセージの (SQLCODE) をチェックしてください。カーソルをクローズした後では、フェッチまたはカーソルをクローズするステートメントに、SQLCODE -501 が返されます。

前回の SQLCODE が発行されていない場合は、アプリケーション・プログラムを修正して、**FETCH** または **CLOSE** ステートメントが実行されるときに、カーソルがオープンされているようにしてください。

sqlcode: -501

sqlstate: 24501

SQL0502N **OPEN** ステートメントに指定されたカーソルは、すでにオープンしています。

説明: プログラムが、すでにオープンしているカーソルに対して **OPEN** ステートメントを実行しようとした。

ステートメントは処理できません。カーソルは変更されません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムを修正して、すでにオープンされているカーソルに対して **OPEN** ステートメントを実行しないようにしてください。

sqlcode: -502

sqlstate: 24502

ソルに割り当てられているか、判別してください。複数のカーソルがプロシージャ *procedure-name* に割り振られている場合、1 つのカーソルだけが、ストアード・プロシージャの結果セットを処理するために使用されるようにしてください。

sqlcode: -499

sqlstate: 24516

SQL0503N カーソルの **SELECT** ステートメントの **FOR UPDATE** 文節で列が識別されていないので、この列は更新できません。

説明: プログラムが、カーソル宣言または準備された **SELECT** ステートメント内の **FOR UPDATE** 文節内で識別されていない表の列内の値を、カーソルを使用して更新しようとした。

更新される列は、カーソル宣言の **FOR UPDATE** 文節内で識別される必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムを修正してください。列の更新が必要な場合は、その名前をカーソル宣言の **FOR UPDATE** 文節に追加してください。

sqlcode: -503

sqlstate: 42912

SQL0504N カーソル *name* が定義されていません。

説明: **UPDATE** または **DELETE WHERE CURRENT OF name** が指定されていますが、カーソル *name* がアプリケーション・プログラムに宣言されていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムが完全であることを確認して、カーソル名のつづりのエラーを訂正してください。

sqlcode: -504

sqlstate: 34000

SQL0505N カーソル *name* はすでに定義されています。

説明: **DECLARE** ステートメントに指定されているカーソル名は、すでに宣言されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: カーソル名のつづりが正しいことを確認してください。

SQL0507N UPDATE または DELETE ステートメントに指定されたカーソルは、オープンしていません。

説明: 指定されたカーソルがオープンされていないときに、プログラムが UPDATE または DELETE WHERE CURRENT OF カーソル・ステートメントを実行しようとしてしました。

ステートメントは処理できません。更新または削除は実行されません。

ユーザーの処置: カーソルをクローズした可能性がある前のメッセージの (SQLCODE) をチェックしてください。カーソルがクローズした後に、フェッチまたはカーソルをクローズするステートメントを使用すると、SQLCODE -501 を受け取り、更新または削除ステートメントを使用すると、SQLCODE -507 を受け取ります。アプリケーション・プログラムの論理を修正して、UPDATE または DELETE ステートメントが実行されたときに、指定したカーソルがオープンされているようにしてください。

sqlcode: -507

sqlstate: 24501

SQL0508N UPDATE または DELETE ステートメントに指定されたカーソルが、行を示していません。

説明: 指定されたカーソルがオブジェクト表の行を示していないときに、プログラムが UPDATE または DELETE WHERE CURRENT OF カーソル・ステートメントを実行しようとしてしました。カーソルは、更新または削除する行を示している必要があります。

行が削除されるときに、カーソルが行を示しません。これには、ROLLBACK TO SAVEPOINT が実行されるときの保管点内のカーソルの使用も含まれます。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: リモート・データ・ソースのレコードが、別のアプリケーション (またはこのアプリケーション内の別なカーソル) によって更新およびまたは削除されたため、レコードは存在しません。

ステートメントは処理できません。更新または削除されるデータはありません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムの論理を修正して、UPDATE または DELETE ステートメントが実行される前に、カーソルがオブジェクト表の意図した行を正しく示すようにしてください。FETCH がメッ

セージ SQL0100W (SQLCODE = 100) を返した場合は、カーソルが行を示していないことに注意してください。

sqlcode: -508

sqlstate: 24504

SQL0509N UPDATE または DELETE ステートメントに指定された表が、カーソルの SELECT に指定された表と同じではありません。

説明: プログラムが UPDATE または DELETE WHERE CURRENT OF カーソル・ステートメントを実行しようとしてしましたが、そのステートメントに指定された表名が、カーソルを宣言する SELECT ステートメントに指定された表の名前と一致しませんでした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムを修正して、UPDATE または DELETE ステートメントに指定した表とカーソル宣言に指定した表が同じになるようにしてください。

sqlcode: -509

sqlstate: 42827

SQL0510N 指定されたカーソルに対して、UPDATE または DELETE は許されていません。

説明: 要求された更新または削除処理が許されていない表またはビュー定義に対して、プログラムが UPDATE または DELETE WHERE CURRENT OF カーソル・ステートメントを実行しようとしてしました。たとえば、このエラーは読み取り専用のビューからの削除、またはカーソルが FOR UPDATE 文節とともに定義されていない場合の更新で起きる可能性があります。

SELECT ステートメントに以下が含まれる場合、データベース・マネージャーの表示が読み取り専用 (RO) になります。

- DISTINCT キーワード
- SELECT リスト内の列関数
- GROUP BY または HAVING 文節
- 以下のいずれかの項目を指定する FROM 文節
 - 複数の表またはビュー
 - 読み取り専用のビュー (SYSCAT.SYSVIEWS の READONLY 列が 'Y' に設定されています)
- セット演算子 (UNION ALL 以外)

上記の条件は SELECT ステートメントの副照会には適用されませんので、注意してください。

カーソルが FOR FETCH ONLY 文節とともに宣言されています。

カーソルが未確定で、BLOCKING ALL BIND オプションが指定されています。

カーソルが INSTEAD OF UPDATE (または DELETE) トリガーを含むビューを参照しています。

カーソルは、WITH ROW MOVEMENT 文節で定義され、UPDATE WHERE CURRENT OF CURSOR が試行されたビューを直接的または間接的に参照します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーがステートメントを失敗して、カーソルが読み取り専用、SELECT または VALUES ステートメントに基づいている場合は、そのカーソルに対して、更新または削除ステートメントを発行しないでください。

データベース・マネージャーのステートメントが失敗し、カーソルが読取専用 SELECT または VALUES ステートメントに基づいておらず、FOR FETCH ONLY 文節とともに定義されている場合は、この文節をカーソル定義から取り除くか、更新または削除ステートメントを発行しないでください。

データベース・マネージャーがステートメントを失敗し、カーソルがフェッチ専用、あるいはその定義またはコンテキストから更新可能のどちらであるかを判別できない場合は、BLOCKING NO または BLOCKING UNAMBIG BIND オプションを使用して、プログラムを再バインドしてください。

データベース・マネージャーがステートメントを失敗して、カーソルが INSTEAD OF UPDATE (または DELETE) トリガーを持つビューに基づいている場合は、検索済み UPDATE (または DELETE) ステートメントを使用してください。

データベース・マネージャーがステートメントを失敗して、カーソルが WITH ROW MOVEMENT 文節で定義されたビューを直接的または間接的に参照する場合は、更新ステートメントを発行しないでください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 要求を失敗させたデータ・ソースに対して問題を分離してください (障害の起きたデータ・ソースを識別するための手順については、「問題判別の手引き」を参照してください)。データ・ソースの要求が失敗する場合、データ・ソースの制約事項をチェックして、問題の原因および解決を判別してください。データ・ソースに制約事項がある場合は、そのデータ・ソースの「SQL リファレンス」を参照して、オブジェクトがなぜ更新不可能かを判別してください。

sqlcode: -510

sqlstate: 42828

SQL0511N カーソルで指定された表が変更できないので、FOR UPDATE 文節は使用できません。

説明: SELECT または VALUES ステートメントの結果表は更新できません。

データベース・マネージャーでは、カーソルが、以下を含む VALUES ステートメントまたは SELECT ステートメントに基づいている場合、結果表は読み取り専用になります。

- DISTINCT キーワード
- SELECT リスト内の列関数
- GROUP BY または HAVING 文節
- 以下のいずれかの項目を指定する FROM 文節
 - 複数の表またはビュー
 - 読み取り専用ビュー
 - 型付き表あるいはビューで使用する OUTER 文節
- セット演算子 (UNION ALL 以外)

上記の条件は SELECT ステートメントの副照会には適用されませんので、注意してください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 指定されたように、結果表では更新を実行しないでください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 要求を失敗させたデータ・ソースに対して問題を分離してください (障害の起きたデータ・ソースを識別するための手順については、「問題判別の手引き」を参照してください)。データ・ソースの要求が失敗する場合、データ・ソースの制約事項をチェックして、問題の原因および解決を判別してください。データ・ソースに制約事項がある場合は、そのデータ・ソースの「SQL リファレンス」を参照して、オブジェクトがなぜ更新不可能かを判別してください。

sqlcode: -511

sqlstate: 42829

SQL0513W この SQL ステートメントは、表全体またはビュー全体を変更します。

説明: UPDATE または DELETE ステートメントには、WHERE 文節が入っていないので、このステートメントが実行されると、表またはビューのすべての行が変更されます。

このステートメントは受け付けられません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: すべてのデータ・ソースがこの警告条件を報告するわけではありません。フェデレーテッド・サーバーは条件が存在すればこの警告の発行を試行しますが、フェデレーテッド・サーバーが常にこの条件を検出できる保証はありません。UPDATE/DELETE 操作を全体表または表示からの作用より妨げるためにはこの警告を使用しないでください。

ユーザーの処置: 実際にすべての表またはビューを修正する必要があることを確認してください。

SQL0514N カーソル *name* が、準備された状態ではありません。

説明: このアプリケーション・プログラムが、準備状態ではないカーソル *name* を使用しようとしていました。カーソルが、(1) 準備されることのないステートメント、(2) ROLLBACK によって無効にされたステートメント、または (3) パッケージの明示または暗黙の再バインドによって無効にされたステートメントに関連しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ケース (1) の場合は、カーソルをオープンする前に、*name* の DECLARE CURSOR ステートメントに指定されているステートメントを準備してください。ケース (2) の場合は、カーソルの使用が完了するまで、ROLLBACK を発行しないでください。(3) の場合、カーソルの準備を再発行する必要があります。

sqlcode: -514

sqlstate: 26501

SQL0516N DESCRIBE ステートメントが、準備されたステートメントを指定していません。

説明: DESCRIBE ステートメントのステートメント名は、同一のデータベース・トランザクションで用意されたステートメントを指定する必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメント名が準備されたステートメントを指定していることを確認してください。

sqlcode: -516

sqlstate: 26501

SQL0517N このカーソル *name* は SELECT または VALUES ステートメントでない準備されたステートメントを識別しています。

説明: カーソル *name* は、カーソル宣言に指定されている準備されたステートメントが、SELECT または

VALUES ステートメントではないために、指定された通りに使用できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメント名が、カーソル *name* の PREPARE ステートメントおよび DECLARE CURSOR ステートメントに、正しく指定されていることを確認してください。または、プログラムを修正して、準備された SELECT または VALUES ステートメントのみが、カーソル宣言との関連で使用されるようにしてください。

sqlcode: -517

sqlstate: 07005

SQL0518N EXECUTE ステートメントに指定されたステートメントが、準備された状態ではないか、あるいは SELECT または VALUES ステートメントです。

説明: アプリケーション・プログラムが、(1) 準備されることのないステートメント、(2) ROLLBACK によって無効にされたステートメント、(3) SELECT または VALUES ステートメント、または (4) パッケージの明示または暗黙の再バインドによって無効にされたステートメントの EXECUTE を試みました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ケース (1) の場合は、EXECUTE (実行) を試みる前に、ステートメントを準備してください。ケース (2) の場合は、準備されたステートメントの使用が完了するまで、ROLLBACK を発行しないようにするか、あるいは ROLLBACK の後で、もう一度ステートメントを準備してください。ケース (3) の場合は、ステートメントが SELECT または VALUES ステートメントでないことを確認してください。(4) の場合、カーソルの準備を再発行する必要があります。

sqlcode: -518

sqlstate: 07003

SQL0519N PREPARE ステートメントが、オープン・カーソル *name* の SELECT または VALUES ステートメントを識別していません。

説明: カーソルがすでにオープンされているときに、アプリケーション・プログラムが、示されたカーソルの SELECT または VALUES ステートメントを準備しようとしていました。

ステートメントは準備されません。カーソルは影響を受けません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムを修正

して、オープン済みのカーソルに対して、SELECT または VALUES ステートメントを準備しないようにしてください。

sqlcode: -519

sqlstate: 24506

SQL0525N この SQL ステートメントはバインド時にエラーになったため実行できません。セクション = *section-number* パッケージ = *pkgschema.pkgname* 整合性トークン = **OX***contoken*。

説明: 次のいずれかが起きていていると思われます。

- パッケージがバインドされたときにステートメントにエラーがありましたが、オプション **SQLERROR** (**CONTINUE**) が使用されたためエラーは無視されました。ステートメントにエラーが入っているため、実行できません。
- このステートメントはこのロケーションでは実行可能ステートメントでないか、または DB2 アプリケーション・リクエストによってのみ実行可能である可能性があります。

contoken は 16 進数で指定される点に注意してください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントが指定のロケーションで実行しない場合は、プログラムを訂正し、エラーのステートメントがそのロケーションで実行されないようにしてください。パッケージをプリコンパイル、コンパイル、およびバインド置換してください。この SQL ステートメントが示されたロケーションで実行されることになっている場合は、見つかった問題を訂正して、**ACTION(REPLACE)** を使って **PREP** または **BIND** を再発行してください。パッケージの複数のバージョンがバインドされている場合は、次の **SELECT** ステートメントを発行してどのバージョンがエラーになっているのかを判別してください。 **SELECT** **PKGVERSION** **FROM** **SYSCAT.PACKAGES** ここで **PKGSHEMA='pkgschema'** **AND** **PKGNAME = 'pkgname'** および **HEX(UNIQUE_ID) = 'contoken'**

sqlcode: -525

sqlstate: 51015

SQL0526N 要求された関数は、宣言された一時表に適用されません。

説明: 実行されている SQL ステートメントは、宣言された一時表を参照しています。宣言された一時表は、

与えられているコンテキストでは使用できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを修正し、宣言された一時表にオブジェクトの参照がないことを確認してください。

sqlcode: -526

sqlstate: 42995

SQL0528N 表またはニックネーム *tablename-or-nickname* には、制約 *name* と重複しているユニーク制約が既に存在します。

説明: **UNIQUE** 文節は、**PRIMARY KEY** 文節、別の **UNIQUE** 文節または **PRIMARY KEY** と同一の列リストを使用するか、表 *tablename* にすでに存在している **UNIQUE** 文節を使用します。ユニーク制約の重複は許可されていません。

いずれかが指定または存在している場合は、*name* は制約名になります。制約名が指定されていない場合、*name* は、3 つのピリオドに続く **UNIQUE** 文節の列リストで指定された最初の列名です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 重複 **UNIQUE** 文節を除去するか、あるいは列リストをユニーク制約の一部でない列のセットに変更してください。

sqlcode: -528

sqlstate: 42891

SQL0530N **FOREIGN KEY** *constraint-name* の挿入または更新の値は、親表の親キーの値と同じではありません。

説明: オブジェクト表の外部キーに値を設定しようとしたが、この値は親表の親キーの値と同じではありません。

行を従属表へ挿入する時には、外部キーの挿入値は、関連するリレーションシップの親表の行の親キーの値と等しくしてください。

同様に、外部キーの値を更新する時には、外部キーの更新値は、ステートメント完了時の関係する親表の行の親キーの値と等しくしてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソース上に存在する場合)。

一部のデータ・ソースは、*constraint name* に適切な値を提供しません。この場合、メッセージ・トークンは

“<data source>:UNKNOWN” の形式になります。これは、指定されたデータ・ソースの実際の値が不明であることを示します。

ステートメントは実行できませんでした。オブジェクト表の内容は変更されません。

ユーザーの処置: まず、外部キーの挿入値または更新値を調べた後で、親表の各親キーと比較をして、問題の判別と訂正を行ってください。

sqlcode: -530

sqlstate: 23503

SQL0531N リレーションシップ *constraint-name* の親行の親キーを更新できません。

説明: 操作は親表の行で親キーの更新を試行しましたが、指定行の親キーは *constraint-name* 制約において関連付けされる従属表の従属行を持っていました。

制約 *constraint-name* の更新規則が NO ACTION の時、親行にある親キーの値は、親行にステートメント完了時に従属行がある場合は、更新することはできません。

制約 *constraint-name* の更新規則が RESTRICT の時、親行にある親キーの値は、親行を更新しようとした時に、親行に従属行がある場合は、更新することはできません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソース上に存在する場合)。

一部のデータ・ソースは、*constraint name* に適切な値を提供しません。この場合、メッセージ・トークンは “<data source>:UNKNOWN” の形式になります。これは、指定されたデータ・ソースの実際の値が不明であることを示します。

ステートメントは実行できませんでした。親表の内容は変更されません。

ユーザーの処置: オブジェクト表の親キーおよび従属表の外部キーを調べて親キーの指定行の値が変更されているかを判別してください。問題が明らかにならない場合は、オブジェクト表および従属表の内容を調べて、問題の判別と訂正を行ってください。

sqlcode: -531

sqlstate: 23001, 23504

SQL0532N リレーションシップ *constraint-name* が削除を制限しているため、親行が削除できません。

説明: 親表の指定行の削除する操作をしましたが、指定行の親キーには参照制約 *constraint-name* に従属行があ

り、NO ACTION または RESTRICT の削除規則がリレーションシップに指定されています。

制約 *constraint-name* の削除規則が NO ACTION のとき、従属行がステートメント完了時に親キーにまだ依存している場合は親表の行を削除できません。

制約 *constraint-name* の削除規則が RESTRICT のとき、親行が削除時に従属行を持っている場合は親表の行を削除できません。

削除によって、NO ACTION または RESTRICT の削除規則を持つ従属表で他の行がカスケードして削除される可能性があることに注意してください。このように、制約 *constraint-name* はオリジナル削除操作とは別の表にある可能性があります。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソース上に存在する場合)。

一部のデータ・ソースは、*constraint name* に適切な値を提供しません。上記の場合、実際の値は不明であることを指示する値 (たとえば “unknown”) が該当するフィールドに入ります。

ステートメントは実行できませんでした。表の内容は変更されません。

ユーザーの処置: すべての下位表の削除規則を調べて、問題の判別と訂正を行ってください。関係する特定の表は、リレーションシップ *constraint-name* から判別できます。

sqlcode: -532

sqlstate: 23001, 23504

SQL0533N リレーションシップが全選択の結果を 1 行に制限しているため、INSERT ステートメントは無効です。

説明: 全選択を使用する INSERT 処理が、同じ参照制約内で親と従属である表に、複数行を挿入しようとした。

INSERT 処理の全選択は、1 行以上のデータを返すことはできません。

INSERT ステートメントを実行できませんでした。オブジェクト表の内容は変更されません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソース上に存在する場合)。

ユーザーの処置: 全選択の探索条件を調べて、1 行のデータのみが選択されていることを確認してください。

sqlcode: -533

sqlstate: 21501

SQL0534N 複数行の更新は無効です。

説明: UPDATE 処理が、主キーまたはユニーク索引に組み込まれた列の複数行更新を実行しようとした。

主キーまたはユニーク索引の列の複数行更新はサポートされていません。

UPDATE ステートメントは実行できませんでした。表の内容は変更されません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 制約がフェデレーテッド・サーバーに存在するか (子および親表がフェデレーテッド・サーバーに表として存在する場合)、またはデータ・ソースに存在する (子および親表がデータ・ソースに存在する) 可能性があります。

ユーザーの処置: UPDATE ステートメントの探索条件を、オブジェクト表の 1 行のみを更新するようにしてください。

sqlcode: -534

sqlstate: 21502

SQL0535N 自己参照リレーションシップが削除を 1 行に制限しているので、DELETE ステートメントは無効です。

説明: WHERE 文節付きの DELETE 処理が、RESTRICT または SET NULL 削除規則を持つ参照制約において同じリレーションシップにある親表と従属表から、複数行を削除しようとした。

DELETE 処理の WHERE 文節では、1 行のデータしか選択できません。

DELETE ステートメントは実行できませんでした。オブジェクト表の内容は変更されません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソース上に存在する場合)。

ユーザーの処置: WHERE 文節の探索条件を調べて、1 行のデータのみが選択されていることを確認してください。

注: これは、バージョン 2 以前の DB2 のリリースのみに関する制約です。

sqlcode: -535

sqlstate: 21504

SQL0536N 表 *name* が処理に影響される可能性があるため、DELETE ステートメントは無効です。

説明: 副照会で参照される、示された表を使用する DELETE 処理が実行されようとした。

以下のいずれかの理由で、DELETE ステートメントの副照会内で参照される、示された表が影響される可能性があります。

- CASCADE または SET NULL 削除規則と関係する DELETE のオブジェクト表の従属
- CASCADE または SET NULL 削除規則と関係する別の表の従属と、その表にカスケードしている可能性のある DELETE のオブジェクト表からの削除

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソース上に存在する場合)。

一部のデータ・ソースは、*name* に適切な値を提供しません。上記の場合、実際の値は不明であることを指示する値 (たとえば “unknown”) が該当するフィールドに入ります。

ステートメントを処理できませんでした。

ユーザーの処置: 表が DELETE ステートメントによる影響を受ける可能性がある場合は、DELETE ステートメントの副照会で、表を参照しないでください。

注: このエラーは、バージョン 2 以前の DB2 と DB2 Connect を介してアクセスされるホストにのみ適用されます。

sqlcode: -536

sqlstate: 42914

SQL0537N PRIMARY KEY 文節、FOREIGN KEY 文節、UNIQUE 文節、ORGANIZE BY 文節、PARTITIONING KEY 文節、または機能上の従属関係は、列 *column-name* を複数回識別しています。

説明: 列 *column-name* は、CREATE または ALTER ステートメントの PRIMARY KEY 文節、FOREIGN KEY 文節、UNIQUE 文節、PARTITIONING KEY 文節または機能上の従属関係に複数回出現します。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソース上に存在する場合)。

一部のデータ・ソースは、*column-name* に適切な値を提供しません。上記の場合、実際の値は不明であることを

指示する値 (たとえば “unknown”) が該当するフィールドに入ります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 重複した列名を除去してください。

sqlcode: -537

sqlstate: 42709

SQL0538N FOREIGN KEY *name* は表またはニックネーム *table-name-or-nickname* の親キーの記述と一致していません。

説明: 示された外部キーの定義は、表またはニックネーム *table-name-or-nickname* の親キーの記述と一致していません。

エラーの可能性としては、次のいずれかが考えられます。

- 外部キーの列リストの列数が、親キーの列リストの列数と一致していません。
- 外部キーの列リストの列数が、親表または親ニックネームの主キーの列数と一致していません (親キーの列リストが指定されていません)。
- 対応する列の記述は互換性がありません。対応する列に互換データ・タイプがある (どちらの列も数値、文字ストリング、グラフ、日付/時刻であるか、あるいは同じ特殊タイプである) 場合、列の記述が互換になります。

name は FOREIGN KEY 文節に指定される場合の制約名です。制約名を指定していない場合、*name* は、3 つのピリオドに続く文節に指定された最初の列名です。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 一部のデータ・ソースは、*name* および *table-name-or-nickname* に適切な値を提供しません。上記の場合、実際の値は不明であることを指示する値 (たとえば “unknown”) が該当するフィールドに入ります。

制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソースに存在する場合)。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 外部キーの記述が親キーの記述に一致するようにこのステートメントを訂正してください。

sqlcode: -538

sqlstate: 42830

SQL0539N 表またはニックネーム *name* には、*key-type* キーがありません。

説明: 以下のいずれかが起きました。

- 表またはニックネーム *name* が、FOREIGN KEY 文節内で親表として指定されていますが、その表または主キーを持っていないので、親表として定義できません。
- ALTER TABLE ステートメントはこの表 *name* の FOREIGN KEY を作成しようとしたのですが、この表またはニックネームに主キーがありません。
- ALTER TABLE ステートメントはこの表 *name* の主キーをドロップしようとしたのですが、この表は主キーを持っていません。
- ALTER TABLE ステートメントはこの表 *name* のパーティション・キーをドロップしようとしたのですが、この表はパーティション・キーを持っていません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソース上に存在する場合)。

一部のデータ・ソースは、*name* および *key-type* に適切な値を提供しません。上記の場合、実際の値は不明であることを指示する値 (たとえば “unknown”) が該当するフィールドに入ります。

ステートメントは処理できません。システム・カタログは、参照制約の親表として定義できません。

ユーザーの処置: 参照制約の作成時には、外部キー (制約) を指定する前に、主キーを指定してください。

sqlcode: -539

sqlstate: 42888

SQL0540N 1 次索引または要求されたユニーク索引がないため、*table-name* 表の定義が不完全です。

説明: 指定された表は PRIMARY KEY 文節または UNIQUE 文節で定義されていました。その定義が不完全です。主キーに (1 次索引) および任意の UNIQUE 文節の列 (必須のユニーク索引) に対してユニーク索引が定義されるまでに使用不能となっています。

FOREIGN KEY 文節の表、または SQL 操作ステートメントの表を使用しようとした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 参照する前に、1 次索引または必須のユニーク索引を表で定義してください。

sqlcode: -540

sqlstate: 57001

SQL0541W 参照、主キーまたはユニーク制約 *name* は、重複制約のため、無視されます。

説明: *name* が参照制約を参照する場合、FOREIGN KEY 文節は別の FOREIGN KEY 文節と同じ外部キーと親表、または同じ外部キーと親ニックネームを使用します。

name が主キーまたはユニーク制約を参照する場合、次の状況のいずれかが存在します。

- PRIMARY KEY 文節はこのステートメントの UNIQUE 文節と同じ列のセットを使用します。
- UNIQUE 文節は、このステートメントの PRIMARY KEY 文節または別の UNIQUE 文節と同じ列のセットを使用します。
- 同じ列のセットにある PRIMARY KEY または UNIQUE 制約が、表 *tablename* にすでに存在しています。

指定された場合、*name* は制約名です。制約名を指定しなかった場合、*name* は FOREIGN KEY または UNIQUE 文節の列リストで指定された、3 つのピリオドに続く最初の列名になります。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソース上に存在する場合)。

一部のデータ・ソースは、*name* に適切な値を提供しません。上記の場合、実際の値は不明であることを指示する値 (たとえば “unknown”) が該当するフィールドに入ります。

指示された参照制約またはユニーク制約は作成されませんでした。ステートメントは正常に処理されました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。処理を続行します。

sqlcode: +541

sqlstate: 01543

SQL0542N *name* は NULL 値を含む可能性があるので主キーまたはユニーク・キーの列にすることができません。

説明: PRIMARY KEY 文節または UNIQUE 文節で識別された列 *name* は、NULL 値を許可するように定義されています。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 一部のデータ・ソースは、*name* に適切な値を提供しません。上記の場合、実際の値は不明であることを指示する値 (たと

えば “unknown”) が該当するフィールドに入ります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 列、主キーまたはユニーク・キーの定義を訂正してください。

sqlcode: -542

sqlstate: 42831

SQL0543N チェック制約 *constraint-name* が削除を制限しているために、親表の行が削除できません。

説明: ターゲット表が親表であって、しかも参照制約を使用して、SET NULL の削除規則を持つ従属表に接続されているために、削除処理を実行できません。ただし、従属表にチェック制約が定義されているので、列への null 値の組み込みが制限されます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 外部キー、従属表の削除規則、矛盾するチェック制約を調べてください。相互矛盾がないように、削除規則またはチェック制約を変更してください。

sqlcode: -543

sqlstate: 23511

SQL0544N 制約に違反する行が表に含まれているために、チェック制約 *constraint-name* が追加できません。

説明: 表の少なくとも 1 つの既存の行が、ALTER TABLE ステートメントに追加されるチェック制約に違反しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ALTER TABLE ステートメントに指定されているチェック制約定義および表のデータを調べて、制約の違反が存在する理由を判別してください。制約に違反しないように、チェック制約またはデータを変更してください。

sqlcode: -544

sqlstate: 23512

SQL0545N 行がチェック制約 *constraint-name* を満たしていないために、要求された処理は実行されません。

説明: チェック制約違反は、INSERT または UPDATE 処理で起きる可能性があります。結果の行が、その表のチェック制約定義に違反しました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: データとカタログ・ビュー SYSCAT.CHECKS のチェック制約定義を調べて、INSERT または UPDATE ステートメントが失敗した理由を判別してください。制約に違反しないように、データを変更してください。

sqlcode: -545

sqlstate: 23513

SQL0546N チェック制約 *constraint-name* が無効です。

説明: CREATE TABLE、CREATE NICKNAME、ALTER TABLE、または ALTER NICKNAME ステートメントのチェック制約が、以下の 1 つ以上の理由で無効です。

- 制約定義に副照会が入っている。
- 制約定義に列関数が入っている。
- 制約定義にホスト変数が入っている。
- 制約定義にパラメーター・マーカーが入っている。
- 制約定義に特殊レジスターが入っている。
- 制約定義に可変ユーザー定義関数が入っている。
- 制約定義に外部処理を使用するユーザー定義関数が入っている。
- 制約定義に scratchpad オプションを使用するユーザー定義関数が入っている。
- チェック制約が列定義の一部で、そのチェック条件に、定義されている列以外の列名に対する参照が入っている。
- 制約定義に間接参照操作または Deref 関数が入っており、その有効範囲参照引き数がオブジェクト ID (OID) 列以外になっている。
- 制約定義で TYPE 述部が使用されている。
- 制約定義に SCOPE 文節を指定した CAST が指定されている。
- 機能上の従属関係が、属性 ENFORCED を使って定義されている。
- 機能上の従属関係の子セット列で、NULL 可能列が指定されている。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: エラーの原因に応じて、以下のいずれかを行ってください。

- リストされた項目を入れないように、チェック制約を変更してください。
- 表レベルの制約定義になるように、チェック制約定義を列定義の外側に移動してください。

- 機能上の従属関係が ENFORCED 属性を指定しないようにこの関係を変更してください。
- 機能上の従属関係の子セット列で、NULL 可能列を NULL 不能に変更してください。

sqlcode: -546

sqlstate: 42621

SQL0548N *check-condition-element* で定義されているチェック制約または生成された列が無効です。

説明: CREATE TABLE、CREATE NICKNAME、ALTER TABLE、または ALTER NICKNAME ステートメントのチェック制約が、以下の 1 つ以上の理由で無効です。

- 制約定義に副照会が入っている。
- 制約定義に列関数が入っている。
- 制約定義にホスト変数が入っている。
- 制約定義にパラメーター・マーカーが入っている。
- 制約定義に特殊レジスターが入っている。
- 制約定義に、deterministic 関数ではない関数が入っている。
- 制約定義に外部処理を使用するユーザー定義関数が入っている。
- 制約定義に scratchpad オプションを使用するユーザー定義関数が入っている。
- 定義に、CONTAINS SQL (SQL を含む) または READS SQL DATA (SQL データの読み取り) オプションを使用するユーザー定義関数が入っている。
- 定義に、式に基づく生成された列への参照が入っている。
- チェック制約が列定義の一部で、そのチェック条件に、定義されている列以外の列名に対する参照が入っている。
- 生成された列の定義に、それ自身への参照が入っている。
- 制約定義に間接参照操作または Deref 関数が入っており、その有効範囲参照引き数がオブジェクト ID (OID) 列以外になっている。
- 制約定義で TYPE 述部が使用されている。
- 制約定義に SCOPE 文節を指定した CAST が指定されている。
- 制約または生成された列定義にテキスト検索関数が含まれている。

エラー・メッセージのテキスト内のトークンが、無効な項目をリストしています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: エラーの原因に応じて、以下のいずれかを行ってください。

- リストされた項目を入れないように、チェック制約または生成された列を変更してください。
- 表レベルの制約定義になるように、チェック制約定義を列定義の外側に移動してください。

sqlcode: -548

sqlstate: 42621.

SQL0549N BIND オプション DYNAMICRULES RUN は *object-type2* には無効なため、*statement* ステートメントは、*object-type1 object-name1* に対して許可されません。

説明: プログラムが、実行動作を示すパッケージでのみ動的に準備できるいくつかの SQL ステートメントの 1 つである、示された SQL ステートメントを実行しようとしてしました。この SQL ステートメントは以下のとおりです。

- 動的 GRANT ステートメント
- 動的 REVOKE ステートメント
- 動的 ALTER ステートメント
- 動的 CREATE ステートメント
- 動的 DROP ステートメント
- 動的 COMMENT ON ステートメント
- 動的 RENAME ステートメント
- 動的 SET INTEGRITY ステートメント
- 動的 SET EVENT MONITOR STATE ステートメント

statement

エラーになっている SQL ステートメント

object-type1

PACKAGE または DBRM。DBRM は DRDA 接続でのみ有効です。

object-name1

object-type1 が PACKAGE である場合は、*object-name1* は形式 'location-id.collection-id.package-id' のパッケージの名前です。*object-type1* が DBRM である場合は、*object-name1* は形式 'plan-name DBRM-name' の DBRM の名前です。

object-type2

PACKAGE または PLAN。PLAN は DRDA 接続でのみ有効です。*object-type1* が PACKAGE である場合は、*object-type2* は

PACKAGE または PLAN になります (DYNAMICRULES(BIND) でバインドされる場合)。*object-type1* が DBRM である場合は、*object-type2* は PLAN になります。

SQL ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを行って、エラーを訂正してください。

- SQL ステートメントが組み込まれている場合は、それを除去し、再度アプリケーション・プログラムをプリコンパイルおよびコンパイルして、BIND コマンドを再発行してください。
- 該当する場合は、DYNAMICRULES(RUN) でバインドされるパッケージまたはプランを持つ SQL ステートメントを使用してください。
- SQL ステートメントがバインドされるプランまたはパッケージに対して、REBIND コマンドを DYNAMICRULES(RUN) オプション付きで発行してください。

sqlcode: -549

sqlstate: 42509

SQL0551N *authorization-ID* は、オブジェクト *name* で処理 *operation* を実行する特権を持っていません。

説明: 許可 ID *authorization-ID* が、適切な許可を持たずに、*name* 上で示された *operation* を実行しようとしてしました。

参照制約を持つ表の作成または変更を行っている場合は、このメッセージ (SQLCODE) により、ユーザーが FOREIGN KEY の作成またはドロップを行うための REFERENCES 特権を持っていないことが分かります。この場合は、*operation* が "REFERENCES" で、*name* が、制約が参照するオブジェクトです。

DB2 ユーティリティまたは CLI アプリケーションの実行を試行する場合、データベースを作成したユーザー ID が存在しない、あるいは、要求された特権がないため、DB2 ユーティリティ・プログラムはそのデータベースに再バインドされる必要があります。

このエラーがルーチンの呼び出し中に発生する場合は、許可 ID *authorization-ID* が、SQL パスにある候補のルーチンに対して EXECUTE 特権を持っていません。*name* は、SQL パスにある候補ルーチンの名前です。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: ユーザーが SYSCAT.USEROPTIONS ビューのリモート_pw 列を変更しているときにこのメッセージが返された場合は、そのユーザーは他のユーザーのパスワードの変更を許可さ

れていません。変更処理を行うユーザーは、更新された行の許可 ID 列の値と一致する SYSADM 権限または許可 ID (USER 特殊レジスター内の値) を持つ必要があります。データ・ソースは *authid*、<operation>、そして <name> に対して該当する値を提供しないこともあります。この場合、メッセージ・トークンは “<data source> AUTHID:UNKNOWN”、“UNKNOWN”、および “<data source>:TABLE/VIEW” の形式になります。これは、指定されたデータ・ソースの *authid*、*operation*、および *name* の実際の値が不明であることを示します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: *authorization-ID* に操作を実行するのに必要な許可があるか確認してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この許可は、フェデレーテッド・サーバー、データ・ソース、またはその両方にある可能性があります。

DB2 ユーティリティー・プログラムがデータベースに再バインドされる必要がある場合は、データベース管理者は、データベースへの接続中にインスタンスの *bnd* サブディレクトリーから以下のいずれかの CLP コマンドを発行することによって、これを実行することができます。

- DB2 ユーティリティーの場合は “DB2 bind @db2ubind.lst blocking all grant public”
- CLI の場合は “DB2 bind @db2cli.lst blocking all grant public”

sqlcode: -551

sqlstate: 42501

SQL0552N *authorization-ID* は、操作 *operation* を実行する特権を持っていません。

説明: 許可 ID *authorization-ID* が、適切な許可を持たずに、示された *operation* を実行しようとした。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 一部のデータ・ソースは、*authorization-ID* および <operation> に適切な値を提供しません。この場合、メッセージ・トークンは “<data source> AUTHID:UNKNOWN”、および “UNKNOWN” の形式になります。これは、指定されたデータ・ソースの許可 ID および操作の実際の値が不明であることを示します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: *authorization-ID* が、処理を実行する許可を持っていることを確認してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この許可は、フェデレーテッド・サーバー、データ・ソース、またはその両方にある可能性があります。

sqlcode: -552

sqlstate: 42502

SQL0553N スキーマ名 *schema-name* を持つオブジェクトは、作成できません。

説明: スキーマ名 *schema-name* が無効な理由は、そのスキーマ名が、作成されるオブジェクトのタイプに依存しているためです。

- DB2 パージョン 2 以前のリリースに存在したオブジェクトのタイプ (表、ビュー、索引、パッケージ) は、スキーマ名 SYSCAT、SYSFUN、SYSSTAT または SYSIBM では作成できません。SYS で始まる追加スキーマは将来的に DB2 で排他使用して予約される可能性があるため、スキーマ名を SYS で始めないように、お勧めします。
- DB2 パージョン 2 で始まるオブジェクトのタイプ (ユーザー定義関数、異なるタイプ、トリガー、スキーマ、および別名) は、文字 SYS で始まるスキーマ名では作成できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 有効なスキーマ名を使用するか、または明示スキーマ名を取り除いて、ステートメントを再実行してください。

sqlcode: -553

sqlstate: 42939

SQL0554N 許可 ID はそれ自体に特権を付与できません。

説明: 許可 ID が、特権が与えられる許可 ID リスト内の項目の 1 つであるにもかかわらず、GRANT ステートメントを実行しようとした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: リストから許可 ID を除去してください。

sqlcode: -554

sqlstate: 42502

SQL0555N 許可 ID はそれ自体の特権は取り消せません。

説明: 許可 ID が、特権が取り消される許可 ID リスト内の項目であるにもかかわらず、REVOKE ステートメントを実行しようとした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: リストから許可 ID を除去してください。

sqlcode: -555

sqlstate: 42502

SQL0556N *authorization-ID* はこの特権を持っていないので、*authorization-ID* の特権を取り消す試みは拒否されました。

説明: *authorization-ID* が特権を所有していないので、特権を取り消すことができません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: REVOKE 規則に一致するように REVOKE ステートメントを変更して、ステートメントの再サブミットを行ってください。REVOKE ステートメントが、取り消される特権と、各許可 ID が指定された特権の少なくとも 1 つを所有している許可 ID のリストを、リストしていることを確認してください。

sqlcode: -556

sqlstate: 42504

SQL0557N 指定された特権の組み合わせは、与えることも取り消すこともできません。

説明: 以下のいずれかが起きました。

- GRANT または REVOKE ステートメントに、異なったクラスの特権の組み合わせが入っています。特権はすべて 1 つのクラスでなければなりません。例は DATABASE、PLAN、または TABLE です。
- GRANT ステートメントが、許可されていない特権をビューに付与しようとしてしました。ALTER、INDEX、REFERENCES はビューに付与できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントの訂正と再サブミットを行ってください。

sqlcode: -557

sqlstate: 42852

SQL0558N *authorization-ID* が *control* 権限を保留しているため、*authorization-ID* の特権を取り消す試みは拒否されました。

説明: *authorization-ID* が *control* 特権を保留しています。取り消される特権は *control* 特権では暗黙的であるため、*control* 特権も取り消されない限りこの特権を取り消せません。

control の有効な値は次のとおりです。

- DBADM
- CONTROL

• CREATE NOT FENCED ROUTINE

ステートメントは処理できません。取り消される特権はありません。

ユーザーの処置: 必要に応じて、*control* 特権を取り消してください。

sqlcode: -558

sqlstate: 42504

SQL0562N 指定されたデータベース特権は、PUBLIC (共用) には与えられません。

説明: GRANT ステートメントが、データベース特権を予約済み許可 ID PUBLIC (共用) に与えようとしてしました。DBADM 権限は PUBLIC (共用) に付与することができません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 暗黙関数はサポートされていません。

sqlcode: -562

sqlstate: 42508

SQL0567N *authorization-ID* は無効な許可 ID です。

説明: *authorization-ID* で示されている許可 ID は、以下のいずれかの理由で無効です。

- "SYS"、"sys"、"IBM"、"ibm"、"SQL"、または "sql" で始まっています。
- a から z、A から Z、0 から 9、および 3 つの特殊文字 (#、@、\$) 以外の文字が入っています。
- 区切られており、小文字が入っています。
- GUESTS、ADMINS、USERS、または LOCAL です。
- GRANT または REVOKE ステートメントのキーワード USER または GROUP が先行する PUBLIC です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 無効な許可 ID を訂正してください。

sqlcode: -567

sqlstate: 42602

SQL0569N おそらく *authorization-name* がユーザーとグループの両方をシステムに識別したので、GRANT/REVOKE ステートメントは失敗しました。

説明: GRANT または REVOKE ステートメントは、セキュリティ・ネームスペースでユーザーとグループの

両方を識別する許可名を指定しましたが、ステートメントに USER または GROUP キーワードを明示的に指定していません。従って、ステートメントは未確定になります。DCE セキュリティを使用する場合、USER または GROUP キーワードは常に必須であることを注意してください。

ユーザーの処置: 必要な許可 ID をユニークに識別する USER または GROUP キーワードを明示的に指定するように、ステートメントを変更してください。

sqlcode: -569

sqlstate: 56092

SQL0570W タイプ *object-type* のオブジェクト *object-name* の要求した特権がすべて付与されたわけではありません。

説明: GRANT 操作がタイプ *object-type* のオブジェクト *object-name* で試行されましたが、付与されない特権があります。ステートメントを発行した許可 ID には、GRANT オプションで認められるすべての特権が備わっていないか、あるいは DBADM 権限がありません。

有効な要求された特権はすべて付与されました。

ユーザーの処置: 要求権限を入手し、操作を再試行してください。

sqlcode: +570

sqlstate: 01007

SQL0572N パッケージ *pkgname* は操作不能です。

説明: パッケージ *pkgname* は作動不能とマークされており、使用するためには、その前に (RESOLVE CONSERVATIVE を指定せずに、) 明示的に再バインドする必要があります。このパッケージが依存している 1 つ以上のユーザー定義関数がドロップされているので、このパッケージは使用できません。

ユーザーの処置: REBIND (RESOLVE CONSERVATIVE の指定なし) または BIND コマンドを使って、指定されたパッケージを明示的に再バインドしてください。

sqlcode: -572

sqlstate: 51028

SQL0573N 制約 *name* の参照文節に指定された列リストが、親表または親ニックネーム *table-name* のユニーク制約を識別しません。

説明: *name* によって識別された制約の参照文節で指定された列名のリストが、参照表 *table-name* の主キーまたはユニーク・キーの列名と一致しません。

指定された場合、*name* は制約名です。制約名を指定しなかった場合、*name* は FOREIGN KEY 文節の列リストで指定された、3 つのピリオドが後に続く最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 参照文節の列リストを訂正するか、またはユニーク制約を参照される表またはニックネームに追加してください。

sqlcode: -573

sqlstate: 42890

SQL0574N DEFAULT 値または IDENTITY 属性値は、表 *table-name* の列 *column-name* で有効ではありません。理由コード:
reason-code

説明: 表 *table-name* の列 *column-name* の DEFAULT 値または IDENTITY 属性値は有効ではありません。以下の理由コードが考えられます。

- 1 定数とそのデータ・タイプの定数についての形式に従っていないので、つまり値の長さ、または精度が正しくないか、または関数が間違っただデータ・タイプを戻したので、値が列に割り当て可能ではありません。
- 2 浮動小数点定数が指定され、列が浮動小数点データ・タイプになっていません。
- 3 10 進定数が指定され、非ゼロ桁が列への割り当て時に切り捨てられます。
- 4 値は、16 進定数の X、完全に修飾された関数名、および括弧のような接頭部文字や、ストリングについての引用符を組み込んで 255 バイト以上です。値の有効でないブランクは無視されます。等しくないコード・ページ環境では、データベース・コード・ページのストリングの拡張の結果、値は 255 バイト以上になります。
- 5 USER 特殊レジスターが指定され、文字ストリング・データ・タイプの長さ属性は、8 よりも小さくなります。
- 6 日付時刻特殊レジスター (CURRENT

DATE、CURRENT TIME、または CURRENT TIMESTAMP) が指定され、列のデータ・タイプと一致しません。

- 7 サポートされていない関数が指定されました。指定される関数は、システム生成 cast 関数、または組み込み関数 BLOB、DATE、TIME、または TIMESTAMP の 1 つでなければなりません。
- 8 日時関数の引き数が、string 定数、または対応する日時の特権レジスターではありませんでした。
- 9 システム生成 cast 関数が指定され、列がユーザー定義の異なるタイプとして定義されていませんでした。
- 10 非ゼロの位取りによる値が、ID 列の START WITH または INCREMENT BY オプションに指定されました。
- 11 DEFAULT 値として特権レジスターが指定されており、文字string・データ・タイプの長さ属性が 128 未満です。
- <0 ゼロより小さい理由コードは SQLCODE です。DEFAULT 値指定のエラーは、この SQLCODE に対応するエラー・メッセージのチェックによって判別することができます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 返された理由コードに基づいて、DEFAULT 値または IDENTITY 属性値を訂正してください。

sqlcode: -574

sqlstate: 42894

SQL0575N ビューまたはマテリアライズ照会表 *name* は作動不能とマーク付けされているため、使用できません。

説明: ビューまたはマテリアライズ照会表が従属する表、ビュー、別名、または特権が除去されたため、そのビューまたはマテリアライズ照会表 *name* は作動不能とマーク付けされました。ビューは、以下のいずれでもない SQL ステートメントでは使用できません。

- COMMENT ON
- DROP VIEW または DROP TABLE
- CREATE ALIAS
- CREATE VIEW または CREATE TABLE

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: *name* がビューの場合、作動不能のビ

ューと同じビュー定義を使用する CREATE VIEW ステートメントを発行して、ビューを再作成してください。*name* がマテリアライズ照会表の場合は、作動不能のマテリアライズ照会表定義と同じマテリアライズ照会表の定義を使い、CREATE TABLE ステートメントを発行して、マテリアライズ照会表を再作成してください。

sqlcode: -575

sqlstate: 51024

SQL0576N 反復別名チェーンとなるため、別名 *name* を *name2* に対して作成できません。

説明: *name2* 上の *name* の別名定義は、解決されることのない反復別名チェーンになります。たとえば、「別名 A が、別名 A を参照する別名 B を参照する」ことは、解決されることのない反復別名チェーンです。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: *name* の別名定義を変更するか、または別名チェーンの他のいずれかの別名定義を改訂して、反復チェーンを回避してください。

sqlcode: -576

sqlstate: 42916

SQL0577N ユーザー定義ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) がデータを変更しようとしたが、MODIFIES SQL DATA (SQL データの変更) として定義されていませんでした。

説明: ルーチンの本体の実施に使用されたプログラムが、SQL データを変更することはできません。

ユーザーの処置: データを変更する SQL ステートメントを除去した後で、プログラムを再コンパイルしてください。ルーチンを定義する際に指定された、許可される SQL のレベルを調べてください。

sqlcode: -577

sqlstate: 38002

sqlstate: 42985

SQL0579N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) がデータの読み取りを試行しましたが、このルーチンは READS SQL DATA (SQL データの読み取り) または MODIFIES SQL DATA (SQL データの変更) として定義されていません。

説明: ルーチンの本体のインプリメントに使用されるプログラムが、SQL データの読み取りを許可されていません。

ユーザーの処置: データを読み取る SQL ステートメントを除去した後、プログラムを再コンパイルしてください。ルーチンを定義する際に指定された、許可される SQL のレベルを調べてください。

sqlcode: -579

sqlstate: 38004

sqlstate: 42985

SQL0580N CASE 式の結果式を、すべて NULL にすることはできません。

説明: すべての結果式 (THEN および ELSE キーワードに続く式) がキーワード NULL で指定された CASE 式が、ステートメントに存在します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: キーワード NULL 以外の結果式が少なくとも 1 つ入るように、CASE 式を変更してください。

sqlcode: -580

sqlstate: 42625

SQL0581N CASE 式の結果式のデータ・タイプが、互換ではありません。

説明: 互換でない結果式 (THEN および ELSE キーワードに続く式) を持つ CASE 式が、ステートメントに存在します。

CASE 式のデータ・タイプは、結果式の「結果データ・タイプの規則」を使用して決定されます。結果式のデータ・タイプは、以下のいずれかの理由で、互換でなくなる可能性があります。

- すべてが文字データ・タイプではありません。
- すべてが数値データ・タイプではありません。
- すべてがデータ・データ・タイプではありません。
- すべてが時刻データ・タイプではありません。
- すべてがタイム・スタンプ・データ・タイプではありません。
- すべてが同じユーザー定義の異なるデータ・タイプではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 互換性を持つように、結果式を修正してください。

sqlcode: -581

sqlstate: 42804

SQL0582N VALUES 文節、IN 述部、GROUP BY 文節または ORDER BY 文節の CASE 式には、比較述部、全選択を用いた IN 述部、または EXISTS 述部を組み込むことができません。

説明: CASE 式の検索条件は次のとおりです。

- 比較述部 (SOME、ANY、または ALL を使用)
- 全選択を使用する IN 述部
- EXISTS 述部

さらに、CASE 述部は以下の一部です。

- VALUES 文節
- IN 述部
- GROUP BY 文節または
- ORDER BY 文節

上記の CASE 式はサポートされていません。CASE 式は SQL で書き込まれた関数の一部である可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 比較述部、IN 述部、または EXISTS 述部の使用を、CASE 式から取り除いてください。CASE 式が関数の一部である場合、照会はエラーの原因となる関数を除いて書き込む必要があります。

sqlcode: -582

sqlstate: 42625

SQL0583N deterministic 関数ではないか、または外部アクションを含んでいるため、ルーチン routine-name の使用は無効です。

説明: ルーチン ((関数または方式) routine-name が、deterministic ではないルーチン、または外部アクションを持つルーチンとして定義されています。このタイプのルーチンは、使用されているコンテキストではサポートされていません。無効になるコンテキストは、以下のとおりです。

- BETWEEN 述部の最初のオペランド。
- 単純-case-式の最初の WHEN キーワードの前の式の中。
- GROUP BY 文節の式の中。
- ORDER BY 文節 (外部処理のみ) の式の中。
- ユーザー定義の述部指定、または索引拡張子定義の FILTER 文節の中。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: deterministic ではない、または外部ア

クシオン・ルーチンが使用されるよう意図されている場合、これらの特性のないルーチンに置き換えてください。 *deterministic* ではない、または外部アクション・ルーチンに関連する動作が意図したものである場合は、その意図を明示するステートメントの代替形式を使用してください。

- BETWEEN 述部の代わりに、比較述部の等価組み合わせ (a between b and c の代わりに、a>=b and a<=c) を使用する対応するステートメントを使用してください。
- 単純-when-文節の代わりに、ルーチンが探索条件ごとに指定される探索-when-文節を使用してください。
- *deterministic* ではない、または外部アクション・ルーチンを GROUP BY 文節から除去してください。
deterministic ではない、または外部アクション・ルーチンに基づいた結果の列をグループ化させる場合は、ネストした表の式または共通の表の式を使用し、結果の列としての式で結果の表をまず提供してください。
- ORDER BY 文節から外部アクション・ルーチンを除去してください。照会の一部に列である場合、ORDER BY 文節の式を単一整数または単一列名形式のソート・キーに変更してください。
- *deterministic* ではない、または外部アクション・ルーチンを FILTER 文節から除去してください。

sqlcode: -583

sqlstate: 42845

SQL0584N NULL または DEFAULT の使用は無効です。

説明: DEFAULT は、INSERT または MERGE ステートメントの一部である VALUES 文節内でのみ使用可能です。

INSERT ステートメントの一部でない VALUES 文節は、各列の少なくとも 1 行に NULL 以外の値を持っている必要があります。

DEFAULT を WHERE または HAVING 文節の列名として使用する場合には、これを大文字にして、二重引用符で囲まなければなりません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: DEFAULT は、オブジェクトがニックネームである INSERT ステートメントの VALUES 文節では使用されません。

ユーザーの処置: VALUES 文節の値を、NULL または DEFAULT 以外に置き換えてください。DEFAULT を列名として使用する場合には、これを大文字にして、二重引用符で囲まなければなりません。

sqlcode: -584

sqlstate: 42608

SQL0585N スキーマ名 *schema-name* は、SET *special-register* ステートメントに複数回出現します。

説明: 特殊レジスター *special-register* の SET ステートメントに、スキーマ *schema-name* が複数個組み込まれています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 重複物のある SET ステートメント内のリストを調べてください。スキーマ名を誤って入力したために、たまたま別の入力と重複してしまったにすぎないエラーの場合、スキーマ名を正しいものに訂正してから、ステートメントを再発行してください。入力内容が実際に重複している場合、アクションは不要です。

sqlcode: -585

sqlstate: 42732

SQL0586N *special-register* の全長は、*length* を超えてはなりません。

説明: *special-register* は、SET ステートメントで指定した値よりも短い長さであると定義されています。ストリングの内容に、二重引用符で区切られ、コンマで次のスキーマ名から分離されている各スキーマ名が入っています。特殊レジスター内のすべてのスキーマ名のストリングの全長は、特殊レジスターの最大長を超えてはなりません。SET PATH または SET CURRENT PACKAGE PATH ステートメントを使うと、このメッセージが表示されます。

ステートメントまたはコマンドが処理されません。

ユーザーの処置: スキーマ名を除去して、特殊レジスターの長さに収まるように合計長を削減してください。失敗したステートメントが SET PATH であって、しかもすべてのスキーマ名が必要である場合、いくつかのユーザー定義関数、プロシージャ、メソッド、または特殊タイプを統合して、SQL PATH に必要なスキーマ名を減らす必要があるかもしれません。

sqlcode: -586

sqlstate: 42907

SQL0590N コンテキスト *context-tag* で指定された名前 *name* がユニークではありません。

説明: 名前 *name* がパラメーター、SQL 変数、カーソル、ラベル、または条件として、*context-tag* によって定義されたコンテキストに指定されています。この名前は特定名ではありません。

context-tag が “BEGIN...END” の場合、エラーのコンテキストは動的 SQL コンパウンド・ステートメントです。そうでない場合、エラーのコンテキストはトリガーまたはルーチンであり、*context-tag* はコンパウンド・ステートメントの入ったトリガー名またはルーチン名です。

- *name* がパラメーター名の場合、これはパラメーター・リストとルーチンの EXPRESSION AS 文節内でユニークでなければなりません。
- *name* が SQL 変数名、カーソル名、または条件の場合、これはコンパウンド・ステートメント内でユニークでなければなりません。
- ラベルはコンパウンド・ステートメント内でユニークでなければならず、ネストされたステートメントのラベルとは異なっていなければなりません。

ユーザーの処置: 特定名になるように変更してください。

sqlcode: -590

sqlstate: 42734

SQL0595W 分離レベル *requested-level* が、*escalated-level* にエスカレートされました。

説明: 示された分離レベルは、DB2 ではサポートされていません。DB2 がサポートしている分離レベルの次に高いレベルになりました。

ユーザーの処置: この警告を防ぐには、DB2 がサポートしている分離レベルを指定してください。DB2 は、反復可能読み取り (RR)、読み取り固定 (RS)、カーソル固定 (CS)、非コミット読み取り (UR) の分離レベルをサポートしています。

sqlcode: +595

sqlstate: 01526

SQL0597N DATALINK 値を検索できません。理由コード = *reason-code*

説明: DATALINK 値を検索できません。以下の理由コードが考えられます。

- 01 DB2 Data Links Manager では、DATALINK 値参照ファイルを変更するための書き込みトークン付きで組み込まれた DATALINK 値を、DB2 ユーザーが検索することを許可しません。

ユーザーの処置: 理由コードを基に、以下のようにアクションを実行します。

- 01 DB2 Data Links Manager 管理者に連絡し、このファイルに対する書き込みアクセス権を付与してください。

sqlcode: -0597

sqlstate: 42511

SQL0598W 既存索引 *name* が主キーまたはユニーク・キーの索引として使用されます。

説明: 主キーまたはユニーク・キーを定義する ALTER TABLE 操作には索引が必要で、示された索引が必要な索引と一致しています。

主キーまたはユニーク・キーを作成中に、同じ列のセット (順序は問わない) を主キーまたはユニーク・キーとして、昇順または降順に関係なく識別し、ユニークなものとして識別される場合、索引記述に一致します。

ステートメントは正常に処理されます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

sqlcode: +598

sqlstate: 01550

SQL0599W 長ストリング・データ・タイプにもとづいた異なるタイプに対しては、比較関数が作成されません。

説明: 長ストリング・データ・タイプ (BLOB、CLOB、DBCLOB、LONG VARCHAR、または LONG VARGRAPHIC) にもとづいた異なるタイプに対しては、対応する関数がこれらの組み込みデータ・タイプに対して使用できないために、比較関数が作成されません。

これは警告状況です。ステートメントは正常に処理されます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

sqlcode: +599

sqlstate: 01596

SQL0600 - SQL0699

SQL0600N 重複シグニチャーのため、あるいは既存のルーチンをオーバーライドするため、ルーチン *routine-name* を生成できませんでした。

説明: 同じ名前を持つ他の関数およびシグニチャーがスキーマにすでに存在するため、あるいは方式または関数が既存の方式をオーバーライドするため、CREATE または ALTER 操作中は、システム生成 cast 関数、observer 方式、mutator 方式、または constructor 関数を作成できませんでした。

ユーザーの処置: 競合を起こしているユーザー定義タイプ、属性、cast 関数に他の名前を選択するか、または生成できなかった関数または方式と同じ名前を持つ関数または方式をドロップしてください。

sqlcode: -600

sqlstate: 42710

SQL0601N 作成されるオブジェクト名が、タイプ *type* の既存の名前 *name* と同じです。

説明: CREATE または ALTER ステートメントが、タイプ *type* のオブジェクトが、その名前ですべて存在しているときに、オブジェクト *name* の作成または追加を行おうとしました。

type が FOREIGN KEY、PRIMARY KEY、UNIQUE、または CHECK CONSTRAINT の場合、*name* は、ALTER NICKNAME、ALTER TABLE、CREATE NICKNAME、または CREATE TABLE ステートメントに指定されている制約名であるか、あるいはシステムによって生成されます。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 一部のデータ・ソースは、*name* および *type* メッセージ・トークンに適切な値を提供しません。このような場合、*name* と *type* は次のフォーマットになります: “OBJECT:<data source> TABLE/VIEW” と “UNKNOWN”。これは、指定されたデータ・ソースにある実際の値が不明であることを示しています。

ステートメントは処理できません。新しいオブジェクトは作成されず、既存のオブジェクトは変更も修正もされません。

ユーザーの処置: 既存のオブジェクトをドロップするか、または新しいオブジェクトに別の名前を選択してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: ステートメントが CREATE FUNCTION MAPPING または CREATE TYPE MAPPING ステートメントの場合、ユーザーはタイプ・マッピング名を提供する必要はなく、システムが

自動的にこのマッピングのための特定名を生成します。

sqlcode: -601

sqlstate: 42710

SQL0602N CREATE INDEX または CREATE INDEX EXTENSION ステートメントに指定された列が多すぎます。(最大は 16)

説明: CREATE INDEX ステートメントによって生成される列の数が、データベース・マネージャーの最大値の 16 を超えています。索引が型付き表に定義された場合は、指定された列の最大数を 15 に減らすための追加オーバーヘッドがあります。

CREATE INDEX EXTENSION ステートメントの場合、GENERATE KEY 関数は、索引内で許可されている最大 16 列を超えた列数を返します。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 他のデータ・ソースの制限が異なります。制限を超えている可能性があります。この問題はフェデレーテッド・サーバーで検出されるか、またはデータ・ソースで検出される可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 列数の限界の 16 に適合するように、索引定義を変更してください。CREATE INDEX EXTENSION ステートメントの場合、異なる GENERATE KEY 関数を指定するか、または少ない列を返すよう関数を再定義してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 索引定義を変更して、データ・ソースの列数制限に適合するようにしてください。

sqlcode: -602

sqlstate: 54008

SQL0603N 表に、識別された列の値に対して重複する行が含まれているために、ユニーク索引は作成できません。

説明: CREATE INDEX ステートメントに定義されている索引は、指定された表が、識別された列の値を重複する行をすでに含んでいるために、ユニークな索引として作成されませんでした。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースによって検出されます。

ステートメントは処理できません。指定された索引は作成されません。

ユーザーの処置: データを調査して、重複データが有効であるかどうかを判断してください。または、非 UNIQUE 索引を作成することを考慮してください。

sqlcode: -603

sqlstate: 23515

SQL0604N 列の長さ、精度、または位取り属性、特殊タイプ、構造化タイプ、構造化タイプの属性、関数、あるいはタイプ・マッピング *data-item* が無効です。

説明: CREATE または ALTER ステートメントのデータ・タイプ指定、または CAST 指定にエラーがあります。無効な長さ、精度、または位取り属性が指定されている可能性があるか、あるいはこのコンテキスト内ではデータ・タイプ自体が正しくないか、または許されていない可能性があります。エラーのロケーションは *data-item* によって、以下のように示されます。

- CREATE または ALTER TABLE ステートメントの場合、*data-item* はエラーを含んでいる列の名前か、またはエラーを含んでいるデータ・タイプを示します。列データ・タイプが構造化タイプであれば、明示的または暗黙的 INLINE LENGTH 値は少なくとも 292 で、32677 を超えることはできません。
- CREATE FUNCTION ステートメントの場合、*data-item* は、ステートメントの問題の領域を識別するトークンです。たとえば、"PARAMETER 2"、"RETURNS"、または "CAST FROM" です。場合によっては、エラーのあるデータ・タイプになる可能性もあります。
- CREATE DISTINCT TYPE ステートメントの場合、*data-item* は定義されるタイプの名前か、またはエラーを含んでいるソース・データ・タイプの名前を示します。
- CREATE または ALTER TYPE ステートメントの場合、*data-item* はエラーを含んでいる属性のタイプ、またはインライン長の値が誤っている構造化タイプの名前を示します。インライン長を 292 よりも、また構造化タイプの constructor 関数によって返されたサイズよりも小さくすることはできません。
- CAST(式 AS データ・タイプ) の場合、*data-item* は "CAST" またはエラーのあるデータ・タイプです。
- 反転タイプのマッピングの場合、リモート・データ・タイプに [p..p] 式を使用することはできません。たとえば、以下のステートメント (反転タイプ・マッピング) は誤っています。

```
CREATE TYPE MAPPING tm1
FROM SERVER drdasvr
TYPE CHAR([1..255])
TO SYSIBM.VARCHAR
```

これに対して、以下のステートメント (順方向タイプ・マッピング) は正しいステートメントです。

```
CREATE TYPE MAPPING tm1
TO SERVER drdasvr
TYPE CHAR([1..255])
FROM SYSIBM.VARCHAR
```

フェデレーテッド・システム・ユーザー: ステートメントが CREATE TYPE MAPPING ステートメントの場合に、ローカル・データ・タイプまたはリモート・データ・タイプのいずれかのタイプ属性が無効なタイプ・マッピングの作成が試行されました。理由として考えられるのは、以下のとおりです。

- ローカルな長さ/精度が 0 あるいは負の値にセットされている。
- 長さ/精度属性が、日付/時間/タイム・スタンプ、浮動、または整数のようなデータ・タイプに対して指定されている。
- 位取り属性が、文字、日付/時間/タイム・スタンプ、浮動、または整数のようなデータ・タイプに対して指定されている。
- FOR BIT DATA 文節が、文字以外のタイプに対して指定されている。
- リモート精度が、Informix 日付以外のリモート・データ・タイプに対して 0 にセットされている。
- 無効なフィールド修飾子が Informix 日付タイプに対する入力マッピングで使用されている。
- 終了値が、精度/位取りの範囲での開始値より小さくなっている。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 構文を訂正し、再試行してください。

sqlcode: -604

sqlstate: 42611

SQL0605W 必要な記述を持つ索引 *name* がすでに存在しているため、その索引は作成されませんでした。

説明: CREATE INDEX 処理が新しい索引を作成しようとしたが、示された索引が必要な索引と一致しません。

CREATE INDEX の場合、同じ列を同じ昇順または降順の指定で識別する場合には 2 つの索引の記述は一致し、この 2 つの索引は両方がユニークな索引として指定されるか、または新しい索引が非ユニークな索引として指定されます。また、同じまたは逆の昇順または降順指定で同じ列を識別する場合は、2 つの索引の記述は一致し、少なくとも 1 つの記述に ALLOW REVERSE SCANS パラメーターが含まれます。

新しい索引は作成されませんでした。

ユーザーの処置: 既存の索引 *name* が適切な索引である限り、アクションは必要ありません。たとえば、既存の索引が反転スキャンを許可しておらず、必要な索引がそれを許可している場合、既存の索引 *name* は適切な索引ではありません (その逆も同じです)。この場合、索引 *name* は必要な索引が作成される前にドロップされなければなりません。

sqlcode: +605

sqlstate: 01550

SQL0606N COMMENT ON または LABEL ON ステートメントが、指定された表または列が *owner* によって所有されていないために失敗しました。

説明: 存在しない、またはメッセージ・テキストで示された所有者によって所有されていない表または列で、コメントまたはラベルに対する試行が行われました。

SQL ステートメントの処理は終了しました。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正してください。もう一度やり直してください。

sqlcode: -606

sqlstate: 42505

SQL0607N *operation* は、システム・オブジェクトに定義されていません。

説明: SQL ステートメントに指定されている *operation* は、システム・オブジェクトでは実行できません。以下のいずれかが、試みられました。

- システム・カタログ表、組み込み関数、または組み込みデータ・タイプなどのシステム所有オブジェクトの DROP または ALTER。
- システム所有組み込み関数の COMMENT ON。
- システム・カタログ表の INSERT または DELETE。
- システム・カタログ表での UPDATE ディレクトリ。システム・カタログ表のサブセットの一部の列は更新可能です。これらのカタログ表の UPDATE 操作では、SYSSTAT スキーマの更新可能なビューを使用する必要があります。更新可能なカタログ・ビュー (SYSSTAT ビュー) の記述については、「SQL リファレンス」を参照してください。
- システム表での索引の CREATE または DROP。
- システム表でのトリガーの CREATE。
- FOR UPDATE 文節の入った SELECT ステートメントの FROM 文節で更新不可のシステム表が識別され

ました。更新可能なシステム・カタログのリストについては、「SQL リファレンス」を参照してください。

- システム表スペースの DROP または ALTER。
- システムデータベース・パーティション・グループの DROP または ALTER。
- IBMCATGROUP または IBMTEMPGROUP データベース・パーティション・グループの REDISTRIBUTE。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 更新可能な SYSSTAT ビューを使って更新可能なシステム・カタログ表の列を除き、システム・オブジェクトの変更を試行しないでください。詳細については、「SQL リファレンス」を参照してください。

sqlcode: -607

sqlstate: 42832

SQL0612N *name* は重複名です。

説明: 同じ名前のステートメントが発行され、重複が許可されていない箇所で数回にわたって現れました。これらの名前の現れる場所は、ステートメントのタイプによって異なります。

- CREATE TABLE ステートメントは、2 つの列に定義された同じ列名を持つことができません。
- CREATE VIEW ステートメントまたは共通表式定義は、列名リストに同じ列名を持つことができません。列名リストを指定しない場合は、ビューの選択リストの列の列名をユニークにする必要があります。
- ALTER TABLE ステートメントは、すでに存在する列の名前、または追加する別の列と同じ名前を使用して、列を表に追加することはできません。さらに、列名は、単一 ALTER TABLE ステートメントで、1 つのみの ADD または ALTER COLUMN 文節に参照することができます。
- CREATE INDEX は、索引キーまたは索引の INCLUDE 列の一部として複数回指定されている列名を持つことはできません。
- CREATE TRIGGER は、更新トリガーを活動化する列のリストに複数回指定されている列名を持つことはできません。
- ステートメントの CREATE TABLE OF は REF IS 列および構造化タイプの任意の属性に定義された名前と同じ名前を持つことはできません。

- CREATE TYPE ステートメントは、2 つの属性に定義された同じ名前を持つことができません。属性名はタイプとすべてのスーパータイプにおいて、ユニークでなければなりません。
- ALTER TYPE ステートメントは、タイプまたはサブタイプで別の追加属性としてすでに存在している属性の名前を使用して、構造化タイプに属性を追加することはできません。さらに、属性の名前は、構造化タイプが作成した任意の表の REF IS 列と同じでない可能性があります。さらに、属性名は、単一 ALTER TYPE ステートメントで、1 つのみの ADD または DROP ATTRIBUTE 文節に参照することができます。
- CREATE INDEX EXTENSION ステートメントは、2 つのパラメーターに定義された同じ名前を持つことができません。
- 列名は、単一 ALTER NICKNAME ステートメントの 1 つの ALTER COLUMN 文節でのみ参照できます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントのタイプとして適切な特定名を指定してください。

sqlcode: -612

sqlstate: 42711

SQL0613N *name* によって識別された主キーまたはユニーク・キーが長すぎるか列が多すぎます。

説明: *name* によって識別された PRIMARY KEY 文節または UNIQUE 文節の列の内部長の合計が 1024 を超えているか、列の数が最大の 16 を超えています。また、主キーまたはユニーク・キーは、LONG VARCHAR 列を使用して定義できません。型付き表で主キーまたはユニーク制約が定義された場合は、指定された列の最大数を 15 に減らし、長さを 1020 に制限する追加の索引オーバーヘッドがあります。

指定された場合、*name* は主キーまたはユニーク制約の制約名です。制約名が指定されなかった場合は、*name* が 3 つのピリオドが後に続く主キーまたはユニーク制約文節に指定された最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 主キーまたは列の限界である 16 およびキー長の限界に一致するように、1 つ以上のキー列を削除して、主キー定義を変更してください。

sqlcode: -613

sqlstate: 54008

SQL0614N 指定された列を結合した長さが長すぎるため、索引または索引拡張子 *index-name* は作成されないか、または変更されません。

説明: キー列の内部長の合計が 1024 を超えたため、索引は作成または変更できませんでした。また、LONG VARCHAR、LONG VARGRAPHIC、または LOB 列を使用する索引は作成できません。索引が型付き表で定義された場合は、最大長を 4 バイトまで減らす追加の索引オーバーヘッドがあります。索引は、1 つまたはそれ以上の列のデータ・タイプを変更する ALTER TABLE または ALTER NICKNAME ステートメントによって変更可能です。

GENERATE KEY 関数によって返された列の合計が 1024 を超えたため、索引拡張子を作成できませんでした。

ステートメントは処理できません。示されている索引または索引拡張子が作成されなかったか、または表またはニックネームを変更できませんでした。

ユーザーの処置: 索引定義を修正するか、または列を変更するには、1 つまたはそれ以上のキー列を除去して、キーの長さを許容最大長まで減らしてください。索引拡張子定義の場合、異なる GENERATE KEY 関数を指定するか、または返される行の長さが減るよう関数を再定義してください。

sqlcode: -614

sqlstate: 54008

SQL0615N 同じアプリケーション処理で使用されているため、タイプ *object-type* のオブジェクト *object-name* をドロップできません。

説明: 使用中である場合、オブジェクトの DROP ステートメントを出すことはできません。

ステートメントは処理できません。このオブジェクトはドロップされません。

ユーザーの処置: オブジェクト *object-name* に直接的、または間接的に依存するカーソルをクローズし、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -615

sqlstate: 55006

SQL0620N CREATE TABLE ステートメントが、*user-id* に専用の、255 より少ない表を持つリカバリー可能な *dbspace* がないために失敗しました。

説明: *dbspace* 名が CREATE TABLE ステートメントで指定されていないため、データベース・マネージャー

は、*user-id* が所有する専用 DB スペースを見つけようとしてきました。このメッセージは、次のいずれかの条件のもとで表示されます。

1. DB2 (VM データベース版) で検出された *user-id* の専用 DB スペースがありません。
2. 1 つ以上の専用 DB スペースが *user-id* で見つかりましたが、それぞれに 255 の表が入っています。
3. 専用 DB スペースが、リカバー不能ストレージ・プールに配置されました。リカバー可能ストレージ・プールに存在する専用 DB スペースのみが、CREATE TABLE ステートメントが *dbspace* 名を指定しなかった場合に使用可能になります。

SQL ステートメントの処理は終了しました。

ユーザーの処置: 以下は、上記の 3 つの条件に対する提案です。

1. リカバー可能ストレージ・プールで専用 DB スペースを獲得します。データベース管理者の援助が必要になるかもしれません。
2. リカバー可能ストレージ・プールの専用 DB スペースにある表をドロップして項目を解放するか、または上記の (1) で示されたアクションを行います。
3. 表をリカバー不能ストレージ・プールの既存の DB スペースに作成したい場合は、CREATE TABLE コマンドで DB スペース名を指定します。それ以外の場合は、上記の (1) で示されたアクションを行ってください。

その後、CREATE TABLE ステートメントを再実行します。

該当する場合は、ユーザーの専用 DB スペースを獲得してください。

sqlcode: -620

sqlstate: 57022

SQL0622N 文節 *clause* は、このデータベースには無効です。

説明: 示された文節は、このデータベースで定義された特性と互換性がないため、無効です。

以下の理由が考えられます。

- Unicode コード・ページを使用して作成されたデータベースに接続する場合は、CCSID ASCII および PARAMETER CCSID ASCII を指定できません。
- Unicode 以外のコード・ページを使用して作成されたデータベースに接続する場合は、CCSID UNICODE

および PARAMETER CCSID UNICODE を指定できません。最初に、代替照合シーケンスをデータベース構成に指定してください。

- Unicode 以外のコード・ページを使用して作成されたデータベースに接続する場合は、CCSID UNICODE または PARAMETER CCSID UNICODE を指定できません。
- FOR SBCS DATA は、単一バイト・コード・ページを使用して作成されたデータベースに接続する場合にのみ指定できます。
- FOR MIXED DATA は、2 バイトまたは Unicode コード・ページを使用して作成されたデータベースに接続する場合にのみ指定できます。
- アプリケーションが現在接続しているデータベースの名前と一致しないデータベース名を使用して、IN *database-name.table-space-name* または IN DATABASE *database-name* 文節が指定されました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 文節を変更または除去して、SQL ステートメントを再発行してください。

Unicode 以外のデータベースで Unicode オブジェクトを許可するには、データベース構成を更新し、代替照合シーケンス (ALT_COLLATE) を指定してください。

sqlcode: -622

sqlstate: 56031

SQL0623N クラスタリング索引はすでに *name* 表で存在します。

説明: CREATE INDEX ステートメントは 2 番目のクラスタリング索引を指定の表に作成します。与えられた表には 1 つのみのクラスタリング索引が有効です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 既存のクラスタリング索引の ID と妥当性検査を *name* 表でチェックしてください。索引を CLUSTER 属性なしで作成することを考慮してください。

sqlcode: -623

sqlstate: 55012

SQL0624N 表 *name* はすでに *key-type* キーを持っています。

説明: 主キーまたはパーティション・キーを、示された表がすでに持っているため ALTER TABLE ステートメントに定義することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 表は複数の主キーまたはパーティション・キーを持つことができません。

sqlcode: -624

sqlstate: 42889

SQL0628N *clause-type* を含む、複数のキーワードまたは矛盾するキーワードが存在します。

説明: ステートメントについて、この状態が診断されるさまざまな理由が存在します。 *clause-type* の値によって示されていることが起きたことは確かです。考慮すべき可能性は、以下のとおりです。

- キーワードが、他のキーワードと同じステートメントに指定されていない可能性があります。
- キーワードが、指定されている順序が強制ではないキーワードの順序の一部である可能性があります。このような順序のキーワードは、指定されていることも否定するキーワードとともに指定されている可能性があります。
- キーワードが、別の関連値で、複数回出現する可能性があります。
- キーワードは、別の特定のキーワードが指定されていない同じステートメントでこのキーワードの指定を必要とする可能性があります。
- オブジェクトを変更するときに、オブジェクトの既存のプロパティと矛盾するキーワードが指定されました。

ユーザーの処置: ステートメントが、そのステートメントに定義された構文と規則に一致していることをチェックしてください。重複または矛盾するキーワードの無効な分を訂正してください。

sqlcode: -628

sqlstate: 42613

SQL0629N **FOREIGN KEY** *name* のいずれの列にも **NULL** 値を割り当てられないため、**SET NULL** は指定できません。

説明: 示された **FOREIGN KEY** 文節の **SET NULL** オプションは、キー列が **NULL** 値への割り当てを許可しないため無効です。

FOREIGN KEY 文節で指定すると、*name* は制約名になります。制約名を指定しなかった場合、*name* は **FOREIGN KEY** 文節の列リストで指定された、3 つのピリオドが後に続く最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: キー列を変更して **NULL** 値への割り

当てを許可するか、または削除規則を変更してください。

sqlcode: -629

sqlstate: 42834

SQL0631N **FOREIGN KEY** *name* が長すぎるか、または列の数が多すぎます。

説明: **CREATE TABLE** ステートメントの **FOREIGN KEY** 文節で識別された列の内部長の合計が 1024 を超えているか、または識別された列の数が 16 を超えています。また、外部キーは、**LONG VARCHAR** 列では定義できません。

FOREIGN KEY 文節で指定すると、*name* は制約名になります。制約名を指定しなかった場合、*name* は **FOREIGN KEY** 文節の列リストで指定された、3 つのピリオドが後に続く最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 外部キー定義を修正するには、1 つ以上のキー列を削除することによって、列の限界である 16 およびキーの長さの制限に合うようにしてください。

sqlcode: -631

sqlstate: 54008

SQL0632N 削除規則制限により、表 *table-name* の従属表として、表が定義できないため、**FOREIGN KEY** *name* は無効です。(理由コード = *reason-code*)

説明: 以下のいずれかの理由コードのため、**CREATE TABLE** または **ALTER TABLE** ステートメントのオブジェクト表が、表 *table-name* の従属表として定義することができないので、参照制約は定義できません。

- (01) リレーションシップが自己参照であり、**SET NULL** 削除規則を持つ自己参照リレーションシップはすでに存在しています。
- (02) リレーションシップが、それ自体に連結削除している 2 つ以上の表のサイクルを構成しています (サイクルの他のすべての削除規則は **CASCADE** になります)。
- (03) リレーションシップが、複数のリレーションシップを通して、表を示された表に連結削除しており、既存のリレーションシップの削除規則が **SET NULL** です。

エラーの原因は、**CREATE TABLE** または **ALTER TABLE** ステートメント内の **FOREIGN KEY** 文節に指

定されている削除規則ではなく、既存のリレーションシップの削除規則にあります。

FOREIGN KEY 文節で指定すると、*name* は制約名になります。制約名を指定しなかった場合、*name* は FOREIGN KEY 文節の列リストで指定された、3 つのピリオドが後に続く最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 可能であれば、CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントから特定の FOREIGN KEY 文節を取り除いてください。

sqlcode: -632

sqlstate: 42915

SQL0633N FOREIGN KEY *name* の削除規則は、*delete-rule* でなければなりません。(理由コード = *reason-code*)

説明: CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節内に指定された削除規則が無効です。以下の理由コードのために、示された削除規則が必要です。

- (01) 参照制約が自己参照で、既存の自己参照制約が示された削除規則 (NO ACTION、RESTRICT または CASCADE) を持っています。
- (02) 参照制約が自己参照で、表が CASCADE 削除規則とのリレーションシップにある従属表です。
- (03) リレーションシップが、複数のリレーションシップを通して表を同一表に連結削除しており、このようなりレーションシップは、同じ削除規則 (NO ACTION、RESTRICT または CASCADE) を持つ必要があります。

FOREIGN KEY 文節で指定すると、*name* は制約名になります。制約名を指定しなかった場合、*name* は FOREIGN KEY 文節の列リストで指定された、3 つのピリオドが後に続く最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 可能ならば、削除規則を変更してください。

sqlcode: -633

sqlstate: 42915

SQL0634N FOREIGN KEY *name* の削除規則は、CASCADE であってはなりません。(理由コード = *reason-code*)

説明: CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節で指定された CASCADE 削除規則が、以下の理由コードのいずれかのために無効です。

- (01) SET NULL、NO ACTION または RESTRICT の削除規則を持つ自己参照制約が存在します。
- (02) リレーションシップが、表をそれ自体に連結削除しているサイクルを構成します。サイクル内の既存の削除規則の 1 つが CASCADE ではないので、削除規則が CASCADE でない場合は、このリレーションシップが定義できる可能性があります。
- (03) リレーションシップが、異なる削除規則または SET NULL に等しい削除規則を持つ複数のパスを通して、別の表を同一表に連結削除しています。

FOREIGN KEY 文節で指定すると、*name* は制約名になります。制約名を指定しなかった場合、*name* は FOREIGN KEY 文節の列リストで指定された、3 つのピリオドが後に続く最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 可能ならば、削除規則を変更してください。

sqlcode: -634

sqlstate: 42915

SQL0637N キーワード *keyword* の使用法が無効です。

説明: SQL ステートメントに、示されたキーワードを持つ重複または競合指定の文節が含まれます。例:

- DEFAULT、UNIQUE、および PRIMARY は列定義で一度しか指定できません。
- UNIQUE および PRIMARY を同じ列定義で両方指定することはできません。
- PRIMARY は CREATE TABLE ステートメントで一度しか指定できません。
- PREPARE ステートメントで指定される attribute-string ではオプションを複数回指定できません。または競合するオプションがあります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 重複または競合指定の文節を訂正してください。

sqlcode: -637

sqlstate: 42614

SQL0638N 列定義が指定されていないので、表 *name* が作成できません。

説明: CREATE TABLE ステートメントに、列定義が入っていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 1 つ以上の列定義をステートメントに追加してください。

sqlcode: -638

sqlstate: 42601

SQL0644N ステートメント *statement-type* のキーワード *keyword* に指定された値が無効です。

説明: *statement-type* の記述で許可されているとおりのキーワード *keyword* の後に無効な値があります。数値の場合は、値が定義された範囲外にある可能性があります。その他のタイプの場合は、値が有効な値の定義セットにありません。

ユーザーの処置: 参照資料から、*statement-type* の有効な値を判別して、適切な変更を行ってください。

sqlcode: -644

sqlstate: 42615

SQL0647N バッファーストック *bufferpool-name* は現在アクティブではありません。

説明: バッファーストック *bufferpool-name* は現在のデータベース環境ではアクティブになっていません。同じページ・サイズの別のバッファーストックを検出しようとしたのですが、現在のデータベース環境ではこのようなバッファーストックがアクティブになっていません。バッファーストック *bufferpool-name* は最近定義されましたが、まだアクティブではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 要求されたバッファーストックをアクティブにするには、データベースを停止して、開始しなおしてください。

sqlcode: -647

sqlstate: 57003

SQL0648N 表 *owner1.table-name1* が、複数のパスを介した表 *owner2.table-name2* への連結を削除されるため、外部キーは定義できません。理由コード = *reason-code*。

説明: 以下のいずれかの理由コード = *reason-code* のために外部キーを定義できません。

01 このリレーションシップによって、表 *owner1.table-name1* は、SET NULL の同じ削除規則で複数のパスを介して表 *owner2.table-name2* に連結削除されます。

02 このリレーションシップによって、表 *owner1.table-name1* は、異なる削除規則で複数のパスを介して表 *owner2.table-name2* に連結削除されます。

SQL ステートメントの処理は終了しました。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正してください。もう一度やり直してください。

sqlcode: -648

sqlstate: 42915

SQL0658N オブジェクト *name* は、明示的にドロップまたは変更できません。

説明: ID *name* は以下のいずれかを示しています。

- 特殊タイプでの使用を目的としてシステムによって作成されたため、DROP ステートメントではドロップできない cast 関数または比較関数
- 構造化タイプでの使用を目的としてシステムによって作成されたため、ALTER TYPE 方式ではドロップできない方式
- SQL プロシージャでの使用を目的としてシステムによって作成されたため、DROP ステートメントではドロップできないパッケージ。整合性トークン (または *unique_id*) は、“*pkgschema.pkgname 0Xcontoken*” の形式のパッケージ名の一部として 16 進数で指定されています。
- LANGUAGE SQL を使って定義されているため変更できないルーチン

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置:

- 関数 *name* は、この関数の定義の原因となった特殊タイプまたは構造型をドロップすることでしかドロップできません。特殊タイプ名は、関数の名前、あるいは関数に対するパラメーターのタイプのいずれかに対応します。

- 方式 *name* は、方式を定義した構造化タイプをドロップすることによってのみドロップできます。方式名は、構造化タイプの属性名に対応しています。
- パッケージ *name* は、パッケージを定義した SQL プロシージャをドロップすることによってのみドロップできます。SQL プロシージャの特定名は、DSHEMA と DNAME を SYSIBM.SYSDEPENDENCIES カタログ表から検索して見つけることができます。この表の中で、BSHEMA、BNAME、および BUNIQUE_ID は *name* の関連する部分に一致し、BTYPE は 'K' で DTYPE は 'L' です。整合性トークン (または unique_id) は、同じスキーマと名前を共有するパッケージ・バージョンごとに区別されている必要があります。
- このルーチン *name* を変更するには、ルーチンをドロップして、再定義する必要があります。

sqlcode: -658

sqlstate: 42917

SQL0659N 表オブジェクトの最大サイズを超えました。

説明: 表を構成する 1 つ以上のオブジェクトが、最大サイズに達しました。表を構成するストレージ・オブジェクトは、以下のとおりです。

- データ: これは、基本列データが格納される場所です。
- 索引: これは、表のすべての索引が格納される場所です。
- 長いデータ: これは、LONG VARCHAR と LONG VARGRAPHIC 列データが格納される場所です。
- Lob/Lob 割り振り: これは、BLOB、CLOB、DBCLOB 列データ、および制御情報が格納される場所です。

ストレージ・オブジェクトは最大サイズまで大きくなると、それ以上は拡張できません。

ユーザーの処置: オブジェクト内の既存のスペースを、新しいデータが格納できるようにするには、以下のアクションが必要になる可能性があります。

- 表を再編成してください。
- 表から不必要な行を削除してください。
- 表から索引をドロップしてください。
- データ量を減らすために、行を更新してください (未使用ストレージを再利用するために、このアクションの後に REORG が必要になる可能性があります)。

sqlcode: -659

sqlstate: 54032

SQL0667N 親表の親キーで検索できない外部キーの値が表の行に入っているため、FOREIGN KEY *name* を、作成することはできません。

説明: 変更された表が親表の親キーに一致しない外部キーがある行に少なくとも 1 つ入っているため、指示された外部キーの定義が失敗しました。

指定された場合、*name* は制約名です。制約名を指定しなかった場合、*name* は FOREIGN KEY 文節の列リストで指定された、3 つのピリオドが後に続く最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。指定した表は変更されません。

ユーザーの処置: 誤りのある表の行を取り除いて、外部キーを定義してください。

sqlcode: -667

sqlstate: 23520

SQL0668N 理由コード *reason-code* のため、表 *table-name* に対する操作は許可されません。

説明: 表 *table-name* へのアクセスは制限されています。原因は、次の理由コード *reason-code* に基づいています。

- 表がチェック・ペンディング状態にある。表の健全性が強制されておらず、表の内容が無効である可能性があります。従属表がチェック・ペンディング状態である場合は、チェック・ペンディング状態でない親表または基本表に対する操作も、このエラーを受け取る可能性があります。
- 表がデータ移動なしの状態にある。この状態のときには、データ移動の原因となる操作は許可されません。データ移動操作には、REDISTRIBUTE、パーティション・キーの更新、多ディメンション・クラスタリング・キーの更新、および REORG TABLE などがあります。
- 表がロード・ペンディング状態にある。この表に対する直前の LOAD 試行が失敗しました。この LOAD 操作が再始動されるか、終了されるまで、表へのアクセスは許可されません。
- 表が読み取り専用状態にある。この状態は、オンライン LOAD 処理 (READ ACCESS オプ

ションを指定した LOAD INSERT) 中、またはオンライン LOAD 操作後で、SET INTEGRITY ステートメントを使ってすべての制約が表の新しく付加された部分で妥当性検査される前に発生することがあります。この表に対する更新アクティビティーは許可されません。

- 5 表がロード中の状態にある。現在この表に対して LOAD ユーティリティーの操作が実行中であり、この LOAD が完了するまではアクセスは許可されません。
- 6 ニックネームを参照するマテリアライズ照会表は ESE 内では更新されません。

ユーザーの処置:

- 1 表 *table-name* に対して IMMEDIATE CHECKED オプションを指定して SET INTEGRITY ステートメントを実行し、表をチェック・ペンディング状態から抜け出させます。ユーザーが保守するマテリアライズ照会表では、IMMEDIATE CHECKED ではなく IMMEDIATE UNCHECKED オプションを指定して、ステートメントを実行してください。
- 2 従属即時マテリアライズ照会表と表 *table-name* のステージング表に対して REFRESH TABLE ステートメントを実行します。これらの従属即時マテリアライズ照会表とステージング表の内容は、直前の LOAD INSERT 操作を通じて、*table-name* の付加データから増分的に保守することができます。
- 3 直前に失敗したこの表に対する LOAD 操作を、RESTART または TERMINATE オプションを指定して LOAD を発行し、再始動または終了します。
- 4 LOAD QUERY コマンドを発行して、表がロード中かどうかをチェックします。ロード中の場合は、LOAD ユーティリティーが完了するまで待機するか、または必要に応じて、直前に失敗した LOAD 操作を再始動または終了してください。LOAD が現在進行中でない場合は、IMMEDIATE CHECKED オプションを指定して SET INTEGRITY コマンドを発行し、表の新しくロードされた部分の制約を検証してください。
- 5 現在の LOAD 操作が完了するまで待機してください。LOAD QUERY コマンドを使って、ロードの進行状態をモニターすることができます。
- 6 MAINTAIN BY USER オプションを使用して

マテリアライズ照会表を定義してください。その後、マテリアライズ照会表にデータを追加するために 副照会と共に INSERT ステートメントを使用してください。

sqlcode: -668

sqlstate: 57016

SQL0669N システム必須索引をドロップすることはできません。

説明: DROP INDEX ステートメントがドロップする索引は、以下で必要なものです。

- 表で主キー制約を行う
- 表でユニーク制約を行う
- 型付き表階層のオブジェクト ID (OID) 列を固有なものにする
- 複製されたマテリアライズ照会表を保守する

システム必須索引は、DROP INDEX ステートメントを使用してドロップされません。

ステートメントは処理できません。指定された索引はドロップされません。

ユーザーの処置: 1 次またはユニーク制約を保持しない場合は、ALTER TABLE ステートメントの DROP PRIMARY KEY 文節または DROP CONSTRAINT 文節を使用して、主キーを除去してください。索引が強制的な 1 次またはユニーク・キーでのみ作成された場合は、索引はドロップされます。そうでない場合は、DROP INDEX ステートメントが処理されます。

OID 列の索引は、表のドロップによってのみドロップされます。

複製されたマテリアライズ照会表の保守に必要な索引は、複製されたマテリアライズ照会表を最初にドロップしないとドロップできません。

sqlcode: -669

sqlstate: 42917

SQL0670N 表の行の長さが length バイトの制限を超えています。(表スペースは *tablespace-name*。)

説明: データベース・マネージャーの表の行の長さは、以下のいずれかの制限の範囲にしてください。

- 4K ページ・サイズでは、4005 バイト
- 8K ページ・サイズの表スペースでは 8101 バイト
- 16K ページ・サイズの表スペースでは 16293 バイト
- 32K ページ・サイズの表スペースでは 32677 バイト

行の長さは、列の内部的な長さを加算した合計です。内部列の長さの詳細については、「SQL リファレンス」の CREATE TABLE を参照してください。

以下のいずれかの条件が存在する可能性があります。

- CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントに定義されている表の行の長さが、表スペースのページ・サイズ制限を超えています。REGULAR 表スペース名 *tablespace-name* は、ページ・サイズが行の長さ制限を決定するために使用される表スペースを示しています。
- DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE ステートメントに定義されている表の行の長さが、表スペースのページ・サイズ制限を超えています。USER TEMPORARY 表スペース名 *tablespace-name* は、ページ・サイズが行の長さ制限を決定するために使用される表スペースを示しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 原因に従って、次のいずれかを行ってください。

- CREATE TABLE, ALTER TABLE の場合、あるいは DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE の場合は、可能であればページ・サイズを大きくして表スペースを指定します。
- ページ・サイズを大きくできない場合、列を除去して行の長さを減らすか、列の長さを短くします。

sqlcode: -670

sqlstate: 54010

SQL0672N DROP 操作は、表 *table-name* では許可されていません。

説明: 次のいずれかの理由で、DROP 操作が失敗しました。

- ドロップ中の表に RESTRICT ON DROP 属性があります。
- ドロップ中の表スペースまたはデータベース・パーティション・グループに、RESTRICT ON DROP 属性を持つ表が入っています。

DROP ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: 問題が DROP TABLE ステートメントで起きる場合は、DROP RESTRICT ON DROP 文節を使用して ALTER TABLE ステートメントを発行してください。その後、DROP TABLE ステートメントを再発行してください。

DROP TABLESPACE または DROP NODEGROUP ステートメントで問題が発生した場合は、表スペースまたは

データベース・パーティション・グループ内に、RESTRICT ON DROP 属性を持つ表が他にないことを確認してください。以下の SELECT ステートメントは、表を識別するのに役立ちます。

```
SELECT TB.TABNAME, TB.TABSCHEMA,
       TS.TBSPACE, TS.NGNAME
FROM SYSCAT.TABLES TB,
     SYSCAT.TABLESPACES TS
WHERE TYPE = 'T'
AND DROPRULE = 'R'
AND TB.TBSPACEID = TS.TBSPACEID
ORDER BY TS.NGNAME, TS.TBSPACE,
         TB.TABSCHEMA, TB.TABNAME;
```

RESTRICT ON DROP 属性を持つ表を識別した後に、RESTRICT ON DROP 属性を持つ表ごとに、DROP RESTRICT ON DROP 文節を使用して ALTER TABLE ステートメントを発行してください。次に、DROP TABLESPACE または DROP NODEGROUP ステートメントを再発行してください。

sqlcode: -672

sqlstate: 55035

SQL0673N 1 次またはユニーク・キー索引は、制約 *name* の識別された 1 次またはユニーク・キーの列の値と重複している行が表に含まれているため、作成されません。

説明: *name* によって識別される制約の主またはユニーク・キー定義が、PRIMARY KEY または UNIQUE 文節の列の複製値を伴う行が、すでに変更されている表に入っているため失敗しました。

指定された場合、*name* は制約名です。制約名が指定されなかった場合は、*name* が 3 つのピリオドが後に続く主キーまたはユニーク制約文節に指定された最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。指定した表は変更されません。

ユーザーの処置: 1 次またはユニーク・キーの定義を試行する前に表から誤った行を除去してください。

sqlcode: -673

sqlstate: 23515

SQL0680N 表、ビュー、または表関数に指定されている列が多過ぎます。

説明: 表ごとに許可されている列の最大数は、表スペースのページ・サイズと列のデータ・タイプに基づいています。表の制限は以下のとおりです。

- 4K ページ・サイズでは、最大 500 の列が許可されません。

- 8K、16K、および 32K ページ・サイズでは、最大 1012 の列が許可されます。

表の列の実際の番号は、次の公式で決定されます。合計列 * 8 + LOB 列の数 * 12 + データ・リンク列の数 * 28 <= サイズに対する行サイズの限度

ビューごとに許可されている列の最大数は 5000 です。

表関数に許可されている列の最大数は 255 です。

ニックネームで可能な列の最大数は 5000 です。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 他のデータ・ソースは異なった最大列制限を持っている可能性があります。この制限を超えました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 表またはビューの列数が制限を超えないようにしてください。ページ・サイズが大きいと列の数表を作成する場合には、ページ・サイズを大きくして表スペースを指定してください。要求されたように、分離する表またはビューを作成して、制限を超えた追加情報を保留にしてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 表列の数を、データ・ソースにサポートされた最大数に制限してください。要求されたように、分離表またはビューを作成して、データ・ソースがサポートする最大数を超えた列の追加情報を保留にしてください。

sqlcode: -680

sqlstate: 54011

SQL0683N 列、属性、ユーザー定義タイプ、または関数 *data-item* の指定に、非互換文節が入っています。

説明: CREATE または ALTER のデータ項目の指定にエラーがあります。"INTEGER と FOR BIT DATA" などの非互換の指定が存在します。エラーのロケーションは *data-item* によって、以下のように示されます。

- CREATE または ALTER TABLE ステートメントの場合は、*data-item* がエラーのある列の名前を示します。
- CREATE FUNCTION ステートメントの場合、*data-item* は、ステートメントの問題の領域を識別するトークンです。たとえば、"PARAMETER 3"、"RETURNS"、または "CAST FROM" です。
- CREATE DISTINCT TYPE ステートメントの場合は、*data-item* が定義されているタイプの名前を示します。

- CREATE または ALTER TYPE ステートメントの場合、*data-item* はエラーを含んでいる文節を示すか、エラーを含んでいる属性の名前を示します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 非互換性を取り除いて、もう一度ステートメントをやり直してください。

sqlcode: -683

sqlstate: 42842

SQL0696N トリガー *trigger-name* の定義に、無効な相関名または遷移表名 *name* が使用されています。理由コード =*reason-code*。

説明: トリガー定義に、無効な *name* が使用されています。 *reason-code* の値は、以下のような特定の問題を示します。

- 1 NEW 相関名および NEW_TABLE 名は、DELETE トリガーでは使用できません。
- 2 OLD 相関名および OLD_TABLE 名は、INSERT トリガーでは使用できません。
- 3 OLD_TABLE 名および NEW_TABLE は、BEFORE トリガーでは使用できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 先行するキーワードとともに、無効な相関名または遷移表名を除去してください。

sqlcode: -696

sqlstate: 42898

SQL0697N OLD または NEW 相関名は、FOR EACH STATEMENT 文節で定義されたトリガーでは使用できません。

説明: 定義されたトリガーに、OLD または NEW 相関名 (あるいは、その両方) が指定された REFERENCING 文節、および FOR EACH STATEMENT 文節が入っています。これらは一緒に指定できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: OLD または NEW 相関名を REFERENCING 文節から取り除くか、または FOR EACH STATEMENT を FOR EACH ROW で置き換えてください。

sqlcode: -697

sqlstate: 42899

SQL0700 - SQL0799

SQL0707N 指定された ID はシステム使用のために予約されているため、この名前 *name* は使用できません。

説明: 以下は予約名のリストです。

- 表スペース名は 'SYS' で開始できない
- データベース・パーティション・グループ名は 'SYS' または 'IBM' で開始できない
- savepoint 名は 'SYS' で開始できない

ユーザーの処置: 予約されていない名前を選択してください。

sqlcode: -707

sqlstate: 42939

SQL0713N *special-register* の置換値が無効です。

説明: SET *special-register* ステートメントに指定した値は、示された特殊レジスタの有効な値ではないか、または指定した値が、標識変数の結果として NULL になったかのどちらかです。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 置換値と標識変数の両方、またはいずれかを訂正してください。各特殊レジスタの有効な値の説明については、「SQL リファレンス」を参照してください。

sqlcode: -713

sqlstate: 42815

SQL0719N ユーザー *auth-id* に対するバインド・エラー。パッケージ *package-name* はすでに存在します。

説明: PRECOMPILE または BIND の ACTION ADD オプションを使って、すでに存在するパッケージを追加しようとした。'pkgschema.pgkname.pkgversion' の組み合わせは、SYSCAT.PACKAGES カタログ・ビューの中でユニークでなければなりません。

auth-id

BIND または PREP の起動者の許可 ID

package-name

'pkgschema.pkgname.pkgversion' の形式によるパッケージの名前。パッケージ・バージョンが空のストリングの場合、'.pkgversion' は名前から省略されます。

パッケージは作成されていません。

ユーザーの処置: 重複する項目の追加を試行していないことを確認するには、次のような方法があります。

- 既存のアプリケーション・パッケージの名前について、SYSCAT.PACKAGES カタログ・ビューをチェックする。使用されていない 'pkgschema.pkgname.pkgversion' を指定して、PRECOMPILE または BIND を再度呼び出してください。
- ACTION ADD オプションを指定せずに PREP または BIND ステートメントを再発行する。これにより、既存のパッケージが置換されます。

sqlcode: -719

sqlstate: 42710

SQL0720N パッケージ *pkgschema.pkgname* WITH **VERSION** *pkgversion* を置換しようとしたが、このバージョンはすでに存在しません。

説明: ACTION REPLACE REPLVER オプションを使って、すでに存在するパッケージのバージョンを作成しようとしています。REPLVER キーワードに指定されたバージョンが、VERSION プリコンパイル・オプションに指定されたバージョンと異なっています。VERSION プリコンパイル・オプションに指定されたバージョンは、すでにカタログに存在しています。'pkgschema.pkgname.version' の組み合わせは、SYSCAT.PACKAGES カタログ・ビューの中でユニークでなければなりません。

作成されているバージョンが REPLVER キーワードに指定されているものであると、ユーザーが勘違いすることがよくあります。これは正しくありません。REPLVER キーワードに指定されているバージョンは、置換されるバージョンの名前です。作成されるバージョンは、VERSION オプションでプログラムに渡されるバージョンです。

パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: 作成されるバージョンがまだ存在していないことを確認してください。

この問題を解決するには、2 つの方法があります。

- 新しいバージョン名を使ってプログラムを再度プリコンパイルして、元の PREP または BIND コマンドを再発行します。
- もう 1 つの方法は、REPLVER 指定なしに ACTION REPLACE 文節を指定して PREP または BIND コマンドを再発行します。この場合、REPLACE は

VERSION オプションに指定されたバージョンに一致するバージョンを置換します。

sqlcode: -720

sqlstate: 42710

SQL0721N パッケージ *pkgschema.pkgname* (整合性トークン = *0Xcontoken*) はユニークでないため、作成できません。

説明: そのパッケージに対してユニークでない整合性トークンを持つパッケージを追加または置換しようとしてしました。'pkgschema.pkgname.contoken' の組み合わせは、すでに存在します。この原因としては、PRECOMPILE の LEVEL オプションを使って整合性トークンを指定したことが考えられます。

パッケージは作成されていません。

ユーザーの処置: SYSCAT.PACKAGES カタログ表で、示された整合性トークンを持つ既存のアプリケーション・パッケージの名前をチェックしてください。'pkgschema.pkgname.contoken' がカタログ内でユニークになるように、PREP または BIND コマンドを再発行してください。カタログを照会するためには、以下の SQL ステートメントを使用することができます。

```
SELECT PKGSCHEMA, PKGNAME
FROM SYSCAT.PACKAGES
WHERE HEX(UNIQUE_ID) = 'contoken';
```

プリコンパイルで LEVEL オプションが使用された場合、プリコンパイルを再発行して別の LEVEL 値を指定すると整合性トークンが変更されます。LEVEL オプションを使用しないことをお勧めします。プリコンパイルの LEVEL オプションを指定しない場合、整合性トークンは必ず現在のタイム・スタンプ値になります。

SQL0722N *auth-id* に対する *bind-command* の実行エラー。パッケージ *package-name* は存在しません。

説明: 存在しないパッケージに対してバインドまたは再バインドが発行されました。ACTION REPLACE が指定されており、REPLVER オプションが存在しないバージョンを指定した場合には、エラーが発生します。

bind-command

発行されたバインド・コマンド (BIND | REBIND) のタイプ。'BIND' という値は、プリコンパイルにも使用される点に注意してください。

auth-id

バインドまたは再バインドを発行した許可 ID。

package-name

'pkgschema.pkgname.pkgversion' の形式によるパッケージの名前。パッケージ・バージョンが空のストリングの場合、'.pkgversion' は名前から省略されます。

パッケージはバインドまたは再バインドされませんでした。

説明: SYSCAT.PACKAGES カタログ・ビューで、REPLVER オプションに指定する正しい 'pkgschema.pkgname.pkgversion' をチェックしてください。

sqlcode: -722

sqlstate: 42704

SQL0723N トリガー *trigger-name* のトリガー SQL ステートメントでエラーが発生しました。エラーに対して情報が戻されました。
SQLCODE *sqlcode*、**SQLSTATE** *sqlstate*、およびメッセージ・トークン *token-list*。

説明: トリガー *trigger-name* の SQL ステートメントが、トリガーの実行中に失敗しました。sqlcode、sqlstate、メッセージ・トークン・リスト (各トークンは縦線によって区切られています) が提供されます。メッセージ・トークンは切り捨てられる可能性があります。エラーの詳細な説明として、対応する *sqlcode* を参照してください。

トリガーと、トリガーを実行させたオリジナル SQL ステートメントは、処理されません。

ユーザーの処置: 失敗した SQL ステートメントの SQLCODE に関連するメッセージをチェックしてください。メッセージで提案されているアクションに従ってください。

sqlcode: -723

sqlstate: 09000

SQL0724N タイプ *object-type* の *object-name* の活動化は、間接的な SQL カスケードの最大レベルを超えます。

説明: 間接的 SQL のカスケードは、トリガーが別のトリガー (おそらく、参照制約の削除規則を介して) を活動化したり、SQL を含むルーチンが別のルーチン呼び出した場合に発生します。このカスケードの深さは 16 に制限されています。

再帰的状态 (トリガーが、直接または間接的に同じトリガーを活動化する、トリガー済み SQL ステートメントを組み込んだり、またはルーチンが直接または間接的に

そのルーチン自身を呼び出す状態)は、カスケードが制限を超えるのを避けるための条件が存在しない場合に、このエラーの原因となる可能性の高い、カスケードの形式である点に気を付けてください。

object-type は、TRIGGER、FUNCTION、METHOD、または PROCEDURE のいずれかです。

指定された *object-name* は、カスケードの 17 番目のレベルで活動化されるオブジェクトの 1 つです。

ユーザーの処置: このエラーを受け取ったステートメントによって活動化または呼び出されるオブジェクトから開始します。このオブジェクトのいずれかが再帰的である場合は、制限を超えてそのオブジェクトを活動化または呼び出さないようにするための条件が存在することを確認してください。これが原因でない場合は、活動化または呼び出されるオブジェクトのチェーンをたどって、カスケードの制限を超えるチェーンを判別してください。

sqlcode: -724

sqlstate: 54038

SQL0727N 暗黙的にシステム・アクション・タイプ *action-type* を実行中にエラーが発生しました。エラーに関して戻された情報には、**SQLCODE** *sqlcode*、**SQLSTATE** *sqlstate* およびメッセージ・トークン *token-list* が含まれています。

説明: ステートメントあるいはコマンドの処理によって、データベース・マネージャーが追加の処理を行う場合があります。この処理中にエラーが発生しました。試行されたアクションは、*action-type* によって表示されません。

- 1 パッケージの暗黙的な再バインド
- 2 キャッシュされた動的 SQL ステートメントの暗黙的な準備
- 3 ビューの暗黙的再生成
- 4 この戻りコードは、DB2 による使用のために予約されています。
- 5 静的 SQL ステートメントの増分バインドが、パッケージ・バインド時にバインドされていません。
- 6 ホスト変数、特殊レジスター、またはパラメーター・マーカーの入った再最適化可能なステートメントの暗黙の準備。

sqlcode、sqlstate、メッセージ・トークン・リスト (各トークンは縦線によって区切られています) が提供されます。メッセージ・トークンは切り捨てられる可能性

があります。エラーの詳細な説明として、対応する *sqlcode* を参照してください。

action-type を引き起こすオリジナル SQL ステートメントあるいはコマンドは処理されず、暗黙的なシステム・アクションは成功しませんでした。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: パススルー・セッションで SQL ステートメントを動的に準備し、セッションがクローズされた後でこのステートメントの実行を試みたために、このメッセージを受け取ったと思われる。

ユーザーの処置: 失敗した SQL ステートメントの SQLCODE に関連するメッセージをチェックしてください。メッセージで提案されているアクションに従ってください。

無効なパッケージの場合、REBIND コマンドを使用してこのエラーを再作成またはすでにエラーの原因が解決されているこのパッケージを、明示的に有効にすることができます。

ビューを再生成中に発生する障害については、障害を起こすビューの名前が管理通知ログに記録されます。失敗したビューは、ドロップすることが可能で、ビューの再生成を引き起こすステートメントあるいはコマンドの変更をすることも可能です。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 障害のあったステートメントがパススルー・セッションで動的に準備されていた場合、別のパススルー・セッションをオープンし、もう一度ステートメントを作成および準備し、セッションがオープンしている間に実行してください。

sqlcode: -727

sqlstate: 56098

SQL0740N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) が **MODIFIES SQL DATA** (SQL データの変更) オプションを使って指定されています。これは、このルーチンが呼び出されるコンテキストでは無効です。

説明: ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) は MODIFIES SQL DATA (SQL データの変更) を使って定義されており、次の場合には許可されません。

- BEFORE トリガー
- 相関副照会
- 検索条件 (WHERE 文節やチェック制約など)

ユーザーの処置: ルーチンの解決が目的のルーチンに解決されていることを確認してください。失敗したステートメントからルーチンを除去するか、MODIFIES SQL

DATA (SQL データの変更) 以外の SQL アクセス標識を使ってルーチンを再定義してください。

sqlcode: -740

sqlstate: 51034

SQL0746N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) が表 *table-name* に対して操作 *operation* の実行を試みたときに、ネストされた SQL ステートメント規則に違反しました。

説明: ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) は、表 *table-name* に対して操作 *operation* を実行しようとした。この操作は、アプリケーション、あるいはそのアプリケーションから直接または間接的に呼び出されるルーチンによる表の使用と競合します。

この操作が“READ”の場合、表 *table-name* は現在、アプリケーションまたはほかのルーチンによる書き込みが行われているところです。

この操作が“MODIFY”の場合、表 *table-name* はすでに、アプリケーションまたはほかのルーチンによる読み取りまたは書き込みが行われているところです。

table-name が EXPLAIN 表を参照しており、このエラー・メッセージを受け取るステートメントが PREPARE ステートメントまたは EXECUTE IMMEDIATE ステートメントである場合は、EXPLAIN 情報を EXPLAIN 表に挿入するときに競合が発生します。

ユーザーの処置: この操作は、再試行すると正常に実行されることがあります。競合を回避するには、アプリケーションまたはルーチンを設計し直してください。

競合が動的ステートメントの EXPLAIN 情報の挿入時に発生した場合は、動的ステートメントの EXPLAIN を使用不可にして、再度 PREPARE ステートメントまたは EXECUTE IMMEDIATE ステートメントの実行を試行してください。

sqlcode: -746

sqlstate: 57053

SQL0750N ソース表はビュー、マテリアライズ照会表、トリガー、SQL 関数、SQL 方式、チェック制約、または参照制約で参照されているため、名前変更できません。

説明: 次のいずれかの理由により、RENAME ステートメントのソース表を名前変更できません。

- 表が既存のビューで参照されている。
- 表が 1 つまたは複数のマテリアライズ照会表で参照されている。

- 表が既存のトリガーで参照されている。これには、トリガー SQL ステートメントの表または参照上のトリガーを含みます。
- 表が既存の SQL 関数または SQL 方式で参照されている。
- 表にはチェックが定義されている。これには、生成された列が原因のチェック制約も含まれます。
- 表が親または従属表として、参照制約に入っている。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: RENAME ステートメントを発行する前に、表のビュー、マテリアライズ照会表、トリガー、SQL 関数、SQL 方式、チェック制約、または参照制約をドロップしてください。表に従属するビューまたはマテリアライズ照会表の場合は、表が BSCHEMA 列と BNAME 列に一致する SYSCAT.VIEWDEP を照会してください。表に従属するトリガーの場合、表が BSCHEMA および BNAME 列に一致する SYSCAT.TRIGDEP を照会してください。SQL 関数または SQL 方式の場合、表が BSCHEMA および BNAME 列に一致する SYSCAT.FUNCDEP を照会してください。表に従属するチェックの場合、表が TABSCHEMA および TABBNAME 列に一致する SYSCAT.CHECKS を照会してください。表に従属する参照制約の場合、表が TABSCHEMA 列および TABNAME 列、または REFTABSCHEMA 列および REFTABNAME 列に一致する SYSCAT.REFERENCES を照会してください。

sqlcode: -750

sqlstate: 42986

SQL0751N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) が、許可されていないステートメントを実行しようとした。

説明: ルーチンの本体をインプリメントするために使用されるプログラムは、接続ステートメントの発行を許可されていません。ルーチンが関数または方式の場合は、COMMIT および ROLLBACK (SAVEPOINT オプションなし) も許可されません。ルーチンがプロシージャであり、それがトリガー、関数、メソッド、または動的コンパウンド・ステートメントの中で呼び出される場合、そのプロシージャの中で COMMIT または ROLLBACK ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: 許可されないステートメントを除去して、プログラムを再コンパイルしてください。

sqlcode: -751

sqlstate: 38003, 42985

SQL0752N CONNECT タイプ 1 接続設定が使用されている場合、論理作業単位内でのデータベースへの接続は許可されていません。

説明: COMMIT または ROLLBACK ステートメントを発行する前に、別のデータベースまたは同じデータベースへの接続が試みられました。要求は、CONNECT タイプ 1 環境内では処理できません。

ユーザーの処置:

- 他のデータベースへの接続を要求する前に、COMMIT または ROLLBACK ステートメントのサブミットを行ってください。
- 作業単位内で複数データベースを更新する必要がある場合は、再プリコンパイル、またはアプリケーション内から SET CLIENT API の発行を行って、接続設定を SYNCPOINT TWOPHASE と CONNECT 2 に変更してください。

sqlcode: -752

sqlstate: 0A001

SQL0773N CASE ステートメントにケースが見つかりません。

説明: ELSE 文節のない CASE ステートメントが、SQL ルーチンのルーチン本体に見つかりました。CASE ステートメントに指定されている条件が一致しません。

ユーザーの処置: 起こりうる条件をすべて扱えるよう、CASE ステートメントを変更してください。

sqlcode: -773

sqlstate: 20000

SQL0774N このステートメントは、ATOMIC コンパウンド SQL ステートメント内で実行できません。

説明: ATOMIC コンパウンド SQL ステートメントのコンテキスト内で、COMMIT または ROLLBACK ステートメントを検出しました。これらのステートメントは、このコンテキストでは許可されません。

ユーザーの処置: COMMIT または ROLLBACK ステートメントを除去するか、ATOMIC コンパウンド・ステートメントにならないように、コンテキストを変更してください。

sqlcode: -774

sqlstate: 2D522

SQL0776N カーソル *cursor-name* の使用は無効です。

説明: カーソル *cursor-name* が、SQL プロシージャの FOR ステートメントにカーソル名として指定されています。このカーソルは、FOR ステートメント内の CLOSE、FETCH、または OPEN ステートメントには指定できません。

ユーザーの処置: CLOSE、FETCH、または OPEN ステートメントを除去してください。

sqlcode: -776

sqlstate: 428D4

SQL0777N ネストされたコンパウンド・ステートメントは許可されていません。

説明: SQL プロシージャのルーチン本体の ATOMIC コンパウンド・ステートメントをネストすることはできません。

ユーザーの処置: ネストされた ATOMIC コンパウンド・ステートメントが SQL プロシージャに組み込まれていないことを確認してください。

sqlcode: -777

sqlstate: 42919

SQL0778N 終了ラベル *label* が開始ラベルと同じではありません。

説明: FOR、IF、LOOP、REPEAT、WHILE またはコンパウンド・ステートメントの末尾に指定されているラベル *label* が、ステートメントの先頭にあるラベルと異なっています。開始ラベルが指定されていない場合、終了ラベルを指定することはできません。

ユーザーの処置:

FOR、IF、LOOP、REPEAT、WHILE、およびコンパウンド・ステートメントで、終了ラベルが開始ラベルと同じであることを確認してください。

sqlcode: -778

sqlstate: 428D5

SQL0779N GOTO、ITERATE または LEAVE ステートメントに指定されているラベル *label* が無効です。

説明: GOTO、ITERATE または LEAVE ステートメントにラベル *label* が指定されています。このラベルは定義されていないか、ステートメントの有効なラベルではありません。

ITERATE ステートメントのラベルは、FOR、LOOP、

REPEAT、または WHILE ステートメントのラベルである必要があります。

LEAVE ステートメントのラベルは、FOR、 LOOP、 REPEAT、 WHILE、またはコンパウンド・ステートメントのラベルである必要があります。

GOTO のラベルは、GOTO ステートメントの有効範囲である必要があります。

- GOTO ステートメントが FOR ステートメントで定義されている場合、 *label* は、ネストされた FOR ステートメントまたはネストされたコンパウンド・ステートメント以外の同一の FOR ステートメントで定義される必要があります。
- GOTO ステートメントがコンパウンド・ステートメントで定義されている場合、 *label* は、ネストされた FOR ステートメントまたはネストされたコンパウンド・ステートメント以外の同一のコンパウンド・ステートメントで定義される必要があります。
- GOTO ステートメントがハンドラーで定義されている場合、 *label* は、他の有効範囲の規則に準拠して同一のハンドラーで定義される必要があります。
- GOTO ステートメントがハンドラー外で定義されている場合、 *label* はハンドラー内で定義してはなりません。

ユーザーの処置: GOTO、ITERATE、または LEAVE ステートメントに有効なラベルを指定してください。

sqlcode: -779

sqlstate: 42736

SQL0780N UNDO がハンドラーに指定されていますが、**ATOMIC** がコンパウンド・ステートメントに指定されていません。

説明: UNDO が SQL プロシージャにあるコンパウンド・ステートメントのハンドラーに指定されていません。コンパウンド・ステートメントが ATOMIC でないかぎり、UNDO を指定することはできません。

ユーザーの処置: コンパウンド・ステートメントが ATOMIC になるよう指定するか、またはハンドラーに EXIT あるいは CONTINUE を指定してください。

sqlcode: -780

sqlstate: 428D6

SQL0781N ハンドラーに指定されている条件 *condition* が定義されていません。

説明: SQL プロシージャのハンドラーに指定されている条件 *condition* が定義されていません。

ユーザーの処置: DECLARE CONDITION ステートメント

で条件を定義するか、またはハンドラーから条件を除去してください。

sqlcode: -781

sqlstate: 42737

SQL0782N ハンドラーに指定されている条件または **SQLSTATE** 値が無効です。

説明: 以下のいずれかの理由で、SQL のハンドラーに指定されている条件または SQLSTATE 値が無効です。

- 条件または SQLSTATE 値が、すでに同じ有効範囲にある別のハンドラーによって指定されている
- 条件または SQLSTATE 値が、同じハンドラーに SQLEXCEPTION、SQLWARNING、または NOT FOUND として指定されている

ユーザーの処置: 条件または SQLSTATE 値をハンドラーから除去してください。

sqlcode: -782

sqlstate: 428D7

SQL0783N 重複する列名または名前のない列が、**FOR** ステートメントの **DECLARE CURSOR** ステートメントに指定されました。

説明: FOR ステートメントの選択リストには、ユニークな列名が入っていなければなりません。指定された選択リストに重複する列名、または名前のない式があります。

ユーザーの処置: FOR ステートメントに指定されている選択リストにユニークな列名を指定してください。

sqlcode: -783

sqlstate: 42738

SQL0785N **SQLSTATE** または **SQLCODE** 変数の宣言あるいは使用は許可されていません。

説明: SQLSTATE または SQLCODE が SQL ルーチンのルーチン本体で変数として使用されましたが、以下のいずれかの理由で無効です。

- SQLSTATE が CHAR(5) として宣言されていない
- SQLCODE が INTEGER として宣言されていない
- 変数に NULL 値が割り当てられている

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQLSTATE 変数を CHAR(5) として、また SQLCODE 変数を INTEGER として宣言してください。変数を有効な値に設定してください。

sqlcode: -785

sqlstate: 428D8

SQL0787N RESIGNAL ステートメントがハンドラー内にありません。

説明: RESIGNAL ステートメントは、条件ハンドラー内でのみ使用できます。

ユーザーの処置: RESIGNAL ステートメントを除去するか、あるいは SIGNAL ステートメントを代わりに使用してください。

sqlcode: -787

sqlstate: 0K000

SQL0788N ターゲット表 *table-name* の同一行が、MERGE ステートメントの更新、削除、または挿入操作に対して、複数回確認されました。

説明: MERGE ステートメントの ON 検索条件が、ソース表参照の複数行を指定した指定ターゲット表からの単一行に一致しました。この結果、ターゲット行が、更新または削除操作で複数回操作されることになりませんが、これは許可されません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 検索条件を訂正して、ターゲット表の各行が、ソース表の 1 行にのみ一致することを確認してください。

あるいは、GROUP BY 機能を使用して、ターゲット表の行に一致するソース表の行を集約するか、または ROW_NUMBER() OLAP 式を使用してデータをクリアしてください。

sqlcode: -788

sqlstate: 21506

SQL0789N パラメーターまたは変数 *name* のデータ・タイプは、SQL ルーチンでサポートされていません。

説明: SQL ルーチン (関数、メソッド、またはプロシージャ) は、DATALINK、REFERENCE、LONG VARCHAR、LONG VARGRAPHIC または構造化データ・タイプの変数またはパラメーターをサポートしていません。

ユーザーの処置: SQL ルーチン定義では、DATALINK、REFERENCE、LONG VARCHAR、LONG VARGRAPHIC、または構造化データ・タイプの SQL 変数またはパラメーターを使用しないでください。パラ

メーターまたは変数 *name* に異なるデータ・タイプを指定してください。

sqlcode: -789

sqlstate: 429BB

SQL0797N トリガー *trigger-name* が、サポートされていないトリガー SQL ステートメントで定義されています。

説明: 以下のリストのステートメントのみを含むトリガー SQL ステートメントでトリガーを指定する必要があります。

- トリガーには、次の制御ステートメントを含めることができます。
 - 動的コンパウンド・ステートメント
 - FOR ステートメント
 - GET DIAGNOSTICS ステートメント
 - IF ステートメント
 - ITERATE ステートメント
 - LEAVE ステートメント
 - SIGNAL ステートメント
 - WHILE ステートメント
- BEFORE トリガーには、次のトリガー SQL ステートメントも含めることができます。
 - SQL データを変更することのないプロシージャを呼び出す CALL ステートメント
 - 全選択
 - 割り当てステートメント

ただし、BEFORE トリガーの前にトリガーされた SQL ステートメントには、次の要素を含めることはできません。

- SQL データを修正する表関数
 - ネストされた DELETE、INSERT、MERGE、または UPDATE ステートメント
- AFTER トリガーには、次のトリガー SQL ステートメントも含めることができます。
 - INSERT ステートメント
 - 探索済み UPDATE ステートメント
 - 探索済み DELETE ステートメント
 - MERGE ステートメント
 - CALL ステートメント
 - 全選択
 - 割り当てステートメント (遷移変数の割り当てを除く)

- INSTEAD OF トリガーには、次のトリガー SQL ステートメントも含めることができます。
 - INSERT ステートメント
 - 探索済み UPDATE ステートメント
 - 探索済み DELETE ステートメント
 - MERGE ステートメント
 - CALL ステートメント
 - 全選択
 - 割り当てステートメント (遷移変数の割り当てを除く)

いくつかの場合には、*trigger-name* がこのメッセージに現れません。

ユーザーの処置: 上記のリストと一致しない各ステートメントについて、トリガーのトリガー SQL ステートメントをチェックして、それを取り除いてください。

sqlcode: -797

sqlstate: 42987

SQL0798N GENERATED ALWAYS として定義されている列 *column-name* に値を指定することはできません。

説明: 表内の行を挿入または更新しているとき、GENERATED ALWAYS 列 *column-name* に値が指定されました。キーワード DEFAULT が指定されていない

SQL0800 - SQL0899

SQL0801N ゼロによる除算が試みられました。

説明: 列関数または算術式の処理が、ゼロによる除算を結果としました。

ステートメントは処理できません。INSERT、UPDATE、または DELETE ステートメントの場合は、挿入も更新も実行されません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを調べて、問題の原因を判別してください。問題がデータによるものであれば、エラーが起きたときに処理されていたデータを調べてください。データ・タイプの有効範囲については、「SQL リファレンス」を参照してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: SQL ステートメントを調べて、問題の原因を判別してください。問題がデータによるものであれば、エラーが起きたときにデータ・ソースで処理されていたデータを調べてください。

sqlcode: -801

sqlstate: 22012

かぎり、GENERATED ALWAYS 列を INSERT のため列リストに、あるいは UPDATE のため SET 文節に指定することはできません。

INSERT または UPDATE は実行されません。

ユーザーの処置: GENERATED ALWAYS 列を列リストまたは SET 文節から除去するか、または列の値として DEFAULT を指定してください。

sqlcode: -798

sqlstate: 428C9

SQL0799W SET ステートメントがサーバー・サイトに存在しない特殊レジスターを参照しています。

説明: DB2 サーバーが理解不能な SET ステートメントを受け取りました。

SET SPECIAL REGISTER 要求は無視されます。

ユーザーの処置: この SQLCODE は、任意の SQL ステートメントのアプリケーションに戻せます。この SQLCODE は、SQL ステートメントが受信した他のネガティブ SQLCODE にマスクされている可能性があります。サーバーでの処理を続行します。

sqlcode: 799

sqlstate: 01527

SQL0802N 算術オーバーフロー、またはその他の算術例外が発生しました。

説明: 列関数または算術式の処理で、算術オーバーフローが起きました。

ステートメントは処理できません。INSERT、UPDATE、または DELETE ステートメントの場合は、挿入も更新も実行されません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを調べて、問題の原因を判別してください。問題がデータによるものであれば、エラーが起きたときに処理されていたデータを調べてください。データ・タイプの有効範囲については、「SQL リファレンス」を参照してください。

SQL ステートメントによって返された値を列関数が扱えない場合にも、このエラーが返されることがあります。たとえば、MAX_LONGINT_INT SQL 制限で定義されているよりも多い行を持つ表に対して SELECT COUNT ステートメントを出すと、算術オーバーフロー・エラーが起こります。2,147,483,647 を超える行を

持つ表には COUNT_BIG 列関数を使用するよう考慮してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: SQL ステートメントを調べて、問題の原因を判別してください。問題がデータによるものであれば、エラーが起きたときにデータ・ソースで処理されていたデータを調べてください。データ・タイプの有効範囲を判別するには、対応する「SQL リファレンス」でデータ・ソースを参照してください。

sqlcode: -802

sqlstate: 22003

SQL0803N INSERT ステートメント、UPDATE ステートメントの 1 つ以上の値、および DELETE ステートメントが原因で発生した外部キーの更新は無効です。これは、*index-id* で識別される主キー、ユニーク制約、またはユニーク索引が表 *table-name* がこれらの列に対して重複行を持つことを制限しているためです。

説明: INSERT または UPDATE のオブジェクトとなる表 *table-name* は、1 つ以上の UNIQUE 索引により、ある列または列のグループ内にユニークな値を持つように制約されています。あるいは、親表の DELETE ステートメントが、1 つ以上の UNIQUE 索引によって制約されている従属表 *table-name* 内の外部キーの変更を行いました。ユニーク索引は、表に定義されている主キーまたはユニーク制約をサポートしている可能性があります。要求された INSERT、UPDATE、または DELETE ステートメントを完了すると列の値が重複してしまうため、ステートメントを処理できません。

または、INSERT または UPDATE ステートメントのオブジェクトがビューの場合には、そのビューが定義されている表 *table-name* が制約を受けます。

index-id が整数値である場合は、以下の照会を発行することによって SYSCAT.INDEXES から索引名を取得できます。

```
SELECT INDNAME, INDSHEMA
FROM SYSCAT.INDEXES
WHERE IID = <index-id>
AND TABSCHEMA = 'schema'
AND TABNAME = 'table'
```

schema は *table-name* のスキーマ部分で、*table* は *table-name* の表名部分を表しています。

ステートメントは処理できません。表は変更されません。

ユーザーの処置: *index-id* で識別される索引の定義を調べてください。

UPDATE ステートメントの場合は、指定した処理自体がユニーク制約との間に矛盾がないことを確認してください。それでもエラーの内容が不明な場合には、オブジェクト表の内容を調べて、問題の原因を判別してください。

INSERT ステートメントの場合は、オブジェクト表の内容を調べて、ユニーク制約に違反している指定した値リストの値を判別してください。または、INSERT ステートメントに副照会が入っている場合に問題の原因を判別するには、その副照会によって示される表の内容をオブジェクト表の内容と一致させる必要があります。

DELETE ステートメントの場合、示された従属表について、外部キーのユニーク制約を調べ、規則 ON DELETE SET NULL で定義されているかを調べてください。この表には、示されたユニーク索引に組み込まれた外部キー列を持っています。この表の列に NULL がすでにあるために外部キー列を NULL に設定できません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 要求を失敗させたデータ・ソースに対して問題を分離し（「トラブルシューティング・ガイド」を参照して SQL ステートメントの処理に失敗したデータ・ソースを判別してください）、前にリストされた索引定義および条件のデータを調べてください。

sqlcode: -803

sqlstate: 23505

SQL0804N 現在の要求に対するアプリケーション・プログラムのパラメーターが無効です。理由コード *reason-code*。SQLDA のホスト変数または SQLVAR が無効な場合、ホスト変数/SQLVAR 番号 = *var-number*、SQLTYPE = *sqltype*、SQLLEN = *sqllen*、ホスト変数/SQLVAR タイプ = *input-or-output* です。

説明: 現行要求を処理中にエラーが発生しました。

- 呼び出しパラメーター・リストはプリコンパイラーで作成されますが、アプリケーション・プログラマーがプリコンパイラーの出力を修正し、あるいは別の方法で呼び出しパラメーター・リストを上書きする場合には正しくない可能性があります。
- SQL 内の SQLDA あるいはホスト変数が無効である。
- 作成された要求がサポートされていないか、コンテキスト外にある。

理由コードは次のように解釈されます。

100 作成された要求がサポートされていないか、コンテキスト外にある。

- 101 SQLDA.SQLN が SQLDA.SQLD より小さい。
- 102 SQLVAR.SQLTYPE が無効である。
フェデレーテッド・システム・ユーザー: 指定したデータ・タイプは、フェデレーテッド・サーバー、またはアクセスしたいデータ・ソースによってサポートされていません。
- 103 SQLVAR.SQLLEN あるいは SQLVAR2.SQLLONGLEN で指定した長さが SQLVAR.SQLTYPE で与えられた SQL タイプに対して間違っている。
- 104 SQLVAR を 2 倍することが予期されていたが、SQLDA.SQLDAID の SQLDOUBLED フィールドが '2' に設定されていない: ラージ・オブジェクト・タイプまたは構造化タイプのために、これが必要になる場合があります。
- 105 2 バイト文字ラージ・オブジェクトには SQLVAR2.SQLDATALEN ポインターで示される奇数値があり、これが常にバイトで、DBCLOB に対してもそうである。
- 106 SQLDATA ポインターが無効であるか、あるいは不十分なストレージを示している
- 107 SQLIND ポインターが無効であるか、あるいは不十分なストレージを示している
- 108 SQLDATALEN ポインターが無効であるか、あるいは不十分なストレージを示している
- 109 特定数のホスト変数/SQLVARS が、現在の SQL ステートメントに対して予期されています。
- 110 LOB ロケーターが互換タイプの LOB に関連していない。
- 111 LOB が SQLVAR の SQLTYPE に示されているが、2 番目の SQLVAR は NULL である。
- 112 SQLDATATYPE NAME フィールドが無効。データベース内で既存のユーザー定義タイプを識別するための形式に適合していません。既存のユーザー定義タイプを識別するための形式は、8 バイト、その後にはピリオド、さらにその後には 18 バイトです。
- 113 SQLFLAG4 フィールドが無効。構造化タイプが指定されている場合、値は X'12' でなければなりません。参照タイプが指定されている場合、値は X'01' でなければなりません。その他の場合、値は X'00' でなければなりません。
- 114 DB2_TRUSTED_BINDIN レジストリー変数が使用可能になっていて、サポートされていない

ホスト変数が BINDIN の実行中に使用されず。DB2_TRUSTED_BINDIN レジストリー変数を設定解除するか、または入力するホスト変数のデータ・タイプを変更してください。

ホスト変数を指定した SQL ステートメントでは、ホスト変数番号を使用してステートメント (あるいはコンパウンド SQL の場合はサブステートメント) の最初からカウントし無効なホスト変数を探し出すことができません。SQLDA を使用したステートメントでは SQLVAR 番号が無効な SQLVAR の検出に使用されます。入力 SQLDA では入力ホスト変数あるいは SQLVAR をカウントするだけです。出力も同様です。この番号の基本は 1 であることに注意してください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 示されたエラーについて、アプリケーション・プログラムを調べてください。プログラマーは、プリコンパイラー出力を変更するべきではないことに注意してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 理由コード 102 を受け取った場合、サポートされているデータ・タイプを指定してプログラムを再サブミットしてください。

sqlcode: -804

sqlstate: 07002

SQL0805N パッケージ *package-name* が見つかりませんでした。

説明: 必要なパッケージがカタログに見つからなかったため、ステートメントを完了できません。

package-name は、次のいずれかの形式になります。

- 'pkgschema.pkgname 0Xcontoken'。この場合、整合性トークンは 16 進数で指定されます。
- 'pkgschema.pkgname.pkgversion'。パッケージ・バージョンが空ストリングの場合、'.pkgversion' は名前から省略されます。
- CURRENT PACKAGE PATH が設定されている場合は '%.pkgname'。CURRENT PACKAGE PATH 内の一連のスキーマ名は、パーセント文字 ('%') によって暗黙指定されます。

このメッセージ (SQLCODE) の原因として、以下のことが考えられます。

- パッケージがバインドされていなかったか、ドロップされていた。
- DB2 ユーティリティまたは CLI アプリケーションの実行を試行中の場合、DB2 ユーティリティをそのデータベースに再バインドする必要があります。

- CURRENT PACKAGE PATH が設定されている場合は '%.pkgname'。ただし、CURRENT PACKAGE PATH 内のどのスキーマでも '%.pkgname' の名前の付いたパッケージが見つからない。

指定された package-schema.package-name に対してバージョン ID が使用されている場合、同じパッケージ・スキーマとパッケージ名を使って定義されたパッケージが存在するけれども、既存のパッケージが要求されたバージョンまたは整合性トークンと一致しないため、正しいパッケージが見つからない可能性があります。パッケージは、パッケージ名の 3 つの部分すべてが一致していなければなりません。複数のバージョンが使用されている場合、このメッセージが表示された原因として、さらに以下のことが考えられます。

- 実行されているアプリケーションのバージョンはプリコンパイルされ、コンパイルされ、リンクされているけれどもバインドされていないか、またはバインドされているけれども、パッケージのそのバージョンが後にドロップされている。
- アプリケーションはプリコンパイルされてバインドされているけれども、コンパイルとリンクが行われていないか、またはそのいずれかが行われていないため、実行されているアプリケーションが最新ではない。
- コンパイルされて、アプリケーション実行可能プログラムにリンクされた、変更済みソース・ファイルを作成したプリコンパイルとは別のソース・ファイルのプリコンパイルによって生成されたバインド・ファイルからパッケージがバインドされている。
- 新規アプリケーションが、既存のパッケージの名前（とバージョン）を使ってバインドされたため、既存のパッケージが置換された。置換されたパッケージと関連したアプリケーションが実行された場合には、エラーが発生します。

このいずれの場合も、要求の整合性トークンが既存バージョンの整合性トークンと一致していないため、パッケージが検出されないと考えられています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しいパッケージ名を指定するか、またはプログラムをバインドしてください。実行中のアプリケーションがデータベースにバインドされていない場合は、データベース管理者に連絡して、バインドに必要な処置を行ってください。実行しているアプリケーションまたはオブジェクト・モジュールが、コンパイルされ、プリコンパイルおよびそのパッケージを生成したバインドと関連付けられた、リンクされた変更済みソース・コードであることを確認してください。

CURRENT PACKAGE PATH が設定されている場合は、このパッケージを収めたスキーマが、CURRENT

PACKAGE PATH に指定されていることを確認してください。

別のバージョンのパッケージがあるかどうかを判別するには、以下の SQL ステートメントを使用してカタログを照会することができます。

```
SELECT PKGSCHEMA, PKGNAME,
       PKGVERSION, UNIQUE_ID
FROM SYSCAT.PACKAGES
WHERE PKGSCHEMA = 'pkgschema'
and PKGNAME='pkgname'.
```

UNIQUE_ID 列は、整合性トークンに対応する点に気を付けてください。

DB2 ユーティリティ・プログラムがデータベースに再バインドされる必要がある場合は、データベース管理者は、データベースへの接続中にインスタンスの bnd サブディレクトリから以下のいずれかの CLP コマンドを発行することによって、これを実行することができます。

- DB2 ユーティリティの場合は "DB2 bind @db2ubind.lst blocking all grant public"
- CLI の場合は "DB2 bind @db2cli.lst blocking all grant public"

フェデレーテッド・システム・ユーザー: フェデレーテッド・サーバーに必要なパッケージが、適用可能なデータ・ソースにバインドされることを確認してください。データ・ソースへのパッケージのバインドについては、「フェデレーテッド・システム・ガイド」を参照してください。

sqlcode: -805

sqlstate: 51002

SQL0808N CONNECT ステートメント・セマンティクスに、他の既存の接続のセマンティクスとの整合性がありません。

説明: CONNECT ステートメントが、接続が存在するソース・ファイルの接続オプション (SQLRULES、CONNECT タイプ、SYNCPPOINT、または RELEASE タイプ) とは異なる接続タイプでプリコンパイルされたソース・ファイルから作成されています。

ユーザーの処置: すべてのソース・ファイルが、同じ CONNECT オプションでプリコンパイルされていることを確認するか、または確認できない場合は、最初の CONNECT ステートメントを発行する前に、SET CLIENT api を呼び出して、アプリケーション・プロセスに必要なオプションを設定してください。

sqlcode: -808

sqlstate: 08001

SQL0811N スカラー全選択、SELECT INTO ステートメント、または VALUES INTO ステートメントの結果が複数行になりました。

説明: 以下のいずれかがエラーの原因です。

- 組み込み SELECT INTO または VALUES INTO ステートメントの実行結果が、複数行の結果表になりました。
- スカラー全選択の実行結果が、複数行の結果表になりました。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この状態は、フェデレーテッド・サーバーまたはデータ・ソースによっても検出されます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントに適切な条件指定が入っていることを確認してください。条件指定が適切な場合には、1 行のみが想定されているときに、複数の行または値を返すデータの問題である可能性があります。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 要求を失敗させたデータ・ソースに対して問題を分離し(「トラブルシューティング・ガイド」を参照して、SQL ステートメントの処理に失敗したデータ・ソースを判別してください)、選択基準とそのオブジェクトのデータを調べてください。

sqlcode: -811

sqlstate: 21000

SQL0817N SQL ステートメントは、ステートメントの結果が禁止された更新操作となるため、実行されません。

説明: アプリケーションは、実行結果がユーザー・データあるいはサブシステム・カタログへの更新となる SQL を実行しようとしていました。これは、以下のいずれかの理由から禁止されています。

- アプリケーションが IMS 照会専用トランザクションとして動作している
- アプリケーションが 2 フェーズ・コミットをサポートしないリモート DBMS でデータを更新しようとする IMS または CICS アプリケーションである
- アプリケーションが、複数のロケーションおよび 2 フェーズ・コミットをサポートしないロケーションのいずれかでデータを更新しようとした

SQL ステートメントには INSERT、UPDATE、DELETE、CREATE、ALTER、DROP、GRANT、および REVOKE が入っています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: アプリケーションが IMS 照会専用トランザクションとして動作している場合、アプリケーション実行下での照会専用トランザクションの状況変更について、IMS システム・プログラマーを調べてください。

IMS または CICS アプリケーションがリモートの更新を行う場合、アプリケーションがサーバー DBMS でのローカル・アプリケーションとして動作するか、あるいはサーバー DBMS が 2 フェーズ・コミットをサポートするようにアップグレードする必要があります。

アプリケーションが複数のロケーションでデータを更新しようとする場合、アプリケーションを変更するか、あるいはすべての DBMS が 2 フェーズ・コミットをサポートするよう、アップグレードする必要があります。

sqlcode: -817

sqlstate: 25000

SQL0818N タイム・スタンプの矛盾が起きました。

説明: プリコンパイル時にプリコンパイラーによって生成されたタイム・スタンプが、バインド時にパッケージとともに格納されたタイム・スタンプと同じではありません。

この問題は、以下の状況で起きる可能性があります。

- アプリケーションはプリコンパイルされ、コンパイルされ、およびリンクされているけれども、バインドされていない。
- アプリケーションはプリコンパイルされてバインドされているけれども、コンパイルとリンクが行われていないか、またはそのいずれかが行われていないため、実行されているアプリケーションが最新ではない。
- コンパイルされて、アプリケーション実行可能プログラムにリンクされた、変更済みソース・ファイルを作成したプリコンパイルとは別のソース・ファイルのプリコンパイルによって生成されたバインド・ファイルからパッケージがバインドされている。
- 新規アプリケーションが、同じ名前と既存のパッケージを使ってバインドされたため、既存のパッケージが置換された。置換されたパッケージと関連したアプリケーションが実行された場合には、エラーが発生します。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 前にリストされた原因に加えて、必須パッケージをすべての適用可能

なデータ・ソースにバインドするわけではないため、問題が発生する可能性もあります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: オブジェクト・モジュールと一致するプログラムのバインド・ファイルを使用して、もう一度アプリケーションをバインドしてください。または、データベース内に格納されているパッケージに対応するプログラムを実行してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、このメッセージの番号とテキストを記録して、テクニカル・サービス担当者に連絡してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 前にリストされたアクションに加えて、フェデレーテッド・サーバーに必要なパッケージが適用可能なデータ・ソースにバインドされていることを確認してください。データ・ソースへのパッケージのバインドに関する詳細については、「フェデレーテッド・システム・ガイド」を参照してください。

sqlcode: -818

sqlstate: 51003

SQL0822N SQLDA に、無効なデータ・アドレスまたは標識変数アドレスが含まれています。

説明: アプリケーション・プログラムによって、無効なアドレスが SQLDA に置かれました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムを修正して、有効なアドレスが SQLDA に置かれるようにしてください。

sqlcode: -822

sqlstate: 51004

SQL0840N SELECT リストに戻された項目が多すぎます。

説明: SELECT リスト内に返された項目数が、許容最大値を超えています。SELECT リストの最大値 (共通表式以外) は 1012 です。共通表式での SELECT リストの最大は 5000 です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: すべての情報が実際に必要かどうかを判別してください。(SQL ステートメント SELECT * from A, B, C の SELECT list * によって戻される項目数は、3 つの表すべての列数の合計です) 可能であれば、情報の必要な項目のみが戻されるように、SQL ステートメントを修正してください。すべての情報が必要

な場合は、SQL ステートメントを 2 つ以上のステートメントに分割してください。

sqlcode: -840

sqlstate: 54004

SQL0842N サーバー *server-name* への接続はすでに存在しています。

説明: SQLRULES(STD) が実際あり、CONNECT ステートメントは既存 SQL 接続を識別します。

ユーザーの処置: エラーに対する処置は、以下のとおりです。

- サーバー名が意図した名前でない場合は、訂正してください。
- SQLRULES(STD) が有効で、CONNECT ステートメントが既存の SQL 接続を識別している場合は、CONNECT を SET CONNECTION に置き換えるか、またはオプションを SQLRULES(DB2) に変更してください。

アプリケーションのエラーを修正して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -842

sqlstate: 08002

SQL0843N サーバー名は既存の接続を指定しません。

説明: ステートメント、コマンド、または API は、アプリケーション処理の既存の SQL 接続を識別しないサーバー名を指定しました。

次の使用で起こった可能性があります。

- SET CONNECTION ステートメント
- RELEASE ステートメント
- DISCONNECT ステートメント
- SET または QUERY CLIENT INFORMATION

ユーザーの処置: エラーに対する処置は、以下のとおりです。

- サーバー名が意図した名前でない場合は、訂正してください。
- サーバーへの接続が確立されており、接続の要求を発行する前に、現在または休止状態にあることを確認してください。

アプリケーションのエラーを修正して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -843

sqlstate: 08003

SQL0845N PREVVAL 式は、NEXTVAL 式がシーケンス *sequence-name* の現行セッションで値を生成するまで使用できません。

説明: PREVVAL 式がシーケンス *sequence-name* を指定していますが、値がまだこのシーケンスについて生成されていません。シーケンスの PREVVAL 式を発行するためには、このシーケンスについて値を生成するために、NEXTVAL 式をこのセッションで発行する必要があります。

ユーザーの処置: セッション内で同じシーケンスについて PREVVAL 式を発行する前に、シーケンスに少なくとも 1 つの NEXTVAL 式を発行してください。

sqlcode: -845

sqlstate: 51035

SQL0846N ID 列またはシーケンス・オブジェクト *object-type object-name* の指定が無効です。理由コード = *reason-code*

説明: ID 列またはシーケンス・オブジェクトについて、CREATE または ALTER ステートメントの属性の指定が、次のいずれかの理由により無効である可能性があります。

1. ID 列の基礎となるデータ・タイプまたはシーケンス・オブジェクトがサポートされていません。ID 列とシーケンス・オブジェクトは、データ・タイプ SMALLINT、INTEGER、BIGINT、および位取りがゼロの DECIMAL (または NUMERIC) をサポートします。
2. START WITH、INCREMENT BY、MINVALUE または MAXVALUE に対する値が、ID 列またはシーケンス・オブジェクトのデータ・タイプの範囲外です。
3. MINVALUE は MAXVALUE 以下でなければなりません。
4. 無効な値が CACHE に指定されました。この値は、最小値 2 の INTEGER でなければなりません。

ユーザーの処置: 構文を訂正して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -846

sqlstate: 42815

SQL0859N トランザクション・マネージャー・データベースに対するアクセスが、SQLCODE *SQLCODE* で失敗しました。

説明: アプリケーションが SYNCPOINT(TWOPHASE) でプリコンパイルされ、2 フェーズ・コミットを調整するために、トランザクション・マネージャー・データベースを必要としています。トランザクション・マネージャー・データベースが使用できない理由には、以下が考えられます。

- トランザクション・マネージャー・データベースが作成されていません。
- データベース・マネージャー構成ファイルの *tm_database* フィールドが更新されておらず、データベースの名前で活動状態になっています。
- データベースは存在しますが、データベースに対する通信が失敗しました。

ユーザーの処置: 可能なアクションは以下の通りです。

- このメッセージとともに返された SQLCODE を参照して、その SQLCODE に関する適切なアクションに従ってください。
- *tm_database* が存在することを確認し、存在しない場合は、新しいデータベースを作成するか、または TM データベースとして使用できる既存のデータベースを選択してください。ディスク・ストレージに重大な制約が存在しない場合は、独立したデータベースを作成することが推奨されます。
- フィールド「*tm_database*」を使用した TM データベースのデータベース・マネージャー構成の更新を行っていない場合は、それを実行してください。
- *tm_database* への接続が作成可能なことを確認してください。たとえば、コマンド行プロセッサを使用して、接続を試みてください。
- 選択された *tm_database* が、DB2 Connect を介してアクセスされたデータベースでないことを確認してください。

sqlcode: -859

sqlstate: 08502

SQL0863W 接続は成功しましたが、1 バイト文字しか使用できません。

説明: サーバー・データベースおよびクライアント・アプリケーションは異なる言語タイプのコード・ページを使用し、7 ビット ASCII 範囲外の文字は使用できません (7 ビット ASCII 内の文字のみがすべてのコード・ページに存在します)。たとえば、日本語とラテン 1 コード・ページ間の接続があっても、日本語文字はすべて

ラテン 1 コード・ページでは使用できません。そのため、これらの文字すべてを避ける必要があります (英語の文字は問題ありません)。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 考えられる原因は次の通りです。

- フェデレーテッド・データベースは 1 バイト文字と 2 バイト文字の両方をサポートしていますが、データベース・クライアント・システムは 1 バイト文字のみをサポートします。
- データ・ソースは 1 バイト文字と 2 バイト文字の両方をサポートしていますが、フェデレーテッド・システムは 1 バイト文字のみをサポートします。

ユーザーの処置: アプリケーションおよびデータベース・コード・ページ間で共通でない文字を使用する SQL ステートメントまたはコマンドを実行要求しないでください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: クライアント・システム、フェデレーテッド・システム、およびデータ・ソース間で共通でない文字を使用する SQL ステートメントまたはコマンドをサブミットしないでください。

sqlcode: +863

sqlstate: 01539

SQL0864N 参照制約 *constraint-name* が全選択内の SQL データ変更ステートメントにより修正される表 *table-name* の行の修正を試行しました。

説明: SQL データ変更ステートメントが FROM 文節に指定されましたが、SQL データ変更ステートメントのターゲット基本表に同じ表を修正する参照制約が含まれています。これは許可されません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: FROM 文節内の SQL データ変更ステートメントの使用を回避するか、または SQL データ変更ステートメントのターゲットである表を修正しないように参照制約を変更してください。

sqlcode: -0864

sqlstate: 560C6

SQL0865N *tm_database* 値が無効です。

説明: データベース・マネージャー構成で *tm_database* として選択されたデータベースが有効ではありません。データベースはレベル DB2 V2.1 またはそれ以降のレベルでなければならず、DRDA プロトコルでは (つまり DB2 Connect では) アクセスすることはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置:

1. データベース・マネージャー構成を更新して、*tm_database* パラメーターに、有効なデータベースを指定してください。
2. `db2stop` と `db2start` を発行して、変更を反映してください。

sqlcode: -865

sqlstate: 08001

SQL0866N 接続リダイレクトが失敗しました。理由コード: *reason-code*。

説明: データベースでのディレクトリーのカタログが原因で、サポートされていない方法で接続がリダイレクトされました。

考えられる理由コードは次のとおりです。

- 01** データベース接続が、あるサーバーから別のサーバーへの複数リダイレクトを呼び出しましたが、1 つの接続リダイレクトのみがサポートされています。
- 02** 現在のバージョンの DB2 クライアントまたはサーバーと、バージョン 1 クライアントまたはサーバーの両方を呼び出す接続が試みられました。バージョン 1 クライアントまたはサーバーではリダイレクトがサポートされていないために、この試みは失敗しました。

ユーザーの処置: 理由コードごとのアクションは次のとおりです。

- 01** 接続のパスにおいて、接続を他のサーバーにリダイレクトするサーバーが複数にならないように、データベースを再カタログします。
- 02** 接続をリダイレクトする中継サーバーが存在しないように、データベースを再カタログします。

sqlcode: -866

sqlstate: 08001

SQL0868N USER/USING 文節を使用する CONNECT が、接続がすでに存在するサーバーに対して試みられました。

説明: サーバーに対する現行または休止接続が存在するので、USER/USING 文節を使用したこのサーバーへの CONNECT (接続) が試みられました。

ユーザーの処置: 可能なアクションは以下の通りです。

- SET CONNECTION ステートメントを使用して、DORMANT 接続を現行接続にしてください。
- アプリケーションが SQLRULES(DB2) を使用している場合は、USER/USING なしの CONNECT ステートメントを使用してください。
- 既存の作業単位を完了して切断し、USER/USING を使用して再接続してください。

sqlcode: -868

sqlstate: 51022

SQL0873N 別のコード化スキームでエンコードされたオブジェクトを同じ SQL ステートメントで参照することができません。

説明: SQL ステートメントが参照するすべての表、SQL 関数、および SQL メソッドが同じコード化スキームで定義されていません。

この状態は、次のような場合に発生します。

- ASCII または Unicode コード化スキームのいずれかで作成された表が、異なるコード化スキームで作成された表のステートメントで参照されている場合。
- ASCII または Unicode コード化スキームのいずれかで作成された SQL 関数または SQL メソッドが、異なるコード化スキームで作成された表のステートメントで参照されている場合。
- 関数が、元となる関数とは異なるコード化スキームで作成されている場合。
- 例外表が、操作用の基本表とは異なるコード化スキームで作成されている場合。

ユーザーの処置: 同じコード化スキームで作成されたオブジェクトのみを参照するように SQL ステートメントを訂正してください。

sqlcode: -873

sqlstate: 53090

SQL0874N すべてのパラメーターの CCSID は、ルーチンの PARAMETER CCSID と一致する必要があります。

説明: ルーチンのすべてのパラメーターは、ルーチン自体と同じコード化スキームを使用する必要があります。パラメーターに CCSID を指定している場合、明示的または暗黙的に指定されたルーチンの PARAMETER CCSID オプションと一致する必要があります。

ユーザーの処置: パラメーターから CCSID オプションを除去、またはステートメントを変更して全体に同じ CCSID 値を指定してください。

sqlcode: -874

sqlstate: 53091

SQL0880N SAVEPOINT *savepoint-name* が存在しないか、またはこのコンテキストでは無効です。

説明: RELEASE または ROLLBACK TO SAVEPOINT *savepoint-name* ステートメントを出したときにエラーが起きました。この名前を持つ保管点が見つからないか、または現在の ATOMIC 実行コンテキストの外側に設定されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントにある保管点の名前を訂正して、ステートメントを出し直してください。

sqlcode: -880

sqlstate: 3B001

SQL0881N 名前 *savepoint-name* の SAVEPOINT が存在しますが、この保管点名は再利用できません。

説明: 名前 *savepoint-name* は SAVEPOINT ステートメントですでに使用されています。この保管点名を使用している SAVEPOINT ステートメントの少なくとも 1 つが、名前がユニークでなければならないことを宣言している UNIQUE キーワードも指定しているため、この名前を再利用することはできません。

ステートメントは処理できません。新しい保管点は設定されていません。同じ名前の古い保管点が存在します。

ユーザーの処置: この保管点に別の名前を選択し、SAVEPOINT ステートメントを出し直してください。既存の保管点名を再使用する必要がある場合、RELEASE SAVEPOINT ステートメントを出して既存の保管点を解放してください。ただし、指定された保管点が設定された後でトランザクションに設定された保管点も、この RELEASE SAVEPOINT ステートメントによって解放されるので注意してください。詳細については、「SQL リファレンス」を参照してください。

sqlcode: -881

sqlstate: 3B501

SQL0882N 保管点は存在しません。

説明: ROLLBACK TO SAVEPOINT ステートメントを出したときにエラーが起きました。既存の保管点がない場合、特定の保管点名を指定せずに ROLLBACK TO SAVEPOINT を出すことは許可されていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 異なるステートメントを出すか、または ROLLBACK ステートメントでトランザクション全体のロールバックを試みてください。

SQL0900 - SQL0999

SQL0900N アプリケーション状態がエラーです。データベース接続が存在しません。

説明: データベースに対する接続が存在しません。これは、以下のいずれかが理由である可能性があります。

- アプリケーション状態における重大エラーのため、データベース接続が失われました。
- アプリケーションがデータベースから切断された可能性があり、次の SQL ステートメントを実行する前に、新しい現行接続が確立されていません。

ユーザーの処置: 既存の休止接続に切り替える (CONNECT TO または SET CONNECTION を使用) か、または新しい接続を確立 (CONNECT を使用) して、現行接続を再確立してください。

sqlcode: -900

sqlstate: 08003

SQL0901N 重大ではないシステム・エラーにより、SQL ステートメントが失敗しました。後続の SQL ステートメントは処理できません。(理由 *reason*)

説明: システム・エラーのために、エラーが起きました。SQL ステートメントの処理が終了した理由は、*reason* (これは英語だけで表示され、IBM サポート担当員だけが参考とする) です。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) と理由 *reason* を記録してください。

トレースがアクティブの場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。次に、以下の情報を用意して、テクニカル・サービス担当者に提供してください。

- 問題記述
- SQLCODE
- 理由 *reason*
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 要求を失敗させる原因となった問題を含むデータ・ソースを判別します。(「トラブルシューティング・ガイド」を参照して、SQL ステートメント処理の失敗の原因となったデー

sqlcode: -882

sqlstate: 3B502

タ・ソースを判別してください。) 次に、そのデータ・ソースに対する必要な診断を行ってください。データ・ソースの問題判別手続きはそれぞれ違うので、適用できるデータ・ソース・リファレンスを参照してください。

sqlcode: -901

sqlstate: 58004

SQL0902C システム・エラー (理由コード = *reason-code*) が起きました。後続の SQL ステートメントは処理できません。

説明: システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: メッセージのメッセージ番号 (SQLCODE) と理由コードを記録してください。

トレースがアクティブの場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。次に、以下の情報を用意して、テクニカル・サービス担当者に提供してください。

- 問題記述
- SQLCODE および組み込み理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 要求を失敗させる原因となった問題を含むデータ・ソースを判別します。(「トラブルシューティング・ガイド」を参照して、SQL ステートメント処理の失敗の原因となったデータ・ソースを判別してください。) 次に、そのデータ・ソースに対する必要な診断を行ってください。データ・ソースの問題判別手続きはそれぞれ違うので、適用できるデータ・ソース・リファレンスを参照してください。

sqlcode: -902

sqlstate: 58005

SQL0903N COMMIT ステートメントが失敗し、トランザクションはロールバックされました。
理由コード: *reason-code*。

説明: 現在の作業単位に関連する 1 つ以上のサーバーが、コミットされるデータベースを準備できませんでした。COMMIT ステートメントは失敗し、トランザクションはロールバックされました。

考えられる理由コードは次のとおりです。

- 01** 作業単位に関連するいずれかのデータベースに対する接続が失われました。
フェデレーテッド・システム・ユーザー: 接続したデータベースが、ニックネームが使用されているフェデレーテッド・サーバー・データベースである場合、ニックネームに必要なデータベース内のいずれかのデータ・ソースへの接続が失われました。
- 02** 作業単位に関連するデータベースまたはノードの 1 つがアクセスされましたが、コミットを準備できません。
フェデレーテッド・システム・ユーザー: 接続したデータベースが、ニックネームが使用されているフェデレーテッド・サーバー・データベースである場合、ニックネームに必要ないずれかのデータ・ソースがコミットを準備できません。
- 03** 作業単位に関連する DB2 Data Links Manager がコミットを準備できませんでした。
- 04** 1 つ以上の宣言された一時表が矛盾した状態にあります。
- 05** 予期しないエラーが起きました。詳細については管理通知ログをチェックしてください。

ユーザーの処置: データベースに対する接続が失われた場合は、接続を再確立してください。障害が接続に関連していない場合は、リモート・システムのエラー診断ログを参照して、障害の特質と必要なアクションを判断してください。アプリケーションを再実行します。

sqlcode: -903

sqlstate: 40504

SQL0904N リソースが使用できないため、実行できませんでした。理由コード: *reason-code*、リソースのタイプ: *resource-type*、およびリソース名: *resource-name*。

説明: タイプ *resource-type* のリソース *resource-name* は、*reason-code* に示された時刻に使用可能ではなかったため、SQL ステートメントを実行できませんでした。

た。リソース・タイプ・コードの解説には DB2 (MVS 版) の問題判別文書を参照してください。

ユーザーの処置: 使用不可だったリソースの ID をチェックしてください。リソースが使用できなかった理由を判別するには、指定された *reason-code* を参照してください。

sqlcode: -904

sqlstate: 57011

SQL0905N リソース制限を超えたため、実行に失敗しました。リソース名 = *resource-name*、制限 = *limit-amount1* CPU 秒 (*limit-amount2* サービス単位)、*limit-source* から導出。

説明: リソース制限を超えたため、SQL ステートメントの実行が終了しました。

制限を超えたリソースの名前は *resource-name* です。これは、制限が取り込まれたリソース限定表の列名でもあります。超えた制限は、CPU 秒単位で *limit-amount1*、サービス単位で *limit-amount2* です。*resource-name* は、各 SQL ステートメントに許可されている CPU 秒の数値の、ASUTIME である可能性があります。許可される最大 CPU 秒数は、*limit-amount1* です。サービス単位での最大数は、*limit-amount2* です。

この制限量の導出元のソースは *limit-source* で、これはリソース限定表の名前か、または 'システム・パラメーター' の名前です。ソースがシステム・パラメーターの場合、表へのアクセス時に、リソース限定表に適用可能項目が入っていなかったか、またはエラーが発生しました。いずれの場合においても、制限はインストール (システム) パラメーターから獲得されました。

ユーザーの処置: SQL ステートメントがなぜ長時間かかったかを判別して、適切なアクションをとってください。SQL ステートメントの単純化、表および索引の再作成、またはリソース限定表保守担当のインストール・グループに連絡することを考慮してください。

この戻りコードを受け取るアプリケーション・プログラムが追加 SQL ステートメントを実行できます。

sqlcode: -905

sqlstate: 57014

SQL0906N 前のエラーのためこの関数が使用不能になったので、SQL ステートメントを実行できません。

説明: 前のエラーのため要求された関数が使用不能になったため、SQL ステートメントの実行が失敗しました。この状態は、アプリケーション・プログラムが異

常終了を代行受信した場合 (たとえば、ON ERROR PL/I プログラムで ON ERROR 条件)、および SQL ステートメントの実行を継続した場合に起こります。また、この状態は、DB2 CICS トランザクションが作成スレッド・エラーが発生したにもかかわらず、SYNCPOINT ROLLBACK を最初に発行せずに、SQL 要求の発行を継続した場合に起こります。

ユーザーの処置: 一般には、アプリケーション・プログラムはこの戻りコードを受信した段階で終了する必要があります。この戻りコードで、アプリケーションが他の SQL ステートメントを実行するためのすべての試行が失敗します。DB2 CICS トランザクションの場合、SQLCA で SQLERRP フィールドがモジュール名 DSNCEXT1 を含む場合、トランザクションが SYNCPOINT ROLLBACK を発行して、処理を継続する可能性があります。トランザクションが ROLLBACK を選択して処理を継続した場合、作成スレッド・エラーを元に戻す状態を訂正することができます。

sqlcode: -906

sqlstate: 24514, 51005, 58023

SQL0907N MERGE ステートメントのターゲット表 *table-name* を、制約またはトリガー *name* によって変更しようとした。

説明: MERGE ステートメントによって、制約またはトリガー *name* が活動化します。これらはターゲット表または MERGE ステートメントの同じ表階層内の表でもある表 *table-name* の更新、挿入または削除を行おうとします。これは許可されていません。

ユーザーの処置: MERGE ステートメントを変更して、制約またはトリガーが活動化する操作を除去するか、または制約またはトリガーのある表を変更して、ターゲット表への参照を除去してください。

sqlcode: -907

sqlstate: 27000

SQL0908N *auth-id* を使った *bind-type* エラー。権限 BIND、REBIND、または AUTO_REBIND 操作は許可されません。

説明: BIND と REBIND の場合、示された許可 ID は、示された *bind-type* を、プランまたはパッケージに対して実行することを許可されません。リソース限定表 (RLST) に入力することは、この許可 ID、またはすべての許可 ID によってのバインドおよび再バインドを禁止します。AUTO-REBIND の場合、AUTO-REBIND 操作をコントロールするシステム・パラメーターが AUTO-REBIND を禁止するように設定されています。

bind-type

バインド操作のタイプ (BIND、REBIND または AUTO-REBIND)。

auth-id

BIND サブコマンドの起動者の許可 ID または AUTO-REBIND 操作に対する起動者の 1 次許可 ID。

ユーザーの処置: 指示された許可 ID がバインドに使用できる場合、アクティブ RLST 表を入力変更してください。AUTO-REBIND 操作が使用不能になった場合、パッケージを再実行する前に再バインドしてください。

sqlcode: -908

sqlstate: 23510

SQL0909N オブジェクトが削除されました。

説明: アプリケーション・プログラムは、(1) 表をドロップしてからアクセスしようとした、または (2) 索引をドロップしてからその索引を使用してオブジェクト表にアクセスしようとした。

ユーザーの処置: ドロップした後に、オブジェクトにアクセスまたは使用としないように、アプリケーション・プログラムの論理を訂正する必要があります。

アプリケーション・プログラム内で索引をドロップすることは特に危険です。なぜならば、アプリケーション (バインドまたは再バインドによって) に対して生成されたプランがオブジェクト表にアクセスするため、実際に特定な索引を使用していることを判別する方法はないからです。

sqlcode: -909

sqlstate: 57007

SQL0910N SQL ステートメントが、変更がペンディングになっているオブジェクトにアクセスできません。

説明: アプリケーション・プログラムが、以下のいずれかが行われたのと同じ作業単位内のオブジェクトにアクセスしようとした。

- アプリケーション・プログラムが、オブジェクトまたは関連オブジェクト (たとえば、表の索引) に対して DROP を発行した。
- アプリケーション・プログラムが、制約を追加またはドロップしたオブジェクトに対して、ステートメントを発行した。

- アプリケーション・プログラムが、直接または間接的にオブジェクトに影響を与える DROP TRIGGER または CREATE TRIGGER ステートメントを発行した。
- アプリケーション・プログラムが、オブジェクトを変更ペンディング状態にする ROLLBACK TO SAVEPOINT ステートメントを発行した。
- アプリケーション・プログラムが、NOT LOGGED 宣言一時表の行をすべて削除するステートメントを発行した。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 以前にリストされた原因に加えて、オブジェクトへのアクセスを妨げる、データ・ソースに特有の他の制限が存在する可能性があります。

SQL ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 変更が行われたのと同じ作業単位内のオブジェクトにアクセスしないように、アプリケーション・プログラムを変更してください。通常は、データ定義言語 (DDL) ステートメントを、同じオブジェクトにアクセスするデータ操作言語 (DML) ステートメントとは異なる作業単位に分離します。

失敗したステートメントを正常に処理するためには、作業単位がコミットまたはロールバックを行う必要があります。コミットされた修正がオブジェクトをドロップする場合は、失敗した SQL ステートメントを正常に処理するために、オブジェクトの再作成が必要になる可能性があります。

オブジェクトが SAVEPOINT 内で変更されている場合、ROLLBACK TO SAVEPOINT ステートメントを出した後でそのオブジェクトへのアクセスを試みないよう、アプリケーション・プログラムを変更してください。変更されたオブジェクトにアクセスし、ROLLBACK TO SAVEPOINT の時点でオープンされていたカーソルはアクセス不能になります。カーソルをクローズするようアプリケーションを変更してください。

NOT LOGGED 宣言一時表に関する挿入、削除、または更新ステートメントが失敗すると、その表にある行はすべて削除されます。障害が起こった時点で、この宣言された一時表に対してオープンされていたカーソルはアクセス不能になるため、アプリケーションによってクローズされなければなりません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 前のアクションで問題が解決されない場合は、要求を分離します。(「トラブルシューティング・ガイド」を参照して、SQL ステートメント処理を失敗させるデータ・ソースを判別してください。) 次に、オブジェクトへのアクセスを妨げる原因となる、データ・ソース上の他の制約を判別してください。アプリケーションがそれらの制約に違反

しないことを確認してください。

sqlcode: -910

sqlstate: 57007

SQL0911N デッドロックまたはタイムアウトのため、現在のトランザクションがロールバックされました。理由コード *reason-code*。

説明: 現在の作業単位が、オブジェクトの使用について、未解決競合状態になったために、ロールバックされました。

理由コードは以下のとおりです。

- 2** デッドロックのために、トランザクションがロールバックされました。
- 68** ロック・タイムアウトのために、トランザクションがロールバックされました。
- 72** トランザクションに関する DB2 Data Links Manager に関連するエラーのために、トランザクションがロールバックされました。

注: 作業単位に関連する変更は、もう一度入力する必要があります。

アプリケーションは直前の COMMIT にロールバックされません。

ユーザーの処置: デッドロックまたはロック・タイムアウトを防ぐには、可能であれば、長く実行されるアプリケーションまたは、デッドロックを起こしやすいアプリケーションに対して、頻繁に COMMIT を発行してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: デッドロックは、フェデレーテッド・サーバーまたはデータ・ソースで発生する可能性があります。データ・ソースおよび潜在的にフェデレーテッド・システムをスパンするデッドロックを検出するメカニズムが存在しません。要求が失敗したデータ・ソースを識別することができます。(「問題判別の手引き」を参照して、SQL ステートメントの処理に失敗したデータ・ソースを判別してください。)

デッドロックはだいたい標準であるか、または決まった SQL の組み合わせを処理中に予期されます。可能な限りデッドロックを避けるために、アプリケーションを設計することをお勧めします。

sqlcode: -911

sqlstate: 40001

SQL0912N データベースに対するロック要求の最大値に達しました。

説明: ロック・リストへのメモリー割り振り量が十分でないために、データベースに対するロック要求が最大値に達しました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: アプリケーションは、他の SQL ステートメントのサブミットを行う前に、COMMIT または ROLLBACK ステートメントのサブミットを行う必要があります。より多くのロック・リスト・スペースを使用可能にするためには、データベース構成パラメーター (*locklist*) を増やすことを考慮してください。

sqlcode: -912

sqlstate: 57011

SQL0913N 実行がデッドロックまたはタイムアウトによって失敗しました。理由コード *reason-code*。

説明: 発行された要求が、オブジェクトの使用について未解決競合で呼び出されており、実行は失敗しました。

理由コードは以下のとおりです。

- 2 デッドロックのために、トランザクション・ブランチが正常に実行されていません。
- 68 ロック・タイムアウトのために、トランザクションが正常に実行されていません。
- 72 トランザクションに関係する DB2 Data Links Manager に関連するエラーのために、トランザクションがロールバックされました。
- 80 タイムアウトのために、ステートメントが正常に実行されていません。

ユーザーの処置:

- 理由コード 80 の場合、アプリケーションを終了せずに失敗したステートメントを再試行することができます。アプリケーションが複数のリモート・データベースにアクセスする場合、グローバル・デッドロックを防ぐために、トランザクションをロールバックするのはよい方法です。
- その他の理由コードの場合、トランザクションをロールバックするように要求を出してください。トランザクションは現在のトランザクション・ブランチの障害のため、コミットできません。
- デッドロックまたはロック・タイムアウトを回避する助けになるには、可能であればアプリケーションを長時間実行するための、または高速同時アクセスでデータを要求するアプリケーションには頻繁に COMMIT 操作を発行してください。

sqlcode: -913

sqlstate: 57033

SQL0917N パッケージのバインドが失敗しました。

説明: エラーが発生したため、パッケージを作成できませんでした。

この SQLCODE はバインドまたはコミット処理中に発行できます。これがコミット処理中に発行された場合は、データベースに対する変更がすべてロールバックされます。バインド処理中に発行された場合は、パッケージの作成が失敗するだけであり、作業論理単位内のその他の変更はコミット可能です。

ユーザーの処置: 多くの場合、この問題は、エラーが発生したために 1 つ以上の SQL ステートメントをバインドできなかったことが原因です。

エラーの原因となっているステートメントを特定し、それを訂正してください。コマンドを再発行して、パッケージを作成してください。

sqlcode: -917

sqlstate: 42969

SQL0918N アプリケーションがロールバックを実行する必要があります。

説明: データベースの作業単位はすでにロールバックされていますが、この作業単位に含まれている他のリソース・マネージャーはまだロールバックしていません。このアプリケーションの整合性を保証するために、アプリケーションがロールバックを発行するまで、すべての SQL 要求が拒否されます。

ユーザーの処置: アプリケーションがロールバックを発行するまで、すべての SQL 要求が拒否されます。たとえば、CICS 環境の場合、これは CICS SYNCPOINT ROLLBACK コマンドになります。

sqlcode: -918

sqlstate: 51021

SQL0920N データベース・クライアント・システムのデータは、他のデータベース・クライアント・システムからはアクセスできません。

説明: ワークステーションが、クライアントまたはローカル・クライアントを持つサーバーとして構成されています。このシステムで作成されたデータベースは、他のワークステーションとは共有できません。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: サーバー・ワークステーションからの

みデータを要求してください。

sqlcode: -920

sqlstate: 57019

SQL0925N アプリケーション実行環境の SQL COMMIT が無効です。

説明: 以下の場合には、COMMIT を実行できません。

- CICS などの分散トランザクション処理環境の場合、静的 SQL COMMIT ステートメントが試みられましたが、環境特有のコミット・ステートメントが必要です。たとえば、CICS 環境の場合、これは CICS SYNCPOINT コマンドになります。
- プリコンパイルされた、または非 TP モニター環境の CONNECT 2 を使用するように設定された DB2 アプリケーションが、静的 SQL COMMIT しか許されていないにもかかわらず、動的 SQL COMMIT を発行しました。
- ストアード・プロシージャから発行された場合、呼び出すアプリケーションが分散作業単位または分散トランザクション処理環境で実行されているときは、SQL COMMIT も許可されません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを行って、問題を解決してください。

- COMMIT を発行するステートメントを取り除いて、環境に対して有効なコミットを行うステートメントで置き換えてください。
- 非 TP モニター環境の接続タイプ 2 の場合は、静的 COMMIT のみを使用してください。
- ストアード・プロシージャの場合は、COMMIT を取り除いてください。

sqlcode: -925

sqlstate: 2D521

SQL0926N アプリケーション実行環境の SQL ROLLBACK が無効

説明: 以下の場合には、ROLLBACK が実行できません。

1. CICS などの分散トランザクション処理環境で、静的 SQL ROLLBACK ステートメントが試みられましたが、環境特有のロールバック・ステートメントが必要です。たとえば CICS 環境の場合、これは CICS SYNCPOINT ROLLBACK コマンドになります。
2. プリコンパイルされた、または CONNECT 2 を使用するように設定された DB2 アプリケーションが、静的 SQL ROLLBACK しか許されていないにもかかわらず、動的 SQL ROLLBACK を発行しました。

3. ストアード・プロシージャから発行された場合、呼び出すアプリケーションが分散作業単位 (CONNECT タイプ 2) または分散トランザクション処理環境で実行されているときは、SQL ROLLBACK も制限されます。

ユーザーの処置:

1. ROLLBACK を発行するステートメントを取り除いて、環境に対して有効なロールバックを行うステートメントで置き換えてください。
2. 接続タイプ 2 の場合は、静的 COMMIT のみを使用してください。
3. ストアード・プロシージャの場合は、それ自体を取り除いてください。

sqlcode: -926

sqlstate: 2D521

SQL0930N ステートメントを処理するためのストレージが足りません。

説明: 別のメモリー・ページを必要とする要求がデータベースに対して行われましたが、データベース・マネージャーが利用できるページがありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 解決策は以下のとおりです。

- システムに十分な実メモリーおよび仮想メモリーがあることを確認してください。
- バックグラウンド処理を終了してください。
- DUOW 再同期でエラーが起きた場合は、データベース・マネージャー構成パラメーターの値 *maxagents* を増やし、*resync_interval* を減らしてください。
- ルーチン (UDF、ストアード・プロシージャ、または方式) を参照したステートメントでエラーが発生している場合、引き数と戻り値を入れるのに必要なストレージが、システムで使用可能なメモリー量を超えている可能性があります。これは、このルーチンが、大きなサイズ (たとえば、2GB など) の BLOB、CLOB、DBCLOB パラメーターまたは戻り値を使って定義されている場合に発生することがあります。

上記にリストされた可能なソリューションを試しても問題が解決されない場合は、このルーチンの定義を変更する必要がある可能性があります。

sqlcode: -930

sqlstate: 57011

SQL0931C オペレーティング・システム・ファイル表がオーバーフローしました。後続の SQL ステートメントは処理できません。

説明: オペレーティング・システムの制限に達しました。アプリケーション・プログラムは、これ以上 SQL ステートメントを発行できません。データベースにはリカバリーが必要であるというマークが付けられ、このデータベースを使用しているすべてのアプリケーションは、このデータベースにアクセスできなくなります。

ユーザーの処置: データベースを使用しているすべてのアプリケーションを終了してください。データベースを再始動してください。

この問題の再発を防ぐには、以下を行ってください。

- MAXFILOP データベース構成パラメーターを小さな値に変更してください (これにより、DB2 のオペレーティング・システム・ファイル表の使用度が減少します)。
- できれば、システム・ファイルを使用しているアプリケーションを終了してください。
- オペレーティング・システム・ファイル制限の増加方法については、オペレーティング・システムの資料を参照してください。ほとんどの UNIX 環境では、これはカーネル構成をより大きな値で更新することにより、行うことができます。(AIX の場合は、使用しているマシンのメモリー容量を増やすことによってしか、これを行うことができない可能性があります。)

sqlcode: -931

sqlstate: 58005

SQL0950N 現在使用されているため、表または索引はドロップできません。

説明: オープン・カーソルが現在表または索引を使用している場合は、DROP TABLE または DROP INDEX ステートメントを発行することができません。

ステートメントは処理できません。表または索引はドロップされません。

ユーザーの処置: 必要なカーソルをすべてクローズして、ステートメントの再サブミットを行ってください。

sqlcode: -950

sqlstate: 55006

SQL0951N 同じアプリケーション処理で使用されているため、タイプ *object-type* のオブジェクト *object-name* を変更できません。

説明: ロックまたは使用中である場合、オブジェクトへの ALTER または SET INTEGRITY ステートメントを出すことはできません。

ステートメントは処理できません。このオブジェクトは変更されていません。

ユーザーの処置: オブジェクト *object-name* に直接的、または間接的に依存するカーソルをクローズし、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -951

sqlstate: 55007

SQL0952N 割り込みによって、処理が取り消されました。

説明: ユーザーが割り込みキー・シーケンスを押した可能性があります。

ステートメントの処理は終了します。終了が起きる前の変更が、データベースに適用されている可能性があります。ただし、コミットされません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置: アプリケーションを続行してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -952

sqlstate: 57014

SQL0954C ステートメントの処理に使用できる十分なストレージが、アプリケーション・ヒープにありません。

説明: アプリケーションのすべての利用可能なメモリーを使いきってしまいました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このメッセージを受け取ったアプリケーションを終了してください。より多くのアプリケーション・ヒープを使用可能にするために、データベース構成パラメーター (*applheapsz*) を増やしてください。

sqlcode: -954

sqlstate: 57011

SQL0955C ステートメントを処理するための、ソート・メモリーを割り振ることはできません。理由コード = *reason-code*

説明: ソート処理を行うため、データベース・エージェントで使用可能な仮想メモリーが不足しています。理由コードの説明:

- 1 専用処理メモリーが不十分です。
- 2 ソート処理のためのデータベース広域共有メモリー域に共有メモリーが不十分です。

このステートメントは処理されませんが、他の SQL ステートメントは処理される可能性があります。

ユーザーの処置: 以下の 1 つ以上を行ってください。

- 対応するデータベース構成ファイル内のソート・ヒープ・パラメーター (*sorthheap*) の値を小さくしてください。
- 理由コード 1 の場合、可能であれば、使用可能な専用仮想メモリーを増やしてください。たとえば UNIX システムでは、*ulimit* コマンドを使用して処理用のデータ域の最大サイズを大きくすることができます。
- 理由コード 2 の場合、ソート処理用に指定されている、このデータベース全体で共有されているメモリー域のサイズを増やしてください。専用ソート用のソート・ヒープしきい値に影響を与えずにこの領域のサイズを増やすには、*SHEAPTHRES_SHR* データベース構成パラメーターの値を増やしてください。

ソート処理用に指定されたデータベース全体の共有メモリー域のサイズと、専用ソート用のソート・ヒープしきい値の両方を増やすには、*SHEAPTHRES* データベース・マネージャーの構成パラメーターの値を増やし、*SHEAPTHRES_SHR* を 0 に設定してください。

sqlcode: -955

sqlstate: 57011

SQL0956C ステートメントの処理に使用できる十分なストレージが、データベース・ヒープにありません。

説明: データベースのすべての利用可能なメモリーを使い過ぎてしまいました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このメッセージを受け取ったアプリケーションを終了してください。より多くのデータベース・ヒープを使用可能にするために、データベース構成パラメーター (*dbheap*) を増やしてください。入出力サーバーの数が上限に近い場合は、この数を減らすことも

役に立つ可能性があります。

dbheap を変更するには、以下のようなコマンドを入力します。これは、データベース *sample* の *dbheap* をサイズ 2400 に設定します。

```
db2 UPDATE DB CFG FOR sample
      USING DBHEAP 2400
```

データベースへの接続を切断し、変更を有効化します。

sqlcode: -956

sqlstate: 57011

SQL0958C オープンできるファイルの最大数に達しました。

説明: データベースが使用可能なファイル・ハンドルの最大数に達しました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: データベースのロケーションに許されているオープン・ファイルの最大数に影響を与えるパラメーターを増やしてください。これには、構成パラメーター (*maxfilop*) を増やして、インスタンスがもっと多くのファイル・ハンドルを使用できるようにすることと、他のセッションを終了して、使用中のファイル・ハンドルを減らすことが含まれます。

sqlcode: -958

sqlstate: 57009

SQL0959C ステートメントの処理に使用できる十分なストレージが、サーバーのコミュニケーション・ヒープにありません。

説明: サーバーのコミュニケーション・ヒープのすべての利用可能なメモリーを使い過ぎてしまいました。

コマンドまたはステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このメッセージを受け取ったアプリケーションを終了してください。サーバー・ワークステーションのデータベース・マネージャー構成ファイルのコミュニケーション・ヒープ (*comheapsz*) パラメーターのサイズを増やしてください。

注: このメッセージはバージョン 2 以前の DB2 リリースにのみ適用されます。

sqlcode: -959

sqlstate: 57011

SQL0960C データベースのファイルの最大数に達しました。

説明: データベース・ファイルの最大数に達しました。ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このメッセージを受け取ったアプリケーションを終了してください。すべてのアクティブ・アプリケーションをデータベースから切断した後で、もう一度データベースに接続してください。エラーが続く場合は、表、索引、またはその両方をデータベースからドロップするか、あるいはデータベースを分割してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -960

sqlstate: 57011

SQL0964C データベースのトランザクション・ログがいっぱいです。

説明: トランザクション・ログのすべてのスペースを使い切ってしまいました。

2 次ログ・ファイルを持つ循環ログが使用されている場合は、2 次ログ・ファイルの割り振り和使用が試みられています。ファイル・システムにスペースがない場合は、2 次ログを使用することができません。

アーカイブ・ログが使用されている場合、ファイル・システムは、新しいログ・ファイルを収容するためのスペースを提供しません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このメッセージ (SQLCODE) を受け取った場合は、COMMIT または ROLLBACK を実行するか、またはもう一度やり直してください。

データベースが並行アプリケーションで更新されている場合は、もう一度やり直してください。他のアプリケーションがトランザクションを完了すると、ログ・スペースが解放される場合があります。

もっと頻繁にコミット処理を行ってください。トランザクションがコミットされていない場合は、そのトランザクションがコミットされたときに、ログ・スペースが解放される場合があります。アプリケーションの設計時に、更新トランザクションのコミット時期を考慮して、ログがいっぱいにならないようにしてください。

デッドロックが起きている場合は、より頻繁にチェックしてください。これは、データベース構成パラメーター DLCHKTIME を減らせば可能です。そうすれば、デッドロックを見つけることができ、すみやかにデッドロッ

クを解決 (ROLLBACK を使って) して、ログ・スペースを解放することができます。

この状態が頻発する場合は、より大きなログ・ファイルを使用可能にするために、データベース構成パラメーターを増やしてください。より大きなログ・ファイルは容量を必要としますが、アプリケーションの再試行を減少させます。より大きなログ・ファイルは、より多くのスペースを必要としますが、再処理を行うためのアプリケーションの実行を減少させます。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -964

sqlstate: 57011

SQL0965W このワークステーションのメッセージ・ファイルには、SQL 警告 *SQLCODE* に対応するメッセージ・テキストがありません。警告は、オリジナル・トークン *token-list* とともに、モジュール *name* から返されました。

説明: データベース・サーバーは、アプリケーションにコード *SQLCODE* を返しました。この警告コードは、このワークステーションの DB2 メッセージ・ファイルのメッセージに対応していません。

ユーザーの処置: ご使用のデータベース・サーバーの資料を参照し、指定された *SQLCODE* の原因を判別してください。

SQL0966N データベース接続サービス・ディレクトリに指定されたエラー・マッピング・ファイル *name* が見つからないか、またはオープンできません。

説明: 以下に示す条件の 1 つが成立しています。

- エラー・マッピング・ファイルが存在しません。
- エラー・マッピング・ファイルが、現在他のアプリケーションによってオープンされています。
- エラー・マッピング・ファイルが指定したパスに存在しません。
- エラー・マッピング・ファイルが壊れています。

エラー・マッピング・データは検索されませんでした。

ユーザーの処置: ファイルをオープンしているアプリケーションからファイルを解放するか、オリジナル・ファイルを再インストールまたはリストアしてください。

sqlcode: -966

sqlstate: 57013

SQL0967N データベース接続サービス・ディレクトリに指定されたエラー・マッピング・ファイル *name* の形式が無効です。

説明: プログラムがエラー・マッピング・ファイルの読み取りを行っていたときに、エラーが起きました。

エラー・マッピング・データは検索されませんでした。

ユーザーの処置: エラー・マッピング・ファイルのすべての構文エラーを訂正してください。

sqlcode: -967

sqlstate: 55031

SQL0968C ファイル・システムがいっぱいです。

説明: データベースを持っているファイル・システムのいずれかがいっぱいです。このファイル・システムには、データベース・ディレクトリ、データベース・ログ・ファイル、または表スペース・コンテナが入っている可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 不要なファイルを消去して、システム・スペースに空きを作ってください。データベース・ファイルは消去しないでください。さらにスペースが必要な場合は、不要な表および索引のドロップが必要になる場合があります。

UNIX ベース・システムでは、現行ユーザー ID に許可されている最大ファイル・サイズを超えたために、このディスク・フル状態になる場合があります。 `chuser` コマンドを使用して、`fsize` を更新してください。リポートが必要になる場合があります。

コンテナのサイズ変化により、ディスクがフルになった可能性があります。ファイル・システムに十分なスペースがある場合は、表スペースをドロップしてコンテナを同じサイズで再作成してください。

sqlcode: -968

sqlstate: 57011

SQL0969N このワークステーションのメッセージ・ファイルには、**SQL** エラー *error* に対応するメッセージ・テキストがありません。エラーは、オリジナル・トークン *token-list* とともに、モジュール *name* から返されました。

説明: このデータベース・サーバーは、ご使用のアプリケーションに **SQLCODE** *error* を戻しました。このエラー・コードは、このワークステーションの DB2 メッセージ・ファイルのメッセージに対応していません。

ユーザーの処置: ご使用のデータベース・サーバーの資料を参照し、指定された **SQLCODE** の原因を判別してください。データベース・サーバーの資料にある指定されたアクションを行い、この問題を修正してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 要求が失敗したデータ・ソースに問題を分離します (「トラブルシューティング・ガイド」を参照して、**SQL** ステートメント処理を失敗させるデータ・ソースを判別してください)。データ・ソースのマニュアルで *error* を探してください。問題がデータに依存する場合は、エラーが起きたときにデータ・ソースで処理されていたデータを調べる必要があります。

SQL0970N システムが、読み取り専用ファイルへの書き込みを試みました。

説明: データベースによって使用されているファイルが読み取り専用とマークされているか、または存在しません。このファイルに対し、データベースには書き込みアクセスが必要です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このメッセージ (**SQLCODE**) を受け取ったアプリケーションを終了してください。すべてのデータベース・ファイルが、読み取りと書き込みの両方のアクセスを許されていることを確認してください。指定されたファイル名に必要なないブランクがないかどうか調べてください。

sqlcode: -970

sqlstate: 55009

SQL0972N データベースのドライブに、正しいディスクットが入っていません。

説明: ドライブ内のディスクットが、データベース・ディスクットではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 必要なディスクットをドライブに挿入してください。そのドライブに存在するデータベースを使用するアプリケーションを始動した場合は、そのディスクットを取り除かないでください。

sqlcode: -972

sqlstate: 57019

SQL0973N ステートメントの処理に使用できる十分なストレージが、*heap-name* ヒープにありません。

説明: このヒープのすべての利用可能なメモリーを使い過ぎてしまいました。ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このメッセージ (SQLCODE) を受け取ったアプリケーションを終了してください。

heap-name 構成パラメーターを修正して、ヒープ・サイズを大きくしてください。

たとえば、データベース構成パラメーターを更新するには、次のコマンドを発行します。

```
db2 update db cfg
for db-name
using heap-name heap-size
```

データベース構成パラメーターのリストを表示するには、GET DATABASE CONFIGURATION コマンドを使用してください。

データベース・マネージャー構成パラメーターを更新するには、次のコマンドを発行します。

```
db2 update dbm cfg
for db-name
using heap-name heap-size
```

データベース・マネージャー構成パラメーターのリストを表示するには、GET DATABASE MANAGER CONFIGURATION コマンドを使用してください。

アプリケーション・グループ共有ヒープ・サイズの場合、次の 3 つのデータベース構成パラメーターがサイズと使用法を制御します:

APPGROUP_MEM_SZ、GROUPHEAP_RATIO、および APP_CTL_HEAP_SZ。1 つのアプリケーション・グループ内のアプリケーションの数は次のパラメーターによって計算されます。

APPGROUP_MEM_SZ/APP_CTL_HEAP_SZ。アプリケーション・グループの共有ヒープ・サイズは次のパラメーターによって計算されます。APPGROUP_MEM_SZ * GROUPHEAP_RATIO/100。

sqlcode: -973

sqlstate: 57011

SQL0974N データベースのあるドライブがロックされています。

説明: データベースの入ったドライブがロックされていることを、システムが報告しました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ドライブをロックできる他の処理 (たとえば、CHKDSK) が、システムで実行されていないことを確認してください。操作を再試行してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -974

sqlstate: 57020

SQL0975N データベースまたはインスタンス *name* がユーザー *username* によって静止されているため、新規トランザクションを開始できませんでした。静止タイプ: *type*

説明: 使用しようとしていたインスタンスまたはデータベースは他のユーザーによって静止されており、このインスタンスまたはデータベースが静止状態でなくなるまで、新規トランザクションは許可されません。

静止タイプ *type* は、すでに静止されているインスタンスまたはデータベースを参照しています。'1' がインスタンスで、'2' がデータベースです。

ユーザーの処置: 現在インスタンスまたはデータベースを静止しているユーザーに連絡して、DB2 が静止から解放される時期を尋ね、解放されたときに要求を再試行してください。

sqlcode: -975

sqlstate: 57046

SQL0976N ディスケット・ドライブのドアが開いています。

説明: データベースの入ったドライブのドアが開いた状態にあります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ドライブのドアを閉じて、やり直してください。

sqlcode: -976

sqlstate: 57021

SQL0977N COMMIT 状態が不明です。

説明: *tm_database* が、COMMIT 処理中に使用不能になったため、COMMIT の結果が不明になりました。データベースの再同期化が、*tm_database* が使用可能になったときに起きます。再同期化中に、トランザクションがロールバックされる場合があることに注意してください。これ以降の SQL ステートメントの実行は安全

に行われますが、ロックは、再同期処理が完了するまで保持されます。

ユーザーの処置: たとえば、CLP を使用して、*tm_database* に対する接続が可能であることを確認してください。接続できない場合は、返された SQLCODE に必要なアクションに従って、接続が確立できることを確認してください。

sqlcode: -977

sqlstate: 40003

SQL0978N ディスケットが書き込み禁止になっています。

説明: 書き込み処理がデータベースに対して試みられましたが、データベースのいったディスクが書き込み禁止になっています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しいディスクを使用していることを確認してください。必要に応じて、ディスクから保護を取り除いてください。

sqlcode: -978

sqlstate: 55009

SQL0979N NONE の SYNCPOINT で実行中のアプリケーション処理の COMMIT が、*num* データベースに対して失敗しました。失敗には、*alias/SQLSTATE1*、*alias/SQLSTATE2*、*alias/SQLSTATE3*、*alias/SQLSTATE4* というデータベース別名と SQLSTATE の対 (最大 4 つまで返されます) が含まれます。

説明: アプリケーションが複数のデータベースに接続されており、COMMIT が発行されましたが、それらの接続の 1 つ以上に対して失敗しました。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 失敗した接続が、ニックネームが使用されているフェデレーテッド・サーバー・データベースである場合、ニックネームに必要なデータ・ソースに対するコミットが失敗します。

ユーザーの処置: 更新されるアプリケーションとデータの性質に応じて、アプリケーションが意図した変更が、すべてのデータベースにわたって整合性を持って反映されていることを確認するために、これ以上の処理の中止、失敗のログへの記録、および適切な SQL の発行が必要になる可能性があります。

COMMIT エラーによって影響を受けるデータベースの全リストが返されない場合は、全リストの診断ログを参照してください。

sqlcode: -979

sqlstate: 40003

SQL0980C ディスク・エラーが起きました。 後続の SQL ステートメントは処理できません。

説明: 現在および後続の SQL ステートメントの正常な実行を妨げるディスク・エラーが起きました。アプリケーション・プログラムは、これ以上 SQL ステートメントを発行できません。たとえば、アプリケーション処理に関連するリカバリー・ルーチンは、追加の SQL ステートメントを発行できません。データベースにはリカバリーが必要であるというマークが付けられ、このデータベースを使用しているすべてのアプリケーションは、このデータベースにアクセスできなくなります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。データベースを使用しているすべてのアプリケーションを終了してください。エラーがハードウェア・エラーかどうかを判断してください。データベースを再始動してください。リカバリーが不可能な場合には、バックアップ・コピーからデータベースをリストアしてください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -980

sqlstate: 58005

SQL0982N ディスク・エラーが起きました。 ただし、後続の SQL ステートメントは処理できます。

説明: 一時システム・ファイルの処理中に、現在の SQL ステートメントの正常な実行を妨げるディスク・エラーが起きました。ただし、後続の SQL ステートメントは処理できます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このメッセージ (SQLCODE) を受け取ったアプリケーションを終了してください。

sqlcode: -982

sqlstate: 58004

SQL0983N このトランザクション・ログは、現在のデータベースにはありません。

説明: ログ・ファイルに格納されているシグニチャーが、データベースの従属シグニチャーと一致しません。通常このエラーは、データベースが格納されているディ

レクトリーとは異なるディレクトリーに格納されているログ・ファイルを指定したときに起きます。ファイルのリダイレクトが行われた可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ログ・ファイルに対する適切なアクセスを持つコマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -983

sqlstate: 57036

SQL0984C COMMIT または ROLLBACK が失敗しました。 後続の SQL ステートメントは処理できません。

説明: システム・エラーのために、コミットまたはロールバック処理が正常に処理できませんでした。アプリケーション・プログラムは、これ以上 SQL ステートメントを発行できません。たとえば、アプリケーション処理に関連するリカバリー・ルーチンは、追加の SQL ステートメントを発行しない可能性があります。データベースにはリカバリーが必要であるというマークが付けられ、このデータベースを使用しているすべてのアプリケーションは、このデータベースにアクセスできなくなります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) と、可能であれば、すべての SQLCA エラー情報を記録してください。データベースを使用しているすべてのアプリケーションを終了してください。データベースを再始動してください。サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

リカバリーが不可能な場合には、バックアップ・コピーからデータベースをリストアしてください。

トレースがアクティブの場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。以下の情報を用意して、テクニカル・サービス担当者に提供してください。

必要な情報は、以下のとおりです。

- 問題記述
- SQLCODE
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 要求の失敗の原因となったデータ・ソースに問題を分離します。(トラブルシューティング・ガイドを参照して、SQL ステートメント処理の失敗の原因となったデータ・ソースを判別してください。) 次に、そのデータ・ソースに必

要な診断ステップとデータベース・リカバリー手順を実行してください。データ・ソース変更の問題判別手順とデータベース・リカバリー手順には、適当なデータ・ソースのマニュアルを参照してください。

sqlcode: -984

sqlstate: 58005

SQL0985C データベース・カタログの処理中に、ファイル・エラーが起きました。 データベースは使用できません。

説明: システムが、カタログ・ファイルの入出力エラーをリカバリーできません。

システムは、データベースを使用するステートメントを処理できません。

ユーザーの処置: バックアップ・コピーからデータベースをリストアしてください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -985

sqlstate: 58005

SQL0986N ユーザー表の処理中に、ファイル・エラーが起きました。 表は使用できません。

説明: 表のデータは有効ではありません。

システムは、表を使用するステートメントを処理できません。

ユーザーの処置: データベースに不整合がある場合は、バックアップ・バージョンからデータベースをリストアしてください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -986

sqlstate: 58004

SQL0987C アプリケーション・コントロール共有メモリーのセットの割り振りができません。

説明: アプリケーション・コントロール共有メモリーのセットの割り振りができません。このエラーは、操作の試行をしているデータベース・マネージャーまたは環境のいずれかに十分なメモリー・リソースがないため起きます。この問題の原因となるメモリー・リソースには、以下が含まれます。

- システムに割り振られている共有メモリー ID の数。
- システムで使用可能なページングまたはスワッピング・スペースの容量。
- システムで使用可能な物理メモリー量。

ユーザーの処置: 以下の 1 つ以上を行ってください。

- データベース・マネージャー要件およびシステムで実行中の他のプログラムの要件を満たすだけの十分なメモリー・リソースが使用可能であることを確認してください。
- データベース構成パラメーター `app_ctl_heap_sz` を削減して、このメモリー・セットのデータベース・マネージャー所要量を削減してください。
- データベース構成パラメーター `dbheap`、`util_heap_sz`、および `buffpage` の 1 つまたは複数をお小さくしてください。割り振られたデータベース・グローバル・メモリーの量に影響するパラメーターについては、「管理ガイド」を参照してください。
- `intra_parallel` が `yes` に設定されている場合、データベース管理構成パラメーター `sheapthres` を小さくし、そうでなければ `intra_parallel` を `no` に設定してください。
- 該当する場合は、システムを使用している他のプログラムを停止してください。

sqlcode: -987

sqlstate: 57011

SQL0989N AFTER トリガー *trigger-name* が FROM 文節内の SQL データ変更ステートメントにより修正される表 *table-name* の行の修正を試行しました。

説明: SQL データ変更ステートメントが FROM 文節に指定されましたが、SQL データ変更ステートメントのターゲット基本表に同じ表を修正する AFTER トリガーが含まれています。これは許可されません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: FROM 文節内の SQL データ変更ステートメントの使用を回避するか、または SQL データ変更ステートメントのターゲットである表を修正しないようにトリガーを変更してください。

sqlcode: -0989

sqlstate: 560C3

SQL0990C 索引エラーが起きました。表を再編成してください。

説明: 索引に対する活動が激しく、索引用のすべてのフリー・スペースを使いきました。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 行った作業をコミットして、コマンドを再発行してください。エラーが続く場合は、作業をロールバックしてください。さらにエラーが続く場合は、可能であれば、表を再編成してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 要求の失敗の原因となったデータ・ソースに問題を分離します。(「トラブルシューティング・ガイド」を参照して、SQL ステートメント処理の失敗の原因となったデータ・ソースを判断してください。) 次に、そのデータ・ソースに索引再作成手順を行ってください。

SQL0992C プリコンパイルされたプログラムのリリース番号が無効です。

説明: プリコンパイルされたプログラム (パッケージ) のリリース番号が、インストールされているバージョンのデータベース・マネージャーのリリース番号との整合性を持っていません。

プリコンパイルされたプログラム (package) は、現在のバージョンのデータベース・マネージャーでは使用できません。コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 互換リリース・レベルのデータベース・マネージャーでプリコンパイルされたプログラムのみを使用してください。

sqlcode: -992

sqlstate: 51008

SQL0993W データベース構成ファイルにある、ログへの新しいパス (`newlogpath`) が無効です。

説明: ログ・ファイルへのパスが、以下のいずれかの理由により無効です。

- パスが存在しません。
- 正しい名前のファイルが指定されたパスに見つかりましたが、このデータベースのログ・ファイルではありませんでした。
- データベース・マネージャーのインスタンス ID が、パスまたはログ・ファイルへのアクセスを許可されていません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: ログ・ファイルへのパスを変更するには、有効な値を持つデータベース構成コマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: +993

sqlstate: 01562

SQL0994N アプリケーションの保管点の使い方が無効です。

説明: アプリケーション保管点関数の使用法に矛盾があります。プログラムが、以下のいずれかを実行しようとしてしました。

- 複数のアクティブ保管点の要求。
- アクティブ保管点のない終了保管点呼び出しの発行。
- アクティブ保管点のないロールバック保管点呼び出しの発行。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: プログラムの保管点の使い方を訂正してください。

SQL0995W ログ・ファイルへの現行パス (logpath) が無効です。ログ・ファイル・パスはデフォルトにリセットされました。

説明: ログ・ファイルへのパスが、以下のいずれかの理由により無効です。

- パスが存在しません。
- 正しい名前のファイルが指定されたパスに見つかりましたが、このデータベースのログ・ファイルではありませんでした。
- データベース・マネージャのインスタンス ID が、パスまたはログ・ファイルへのアクセスを許可されていません。

循環ロギングの場合は、ログ・ファイルがデフォルト・ログ・パスに作成されます。アーカイブ・ログの場合は、次のログ・ファイルがデフォルト・ログ・パスに作成されます。要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: ログ・ファイルへのパスを変更するには、有効な値を持つ構成コマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: +995

sqlstate: 01563

SQL0996N 表スペースのオブジェクト用のページを解放できません。

説明: 表スペース内に壊れた内部データベース・ページ、または内部論理エラーがあります。

ユーザーの処置: オブジェクトまたは表スペースの使用を続けしないでください。オブジェクトおよび表スペースをチェックするために、IBM サービスに連絡してください。

sqlcode: -996

sqlstate: 58035

SQL0997W トランザクション処理に関する一般情報メッセージです。理由コード = *XA-reason-code*。

説明: SQLCODE 997 は、データベース・マネージャのコンポーネント間でのみ渡され、アプリケーションへは戻されません。エラー以外の状況については、XA 戻りコードを伝達するために使用されます。理由コードには、以下のものがあります。

- XA_RDONLY (3) - トランザクション・ブランチが読み取り専用で、コミットされています。
- 64 - TM データベースが、DUOW 再同期でトランザクションがコミットされる必要があることを示しています。
- 65 - TM データベースが、DUOW 再同期でトランザクションがロールバックされる必要があることを示しています。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL0998N トランザクションまたは手動操作による処理中に、エラーが発生しました。理由コード = *reason-code* **Subcode** = *subcode*。

説明: 分散トランザクションを処理している時にエラーが検出されました。トランザクションは次のとおりです。

- 分散トランザクション処理環境での処理 (たとえば、CICS やその他のトランザクション・マネージャからのもの)。
- 経験的操作の処理。
- フェデレーテッド・データベース内の複数のニックネームの更新。それぞれの更新されたニックネームが異なるデータ・ソースを表します。上記の場合、データ・ソースの 1 つがトランザクション処理中に失敗しました。この場合、返された理由コードは、フェデレーテッド・データベースではなくデータ・ソースでの障害の理由です。

考えられる理由コード (対応する X/Open XA 理由コードが括弧内に示されます) は以下のとおりです。

- 01 - (XAER_ASYNC) 非同期処理がすでに未解決です。
- 02 - (XAER_RMERR) トランザクション・ブランチで、リソース・マネージャーが起きました。
- 03 - (XAER_NOTA) XID が無効です。
- 04 - (XAER_INVALID) 無効な引き数が与えられました。考えられるサブコードは、以下のとおりです。
 - 01 - xa_info ポインターが無効です。(たとえば、XAOpen スtringが null です)
 - 02 - データベース名が最大長を超えました。
 - 03 - ユーザー名が最大長を超えました。
 - 04 - パスワードが最大長を超えました。
 - 05 - ユーザー名は指定されていますが、パスワードがありません。
 - 06 - パスワードは指定されていますが、ユーザー名がありません。
 - 07 - xa_info Stringにパラメーターが多すぎます。
 - 08 - 複数の xa_opens が、同じデータベース名に対してさまざまな RM ID を生成しました。
 - 09 - データベース名が指定されていません。
 - 10 - exe_type が無効です。
- 05 - (XAER_PROTO) ルーチンが不適切なコンテキストで呼び出されました。
- 06 - (XAER_RMFAIL) リソース・マネージャーを使用できません。
- 07 - (XAER_DUPID) XID がすでに存在します。
- 08 - (XAER_OUTSIDE) RM がグローバル・トランザクション以外で作業中です。
- 09 - トランザクション・マネージャーの登録 (ax_reg) が失敗しました。考えられるサブコードは、以下のとおりです。
 - 01 - 結合 XID が見つかりませんでした。
 - 02 - tp_mon_name 構成パラメーターに指定された動的ライブラリーが、ロードできませんでした。
- 10 - 中断中に、別のトランザクションを開始しようとしてしました。
- 12 - トランザクション・マネージャーの登録解除 (ax_unreg) が失敗しました。
- 13 - ax インターフェース障害: ax_reg() および ax_unreg() が見つかりません。
- 14 - Microsoft 配布の Transaction Coordinator を使用した DB2 への参加は失敗しました。MSDTC サー

ビスがダウンしている可能性があります。現在のトランザクションを終了する必要があります。

- 16 - Microsoft 分散トランザクション コーディネータ (MSDTC) で障害が発生しました。考えられるサブコードは、以下のとおりです。
 - 01 - DB2 が MSDTC と通信できません。
 - 02 - MSDTC が DB2 接続を登録できません。サブコードは Microsoft のエラー・コードを表しています。
 - 03 - MSDTC は、DB2 接続を分散トランザクションに参加させることができません。サブコードは Microsoft のエラー・コードを表しています。
 - 04 - アクティブなトランザクションが存在するため、DB2 接続に参加させることができません。
 - 05 - トランザクションが存在しません。接続に参加させることができませんでした。
- 35 - 非 XA データベースに対する経験的処理は無効です。
- 36 - XID がデータベース・マネージャーに認識されていません。
- 37 - トランザクションは、すでに経験的にコミットされています。
- 38 - トランザクションは、すでに経験的にロールバックされています。
- 39 - トランザクションが未確定トランザクションではありません。
- 40 - このトランザクションには、ロールバックのみが許されています。
- 41 - ノード障害のため、トランザクションは MPP 従属ノードで経験的にコミットされません。
- 42 - DB2 Connect XA サポートは、TCP/IP を使用して確立したアウトバウンド接続にのみ使用できます。
- 43 - サーバーがネイティブ XA をサポートしないため、接続を確立できません。
- 69 - DUOW 再同期化中にデータベース・ログ ID の不一致が起きました。
- 85 - 経験的処理の結果、トランザクションは部分的にコミットされ、ロールバックされました。
- 210 - このトランザクションでは、経験的コミットのみが許可されています。ノードの中にはすでにコミット状態のものがあります。
- 221 - ホスト上の DBMS のバージョンでは、同じ XA トランザクションに関係するアプリケーションがすべて、データベースに接続するために同じユーザー ID を使用しなければなりません。

- 222 - ホスト上の DBMS のバージョンでは、同じ XA トランザクションに関係するアプリケーションがすべて、同じ CCSID を持っていなければなりません。
- 223 - DB2 Connect XA サポートは、ローカル・クライアントに、またはインバウンド接続を設定するために TCPIP を使用しているリモート・クライアントにのみ使用可能です。
- 224 - DB2 Connect XA サポートは、少なくともバージョン 7.1 のクライアントにのみ使用可能です。
- 225 - 操作は XA 疎結合トランザクションでは無効です。考えられるサブコードは、以下のとおりです。
 - 01 - DDL ステートメントは許可されません。
 - 02 - WHERE CURRENT OF 文節を指定した更新または削除は許可されません。
 - 03 - バッファの挿入操作は許可されません。
 - 04 - このトランザクションには、ロールバックのみが許されています。
 - 05 - 暗黙的な再バインド操作は許可されません。
- 226 - トランザクションは、すでにロールバックされています。
- 227 - コーディネーター・ノードで手動操作による要求を実行してください。
- 228 - オープン・カーソルがあります。
- 229 - 直前のトランザクションが完了していません。
- 230 - トランザクションがすでにコミットされました。

ユーザーの処置: 理由コード 1 から 8 については、SQLCA が呼び出し元に戻されない場合があるので、システム・ログに項目が作成されます。

エラーの原因が、ニックネームに関連する、障害が起こったデータ・ソースである場合は、障害が起こったデータ・ソースのロケーションは必ずフェデレーテッド・サーバーのシステム・ログに表示されます。

理由コード 4 については、xa open スtringの内容を調べて、必要な修正を行ってください。

理由コード 9、サブコード 02 については、tp_mon_name 構成パラメーターに、トランザクションの動的登録に使用される ax_reg() 関数を持つ外部製品の動的ライブラリーの名前が入っていることを確認してください。

理由コード 14 については、MSDTC サービスがアクティブであるか、確認してください。

理由コード 16 の場合:

- サブコードが 01 なら、MSDTC サービスがアクティブであることを確認してください。
- サブコードが 02 なら、MSDTC は接続を登録できませんでした。詳しくは、db2diag.log または Windows の「イベント ビューア」で MicrosoftXARMCreat というタイトルの項目を調べてください。
- サブコードが 03 なら、MSDTC は接続をトランザクションに参加させることができませんでした。詳しくは、db2diag.log または Windows の「イベント ビューア」で MicrosoftEnglishWithRM というタイトルの項目を調べてください。よくあるエラーとして、現在のトランザクションが明示的にまたは暗黙的にロールバックしたことがあります。これは、MSDTC トランザクションのタイムアウトの設定が低すぎる場合に発生することがあります。タイムアウトの値をもっと大きくして、エラーが引き続き発生するかどうかを調べてください。
- サブコードが 04 なら、別の分散トランザクションで現在アクティブである DB2 接続を参加させようとしていました。
- サブコードが 05 なら、SQL ステートメントを発行する前に接続を参加させてください。

理由コード 35 については、グローバル・トランザクションの読み取り専用リソース・マネージャーとしてのみ関連するデータベースに対して、経験的操作の実行が試みられました。例は MVS 上の DB2 などの DRDA データベースです。これらのタイプの非 XA データベースは、XA 未確定トランザクションを持つことができません。

理由コード 36、37、38 については、未確定トランザクションで無効な経験的操作の実行が試みられました。間違った XID を指定したか、あるいはこの XID が記録された後で経験的または再同期処理が行われた可能性があります。まだ経験的処理を実行する必要があるかどうかを確認するには、経験的照会要求を実行して、未確定トランザクションの現在のリストを入手してください。

理由コード 39 については、終了し、2 フェーズ・コミットが始まるのを待っているトランザクションに対して、XID が指定されました。2 フェーズ・コミット処理が開始され、未確定トランザクションとなったトランザクションにのみ、経験的処理を実行することができます。

理由コード 40 については、失敗したトランザクションの下で、SQL ステートメントが試みられました。これの例は、トランザクションに関連する密結合スレッドが異常終了した後で、正常に登録されている同じトランザクション・スレッドで SQL ステートメントを試みることです。

理由コード 41 の場合、管理通知ログでこの問題に関する詳細情報を調べてください。失敗したノードで、DB2 を再始動する必要があります。システム管理者に連絡して援助を求める必要がある場合があります。

理由コード 42 の場合、ゲートウェイ・カタログを変更して TCP/IP 通信プロトコルを使用できるようにすると、アウトバウンド接続を確立できます。

理由コード 43 については、zSeries または iSeries サーバー上で DB2 に接続する場合、DB2 Connect を使用してデータベースをカタログし、同期点マネージャーを開始してください。

理由コード 69 については、トランザクション・マネージャー (TM) データベース、リソース・マネージャー (RM) データベース、またはその両方が、未確定トランザクションが発生したときのデータベースとは異なります。換言すれば、TM データベースまたは RM データベースは異なるデータベースのインスタンスを参照することができます。ログ ID 不一致は、以下の理由によって起きる可能性があります。

- RM インスタンスでの TM データベースのデータベース・ディレクトリーが正しくありません。
- 未確定トランザクションが発生した後で、構成が変更された可能性があります。
- データベースがドロップされて、再作成された可能性があります。この場合は、経験的に、未確定トランザクションをコミットまたはロールバックすることしかできません。

理由コード 85 については、ユーザーが複数のデータ・ソースを更新中に、いくつかのデータ・ソースが経験的にロールバック、またはコミットされ、その結果、トランザクションは部分的にコミットされ、ロールバックされます。この理由コードでは、データは矛盾した状態です。トランザクションで更新されたデータ・ソースをすべて手動でチェックし、データを訂正する必要があります。

理由コード 210 の場合、すでにコミット状態であるノードがあります。未確定トランザクションを解決するには、経験的コミットを実行する必要があります。

理由コード 221 の場合、同じ XA トランザクションに関係するアプリケーションがすべて、データベースに接続するために同じユーザー ID を使用していることを確認してください。

理由コード 222 の場合、同じ XA トランザクションに関係するアプリケーションがすべて、同じ CCSID を持っていることを確認してください。

理由コード 223 の場合、ローカル・クライアントを使用するよう、またリモート・クライアントについては、ゲートウェイに接続するために通信プロトコルとして TCPIP を使用するようアプリケーションおよびクライアント・セットアップを変更してください。

理由コード 224 の場合、クライアントを 7.1 またはそれ以降のバージョンに更新してください。

理由コード 225 の場合、アプリケーションに XA 疎結合トランザクションで無効な操作が含まれていないことを確認してください。XA 疎結合トランザクションを使用できる共通アプリケーション・サーバー環境は、IBM Encina Transaction Server、IBM WebSphere Application Server、Microsoft Transaction Server、および BEA Tuxedo です。この理由コードが検出された場合は、使用するアプリケーションを検討し、上記のいずれのアクションも実行されていないことを確認してください。

理由コード 226 の場合、トランザクションがロールバック状態に到達し、このノード上でロールバックをしています。

理由コード 227 の場合、コーディネーター・ノード上で手動操作による要求を実行して、db2diag.log でコーディネーター・ノード番号を確認してください。

理由コード 228 の場合、この要求を出す前に、カーソルがクローズしていることを確認してください。

理由コード 229 の場合、この要求を出す前に、トランザクションが完了していることを確認してください。

理由コード 230 の場合、トランザクションはすでにコミットされています。

一般情報を集合する手順は、以下のとおりです。

理由コードで識別された問題が解決できない場合は、メッセージ番号 (SQLCODE)、理由コード、およびメッセージのオプションのサブコードまたはシステム・ログ内の SQLCA を記録してください。

障害の原因がフェデレーテッド・データベースである場合、フェデレーテッド・サーバーのシステム・ログで見つかる、障害が起こったデータ・ソースのロケーションも記録する必要があります。

トレースがアクティブの場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。次に、以下の情報を用意して、テクニカル・サービス担当者に提供してください。

- 問題記述

- SQLCODE、組み込み理由コード、そしてサブコード
- SQLCA の内容 (可能であれば)
- トレース・ファイル (可能であれば)
- 障害がフェデレーテッド・サーバーで起きている場合、障害が起こったデータ・ソースのロケーション

コンソール、あるいはトランザクション・マネージャーおよびデータベース・マネージャーのメッセージ・ログにも、追加情報がある可能性があります。

SQL1000 - SQL1099

SQL1000N *alias* は、有効なデータベース別名ではありません。

説明: コマンドまたは api に指定された別名が、有効ではありません。別名は、1 から 8 文字 (MBCS を使用している国ではバイト) でなければならず、すべての文字を、データベース・マネージャーの基本文字セットから使用する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しい別名を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1001N *name* は、有効なデータベース名ではありません。

説明: コマンドに指定されたデータベース名の構文が無効です。データベース名は、1 から 8 文字でなければならず、すべての文字をデータベース・マネージャーの基本文字セットから使用する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいデータベース名を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -1001

sqlstate: 2E000

SQL1002N *drive* は、有効なドライブではありません。

説明: コマンドに指定されたドライブが無効です。ドライブは、データベースまたはデータベース・ディレクトリが存在する、ディスクセット・ドライブまたはハード・ディスク・パーティションを示す 1 文字 (A から Z) です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいドライブを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -998

sqlstate: 58005

SQL1003N 構文が正しくないためにパスワードが有効ではないか、またはパスワードが、指定されたデータベースのパスワードと一致しません。

説明: パスワードの長さは 18 文字以下です。ただし、パスワードが APPC 対話でチェックされる場合は、8 文字以下でなければなりません。

ユーザーの処置: パスワードが許容限界より長くないことを確認してください。

sqlcode: -1003

sqlstate: 28000

SQL1004C コマンドの処理に十分なストレージが、ファイル・システムにありません。

説明: コマンドを処理するには、指定されたファイル・システムのストレージが十分ではありません。

Windows 環境のパーティション・データベース環境では、パーティション・データベース・グループのノードにはそれぞれ、CREATE DATABASE コマンドを成功させるために使用できる (使用可能スペースが含まれている) まったく同一の物理ハード・ディスク指定 (文字) がある必要があります。物理ハード・ディスクは、データベース・マネージャー構成で指定されます。DFTDBPATH がブランクのままの場合、デフォルトは DB2 がインスタンス所有マシン (db2 インストール・パス) にインストールされているハード・ディスクとなります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 別のファイル・システムを選択するか、またはデータベース・マネージャー関数にスペースを与えるために、指定したファイル・システムからデータベース・ファイル以外のいくつかのファイルを削除してください。

OS/2 および Windows 環境のパーティション・データベース環境では、次のステップに従ってください。

- どのハード・ディスク指定 (文字) が必要か決定する。ドライブ文字は、エラー・メッセージで指定されています。
- データベース・パーティションのどのノードが問題を起しているか判別する。 インスタンス所有ノードの `db2diag.log` ファイルでこの情報を検索することができます。
- 問題を起しているそれぞれのノードで、ドライブ上の問題を訂正するか、またはデータベース・マネージャー構成でのドライブ指定を変更して、パーティション・データベース・グループのノードごとに、同じドライブが使用可能 (十分なスペースがある) となるようにしてください。
- コマンドを再発行してください。

SQL1005N データベース別名 *name* は、すでにローカル・データベース・ディレクトリーまたはシステム・データベース・ディレクトリーのどちらかに存在しています。

説明: 指定された別名は、すでに使用されています。 `catalog database` コマンドに別名を指定しないと、データベース名が別名として使用されます。 データベースの作成時には、別名はデータベース名と同じになります。

このエラーは、すでにシステム・データベース・ディレクトリーに別名が存在するのに、`catalog database` コマンドを出したために起きた可能性があります。

`create database` コマンドでこのエラーが起こった場合は、以下の可能性が考えられます。

- 別名が、すでにシステム・データベース・ディレクトリーおよびローカル・データベース・ディレクトリーに存在する。
- 別名が、すでにシステム・データベース・ディレクトリーに存在しますが、ローカル・データベース・ディレクトリーには存在しない。
- 別名が、すでにローカル・データベース・ディレクトリーに存在しますが、システム・データベース・ディレクトリーには存在しない。

ユーザーの処置: `catalog database` コマンドの場合は、システム・データベース・ディレクトリーから別名をアンカタログした後で、オリジナル・コマンドを再サブミットするか、または異なる別名でデータベースをカタログしてください。

`create database` コマンドの場合は、上記の 3 つの状況に応じて、以下の操作を行ってください。

- 別名を使用しているデータベースをドロップしてください。 その後で、オリジナル・コマンドを再サブミットしてください。

- 別名をアンカタログしてください。 その後で、オリジナル・コマンドを再サブミットしてください。
- 別名をシステム・データベース・ディレクトリーにカタログしてください。 同じ別名を使用しているデータベースをドロップしてください。 その後で、オリジナル・コマンドを再サブミットしてください。

SQL1006N アプリケーションのコード・ページ *code-page* が、データベースのコード・ページ *code-page* と一致していません。

説明: データベースのアクティブ・コード・ページが、作成時のアクティブ・コード・ページと異なっているため、アプリケーションがデータベースに接続できませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 現在のアプリケーション・プログラムを終了して、オペレーティング・システムに戻ってください。 処理のコード・ページを変更して、アプリケーション・プログラムを再始動してください。

SQL1007N 表スペースのオブジェクト用のページの検索でエラーが起きました。

説明: 表スペースの壊れた内部データベース・ページ、または内部ロジック・エラーが存在します。

ユーザーの処置: オブジェクトまたは表スペースの使用を続けしないでください。 オブジェクトおよび表スペースをチェックするために、IBM サービスに連絡してください。

sqlcode: -1007

sqlstate: 58034

SQL1008N 無効な表スペース ID です。

説明: 指定された表スペース ID が存在しません。 現在の最大表スペース ID より大きいか、または表スペースがドロップされています。

ユーザーの処置: データベースの使用を続けしないでください。 エラー・ログの診断情報を保管して、IBM サービスに連絡してください。

sqlcode: -1008

sqlstate: 58036

SQL1009N このコマンドは無効です。

説明: このコマンドは、クライアント専用ワークステーション上、またはリモート・データベースに対する発行ではサポートされていません。 このようなコマンドの例は、ローカル・データベースのカタログです。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 解決策は以下のとおりです。

- クライアント専用でないワークステーション、またはデータベースが常駐するワークステーション上で、指定したコマンドを発行してください。
- データベースが正しくカタログされていることを確認してください。
- 別のコマンドを発行してください。

SQL1010N *type* は無効なタイプ・パラメーターです。

説明: Database Environment コマンドに指定されたタイプが、有効ではありません。これは、間接データベースの場合は '0'、リモート・データベースの場合は '1' でなければなりません。

さらに、AIX、OS/2、Windows NT、Windows 95 プラットフォームの場合は、DCE グローバル名を持つデータベースのタイプを '3' にすることができます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なタイプを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1011N 間接項目に対する CATALOG DATABASE コマンドに、パスが指定されていません。

説明: CATALOG DATABASE コマンドが、間接項目に対して発行されましたが、パスが指定されていません。間接項目は、データベースが常駐するパスを指定する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 必要なパスを指定してコマンドを再サブミットするか、またはタイプを変更してください。

SQL1012N リモート項目に対する CATALOG DATABASE コマンドに、ノード名が指定されていません。

説明: リモート項目に対する CATALOG DATABASE コマンドに、*nodename* パラメーターが指定されていません。リモート項目は、データベースのノード名を指定する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: *nodename* パラメーターまたは別のタイプを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1013N データベース別名またはデータベース名 *name* が見つかりませんでした。

説明: コマンドに指定されたデータベース名または別名が、既存のデータベースではないか、あるいはそのデータベースが (クライアントまたはサーバー) データベースでディレクトリーに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 示されたデータベース名が、システム・データベース・ディレクトリーに存在することを確認してください。データベース名がシステム・データベース・ディレクトリーに存在しない場合は、データベースが存在しないか、またはデータベース名がカタログされていないかのどちらかです。

データベース名がシステム・データベース・ディレクトリーに存在し、項目タイプが INDIRECT の場合は、データベースが指定したローカル・データベース・ディレクトリーに存在することを確認してください。項目タイプが REMOTE の場合は、データベースが存在し、サーバー・ノードのデータベース・ディレクトリーにカタログされていることを確認してください。

AT NODE 文節をとまなう CREATE DATABASE の場合、データベース名が INDIRECT の入力タイプおよび -1 と同等ではないカタログ・ノード番号をとまなうシステム・データベース・ディレクトリーにあることを確認してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 上記に加えて、SYSCAT.SERVERS に指定されているデータベース名がすべて有効であるかどうかをチェックしてください。SYSCAT.SERVERS 項目で指定されたデータベースが存在しない項目は訂正してください。

sqlcode: -1013

sqlstate: 42705

SQL1014W スキャン中のディレクトリー、ファイル、またはリストには、これ以上の項目はありません。

説明: ディレクトリー、ファイル、またはリストのスキャンは完了されます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL1015N 前のセッションが正常に終了しなかったので、データベースを再始動する必要があります。

説明: 前のセッションが異常終了 (たとえば、電源障害) したために、データベースを再始動する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: このメッセージ (SQLCODE) を受け取ることにより、アプリケーションが警告メッセージを出力して、データベースを回復する時間を要求することができます。データベースを再始動するには、RESTART DATABASE コマンドを発行してください。パーティション・データベース・サーバー環境では、このコマンドはすべてのノードに対して発行されます。

sqlcode: -1015

sqlstate: 55025

SQL1016N CATALOG NODE コマンドで指定された *local_lu* 別名 *name* は無効です。

説明: CATALOG NODE コマンドで指定されたローカル LU (*local_lu*) 別名は使用できません。ローカル LU 別名はローカル SNA LU 別名で、1 から 8 文字でなければならず、空白文字は使用できません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 別名が使用可能な LU 名であることを確認してください。名前に使用されている文字を確認してください。有効な LU 名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1017N CATALOG NODE コマンドで指定されたモード・パラメーター *mode* は無効です。

説明: CATALOG NODE コマンドで指定されている *mode* パラメーターは使用できません。

mode パラメーターが、コミュニケーション・マネージャーがセッションのセットアップに使用する通信プロファイルを識別しています。モードは 1 から 8 文字でなければなりません。有効な文字は大文字または小文字の A から Z、0 から 9、#、@、および \$ です。先頭の文字は英字でなければなりません。システムは小文字を大文字に変更します。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 名前が使用可能なモード名であることを確認してください。名前に使用されている文字を確認してください。正しいモードを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1018N CATALOG NODE コマンドで指定されたノード名 *name* は、すでに存在しています。

説明: CATALOG NODE コマンドの *nodename* パラメーターに指定されているノード名は、すでにこのファイル・システムのノード・ディレクトリーにカタログされています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: *nodename* パラメーターが正しくタイプされている場合は、処理を継続してください。

ノードのカタログ情報が無効な場合は、カタログされているノードをアンカタログした後で、コマンドを再サブミットしてください。ノードのカタログ情報が有効な場合は、新しいノード名を定義して、それを使用してコマンドを再実行してください。

SQL1019N コマンドに指定されたノード名 *name* が無効です。

説明: コマンドに指定されたノード名が無効です。ノード名は 1 から 8 文字で、すべての文字はデータベース・マネージャーの基本文字セットから使用する必要があります。指定されたノード名を、ローカル・インスタンス名と同一名にすることはできません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: DB2INSTANCE 環境変数の値を表示して、ノード名がローカル・インスタンス名と同一名でないことを確認してください。UNIX オペレーティング・システムでは、次のコマンドを入力して DB2INSTANCE 環境変数を表示してください。

```
echo $DB2INSTANCE
```

Windows および OS/2 オペレーティング・システムでは、次のコマンドを入力して DB2INSTANCE 環境変数を表示してください。

```
echo %DB2INSTANCE%
```

正しいノード名を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1020C ノード・ディレクトリーがいっぱいです。

説明: ノード・ディレクトリーには、これ以上項目が入りません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ノード・ディレクトリー内の不要な項目をアンカタログしてください。

SQL1021N UNCATALOG NODE コマンドで指定されたノード名 *name* が、見つかりません。

説明: コマンドに指定された *nodename* が、ノード・ディレクトリーに見つかりませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: *nodename* パラメーターが正しい場合は、ノードがすでにアンカタログされている可能性があ

り、処理を継続することができます。その他の場合は、正しいノード名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1022C コマンドの処理に使用できる、十分なメモリーがありません。

説明: コマンドの処理に使用できるランダム・アクセス・メモリー (RAM) が不足しています。

リモート・プロシージャが呼び出された場合は、そのリモート・プロシージャが、許容最大値 (4K) より大きなローカル可変スペースを使用する可能性があります。

ステートメントにユーザー定義関数 (UDF) が含まれている場合は、「*ASLHEAPSZ*」データベース・マネージャ構成パラメーターによって制御されているメモリー・セットが、使用可能なメモリーより大きい可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーションを停止してください。解決策は以下のとおりです。

- *CONFIG.SYS* ファイルの *MEMMAN NO SWAP, NO MOVE* オプションを、*SWAP, MOVE* に変更してください。
- バックグラウンド処理を終了してください。
- メモリーの割り振りを定義する構成パラメーターの値を減らしてください。UDF が失敗したステートメントに含まれている場合は、*ASLHEAPSZ* も減らしてください。
- もっと多くのランダム・アクセス・メモリー (RAM) をインストールしてください。
- リモート・プロシージャが呼び出された場合は、そのリモート・プロシージャが 4K 以下のローカル可変スペースを使用することを確認してください。
- リモート・データ・サービスを使用している場合は、アプリケーションごとに少なくとも 1 ブロックが使用されるので、サーバーとクライアント構成でリモート・データ・サービスのヒープ・サイズ (*rsheapsz*) を増やしてください。
- OS/2 システムの場合は、*CONFIG.SYS* ファイルの *MEMMAN* ステートメントの *PROTECT* を *NOPROTECT* に変更してください。それによって、もっと多くのメモリー・スペースがアプリケーションで使用可能になりますが、OS/2 の特定の保護機能が使用できなくなります。詳細と、これが使用環境に適切かどうかを判別するには、OS/2 の資料を参照してください。
- OS/2 システムの場合は、*min_priv_mem* データベース・マネージャ構成パラメーターの値を増やして

ください。これにより、データベース・マネージャが *db2start* 時に、もっと多くの専用メモリー・スペースを予約できます。

注: これはバージョン 2 以前の DB2 のリリースにのみ適用されます。

sqlcode: -1022

sqlstate: 57011

SQL1023C 通信での対話が失敗しました。

説明: 通信による対話でエラーが発生しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: オリジナル・コマンドを再発行してください。エラーが続く場合は、通信管理者に連絡してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースでも検出できます。

sqlcode: -1023

sqlstate: 08001

SQL1024N データベース接続が存在しません。

説明: データベースに対する接続が存在しません。SQL CONNECT ステートメントが先に実行されるまでは、他の SQL ステートメントは処理できません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベースからの接続中にエラーが起きた場合は、処理が続けられます。エラーが他の SQL ステートメントで起きた場合は、SQL CONNECT ステートメントを発行して、コマンドまたはステートメントの再サブミットを行ってください。

sqlcode: -1024

sqlstate: 08003

SQL1025N データベースがまだアクティブになっているために、データベース・マネージャが停止されませんでした。

説明: データベース・マネージャの制御下にあるデータベースに接続されているアプリケーションが存在する場合、データベースがアクティブ化されている場合、またはこのデータベース・マネージャの制御下にアクティブな HADR 1 次またはスタンバイ・データベースがある場合、*stop database manager* コマンドを処理することはできません。

何も処理されません。

ユーザーの処置: 通常、アクションは必要ありません。

データベース・マネージャーを停止するには、すべてのアクティブ・アプリケーションを、使用しているすべてのデータベースから切り離す必要があります。または、FORCE コマンドを使用してアプリケーションを強制的に切断してから、DEACTIVATE コマンドを使用して、HADR 1 次またはスタンバイ・データベースなどのデータベースを非活動化することもできます。

SQL1026N データベース・マネージャーはすでにアクティブになっています。

説明: start database manager コマンドは、すでに処理されています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コマンドがすでに処理されているので、アプリケーションは処理を継続することができます。

SQL1027N ノード・ディレクトリーが見つかりません。

説明: ノード・ディレクトリーが見つからないため、list node directory コマンドは処理できません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 適切なパラメーターを使用して、CATALOG NODE コマンドを発行し、現在のコマンドを再発行してください。

SQL1029N CATALOG NODE コマンドで指定された partner_lu 別名 name は無効です。

説明: CATALOG NODE コマンドで指定される partner_lu 別名が、指定されていないか、無効な文字を含んでいます。partner_lu 別名はパートナー SNA LU 別名で、1 から 8 文字でなければならず、ブランク文字は使用できません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: partner_lu のつづりエラーを調べてください。別名が使用可能な LU 名であることを確認してください。別名に使用されている文字を確認してください。正しい partner_lu を使用してコマンドを再サブミットしてください。

SQL1030C データベース・ディレクトリーがいっぱいです。

説明: システム・データベース・ディレクトリーまたはローカル・データベース・ディレクトリーは、これ以上項目を保留できません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ディレクトリー内の不要な項目をアンカタログしてください。ローカル・データベース・ディレクトリーがいっぱいの場合は、別のファイル・システムに新しいデータベースを作成してください。

SQL1031N 指定されたファイル・システムには、データベース・ディレクトリーが見つかりません。

説明: システム・データベース・ディレクトリーまたはローカル・データベース・ディレクトリーを見つけることができませんでした。データベースが作成されていないか、または正しくカタログされていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベースが、正しいパスの指定で作成されていることを確認してください。Catalog Database コマンドは、データベースが常駐するディレクトリーを指定するパス・パラメーターを持っています。

sqlcode: -1031

sqlstate: 58031

SQL1032N start database manager コマンドが発行されていません。

説明: start database manager コマンドが処理されていません。データベース・マネージャー、SQL ステートメント、ユーティリティを発行する前に、このコマンドを処理する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャー開始コマンドを発行して、現在のコマンドを再発行してください。

複数の論理ノードを使用している場合、DB2NODE 環境変数が正しく設定されているか、確認してください。DB2NODE 環境変数は、アプリケーションが接続を試行するノードを示します。DB2NODE をこのアプリケーションと同じホストで定義されたノードの 1 つのノードに設定する必要があります。

sqlcode: -1032

sqlstate: 57019

SQL1033N データベース・ディレクトリーは現在使用中のためアクセスできません。

説明: データベース・ディレクトリーは現在更新中のためアクセスできません。また、データベース・ディレクトリーが何らかの理由ですでにアクセスされている場合は、更新のためにディレクトリーにアクセスすることはできません。こうした状態は、システム・データベー

ス・ディレクトリーまたはローカル・データベース・ディレクトリーのいずれでも発生します。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アクセスが完了するまで待ち、このコマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -1033

sqlstate: 57019

SQL1034C データベースが壊れています。アプリケーションは、データベースから切断されました。データベースを処理するすべてのアプリケーションは停止しました。

説明: データベースに障害が起きました。回復するまで使用できません。データベースに接続されていたすべてのアプリケーションは切断され、データベース上でアプリケーションを実行していたすべての処理が停止しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: RESTART DATABASE コマンドを発行して、データベースを回復してください。RESTART コマンドが整合性のために失敗した場合は、データベースのバックアップからのリストアが必要になる可能性があります。パーティション・データベース・サーバー環境で、syslog をチェックしてバックアップからデータベースをリストアする前のノードまたは通信障害のためにRESTART コマンドが失敗しているか検索してください。失敗している場合、データベース・マネージャーが起動していて、すべてのノード間で通信が使用可能であることを確認してから、再始動コマンドを再度実行してください。

ロールフォワード処理中にこのエラーが起きた場合は、データベースをバックアップからリストアして、ロールフォワードをもう一度実行する必要があります。

パーティション・データベース環境では、RESTART データベース・コマンドがノードごとに実行されていることに注意してください。データベースがすべてのノードで再始動しているか確認するには、次のコマンドを使用します。

```
db2_all db2 restart database
<database_name>
```

このコマンドは、すべての未確定トランザクションが解決したことを確認するには、数回実行する必要があります。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -1034

sqlstate: 58031

SQL1035N このデータベースは現在使用中です。

説明: 下記のいずれかの状態が存在します。

- 排他使用が要求されましたが、そのデータベースは、(同一処理内の) 他のユーザーにより、共有データベースとしてすでに使用されています。
- 排他使用が要求されましたが、そのデータベースはすでに排他データベースとして使用されています。(2つの異なった処理が、同じデータベースをアクセスしようとしています)
- データベースへの接続の最大数に達しました。
- データベースが、他のシステムの他のユーザーによって使用されています。
- 活動化/非活動化 データベースが処理中です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 解決策は以下のとおりです。

- データベースが使用中でなくなったときに、コマンドを再サブミットしてください。
- 現在のユーザーに一致するように許可を変更するか、またはデータベースが使用中でなくなるまで待ってください。
- データベースが排他使用でなくなるまで待ってください。
- 他のシステムの他のユーザーが、データベースから切断するまで待ってください。

sqlcode: -1035

sqlstate: 57019

SQL1036C データベースのアクセス中に、入出力エラーが発生しました。

説明: 少なくとも 1 つのデータベース・ファイルに、以下の入出力エラーが起きました。

- システムが、データベース・ファイルのオープン、読み取り、または書き込みを行うことができません。
- システムが、データベース・ファイルまたはデータベースのディレクトリーを作成中にエラーが起きたために、データベースを作成することができません。
- システムが、データベース・ファイルまたはデータベースのディレクトリーを削除中にエラーが起きたために、データベースをドロップすることができません。

- システムがデータベース・ファイルまたはデータベースのディレクトリーを作成または削除中に割り込みを受信したため、システムはデータベースを作成できません。
- システムは接続中にデータベース・サブディレクトリーまたはデータベース構成ファイルを位置指定することはできません。

データベースは使用することができません。

ユーザーの処置: データベースを処理しているときにエラーが起きた場合は、コマンドを再サブミットしてください。エラーが続く場合は、データベースをバックアップ・バージョンからリストアしてください。

CREATE DATABASE または DROP DATABASE コマンドを処理しているときにエラーが起きた場合は、後続の CREATE DATABASE または DROP DATABASE コマンドが、正常に処理されなかった CREATE DATABASE または DROP DATABASE コマンドが残したファイルおよびディレクトリーを削除しようとしません。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

データベースへの接続を試行中にエラーが発生した場合は、トレースを入手し、データベースのリカバーができるか、弊社サポート担当者に連絡してください。

sqlcode: -1036

sqlstate: 58030

SQL1037W ノード・ディレクトリーが空です。

説明: ノード・ディレクトリーの内容を読み取りましたが、項目が存在しません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

sqlcode: +1037

sqlstate: 01606

SQL1038C ノード・ディレクトリーにアクセス中に、入出力エラーが起きました。

説明: 入出力エラーのために、ノード・ディレクトリーがアクセスできませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。エラーが続く場合は、ノード・ディレクトリー (sqllib ディレクトリーの下 `sqlnodir`) を取り除いて、もう一度ノード名をネットワークにカタログしてください。

sqlcode: -1038

sqlstate: 58031

SQL1039C データベース・ディレクトリーにアクセス中に入出力エラーが発生しました。

説明: システム・データベース・ディレクトリーまたはローカル・データベース・ディレクトリーにアクセスできません。このエラーは、システムがデータベースをカタログまたはアンカタログしているときのみでなく、ディレクトリーにカタログされているデータベースにアクセスしているときにも起きる可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 解決策は以下のとおりです。

- ディスケット・システムでエラーが起きた場合には、正しいディスクがドライブに挿入されていて、その使用準備ができていることを確認してください。ディスクが書き込み禁止になっていないことを確認してください。
- データベース・ディレクトリーが損傷を受けている場合には、カタログされているデータベースをバックアップ・バージョンからリストアして、カタログしてください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -1039

sqlstate: 58031

SQL1040N データベースに接続されているアプリケーションの数が、すでに最大数に達していません。

説明: データベースに接続されているアプリケーションの数が、データベースの構成ファイルに定義されている最大値と同じです。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ほかのアプリケーションがデータベースから切断するまでお待ちください。もっと多くのアプリケーションを並行して実行する必要がある場合は、`maxappls` の値を増やしてください。すべてのアプリケーションがデータベースから切断されて、データベースが再始動されると、新しい値が反映されます。

sqlcode: -1040

sqlstate: 57030

SQL1041N 並行処理できる最大数のデータベースが、すでに始動しています。

説明: アプリケーションが、非アクティブ・データベースを始動しようとしたが、アクティブ・データベースの数が、システム構成ファイルに定義されている最大値に達しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベースの 1 つが非アクティブになるのを待ってください。より多くのデータベースを同時にアクティブにする必要がある場合は、`numdb` の値を増やしてください。新しい値は、次のデータベース・マネージャーが正常に始動した後に反映されます。

sqlcode: -1041

sqlstate: 57032

SQL1042C 予期しないシステム・エラーが発生しました。

説明: システム・エラーが発生しました。このエラーの理由としては、データベース・マネージャーが正しくインストールされていないか、または環境が正しくセットアップされていない可能性があります。

OS/2 で、データベース・マネージャーの始動中の場合、このエラーの最も一般的な理由は、NET.ACC ファイルが壊れていることです。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーの始動中に OS/2 でエラーが起き、NET.ACC ファイルが疑わしい場合は、システムの NET.ACC ファイルを、DB2 for OS/2 インストール・ディスクットのディスクット 1 にある NET.ACC で置き換えてください。

データベースへの接続中にエラーが起きた場合は、トレースを取得 (以下に指示があります) して、IBM サポートに連絡してください。

問題が上記の助言に当てはまらない場合は、システムの日付と時刻が正しく設定されていること、およびシステムが十分なメモリーを持ち、スワッピング/ページング・スペースが使用可能なことを確認してください。

現在のコマンドを再サブミットしてください。

エラーが続く場合は、データベース・マネージャーの再始動を行ってください。

まだエラーが続く場合は、データベース・マネージャーを再インストールしてください。

トレースがアクティブの場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出してください。以下の情報を用意して、テクニ

カル・サービス担当者に提供してください。

必要な情報:

- 問題記述
- SQLCODE またはメッセージ番号
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 必要な場合は、要求を拒否しているデータ・ソースに問題を分離してください。(障害の起きたデータ・ソースを識別する手順については「問題判別の手引き」を参照してください。) 問題がデータ・ソースのものである場合、データ・ソースのための問題判別手順に従ってください。

sqlcode: -1042

sqlstate: 58004

SQL1043C データベース・マネージャーが、システム・カタログを初期化できませんでした。エラー `error` が返されました。

説明: システム・カタログの初期化時に、CREATE DATABASE コマンドが失敗しました。

ユーザーの処置: このメッセージのメッセージ番号 (SQLCODE) とエラーを記録してください。

トレースがアクティブの場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出してください。次に、以下の情報を用意して、テクニカル・サービス担当者に提供してください。

- 環境: アプリケーション
- 必要な情報:
 - 問題記述
 - SQLCODE またはメッセージ番号とエラー ID
 - SQLCA の内容 (ある場合)
 - トレース・ファイル (可能であれば)

SQL1044N 割り込みによって、処理が取り消されました。

説明: ユーザーが割り込みキー・シーケンスを押した可能性があります。

処理は停止します。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースでも検出できます。

ユーザーの処置: 割り込みを処理するために、処理を継続してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合

は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

データベース・マネージャーを開始している場合は、DB2 コマンドを発行する前に、db2stop を発行してください。

sqlcode: -1044

sqlstate: 57014

SQL1045N データベースが、正しくカタログされていないために見つかりません。

説明: データベース・ディレクトリーの間接項目が、別の非 HOME 項目を指しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: directory scan コマンドを使用して、すべての関連するデータベース・ディレクトリーの項目を確認してください。

sqlcode: -1045

sqlstate: 58031

SQL1046N 許可 ID が無効です。

説明: ログオン時に指定された許可 ID が、データ・ソースまたはデータベース・マネージャーのどちらかに無効です。以下のいずれかが起きました。

- Windows プラットフォームでは 30 文字、その他のプラットフォームでは 8 文字を超える文字が許可 ID に入っています。
- 許可 ID に、許可 ID では無効な文字が入っています。有効な文字は A から Z、a から z、0 から 9、#、@ および \$ です。
- 許可 ID が、PUBLIC または public です。
- 許可 ID が、SYS、sys、IBM、ibm、SQL、または sql で始まっています。
- 許可はデータ・ソース特定命名規則に違反していません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な許可 ID を使用して、ログオンしてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 必要な場合は、要求を拒否しているデータ・ソースに問題を分離します。(障害の起きたデータ・ソースを識別する手順については「トラブルシューティング・ガイド」を参照してください。) 次に、そのデータ・ソースに有効な許可 ID を使用してください。

sqlcode: -1046

sqlstate: 28000

SQL1047N このアプリケーションはほかのデータベースにすでに接続されています。

説明: アプリケーションは他のデータベースに接続されているときには、データベースを作成できません。

すでに他のデータベースに接続している場合は、データベースにバインド・ファイルをバインドすることは許されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アクティブ・データベースから切断して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1048N START USING DATABASE または CONNECT TO コマンドの use パラメーター *parameter* は無効です。共有アクセスの場合は 'S'、排他使用の場合は 'X'、単一ノードで排他使用の場合は 'N' を使用してください。DB2 Connect 接続の場合、S のみがサポートされます。N は MPP 構成でのみサポートされません。

説明: START USING DATABASE または CONNECT TO コマンドの use パラメーターは、共有使用時には 'S'、排他使用時には 'X' でなければなりません。DB2 Connect を使用してデータベースに接続している場合には、共有アクセスのみが許可されています。これらの値に対して、SQLENV.H ファイルで略号が提供されています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な use パラメーター (略号も使用できます) を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1049C アプリケーション状態がエラーです。データベース接続は失われました。

説明: データベースへの接続が切り離されました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: CONNECT RESET ステートメントを発行してください。

SQL1050N このデータベースはホーム・データベースなので、アンカタログできません。

説明: UNCATALOG DATABASE コマンドに指定されたデータベースは、ホーム・データベースです。データベースがドロップされたときに、ディレクトリー項目が

ドロップされるため、ホーム・データベースはアンカテログできません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベース名が正しく指定されている場合は、処理を継続してください。

SQL1051N データベース・ディレクトリーのパス

path が、存在しません。

説明: コマンドの `database directory` パラメーター、またはデータベース・ディレクトリー項目に指定されたパスが無効です。その名前のファイル・システムは存在しません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベース・ディレクトリーの正しいパスを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -1051

sqlstate: 57019

SQL1052N データベース・パス *path* が存在しません。

説明: コマンドの *path* パラメーターに指定されたパスが無効です。その名前のパスは存在しません。

Windows 環境のパーティション・データベース環境では、パーティション・データベース・グループのノードにはそれぞれ、CREATE DATABASE コマンドを成功させるために使用できる (使用可能スペースが含まれている) まったく同一の物理ハード・ディスク指定 (文字) がある必要があります。物理ハード・ディスクは、データベース・マネージャー構成で指定されます。DFTDBPATH がブランクのままの場合、デフォルトは DB2 がインスタンス所有マシン (db2 インストール・パス) にインストールされているハード・ディスクとなります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいデータベース・パスを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

OS/2 および Windows 環境のパーティション・データベース環境では、次のステップに従ってください。

- どのハード・ディスク指定 (文字) が必要か決定する。ドライブ文字は、エラー・メッセージで指定されています。
- データベース・パーティションのどのノードが問題を起しているか判別する。インスタンス所有ノードの `db2diag.log` ファイルでこの情報を検索することができます。

- 問題を起しているそれぞれのノードで、ドライブ上の問題を訂正するか、またはデータベース・マネージャー構成でのドライブ指定を変更して、パーティション・データベース・グループのノードごとに、同じドライブが使用可能 (十分なスペースがある) となるようにしてください。

- コマンドを再発行してください。

SQL1053N 割り込みは、すでに処理されています。

説明: システムは現在割り込みを処理しているため、他の割り込みは受け付けられません。

割り込み要求が無視されます。

ユーザーの処置: 現在の割り込み処理が完了するのを待って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1054N COMMIT が進行中なので、割り込みはできません。

説明: このシステムは、現在 COMMIT を処理しています。ユーザーが割り込みキー・シーケンスを入力しました。

割り込み要求が無視されます。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースでも検出できます。

ユーザーの処置: COMMIT 完了するまで待って、割り込み要求の再サブミットを行ってください。

SQL1055N ROLLBACK が進行中なので、割り込みはできません。

説明: このシステムは、現在 ROLLBACK を処理しています。ユーザーが割り込みキー・シーケンスを入力しました。

割り込み要求が無視されます。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースでも検出できます。

ユーザーの処置: ROLLBACK が完了するまで待って、割り込み要求の再サブミットを行ってください。

SQL1056N すでに 8 つのデータベース・ディレクトリー・スキャンがオープンしています。

説明: この処理の 8 つのデータベース・ディレクトリー・スキャンは、すでにオープンされています。8 つ以上のスキャンのオープンは許されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 1 つ以上の CLOSE DIRECTORY

SCAN コマンドを発行して、オリジナル・コマンドを再発行してください。

sqlcode: -1056

sqlstate: 54029

SQL1057W システム・データベース・ディレクトリが空です。

説明: システム・データベース・ディレクトリの内容を読み取ろうとしましたが、項目が存在しませんでした。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

sqlcode: +1057

sqlstate: 01606

SQL1058N Directory Scan コマンドの handle パラメーターが無効です。

説明: Directory Scan コマンドに指定されている handle パラメーターが有効ではありません。 handle は、OPEN DIRECTORY SCAN または OPEN NODE DIRECTORY SCAN コマンドから返されたものでなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な handle パラメーターを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1059N Open Scan コマンドが出されていないために、Get Next コマンドが処理できません。

説明: スキャンをオープンする前に、directory scan コマンドが発行されました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: OPEN DIRECTORY SCAN または OPEN NODE DIRECTORY SCAN コマンドを発行して、現在のコマンドを再発行してください。

SQL1060N ユーザー authorization-ID は CONNECT 特権を持っていません。

説明: 示された許可 ID には、データベースにアクセスするための CONNECT 特権が与えられていません。データベースに接続する前に、CONNECT 特権を付与される必要があります。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースでも検出できます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベースのシステム管理者またはデータベース管理者に連絡して、許可 ID に対して GRANT CONNECT 要求を発行してください。コマンドを再サブミットしてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 必要な場合は、要求を拒否しているデータ・ソースに問題を分離します。(障害の起きたデータ・ソースを識別する手順については「トラブルシューティング・ガイド」を参照してください。) 次に、そのデータ・ソースに付与された特権が正しいものであるかどうかを確認してください。

sqlcode: -1060

sqlstate: 08004

SQL1061W RESTART は正常に終了しましたが、データベースに対する未確定トランザクションが存在しています。

説明: 未確定トランザクションが見つかったことを除いて、RESTART は正常に終了しました。データベースは使用可能ですが、データベースへの最後の接続をドロップする前に、未確定のトランザクションを解決しないと、次にデータベースを使用する前に、再び RESTART が必要になります。

ユーザーの処置: 未確定トランザクションを解決するか、またはデータベースを使用するときは常に、データベースの RESTART を準備してください。(XA/DTP 環境で) データベースを使用していたトランザクション・マネージャー (TM) が使用可能な場合は、管理者が TM を使用して、未確定トランザクションを解決する必要があります。または、十分に注意して、管理者が CLP を使用して、トランザクションを経験的に完了することもできます。

パーティション・データベース・サーバー環境では、RESTART データベース・コマンドがノードごとに実行されていることに注意してください。データベースをすべてのノードで再始動するには、次のコマンドを使用してください。

```
db2_all db2 restart database
<database_name>
```

このコマンドを実行すると、すべてのノードが使用中の場合、未確定トランザクションを解決します。

このコマンドは、すべての未確定トランザクションが解決したことを確認するには、数回実行する必要があります。

SQL1062N データベース・パス *path* が見つかりませんでした。

説明: コマンドで指定されたデータベース *path* パラメーターが存在しません。パスが指定されていない場合は、システム構成ファイルに定義されているデフォルト・パスが使用され、それが存在しませんでした。

Windows 環境のパーティション・データベース環境では、パーティション・データベース・グループのノードにはそれぞれ、CREATE DATABASE コマンドを成功させるために使用できる (使用可能スペースが含まれている) まったく同一の物理ハード・ディスク指定 (文字) がある必要があります。物理ハード・ディスクは、データベース・マネージャー構成で指定されます。DFTDB がブランクのままの場合、デフォルトは DB2 がインスタンス所有マシン (db2 インストール・パス) にインストールされているハード・ディスクとなります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: パスまたはデフォルト・パスを調べて、システムに存在することを確認してください。コマンドを再サブミットしてください。

OS/2 および Windows 環境のパーティション・データベース環境では、次のステップに従ってください。

- どのハード・ディスク指定 (文字) が必要か決定する。ドライブ文字は、エラー・メッセージで指定されています。
- データベース・パーティションのどのノードが問題を起しているか判別する。インスタンス所有ノードの db2diag.log ファイルでこの情報を検索することができます。
- 問題を起しているそれぞれのノードで、ドライブ上の問題を訂正するか、またはデータベース・マネージャー構成でのドライブ指定を変更して、パーティション・データベース・グループのノードごとに、同じドライブが使用可能 (十分なスペースがある) となるようにしてください。
- コマンドを再発行してください。

SQL1063N データベース・マネージャーの始動処理が正常に終了しました。

説明: データベース・マネージャーを始動させるコマンドが、正常に終了しました。

SQL1064N データベース・マネージャーの停止処理が正常に終了しました。

説明: データベース・マネージャーを停止させるコマンドが、正常に終了しました。

SQL1065W データベースは作成されましたが、リスト *list-name* 内の 1 つ以上のバインド・ファイルでエラーが起きました。次のファイルがバインドされませんでした: *list*

説明: 1 つ以上のユーティリティが、データベースにバインドされませんでした。リスト・ファイル *list-name* には、バインド・ファイルのリストが入っています。*list* の番号は、リスト・ファイル内のバインドされていないファイルの相対位置を示します。

リストされているユーティリティ・バインド・ファイルは、新しく作成されたデータベースへはバインドされません。

ユーザーの処置: 示されたユーティリティは、データベースにバインドできる可能性があります。バインド・プログラム呼び出しでは、format オプションは使用できません。

リモート・サーバーのバージョンが V8.1 で、コード・レベルがフィックスパック 0、1、または 2 の場合、リモート・サーバーのインストール・パスからローカル・クライアントのインストール・パスへバインド bnd/db2schema.bnd ファイルをコピーでき、かつ、ユーティリティを手動でバインド、あるいは、CREATE DATABASE または MIGRATE DATABASE コマンドの再発行のどちらかの方法を取れます。

SQL1066N DB2START 処理が正常に終了しました。IPX/SPX プロトコル・サポートは正常に始動されませんでした。

説明: IPX/SPX プロトコル・サポートの始動に失敗しました。リモート・クライアントは IPX/SPX を使用して、サーバーに接続することができません。考えられる原因は以下のとおりです。

- ワークステーションが、NetWare ファイル・サーバーにログインしていません。
- ワークステーションが、NetWare ファイル・サーバー・バインダリーにオブジェクトを作成するための権限を持っていません。
- ネットワークの別のデータベース・マネージャーが、データベース・マネージャー構成ファイルに指定されているオブジェクト名と同じ名前を使用しています。

ユーザーの処置: ワークステーションが NetWare ファイル・サーバーにログインしており、ファイル・サーバーのバインダリーに、オブジェクトを作成するための十分な権限を持っていることを確認してください。

SUPERVISOR またはそれと同等の ID でログインする必要があります。また、データベース・マネージャー構成ファイルに指定されているオブジェクト名が、ネットワーク内のすべてのデータベース・マネージャーに对

してユニークであることも確認してください。訂正を行って、DB2STOP を実行した後で、もう一度 DB2START を実行してください。

問題が続く場合は、オペレーティング・システム・コマンド・プロンプトに、DB2TRC ON -L 0X100000 をタイプしてください。DB2START を再実行した後で、コマンド・プロンプトに、"DB2TRC DUMP ファイル名" をタイプして、トレース情報を保管してください。トレースをオフにするには、DB2TRC OFF をタイプしてください。トレース情報をサービス・コーディネーターに渡してください。

SQL1067N DB2STOP 処理が正常に終了しませんでした。IPX/SPX プロトコル・サポートは正常に停止されませんでした。

説明: IPX/SPX プロトコル・サポートの停止に失敗しました。考えられる原因は以下のとおりです。

- ワークステーションが、NetWare ファイル・サーバーにログインしていません。
- ワークステーションが、NetWare ファイル・サーバー・バインドリーのオブジェクトを削除するための権限を持っていません。

ユーザーの処置: ワークステーションが NetWare ファイル・サーバーにログインしており、ファイル・サーバーのバインドリーのオブジェクトを削除するための十分な権限を持っていることを確認してください。SUPERVISOR またはそれと同等の ID でログインする必要があります。訂正を行って、もう一度 DB2STOP を実行してください。

問題が続く場合は、オペレーティング・システム・コマンド・プロンプトに、DB2TRC ON -L 0X100000 をタイプしてください。DB2STOP を再実行した後で、コマンド・プロンプトに、"DB2TRC DUMP ファイル名" をタイプして、トレース情報を保管してください。トレースをオフにするには、DB2TRC OFF をタイプしてください。トレース情報をサービス・コーディネーターに渡してください。

SQL1068N CONNECT または ATTACH ステートメントのユーザー ID user-ID を所有しているドメインが、DB2DOMAINLIST 環境変数に定義されていません。

説明: CONNECT TO または ATTACH TO ステートメントのユーザー ID が、DB2DOMAINLIST 環境変数に定義されているドメインに属していません。

ユーザーの処置: DB2SET コマンドを使用して、そのユーザー ID を所有しているドメインの名前を DB2DOMAINLIST 環境変数に指定してください。

sqlcode: -1068

sqlstate: 08004

SQL1069N データベース name は、ホーム・データベースではありません。

説明: データベースがローカル・データベースではありません。ローカル・データベースは、システム・データベース・ディレクトリーに間接的にカタログされており、この項目が、同じノードのローカル・データベース・ディレクトリーのホーム項目を示しています。リモート・データベースはドロップできません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 示されたデータベース名が正しくない場合は、正しいデータベース名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。示されたデータベース名が正しく、そのデータベース名をデータベース・ディレクトリーから除去したい場合は、UNCATALOG DATABASE コマンドを使用してください。

SQL1070N database name パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、database name パラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファーを指しているか、またはそのバッファー内の文字ストリングに NULL 終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムを修正して、有効なアドレスを使用し、入力ストリングが NULL で終了するようにしてください。

SQL1071N database alias パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、このパラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファーを指しているか、またはそのバッファー内の文字ストリングに NULL 終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入力ストリングが null で終了していることを確認してください。

SQL1072C データベース・マネージャー・リソースが、不整合状態にあります。データベース・マネージャーが異常終了したか、あるいは他のアプリケーションによるシステム・リソースの使用が、データベース・マネージャーが使用しているシステム・リソースと競合している可能性があります。システム・リソースのクリーンアップが必要になる場合があります。

説明: データベース・マネージャー・リソースが不整合状態にあるために、要求が失敗しました。以下の場合に、これが起きる可能性があります。

- DB2 が異常終了した (UNIX ベース・システムの場合、たとえば、処理が stop database manager コマンドではなく、“kill” コマンドで終了した場合に、これが起きる可能性があります)。
- 他のアプリケーションまたはユーザーが、データベース・マネージャー・リソースを取り除いた (UNIX ベース・システムの場合、たとえば、十分な特権を持つユーザーが、データベース・マネージャーが所有している処理間通信 (IPC) リソースを、誤って “ipcrm” コマンドで除去した可能性があります)。
- 他のアプリケーションによるシステム・リソースの使用法が、データベース・マネージャーによるシステム・リソースの使用法と矛盾している (UNIX ベース・システムの場合、別のアプリケーションが、データベース・マネージャーで IPC リソースの作成に使用したキーと同じキーを使用している可能性があります)。
- データベース・マネージャーの別のインスタンスが、同じリソースを使用している可能性がある。2 つのインスタンスが異なるファイル・システム上にあって、複数の sqllib ディレクトリーが同じ i ノードを偶然もっている (i ノードは IPC キーを獲得するために使用される) 場合に、UNIX ベース・システムでこれが起こることがあります。

ユーザーの処置: リソースのクリーンアップが必要になる可能性があります。

- インスタンス ID の下で実行中のすべてのデータベース・マネージャー・プロセスを除去してください (UNIX ベース・システムの場合、psdb2 コマンドを使用することによりインスタンス ID の下で実行中のすべてのデータベース・マネージャー・プロセスのリストを取得し、“kill -9 <process id>” コマンドを使用することによりそれらを除去します)。
- インスタンス ID の下で実行されているアプリケーションが他に存在しないことを確認した後で、そのインスタンス ID が所有しているすべてのリソースを取り除いてください (UNIX ベース・システムの場合、

“ipcs | grep <instance id>” コマンドを使用すると、インスタンス ID が所有しているすべての IPC リソースをリストすることができ、“ipcrm -[qlmls] <id>” コマンドを使用すると、それらを取り除くことができます)。

- データベース・マネージャーの他のインスタンスが実行中の場合は、i ノード競合が発生する可能性があります。これは、2 つのインスタンスを同時にアクティブにすることはできませんが、個別に開始できることを示しています。いずれかのインスタンスの IPC キーの生成に使用される i ノードを変更する必要があります。

単一ノード・インスタンスの場合は、sqllib directory からインスタンス所有者として以下を行います。

- .ftok ファイルを削除する
rm .ftok
- 新しい .ftok ファイルを作成する
touch .ftok

マルチノード・インスタンスの場合は、インスタンス所有者として以下を行います。

- sqllib と同じレベルで別のディレクトリーを作成する。
 - sqllib のもとにあるすべてのものを新しいディレクトリーに移動する。
 - sqllib を削除する。
 - 新しいディレクトリーを sqllib の名前に変更する。
- データベース・マネージャー・インスタンスを再始動してください。

SQL1073N ノード・ディレクトリーのリリース番号が正しくありません。

説明: ノード・ディレクトリーのリリース番号が、製品で使用可能なリリース番号と一致しません。ノード・ディレクトリーが、以前のリリースで作成されたものと思われる。

ユーザーの処置: すべてのノード項目を再カタログして、コマンドを再発行してください。

SQL1074N password パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、このパラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファーを指しているか、またはそのバッファー内の文字ストリングに NULL 終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入力ストリングが null で終了していることを確認してください。

SQL1075N database comment パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、このパラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを指しているか、またはそのバッファ内の文字ストリングに NULL 終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入力ストリングが null で終了していることを確認してください。

SQL1076N count パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、*count* パラメーターに無効なアドレスを使用しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスが、アプリケーション・プログラムで使用されていることを確認してください。

SQL1077N handle パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、*handle* パラメーターに無効なアドレスを使用しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスが、アプリケーション・プログラムで使用されていることを確認してください。

SQL1078N buffer パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、*buffer* パラメーターに無効なアドレスを使用しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスが、アプリケーション・プログラムで使用されていることを確認してください。

SQL1079N nodename パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、無効な *nname* パラメーター・アドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを指しているか、またはそのバッファ内の文字ストリングに NULL 終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入力ストリングが null で終了していることを確認してください。

SQL1080N local_lu name パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、*local_lu name* パラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを指しているか、またはそのバッファ内の文字ストリングに NULL 終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入力ストリングが null で終了していることを確認してください。

SQL1081N partner_lu パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、*partner_lu* パラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを指しているか、またはそのバッファ内の文字ストリングに NULL 終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入力ストリングが null で終了していることを確認してください。

SQL1082N mode パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、*mode* パラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを指しているか、またはそのバッファ内の文字ストリングに NULL 終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入力ストリングが null で終了

していることを確認してください。

SQL1083N データベース記述ブロックが処理できません。理由コード =*reason-code*

説明: アプリケーションが CREATE DATABASE コマンドを発行しましたが、データベース記述ブロック (DBDB) が、以下のいずれかの理由コードが原因で処理できませんでした。

- DBDB のアドレスが無効です。(理由コード 01)
- DBDB の「SQLDBDID」フィールドの値が無効です。(理由コード 02) これは、値 SQLDBDB1 に設定される必要があります。
- DBDB の「SQLDBCSS」フィールドの値が無効です。(理由コード 04)

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1084C 共有メモリー・セグメントを割り振ることができません。

説明: データベース・マネージャーが、Database Environment コマンドまたは SQL CONNECT ステートメントの処理中に、セグメントを割り振ることができませんでした。

dbheap パラメーターが小さすぎる可能性があります。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) を記録してください。このエラーの原因としては、データベース・マネージャー、またはデータベース・マネージャーの処理が試みられていた環境に、十分なメモリー・リソースが存在しなかった可能性があります。データベース・マネージャーの要求を満足するための十分なメモリー・リソースが、使用可能なことを確認してください。アクティブである必要がないバックグラウンド処理のクローズも必要になる場合があります。

十分なメモリー・リソースが十分にあってもこの問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能呼び出ししてください。以下の情報を用意して、テクニカル・サービス担当者へ提供してください。

必要な情報:

- 問題記述
- SQLCODE またはメッセージ番号
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

sqlcode: -1084

sqlstate: 57019

SQL1085N アプリケーション・ヒープを割り振ることができません。

説明: データベース構成ファイルに指定された 4K ページ単位のアプリケーション・ヒープを、データベース・マネージャーが割り振ることができなかったため、アプリケーションはデータベースに接続することができませんでした。システムに 4K ページがありません。コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 以下に示す方法で解決してください。

- データベース構成ファイル内のアプリケーション・ヒープの大きさ (applheapsz) を減らしてください。
- データベース構成ファイル内のアプリケーションの最大数を減らしてください。
- バックグラウンド処理を終了してください。
- メモリーを増やしてください。

sqlcode: -1085

sqlstate: 57019

SQL1086C オペレーティング・システム・エラー *error* が起きました。

説明: コマンドが、オペレーティング・システムからエラーを受け取ったために、これ以上処理を続けることができません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: オペレーティング・システムのユーザー・マニュアルを参照して、エラーの詳細を解析してください。

SQL1087W データベースは作成されましたが、リスト・ファイル *name* のオープン中にエラーが起きました。ユーティリティーはデータベースにバインドされません。

説明: CREATE DATABASE は、ユーティリティー・バインド・ファイルのリストが入っているリスト・ファイルをオープンできませんでした。リスト・ファイルは *sqllib* サブディレクトリーの *bnd* サブディレクトリーに置いてください。

ユーティリティー・バインド・ファイルは、新しく作成されたデータベースへはバインドされません。

ユーザーの処置: ユーティリティーをデータベースにバインドしてください。バインド・プログラム呼び出しには *format* オプションを使用しないでください。

リモート・サーバーのバージョンが V8.1 で、コード・

レベルがフィックスパック 0、1、または 2 の場合、リモート・サーバーのインストール・パスからローカル・クライアントのインストール・パスへバインド bnd/db2schema.bnd ファイルをコピーでき、かつ、ユーティリティを手動でバインド、あるいは、CREATE DATABASE または MIGRATE DATABASE コマンドの再発行のどちらかの方法を取れます。

SQL1088W データベースは作成されましたが、ユーティリティのバインド中にエラーが起きました。ユーティリティはデータベースにバインドされません。

説明: CREATE DATABASE または MIGRATE DATABASE が、ユーティリティ・バインド・ファイルをデータベースにバインドできませんでした。

ユーティリティ・バインド・ファイルは、新しく作成されたデータベースまたは移行されたデータベースにはバインドされません。

ユーザーの処置: ユーティリティをデータベースにバインドしてください。バインド・プログラム呼び出しには format オプションを使用しないでください。

リモート・サーバーのバージョンが V8.1 で、コード・レベルがフィックスパック 0、1、または 2 の場合、リモート・サーバーのインストール・パスからローカル・クライアントのインストール・パスへバインド bnd/db2schema.bnd ファイルをコピーでき、かつ、ユーティリティを手動でバインド、あるいは、CREATE DATABASE または MIGRATE DATABASE コマンドの再発行のどちらかの方法を取れます。

SQL1089W データベースは作成されましたが、ユーティリティのバインドに中断が起きました。ユーティリティはデータベースにバインドされません。

説明: データベースへユーティリティをバインド中に、CREATE DATABASE コマンドが割り込みを受けました。割り込みキー・シーケンスが押された可能性があります。

ユーティリティ・バインド・ファイルは、新しく作成されたデータベースへはバインドされません。

ユーザーの処置: ユーティリティをデータベースにバインドしてください。バインド・プログラム呼び出しには format オプションを使用しないでください。

SQL1090C プリコンパイルされたアプリケーション・プログラムまたはユーティリティのリリース番号が無効です。

説明: プリコンパイルされたアプリケーション・プログラムまたはユーティリティのリリース番号が、インストールされているデータベース・マネージャーのリリース番号と互換ではありません。

アプリケーション・プログラムが、前のレベルのデータベース・マネージャー・ライブラリーまたは DLL を、データベース・マネージャー構成ファイルのインストール・バージョンにアクセス中に使用する場合は、エラーが発生する可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーション処理に対して選択されたデータベース・マネージャー・ライブラリーのバージョンまたは DLL が前のもの (古い) ではないことをチェックしてください。

問題が続行する場合は、現在のデータベース・マネージャーを使用して、プリコンパイル処理を繰り返してください。互換リリース・レベルのデータベース・マネージャーでプリコンパイルされたアプリケーション・プログラムのみを使用してください。

SQL1091C データベースのリリース番号が無効です。

説明: データベースのリリース番号が、インストールされているバージョンのデータベース・マネージャーのリリース番号と互換性がありません。これはデータベースが作成されたときのリリース番号、データベースが最後に移行されたときのリリース番号、またはカタログに定義されている最新のバージョン、リリース、変更、フィックスパック・レベルである可能性があります。

コマンドは処理されません。移行またはリストアでエラーが起きた場合は、互換性のないリリースのデータベースを移行またはリストアしようとしています。エラーがフィックスパックの除去後の最初の接続で発生した場合は、より高いレベルのデータベース・マネージャー・コードを使用することを定義されているデータベースに接続しようとしています。

ユーザーの処置: 互換性のあるリリースのデータベース・マネージャーを使用して作成されたデータベースだけを使用してください。移行またはリストア中にエラーが起きた場合は、最初に、現行リリースのデータベース・マネージャーで移行できるリリースに、データベースを移行する必要があります。エラーがフィックスパックの除去後の最初の接続で発生した場合は、ユーティリティを使用してデータベースをフィックスパック・レベルに更新する前にデータベースをバックアップからリストアする必要があります。

sqlcode: -1091

sqlstate: 08004

SQL1092N *authorization-ID* には要求されたコマンド
を実行する許可がありません。

説明: そのコマンドまたは処理に対する適切な権限を持たずに、コマンドまたは処理を実行しようとしていました。

コマンドは処理されません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースでも検出できます。

ユーザーの処置: 正しい権限を持つユーザーとしてログオンして、失敗したコマンドまたは処理をやり直してください。正しい権限には、

SYSADM、SYSCTRL、SYSMAINT、DBADM が含まれます。DBADM はデータベースに付与され、他のすべての権限は、データベース・マネージャー構成に定義されているグループのメンバーによって決定されます (たとえば、データベース・マネージャー構成ファイルの *sysctrl_group* が、'beatles' として定義されている場合、SYSCTRL 権限を得るには、グループ 'beatles' に属している必要があります)。試みられたコマンドまたは操作に必要な権限のリストについては、「コマンド・リファレンス」または「SQL リファレンス」を参照してください。

Windows 環境で Kerberos 認証を使用している場合、ドメイン・アカウントでマシンにログオンしていることを確認してください。Windows 2000 環境では、ドメイン・ユーザーだけが Kerberos 認証を使用できます。

LDAP サポートを使用している場合、ユーザーか DB2 Connect ゲートウェイが CATALOG DATABASE、NODE および DCS DATABASE コマンドを実行する権限があることを確認してください。クライアントまたはゲートウェイで "UPDATE DBM CFG USING CATALOG_NOAUTH YES" コマンドを呼び出して、この問題を訂正してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 必要な場合は、要求を拒否しているデータ・ソースに問題を分離します。(障害の起きたデータ・ソースを識別する手順については「トラブルシューティング・ガイド」を参照してください。) 次に、指定された許可 ID がそのデータ・ソースに適切な権限であるかどうかを確認してください。

権限の要求については、システム管理者に連絡してください。適切な許可を持たずに、コマンドを実行しないでください。

SQL1093N ユーザーはログオンしていません。

説明: ユーザーは、許可を必要とするコマンドが処理される前に、ログオンしておく必要があります。このエラーの原因には、以下が含まれます。

- ユーザー ID が取得できない。
- ログオン時に、予期しないオペレーティング・システムのエラーが起きた。
- アプリケーションがバックグラウンド処理で実行されている。
- ユーザーがログオンを取り消した。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なユーザー ID でログオンして、コマンドを再サブミットしてください。さまざまな並行処理がログオンを要求しているときは、数秒待つてから、ログオン手順を繰り返してください。

sqlcode: -1093

sqlstate: 51017

SQL1094N ノード・ディレクトリーは更新中なので、
アクセスできません。

説明: ノード・ディレクトリーの更新中は、ノード・ディレクトリーをスキャンすることも、使用することもできません。また、データベース・ディレクトリーが何らかの理由ですでにアクセスされている場合は、更新のためにディレクトリーにアクセスすることはできません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 更新が完了してからコマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -1094

sqlstate: 57009

SQL1095N すでに 8 つのノード・ディレクトリー・
スキャンがオープンしています。

説明: 8 つのノード・ディレクトリー・スキャンがこの処理でオープンされており、これ以上スキャンをオープンすることはできません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 1 つ以上の CLOSE NODE DIRECTORY SCAN コマンドを発行してください。コマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -1095

sqlstate: 54029

SQL1096N このコマンドは、このノード・タイプには無効です。

説明: コマンドをサポートしないノードでコマンドが発行されたか、またはこのノード・タイプを正しくセットアップしていないシステム環境が見つかりました。たとえば、データベースが、クライアント・ノードで LOCAL としてカタログされています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コマンドおよびパラメーターが、ノード・タイプに対して正しいことを確認してください。また、コマンドが処理される環境が正しいことを確認してください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL1097N ノード名がノード・ディレクトリーにありません。

説明: リモート・データベースのデータベース・ディレクトリーにリストされているノード名、またはアタッチするコマンドに指定されているノード名が、ノード・ディレクトリーにカタログされていません。

コマンドは処理されません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースでも検出できます。

ユーザーの処置: データベース・ディレクトリーにリストされているノード名、またはアタッチ・コマンドのオブジェクトのノード名が、ノード・ディレクトリーにカタログされていることを確認してください。ノードがノード・ディレクトリーにリストされない場合は、CATALOG NODE コマンドをサブミットしてください。

SQL1100 - SQL1199

SQL1100W **Catalog Database** コマンドに指定されたノード名 *name* が、ノード・ディレクトリーにカタログされていません。

説明: Catalog Database コマンドがノード名 *name* を指定しましたが、ノード・ディレクトリーにカタログされていません。リモート・データベースを使用する前に、ノード名をカタログする必要があります。

CATALOG DATABASE コマンドは正常に処理されません。

ユーザーの処置: CATALOG NODE コマンドを発行してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 上記でリストされたアクションに加えて、すべての SYSCAT.SERVERS 項目にリストされたノード名が正しいことを検証してください。ノードがノード・ディレクトリーにリストされず、サーバーが DB2 ファミリーのメンバーである場合は、そのノードに CATALOG NODE コマンドを発行してください。

sqlcode: -1097

sqlstate: 42720

SQL1098N このデータベースには、アプリケーションがすでに接続されています。

説明: データベースへの接続が要求されましたが、アプリケーションは指定されたデータベースにすでに接続されています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

sqlcode: -1098

sqlstate: 53056

SQL1099N ディスケットが書き込み禁止になっています。

説明: 書き込み操作が、書き込み禁止になっているディスク内のデータベースに対して試みられました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しいディスクを使用していることを確認してください。必要に応じて、ディスクから保護を取り除いてください。

SQL1101N ノード *node-name* のリモート・データベース *name* に、指定された許可 ID とパスワードでアクセスできませんでした。

説明: ノード *node-name* 上のリモート・データベース *name* への接続が要求されましたが、(リモート許可表か実行時に) このノードに対して指定された許可 ID とパスワードの組み合わせをリモート・ノードが受け入れませんでした。

要求は処理できません。

ユーザーの処置: リモート・システム用の有効な許可 ID およびパスワードの組み合わせを使用して、要求の再サブミットを行ってください。

sqlcode: -1101

sqlstate: 08004

SQL1102N データベース名が指定されませんでした。

説明: 移行時にデータベース名が指定されていませんでした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 移行用のデータベース名を指定してください。

SQL1103W **Migrate Database** コマンド処理が正常に終了しました。

説明: Migrate コマンドが正常に終了しました。

データベースがすでに現在のレベルで、移行する必要がない場合でも、このメッセージが返されることに注意してください。

処理を続行します。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL1104N **program name** パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、program name に無効なアドレスを使用しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムで正しいアドレスを使用してください。

SQL1105N **SQL CONNECT RESET** ステートメントは、リモート・アプリケーション・インターフェース・プロシージャでは許されていません。

説明: リモート・アプリケーション・プロシージャに、SQL CONNECT RESET ステートメントが含まれています。

リモート・プロシージャは続行できません。

ユーザーの処置: SQL CONNECT RESET ステートメントを取り除いて、リモート・プロシージャを再実行してください。

sqlcode: -1105

sqlstate: 38003

SQL1106N 指定された **DLL name** モジュールはロードされましたが、関数 **function** は実行できませんでした。

説明: DLL (ダイナミック・リンク・ライブラリー) 内の関数が見つかりませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: DLL モジュールが正しく作成されていることを確認してください。定義ファイルのモジュールを参照してください。

sqlcode: -1106

sqlstate: 42724

SQL1107N 指定された **DLL name** をロード中に、割り込みを受けました。

説明: DLL (ダイナミック・リンク・ライブラリー) モジュールをロードしているときに、コマンドが割り込みを受けました。(Ctrl+Break が押された可能性があります)

処理は停止します。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -1107

sqlstate: 42724

SQL1108N 指定された **DLL name** をロード中に、予期しない入出力エラーまたはオペレーティング・システム・エラーを受け取りました。

説明: 「プログラム名」フィールドに指定された DLL (ダイナミック・リンク・ライブラリー) をロードするときに、予期しないエラーが起きました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 現在のコマンドを再サブミットしてください。それでも、エラーが続く場合は、データベース・マネージャーを再インストールしてください。

再インストールでエラーが修正されない場合は、エラー・メッセージ番号 (SQLCODE)、および可能であれば、SQLCA 内のすべての情報を記録してください。

トレースがアクティブの場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。テクニカル・サービス担当者に連絡してください。

sqlcode: -1108

sqlstate: 42724

SQL1109N 指定された **DLL name** がロードできませんでした。

説明: 指定された DLL (ダイナミック・リンク・ライブラリー) モジュールが見つかりませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 指定したファイルが、システムの LIBPATH に指定されたサブディレクトリに存在することを確認してください。

sqlcode: -1109

sqlstate: 42724

SQL1110N 指定されたデータ域が無効で、使用できませんでした。

説明: データ域が正しく初期化されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ユーザー指定の「入力 SQLDA」または「出力 SQLDA」フィールドが、正しく初期化されていることを確認してください。

SQL1111N 指定されたプログラム名 *name* は無効です。

説明: DLL (ダイナミック・リンク・ライブラリー) モジュールまたはプログラム名の構文が正しくありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: DLL またはプログラム名が正しく指定されていることを確認してください。

sqlcode: -1111

sqlstate: 42724

SQL1112N 指定された DLL *name* のロードに十分なシステム・リソースがありません。

説明: 指定された DLL (ダイナミック・リンク・ライブラリー) モジュールをロードするためのランダム・アクセス・メモリー (RAM) が、十分ではありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーションを停止してください。以下に示す方法で解決してください。

- CONFIG.SYS ファイルの MEMMAN NO SWAP、NO MOVE オプションを、SWAP、MOVE に変更してください。
- バックグラウンド処理を終了してください。
- メモリー割り振りを定義する構成パラメーターの値を減らしてください。
- もっと多くのランダム・アクセス・メモリー (RAM) をインストールしてください。

sqlcode: -1112

sqlstate: 42724

SQL1113N 出力 SQLDA の *sqlvar n* のデータ・タイプが、*type-1* から *type-2* に変更されました。

説明: リモート・ストアード・プロシージャが、出力 SQLDA 内の *n* 番目の SQLVAR のデータ・タイプを変更しました。(*n* は、不一致が見つかった最初の SQLVAR の通し番号を示します)

ストアード・プロシージャはデータを戻しません。

ユーザーの処置: リモート・ストアード・プロシージャを修正して、出力 SQLDA のデータ・タイプ情報が変更されないようにしてください。

sqlcode: -1113

sqlstate: 39502

SQL1114N 出力 SQLDA の *sqlvar n* のデータ長が、*length-1* から *length-2* に変更されました。

説明: リモート・ストアード・プロシージャが、出力 SQLDA 内の *n* 番目の *sqlvar* のデータ長を変更しました (*n* は、不一致が発見された最初の SQLVAR の通し番号を示します)。

ストアード・プロシージャはデータを戻しません。

ユーザーの処置: リモート・ストアード・プロシージャを修正して、出力 SQLDA のデータの長さ情報が変更されないようにしてください。

sqlcode: -1114

sqlstate: 39502

SQL1115N 出力 SQLDA の *sqlvars* の数が、*count-1* から *count-2* に変更されました。

説明: リモート・プロシージャが、出力 SQLDA の「*sqlid*」フィールドを変更しました (*sqlid* は、SQLDA 内の使用された *sqlvar* の数を示します)。

ストアード・プロシージャはデータを戻しません。

ユーザーの処置: リモート・ストアード・プロシージャを修正して、出力 SQLDA の「*sqlid*」フィールドが変更されないようにしてください。

sqlcode: -1115

sqlstate: 39502

SQL1116N 「バックアップ・ペンディング中」のために、データベース *name* の接続または活動化を行うことはできません。

説明: ロールフォワード・リカバリーの開始点を用意するために、指定されたデータベースがバックアップを要求しています。

接続は行われていません。

ユーザーの処置: BACKUP ルーチン呼び出すことにより、データベースをバックアップするか、またはロールフォワードを必要としない場合は、データベース構成パラメーター LOGARCHMETH1 および LOGARCHMETH2 を OFF に設定してください。

sqlcode: -1116

sqlstate: 57019

SQL1117N 「ロールフォワード・ペンディング」のために、データベース *name* の接続または活動化を行うことはできません。

説明: 指定されたデータベースは、ロールフォワード・リカバリーが使用可能な状態でリストアされましたが、ロールフォワードは行われません。

接続は行われていません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースでも検出できます。

ユーザーの処置: データベースをロールフォワードするか、または ROLLFORWARD コマンドを使用して、ロールフォワードを行わないことを指示してください。データベースのロールフォワードを行わないと、データベースの最後のバックアップ以降に書かれたレコードが、データベースに適用されないことに注意してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 必要な場合は、要求を拒否しているデータ・ソースに問題を分離します。(障害の起きたデータ・ソースを識別する手順については「トラブルシューティング・ガイド」を参照します。) 次に、そのデータ・ソースに適切なリカバリー・アクションを行い、データ・ソースを整合点までリカバリーします。

sqlcode: -1117

sqlstate: 57019

SQL1118N 前のバックアップが完了していないために、データベース *name* の接続または活動化を行うことはできません。

説明: バックアップ処理中にシステム・エラーが起きたので、データベースが不整合状態になっています。

接続は行われていません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースでも検出できます。

ユーザーの処置: BACKUP コマンドを発行して、もう一度コマンドをやり直してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 必要な場合は、要求を拒否しているデータ・ソースに問題を分離します。(障害の起きたデータ・ソースを識別する手順については「トラブルシューティング・ガイド」を参照してください。) 次に、コマンドを試行する前にデータ・ソースに対して BACKUP コマンドを発行してください。

sqlcode: -1118

sqlstate: 57019

SQL1119N 前のリストアが完了していないために、データベース *name* の接続または活動化を行うことはできません。

説明: リストア処理中にシステム・エラーが起きたので、データベースが不整合状態になっています。

接続は行われていません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースにより検出できます。

ユーザーの処置: RESTORE コマンドを発行して、もう一度コマンドをやり直してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 必要な場合は、要求を拒否しているデータ・ソースに問題を分離します。(障害の起きたデータ・ソースを識別する手順については「トラブルシューティング・ガイド」を参照してください。) 次に、コマンドを再試行する前に、データ・ソースに対して RESTORE コマンドを発行してください。

sqlcode: -1119

sqlstate: 57019

SQL1120N 前のバックアップまたはリストアが完了していないために、データベース *name* の接続または活動化を行うことはできません。

説明: バックアップまたはリストア処理中にシステム・エラーが起きたので、データベースが不整合状態になっています。バックアップまたはリストアのどちらが処理されていたかが決定できません。

接続は行われていません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースでも検出できます。

ユーザーの処置: BACKUP または RESTORE コマンドを発行してから、もう一度コマンドをやり直してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 必要な場合は、要求を拒否しているデータ・ソースに問題を分離します。(障害の起きたデータ・ソースを識別する手順については「トラブルシューティング・ガイド」を参照してください。) 次に、コマンドを再試行する前に、データ・ソースに対して BACKUP または RESTORE コマンドを発行してください。

sqlcode: -1120

sqlstate: 57019

SQL1121N node structure パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーションが、node structure パラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを指しているか、または必須入力を含むための十分なバッファがありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: プログラムが必要なバッファ領域の割り振りを行っていることを確認して、コマンドを再実行してください。

SQL1122N protocol structure パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーションが、protocol structure パラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを示しているか、または正しくないプロトコル・バッファを示しているかのどちらかです。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: プログラムが、ノード構造の「プロトコル」フィールドにもとづいた必須バッファ領域の割り振りを行っていることを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1123N プロトコル type が無効です。

説明: Catalog コマンドのノード構造に指定したプロトコル・タイプが、認識されない値です。有効なプロトコル・タイプは、*sqlenv* ヘッダー・ファイルに定義されています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ノード構造のプロトコル・タイプを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1124N リモート・ワークステーション名 name が無効です。

説明: Catalog コマンドの NETBIOS プロトコル構造に指定したリモート・ワークステーション名が、指定されていないか、または無効な文字を含んでいます。ワークステーション名は 1 から 8 文字でなければなりません。有効な文字は A から Z、a から z、0 から 9、#、@ および \$ です。最初の文字は、英字または特殊文字 #、@、または \$ でなければなりません。小文字は、システムによって大文字に変更されます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: リモート・ワークステーション名に指定された文字を確認してください。有効なワークステーション名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1125N アダプター番号 number が無効です。

説明: Catalog コマンドの NETBIOS プロトコル構造に指定されたアダプター番号が無効です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アダプター番号が有効なことを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1126N ネットワーク ID ID が無効です。

説明: Catalog コマンドの APPN プロトコル構造のネットワーク ID が無効です。ネットワーク ID が、リモート LU (LU) が存在する SNA ネットワークを識別しています。ネットワーク ID は 1 から 8 文字でなければなりません。有効な文字は A から Z、a から z、0 から 9、#、@ および \$ です。最初の文字は、英字または特殊文字 #、@、または \$ でなければなりません。小文字は、システムによって大文字に変更されません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ネットワーク ID に指定された文字を確認してください。有効なネットワーク ID を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1127N リモート LU 名 name が無効です。

説明: Catalog コマンドの APPN プロトコル構造に指定されたリモート LU (LU) 名が無効です。リモート LU 名は、リモート SNA LU 名で、1 から 8 文字でなければなりません。有効な文字は A から Z、a から z、0 から 9、#、@ および \$ です。最初の文字は、英字または特殊文字 #、@、または \$ でなければなりません。

せん。小文字は、システムによって大文字に変更されま
す。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: リモート LU 名に指定された文字を
確認してください。有効なリモート LU 名を使用して、
コマンドを再サブミットしてください。

**SQL1128W SAVECOUNT は無視されます。理由コ
ード = reason-code**

説明: 可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

1. MDC 表にロードする場合、整合点はサポートされて
いません。
2. 指定されたファイル・タイプは、整合点を許可しま
せん。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

**SQL1129N 新しい処理を生成するためのリソースが不
十分なために、新しい DARI (ストアード・プロシ
ージャー) 処理が開始できませんでした。**

説明: 新しい処理を生成するためのリソースが不十分な
ために、新しい DARI (ストアード・プロシージャー)
処理が開始できませんでした。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

- DB2 を使用しているユーザー数を減らしてくださ
い。
- システム処理の上限を増やしてください。

sqlcode: -1129

sqlstate: 42724

**SQL1130N サーバー上で同時に存在可能な DARI 処
理の最大数に達したために、新しい DARI
(ストアード・プロシージャー) 処理が開
始できませんでした。**

説明: サーバー上で同時に存在可能な DARI 処理の最
大数に達したために、新しい DARI (ストアード・プロ
シージャー) 処理が開始できませんでした。

ユーザーの処置: DARI 処理の最大数を指定する
maxdari 構成パラメーターを増やしてください。詳細に
ついては、データベース構成パラメーター *maxdari* を参
照してください。

sqlcode: -1130

sqlstate: 42724

**SQL1131N DARI (ストアード・プロシージャー) 処
理が異常終了しました。**

説明: このエラーの原因として、以下のことが考えられ
ます。

- DARI ルーチン内にコーディング・エラー (すなわち
セグメント違反) がある。
- 他の処理がシグナルを使用して、DARI 処理を終了さ
せました。

ユーザーの処置: 以下を行った後で、DARI 要求を再始
動してください。

- DARI プロシージャーにプログラミング・エラーがな
いことを確認してください。
- DARI 処理に対して、終了シグナルを送っているユー
ザーがないことを確認してください。

sqlcode: -1131

sqlstate: 38503

**SQL1132N このコマンドは、DARI (ストアード・プロ
シージャー) 内での実行を許されていま
せん。**

説明: DARI (ストアード・プロシージャー) の有効範
囲内で、無効なコマンドが発行されました。

DARI プロシージャーは、続行できません。

ユーザーの処置: DARI プロシージャー内の不当なコマ
ンドを取り除いて、再実行してください。

sqlcode: -1132

sqlstate: 38003

**SQL1133N 出力 SQLDA の sqlvar (index = n) 内
のポインター・アドレスが、DARI (ストア
ード・プロシージャー) 関数内で変更さ
れました。**

説明: 出力 SQLDA の sqlvar 内の “sqlind” または
“sqldata” ポインターが、ユーザーが用意した DARI 関
数内で変更されました。

ストアード・プロシージャーはデータを戻しません。

ユーザーの処置: 出力 SQLDA 内の示された sqlvar の
使用法を修正して、DARI (ストアード・プロシージャ
ー) 関数ルーチンの中で、ポインター・アドレスが変更
されないようにしてください。

sqlcode: -1133

sqlstate: 39502

SQL1134N データベース認証タイプが **CLIENT** の場合、このコマンドは **DARI** (ストアード・プロシージャ) の有効範囲内では許されていません。

説明: データベースの認証タイプが **CLIENT** の場合、**ALL SYSADM** コマンドは **DARI** (内部記憶式プロシージャ) 内で実行できません。

ストアード・プロシージャはデータを戻しません。

DARI プロシージャは、続行できません。

ユーザーの処置: **DARI** プロシージャ内の不当なコマンドを取り除いて、再実行してください。

sqlcode: -1134

sqlstate: 38003

SQL1135N データベースの作成時に、無効なセグメント数が指定されました。

説明: セグメント数に指定された値が範囲外です。有効範囲は 1 から 256 です。

ユーザーの処置: セグメント数を指定し直して、もう一度データベースを作成してください。

SQL1136N データベースの作成時に、無効な値がデフォルト表スペース・エクステント・サイズ (**dft_extentsize**) に指定されました。

説明: デフォルト表スペース・エクステント・サイズ (**dft_extentsize**) に指定された値が範囲外です。有効範囲は 2 から 256 です。

ユーザーの処置: 表スペース・エクステント・サイズを訂正して、やり直してください。

SQL1137W データベース **dbalias** のドロップ時に、データベース・マネージャーがデータベース・パスまたはいくつかのコンテナを除去できませんでした。クリーンアップが必要です。

説明: コンテナのリストがアクセスできなかったか、またはコンテナまたはデータベース・ディレクトリーの除去中に、障害が起きました。

ユーザーの処置: システム管理コンテナ (ディレクトリー)、およびデータベース管理ファイル・コンテナを、オペレーティング・システム・コマンドを使用して、手操作で除去することが必要になる可能性があります。装置コンテナを解放するには、担当の **IBM** 技術員に連絡してください。

New Log Path 構成パラメーターでログ・ディレクトリ

ーが変更されている場合は、ログ・ディレクトリー・ファイル・システムを手操作で取り外し、ログおよびデータベース・ディレクトリーを除去してください。

SQL1138W ユニーク索引 *name* が据え置きユニーク・チェックをサポートするために移行しました。新規索引は作成されません。

説明: **CREATE INDEX** 処理が既存の索引で試行されました。索引が据え置きユニーク・チェックをサポートするために移行していないため、この移行は実行されませんでした。

ユニーク索引の移行された形式によって、行ごとに更新が行われるのではなく更新ステートメントの最後に索引列のユニーク性チェックを複数の行で行うことができます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

sqlcode: +1138

sqlstate: 01550

SQL1139N 表スペースの合計サイズが大きすぎます。

説明: 現在の表スペースの合計サイズが大きすぎます。**REGULAR** または **USER TEMPORARY** 表スペースのサイズは 0xFFFFFFFF (16777215) ページに制限され、**SYSTEM TEMPORARY** または **LONG** 表スペースのサイズは 2 テラバイト (2 TB) に制限されています。

ユーザーの処置: 詳細については管理通知ログをチェックしてください。表スペースのサイズを減らして、**SQL** ステートメントを訂正してください。

sqlcode: -1139

sqlstate: 54047

SQL1140W コスト・カテゴリー *cost-category* で、*estimate-amount1* プロセッサ秒の見積もられたプロセッサ・コスト (*estimate-amount2* サービス単位) が、*limit-amount* サービス単位のリソース制限警告しきい値を超えています。

説明: 動的 **INSERT**、**UPDATE**、**DELETE**、または **SELECT SQL** ステートメントの準備の結果、リソース限定表 (**RLST**) に指定された警告しきい値を超えるコスト見積もりが発生しました。

この警告は、**DB2** のコスト・カテゴリー値が "B" であり、**RLST** の **RLF_CATEGORY_B** 列に指定されたデフォルトのアクションが警告の発行である場合にも発行されます。

estimate_amount1

準備された INSERT、UPDATE、DELETE または SELECT ステートメントが実行された場合のコスト見積もり (プロセッサ秒)。

estimate_amount2

準備された INSERT、UPDATE、DELETE または SELECT ステートメントが実行された場合のコスト見積もり (サービス単位)。

cost-category

この SQL ステートメントについての DB2 のコスト・カテゴリー。使用可能な値は A または B です。

limit-amount

RLST の RLFASUWARN 列に指定されている警告しきい値 (サービス単位)。

動的 INSERT、UPDATE、DELETE、または SELECT ステートメントの準備は成功しました。準備されたステートメントを実行して、RLST に指定された ASUTIME 値を超える場合は、SQLCODE -905 が発行される可能性があります。

ユーザーの処置: 警告を扱って、ステートメントの実行を許可するか、ステートメントの実行を行わないことを決定するためのアプリケーション論理が存在することを確認してください。コスト・カテゴリー値が "B" であるためにこの SQLCODE が返された場合は、ステートメントがパラメーター・マーカを使用しているか、参照される表と列について使用できない統計が存在する可能性があります。管理者が、参照された表でユーティリティー RUNSTATS を実行したことを確認してください。また、ステートメントが実行されるときに UDF が呼び出されるか、INSERT、UPDATE、または DELETE ステートメントについては、変更された表にトリガーが定義されている可能性もあります。このステートメントについて DSN_STATEMNT_TABLE または IFCID 22 レコードをチェックして、この SQL ステートメントがコスト・カテゴリー "B" になった理由を判別してください。

SQL ステートメントがプロセッサ・リソースを多く使用しすぎていることが警告の原因である場合は、ステートメントが効率良く実行されるために書き直してみてください。もう 1 つのオプションとして、RLST の警告しきい値を上げることを管理者に要請することもできます。

sqlcode: +1140

sqlstate: 01616

SQL1141N 操作は完了しましたが、エラーまたは警告がありました。この詳細は結果ファイル *file-name* にあります。このファイルは、**db2inspf** ユーティリティーを使ってフォーマットする必要があります。

説明: パーティション化データベース環境では、ファイル拡張子はデータベース・パーティションのノード番号に対応しています。ファイルは、DIAGPATH データベース・マネージャー構成パラメーターで指定されているディレクトリーにあります。

ユーザーの処置: db2inspf ユーティリティーを使って、検査データ結果ファイル *file-name* をフォーマットします。

SQL1142N ファイル *file-name* はすでに使用中のため、この操作は完了できません。

説明: INSPECT コマンドに指定されたファイル名を使用する既存ファイルが存在します。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: まだ使用されていない別のファイル名を使ってコマンドを再サブミットしてください。または、既存ファイル *file-name* を除去して、コマンドを再サブミットしてください。

パーティション化データベース環境では、ファイル拡張子はデータベース・パーティションのノード番号に対応しています。ファイルは、DIAGPATH データベース・マネージャー構成パラメーターで指定されているディレクトリーにあります。

SQL1143N ファイル *file-name* でファイル・エラーが起きたために、操作を完了できません。

説明: 入出力エラーのために、ファイルにアクセスできませんでした。システムが、ファイルのオープン、読み取り、または書き込みを行うことができません。ファイルが不完全であるか、またはディスクがいっぱいの可能性があります。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。追加情報については、診断ログ・ファイルを調べてください。

データベース・パーティション環境では、ファイル拡張子はデータベース・パーティションのノード番号に対応します。ファイルは、DIAGPATH データベース・マネージャー構成パラメーターで指定されているディレクトリーにあります。

SQL1144N 現在のトランザクションは、索引の作成に失敗して、ロールバックされました。

sqlcode = *sqlcode*.

説明: 同じトランザクションで、最後に残った表の索引がドロップされ、同じ表について新しい索引が作成されました。この索引の作成は、エラー *sqlcode* で失敗したか、または ROLLBACK TO SAVEPOINT ステートメントによりロールバックされました (*sqlcode*=0)。最後に残った表の索引の索引ドロップがまだコミットされていない場合、索引作成のロールバックは、正常に完了できません。このいずれの場合も、トランザクション全体がロールバックされます。索引は、ALTER TABLE ステートメントのユニーク・キーまたは主キーの制約をドロップまたは追加しても、作成またはドロップできる点に留意してください。

ユーザーの処置: 可能であれば、トランザクション全体がロールバックされるのを避けるために、同じ表について新しい索引を作成する前に、索引のドロップをコミットしてください。 *sqlcode* が 0 でない場合は、その *sqlcode* のメッセージで、訂正アクションを確認してください。ロールバック・トランザクションのすべてのステートメントを再発行する必要があります。 *sqlcode* がゼロで、索引が *savepoint* 有効範囲内でドロップされている場合は、同じ表に対する古い索引をドロップする前に、新しい索引を作成するためにステートメントの再順序付けが必要な場合があります。ユニーク・キーまたは主キーのドロップと追加が同じ ALTER TABLE ステートメントにある場合は、2 つのステートメントで行う必要があります。1 つ目のステートメントで ADD を実行し、2 つ目のステートメントでドロップを実行します。

sqlcode: -1144

sqlstate: 40507

SQL1145N ゲートウェイ・コンセントレーターを使用している場合、PREPARE ステートメントはサポートされていません。理由コード：*reason-code*

説明: 以下のいずれかの *reason-code* によって、ステートメントが失敗しました。

- 1 ゲートウェイ・コンセントレーターが ON になっている場合、組み込み SQL にある動的に準備されたステートメントはサポートされていません。この構成では、クライアントが CLI アプリケーションである場合のみ、動的に準備されたステートメントがサポートされています。
- 2 ゲートウェイ・コンセントレーターが ON に

なっている場合、動的に準備された SET ステートメントはサポートされていません。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいて、以下のいずれかアクションを行ってください。

- 1 動的 SQL ステートメントに CLI を使用するようアプリケーションを変更するか、または静的 SQL を使用するようアプリケーションを変更する
- 2 SET ステートメントに EXECUTE IMMEDIATE を使用する

sqlcode: -1145

sqlstate: 560AF

SQL1146N 表 *table-name* に索引がありません。

説明: 索引再編成で指定した *table-name* に索引がありません。

ユーザーの処置: 有効な表名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1147W TOTALFREESPACE は、MDC 表では無視されます。

説明: 表のフリー・スペースは MDC 表に対してよく管理されているため、TOTALFREESPACE ファイル・タイプ修飾子は不必要なので無視されます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL1148N 索引をリフレッシュする必要があります。ただし、索引は現在バックアップ・ペンディング状態の表スペースにあり、リフレッシュすることができません。

説明: 索引をリフレッシュする必要があります。ただし、索引は現在バックアップ・ペンディング状態の表スペースにあり、リフレッシュすることができません。

ユーザーの処置: データベースまたは表スペースのバックアップを完了し、照会またはコマンドを再サブミットしてください。

SQL1150N *user id* パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、このパラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを指しているか、またはそのバッファ内の文字ストリングに NULL 終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入力ストリングが null で終了していることを確認してください。

SQL1152N ユーティリティーの優先順位が無効です。

説明: 指定された優先順位が、0 - 100 の範囲にありません。

ユーザーの処置: 有効な優先順位を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1153N ユーティリティー ID *utility-ID* が存在しません。

説明: 指定されたユーティリティー ID が見つかりませんでした。無効な ID が指定されているか、またはユーティリティーがすでに完了しています。

ユーザーの処置: ユーティリティーが存在するか確認し、コマンドを再サブミットしてください。ユーティリティーが完了しているか判断するには、データベース・マネージャーのスナップショット・データを調べてください。

SQL1154N スロットルをサポートしないユーティリティーの優先順位は設定できません。

説明: スロットルをサポートしないユーティリティーをスロットルしようとしています。

ユーザーの処置: このユーティリティーは、引き続き未スロットルのまま稼働します。

SQL1160N DOS *network-protocol* TSR がロードされていません。

説明: 指定された通信プロトコルの終了後常駐型 (TSR) ネットワーク・ドライバはロードされていません。TSR はネットワーク通信を使用する前にロードされている必要があります。

ユーザーの処置: 指定した通信プロトコルの TSR が正常にロードされていることを確認した後で、もう一度アプリケーションを実行してください。

SQL1161W 調整処理が失敗しました。DataLink 列が DB2 DataLinks Manager で定義されていません。詳細については管理通知ログをチェックしてください。

説明: 表の DataLink 列に関するメタデータ情報が DB2 DataLinks Manager にありません。調整処理が失敗しました。表はデータ・リンク調整不可 (DRNP) 状態になります。

ユーザーの処置: 表をデータ・リンク調整不可 (DRNP) 状態から解除するには、「管理ガイド」の「データ・リンク調整不可 (DRNP) 状態から表を解除する」に記載されている手順に従ってください。

SQL1162W 調整処理が失敗しました。例外処理中に DB2 DataLinks Manager が使用できなくなりました。

説明: 表データによって参照されている DB2 DataLinks Manager の 1 つが、調整の例外処理中に使用できなくなりました。調整処理が失敗しました。表はデータ・リンク調整ペンディング (DRP) 状態になります。

ユーザーの処置: もう一度調整を実行します。

SQL1163N タイプ *ident-type* の ID 名 *ident-name* が長すぎるために、データ・キャプチャーについて表を使用可能にすることができませんでした。

説明: データ・キャプチャーは、特定の長さを超える ID タイプではサポートされていません。試みられた変更の処理中に、タイプ *ident-type* の ID *ident-name* が長すぎるということがわかりました。データ・キャプチャーを可能にするための ID タイプと最大長は以下のとおりです。

1. 列。データ・キャプチャーを使用可能にするためには、列名は 18 バイト以下でなければなりません。
2. 表。データ・キャプチャーを使用可能にするためには、表名は 18 バイト以下でなければなりません。
3. スキーマ。データ・キャプチャーを使用可能にするためには、スキーマ名は 18 バイト以下でなければなりません。

ユーザーの処置: この表のデータ・キャプチャーを使用可能にする場合は、問題の ID が上に示されている最大値を超えていないことを確認してください。そうでない場合は、長い ID 名を使用するために表のデータ・キャプチャーをできなくしてください。

sqlcode: -1163

sqlstate: 42997

SQL1164N SQL ステートメントで使用されているタイプ *type* の SQLDA あるいはホスト変数が無効です。理由コード *reason-code*、ホスト変数/SQLVAR 番号 *var-number*。

説明: SQLDA あるいは SQL ステートメントのホスト変数を処理している間にエラーが起きました。

呼び出しパラメーター・リストはプリコンパイラーで作

成されますが、アプリケーション・プログラマーがプリコンパイラーの出力を修正し、アプリケーション・プログラムで SQL で始まる変数名を使用するか、あるいは別の方法で呼び出しパラメーター・リストを上書きする場合には正しくない可能性があります。

また SQLDA がアプリケーションによって直接渡される場合正しく初期化されない可能性があります。

ホスト変数/SQLDA タイプ：

- 1 入力ホスト変数あるいは SQLDA
- 2 出力ホスト変数あるいは SQLDA

ホスト変数を指定した SQL ステートメントでは、ホスト変数番号を使用してステートメント (あるいはコンパウンド SQL の場合はサブステートメント) の最初からカウントし無効なホスト変数を探し出すことができません。SQLDA を使用したステートメントでは SQLVAR 番号が無効な SQLVAR の検出に使用されます。入力 SQLDA では入力ホスト変数あるいは SQLVAR をカウントするだけです。出力も同様です。この番号の基本は 1 で、すべての理由コードに適用できるわけではないことに注意してください。理由コードは次のように解釈されます。

- 1 SQLDA.SQLN が SQLDA.SQLD より小さい。
- 2 SQLVAR.SQLTYPE が無効である。
- 3 SQLVAR.SQLLEN あるいは SQLVAR2.SQLLONGLEN で指定した長さが SQLVAR.SQLTYPE で与えられた SQL タイプに対して間違っている。
- 4 ラージ・オブジェクト SQLVAR はあるが、SQLDA.SQLDAID の SQLDOUBLED フィールドが '2' に設定されていない
- 5 入力 varchar が現行の長さ (varchar 自身の長さフィールドから) が最大長より大きくなっているものを提供している。最大長は宣言 (ホスト変数の場合) あるいは SQLVAR.SQLLEN の設定 (ユーザー定義 SQLDA の場合) によって判別されます。
- 6 入力ラージ・オブジェクトの現行の長さ (LOB 自身の長さフィールドあるいは SQLVAR2.SQLDATALEN ポインターで示される) が最大長より大きく渡される。最大長は宣言 (ホスト変数の場合) あるいは SQLVAR2.SQLLONGLEN の設定 (ユーザー定義 SQLDA の場合) によって判別されます。
- 7 2 バイト文字ラージ・オブジェクトには SQLVAR2.SQLDATALEN ポインターで示される奇数値があり、これが常にバイトで、DBCLOB に対してもそうである。

- 8 SQLDATA ポインターが無効であるか、あるいは不十分なストレージを示している
- 9 SQLIND ポインターが無効であるか、あるいは不十分なストレージを示している
- 10 SQLDATALEN ポインターが無効であるか、あるいは不十分なストレージを示している
- 11 入力ホスト変数/SQLVARS の特定値が現行 SQL ステートメントで予想される

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 示されたエラーについて、アプリケーション・プログラムを調べてください。プログラマーは、プリコンパイラー出力を変更するべきではないことに注意してください。

sqlcode: -1164

sqlstate: 07002

SQL1165W 値がホスト変数のデータ・タイプの範囲外なので、その値をホスト変数に割り当てるできません。

説明: ホスト変数リストへの FETCH、VALUES、または SELECT は、ホスト変数が検索された値を保留するのに十分な大きさでないため、失敗しました。

このステートメント処理は -2 の null 標識を戻し続行しました。

ユーザーの処置: 表定義が現在のものであり、ホスト変数が適切なデータ・タイプであることを確認してください。SQL データ・タイプの範囲については、「SQL リファレンス」を参照してください。

sqlcode: +1165

sqlstate: 01515

SQL1166W ゼロによる除算が試みられました。

説明: 算術式の処理でゼロの除算が起きました。この警告は、警告の原因となった行とは別の行で戻ってくる場合があります。たとえば、述部での算術式で、または照会がシステム一時表を使用して処理を行っている場合、これは起こります。null 標識変数が -2 に設定されているときにはいつでも警告が戻されるために再度発行される可能性があります。

ステートメント処理は続けられ、null を除算式の結果として使用し null 標識 -2 を戻すことが考えられます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを調べて、問題の原因を判別してください。問題がデータによるもので

あれば、エラーが起きたときに処理されていたデータを調べてください。

sqlcode: +1166

sqlstate: 01564

SQL1167W 算術オーバーフロー、またはその他の算術例外が発生しました。

説明: 算術式の処理が算術オーバーフロー、アンダーフロー、あるいは他の算術例外を起こしました。この警告は、警告の原因となった行とは別の行で戻ってくる場合があります。たとえば、述部での算術式で、または照会がシステム一時表を使用して処理を行っている場合、これは起こります。null 標識変数が -2 に設定されているときにはいつでも警告が戻されるために再度発行される可能性があります。

ステートメント処理は続けられ、null を算術式の結果として使用し null 標識 -2 を戻すことが考えられます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを調べて、問題の原因を判別してください。問題がデータによるものであれば、エラーが起きたときに処理されていたデータを調べてください。データ・タイプの有効範囲については、「SQL リファレンス」を参照してください。

sqlcode: +1167

sqlstate: 01519

SQL1169N ステートメントの Explain 処理中にエラーが発生しました。理由コード = *reason-code*

説明: 前に REOPT ONCE を指定してコンパイルされたステートメントの Explain のために Explain 機能が呼び出されましたが、次の理由コードのいずれかのエラーが発生しました。

1. 指定されたステートメントがパッケージ・キャッシュの中に見つかりませんでした。
2. キャッシュに入っているステートメントは、REOPT ONCE を使用してコンパイルされたものではありません。
3. キャッシュに入っているステートメントは、複数の環境で REOPT ONCE を指定してコンパイルされており、固有に識別できません。
4. キャッシュに入っている再最適化ステートメントのための値が見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

1. 指定されたステートメント・テキストが、パッケージ・キャッシュの中のステートメントのステートメント・テキストと一致していることを確認してください。
2. REOPT ONCE を使用してステートメントを再コンパイルしてください。詳しくは、「コマンド・リファレンス」を参照してください。
3. ステートメントの環境が REOPT ONCE の設定されたユニークな環境であることを確認してください。
4. ステートメントが、元来再最適化の対象となったデータベース・パーティションにおいて、Explain されていることを確認してください。

sqlcode: -1169

sqlstate: 560C9

SQL1178N *object-name* と呼ばれるフェデレーテッド *object-type* は、フェデレーテッド・データベース・オブジェクトを参照していません。

説明: *object-name* で識別されているタイプ *object-type* のオブジェクトは、キーワード FEDERATED を使って定義されていますが、ステートメントの全選択はフェデレーテッド・データベース・オブジェクトを参照していません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: キーワード FEDERATED をステートメントから除去してください。

sqlcode: -1178

sqlstate: 429BA

SQL1179W 呼び出し側がデータ・ソース・オブジェクトについて必要な権限を持っていることを、*object-name* と呼ばれる *object-type* が必要としていると思われます。

説明: *object-name* で識別されているオブジェクトは、データ・ソースに実際のデータが存在するフェデレーテッド・オブジェクト (OLE DB 表関数、フェデレーテッド・ルーチン、フェデレーテッド・ビュー、またはニックネームなど) を参照しています。データ・ソース・データにアクセスしている場合、ユーザー・マッピングおよび許可チェックは、操作を開始したユーザーに基づいています。

object-type が SUMMARY TABLE であれば、操作はマテリアライズ照会表のデータをリフレッシュしています。リフレッシュを行う REFRESH TABLE または SET INTEGRITY ステートメントを呼び出したユーザー

に、データ・ソースにある基礎データ・ソース・オブジェクトにアクセスするための権限が必要だと思われる。

object-type VIEW であれば、データ・ソースにある基礎データ・ソース・オブジェクトにアクセスするための権限が、ビューのユーザーに必要なと思われる。

object-type が PROCEDURE、FUNCTION、または METHOD の場合、ルーチンの呼び出し元は、データ・ソースにあるそのルーチンの SQL ステートメントの基礎データ・ソース・オブジェクトへのアクセスに必要な特権を持っていることが要求される可能性があります。

いずれの場合も、データ・ソース・オブジェクトへのアクセスが試行されたときに、許可エラーが発生する可能性があります。

ユーザーの処置: オブジェクトに対する特権を付与するだけでは、データ・ソースからそのデータにアクセスする操作をサポートするのに十分ではない場合があります。基礎データ・ソース・オブジェクトのデータ・ソースで、ユーザー・アクセスを付与する必要がある可能性があります。

sqlcode: +1179

sqlstate: 01639

SQL1180N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) により、OLE エラーが発生しました。 **HRESULT=hresult** 診断テキスト: *message-text*

説明: DB2 は、ユーザー定義関数 (UDF) またはストアド・プロシージャ *routine-name* (特定名 *specific-name*) との通信を試行中、OLE エラー・コードを受け取りました。 **HRESULT hresult** が戻された OLE エラー・コードで、*message text* が検索されたエラー・メッセージです。

以下に、エラー・メッセージ、HRESULTS、および考えられる原因のリストの一部を示します。エラー・メッセージ・テキストは OLE によって変更される可能性があります。新規のエラー・コードが OLE によって追加される場合もあります。

不明なインターフェース (0x80020001):

指定の OLE オブジェクトは IDispatch インターフェースをサポートしません。

タイプの不一致 (0x80020005):

SQL データ・タイプの 1 つ以上のものが方式引き数のデータ・タイプと一致しません。

不明な名前 (0x80020006):

指定の方式名は指定の OLE オブジェクトで見つかりません。

無効なパラメーター数 (0x8002000E):

方式に渡された引き数の数が方式で受け入れた引き数の数と相違しています。

無効なクラス・ストリング (0x800401F3):

指定の ProgID あるいは CLSID が無効です。

クラスが登録されていない (0x80040154):

CLSID が正しく登録されません。

アプリケーションが見つからない (0x800401F5):

ローカル・サーバー EXE が見つかりません。

クラスの DLL が見つからない (0x800401F8):

処理中の DLL が見つかりません。

サーバー実行の失敗 (0x80080005):

OLE オブジェクトの作成ができません。

ユーザーの処置: 特殊用語の意味を含む、完全な文書については、「OLE プログラマー参考書」を参照してください。

sqlcode: -1180

sqlstate: 42724

SQL1181N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) が、記述 *message-text* とともに例外を起こしました。

説明: ユーザー定義関数 (UDF) またはストアド・プロシージャ *routine-name* (特定名 *specific-name*) が例外を起こしました。メッセージ・テキストには、ルーチンによって返された例外のテキスト記述が示されています。

ユーザーの処置: ユーザーは例外の意味を理解する必要があります。ルーチンの作成者に連絡してください。

sqlcode: -1181

sqlstate: 38501

SQL1182N ユーザー定義関数 *function-name* が指定された OLE DB provider のデータ・ソース・オブジェクトを初期化できませんでした。 **HRESULT=hresult** 診断テキスト: *message-text*

説明: 指定された OLE DB provider の OLE DB データ・ソース・オブジェクトをインスタンス化または初期化できませんでした。 *hresult* は返された OLE DB エラー・コードで、*message-text* は検索されたエラー・メッセージです。

以下に HRESULTS および考えられる原因のリストの一部を示します。

0x80040154

クラス (OLE DB provider) が登録されていません。

0x80040E73

指定された初期化ストリングが指定に準拠していません。

0x80004005

指定されていないエラー (初期化中)。

ユーザーの処置: OLE DB provider の正しい登録と、接続ストリング内のパラメーターの初期化を確認します。OLE DB コア・コンポーネント内のデータ・リンク API 接続ストリング構文と HRESULT コードの完全な資料については、Microsoft OLE DB Programmer's Reference and Data Access SDK を参照してください。

sqlcode: -1182

sqlstate: 38506

SQL1183N ユーザー定義関数 *function-name* が指定された OLE DB provider から OLE DB エラーを受け取りました。

HRESULT=*hresult* 診断テキスト:
message-text

説明: 指定された OLE DB provider が OLE DB エラー・コードを返しました。*hresult* は返された OLE DB エラー・コードで、*message-text* は検索されたエラー・メッセージです。

以下に HRESULTS および考えられる原因のリストの一部を示します。

0x80040E14

コマンドに、1 つ以上のエラーが入っていました。たとえば、パススルー・コマンド・テキストの構文エラーです。

0x80040E21

エラーが発生しました。たとえば、入力した columnID は無効です (DB_INVALIDCOLUMN)。

0x80040E37

指定された表が存在しません。

ユーザーの処置: HRESULT コードの完全な資料については、Microsoft OLE DB Programmer's Reference and Data Access SDK を参照してください。

sqlcode: -1183

sqlstate: 38506

SQL1184N 1 つ以上の EXPLAIN 表が、現在のバージョンの DB2 を使用して作成されていません。

説明: DB2EXMIG を使用して表が移行されるか、DB2 の現在のバージョンの EXPLAIN.DDL CLP スクリプトを使用して表がドロップまたは再作成されるまで、EXPLAIN はこれらの表に挿入できません。

ユーザーの処置: DB2EXMIG を使用して表を移行するか、DB2 の現在のバージョンの EXPLAIN.DDL CLP スクリプトを使用して表をドロップまたは再作成してください。コマンドを再発行してください。

sqlcode: -1184

sqlstate: 55002

SQL1185N FEDERATED *value* が、パッケージのバインドで誤って使用されています。

説明: *value* が NO であれば、パッケージ内の少なくとも 1 つの静的 SQL ステートメントに、ニックネーム、または OLE DB 表関数か OLE DB プロシージャのいずれかへの参照が入っています。この場合、パッケージをバインドするために FEDERATED YES を指定しなければなりません。

value が YES であれば、パッケージ内の静的 SQL ステートメントに、ニックネーム、または OLE DB 表関数か OLE DB プロシージャのいずれかへの参照が入っていません。この場合、パッケージをバインドするために FEDERATED NO を指定しなければなりません。

パッケージは作成されていません。

ユーザーの処置: 正しい FEDERATED オプションを指定してください。

SQL1186N タイプ *object-type*、名前 *object-name* のオブジェクトが、FEDERATED 文節が指定されずに、フェデレーテッドされたオブジェクトになるように変更されているか、またはフェデレーテッドされたオブジェクトとして作成されています。

説明: *object-name* で識別されているオブジェクトは、データ・ソースに実際のデータが存在するフェデレーテッド・オブジェクト (OLE DB 表関数、フェデレーテッド・ルーチン、フェデレーテッド・ビュー、またはニックネームなど) を参照しています。

非フェデレーテッド・ビューが変更中であり、全選択が現在、直接または間接的にフェデレーテッド・データベース・オブジェクトを参照している場合、FEDERATED を指定する必要があります。

フェデレーテッド・ビューが変更中であり、全選択がまだ、直接または間接的にフェデレーテッド・データベース・オブジェクトを参照している場合、NOT FEDERATED を指定する必要があります。

マテリアライズ照会表を作成中であり、全選択が、直接または間接的にフェデレーテッド・データベース・オブジェクトを参照している場合、NOT FEDERATED を指定することはできません。

SQL ルーチンを作成中であり、そのルーチンが、直接または間接的にフェデレーテッド・データベース・オブジェクトを参照している場合、NOT FEDERATED を指定することはできません。

ユーザーの処置: 非フェデレーテッド・ビューをフェデレーテッド・ビューにするよう変更するには、FEDERATED 文節を指定してください。

フェデレーテッドされたビューへ継続するフェデレーテッドされたビューを変更するには、NOT FEDERATED 文節を指定しないでください。

全選択がフェデレーテッド・データベース・オブジェクトを直接または間接的に参照するマテリアライズ照会表を作成するには、NOT FEDERATED 文節を指定しないでください。

フェデレーテッド・データベース・オブジェクトを直接または間接的に参照する SQL ルーチンを作成するには、NOT FEDERATED 文節を指定しないでください。

sqlcode: -1186

sqlstate: 429BA

SQL1187W データベースは正常に作成または移行されましたが、詳細デッドロック・イベント・モニター *event-monitor-name* を作成中に、エラーが発生しました。詳細デッドロック・イベント・モニターは作成されていません。

説明: CREATE DATABASE または MIGRATE DATABASE は、新しく作成されたデータベースに対して詳細デッドロック・イベント・モニターを作成できませんでした。

ユーザーの処置: 必要であれば、詳細デッドロック・イベント・モニターを作成してください。

SQL1188N SELECT または VALUES ステートメントの列 *src-col-num* が、表列 *tgt-col-num* と非互換です。ソース列は **sqltype** *src-sqltype*、ターゲット列は **sqltype** *tgt-sqltype* です。

説明: ソース列とターゲット列が非互換です。SELECT または VALUES ステートメントの列の順序に誤りがあるか、METHOD P または METHOD N 指定の順序に誤りがある可能性があります。

ユーザーの処置: ソース列とターゲット列が互換性を持つようにコマンドを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1189N 指定された LOAD METHOD は、指定されたファイル・タイプには無効です。

説明: 指定されたファイル・タイプに、無効な METHOD が指定されました。

ユーザーの処置: 別の METHOD を使ってコマンドを再サブミットしてください。

SQL1190N LOAD ユーティリティは、SQLCODE *sqlcode*、SQLSTATE *sqlstate*、およびメッセージ・トークン *token-list* を検出しました。

説明: LOAD ユーティリティは、SQLCODE *sqlcode* のエラーを検出して、処理を停止しました。

ユーザーの処置: メッセージ・リファレンスで、SQLCODE *sqlcode* を参照してください。必要な訂正アクションを実行して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1191N METHOD パラメーターに指定された列 *col-spec* は存在しません。

説明: 列 *col-spec* は、照会の結果に存在しません。

ユーザーの処置: 無効な列指定を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1192W 現在のファイル・タイプに指定された入力ソースの数を多過ぎます。許可される最大数は、*max-input-sources* です。

説明: 指定されたファイル・タイプでは、単一ロードに対して *max-input-sources* を超える入力ソースを指定することは許可されません。

ユーザーの処置: *max-input-sources* を超えない入力ソースの数を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1193I ユーティリティーは、SQL ステートメント *statement* からのデータのロードを開始しています。

説明: これは、SQL ステートメントからのロードが開始されたことを示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL1194W 列番号 *col-num* に対応する行 *row-num* の値が無効です。この行は拒否されています。

説明: ターゲット列 *col-num* に対応する値がその列に有効な値でないため、行番号 *row-num* は拒否されました。

考えられる理由は以下のとおりです。

- 数値がそのターゲット列の最小または最大範囲内にありません。
- ターゲット列に対して文字値が長過ぎます。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。必要に応じて、ターゲット列 *col-num* をより適切に定義された列で置き換えて新規表を定義し、処理を繰り返してください。

SQL1195N ツール・カタログ・データベース *database-name* の作成または初期化が *server-name* で失敗しました。 **SQLCODE** = *SQLCODE*。

説明: ツール・カタログ・データベース *database-name* の作成または初期化が *server-name* で失敗しました。
SQLCODE = *SQLCODE*。

ユーザーの処置: 操作から戻された **SQLCODE** についてユーザー応答を参照してください。

SQL1196W バックアップが正常に完了しました。ただし、1 つ以上のデータ・リンク・ファイル・マネージャーに接触できません。このバックアップ・イメージのタイム・スタンプは *backup-image-timestamp* です。

説明: バックアップが正常に完了しました。バックアップ処理中、1 つ以上のデータ・リンク・ファイル・マネージャーが使用不可でした。そのデータ・リンク・ファイル・マネージャーが利用可能になったときに、そのデータ・リンク・ファイル・マネージャーから追加の検査が必要です。

ユーザーの処置: バックアップ処理に利用不能だったデータ・リンク・ファイル・マネージャーを立ち上げてください。すべてのデータ・リンク・ファイル・マネー

ジャーへの接触が可能になると、DB2 は自動的にこのバックアップ・イメージの最終検査を完了します。

SQL1197N コマンド *command* のキーワード *keyword* に対して無効な値が指定されました。

説明: *command* に指定された *keyword* 値は無効です。数値の場合は、値が定義された範囲外にある可能性があります。それ以外のタイプの場合は、指定された値が、定義されている有効な値のセットにありません。

ユーザーの処置: 参照資料から、*command* の有効な値を判別して、適切な変更を行ってください。このエラーが API によって戻された場合は、*command* API の解説処理から、該当する API オプションに有効な値を判別し、適切な変更を行ってください。

SQL1198N このコマンドは、現在の下位レベルのクライアント/サーバー構成ではサポートされていません。理由コード = *reason-code*

説明: 入力されたコマンドは、V8 より前のクライアントまたはサーバーに関連する、現在の構成ではサポートされていません。以下の理由コードが考えられます。

- 1 V8 以降のゲートウェイを介した、V8 より前のクライアントから DB2 UDB サーバーへのスクロール可能カーソルはサポートされていません。
- 2 V8 以降のゲートウェイを介した、V8 より前のクライアントから DB2 サーバーへのユーティリティー・コマンドはサポートされていません。
- 3 V8 以降のゲートウェイを介して V8 より前のサーバーにアクセスすることはサポートされていません。
- 4 V8 以降のクライアントから V8 より前のサーバーへのユーティリティー・コマンドはサポートされていません。
- 5 V8 より前のクライアントは、表、表関数、および対応コード・ページがデータベース・コード・ページと同じである **CCSID** 値で作成されたプロシージャにのみアクセスできます。
- 98 V8 以降のクライアントから V8 より前のサーバーへの操作はサポートされていません。
- 99 V8 より前のクライアントから V8 以降のサーバーへの操作はサポートされていません。

ユーザーの処置: 理由コードを基に、以下のようにアクションを実行します。

- 1 ゲートウェイを介して下位レベルのクライアントからスクロール可能カーソルを使用しない。

クライアント/サーバーの直接接続を使用するか、クライアントを互換性のあるリリースにアップグレードしてください。

- 2 ゲートウェイを介して下位レベルのクライアントからユーティリティ・コマンドを発行しない。クライアント/サーバーの直接接続を使用するか、クライアントを互換性のあるリリースにアップグレードしてください。
- 3 互換性のあるレベルのゲートウェイを使用するか、(ゲートウェイを使用しない、)サーバーへの直接接続を構成する。
- 4 互換性のあるクライアント・レベルを使用して V8 ユーティリティ・コマンドを発行する。
- 5 表、表関数、および対応コード・ページがデー

タベース・コード・ページとは異なる CCSID 値で作成されたプロシージャーにアクセスするには、V8 以降のバージョンを使用してください。

- 98 互換性のあるクライアント・レベルを使用してこのコマンドを発行するか、サーバーのコード・レベルをアップグレードする。
- 99 互換性のあるサーバー・レベルを使用してこのコマンドを発行するか、クライアントのコード・レベルをアップグレードする。

sqlcode: -1198

sqlstate: 42997

SQL1200 - SQL1299

SQL1200N object パラメーターが無効です。

説明: COLLECT DATABASE STATUS 関数呼び出しの object パラメーターに指定された値が無効です。有効値は次のとおりです。

SQLLE_DATABASE

状況が単一データベースに対して収集されることを示します。

SQLLE_DRIVE

状況が単一パス上のすべての LOCAL データベースに対して収集されることを示します。

SQLLE_LOCAL

状況がすべての LOCAL データベースに対して収集されることを示します。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: object パラメーターを訂正して、もう一度 COLLECT DATABASE STATUS 関数呼び出しを行ってください。

SQL1201N status パラメーターが無効です。

説明: COLLECT DATABASE STATUS 関数呼び出しの status パラメーターに指定された値が無効です。有効値は次のとおりです。

SQLLE_SYSTEM

システム状況が収集されます。

SQLLE_DATABASE

システム状況とデータベース状況が収集されません。

SQLLE_ALL

システム状況、データベース状況、ユーザー状況が収集されます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: status パラメーターを訂正して、もう一度 COLLECT DATABASE STATUS 関数呼び出しを行ってください。

SQL1202N 操作状況がまだ集められていません。

説明: GET NEXT DATABASE STATUS BLOCK 関数呼び出しまたは FREE DATABASE STATUS RESOURCES 関数呼び出し内の handle パラメーターに指定された値が無効です。ハンドルは、COLLECT DATABASE STATUS 関数呼び出しから返される正の関数値でなければなりません。

これは、処理から行われた 2 度目の COLLECT DATABASE STATUS 呼び出しです。最初の COLLECT DATABASE STATUS 呼び出しは終了し、そのハンドルは使用できません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: handle パラメーターを訂正して、もう一度 COLLECT DATABASE STATUS 関数呼び出しを行ってください。

SQL1203N このデータベースには、接続しているユーザーがありません。

説明: データベースのユーザー状況が要求されましたが、そのデータベースにはユーザーが接続されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベース名と接続状況を確認してください。現在使用されているデータベースを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1204N コード・ページ *code-page* とテリトリー・コード *territory-code* のいずれか、またはその両方が、インストールされているデータベース・マネージャーのバージョンでサポートされていません。

説明: このバージョンのデータベース・マネージャーは、アクティブ・コード・ページまたはテリトリー・コード、あるいはその両方をサポートしていません。

コマンドは処理されません。

このバージョンのデータベース・マネージャーがサポートしているアクティブ・コード・ページとテリトリー・コードを選択してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 必要に応じて、要求を拒否しているデータ・ソースに問題を分離し(障害が起きたデータ・ソースの識別手順については、「トラブルシューティング・ガイド」を参照)、次にフェデレーテッド・サーバーとデータ・ソースの両方でサポートされているアクティブ・コード・ページとテリトリー・コードを選択してください。

ユーザーの処置: 現在のプログラムを終了して、オペレーティング・システムに戻ってください。

sqlcode: -1204

sqlstate: 22522

SQL1205N 指定されているコード・ページ *code-page* かテリトリー・コード *territory* のいずれか、またはその両方が無効です。

説明: このバージョンの DB2 は、Create Database コマンドによって指定されたアクティブ・コード・ページかテリトリー・コード、またはその両方をサポートしていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: DB2 でサポートされている有効なコード・ページとテリトリー・コードの詳細については、「コマンド・リファレンス」の中で Create Database コマンドを参照してください。

SQL1206N PRUNE LOGFILE はこのデータベース構成ではサポートされません。

説明: PRUNE LOGFILE は以下の場合にはサポートされません。

1. データベースがリカバリー可能モードではない。データベースがリカバリー可能モードであるのは、LOGARCHMETH1 が DISK、TSM、VENDOR、USEREXIT、または LOGRETAIN に設定されているか、または LOGARCHMETH2 が DISK、TSM、または VENDOR が設定されている場合です。
2. アクティブなログ・ファイル・パスがロー・デバイスに設定されている。

ユーザーの処置: このデータベースに PRUNE LOGFILE コマンドを発行しないでください。

SQL1207N コミュニケーション・マネージャー構成ファイル *name* が見つかりません。

説明: CATALOG NODE コマンドに指定されたコミュニケーション・マネージャー構成ファイル名が、指定されたパスまたはデフォルト・ドライブの CMLIB ディレクトリーに見つかりませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいコミュニケーション・マネージャー構成ファイル名とパスを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1209W CATALOG NODE 関数に指定された **partner_lu** 名 *name* が存在しません。名前は作成されました。

説明: CATALOG NODE 関数に指定された論理パートナー装置名が、デフォルト・ドライブの CMLIB ディレクトリーに存在するコミュニケーション・マネージャー構成ファイルにありません。

示された名前でも LU プロファイルが作られました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL1210W 1 つ以上の DOS リクエスター /WINDOWS リクエスター構成ファイル・パラメーターにデフォルト値が返されました。

説明: 1 つ以上の DOS リクエスター /WINDOWS リクエスター構成ファイル・パラメーターに、デフォルト値が使用されます。パラメーターが、DOS リクエスター /WINDOWS リクエスター構成ファイルに定義されていないか、この構成ファイルがオープンできないか、またはファイルの読み取り中にエラーが起きた可能性があります。

ユーザーの処置: DOS リクエスター /WINDOWS リクエスター構成ファイルが適切なパスに存在し、パラメー

ターが明示的に定義されていることを確認してください。

SQL1211N コンピューター名 *name* が無効です。

説明: カタログ・コマンドの NPIPE プロトコル構造で指定されたコンピューター名は無効です。コンピューター名のサイズは 15 文字またはそれ以下でなくてはなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コンピューター名が有効であるかを確認し、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1212N インスタンス名 *name* が無効です。

説明: カタログ・コマンドで指定されたこのインスタンス名は無効です。インスタンス名のサイズは 8 文字またはそれ以下でなくてはなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: インスタンス名が有効であるかを確認し、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1213N パスワード変更 LU 名 *name* が無効です。

説明: CATALOG コマンドの APPN プロトコル構造に指定されたパスワード変更 LU (LU) 名が無効です。

パスワード変更 LU 名はリモート SNA LU 名であり、1 から 8 文字でなければなりません。有効な文字は A から Z、a から z、0 から 9、#、@ および \$ です。最初の文字は、英字または特殊文字 #、@、または \$ でなければなりません。小文字は、システムによって大文字に変更されます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: パスワード変更 LU 名に指定された文字を確認してください。

有効なパスワード変更 LU 名を指定してコマンドを再サブミットしてください。

SQL1214N トランザクション・プログラム名 *name* が無効です。

説明: CATALOG コマンドの APPN プロトコル構造に指定されたトランザクション・プログラム (TP) 名が無効です。

TP 名はリモート SNA アプリケーション TP 名であり、1 から 64 文字でなければなりません。有効な文字は A から Z、a から z、0 から 9、#、@ および \$ です。最初の文字は、英字または特殊文字 #、@、または \$ でなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: TP 名に指定された文字を確認してください。

TP 名を指定してコマンドを再サブミットしてください。

SQL1215N LAN アダプター・アドレス *address* が無効です。

説明: CATALOG コマンドの APPN プロトコル構造に指定された LAN アダプター・アドレスが無効です。

LAN アダプター・アドレスはリモート SNA LAN アダプター・アドレスであり、12 の 16 進数でなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: LAN アダプター・アドレスを確認してください。

有効な LAN アダプター・アドレスを指定してコマンドを再サブミットしてください。

SQL1216N GRAPHIC データと GRAPHIC 関数は、このデータベースではサポートされていません。

説明: データベースのコード・ページは、GRAPHIC データをサポートしません。データ・タイプ GRAPHIC、VARGRAPHIC、LONG VARGRAPHIC が、このデータベースには無効です。GRAPHIC リテラルと VARGRAPHIC スカラー関数が、このデータベースには無効です。

ステートメントは処理できません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースでも検出できます。

ユーザーの処置: 有効なデータ・タイプを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -1216

sqlstate: 56031

SQL1217N REAL データ・タイプがターゲット・データベースによってサポートされていません。

説明: SQL 操作は入力または出力変数として REAL のデータ・タイプ (単精度浮動小数点数) を使用していません。REAL データ・タイプがこの要求のターゲット・データベースにサポートされていません。

このステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ご使用のアプリケーション内の SQL

データ・タイプ `DOUBLE` と一致する宣言を使用する SQL データ・タイプ `REAL` に相当するホスト変数の宣言を置換してください。

sqlcode: -1217

sqlstate: 56099

SQL1218N 現在、バッファ・プール `buffpool-num` で使用可能なページはありません。

説明: 現在、バッファ・プールのすべてのページが使用中です。別のページの使用の要求が失敗しました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: バッファ・プールは、すべてのデータベース処理またはスレッドにページ作成できるほど大きくはありません。バッファ・プールが小さすぎるか、アクティブ処理またはアクティブ・スレッドが多すぎます。

再実行すれば、このステートメントが正常である可能性があります。このエラーがしばしば発生する場合は、次のいずれかのまたはすべてのアクションがこの失敗を防ぐのに役立ちます。

1. バッファ・プールのサイズを大きくする。
2. データベース・エージェントおよび/または接続の最大数を減らす。
3. 並列処理の最大数を減らす。
4. このバッファ・プールの表スペースのプリフェッチ・サイズを減らす。
5. いくつかの表スペースを別のバッファ・プールへ移動させる。

sqlcode: -1218

sqlstate: 57011

SQL1219N 専用仮想メモリの割り振りができないために、要求が失敗しました。

説明: 要求を処理するための専用仮想メモリが十分でないために、インスタンスが割り振れませんでした。これは、共有メモリ割り振りが他の（関連のない）処理で行われた結果として起きる場合があります。

ユーザーの処置: 問題の解決法は、以下のとおりです。

- OS/2 の場合は、`min_priv_mem` 構成パラメーターを増やします。これにより、インスタンスが開始されたときに、もっと多くの専用仮想メモリが予約されます。
- マシンで実行されているアプリケーション、特に共有メモリを大量に使用するアプリケーションを停止してください。

sqlcode: -1219

sqlstate: 57011

SQL1220N データベース・マネージャー共有メモリー・セットを割り振ることができません。

説明: データベース・マネージャーが、共有メモリー・セットを割り振ることができませんでした。このエラーの原因としては、データベース・マネージャー、またはデータベース・マネージャーの処理が試みられていた環境に、十分なメモリー・リソースが存在しなかった可能性があります。この問題の原因となるメモリー・リソースには、以下が含まれます。

- システムに割り振られている共有メモリー ID の数
- 共有メモリー・セグメントのサイズ
- システムが使用可能なページングまたはスワッピング・スペースの容量
- システムで使用可能な物理メモリーの量

ユーザーの処置: 以下の 1 つ以上を行ってください。

- データベース・マネージャーとシステムで実行中の他のプログラムの要求を満たすだけのメモリー・リソースが、使用可能であることを確認してください。
- Linux 32-bit の場合、カーネル・パラメーター `shmmax` を 256MB に増やしてください。Linux 64-bit の場合、カーネル・パラメーター `shmmax` を 1GB に増やしてください。
- メモリー・セットに影響を与えるデータベース・マネージャー構成パラメーターを減らして、このメモリー・セットに対するデータベース・マネージャーの必要メモリー量を減らしてください。これらのパラメーターには、`maxagents`、`maxdari`、および `numdb` があります。
- 該当する場合は、システムを使用している他のプログラムを停止してください。

SQL1221N アプリケーション・サポート層ヒープを割り振ることができません。

説明: アプリケーション・サポート層ヒープを割り振ることができませんでした。このエラーの原因としては、データベース・マネージャー、またはデータベース・マネージャーの処理が試みられていた環境に、十分なメモリー・リソースが存在しなかった可能性があります。この問題の原因となるメモリー・リソースには、以下が含まれます。

- システムに割り振られている共有メモリー ID の数
- システムが使用可能なページングまたはスワッピング・スペースの容量
- システムで使用可能な物理メモリーの量

ユーザーの処置: 以下の 1 つ以上を行ってください。

- データベース・マネージャーとシステムで実行中の他のプログラムの要求を満たすだけのメモリー・リソースが、使用可能であることを確認してください。
- *aslheapsz* 構成パラメーターを減らしてください。
- 該当する場合は、システムを使用している他のプログラムを停止してください。

sqlcode: -1221

sqlstate: 57011

SQL1222N その要求の処理に使用できる十分なストレージが、アプリケーション・サポート層ヒープにありません。

説明: アプリケーション・サポート層ヒープのすべての利用可能なメモリーを使いきってしまいました。

ユーザーの処置: *aslheapsz* 構成パラメーターを増やしてください。

sqlcode: -1222

sqlstate: 57011

SQL1223N この要求を処理するためのエージェントを開始できませんでした。

説明: *maxagents* 構成パラメーターを超えてしまうために、要求は失敗しました。

ユーザーの処置: *maxagents* 構成パラメーターを増やすか、またはデータベースを使用するユーザー数を減らすか、もしくはその両方を行ってください。

sqlcode: -1223

sqlstate: 57019

SQL1224N データベース・エージェントが、要求を処理するために開始できなかったか、あるいはデータベース・システムのシャットダウンまたは強制コマンドによって終了されました。

説明: このメッセージは、以下の場合に出されます。

- データベース・サーバーでデータベース・マネージャーが始動していません。
- データベース・マネージャーが停止しました。
- データベース・マネージャーが、すでに最大数のエージェントを割り振っています。
- データベース・エージェントが、システム管理者により強制終了されました。

- 主要データベース・マネージャー処理の異常終了のために、データベース・エージェントが終了しました。
- アプリケーションがローカル・プロトコルで複数コンテキストを使用しています。この場合、接続の数は単一処理が接続できる共有メモリー・セグメントの数によって制限されます。たとえば、AIX での制限は 1 処理ごとに 10 の共有メモリー・セグメントになります。
- 接続しているときに、SYSADM 権限を持つユーザーが FORCE QUIESCE コマンドを発行しました。ご使用のユーザー ID にはデータベース/インスタンスの CONNECT QUIESCE 権限がないか、あるいは CONNECT QUIESCE 権限のあるグループに属しているため、データベース/インスタンスから切断されました。
- アプリケーションがデータベース構成パラメーター MAX_LOG または NUM_LOG_SPAN で許可された量より多くのトランザクション・ログ・スペースを使用すると、DB2 により強制終了されます。

その他のフェデレーテッド・サーバーのケースは以下の通りです。

- オペレーティング・システム・レベルでユーザーごとの処理の最大数 (AIX では maxuproc) を超えました。
- TCP/IP プロトコルを使用しているクライアント/サーバー環境では、クライアントで TCP/IP サービス名に割り当てられたポート番号はサーバーのポート番号と異なります。

この状態はフェデレーテッド・サーバーまたはデータ・ソースで検出できます。

ユーザーの処置:

- データベース要求を再発行してください。接続が確立できない場合は、データベース・マネージャーが正常に始動していることを確認してください。さらに、*maxagents* データベース・マネージャー構成パラメーターが適切に構成されていることを確認してください。
- データベース/インスタンスを静止解除する SYSADM を持つか、ユーザーを静止グループに追加してください。
- もっと頻繁にコミット処理を行ってください。MAX_LOG は、個々のトランザクションによる過剰なログ・スペースの消費を防ぎます。NUM_LOG_SPAN は、個々のトランザクションによるトランザクション・ログ・スペースの再使用中断を防ぎます。アプリケーションの設計時に、トランザクションのコミット時期を考慮して、過剰なログ・スペースの使用を回避してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーは以下も行う必要があります。

- 問題を、要求を拒否したデータ・ソースと分離して、(トラブルシューティング・ガイドを参照して、失敗するデータ・ソースを識別するための手続きに従ってください。) 通信サブシステムがアクティブであること、データベース・マネージャーおよび要求された通信プロトコル・サーバーがデータベース・サーバーで始動していることを確認する。
- AIX オペレーティング・システムでは、maxuproc の設定をして、必要があれば変更する。maxuproc は、与えられたフェデレーテッド・サーバーの下で実行できる処理の数を制限します。デフォルト設定は 40 です。

maxuproc の現在の設定をチェックするには、以下のコマンドを使用します。

```
lsattr -E -l sys0
```

指定されたフェデレーテッド・サーバーの下で現在実行中の処理の数を表示するには次のコマンドを使用してください。

```
ps -ef | grep instdj1 | wc -l
```

この場合は“instdj1”はフェデレーテッド・サーバーのインスタンス名です。

maxuproc を変更するには、次のコマンドを使用します。

```
chdev -l sys0 -a maxuproc='nn'
```

この場合 nn は maxuproc の新規整数値です。

アプリケーションがローカル・プロトコルで複数コンテキストを使用している場合、アプリケーション内の接続数を減らすか、別のプロトコル (たとえば、TCP/IP) に切り替えてください。AIX バージョン 4.2.1 またはこれ以上の場合、環境変数 EXTSHM を ON に設定し、単一処理がアタッチできる共有メモリーのセグメント数を増やすことができます。

sqlcode: -1224

sqlstate: 55032

SQL1225N オペレーティング・システムの処理、スレッド、またはスワップ・スペースの限界に達したために、要求は失敗しました。

説明: オペレーティング・システムの処理、スレッド、またはスワップ・スペースの限界に達しました。管理通知ログでこの問題に関する詳細情報を調べてください。AIX システムでは、maxuproc 値が小さすぎる可能

性があります。OS/2 ベースのシステムでは、THREADS CONFIG.SYS 値が小さすぎる可能性があります。

ユーザーの処置: 管理通知ログを調べて、限界に達したものを判別し、その限界値を大きくしてください。

sqlcode: -1225

sqlstate: 57049

SQL1226N クライアント接続の最大数がすでに開始されています。

説明: クライアント接続数は、すでにシステム構成ファイルに定義された最大値と同等です。

この操作は処理できません。

ユーザーの処置: ほかのアプリケーションがデータベースから切断するまでお待ちください。1 つ以上のアプリケーションを並行して実行する必要がある場合は、max_connections の値を増やしてください。新しい値は、次のデータベース・マネージャーが正常に始動した後に反映されます。max_connections の値が max_coordagents の値よりも大きい場合は、コンセントレーター機能がオンになります。

sqlcode: -1226

sqlstate: 57030

SQL1227N 列 column のカタログ統計 value は、ターゲット列の範囲外か、フォーマットが無効か、または他の統計との関係において矛盾があります。理由コード = code

説明: 更新可能カタログに指定された統計の値またはフォーマットは、無効であるか、範囲外であるか、または矛盾しています。値、範囲、およびフォーマットに対する最も一般的なチェックは次のとおりです (code に対応):

- 1 数値統計は -1 または ≥ 0 でなければなりません。
- 2 パーセントを表す数値統計 (たとえば、CLUSTERRATIO) は、0 と 100 の間でなければなりません。
- 3 HIGH2KEY、LOW2KEY に関連する規則は、以下のとおりです。

- HIGH2KEY、LOW2KEY の値のデータ・タイプは、それに対応するユーザー列と同じデータ・タイプでなければなりません。
- HIGH2KEY、LOW2KEY の値の長さは、33 またはターゲット列のデータ・タイプの最大長より短くなければなりません。

- 対応する列に 3 つ以上の異なる値が存在する場合は、常に HIGH2KEY が > LOW2KEY でなければなりません。列に 3 つ未満の異なる値が存在する場合は、HIGH2KEY が LOW2KEY と同じでもかまいません。
- 4** PAGE_FETCH_PAIRS に関連する規則は、以下のとおりです。
- PAGE_FETCH_PAIRS 統計の個々の値は、ブランク区切り文字によって分離されていなければなりません。
 - PAGE_FETCH_PAIRS 統計の個々の値は、10 桁より大きくてはならず、最大整数値 (MAXINT = 2147483647) より小さくなければなりません。
 - CLUSTERFACTOR が > 0 の場合は、常に有効な PAGE_FETCH_PAIRS 値でなければなりません。
 - 単一の PAGE_FETCH_PAIR 統計には、正確に 11 対が存在しなければなりません。
 - PAGE_FETCH_PAIRS のバッファ・サイズ項目は、昇順の値でなければなりません。また、PAGE_FETCH_PAIRS 項目のいずれのバッファ・サイズの値も、NPAGES が対応する表のページ数である MIN(NPAGES, 524287) より大きくすることはできません。
 - PAGE_FETCH_PAIRS の "fetches" 項目は、NPAGES より少ない個別の fetches 項目を持たずに、降順の値でなければなりません。また、PAGE_FETCH_PAIRS 項目の "fetch" サイズの値は、対応する表の CARD (カーディナリティー) 統計より大きくしないでください。
 - バッファ・サイズの値が 2 つの連続した列で同じ場合は、ページ・フェッチの値もその両方で同じでなければなりません。
- 5** CLUSTERRATIO と CLUSTERFACTOR に関連する規則は、以下のとおりです。
- CLUSTERRATIO の有効な値は -1、または 0 と 100 の間です。
 - CLUSTERFACTOR の有効な値は -1、または 0 と 1 の間です。
 - CLUSTERRATIO または CLUSTERFACTOR のどちらかは、常に -1 でなければなりません。
- CLUSTERFACTOR が正の値の場合は、有効な PAGE_FETCH_PAIR 統計が伴わなければなりません。
- 6** 列 (SYSCOLUMNS の COLCARD 統計) または列グループ (SYSCOLGROUPS の COLGROUPECARD) のカーディナリティーは、対応する表 (SYSTABLES の CARD 統計) のカーディナリティーより大きくすることはできません。
- 7** データ・タイプ LONG VARCHAR、LONG VARGRAPHIC、BLOB、CLOB、DBCLOB、またはユーザー定義の構造化タイプを持つ列で、統計はサポートされていません。
- 8** 統計が、このエンティティーに関連する別の統計と矛盾しているか、またはこのコンテキストでは無効です。

ユーザーの処置: 新しいカタログ統計が、上記の範囲/長さ/形式チェックを満足していることを確認してください。

統計に対する更新が、相互関係 (たとえば、cardinality) において整合性を持っていることを確認してください。

sqlcode: -1227

sqlstate: 23521

SQL1228W DROP DATABASE は完了しましたが、データベース別名またはデータベース名 *name* が *num* ノードに見つかりません。

説明: drop database コマンドは正常に完了しましたが、データベース別名またはデータベース名が見つからないノードがあります。DROP DATABASE AT NODE がこのノードですでに実行されている可能性があります。

ユーザーの処置: これは注意メッセージです。応答は必要ありません。

SQL1229N 現行トランザクションがシステム・エラーのためロールバックしています。

説明: 以下のいずれかが起こりました。

1. ノード障害または通信障害といったシステム・エラーが発生しました。アプリケーションは直前の COMMIT にロールバックされます。

DB2 ユーティリティー関数では、各関数は次のようになります。

インポート

アプリケーションがロールバックされません。COMMITCOUNT パラメーターを使用

した場合、操作が直前のコミット・ポイントにロールバックします。

Reorg 操作がアポートし、再実行する必要があります。

再分散 操作はアポートしますが、正常に終了している操作もある可能性があります。「続行」オプションで要求を再度出すと、失敗したところから操作を再始動します。

ロールフォワード

操作がアポートし、データベースはロールフォワード・ペンディング状態のままです。コマンドを再実行してください。

バックアップ/リストア

操作がアポートし、再実行する必要があります。

- FCM (高速コミュニケーション・マネージャー) コミュニケーションに割り当てられているサービス・ポートの番号は、DB2 インスタンスのすべてのノードにおいて同じではありません。すべてのノードのサービス・ファイルをチェックし、ポートが同じであることを確認してください。ポートは次の形式を使用して定義されました。

```
DB2_<instance>      xxxx/tcp
DB2_<instance>_END  xxxx/tcp
```

<instance> は DB2 インスタンス名、xxxx はポート番号です。これらのポート番号が DB2 リモート・クライアント・サポートに使用されていないことを確認してください。

ユーザーの処置:

- 要求を再試行してください。エラーが残る場合、管理通知ログでこの問題に関する詳細情報を調べてください。このエラーが最も多く発生する理由は、ノード障害のため、システム管理者に連絡して援助してもらわなければならない場合があります。

高速スピード・スイッチが使用されている SP 環境では、このエラーは高速スピード・スイッチで障害が起きる症状です。

- すべてのノードにおいて同じになるように、サービス・ポートを更新し、要求を再実行してください。

SQLCA の 6 番目の SQL エラー・フィールドが、ノード障害を検出したノード番号を示します。障害を検出したノードに関して、障害を起こしたノードを識別する db2diag ログにメッセージが入ります。

sqlcode: -1229

sqlstate: 40504

SQL1230W 指定されたエージェント ID の中に、強行できないものが少なくとも 1 つありました。

説明: Force コマンドに指定されたエージェント ID の中に、強行できないものが少なくとも 1 つありました。この警告の原因としては、以下が考えられます。

- 存在しないエージェント ID、または無効なエージェント ID が指定されました。
- エージェント ID の収集と Force コマンドの発行までの間に、エージェントがデータベース・マネージャーから切断されました。
- エージェント ID が実行できない並列エージェントに対して指定されました。

ユーザーの処置: 存在しないエージェント ID、または無効なエージェント ID を指定した場合は、有効なエージェント ID を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1231N 無効な強制カウントが指定されました。

説明: Force コマンドの count パラメーターに指定された値が有効ではありません。指定する値は、正の整数または SQL_ALL_USERS でなければなりません。0 の値はエラーになります。

ユーザーの処置: count の値を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1232N 無効な強制モードが指定されました。

説明: Force コマンドの mode パラメーターに指定された値が有効ではありません。Force コマンドでは、非同期モードのみがサポートされています。パラメーターは、値 SQL_ASYNC に設定される必要があります。

ユーザーの処置: mode を SQL_ASYNC に設定してコマンドを再サブミットしてください。

SQL1233N この文節またはスカラー関数は、UCS-2 である GRAPHIC データのみでサポートされます。

説明: UCS-2 はこのデータベースではサポートされていません。UCS-2 のサポートは、次の場合に必要です。

- GRAPHIC ストリング式を VARCHAR スカラー関数の最初の引き数として指定している
- 2 番目の引き数が指定されている場合、文字ストリング式を VARGRAPHIC スカラー関数の最初の引き数として指定している

- 形式 'UX'hex-digits' を使用している UCS-2 16 進定数を指定している

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 有効なデータ・タイプを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -1233

sqlstate: 560AA

SQL1240N 静止状態の最大数に達しました。

説明: すでに 5 つの処理によって静止されている表スペースに対して、静止状態の獲得が試みられました。

ユーザーの処置: いずれかの処理が静止状態を解放するのを待って、もう一度やり直してください。

SQL1241N データベースの作成時に、無効な値が *tbs-name* 表スペース定義に指定されました。属性は *string* です。

説明: 表スペース属性の値が範囲外です。create database api に使用されている sqletsdesc 構造の形式については、「アプリケーション開発ガイド」の「データ構造」セクションを参照してください。識別された属性は、この構造のフィールド名です。

ユーザーの処置: create database 要求を訂正してください。

SQL1244W トランザクション・マネージャー・データベース *server-name* の切断が、次の COMMIT で起きます。

説明: TM データベースとして活動中のデータベースに対して、切断が発行されました。次の COMMIT が処理されるまで、切断は完了しません。

ユーザーの処置: TM データベースとして活動中のデータベースを即座に切断する必要がある場合は、処理を続ける前に、COMMIT ステートメントを発行してください。

sqlcode: +1244

sqlstate: 01002

SQL1245N 接続限界に達しました。このクライアントからは、これ以上接続できません。

説明: 接続数が制限されているか、または事前定義される必要がある環境で、並行データベース接続の最大数に達しました。これが起きる可能性がある主な例には、NETBIOS プロトコルの使用があります。

ユーザーの処置: 可能なアクションは以下の通りです。

- SET CLIENT コマンドまたは API を使用して、「MAX NETBIOS CONNECTIONS」フィールドを必要な同時接続の最大数に設定してください。これは、接続を行う前に実行する必要があります。

sqlcode: -1245

sqlstate: 08001

SQL1246N 接続が存在している間は、接続設定を変更できません。

説明: 以下のいずれかが起きました。

- SET CLIENT API を使用するアプリケーションの接続設定の変更が試みられました。1 つ以上の接続が存在するために、拒否されました。
- アプリケーションに、DB2 コール・レベル・インターフェース API 呼び出しと組み込み SQL の入った関数への呼び出しの両方が入っており、接続管理が CLI API で呼び出されませんでした。

ユーザーの処置: 可能なアクションは以下の通りです。

- SET CLIENT API (sqlesetc または sqlgsetc) あるいは CLP コマンドを発行する前に、アプリケーションがすべてのサーバーから切断されていることを確認してください。
- CLI がアプリケーションで使用されている場合は、すべての接続管理要求が、DB2 コール・レベル・インターフェース API 経由で発行されていることを確認してください。

SQL1247N XA トランザクション処理環境で実行するアプリケーションには、SYNCPOINT TWOPHASE 接続設定を使用する必要があります。

説明: アプリケーションが、オプション SYNCPOINT ONEPHASE または SYNCPOINT NONE でプリコンパイルされているか、または SYNCPOINT 接続設定が、SET CLIENT API を使用して、上記のいずれかのオプションに変更されました。これらの設定は、トランザクション処理同期点コマンド (たとえば、CICS SYNCPOINT) を実行するアプリケーションには無効です。SYNCPOINT ONEPHASE が、デフォルト・プリコンパイラー・オプションであることに注意してください。

ユーザーの処置: 可能なアクションは以下の通りです。

- プリコンパイラー・オプション SYNCPOINT TWOPHASE を使用して、もう一度アプリケーションをプリコンパイルしてください。

- 他の処理の前に、接続オプションを SYNCPOINT TWOPHASE に設定するために、SET CLIENT API が呼び出されるように、プログラムを変更してください。

sqlcode: -1247

sqlstate: 51025

SQL1248N データベース *database-alias* は、トランザクション・マネージャーに定義されていません。

説明: トランザクション・マネージャーによってオープンされていないデータベースのアクセスが試みられました。2 フェーズ・コミットに使用するには、データベースがトランザクション・マネージャーに定義されている必要があります。

ユーザーの処置: 分散トランザクション処理環境のトランザクション・マネージャーにリソース・マネージャーとして、データベースを定義してください。たとえば、CICS 環境の場合、XAD ファイルにデータベースを追加し、データベース別名を XAD 項目の XAOOpen ストリングに指定する必要があります。

sqlcode: -1248

sqlstate: 42705

SQL1251W 経験的照会に戻されるデータはありません。

説明: データベースに未確定トランザクションも、終了して同期点処理に入るのを待っているトランザクションもありません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL1259N データベース・パーティション *partition-list* 上のデータベース *db-name* に対する ARCHIVE LOG コマンドは、SQLCODE *SQLCODE* のために失敗しました。

説明: データベース・パーティション *partition-list* 上のデータベース *db-name* に対して ARCHIVE LOG コマンドを発行中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 「メッセージ・リファレンス」の SQLCODE でユーザー応答を参照し、ARCHIVE LOG コマンドをもう一度実行してください。

SQL1260N データベース *name* は、ノード *node-list* でのロールフォワード・リカバリー用に構成されていません。

説明: 指定されたデータベースは指定ノードで、-ロールフォワード・リカバリー用に構成されません。", ..." がノード・リストの終わりに表示されている場合、完全なリストを見るには管理通知ログを調べてください。

データベースは指定のノードでロールフォワードされません。

(注: パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 指定ノードでリカバリーが必要か確認して、次にこのノードのデータベースのバックアップで最新のバージョンをリストアしてください。

SQL1261N データベース *name* はノード *node-list* でロールフォワード・ペンディング状態ではありません。そのためこのノードでロールフォワードする必要はありません。

説明: 指定のデータベースは指定ノードでロールフォワード・ペンディング状態ではありません。これはデータベースがリストアされていないか WITHOUT ROLLING FORWARD オプションでリストアされたか、ロールフォワード・リカバリーがこのノードで完了したために起こる場合があります。

", ..." がノード・リストの終わりに表示されている場合、完全なリストを見るには管理通知ログを調べてください。

データベースはロールフォワードされません。

(注: パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 以下を行ってください。

1. 指定ノードでリカバリーが必要か確認してください。
2. このノードのデータベースのバックアップ・バージョンをリストアしてください。
3. ROLLFORWARD DATABASE コマンドを発行してください。

SQL1262N データベース *name* のロールフォワードに指定されたポイント・イン・タイムが無効です。

説明: 停止ポイント・イン・タイム値に指定された `timestamp` パラメーターが有効ではありません。
`timestamp` は ISO 形式 (YYYY-MM-DD-hh.mm.ss.<sssss> で、YYYY は年、MM は月、DD は日、hh は時、mm は分、ss は秒を表し、sssss はオプションでマイクロ秒を表します) で入力する必要があります。

データベースはロールフォワードされません。

ユーザーの処置: `timestamp` が正しい形式で入力されていることを確認してください。

ROLLFORWARD DATABASE コマンドを発行する場合は、2105 より大きい年を指定していないことを確認してください。

SQL1263N アーカイブ・ファイル *name* は、ノード *node-number* 上のデータベース *name* に対して有効なログ・ファイルではありません。

説明: 指定のアーカイブ・ログ・ファイルが、指定ノードのデータベース・ログ・ディレクトリーまたはオーバーフロー・ログ・ディレクトリーで見つかりましたが、ファイルが無効でした。

ロールフォワード・リカバリー処理は停止します。

(注：パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 正しいアーカイブ・ログ・ファイルを判別するには、QUERY STATUS オプションを付けて、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを発行してください。正しいアーカイブ・ログ・ファイルをデータベース・ログ・ディレクトリーに移すか、またはデータベースが整合性のある状態の場合は、正しいアーカイブ・ファイルを指すようにログ・パスを変更して、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再発行してください。別の方法として、正しいアーカイブ・ファイルを指しているオーバーフロー・ログ・パスを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1264N アーカイブ・ファイル *name* は、ノード *node-number* のデータベース *database-name* に属していません。

説明: 示されたアーカイブ・ログ・ファイルがログ・ディレクトリー、またはオーバーフロー・ログ・ディレク

トリーで見つかりましたが、指定されたデータベースには属していません。

ロールフォワード・リカバリー処理は停止します。

(注：パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 正しいアーカイブ・ログ・ファイルを判別するには、QUERY STATUS オプションを付けて、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを発行してください。正しいアーカイブ・ログ・ファイルをデータベース・ログ・ディレクトリーに移すか、またはデータベースが整合性のある状態の場合は、正しいアーカイブ・ファイルを指すようにログ・パスを変更して、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再発行してください。別の方法として、正しいアーカイブ・ファイルを指しているオーバーフロー・ログ・パスを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1265N アーカイブ・ログ・ファイル *name* が、ノード *node-number* のデータベース *name* に対する現行のログ順序に関連していません。

説明: ロールフォワード・リカバリーの場合は、ログ・ファイルが正しい順序で処理される必要があります。ログ・ファイルの順序は、リストアされたデータベース、または処理されたログ・ファイルによって決定されます。これに加えて、表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーの場合は、ログ・ファイルが、データベースの現在の状態が達した順序で処理される必要があります。指定のアーカイブ・ログ・ファイルが、指定ノードのデータベースのログ・ディレクトリーまたはオーバーフロー・ログ・パスで見つかりましたが、ログ・ファイルが正しいログ順序ではありませんでした。

ロールフォワード・リカバリー処理は停止します。

(注：パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 正しいアーカイブ・ログ・ファイルを判別するには、QUERY STATUS オプションを付けて、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを発行してください。正しいアーカイブ・ログ・ファイルをデータベース・ログ・ディレクトリーに移すか、またはデータベースが整合性のある状態の場合は、正しいアーカイブ・ファイルを指すようにログ・パスを変更して、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再発行してください。別の方法として、正しいアーカイブ・ファイルを指しているオーバーフロー・ログ・パスを使用して、

コマンドを再サブミットしてください。

SQL1266N データベース *name* が、指定されたポイント・イン・タイムを過ぎた *timestamp* までロールフォワードされました。

説明: ロールフォワードが、指定されたデータベース・ログ・ファイルの現在のポイント・イン・タイムより前のタイム・スタンプで停止するよう要求されています。これは、データベースあるいは表スペースのサブセットを、ポイント・イン・タイムまでにロールフォワードするときに起きます。

データベースのロールフォワード処理が停止します。

ユーザーの処置: 正しいポイント・イン・タイムを指定するか、またはデータベースまたは表スペース・サブセットをバックアップ・バージョンからリストアして、ROLLFORWARD コマンドを再サブミットしてください。

SQL1267N システムが、現在の PATH 環境変数で **db2uexit** を見つけることができませんでした。

説明: ユーザー提供ファイル *db2uexit* が、現在の PATH 環境変数に存在しないか、またはファイルが存在しないために、見つかりませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: *db2uexit* へのパスを含むように、現在の PATH 環境変数を更新するか、または *db2uexit* ファイルを作成して、必要に応じて、PATH 環境変数を更新してください。

SQL1268N ノード *node-number* のデータベース *name* のログ・ファイル *logfile* を検索中、エラー *error* により、ロールフォワード・リカバリーが停止されました。

説明: ロールフォワードの処理は、ログ・ファイルを検索するために *db2uext2* を呼び出します。エラーは *db2uext2* で起きた可能性があります。

ロールフォワード処理は停止します。データベースまたは表スペースは、まだロールフォワード・ペンディングの状態です。

(注：パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: メッセージの管理通知ログを調べることによりログの保存処理が正しく動作していることを確

認し、ロールフォワード・リカバリーを再開または終了してください。

SQL1269N 表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーがすでに実行中です。

説明: 表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーの使用が試みられましたが、すでに実行されています。一時点では、1 つのエージェントのみが、ロールフォワード・リカバリーを実行することができます。

ユーザーの処置: 表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーが完了するまで待ってください。リカバリーが必要な表スペースがまだある場合は、もう一度表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーを開始してください。

SQL1270C LANG 環境変数が *string* にセットされています。この言語はサポートされていません。

説明: LANG 環境変数が、データベース・マネージャーがサポートしていない言語に設定されています。処理を継続できません。

ユーザーの処置: LANG 環境変数を、サポートされている言語に設定してください。詳細については、「管理ガイド」の「各国語サポート」付録を参照してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: NLS 情報については、「フェデレーテッド・システム・ガイド」を参照してください。

SQL1271W データベース *name* は回復されましたが、1 つ以上の表スペースがノード *node-list* でオフラインです。

説明: このメッセージは、クラッシュ・リカバリー、データベース・レベル・ロールフォワード・リカバリー、または表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーの後に、出される場合があります。データベースのレベル・ロールフォワード・リカバリーについて、データベースは STOP オプションが指定されている場合使用可能です。指定ノードにある 1 つ以上の表スペースは使用できません。これは以下の場合に起きます。

- STOP オプションがポイント・イン・タイムまでの表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーに指定されていない
- 1 つ以上の表スペースがリカバリー中にエラーを受け取った
- 表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーがすでに進行中である間に追加の表スペースがリストアされた

- データベースが以前に表スペースがロールフォワードされたポイント・イン・タイムを過ぎてロールフォワードされると、関連するすべての表スペースがリストア・ペンディング状態になる

オフラインの表スペースは LIST TABLESPACES コマンドあるいは db2dart ユーティリティーで指定されるノードで識別されます。管理通知ログが、特定の表スペースに関する詳細情報を提供します。

"、..." がノード・リストの終わりに表示されている場合、完全なリストを見るには管理通知ログを調べてください。

(注: パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 必要に応じて表スペースの修復あるいはリストアを行いロールフォワード・リカバリーを実行します。同じエラーが起きる場合、表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーをオフラインで実行してみてください。

SQL1272N データベース *name* に対する表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーが、ノード *node-list* で完了する前に停止しました。

説明: すべての修飾表スペースがロールフォワードされる前に、表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーが指定ノードで停止しました。これは、以下のいずれかによって起きる可能性があります。

- トランザクション表がいっぱいである。
- ロールフォワードされた表スペースのすべてが入出力エラーを受け取った。
- ポイント・イン・タイム表スペース・レベルのロールフォワードでロールフォワードされた表スペースのいずれかに入出力エラーが起きた。
- ポイント・イン・タイム表スペース・レベルのロールフォワードでロールフォワードされた表スペースのいずれかに対して、変更を行ったアクティブなトランザクションを検出した。このトランザクションは未確定トランザクションである場合があります。
- 表スペース・レベル・ロールフォワードが中断し、再開する前にロールフォワードしていたすべての表スペースが再度リストアされた場合にも起きる可能性があります。

"、..." がノード・リストの終わりに表示されている場合、完全なリストを見るには管理通知ログを調べてください。

(注: パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 原因については、管理通知ログをチェックしてください。原因に従って次のいずれかを行ってください。

- LIST TABLESPACES コマンドを使用して表スペースが入出力エラーを受け取ったかを判別してください。その場合、表スペースを修復します。
- トランザクション表がいっぱいの場合、MAXAPPLS データベース構成パラメーターを組み込むか、あるいは表スペース・レベル・ロールフォワードをオフラインで実行してみてください。
- 原因がアクティブあるいは未確定のトランザクションにある場合、トランザクションを完了してください。
- 前の表スペース・レベル・ロールフォワードを中断した後で、表スペースがリストアされた場合、前の表スペース・レベル・ロールフォワードはこの時点で取り消されます。次の表スペース・レベル・ロールフォワード・コマンドが、ロールフォワード・ペンディング状態の表スペースを調べます。

表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーを再度実行してください。

SQL1273N ノード *node-number* にログ・ファイル *name* がないため、データベース *name* のロールフォワード・リカバリーは、指定された停止点 (ログの終わりまたはポイント・イン・タイム) に到達できません。

説明: ロールフォワード・データベース・ユーティリティーがデータベース・ログ・ディレクトリー、または指定ノードのオーバーフロー・ログ・ディレクトリーで指定のアーカイブ・ログ・ファイルを見つけることができません。

ロールフォワード・リカバリーは停止しました。

(注: パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

- 示されたアーカイブ・ログ・ファイルをデータベース・ログ・ディレクトリーに移すか、またはデータベースが整合状態の場合は、ログ・パスを正しいアーカ

イブ・ファイルに変更して、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再発行してください。別の方法として、正しいアーカイブ・ファイルを指しているオーバーフロー・ログ・パスを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

- 抜けているログ・ファイルが見つからない場合には、すべてのノードで、データベース/表スペースをリストアし抜けているログ・ファイルのタイム・スタンプより早いタイム・スタンプでポイント・イン・タイムの指定をしてください。

SQL1274N データベース *name* にロールフォワード・リカバリーが必要であり、ポイント・イン・タイムはログの最後に設定する必要があります。

説明: データベースがロールフォワードされる必要があります。データベース・レベル・ロールフォワード・リカバリーでは、ログの最後までデータベース・レベル・ロールフォワードがすでに進行中であるため、ポイント・イン・タイムをログの最後に設定する必要があります。ロールフォワードを継続するには、同じ停止時間を指定しなければなりません。

以下の理由で、表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーの場合は、ポイント・イン・タイムをログの最後に設定する必要があります。

- システム・カタログにはロールフォワード・リカバリーが必要です。システム・カタログはいつも、ほかのすべての表スペースと整合性を保つために、ログの最後にロールフォワードする必要があります。
- ログの最後に、表スペース・レベル・ロールフォワードがすでに進行中です。ロールフォワードを継続するには、同じ停止時間を指定しなければなりません。
- 表スペース・レベルのロールフォワードに指定されたポイント・イン・タイムは、データベースのログの終了を過ぎています。この時刻は誤っている可能性が非常に高いです。これが、リカバリー停止時刻を意味する場合、END OF LOGS オプションを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

データベースはロールフォワードされません。

ユーザーの処置: ROLLFORWARD TO END OF LOGS を指定して、ROLLFORWARD コマンドを再サブミットしてください。

SQL1275N ノード *node-list* のデータベース *name* には指定された時刻より後の情報が含まれるため、ロールフォワードに渡される停止時刻は、*timestamp* と同じかそれより後にする必要があります。

説明: ロールフォワードされたデータベースあるいは少なくとも表スペースのいずれか 1 つがオンラインでバックアップされました。詳細仮想タイム・スタンプがデータベース、または表スペース・バックアップにあります。ロールフォワードに渡される停止時刻は、指定ノードのオンライン・バックアップの終了時刻よりも大きいか等しくなければなりません。

“、...” がノード・リストの終わりに表示されている場合、完全なリストを見るには管理通知ログを調べてください。

(注: パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

- 停止時刻を *timestamp* よりも大きいか等しくして、コマンドを再サブミットしてください。時刻は CUT (Coordinated Universal Time) で指定する必要があります。
- ノードの前のバックアップをリストアして、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再発行します。

SQL1276N データベース *name* は、ロールフォワードが *timestamp* と同等かそれよりも大きなポイント・イン・タイムを渡すまでは、ロールフォワード・ペンディング状態を抜け出すことができません。これは、ノード *node-number* に、指定されたポイント・イン・タイムよりも後の情報が含まれるためです。

説明: 呼び出し元のアクション

SQLUM_ROLLFWD_STOP、SQLUM_STOP、SQLUM_ROLLFWD_COMPLETE、

SQLUM_COMPLETE を指定して、データベースあるいは表スペースのサブセットについて、ロールフォワード・ペンディング状態を解除させる要求が行われました。ただし、ロールフォワードされたデータベースあるいは少なくとも表スペースのいずれか 1 つがオンラインでバックアップされました。指定ノードのオンライン・バックアップ・タイム・スタンプの終わりに、データベース、またはすべての表スペースがロールフォワードされるまで、この要求を付与することはできません。

このエラーは、要求されたリカバリーを実行するために、すべてのログ・ファイルが提供されているわけではない場合にも発生します。

(注：パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置： ROLLFORWARD コマンドに指定された停止時刻が *timestamp* より小さい場合は、*timestamp* と同等かそれより大きな停止時間で、コマンドを再サブミットしてください。

ログ・ファイルがすべて提供されているか、確認してください。ROLLFORWARD QUERY STATUS コマンドは、どのログ・ファイルが次に処理されるかを示します。ログ・ファイルの欠落に対する理由には、次のものがあります。

- ログ・パスが変更となった。ファイルは、前のログ・パスにあります。
- DB2 は、現在の LOGARCHMETH1 または LOGARCHMET2 データベース構成パラメーターによって反映される保存場所からログ・ファイルを検索しましたが、見つかりませんでした。

欠落ログ・ファイルが見つかった場合、これをログ・パスにコピーし、コマンドを再実行します。

SQL1277N リストアで、1 つ以上の表スペース・コンテナがアクセス不能であることが検出されたか、あるいはコンテナの状態を「ストレージを定義してください」に設定しました。

説明： リストアは、リストア中の各表スペースが必要とするコンテナが、現在システムでアクセス可能であるかどうかをチェックします。アクセス可能な場合は、コンテナが存在しないと、リストアがコンテナを作成します。コンテナが作成できない場合、現在別の表スペースが使用中の場合、または他の理由でアクセスできない場合は、リストアを続ける前に、必要なコンテナのリストを訂正する必要があります。

これがリダイレクト・リストアの場合、リストアされている表スペースの各コンテナの状態は、「ストレージを定義してください」に設定されます。それによって、ストレージを再定義するのに、コンテナに対して SET TABLESPACE CONTAINERS api またはコマンドを使用することができます。

ユーザーの処置： リストア中の各表スペースのコンテナのリストを判別するには、TABLESPACE CONTAINER QUERY api を使用してください。各表スペースの更新したリストを指定するには、SET

TABLESPACE CONTAINERS api を使用してください。この api により、このリストがコンテナの初期リスト (すなわち、後続のロールフォワードが、データベース・ログに記録されている「コンテナの追加」処理を再実行します) か、または最終リスト (ロールフォワードが「コンテナの追加」処理を再実行しません) かを指定することができます。

コンテナが読み取り専用の可能性もあります。この場合、リストアを続行するために必要なアクションは、コンテナへの読み取り/書き込みアクセスの付与だけです。

SQL1278W ロールフォワード処理が正常に完了しました。アクティブあるいは未確定のトランザクションでは、ノード *node-list* でのロールバックが必要です。

説明： ポイント・イン・タイムに対する表スペースのサブセットのロールフォワードは正常に完了しましたが、次の状態のいずれか、あるいは両方が起きました。

1. ポイント・イン・タイムでアクティブなトランザクションが 1 つまたは複数存在します。トランザクションごとに、表スペース・サブセットの表スペースでロールバックされます。
2. ポイント・イン・タイムで未確定のトランザクションが 1 つまたは複数存在します。未確定のトランザクションごとに、表スペース・サブセットの表スペースでロールバックされます。

表スペース・サブセットの表スペースでロールバックされたトランザクションは、ロールフォワードを行っていない別の表スペースにコミットされたままの可能性がります。

“、...” がノード・リストの終わりに表示されている場合、完全なリストを見るには管理通知ログを調べてください。

(注：パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置： 管理通知ログには、ロールフォワード・リカバリーでロールバックされたトランザクションの詳細が含まれます。

SQL1279W いくつかの無効な索引が再作成されていない可能性があります。

説明： データベースの再始動、または以下の表を再編成中にエラーが発生し、索引を正常に再作成できませんでした。管理通知ログで詳細を参照できます。

データベースの再始動、または表の Reorg は成功しました。

ユーザーの処置: 管理通知ログを調べて索引が再作成できなかった理由を判別し、問題を訂正してください。表が最初にアクセスされたときに、表の無効な索引が再作成されます。

SQL1280N ロールフォワードに渡される停止時間は、データベース *name* の *timestamp* と同等かそれより小さくしてください。これは、少なくとも 1 つの表スペースが、すでにこのポイント・イン・タイムまでロールフォワードされたためです。

説明: ポイント・イン・タイムに対するロールフォワードで指定された表スペースの少なくとも 1 つが、以前にすでにロールフォワードされています。これ以上ロールフォワードを行うことはできません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

- 停止時刻 *timestamp* を指定してコマンドを再実行してください。
- すべての表スペースを再度リストアし、*timestamp* より前の停止時刻を指定してコマンドを再実行してください。
- 表スペースの、前のポイント・イン・タイムのロールフォワードで行ったバックアップをリストアし、このポイント・イン・タイムと同一の停止ポイント・イン・タイムでコマンドを再実行してください。

時刻は CUT (Coordinated Universal Time) で指定する必要があります。

SQL1281N パイプ *pipe-name* に障害が起きたために、データベース *database-alias* への接続が切断されます。

説明: DB2 サーバーがパイプを壊したために、接続が失われました。現在のトランザクションはロールフォワードされました。

ユーザーの処置: 現在のコマンドを再サブミットしてください。エラーが続く場合は、技術サービス担当者に連絡してください。

トレースがアクティブの場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。以下の情報を用意して、技術サービス担当者に連絡してください。

必要な情報:

- 問題記述
- SQLCODE またはメッセージ番号

- SQLCA の内容 (可能であれば)
- トレース・ファイル (可能であれば)

sqlcode: -1281

sqlstate: 40504

SQL1282N *pipe-name* 上のパイプ・インスタンスがすべて使用中であるために、データベース *database-alias* への接続が失敗しました。

説明: 接続が DB2 によって拒否されたので、Named PIPE への接続が失敗しました。Named PIPE で許される接続の数には制限があります。

ユーザーの処置: DB2 サーバーの接続制限を増やすか、または Named PIPE を使用しているいくつかのアプリケーションを終了させて、接続リソースを解放してください。

sqlcode: -1282

sqlstate: 08001

SQL1283N パイプ *pipe-name* が別の処理で使用なので、データベース *database-alias* への接続が失敗しました。

説明: Named PIPE の名前が、すでに別の処理によって使用されています。Named PIPE サポートは開始しませんでした。

ユーザーの処置: 環境変数 DB2PIPENAME を設定して違う名前を選択するか、または Named PIPE を使用する別のプログラムに異なるパイプ名を使用させます。

SQL1284N パイプ *pipe-name* が見つからないために、データベース *database-alias* への接続が失敗しました。

説明: サーバーが Named PIPE サポートを開始していなかったか、またはサーバーが Named PIPE に対して別の名前を使用しています。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーを始動して、Named PIPE サポートを開始してください。Named PIPE サポートが開始されている場合は、環境変数 DB2PIPENAME を同じ値に設定して、Named PIPE の名前をクライアントとサーバーの間で同じにしてください。

sqlcode: -1284

sqlstate: 08001

SQL1285N パイプ *pipe-name* が無効なために、データベース *database-alias* への接続が失敗しました。

説明: 環境変数 DB2PIPENAME によって設定された代替パイプ名が無効です。

ユーザーの処置: 環境変数 DB2PIPENAME の値は、有効なパイプ名でなければなりません。パイプ名は 8 バイトを超えてはならず、通常ファイル名と同じ構文制約にしたがう必要があります。

sqlcode: -1285

sqlstate: 08001

SQL1286N オペレーティング・システムが、パイプ *pipe-name* のリソースを使い果たしたために、データベース *database-alias* への接続が切断されます。

説明: オペレーティング・システムがリソース (スワッピング・スペース、ディスク・スペース、ファイル・ハンドル) を使い果たしたために、Named PIPE が失敗しました。現在のトランザクションはロールフォワードされました。

ユーザーの処置: システム・リソースを解放して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -1286

sqlstate: 40504

SQL1287N 名前付きの *pipe* を検出できないために、インスタンス *instance* のアタッチが正常に実行されていません。

説明: サーバーがその Named PIPE のサポートを開始していないか、あるいはインスタンス名が正しくありません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーがそのサーバーで始動されていて、名前付きのパイプのサポートが開始されていることを確認してください。インスタンス名が正しいことを確認してください。

SQL1288N リモート・サーバーは、この操作をサポートしていません。

説明: リモート・サーバーは 64 ビットのプラットフォームで実行されており、バージョン 7 (またはそれ以前) の 32 ビットのクライアントからの非 SQL 要求をサポートしていません。

ユーザーの処置: サポートされているクライアントからこの操作を実行してください。

SQL1290N DFT_CLIENT_COMM データベース・マネージャー構成パラメーター、または DB2CLIENTCOMM 環境変数の値は無効です。

説明: 正しくない値が指定されたか、または指定されたプロトコルが、ターゲット・データベースによってサポートされていません。許容される値は:

- UNIX プラットフォーム: TCPIP および APPC
- OS/2: TCPIP、APPC、IPXSPX、および NETBIOS
- Windows: TCPIP、APPC (Windows 32 ビット専用)、NETBIOS、および NPIPE

複数の値を指定する場合は、それらをコンマで区切る必要があります。

このメッセージは、接続で呼び出された中間ノードから返される場合があることに注意してください。たとえば、DB2 Connect ゲートウェイ経由で DRDA サーバーに接続しようとしており、クライアント・ワークステーションがグローバル・ディレクトリー・サービスを使用していない場合は、このメッセージが DB2 Connect ゲートウェイから返される可能性があります。

ユーザーの処置: 値を訂正して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -1290

sqlstate: 08001

SQL1291N ディレクトリー・サービス・エラーが見つかりました。サービス:
directory-services-type、API: *API*、関数:
function、エラー・コード: *rc*。

説明: ディレクトリー・サービス・サブシステムによって、エラーが見つけられました。詳細については、トークンの値を参照してください。以下は、トークンの値の説明です。

directory-services-type

使用されたディレクトリー・サービスのタイプ。有効なトークンは、以下のとおりです。

- DCE

API

上記のディレクトリー・サービスのアクセスに使用された、アプリケーション・プログラミング・インターフェース。有効なトークンは、以下のとおりです。

- XDS/XOM

function

エラー・コードを返したディレクトリー・サービス・サブシステム関数の名前。

rc 上記関数から戻されたエラー・コード。 値の意味は、使用している API によって異なります。

ds_read などの XDS 関数の場合、戻りコードの値は、DCE 組み込みファイル xds.h で見わかります。

om_get などの XOM 関数の場合、戻りコードの値は、DCE 組み込みファイル xom.h で見わかります。

このメッセージは、接続で呼び出された中間ノードから返される場合があることに注意してください。たとえば、DB2 Connect ゲートウェイ経由で DRDA サーバーに接続しようとしており、クライアント・ワークステーションがグローバル・ディレクトリー・サービスを使用していない場合は、このメッセージが DB2 Connect ゲートウェイから返される可能性があります。

ユーザーの処置: 以下を確認してください。

- ディレクトリー・サービスを提供する製品が、正しくインストールされ、使用可能になっていること。
- ディレクトリー・サービス提供者 (たとえば、DCE) がログインを要求している場合は、ディレクトリー項目をアクセスするための適切な許可を持って、ディレクトリー・サービスにログインしていること。

問題が続く場合は、システム管理者またはデータベース管理者、もしくは両者に連絡し、提供されたトークンのセットを使用して、問題の原因を判別してください。

sqlcode: -1291

sqlstate: 08001

SQL1292N データベースまたはデータベース・マネージャ・インスタンスのグローバル名が無効です。

説明: データベースまたはデータベース・マネージャ・インスタンスのグローバル名には、NULL を使用することはできず、255 文字を超えることもできません。グローバル名前は "/.../" または "/:/" で始まる必要があります。

このメッセージは、接続で呼び出された中間ノードから返される場合があることに注意してください。たとえば、DB2 Connect ゲートウェイ経由で DRDA サーバーに接続しようとしており、クライアント・ワークステーションがグローバル・ディレクトリー・サービスを使用していない場合は、このメッセージが DB2 Connect ゲートウェイから返される可能性があります。

ユーザーの処置: グローバル名を訂正して、もう一度やり直してください。

SQL1293N グローバル・ディレクトリー項目で、エラーが見つかりました。エラー・コード：
error-code

説明: 使用しているグローバル・データベース・ディレクトリー項目のいずれかで、エラーが見つかりました。詳しくは、次のエラー・コードを参照してください。

- 1 データベース・オブジェクトに、認証情報が入っていません。
- 2 データベース・オブジェクトとデータベース・ロケーター・オブジェクトの両方に、通信プロトコル情報が入っていません。
- 10 項目がデータベース・オブジェクトではありません。
- 11 データベース・オブジェクトの固有データベースが見つからないか、または長すぎるかのどちらかです。
- 12 データベース・オブジェクトのデータベース・プロトコルが、見つからないか、または長すぎるかのどちらかです。
- 13 データベース・オブジェクトで、無効な認証情報が見つかりました。
- 14 データベース・オブジェクトで、十分でない、または無効な通信プロトコル情報が見つかりました。
- 15 データベース・ロケーター・オブジェクト名が、データベース・オブジェクトにありません。
- 16 データベース・オブジェクトのデータベース・ロケーター・オブジェクト名が無効です。
- 20 項目がデータベース・ロケーター・オブジェクトではありません。
- 22 データベース・ロケーター・オブジェクトで、十分でない、または無効な通信プロトコル情報が見つかりました。
- 30 項目がルーティング情報オブジェクトではありません。
- 31 ターゲット・データベース情報が、経路指定情報オブジェクトで見つかりませんでした。
- 32 ルーティング情報オブジェクトのターゲット・データベースの情報が不十分です。

- 33 適切なゲートウェイが、経路指定情報オブジェクトで見つかりませんでした。
- 34 ゲートウェイでの認証のためのフラグが無効です。
- 35 ゲートウェイのデータベース・ロケーター・オブジェクト名が無効です。
- 36 経路指定情報オブジェクトのターゲット・データベース情報属性のデータベース名が、見つからないか、または長すぎるかのどちらかです。
- 37 経路指定情報オブジェクトのターゲット・データベース情報属性のデータベース・プロトコルが、見つからないか、または長すぎるかのどちらかです。

DCE サブシステムが操作不能の場合、または DCE ディレクトリー項目を読むための十分な特権を持っていない場合も、このメッセージが表示される場合があることに注意してください。

このメッセージは、接続で呼び出された中間ノードから返される場合があることに注意してください。たとえば、DB2 Connect ゲートウェイ経由で DRDA サーバーに接続しようとしており、クライアント・ワークステーションがグローバル・ディレクトリー・サービスを使用していない場合は、このメッセージが DB2 Connect ゲートウェイから返される可能性があります。

ユーザーの処置: DCE サブシステムが操作可能で、ディレクトリー項目を読むための適切な特権を持っていることを確認してください。問題が続く場合は、データベース管理者に連絡して、ディレクトリー項目のエラーを訂正してください。これらのディレクトリー・オブジェクトのフォーマットについては、「管理ガイド」を参照してください。

sqlcode: -1293

sqlstate: 08001

SQL1294N グローバル・ディレクトリー・アクセスに使用されているディレクトリー・パス名が、指定されていないかまたは無効です。

説明: グローバル・ディレクトリー・サービスを使用するには、ディレクトリー・パス名を、`dir_path_name` データベース・マネージャー構成パラメーター、または DB2DIRPATHNAME 環境変数のどちらかに指定する必要があります。名前が指定されていないか、または指定した名前が有効ではありません。

このメッセージは、接続で呼び出された中間ノードから返される場合があることに注意してください。たとえば、DB2 Connect ゲートウェイ経由で DRDA サーバー

に接続しようとしており、クライアント・ワークステーションがグローバル・ディレクトリー・サービスを使用していない場合は、このメッセージが DB2 Connect ゲートウェイから返される可能性があります。

ユーザーの処置: 正しい名前をデータベース管理者に尋ね、正しい名前を指定して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -1294

sqlstate: 08001

SQL1295N グローバル・ディレクトリー・アクセスに使用されている経路指定情報オブジェクトが、指定されていないかまたは無効です。

説明: このクライアントに対してネイティブではないデータベース・プロトコルを使用して、リモート・データベースにアクセスするグローバル・ディレクトリー・サービスを使用するには、ルーティング情報オブジェクトの名前を、`route_obj_name` データベース・マネージャー構成パラメーター、または DB2ROUTE 環境変数に指定する必要があります。名前が指定されていないか、または指定した名前が有効ではありません。

このメッセージは、接続で呼び出された中間ノードから返される場合があることに注意してください。たとえば、DB2 Connect ゲートウェイ経由で DRDA サーバーに接続しようとしており、クライアント・ワークステーションがグローバル・ディレクトリー・サービスを使用していない場合は、このメッセージが DB2 Connect ゲートウェイから返される可能性があります。

ユーザーの処置: 正しいオブジェクト名をデータベース管理者に尋ね、正しい名前を指定して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -1295

sqlstate: 08001

SQL1296N DIR_TYPE パラメーターが NONE でない場合は、データベース・マネージャー構成パラメーターである DIR_PATH_NAME および DIR_OBJ_NAME に、有効な値を指定しなければなりません。

説明: これらのパラメーターには相互関係があります。DIR_TYPE の値が NONE の場合は、他の 2 つの値は無視されます。DIR_TYPE の値が NONE でない場合は、他の 2 つとも、有効な値を持っている必要があります。DIR_TYPE が NONE でない場合は、以下の規則が適用されます。

1. DIR_PATH_NAME と DIR_OBJ_NAME の値は、NULL (またはブランク) にすることはできません。

2. DIR_TYPE の値が DCE の場合は、DIR_PATH_NAME の値を、特殊な DCE スtring である "/../" または "/./" で始める必要があります。

ユーザーの処置: DIR_TYPE の値を変更する場合は、最初に、DIR_PATH_NAME と DIR_OBJ_NAME パラメーターに有効な値が指定されていることを確認してください。DIR_PATH_NAME または DIR_OBJ_NAME パラメーターをブランクにする場合は、最初に、

SQL1300 - SQL1399

SQL1300N カタログ・ステートメント中の DCE プリンシパル名が無効です。

説明: カタログ・データベース操作中の DCE プリンシパル名が無効です。DCE プリンシパル名には次の条件があります。

- AUTHENTICATION が DCE として指定されている場合、プリンシパル名はカタログ・ステートメントに含まれる必要があります。
- AUTHENTICATION が DCE として指定されていない場合、プリンシパル名はカタログ・ステートメントに含みません。
- プリンシパル名の最大長は 1024 バイトです。

ユーザーの処置: プリンシパル名が上記の条件を満たしていることを確認し、カタログ・コマンドを再実行してください。

SQL1301N サーバーの DCE キータブ・ファイルにアクセス中にエラーが起きました。

説明: サーバーの DCE キータブ・ファイルにアクセス中にエラーが起きました。キータブ・ファイルを有効にするには、次の条件が満たされている必要があります。

- 存在するサーバーのキータブ・ファイルの名前が keytab.db2 であり、sqllib/security ディレクトリーにあること。
- キータブ・ファイルには単一項目しかないこと。

ユーザーの処置: DCE が開始済みであることを確認してください。次に、キータブ・ファイルが存在すること、単一項目を含んでいること (rgy_edit で)。操作を再試行してください。

SQL1302N DB2 許可 ID に対する DCE プリンシパル・エレメント・マッピング・エラー。理由コード: *reason-code*

説明: DB2 許可 ID に DCE プリンシパル・エレメントをマッピングする時にエラーが起きました。下記

DIR_TYPE を NONE に設定してください。

SQL1297N このコマンドは、このプラットフォームでは現在サポートされていません。

説明: このコマンドで要求された関数は、このプラットフォームではサポートされていません。

ユーザーの処置: このコマンドを使用しないでください。

の理由コードを参照してください。

- 1. DB2 許可 ID のマッピングに対して DCE ユーザーが抜けているか無効である
- 2. DB2 許可 ID のマッピングに対して DCE グループが抜けているか無効である

ユーザーの処置: DCE プリンシパル・エレメントには、DB2 許可 ID に対する ERA マッピングが必要です。欠落している項目を DCE レジストリーに追加し、操作を再試行します。

sqlcode: -1302

sqlstate: 08001

SQL1303N セキュリティー・デーモンは再始動できません。

説明: エージェントとセキュリティー・デーモンとの間の通信が切断されたか、あるいはセキュリティー・デーモンが異常終了した後に、セキュリティー・デーモンを再始動できません。データベース・マネージャーとのすべての新しい接続は拒否され、認証は不可能です。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーを停止して再始動します。db2start コマンドが失敗した場合、その SQLCODE のユーザー応答に従ってください。

sqlcode: -1303

sqlstate: 58004

SQL1304N TCP/IP のセキュリティー・タイプ SOCKS は無効です。

説明: Catalog Node コマンドの TCP/IP プロトコル構造中の TCP/IP セキュリティー・タイプ SOCKS が、認証タイプ DCE で無効です。

ユーザーの処置: セキュリティー・タイプ SOCKS を指定した TCP/IP プロトコルと、認証タイプ DCE の組み合わせを使用していないことを確認してください。

sqlcode: -1304

sqlstate: 08001

SQL1305N 内部 DCE エラーが起きました。

説明: 内部 DCE エラーで DB2 処理が失敗しました。

ユーザーの処置: DCE が開始済みであることを確認してください。問題が続く場合、サービス担当者に連絡してください。

sqlcode: -1305

sqlstate: 58004

SQL1306N セキュリティー監査機能の呼び出し中に無効なパラメーターが指定されました。理由コード: *reason-code*。

説明: セキュリティー監査 API のパラメーターの 1 つが正しくありません。理由:

- 1 無効な監査オプションの指定。
- 2 構成/記述 `sqlcaucfg` 構造に無効なポインター。
- 3 無効な構成/記述パラメーター・トークン。
- 4 無効な構成/記述パラメーター値。値は正しくない、またはパラメーターの有効範囲外です。
- 5 構成/記述パラメーターに無効なカウント指定。
- 6 構成/記述パラメーターに割り振られた長さが不十分。
- 7 `sqlcauextract` 構造の抽出に無効なポインター。
- 8 抽出パラメーター・トークンが無効。
- 9 抽出パラメーター値が無効。値は正しくない、または有効範囲外です。
- 10 抽出パラメーターに無効なカウント指定。
- 11 抽出パラメーターに無効な長さ。

ユーザーの処置: システム管理者は、それぞれの理由に応じて特定の処理を取ってください。

- 1 `sqlutil.h` 組み込みファイルを参照して、監査 API 呼び出しに正しいオプション値を与えてください。
- 2 構成/記述構造に有効なポインターが与えられているかチェックしてください。
- 3 `sqlcaucfg` パラメーター・トークンの監査機能参照セクションを調べることによって、正しいパラメーターが指定されます。
- 4 監査機能参照で有効な値を調べて、パラメーター値を訂正してください。
- 5 可変長パラメーターに正しいカウントを指定し、該当する長さを割り振り/初期化してください。

- 6 `SQLCA` で返されたエラー・トークンに基づいて、構成/記述パラメーターに割り振られた長さを訂正してください。
- 7 抽出構造に有効なポインターが与えられているかチェックしてください。
- 8 `sqlcauextract` パラメーター・トークンの監査機能参照セクションを調べることによって、正しいパラメーターが指定されます。
- 9 監査機能参照で有効な値を調べて、パラメーター値を訂正してください。
- 10 可変長パラメーターに正しいカウントを指定し、該当する長さを割り振り/初期化してください。
- 11 `SQLCA` で返されたエラー・トークンに基づいて、抽出パラメーターに割り振られた長さを訂正してください。

SQL1307N セキュリティー監査機能の呼び出し中にエラーが起きました。理由コード: *reason-code*。

説明: セキュリティー監査 API の呼び出しによってエラーが発生しました。理由:

1. 監査が開始済み。
2. 監査がすでに停止している。
3. 監査構成ファイルに無効なチェックサム。
4. デフォルトまたはユーザーが提供する監査パス名が長すぎる。
5. 監査構成ファイルを更新できない。ファイル・システムがいっぱいであるか、書き込みを許可しないかのどちらかです。
6. 構成ファイルが検出できない。ファイル、またはファイルを含むディレクトリーのどちらかが存在しません。
7. 抽出ファイルが検出できない。
8. 抽出中の監査レコードの形式が無効。ファイルは破壊されました。

ユーザーの処置: システム管理者は、それぞれの理由に応じて特定の処理を取ってください。

1. アクションは必要ありません。
2. アクションは必要ありません。
3. バックアップから構成ファイルをリストアするか、`'audit reset'` コマンドを発行してください。
4. ファイル名の長さが限度内の、異なる監査パス名を選択してください。
5. ファイル許可が正しくない場合、所有者によって書き込みが許されるように設定してください。ファイ

ル・システムがいっぱいの際は、続行する前にフリー・スペースを作成してください。

6. 監査構成ファイルが欠落している場合、バックアップからリストアするか、ファイルをデフォルトに初期化するために 'reset' コマンドを発行してください。ディレクトリーが欠落している場合、バックアップからリストアするか、データベース・マネージャーのインスタンスを再作成してください。
7. 指定されたパスにファイルが存在するかどうか検証してください。ファイルが欠落している場合、使用可能ならばバックアップからリストアしてください。
8. 監査ログ・ファイルが破壊された可能性が最も高いです。他の監査ログ・ファイルで問題が持続する場合は、DB2 サービスに通知してください。

SQL1308W 監査抽出機能は処理を完了しました。
num-records レコードが抽出されました。

説明: セキュリティ監査抽出機能は処理を正常に完了し、指定された数のレコードを抽出しました。

ユーザーの処置: ゼロのレコードが抽出された場合、ユーザーは抽出ファイルに抽出パス名が含まれているか、そして抽出パラメーターが正確であるか検証してください。

SQL1309N 無効なサーバー・プリンシパル名です。

説明: データベース・カタログのステートメントで指定されたサーバー・プリンシパル名は、DCE 登録に存在しません。このため、DCE チケットは DB2 サーバーで獲得できません。

ユーザーの処置: データベース・カタログ項目のプリンシパル名が DB2 サーバーで使用されている DCE プリンシパルに対応していることを確認してください。プリンシパル名を完全に修飾することが必要である可能性があります。

sqlcode: -1309

sqlstate: 08001

SQL1310N データベース接続サービス・ディレクトリーのアクセス中に、データベース接続サービス・ディレクトリー・サービスが失敗しました。

説明: データベース接続サービス・ディレクトリー・ファイルのアクセス中にファイル・エラーが起きたために、データベース接続サービス・ディレクトリー・サービスが失敗しました。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行した後で、関数を再実行してください。

- データベース接続サービス・ディレクトリーに項目を追加する場合は、ディレクトリー・ファイルが大きくなって十分なスペースがあることを確認してください。
- 他の並行して実行されているプログラムが、ファイルをアクセスしていないことを確認してください。
- ディレクトリー・ファイルが壊れていないことを確認してください。リカバー不能の場合は、消去してから再度作成するか、またはバックアップ・バージョンからリストアする必要があります。

SQL1311N データベース接続サービス・ディレクトリーが見つかりません。

説明: ディレクトリーが見つかりません。ディレクトリーが削除された可能性があります。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: CATALOG DCS DATABASE コマンドを使用して、データベース接続サービス・ディレクトリーに項目を追加するか、またはディレクトリーをバックアップ・バージョンからリストアしてください。

SQL1312W データベース接続サービス・ディレクトリーが空です。

説明: データベース接続サービス・ディレクトリーの内容の読み取りが試みられましたが、項目が存在しません。

処理を続行しますが、項目を使用する後続のコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: Catalog DCS Database コマンドを使用して、ディレクトリーに項目を追加するか、または項目を含むバックアップ・バージョンからリストアしてください。

SQL1313N データベース接続サービス・ディレクトリーがいっぱいです。

説明: ディレクトリーがすでに最大サイズに達しているので、項目をデータベース接続サービス・ディレクトリーに追加できません。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: 項目を追加する前に、ディレクトリーから項目を 1 つ以上削除してください。

SQL1314N データベース接続サービス・ディレクトリ
の項目パラメーターのアドレスが無効で
す。

説明: アプリケーション・プログラムが、このパラメ
ーターに無効なアドレスを使用しました。 そのアドレス
が割り振られていないバッファを指しているか、また
は必須入力を含むための十分なバッファがありませ
ん。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムが必要
なバッファ域を割り振っていることを確認して、コマ
ンドを再サブミットしてください。

SQL1315N ローカル・データベース名が無効です。

説明: ローカル・データベース名に無効な文字が指定さ
れました。 すべての文字は、データベース・マネー
ジャーの基本文字セットの文字でなければなりません。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: ローカル・データベース名に使用され
ている文字が、データベース・マネージャー基本文字セ
ットの文字であることを確認して、コマンドを再サブミ
ットしてください。

SQL1316N データベース接続サービス・ディレクトリ
に、指定されたローカル・データベース
名の項目が見つかりませんでした。

説明: データベース接続サービス・ディレクトリに、
入力されたローカル・データベース名に対応する項目が
見つからないために、データベース接続サービス・ディ
レクトリ・サービスが失敗しました。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: ローカル・データベース名が正しいこ
とを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1317N ローカル・データベース名が、すでにデー
タベース接続サービス・ディレクトリに
存在します。

説明: ローカル・データベース名の項目がすでにディレ
クトリに存在するために、項目がディレクトリ追加
できませんでした。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: ユニークなローカル・データベース名
を指定するか、または既存の項目を削除して新しい項目
を追加してください。

SQL1318N パラメーター 1 の入力構造内のエレメン
ト *name* の長さが無効です。

説明: データベース接続サービス・ディレクトリ項目
構造の長さの値はゼロ以上か、またはエレメントが持つ
最大長以下でなければなりません。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: ディレクトリ項目構造のエレメント
を指定する場合は、関連した長さがエレメントのバイト
数を表している必要があります。 そうでない場合は、
長さの値はゼロでなければなりません。すべてのディレ
クトリ項目構造エレメントが、コマンドに必要な指定
と長さを持っていることを確認して、コマンドを再サブ
ミットしてください。

SQL1319N データベース接続サービス・ディレクトリ
の項目が集められていません。

説明: ディレクトリの全項目をコピーする要求を受信
しましたが、事前に項目を集める要求を受信しなかつた
か、または事前に項目を集める要求が失敗しました。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: ディレクトリをオープンする要求を
出して、項目を集めてください。次に、このコマンドを
再サブミットしてください。

SQL1320N データベース接続サービス・ディレクトリ
には、現在アクセスできません。

説明: データベース接続サービス・ディレクトリにア
クセスする要求が失敗しました。データベース接続サー
ビス・ディレクトリへの接続は、要求したアクセスの
タイプとディレクトリの現在の活動によって異なります。
ディレクトリを更新する要求の場合は、ディレ
クトリがアクティブでなければなりません。要求がデ
ィレクトリの読み取りの場合は、ディレクトリが更
新されていなければ、アクセスが許可されます。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: 現在の活動が終了するのを待って、コ
マンドを再サブミットしてください。

SQL1321N ディレクトリ項目構造に指定された構造
ID が無効です。

説明: ディレクトリ項目構造が受け取った構造 ID
が、認識できる値を持っていません。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: ディレクトリ項目構造に渡した構造
ID の値が有効であることを確認して、コマンドを再サ
ブミットしてください。

SQL1322N 監査ログ・ファイルを書き込み中にエラーが発生しました。

説明: DB2 監査機能は、追跡監査イベントを記録するために呼び出されたときに、エラーが発生しました。監査ログが常駐しているファイルにはスペースがありません。このファイル・システムでスペースを空けるか、監査ログを切り詰めてサイズを縮小してください。

スペースがさら使用可能なときは、db2audit を使用してメモリーのデータを取り除いて、記録権限を作動可能状態にリセットしてください。適切な抽出が行われたことをまたログを切り詰める前にログをコピーしたことを確認してください。これは、削除された記録はリカバー不能だからです。

ユーザーの処置: 監査機能がロギングを再開できるように、システム管理者が適切な修正アクションを行わなければなりません。

sqlcode: -1322

sqlstate: 58030

SQL1323N 監査構成ファイルにアクセスするときに、エラーが発生しました。

説明: db2audit.cfg を開けなかったのか、または無効でした。以下の理由が考えられます。

- db2audit.cfg ファイルが存在していないか、または損傷されました。以下のいずれかのアクションを実行してください。
 - ファイルの保管されたバージョンからリストアしてください。
 - db2audit 実行可能からリセット・コマンドを実行して、監査機能構成ファイルをリセットしてください。

ユーザーの処置: 監問題を解決するには、システム管理者が適切なアクションを行わなければなりません。

sqlcode: -1323

sqlstate: 57019

SQL1325N リモート・データベース環境が、コマンドまたはいずれかのコマンド・オプションをサポートしません。

説明: DB2 ワークステーション・データベース特有のコマンドまたはコマンド・オプションを、DB2 Connect またはフェデレーテッド・サーバーを通してホスト・データベースに対して発行しようとしていました。以下のコマンドが DB2 (MVS 版)*、DB2 (OS/400 版)*、または SQL/DS* データベースに対して発行されると、このエラーが起きます。

- OPSTAT (操作状況の把握)
- DARI (データベース・アプリケーション・リモート・インターフェース)
- GETAA (管理者許可の入手)
- GETTA (表許可の入手)
- PREREORG (表再編成の準備)
- REORG (再編成関数の呼び出し)
- RQSVPT/ENSVPT/RLBSVPT (サブトランザクション要求)
- RUNSTATS (統計の実行)
- COMPOUND SQL ATOMIC STATIC (ATOMIC コンパウンド SQL)
- ACTIVATE DATABASE
- DEACTIVATE DATABASE

同様に、以下のコマンドも、間違ったオプションによりこのエラーを起こします。

- IMPORT (表のインポート) ファイル・タイプは IXF、コミット・カウントは 0 (オフライン・インポートの場合) または automatic 以外 (オンライン・インポートの場合)、Action String (たとえば "REPLACE into ...") の最初の語は INSERT でなければなりません。
- EXPORT (表のエクスポート) ファイル・タイプは IXF でなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ホスト・データベースに対して DB2 Connect またはフェデレーテッド・サーバーを通してこのコマンドを発行しないでください。

SQL1326N ファイルまたはディレクトリー *name* にアクセスできません。

説明: ファイルまたはディレクトリー *name* が、ファイル許可が間違っているか、またはファイル・パスが違っている、あるいはディレクトリーまたはパスに十分なスペースがないためアクセスできません。

ユーザーの処置: コマンドに指定されたパスまたはファイル名が有効なこと、およびそのパスまたはファイル名にアクセスする適切な許可を持っていてそのファイルが含まれるだけの十分なスペースがあることを確認してください。問題を修正して、コマンドを再サブミットしてください。問題が続く場合は、システム管理者に連絡してください。

SQL1327N 暗黙接続に失敗しました。 *database-name* は、有効なデータベース名ではありません。

説明: 暗黙接続の実行に失敗しました。 DB2DBDFT 環境変数により指定されたデータベース別名の構文が、有効ではありません。 データベース名は 1 から 8 バイトで、すべての文字はデータベース・マネージャー基本文字セットから使用する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: DB2DBDFT 環境変数で指定したデータベース別名を修正して、コマンドをサブミットしてください。コマンド行プロセッサを使用している場合は、コマンドを再発行する前に、“db2 terminate” を発行する必要があります。暗黙接続を実行したくない場合は、DB2DBDFT 環境変数を取り除いてください。

sqlcode: -1327

sqlstate: 2E000

SQL1328N 暗黙接続に失敗しました。 データベース別名またはデータベース名 *name* が、ローカル・データベース・ディレクトリーに見つかりませんでした。

説明: 暗黙接続の実行に失敗しました。 DB2DBDFT 環境変数によって指定されたデータベース名が、既存のデータベースではありません。 データベースが、データベース・ディレクトリーの中に見つかりませんでした。

コマンドは処理されません。

分散作業単位内で発行された CONNECT RESET 要求は、デフォルト・データベースに対する暗黙接続を試みます。これが、このエラーの理由になる場合があります。

ユーザーの処置:

- DB2DBDFT 環境変数で指定したデータベース別名を修正して、コマンドをサブミットしてください。
- 意図したアクションが、分散作業単位環境での処理中に接続を除去することである場合は、CONNECT RESET ステートメントを、DISCONNECT または RELEASE ステートメントで置き換えることを考慮してください。
- コマンド行プロセッサを使用している場合は、コマンドを再発行する前に、“db2 terminate” を発行する必要があります。
- 暗黙接続を実行したくない場合は、DB2DBDFT 環境変数を取り除いてください。

sqlcode: -1328

sqlstate: 42705

SQL1329N コマンドに指定された解決済みパスが長すぎます。

説明: コマンドに指定された解決済みパスが、データベース・マネージャーがサポートする最大長を超えています。解決済みパスは 215 文字を超えてはなりません。

Create Database、 Catalog Database、スキャンのための Open Database Directory、 change database comment コマンドの実行中は、データベース・マネージャー・インスタンス名が指定されたパスの最後に追加されます。

ユーザーの処置: 完全に解決された絶対または相対パス名が、データベース・マネージャー・インスタンス名を含めて、215 文字を超えていないことを確認してください。パスを訂正して、コマンドを再実行してください。

SQL1330N 記号宛先名 *name* が無効です。

説明: Catalog Node コマンドの CPIC プロトコル構造の記号宛先名が、指定されていないか、または許された長さを超えています。名前には、1 から 8 バイトの長さでなければなりません。

ユーザーの処置: 記号宛先名が指定されており、その長さが 8 バイトを超えていないことを確認してください。有効な記号宛先名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1331N CPIC セキュリティー・タイプ *type* が無効です。

説明: Catalog Node コマンドの CPIC プロトコル構造に指定された CPIC セキュリティー・タイプが無効です。セキュリティ・タイプは、LU 6.2 アーキテクチャーの指定に従って、データベース・クライアントがパートナー LU との対話を割り振るときに含まれるセキュリティ情報を指定します。セキュリティ・タイプの正しい値は、以下のとおりです。

- SQL_CPIC_SECURITY_NONE
 - アクセス・セキュリティ情報は含まれません。

注: これはフェデレーテッド・サーバーを使用している場合はサポートされません。 DB2 Connect が使用されている場合は、認証タイプが DCE、KERBEROS、または SERVER_ENCRYPT の場合のみサポートされます。

- SQL_CPIC_SECURITY_SAME
 - ユーザー ID が、それがすでにチェック済みであることを示す標識とともに含まれます。 認証タイ

プ SERVER が DB2 Connect またはフェデレーテッド・サーバーで使用されている場合、あるいは認証タイプが DCE、KERBEROS、または SERVER_ENCRYPT である場合これはサポートされません。

• SQL_CPIC_SECURITY_PROGRAM

- ユーザー ID とパスワードの両方が含まれます。認証タイプ CLIENT が DB2 Connect で使用されている場合、あるいは認証タイプが DCE、KERBEROS、または SERVER_ENCRYPT である場合、これはサポートされません。

ユーザーの処置: セキュリティー・タイプを上記のいずれかに指定して、コマンドを再実行してください。

sqlcode: -1331

sqlstate: 08001

SQL1332N ホスト名 *name* が無効です。

説明: Catalog Node コマンドの TCP/IP プロトコル構造のホスト名が、指定されていないか、または許された長さを超えています。名前は 1 から 255 文字の長さでなければならず、すべてブランクは使用できません。

ユーザーの処置: ホスト名が指定されており、それが 255 文字より長くないことを確認してください。有効なホスト名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1333N サービス名 *name* が無効です。

説明: Catalog Node コマンドの TCP/IP プロトコル構造のサービス名が、指定されていないか、または許された長さを超えています。名前は 1 から 14 文字の長さでなければならず、すべてブランクは使用できません。

ユーザーの処置: サービス名が指定されており、それが 14 文字より長くないことを確認してください。有効なサービス名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1334N データベース・サーバーを使用して、リモート要求をこの構成の 2 番目のデータベース・サーバーに経路指定することはできません。

説明: サポートされていない組み合わせのクライアントとターゲット・データベース・サーバーを使用するデータベース・サーバー・ノードを経由して、要求を経路指定しようとした。バージョン 2 以前のリリースのクライアントまたはターゲット・データベースが使用されたか、または DRDA クライアントから DRDA ターゲット・データベースへの要求を経路指定しようとした。

した。要求は、クライアントから、ターゲット・データベースが実行されているノードに対して直接経路指定する必要があります。

ユーザーの処置: クライアント・マシンでデータベースをアンカタログした後で、データベースが実際に常駐するノードを指定して、データベースをカタログしてください。ノードもカタログされていることを確認してください。

SQL1335N アプリケーション・リクエスター名が無効です。

説明: アプリケーション・リクエスター名が指定されましたが、その中に無効な文字が含まれています。すべての文字は、データベース・マネージャーの基本文字セットの文字でなければなりません。

ユーザーの処置: アプリケーション・リクエスター名に使用されている文字が、データベース・マネージャー基本文字セットから使用されていることを確認して、コマンドを再実行してください。

SQL1336N リモート・ホスト *hostname* が見つかりませんでした。

説明: システムが、リモート・ホストのアドレスを解決できません。考えられる原因は以下のとおりです。

- TCP/IP ノードのカタログ時に、間違った *hostname* の値が指定されました。
- 正しい *hostname* が指定されましたが、このクライアント・ノードにアクセス可能な TCP/IP 名前サーバーのどれにも、あるいはクライアントのホスト・ファイルにも、定義されていません。
- 接続しようとしたときに、*hostname* が定義されている TCP/IP 名サーバーが使用できませんでした。
- TCP/IP が実行されていません。

ユーザーの処置: TCP/IP が実行されており、TCP/IP ノードをカタログするときに指定した *hostname* が正しく、アクセス可能なネーム・サーバーまたはローカル・ホスト・ファイルに定義されていることを確認してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: リモート・ホストが SYSCAT.SERVERS ビューに正しくカタログされていることを確認してください。

SQL1337N サービス *service-name* が見つかりませんでした。

説明: システムが、*service-name* に関連するポート番号を解決できませんでした。考えられる原因は以下のとおりです。

- TCP/IP ノードがカタログされたときに、正しくない service-name の値が指定されました。
- 正しい service-name が指定されましたが、クライアントのサービス・ファイルに定義されていませんでした。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースでも検出できます。

ユーザーの処置: TCP/IP ノードのカタログ時に指定される service name が正しい名前で、ローカル・サービス・ファイルに定義されていることを確認してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー は、名前がデータ・ソースのサービス・ファイルに定義されていることも確認する必要があります。

SQL1338N 記号宛先名 *symbolic-destination-name* が見つかりませんでした。

説明: システムが、指定された *symbolic-destination-name* に関連するサイド情報を見つけることができません。考えられる原因は以下のとおりです。

- CPIC NODE がカタログされたときに、正しくない *symbolic-destination-name* が指定されました。
- 記号宛先名とその関連するサイド情報が、SNA 通信サブシステムに定義されていません。
- SNA 通信サブシステムは開始されていません。

ユーザーの処置: CPIC ノードをカタログするときに指定した *symbolic-destination-name* が正しい名前であり、それがローカル SNA 通信サブシステムに定義されていることを確認してください。

SNA 通信サブシステムが開始されていない場合は、開始してください。

SQL1339N *n* SQL エラーが、非 ATOMIC コンパウンド SQL ステートメントの実行で検出され、識別は *error1 error2 error3 error4 error5 error6 error7* です。

説明: コンパウンド SQL ステートメントの 1 つ以上の SQL サブステートメントが、SQL エラー (負の戻りコード) になりました。

エラー・トークンは CLI/ODBC アプリケーションには返されません。CLI/ODBC アプリケーションは、SQLGetDiagRec、SQLGetDiagField、または SQLError APIs を使用してそれぞれのエラーについての詳細を取得できます。

ユーザーの処置: 提供されるエラー識別情報を調べてく

ださい。<n> <errorX> のトークンが埋められ、7 が最大です。各 <errorX> が SQL ステートメント・エラーを表します。これらのエラーは、見つかった順序でリストされます。メッセージ・テキストが形式化されていない場合、この情報は「SQLERRMC」フィールドの 2 番目で後続するトークンで見つけることができます (トークンは 1 バイトの 16 進数値 0xFF で区切られています)。

各 <errorX> は PPPSSSSS の形式で、意味は以下のとおりです。

PPP PPP は、コンパウンド SQL ブロック内のエラーの原因となったステートメントの位置を表し、左寄せされています。たとえば、最初のステートメントが失敗した場合、このフィールドには番号 1 ("1 ") が含まれます。

SSSSS

失敗したステートメントの SQLSTATE です。

SQLCA 自体を調べることにより、詳細な情報を見つけることができます。3 番目の「SQLERRD」フィールドにはコンパウンド SQL ステートメントにより影響を受けた行の番号が入り、4 番目の「SQLERRD」フィールドには成功した最後のステートメントの位置が入り、5 番目の「SQLERRD」フィールドには、DB2 クライアント/サーバーおよび SQL/DS データベースがアクセスされたときに、参照保全により影響を受けた行の番号が入り、6 番目の「SQLERRD」フィールドには失敗した (負の SQLCODES が返された) ステートメントの番号が入ります。

sqlcode: -1339

sqlstate: 56091

SQL1340N ファイル・サーバー *fileserv* が見つかりませんでした。

説明: システムが、指定されたファイル・サーバーをネットワークで見つけることができませんでした。考えられる原因は以下のとおりです。

- IPX/SPX ノードがカタログされたときに、正しくない *fileserv* 名が指定されていました。
- 正しい *fileserv* 名が指定されていましたが、接続時に、ファイル・サーバーを使用できませんでした。

ユーザーの処置: IPX/SPX ノードをカタログするときに指定した *fileserv* 名が正しく、ファイル・サーバーがネットワーク上で使用可能であることを確認してください。

SQL1341N ワークステーション名を、クライアント・データベース・マネージャーの構成ファイルに指定してください。

説明: ワークステーション名が、クライアント・データベース・マネージャー構成ファイルに指定されていません。 NetBIOS を使用してサーバーと通信を行う場合は、ワークステーション名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: クライアント・データベース・マネージャー構成ファイルにワークステーション名を指定してください。

SQL1342N ファイル・サーバー名 *name* は存在しないか、無効です。

説明: コマンド/API に指定されたファイル・サーバー名がないか、または無効です。

ユーザーの処置: ファイル・サーバー名が指定されており、名前に無効な文字が含まれておらず、48 文字より長くないことを確認してください。 有効なファイル・サーバー名を使用して、コマンド/API を再サブミットしてください。

SQL1343N オブジェクト名 *name* がないか、または無効です。

説明: コマンド/API に指定されているオブジェクト名がないか、または無効です。

ユーザーの処置: オブジェクト名が指定されており、名前に無効な文字が含まれておらず、48 文字より長くないことを確認してください。 有効なオブジェクト名を使用して、コマンド/API を再サブミットしてください。

SQL1350N アプリケーションが、この要求を処理するための正しい状態ではありません。理由コード =*rc*。

説明: 対応する *rc*:

- 01** アプリケーションは現在 SQL を処理しており、要求されたユーティリティ・コマンドを処理できません。
- 02** バックアップ要求が進行中です。 バックアップが完了する前に、さらに要求が必要であることを示す警告が、初期ユーティリティ呼び出しから返されました。
- 03** リストア要求が進行中です。 リストアが完了する前に、さらに要求が必要であることを示す警告が、初期ユーティリティ呼び出しから返されました。

04 ロールフォワード要求が進行中です。 ロールフォワードが完了する前に、さらに要求が必要であることを示す警告が、初期ユーティリティ呼び出しから返されました。

05 ロード要求が進行中です。 ロードが完了する前に、さらに要求が必要であることを示す警告が、初期ユーティリティ呼び出しから返されました。

07 フェデレーテッド・システム・ユーザー: アプリケーションは、SQL コマンドを実行した後でこのコマンドを処理することはできません。

ユーザーの処置: 対応する *rc*:

01 このコマンドを再発行する前に、作業単位を完了 (COMMIT または ROLLBACK を使用) してください。

02-05 進行中のユーティリティの完了に必要な呼び出しを行った後で、このコマンドを再発行してください。

07 フェデレーテッド・システム・ユーザー: アプリケーションは、データベース・マネージャーとの接続を確立した後、他のどの SQL ステートメントよりも前に、このコマンドを発行する必要があります。

SQL1360N 現在の処理は割り込み不能です。

説明: ユーザーが、割り込み不能な処理の割り込みを試みました。

ユーザーの処置: 現在の処理の割り込みを行わないでください。

SQL1361W 実行時間がタイムアウト値を超えました。割り込みを行いますか?

説明: コマンドが事前定義されたタイムアウト期間よりも長くかかる場合は、(Windows クライアントの場合) このコマンドの割り込みを行うかどうかを確認するためのダイアログ・ボックスがポップアップされます。

このメッセージは Windows 環境にのみ適用され、ダイアログ・ポップアップ・ボックスにのみ表示されます。

ユーザーの処置: YES - すぐに割り込みます; NO - 続行し、プロンプトを表示しません; CANCEL - 続行し、タイムアウトになります、という 3 つの選択があります。

SQL1362W 即時に変更するようサブミットされた 1 つ以上のパラメーターが動的に変更されませんでした。クライアントの変更は、次回アプリケーションが始動されるか、**TERMINATE** コマンドが発行されるまで有効になりません。次の **DB2START** コマンドまで、サーバーの変更は有効になりません。

説明: データベース・マネージャーへの変更のうちいくつかの変更を即時に適用することができませんでした。これらのパラメーターについては、DB2 の開始後に変更が適用されます。通常これは、サーバーでの DB2START の後、およびクライアントでのアプリケーションの再始動の後に起きます。

ユーザーの処置: どのパラメーターの変更が動的に有効になったか、あるいはどのパラメーターの変更が動的に有効にならなかったかを調べるには、以下のコマンドを使用して、データベース・マネージャー構成パラメーターを検索し、パラメーターの詳細を表示してください。

```
DB2 GET DBM CFG SHOW DETAIL
```

ユーザーがインスタンスにアタッチされている場合のみ、データベース・マネージャー構成パラメーターへの変更は動的に有効になります。すべての構成パラメーターが動的更新をサポートしているわけではありません。どのパラメーターを動的に変更できるのかを調べるには、「管理ガイド」を参照してください。

グループ内で複数のパラメーターがサブミットされた場合は、パラメーターを個々にサブミットしてください。このように構成パラメーターを動的に変更できない場合には、以下のいずれか、またはいくつかを行ってください。

- ユーザー・アプリケーション: アプリケーションの停止および開始
- CLP: **TERMINATE** および再接続
- サーバー: **DB2STOP** および **DB2START** の発行

SQL1363W 即時に変更するようサブミットされた 1 つ以上のパラメーターが動的に変更されませんでした。これらのパラメーターでは、変更を有効にする前にすべてのアプリケーションをこのデータベースから切断する必要があります。

説明: データベース構成コマンドは正常に処理されました。しかし、いくつかの変更は即座に処理されませんでした。アプリケーションがデータベースから切断される後、データベースに最初に接続すると、変更が有効になります。

ユーザーの処置: どのパラメーターの変更が動的に有効になったか、あるいはどのパラメーターの変更が動的に有効にならなかったかを調べるには、以下のコマンドを使用して、データベース構成パラメーターを検索し、パラメーターの詳細を表示してください。

```
DB2 GET DB CFG FOR  
<database-alias> SHOW DETAIL
```

データベースに接続している場合のみ、データベース構成パラメーターへの変更は動的に有効になります。すべての構成パラメーターが動的更新をサポートしているわけではありません。どのパラメーターを動的に変更できるのかを調べるには、「管理ガイド」を参照してください。

グループ内で複数のパラメーターがサブミットされた場合は、パラメーターを個々にサブミットしてください。このように構成パラメーターを動的に変更できない場合には、以下のいずれか、またはいくつかを行ってください。

- すべてのアプリケーションがデータベースから切断されていることを確認し、db2 接続コマンドを発行する。
- バインド中に新規値が使用されるため、新規構成パラメーターが反映された後、パッケージを再バインドする。
- **FLUSH PACKAGE CACHE** コマンドを使用して、SQL キャッシュ内の動的ステートメントを無効にする。

SQL1364W 1 つ以上の構成パラメーターが、**AUTOMATIC** をサポートしていないのに **AUTOMATIC** に設定されました。

説明: 1 つ以上の構成パラメーターが、**AUTOMATIC** をサポートしていないのに **AUTOMATIC** に設定されました。

ユーザーの処置: パラメーターの変更がグループとしてサブミットされた場合は、どのパラメーターの変更が成功したか調べるために、変更を個々に再サブミットしてください。

1 つのパラメーターがサブミットされただけである場合は、このメッセージは、値 **AUTOMATIC** がこのパラメーターでサポートされていないことを示します。

どの構成パラメーターが **AUTOMATIC** 値をサポートするかを調べるには、「管理ガイド」を参照してください。

SQL1365N db2start または db2stop は、プラグイン *plugin-name* の処理に失敗しました。
理由コード = *reason-code*。

説明: サーバー側のセキュリティ・プラグイン *plugin-name* の処理が失敗しました。 *reason-code* に対応する説明は、以下のとおりです。

- 1 セキュリティ・プラグインが見つからない。
- 2 セキュリティ・プラグインを利用できない。
- 3 複数の Kerberos セキュリティ・プラグインが SRVCON_GSSPLUGIN_LIST データベース・マネージャー構成パラメーターに指定されている。
- 4 Kerberos ベースのセキュリティ・プラグインが見つからないのに、Kerberos が SRVCON_AUTH または AUTHENTICATION データベース・マネージャー構成パラメーターに指定されている。
- 5 必須の API がセキュリティ・プラグインに欠落している。
- 6 セキュリティ・プラグインのタイプが誤っている。
- 7 セキュリティ・プラグインのアンロードでエラーが生じた。
- 8 セキュリティ・プラグイン名が無効である。
- 9 セキュリティ・プラグインから報告された API のバージョンに、DB2 との互換性がない。
- 10 データベース・サーバー上で想定外のエラーがセキュリティ・プラグインによって検出された。
- 11 SRVCON_GSSPLUGIN_LIST データベース・マネージャー構成パラメーターが設定されていないのに、GSSPLUGIN または GSS_SERVER_ENCRYPT が SRVCON_AUTH または AUTHENTICATION データベース・マネージャー構成パラメーターに指定されている。

ユーザーの処置: *reason-code* に対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

- 1 指摘されたセキュリティ・プラグインは、*server-plugin* ディレクトリーに置かれていることを確認してください。
- 2 管理通知ログ・ファイル調べて障害の原因を確かめて、管理通知ログのエラー・メッセージ・テキストに示された問題を解決してください。

- 3 SRVCON_GSSPLUGIN_LIST データベース・マネージャー構成パラメーターに指定した Kerberos セキュリティ・プラグインは 1 つだけであることを確認してください。
 - 4 SRVCON_GSSPLUGIN_LIST データベース・マネージャー構成パラメーターに Kerberos セキュリティ・プラグインを 1 つ指定するか、または SRVCON_AUTH または AUTHENTICATION データベース・マネージャー構成パラメーターには Kerberos を指定しないでください。
 - 5 管理通知ログ・ファイルで、欠落している必須の API の名前を確かめて、欠落している API をセキュリティ・プラグインに追加してください。
 - 6 該当するデータベース・マネージャー構成パラメーター内に、正しいタイプのセキュリティ・プラグインを指定してください。たとえば、ユーザー ID/パスワード・ベースのセキュリティ・プラグインを SRVCON_GSSPLUGIN_LIST データベース・マネージャー構成パラメーターに指定しないでください。
 - 7 管理通知ログ・ファイルを調べて障害の原因を確かめて、管理通知ログのエラー・メッセージ・テキストに示された問題を解決してください。
 - 8 有効なセキュリティ・プラグイン名を指定してください。その名前には、ディレクトリー・パス情報を記入してはなりません。
 - 9 サポートされているバージョンの API がセキュリティ・プラグインで使用されていて、正しいバージョン番号が報告されることを確認してください。
 - 10 詳細は、クライアント上とサーバー上の管理通知ログ・ファイルで調べてください。管理通知ログのエラー・メッセージ・テキストに示された問題を解決してください。
 - 11 SRVCON_GSSPLUGIN_LIST データベース・マネージャー構成パラメーターに GSS-API ベースのセキュリティ・プラグインを少なくとも 1 つ指定するか、または SRVCON_AUTH または AUTHENTICATION データベース・マネージャー構成パラメーターに別のタイプの認証タイプを指定してください。
-

SQL1366N クライアントでのセキュリティ・プラグイン *plugin-name* の処理エラーです。理由コード = *reason-code*。

説明: クライアント側のセキュリティ・プラグインがエラーを戻しました。 *reason-code* に対応する説明は、以下のとおりです。

1. 必須の API がセキュリティ・プラグインに欠落している。
2. セキュリティ・プラグインのタイプが誤っている。
3. クライアントのセキュリティ・プラグインをロードできない。
4. セキュリティ・プラグインをアンロードできない。
5. プラグイン名が無効である。
6. セキュリティ・プラグインから報告された API のバージョンに、DB2 との互換性がない。
7. 想定外のエラーがセキュリティ・プラグインで検出された。
8. クライアントの証明書が無効である。
9. 期限切れの証明書がセキュリティ・プラグインで受信された。

ユーザーの処置: *reason-code* に対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

1. 管理通知ログ・ファイルで、欠落している必須の API の名前を確かめてから、欠落している API をセキュリティ・プラグインに追加してください。
2. 該当するデータベース・マネージャー構成パラメーター内に、正しいタイプのセキュリティ・プラグインを指定してください。たとえば、ユーザー ID/パスワード・ベースのセキュリティ・プラグインを `SRVCON_GSSPLUGIN_LIST` データベース・マネージャー構成パラメーターに指定しないでください。
3. 管理通知ログ・ファイルを調べて障害の原因を確かめて、管理通知ログのエラー・メッセージ・テキストに示された問題を解決してください。
4. 管理通知ログ・ファイルを調べて障害の原因を確かめて、管理通知ログのエラー・メッセージ・テキストに示された問題を解決してください。
5. 有効なセキュリティ・プラグイン名を指定してください。その名前には、ディレクトリー・パス情報を記入してはなりません。
6. サポートされているバージョンの API がセキュリティ・プラグインで使用されていて、正しいバージョン番号が報告されることを確認してください。

7. 詳細は、クライアント上とサーバー上の管理通知ログ・ファイルで調べてください。管理通知ログのエラー・メッセージ・テキストに示された問題を解決してください。
8. クライアント証明書 (`db2secGenerateInitialCred` で生成されたものか、またはインバウンドの代行証明書として用意されたもの) が、セキュリティ・プラグインで認識されるフォーマットになっていることを確認してください。証明書は、コンテキストの開始に使用されるので、`INITIATE` または `BOTH` 証明書でなければなりません。
9. ステートメントをサブミットするユーザーは、該当する認証を取得し (または最初の証明書を再取得し) てから、そのステートメントを再サブミットする必要があります。

SQL1367N オペレーティング・システム構成が不足しているため、リソース・ポリシーをサポートできません。

説明: リソース・ポリシーは、現在のオペレーティング・システム構成をサポートしていません。

ユーザーの処置: 適切なオペレーティング・システム・レベルをインストールするか、または `DB2_RESOURCE_POLICY` レジストリー変数を使用不可にしてください。

SQL1368N 無効なリソース・ポリシー構成です。

説明: リソース・ポリシー・ファイルが無効です。

ユーザーの処置: `DB2_RESOURCE_POLICY` レジストリー変数で定義されているファイルで指定されているポリシー定義を訂正してください。

`DB2_RESOURCE_POLICY` レジストリー変数をクリアすることによってリソース・ポリシー・サポートを使用不可にするか、または `DB2_RESOURCE_POLICY` を `AUTOMATIC` に設定して自動構成にしてください。

SQL1369N 無効な XML 文書です。

説明: 現在の XML 文書は無効です。

ユーザーの処置: 先へ進む前に XML 文書を検証してください。

SQL1370N インスタンスまたはデータベース *name1* を静止しようとして失敗しました。原因は、インスタンスまたはデータベース *name2* がすでにユーザー *username* により静止されているためです。静止タイプ: *type*

説明: データベースが別のユーザーによって、すでに静止されているにもかかわらず、インスタンスを静止するというような、静止のオーバーラップになるインスタンスまたはデータベースの静止が試みられました。

静止タイプ *type* は、すでに静止されているインスタンスまたはデータベースを参照しています。'1' がインスタンスで、'2' がデータベースです。

ユーザーの処置: 現在インスタンスまたはデータベースを静止しているユーザーに連絡して、DB2 が静止から解放される時期を尋ね、解放されたときに要求を再試行してください。

SQL1371W インスタンスまたはデータベース *name* はすでに静止状態にあります。静止タイプ: *quiesce-type*

説明: すでに静止状態にあるインスタンスまたはデータベースを静止しようとしてしました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL1372N トランザクションの実行中は、静止を実行できません。

説明: 静止を発行するユーザーが、未完の作業単位を持っているにもかかわらず、データベースまたはインスタンスを静止しようとしてしました。この状態の間は、静止を発行できません。

ユーザーの処置: 作業単位を完了 (COMMIT または ROLLBACK) させて、もう一度やり直してください。

SQL1373W インスタンスまたはデータベース *name* は、静止状態にされていないために静止解除を行うことができません。

説明: インスタンスまたはデータベースが静止状態ではないため、静止解除が失敗しました。

ユーザーの処置: 静止解除が正しいインスタンスまたはデータベースに対して発行されていることを確認してください。

SQL1374N インスタンスまたはデータベース *name* は、他のユーザー *username* によって静止状態にされているために、**QUIESCE RESET** を行うことができません。

説明: インスタンスまたはデータベースが静止されましたが、それは他のユーザーによって行われました。

ユーザーの処置: *quiesce reset* が正しいインスタンスまたはデータベースに対して発行されていることを確認してください。

SQL1375N 無効なパラメーターが *api* に渡されました。パラメーター *parm-code* がエラーです。

説明: *parm-code* が、以下のエラーがあるパラメーターを示しています。

- 1 有効範囲
- 2 オプション

値が範囲外または無効である可能性があります。

ユーザーの処置: *api* の構文をチェックしてパラメーターを訂正し、もう一度やり直してください。

SQL1380N 予期しない Kerberos セキュリティ・エラーが起きました。

説明: 認証中に、予期しない Kerberos セキュリティ・エラーが起きました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL1381N Security Support Provider Interface が使用可能ではありません。

説明: Security Support Provider Interface (SSPI) が使用可能ではなかったため、認証に失敗しました。

ユーザーの処置: Windows オペレーティング・システムを稼働している場合、ファイル *security.dll* がシステム・ディレクトリに存在することを確認してください。また、使用されているオペレーティング・システムで SSPI がサポートされていることを確認してください。

SQL1382N Kerberos サポートが使用可能ではありません。

説明: Kerberos サポートがインストールされていないため、認証に失敗しました。

ユーザーの処置: Kerberos サポートがインストールされ、操作可能であることを確認してから、接続を再び試みてください。

SQL1383N ターゲット・プリンシパル名が無効です。

説明: CATALOG DATABASE コマンドに指定されたターゲット・プリンシパル名が無効です。

ユーザーの処置: UNCATALOG DATABASE コマンドを使用して、無効なターゲット・プリンシパル名を含んでいるデータベース項目を除去してください。

CATALOG DATABASE コマンドを使用して、有効なターゲット・プリンシパル名でデータベース項目を再カタログしてから、接続を再び試みてください。

Windows オペレーティング・システム環境を稼働している場合、ターゲット・プリンシパル名は、形式 <domain name>\<user ID> の DB2 サービスのログオン・アカウント名です。

SQL1384N 相互認証を完了できません。

説明: クライアントまたはサーバーが相互認証を完了できなかったため、接続に失敗しました。

ユーザーの処置: ターゲット・プリンシパル名が CATALOG DATABASE コマンドに指定された場合、クライアントが接続を試みているサーバーに対し、ターゲット・プリンシパル名が有効であることを確認してください。

Windows オペレーティング・システム環境を稼働している場合、ターゲット・プリンシパル名は、形式 <domain name>\<user ID> の DB2 サービスのログオン・アカウント名です。

ターゲット・プリンシパル名が無効と思われる場合は、IBM サービスまでご連絡ください。

SQL1390C 環境変数 DB2INSTANCE が定義されていないか、または無効です。

説明: 環境変数 DB2INSTANCE が定義されていないか、または有効なインスタンス所有者に設定されていません。

ユーザーの処置: DB2INSTANCE 環境変数を、使用するインスタンスの名前に設定してください。使用するインスタンスの名前、または DB2INSTANCE 環境変数のインスタンス名への設定方法が分からない場合は、「管理ガイド」を参照してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: DB2INSTANCE 情報については、「フェデレーテッド・システム・ガイド」を参照してください。

PATH 環境変数に、使用するインスタンスのホーム・ディレクトリーの sqllib/adm パスが入っていることを確認してください (たとえば、/u/instance/sqllib/adm で、/u/instance は、UNIX システムのインスタンス所有者の

ホーム・ディレクトリーです)。

SQL1391N データベースは、すでに他のインスタンスで使用中です。

説明: データベースが、データベース・マネージャーの他のインスタンスによって使用中 (データベースは、1 つのインスタンスにしか使用できない可能性があります) のために、要求が失敗しました。これは、他のマシンにある他のインスタンスにもアクセス可能な、取り付け済みファイル・システム上のデータベースにアクセスしようとして起こる可能性があります。

また、データベースに対してオープン接続 (SNA を介して) をもっていて、データベース・マネージャーが異常終了した場合にも、これが起こることがあります。

ユーザーの処置:

- 正しいデータベースを使用しており、このデータベースを他のインスタンスが使用していないことを確認してください。
- データベース・マネージャーが異常終了して、それに対してコマンド行プロセッサ接続がある場合には、「db2 の終了」を実行して、問題のオープン接続をクローズしてから、もう一度接続をやり直してください。

sqlcode: -1391

sqlstate: 51023

SQL1392N *prep,-bind,-import,-export* を使用しているアプリケーションの複数インスタンスがサポートされていません。

説明: WINDOWS 内では、一時点で実行できるインスタンスは prep、bind、import、export のいずれか 1 つだけです。

ユーザーの処置: WINDOWS 内では、prep、bind、import、export を使用するアプリケーションを複数始動しないでください。

SQL1393C 環境変数 DB2PATH が定義されていないか、または無効です。

説明: 環境変数 DB2PATH が定義されていないか、または有効なディレクトリー・パスに設定されていません。

ユーザーの処置: DB2PATH 環境変数を、データベース・マネージャーがインストールされているディレクトリーに設定してください。

SQL1394N インスタンスが定義されていません。

説明: インスタンスが未定義のため、新規インスタンスがアプリケーションに設定できません。

ユーザーの処置: 指定されたインスタンス名が存在することを確認してください。 db2ilist コマンドを使用して、インスタンスのリストを表示します。

```
db2ilist
```

SQL1395N アプリケーションが複数のコンテキストを使用しているため、別のインスタンスに切り替えできません。

説明: アプリケーションが複数のコンテキストを使用しているため、別のインスタンスに切り替える要求が失敗しました。

ユーザーの処置: 別のインスタンスに切り替える前に、アプリケーションが複数のコンテキストを使用していないか、確認してください。

SQL1396N アプリケーションがデータベースに接続あるいはインスタンスに接続しているため、別のインスタンスに切り替えできません。

説明: アプリケーションがデータベースに接続あるいはインスタンスに接続しているため、別のインスタンスに

SQL1400 - SQL1499

SQL1400N 認証はサポートされていません。

説明: 指定された認証タイプはサポートされていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターの値を使用して、コマンドを再発行してください。

サポートされている認証タイプのリストについては、「アプリケーション開発ガイド」を参照してください。

SQL1401N 認証タイプが一致しません。

説明: リモート・ノードの認証タイプとは異なる認証タイプで、ローカル・ノードにカタログされているリモート・データベースに接続しようとした。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: このメッセージは以下の場合にも表示されます。

- データ・ソースが SYSCAT.SERVEROPTIONS に OPTION='PASSWORD' の SETTING='N' を指定して識別され、データ・ソースが承認クライアント・モードで実行されていない (つまり、データ・ソースにパスワードが必要である)。

切り替える要求が失敗しました。

ユーザーの処置: 別のインスタンスに切り替える前に、アプリケーションがデータベースあるいはインスタンスに接続されていないか、確認してください。

SQL1397N DB2 サービスがログオンに失敗しました。

説明: DB2 サービスがログオンの失敗のため、開始できません。

ユーザーの処置: DB2 Administration Server を開始している場合、DB2ADMIN SETID コマンドで新規のログオン・アカウントを設定します。 Windows NT で DB2 サーバーを開始している場合、「コントロール パネル」の「サービス」ダイアログ・ボックスを使用して、DB2 サービスに対するログオン・アカウントを設定することができます。

- データ・ソースが SYSCAT.SERVEROPTIONS で OPTION='PASSWORD' に SETTING='Y' を指定して識別されており、データ・ソースがトラステッド・クライアント・モード (データ・ソースがパスワードを予期しないモード) で実行されている。
- SYSCAT.SERVEROPTIONS の OPTION='PASSWORD' にサーバー・オプションが指定されておらず、PASSWORD に対するシステム・デフォルト値が、データ・ソース・パスワード要件に違反している。

ユーザーの処置: コマンドは処理されません。

リモート・データベースと同じ認証タイプで、クライアント・ノードにデータベース別名を再カタログしてください。 コマンドを再サブミットしてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー:

- データ・ソースがパスワードを必要としているが、そのサーバーについて SYSCAT.SERVEROPTIONS に OPTION='PASSWORD' の SETTING='N' が含まれているという問題がある場合は、ALTER SERVER SQL ステートメントを使用して

SYSCAT.SERVEROPTIONS を変更し、正しいデータ・ソース・パスワード要件を反映させてください。

- データ・ソースがパスワードを必要としていないが、SYSCAT.SERVEROPTIONS には OPTION='PASSWORD' の SETTING='Y' が含まれているという問題がある場合は、ALTER SERVER SQL ステートメントを使用して SYSCAT.SERVEROPTIONS を変更し、正しいデータ・ソース・パスワード要件を反映させてください。
- OPTION='PASSWORD' のサーバー・オプションが SYSCAT.SERVEROPTIONS に設定されていない場合は、CREATE SERVER SQL ステートメントを使用して項目を作成し、正しいデータ・ソース・パスワード要件を反映させてください。

sqlcode: -1401

sqlstate: 08001

SQL1402N 予期しないシステム・エラーのため、ユーザーを認証できません。

説明: システム管理者に連絡してください。UNIX ベース・システムでは、ファイル *db2ckpw* に正しい許可ビット・セットがないかあるいはシステムがスワップ/ページング・スペースを使いきっている可能性があります。Windows NT で、DB2 セキュリティー・サービスが開始されていないか、またはアカウントがロックされている可能性があります。

コマンドは処理されません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置: UNIX ベース・システムでは、システム管理者に頼んで、*db2ckpw* に対する正しいアクセス許可が設定されているか、十分なスワップ/ページング・スペースがあるか確認してもらってください。Windows NT ではシステム管理者に頼んで、DB2 セキュリティー・サービスがインストールされ始動されていることを確認してください。サービスが実行されている場合は、アカウントがロックされていないことを確認してください。

SQL1403N 指定されたユーザー名とパスワードのいずれか、またはその両方が正しくありません。

説明: 指定された無効なユーザー名とパスワードのいずれか、またはその両方が正しくないか、ユーザー名/パスワードの組み合わせが無効か、または接続しようとしているデータベースの認証タイプが SERVER で、

CONNECT TO ステートメントにユーザー名とパスワードが指定されていません。

DB2 Connect を使用している場合には、ホスト接続用の DCS ディレクトリー項目が見つからなかったことが問題である可能性があります。

認証サーバーによって、OS/2 クライアントから UNIX ベース・サーバーに接続していて、ユーザー ID およびパスワードを UPM からピックアップしている場合には、サーバーのユーザー ID は小文字で定義されていて、大文字のパスワードでなければなりません。

コマンドは処理されません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置: 正しいユーザー名とパスワードの組み合わせを提供してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー:

SYSCAT.USEROPTIONS の項目が、アクセスされるデータ・ソースの正しいユーザー名とパスワードを含むことを確認してください。

sqlcode: -1403

sqlstate: 08004

SQL1404N パスワードの期限が切れました。

説明: パスワードの期限が切れています。

ユーザーの処置: パスワードを変更した後で、新しいパスワードを使用して要求を再試行してください。DB2 クライアント構成アシスタント、あるいはコマンド行プロセッサの CONNECT および ATTACH コマンドを使用して、パスワードを変更します。

sqlcode: -1404

sqlstate: 08004

SQL1405N ローカル DB2 認証サーバーと通信できません。

説明: ローカル DB2 認証サーバーとの通信中のエラーのために、アプリケーションが認証に失敗しました。

ユーザーの処置: DB2 認証サーバーが、OS/2 ウィンドウから以下のコマンドを入力して、始動されていることを確認してください。

```
detach db2upm
```

SQL1415N ステートメントは診断の目的のためにだけコンパイルされたので、これは実行されていません。

説明: ステートメントは、サービス機能を使用して診断情報を収集するために、システムの一部を介して処理されました。ステートメントのその後の処理を可能にするために必要なステップは完了していません。

ユーザーの処置: このエラーは、サービス機能を使用して準備されたステートメントのシステムで、それ以上の処理ができないようにするために戻され、予定されたものです。

SQL1420N 連結演算子が多すぎます。

説明: 連結演算子の入った、長いまたはラージ・オブジェクト・ストリング結果タイプの式の評価中に、データベース・マネージャーが内部限界に達しました。

ユーザーの処置: 式の連結数を減らして、もう一度やり直してください。

sqlcode: -1420

sqlstate: 54001

SQL1421N ホスト変数または `sqlvar number` を `from wchar_t format` に変換 (またはその逆に変換) 中に、MBCS 変換エラーが発生しました。理由コード `rc`

説明: 組み込み SQL ステートメントを持つ C/C++ アプリケーションが、WCHARTYPE CONVERT オプションでプリコンパイルされました。実行時に、入力ホスト変数の場合は `wstombs()`、出力ホスト変数の場合は `mbstowcs()` の変換中に、アプリケーションがエラーを受け取りました。ホスト変数または `sqlvar` 番号は、問題を起こしたデータ項目を示しています。有効な理由コードは、以下のとおりです。

1 入力データで問題が起きました

2 出力データで問題が起きました

ユーザーの処置: アプリケーション・データがすでに MBCS 形式の場合は、WCHARTYPE NOCONVERT を使用してアプリケーションをプリコンパイルして、再作成してください。アプリケーション・データが `wchar_t` 形式であることを意図している場合は、`wstombs()` で失敗する入力データは壊れている可能性があります。データを訂正して、アプリケーションを再実行してください。

sqlcode: -1421

sqlstate: 22504

SQL1422N コンテナのサイズが無効です。

説明: データベース管理表スペースで使用されるコンテナのいずれかが、大きすぎるか、または小さすぎます。コンテナの長さは、少なくとも 2 * エクステン・サイズ・ページでなければなりません。コンテナの最大サイズは、オペレーティング・システムによって異なります。最も一般的なシステム制限は 2 ギガバイト (524288 4K ページ) です。

ユーザーの処置: 詳細については管理通知ログをチェックしてください。その後で、SQL ステートメントを訂正してください。

sqlcode: -1422

sqlstate: 54039

SQL1423N 照会に、大規模オブジェクト・データ・タイプを持つ列が含まれています。

説明: 照会に、データ・タイプ BLOB、CLOB または DBCLOB を持つ列が含まれています。通常、このようなデータ・タイプは、バージョン 2.1 以前のクライアントからは処理できません。

警告 SQLCODE +238 に対応する状況のエラーが起きました。状況に関する詳細については、このメッセージを参照してください。このメッセージを受け取ったクライアント・レベルでは、BLOB データ・タイプを処理できません。SUBSTR 関数を使用するか、または LOB 列が、サポートされている長さの文字データ・タイプより大きくない場合は、SQLDA のデータ・タイプをバージョン 1 で使用可能な文字データ・タイプのいずれかに設定することにより、CLOB および DBCLOB データ・タイプの処理が可能になる場合があります。

ユーザーの処置: 照会を変更して、データ・タイプ BLOB、CLOB または DBCLOB を持つ列を除外してください。照会に、タイプ BLOB の列が含まれている場合は、これが唯一可能なアクションです。列 (たとえば C1) が CLOB の場合は、CAST(C1 AS LONG VARCHAR) を使用すると、最初の 32700 文字を取得することができます。同様に、DBCLOB 列 (DC1) の場合は、CAST(DC1 AS LONG VARGRAPHIC) を使用すると、最初の 16350 文字を取得することができます。アプリケーション・コードが変更可能な場合は、コードを追加して SQLDA を変更し、LONG VARCHAR または LONG VARGRAPHIC を CLOB および DBCLOB に対して使用するようになります。

sqlcode: -1423

sqlstate: 56093

SQL1424N 遷移変数および遷移表列に対する参照が多すぎるか、またはそれらの参照の行が長すぎます。理由コード =rc。

説明: トリガーに、1 つ以上の遷移表および遷移変数を識別する REFERENCING 文節が入っています。トリガーのトリガー・アクションに、理由コードによって以下のいずれかの状態が示されている、遷移表の列または遷移変数に対する参照が含まれています。

- 1 表の列数の制限を超える参照の合計
- 2 表の行の最大長を超える参照の合計長

ユーザーの処置: トリガーのトリガー・アクションにおける、遷移変数および遷移表の列に対する参照の数を減らして、長さが短くなるようにするか、またはその参照の合計数が、表の列の最大数より小さくなるようにしてください。

sqlcode: -1424

sqlstate: 54040

SQL1425N パスワードがユーザー ID なしで指定されました。

説明: ユーザー ID とパスワードを受け入れるコマンド/API は、ユーザー ID なしのパスワードは受け入れません。

ユーザーの処置: コマンド/API を再サブミットして、すでにパスワードを指定している場合は、ユーザー ID を指定してください。

SQL1426N デフォルト・インスタンスが判別できません。

説明: 明示的に 'インスタンスへの ATTACH' が実行されていない場合は、インスタンス・コマンドがデフォルト・インスタンスへの暗黙的なアタッチメントを確立しようとして、デフォルト・インスタンスは、DB2INSTDFLT および DB2INSTANCE 環境変数から決定されます。両方とも設定されていない場合は、暗示アタッチメントは確立できません。

ユーザーの処置: 上記のいずれかの環境変数を有効なインスタンス名に設定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1427N インスタンス・アタッチメントが存在しません。

説明: アプリケーションがインスタンスに ATTACH されていません。既存のインスタンス・アタッチメントが存在しないかぎり、要求されたコマンド/API は実行できません。

ユーザーの処置: インスタンスからの切断中にエラーが起きた場合は、処理が続けられます。他のコマンドの処理中にエラーが起きた場合は、インスタンスに ATTACH して、失敗したコマンドを再発行してください。

SQL1428N 出されたコマンドが正常に実行されるためには、nodename2 へのアタッチメントが必要ですが、アプリケーションがすでに nodename1 にアタッチされています。

説明: コマンドを正常に処理するには、現在存在しているノード以外のノードに対するアタッチメントが必要です。アプリケーションは、1) コマンドが発行されたときにアタッチメントを持っていないか、または 2) コマンドが必要とするノードにすでにアタッチされている必要があります。

ユーザーの処置: コマンドを発行する前に、アプリケーションがアタッチメントをもっていないこと、または存在するアタッチメントが正しいノードに対するものであることを確認してください。

SQL1429N ノード名が DB2INSTANCE 環境変数の値と一致する、ノード・ディレクトリー項目は作成できません。

説明: CATALOG NODE コマンドまたは API では項目が許可されず、そのノード名は DB2INSTANCE 環境変数の値と一致しています。

ユーザーの処置: ノードがカタログされている別のノード名を選択して、もう一度やり直してください。

SQL1430N データベース名 database が、ノード nodename のシステム・データベース・ディレクトリーで見つかりません。

説明: 特定のデータベース名がデータベース・モニターに指定されている場合は、それらのデータベースが、ユーザーが現在 ATTACH しているノード、またはローカル・ノードに常駐している必要があります。

ユーザーの処置: 要求にリストされているすべてのデータベースが、ユーザーが ATTACH しているノード、またはローカル・ノードに常駐していることを確認してください。要求を再発行してください。

SQL1431N リモートでの実行中は、相対パス path は使用できません。

説明: アプリケーションがサーバーからリモートである場合は、相対パスを使用できません。

ユーザーの処置: サーバーで有効な完全修飾パスを指定

して、コマンドを再発行してください。

SQL1432N サーバーが認識しないデータベース・プロトコルを使用して、サーバーに要求が送られました。

説明: このエラーは、要求の伝送に使用しているデータベース・プロトコルを理解しないサーバーに対して DB2 要求が送信したことが原因で起こります。この状況は、DB2 バージョン 2 またはそれ以上のサーバーでないノード・ディレクトリーにリストされたサーバーに DB2 ATTACH 要求を送信すると、よく起こることがあります。また、ATTACH 要求を AS/400 サーバー用の DB2、MVS サーバー用の DB2、およびまたは VM および VSE サーバーの用の DB2 に送信した時にも起こることがあります。

ユーザーの処置: 上にリストされたサーバーに ATTACH を試みないでください。

SQL1433N アプリケーションはすでに *database1* に接続されていますが、出されたコマンドを正常に実行するためには、*database2* への接続が必要です。

説明: コマンドを正常に処理するには、現在存在しているデータベース以外のものに対する接続が必要です。アプリケーションは次のいずれかでなければなりません。1) コマンドが出された時に接続がないか、あるいは 2) コマンドに必要なデータベースにすでに接続されている。

ユーザーの処置: コマンドを発行する前に、アプリケーションが接続をもっていないこと、または存在する接続が正しいデータベースに対するものであることを確認してください。

SQL1434N 32 ビットおよび 64 ビット・プラットフォーム間のクライアント/サーバー非互換性のため、CONNECT または ATTACH ステートメントが失敗しました。

説明:

- バージョン 7 は、32 ビットと 64 ビットのプラットフォーム間のクライアント/サーバー接続をサポートしていません。
- バージョン 8 Windows 64-bit データベース・サーバーは、バージョン 7 の 64-bit クライアントからのクライアント/サーバー接続をサポートしていません。

ユーザーの処置: 上記のシナリオ 1 に対し、以下のシナリオで CONNECT または ATTACH ステートメントを発行することができます。

- 32 ビット・クライアントから 32 ビット・サーバー
- 64 ビット・クライアントから 64 ビット・サーバー

上記のシナリオ 2 に対し、サポートされているクライアントからステートメントを再発行します。

sqlcode: -1434

sqlstate: 08004

SQL1440W WITH GRANT OPTION は、GRANT (データベース権限) ステートメント、GRANT (索引特権) ステートメント、または表またはビューに対して CONTROL 特権を GRANT するときに無視されています。

説明: WITH GRANT OPTION は、データベース権限または特権、あるいは索引に対する特権を GRANT するときには適用されません。WITH GRANT OPTION は、表、ビュー、索引またはパッケージの CONTROL 特権を適用していません。

有効な要求された特権はすべて付与されました。

ユーザーの処置: データベース権限または索引特権を GRANT する場合、WITH GRANT OPTION 文節を含めないでください。CONTROL を GRANT しているときは、WITH GRANT OPTION 文節を指定せずに、CONTROL 権限の分離 GRANT ステートメントを使用してください。

sqlcode: +1440

sqlstate: 01516

SQL1441N 無効なパラメーターです。理由コード *code*

説明: 以下は有効な理由コードのリストです。

- 1 コンテキスト・ポインターに NULL が渡されました。
- 3 コンテキスト・ポインターは初期化されましたが、有効なコンテキスト領域ではありません。
4. 無効なオプション
- 5 予約されたパラメーターは NULL ではありませんでした。

ユーザーの処置: アプリケーション・コンテキスト・ポインターが正しく初期化され、使用されているオプションが有効であることを確認してから、再試行してください。

SQL1442N コンテキストは使用中でもなく、現行スレッドでも使用されていません。理由コード *code*

説明: 以下の理由で呼び出しが失敗しました。

- 1 コンテキストはどのスレッドにも使用されていません (アタッチが行われていません)。
- 2 コンテキストは現行スレッドによって使用されていません。
- 3 現行スレッドはコンテキストを使用していません。

ユーザーの処置: 切り離し呼び出しの場合、コンテキストが現行スレッドによって使用されているもので、対応するアタッチが行われていることを確認してください。

get 現行コンテキスト呼び出しの場合、スレッドが現在コンテキストを使用しているか確認してください。

SQL1443N スレッドはすでにコンテキストにアタッチされています。

説明: ユーザーはコンテキストをスレッドにアタッチしようとしたが、スレッドはすでにコンテキストを使用しています。

ユーザーの処置: 新しいコンテキストにアタッチする前に、前のコンテキストから切り離してください。

SQL1444N 使用中のため、アプリケーション・コンテキストは破棄できません。

説明: ユーザーはまだ使用中にもかかわらず、アプリケーション・コンテキストを破棄しようとした。コンテキストに接続しているスレッドがあるか、コンテキストにはそれに関連した CONNECT または ATTACH があります。破棄する前に、CONNECT RESET または DETACH を行い (CONNECT または ATTACH が行われていた場合)、コンテキストからすべてのスレッドを切り離してください。

ユーザーの処置: コンテキストに接続しているすべての呼び出しに対応する切り離しがあり、すべての CONNECTS には対応する CONNECT RESET があり、すべての ATTACHES には対応する DETACH があることを確認してください。

SQL1445N スレッドまたは処理には使用するためのコンテキストがありません。

説明: SQL_CTX_MULTI_MANUAL のコンテキスト・タイプには影響しますが、現行のスレッドまたは処理はコンテキストにアタッチされていません。

ユーザーの処置: データベース呼び出しを行う前に、現

行のスレッドまたは処理がコンテキストにアタッチされているか確認してください。

SQL1450N 登録情報ポインターが無効です。

説明: 無効な登録情報ポインターが、register/deregister DB2 server command/API に渡されました。

ユーザーの処置: 有効なポインターが、register/deregister DB2 server command/API に渡されたことを確認してください。

SQL1451N DB2 サーバーの登録または登録取り消しは、サーバー・ノードから発行しなければなりません。

説明: DB2 サーバーの登録または登録取り消しが、無効なノードから発行されました。

ユーザーの処置: サーバー・ノードから register/deregister DB2 server command/API を再発行してください。

SQL1452N 無効な登録ロケーションが指定されました。

説明: 無効な登録ロケーションが、register/deregister DB2 server command/API に渡されました。

ユーザーの処置: 有効な登録ロケーションが、register/deregister DB2 server command/API に渡されたことを確認してください。

SQL1453N データベース・マネージャー構成ファイルのファイル・サーバー名の項目がないか、または無効です。

説明: configuration command/API またはデータベース・マネージャー構成ファイルに指定されたファイル・サーバー名がないか、または無効です。

ユーザーの処置: ファイル・サーバー名が指定されており、名前に無効な文字が含まれておらず、48 文字より長くないことを確認してください。データベース・マネージャー構成ファイルのファイル・サーバー名を更新して、command/API を再サブミットしてください。

SQL1454N データベース・マネージャー構成ファイルのオブジェクト名の項目がないか、または無効です。

説明: configuration command/API またはデータベース・マネージャー構成ファイルに指定されたオブジェクト名がないか、または無効です。

ユーザーの処置: オブジェクト名が指定されており、名

前に無効な文字が入っておらず、48 文字より長くないことを確認してください。データベース・マネージャ構成ファイルのオブジェクト名を更新して、command/API を再サブミットしてください。

SQL1455N データベース・マネージャ構成ファイルの IPX ソケット番号の項目がないか、または無効です。

説明: configuration command/API またはデータベース・マネージャ構成ファイルに指定された IPX ソケット番号がないか、または無効です。

ユーザーの処置: IPX ソケット番号が指定されており、番号に無効な文字が入っておらず、4 文字よりも長くないことを確認してください。データベース・マネージャ構成ファイルの IPX ソケット番号を更新して、command/API を再サブミットしてください。

SQL1456N データベース・マネージャ構成ファイルに指定されたオブジェクト名は、すでに NetWare ファイル・サーバーに存在しません。

説明: DB2 サーバー・オブジェクト名を NetWare ファイル・サーバーに登録するときに、重複するオブジェクト名が見つかりました。

ユーザーの処置: データベース・マネージャ構成ファイルに指定されたオブジェクト名は、すでに使用されています。オブジェクト名を変更して、DB2 サーバーを再登録してください。

SQL1457N NetWare ディレクトリー・サービス接続が、すでに NetWare ファイル・サーバーに対して確立されているために、登録/登録解除が、指定されたそのファイル・サーバーにログインできませんでした。

説明: NetWare ディレクトリー・サービス接続が、すでに指定されたファイル・サーバーに対して確立されている場合は、NWLoginToFileServer を使用したバインダリー・ログインは実行できません。

ユーザーの処置: ディレクトリー・サービス接続をログアウトして切断し、ディレクトリー・サービスから切り離れた後で、登録/登録解除を再発行してください。

SQL1458N 直接アドレス指定用の IPX/SPX が、データベース・マネージャ構成ファイルに構成されています。NetWare ファイル・サーバーに対する DB2 サーバーの登録/登録解除は必要ありません。

説明: データベース・マネージャ構成ファイルが、IPX/SPX 直接アドレス指定用に構成されているため、登録/登録解除の発行は必要ありません。例: Fileserver と objectname が '*' で指定されています。

ユーザーの処置: DB2 サーバーは直接アドレス指定用に構成されているので、ファイル・サーバー・アドレス指定を使用する IPX/SPX クライアントは、このサーバーに接続できません。IPX/SPX クライアント・アドレス指定の両方のタイプをサポートするサーバーの場合は、fileserver と objectname をデータベース・マネージャ構成ファイルに指定してください。

SQL1460N SOCKS サーバー名の解決に必要な環境変数 variable が定義されていないか、または無効です。

説明: SOCKS 環境変数 SOCKS_NS または SOCKS_SERVER が定義されていません。SOCKS プロトコル・サポートには、これらの両方の環境変数の定義が必要です。

SOCKS_NS

これはドメイン・ネーム・サーバーの IP アドレスであり、ここに SOCKS サーバーが定義されます。

SOCKS_SERVER

これは SOCKS サーバーのホスト名です。

ユーザーの処置: 脱落している環境変数を定義して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1461N セキュリティー・オプション security が無効です。

説明: TCP/IP ノードの SECURITY オプションに 'SOCKS' 以外の値があります。このオプションは、カタログしている TCP/IP ノードを使用可能にするために使用され、ファイアウォールを横切るために SOCKS プロトコル・サポートを使用します。'SOCKS' 以外の値は許されません。

ユーザーの処置: SOCKS プロトコル・サポートが必要なことを確認してください。その場合には、SECURITY SOCKS によってノードのカタログをやり直してください。そうでない場合には、ノードのカタログをやり直しますが、SECURITY オプションを省いてください。

SQL1462N 要求は同期点マネージャー接続のみに有効です。

説明: 試行された要求は同期点マネージャー接続に対してのみ有効ですが、同期点マネージャー・インスタンスは接続されていません。

ユーザーの処置: 同期点マネージャー・インスタンスに接続し、要求を再発行してください。

SQL1468N ノード *node-num2* への **CONNECT** または **ATTACH** を試行する前に、サーバー・インスタンス *instance* (ノード番号 *node-num1*) で、データベース・マネージャー **TCP/IP Listener** が構成され、実行されている必要があります。

説明: ノードを *node-num2* に **CONNECT** または **ATTACH** するよう設定するために、**SET CLIENT** コマンドまたは *api*、あるいは環境変数 **DB2NODE** が使用されました。このノードに **CONNECT** または **ATTACH** するには、サーバー・インスタンス *instance* (ノード *node-num1*) でデータベース・マネージャー **TCP/IP Listener** が構成され、実行されている必要があります。

注: このメッセージは暗黙的 **CONNECT** あるいは **ATTACH** で返される可能性があります。

ユーザーの処置: 次のいずれかを行ってください。

- *svcename* が、インスタンス *instance*、ノード *node-num1* 上のデータベース構成に指定されており、**DB2COMM** 環境変数が **TCP/IP** を指定するように設定され、**TCP/IP Listener** が **DB2START** 時刻に正常に開始されていることを確認します。
- または
- ノードとデータベースを明示的にカタログしてください。

sqlcode: -1468

sqlstate: 08004

SQL1469N インスタンス *instance-name* (ノード番号 *node-num1*) では、ノード *node-num2* が **db2nodes.cfg** ファイルに指定されていません。

説明: ノードを *node-num2* に **CONNECT** または **ATTACH** するよう設定するために、**SET CLIENT** コマンドまたは *api*、あるいは環境変数 **DB2NODE** が使用されました。後続の **CONNECT** または **ATTACH** 処理は、インスタンス *instance-name* (ノード *node-num1*) に

ある **db2nodes.cfg** ファイルでこのノードを見付けられませんでした。

注: このメッセージは暗黙的 **CONNECT** あるいは **ATTACH** で返される可能性があります。

ユーザーの処置: **SET CLIENT** コマンドか *api*、あるいは **DB2NODE** 環境変数によって指定されたノード番号が、中間インスタンス *instance-name*、ノード *node-num1* の **db2nodes.cfg** ファイルに存在していることを確認してください。

sqlcode: -1469

sqlstate: 08004

SQL1470N **DB2NODE** 環境変数の値が有効ではありません。

説明: **DB2NODE** 環境変数は、アプリケーションが接続を試行するノードを示します。**DB2NODE** が未設定またはブランクの場合、このアプリケーションはデフォルト・ノードへの接続を試行します。それ以外は、**DB2NODE** をこのアプリケーションと同じホストで定義されたノードの 1 つのノードに設定する必要があります。

ユーザーの処置: **DB2NODE** 環境変数を次の値のいずれかに設定してください。

未設定

アプリケーションにデフォルト・ノードが接続されます。

ブランク

アプリケーションにデフォルト・ノードが接続されます。

番号

アプリケーションにそのノード番号が接続されます。このノードはこのアプリケーションと同じホストで実行されていなくてはなりません。

sqlcode: -1470

sqlstate: 08001

SQL1471N このノードのデータベースがカタログ・ノードと同期化していないため、ノード *node-number* のデータベース *database-name* に接続できません。

説明: このノードのログの終わりの情報がカタログ・ノードの対応するレコードと一致しません。これは、別の場合にバックアップされたノードのデータベースをリストアするため起こります。

ユーザーの処置: データベースが 1 つのノードでロー

ルフォワードなしでリストアされている場合、データベースがロールフォワードなしですべてのノードで一致するオフライン・バックアップでリストアされていることを確認してください。

sqlcode: -1471

sqlstate: 08004

SQL1472N カタログ・ノードのシステム時刻とこのノードの仮想タイム・スタンプとの間の相違が **max_time_diff** データベース・マネージャー構成パラメーターより大きいため、ノード *node-number* のデータベース *database-name* に接続できません。

説明: コンピューター構成時のシステム時刻の相違 (db2nodes.cfg ファイルにリストされている) は *max_time_diff* データベース・マネージャー構成パラメーターより大きいです。

ユーザーの処置: すべてのコンピューターのシステム時刻を合わせて、*max_time_diff* パラメーターがデータベース・マシン間の通常の通信遅延ができるように構成されているか、確認してください。

上記を実行しても問題が解決しない場合、原因とアクションを調べるには「管理ガイド」を参照してください。

sqlcode: -1472

sqlstate: 08004

SQL1473N ローカル・ノードのシステム時刻とノード *node-list* の仮想タイム・スタンプ間の相違が **max_time_diff** データベース・マネージャー構成パラメーターより大きいため、トランザクションをコミットできません。トランザクションはロールバックされません。

説明: コンピューター構成時のシステム時刻の相違 (db2nodes.cfg ファイルにリストされている) は *max_time_diff* データベース・マネージャー構成パラメーターより大きいです。

、...” がノード・リストの最後に表示された場合、完全なノード・リストについては、syslog ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: すべてのコンピューターのシステム時刻を合わせて、*max_time_diff* パラメーターがデータベース・マシン間の通常の通信遅延ができるように構成されているか、確認してください。

sqlcode: -1473

sqlstate: 40504

SQL1474W トランザクションは正常に完了しましたが、ローカル・ノードのシステム時刻とノード *node-list* の仮想タイム・スタンプ間の時刻の相違が **max_time_diff** データベース・マネージャー構成パラメーターより大きくなっています。

説明: コンピューター構成時のシステム時刻の相違 (db2nodes.cfg ファイルにリストされている) は *max_time_diff* データベース・マネージャー構成パラメーターより大きいです。

この警告メッセージはこの状態に影響されないため、読み取り専用トランザクションに返されます。ただし、これ以外のトランザクションはロールバックされます。このメッセージはユーザーになるべく早くアクションをとるようにこの状態について通知するものです。

、...” がノード・リストの最後に表示された場合、完全なノード・リストについては、syslog ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: すべてのコンピューターのシステム時刻を合わせて、*max_time_diff* パラメーターがデータベース・マシン間の通常の通信遅延ができるように構成されているか、確認してください。

sqlcode: 1474

sqlstate: 01607

SQL1475W CONNECT RESET 処理中にシステム・エラーが起きました。

説明: CONNECT RESET は成功しましたがノード障害やコミュニケーション・エラーのようなシステム・エラーが起きる可能性があります。

ユーザーの処置: 詳細については管理通知ログをチェックしてください。このノードのデータベースを再始動する必要があります。

sqlcode: 1475

sqlstate: 01622

SQL1476N 現行トランザクションがエラー *sqlcode* のため、ロールバックしました。

説明: トランザクションは、以下の理由によりロールバックされました。

1. 暗黙的または明示的 CLOSE CURSOR が失敗しました。
2. NOT LOGGED INITIALLY オプションで表を作成中であったか、または NOT LOGGED INITIALLY が既存の表に対して活動化されました。同じ作業単位でエラーが起こったか、または ROLLBACK TO

SAVEPOINT ステートメントが出されました。この作業単位はロールバックし、以下のようになります。

- この作業単位で作成された表はすべてドロップされます。
- トランザクションで活動化された NOT LOGGED INITIALLY 表はすべてアクセス不能とマークされており、ドロップだけを行うことができます。
- ROLLBACK TO SAVEPOINT がトランザクション内で出された場合、*sqlcode* は 0 になります。

3. ROLLBACK TO SAVEPOINT が失敗したか、または RELEASE SAVEPOINT が失敗しました。

ユーザーの処置: エラー *sqlcode* で示された問題を訂正して、トランザクションを再実行してください。NOT LOGGED INITIALLY 表が作成または活動化される、同じトランザクションで使用されている ROLLBACK TO SAVEPOINT ステートメントを除去してください。

sqlcode: -1476

sqlstate: 40506

SQL1477N 表 *table-name* にアクセスできません。

説明: アクセスできない表に対してアクセスしようとしてしました。以下のいずれかの理由のため、この表にアクセスできないと思われます。

- 作業単位がロールバックされたとき、表が NOT LOGGED INITIALLY を活動化していた
- 表は宣言されたパーティション一時表で、その表が宣言されたために 1 つ以上のパーティションに障害が起こった (宣言された一時表はすべてスキーマ名 SESSION)
- ROLLFORWARD が、この表での NOT LOGGED INITIALLY の活動化、またはこの表での NONRECOVERABLE ロードを見つけた

その保全性を保証できないため、この表へのアクセスは許可されていません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行うことができます。

- 表が NOT LOGGED INITIALLY を活動化している場合、この表をドロップしてください。この表が必要な場合、作成し直してください。
- 表が宣言された一時表であれば、この表をドロップしてください。この表が必要な場合、宣言し直してください。
- そうでない場合、表スペースまたはデータベース・バックアップからリストアしてください。バックアップ

プ・イメージは、リカバー不能操作 (NOT LOGGED INITIALLY 操作または NONRECOVERABLE ロード) の完了に続き、コミット・ポイントの後でとられています。

sqlcode: -1477

sqlstate: 55019

SQL1478W 定義されたバッファ・プールを開始できませんでした。代わりに、DB2 のサポートするページ・サイズごとに、小さいバッファ・プールを開始しました。

説明: 定義されたバッファ・プールを開始できませんでした。代わりに、DB2 のサポートするページ・サイズごとに、小さいバッファ・プールを開始し、拡張ストレージが使用不可になります。以下の理由から、定義されたバッファ・プールを開始できませんでした。

- バッファ・プールの合計サイズおよびこのデータベースに指定された拡張ストレージに対して十分なメモリーが割り振られていません。
 - データベース・ディレクトリーにあるバッファ・プール・ファイルが抜けているか、壊れています。
- ユーザーの処置:** 問題の正しいソースについては管理通知ログをチェックしてください。以下は適用可能なソリューションです。
- データベースを正しく開始できるように 1 つ以上のバッファ・プールの大きさをドロップするか、または変更してください。データベースに拡張ストレージが指定されている場合、*num_estore_segs* と *estore_seg_sz* の値をメモリーが少なくなくて済むよう、調整してください。

この変更を行ったあとで、データベースを切断しデータベースの開始をやり直してください。

sqlcode: +1478

sqlstate: 01626

SQL1479W 結果の設定が最初の行設定を返す前にフェッチを試みました。

説明: 要求された行セットが次に示すフェッチ・オリエンテーション指示によって、結果セットの開始をオーバーラップしました。

SQL_FETCH_PRIOR

次のいずれかの状態です。

- 現行ポジションが最初の行を超えて、現行行の数が行設定の大きさより小さいか、等しくなっています。
- 現行ポジションが結果セットの終わりを超えて、行設定の大きさが結果セットより大きくなっています。

SQL_FETCH_RELATIVE

フェッチ・オフセットの絶対値が現行行設定の大きさより小さいが等しくなっています。

SQL_FETCH_ABSOLUTE

フェッチ・オフセットが負で、フェッチ・オフセットの絶対値が結果セットの大きさより大きくなっていますが現行行設定の大きさより小さいか、等しくなっています。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL1480N DISCOVER データベース・マネージャー構成パラメーターで指定された discover type が無効です。

説明: データベース・マネージャー構成ファイルの DISCOVER パラメーターの有効値は DISABLE、KNOWN、あるいは SEARCH です。

ユーザーの処置: DISCOVER データベース・マネージャー構成パラメーターを DISABLE、KNOWN、あるいは SEARCH で更新してください。

SQL1481N DISCOVER_COMM パラメーターで指定した 1 つ以上の通信プロトコルが無効です。

説明: データベース・マネージャー構成ファイルの DISCOVER_COMM パラメーターの有効値は NETBIOS、および TCPIP の組み合わせをコンマで区切ったものです。

ユーザーの処置: DISCOVER_COMM データベース・マネージャー構成パラメーターを NETBIOS、および TCPIP をコンマで区切って組み合わせ、更新してください。

SQL1482W BUFPAGE パラメーターは、バッファ・プールのどちらか 1 つが -1 のサイズで定義されている場合のみ使用されません。

説明: バッファ・プール -1 のサイズで定義されていない場合、BUFPAGE データベース構成パラメーターが無視されることを警告しています。-1 は、バッファ・プールがバッファ・プール・ページとして BUFPAGE パラメーターが使用されていることを示します。

ユーザーの処置: SYSCAT.BUFFERPOOLS から選択し、バッファ・プールの定義をチェックしてください。サイズ -1 (NPAGES) でバッファ・プールが定義されていない場合、BUFPAGE パラメーターの設定はこのデータベースのバッファ・プールのサイズを変更しません。

SQL1490W 活動中のデータベースは正常ですが、このデータベースは 1 つ以上のノードですでにアクティブになっています。

説明: データベースが 1 つ以上のノードで、明示的に開始 (活動) しています。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL1491N データベースがまだ使用中のために、データベース name は非活動化されていません。

説明: 指定されたデータベースに接続されたアプリケーションがある場合には、そのデータベースを非活動化することはできません。

ユーザーの処置: すべてのアプリケーションが CONNECT RESET を行ったことを確認してから、もう一度やり直してください。

SQL1492N データベース name は活動状態になっていないために、これは非活動化されません。

説明: 指定されたデータベースはアクティブになっていないために、このデータベースを非アクティブ化することはできません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL1493N このアプリケーションは、アクティブ・データベースにすでに接続されています。

説明: アプリケーションがデータベースにすでに接続されているために、ACTIVATE DATABASE および DEACTIVATE DATABASE コマンドを先行することはできません。

ユーザーの処置: データベースから切り離してから、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1494W データベースの活動化は成功していますが、すでにデータベースへ接続されています。

説明: 1 つ以上のノードにデータベース接続がすでにあります。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL1495W データベースの非活動化は成功していますが、まだデータベースへ接続されているものがあります。

説明: 1 つ以上のノードにデータベース接続がまだあります。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL1496W データベースの非活動化は成功しましたが、データベースは活動化されていませんでした。

説明: 非活動化データベースが実行されるときに、1 つ以上のノードでデータベースは明示的に開始されました。

SQL1500 - SQL1599

SQL1512N `ddcstrc` が、指定されたファイルに書き込めませんでした。

説明: `ddcstrc` は、書き込み先として指定されたファイル名に、トレース情報を書き込めませんでした。

ユーザーの処置: 指定したファイル名が、ファイル・システムに有効なことを確認してください。ファイル名を指定していない場合は、デフォルト・ファイル `ddcstrc.tmp` に対して必要な書き込み許可を持っていることを確認してください。

SQL1513W `ddcstrc` がオフになっていません。

説明: エラー状態のために、`ddcstrc` がオフになりました。これは、トレース情報がファイル内に安全に格納される前に、失われないようにするために行われました。

ユーザーの処置: このエラーの前に報告された `ddcstrc` のエラー状態を修正して、もう一度トレースをオフにしてください。

SQL1520N バッファースizeは **65536** より大きいかあるいは等しい数値でなければなりません。

説明: `ddcstrc` コマンドに無効なバッファースizeが指定されました。

ユーザーの処置: バッファースizeに、65536 (64K) より大きいかあるいは等しい数値が使用されていることを確認してください。使用されるメモリーは、64K の倍数であることに注意してください。`ddcstrc` は、指定

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL1497W データベースの活動化/非活動化は成功しましたが、複数ノードでエラーが発生しています。

説明: 少なくともカタログ・ノードおよびコーディネーター・ノードでデータベースの活動化/非活動化は成功しましたが、その他のノードでエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 診断ログを参照しどのノードでどのようなエラーが発生しているかを調べて可能であれば問題を修正し、データベース・コマンドの活動化/非活動化を再発行してください。

されたバッファースizeを最も近い 64K の倍数に切り捨てます。

SQL1525N **DB2 セキュリティー・デーモンを開始中にエラーが起きました。**

説明: DB2 セキュリティー・デーモンを開始中に予期しないエラーが起きました。

ユーザーの処置: `DB2START` コマンドを再試行してください。問題が続く場合、IBM サービス担当者に連絡してください。

SQL1526N **DB2VIA サポートが開始していないため、`db2start` ができません。理由コード `reason-code`。**

説明: DB2VIA サポートは、`db2start` 時間で正常に開始されていませんでした。理由コードは、次のエラーを示しています。

1. `DB2_VI_VIPL` レジストリー変数で指定された `VIPL` ライブラリーがロードできない。
2. `DB2_VI_DEVICE` レジストリー変数で指定された装置名がオープンできない。
3. DB2 は `VIA` インプリメンテーションのインストールをサポートしない。

ユーザーの処置:

1. DB2 レジストリー `DB2_VI_VIPL` が正常に設定され、`DB2_VI_VIPL` で指定された名前が `%PATH%` 環境変数にあることを確認してください。
2. DB2 レジストリー `DB2_VI_DEVICE` が正常に設定されていることを確認してください。

- DB2 は、少なくとも信頼できる送達レベルをサポートする VIA インプリメンテーションのサポートのみを行います。VIA インプリメンテーションが、Intel Virtual Interface Architecture Implementation Guide に従って適合する組を渡すことも必要です。選択した VIA インプリメンテーションが、この要件を満たしているかどうか、確認してください。

SQL1530W 指定の並列処理の度合い、システムがパーティション内の並列処理ができないため、無視されます。

説明: DEGREE BIND オプションが 1 より大きい値で指定されたか、あるいは SET CURRENT DEGREE ステートメントが 1 より大きい値で実行されながらデータベース・マネージャーがパーティション内並列処理ができないかのいずれかです。

インスタンスでパーティション内並列処理ができるようにするには、`intra_parallel` 構成パラメーターを ON に設定して、データベース・マネージャーを開始してください。

ステートメントあるいはコマンドは正常に完了しましたが、度合いの指定は無視されます。

ユーザーの処置: パーティション内並列処理を使用したい場合には、`intra_parallel` 構成パラメーターを ON に設定して、データベース・マネージャーを再始動します。

そうでない場合、1 あるいは ANY を度合いの指定に使用します。

sqlcode: +1530

sqlstate: 01623

SQL1550N SET WRITE SUSPEND コマンドが失敗しました。理由コード = *reason-code*

説明: *reason-code* で示される条件が解決するまで、SET WRITE SUSPEND コマンドを発行することができません。

- データベースが活動化されていません。
- データベースのバックアップ操作が、ターゲット・データベースに対して現在進行中です。DB2 がバックアップを完了するまで、書き込み操作を延期することはできません。
- データベースのリストア操作が、ターゲット・データベースに対して現在進行中です。DB2 がリストア操作を完了するまで、このデータベースに対する書き込み操作を延期することはできません。
- このデータベースに対して、すでに書き込み操作が延期されています。

- 1 つ以上の表スペースの現在の状態では、書き込みを中断することはできません。

ユーザーの処置:

- ACTIVATE DATABASE コマンドを発行することで、データベースを活動化し、SET WRITE SUSPEND コマンドを再発行します。
- BACKUP プロシージャが完了するまで待機し、SET WRITE SUSPEND を再発行します。
- RESTORE プロシージャが完了するまで待機し、SET WRITE SUSPEND を再発行します。
- データベースはすでに延期状態です。書き込み操作を再開するには、このデータベースに対して SET WRITE RESUME コマンドを発行してください。
- 表スペースの状態を表示するには、LIST TABLESPACES コマンドを発行します。ペンディング状態の表スペースは、SET WRITE SUSPEND コマンドを再発行する前に、これらの表スペースを、ペンディング状態から開放するための適当なコマンドを発行してください。1 つ以上の表スペースに、進行中の操作が含まれる場合は、SET WRITE SUSPEND コマンドを再実行する前に、その操作が完了するまで待機してください。

sqlcode: -1550

SQL1551N SET WRITE RESUME コマンドは、データベースが現在 WRITE SUSPEND 状態でないため失敗しました。

説明: データベースは現在 WRITE SUSPEND 状態ではありません。再開できるのは、書き込み操作が中断されているデータベースの書き込み操作だけです。

ユーザーの処置: 書き込み操作はこのデータベースでは使用可能なので、アクションは不要です。データベースの書き込み操作を中断するには、SET WRITE SUSPEND コマンドを発行してください。

sqlcode: -1551

SQL1552N データベースが現在 WRITE SUSPEND 状態であるため、コマンドが失敗しました。

説明: このコマンドは、データベースの書き込み操作が中断されているときには許可されません。データベースは現在 WRITE SUSPEND 状態です。

ユーザーの処置: 失敗したコマンドが RESTART DATABASE であった場合は、WRITE RESUME オプシ

ョン指定で RESTART DATABASE コマンドを再発行します。マルチノード・データベース環境で、すべてのノードに対して並行してコマンドを再発行します。

失敗したコマンドが BACKUP または RESTORE コマンドであった場合は、SET WRITE RESUME FOR DATABASE コマンドを発行します。次に BACKUP または RESTORE コマンドを再発行してください。

sqlcode: -1552

SQL1553N 1 つ以上のデータベースが WRITE SUSPEND 状態のため、DB2 を停止できません。

説明: 書き込み操作が中断されているデータベースはシャットダウンできません。データベースは現在 WRITE SUSPEND 状態です。

ユーザーの処置: SET WRITE RESUME コマンドを発行して、データベースの書き込み操作を再開し、次に db2stop コマンドを再発行してください。

sqlcode: -1553

SQL1560N 表 *table-name* の統計プロファイルが存在しません。

説明: 使用する前に、統計プロファイルを定義する必要があります。

ユーザーの処置: RUNSTATS コマンドの SET PROFILE オプションを使ってこの表の統計プロファイルを登録してから、この操作を再発行してください。

SQL1561N 統計オプションが、データベース・サーバーのレベルと非互換です。

説明: 指定された 1 つ以上のオプションが、データベース・サーバー・レベルと非互換です。このデータベース・サーバーのバージョンは、db2runstats API で使用可能な統計オプションのすべてをサポートしていません。

ユーザーの処置: sqlstat API を使って統計を収集するか、db2runstats API を使い、sqlstat API で使用可能なオプションだけを指定してください。

SQL1562N 統計ノード・オプションが、表 *table-name* の既存の表または索引統計、あるいはその両方と非互換です。

説明: 統計ノード・オプションが、この表の既存の表または索引統計、あるいはその両方と異なっています。

ユーザーの処置: 一貫したノード・オプションを使って、表の統計を収集してください。

SQL1580W コード・ページ *source-code-page* からコード・ページ *target-code-page* への変換中に、末尾ブランクが切り捨てられました。ターゲット域の最大サイズは、*max-len* でした。ソース・ストリングの長さは *source-len* で、その 16 進数表記は *string* でした。

説明: SQL ステートメントの実行中に、コード・ページ変換処理の結果が、ターゲット・オブジェクトの最大サイズより大きなストリングになりました。ブランク文字だけが切り捨てられたために、処理を続行します。

ユーザーの処置: 出力が予期されていること、および切り捨てが予期しない結果の原因とならないことを確認してください。

sqlcode: +1580

sqlstate: 01004

SQL1581N 表 *table-name* は付加モードの状態です。クラスタリング索引をもつことができません。

説明: このエラーが発行された状態が 2 つあります。

- クラスタリング索引は表のために存在し、また、ALTER TABLE は付加モードでその表を位置づけるために使用されます。
- 表は付加モードで、CREATE INDEX はクラスタリング索引を作成するために使用されます。

ユーザーの処置: クラスタリング索引が必要な場合は、表を変更して、付加モードをオフにしてください。付加モードが必要な場合、表の既存のクラスタリング索引をドロップしてください。

sqlcode: -1581

sqlstate: 428CA

SQL1582N 表スペース *tblspace-name* の PAGESIZE は、表スペースと関連しているバッファーク・プール *bufferpool-name* の PAGESIZE と一致しません。

説明: CREATE TABLESPACE ステートメントで指定された PAGESIZE 値は、表スペースと一緒に使用するために指定されたバッファーク・プールのサイズと一致しません。これらの値が一致しなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: バッファーク・プールのサイズと一致するように PAGESIZE に指定された値を変更するか、またはバッファーク・プールのページ・サイズを一致する値に変更してください。

sqlcode: -1582

sqlstate: 428CB

SQL1583N PAGESIZE 値 *pagesize* はサポートされていません。

説明: CREATE BUFFERPOOL または CREATE TABLESPACE ステートメントで指定された PAGESIZE は、サポートされるページ・サイズではありません。サポートされるバージョン 5 のページ・サイズは、4K、8K、16K、と 32K です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: サポートされているページ・サイズから 1 つを指定してください。

sqlcode: -1583

sqlstate: 428DE

SQL1584N 少なくとも *pagesize* のページ・サイズを持つ **SYSTEM TEMPORARY** 表スペースが見つかりませんでした。

説明: ステートメントを処理するために、TEMPORARY 表スペースが必要でした。 *pagesize* またはこれより大きいページ・サイズを持つ、使用可能な SYSTEM TEMPORARY 表スペースがありませんでした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 少なくとも *pagesize* のページ・サイズを持つ SYSTEM TEMPORARY 表スペースを作成してください。

sqlcode: -1584

sqlstate: 57055

SQL1585N 十分なページ・サイズを持つ **SYSTEM TEMPORARY** 表スペースが存在しません。

説明: 以下のいずれかが起きた可能性があります。

1. システム一時表の行の長さが、データベース内で最大の SYSTEM TEMPORARY 表スペースに適用できる制限を超えました。
2. システム一時表に必要な列数が、データベース内で最大の SYSTEM TEMPORARY 表スペースに適用できる制限を超えました。

SYSTEM TEMPORARY 表スペースは、そのページ・サイズによって異なります。これらの値は以下のとおりです。

最大	最大	TEMPORARY 表
レコード	列数	スペースの

長	ページ・サイズ
---	---------

-----	----	-----
1957	バイト 244	2K
4005	バイト 500	4K
8101	バイト 1012	8K
16293	バイト 1012	16K
32677	バイト 1012	32K

ユーザーの処置: 存在しない場合、サポートされているより大きなページ・サイズを持つ SYSTEM TEMPORARY 表スペースを作成してください。このような表スペースが存在する場合、いくつかの列をシステム一時表から除去してください。要求されたように、分離する表またはビューを作成して、制限を超えた追加情報を保留にしてください。

sqlcode: -1585

sqlstate: 54048

SQL1590N LONG VARCHAR および LONG VARGRAPHIC フィールドは、DEVICE 上にビルドされる TABLESPACE では許可されません。

説明: HP 上の装置 (ロー入出力) では、入出力を 1024 バイト境界上に位置合わせする必要があります。LONG VARCHAR および LONG VARGRAPHIC フィールドは 512 バイトごとにハンドルされるので、これを使用できるのは、SYSTEM MANAGED TABLESPACE または FILE コンテナーだけの DATABASE MANAGED TABLESPACE だけです。

ユーザーの処置: 代替:

- LONG の代わりに、LOB 列タイプ (BLOB、CLOB、DBCLOB) を選択してください。
- 正しい属性の表スペースを使用してください。

sqlcode: 1590

sqlstate: 56097

SQL1591N 表 *table-name* が正常な状態でないため、SET INTEGRITY ステートメントの ON オプションが無効です。

説明: ON オプションはチェック・ペンディング状態の表のみに指定でき、SYSCAT.TABLES カタログの CONST_CHECKED 列の 1 番目 (外部キー制約)、2 番目 (チェック制約)、および 5 番目 (マテリアライズ照会表) のフィールドが 'Y' または 'U' でなければなりません。

ユーザーの処置: 表がチェック・ペンディングでない場合は ON オプションを指定しないでください。表がチェック・ペンディングの場合は、ON オプションを指定して SET INTEGRITY ステートメントを実行する前に表の保天性チェック (マテリアライズ照会表の場合は表のリフレッシュ) を行ってください。

sqlcode: -1591

sqlstate: 55019

SQL1592N 表 *table-name* は増分処理できないため、**INCREMENTAL** オプションは無効です。理由コード *reason-code*。

説明: この原因は、以下の *reason-code* に基づきます。

- 32** この表は REFRESH IMMEDIATE マテリアライズ照会表、サポートするステージング表を持つ REFRESH DEFERRED マテリアライズ照会表、または PROPAGATE IMMEDIATE ステージング表のいずれでもない。
- 33** この表がマテリアライズ照会表またはステージング表である場合、この表に対してロード置換またはロード挿入が発生した。
- 34** 最後の整合性チェック後に表にロード置換が発生した。
- 35** 以下のいずれかです。
 - マテリアライズ照会表またはステージング表が新しく作成された。表の作成後、表の保天性を初めてチェックするために完全処理が必要です。
 - チェック・ペンディング中に、表自体またはその親 (または、それがマテリアライズ照会表またはステージング表である場合は、基本表) に新しい制約が追加された。
 - これがマテリアライズ照会表またはステージング表の場合は、最後にリフレッシュが行われた後に、表の基本表に対してロード置換が発生した。
 - これがマテリアライズ照会表の場合は、マテリアライズ照会表がリフレッシュされる前に、少なくとも 1 つの基本表に対して (FULL ACCESS オプションを使って) 完全アクセスが強制された。
 - これがステージング表の場合は、ステージング表が伝搬される前に、少なくとも 1 つの基本表に対して (FULL ACCESS オプションを使って) 完全アクセスが強制された。

- これが据え置きマテリアライズ照会表の場合は、その対応するステージング表が完了していない状態である。
- その親の一部 (マテリアライズ照会表またはステージング表の場合は、基本表) で、保天性チェックが非増分で行われている。
- 表が移行前に、チェック・ペンディング状態にあった。移行後、初めて表の保天性チェックを行う場合は、完全処理が必要です。
- ポイント・イン・タイム・ロールフォワード操作中、表がチェック・ペンディング状態に置かれていた。

ユーザーの処置: INCREMENTAL オプションを指定しないでください。システムは、表全体で制約違反についてチェックします (または、マテリアライズ照会表の場合は、マテリアライズ照会表定義照会を再計算します)。

sqlcode: -1592

sqlstate: 55019

SQL1593N 表 *table-name* がチェック・ペンディング状態でないため、**REMAIN PENDING** オプションが無効です。

説明: REMAIN PENDING オプションを指定するためには、表はチェック・ペンディング状態であればなりません。

ユーザーの処置: REMAIN PENDING オプションを指定しないでください。

sqlcode: -1593

sqlstate: 55019

SQL1594W 非増分データの保天性はデータベース・マネージャーによる確認がされないままになっています。

説明: この表のチェックは、以前に行われていません。オプション NOT INCREMENTAL が指定されていない場合、表の増分処理が行われます。以前にチェックされていない表の部分はチェックされないままとなり、CONST_CHECKED 列の対応する値は 'U' とマークされたままとなります。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。以前にチェックされていないデータの保天性を検証し、システムに表のデータの保天性を維持させるためには、SET INTEGRITY...OFF ステートメントを発行してその表をチェック・ペンディング状態に置き、次に NOT INCREMENTAL オプションを指定して SET

INTEGRITY...IMMEDIATE CHECKED ステートメントを再実行してください。

sqlcode: +1594

sqlstate: 01636

SQL1595N 参照制約の親表がチェックされていないか、マテリアライズ照会表かステージング表の基本表がチェックされていないため、表 *table-name* の健全性をチェックできません。

説明: 整合性チェックに違反するかもしれないデータのあるこの表の伝搬を防ぐためには、この表の整合性をチェックするためにすべての親がチェック・ペンディング状態であってはなりません。これがマテリアライズ照会表である場合、この表をリフレッシュするためにはすべての基本表が妥当性検査されている必要があります。これがステージング表である場合は、この表を伝搬するためにすべての基本表がチェック・ペンディング状態であればなりません。SYSCAT.TABLES の CONST_CHECKED 列の 1 番目 (外部キー制約)、2 番目 (チェック制約)、5 番目 (マテリアライズ表)、および 7 番目 (ステージング表) のフィールドが 'Y' または 'U' のときに、表の妥当性検査が行われます。

ユーザーの処置: すべての親表 (マテリアライズ照会表またはステージング表の場合は基本表) の健全性をチェ

ックして、このステートメントを再実行してください。

sqlcode: -1595

sqlstate: 55019

SQL1596N *table-name* に、WITH EMPTY TABLE を指定することはできません。

説明: WITH EMPTY TABLE 文節は、表 *table-name* には指定できません。この理由は、表が以下の状態であるためです。

- 表がマテリアライズ照会表である。
- 表に、従属リフレッシュ即時マテリアライズ照会表がある。
- 表が参照制約において親である。

そのような表を ACTIVATE NOT LOGGED INITIALLY に変更する場合、WITH EMPTY TABLE 文節を指定することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: WITH EMPTY TABLE 文節を ALTER TABLE ステートメントから除去してください。

sqlcode: -1596

sqlstate: 42928

SQL1600 - SQL1699

SQL1601N データベース・システム・モニターの入力パラメーター *parameter* が NULL ポインターです。

説明: データベース・システム・モニター API の 1 つが呼び出されましたが、必要なパラメーターではなく、NULL ポインターが指定されています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターの値を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1602N 入力データ構造 (*sqlma*) に指定されたオブジェクト・タイプはサポートされていません。

説明: データベース・システム・モニターの Snapshot API の入力データ構造 (*sqlma*) の可変データ域に指定されたオブジェクト・タイプは、サポートされていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なオブジェクト・タイプを使用し

て、コマンドを再発行してください。有効なオブジェクト・タイプの詳細情報については、「管理 API リファレンス」、および「アプリケーション開発ガイド」を参照してください。

SQL1603N パラメーター *parameter* が、入力データ構造 (*sqlma*) に指定されていません。

説明: データベース・システム・モニターの Snapshot または Estimate Buffer Size API の入力データ構造 (*sqlma*) に、必須パラメーターが指定されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターの値を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1604N パラメーター *parameter* が NULL で終わっていません。

説明: 文字ストリング・パラメーターの終わりには、NULL 文字が必要です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 文字ストリング・パラメーターの終わ

りに NULL 文字を追加して、コマンドを再発行してください。

SQL1605W データベース *db-alias* がアクティブではありません。

説明: データベース・システム・モニターの Reset API が、特定のデータベースのために呼び出されましたが、データベースがアクティブではありませんでした。

コマンドは正常に終了しましたが、何の動作も行われていません。

ユーザーの処置: データベースの別名が正しく、データベースがすでに始動していることを確認してください。

SQL1606W データベース・システム・モニターの出力バッファがいっぱいです。

説明: データベース・システム・モニターの出力バッファ域には、戻ってきたデータを収容できる十分な大きさがありません。起こりやすい原因は、呼び出しが行われたときのシステム活動が多すぎることにより、またユーザー・アプリケーションからデータベース・モニター API 呼び出しが行われた場合は、ユーザーが割り振ったバッファが戻りデータを含むのに小さすぎることにあります。

コマンドは正常に終了し、バッファがオーバーフローする前に集められたデータは、ユーザーのバッファに戻されています。

ユーザーの処置: コマンドを再発行するか、あるいはユーザー・アプリケーションからデータベース・モニター API を呼び出す場合は、もっと大きなバッファを割り振るか、または要求する情報量を減らしてください。

SQL1607N 要求されたデータベース・システム・モニター関数の実行に十分な、作業用メモリーがありません。

説明: データベース・マネージャーが、データベース・システム・モニター・コマンドを実行するには作業メモリーが足りません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 入力パラメーターのバッファ・サイズを減らして、コマンドを再発行してください。

SQL1608W 同一のデータベースを参照する、複数のデータベース別名が指定されました。

説明: データベース・システム・モニターの Snapshot または Estimate Buffer Size API 呼び出しが、sqlma 入力データ構造で、複数のデータベース別名に対する要求

を指定して発行され、同じデータベースを指していました。

データベース・システム・モニターは正常に実行されましたが、出力バッファには情報のコピーが 1 つしか返されません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。ただし、異なるデータベースの情報を要求する場合は、入力に指定したデータベース別名が正しいことを確認する必要があります。

SQL1609N データベース *db-alias* はリモート・データベースであり、モニターできません。

説明: データベース・システム・モニター API 呼び出しが、リモート・データベースのデータベース別名を指定して発行されました。データベース・システム・モニターは、リモート・データベースのモニターをサポートしていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 入力に指定したデータベース別名が正しいことを確認し、正しいデータベース別名を使用して、コマンドを発行する必要があります。

SQL1610N データベース・システム・モニターの入力パラメーター *parameter* が無効です。

説明: データベース・システム・モニター API の 1 つが呼び出されましたが、示されたパラメーターに無効な値が指定されました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターの値を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1611W データベース・システム・モニターからデータが戻されませんでした。

説明: データベース・システム・モニター API 呼び出しが発行された時点で、ユーザーが要求したモニター情報は利用可能ではありませんでした。これは、要求したデータベースまたはアプリケーションがアクティブでなかった場合、あるいは表グループなどのモニター・グループが OFF のときに、表情報が要求された場合に起こります。

ユーザーの処置: コマンドは正常に終了しましたが、ユーザーには何もデータが返されません。

モニターしようとしているデータベースまたはアプリケーションが、データベース・システム・モニター API を呼び出す時点でアクティブであること、または必要なモニター・グループがアクティブであることを確認する必要があります。

SQL1612N 指定されたイベント・モニターのターゲット・パスが無効です。

説明: CREATE EVENT MONITOR ステートメントに指定されたターゲット・パスが、有効なパス名ではありません。 コマンドは処理されませんでした。

ユーザーの処置: 正しいイベント・モニターのターゲット・パスを使用して、ステートメントの再サブミットを行ってください。

sqlcode: -1612

sqlstate: 428A3

SQL1613N 指定されたイベント・モニター・オプションが無効です。

説明: CREATE EVENT MONITOR ステートメントに指定されたオプションが無効です。 考えられる理由には、以下があります。

- 指定された MAXFILES、MAXFILESIZE、または BUFFERSIZE が小さすぎます。
- MAXFILESIZE が BUFFERSIZE より小さくなっています。
- MAXFILESIZE NONE が、MAXFILES が 1 以外の場合に指定されました。

コマンドは処理されませんでした。

ユーザーの処置: 正しいイベント・モニター・オプションを使用して、ステートメントの再サブミットを行ってください。

sqlcode: -1613

sqlstate: 428A4

SQL1614N イベント・モニターを活動化しているときに、入出力エラーが起きました。 理由コード = *reason-code*

説明: イベント・モニターを活動化しているときに、入出力エラーが起きました。原因は次のように “<reason-code>” に基づいています。

- 1 不明なイベント・モニターのターゲット・タイプを見つけました。
- 2 イベント・モニターのターゲット・パスが見つかりませんでした。
- 3 イベント・モニターのターゲット・パスへのアクセスが拒否されました。
- 4 イベント・モニターのターゲット・パスがパイプの名前ではありません。

5 読み取りのために、イベント・モニターのターゲット・パイプをオープンしている処理がありません。

6 予期しない入出力エラーが起きました。

7 ターゲット・パイプが、メッセージ・モードでオープンされていません。(この理由コードは、OS/2 のみに適用されます。)

8 ターゲット・パイプ・バッファが小さすぎます。 インバウンド・パイプ・バッファは、少なくとも 4096 バイトのサイズでなければなりません。(この理由コードは、OS/2 のみに適用されます。)

ユーザーの処置: 可能であれば、理由コードで示されている問題を修正して、SET EVENT MONITOR ステートメントの再サブミットを行ってください。

sqlcode: -1614

sqlstate: 58030

SQL1615W 指定されたイベント・モニターは、すでに要求された状態にあります。

説明: すでにアクティブなイベント・モニターをアクティブ化しようとしたか、またはすでに非アクティブなイベント・モニターを非アクティブ化しようとした。 SET EVENT MONITOR ステートメントは無視されました。

ユーザーの処置: ユーザー応答は必要ありません。

sqlcode: +1615

sqlstate: 01598

SQL1616N アクティブ・イベント・モニターの最大数の制限に、すでに達しています。

説明: 1 つのデータベースごとに、最大 32 のイベント・モニターを同時にアクティブにすることができません。この制限にすでに達しています。 指定されたイベント・モニターは活動化できません。

ユーザーの処置: 可能であれば、アクティブ・イベント・モニターの 1 つを非アクティブ化して、SET EVENT MONITOR ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -1616

sqlstate: 54030

SQL1617N 指定されたイベント・モニターは、すでに **MAXFILES** と **MAXFILESIZE** 制限に達しています。

説明: 指定されたイベント・モニターは、イベント・モニターのターゲット・ディレクトリーに許されるデータ容量の制限を使用して作成されています。この制限にすでに達しています。指定されたイベント・モニターは活動化できません。

ユーザーの処置: 可能であれば、いくつかのイベント・モニター・データ・ファイルをターゲット・ディレクトリーから削除して、**SET EVENT MONITOR** ステートメントの再サブミットを行ってください。

sqlcode: -1617

sqlstate: 54031

SQL1618N 指定されたイベント・モニターのターゲット・パスは、他のイベント・モニターにより使用中です。

説明: 指定されたイベント・モニターが、他のイベント・モニターと同じターゲット・パスを使用して、作成されています。この別のイベント・モニターは少なくとも 1 回は活動化され、ターゲット・パスに .evt または .ctl ファイル、あるいはその両方を残しています。これらのファイルは、入っている通知を読み取っているアプリケーションによって使用中である可能性があります。

ユーザーの処置: ほかのイベント・モニターが現在アクティブな場合は、非アクティブ化にしてください。アプリケーションが、ターゲット・パスで作成されたファイルを使用していないことを確認してから、ファイルを除去して、次に、**SET EVENT MONITOR** ステートメントの再サブミットを行ってください。

または、異なるターゲット・パスを指定して必要なイベント・モニターを再作成し、**SET EVENT MONITOR** ステートメントの再サブミットを行ってください。

sqlcode: -1618

sqlstate: 51026

SQL1619N アクティブ・イベント・モニターは **DROP** できません。

説明: 指定されたイベント・モニターは現在アクティブなため、ドロップすることができません。

ユーザーの処置: イベント・モニターを非活動化して、**DROP EVENT MONITOR** ステートメントの再サブミットを行ってください。

sqlcode: -1619

sqlstate: 55034

SQL1620N イベント・モニターをフラッシュできません。理由コード *rc*

説明: イベント・モニターをフラッシュできませんでした。考えられる理由は以下のとおりです。

1. イベント・モニターが開始されていない。
2. イベント・モニターはバージョン 6 よりも前の出力で実行されていて、フラッシュが使用可能ではない。

ユーザーの処置: イベント・モニターが開始されていることを確認してください。イベント・モニターがバージョン 6 よりも前の出力で実行されている場合は、フラッシュを試みないでください。

sqlcode: -1620

sqlstate: 55034

SQL1621N 指定されたイベント・モニターが作成されたトランザクションは、まだコミットされていません。イベント・モニターは活動化できません。

説明: イベント・モニターが作成されたトランザクションがコミットされるまで、そのイベント・モニターは活動化できません。

ユーザーの処置: イベント・モニターを作成したトランザクションをコミットして、**SET EVENT MONITOR** ステートメントの再発行を行ってください。

sqlcode: -1621

sqlstate: 55033

SQL1622N **SET EVENT MONITOR STATE** ステートメントに指定された **STATE** 値が無効です。

説明: **SET EVENT MONITOR STATE** ステートメントに指定された **STATE** 値が、有効な値の範囲外か、または値が、標識変数の結果として **NULL** になっています。

Event Monitor State の有効な値は、以下のとおりです。

- 0** イベント・モニターを非活動化します。
- 1** イベント・モニターを活動化します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: event monitor state の値と標識変数の両方、またはいずれかを訂正して、ステートメントを再実行してください。

sqlcode: -1622

sqlstate: 42815

SQL1623N **sqlma** 入力構造に指定されたオブジェクトが多すぎる **sqlmonsz** または **sqlmonss** API が呼び出されました。

説明: **sqlma** 入力構造に許されているオブジェクト数の制限を超えました。

ユーザーの処置: **sqlma** パラメーターのオブジェクト数を減らして、もう一度呼び出しを行ってください。

SQL1624N **sqlmonsz** または **sqlmonss** API が参照するすべてのデータベースは、同じノードに位置している必要があります。

説明: **sqlma** パラメーターに、別のノードに存在するデータベースに対する参照が入っていました。

ユーザーの処置: すべてのデータベース・オブジェクトが同じノードを参照するように、**sqlma** パラメーターを修正して、もう一度呼び出しを行ってください。

SQL1625W このモニターは、コード・ページ *source* からコード・ページ *target* に変換できません。この変換は、タイプ *type* に関連するデータに対して試行されました。

説明: 考えられるタイプは以下のとおりです。

1. ステートメント・テキスト
2. dcs アプリケーション
3. アプリケーション
4. 表
5. ロック
6. 表スペース

ソース・コード・ページからターゲット・コード・ページへのデータの変換はサポートされていません。この状態は、以下の状態で起きる可能性があります。

1. ソースとターゲット・コード・ページの組み合わせを、データベース・マネージャーがサポートしていません。
2. ソースとターゲット・コード・ページの組み合わせは、サーバー・ノードのオペレーティング・システム文字変換ユーティリティによってサポートされていません。

モニター・アプリケーションのコード・ページに互換性があるコード・ページのデータベースに関連するデータの変換をモニターが試行するときこの状態が発生する可能性があります。

ユーザーの処置: サポートされている変換機能のリストについては、オペレーティング・システムの資料をチェックし、適切な変換機能がインストールされておりデータベース・マネージャーに対してアクセス可能なことを確認してください。

可能ならば、モニターされているデータベースとモニター・アプリケーションが同じコード・ページにあることを確認してください。

SQL1626W コード・ページ *source* からコード・ページ *target* への変換中に、オーバーフローが発生しました。ターゲット域のサイズは *max-len* で、タイプ *type* に関連するデータと最初の 8 文字は *data* でした。

説明: 考えられるタイプは以下のとおりです。

1. ステートメント・テキスト
2. dcs アプリケーション
3. アプリケーション
4. 表
5. ロック
6. 表スペース

モニターは、スペースの制約のためデータを変換できません。このデータはそのオリジナル形式に保存されています。

ユーザーの処置: 可能ならば、モニターされているデータベースとモニター・アプリケーションが同じコード・ページにあることを確認してください。

SQL1627W スナップショット **api** 要求が自己記述データ・ストリーム・レベルで出されましたが、サーバーは固定サイズ構造形式のスナップショットのみしか返せませんでした。

説明: スナップショット要求を発行するアプリケーションが **SQLM_DBMON_VERSION6** 以降のレベルで要求を出したのに対して、スナップショットを返すサーバーはデータの低レベルのビューを返しました。

ユーザーの処置: スナップショットの自己記述データ形式 (DB2 バージョン 6 以降) では、収集情報は、サーバー・レベルを含めて、スナップショット・データ・ストリームの一部として返されます。DB2 のバージョン 6 よりも前のレベルでは、スナップショット収集情報は **sqlm_collected** 構造で返されます。このスナップショット・データ・ストリームを解析するためには、**sqlm_collected** 構造と古いデータ・ストリーム処理方式を使用しなければなりません。

SQL1628W 出力バッファがいっぱいなので、リモートのスイッチ獲得操作が結果の一部だけを返しました。結果をすべて取り出すには、最小バッファ・サイズ *size* バイトを使用してください。

説明: 与えられた出力バッファは、スイッチ・データをすべて返すために十分な大きさではありませんでした。モニターは、この出力バッファによって可能なだけのデータを返しました。

ユーザーの処置: より大きなデータ・バッファを割り振ってから、スイッチ要求を出し直してください。

SQL1629W リモートのスナップショット操作がノード *node-list* で失敗しました。理由コード *reason-list*

説明: 以下のいずれかの理由 <reason-code> で、リモート・ノードでの操作中に障害が起きました。

- 1 ノード障害または通信エラーのため、FCM がターゲット・ノードと通信を行うことができませんでした。
- 2 スナップショット操作がターゲット・ノードで完了しませんでした。特定の *sqlca* については管理通知ログを参照してください。

ユーザーの処置: エラーの原因がノード障害または通信エラーであれば、その通信エラーを解決するか、またはエラーを訂正できなかったノードを再始動する必要があります。

エラーの原因がリモート・ノードでのスナップショット操作エラーであれば、失敗した操作による *sqlca* について管理通知ログを調べ、そのコードについての指示を参照して問題を訂正してください。

SQL1650N 呼び出された関数は、すでにサポートされていません。

説明: このバージョンのデータベース・マネージャーではすでにサポートされていない API を呼び出そうとしました。

ユーザーの処置: 必要な関数は、別の API 呼び出しでサポートされている可能性があります。関数が別の API 呼び出しでサポートされているかどうかを判別するには、「管理 API リファレンス」および「アプリケーション開発ガイド」を参照してください

SQL1651N DB2 サーバーのバージョンがこの機能をサポートしていないため、この要求を実行できません。

説明: 新しい機能のいくつかは、古い DB2 サーバーのバージョンに対してサポートされていません。また、このエラーの原因として、サーバー・バージョンがサポートしていない長さの修飾子を持つ参照オブジェクトの要求も考えられます。

ユーザーの処置: 最新 DB2 サーバー・バージョンがインストールされている、またはサーバーが最新 DB2 サーバー・バージョンにアップグレードされている DB2 サーバーに対し、要求を実行してください。

SQL1652N ファイル入出力エラーが発生しました。

説明: ファイルのオープン、読み取り、書き込みまたはクローズのいずれかでエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 詳細については *db2diag.log* をチェックしてください。また、ディスク・フル条件、ファイル許可およびオペレーティング・システム・エラーもチェックしてください。

SQL1653N 無効なプロファイル・パスが指定されました。

説明: 生成されるサーバー情報があるファイルへの絶対パスを指定しなくてはなりません。

ユーザーの処置: 指定されたプロファイル・パスが正しく、NULL でないことを確認してください。

SQL1654N インスタンス・パスのエラーを検出しました。

説明: インスタンス・パスを戻すことができませんでした。

ユーザーの処置: DB2INSTANCE パスが正しく指定されているかをチェックしてください。指定された完全なパスの長さが、オペレーティング・システムによってサポートされている最大長に近くないかをチェックしてください。

SQL1660N サーバー情報を収集するためにディスクカバリーで使用するサーバーのジェネレーターが失敗しました。

説明: サーバー・システム障害が起きました。

ユーザーの処置: この障害を DB2 サーバー管理担当者に報告してください。障害の詳細は、サーバーの *db2diag.log* ファイルにあります。

SQL1670N DISCOVER 構成パラメーター・データベース・マネージャーで指定されたディスクバリアー・タイプが、ディスクバリアーが使用不可であると示しています。

説明: DISCOVER データベース・マネージャー構成ファイルの DISABLE 値が無効です。

ユーザーの処置: DISCOVER 機能が要求される場合、発見タイプを KNOWN または SEARCH に変更してください。

SQL1671N 検索ディスクバリアー要求が失敗しました。詳細については管理通知ログをチェックしてください。

説明: 次のいずれかの理由で、検索ディスクバリアー要求が失敗しました。

1. 初期化の失敗 (sqlCommonInitializationForAPIs)
2. クライアント・インスタンス・パスを検索できない (sqlinstancepath)
3. 出力ファイルのオープンができない (sqlfopfn)
4. 出力ファイルへの書き込みができない (sqlofprt)
5. メモリーを獲得できない (sqlgmbk)
6. データベース・マネージャー構成を検索できない (sqlfcsys)
7. NetBIOS 呼び出しが失敗した
8. DB2 内部システム関数が失敗した (sqlogpid, sqlogmt)

詳細については db2diag.log をチェックしてください。

ユーザーの処置:

1. 初期化が失敗した場合、マシンのリポートか製品の再インストールをしてください。
2. インスタンス・パスの障害の場合、DB2INSTANCE の値が正しく設定されているか確認してください。
3. ファイルのオープンあるいは書き込みができない場合、Intel マシンの場合は
<sqllib path>%<instance>%tmp ディレクトリーに、UNIX マシンの場合は
<instance path>/sqllib/tmp ディレクトリーにあるファイルのオープンおよび書き込みを行うためのアクセスがあるかどうか、調べてください。
4. メモリー獲得の失敗の場合、マシンの使用可能メモリーを調べてください。
5. DBM 構成検索が失敗した場合、マシンのリポートか製品の再インストールをしてください。
6. NetBIOS 呼び出しが失敗した場合は、次のようにしてください。

- Add Name が戻りコード 13 で失敗した場合、DBM 構成で構成されている nname がネットワーク上の、別の DB2 クライアント/サーバーの構成に使用されていないか、調べてください。

- NetBIOS が適切にインストールされて、正しく機能しているか調べてください。

- 問題に応じてネットワークを調べてください。

7. DB2 内部システム関数が失敗した場合、マシンのオペレーティング・システム関数が正しく機能しているか、調べてください。

DB2 サービスは、上記の関数から返され、db2diag.log に書き込まれているエラー・コードに関する詳細を提供することができます。

SQL1673N インターフェースを発見するのに入力として指定されたアドレス・リストが無効です。

説明: このアプリケーション・プログラムは無効な入力アドレス・リスト・ポインターを使用しました。このアドレス・リストは何も指していません。

ユーザーの処置: 有効なアドレス・リスト・ポインターがこのアプリケーション・プログラムに指定され、NULL 値でないことを確認してください。

SQL1674N インターフェースを発見するのに入力として指定されたサーバー・アドレスが無効です。

説明: このアプリケーション・プログラムは無効な入力サーバー・アドレス・ポインターを使用しました。このサーバー・アドレスは何も指していません。

ユーザーの処置: 有効なサーバー・アドレスがこのアプリケーション・プログラムに指定され、NULL 値でないことを確認してください。

SQL1675N 検索機能は DB2 Administration Server に対してのみ使用できます。与えられた通信情報は Administration Server にアクセスしていません。

説明: KNOWN 検索要求は DB2 Administration Server でない DB2 サーバーに対して発行されました。指定の通信情報が間違っています。

ユーザーの処置: DB2ADMINSERVER がアクセス中の DB2 サーバー・インスタンスに設定されているか検証してください。このインスタンスは、サーバー・インスタンスが DB2 Administration Server であることを示します。正しい通信情報を指定して KNOWN 検索要求を再試行してください。

SQL1700 - SQL1799

SQL1700N データベースの移行中に、予約済みスキーマ名 *name* がデータベースで見つかりました。

説明: データベースに、現在のデータベース・マネージャーによって予約されているスキーマ名 *name* を使用する、1 つ以上のデータベース・オブジェクトが入っています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 予約済みスキーマ名を使用するすべてのデータベース・オブジェクトがドロップされていることを確認し、別のスキーマ名を使用して、オブジェクトを再作成してください。この修正は、データベースが最初に作成されたリリースのデータベース・マネージャーで行う必要があります。もう一度移行を行う前に、予約済みスキーマ名が使用されていないことを確認してください。その後で、データベース・マネージャーの現在のリリースで、データベースの移行コマンドを再サブミットしてください。

SQL1701N 最後のセッションが異常終了したために、データベースは移行できません。

説明: 最後のデータベース操作が、前のデータベース・マネージャーの下で、異常終了(たとえば、電源障害)しました。データベースが再始動されるまでは、データベースの移行を行うことはできません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベースを再始動する必要があります。データベースが最後にアクセスしたリリースのデータベース・マネージャーを使用する `RESTART DATABASE` コマンドを発行する必要があります。その後で、データベース・マネージャーの現在のリリースで、データベースの移行コマンドを再サブミットしてください。

SQL1702W *protocol* 接続マネージャーが、正常に始動しました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL1703W データベースの移行中は、`db2event` ディレクトリーを作成することはできません。

説明: データベースは正常に移行されましたが、`db2event` ディレクトリーは作成できませんでした。

これは警告です。

ユーザーの処置: イベント・モニターを使用する場合

は、`db2event` ディレクトリーを作成する必要があります。`db2event` ディレクトリーは、移行済みデータベースが常駐するデータベース・ディレクトリーに作成する必要があります。移行済みデータベースのデータベース・ディレクトリーは、`LIST DATABASE DIRECTORY` を呼び出すことにより判別できます。

SQL1704N データベースの移行に失敗しました。理由コード *reason-code*。

説明: データベースの移行に失敗しました。理由コードは以下のとおりです。

- 1 無効なスキーマ名が見つかりました。
- 2 データベースが移行可能ではありません。データベースが、以下のいずれかの状態であった可能性があります。
 - バックアップ・ペンディング状態
 - ロールフォワード・ペンディング状態
 - トランザクション不整合状態
- 3 データベース・ログがいっぱいです。
- 4 ディスク・スペースが足りません。
- 5 データベース構成ファイルを更新できません。
- 6 データベースを再配置できません。
- 7 データベース・サブディレクトリーまたはデータベース・ファイルのいずれかにアクセスできません。
- 8 データベース・コンテナー・タグを更新できません。
- 9 表スペースへのアクセスは許可されていません。
- 10 無効なタイプ名が見つかりました。
- 11 プロシージャの特定名が関数の特定名と競合しています。
- 12 `Datajoiner` 抽象データ・タイプが見つかりました。
- 13 `Datajoiner` 拡張索引が見つかりました。
- 17 DMS システム・カタログ表スペースから新規ページを割り振ることができません。
- 18 Unicode データベースの移行で、重複する関数を検出しました。

Unicode データベースの場合、以下は同等なストリング・タイプと見なされます。

CHAR と GRAPHIC
VARCHAR と VARGRAPHIC
LONG VARCHAR と LONG VARGRAPHIC
CLOB と DBCLOB

同等のストリング・タイプだけが異なる関数シグニチャーは“重複”と考えられ、このデータベースに共存することはできません。たとえば、func1(CHAR、GRAPHIC、VARCHAR) と func1(GRAPHIC、GRAPHIC、VAR GRAPHIC) は重複です。

- 19 重複する特定名が検出されました。

SYSIBM.SYSFUNCTIONS と
SYSIBM.SYSPROCEDURES は、データベースの移行で SYSIBM.SYSROUTINES カタログにマージされました。ただし、特定名は SYSIBM.SYSROUTINES の中でユニークである必要があります。

- 20 ADT データ・タイプを検出しました。

データベースで、1 つ以上の要約データ・タイプが見つかりました。移行は失敗しました。すべての要約データ・タイプは、現在のリリースにデータベースを移行する前にドロップする必要があります。

- 21 データベースの移行は、カタログ・ノードとほかのノードでは完了しましたが、すべてのノードで完了したわけではありません。一部のノードで、ノード障害が報告されています。その結果、これらのノードでは移行が行われていません。

- 22 カタログ・ノードがノード障害を報告しているため、データベースの移行は失敗しました。

- 23 データベースの移行に失敗しました。フェデレーテッド・データベースを 64 ビットのインスタンスに移行する機能はサポートされていません。

- 24 データベース・ディレクトリーの、ディレクトリー db2event の下に、イベント・モニター・ディレクトリー db2detaildeadlock をエラーが作成します。

- 25 サポートされないユーザー定義関数を検出しました。

ユーザー定義タイプであるパラメーターが少なくとも 1 つ含まれており、ユーザー定義関数が、現在のデータベース・マネージャー・レベルには存在しない SYSFUN 関数に基づいているため、移行できないユーザー定義関数を検出しました。移行は失敗しました。これらの特性を持つ、供給されたユーザー定義関数はすべ

て、現在のリリースにデータベースを移行する前にドロップする必要があります。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいた解決策は、以下のとおりです。

- 1 予約済みのスキーマ名は SYSIBM、SYSCAT、SYSSTAT、および SYSFUN です。これらのスキーマ名を 1 つ以上使用するすべてのデータベース・オブジェクトがドロップされていることを確認し、別のスキーマ名を使用して、オブジェクトを再作成してください。この修正は、現在のリリースの前に使用していたリリースのデータベース・マネージャーで行う必要があります。現在のリリースで、データベースの移行コマンドを再サブミットしてください。

- 2 現在のリリースの前に使用していたリリースのデータベース・マネージャーに戻ることによって、データベースの状態を訂正して、データベースに必要な訂正アクションを実行してください。現在のリリースで、データベースの移行コマンドを再サブミットしてください。

- 3 データベース構成パラメーター *logfilsiz* または *logprimary* を大きな値に増やしてください。データベースの移行コマンドを再サブミットしてください。

- 4 十分なディスク・スペースがあることを確認して、データベースの移行コマンドを再サブミットしてください。

- 5 データベース構成ファイルも更新に問題がありました。データベース構成ファイルが他のユーザーによって排他的に保持されておらず、更新可能であることを確認してください。データベースの移行コマンドを再サブミットしてください。問題が続く場合は、IBM 技術員に連絡してください。

- 6 データベース・バックアップからデータベースをリストアしてください。

- 7 データベース・バックアップからデータベースをリストアしてください。

- 8 データベースの移行コマンドを再サブミットしてください。問題が残る場合、IBM サービス技術員に連絡してください。

- 9 現在のリリースの前に使用していたリリースのデータベース・マネージャーに戻ることによって、表スペースを訂正してください。表スペースの訂正に必要なアクションについてはメッセージ SQL0290N を参照してください。

- 10 タイプ名がシステムで予約済みです。タイプ

と、そのタイプを使用するデータベース・オブジェクトがドロップされ、予約済みではないタイプ名を使用して再作成されたことを確認してください。この修正は、現在のリリースの前に使用していたリリースのデータベース・マネージャーで行う必要があります。現在のリリースで、データベースの移行コマンドを再サブミットしてください。

- 11 プロシージャがドロップされていることを確認し、別の特定名を使用してプロシージャを再作成してください。この修正は、現在のリリースの前に使用していたリリースのデータベース・マネージャーで行う必要があります。現在のリリースで、データベースの移行コマンドを再サブミットしてください。
- 12 抽象データ・タイプがドロップされていることを確認してください。この修正は、現在のリリースの前に使用していたリリースのデータベース・マネージャーで行う必要があります。現在のリリースで、データベースの移行コマンドを再サブミットしてください。
- 13 拡張索引がドロップされていることを確認してください。この修正は、現在のリリースの前に使用していたリリースのデータベース・マネージャーで行う必要があります。現在のリリースで、データベースの移行コマンドを再サブミットしてください。
- 17 以前のデータベース・マネージャー・システムで、データベースのバックアップをリストアしてください。表スペースにさらにコンテナを追加してください。データベースの移行用に70%のフリー・スペースを割り振らなければなりません。現行リリースに戻ってから、データベースを移行します。
- 18 直前のデータベース・マネージャー・システムに、データベースのバックアップをリストアしてください。重複する関数の1つをドロップしてください。必要であれば、別のシグニチャーを使って関数を作成し直してください。データベース・マネージャー・システムの現行リリースに戻してください。データベースの移行コマンドを再サブミットしてください。「概説およびインストール」にある、DB2の現行リリースへの移動前に行う、データベースの移行準備の確認方法に関する指示に従ってください。
- 19 直前のデータベース・マネージャー・システムに、データベースのバックアップをリストアしてください。関数またはプロシージャをドロ

ップしてください。必要であれば、別のシグニチャーを使ってそれを作成し直してください。データベース・マネージャー・システムの現行リリースに戻してください。データベースの移行コマンドを再サブミットしてください。「概説およびインストール」にある、DB2の現行リリースへの移動前に行う、データベースの移行準備の確認方法に関する指示に従ってください。

- 20 直前のデータベース・マネージャー・システムに、データベースのバックアップをリストアしてください。要約データ・タイプをすべてドロップしてください。データベース・マネージャー・システムの現行リリースに戻してください。データベースの移行コマンドを再サブミットしてください。「概説およびインストール」にある、DB2の現行リリースへの移動前に行う、データベースの移行準備の確認方法に関する指示に従ってください。
- 21 管理通知ログをチェックして、ノード障害を報告しているノードを判別してください。ノード障害状態を訂正し、データベースの移行コマンドを再サブミットしてください。移行は移行を要するノードでしか行われられないため、どのノードからでもコマンドをサブミットできます。
- 22 カタログ・ノードでのノード障害状態を訂正してください。移行コマンドを再サブミットしてください。
- 23 フェデレーテッド・データベースを32ビットのインスタンスに移行してください。
- 24 ディレクトリー db2detaildeadlock がすでにデータベース・ディレクトリーに存在している場合は、これを除去してから移行コマンドを再サブミットしてください。
- 25 直前のデータベース・マネージャー・システムに、データベースのバックアップをリストアしてください。データベース移行検証ツールから報告された関数が、ドロップされているか確認してください。データベース・マネージャー・システムの現行リリースに戻してください。データベースの移行コマンドを再サブミットしてください。「概説およびインストール」にある、DB2の現行リリースへの移動前に行う、データベースの移行準備の確認方法に関する指示に従ってください。

SQL1705W データベース・ディレクトリー項目を、現在のリリース・レベルに更新できません。

説明: 1 つ以上のデータベース別名が、前のリリースから移行されたばかりのデータベースのデータベース・ディレクトリーで更新できませんでした。

ユーザーの処置: 移行済みデータベースのデータベース別名をアンカタログし、同じ情報を使用してデータベース別名を再カタログしてください。

SQL1706W ワード・サイズ・インスタンス移行中に、このインスタンスのノード・ディレクトリーでローカルではないデータベースが少なくとも 1 つ見つかりました。

説明: ワード・サイズ・インスタンス移行の実行中、このインスタンスで作成されていないデータベースが少なくとも 1 つ見つかりました。移行を正しく完了するには、このようなデータベースが、このインスタンスと同じワード・サイズを持っていない限りなりません。

ユーザーの処置: インスタンスでカタログされたデータベースがすべて、同じワード・サイズを持つようにしてください。

SQL1707N インスタンス・ワード・サイズを移行できません。

説明: インスタンスのワード・サイズを移行しようと試みておき、エラーがありました。IBM サービス技術員に連絡してください。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

SQL1708W データベース移行が完了しましたが、警告コード *warning-code* が出されています。

説明: データベースの移行が完了しましたが、警告があります。警告コードは次のとおりです。

1 いくつかのノードを移行できなかった

ユーザーの処置: 警告コードに基づく解決方法:

1 そのノードに対してデータベース移行コマンドを出し直してください。

SQL1749N 表 *table-name* が NOT LOGGED INITIALLY と一緒に作成されていないため、NOT LOGGED INITIALLY 属性はこの表では活動化されません。

説明: 表 *table-name* が指定された NOT LOGGED INITIALLY 属性と一緒に作成されなかったため、この属性は ALTER TABLE を使用して活動化できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: NOT LOGGED INITIALLY 文節を ALTER TABLE ステートメントから除去してください。

sqlcode: -1749

sqlstate: 429AA

SQL1750N 外部キーは NOT LOGGED INITIALLY 文節で作成された親キーの表 *table-name* を参照できません。

説明: NOT LOGGED INITIALLY 文節で作成された表は外部キーで参照できません。

ユーザーの処置: ALTER または CREATE TABLE ステートメントの *table-name* へ外部キーを除去してください。

sqlcode: -1750

sqlstate: 429A0

SQL1751N ノード・グループの結果は、パーティション・マップで使用可能なノードを含みません。

説明: ノード・グループには、少なくとも 1 つはパーティション・マップで使用可能なノードが入っていない限りなりません。ノードが ノード・グループ WITHOUT TABLESPACES に追加される場合、そのノードにノード・グループで定義された表スペース用のコンテナがないため、パーティション・マップ内にこのノードを組み込むことはできません。ノードがほかのノードに追加され、ほかのノードにノード・グループの表スペース用のコンテナがない場合は、ノードをパーティション・マップに組み込むことができます。

ユーザーの処置: 少なくとも 1 つのノードも追加しないで、すべてのノード・グループのノードをドロップしないでください。表スペースがノード・グループにすでに定義されているが表がない場合、少なくとも 1 つのノードがすべての表スペースのコンテナを持っていることを確認してください。

sqlcode: -1751

sqlstate: 428C0

SQL1752N この表スペースをノード・グループ *ngname* で作成できません。

説明: 表スペースが SYSTEM TEMPORARY 表スペースの場合のみ、ノード・グループ IBMTEMPGROUP を指定できます。

ユーザーの処置: SYSTEM TEMPORARY 表スペース

の場合、ノード・グループ IBMTEMPGROUP を指定してください。そのほかの表スペースの場合、IBMTEMPGROUP 以外のノード・グループを指定してください。

sqlcode: -1752

sqlstate: 429A1

SQL1753N ノード *node-number* には、ノード・グループ **IBMTEMPGROUP** に定義されたすべての **SYSTEM TEMPORARY** 表スペースのコンテナがありません。

説明: ノードが、このデータベースのノード・グループ IBMTEMPGROUP に定義されている、すべての SYSTEM TEMPORARY 表スペースにコンテナを定義していなければ、そのノードをノード・グループに組み込むことはできません。

ユーザーの処置: ALTER TABLESPACE ステートメントを発行し、このデータベースの SYSTEM TEMPORARY 表スペースのノードごとにコンテナを追加してください。

sqlcode: -1753

sqlstate: 57052

SQL1754N この索引表スペースまたはログ表スペースが **PRIMARY** 表スペースと同じノード・グループ内にありません。

説明: CREATE TABLE ステートメントで指定されたすべての表スペースは、同じノード・グループに属していません。

ユーザーの処置: CREATE TABLE ステートメントで指定されたすべての表スペースは、同じノード・グループに属していることを確認してください。

sqlcode: -1754

sqlstate: 42838

SQL1755N ノード *node-number* は、ノード・グループ *ngname* で定義されたすべての表スペースのコンテナを持っていません。

説明: ノードは、ノードがノード・グループの再分散操作に組み込まれる前に、ノード・グループで定義されたすべての表スペースを定義したコンテナがなくてはなりません。

ユーザーの処置: ALTER TABLESPACE ステートメントを発行し、このノード・グループで定義されたすべての表スペース用のノードのコンテナを追加してください。

SQL1756N 複数の文節は、**ON NODES** 文節を使用せずにコンテナを指定します。

説明: CREATE TABLESPACE の場合、ON NODES 文節を使用しない USING 文節を一度のみ指定できます。

ALTER TABLESPACE の場合、ON NODES 文節を使用しない ADD 文節を一度のみ指定できます。

このステートメントは処理されませんでした。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -1756

sqlstate: 428B1

SQL1757N **ON NODES** 文節を使用しない **USING** 文節がなくなっています。

説明: CREATE TABLESPACE ステートメントで、各 USING 文節が ON NODES 文節を指定します。しかし、データベース・パーティション・グループに、すべてのノードは組み込まれていないので、すべてのデータベース・パーティション・グループのすべてのノードにコンテナがあるわけではありません。

このステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ON NODES 文節を使用しない USING 文節が指定されているか、または、データベース・パーティション・グループの各ノードが一回 ON NODES 文節に組み込まれていることを確認してください。

sqlcode: -1757

sqlstate: 428B1

SQL1758W 特定ノードに指定されていないコンテナは、ほかのノードの表スペースで使用されません。

説明: ALTER TABLESPACE および CREATE TABLESPACE ステートメントには、このデータベース・パーティション・グループのすべてのノードに対するコンテナ指定が組み込まれています。ON NODES 文節が後に続かないコンテナの指定は、冗長であるため無視されています。

このステートメントは処理されていません。

ユーザーの処置: マルチノードでコンテナが必要な場合、ALTER TABLESPACE ステートメントを発行し、必要なコンテナを追加してください。

sqlcode: +1758

sqlstate: 01589

SQL1759W ノード・グループの再分散には、ノード・グループ *nodegroup-name* のオブジェクトのパーティション・データを変更し、複数ノードを追加して組み込むか、ドロップしてドロップする必要があります。

説明: この警告は ALTER NODEGROUP または ALTER TABLESPACE ステートメントを使用する変更が、変更されるノード・グループのマップのパーティションの原因になっていないことを示しています。ノード・グループのパーティション・マップを、ノード・グループで定義された表スペースまたはパーティション・マップにないドロップされるノードを使用して定義された表がない場合、次のステートメントで即時に変更のみします。

この警告は次の場合に発行されます。

- 1 つ以上のノードが ALTER NODEGROUP ADD NODE を使用して追加された
- 1 つ以上のノードが ALTER NODEGROUP DROP NODE を使用してドロップされた
- コンテナが表スペースに対して追加され、それ以降コンテナは使用されるノードは要求されません。

これらのすべての場合、表はすでにノード・グループ内の表スペースを使用して定義されています。

ユーザーの処置: データ・パーティションのためにノードを組み込みまたは除外したい場合、REDISTRIBUTE NODEGROUP コマンドまたは API を発行してください。それに代わる方法として、すべての表をドロップするには、ノード・グループの表スペースを使用してください。

sqlcode: +1759

sqlstate: 01618

SQL1760N ストアド・プロシージャ *procedure-name* に対する CREATE ステートメントは有効な LANGUAGE 文節、EXTERNAL 文節および PARAMETER STYLE 文節を持っていない必要があります。

説明: プロシージャ *procedure-name* の CREATE に、必須の文節がありません。

LANGUAGE、EXTERNAL および PARAMETER STYLE を指定しなければなりません。

ユーザーの処置: 足りない文節を追加した後で、もう一度やり直してください。

sqlcode: -1760

sqlstate: 42601

SQL1761N ノード・グループ *ngname* がバッファーク・プール *bpname* に定義されていません。

説明: 表スペースのノード・グループがバッファーク・プールに定義されていません。表スペースは、このノード・グループとバッファーク・プールの組み合わせを使用するために作成したり変更したりできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 可能なアクションは以下のとおりです。

- 表スペースのノード・グループを定義しているバッファーク・プールを指定する
- バッファーク・プールを変更して表スペースのノード・グループを追加する
- CREATE TABLESPACE の場合、バッファーク・プールに定義されているノード・グループを指定する

sqlcode: -1761

sqlstate: 42735

SQL1762N アクティブ・ログ・ファイルに割り振るだけの十分なスペースがないため、データベースに接続することができません。

説明: アクティブ・ログ・ファイルに割り振るだけの十分なディスク・スペースがありません。次のことが原因として考えられます。

- リカバリー・ログを保管するのに使用するデバイスで使用できるスペースが足りない。
- ユーザー出口が使用可能である場合は、正しくないパス、正しくないインストール・ディレクトリー、共用違反、またはその他の問題のために、ユーザー出口プログラムが失敗した可能性があります。

ユーザーの処置: それぞれの原因について、次のように対処してください。

- データベースが少なくとも LOGPRIMARY ログ・ファイルで開始するために、DB2 では新規ログを割り振るための追加のスペースを必要とする場合があるので、1 次ログ用にデバイスに十分なスペースがあることを確認してください。リカバリー・ログが非アクティブであっても、スペースを解放するためにリカバリー・ログを削除してはいけません。
- ユーザー出口プログラムを手操作で呼び出すことにより、ユーザー出口プログラムが正しく操作していることを確認してください。ユーザー出口プログラムのコンパイルおよびインストールについては、ユーザー出口プログラムのサンプル・ソース・コードで提供され

ている指示を検討してください。アーカイブ宛先パスが存在しているかを確認してください。

最後の手段として、LOGPRIMARY または LOGFILSIZ データベース構成パラメーター、あるいはこの両方の値を減らして、アクティブ・ログ・ファイルの設定を小さくして使用するようしてください。これにより、ディスク・スペースの所要量が減ります。

問題を判別し、訂正した後に、接続ステートメントを再発行してください。

SQL1763N ALTER TABLESPACE ステートメントに、複数の矛盾するコンテナー操作があります。

説明: 指定されたコンテナー操作は矛盾しています。同一ノードに対する同一 ALTER TABLESPACE ステートメントの中で、BEGIN NEW STRIPE SET コンテナー操作を、他のコンテナー操作 (ADD、DROP、EXTEND、REDUCE、または RESIZE) と一緒に使用することはできません。同一ノードに対する同一 ALTER TABLESPACE ステートメントの中で、表スペースに (ADD、EXTEND、または RESIZE を使って) ページを追加したり、(DROP、REDUCE、または RESIZE を使って) 表スペースからページを除去することはできません。

この状態には、RESIZE 操作が ALL CONTAINERS 文節で使用されており、その結果、1 つ以上のコンテナーでサイズが増え、その一方ではサイズが減るコンテナーもあるという場合が含まれています。これは許されていません。

ユーザーの処置: BEGIN NEW STRIPE SET コンテナー操作とほかの操作を同一ステートメントの中で使用する場合は、BEGIN NEW STRIPE SET 操作を、その操作独自の ALTER TABLESPACE ステートメントに移動してください。表スペースへのページの追加と、表スペースからのページの除去の両方を行う場合は、2 つの ALTER TABLESPACE ステートメントを使用してください。

sqlcode: -1763

sqlstate: 429BC

SQL1764N ALTER TABLESPACE で、RESIZE アクション用に指定されたサイズが、現在の表スペースの大きさより小さくなっています。

説明: ALTER TABLESPACE ステートメントの RESIZE アクションを使用して指定したサイズが、現在の表スペースの大きさより小さくなっています。コン

テナーのサイズのみを大きくすることができます。

ユーザーの処置: 表スペース・コンテナーの現在のサイズの値よりも大きなサイズを指定してください。

sqlcode: -1764

sqlstate: 560B0

SQL1765W 更新が正常に完了しました。しかし、2 次データベース・サーバーで索引の作成、再作成、または再編成がリカバリーされていない可能性があります。

説明: HADR を使用可能にする場合は、データベース構成パラメーター LOGINDEXBUILD をオンに設定し、データベースまたはデータベース・マネージャーの構成パラメーター INDEXREC を RESTART または ACCESS に設定することをお勧めします。そうしないと、HADR を使用する現在または将来の 2 次データベース・サーバー上では、現在または将来の 1 次データベース・サーバーでの索引の作成、再作成、または再編成はリカバリーできなくなることがあります。リカバリーできない索引には無効のマークが付けられ、HADR のテークオーバー・プロセスの終了時点か、または HADR テークオーバーの後の索引へのアクセス時点に、暗黙で再ビルドされます。

ユーザーの処置: フル・ロギングを使用可能にするには、データベース構成パラメーター LOGINDEXBUILD を更新するか、または SQL ステートメント ALTER TABLE LOG INDEX BUILD ON を発行します。ログ済みの索引ビルド操作の再実行を使用可能にするには、構成パラメーター INDEXREC を RESTART または ACCESS に更新します。

SQL1766W コマンドは正常に終了しました。しかし、HADR 開始まで LOGINDEXBUILD は使用可能ではありませんでした。

説明: HADR を開始する前に、データベース構成パラメーター LOGINDEXBUILD をオンに設定するようお勧めします。そうしないと、現在または将来の 1 次データベース・サーバーでの索引の作成、再作成、または再編成を、HADR を使用する現在または将来の 2 次データベース・サーバー上ではリカバリーできなくなることがあります。リカバリーできない索引には無効のマークが付けられ、HADR のテークオーバー・プロセスの終了時点か、または HADR テークオーバーの後に基礎を成す表へのアクセス時点に、暗黙で再ビルドされます。

ユーザーの処置: フル・ロギングを使用可能にするには、データベース構成パラメーター LOGINDEXBUILD を更新します。

SQL1767N HADR の開始を完了できません。理由コード = *reason-code*。

説明: HADR の開始を完了できません。理由コードに対応する説明は、以下のとおりです。

- 1 START HADR AS STANDBY コマンドを発行しましたが、そのときのデータベースの状態は、ロールフォワード・ペンディングでもロールフォワード進行中でもありませんでした。
- 2 HADR スタンバイ・データベース上では START HADR AS PRIMARY を発行できません。
- 3 START HADR AS STANDBY をアクティブなデータベース上で発行することはできません。
- 99 コマンドは、複数パーティション・インスタンス環境で発行されました。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

- 1 1 次データベースのバックアップ・イメージまたは分割ミラーからスタンバイを初期化してから、START HADR AS STANDBY コマンドを再発行してください。
- 2 スタンバイ・データベースを 1 次データベースに変更する予定の場合、TAKEOVER コマンドを発行します。
- 3 1 次データベースをスタンバイ・データベースに変更する予定の場合、現在のスタンバイから TAKEOVER コマンドを発行します。標準データベースをスタンバイに変更する場合、先にそのデータベースを非活動化する必要があります。
- 99 複数パーティション・インスタンス環境では HADR フィーチャーはサポートされていません。

SQL1768N HADR を始動できません。理由コード = *reason-code*。

説明: 理由コードに対応する説明は、以下のとおりです。

- 1 循環ロギングを使用中のため、データベースをリカバリーできません。
- 2 データベースでは、無限にアクティブなロギングが使用可能になっています。
- 3 データベースでは、DATALINKS が使用可能になっています。

- 4 HADR_LOCAL_HOST 構成パラメーターは、ローカル・ホスト名に一致しません。
- 5 HADR_LOCAL_SVC 構成パラメーターは、無効なサービス名です。
- 6 HADR_REMOTE_SVC 構成パラメーターは、無効なサービス名です。
- 7 1 次データベースは、HADR タイムアウト期間内にスタンバイへの接続を確立できませんでした。
- 8 1 つ以上の HADR データベース構成パラメーターに値がありません。
- 99 HADR の開始時に内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

- 1 データベースは、リカバリー可能なデータベースでなければなりません。ログ・アーカイブを活動化するか、または LOGRETAIN をオンにしてからコマンドを再発行してください。
- 2 無限にアクティブなロギングを使用不可にしてから、コマンドを再発行してください。
- 3 データベース・マネージャー構成パラメーター DATALINKS を NO に設定して、コマンドを再発行してください。
- 4 ローカル・ホスト名に一致するように HADR_LOCAL_HOST の設定を訂正してください。
- 5 HADR_LOCAL_SVC 構成パラメーターが有効なサービス名であることを確認してください。UNIX プラットフォームの場合、`/etc/services` ファイルを編集してください。Windows の場合、`%SystemRoot%\system32\drivers\etc\services` を編集してください。または、このパラメーターのリテラル・ポート番号を指定してもかまいません。
- 6 HADR_REMOTE_SVC 構成パラメーターが有効なサービス名であることを確認してください。UNIX プラットフォームの場合、`/etc/services` ファイルを編集してください。Windows の場合、`%SystemRoot%\system32\drivers\etc\services` を編集してください。または、このパラメーターのリテラル・ポート番号を指定してもかまいません。
- 7 スタンバイ・データベース上のリモート・ホストおよびリモート・サービスのパラメーターを調べてください。スタンバイがオンラインにな

っていて、ネットワークが機能していることを確認してください。ネットワークの速度が遅い場合は HADR_TIMEOUT 構成パラメーターを大きくするか、または BY FORCE オプションを使って 1 次データベースを開始することも検討してみてください。

- 8 1 つ以上の HADR データベース構成パラメーターに値があることを確認してください。
- 99 1 次およびスタンバイ・データベースは TCP/IP を介して接続が可能ですが、この 2 つのデータベースは互いに非互換なので接続をクローズする必要があります。管理通知ログを参照して、非互換性の詳細を調べてください。

SQL1769N HADR の停止を完了できません。理由コード = "%1"。

説明: 理由コードに対応する説明は、以下のとおりです。

- 1 コマンドは、標準データベースで発行されました。
- 2 コマンドは、アクティブな HADR スタンバイ・データベースで発行されました。
- 99 コマンドは、複数パーティション・インスタンス環境で発行されました。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

- 1 HADR はこのデータベース上で稼働していないので、アクションは不要です。指定したデータベース別名が正しいことを確認してください。
- 2 ユーザーは、データベースを非活動化してから、コマンドを再発行する必要があります。
- 99 複数パーティション・インスタンス環境では HADR フィーチャーはサポートされていません。

SQL1770N HADR のテークオーバーを完了できません。理由コード = reason-code。

説明: 理由コードに対応する説明は、以下のとおりです。

- 1 HADR スタンバイが対等状態にないときに、非強制的テークオーバーが試みられました。
- 2 HADR スタンバイが対等状態にもリモート・キャッチアップ・ペンディング状態にもないときに、強制的テークオーバーが試みられました。
- 3 スタンバイはオンライン・バックアップから作成され、ログ内のそのバックアップのエンドポ

イントまでスタンバイが再生する前にテークオーバーが試みられました。

- 4 標準または HADR 1 次データベースに対してコマンドが発行されました。
- 5 非アクティブなスタンバイ・データベースに対してコマンドが発行されました。
- 6 1 次データベースをスタンバイ・データベースに切り替えようとして、エラーが発生しました。
- 7 テークオーバー中に通信エラーが発生しました。
- 99 コマンドは、複数パーティション・インスタンス環境で発行されました。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

- 1 スタンバイ・データベースが対等状態に達するまで待ってください。代わりに、TAKEOVER コマンドの BY FORCE オプションを使用することができます。BY FORCE オプションを使うと、リモート・キャッチアップ・ペンディング状態からテークオーバーすることができます。ただし、スタンバイ・データベースは、1 次データベースに接続できる場合、速やかにリモート・キャッチアップ・ペンディング状態からリモート・キャッチアップ状態に移って、再びテークオーバーが許可されなくなることがあります。また、リモート・キャッチアップ・ペンディング状態からのテークオーバーを強制すると、古い 1 次データベース上でコミット済みのトランザクションが、新しい 1 次では欠落することになる可能性があります。
- 2 スタンバイ・データベースがリモート・キャッチアップ・ペンディング状態または対等状態に達するまで待ってください。その代わりに、スタンバイ・データベースを強制的にリモート・キャッチアップ・ペンディング状態にすることもできます。それには、たとえば STOP HADR または DEACTIVATE DATABASE を 1 次上で実行してスタンバイと 1 次の接続を切断するか、または 1 次とスタンバイの間のネットワークを使用不可にします。
- 3 スタンバイがオンライン・バックアップの終わりに達するまでの許容時間を長くしてから、コマンドを再発行してください。
- 4 このコマンドは、標準または HADR 1 次データベースではサポートされていません。このコマンドは、HADR スタンバイ・データベースでのみ発行してください。

- 5 スタンバイ・データベースをアクティブにしてから、TAKEOVER コマンドを発行してください。
- 6 このメッセージの原因として可能性があることについては、2 つの HADR データベース・パーティションのデータベース・ログを参照してください。それらのデータベース・パーティションの役割は、変更されていない可能性があります。2 つのデータベース・パーティションの HADR_DB_ROLE データベース構成パラメーターの値を確認してください。
- 7 このメッセージの原因として可能性があることについては、2 つの HADR データベース・パーティションのデータベース・ログを参照してください。それらのデータベース・パーティションの役割は、変更されていない可能性があります。2 つのデータベース・パーティションの HADR_DB_ROLE データベース構成パラメーターの値を確認してください。
- 99 複数パーティション・インスタンス環境では HADR フィーチャーはサポートされていません。

SQL1771N リカバリー不能なデータベースは、HADR 1 次または HADR スタンバイのどちらのデータベースとしても使用できません。

説明: 循環ロギングを HADR 1 次またはスタンバイの役割のデータベースに対して使用することはできません。HADR にはリカバリー可能なデータベースが必要です。

ユーザーの処置: データベースを標準の役割に変換するか、または循環ロギングを使用しないようにしてください。

SQL1772N HADR 1 次または HADR スタンバイのどちらのデータベースでも、無限にアクティブなロギングを使用可能にするにはできません。

説明: 無限にアクティブなロギングを HADR 1 次またはスタンバイの役割のデータベースで使用可能にするにはできません。

ユーザーの処置: データベースを標準の役割に変換するか、または無限ロギングを使用しないようにしてください。

SQL1774N HADR 1 次または HADR スタンバイのどちらかのデータベースで、表スペースのリストアを発行できません。

説明: HADR 1 次または HADR スタンバイ・データベース上の表スペース・レベルのリストアは許可されません。

ユーザーの処置: データベースを標準の役割に変換してから、データベースに対してリストア・コマンドを発行してください。

1 次データベースで失われたデータのリカバリーを目的とする場合に、リストアするデータがスタンバイにあれば、1 次データベース上で表スペースをリストアするよりも、TAKEOVER コマンドを実行して、スタンバイ・データベースを 1 次データベースに変換することを検討してみてください。

SQL1776N HADR スタンバイ・データベースでコマンドを発行できません。理由コード = *reason-code*。

説明: 理由コードに対応する説明は、以下のとおりです。

1. このコマンドは、HADR スタンバイ・データベースではサポートされていません。
2. データベースを 1 次からスタンバイに切り替える間、接続要求はできません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

1. DB2 インフォメーション・センターを参照して、発行するコマンドの代わりにサポートされているコマンドがあるかどうかを確かめてください。もしなければ、このデータベース上の HADR を停止してから、もう一度コマンドを発行してください。
2. 新しい 1 次データベースに接続してください。

SQL1777N HADR はすでに開始しています。

説明: このエラーが生じるのは、所定の役割ですすでに稼働しているデータベース上で START HADR コマンドを発行した場合です。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL1790W 許可 ID *user-name* が使用を許可されている少なくとも *page size* のページ・サイズを持つデフォルトの表スペースが見つかりません。

説明: プロシージャ NNSTAT は、実行されたステートメントの履歴を保存するための

SYSPROC.FED_STATS 表を作成できませんでした。許可 ID *user-name* がもつ USE 特権の対象の十分なページ・サイズ (少なくとも *pagesize*) の表スペースが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 少なくとも *pagesize* のページ・サイズの表スペースが存在することを確認してください。許可 ID *user-name* に、その表スペースに対する USE 特権がなければなりません。

sqlcode: +1790

sqlcode: 01670

SQL1791N 指定したサーバー定義、スキーマ、またはニックネームは存在しません。

説明: プロシージャ NNSTAT は、サーバー定義、スキーマ、およびニックネームを入力として受け入れますが、そのようなオブジェクトのうちの 1 つ以上が見つかりません。

ユーザーの処置: 既存のサーバー定義、スキーマ、また

SQL1800 - SQL1899

SQL1800N 構造体 *sqlc_request_info* の無効なポインターがカタログ管理コマンド/API に渡されました。

説明: パラメーターとして、カタログ管理コマンド/API に渡された構造 *sqlc_request_info* へのポインターが無効です。クライアント構成援助要求のためには、このポインターは NULL であってはなりません。

ユーザーの処置: 有効なポインターを *sqlc_request_info* に指定し、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1801N 無効な要求タイプです。

説明: 指定された要求タイプはこのコマンドでサポートされていません。

ユーザーの処置: この要求タイプが、次のサポートされている要求タイプの 1 つであることを確認してください。

1. *SQLC_CCA_REQUEST* - CCA カタログ・ノードはカタログに対して要求し、スキャン・コマンドをオープンします
2. *SQLC_DAS_REQUEST* - DAS カタログ・ノードはカタログに対して要求し、スキャン・コマンドをオープンします
3. *SQLC_CND_REQUEST* - CCA および DAS カタログ項目のスキャン・コマンドをオープンします

はニックネームを指定して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -1791

sqlstate: 42704

SQL1792W リモート・カタログとローカル・カタログのスキーマに矛盾があるため、指定したニックネームの統計は完全には更新されませんでした。

説明: リモート・スキーマは変更されました。リモート表またはビューか、あるいはその列または列データ・タイプのうちの 1 つのどちらかが、ニックネームの作成以後に変更されました。

ユーザーの処置: 新しいニックネームを作成して、もう一度ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: +1792

sqlcode: 01669

SQL1802N この要求タイプに属する項目がありません。

説明: 提供された要求タイプによりカタログを作成されたノード・ディレクトリーの項目がありません。

ユーザーの処置: 同じ要求タイプを使用して項目のカタログを作成し、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1803N 要求された操作は、"パッケージ・ロックなし" モードでは実行されません。影響を受けるパッケージは *pkgschema.pkgname 0Xcontoken* です。

説明: データベース・マネージャーは、現在 "パッケージ・ロックなし" モードで作動しています。このモードは、*DB2_APM_PERFORMANCE* レジストリー環境変数を "ON" に設定してアクティブとなっています。

このモードでは、次のクラスの操作は、パッケージでの影響のために実行できなくなります。

- パッケージを無効にする操作
- パッケージを作動不能にする操作
- パッケージのバインド、再バインド (明示的あるいは暗黙的) またはドロップ

要求された操作は、このいずれかの方法によりパッケージ *pkgschema.pkgname 0Xcontoken* に影響を与えるため、この操作は許可されません。

ユーザーの処置: "パッケージ・ロックなし" モードで

許可されない操作を実行しないでください。 要求された操作を実行するには、“パッケージ・ロックなし” モードを終了する必要があります。 これは、DB2_APM_PERFORMANCE 環境レジストリー変数の設定を解除することで実行されます。変数の変更を有効にするには、データベース・マネージャーを一度停止して、再始動してください。

sqlcode: -1803

sqlstate: 57056

SQL1816N ラッパー *wrapper-name* は、フェデレーテッド・データベースに定義を試みているデータ・ソース (*server-type server-version*) の *type-or-version* にアクセスするために使用できません。

説明: 指定したラッパーは、定義したいデータ・ソースのタイプまたはバージョンをサポートしていません。

ユーザーの処置: 資料を調べて、そのデータ・ソースのタイプおよびバージョンをサポートするラッパーを見つけてください。CREATE WRAPPER ステートメントによって、ラッパーはフェデレーテッド・データベースに登録されていなければなりません。そのラッパーが指定されるよう CREATE SERVER ステートメントを再コーディングし、もう一度 CREATE SERVER ステートメントを実行してください。

sqlcode: -1816

sqlstate: 560AC

SQL1817N CREATE SERVER ステートメントは、フェデレーテッド・データベースに定義したいデータ・ソースの *type-or-version* を識別していません。

説明: 指定したラッパーを CREATE SERVER ステートメントが参照している場合、そのステートメントは、フェデレーテッド・データベースに定義されるデータ・ソースの *type-or-version* を識別していなければなりません。

ユーザーの処置: CREATE SERVER ステートメントで、定義されるデータ・ソースの *type-or-version* が指定されるよう、*type-or-version* オプションをコーディングしてください。その後、もう一度 CREATE SERVER ステートメントを実行してください。

sqlcode: -1817

sqlstate: 428EU

SQL1818N サブミットした ALTER SERVER ステートメントを処理できませんでした。

説明: ALTER SERVER ステートメントが参照しているデータ・ソース (またはデータ・ソースのカテゴリ) 内の表またはビューのニックネームを参照する SELECT ステートメントによる作業単位で、その ALTER SERVER ステートメントは処理されます。

ユーザーの処置: 作業単位を完了させた後、ALTER SERVER ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -1818

sqlstate: 55007

SQL1819N サブミットした DROP SERVER ステートメントを処理できませんでした。

説明: DROP SERVER ステートメントが参照しているデータ・ソース (またはデータ・ソースのカテゴリ) 内の表またはビューのニックネームを参照する SELECT ステートメントによる作業単位で、その DROP SERVER ステートメントは処理されます。

ユーザーの処置: 作業単位を完了させた後、DROP SERVER ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -1819

sqlstate: 55006

SQL1820N LOB 値に対するアクションが失敗しました。理由コード = *reason-code*

説明: 理由コードには、以下のものがあります。

1. LOB 値を格納するのに十分なバッファ・スペースがありませんでした。
2. このリモート・データ・ソースは、LOB データ・タイプでの現行アクションをサポートしていません。
3. 内部プログラム制限を超えているものがあります。

ユーザーの処置: LOB のサイズを削減するか、または LOB データ・タイプで適用されている関数を置換してください。最後の手段として、ステートメントから LOB データ・タイプを除去してください。

sqlcode: -1820

sqlstate: 560A0

SQL1821W 検索された LOB 値は変更している可能性があります。

説明: LOB 値は、据え置き検索基盤で評価されます。LOB 値は最初にアクセスされたときと、実際に検索されたときの間に変更されている可能性があります。

ユーザーの処置: "deferred_lob_retrieval" を "N" in SYSSERVEROPTIONS にセットし、照会を再サブミットするか、警告を無視してください。

sqlcode: +1821

sqlstate: 01621

SQL1822N 予期しないエラー・コード *error-code* をデータ・ソース *data-source-name* から受け取りました。関連テキストとトークンは *tokens* です。

説明: データ・ソースを参照中に、フェデレーテッド・サーバーは DB2 と同等のものにマップしないデータ・ソースから予期しないエラー・コードを受け取りました。

考えられるエラー・コードには以下が含まれます。

- 4901 15 よりも多いカーソルをオープンしようとしています
- 4902 行サイズが 32K の制限を超えました

このエラーは、データ・ソースが使用不可の場合にも返される可能性があります。

ユーザーの処置: このデータ・ソースで指定された適切なメッセージの位置およびエラーの訂正可能なアクションにより、問題の根本の原因を識別し、訂正してください。

sqlcode: -1822

sqlstate: 560BD

SQL1823N サーバー *server-name* からデータ・タイプ *data-type-name* に存在するデータ・タイプ・マッピングがありません。

説明: 試行は、オブジェクトのニックネームを作成させました。オブジェクトの 1 つ以上の列のタイプが現在フェデレーテッド・サーバーにとって不明です。不明タイプの名前はこのメッセージにリストされています。

ユーザーの処置: CREATE TYPE MAPPING ステートメントを使用して指定されたサーバーのタイプ名を指定したマップを作成してください。

sqlcode: -1823

sqlstate: 428C5

SQL1824W この UNION ALL のオペランドにある基本表のいくつかは同じ表である可能性があります。

説明: ニックネームはリモート基本表、リモート・ビュー、リモート別名またはリモート・ニックネームを参照

することができます。UNION ALL ビューの 2 つのオペランドが異なるニックネームを参照する場合、これらのオペランドは同じ表を指している可能性があります (両方がリモート基本表として知られていない場合)。このメッセージはユーザーに、1 つのリモート・データ表が 2 つのオペランドを介して更新または削除によって 2 回更新または削除をしている可能性があることを警告するのに発行されます。

ユーザーの処置: すべてのオペランドが異なるリモート表を示していることを確認してください。2 つのオペランドが同じリモート基本表を指している場合、更新または削除操作を反転するロールバックを発行していると見なします。

sqlcode: +1824

sqlstate: 01620

SQL1825N この SQL ステートメントをフェデレーテッド環境で取り扱うことはできません。

説明: いくつかの制限のため、現行 SQL ステートメントをフェデレーテッド環境で取り扱うことができません。制限として推定されるものは以下のとおりです。

- カーソル更新または削除ステートメントが、カーソル select ステートメントでフェッチされていない列のフェデレーテッド・サーバーへの再フェッチを伴う。
- 内部プログラム制限を超えているものがある。

ユーザーの処置: それぞれの原因について、次のように対処してください。

- カーソルselect ステートメントでフェッチされない列の再フェッチに関連するカーソル更新/削除である場合、必要な列がフェッチされるようにするため、カーソルselect ステートメントを修正してください。
- 内部プログラミング制限を超えている場合、複雑と思われるステートメントを部分的に単純化するかまたは書き直してください。

sqlcode: -1825

sqlstate: 429A9

SQL1826N システム・カタログ・オブジェクト *object-name* で、*column-name* 列に対して無効な *value* 値が列に対して指定されました。

説明: システム・カタログ・オブジェクト *object-name* で、*column-name* 列に対して無効な *value* 値が列に対して指定されました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 指定されたシステム・カタログ・オブ

ジェクトの指定された列の有効な値については、「SQL リファレンス」を参照してください。ステートメントを訂正して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -1826

sqlstate: 23521

SQL1827N サーバー *server-name* に対するローカル許可 ID *auth-ID* で定義されるユーザー・マッピングはありません。

説明: 定義されていないユーザー・マッピングをドロップあるいは変更しようとしていました。

ユーザーの処置: ALTER USER MAPPING ステートメントの場合、まず、CREATE USER MAPPING ステートメントを使用しているユーザー・マッピングを作成してください。それから、ユーザー・マッピングを変更します。DROP USER MAPPING ステートメントの場合、ユーザー・マッピングがないため、これ以上のアクションは必要ありません。

sqlcode: -1827

sqlstate: 42704

SQL1828N リモート・サーバー *server-name* またはリモート・サーバーのグループに対して、サーバー・オプション *option-name* が定義されていません: サーバー・タイプ *server-type*、バージョン *server-version*、およびプロトコル *server-protocol*。

説明: 定義されていないサーバー・オプションをドロップあるいは変更しようとしていました。

ユーザーの処置: ALTER SERVER ステートメントの場合は、まず、CREATE SERVER ステートメントを使用してサーバー・オプションを作成してください。それから、サーバー・オプションを変更します。DROP SERVER ステートメントの場合は、サーバーのサーバー・オプションが存在しないため、これ以上のアクションは必要ありません。

sqlcode: -1828

sqlstate: 42704

SQL1830N RETURNS 文節は EXPRESSION AS 文節を使用して、述部を指定する前に指定する必要があります。

説明: RETURNS 文節が、EXPRESSION AS 文節の入った PREDICATE 文節の前に指定されていません。RETURNS 文節が述部指定の後に組み込まれているか、または欠落している可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: PREDICATE 文節の前に RESULTS 文節を置いて CREATE FUNCTION ステートメントを指定してください。

sqlcode: -1830

sqlstate: 42627

SQL1831N 副表 *subtable-name* の表統計は更新できません。

説明: ステートメントは、副表として定義されている表 *subtable-name* に対して NPAGES、FPAGES、または OVERFLOW の統計値を更新しようとしています。型付き表の場合、これらの統計は表階層のルート表を使用して更新することしかできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 副表の代わりに、表階層のルート表に対するカタログ統計を更新してください。

sqlcode: -1831

sqlstate: 428DY

SQL1832N SQL 関数として定義されているため、ルーチン *routine-name* をフィルターを定義するために使用できません。

説明: ルーチン (関数または方式) *routine-name* が、ユーザー定義の述部指定または索引拡張子定義として FILTER 文節に指定されています。このルーチンを LANGUAGE SQL で定義することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: LANGUAGE SQL で定義されていないルーチンを指定してください。

sqlcode: -1832

sqlstate: 429B4

SQL1833N ポート *port_number* で、リモート拡張検索サーバー *host_name* との接続を確立できなかったか、またはこのサーバーが終了しました。

説明: 拡張検索ラッパーが、ポート *port_number* に、リモート拡張検索サーバー *host_name* を接続使用しましたが、確立できなかったか、またはリモート・サーバーによって終了しました。

ユーザーの処置: リモート拡張検索サーバーのホスト名とポート番号を確認してください。拡張検索サーバーが稼働中であるかどうかを確認してください。

SQL1834N ユーザー定義列 *column_name* は、ラッパー *Wrapper_name* の固定列と同一ですが、異なるデータ・タイプを使用しています。

説明: CREATE NICKNAME ステートメントまたは ALTER NICKNAME ステートメントには、ラッパー *Wrapper_name* の固定列と同じ名前のユーザー定義列が含まれていますが、別のデータ・タイプを使用しています。

ユーザーの処置: CREATE NICKNAME ステートメントの列定義で、ラッパー *Wrapper_name* の固定列を指定しないようにしてください。固定列を指定する場合には、固定列の名前とデータ・タイプ/データ・タイプ長が固定列定義と一致してはなりません。固定列またはデータ・タイプを変更することは許可されません。

SQL1835N タイプ *object_type* の拡張検索オブジェクト *object_name* が、リモート拡張検索サーバー *es_host_name* で見つかりませんでした。

説明: タイプ *object_type* の拡張検索オブジェクト *object_name* が、リモート拡張検索サーバー *es_host_name* で見つかりませんでした。

ユーザーの処置: オブジェクト名がこのサーバーに定義されており、そのタイプは *object_type* であることを確認してください。

SQL1836N ユーザー定義列 *column_name* およびリモート拡張検索 *es_host_name* のファイル名との間に列のマッピングが存在しません。

説明: DATASOURCE または CATEGORY オプションで指定されたデータ・ソースのいずれにも、ユーザー定義列 *column_name* と同一のフィールド名は含まれていません。

ユーザーの処置: 列名が、次のどちらかのフィールドで定義されていることを確認してください。

- DATASOURCE オプションで指定されたデータ・ソース
- CATEGORY オプションで指定されたカテゴリーのデータ・ソース

SQL1837N *option_type* オブジェクト *object_name* の必須指定のオプション *option_name* は、ドロップできません。

説明: オプションの中には、フェデレーションで必要なものがあります。オプションをドロップできません。

ユーザーの処置: このデータ・ソースに関する DB2

Information Integrator の資料を参照して、オプションを別の値に設定することが可能かどうかを確認してください。関連オブジェクトをドロップすることが必要な場合があります。

sqlcode: -1837

sqlstate: 428GA

SQL1838N 検索ステートメント *statement* が、無効な拡張検索照会です。

説明: 拡張検索ラッパーが、リストにある検索ステートメントを処理しようとしたましたが、構文に誤りがあるため、照会ができませんでした。

ユーザーの処置: 検索ステートメントを訂正して、要求をもう一度やり直してください。拡張検索のニックネームを使用して、有効な SQL 検索ステートメントを作成する情報に関しては、「DB2 SQL リファレンス」および「IBM DB2 Life Sciences Data Connect Planning, Installation, and Configuration Guide (Part: Extended Search Wrapper)」を参照してください。

SQL1839N 1 つ以上の検索パラメーターが無効です。

説明: 拡張検索ラッパーは、指定された検索パラメーターを使用しようとしたましたが、このパラメーターは拡張検索では無効です。

ユーザーの処置: 有効な SQL 検索ステートメントの書き方の情報に関しては、「IBM DB2 Life Sciences Data Connect Planning, Installation, and Configuration Guide (Part: Extended Search Wrapper)」を参照してください。

SQL1840N *option-type* オプション *option-name* を *object-name* オブジェクトに追加することはできません。

説明: このオプションは追加できません。オプションの中にはオブジェクトによって設定するものがあり、それらは追加したりオーバーライドしたりできません。

ユーザーの処置: このデータ・ソースに関する DB2 Information Integrator の資料を参照してください。このオブジェクトに関連するオプションに対して有効なアクションについて調べてください。

sqlcode: -1840

sqlstate: 428GA

SQL1841N *object-name* オブジェクトについて、
option-type オプション *option-name* の値
は変更できません。

説明: このオプションの値はドロップできません。オプションの中にはオブジェクトによって設定するものがあり、それらは追加したりオーバーライドしたりできません。

ユーザーの処置: このデータ・ソースに関する DB2 Information Integrator の資料を参照してください。このオブジェクトに関連するオプションに対して有効なアクションについて調べてください。関連オブジェクトをドロップし、新しいオプション値によりそれを作成しなおすことが必要な場合があります。SET SERVER OPTION ステートメントに対する応答としてこのメッセージが出された場合は、ALTER SERVER ステートメントを使用することが必要になることがあります。

sqlcode: -1841

sqlstate: 428GA

SQL1842N *text* の付近にあるオブジェクト
object-name のタイプ *option-type* のオプション
option-name が無効です。理由コード = *reason-code*

説明: 指定されたオプションの構文が無効です。エラーに関するさらに詳しい情報が理由コードによって示されます。理由コードには、以下のものがあります。

- 01 予期しない文字
- 02 エレメント名または属性名が予期されていましたが、見つかりませんでした
- 03 参照の後、最小/最大オカレンスが予期されます
- 04 属性名の後に複数個のコロンがあります
- 05 最小/最大オカレンスが整数値ではありません
- 06 最小/最大オカレンスが範囲外です
- 07 最小オカレンスが最大オカレンスより大きくなっています
- 08 列テンプレート・オプションの中の参照が列 ("column") ではありませんでした
- 09 ネームスペース指定に '=' 区切り文字が欠落しています
- 10 ネームスペース指定に開始引用符または終了引用符が欠落しています
- 11 テンプレート内で参照が重複しています

ユーザーの処置: このデータ・ソースに関する DB2 Information Integrator の資料を参照してください。正し

いオプション構文について確認し、ステートメントをコーディングしなおしてください。理由コードには、以下のものがあります。

- 01 指定された位置の付近にあるオプション値について調べ、無効な文字を変更または削除してください。
- 02 指定された位置の付近にあるオプション値について調べ、構文を訂正してください。
- 03 テンプレート・オプション値内の各参照の後に範囲指定 "[min,max]" が指定されていることを確認してください。
- 04 テンプレートでサポートされる名前の修飾は 1 レベルだけです。余分の修飾を除去してください。
- 05 範囲指定の最小オカレンス値と最大オカレンス値が整数であることを確認してください。
- 06 範囲指定 "[min,max]" の値が、このデータ・ソースで可能な範囲内であることを確認してください。
- 07 範囲指定を訂正してください。最初の数値は第 2 の数値以下でなければなりません。
- 08 列テンプレート・オプション値内の参照を、トークン 'column' で置き換えてください。
- 09,10 ネームスペース・オプション値を、'name="specification"' という形式でコーディングしなおしてください。
- 11 テンプレートをコーディングしなおしてください。参照が反復しないようにしてください。

sqlcode: -1842

sqlstate: 42616

SQL1843N *nickname-name.column-name* ニックネーム
列に対して *operator-name* 演算子はサポート
されていません。

説明: 一部のデータ・ソースでは、ニックネーム列と共に指定できる演算子に制限があります。

ユーザーの処置: このデータ・ソースに関する DB2 Information Integrator の資料を参照してください。ステートメントをコーディングしなおし、無効な式を除去または変更してください。その後、ステートメントを再びサブミットしてください。

sqlcode: -1843

sqlstate: 429BP

SQL1844W 列 *column-name* のデータは、リモート・データ・ソースとフェデレーテッド・サーバーの間で切り捨てられました。

説明: リモート・データ・ソースとフェデレーテッド・サーバーの間でのデータ転送において、文字が切り捨てられました。切り捨てはさまざまな状況で発生することがあります。その中には、ニックネーム列定義が不正である (リモート・データ・ソース列データに対して列が小さすぎる) 場合や、リモート・データ・ソースから戻されるデータのサイズに制限がある変換またはタイプ cast 関数が存在する場合があります。

ユーザーの処置: この問題を訂正するには、リモート・データ・ソースから戻されるデータのサイズに制限があるかもしれないタイプ・キャストまたは変換関数が、ステートメントに含まれているかどうかを確認してください。ステートメントにそのような関数が含まれているなら、データ・ソースからもっと大きいデータが戻されることが可能になるよう、ステートメントをコーディングしなおしてください。その後、ステートメントを再びサブミットしてください。ステートメントにそのような関数が含まれていない場合、または関数を訂正しても問題が解決しない場合、DB2 カタログの中のニックネームのローカル列指定を調べてください。ALTER NICKNAME ステートメントまたは DROP NICKNAME および CREATE NICKNAME ステートメントを使用することにより、列指定を変更して、列サイズがリモート・データ・ソースから戻されるデータの入る大きさになるようにしてください。

sqlcode: 1844

sqlstate: 01004

SQL1846N *object-name-1* オブジェクトの *option-type-1* オプション *option-name-1* が、*object-name-2* オブジェクトの *option-type-2* オプション *option-name-2* と矛盾しています。

説明: 2 つ以上の互換性のないオプションまたはオプション値が指定されました。

ユーザーの処置: このデータ・ソースに関する DB2 Information Integrator の資料を参照してください。このオブジェクトで指定できる有効なオプションを確認してください。その後、再度ステートメントをコーディングおよびサブミットしてください。

sqlcode: -1846

sqlstate: 42867

SQL1847N *object-name object-type* のテンプレート置換エラー。理由コード = *reason-code* 追加テキストおよびトークン *text*

説明: XML 文書の構築中に、ラッパーがテンプレートの値を置換しようとして問題を検出しました。ニックネーム・レベルと列レベルのテンプレートの間に矛盾があることが原因であると思われます。理由コードには、以下のものがあります。

01 参照名がテンプレート中に見つからない。欠落している参照が追加テキストの中で示されます。

02 属性参照をエレメント・コンテンツによって置換できない。エラーのある参照が追加テキストの中で示されます。

ユーザーの処置: このデータ・ソースに関する DB2 Information Integrator の資料を参照してください。さらに詳しい診断情報が db2diag.log に記録されている場合があります。必要に応じて、ALTER NICKNAME ステートメントを使用することによりテンプレートの構文を訂正してください。その後、元のステートメントを再びサブミットしてください。

sqlcode: -1847

sqlstate: 428G9

SQL1870N キー・シーケンス列が範囲外であるため、範囲がクラスター化された表に行を挿入できませんでした。

説明: キー・シーケンスの値が定義された範囲外であるため、範囲がクラスター化された表に行を挿入できませんでした。

ユーザーの処置: 範囲がクラスター化された表で定義された範囲を参照するには、この表に定義された制約を照会し、「RCT」という名前の制約を検索します。たとえば、以下のようになります。SELECT * FROM SYSIBM.SYSCHECKS WHERE NAME='RCT' AND TABLE=<rct table-name>

- 使用可能な WITH OVERFLOW オプションで、範囲がクラスター化された表をドロップおよび再作成できます。これにより、範囲がクラスター化された表が作成され、範囲外のレコードが処理可能になりますが、配列は保証されず、ロックの危険性が高くなります。
- このレコードが含まれる新規の範囲定義で、範囲がクラスター化された表をドロップおよび再作成できません。
- 範囲がクラスター化された表レコードの UNION ALL であるビューを定義し、範囲外のレコードが含まれる

別個の表を作成できます。これにより、挿入、更新、削除、マージ、および照会をビューで実行できます。

sqlcode: -1870

sqlstate: 23513

SQL1871N この機能は範囲がクラスター化された表ではサポートされません。理由コード = *reason-code*

説明: 一部の機能は範囲がクラスター化された表では使用不可です。理由コード:

- 1 VALUE COMPRESSION および COMPRESS SYSTEM DEFAULT は使用不可です。
- 2 クラスターリング索引が範囲がクラスター化された表で作成できません。
- 3 列の追加はサポートされていません。
- 4 SET DATA TYPE はサポートされていません。
- 5 PCTFREE の変更はサポートされていません。
- 6 APPEND モードの変更はサポートされていません。
- 7 列属性は変更できません。
- 8 型付き表はサポートされていません。
- 9 範囲がクラスター化された表は 1 つ以上のデータベース・パーティションが定義されたデータベースに作成できません。
- 10 範囲がクラスター化された表を含む表スペースの定義に使用された、データベース・パーティション・グループ上での再配布はサポートされていません。
- 11 LOAD ユーティリティはサポートされていません。
- 12 表の再編成はサポートされていません。
- 13 表の切り捨てはサポートされていません。

ユーザーの処置: この表で無効な機能が要求された場合、ORGANIZE BY KEY SEQUENCE 文節を使用しない表の作成を考慮してください。表がすでに存在する場合はそれをドロップし、表を再作成する必要があります。理由コード:

- 1 VALUE COMPRESSION 文節または COMPRESS SYSTEM DEFAULT 文節を除去してください。
- 2 キーワード CLUSTER を CREATE INDEX ステートメントから除去してください。

- 3 列を追加するには、表をドロップし、追加列を使用して再作成する必要があります。
- 4 SET DATA TYPE 文節を ALTER TABLE ステートメントから除去してください。
- 5 PCTFREE 文節を ALTER TABLE ステートメントから除去してください。
- 6 APPEND 文節を ALTER TABLE ステートメントから除去してください。
- 7 列属性を変更するには、表をドロップし、新規の列属性を使用して再作成する必要があります。
- 8 型付き表定義を ORGANIZE BY KEY SEQUENCE 文節とともに使用しないでください。
- 9 範囲がクラスター化された表を、定義されたデータベース・パーティションを 1 つのみ含むデータベースに作成してください。
- 10 範囲がクラスター化された表を含む表スペースの定義に使用された、データベース・パーティション・グループを再配布するには、範囲がクラスター化された表をドロップし、そのデータベース・パーティション・グループに属さない異なる表スペースに再作成する必要があります。
- 11 LOAD ユーティリティの代わりに IMPORT ユーティリティを使用することを考慮してください。データのサブセットを使用して、複数の IMPORT コマンドを並行して発行し、パフォーマンスを向上できます。さらに、キー・シーケンス範囲の異なる領域をデータに追加する、並列挿入アプリケーションの使用を考慮してください。
- 12 表の再編成は範囲がクラスター化された表では必要ありません。
- 13 表をドロップし、再作成してください。

sqlcode: -1871

sqlstate: 429BG

SQL1881N *option-name* は、*object-name* に対して有効な *option-type* ではありません。

説明: 指定されたオプションが存在しないか、あるいは操作している特定のデータ・ソース、データ・ソース・タイプ、またはデータベース・オブジェクトに対して有効ではないと思われます。

ユーザーの処置: 「SQL リファレンス」を参照して、

必要なオプションを調べてください。次に、実行したいステートメントを訂正して再サブミットしてください。

sqlcode: -1881

sqlstate: 428EE

SQL1882N *option-type* オプション *option-name* は、*object-name* に対して *option-value* に設定できません。

説明: 指定した値に正しい区切り文字が欠落しているか、または値が無効です。

ユーザーの処置: 「SQL リファレンス」を参照して、必要な値を調べてください。次に、実行したいステートメントを訂正して再サブミットしてください。値は必ず単一引用符で区切ってください。

sqlcode: -1882

sqlstate: 428EF

SQL1883N *option-name* は、*object-name* に対して必須 *option-type* オプションです。

説明: サブミットしたステートメントを処理するために DB2 が必要とするオプションを指定しませんでした。

ユーザーの処置: 実行したいステートメントに必要なオプションを見つけるには、資料を参照してください。次に、このステートメントを訂正して再サブミットしてください。

sqlcode: -1883

sqlstate: 428EG

SQL1884N *object_type* オブジェクト *object_name* に対して *option_name* オプションが複数回指定されました。

説明: 同じオプションを複数回参照するステートメントが入力されました。

ユーザーの処置: ステートメントを再びコーディングして、必要なオプションの参照を 1 回のみに行います。その後、ステートメントを再びサブミットしてください。

sqlcode: -1884

sqlstate: 42853

SQL1885N *option_type* オプション *option_name* は、*object_name* に対して既に定義されています。

説明: すでに値を持っているオプションの値を入力しました。

ユーザーの処置: 該当するカタログ・ビューに照会を行って、オプションが現在設定されている値を判別してください。このオプション値が必要な値と違う場合は、ステートメントを再びコーディングして SET キーワードを OPTIONS キーワードの後にしてください。このオプションのオプションがどのカタログ・ビューに含まれるのかを調べてください。カタログ・ビューについては、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

sqlcode: -1885

sqlstate: 428EH

SQL1886N *object-name* に対して *option-type* オプション *option-name* が定義されていないため、*operation-type* 操作が無効です。

説明: 操作しているデータ・ソース、データ・ソース・タイプ、またはデータベース・オブジェクトに定義されていないオプションの値を変更または削除しようと試みました。

ユーザーの処置: 実行したいステートメントに SET を指定した場合は、ステートメントを再びコーディングして、SET を省略するか、または SET を ADD で置き換えます (ADD がデフォルトです)。不正な DROP 文節があれば、すべて削除してください。その後、ステートメントを再びサブミットしてください。

sqlcode: -1886

sqlstate: 428EJ

SQL1887N SPECIFICATION ONLY 文節が必要です。

説明: ニックネームに対する CREATE INDEX ステートメントには、SPECIFICATION ONLY 文節が必要です。

ユーザーの処置: SPECIFICATION ONLY 文節を追加して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -1887

sqlstate: 42601

SQL1888N ポート番号 *port-number* は無効です。

説明: 代替サーバーの更新コマンドに指定したポート番号は有効ではありません。その値は数値ではないか、または長さが無効です。値は 1 から 14 文字の長さでなければならず、すべてブランクにすることはできません。

ユーザーの処置: ポート番号を数値で指定したことを、

長さが 14 文字を超えていないことを確認してください。

有効なポート番号を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1889W 代替サーバーの更新の要求は無視されました。

説明: 要求は、データベース・サーバーに対してのみ適用することができます。

ユーザーの処置: データベース・サーバーでその要求を出してください。

SQL1890N ホスト名 *host-name* が無効です。

説明: 代替サーバーの更新コマンドに指定したホスト名は有効ではありません。値は 1 文字以上 255 文字以下の長さでなければならず、すべてブランクにすることはできません。

ユーザーの処置: ホスト名の長さは、255 文字を超えていないことを確認してください。

有効なホスト名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1891N ホスト名パラメーターのアドレスは無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、ホスト名 (host name) パラメーターに無効なアドレスを使用しま

した。そのアドレスが割り振られていないバッファーを指しているか、またはそのバッファー内の文字ストリングに NULL 終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムを修正して、有効なアドレスを使用し、入カストリングが NULL で終了するようにしてください。

SQL1892N ポート番号パラメーターのアドレスは無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、ポート番号 (port number) パラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファーを指しているか、またはそのバッファー内の文字ストリングに NULL 終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムを修正して、有効なアドレスを使用し、入カストリングが NULL で終了するようにしてください。

SQL1900 - SQL1999

SQL1900N コマンドは正常に終了しました。

説明: コマンド行ユーティリティーが、コマンドを正常に終了しました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

ユーザーの処置: コマンドの訂正と再サブミットを行ってください。

SQL1901N コマンドの構文が誤りです。

説明: コマンド行ユーティリティーがコマンドを処理できませんでした。

SQL2000 - SQL2099

SQL2000N ユーティリティー・コマンドに指定されたドライブは、有効なディスクット・ドライブまたはハード・ディスクではありません。

説明: ユーティリティー・コマンドに指定された入出力ドライブが存在しません。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいドライブ指定子を使用して、ユーティリティー・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2001N ユーティリティへの割り込みが起きました。出力データが不完全の可能性があります。

説明: 割り込みキー・シーケンスが押されたか、または呼び出し側終了アクションでユーティリティが呼び出されています。

このメッセージは、データベース・カタログ・ノードがダウンしている時の、データベースでのバックアップまたはリストア処理中に返されます。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 必要に応じて、アプリケーションを再始動するか、またはコマンドを再発行してください。割り込まれたコマンドからの出力データは不完全な可能性があるため、使用するべきではありません。

SQL2002N 指定されたデータベース・ユーティリティ・コマンドはリモート・データベースに対して無効です。コマンドで指定されたデータベースはローカル・ワークステーションになければなりません。

説明: データベース・ユーティリティ・コマンドはローカル・データベースにのみ有効です。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: ユーティリティをローカルで実行してください。

SQL2003C システム・エラーが発生しました。

説明: オペレーティング・システム・エラーが起きました。戻りコードは SQLCA の「SQLERRD[0]」フィールドにあります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: SQLCA 内の「SQLERRD[0]」フィールドにあるエラー戻りコードを調べてください。可能であれば、エラーを修正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2004N 処理中に、SQL エラー *sqlcode* が起きました。

説明: エラーが起きたときに、ユーティリティが SQL ステートメントを使用していました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージの SQLCODE (メッセージ番号) を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2005C 読み取り処理中に、入出力エラーが起きました。データが不完全な可能性があります。

説明: 入出力操作中に、不完全なデータが読み取られました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 修正可能な入出力エラーかどうか判別して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2006C 書き込み処理中に入出力エラーが起きました。データが不完全な可能性があります。

説明: 入出力操作中に、不完全なデータが書き込まれました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 修正可能な入出力エラーかどうか判別して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2007N 指定されたバッファ・サイズ *buffersize* 4K バッファは、*pagesize* ページ・サイズのオブジェクトには小さすぎます。

説明: *pagesize* ページ・サイズのデータベース・オブジェクトのバックアップを行うには、ページ・サイズよりも大きいバッファが必要です。データベースをバックアップすると、データはまず内部バッファにコピーされます。バッファがいっぱいになると、データがこのバッファからバックアップ・メディアに書き込まれます。指定されたバッファ・サイズ *buffersize* 4K バッファは不適當です。

ユーザーの処置: より大きいバッファ・サイズを使用してください。

SQL2008N *callerac* パラメーターが有効な範囲内ではないか、または要求されたアクションの順序が正しくありません。

説明: *callerac* パラメーターの値が受け入れ可能な値ではないか、または要求されたアクションの順序が正しくありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 各ユーティリティは、有効な *callerac* の値の固有なリストを持っています。使用中のユーティリティの *callerac* の有効な値については、「アプリケーション開発ガイド」をチェックしてください。有効な *callerac* パラメーターを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2009C ユーティリティの実行に使用できる十分なメモリーがありません。

説明: 指定されたユーティリティを実行するには、メモリーが十分ではありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 可能なアクションは以下のとおりです。

- **UTIL_HEAP_SZ** データベース構成パラメーターを増やしてください。バックアップおよびリストアの場合、この値は、少なくともバッファ数* バッファ・サイズと同じ大きさでなければなりません。バッファのバックアップとリストアの詳細については、「コマンド・リファレンス」を参照してください。
- システムに十分な実メモリーおよび仮想メモリーがあることを確認してください。
- バックグラウンド処理を終了してください。
- **DBHEAP** データベース構成パラメーターを増やしてください。

SQL2010N ユーティリティが、データベースへの接続中にエラー *error* を見つけました。

説明: ユーティリティはデータベースに接続できませんでした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2011N ユーティリティが、データベースへの切断中にエラー *error* を見つけました。

説明: ユーティリティはデータベースから切断できませんでした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2012N 割り込み処理が使用できませんでした。

説明: ユーティリティが割り込み処理を使用できませんでした。実際の戻りコードは、SQLCA の「SQLERRD[0]」フィールドにあります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: SQLCA 内の「SQLERRD[0]」フィールドにあるエラー戻りコードを調べてください。可能で

あれば、エラーを修正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2013N ユーティリティが、データベース・ディレクトリーにアクセスできませんでした。エラー *error* が返されました。

説明: ユーティリティがデータベース・ディレクトリーにアクセスしているときに、エラーが起きました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: *database* パラメーターのパスがデータベース・ディレクトリーのパスでない場合は、正しいパスを使用して、コマンドを再サブミットしてください。そうでない場合は、詳細について、メッセージのエラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2014N データベース環境エラーが起きました。

説明: ユーティリティが、*database environment* コマンドからエラーを受け取りました。データベース・マネージャー構成ファイルと当該データベース構成ファイルに、互換性のない値が入っている可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: データベース・マネージャー構成ファイルとデータベース構成ファイルの矛盾している値をチェックしてください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL2015N *database* パラメーターが無効です。データベース名が長すぎるか、指定されていないか、または名前前のアドレスが無効です。

説明: データベース名は必須です。データベース名は 1 から 8 までのデータベース・マネージャー基本文字セットから選択しなければなりません。表名は、有効なアプリケーション・アドレスに位置する必要があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効なデータベース名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2016C *program-name* のパスが、**PATH** コマンドに含まれていません。

説明: ユーティリティがオペレーティング・システムの *Select Path* を使用して、要求されたプログラムを見つけることができませんでした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: **PATH** コマンドを更新して、示され

たプログラム名へのパスを組み込んでください。

SQL2017N すでに開始しているセッションが多すぎるか、または **OS/2 Start Session** が正常に終了していません。

説明: 以下に示す理由のために、BACKUP または RESTORE ユーティリティが新しいセッションを始動できませんでした。

- すでに開始されているセッションの数が最大値に達しています。
- OS/2 Start Session プログラムがエラーを返しました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: いくつかの現行セッションが処理を停止するまで待って、コマンドを再サブミットしてください。または、詳細について、SQLCA の「SQLERRD[0]」フィールドを参照して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2018N ユーティリティが、ユーザーの許可 ID またはデータベース許可をチェックしようとしたときに、エラー *error* が起きました。

説明: ユーザーがユーティリティを実行しようとしたが、以下のいずれかが起きました。

- ユーザー許可 ID が無効。
- データベースに対するユーザーの許可にアクセスしようとしたときに、エラーが起きた。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2019N ユーティリティのデータベースへのバインド中に、エラーが起きました。

説明: 実行されている現在のレベルのユーティリティは、データベースにバインドされていないため、システムが、すべてのユーティリティをデータベースにバインドしようとしたが、このバインド処理が失敗しました。考えられるエラーの原因には以下が含まれます。

- システムがディスク・スペースを使い果たしている可能性があります。
- オープンされているファイルが多すぎるなどのシステム・リソースの問題。
- バインドされるユーティリティ・プログラムのリスト (db2ubind.lst) がないか、または無効です。

- いずれかのユーティリティのバインド・ファイル (db2uxxxx.bnd) がないか、または無効です。
- ユーザーがユーティリティをバインドするために必要な許可を取っていません。必要な特権は以下のとおりです。
 - ユーティリティ・プログラムに対する BIND 特権
 - システム・カタログに対する SELECT 特権

RESTORE ユーティリティの場合、データベースはリストアされますが、少なくとも 1 つのユーティリティがデータベースにバインドされません。他のユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: システム・リソースを競合している可能性があるすべての活動を完了させて、ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。エラーが続く場合は、以下のいずれかのアクションを実行してください。

- SYSADM または DBADM 権限を持つユーザーに、コマンドの再発行を依頼してください。
- データベース・マネージャーを再インストールするか、または最新の更新処理を再適用するか、あるいはその両方を行ってください。
- 問題を分離するために、および可能であれば、いくつかのユーティリティを正常に処理させるために、ユーティリティ・プログラム (db2uxxxx.bnd ファイル) を、データベースに個別に BIND (形式オプションを使用しないで) してください。

SQL2020N ユーティリティが、データベースに正しくバインドされていません。

説明: ユーティリティがデータベースにバインドされなかったか、またはデータベースにバインド・ユーティリティのパッケージがインストールされたバージョンのデータベース・マネージャーと互換でないために、すべてのユーティリティがデータベースに再バインドされましたが、依然としてインストールされたバージョンのデータベース・マネージャーとパッケージの間には、ユーティリティとバインド・ファイルが互換でないというタイム・スタンプの矛盾があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーを再インストールするか、または最新の更新処理を再適用するか、あるいはその両方を行ってください。ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2021N ドライブに正しいディスクが入っていません。

説明: Backup Database または Restore Database に使用するディスクが、ドライブに入っていないか、または無効です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいディスクがドライブに挿入されていることを確認するか、または新しいディスクを挿入してください。

SQL2023N ログ・コントロール・ファイルにアクセス中に、ユーティリティーで入出力エラー *code* が起きました。

説明: ログ・コントロール・ファイルに対する読み取りまたは書き込み操作が失敗しました。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: エラー戻りコードの値を記録してください。入出力エラーが修復可能かどうかを判別してください。

SQL2024N ユーティリティーがファイル・タイプ *file-type* へのアクセス中に、入出力エラー *code* が起きました。

説明: 指定されたファイルにアクセス中に、入出力エラーが起きました。

リストア処理が異常終了したかどうかを判別するには、拡張子 “.BRG” のファイルを使用します。このファイルは、リストア操作の対象であったデータベースのローカル・データベース・ディレクトリー内に置かれます。

拡張子 “.BRI” の付いたファイルは、増分 RESTORE 操作の進行状況に関する情報を保管します。このファイルは、リストア増分操作の対象となったデータベースのローカル・データベース・ディレクトリー内に置かれます。

このファイルの名前は、データベース・トークンにファイル・タイプ拡張子を連結して作成されます。たとえば、データベース “SAMPLE” にデータベース・トークン “SQL00001” が割り当てられると、BRI ファイルには “instance/NODE0000/sqlbdir/SQL00001.BRI” という名前が付きます。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: エラー戻りコードを記録してください。入出力エラーが修復可能かどうかを判別してください。

SQL2025N 入出力エラー *code* が、メディア *dir/devices* で起きました。

説明: 示されたメディア上のファイルのアクセス中に、入出力エラーが起きました。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: エラー戻りコードを記録してください。入出力エラーが修復可能かどうかを判別してください。

SQL2026N データベースからの内部的切断中に、エラー *sqlcode* が起きました。

説明: internal disconnect コマンドが失敗しました。SQLCODE がメッセージに返されています。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージの SQLCODE (メッセージ番号) を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2027N データベースへの内部接続中に、エラー *sqlcode* が起きました。

説明: 内部接続が失敗しました。SQLCODE がメッセージに返されています。データベース・マネージャー構成ファイルと当該データベース構成ファイルに、互換性のない値が入っている可能性があります。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージの SQLCODE (メッセージ番号) を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。データベース・マネージャー構成ファイルの値と、バックアップ・イメージのデータベース・マネージャー構成ファイルの値が互換であることをチェックしてください。

SQL2028N 割り込みハンドラーのインストール中に、エラー *sqlcode* が起きました。

説明: ユーティリティーが、割り込みハンドラーを使用できませんでした。SQLCODE がメッセージに返されています。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージの SQLCODE (メッセージ番号) を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2029N エラー *error* が *command-file-name* の処理中に起きました。

説明: 指定されたコマンド・ファイル、またはオペレーティング・システムからエラーが返されました。

ユーザーの処置: ROLLFORWARD リカバリーで使用可能なデータベースの「変更部分のみのバックアップ」、またはユーザー出口の使用を要求中に、「変更部分のみのバックアップ」を要求してください。

SQL2030N *name* ドライブがいっぱいです。このドライブには、少なくとも *number* バイトの空きスペースが必要です。

説明: 指定されたドライブに、内部で使用するサブディレクトリーと情報ファイルを作成するための十分なスペースがありません。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 指定したドライブに示されたスペースを確保して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2031W 警告! 装置 *device* に、ターゲットまたはソースのメディアを取り付けてください。

説明: データベース・ユーティリティー処理は、指定された装置上のメディアとの間で、データの書き込みまたは読み取りのいずれかを行います。ユーティリティーは、操作に適したメディアを取り付けられるように、コントロールを戻します。

ユーティリティーは、続行の応答を待ちます。

ユーザーの処置: メディアを取り付けて、処理を続行するか終了するかを示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL2032N *parameter* パラメーターが無効です。

説明: パラメーターの指定が正しくありません。値が範囲外か、または正しくありません。

ユーザーの処置: パラメーターに正しい値を指定して、コマンドを再実行してください。

SQL2033N TSM エラー *error* が起こりました。

説明: データベース・ユーティリティーの処理中に TSM が呼び出され、エラーが起こりました。

ユーザーの処置: エラーの記述について TSM の資料を調べ、リカバリー・アクションを取った後でコマンドを出し直してください。

SQL2034N *parm* パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、このパラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファーを指しているか、またはそのバッファー内の文字ストリングに NULL 終止符がありません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入力ストリングが null で終了していることを確認してください。

SQL2035N ユーティリティーが非割り込みモードで実行中に、警告状況 *warn* が発生しました。

説明: 呼び出し中のアプリケーションが、非割り込みモードでユーティリティーを呼び出しました。その操作中に、警告状況が発生しました。

ユーザーの処置: 非割り込み条件を *callerac* パラメーターに指定せずに操作をやり直すか、警告を回避するアクションを取って操作をやり直してください。

SQL2036N ファイルまたは装置 *path/device* のパスが無効です。

説明: ユーティリティーを呼び出しているアプリケーションが、無効なソースまたはターゲット・パスを指定しました。指定されたパスまたは装置が存在しないか、または正しく指定されていません。

ユーザーの処置: 正しいパスまたは装置を表すパスを使用して、ユーティリティー・コマンドを再発行してください。

SQL2037N TSM をロードできませんでした。

説明: データベース・ユーティリティーへの呼び出しが、バックアップのターゲットまたはソースとして TSM を指定していました。TSM クライアントのロードが試みられました。TSM クライアントがシステムで使用できないか、またはロード・プロシージャでエラーが起こりました。

ユーザーの処置: TSM がシステムで使用できることを確認してください。TSM が使用可能になった後でコマンドを再サブミットするか、または TSM を使用せずにコマンドを再サブミットしてください。

SQL2038N 処理中にデータベース・システム・エラー *errcode* が起きました。

説明: いずれかのユーティリティを処理中に、データベース・システム・エラーが起きました。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー・コードを調べてください。修正アクションを取った後で、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2039N ユーティリティを呼び出しているアプリケーションが終了しました。

説明: ユーティリティを呼び出しているアプリケーションが終了しました。ユーティリティのアプリケーション側が、呼び出し中のアプリケーションと同じ処理にあるので、アプリケーションとともに終了しました。その結果、ユーティリティのエージェント側も終了しました。

ユーザーの処置: アプリケーションが終了した理由を判別した後で、コマンドを再発行してください。

SQL2040N データベース別名パラメーター *dbalias* が無効か、または指定されていません。

説明: バックアップまたはリストア・ユーティリティを呼び出しているアプリケーションが、無効なデータベース別名パラメーターを指定しました。別名は 1 から 8 バイトで、文字はデータベース・マネージャー基本文字セットから選択する必要があります。

ユーザーの処置: 有効なデータベース別名を使用して、Backup または Restore コマンドを再発行してください。

SQL2041N 指定されたバッファ・サイズ・パラメーターが無効です。バッファ・サイズは、0、または 8 から 16384 (8 と 16384 を含む) の間で指定する必要があります。

説明: ユーティリティを呼び出しているアプリケーションが、無効な *buffer size* パラメーターを指定しました。バッファ・サイズは、内部バッファ・サイズの決定に使用されます。値は、このバッファ用に獲得される 4K ページの数です。値は、0 または 8 から 16384 (16 と 16384 を含む) 間で指定する必要があります。

バックアップまたはリストア・ユーティリティの実行では、0 を指定すると、データベース・マネージャー構成に定義されているデフォルト・バッファ・サイズが使用されます。

ターゲットのメディアがディスクの場合、*buffer*

size はディスクのサイズより小さくなるようにしてください。

SQL2042W 警告! 装置 *device* へのアクセス中に、入出力エラー *error* が発生しました。追加情報 (ある場合): *additional-information* メディアが正しくマウントされ、位置指定されていることを確認してください。

説明: ユーティリティを呼び出しているアプリケーションが、テープ装置に対する読み取りまたは書き込みを行っているときに、入出力エラーが起きました。ユーティリティは、テープを正しい位置に取り付けられるように、コントロールを戻します。

このメッセージには問題の診断をする手助けとなる追加情報が入っています。

ユーティリティは、続行の応答を待ちます。

ユーザーの処置: テープを正しい位置に取り付けた後、処理の続行または終了を示しているユーティリティに戻ってください。

エラー、装置および追加情報 (ある場合) は、問題を診断し訂正するのに使用することができます。

SQL2043N 子処理、またはスレッドが開始できません。

説明: データベース・ユーティリティの処理中に要求された子処理またはスレッドを開始できません。新しい処理またはスレッドを作成するためのメモリーが不十分だと思われます。AIX ベースのシステムでは、*chdev* コマンドによって設定された *maxuproc* 値が小さすぎるとと思われます。OS/2 ベースのシステムでは、*CONFIG.SYS* に設定されている *THREADS* 値が小さすぎるとと思われます。ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 処理またはスレッドの数のシステム制限に達していないことを確認してください (制限を増やすか、あるいはすでに実行されている処理またはスレッドの数を減らしてください)。新しい処理またはスレッドに対する十分なメモリーが存在することを確認してください。ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2044N メッセージ・キューのアクセス中に、エラーが起きました。理由コード: *reason-code*。

説明: データベース・ユーティリティの処理中に、いずれかのメッセージ・キューに関して、予期しないエラーまたは間違ったメッセージを受け取りました。以下が理由コードのリストです。

- 1 メッセージ・キューを作成できません。メッセージ・キューの許容数に達しました。
- 2 メッセージ・キューからの読み取り中に、エラーが起きました。
- 3 メッセージ・キューへの書き込み中に、エラーが起きました。
- 4 メッセージ・キューから、無効なメッセージを受け取りました。
- 5 メッセージ・キューのオープン中に、エラーが起きました。
- 6 メッセージ・キューのクローズ中に、エラーが起きました。
- 7 メッセージ・キューの照会中に、エラーが起きました。
- 8 メッセージ・キューの削除中に、エラーが起きました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: メッセージ・キューの許容数に達していないことを確認してください。必要に応じて、使用中のメッセージ・キューの数を減らして、ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2045W 警告! エラー *error* がメディア *media* への書き込み中に起こりました。

説明: データベース・ユーティリティ処理がメディア *media* に書き込み中に、*error* を検出しました。ユーティリティは、ユーザーが問題の解決またはその操作の取り消しを試みることができるように、コントロールを戻します。

ユーティリティは、続行の応答を待ちます。

ユーザーの処置: オペレーティング・システムに対するトラブルシューティングの資料を調べて、*error* 条件を訂正してください。処理を続行または終了するべきであることを示す、正しい *caller action* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

**SQL2048N オブジェクト *object* のアクセス中に、エラーが起きました。理由コード:
*reason-code***

説明: データベース・ユーティリティの処理でのオブジェクトのアクセス時に、エラーが起きました。以下が理由コードのリストです。

- 1 無効なオブジェクト・タイプが見つかりました。
- 2 オブジェクトのロック処理が失敗しました。

ロック待ちが、データベース構成に指定されているロック・タイムアウト限界に達した可能性があります。

- 3 データベース・ユーティリティの処理中に、オブジェクトのアンロック処理が失敗しました。
- 4 オブジェクトに対するアクセスが失敗しました。
- 5 データベース内のオブジェクトが壊れています。
- 6 アクセス中のオブジェクトは表スペースであり、この表スペースは、操作が許されない状態になっているか、あるいは表スペースの 1 つ以上のコンテナが使用不可である状態になっています。(LIST TABLESPACES には現在の表の状態がリストされます。)
- 7 オブジェクト削除操作が失敗しました。
- 8 このパーティションに定義されていない表へのロード/静止を試行しました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: オブジェクトのロック処理が失敗した場合は、データベース構成のロック・タイムアウト限界が適切であることを確認して、ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。アクセスを確実にするために、データベースを静止状態にするために、QUIESCE コマンドを使用することも考慮してください。

バックアップ中にエラーが起きた場合は、データベースを回復するアクションを取って、ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。

リストアまたはロード・リカバリー中にエラーが起きた場合は、バックアップまたはコピー・イメージが正しいことを確認して、ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。

オブジェクトが表スペースで、リストア中にエラーが起きた場合は、ユーティリティ・コマンドを再サブミットする前に、*set table space container api* を使用して、表スペースを変更することが必要になる場合があります。

SQL2054N バックアップまたはコピー・イメージが壊れています。

説明: 使用中のバックアップまたはコピー・イメージが壊れています。

これは、リストア・ユーティリティが、圧縮イメージ

が正しく圧縮解除されなかったことを判別したことも意味します。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効なイメージではないイメージを廃棄してください。有効なイメージを使用して、ユーティリティー・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2055N メモリー・セット *memory-heap* のメモリーにアクセスできません。

説明: 処理中に、データベース・ユーティリティーがメモリーにアクセスできませんでした。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーを停止して再始動し、ユーティリティー・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2056N メディア *media* で無効なメディア・タイプが見つかりました。

説明: データベース・ユーティリティーの処理中に、無効なメディア・タイプが見つかりました。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 使用しているメディアが、ユーティリティーによってサポートされているタイプのメディアであることを確認してください。有効なメディア・リストを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2057N メディア *media* は、すでに他の処理によってオープンされています。

説明: データベース・ユーティリティーの処理中に指定されたソースまたはターゲットのメディアは、すでに他の処理によってオープンされています。ユーティリティーは、処理のための共有アクセスを許しません。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 使用しているメディアが現在使用されていないことを確認してください。有効なメディア・リストを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2058W メディア *media* でメディア終了の警告が出されました。

説明: データベース・ユーティリティーの処理中に、メディア終了の警告が出されました。このエラーは、無効な磁気テープ装置ブロック・サイズが指定された場合にも発生します。

ユーティリティーは、続行の応答を待っています。

ユーザーの処置: メディア終了状況を訂正して、処理を続行または終了するべきであることを示す、正しい *caller action* パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

リストア時刻で使用される磁気テープ装置ブロック・サイズ (あるいはブロッキング因数) は、バックアップ中に使用されるものと同一である必要があります。変数ブロック・サイズが使用されている場合、使用バッファ・サイズの方が小さいか、あるいは磁気テープ装置の最大ブロック・サイズと同じである必要があります。

SQL2059W メディア *device* で、装置がいっぱいであるという警告が出されました。

説明: データベース・ユーティリティーの処理中に、装置がいっぱいであるという警告が出されました。

ユーティリティーは、続行の応答を待っています。

ユーザーの処置: 装置がいっぱいである状況を訂正して、処理を続行または終了するべきであることを示す、正しい *caller action* パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL2060W 装置 *device* が空です。

説明: データベース・ユーティリティーの処理中に、空の装置が見つかりました。ユーティリティーは、続行の応答を待っています。

ユーザーの処置: メディアを取り付けて、処理を続行または終了するべきであることを示す、*caller action* パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL2061N メディア *media* へのアクセスが拒否されました。

説明: データベース・ユーティリティーの処理中に、装置、ファイル、TSM、またはベンダー共有ライブラリーへのアクセスが拒否されました。ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: ユーティリティーが使用している装置、ファイル、TSM、またはベンダー共有ライブラリーによって、要求されたアクセスが許可されていることを確認し、ユーティリティー・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2062N メディア *media* のアクセス中に、エラーが発生しました。理由コード:
reason-code。

説明: データベース・ユーティリティーの処理中に、デバイス、ファイル、TSM、またはベンダー共有ライブラ

リーにアクセスしているとき、予期しないエラーが起きました。以下が理由コードのリストです。

- 1 装置、ファイル、TSM、またはベンダー共有ライブラリーの初期設定に失敗しました。
- 2 装置、ファイル、TSM、またはベンダー共有ライブラリーを終了できませんでした。

その他 TSM を使用している場合、これは TSM から返されるエラー・コードです。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: ユーティリティーが使用している装置、ファイル、TSM、またはベンダー共有ライブラリーが使用可能なことを確認し、ユーティリティー・コマンドを再サブミットしてください。コマンドがまだ失敗する場合は、技術サービス担当者に連絡してください。

SQL2065W 指定されたメディア *media* がユーティリティーに接続された唯一のメディアである場合、指定された呼び出し側アクション *caller-action* は許されません。

説明: データベース・ユーティリティーに接続されているデバイスが 1 つだけなので、指定された呼び出し側アクションは許されません。

ユーザーの処置: 処理を続行または終了するべきであることを示す、正しい *caller action* パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL2066N 指定された表スペース名 *name* がデータベースに存在しないか、またはユーティリティーの操作に使用できません。

説明: 指定された表スペース名は構文的に正しくても、データベースに存在しないか、またはユーティリティー処理で使用できません。使用中のユーティリティーがバックアップ操作であれば、表スペースが SYSTEM または USER TEMPORARY 表スペースであるか、あるいは不整合状態であるため、その表スペースが許可されていないと思われます。

ユーザーの処置: 表スペース名をチェックして、正しい表スペース名を使用し、ユーティリティー・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2068N メディア *media* で、無効なイメージが見つかりました。メディア・ヘッダーがありません。

説明: データベース・ユーティリティーの処理中に、無効なイメージが見つかりました。ユーティリティーが、有効なメディア・ヘッダーを見つけることができませんでした。ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいバックアップまたはコピー・イメージを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2069N メディア *media* で、無効なイメージが見つかりました。イメージは、データベース別名 *dbalias* 用に作成されています。

説明: データベース・ユーティリティーの処理中に、無効なイメージが見つかりました。イメージは、異なるデータベース別名から作成されています。ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいバックアップまたはコピー・イメージを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2070N メディア *media* で、無効なイメージが見つかりました。イメージにタイム・スタンプ *timestamp* が含まれています。

説明: データベース・ユーティリティーの処理中に、無効なイメージが見つかりました。イメージは、異なるタイム・スタンプを持つバックアップまたはコピーから作成されています。ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいバックアップまたはコピー・イメージを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2071N 共有ライブラリー *shr-lib-name* のアクセス中に、エラーが起きました。理由コード: *reason-code*。

説明: データベース・ユーティリティーの処理でのベンダーの共有ライブラリーのアクセス中に、予期しないエラーが起きました。以下が理由コードのリストです。

- 1 無効な共有ライブラリー・パスが見つかりました。
- 2 バックアップ共有ライブラリーのロードが失敗しました。
- 3 共有ライブラリーのアンロード中に、エラーが起きました。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 提供されている共有ライブラリーが有効なことを確認して、ユーティリティー・コマンドを再サブミットするか、または別のサポートされているメディアを使用してください。

SQL2072N 共有ライブラリー *shr-lib-name* をバインドできません。理由コード: *reason-code*

説明: データベース・ユーティリティの処理での共有ライブラリーのバインド中に、エラーが起きました。ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 理由コードが、ベンダー・ユーティリティからメッセージに返されていることに注意して、可能であれば、リカバリー・アクションを取ってください。有効な共有ライブラリーまたは別のサポートされているメディアを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2073N DATALINK 処理が、データベース・サーバーまたは DB2 Data Links Manager での内部問題のため失敗しました。

説明: DATALINK 値を処理中に、予期しないエラーが起きました。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。問題がまだ続く場合は、DB2 および DB2 Data Links Manager をシャットダウンして再始動した後に、コマンドを再サブミットしてください。

リストア・ユーティリティでは、WITHOUT DATALINK を指定することで DATALINK 処理を避けることができます。

SQL2074N DATALINK 処理は、データベース・サーバーの内部問題のため失敗しました。

説明: DATALINK 値を処理中に、予期しないエラーが起きました。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。問題がまだ続く場合は、DB2 をシャットダウンおよび再始動してからコマンドを再サブミットしてください。

リストア・ユーティリティでは、WITHOUT DATALINK を指定することで DATALINK 処理を避けることができます。

SQL2075N DATALINK 処理が DB2 Data Links Manager での内部問題のため失敗しました。

説明: DATALINK 値を処理中に、予期しないエラーが起きました。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。問題がまだ続く場合は、DB2 Data Links Manager をシャットダウンして再始動した後に、コマンドを再サブミットしてください。

リストア・ユーティリティでは、WITHOUT DATALINK を指定することで DATALINK 処理を避けることができます。

SQL2076W DB2 Data Links Manager *server-name* がデータベースに登録されていません。

説明: DB2 Data Links Manager *server-name* がデータベースに ADD DATALINKS MANAGER コマンドで登録されませんでした。

ユーザーの処置: ADD DATALINKS MANAGER コマンドが失敗した理由の詳細については、管理通知ログをチェックしてください。

SQL2077W 使用可能だった Data Links Manager で調整処理が完了しました。調整処理は、使用可能でなかった Data Links Manager ではペンディングになっています。詳細情報については、管理通知ログを参照してください。

説明: 表データで参照されている Data Links Manager の一部またはすべてが、調整処理中、使用可能ではありませんでした。使用可能だった Data Links Manager で調整処理が完了しました。使用可能でなかった Data Links Manager 調整処理がペンディングになっているため、表はデータ・リンク調整ペンディング (DRP) 状態に置かれています。

ユーザーの処置: 表データで参照されているすべての Data Links Manager で調整が正常に完了したときに、表はデータ・リンク調整ペンディング状態から解放されます。使用可能でなかった Data Links Manager を始動して、もう一度調整を実行してください。

SQL2078N DB2 Data Links Manager を正常に追加またはドロップできませんでした。理由コード = *reason-code*

説明: 以下の理由コードで示されたいずれかの理由で、DB2 Data Links Manager を追加またはドロップできませんでした。

- 01 追加される DB2 Data Links Manager がデータベースにすでに登録されています。
- 02 ドロップされる DB2 Data Links Manager がデータベースに登録されていません。
- 03 データベース・マネージャー構成パラメーター DATALINKS が NO に設定されています。
- 04 データベースには、登録できる DB2 Data Links Manager の最大数がすでにあります。

ユーザーの処置: 理由コードに応じたアクションは以下のとおりです。

- 01** DB2 Data Links Manager を複数回追加しないでください。
- 02** 登録されていない DB2 Data Links Manager をドロップしないでください。
- 03** UPDATE DATABASE MANAGER CONFIGURATION コマンドを使用してデータベース・マネージャー構成パラメーター DATALINKS を YES に設定し、操作を再試行してください。
- 04** 許可された最大数より多くの DB2 Data Links Manager を追加しないでください。

SQL2079N 共有ライブラリー *shr-lib-name* からエラーが報告されました。戻りコード:
return-code。

説明: データベース・ユーティリティの処理中に、ベンダーの共有ライブラリーからエラーが報告されました。表示された戻りコードは、有効なベンダー API の戻りコードの 1 つに対応しています。ユーティリティは処理を停止します。

SQL2100 - SQL2199

SQL2150W バックアップ・イメージに含まれている表スペースがリストアされました。呼び出し側の要求に応じて、これらの表スペースのいくつかがスキップされていることがあります。

説明: RESTORE DATABASE コマンドが出されました。バックアップ・イメージ内の表スペースのサブセットのみをリカバリーするよう、ユーザーが指示した可能性があります。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL2154N RESTORE が正常に終了しませんでした。表スペースのリストアに使用されたバックアップが、データベースの現在のログ順序に関連していません。

説明: 表スペースのリストアの場合は、バックアップが、データベースの現在のログ順序中に取られている必要があります。ログ・ファイルの順序は、前にリストアされたデータベース、または処理されたログ・ファイルによって決定されます。さらに、ロールフォワード・リカバリーに対してデータベースが最後に可能になった後に、バックアップを取る必要があります。

表スペース・リストアは停止しました。

API 戻りコードには、以下のものがあります。

- 3** DB2 製品とベンダー製品が非互換です。
- 4** 無効なアクションが要求されました。
- 8** 無効なユーザー ID が指定されました。
- 9** 無効なパスワードが指定されました。
- 10** 無効なオプションが指定されました。
- 12** 無効な装置ハンドルが指定されました。
- 13** 無効なバッファ・サイズが指定されました。
- 30** ベンダー製品内で、重大エラーが発生しました。

その他 ベンダー製品により、特定の重大エラーが戻されました。

ユーザーの処置: 提供されている共有ライブラリーが有効であることを確認してください。ベンダー API の戻りコードと対応する db2diag 項目を基にして必要な訂正アクションを試行し、ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。

ユーザーの処置: 正しいバックアップ・イメージを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2155W open scan が発行されたために、リカバリー履歴ファイルが変更されました。

説明: ファイルがスキャンのためにオープンされたので、リカバリー履歴ファイルが変更されました。読み取ったデータに不整合がある可能性があります。

ユーザーの処置: スキャンから整合性のあるデータを得ることが必要な場合は、リカバリー履歴ファイルをクローズして、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2157N すでに 8 つのリカバリー履歴ファイル・スキャンがオープンしています。

説明: この処理では、8 つのリカバリー履歴ファイル・スキャンがすでにオープンされています。8 つ以上のスキャンのオープンは許されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 1 つ以上の CLOSE RECOVERY HISTORY FILE SCAN コマンドを発行して、コマンドを再発行してください。

SQL2160W 損傷を受けたリカバリー履歴ファイルは置換されました。 処理を続行します。

説明: リカバリー履歴ファイルへのアクセス中に、エラーが起きました。 ユーティリティは、代替コピーからファイルをリカバリーできます。 ユーティリティは処理を続けます。

ユーザーの処置: ユーティリティは正常に処理を続けます。 リカバリー履歴ファイルが再び損傷を受けないように、適切な予防策をこじめる必要があります。

SQL2161N 損傷を受けたリカバリー履歴ファイルが修復できませんでした。 指定されたアクションが失敗しました。

説明: リカバリー履歴ファイルへのアクセス中に、エラーが起きました。 ユーティリティがファイルをリカバリーできません。 ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 処理を続けるには、リカバリー履歴ファイルを除去して、コマンドを再サブミットしてください。 ユーティリティが新しいファイルを再生成しません。 壊れたファイルのデータは失われます。 使用可能な情報が存在するかどうかをチェックするには、壊れたファイルを調べてください。 リカバリー履歴ファイルが再び損傷を受けないように、適切な予防策をこじめる必要があります。

SQL2162N DB2 がノード *node-number* にある *database-name* のログ・ファイル *log-file-number* に対するアクセス権を持っていないため、ロールフォワードは失敗しました。

説明: ファイル許可の設定により、DB2 は指定されたログ・ファイルにアクセスできません。 ロールフォワードを継続できません。

ユーザーの処置: ログ・ファイルが保管されているファイル・システムをチェックしてください。 これらのログ・ファイルにアクセスするのに十分な許可がインスタンス所有者に与えられていることを確認してください。

SQL2163N データベースを指定された時点までリカバリーするためのバックアップ・イメージが、リカバリー履歴ファイル中に見つかりません。

説明: データベースを指定された時点までリカバリーするためのバックアップ・イメージが、リカバリー履歴ファイル中に見つかりません。 このエラーは、履歴ファイルの整理が実施された場合に発生することがあります。

ユーザーの処置: もっと後の時点を指定して試行してください。 ログの終了を指定する場合は、履歴ファイルにバックアップ・イベントのレコードが含まれていることを確認してください。

SQL2165W SQLUHINFO 構造が、十分な TABLESPACE 項目を提供しませんでした。

説明: SQLUHINFO 構造が、戻される項目 (すべての TABLESPACES を含む) を保留するのに十分な大きさを持っていませんでした。 SQLUHINFO 構造の「SQLN」フィールドは、少なくとも戻される「SQLD」フィールドと同じ大きさでなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: SQLUHINFO 構造の「SQLN」フィールドの値を、「SQLD」フィールドによって示されている値まで増やして (SQLUHINFO 構造が、その容量を十分にサポートする大きさになるように)、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2170N ユーティリティがリカバリー履歴ファイルで、同じ ID を持つ項目を検出しました。 書き込みできません。

説明: ユーティリティがリカバリー履歴ファイルで、書き込み中に同じ ID (秒単位のタイム・スタンプ) を持つ項目を検出しました。 リカバリー履歴ファイルへの書き込みが終了します。 データベース・マネージャーがリカバリー履歴ファイルの ID のユニーク性を確認し、1 秒単位で複数の要求に対して準備をします。 ただし、数秒の間に要求が多数ある場合には失敗する可能性があります。

ユーザーの処置: アプリケーションが履歴ファイルに多数の項目を生成するユーティリティ (backup、quiesce、load) を実行している場合この問題を防ぐためにユーティリティの要求を調整してください。

SQL2171N 指定されたオブジェクト・パーツがファイルに存在しなかったために、リカバリー履歴ファイルの更新が失敗しました。

説明: リカバリー履歴ファイルの更新が指定された項目が、ファイルに存在しません。 ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な項目を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2172W このユーティリティーは完了していますが、エラー *error* のため、リカバリー履歴ファイルでイベントをログできません。

説明: このユーティリティーはリカバリー履歴ファイルを書き込み中、エラーを検出しています。この警告は処理に影響を与えません。

ユーザーの処置: エラー条件を訂正し、この警告がこれから起きないようにしてください。

SQL2180N フィルター指定に不正な構文または不正なパスワード・キーが使用されました。

説明: 与えられたフィルター指定が、不正な構文または不正なパスワード・キーのいずれか、あるいは両方を使用しています。

SQL2200 - SQL2299

SQL2200N 表または索引名の修飾子が長過ぎます。

説明: 許可 ID は 1 から 30 文字 (MBCS 環境では、バイト単位) で指定します。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しい修飾子で、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2203N *tablename* パラメーターが無効です。表名が長すぎる、許可 ID しか指定されていない、表名が指定されていない、名前前のアドレスが無効、のいずれかです。

説明: 表名の指定が必要です。1 から 128 文字 (MBCS 環境では、バイト単位) の長さで指定してください。表名は、有効なアプリケーション・アドレスに位置している必要があります。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しい表名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2204N *iname* パラメーターが無効です。索引名が長すぎるか、許可 ID しか指定されていないか、または索引名のアドレスが無効です。

説明: 索引を指定する場合、1 から 18 文字 (MBCS 環境では、バイト単位) で指定します。索引は、有効なアプリケーション・アドレスに位置している必要があります。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な索引名を使用して、コマンドを

ユーザーの処置: 診断情報を保管しておき、IBM サービスに連絡してください。

SQL2181N フィルター付きリカバリーを行っているときに内部エラーが起こりました。

説明: フィルター付きリカバリーを行っているときに内部エラーが起こりました。リカバリーは終了します。

ユーザーの処置: 表の状態を変更するよう試みているときにエラーが起こった場合、表スペース全体にフィルターを掛けてください。診断情報を保管しておき、IBM サービスに連絡してください。

再サブミットしてください。

SQL2205N 指定された索引は無効です。理由コード: *reason-code*

説明: 指定された索引パラメーターは、要求された操作には無効です。理由コードの説明は以下のとおりです。

- 1 指定された *schema.table-name* または *schema.index-name* に、指定された索引が存在しません。
- 2 指定された索引は拡張索引です。表の再編成ユーティリティーは、索引拡張子に基づいて索引をサポートしていません。
- 3 表で定義されている索引はすべて、以下の操作が使用可能な疑似削除でなければなりません。インプレース表 REORG、増分モードでのオンライン LOAD、CLEANUP ONLY オプションをとともなう REORG INDEXES。
- 4 クラスタリング索引以外の索引が REORG コマンドで指定されました。
- 5 地理情報索引が表に存在する場合は、インプレース表 REORG は許可されません。
- 6 CREATE TABLE コマンドの ORGANIZE BY 文節を使用する 1 つ以上のディメンションを持つ表の REORG に対して索引を指定することはできません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースでも検出されることがあります。

ユーティリティーまたは操作が処理を停止しました。

ユーザーの処置: 有効な索引で、または索引を指定せずにコマンドを再サブミットしてください。

SQL2207N datafile パラメーターで指定されたファイル・パスが無効です。

説明: datafile パラメーターが、デフォルト・ファイル・パスを示す値ではありません。また、datafile パラメーターは、有効なデフォルト値ではありません。以下のいずれかがあてはまる可能性があります。

- ポインターが無効です。
- ポインターが、ファイル・パスの指定には長すぎるストリングを指しています。
- 指定されたパスの値が無効です (サーバー・マシン上で)。
- サーバー・マシンのファイル・パスが、適切な区切り文字で終了していません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な datafile パラメーターを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2208N table space パラメーターで指定された表スペースが無効です。

説明: table space パラメーターに、有効な値が入っていません。下記のいずれかの状態が存在する可能性があります。

- ポインターが無効です。
- ポインターが、表スペース名に対して長すぎるストリングを指しています。
- 指定された表スペースが存在しません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な table space パラメーターを指定してコマンドを再サブミットするか、または table space name パラメーターを使用しないでください。後者の場合は、表再編成ユーティリティが、表自体が存在する表スペースを使用します。

SQL2211N 指定された表が存在しません。

説明: 表がデータベースに存在しません。表名または許可 ID が正しくありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な表名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2212N 指定された表はビューです。表再編成ユーティリティをビューに対して実行することはできません。

説明: 表再編成ユーティリティをビューに対して実行することはできません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な表名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2213N 指定された表スペースは、SYSTEM TEMPORARY 表スペースではありません。

説明: REORG ユーティリティでは、指定する表スペースはすべて、SYSTEM TEMPORARY 表スペースでなければなりません。与えられた表スペース名は、システム一時表を保留するために定義されている表スペースではありません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: SYSTEM TEMPORARY 表スペースの名前を使用してコマンドを再サブミットするか、あるいは表スペース名パラメーターを使用しないでください。後者の場合、REORG ユーティリティは、表自体が常駐する表スペースを使用します。

SQL2214N ユーザーは、表 name に対して REORG ユーティリティを実行する権限を持っていません。

説明: ユーザーが、適切な許可 (SYSADM 権限、DBADM 権限、またはその表に対する CONTROL 特権) を持たずに、指定した表またはその索引を再編成しようとした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 適切な権限または特権を持つユーザーとしてログオンして、REORG ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2215N データベースへこれまでの作業をコミットしている間に、SQL エラー sqlcode が起きました。

説明: ユーザーは、Reorganize Table コマンドに指定されたデータベースにすでに接続されています。これまでの作業をデータベースに対してコミットしているときに、エラーが起きました。

ユーティリティは、ロールバックもデータベース接続の切断も行わずに、処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージの

SQLCODE (メッセージ番号) を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2216N データベース表または索引の再編成中に、
SQL エラー *sqlcode* が発生しました。

説明: データベース表または索引の再編成中に、エラーが発生しました。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージの SQLCODE (メッセージ番号) を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2217N REORG ユーティリティーによって使用されている **SYSTEM TEMPORARY** 表スペースのページ・サイズは、表データが存在する (**LONG** または **LOB** 列データ、あるいはその両方を含む) 表スペースのサイズに一致していなければなりません。

説明: システム一時表が REORG ユーティリティーに明示的に指定されている場合、REORG ユーティリティーによって使用されている **SYSTEM TEMPORARY** 表スペースのページ・サイズは、表データが存在する (**LONG** または **LOB** 列データ、あるいはその両方を含む) 表スペースのサイズに一致していなければなりません。以下のいずれかが、この制約事項に違反しています。

- 表のデータが、指定された **SYSTEM TEMPORARY** 表スペースのページ・サイズとは異なるページ・サイズを持つ表スペースに存在しています。
- **SYSTEM TEMPORARY** 表スペースおよび表の通常データのページ・サイズとは異なるページ・サイズを持つ表スペースにデータが存在する **LONG** または **LOB** 列、あるいはその両方が表に入っています。

SYSTEM TEMPORARY 表スペースが REORG ユーティリティーに指定されていなかった場合、このユーティリティーは内部的に **SYSTEM TEMPORARY** 表スペースを検索していました。表データと同じページ・サイズを使用する **SYSTEM TEMPORARY** 表スペースがデータベースに存在しなかったか、あるいはその時点で使用可能ではありませんでした。

ユーザーの処置: 表の **LONG** または **LOB** データ、あるいはその両方が存在する表スペースのページ・サイズとは異なるページ・サイズを持つ表スペースに、再編成される表が存在している場合、**SYSTEM TEMPORARY** 表スペースを REORG ユーティリティーに与えることはできません。 **SYSTEM TEMPORARY** 表スペースを指定せずに REORG 要求を出し直してください。

表データと同じページ・サイズを使用する **SYSTEM**

TEMPORARY 表スペースがデータベースに存在しない場合、その表データのページ・サイズに一致するページ・サイズで **SYSTEM TEMPORARY** 表スペースを作成してください。

表データと同じページ・サイズを使用する **SYSTEM TEMPORARY** 表スペースがデータベースに存在していても、コマンドを出したときに使用可能ではなかった場合、**SYSTEM TEMPORARY** 表スペースが使用可能になってからコマンドを出し直してください。

SQL2218N reorg コマンドで指定された 1 つ以上のパラメーターが互換性がありません。

SQL2219N 表 *table-name* に対する指定された **INPLACE** 表の再編成アクションは、1 つ以上のノードで許可されていません。理由コード: *reason-code*

説明: 次の理由コードによって示されているような制限に違反しているため、このステートメントを処理できません。

- 1 オリジナルのデータまたは索引オブジェクトが変更されているため、表の再編成を **RESUME** できません。
- 2 指定された表に対して **RESUME** すべき再編成がありません。
- 3 非クラスター表の再編成を **RESUME** するよう、索引を指定することはできません。
- 4 再編成を開始するよう指定されたオリジナルの索引がドロップされているため、表の再編成を **RESUME** できません。
- 5 **RESUME** するよう指定された索引が、表の再編成が休止されたときに指定された索引と同じではありません。
- 6 状況ファイルが破壊されているか欠落しているため、表の再編成を **RESUME** できません。
- 7 状況ファイルにアクセスしようとして、入出力エラーが発生しました。
- 8 **INPLACE** 表の再編成は、指定された表ですすでに進行中です。
- 9 前に休止された表の再編成が停止されていないため、**START** は許可されません。
- 10 **PAUSE** または **STOP** がすでに発行されています。指定されたアクションは非同期であり、すぐに有効にならない可能性があります。
- 11 **PAUSE** または **STOP** する表の再編成がありません。

- 12 INPLACE 表の再編成は、付加モードの表には許可されません。

ユーザーの処置:

- 1 STOP を発行してから、START を発行します。
- 2 RESUME するための未解決の表の再編成がありません。指定した表を再編成するには、START アクションを発行してください。
- 3 オリジナルの表の再編成は索引を使用していないため、RESUME に索引を指定することはできません。索引を使用せずに再編成を続行するか、既存の再編成を STOP して、索引名を指定して START を発行してください。
- 4 既存の、休止されている表の再編成を STOP し、START を発行してください。
- 5 正しい索引を指定して、RESUME コマンドを再サブミットしてください。RESUME に索引が指定されていない場合、デフォルトでオリジナルの索引が使用されます。
- 6 状況ファイル “<tablespaceID><objectID>.OLR”

がデータベース・ディレクトリーにあり、アクセス可能であることを確認して、コマンドを再サブミットします。ファイルが損傷している場合は、表の再編成を STOP して、START します。

- 7 状況ファイル “<tablespaceID><objectID>.OLR” がアクセス可能であることを確認して、コマンドを再サブミットします。
- 8 表の再編成はすでに進行中のため、START または RESUME は許可されません。
- 9 表の REORG が休止されました。休止されている REORG を RESUME するか、または REORG を STOP して、START してください。
- 10 オリジナルの STOP または PAUSE が完了するまでお待ちください。
- 11 指定した表に対して再編成が実行されていることを確認します。
- 12 表を ALTER して APPEND モードを OFF にするか、表をオフラインで再編成します。

SQL2300 - SQL2399

SQL2300N 表名の ID が長すぎるか、または表名の一部として指定されていません。

説明: 表名は完全修飾を行う必要があります。形式は *authid.tablename* で、ここで *authid* は 1 から 30 文字、*tablename* は 1 から 128 文字 (MBCS 環境の場合はバイト) でなければなりません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しい修飾子の入った完全修飾表名を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2301N *tablename* パラメーターが無効です。パラメーターが長過ぎるか、許可 ID しか指定されていないか、または名前アドレスが無効です。

説明: 完全修飾でなければならず、形式 *authid.name* で、ここで *authid* は 1 から 30 文字、*name* は 1 から 128 文字 (MBCS 環境ではバイト) でなければなりません。また有効なアプリケーション・アドレスでなければなりません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しい表名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2302N 索引リストは無効です。リストのアドレスが無効か、リストの項目数が指定された索引の数より少ないか、またはリスト内の索引のアドレスが無効です。

説明: リストのアドレスが無効か、リストの項目数が指定された索引の数より少ないか、またはリスト内の索引のアドレスが無効です。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な索引リストを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2303N *statsopt* パラメーターが無効です。

説明: Run Statistics コマンドの *statsopt* パラメーターは、以下のいずれかでなければなりません。

- T (基本表のみ)
- I (基本索引のみ)
- B (基本表と基本索引の両方)
- D (表と分散)
- E (表、分散、基本索引)
- X (拡張索引のみ)
- Y (拡張索引と基本表)
- A (すべて)

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な *statsopt* パラメーターを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2304N sharelev パラメーターが無効です。参照の場合は 'R'、変更の場合は 'C' でなければなりません。

説明: RUN STATISTICS コマンドの *sharelev* パラメーターは、参照の場合は R、変更の場合は C でなければなりません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な *sharelev* パラメーターを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2305N 指定された表はビューです。ユーティリティをビューに対して実行することはできません。

説明: 指定された *tname* パラメーターが、表以外のビューです。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な *tname* パラメーターを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2306N 表または索引 *name* が存在しません。

説明: *name* で示された表または索引がデータベースに存在しないか、または *name* で示された索引が、指定された表に定義されていません。表またはいずれかの索引の修飾子が正しくない可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な表名および索引を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2307N 指定された表はシステム表です。
Runstats ユーティリティをシステム表に対して実行することはできません。

説明: Run Statistics ユーティリティ・コマンドは、システム表に対して実行されていない可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な表名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2308N 索引名 *name* の修飾子が長すぎるか、または索引名の一部として指定されていません。

説明: 索引名は完全修飾名でなければなりません。形式は *authid.name* で、*authid* は 1 から 30 文字で、*name* は 1 から 18 文字 (MBCS 環境ではバイト) でなければなりません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しい修飾子の入った完全修飾名を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2309N 索引名 *name* が無効です。名前が長すぎるか、または修飾子だけが指定されていません。

説明: 索引名は完全修飾名でなければなりません。形式は *authid.name* で、*authid* は 1 から 30 文字で、*name* は 1 から 18 文字 (MBCS 環境ではバイト) でなければなりません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な索引を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2310N ユーティリティが統計を生成できませんでした。エラー *sqlcode* が返されました。

説明: ユーティリティが統計の収集中に、エラーが起きました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージ・エラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2311N Run Statistics ユーティリティを、表 *name* で実行する権限がありません。

説明: 適切な許可 (SYSADM または DBADM 権限、あるいはその表での CONTROL 特権) を持たずに、指定された表の統計を実行しようとしていました。

RUNSTATS で指定されている表が、階層のルート表である場合、メッセージで返される表名は、指定されたルート表の副表である可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 適切な許可を取得しない場合は、Run Statistics ユーティリティ・コマンドを呼び出さないようにしてください。

SQL2312N 操作を実行するためには、統計ヒープ・サイズが小さすぎます。推奨されるヒープ・サイズは *num* ページです。

説明: データベース構成パラメーター *stat_heap_sz* の設定が、表で非均等分散統計を収集するには十分な大きさではありません。

ユーザーの処置: データベース構成パラメーター *stat_heap_sz* を推奨値に更新して、もう一度やり直してください。

SQL2313W 統計ヒープ内で使用可能なメモリのすべてで使用されています。統計は合計 *n2* 行のうち最初の *n1* 行について収集されます。

説明: データベース構成パラメーター *stat_heap_sz* の設定が、表で非均等分散統計を収集するには十分な大きさではありません。 <n2> 行の内、<n1> 行のみが処理できました。

ユーザーの処置: データベース構成パラメーター *stat_heap_sz* を 20% に更新して、もう一度やり直してください。

SQL2314W いくつかの統計が不整合な状態になっています。新しく収集された *object1* 統計が、既存の *object2* 統計と矛盾していません。

説明: 表で RUNSTATS を発行すると、表レベルの統計が貴人の索引レベルと矛盾する状態になる可能性があります。たとえば、索引レベルの統計が特定の表で収集された場合、またこの表から重要な行数が削除された場合は、表で RUNSTATS を発行すると、カーディナリティー表が不整合状態にある FIRSTKEYCARD よりも小さくなる結果となります。同様に、索引だけに対して RUNSTATS を発行したり、索引の作成中に統計を収集した場合、すでに存在する表レベルの統計が矛盾した状態になる可能性があります。たとえば、特定の表において表レベル統計が収集され、後にこの表からかなりの数の行が削除された場合、索引だけに対して RUNSTATS を発行したり、作成の作成中に登録を収集すると、一部の列の COLCARD が表のカーディナリティーより大きくなる可能性があります。

ユーザーの処置: 表のみに対して RUNSTATS が発行

SQL2400 - SQL2499

された場合、索引に対しても RUNSTATS を発行してください。これにより、表レベルと索引レベルの統計が整合します。同様に、RUNSTATS が索引のみに対して発行された場合や、統計が索引の作成中に収集された場合は、表に対しても RUNSTATS を発行してください。

sqlcode: 2314

sqlstate: 01650

SQL2315N RUNSTATS ユーティリティの USE PROFILE オプションが指定されましたが、統計プロファイルが存在しません。

説明: カタログ表 SYSIBM.SYSTABLES の中に統計プロファイルが存在しません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 統計プロファイルを作成するには、SET PROFILE または PROFILE ONLY オプションを使用します。RUNSTATS ユーティリティのオプションについては、このユーティリティのドキュメンテーションを参照してください。

SQL2316W 統計プロファイルが最大サイズを超えました。プロファイル・データは最大サイズで切り捨てられて、カタログ表 SYSIBM.SYSTABLES に保管されます。

説明: STATISTICS_PROFILE 列の最大サイズは 32768 です。統計プロファイルのサイズがこれより大きい場合、プロファイルのデータは最大サイズに切り捨てられます。

ユーティリティは処理を続けます。

ユーザーの処置: 統計プロファイルを見るには、カタログ表 SYSIBM.SYSTABLES の STATISTICS_PROFILE 列を参照してください。既存の統計プロファイルが望ましいものでない場合は、RUNSTATS ユーティリティを再度発行し、それに UPDATE PROFILE または UPDATE PROFILE ONLY オプションを指定することにより、プロファイルを変更してください。RUNSTATS ユーティリティのオプションについては、このユーティリティのドキュメンテーションを参照してください。

SQL2400N **BACKUP** コマンドで指定されたタイプが無効です。データベース全体のバックアップする場合は **0**、変更部分だけをバックアップする場合は **1** のいずれかです。

説明: タイプは、データベース全体をバックアップする場合は **0** に、変更のみをバックアップする場合は **1** に設定する必要があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいタイプを使用して、ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2401N “変更のみバックアップ” は、データベース全体のバックアップが完了するまで実行できません。タイプは **0** でなければなりません。

説明: 最初にデータベース全体のバックアップが要求されないで、変更部分のみバックアップが要求されたか、または内部ファイルが壊れているために、**BACKUP** ユーティリティが、取得済みの全バックアップを判別できません。変更部分のみバックアップは、データベース全体のバックアップの後まで、使用できません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいタイプを使用して、ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2403N データベースに対してユーティリティを実行する権限がありません。

説明: **SYSADM** または **DBADM** 権限を持たずに、データベース・ユーティリティを実行しようとした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 適切な許可を取得しないうちは、ユーティリティ・コマンドを呼び出さないようにしてください。

SQL2404N バックアップのターゲット・メディアがいっぱいです。ターゲット・メディアには、少なくとも *number* バイトの空きが必要です。

説明: バックアップのターゲット・メディアに、内部サブディレクトリーと情報ファイルを作成するための十分なスペースがありません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 少なくとも示されたバイト数のフリー・スペースを持つバックアップ・メディアを準備して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2405N 前の **RESTORE** が不完全であるために、**BACKUP** が実行できません。

説明: リストア処理中のシステム障害、または異常終了した **RESTORE** のために、データベースが不整合状態にあります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: **RESTORE** コマンドを再サブミットしてください。

SQL2406N データベースのロールフォワードが必要のために、**BACKUP** が実行できません。

説明: データベースが不整合状態にあるために、バックアップが失敗しました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: **ROLLFORWARD** コマンドを使用して、データベースを使用可能にしてください。その後で、**BACKUP** コマンドを再サブミットしてください。

SQL2407N ファイル *name* の読み取りで、入出力エラーが起きました。**RESTORE** が完了したかどうかを判断できないために、**BACKUP** が実行できません。

説明: 示されたファイルが、入出力エラーのために読み取れません。このファイルが存在するために、**BACKUP** または **RESTORE** コマンドが終了できません。このファイルが削除されると、処理は正常に終了します。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 前に実行された処理を判別してください。示されているファイルを削除して、前のコマンドを再サブミットしてください。

SQL2408W データベースはバックアップされましたが、ファイル *name* の削除中に入出力エラー *error* が起きました。

説明: **BACKUP** コマンドは正常に実行されました。示されているファイルは、入出力エラーのために削除されませんでした。

ユーティリティは処理を完了します。

ユーザーの処置: メッセージに示されたファイルを削除してください。

SQL2409N 変更部分のみの **BACKUP** を行うときは、最新のバックアップ・イメージを使用する必要があります。

説明: 変更部分のみのバックアップを行おうとしたが、指定されたバックアップ・イメージが最新のバックアップではないか、または前回の変更部分のみのバックアップが失敗しています。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 最新のバックアップ・イメージを使用して、コマンドを再サブミットしてください。最新のバックアップ・イメージを利用できないか、または前回の変更部分のみのバックアップが失敗している場合は、変更部分のみのバックアップではなく、全データベースのバックアップを要求するコマンドを再サブミットしてください。

SQL2410N “変更部分のみバックアップ” は、データベースの **ROLLFORWARD** が可能な場合、または **BACKUP** がユーザー出口によって行われている場合は実行できません。

説明: ロールフォワード可能なデータベースに変更部分のみのバックアップを要求したか、またはユーザー出口プログラムを使用して変更部分のみのバックアップを要求しました。

ユーザーの処置: 解決策は以下のとおりです。

- データベースがロールフォワード可能な場合は、全データベースのバックアップを要求する **BACKUP** ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。
- データベース構成ファイルの **SQL_ENABLE_LOG_RETAIN** フラグと **SQL_ENABLE_USER_EXIT** フラグの切り換えにより、ロールフォワードを使用不可にします。その後で、変更部分のみのバックアップを要求する **BACKUP** ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。
- ユーザー出口プログラムを使用してバックアップが要求された場合は、ユーザー出口プログラムを使用せずに変更部分のみのバックアップを行うように、**BACKUP** ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。
- 標準装置に対して、ユーザー出口プログラムを使用してバックアップが要求された場合は、ユーザー出口プログラムを使用せずに変更部分のみのバックアップを行うように、**BACKUP** ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2411C ユーティリティの実行中に、入出力エラーが起きました。物理的にディスクに書き込めないか、またはディスクがいっぱいです。

説明: ユーティリティがディスクまたはディスクセットへの書き込み中に、オペレーティング・システム・エラーが起きました。実際の戻りコードは、**SQLCA** の「**SQLERRD[0]**」フィールドにあります。

ユーザーの処置: **SQLCA** 内の「**SQLERRD[0]**」フィールドにあるエラー戻りコードを調べてください。可能であれば、エラーを修正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2412C データベース・ユーティリティの実行中に、壊れたデータベース・ページが見つかりました。

説明: ユーティリティの処理中に、壊れたデータベース・ページが見つかりました。データベースは予測不能状態になり、ユーティリティは続行できません。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (**SQLCODE**) を記録してください。

トレースがアクティブの場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。次に、以下の情報を用意して、テクニカル・サービス担当者に提供してください。

- 問題記述
- **SQLCODE** またはメッセージ番号
- **SQLCA** (可能であれば)
- トレース・ファイル (可能であれば)

SQL2413N データベースが回復可能でないか、またはバックアップ・ペンディング条件が有効になっているため、オンライン・バックアップを実行できません。

説明: リストア時に、順方向リカバリーが要求されている場合に、データベースが順方向リカバリー用にロギングされていないと、オンライン・バックアップは実行できません。順方向リカバリーは、データベース構成の **LOGARCHMETH1** または **LOGARCHMETH2** パラメーターを設定し、次にデータベースのオフライン・バックアップを実行することによって有効になります。

ユーザーの処置: オフライン・バックアップを行うか、またはロールフォワード・リカバリーのためにデータベースを再構成してオフライン・バックアップを発行し、以後のオンライン・バックアップを可能にしてください。

SQL2414W 警告! 装置 *device* には、バックアップ制御情報が入る十分なスペースがありません。このメディアにはバックアップ情報が含まれません。

説明: バックアップ処理中に、1 つ以上のメディアがいっぱいになった後で、新しいメディアが取り付けられました。このメディアにはバックアップ制御情報を含むための十分なスペースがないので、リストア操作中は使用するべきではありません。

ユーザーの処置: 新しいメディアを取り付けるか、現在のメディアの位置付けを変えて、このヘッダーに必要なスペースを提供できるようにした後で、操作を続行するかどうかを *callerac* パラメーターに指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL2416W 警告! 装置 *device* がいっぱいです。新しいメディアをマウントしてください。

説明: ユーティリティーが使用しているテープがいっぱいになりました。

ユーザーの処置: 別のテープを取り付けて、処理を続行するかどうかを *callerac* パラメーターに指定して、処理を続けてください。

SQL2417N アーカイブ・ログはリカバリー不能データベース上では許可されません。

説明: アーカイブ・ログ・コマンドは、リカバリー可能モードにあるデータベースでのみ使用できます。データベースがリカバリー可能モードであるのは、

LOGARCHMETH1 が DISK、TSM、VENDOR、USEREXIT、または LOGRETAIN に設定されているか、または LOGARCHMETH2 が DISK、TSM、または VENDOR が設定されている場合です。

ユーザーの処置: 指定されたデータベースがリカバリー可能モードにあることを確認して、コマンドを再発行してください。

SQL2418N バックアップ用に指定されたデータベースが存在しません。

説明: Database Backup コマンドの *dbase* パラメーターに指定されたデータベースが見つかりません。

ユーザーの処置: データベース・バックアップ・ユーティリティーに正しいデータベース別名が指定されており、この別名に対するデータベースが存在することを確認してください。正しい別名を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2419N ターゲット・ディスク *disk* がいっぱいになりました。

説明: データベース・ユーティリティーの処理中に、ターゲット・ディスクがいっぱいになりました。ユーティリティーは停止し、ターゲットは削除されます。

ユーザーの処置: ユーティリティーが使用できる十分なディスク・スペースが存在することを確認するか、またはターゲットを、テープなどの他のメディアに変更してください。

UNIX ベース・システムでは、現行ユーザー ID に許可されている最大ファイル・サイズを超えたために、このディスク・フル状態になる場合があります。 *chuser* コマンドを使用して、*fsize* を更新してください。レポートが必要になる場合があります。

UNIX ベース・システム以外では、オペレーティング・システムに許可されている最大ファイル・サイズを超過したために、このディスク・フル状態になる場合があります。ターゲットをテープなどの別のメディアに変更するかあるいは複数のメディアを使用してください。

SQL2420N 装置 *device* には、初期バックアップ制御情報が入る十分なスペースがありません。

説明: バックアップ処理中に、バックアップ・イメージの先頭に初期バックアップ・ヘッダーを作成する必要があります。このヘッダーは、テープにバックアップするときは、1 本のテープに収まらなくてはなりません。このテープには、このヘッダーを含むのに十分なスペースがありません。

ユーザーの処置: バックアップ操作を再実行し、出力を新しいテープに変更するか、またはこのヘッダーに十分なスペースが提供できるように、現在のテープの位置付けを変更してください。

SQL2421N ロールフォワード・リカバリーが使用できないために、表スペース・レベルのバックアップが許されません。

説明: リストア時に、順方向リカバリーが要求されている場合に、データベースが順方向リカバリー用にログインされていないと、表スペース・レベルのバックアップは実行できません。順方向リカバリーは、データベース構成パラメーター LOGARCHMETH1 または LOGARCHMETH2 パラメーターを設定し、次にデータベースのオフライン・バックアップを実行することによって有効になります。

ユーザーの処置: データベース全体のバックアップを実行するか、またはロールフォワード・リカバリー用にデータベースを再構成して、以降の表スペース・レベルのバックアップが実行できるように、オフライン・バック

アップを実行してください。

SQL2422N 互換性のない表スペースが存在するため、バックレベルのバックアップ API では、データベースがバックアップできません。

説明: このデータベースには、データベース・サブディレクトリ以外のロケーションに定義されている表スペースが入っています。これは、使用中の API と互換性がありません。

ユーザーの処置: 現在のバックアップ API を使用して、データベースをバックアップしてください。

SQL2423N 一部の索引ファイルが脱落しているために、データベースをバックアップすることはできません。

説明: バックアップに必要な一部の索引ファイルが脱落しています。データベースをバックアップする前に、これらの索引ファイルを再作成しなければなりません。

ユーザーの処置: 'db2recr1' プログラムを実行し、脱落している索引ファイルを再作成してから、バックアップ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2424N Data Links Manager での非同期コピー操作が完了していないため、バックアップは正常に終了しませんでした。

説明: TSM またはベンダー提供のアーカイブ・サーバーが操作可能状態でない可能性があります。

ユーザーの処置: TSM またはベンダー提供のアーカイブ・サーバーが操作可能状態であることを確認し、バックアップ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2425W オンライン・バックアップ用のログ・ファイルが切り捨てられませんでした。

説明: オンライン・バックアップの間、バッファされたログ・レコードはすべて強制的にディスクに送られ、最後のアクティブ・ログ・ファイルは切り捨てられません。現在のバックアップでは、最後のアクティブ・ログ・ファイルの切り捨てに失敗しました。この結果、新しいログ・レコードは、バックアップ中に使用されていた最後のログ・ファイルに書き込まれ続けます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。バックアップ中に使用されていた最後のアクティブ・ログ・ファイルは、いっぱいになった時点で非アクティブになります。

SQL2426N データベースは、増分バックアップ操作を許可するように構成されていません。理由コード = *reason-code*

説明: データベースに対して変更トラッキングが活動化されており、非増分バックアップが表スペースに対して実行されるまでは、その表スペースに対して増分バックアップは使用可能になっていません。

可能な理由コードは、次のとおりです。

1. 構成パラメーター TRACKMOD が、データベースに対して設定されていない。
2. TRACKMOD 構成パラメーターは設定されているが、少なくとも 1 つの表スペースで、TRACKMOD パラメーターの設定以降、増分バックアップが取られていない。

ユーザーの処置: 理由コードを基に、以下のようにアクションを実行します。

1. TRACKMOD データベース構成パラメーターをオンに設定してデータベースの変更トラッキングを活動化し、次に完全なデータベース・バックアップを実行します。
2. 表スペースの全バックアップを実行します。

SQL2427N プラグイン・ライブラリー *filename* には、項目ポイント *entrypoint* が含まれていないため、バックアップすることができません。

説明: 圧縮されたバックアップ・イメージは、イメージに組み込まれているプラグイン・ライブラリーを使用して作成されています。ただし、ライブラリーには、バックアップ・イメージがリストアされた時に圧縮解除するために必要なすべての関数が含まれていません。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: バックアップ・イメージの圧縮解除に必要なすべての関数が含まれるライブラリー名を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2428N 要求されたログ・ファイルのうち 1 つ以上を取り出すことができなかつたため、BACKUP が完了しませんでした。

説明: イメージのロールフォワード・リカバリーを正常に実行するために必要なログのいずれかを取り出すことができず、それをバックアップ・イメージ中にコピーできないなら、それらのログを含むバックアップは失敗します。

ユーザーの処置: 障害の発生したログ検索試行の原因については、管理通知ログを参照してください。エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2500 - SQL2599

SQL2501C データベースはリストアされましたが、リストアされたデータベース内のデータは使用できません。

説明: RESTORE ユーティリティが、リストアされたデータベースからデータを読み出すことができなかつたか、またはデータベースの一部のみがリストアされました。両方の原因が、リストアされたデータベースが使用できないことを示しています。

データベースは使用できず、RESTORE ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: RESTORE コマンドを再サブミットしてください。

SQL2502C バックアップ・ファイルの読み取り中に、エラーが起きました。物理的にディスクの読み取りができないか、または指定されたディスクに有効なバックアップ・ファイルが入っていません。

説明: RESTORE ユーティリティがディスクまたはディスクセットを読んでいるときに、オペレーティング・システム・エラーが起きたか、そのディスクまたはディスクセットに、データベース・ディレクトリーのバックアップが入っていないか、あるいは以前のバックアップの結果が入っていません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 指定した入力ドライブがディスク・ドライブの場合は、現在使用中のディスクセットをチェックしてください。入力ドライブがハード・ディスク・ドライブの場合は、それが正しいハード・ディスクであることを確認してください。上記が適用可能であれば、正しい入力ドライブとディスクセットを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2503N RESTORE が正常に終了しませんでした。データベースのリストアに使用したバックアップに、不適切なデータベースが含まれています。

説明: バックアップ・ディスクに入っているデータベースの名前が、RESTORE コマンドに指定されたデータベース名と一致しません。前のリリースのバックアップ・イメージがリストアされたために、RESTORE ユーティリティは、データベースがリストアされるまでその名前を判別できません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 間違ったデータベース名をコマンドで

使用した場合は、正しいデータベース名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。指定した入力ドライブがディスク・ドライブの場合は、現在使用中のディスクセットをチェックしてください。入力ドライブがハード・ディスク・ドライブの場合は、それが正しいハード・ディスクであることを確認してください。上記が適用可能であれば、正しい入力ドライブとディスクセットを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2504W 最初のバックアップ・ディスクセットを、ドライブ *drive* に挿入してください。

説明: RESTORE ユーティリティは最初のバックアップ・ディスクセットを読んで、バックアップされたデータベース・ディレクトリーのパスを決定します。バックアップ・メディアがディスクで、そのディスクが、指定された入力ドライブ内で見つからない場合には、ユーティリティが呼び出し側へこの指示を返します。呼び出し側プログラムは、ユーザーに対して照会を行い、ユーザーからの応答を受け取ってユーティリティへ戻ります。

ユーティリティは呼び出し側からの応答を待ちます。

ユーザーの処置: ディスクセットの挿入をユーザーに促して、処理を継続するか終了するかを指示する *callerac* パラメーターを使用して、ユーティリティへ戻ってください。

SQL2505W 警告! データベース *name* が *drive* に存在します。このデータベースのファイルが削除されることとなります。

説明: リストア中のデータベースがすでに存在する場合は、リストア処理が開始される前に、そのファイルが削除されます。ユーティリティは、この警告を呼び出し側に戻します。呼び出し側は、ユーザーに対して照会を行い、ユーザーからの応答を受け取ってユーティリティに戻ります。一度データベースがドロップされると、二度とアクセスできません。

ユーティリティは呼び出し側からの応答を待ちます。

ユーザーの処置: ユーザーにデータベースが消去されることを警告し、処理を継続するかまたは終了するかを指示する *callerac* パラメーターを使用して、ユーティリティへ戻ってください。

SQL2506W データベースはリストアされましたが、データベースに余分なファイルがある可能性があります。

説明: 変更部分のみバックアップが実行され、バックアップ間でデータベース・ファイルが削除されていた場合は、RESTORE ユーティリティが、それらの削除されたファイルをデータベースに追加します。入出力エラー、または内部的に停止したデータベースへの内部接続の失敗のために、リストア処理が余分なファイルを削除できませんでした。

ユーティリティは正常に終了します。

ユーザーの処置: データベースをそのまま使用するか、またはもう一度リストアしてください。RESTORE ユーティリティを再実行する前に、DB2 構成がリストアされたデータベース構成と互換であることを確認してください。

SQL2507W RESTORE ユーティリティが、データベースに正しくバインドされていません。

説明: RESTORE ユーティリティがデータベースにバインドされなかったか、またはデータベースにバインド・ユーティリティのパッケージが、インストールされているバージョンの DB2 と互換ではないために、すべてのユーティリティがデータベースに再バインドされました。ただし、インストールされているバージョンの DB2 とパッケージの間には、ユーティリティとバインド・ファイルが互換ではないという、タイム・スタンプの矛盾が存在しています。

データベースはリストアされていますが、ユーティリティが正しくバインドされていません。

ユーザーの処置: DB2 をインストールするかまたは最新の更新を再適用して、ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2508N データベース・リストアの *timestamp* パラメーター *timestamp* が無効です。

説明: NULL または有効なタイム・スタンプの一部、タイム・スタンプの完全なコンポーネントから構成される部分のいずれかが *timestamp* パラメーターに入っていなければなりません。

ユーザーの処置: 有効なタイム・スタンプの値を使用して、リストア処理を再実行してください。

SQL2509N *database drive* パラメーターが無効です。

説明: 指定されたドライブが存在していないか、あるいはデータベースが指定されたドライブ上に存在しないか、または指定されたドライブにカタログされていません。RESTORE は *db2uexit* コマンドを使用して、データベースのリストアを実行する必要があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効なドライブを使用して、ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2510N オペレーティング・システムのセマフォール・エラーが起きました。

説明: *wait* または *post* セマフォールで、エラーが起きました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーを停止して再始動し、ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2511N ユーティリティが、データベースのドロップ中に、エラー *error* を見つけました。

説明: ユーティリティがデータベースをドロップできませんでした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2512N ユーティリティが、データベースの作成中に、エラー *error* を見つけました。

説明: ユーティリティがデータベースを作成できませんでした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2513N ユーティリティが、データベースの名前変更中に、エラー *error* を見つけました。

説明: ユーティリティがデータベース名を変更できませんでした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2514N **RESTORE** が正常に終了しませんでした。データベースのリストアに使用したバックアップには、インストールされているデータベース・マネージャーのバージョンと互換性のないリリース番号を持つデータベースが含まれています。

説明: リストアされたデータベースのリリース番号が、インストールされているバージョンのデータベース・マネージャーのリリース番号と互換性がありません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーのリリース・レベルと互換性のあるバックアップを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2515N データベースに対して **RESTORE** ユーティリティを実行する権限がありません。

説明: SYSADM 権限を持たずに、RESTORE ユーティリティを実行しようとした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 適切な許可を取得しないうちは、RESTORE ユーティリティ・コマンドを呼び出さないようにしてください。

SQL2516N ワークステーション上の少なくとも 1 つのデータベースが使用中なので、**RESTORE** ユーティリティは完了できません。

説明: いくつかの状況においては、RESTORE ユーティリティは、データベースに関連するディレクトリー名を変更することによって、データベースを異なったディレクトリーへ移動することができます。ただし、ワークステーション上の処理がデータベースを使用している場合には、上記の処理を行うことはできません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: ワークステーション上のデータベースが使用中でなくなるまで待って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2517W リストアされたデータベースは現在のリリースに移行されました。移行は、**sqlcode** *sqlcode* およびトークン *tokens* を戻しました。

説明: リストアされているデータベースは、前のリリースの DB2 を使用してバックアップされていました。RESTORE ユーティリティが、データベースを現在のリリース形式に移行しました。

RESTORE コマンドをサブミットしたユーザーには、データベースに対する DBADM 権限が与えられます。他のユーザーがそのデータベースを使用する場合には、DBADM 権限を持つデータベース管理者は、そのデータベースの特定ユーザーに対して GRANT 特権を与える必要があります。

RESTORE ユーティリティは正常に終了します。

ユーザーの処置: データベースを使用する前に、移行によって戻された SQLCODE に基づいて適切なユーザー応答を決定してください。

SQL2518N **RESTORE** が正常に終了しませんでした。データベース構成ファイルのリストア中に、入出力エラーが起きました。

説明: 入出力エラーのために、データベース構成ファイルがリストアできませんでした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 入出力エラーが修復可能かどうかを判別してください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL2519N データベースはリストアされましたが、リストアされたデータベースは現在のリリースに移行されませんでした。エラー *sqlcode*、トークン *tokens* が戻されました。

説明: バックアップ・イメージは、前のリリースのデータベースです。データベース・ファイルがリストアされた後で、そのデータベースを現在のリリースに移行使用としました。移行は失敗しました。

ユーティリティは処理を完了しましたが、データベースは移行されませんでした。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージの SQLCODE (メッセージ番号) を調べてください。データベースを使用する前に、変更を行い、Migrate コマンドをサブミットしてください。

SQL2520W データベースがリストアされました。構成ファイルのバックアップ・バージョンが使用されました。

説明: データベースがリストアされるときに、現在のデータベース構成ファイルが、必ずしもそのバックアップ・バージョンで置き換えられるわけではありません。現在のデータベース構成ファイルは使用不可能でした。従って、バックアップ・バージョンで置き換えられました。

ユーティリティーは正常に終了しました。

ユーザーの処置: リストア処理の後で、データベース構成ファイルのいくつかの値が異なる可能性があります。その構成パラメーターが期待どおりの値に設定されているか調べてください。構成パラメーターが必要な値に設定されていることをチェックしてください。

SQL2521W データベースはリストアされましたが、*file-type* ファイルの削除中に、入出力エラー *code* が起きました。

説明: リストア処理は正常に実行されました。指定されたファイルは、入出力エラーのために削除されませんでした。

リストア処理が異常終了したかどうかを判別するには、拡張子 “.BRG” のファイルを使用します。このファイルは、リストア操作の対象であったデータベースのローカル・データベース・ディレクトリー内に置かれます。

拡張子 “.BRI” の付いたファイルは、増分 RESTORE 操作の進行状況に関する情報を保管します。このファイルは、リストア増分操作の対象となったデータベースのローカル・データベース・ディレクトリー内に置かれます。

このファイルの名前は、データベース・トークンにファイル・タイプ拡張子を連結して作成されます。たとえば、データベース “SAMPLE” にデータベース・トークン “SQL00001” が割り当てられると、BRI ファイルには “instance/NODE0000/sqlbdir/SQL00001.BRI” という名前が付きます。

ユーティリティーは正常に終了しました。

ユーザーの処置: .BRG または .BRI ファイルを手動で削除してください。ファイルが削除できない場合は、テクニカル・サービス担当者に連絡してください。

SQL2522N バックアップされたデータベース・イメージに指定されたタイム・スタンプの値と一致するバックアップ・ファイルが、複数存在します。

説明: バックアップ・イメージ・ファイルのファイル名は、データベース別名とタイム・スタンプのコンポーネントで構成されています。ファイル名は、ソース・データベース別名と、Database Restore 呼び出しに指定されたタイム・スタンプ・パラメーターから作成されません。タイム・スタンプの部分が、複数のバックアップ・イメージのファイル名が見つかるように、指定されていた可能性があります。

ユーザーの処置: 一致するバックアップ・ファイルが 1 つだけになるようにタイム・スタンプを指定して、操作をやり直してください。

SQL2523W 警告! バックアップ・イメージのデータベースと異なり、名前が一致する、既存のデータベースにリストアしています。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。ターゲット・データベースに関連するロールフォワード・リカバリー・ログは、削除されません。

説明: ターゲット・データベースのデータベース別名と名前が、バックアップ・イメージ・データベースの別名と名前と同じです。データベース・シードが、データベースが同じでないことを示しています。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。ターゲット・データベースに関連するロールフォワード・リカバリー・ログは、削除されます。現在の構成ファイルは、バックアップ・バージョンで上書きされます。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL2524W 警告! 同じだと思われる既存のデータベースにリストアしようとしていますが、既存のデータベースの別名 *dbase* はバックアップ・イメージの別名 *dbase* に一致していません。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。

説明: ターゲット・データベースとデータベース・イメージのシードは同じなので、これらは同じデータベースであることを示していますが、データベース名は同じですが、データベース別名が異なっています。ターゲッ

ト・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2525W 警告! バックアップ・イメージのデータベースとは異なる既存のデータベースにリストアしようとしています。既存のデータベースの別名 *dbase* はバックアップ・イメージの別名 *dbname* に一致していませんが、データベース名は同じです。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。ターゲット・データベースに関連するロールフォワード・リカバリー・ログは、削除されます。

説明: ターゲット・データベースとデータベース・イメージの別名が異なり、データベース名が同じで、データベース・シードが同じではないので、これらは異なるデータベースであることを示しています。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。ターゲット・データベースに関連するロールフォワード・リカバリー・ログは、削除されます。現在の構成ファイルは、バックアップ・バージョンで上書きされます。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2526W 警告! バックアップ・イメージ・データベースと同じ既存のデータベースにリストアしようとしています。別名は同じですが、既存のデータベースのデータベース名 *dbname* はバックアップ・イメージのデータベース名 *dbname* に一致していません。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされません。

説明: ターゲット・データベースとデータベース・イメージのデータベース別名は同じで、データベース・シードも同じですが、データベース名が異なっています。これらは同じデータベースです。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2527W 警告! バックアップ・イメージ・データベースとは異なる既存のデータベースにリストアしようとしています。既存のデータベースのデータベース名 *dbname* はバックアップ・イメージのデータベース名 *dbname* に一致していませんが、別名は同じです。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。ターゲット・データベースに関連するロールフォワード・リカバリー・ログは、削除されます。

説明: ターゲット・データベースとデータベース・イメージの別名が同じで、データベース名が同じでなく、データベース・シードが同じではないので、これらは異なるデータベースであることを示しています。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。ターゲット・データベースに関連するロールフォワード・リカバリー・ログは、削除されません。現在の構成ファイルは、バックアップ・バージョンで上書きされます。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2528W 警告! バックアップ・イメージ・データベースと同じ既存のデータベースにリストアしようとしています。既存のデータベースの別名 *dbase* は、バックアップ・イメージの別名 *dbname* に一致しておらず、また既存のデータベースのデータベース名 *dbname* はバックアップ・イメージのデータベース名 *dbname* に一致していません。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされません。

説明: ターゲット・データベースとデータベース・イメージの別名が異なり、データベース名が異なり、データベース・シードが同じなので、これらは異なるデータベースであることを示しています。現在のデータベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされません。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2529W 警告! バックアップ・イメージ・データベースとは異なる既存のデータベースにリストアしようとしています。既存のデータベースの別名 *dbname* はバックアップ・イメージの別名 *dbname* に一致しておらず、既存のデータベースのデータベース名 *dbname* はバックアップ・イメージのデータベース名 *dbname* に一致していません。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされません。ターゲット・データベースに関連するロールフォワード・リカバリー・ログは、削除されます。

説明: ターゲット・データベースとデータベース・イメージの別名が異なり、データベース名が異なり、データベース・シードが同じではないので、これらは異なるデータベースであることを示しています。現在のデータベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。ターゲット・データベースに関連するロールフォワード・リカバリー・ログは、削除されます。現在の構成ファイルは、バックアップ・バージョンで上書きされません。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2530N バックアップ・イメージが壊れています。このバックアップ・イメージからのデータベースのリストアは不可能です。

説明: リストア中のバックアップ・イメージは壊れていて、データベースのリストアを行うことはできません。

ユーザーの処置: 使用不可能なので、このバックアップ・イメージは廃棄してください。可能であれば、前のバックアップからリストアしてください。

SQL2531N リストアのために選択されたバックアップ・イメージは、無効なデータベース・バックアップ・イメージです。

説明: リストアのために選択されたファイルは、有効なバックアップ・イメージではありません。選択されたファイルが壊れているか、またはバックアップ・テープが正しく位置付けられていません。

ユーザーの処置: 正しいバックアップ・イメージ・ファイルの位置を判別して、Restore コマンドを再実行してください。

SQL2532N このバックアップ・ファイルには、タイム・スタンプ *timestamp* に取った、データベース *dbalias* のバックアップ・イメージが含まれています。これは、要求されたバックアップ・イメージではありません。

説明: リストアのために選択されたファイルが、要求されたバックアップ・イメージを含んでいません。イメージは、要求されたデータベースとは別のデータベースです。

ユーザーの処置: テープを使用している場合は、正しいテープが取り付けられていることを確認してください。リストアまたはロードをディスクから行っている場合は、ファイル名を変更する必要があります。ファイルを、データベース名とタイム・スタンプに一致する正しいファイル名に変更してください。適切なアクションを取った後で、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2533W 警告! 装置 *device* のバックアップ・ファイルには、タイム・スタンプ *timestamp* に取られたデータベース *database* のイメージが含まれています。これは、要求されたバックアップ・イメージではありません。

説明: テープの位置から読み取られたバックアップ・イメージに、バックアップ・ファイルの最初のイメージのヘッダーと一致しないメディア・ヘッダーが入っています。

ユーザーの処置: テープが正しいバックアップ・ファイルに位置付けられていることを確認して、処理を続行するかどうかを示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2534W 警告! 装置 *device* のメディアが、有効なバックアップ・メディア・ヘッダーに置かれていません。

説明: テープ位置から読み取られたデータに、有効なバックアップ・メディア・ヘッダーが入っていません。

ユーザーの処置: テープが正しい位置に取り付けられていることを確認して、処理を続けるかどうかを示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2535W 警告! デバイス *device* のメディアの終わりに達しました。次のソース・メディアをマウントしてください。

説明: テープの終わりに到達し、処理されるべきデータがまだ残っています。バックアップまたはロード・ソ

ースの残りが、他の 1 つ以上のテープに存在していません。

ユーザーの処置: ソース・イメージの入った次の順番のテープを取り付けて、処理の続行または終了を示す *callerac* パラメーターを指定して、Restore または Load コマンドを再サブミットしてください。

SQL2536W 警告! 装置 *device* のバックアップ・イメージには、間違ったシーケンス番号が含まれています。正しいシーケンス番号は *number* です。

説明: テープが、順序の異なるバックアップ・イメージ・ファイルに位置付けられています。バックアップ・イメージの入ったテープは、バックアップ・イメージのシーケンス番号 *sequence* のファイルに位置付ける必要があります。

ユーザーの処置: バックアップ・イメージの入ったテープを正しいファイルに位置付け、処理の続行または終了を示す *callerac* パラメーターを指定して、Restore コマンドを再サブミットしてください。

SQL2537N リストア後のロールフォワードが必要です。

説明: リストアされたデータベースを使用可能にするためのロールフォワードが必要ないことを示す `SQLUD_NOROLLFWD` が、データベース・リストア・ユーティリティの *rst_type* パラメーターに指定されました。リストアするデータベースはオンライン・モードでバックアップされているので、データベースを使用可能にするには、ロールフォワード処理が必要です。

ユーザーの処置: *rst_type* パラメーターに `SQLUD_NOROLLFWD` を指定せずに、Database Restore コマンドを再サブミットしてください。

SQL2538N メディア *media* でバックアップ・イメージの予期しないファイルの終わりに達しました。

説明: バックアップ・イメージ・ファイルからの読み取りおよびリストアを行っているときに、予期しないファイルの終わりに達しました。バックアップ・イメージは使用不能で、リストア処理は終了します。

ユーザーの処置: 使用可能なバックアップ・イメージ・ファイルを使用して、Database Restore コマンドを再サブミットしてください。

SQL2539W 警告! バックアップ・イメージ・データベースと同じ既存データベースをリストアします。データベース・ファイルは削除されます。

説明: ターゲット・データベースとデータベース・イメージの別名、名前、シードが同じなので、これらは同一のデータベースであることを示しています。現在のデータベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2540W リストアは成功しましたが、非割り込みモードでデータベースをリストア中に、警告 *warn* が出されました。

説明: データベース・リストア・ユーティリティは非割り込みモードで (たとえば、`SQLUB_NO_INTERRUPT` または `SQLUD_NO_INTERRUPT` が指定されて) 呼び出されました。処理中に警告が見つかりましたが、その時点では戻りませんでした。リストアは正常に完了し、見つかった警告メッセージはこのメッセージの後で表示されます。

ユーザーの処置: この警告の原因が、処理結果に影響を及ぼしていないことを確認してください。

SQL2541W ユーティリティは成功しましたが、バックアップ・イメージの入ったファイルをクローズできませんでした。

説明: ユーティリティは成功しましたが、バックアップ・イメージの入ったファイルをクローズできません。

ユーザーの処置: バックアップ・イメージの入ったファイルのクローズを試みてください。

SQL2542N 指定されたソース・データベースの別名 *database-alias* とタイム・スタンプ *timestamp* に一致する、データベース・イメージ・ファイルがありません。

説明: バックアップ・イメージ・ファイルのファイル名は、データベース別名とタイム・スタンプのコンポーネントで構成されています。ファイル名は、ソース・データベース別名と、Database Restore 呼び出しに指定されたタイム・スタンプ・パラメーターから作成されず。指定されたソース・データベースの別名とタイム・スタンプに一致するファイル名が、ソース・ディレクトリに存在しません。このエラーが自動増分リストア操作から出されたものである場合、データベース履歴内のタイム・スタンプとロケーションに基づいて必要イメ

ージが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: データベース・バックアップ・イメージが、メディア・ソースに存在することを確認してください。結果的に一致する正しいタイム・スタンプを指定して、操作をやり直してください。

このエラーが自動増分リストア操作から出されたものである場合、データベース履歴を調べて対応するバックアップ項目を確かめてから、リストされているロケーションがバックアップ・イメージの実際のロケーションに一致することを確認してください。データベース履歴を更新して、結果が一致するように操作をやり直すか、または RESTORE INCREMENTAL ABORT コマンドを発行して、処理中に作成されたリソースをすべてクリーンアップしてください。

SQL2543N データベースに指定されたターゲット・ディレクトリーが無効です。

説明: リストア・ユーティリティーを呼び出しているアプリケーションが、作成する新しいデータベースのターゲット・ディレクトリーを指定しました。このディレクトリーが存在しないか、またはデータベースの作成に有効なディレクトリーでないかのどちらかです。データベースの作成に無効なディレクトリーとは、長さが 255 文字を超えるディレクトリーです。

ユーザーの処置: 有効なターゲット・ディレクトリーを指定して、Backup または Restore コマンドを再発行してください。

SQL2544N データベースをリストアしているディレクトリーがいっぱいになりました。

説明: データベースのリストア中に、リストア先のディレクトリーがいっぱいになりました。リストアされるデータベースは使用できません。リストアは終了し、リストア中のデータベースが新しいデータベースの場合は、削除されます。

ユーザーの処置: リストアするデータベースのために十分なディレクトリーのスペースを解放して、Restore を再発行するか、または新しいデータベースにリストアする場合は、リストアするデータベースを含む十分なスペースがあるディレクトリーを指定してください。

SQL2545W 警告! TSM サーバー上のバックアップ・イメージは、取り付け可能なメディアに保管されています。使用可能になるまでに必要な時間は不明です。

説明: バックアップ・イメージは、TSM サーバーによってすぐにはアクセスできません。リストア処理は続行可能で、サーバーにデータの取り出しを要求します。た

だし、必要な時間は不明です。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示す callerac パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL2546N メディア *media* のイメージは、バックアップまたはコピーの一番目ではありません。

説明: リストアまたはロード・リストア中は、バックアップまたはコピーの最初のイメージを、最初に処理する必要があります。メディアで見つかったイメージは、最初のイメージではありません。

ユーティリティーは、続行の応答を待ちます。

ユーザーの処置: 正しいバックアップまたはコピー・イメージを持つメディアを取り付けて、処理を続行または終了するべきであることを示す、正しい caller action パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL2547N バックアップ・イメージが前のリリースで作成され、ロールフォワード・リカバリーが要求されているため、データベースはリストアされませんでした。

説明: 物理ログ・ファイル形式が、これらのリリースの間で、ロールフォワードを使用不能にするように変更されました。

ユーザーの処置: データベースの作成に使用したバージョンの DB2 を使用して、データベースをリストアし、ログの最後までロールフォワードしてください。このときに、オフラインのフル・データベース・バックアップを取得してください。この新しいバックアップ・イメージは、新しいリリースの DB2 にリストアできません。

SQL2548N バックアップ・イメージ内に示されたデータベースのコード・ページ *code-page* は無効であるか、サポートされていません。リストア操作は失敗しました。

説明:

1. リストアしているバックアップ・イメージは、このサーバーに適用されているフィックスパック・レベルより新しいフィックスパック・レベルのサーバーで作成されている可能性があります。その場合、サポートされているよりも新しいコード・ページがこのイメージに含まれている可能性があります。
2. バックアップ・イメージは破壊されており、無効なコード・ページ情報が含まれています。

ユーザーの処置: 新しいフィックスパック・レベルが適用されているサーバーから、それよりフィックスパック・レベルの低いサーバーにイメージをリストアしようとする場合、そのコード・ページが両方のサーバーでサポートされていることを確認してください。あるいは、リストア先のサーバーに新しいフィックスパックを適用してください。

SQL2549N バックアップ・イメージの表スペースのすべてがアクセス不可能または、リストアする表スペース名のリストの 1 つ以上の表スペース名が無効であるかのいずれかで、このデータベースはリストアされていません。

説明: 使用可能でないバックアップ・イメージの表スペースにより使用されたコンテナはすでに使用中であるか、またはリストア・コマンドのリストで指定された 1 つ以上の表スペース名がバックアップ・イメージに存在していません。

ユーザーの処置: リダイレクトされたリストアを使用してこのバックアップ・イメージの表スペースのコンテナを再定義するか、リストアする有効な表スペース名のリストを指定してください。

SQL2550N ノード *node1* のデータベース・バックアップをノード *node2* にリストアできません。

説明: リストアに対して使用されるバックアップ・イメージは、異なるノードからデータベースをバックアップします。同じノードでのみバックアップをリストアできます。

ユーザーの処置: ノードの正しいバックアップ・イメージがあることを確認し、要求を再度発行してください。

SQL2551N カタログ・ノード *node1* を伴うデータベースをカタログ・ノード *node2* を伴うデータベースにリストアできません。

説明: カタログ・ノードは、1 つのノードだけに存在するため、バックアップ・イメージとリストアされたノード間に相違があります。これは、次の場合発生します。

1. バックアップ・イメージはカタログ・ノード *node1* を指定し、リストアはカタログ・ノードがノード *node1* である既存のデータベースに試行しました。
2. リストアを新規データベースで試行して、カタログ・ノードは先にリストアされませんでした。

ユーザーの処置: 正しいバックアップ・イメージがリストアされていることを確認してください。

既存のデータベースにリストアしていて、カタログ・ノ

ードを *node2* に変更したい場合は、先に既存のデータベースをドロップする必要があります。

新規データベースにリストアしている場合は、カタログ・ノード *node1* を先にリストアしてください。

SQL2552N 無効な報告書ファイル名がリストア・コマンドに指定されました。

説明: 報告書のファイル名の長さは、許可される 255 の制限を超えました。

ユーザーの処置: 許可範囲内の長さの報告書のファイル名を指定して、リストア・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2553I RECONCILE ユーティリティは正常に完了しました。

説明: ユーティリティは正常に終了しました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL2554N RECONCILE ユーティリティは理由コード *reason-code* で失敗しました。
component に問題がある可能性があります。

説明: 可能な理由コードは、次のとおりです。

- 1 DB2 Data Links Manager への接続が不明である。
- 2 表または DATALINK 列が DB2 Data Links Manager で定義されていない。
- 3 DB2 Data Links Manager が停止されている可能性があります。
- 4 入出力問題。
- 5 例外表に、ファイル・リンク・コントロールで定義されているデータ・リンク列が入っている。
- 6 表が“データ・リンク調整不可”状態である。
- 7 例外表は、型付き表での調整には許可されていない。
- 8 ALTER TABLE が、表を“データ・リンク調整ペンディング”または“データ・リンク調整不可”状態にすることができなかったか、あるいは“データ・リンク調整ペンディング”または“データ・リンク調整不可”状態から解除することができなかった。
- 9 データ・リンク・サポートがオンになっていない。

- 10 表がチェック・ペンディング状態のままになっている。
- 11 例外の処理中に、必要な DB2 Data Links Manager が使用可能になっていなかった。表がデータ・リンク調整ペンディング中の状態である。
- 12 調整処理を割り当てられた時間枠内に DB2 Data Links Manager で完了できませんでした。詳細については管理通知ログをチェックしてください。

ユーザーの処置: 可能な解決方法:

- 1 DB2 Data Links Manager が稼働中で、ADD DATALINKS MANAGER コマンドによってデータベースに登録されていることを確認してください。データベースの接続を試行して、Data Links Manager で該当する接続が確立したことを確認してください。
- 2 表が DB2 Data Links Manager に存在していないようです。調整するものはありません。
- 3 DB2 Data Links Manager が停止されている可能性があります。DB2 Data Links Manager の開始を試みてください。
- 4 レポート・ファイルのファイル許可および十分なスペースがあることを確認してください。DLREPORT パラメーターには完全修飾パスが必要です。調整される表が損傷を受けていないことを確認してください。
- 5 例外表のデータ・リンク列をすべて “NO LINK CONTROL” として再定義してください。
- 6 SET INTEGRITY コマンドを使用して、表を “データ・リンク調整不可” 状態から解除してください。調整コマンドを繰り返してください。
- 7 例外表を指定しないでください。
- 8 SET INTEGRITY コマンドを使用して、表を “データ・リンク調整ペンディング” 状態にするか、あるいは “データ・リンク調整ペンディング” または “データ・リンク調整不可” 状態をリセットするよう試みてください。
- 9 データベース・マネージャー構成パラメーター DATALINKS の値が NO に設定されていません。RECONCILE を使用するには、パラメーター DATALINKS の値を YES に設定しなければなりません。
- 10 表で調整を実行するためには、その表がチェック・ペンディング状態になってはなりません。

ん。チェック・ペンディング状態を除去するには、SET INTEGRITY コマンドを使います。

- 11 もう一度調整を実行します。
- 12 reconcile コマンドが、DB2 Data Links Manager からの検査を待機中にタイムアウトになりました。reconcile コマンドを再試行してください。

SQL2560N 表スペース・レベル・バックアップからのリストアについて、ターゲット・データベースがソース・データベースと同一ではありません。

説明: 表スペース・レベル・バックアップからのリストアの場合、ターゲット・データベースは、バックアップ元のオリジナルのデータベースか、または新しいデータベースでなければなりません。

ユーザーの処置: 正しいターゲット・データベースを指定して、ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2561W 警告! 表スペース・レベル・バックアップから、存在しないデータベースにリストアしようとしています。バックアップ内で同じ属性を使用するデータベースが作成されます。

説明: 表スペース・レベル・バックアップからのリストアの場合、ターゲット・データベースは、ソース・データベースと同じ属性 (データベース名、別名、シード) を持つ必要があります。まだデータベースが存在しない場合は、データベースが作成されます。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2562N データベース全体のバックアップからの表スペース・レベル・リストアは許されていません。

説明: 完全データベース・バックアップからのリストアの場合、リストア・タイプを表スペース・レベルにすることはできません。

ユーザーの処置: 正しいリストア・タイプを使用するか、または正しいバックアップ・イメージを使用して、ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2563W リストア処理は正常に終了しましたが、1 つ以上の表スペースがバックアップからリストアされませんでした。

説明: リストア処理は正常に終了しました。以下の理由から、バックアップ内の 1 つ以上の表スペースがリストアされません。

- 表スペースのコンテナにアクセス中にエラーが起きました。バックアップが取られた後で、表スペースがドロップされている場合、アクションは必要ありません。
- バックアップの表スペースのサブセットのみをリストアするためにリストア・コマンドが表スペースのリストで呼び出されました。アクションは必要ありません。

ユーザーの処置: このメッセージがサブセット・リストアにより発生したものでない場合、表スペースの照会関数を使用して、表スペースの状態をチェックしてください。表スペースが「ストレージ定義ペンディング」状態の場合は、リストアが正常に完了するように、その表スペースのストレージ定義を訂正する必要があります。表スペースのリカバーの詳細については、「管理ガイド」を参照してください。

SQL2564N バックアップ・イメージでの 1 つ以上の表スペースのページ・サイズが、該当のあて先表スペースのページ・サイズと一致しません。

説明: ターゲットの表スペースのページ・サイズは、バックアップ・イメージでの表スペースのページ・サイズと一致しなければなりません。別のページ・サイズの表スペースへのリストアは、サポートされていません。デフォルト・ページ・サイズは 4K です。

ユーザーの処置: リストアされる表スペースのページ・サイズが、バックアップ・イメージの表スペースのページ・サイズと同じであることを確認してください。

SQL2565N RESTORE に指定されたオプションは、提供されたバックアップ・イメージでは使用できません。

説明: バックアップ・イメージに含まれているデータベースが、既存のデータベースで、リストアされるデータベースと一致しません。リストアに指定したオプションでは、リストアされるデータベースが新規であるか、またはバックアップ・イメージのデータベースと同じであることが要求されます。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいデータベース名を指定して、コ

マンドを再サブミットしてください。

SQL2566W このリストア処理は正常に終了しましたが、1 つ以上の表スペースで、表が **DRP/DRNP** 状態になっています。詳細については **db2diag.log** ファイルを調べてください。

説明: 次のいずれかの理由のため、1 つ以上の表スペースには、「データ・リンク調整ペンディング (DRP)」または「データ・リンク調整不可 (DRNP)」に表がありません。

- バックアップ・イメージと異なるデータベース名、別名、ホスト名、またはインスタンスを持つデータベースにリストアしている。このリストアの後にロールフォワードが行われない場合、DATALINK 列を持つ表はすべて、DRNP 状態に置かれます。
- WITHOUT DATALINK オプションを指定してリストアが行われ、このリストアのあとにロールフォワードが行われない。DATALINK 列を指定した表は DRP 状態となります。
- 使用不能になったバックアップ・イメージからリストアしている。このリストアの後にロールフォワードが行われない場合、DATALINK 列を持つ表はすべて、DRNP 状態に置かれます。
- DATALINK 列情報が DB2 Data Links Manager に存在していない。影響を受ける表は DRNP 状態になります。
- DB2 Data Links Manager でファイルの再リンクを試行中、高速調整を伴うリストアが失敗した。影響を受ける表は DRNP 状態になります。

ユーザーの処置: 管理通知ログで、どの表が DRP/DRNP 状態に書き込まれているかを確認してください。DRP/DRNP 状態になっている表の調整についての情報は、「管理ガイド」を参照してください。

SQL2570N バックアップ・イメージが作成されたプラットフォームに一致しないプラットフォームでは、データベースをリストアできません。

説明: あるプラットフォームでバックアップ・イメージを作成し、異なるプラットフォームにリストアしようと試みました。ただしバックアップ・イメージは、そのバックアップ・イメージが作成されたシステムに一致する、マシン・タイプとオペレーティング・システムを持つシステムにリストアされなければなりません。

ユーザーの処置: この特定のバックアップ・イメージを使用するには、そのバックアップがとられたシステムに対応するシステムにリストアしてください。

あるタイプのプラットフォームから別のプラットフォームにデータベースを移動するには、「データ移動ユーティリティ ガイドおよびリファレンス」に記述されている db2move ユーティリティを使用してください。

SQL2571N 自動増分リストアを続けられません。理由コード: *reason-code*

説明: 自動増分リストア処理中にエラーが検出されました。ユーティリティは予定通り完了できませんでした。ユーティリティは処理を停止します。このエラーは初期定義がリストアされた後に返され、必要な増分リストア・セットの処理は以下の理由コードのため、正常に完了できません。

- 1 指定したタイム・スタンプに対応するバックアップ・イメージがデータベース履歴に見つかりません。
- 2 リストアする表スペースを判別しようとしたときにエラーが起きました。
- 3 必要なバックアップ・イメージがデータベース履歴に見つかりません。

ユーザーの処置: RESTORE INCREMENTAL ABORT コマンドを発行して、処理中に作成されたリソースをすべてクリーンアップしてください。手操作による増分リストアを実行して、このバックアップ・イメージからデータベースをリストアしてください。

SQL2572N 順序に従わないイメージの増分リストアを行おうとしました。タイム・スタンプ *timestamp-value* のバックアップ・イメージが、リストアが試行されたイメージの前にリストアされていないため、表スペース *tablespace-name* にエラーが起きました。

説明: 増分バックアップの方法で生成されたイメージをリストアする場合、次の順序でイメージをリストアしてください。

1. データベースをリストアしたい増分を DB2 に指示するため、まず最終イメージをリストアします。
2. 増分イメージのセットの前に、データベースまたは表スペースのイメージを完全にリストアします。
3. 増分および差分のイメージのセットを、これらが生成された順にリストアします。
4. 最終イメージをもう一度リストアします。

バックアップ・イメージの各表スペースは、失敗したバックアップ・イメージを正常にリストアする前にリストアする必要のあるバックアップ・イメージを認識しています。このメッセージを呼び出したイメージを正常に

リストアする前に、このメッセージで報告されたタイム・スタンプでイメージをリストアする必要があります。指摘されたイメージの前に、リストアする追加のイメージがある可能性があります。これがエラーを検出する最初の表スペースです。

ユーザーの処置: 増分バックアップ・イメージのセットの順序が正しいことを確認し、増分リストア処理を続行してください。

SQL2573N 増分バックアップ・イメージは増分 RESTORE 操作の一部としてリストアされなければなりません。

説明: 増分バックアップ・イメージを使用して RESTORE 操作を行おうとしました。増分バックアップ自体をリストアすることはできません。これは増分 RESTORE 操作の一部としてのみリストアできます。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: このバックアップ・イメージをリストアするには、INCREMENTAL 修飾子を使用して RESTORE コマンドを再発行してください。非増分 RESTORE 操作を実行するには、非増分バックアップ・イメージを指定してください。

SQL2574N 増分 RESTORE 操作の一部としてリストアされたバックアップ・イメージがターゲット・イメージより新しくはいけません。

説明: ターゲット・イメージは増分 RESTORE 操作の一部として最初にリストアされるイメージです。このイメージには、表スペース定義その他、リストア中のデータベースの制御構造が入っています。RESTORE ユーティリティは、データベースを破壊する恐れがあるため、増分 RESTORE 操作中にターゲット・イメージより新しいイメージをリストアすることはできません。

増分 RESTORE 操作は、ターゲット・イメージより新しいタイム・スタンプを持つバックアップ・イメージをリストアしようとしたために失敗しました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: ターゲット・イメージより古いタイム・スタンプを持つバックアップ・イメージを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL2575N 指定した増分バックアップ・イメージのタイム・スタンプが、表スペース *tablespace-number* についてリストアされた最後のイメージのタイム・スタンプより古くなっています。最後のバックアップ・イメージのタイム・スタンプは *timestamp* です。

説明: 増分 RESTORE 操作を実行するには、バックアップ・イメージは各表スペースについて、最も古いものから最も新しいものへと日時順にリストアしなければなりません。増分 RESTORE 操作が、指定した表スペースについてリストアされた前のイメージのタイム・スタンプより古いタイム・スタンプを持つバックアップ・イメージを指定していました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 表スペースについてリストアされた最後のイメージのタイム・スタンプより新しいタイム・スタンプを持つバックアップ・イメージを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL2576N 表スペース *tablespace-name* を増分 RESTORE 操作の一部としてリストア中ですが、RESTORE コマンドに INCREMENTAL 文節が指定されていません。

説明: 増分的に表スペースをリストアするには、各 RESTORE コマンドが INCREMENTAL 文節を指定していなければなりません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: INCREMENTAL 文節を指定して、RESTORE コマンドを再発行してください。

SQL2577N バックアップの圧縮解除用ライブラリーが見つかりません。

説明: リストアされているイメージは圧縮されたバックアップですが、圧縮解除ライブラリーが指定されておらず、イメージにライブラリーも見つかりません。

RESTORE ユーティリティには、バックアップを圧縮解除するプラグイン・ライブラリーが必要です。このライブラリーは、通常はバックアップ・イメージ自身に保管されていますが、この場合、バックアップの作成者がライブラリーを除外しています。ライブラリー名は、RESTORE ユーティリティのパラメーターとしても指定されます。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: イメージのデータ圧縮解除ができるラ

イブラリー名を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2578N 指定されたオブジェクトがバックアップ・イメージで見つかりませんでした。

説明: リストアされる要求のある特定オブジェクトはバックアップ・イメージに存在しません。

RESTORE ユーティリティが、バックアップ・イメージから単一オブジェクトをリストアしようとした。このタイプのオブジェクトは、バックアップ・イメージに存在しません。

バックアップ履歴ファイルおよび圧縮解除ライブラリーは、個々にリストアできるオブジェクトです。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 該当するオブジェクトを含むバックアップ・イメージを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2580W 警告! 既存のログ・ファイルが含まれているパスにログを復元しようとしています。リストア中に既存のログ・ファイルを上書きしようすると、リストア操作は失敗します。

説明: 指定されたログ・ターゲット・パスには、ログ・ファイル名の形式に適合する名前のファイルが少なくとも 1 個含まれています。後でリストア操作において同じ名前のログ・ファイルを抽出しようすると、このことが原因でリストアが失敗することになります。

ユーザーの処置: ログ・ターゲット・パスから既存のログ・ファイルを削除するか、またはログ・ターゲットに存在するファイルが、このバックアップ・イメージから抽出されるどのログのファイル名とも一致しないようにしてください。その後、リストア処理を継続するか終了するかを示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティを戻します。

SQL2581N リストア処理において、バックアップ・イメージ中のログ・ファイルを、指定されたパスに抽出できません。

説明: バックアップ・イメージからログ・ファイルを抽出しようとして、またはバックアップ・イメージにログが含まれていないために、エラーが発生しました。原因として可能性があるのは、これは、ログ・ターゲット・パスがいっぱいになっていること、またはログ・ターゲット・パスが無効であることです。あるいは、ログ・ターゲット・パスに既に存在するログ・ファイルと同じ名前のログ・ファイルが、バックアップ・イメージ中にあることが原因の場合もあります。

ユーザーの処置: 詳しくは、管理通知ログを参照してください。ログ・ターゲット・パスが有効であること、そしてそこにはバックアップ・イメージから抽出するすべてのログ・ファイルが入るだけの十分なスペースがあることを確認してください。さらに、ログ・ターゲット・

パスの中に、リストアするバックアップ・イメージ中のログ・ファイルと同じ名前のログ・ファイルが存在しないことも確認してください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL2600 - SQL2699

SQL2600W 許可ブロックへの入力パラメーター・ポインターが無効か、またはブロック・サイズが正しくありません。

説明: 許可構造パラメーターへのポインターが NULL か、許可構造へのポインターが「構造の長さ」フィールドに指定された長さより小さい領域を指しているか、または「許可構造の長さ」フィールドが正しい値にセットされていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 入力パラメーターの値を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2650N 無効なパラメーター *parameter_name* が API-name **read log API** に渡されました。理由コード = *reason-code*。

説明: 無効なパラメーターが、read log API に渡されました。以下の理由コードが考えられます。

- 01 無効なアクションが指定されています。
- 02 ログの開始シーケンス番号が、現在のデータベースのアクティブ・ログのシーケンス番号より大きいです。
- 03 ログの開始シーケンス番号と終了シーケンス番号によってバインド・ログのシーケンス番号範囲が、ログ・レコードのスパンに対して十分な大きさではありません。
- 04 ログの開始シーケンス番号が、実際のログ・レコードの開始を表していません。
- 05 ログの開始シーケンス番号のロケーションが判別できません。
- 06 ログの終了シーケンス番号が、ログの開始シーケンス番号より小さいか、または同じです。
- 07 バッファーが、示されたサイズには無効です。
- 08 バッファーが、ログ・レコードを格納するのに十分なサイズではありません。
- 09 ポインターが無効です。
- 10 フィルター・オプションが無効です。
- 11 ログ・ファイル・パスが無効です。

12 オーバーフロー・ログ・ファイル・パスが無効です。

13 検索ログ・オプションが無効です。

14 指定されたメモリ割り振りのバイト数が小さすぎます。

ユーザーの処置: 理由コード 01 の場合は、アクションが DB2READLOG_QUERY、DB2READLOG_READ、DB2READLOG_READ_SINGLE のいずれかであることを確認してください。

理由コード 02 の場合は、ログの開始シーケンス番号の値を減らしてください。

理由コード 03 の場合は、ログの終了シーケンス番号が、ログの開始シーケンス番号より十分に大きいことを確認してください。

理由コード 04 の場合は、ログの開始シーケンス番号が、ログの初期シーケンス番号、または読み取りログ情報構造に戻される次のログの開始シーケンス番号であることを確認してください。

理由コード 05 の場合は、ログの開始シーケンス番号が、データベース・ログ・ファイル・パスのログ・エクステンツに存在することを確認してください。

理由コード 06 の場合は、ログの終了シーケンス番号が、ログの開始シーケンス番号より大きいことを確認してください。

理由コード 07 の場合は、バッファーが log buffer size パラメーターに指定されたサイズで割り振られていることを確認してください。

理由コード 08 の場合は、割り振られているバッファーのサイズを増やしてください。

理由コード 09 の場合は、メモリーが正しく割り振られており、ポインターが適切に初期化されていることを確認してください。

理由コード 10 の場合は、フィルター・オプションが DB2READLOG_FILTER_OFF または DB2READLOG_FILTER_ON のいずれかであることを確認してください。

理由コード 11 の場合は、ログ・ファイル・パス・フィールドが定義されていて、有効なディレクトリーを指していることを確認してください。

理由コード 12 の場合は、オーバーフロー・ログ・ファイル・パス・フィールドが定義されていて、有効なディレクトリーを指していることを確認してください。

理由コード 13 の場合は、検索オプションが DB2READLOGNOCONN_RETRIEVE_OFF、DB2READLOGNOCONN_RETRIEVE_LOGPATH、または DB2READLOGNOCONNRETRIEVE_OVERFLOW のいずれかであることを確認してください。

理由コード 14 の場合は、最初に割り振られるバイト数を増やしてください。

SQL2651N データベースに関連するログ・レコードは、非同期で読み取ることができません。

説明: asynchronous read log API が、LOG RETAIN または USER EXITS ON を持たない接続されたデータベースに対して使用されました。順方向リカバリーが可能なデータベースのみが、関連するログ読み取りを行うことができます。

ユーザーの処置: データベースのデータベース構成を更新して、LOG RETAIN と USER EXITS ON のいずれか、または両方を使用することを、asynchronous read log API に示してください。

SQL2652N 非同期ログ・リーダーを実行するメモリーが足りません。

説明: asynchronous read log API が使用する内部バッファの割り振りが失敗しました。

ユーザーの処置: 処理が使用可能なメモリーの容量を増やす(実メモリーまたは仮想メモリーを増やすか、あるいは不要なバックグラウンド処理を取り除く)か、または asynchronous read log API に指定したログ・シーケンス番号の範囲を小さくしてください。

SQL2653W リストア、順方向、またはクラッシュ・リカバリーが、ログのシーケンス番号の範囲を再利用している可能性があります。理由コード *reason-code*。

説明: リストア、順方向、またはクラッシュ・リカバリーが、ログのシーケンス番号の範囲を再利用している可能性があります。以下の理由コードが考えられます。

- 01 - リストアが行われました。
- 02 - 順方向リカバリー (ROLLFORWARD) が行われました。
- 03 - クラッシュ・リカバリーが行われました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL2654W 現行アクティブ・ログの終わりまで、データベース・ログが非同期で読み取られました。

説明: データベース・アクティブ・ログのすべてのログ・レコードが、非同期ログ・リーダーによって読み取られました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL2655N 非同期に読み取られているデータベースに関連しないログ・ファイル *name* を、非同期ログ・リーダーが見つめました。

説明: 非同期ログ・リーダーが、指定されたログ・ファイルからログ・レコードを読み取ろうとしました。指定されたログ・ファイルは、非同期に読み取られているデータベースに関連していません。

ユーザーの処置: このログ・ファイルを、データベース・ログ・ディレクトリーから取り除いてください。正しいログ・ファイルを、データベース・ログ・ディレクトリーに移動して、Asynchronous Read Log API の呼び出しを再実行してください。

SQL2656N 読み取れないログ・ファイル *name* を、非同期ログ・リーダーが見つめました。

説明: 非同期ログ・リーダーが、指定されたログ・ファイルからログ・レコードを読み取ろうとしました。指定されたログ・ファイルは壊れていて、読み取ることができません。

ユーザーの処置: ログの読み取り開始順序を大きくして、指定したログ・ファイルの後から読み取りが始まるように、Asynchronous Read Log API の呼び出しを再実行してください。

SQL2657N 非同期ログ・リーダーによって、データベース・ログ・ディレクトリーに現在存在しないログ・ファイル *name* が要求されています。

説明: 非同期ログ・リーダーが、指定されたログ・ファイルからログ・レコードを要求しました。指定されたログ・ファイルは、現在データベース・ログ・ディレクトリーに存在していません。

ユーザーの処置: 指定したログ・ファイルを、非同期に読み取られているデータベースのデータベース・ログ・ディレクトリーに移動してください。データベース・ログ・パスが変更された場合、古いログ・パスにログ・ファイルが見つかることがあります。Asynchronous Read Log API の呼び出しを再実行してください。

SQL2700 - SQL2799

SQL2701N *progname* のコマンド行オプションが無効です。理由コード: *reason-code*。

説明: データ分割ユーティリティのコマンド行オプションが無効です。次が有効なオプションです。

- -c "構成ファイル名"
- -d "分散ファイル名"
- -i "入力ファイル名"
- -o "出力ファイル接頭部"
- -h 使用法メッセージ

ユーザーの処置: 与えられる理由コードは、以下のとおりです。

- 1 ' ' で始まるオプションがありません。
- 2 'h' (または 'H') を除く各オプションの後には、引き数が必要です。
- 3 無効なオプションがありました。
- 4 オプションの引き数が長すぎます (最大 80 文字)。

SQL2702N 構成ファイル *config-file* のオープンに失敗しました。

説明: このユーティリティは構成ファイル *config-file* を読み取ることができません。

ユーザーの処置: 構成ファイルが存在し、読み取り可能であることを確認してください。

SQL2703N ログ・ファイル *log-file* のオープンに失敗しました。

説明: このユーティリティはログ・ファイル *log-file* を書き込みまたは追加するためにオープンできません。

ユーザーの処置: ログ・ファイルが存在し、読み取り可能であることを確認してください。

SQL2704N 入力ファイル *input-data-file* のオープンに失敗しました。

説明: このユーティリティは入力ファイル *input-data-file* を読み取れません。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルが存在し、読み取り可能であることを確認してください。

SQL2705N 入力パーティション・マップ・ファイル *in-map-file* のオープンに失敗しました。

説明: このユーティリティは入力パーティション・マップ・ファイル *in-map-file* を読み取れません。

ユーザーの処置: 入力パーティション・マップ・ファイルが存在し、読み取り可能であることを確認してください。

SQL2706N 出力パーティション・マップ・ファイル *out-map-file* のオープンに失敗しました。

説明: このユーティリティは出力パーティション・マップ・ファイル *out-map-file* を書き込みまたは追加するのにオープンできません。

ユーザーの処置: 出力パーティション・マップ・ファイルが存在し、読み取り可能であることを確認してください。

SQL2707N 分散ファイル *dist-file* のオープンに失敗しました。

説明: このユーティリティは分散ファイル *dist-file* を書き込みまたは追加するのにオープンできません。

ユーザーの処置: 分散ファイルが書き込み可能であることを確認してください。

SQL2708N 出力データ・ファイル *out-data-file* のオープンに失敗しました。

説明: このユーティリティは出力データ・ファイル *out-data-file* を書き込みまたは追加するのにオープンできません。

ユーザーの処置: 出力データ・ファイルが書き込み可能であることを確認してください。

SQL2709N 構成ファイルの行 *line* に構文エラーがあります。

説明: キーワードおよびその引き数の仕様で構文エラーがあります。

ユーザーの処置: キーワードおよびその引き数は、'=' サインで区切る必要があります。

SQL2710N 構成ファイルの行 *line* に無効なキーワードがあります。

説明: 構成ファイルに未定義のキーワードがあります。

ユーザーの処置: 有効なキーワード (大文字小文字を区

別しない) は次のとおりです。

- DESCRIPTION、CDELIMITER、SDELIMITER、NODES、TRACE、MSG_LEVEL、RUNTYPE、OUTPUTNODES、NODES、OUTPUTNODES、OUTPUTTYPE、PARTITION、MAPFILE、INFILE、MAPFILO、OUTFILE、DISTFILE、LOGFILE、NEWLINE、HEADER、FILETYPE

SQL2711N 構成ファイルの行 *line* の列区切り文字 (CDELIMITER) が無効です。

説明: 構成ファイルで指定された列区切り文字 (CDELIMITER) が無効です。

ユーザーの処置: 列区切り文字 (CDELIMITER) が単一バイト文字であるようにしてください。

SQL2712N 構成ファイルの行 *line* のストリング区切り文字 (SDELIMITER) が無効です。

説明: 構成ファイルで指定されたストリング区切り文字 (SDELIMITER) が無効です。

ユーザーの処置: ストリング区切り文字 (SDELIMITER) にピリオドがあってははいけません。

SQL2713N 構成ファイルの行 *line* の実行タイプが無効です。

説明: 構成ファイルで指定された実行タイプ (RUNTYPE) が無効です。

ユーザーの処置: 有効な実行タイプ (RUNTYPE) は PARTITION か ANALYZE (大文字小文字を区別) です。

SQL2714N 構成ファイルの行 *line* のメッセージ・レベル (MSG_LEVEL) が無効です。

説明: 構成ファイルで指定されたメッセージ・レベル (MSG_LEVEL) の値が無効です。

ユーザーの処置: 有効なメッセージ・レベル (MSG_LEVEL) は CHECK または NOCHECK (大文字小文字を区別) です。

SQL2715N 構成ファイルの行 *line* のチェック・レベル (CHECK_LEVEL) が無効です。

説明: 構成ファイルで指定されたチェック・レベル (CHECK_LEVEL) の値が無効です。

ユーザーの処置: 有効なチェック・レベル (CHECK_LEVEL) は CHECK または NOCHECK (大文字小文字を区別) です。

SQL2716N 構成ファイルの *line* 行目のレコード長 (RECLEN) *reclen* が無効です。

説明: 構成ファイルに指定されているレコード長 (RECLEN) *reclen* の値が無効です。

ユーザーの処置: レコード長 (RECLEN) は 1 から 32767 までの間でなくてはなりません。

SQL2717N 構成ファイルの *line* 行目のノード仕様 (NODES) が無効です。理由コード *reason-code*。

説明: 構成ファイルで指定されたノード仕様 (NODES) が無効です。

ユーザーの処置: 与えられる理由コードは、以下のとおりです。

- 1 NODES はすでに定義されています。
- 2 この形式は無効です。有効な例:
NODES=(0,30,2,3,10-15,57)
- 3 各項目は 0 と 999 の間の数値でなくてはなりません。
- 4 範囲仕様は低い数値から高い数値を指定しなくてはなりません。

SQL2718N 構成ファイルの行 *line* の出力ノード仕様 (OUTPUTNODES) が無効です。理由コード *reason-code*。

説明: 構成ファイルで指定された出力ノード仕様 (OUTPUTNODES) が無効です。

ユーザーの処置: 与えられる理由コードは、以下のとおりです。

- 1 OUTPUTNODES はすでに定義されています。
- 2 この形式は無効です。有効な例:
OUTPUTNODES=(0,30,2,3,10-15,57)
- 3 各項目は 0 と 999 の間の数値でなくてはなりません。
- 4 範囲仕様は低い数値から高い数値を指定しなくてはなりません。

SQL2719N 構成ファイルの行 *line* の出力タイプ (OUTPUTTYPE) が無効です。

説明: 構成ファイルで指定された出力タイプ (OUTPUTTYPE) が無効です。

ユーザーの処置: 有効な出力タイプ (OUTPUTTYPE) は W (write) または S (stdin) で、大文字小文字を区別しません。

SQL2720N パーティション・キーの数が最大 "256" を超えました。構成ファイルの行 *line* でエラーを検出しました。

説明: 定義されたパーティション・キー数は、最大制限 256 を超えることはできません。

ユーザーの処置: 構成ファイルで定義されたパーティション・キーを 1 つまたは複数除去してください。

SQL2721N 構成ファイルの行 *line* のパーティション・キー仕様 (PARTITION) が無効です。理由コード *reason-code*。

説明: 構成ファイルで指定されたパーティション・キー仕様 (PARTITION) が無効です。有効な形式は以下のとおりです。

```
PARTITION=<key name>,  
           <position>,  
           <offset>,  
           <len>,  
           <nullable>,  
           <datatype>
```

区切られたデータ・ファイルの場合は <position> を定義し、そうでない場合は <offset> および <len> を定義しなくてはなりません。

ユーザーの処置: 与えられる理由コードは、以下のとおりです。

- 1 フィールドは ' ; ' 文字で区切られなくてはなりません。
- 2 <position>、<offset>、および <len> は正の整数でなくてはなりません。
- 3 <nullable> は {N,NN,NNWD} から値を使用しなくてはなりません。
- 4 有効 <data type> には以下のものがあります。SMALLINT、INTEGER、CHARACTER、VARCHAR、FOR_BIT_CHAR、FOR_BIT_VARCHAR、FLOAT (バイナリー数値のみ)、DOUBLE (バイナリー数値のみ)、DATE、TIME、TIMESTAMP、DECIMAL(x, y)。
- 5 DECIMAL データ・タイプの場合、精度 (x) および位取り (y) を必ず指定し、正の整数でなくてはなりません。
- 6 CHARACTER または VARCHAR データ・タイプの場合、<len> を指定する必要があります。

SQL2722N 構成ファイルの行 *line* のログ・ファイル仕様 (LOGFILE) が無効です。

説明: 構成ファイルで指定されたログ・ファイル仕様 (LOGFILE) が無効です。

ユーザーの処置: このログ・ファイル仕様 (LOGFILE) は次の形式のいずれかでなくてはなりません。

- LOGFILE=<log file name>,<log type>
- LOGFILE=<log file name>

<log type> には W (書き込み) または A (付加) のみが使用でき、大文字小文字は区別されません。

SQL2723N 構成ファイルの行 *line* のトレース仕様 (TRACE) が無効です。

説明: 構成ファイルで指定されたトレース仕様 (TRACE) が無効です。

ユーザーの処置: トレース仕様 (TRACE) は必ず 0 から 65536 (含まない) までの正の整数でなくてはなりません。

SQL2724N ノード・リスト仕様が無効です。

説明: このノード・リスト仕様が無効です。

ユーザーの処置: 1 つまたは 2 つのパラメーターのうちの 1 つ: NODES および MAPFILI (入力パーティション・マップ) は構成ファイル内で指定されなくてはなりません。

SQL2725N 出力パーティション・マップのファイル名が指定されていませんでした。

説明: 実行タイプが ANALYZE の場合、出力パーティション・マップのファイル名を定義しなくてはなりません。

ユーザーの処置: 出力パーティション・マップのファイル名を指定してください。

SQL2726N 定義されたパーティション・キーがありません。

説明: 少なくとも 1 つのパーティション・キーを定義しなくてはなりません。

ユーザーの処置: パーティション・キーを 1 つまたは複数指定してください。

SQL2727N パーティション・キー *key-name* がレコード長 *reclen* を超えています。

説明: 非区切りデータの場合、キーの開始位置はレコード長以下でなくてはなりません。

ユーザーの処置: キーの開始位置をレコード長以下にしてください。

SQL2728N 出力ノード *out-node* がノード・リストに定義されていません。

説明: 出力ノード・リストは NODES または入力パーティション・マップ・ファイルから派生した、ノード・リストのサブセットでなければなりません。

ユーザーの処置: すべての出力ノード・リストがノード・リストに定義されていることを確認してください。

SQL2729N 入力パーティション・マップが無効です。

説明: 入力パーティション・マップ・ファイルに少なくとも 1 つのエラーがあります。

ユーザーの処置: この入力パーティション・マップは、4096 ほどのデータ項目を含み、各データ項目は 0 から 999 までの間でなくてはなりません。

SQL2730N 出力データ・ファイル *out-data-file* ヘッダーを書き込み中のエラーです。

説明: 出力データ・ファイルヘッダーを書き込み中に入出力エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイルの入出力エラーに関するオペレーティング・システム (OS) の資料をチェックし、出力装置に十分なスペースがあることを確認してください。

SQL2731N 入力データ・ファイル *filename* からの読み取り中に入出力エラーが発生しました。

説明: 入力データ・ファイルから読み取り中に入出力エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイルの入出力エラーに関するオペレーティング・システム (OS) の資料をチェックしてください。

SQL2732N 入力データ・ファイルの行 *line* はバイナリー・データが入っています。

説明: バイナリー・データはこのユーティリティー・プログラムのホスト・バージョンで許可されていません。

ユーザーの処置: ご使用の入力ファイル・データをチェックしてください。

SQL2733N 実行タイプ (RUNTYPE) は構成ファイル内で定義されていません。

説明: 実行タイプ (RUNTYPE) は PARTITION または ANALYZE として定義されなくてはなりません。

ユーザーの処置: 構成ファイル内で実行タイプ (RUNTYPE) を指定してください。

SQL2734N 構成ファイルの行 *line* のパラメーター 32KLIMIT の仕様が無効です。

説明: 構成ファイルのパラメーター 32KLIMIT の仕様が無効です。

ユーザーの処置: パラメーター 32KLIMIT は YES または NO であり、大文字小文字を区別しません。

SQL2735W 入力データ・ファイルのレコード *rec-no* が空だったので廃棄されました。

説明: 入力データのレコード *rec-no* がスペースしか内容がなかったため廃棄されました。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルのレコード *rec-no* をチェックしてください。

SQL2736N *sqlugrpi_api* が入力データ・ファイルの行 *line* のレコードを処理中にエラーを戻しました。

説明: パーティション・キー・フィールドに無効なデータが入っています。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルの行 *line* をチェックしてください。

SQL2737N 入力データ・ファイルの行 *line* のレコードを処理中に、出力ノード *out-node* の出力データ・ファイルの書き込みに失敗しました。

説明: ノード *out-node* の出力データ・ファイルにレコードを書き込み中に入出力エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイルの入出力エラーに関するオペレーティング・システム (OS) の資料をチェックし、出力装置に十分なスペースがあることを確認してください。

SQL2738W 入力データ・ファイルの *line* 行目のレコードは、ノード *out-node* の出力ファイルへの書き込み中に切り捨てられました。
予期された書き込み長さは *reclen* で、実際の書き込み長は *real-len* です。

説明: 予期される書き込み長 (RECLEN) が実際の書き込み長と一致しません。

ユーザーの処置: 構成ファイルで定義されたレコード長の値を調整してください。

SQL2739N このレコード長はバイナリー数値データ・ファイルで指定されていません。

説明: バイナリー数値入力データ・ファイルの場合、レコード長を定義する必要があります。

ユーザーの処置: ご使用の構成ファイルでレコード長を指定してください。

SQL2740N 浮動データ・タイプは非バイナリー入力データ・ファイルでは許可されていません。

説明: 浮動データ・タイプは、ファイル・タイプが BIN (バイナリー) のときのみ、サポートされます。

ユーザーの処置: データ・タイプおよび入力データ・ファイルが一致していることを確認してください。

SQL2741N 構成ファイルの行 *line* に無効なファイル・タイプ仕様があります。

説明: 構成ファイル内のファイル・タイプ仕様 (FILETYPE) が無効です。

ユーザーの処置: ファイル・タイプ・パラメーターの有効な値は、以下のとおりです。

- ASC (定位置 ASCII データ・ファイル)
- DEL (区切り ASCII データ・ファイル)
- BIN (すべての数値データをバイナリー形式にする ASC ファイル)
- PACK (すべての 10 進データをパック 10 進数形式にする ASC ファイル)
- IMPLIEDDECIMAL (10 進データを暗黙の 10 進形式にする DEL ファイル)

すべての値は大文字小文字を区別しません。

SQL2742N パーティション・キー *partition-key* の長さが、その精度と一致しません。

説明: バイナリー入力データ・ファイル内で、10 進データ・タイプの使用するパーティション・キーの長さは式に従わなければなりません。

$LENGTH=(PRECISION+2)/2$ (整数除法)、これはパック 10 進によるためです。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルがバイナリー・データ・ファイルの場合、10 進タイプ・パーティション・キーの長さをその精度と一致させてください。

SQL2743N パーティション・キー *partition-key* の長さが、そのデータ・タイプと一致しません。

説明: バイナリー入力データ・ファイルでは、整数、短整数、浮動およびダブル・データ・タイプを使用するパーティション・キーの長さは、事前定義された定数でなくてはなりません。たとえば整数の 4、短整数の 2、浮動の 4、およびダブルの 8 です。

ユーザーの処置: 構成ファイルのパーティション・キーの定義をチェックしてください。

SQL2744N 構成ファイルの *line* 行目に、*file* に対して不正なファイル名の指定があります。

説明: ファイル名の最大長は 80 バイトです。

ユーザーの処置: 構成ファイルをチェックしてください。

SQL2745N 構成ファイルの行 *line* に無効な NEWLINE フラグがあります。

説明: NEWLINE フラグは YES または NO のいずれかでなくてはならず、ない場合は NO になります。

ユーザーの処置: 構成ファイルの NEWLINE フラグの仕様をチェックしてください。

SQL2746N 不完全なレコードが、入力ファイルからレコード *record-number* を読み取り中に見つかりました。

説明: 固定長定位置 ASC ファイルまたはバイナリー数値データ・ファイルの場合、各レコードは、構成ファイルの RECLEN パラメーターの値と同じ長さを持っている必要があります。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルを完了してください。

SQL2747N 入力データ・ファイルからレコード *rec-no* を読み取り中に、長すぎるレコードがありました。

説明: 定位置 ASC 入力データ・ファイルまたはパラメーター 32KLIMIT で区切られているデータ・ファイル

の場合、最大レコード長は 32 キロバイトの制限を超えることはできません。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルをチェックし、レコード長が 32 キロバイトを超えないようにしてください。

SQL2748N レコード *record-number* の長さは、*length* バイトです。これは短過ぎてパーティション・キー *key* を保留できません。

説明: 固定長定位置 ASC ファイルまたはバイナリー数値データ・ファイルの場合、各レコードは、すべてのパーティション・キーを保留するのに十分な長さがある必要があります。

ユーザーの処置: ご使用の入力データ・ファイルのレコード長をチェックしてください。

SQL2749N レコード *rec-no* のパーティション・キー *key-no* は、レコードの最初の 32 キロバイトにありませんでした。

説明: 区切られているデータ・ファイルのレコードが 32k バイトより大きい場合、それぞれのレコードのすべてのパーティション・キーがレコードの最初の 32k バイト内になければなりません。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルのレコード *rec-no* をチェックしてください。

SQL2750N 構成ファイル内の行 *line-number* の長さが 255 バイトを超えました。

説明: 構成ファイル内の行の最大長は 255 バイト以下でなくてはなりません。

ユーザーの処置: 構成ファイルファイルをチェックし、すべての行が 255 バイト以下であるようにしてください。

SQL2751N レコード *rec-no* の実際の長さ *actual-reclen* が、予期された長さ *exp-reclen* と一致しませんでした。

説明: 固定長 ASC データ・ファイル (NEWLINE パラメーターが YES で、RECLEN パラメーターがゼロではない) に対して新規行チェックが必要で、それぞれのレコードの実際の長さが予期されたレコードと一致しなければなりません。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルのレコード *rec-no* をチェックしてください。

SQL2752N 構成ファイルの *line* 行目に、無効なコード・ページ指定 *codepage* があります。

説明: コード・ページの指定が無効です。正の整数を指定してください。

ユーザーの処置: 構成ファイルのコード・ページの指定をチェックしてください。

SQL2753N アプリケーションのテリトリー・コードとコード・ページの取得に失敗しました。関数 *function-name* からの戻りコードは *rc* です。

説明: プログラムは、その環境のテリトリー・コードとコード・ページを取得できませんでした。

ユーザーの処置: データベース・システム管理者に確認してください。

SQL2754N コード・ページ *source-cp* をコード・ページ *target-cp* に変更することはできません。

説明: データベースはこの 2 つのコード・ページ間のコード・ページ変換をサポートしません。

ユーザーの処置: データが変換可能なコード・ページになっているか確認してください。

SQL2755N IMPLIEDDECIMAL および PACKEDDECIMAL 形式には、10 進データがありません。

説明: 有効な 10 進データの形式は、相互排他である SQL_PACKEDDECIMAL_FORMAT、SQL_CHARSTRING_FORMAT、または SQL_IMPLIEDDECIMAL_FORMAT のいずれかです。

ユーザーの処置: 10 進データの形式を確認し、値を訂正して、コマンドを再実行してください。

SQL2761N 表名またはノード・グループの 1 つのみを指定できます。

説明: 表名またはノード・グループのいずれかを指定してください。両方を指定してはいけません。

ユーザーの処置: コマンド行オプションをチェックしてください。

SQL2762N このユーティリティはデータベース・インストール・パスの検索に失敗しました。

説明: このユーティリティはデータベース・マネージャーがインストールされている場所を知っている必要が

あり、そのバインド・ファイルを検索できます。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーが正しくインストールされていることを確認してください。

SQL2763N 表 *tbl-name* が見つかりませんでした。

説明: 表 *tbl-name* を *sysibm.systables* に置くことができません。

ユーザーの処置: 表がこのデータベースに存在することを確認してください。

SQL2764N ノード・グループ *nodegroup* が見つかりませんでした。

説明: ノード・グループ *nodegroup* を *sysibm.sysnodegroupdef* に置くことができません。

ユーザーの処置: ノード・グループがこのデータベースに存在することを確認してください。

SQL2765W このユーティリティは出力パーティション・マップ・ファイル *out-map-file* のオープンに失敗しました。

説明: このユーティリティは出力パーティション・マップ・ファイルを書き込みまたは追加するのにオープン

SQL2800 - SQL2899

SQL2800N CREATE、DROP、あるいは CHANGE NODE が失敗しました。理由コード *reason-code*。

説明: 指定された入力パラメーターが次の理由コードで示されるように無効であるため、ユーティリティは、ノードの追加、ドロップ、あるいは変更ができませんでした。

- (1) ノード番号が指定されていません。
- (2) TCP/IP ホスト名が指定されていません。
- (3) コンピューター名が指定されていません。
- (4) ノード番号が無効です。
- (5) ポート番号が無効です。
- (6) TCP/IP ホスト名が無効です。
- (7) サービス・ファイル内のインスタンスのポート値が定義されていません。
- (8) ポート値が、サービス・ファイル内のインスタンスに定義されている有効範囲内にありません。
- (9) ノード番号がユニーク番号ではありません。
- (10) ホストの名前とポートの対がユニークのものではありません。

できません。 *stdout* への出力に書き込みます。

ユーザーの処置: ファイル・アクセス許可をチェックしてください。

SQL2766N このパーティション・マップは正しいサイズ *map-size* ではありません。

説明: パーティション・マップのサイズが誤っています。このデータベースのデータは破壊されます。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡し、この問題を解決してください。

SQL2767N コマンド行オプションが有効ではありません。

説明: 無効なコマンド行オプションがあります。

ユーザーの処置: 正しいコマンド行オプションを指定してください。

- (11) ホスト名の値に、対応するポート 0 がありません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、次のとおりです。

- (1) ノード番号を指定したことを確認してください。
- (2) TCP/IP ホスト名を指定したことを確認してください。
- (3) コンピューター名を指定したことを確認してください。
- (4) ノード番号が 0~999 であることを確認してください。
- (5) ポート番号が 0~999 であることを確認してください。
- (6) 指定したホスト名は、システムで定義済みであり、操作可能であることを確認してください。
- (7) システムの TCP/IP サービスには、インスタンス用の項目が入っていることを確認してください。
- (8) システムのサービス・ファイルに指定されているポート値のみを使用していることを確認してください。
- (9) 指定したノード番号はユニーク番号であることを確認してください。

- (10) db2nodes.cfg ファイルで、新規のホスト名とポートの対がまだ定義されていないことを確認してください。
- (11) 指定したホスト名用に、ポート値 0 が定義されていることを確認してください。

SQL2801N DB2NCRT コマンドの構文に誤りがあります。

説明: DB2NCRT ユーティリティはパーティション・データベース・システムに新規のノードを作成します。

```
DB2NCRT /n:node
         /u:username,password
         [/i:instance]
         [/h:host]
         [/m:machine]
         [/p:port]
         [/o:instance owning
         machine]
         [/g:netname]
```

コマンド引き数の意味は、次のようになっています。

- /n ノード番号を指定してください。
- /u DB2 サービスに対してアカウント名およびパスワードを指定します。

コマンド・オプションは以下のとおりです。

- /i デフォルト/現行インスタンス名と異なる場合、インスタンス名を指定してください。
- /h ホスト名がマシンのデフォルト TCP/IP でない場合は、TCP/IP のホスト名を指定してください。
- /m ノードがリモート・マシンで作成された場合は、ワークステーション名を指定してください。
- /p これがマシンの最初のノードでない場合は、論理ポート番号を指定してください。
- /o マシンの最初のノードを作成する時に、インスタンス所有マシンのコンピューター名を指定してください。
- /g ネットワーク名あるいは IP アドレスを指定します。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

SQL2802N DB2NCHG コマンドの構文に誤りがあります。

説明: DB2NCHG ユーティリティはパーティション・データベース・システムで与えられたノードに対するノード構成を変更あるいは更新します。

```
DB2NCHG /n:node
         [/h:host]
         [/m:machine]
         [/p:port]
         [/i:instance]
         [/u:username,
         password]
         [/g:netname]
```

コマンド・オプションは以下のとおりです。

- /h TCP/IP ホスト名を変更します。
- /m ワークステーション名を変更します。
- /p 論理ポート番号を変更します。
- /i デフォルト/現行インスタンス名と異なる場合、インスタンス名を指定してください。
- /u ログオン・アカウント名とパスワードを変更します。
- /g ネットワーク名あるいは IP アドレスを指定します。

ユーザーの処置: 上記の有効なコマンド・オプションのいずれかを指定して DB2NCHG コマンドを発行してください。

SQL2803N DB2NDROP コマンドの構文に誤りがあります。

説明: DB2NDROP ユーティリティはパーティション・システムからノードをドロップします。

```
DB2NDROP /n:node
          [/i:instance]
```

コマンド・オプションは以下のとおりです。

- /i デフォルト/現行インスタンス名と異なる場合、インスタンス名を指定してください。

ユーザーの処置: 上記の有効なコマンド・オプションのいずれかを指定して DB2NDROP コマンドを発行してください。

SQL2804N DB2NLIST コマンドの構文に誤りがあります。

説明: DB2NLIST ユーティリティはパーティション・システムのすべてのノードをリストします。

```
DB2NLIST [/i:instance]
          [/s]
```

コマンド・オプションは以下のとおりです。

- /i デフォルト/現行インスタンス名と異なる場合、インスタンス名を指定してください。
- /s ノードの状況を表示します。

ユーザーの処置: 上記の有効なコマンド・オプションの

いずれかを指定して DB2NLIST コマンドを発行してください。

SQL2805N サービス・エラーが起きました。理由コード *reason-code*。

説明: CREATE、DROP あるいは ADD NODE 処理中に、以下の理由コードで示すサービス・エラーが起きました。

- (1) サービスを登録できません。
- (2) 要求されたユーザー権ポリシーを設定できません。
- (3) サービスのログオン・アカウントを設定できません。
- (4) サービスを削除できません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、次のとおりです。

- (1) ワークステーション名が DB2NCRT 中に指定されている場合、ワークステーション名が正しいか確認する。
- (2) 指定ユーザー名が正しいか確認する。
- (3) 指定ユーザー名およびパスワードが有効か確認する。
- (4) ノードが別のマシンにある場合、そのマシンが作動中であるか確認する。

問題が続く場合、IBM サービス担当者に連絡してください。

SQL2806N インスタンス *instance* に対するノード *node* が見つかりません。

説明: ノードがないため、DB2NDRP が失敗しました。

ユーザーの処置: ノード番号が正しいか確認してコマンドを再発行してください。

SQL2807N インスタンス *instance* に対するノード *node* はすでに存在します。

説明: ノードがすでにあるため、DB2NCRT は失敗しました。

ユーザーの処置: ノード番号が正しいか確認してコマンドを再発行してください。

SQL2808W インスタンス *instance* に対するノード *node* はすでに削除されました。

説明: DB2NDRP 処理は正常に完了しました。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

SQL2809W ノード: *node* がインスタンス: *instance* {
ホスト: *host-name* マシン: *machine-name*
ポート: *port-num*} に追加されました。

説明: DB2NCRT 処理は正常に完了しました。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

SQL2810W ノード: *node* がインスタンス: *instance* {
ホスト: *host-name* マシン: *machine-name*
ポート: *port-num*} で変更されました。

説明: DB2NCHG 処理は正常に完了しました。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

SQL2811N インスタンスがパーティション・データベース・インスタンスでないためコマンドは無効です。

説明: インスタンスがパーティション・データベース・インスタンスの場合にのみコマンドが有効です。

ユーザーの処置: 指定されたインスタンス名が有効であることを確認してください。インスタンス名がコマンド行で指定されていない場合、DB2INSTANCE 環境が有効なパーティション・データベース・インスタンスに設定されているか確認してください。

SQL2812N *db2drvmp* コマンドに対して無効な引き数が入力されました。

説明: 使用法 :

```
db2drvmp add      node_number  
                  from_drive to_drive  
                drop      node_number  
                  from_drive  
                query     [node_number]  
                  [from_drive]  
                reconcile [node_number]  
                  [from_drive]
```

このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

add 新規データベース・ドライブ・マップを発行します。

drop 既存のデータベース・ドライブ・マップを除去します。

query データベース・マップを照会します。

reconcile

レジストリーの内容が破壊されたときに、データベース・マップ・ドライブを修理します。

node_number

ノード番号。追加およびドロップの操作にはパラメーターが必要です。

from_drive

マップされるためのドライブ文字。追加およびドロップの操作には、このパラメーターが必要です。

to_drive

マップ先のドライブ名。このパラメーターは、加算操作のみに必要です。これは、他の操作には適用できません。

ユーザーの処置: 有効な引き数を使用してコマンドを再入力してください。

SQL2813I ドライブ *drive-1* からドライブ *drive-2* へのドライブ・マッピングが、ノード *node* に対して追加されました。

説明: ドライブ・マッピングが正常に追加されました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3000 - SQL3099

SQL3001C 出力ファイルのオープン中に、入出力エラー (理由 = *reason*) が起きました。

説明: 出力ファイルをオープンしているときに、システム入出力エラーが起きました。

コマンドは処理されません。データは処理されません。

ユーザーの処置: IMPORT/LOAD の場合は、出力ファイルが存在することを確認してください。EXPORT の場合は、出力メディアに、十分なフリー・スペースがあることを確認してください。正しいパスの入った、有効な出力ファイル名を使用して、コマンドの再サブミットをしてください。追加情報については、メッセージ・ファイルを調べてください。

SQL3002C 出力データ・ファイルへの書き込み中に、入出力エラーが起きました。

説明: 出力データ・ファイルへ書き出しているときに、システム入出力エラーが起きました。出力が完了していないか、またはディスクがいっぱいの可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 出力データ・ファイルが完全でない場合には、それを消去して、コマンドの再サブミットをしてください。

SQL3003C 出力データ・ファイルのクローズ中に、入出力エラーが起きました。

説明: 出力データ・ファイルをクローズしているときに、システム入出力エラーが起きました。

SQL2814I ノード *node* について、ドライブ *drive* からのドライブ・マッピングが削除されました。

説明: ドライブ・マッピングは正常に削除されました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL2815I ノード *node* のドライブ・マッピングは、*drive-1* - *drive-2* です。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

ファイルはクローズされません。

ユーザーの処置: 出力データ・ファイルが完全でない場合には、それを消去して、コマンドの再サブミットをしてください。

SQL3004N *filetype* パラメーターが無効です。

説明: *filetype* パラメーターは、コマンドについては、DEL、ASC、IXF、WSF、または DB2CS でなければなりません。

EXPORT コマンドの *filetype* パラメーターは、DEL、IXF、または WSF でなければなりません。

filetype パラメーターは、LOAD コマンドでは ASC、DEL、IXF、あるいは DB2CS である必要があります。

IXF ファイルを使って、ハッシュ・パーティション化されたデータベースで定義されている表にロードすることはできません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な *filetype* パラメーターを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3005N 処理は中断されました。

説明: 処理中に割り込みがありました。ユーザーが割り込みキー・シーケンスを押した可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。コミットされていないデータベースの更新は、ロールバックされます。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。

い。インポートを行っている場合は、`commitcount` および `restartcount` パラメーターの使用法について、「コマンド・リファレンス」を参照してください。ロードを行っている場合は、ロードの再始動方法について、「コマンド・リファレンス」を参照してください。

SQL3006C メッセージ・ファイルのオープン中に、入出力エラーが起きました。

説明: メッセージ・ファイルをオープンしているときに、システム入出力エラーが起きました。このエラーは、クライアントまたはサーバーに関する問題を示している可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいパスの入った、有効なメッセージ・ファイル名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3007C メッセージ・ファイルへの書き込み中に、入出力エラーが起きました。

説明: メッセージ・ファイルへ書き出しているときに、システム入出力エラーが起きました。

処理は完了しない可能性があります。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイルが不完全な場合には、それを消去して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3008N ユーティリティが、データベースへの接続中にエラー *error* を見つけました。

説明: `IMPORT` または `EXPORT` ユーティリティが、データベースに接続できませんでした。

データはインポートまたはエクスポートされません。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3009N *Action String* パラメーターが無効です。

説明: コマンドの *Action String* (たとえば `"REPLACE into ..."`) パラメーターが無効です。*Action String* ポインターが誤っている可能性があります。*Action String* が示している構造が誤っている可能性があります。

Action String 構造に、無効な文字が入っている可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: *Action String* ポインターと、これが示す構造を調べてください。有効な *Action String* を指定して、コマンドを再実行してください。

SQL3010N *METHOD* パラメーターが無効です。

説明: コマンドの *METHOD* パラメーターが無効です。*METHOD* ポインターが誤っている可能性があります。*METHOD* が示している構造が誤っている可能性があります。*METHOD* 構造に、無効な文字が入っている可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: *METHOD* ポインターとそれが指す構造を調べてください。有効な *METHOD* を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3011C コマンドの処理に十分な大きさのストレージがありません。

説明: メモリーの割り振りエラーが起きました。コマンドの処理に十分なメモリーが使用できないか、またはストレージの解放エラーが起きました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーションを停止してください。解決策は以下のとおりです。

- システムに十分な実メモリーおよび仮想メモリーがあることを確認してください。
- バックグラウンド処理を終了してください。
- データベースの *util_heap_sz* を増やしてください。
- `LOAD` で使用するバッファのサイズを減らしてください。
- *util_heap_sz* が `LOAD`、`BACKUP`、および `RESTORE` ユーティリティによって共有されている場合は、実行中のこれらのユーティリティの並行インスタンスを少なくしてください。

SQL3012C システム・エラーが発生しました。

説明: オペレーティング・システム・エラーが起きました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイルを調べて問題を訂正し、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3013N *filetmod* の長さが許容範囲を超えています。0 以上 8000 以下にしてください。

説明: 指定された *filetmod* が、許容範囲 (ゼロ以上 8000 以下) を超えています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: *filetmod* ポインターとそれが指す構造を調べてください。有効な *filetmod* を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3014C メッセージ・ファイルのクローズ中に、入出力エラーが起きました。

説明: メッセージ・ファイルをクローズしているときに、システム入出力エラーが起きました。

メッセージ・ファイルはクローズされません。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイルが不完全な場合は、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3015N 処理中に、SQL エラー *sqlcode* が起きました。

説明: ユーティリティの呼び出し中に、SQL エラーが起きました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージの SQLCODE (メッセージ番号) を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3016N ファイル・タイプの *filetmod* パラメーターで、予期しないキーワード *keyword* が検出されました。

説明: ユーティリティのファイル・タイプに適用されないキーワードがファイル・タイプ修飾子で検出されました (*filetmod* パラメーターまたは CLP コマンドの *MODIFIED BY* の後の句)。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: ファイル・タイプ修飾子を除去するか、あるいはファイル・タイプ修飾子に少なくとも 1 つの有効なキーワードを指定してください。ファイル・タイプ修飾子の詳細については、「コマンド・リファレンス」を参照してください。

SQL3017N 区切り文字が無効であるか、または 2 回以上使用されています。

説明: 区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合は、次の 2 つのエラーのいずれかが発生しました。

- 列区切り文字、文字ストリング区切り文字、または小数点に指定された文字が無効です。
 - SBCS または UTF-8 データの場合、区切り文字の有効範囲は 0x00 - 0x7F です。
 - MBCS データの場合、区切り文字の有効範囲は 0x00 - 0x3F です。
 - EBCDIC MBCS データの場合も、区切り文字の有効範囲は 0x00 - 0x3F ですが、SHIFT-OUT (0x0E) または SHIFT-IN (0x0F) 文字であってはならないことを除きます。
-

- 上記の複数の項目に、同一の文字が指定されています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 指定した区切り文字を調べて、その妥当性とユニークな使用を確認してください。有効な区切り文字オーバーライドを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3018N ピリオドが、文字ストリング区切り文字として指定されました。

説明: 区切り文字付き ASCII (DEL) の場合、ピリオドは文字ストリング区切り文字として指定できません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な区切り文字オーバーライドを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3019N コマンドに *Action String* パラメーターが指定されていません。

説明: このユーティリティ呼び出しには *Action String* (たとえば "REPLACE into ...") パラメーターが指定されていません。このパラメーターは必須です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: *Action String* パラメーターを指定してコマンドを再実行してください。

SQL3020N 指定された *Export* コマンドを実行する権限がありません。

説明: 適切な許可 (SYSADM または DBADM 権限)、またはエクスポートに関連する各表に対する CONTROL または SELECT 特権を取得せずに、データをエクスポートしようとしてしました。

エクスポート処理は実行されません。

ユーザーの処置: 表からデータをエクスポートする前に、適切な許可を取得してください。

SQL3021N 指定された *import* コマンドを、表 *name* に対して実行する権限がありません。

説明: 指定されたオプションと表に対する適切な許可を取得せずに、データをインポートしようとしてしました。

INSERT オプションを使用するインポートには次のいずれかが必要です。

- SYSADM または DBADM 権限
- 表、ビュー、または階層全体に対する CONTROL 特権

- 表、ビュー、または階層全体に対する INSERT および SELECT 特権

注: 階層全体とは、階層にある副表あるいはオブジェクト・ビューを示します。

INSERT_UPDATE、REPLACE、または REPLACE_CREATE オプションを使用して既存の表またはビューにインポートを行うには、次のいずれかが必要です。

- SYSADM または DBADM 権限
- 表、ビュー、または階層全体に対する CONTROL 特権

注: 階層全体とは、階層にある副表あるいはオブジェクト・ビューを示します。

CREATE または REPLACE_CREATE オプションを使用して存在しない表にインポートを行うには、次のいずれかが必要です。

- SYSADM または DBADM 権限
- データベースに対する CREATETAB 権限 および次のいずれか
 - 表のスキーマ名が存在しない場合、データベースでの IMPLICIT_SCHEMA 権限
 - 表のスキーマ名が存在する場合、スキーマでの CREATEIN 特権

インポート処理は実行されません。

ユーザーの処置: インポート処理を実行する許可がユーザーにあるか確認してください。

SQL3022N Action String パラメーターの SELECT 処理中に、SQL エラー *sqlcode* が起きました。

説明: IMPORT または EXPORT で、*Action String* (たとえば "REPLACE into ...") 構造の SELECT ストリングを処理しているときに、SQL エラーが起きました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージの SQLCODE (メッセージ番号) を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3023N database name パラメーターが無効です。

説明: database name パラメーターが無効です。詳細については、SQLCA の「SQLERRD[0]」フィールドを参照してください。

データベース名は、1 から 8 文字でなければならず、文字はデータベース・マネージャー基本文字セットから使用する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な database name パラメーターを使用して、ステートメントの再サブミットを行ってください。

SQL3024N フォーマット・ファイルのオープン中に、入出力エラーが発生しました。

説明: フォーマット・ファイルのオープン中に、システム入出力エラーが発生しました。このエラーは、クライアントまたはサーバーに関する問題を示している可能性があります。

原因として、このフォーマット・ファイルが別のアプリケーションにより使用中であることが考えられます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: パスを含め、フォーマット・ファイルが有効であることと、現在別のアプリケーションによって使用されていないことを確認してください。

コマンドを再サブミットしてください。追加情報については、診断ログ・ファイルを調べてください。

SQL3025N ファイル名またはパスを指定するパラメーターが無効です。

説明: パラメーターに、無効なパス、ディレクトリー、またはファイル名が入っています。

IMPORT および EXPORT の場合は、*datafile* パラメーターを確認してください。

LOAD の場合は、タイプ *sql_media_list* の以下のパラメーターの各項目を確認してください。*datafile* が有効なファイル名を持ち、*lobpaths*、*copytarget* および *workdirectory* が、最終区切り文字と NULL 終止符を含む、サーバー上の有効なパスを持つ必要があります。

lobpaths、*copytarget*、および *workdirectory* へのポインターは、有効なポインターまたは NULL でなければなりません。

これらの構造のターゲットへのポインターは、有効なポインターでなければなりません。

sessions および *media_type* が正しく指定されていることをチェックしてください。

また、*lobpaths* パラメーターを指定する場合は、*media_type* がデータ・ファイル構造に指定されているものと同じであることをチェックしてください。

filetype が IXF の場合は、ファイル名の長さが長すぎる可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用して、ステートメントの再サブミットを行ってください。

SQL3026N msgfile または tempfiles path パラメーターが無効です。

説明: IMPORT または EXPORT の場合は、*msgfile* パラメーターに、無効なパス、ディレクトリー、またはファイル名が入っています。

LOAD の場合は、*msgfile* パラメーターに、クライアントで無効なパス、ディレクトリー、ファイル名が入っているか、*tempfiles path* がサーバーで無効です。

アプリケーションが接続されているデータベースがリモート・データベースの場合は、*msgfile* は完全修飾されている必要があります。ローカル・データベースの場合、まだ完全修飾されていない場合は、ユーティリティーが *msgfile* の完全修飾を行います。*msgfile* へのポインターが有効なことも確認してください。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な *msgfile* または *tempfiles path* パラメーター、あるいはその両方を指定して、ステートメントの再サブミットを行ってください。

SQL3027N フォーマット・ファイルの読み取り中に、入出力エラーが発生しました。

説明: フォーマット・ファイルからの読み取り中に、システム入出力エラーが発生しました。このエラーは、クライアントまたはサーバーに関する問題を示している可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: フォーマット・ファイルが読み取り可能であることを確認してください。

SQL3028N export 方法標識が無効です。'N' または 'D' でなければなりません。

説明: export 方法標識は、名前の場合は 'N'、デフォルトの場合は 'D' でなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な方法標識を使用して、ステートメントの再サブミットを行ってください。

SQL3029N filetype パラメーターが指定されていません。

説明: *filetype* パラメーターが指定されなかったか、または NULL です。システムが、データ・ファイルに使用する形式を判別できません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な *filetype* を使用して、ステートメントの再サブミットを行ってください。

SQL3030C 入力ファイルのオープン中に、入出力エラー (理由 = reason) が起きました。

説明: 入力ファイルをオープンしているときに、システム入出力エラーが起きました。このエラーは、クライアントまたはサーバーに関する問題を示している可能性があります。

エラーの原因として考えられるものは、入力ファイルが別のアプリケーションで使用されているということです。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: パスの入った入力ファイルが有効で、このファイルが別のアプリケーションで使用されていないか、確認してください。追加情報については、メッセージ・ファイルを調べてください。

コマンドを再サブミットしてください。

SQL3031C 入力ファイルの読み取り中に、入出力エラーが起きました。

説明: 入力ファイルを読み取っているときに、システム入出力エラーが起きました。このエラーは、クライアントまたはサーバーに関する問題を示している可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 入力ファイルが読み取り可能であることを確認してください。

SQL3032N 指定された filetype では、LOAD/IMPORT 方法の標識が無効です。これは 'N'、'P'、あるいは 'default' である必要があります。

説明: IXF および WSF filetype を使用する場合、LOAD/IMPORT 方法の標識は、名前の場合は N、位置の場合は P、あるいはデフォルトの D のいずれかにしてください。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な方法の標識を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3033N ターゲット指定から **INSERT**、**REPLACE**、**CREATE**、**INSERT_UPDATE**、**REPLACE_CREATE** などのキーワードが抜けているか、またはキーワードのつづりが間違っています。

説明: *IMPORT* の場合、*Action String* (たとえば、"REPLACE into ...") パラメーターに キーワード **INSERT**、**REPLACE**、**CREATE**、**INSERT_UPDATE**、または **REPLACE_CREATE** が入っていません。LOAD の場合には *Action String* パラメーターには、キーワード **INSERT**、**REPLACE**、あるいは **RESTART** が含まれません。キーワードの後には、少なくとも 1 つのブランクが必要です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な *Action String* パラメーターを指定して、コマンドを再実行してください。

SQL3034N ターゲット指定からキーワード **INTO** が抜けているか、またはつづりが間違っています。

説明: **INTO** キーワードが指定されていないか、またはそのつづりが誤っています。**INTO** の後には、少なくとも 1 つのブランクが必要です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な *Action String* パラメーター (たとえば、"REPLACE into...") を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3035N ターゲット指定の **tablename** パラメーターが無効です。

説明: *IMPORT* の場合、*Action String* (たとえば、"REPLACE into ...") の **tablename** パラメーターが無効です。LOAD では、*Action String* の **tablename** あるいは例外表名が無効です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な **tablename** を指定して、コマンドを再サブミットしてください。すべてのコマンド・キーワードおよびパラメーターが正しい順序で入力されているか確認してください。

SQL3036N ターゲット指定の **tcolumn-list** に、右括弧がありません。

説明: *tcolumn-list* は、括弧で区切る必要があります。リストが右括弧で終了していません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: *Action String* (たとえば "REPLACE into ...") パラメーターに有効で完全な列リストを指定して、ステートメントを再サブミットしてください。

SQL3037N インポート処理中に、**SQL** エラー *sqlcode* が起きました。

説明: *Action String* (たとえば、"REPLACE into ...") パラメーターの処理中に **SQL** エラーが発生しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージの **SQLCODE** (メッセージ番号) を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3038N **Action String** パラメーターに予期しない文字が含まれています。

説明: *IMPORT* の場合、*Action String* (たとえば、"REPLACE into ...") パラメーターの列リストの右小括弧の後ろに、ブランク以外の文字があります。LOAD では、*Action String* パラメーターの列リストの右小括弧か、例外表名、あるいはその両方の後ろに、ブランク以外の文字があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な *Action String* パラメーターを指定して、コマンドを再実行してください。

SQL3039W **DATA BUFFER** の **LOAD** で使用可能なメモリーは全 **LOAD** 並列処理を禁止します。 *value* のロード並列処理が使用されません。

説明: **LOAD** ユーティリティが、システム構成に基づいて **SMP** 活用の **CPU** 並列処理の最適レベルを判別しようとしたか、またはユーザーがユーティリティを呼び出したときに、**LOAD** 並列処理に対して値を指定しました。そのときに、以下のいずれかの制限が発生しました。

1. ユーティリティ・ヒープの空きメモリーの量によって、この並列処理の度合いが禁止される。
2. **DATA BUFFER** パラメーターが、指定された並列処理または使用可能な並列処理には小さすぎる値で指定された。

より少ないメモリーを必要とする、より低い並列処理の度合いが使用される。

ユーザーの処置:

1. このメッセージを無視すれば、LOAD が並列に対して小さい値を使用して、正常に完了します。ただし、ロード・パフォーマンスは最適ではない可能性があります。
2. ユーティリティーを呼び出すときに LOAD 並列処理に対して小さい値を指定してください。
3. ユーティリティー・ヒープのサイズを増やしてください。
4. データ・バッファ・パラメーターのサイズを増やすか、パラメーターをブランクのままにして LOAD ユーティリティーがユーティリティー・ヒープのフリー・スペースに基づいてデフォルトを判別できるようにします。

SQL3040N lobpath/lobfile パラメーターは、以下に示されたように使用できません。理由コード: *reason-code*

説明: ユーティリティーが、*reason-code* で示された理由で、lobpath または lobfile パラメーターを使用できません。コードは以下にリストされています。

ユーザーの処置: 与えられる理由コードは、以下のとおりです。

- 1 lobpath が有効な *sqlu_media_list* でないか、または提供された値が無効です。 *media_type* は *SQLU_LOCAL_MEDIA* でなければならず、すべてのパス名は有効なパス区切り文字で終了している必要があります。
- 2 lobfile が有効な *sqlu_media_list* でないか、または提供された値が無効です。 *media_type* は *SQLU_LOCAL_MEDIA* でなければなりません。
- 3 提供された lobpath 名が十分ではありません。エクスポートの場合は、提供されたパスに、すべての lob を保留するのに十分なスペースがありません。
- 4 提供された lobfile 名が十分ではありません。エクスポートの場合は、提供された lobfile 名の数に *SQLU_MAX_SESSIONS* を掛けた数よりも多くの lob があります。
- 5 lobpath 名と lobfile 名の組み合わせが、lobfile 名の最大サイズ (255 バイト) を超えています。
- 6 ファイルのアクセス中に、エラーが起きました。

SQL3041N 指定された日付値は、**Sybase** ではサポートされていません。

説明: Sybase は、1753 年より前の日付値をサポートしていません。

ユーザーの処置: 有効な日付値を指定して、再度コマンドを発行してください。

SQL3042N DATALINK 列に指定された **LINKTYPE** が無効です。

説明: DATALINK 列の LINKTYPE に指定された値が無効です。

ユーザーの処置: 指定された LINKTYPE をチェックします。値を訂正して、コマンドを再実行してください。

SQL3043N DATALINK 列の **DATALINK SPECIFICATION** が無効です。

説明: DATALINK 列の DATALINK SPECIFICATION が、以下のいずれかの理由で無効です。

- DL_URL_REPLACE_PREFIX に値が指定されていない。
- DL_URL_DEFAULT_PREFIX に値が指定されていない。
- DL_URL_SUFFIX に値が指定されていない。
- DL_URL_REPLACE_PREFIX または DL_URL_DEFAULT_PREFIX または DL_URL_SUFFIX 以外のキーワードが入っている。

ユーザーの処置: 指定を訂正してコマンドを再サブミットしてください。

SQL3044N DATALINK 列の **DATALINK SPECIFICATION** に接頭部の重複指定が存在します。

説明: DATALINK 列の DATALINK SPECIFICATION に DL_URL_REPLACE_PREFIX または DL_URL_DEFAULT_PREFIX の重複指定が存在します。

ユーザーの処置: 重複指定を除去してコマンドを再サブミットしてください。

SQL3045N METHOD パラメーターの **dcolumn** 位置が、1 より小さいか、または区切り文字付き **ASCII** ファイルでの列の最大数 (1024) より大きくなっています。

説明: *dcolumn* 位置が、1 より小さいか、または区切り文字付きファイルでの最大列数 (1024) より大きくなっています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な *dcolumn* 位置を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3046N METHOD パラメーターの列数が、1 より小さくなっています。

説明: デフォルト以外の *METHOD* 方法の場合、指定された列数は正の数 (0 より大きい) でなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: *METHOD* パラメーターで有効な列数を指定して、コマンドを再実行してください。

SQL3047N METHOD で指定された **LOAD/IMPORT** 方法は区切り文字付き **ASCII** ファイルでは無効です。これは 'P' あるいは 'default' である必要があります。

説明: 区切り文字付き **ASCII** ファイルに対して唯一有効な **LOAD/IMPORT** 方法は、位置の場合は P、またはデフォルトの場合は D です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なインポート方法を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3048N 入力ファイルから指定された列が、データベースの列より少なくなっていますが、データベースのいずれかの列を **NULL** にすることはできません。

説明: ターゲット表に指定された列数よりも少ない列数が *METHOD* リストに指定されている場合は、欠落している入力列の値が **NULL** としてロードされます。1 つ以上のこれらの入力列に対応するターゲット表の列が **NULL** にすることができないので、**NULL** は挿入できません。

ファイルはロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルと同数の列を持つか、または **NULL** 値化可能な列を持つ新しい表を定義してください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL3049N データベースの列 *name* のデータ・タイプ *type* が、この形式ファイルと互換ではありませんが、データベースの列は **NULL** にすることができません。

説明: データベースの列タイプがこのファイル形式には無効です。データベースの列が **NULL** にできないために、ユーティリティーは終了しました。

ユーティリティーは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: データベース表を再定義して、列がファイルからロードされる列と互換になるようにしてください。

SQL3050W データの変換は、**IXF** ファイル・コード・ページとアプリケーション・コード・ページの間で行われます。

説明: **IXF** データ・ファイルの **IMPORT** が発行され、**IXF** ファイルの文字データのコード・ページが、インポート処理を呼び出しているアプリケーションのコード・ページと異なる場合は、データ・ファイルのコード・ページから、アプリケーションのコード・ページへの変換が行われ、処理は続けられます。

IXF データ・ファイルの **LOAD** が発行され、**IXF** ファイルの文字データのコード・ページが、データベースのコード・ページと異なる場合は、データ・ファイルのコード・ページから、データベースのコード・ページへの変換が行われ、処理は続けられます。

ユーザーの処置: 変換を実行したくない場合は、**FORCEIN** オプションを使用して、ユーティリティーを呼び出し、それ以外の場合、アクションは必要ありません。

SQL3051W *column-name* にロードされるデータがロードされましたが、**IXF** コード・ページからアプリケーション・コード・ページへの変換が実行されませんでした。

説明: **CLOB** または **DBCLOB** 列へロードされたデータは分離ファイルに保管され、その中で何の変換も実行されませんでした。

適切なデータをロードするためには、**IXF** ファイルと同じコード・ページをもつアプリケーションからユーティリティーを呼び出してください。

ユーザーの処置: これは警告です。

SQL3053N ワークシート形式ファイルにエクスポートされる行が、**8191** 行を超えています。

説明: ワークシート形式ファイル (**WSF**) に配置可能な行の最大数は **8191** です。

EXPORT ユティリティーは、ファイルに **8191** 行を書き込むと処理を停止します。

ユーザーの処置: このエラーを防ぐには、**SELECT** ステートメントを使用して、エクスポートされる行数を減らし、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3054N 入力ファイルが、有効な PC/IXF ファイルではありません。このファイルは、有効な H レコードを含むには小さすぎます。

説明: 予期される最初のレコードの終わりが検出される前に、ファイルの終わりに達しました。ファイルが PC/IXF ファイルではない可能性があります。

LOAD/IMPORT ユーティリティの処理を停止します。データはインポートされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルが正しいことを確認してください。

SQL3055N 入力ファイルが、有効な PC/IXF ファイルではありません。最初のレコードの「長さ」フィールドが、数値に変換できません。

説明: 最初のレコードの「長さ」フィールドにある値が、ASCII 表現の数値ではありません。ファイルが PC/IXF ファイルではない可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルが正しいことを確認してください。

SQL3056N 入力ファイルが、有効な PC/IXF ファイルではありません。H レコードの「長さ」フィールドの値が、小さすぎます。

説明: H レコードの「長さ」フィールドの値が、有効な H レコードに対する十分な大きさになっていません。ファイルが PC/IXF ファイルではない可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルが正しいことを確認してください。

SQL3057N 入力ファイルが、有効な PC/IXF ファイルではありません。最初のレコードの「タイプ」フィールドが H ではありません。

説明: 最初のレコードの「タイプ」フィールドが H ではありません。最初のレコードは有効な H レコードではありません。ファイルが PC/IXF ファイルではない可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルが正しいことを確認してください。

SQL3058N H レコードの「ID」フィールドが IXF ではありません。

説明: H レコードの「ID」フィールドが、ファイルを PC/IXF ファイルとして識別していません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: H レコードの「ID」フィールドを調べてください。

SQL3059N H レコードの「バージョン」フィールドが無効です。

説明: H レコードの「バージョン」フィールドに、無効な値が入っています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: H レコードの「バージョン」フィールドを調べてください。

SQL3060N H レコードの「HCNT」フィールドが数値に変換できないか、または値が範囲を超えています。

説明: H レコードの「Heading-record-count」フィールドが、ASCII 表現の数字ではないか、またはこのフィールドには無効な数字になっています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: H レコードの「HCNT」フィールドを調べてください。

SQL3061N H レコードの「1 バイト・コード・ページ」と「2 バイト・コード・ページ」フィールドの両方、またはいずれかが数値に変換できないか、または値が範囲を超えています。

説明: H レコードの「1 バイト・コード・ページ」と「2 バイト・コード・ページ」フィールドが、ASCII 表現の数値ではないか、またはこのフィールドには無効な数値になっています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: H レコードの「1 バイト・コード・ページ」と「2 バイト・コード・ページ」フィールドを調べて、「アプリケーション開発ガイド」に指定されている通りに該当する値に変更します。

SQL3062N H レコードの「2 バイト・コード・ページ」フィールドが数値に変換できないか、または値が範囲を超えています。

説明: H レコードの「2 バイト・コード・ページ」フィールドが、ASCII 表現の数字ではないか、またはこのフィールドには無効な数字になっています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: H レコードの「2 バイト・コード・ページ」フィールドを調べて、「アプリケーション開発ガイド」に指定されている通りに該当する値に変更します。

SQL3063N H レコードの 1 バイト・コード・ページの値 *value-1* が、アプリケーションの 1 バイト・コード・ページの値 *value-2* と互換性がありません。FORCEIN オプションは指定されていません。

説明: H レコードの単一バイトのコード・ページの値がアプリケーション・コード・ページの値と互換性がありません。FORCEIN オプションが使用されていないとき、値 1 から 2 への変換がサポートされていないと、データのロードはできません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: このデータをロードするには、FORCEIN オプションを指定して、コマンドを再実行してください。

SQL3064N H レコードの 2 バイト・コード・ページの値 *value-1* が、アプリケーションの 2 バイト・コード・ページの値 *value-2* と互換性がありません。FORCEIN オプションは指定されていません。

説明: H レコードの 2 バイトのコード・ページの値がアプリケーション・コード・ページの値と互換性がありません。FORCEIN オプションが使用されていないとき、値 1 と 2 が同一でない、データのロードはできません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 2 バイト・コード・ページの値が一致しないデータをロードするには、FORCEIN オプションを指定してコマンドを再実行してください。

SQL3065C アプリケーションのコード・ページの値が判別できません。

説明: アプリケーションのコード・ページの判別中に、システムがエラーを見つけました。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードまたはアンロードされません。

ユーザーの処置: テクニカル・サービス担当者に連絡してください。

SQL3066N T レコードの読み取り中または探索中に、ファイルの終わりに達しました。

説明: システムが T レコードを探索しているとき、または T レコードを読み取っているときに、ファイルの終わりに達しました。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルの T レコードを調べてください。PC/IXF ファイルをあるメディアから別のメディアにコピーしている場合は、コピーをオリジナルと比較するか、またはコピー処理を繰り返してください。

SQL3067N T レコードの「長さ」フィールドが、数値に変換できません。

説明: T レコードの「長さ」フィールドが、ASCII 表現の数字ではありません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードの「長さ」フィールドを調べてください。

SQL3068N T レコードの「長さ」フィールドの値が、小さすぎます。

説明: T レコードの「長さ」フィールドの値が十分に大きくないので、T レコードは無効です。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードの「長さ」フィールドを調べてください。

SQL3069N H レコードに続く、A レコード以外の最初のレコードが、T レコードではありません。

説明: H レコードの後の A レコードではない最初のレコードが、T レコードでもありません。H レコードの後には、すぐに T レコードが続く必要がありますが、T

レコードの前に A レコードが存在する可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: H レコードに続くレコードを調べてください。

SQL3070N A レコードの「長さ」フィールドの値が範囲を超えています。

説明: A レコードの「長さ」フィールドが、このフィールドには無効な数字です。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: A レコードの「長さ」フィールドを調べてください。

SQL3071N T レコードの「データ変換」フィールドが C ではありません。

説明: T レコードの「データ変換」フィールドが C 以外の値です。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードの「データ変換」フィールドを調べてください。

SQL3072N T レコードの「データ形式」フィールドが M ではありません。

説明: T レコードの「データ形式」フィールドが M 以外の値です。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードの「データ形式」フィールドを調べてください。

SQL3073N T レコードのマシン形式フィールドが PCbbb (b はブランク) ではありません。

説明: T レコードのマシン形式フィールドが、PCbbb 以外の値です。それぞれの b はブランクです。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードのマシン形式フィールドを調べてください。

SQL3074N T レコードの「データ・ロケーション」フィールドが I ではありません。

説明: T レコードの「データ・ロケーション」フィールドが I 以外の値です。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードの「データ・ロケーション」フィールドを調べてください。

SQL3075N T レコードの CCNT が数値に変換できないか、または値が範囲を超えています。

説明: T レコードの「C レコード・カウント」フィールドが、ASCII 表現の数字になっていないか、またはこのフィールドには無効な数字になっています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードの「CCNT」フィールドを調べてください。

SQL3076N T レコードの「名前の長さ」フィールドが数値に変換できないか、または値が範囲を超えています。

説明: T レコードの「名前の長さ」フィールドが、ASCII 表現の数字ではないか、またはこのフィールドには無効な数字になっています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードの「名前の長さ」フィールドを調べてください。

SQL3077N T レコードの「CCNT」フィールドに指定された C レコードの数 *value* が、許される最大値 *maximum* を超えています。

説明: T レコードの「CCNT」フィールドの値が、このリリースの示された最大許容値を超えています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードの「CCNT」フィールドを調べてください。

SQL3078N A レコードの「長さ」フィールドが、数値に変換できません。

説明: A レコードの「長さ」フィールドが、ASCII 表現の数字ではありません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: A レコードの「長さ」フィールドを調べてください。

SQL3079N C レコードの「長さ」フィールドが、数値に変換できません。

説明: C レコードの「長さ」フィールドが、ASCII 表現の数字ではありません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「長さ」フィールドを調べてください。

SQL3080N C レコードの「長さ」フィールドの値が、小さすぎます。

説明: C レコードの「長さ」フィールドの値が十分に大きくないので、C レコードは無効です。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「長さ」フィールドを調べてください。

SQL3081N C レコードが足りません。

説明: (正しい位置で) 見つかった C レコードの数が、T レコードの C レコード・カウント (CCNT) に指定された数より少なくなっています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T および C レコードを調べてください。

SQL3082N C レコードの読み取り中または探索中に、ファイルの終わりに達しました。

説明: システムが C レコードを探索しているとき、または C レコードをまだ読み取っているときに、ファイルの終わりに達しました。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルの C レコードを調べてください。PC/IXF ファイルをあるメディアから別のメディアにコピーしている場合は、コピーをオリジナルと比較するか、またはコピー処理を繰り返してください。

SQL3083N 列 *name* に対する C レコードの「D レコード ID」フィールドの値が、数値に変換できません。

説明: 示された列に対する C レコードの「D レコード ID」フィールドが、ASCII 表現の数字ではありません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「D レコード ID」フィールドを調べてください。

SQL3084N 列 *name* に対する C レコードの「D レコード位置」フィールドの値が、数値に変換できません。

説明: 示された列に対する C レコードの「D レコード位置」フィールドが、ASCII 表現の数字ではありません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「D レコード位置」フィールドを調べてください。

SQL3085N 列 *name* に対する C レコードの「D レコード ID」、および「D レコード位置」フィールドの値が範囲を超えているか、または前の C レコードと矛盾しています。

説明: 示された列に対する C レコードの「D レコード ID」、および「D レコード位置」フィールドに、範囲を超えているか、または前の C レコードとの関連で正しくない値が入っています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「D レコード ID」および「D レコード位置」フィールドを調べてください。

SQL3086N データベースの列 *name* へのロードを指定されたソース列がないか、または存在しないソース列が指定されていますが、データベースの列は NULL にすることはできません。

説明: 示された列にエクスポートされるように指定された PC/IXF 列がないか、または指定された PC/IXF ソース列が存在しません。データベースの列が NULL にできないために、NULL は挿入することができません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: *METHOD* パラメーターの名前または

位置に誤りがあるかどうか、あるいは *Action String* (たとえば、"REPLACE into ...") パラメーターに明示的または暗黙で指定されているよりも、*METHOD* パラメーター内の項目数が少ないかどうかを調べてください。

SQL3087N データベースの列 *name* へのロードを指定されたソース列が無効か、またはデータベースの列は **NULL** にすることができません。

説明: PC/IXF 列は、示されたデータベースの列にロードすることができず、その理由はメッセージ・ログの前のメッセージに示されています。データベースの列が **NULL** にできないために、**NULL** は挿入することができません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 前のメッセージを読んで、列が無効な理由を理解してください。

SQL3088N データベースの列 *name* へのロードが指定されたソース列が、データベースの列と互換ではありませんが、データベースの列は **NULL** にすることができません。

説明: ソース PC/IXF 列が、ターゲット・データベースの列と互換性がありません。列のタイプまたは長さが、互換でない可能性があります。データベースの列が **NULL** にできないために、**NULL** は挿入することができません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: ソース PC/IXF ファイルの列を、データベースの列と比較してください。

SQL3089N D レコードが予期されている位置に、D レコードではないレコードがあります。

説明: D レコードがあるべき位置に、D レコード以外のレコードがあります。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: ファイル内の D レコードを調べてください。

SQL3090N D レコードの「長さ」フィールドが、数値に変換できません。

説明: D レコードの「長さ」フィールドが、ASCII 表現の数字ではありません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: D レコードの「長さ」フィールドを調べてください。

SQL3091N D レコードの「長さ」フィールドの値が範囲を超えています。

説明: D レコードの「長さ」フィールドが、このフィールドには無効な数字です。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: D レコードの「長さ」フィールドを調べてください。

SQL3092N D レコードの「ID」フィールドに、予期されていない値が含まれています。

説明: D レコードの「ID」フィールドが無効です。1 つ以上の D レコードが、間違った順序で書き込まれた可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: D レコードの「ID」フィールドを調べてください。

SQL3093N 入力ファイルは、有効な **WSF** ファイルではありません。

説明: ワークシート形式 (WSF) ファイルの最初のレコードが、ファイルの開始 (BOF) レコードではないか、または WSF ファイルのバージョンがサポートされていません。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。データはインポートされません。

ユーザーの処置: ファイルが有効な WSF ファイルであり、その名前が正しく入力されていることを確認してください。

SQL3094N 入力列 *name* が見つかりませんが、対応するデータベースの列は **NULL** にすることができません。

説明: 示された列が、入力ファイルに存在しません。対応するデータベースの列が **NULL** にできないために、データが列にロードできません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。エラーが起きる前に処理された列は、データベース内に存在します。

ユーザーの処置: 入力ファイルに指定した列名があることを確認してください。

SQL3095N 指定された列の位置 *position* が、1 から 256 までの有効範囲を超えています。

説明: 1 から 256 の有効範囲にない列の位置が指定されました。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。エラーが起きる前に処理された列は、データベース内に存在します。

ユーザーの処置: 指定した列の位置が 1 から 256 の範囲内にあることを確認してください。

SQL3096N データベースの列 *name* のデータ・タイプ *type* が、WSF 列タイプと互換ではありませんが、データベースの列は NULL にすることができません。

説明: 示されたデータベースの列と互換であるワークシート形式 (WSF) 列タイプがありません。データベースの列が NULL にできないために、IMPORT ユーティリティは処理を停止します。

データはインポートされません。

ユーザーの処置: データベース表を再定義して、その列が WSF ファイルからインポートされる列と互換になるようにしてください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL3097N WSF レコードの「レコード長」フィールドが、このレコード・タイプには無効です。

説明: ワークシート形式 (WSF) レコードは、予期された固定長または可変長の範囲です。ただし、レコードに固定長が入っていないか、または可変長が範囲を超えています。WSF ファイルが損傷を受けたか、または間違

SQL3100 - SQL3199

SQL3100W 出力 DEL 形式ファイルの中の列番号 *column-number* (*name* で識別) の長さが、254 バイトを超えています。

説明: 示された出力列の長さまたは最大長が 254 バイト以上になっています。254 バイトより大きな列は、他のいくつかの製品ではサポートされていません。

フィールド全体が切り捨てられずにエクスポートされません。

ユーザーの処置: 出力ファイルが他の製品で処理できない場合は、正しくない列のサブストリングのみをエクス

ポートするか、表を再定義するか、または DEL 列内のデータを手操作で切り捨ててください。

PORT ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: サポートされているレベルの Lotus 製品を使用して、WSF ファイルを再生成してください。

SQL3098N 入力ファイルの行番号が、1 から 8192 までの有効範囲を超えています。

説明: ワークシート形式 (WSF) スプレッドシートが含むことができる行の最大数は 8192 です。セル調整に、有効範囲外の値が入っています。WSF ファイルが損傷を受けたか、または間違って生成されました (Lotus 製品のレベルが、データベース・マネージャーによってサポートされていない可能性があります)。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: サポートされているレベルの Lotus 製品を使用して、WSF ファイルを再生成してください。

SQL3099N 入力ファイルの列番号が、1 から 256 までの有効範囲を超えています。

説明: ワークシート形式 (WSF) スプレッドシートが含むことができる列の最大数は 256 です。セル調整に、有効範囲外の値が入っています。WSF ファイルが損傷を受けたか、または間違って生成されました (Lotus 製品のレベルが、データベース・マネージャーによってサポートされていない可能性があります)。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: サポートされているレベルの Lotus 製品を使用して、WSF ファイルを再生成してください。

ポートするか、表を再定義するか、または DEL 列内のデータを手操作で切り捨ててください。

SQL3101W 行 *row-number* の列 *column-number* に、文字ストリング区切り文字があります。

説明: システムは、エクスポートされる文字ストリングの両側に文字ストリング区切り文字を置きますが、文字ストリング内にすでに区切り文字を持つ文字ストリングが見つかりました。

区切り文字は文字ストリングの両側に置かれます。その

ストリングを後で使用すると、切り捨て処理が行われ
ます。処理を続行します。

ユーザーの処置: 出力表またはファイルの指示された列
および行のデータを検討してください。データの損失
を防ぐには、区切り文字をデータ内にない文字に変更し
てください。

SQL3102W METHOD パラメーターの列数が、**Action
String** (たとえば **"REPLACE into..."**) パ
ラメーターの列数よりも大きくなっています。

説明: 入力ファイルまたは表から取り出される列数が、
出力表またはファイルに置かれる列数より大きくなって
います。

出力表またはファイルに指定された列のデータのみが処
理されます。余った入力列のデータは処理されません。

ユーザーの処置: 出力表またはファイルのデータを検討
してください。

SQL3103W METHOD パラメーターの列数が、**Action
String** (たとえば **"REPLACE into..."**) パ
ラメーターの列数よりも小さくなっています。

説明: 入力ファイルまたは表から取り出される列数が、
出力表またはファイルに置かれる列数より小さくなって
います。

入力表またはファイルに指定された列のデータのみが処
理されます。余った出力列のデータは処理されません。

ユーザーの処置: 出力表またはファイルのデータを検討
してください。

SQL3104N エクスポート・ユーティリティーが、ファ
イル *name* へのデータのエクスポートを
開始しています。

説明: これは通常の開始メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3105N エクスポート・ユーティリティーが、
number 行のエクスポートを完了しまし
た。

説明: これは、メッセージ・ファイルの最後に印刷され
る、エクスポート・ユーティリティーのサマリー・メッ
セージです。このメッセージは、エクスポート・ユー
ティリティーが終了する前に **SELECT** ステートメント
から処理された行数を示します。

ユーザーの処置: 0 の *sqlcode* がユーティリティーか

ら返された場合は、処置を行う必要はありません。

3107 の *sqlcode* が返された場合は、エクスポート中に
出された警告について、メッセージ・ファイルをチェッ
クして、必要に応じて、コマンドを再サブミットして
ください。負の *sqlcode* が返された場合は、エクスポート
中にエラーが起き、データ・ファイルには、要求したす
べてのデータが含まれていない可能性があります。エ
ラーを訂正して、コマンドを再サブミットする必要があ
ります。

SQL3106N メッセージ・ファイルへのメッセージのフ
ォーマット中に、エラーが起きました。

説明: エラー・メッセージが不完全か、または形式が正
しくない可能性があります。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3107W メッセージ・ファイルに、少なくとも 1
つの警告メッセージがあります。

説明: 処理中に少なくとも 1 つの警告を受け取りまし
た。

この警告は処理に影響を与えません。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイルの警告を検討し
てください。

SQL3108W 行 *row-number* と列 *column-number* の
DATALINK 値によって参照されているフ
ァイルにアクセスできません。理由コード
= *reason-code*

説明: このメッセージが表示される考えられる原因は、
次の *reason-code* の値に依存します。

- 1 DATALINK 値データ・ロケーション形式は無効です。
- 2 DATALINK 値 DB2 Data Links Manager がデ
ータベースに登録されていません。
- 3 DATALINK リンク・タイプ値が無効です。
- 4 DB2 Data Links Manager で DATALINK 値参
照ファイルを検出できません。
- 5 DATALINK 値参照ファイルはすでにデータバ
ースにリンクされています。
- 6 DATALINK 値参照ファイルはリンクのために
アクセスできません。設定ユーザー ID
(SUID) または設定グループ (SGID) の許可ビ
ットがオンになっている、記号リンクまたはフ
ァイルである可能性があります。
- 7 DATALINK 値 URL またはコメントが長過ぎ
ます。

- 8 DATALINK 値参照ファイルはデータベースにリンクできません。DB2 Data Links Manager が、DB2 ユーザーがこのファイルにリンクすることを許可していません。

ユーザーの処置: アクションは次のように *reason-code* に基づいています。

- 1 データ・ロケーション形式を訂正してください。ホスト名が指定されていなければ、FILE LINK CONTROL のサポートが使用可能である場合のみ、DB2 はローカル・ホスト名をデフォルトとして使用することができます。このサポートの使用可能にする際の情報については、「管理ガイド」を参照してください。
- 2 正しい DB2 Data Links Manager が指定されていることを確認して、正しい場合はデータベースに登録してください。登録された DB2 Data Links Manager は、FILE LINK CONTROL のサポートが使用可能でない場合は無視されます。このサポートの使用可能にする際の情報については、「管理ガイド」を参照してください。
- 3 リンク・タイプ値を訂正してください。
- 4 正しいファイルが指定され、このファイルが存在しているか、チェックします。
- 5 ファイルの既存の参照をリンク解除するか、またはこのステートメントでファイルを指定しないようにしてください。
- 6 ディレクトリーのリンクは許可されていません。シンボリック・リンクではなく、実際のファイル名を使用してください。SUID または SGID がオンの場合は、DATALINK タイプを使用してこのファイルをリンクできません。
- 7 データ・ロケーション値またはコメントの長さを小さくしてください。
- 8 DB2 Data Links Manager 管理者に連絡して、必要な許可を入手してください。

SQL3109N ユーティリティが、ファイル *name* からデータのロードを開始しています。

説明: これは通常の開始メッセージです。このメッセージは、ソース・ファイルの代わりに、サーバーに作成された一時ファイルの名前を示す可能性があります。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3110N ユーティリティが処理を完了しました。*number* 行が、入力ファイルから読み取られました。

説明: これは正常な終了メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3111C 入力データ・ファイルのクローズ中に、入出力エラーが起きました。

説明: 入力データ・ファイルをクローズしているときに、システム入出力エラーが起きました。このエラーは、クライアントまたはサーバーに関する問題を示している可能性があります。

ファイルはクローズされません。

ユーザーの処置: 入出力エラーについて、入力ファイルを調べてください。

SQL3112W 指定された入力ファイルの列が、データベースの列より少なくなっています。

説明: 入力ファイルの指定された列が、出力ファイルの列より少なくなっています。表の余分な列は NULL 値可能として定義されているので、その列内の値は NULL で埋められます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3113W データベース列 *name* のデータ・タイプ *type* が、この形式ファイルと互換性がありません。NULL 値が列に挿入されません。

説明: データベース列タイプがこのファイルには無効です。列は NULL にすることができるので、NULL が挿入されます。

NULL 値が、示された列にロードされます。

ユーザーの処置: この列で NULL が受け入れられない場合は、次のいずれかを行ってください。

- 表のデータを編集してください。
- 可能であれば、データベース表の別の互換列をターゲット列として使用して、コマンドを再サブミットしてください。
- データベース表を再定義して、列がロードされる列と互換になるようにして、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3114W 行 *row-number*、列 *column-number* の *text* の後に、ロードされていないデータがあります。

説明: 以下のデータが列に含まれていると思われるため、示されている行と列のデータがロードされていません。

- 終了ストリング区切り文字
- 分離改行文字または復帰制御文字
- 区切り文字のないストリング値

ロードされたテキストは、*text* トークンに示されていません。

フィールドの内容が不完全な可能性があります。

ユーザーの処置: 出力表の値を入力ファイルの値と比較してください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3115W 行 *row-number*、列 *column-number* の *text* で始まるフィールドの値が、最長許容表列よりも長すぎます。値は切り捨てられました。

説明: フィールドの値が 32700 バイトより長くなっています。

32700 バイトより後の値は、切り捨てられました。

ユーザーの処置: 出力表の値を入力ファイルの値と比較してください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。不一致の文字ストリング区切り文字をチェックしてください。

SQL3116W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が抜けていますが、ターゲット列は **NULL** にできません。

説明: 入力ファイルに **NULL** のフィールド値が見つかりました。表のターゲット列は **NULL** にできないので、ロードすることができません。

ASCII ファイル以外のファイルの場合は、列番号の値が、欠落データの行内のフィールドを示します。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、欠落データの行内のバイト位置を示します。

行はロードされません。

ユーザーの処置: 必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3117W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が **SMALLINT** 値に変換できません。 **NULL** がロードされました。

説明: 示されたフィールドの値が、**SMALLINT** 値に変換できません。データ・タイプが不一致である可能性があります。値が 2 バイトの整数よりも大きい可能性があります。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示していません。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

NULL 値がロードされます。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3118W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が **SMALLINT** 値に変換できませんが、ターゲット列は **NULL** にすることができません。行はロードされません。

説明: 示されたフィールドの値が、**SMALLINT** 値に変換できません。データ・タイプが不一致である可能性があります。値が 2 バイトの整数よりも大きい可能性があります。表の出力列は **NULL** 可能ではないため、**NULL** をロードできません。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示していません。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

行はロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3119W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が **INTEGER** 値に変換できません。 **NULL** がロードされました。

説明: 示されたフィールドの値が **INTEGER** 値に変換できないために、データ・タイプの不一致が存在する可能性があります。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示していません。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

NULL 値がロードされます。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3120W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が **INTEGER** 値に変換できませんが、ターゲット列は **NULL** にすることができません。行はロードされません。

説明: 示されたフィールドの値が **INTEGER** 値に変換できないために、データ・タイプの不一致が存在する可能性があります。表の出力列は **NULL** 可能ではないため、**NULL** をロードできません。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

行はロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3121W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が **FLOAT** 値に変換できません。 **NULL** がロードされました。

説明: 指定されたフィールドの値は、**FLOAT** 値に変換できません。データ・タイプが不一致である可能性があります。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

NULL 値がロードされます。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3122W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が **FLOAT** 値に変換できませんが、ターゲット列は **NULL** にすることができません。行はロードされません。

説明: 指定されたフィールドの値は、**FLOAT** 値に変換できません。データ・タイプが不一致である可能性があります。表の出力列は **NULL** 可能ではないため、**NULL** をロードできません。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値

が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

行はロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3123W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が **PACKED DECIMAL** 値に変換できません。 **NULL** がロードされました。

説明: 示されたフィールドの値が **PACKED DECIMAL** 値に変換できません。データ・タイプが不一致である可能性があります。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

NULL 値がロードされます。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3124W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が **PACKED DECIMAL** 値に変換できませんが、ターゲット列は **NULL** にすることができません。行はロードされません。

説明: 示されたフィールドの値が **PACKED DECIMAL** 値に変換できません。データ・タイプが不一致である可能性があります。表の出力列は **NULL** 可能ではないため、**NULL** をロードできません。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

行はロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3125W データがターゲット・データベースの列より長いために、行 *row-number*、列 *column-number* の文字データが切り捨てられました。

説明: 入力ファイルのフィールド・データの長さが、ロードされる先であるデータベース・フィールドの長さより長くなっています。

文字データは切り捨てられました。

ユーザーの処置: 出力表の値を入力ファイルの値と比較してください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。データベースの列の幅は増やすことができません。必要に応じて、もっと幅の広い列で新しい表を定義して、処理を繰り返してください。

SQL3128W フィールドには、行 *row-number* と列 *column-number* の *data* が含まれています。 **DATE** フィールドに合わせて切り捨てられます。

説明: 示されたフィールドの日付値が、日付のストリング表現の長さより長くなっています。

日付値は、表に合うように切り捨てられます。

ユーザーの処置: 出力表の値を入力ファイルの値と比較してください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3129W 行 *row-number*、列 *column-number* の *text* を持つ日付、時刻、またはタイム・スタンプのフィールドがブランクで埋められました。

説明: 入力ファイルのフィールド・データが、データベースの列より短くなっていました。

データの右側がブランクで埋められます。

ユーザーの処置: 出力表の値を入力ファイルの値と比較してください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3130W データがデータベースの列より長いために、行 *row-number*、列 *column-number* に *text* を持つフィールドが、「**TIME**」フィールドに合わせて切り捨てられます。

説明: 示されたフィールドの時刻値が、時刻のストリング表現の長さより長くなっています。

時刻値は、表に合うように切り捨てられます。

ユーザーの処置: 出力表の値を入力ファイルの値と比較してください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3131W データがデータベースの列より長いために、行 *row-number*、列 *column-number* に *text* を持つフィールドが、「**TIMESTAMP**」フィールドに合わせて切り捨てられます。

説明: 示されたフィールドのタイム・スタンプの値が、タイム・スタンプのストリング表現の長さより長くなっています。

タイム・スタンプの値は、表に合うように切り捨てられます。

ユーザーの処置: 出力表の値を入力ファイルの値と比較してください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3132W 列 *column* の文字データはサイズ *size* に切り捨てられます。

説明: 文字データ列に、エクスポートできるデフォルトの最大文字列より長い定義サイズがあり、各値は、指定されたサイズに切り捨てられます。

たとえば、デフォルト値によって、LOB 列の最初の SQL_LONGMAX バイトがエクスポートされます。LOB 列全体が必要な場合には、ファイル・タイプ修飾子に **LOBSINFILE** キーワードを指定しなければなりません。LOB の各列が別個のファイルに保管されます。

ユーザーの処置: これは警告です。アクションは必要ありません。

SQL3133W 行 *row-number* と列 *column-number* のフィールドに無効な **DATALINK** 値が含まれています。 **NULL** がロードされました。

説明: 指定されたフィールドの **DATALINK** 値は無効です。区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

NULL 値がロードされます。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3134W 行 *row-number* と列 *column-number* のフィールドに無効な **DATALINK** 値が含まれていますが、ターゲット列は **NULL** できません。行はロードされません。

説明: 指定されたフィールドの **DATALINK** 値は無効です。区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。必要であれば、入力ファイルを訂正してコマンドの再サブミットを行ってください。

SQL3135N **METHOD** パラメーターの列数が、ターゲット表の列数よりも大きくなっています。

説明: **METHOD** パラメーターのデータ列の数は、実際の表のデータ列の数と同じか、またはそれより小さくしなければなりません。

ユーザーの処置: 入力列の正しい数を **METHOD** パラメーターに指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3137W 行 *row-number* が短すぎます。 **NULL** にできないデータベースの列にロードされる入力値のうち、少なくとも 1 つが足りません。行はロードされません。

説明: 区切り文字付き ASCII ファイルからロードしている場合は、行に含まれているフィールドが少なすぎます。区切り文字付き ASCII ファイル以外のファイルからロードしている場合は、行に含まれているデータのバイト数が少なすぎます。少なくとも 1 つの **NULL** にできないターゲット列に対する入力値がありません。

行はロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルとターゲット表の内容を調べてください。入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3138W 入力データ・ファイルが終わるまでに、文字ストリングの終了区切り文字が見つかりませんでした。

説明: 文字ストリングの終了区切り文字が検出される前に、入力データ・ファイルの終わりに達しました。

文字ストリングの終了区切り文字が、データの終わりに想定されます。

ユーザーの処置: 出力表の値を入力ファイルの値と比較してください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3139W ユーティリティによるデータベースからの切断中に、エラー *error* が起きました。

説明: **IMPORT** または **EXPORT** ユーティリティは、データベースから切断することができませんでした。

出力データが不完全の可能性があります。

ユーザーの処置: メッセージのエラー番号を使用して、エラーを正確に判別してください。

SQL3142W 列 *column-number* の列ヘディングは、240 バイトに切り捨てられます。

説明: **LOTUS 1-2-3**** および **Symphony**** プログラムは、ラベル・レコードに対して 240 バイトの制限を持っています。エクスポートに対して、240 バイトを超える列ヘディングが指定された場合は、240 バイトに切り捨てられます。

列ヘディングは切り捨てられます。処理を続行します。

ユーザーの処置: 列ヘディングが 240 バイトまたはそれ以下であることを確認してください。出力ワークシート形式 (WSF) ファイルの列に、名前を指定したときに起きる可能性があるエラーについてチェックしてください。

SQL3143W 可変長の列 *column-number* の最大長が 240 バイトの制限を超えています。240 バイト目以降の列データは切り捨てられる場合があります。列からのデータは切り捨てられる場合があります。

説明: **LOTUS 1-2-3**** および **Symphony**** プログラムは、ラベル・レコードに対して 240 バイトの制限を持っています。240 バイトを超える長さの文字フィールドが、ワークシート形式 (WSF) ファイルに書き込まれる場合は、常に 240 バイトに切り捨てられます。

処理を続行します。列に対する後続のデータ入力項目は、切り捨てられる可能性があります。

ユーザーの処置: 出力を確認してください。切り捨てにより列の重要なデータが失われる場合は、サブストリング処理により、いくつかのフィールドで列からデータを選択して調べるか、またはデータベースを設計し直してください。

SQL3144W 固定長の列 *column-number* の最大長が 240 バイトの制限を超えています。列からのデータは切り捨てられる場合があります。

説明: Lotus 1-2-3** および Symphony** プログラムは、ラベル・レコードに対して 240 バイトの制限を持っています。240 バイトを超える長さの文字フィールドが、ワークシート形式 (WSF) ファイルに書き込まれる場合は、常に 240 バイトに切り捨てられます。

列のすべてのデータ項目は切り捨て処理されますが、メッセージ・ログには追加メッセージは書き込まれません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: 出力を確認してください。切り捨てにより列の重要なデータが失われる場合は、サブストリング処理により、いくつかのフィールドで列からデータを選択して調べるか、またはデータベースを設計し直してください。

SQL3145W 行 *row-number*、列 *column-number* のデータは 240 バイトに切り捨てられます。

説明: Lotus 1-2-3** および Symphony** プログラムは、ラベル・レコードに対して 240 バイトの制限を持っています。240 バイトを超える長さの文字フィールドが、ワークシート形式 (WSF) ファイルに書き込まれる場合は、常に 240 バイトに切り捨てられます。このメッセージは、その列に関連するメッセージ SQL3143 の後に続きます。

処理を続行します。データは切り捨てられます。

ユーザーの処置: 出力を確認してください。切り捨てにより列の重要なデータが失われる場合は、サブストリング処理により、いくつかのフィールドで列からデータを選択して調べるか、またはデータベースを設計し直してください。

SQL3146N 行 *row-number*、列 *column-number* の **DATE** または **TIMESTAMP** の値が、範囲を超えています。

説明: 日付またはタイム・スタンプの値が無効です。ワークシート形式 (WSF) ファイルに有効な日付の値は、01-01-1900 から 12-31-2099 までです。

セル・レコードは作成されません。

ユーザーの処置: 出力ファイルの値を入力表の値と比較してください。必要に応じて、入力値を訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3147W ワークシート形式ファイルにエクスポートした行が、2048 を超えています。

説明: エクスポートされた行数が 2048 を超えています。第 1 世代の製品は 2048 を超える行をサポートしません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: 2048 を超える行は、第 2 世代または第 3 世代の製品によってのみ読み取ることができません。

SQL3148W 入力ファイルからの行が表に挿入されませんでした。 **SQLCODE** *sqlcode* が戻されます。

説明: 入力ファイルから読み取った行のデータを挿入するデータベース処理が失敗しました。入力ファイルの 1 つ以上のフィールドが、データベース内の挿入先のフィールドと互換でない可能性があります。

入力データの次の行から処理が継続されます。

ユーザーの処置: 挿入されなかった行の行番号については、メッセージ・ファイルの次のメッセージを参照してください。入力ファイルとデータベースの内容を調べてください。必要に応じて、データベースまたは入力ファイルを変更して、もう一度やり直してください。

SQL3149N *number-1* 行が、入力ファイルから処理されました。 *number-2* 行が、正常に表に挿入されました。 *number-3* 行が、拒否されました。

説明: このサマリー・メッセージにより、入力ファイルから読み取られた行データの数、データベース表に挿入された行数、または拒否された行数を知ることができます。INSERT_UPDATE オプションを使用している場合、更新された行数は、挿入された数と拒否された数を処理された行数から引いた数です。

ユーザーの処置: これはサマリー・メッセージなので、ありません。詳細メッセージが行うべき正しいアクションを示します。

SQL3150N PC/IXF ファイルの H レコードには、製品 *product*、日付 *date*、および時刻 *time* があります。

説明: PC/IXF ファイルを作成した製品と作成日時に関する情報が与えられます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3151N FORCEIN オプションが指定されているために、H レコードの 1 バイト・コード・ページ値 *code-page* から、アプリケーションの 1 バイト・コード・ページ値 *code-page* への変換は行われません。

説明: FORCEIN オプションが指定されているために、IXF のコード・ページからアプリケーションのコード・ページへの変換は行われません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。IXF ファイルのコード・ページからアプリケーションのコード・ページへの変換を、データベース・マネージャーがサポートしている場合は、FORCEIN オプションなしで操作をやり直すことができ、データが変換されます。

SQL3152N H レコードの 2 バイト・コード・ページの値 *value* が、アプリケーションの 2 バイト・コード・ページの値 *value* と互換性がありません。FORCEIN オプションが指定されているため、データの挿入が行われます。

説明: レコードの 2 バイト・コード・ページとアプリケーションの 2 バイト・コード・ページが互換性がありません。FORCEIN オプションが使用されていたために、データは挿入されました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3153N PC/IXF ファイルの T レコードには、名前 *name*、修飾子 *qualifier*、およびソース *source* があります。

説明: データが抽出された表の名前、表を作成した製品、およびデータのオリジナル・ソースに関するオプション情報が与えられます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3154W H レコードの HCNT 値と T レコードの CCNT 値が、互換性がありません。T レコードの CCNT 値が使用されます。

説明: H レコード内の HCNT 値と T レコード内の CCNT 値が、一致しません。

T レコードの CCNT 値が使用されます。

ユーザーの処置: CCNT 値が正しいことを確認してください。値が正しくない場合、HCNT または CCNT 値に必要な変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3155W 列 *name* の C レコードの「名前の長さ」フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの「名前の長さ」フィールドの値が無効です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「名前の長さ」フィールドを変更して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3156W 列 *name* に対する C レコードの NULL フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの null フィールドが無効です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの null フィールドを変更して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3157W 列 *name* に対する C レコードの「タイプ」フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示されている列に対する C レコードの「タイプ」フィールドが無効です。コード・ページの値と列タイプが互換でない可能性があります。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「タイプ」フィールドを変更して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3158W 列 *name* に対する C レコードの「1 バイト・コード・ページ」フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの「1 バイト・コード・ページ」フィールドが無効です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「1 バイト・コード・ページ」フィールドを変更して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3159W 列 *name* に対する C レコードの「2 バイト・コード・ページ」フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの「2 バイト・コード・ページ」フィールドが無効です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「2 バイト・コード・ページ」フィールドを変更して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3160W 列 *name* に対する C レコードの「列の長さ」フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの「列の長さ」フィールドが無効です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「列の長さ」フィールドを変更して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3161W 列 *name* に対する C レコードの「精度」フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの「精度」フィールドが無効です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「精度」フィールドを変更して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3162W 列 *name* に対する C レコードの「位取り」フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの「位取り」フィールドが無効です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「位取り」フィールドを変更して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3163W 浮動小数点の列 *name* に対する C レコードの「列の長さ」フィールドがブランクです。00008 の値が使用されます。

説明: 示されている列に対する C レコードの「列の長さ」フィールドがブランクです。

列の長さとして 00008 が使用されます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3164W 浮動小数点の列 *name* に対する C レコードの「列の長さ」フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの「列の長さ」フィールドが無効です。示された列は浮動小数点の列です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「列の長さ」フィールドを変更して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3165W 列 *name* に対する C レコードの「列タイプ」フィールド *type* が無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの列タイプが無効です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「列タイプ」フィールドを変更して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3166W データベースの列 *name* へのロードが指定された PC/IXF 列がないか、または存在しない PC/IXF を指定しました。NULL が挿入されます。

説明: 示された列へのロードが指定された PC/IXF が存在しないか、または指定した PC/IXF ソース列が存在しません。

NULL 値が、示された列にロードされます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。この列では NULL は許容されない場合、*METHOD* パラメーターの名前または位置に誤りがあるかどうか、あるいは *Action String* (たとえば、"REPLACE into ...") パラメーターに明示的または暗黙で指定されている列数よりも、*METHOD* パラメーター内の項目数のほうが少ないかどうかを調べてください。

SQL3167W データベースの列 *name* へのロードが指定された PC/IXF 列が無効です。NULL が挿入されます。

説明: PC/IXF 列の値は、示されたデータベースの列にロードすることができず、理由はログ内の前のメッセージに示されています。

NULL 値が、示された列にロードされます。

ユーザーの処置: 前のメッセージを読んで、列が無効な理由を理解してください。

SQL3168W データベースの列 *name* へのロードが指定された PC/IXF 列が、データベースの列と互換性がありません。NULL が挿入されます。

説明: ソース PC/IXF とターゲット・データベースの列タイプまたは長さが、互換性がありません。

NULL 値が、示された列にロードされます。

ユーザーの処置: ソース PC/IXF ファイルの列とデータベースを比較してください。

SQL3169N FORCEIN オプションが、PC/IXF 列 *name* をデータベースの列 *name* にロード可能にするために、使用されている可能性があります。

説明: これは単なる FORCEIN オプションの使用に関する情報です。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3170W データ行の途中で、ファイルの終わりに達しました。データの不完全な行はロードされませんでした。

説明: 現在のデータ行が終わる前に、ファイルの終わりに達しました。ファイルには、予期されたデータの一部しか入っていない可能性があります。

不完全なデータ行はロードされません。

ユーザーの処置: PC/IXF ファイルをあるメディアから別のメディアにコピーしている場合は、コピーをオリジナルと比較するか、またはコピー処理を繰り返してください。

SQL3171W ヘッダー行に、ラベルのないレコードがありました。レコードは処理されませんでした。

説明: IMPORT ユーティリティは、ワークシート形式 (WSF) ファイルのヘッダー行 (1 行目) には、ラベル・レコードのみを予期しています。

システムは、そのレコードを処理せず、次のレコードの処理を続けます。

ユーザーの処置: スプレッドシート・ファイルの最初の行から、列のヘッダーを除くすべてのデータと情報を取り除いてください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL3172W 指定された入力列 *name* が見つかりませんでした。対応するデータベース列に NULL 値が入ります。

説明: 指定された入力列が、入力スプレッドシート・ファイルで見つかりませんでした。データベースの列は NULL 値を含むことが可能なので、NULL になりました。

ユーザーの処置: 指定した入力列名を確認してください。

SQL3173N 列 *name* に挿入されたデータは、常に列の幅より文字数が少なくなります。

説明: データベースの列の幅が、ワークシート形式 (WSF) ラベル・レコードの最大値を超えています。

処理を続行します。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3174W データベースの列 *name* のデータ・タイプ *type* が、WSF の列タイプと互換性はありません。NULL 値が、この列に挿入されます。

説明: データベースの列タイプが、ワークシート形式 (WSF) ファイルには有効ではありません。列は NULL にすることができるので、NULL が列にインポートされます。

ユーザーの処置: この列で NULL が受け入れられない場合は、次のいずれかを行ってください。

- 表のデータを編集してください。
- 可能であれば、データベース表の別の互換列をターゲット列として使用して、コマンドを再サブミットしてください。
- データベース表を再定義して、その列が WSF ファイルからインポートされる列と互換になるようにして、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3175W データベースの行 *row*、列 *column* に対する入力レコードが無効です。

説明: スプレッドシート・ファイルのレコードが、データベースの列のデータ・タイプと互換ではありません。データベースの列が GRAPHIC データ・タイプの場合は、入力データに奇数バイトが入っている可能性があります。

列を NULL にすることができる場合は、NULL が挿入されます。列を NULL にできない場合は、行がインポートされません。

ユーザーの処置: 表のデータを編集するか、またはデータベース・マネージャーのデータベースにインポートするスプレッドシート・ファイルのデータが有効であることを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3176W WSF ファイルの行 *row*、列 *column* の値が、日付値の範囲を超えています。

説明: スプレッドシート・ファイルのレコードに、有効なワークシート形式 (WSF) の日付を表現するには大きすぎるかまたは小さすぎる値が含まれています。有効な

WSF の日付は 1 から 73050 (1 と 73050 を含む) です。

列を NULL にすることができる場合は、NULL が挿入されます。列を NULL にすることができない場合は、行がインポートされません。

ユーザーの処置: 表のデータを編集するか、またはデータベース・マネージャーのデータベースにインポートするスプレッドシート・ファイルのデータが有効であることを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3177W WSF 形式ファイルの行 row、列 column に対する値が、時刻の値の範囲を超えています。

説明: スプレッドシート・ファイルのレコードに、有効なワークシート形式 (WSF) の時刻を表現するには大きすぎるかまたは小さすぎる値が含まれています。WSF の時刻はゼロ以上の値ですが、1 よりも小さくなっています。

列を NULL にすることができる場合は、NULL が挿入されます。列を NULL にすることができない場合は、行がインポートされません。

ユーザーの処置: 表のデータを編集するか、またはインポートされる値が、入力スプレッドシート・ファイルの時刻の値であることを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3178W データベースの行 row-number、列 column-number に対する WSF ファイルのレコード・タイプは、時刻値の表現には無効です。

説明: 入力値が整数値です。時刻の値は、浮動小数点数または、ワークシート形式 (WSF) スプレッドシート・ファイルの日付の一部でなければなりません。

列を NULL にすることができる場合は、NULL が挿入されます。列を NULL にすることができない場合は、行がインポートされません。

ユーザーの処置: 表のデータを編集するか、またはインポートされる値が、入力スプレッドシート・ファイルの時刻の値であることを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3179W 入力ファイルの行 row に、データベースの NULL にできない列に挿入するデータがありません。この行は挿入されません。

説明: 入力ファイルの行データには、NULL にできない列に対するデータがないか、または無効なデータが含ま

れています。その行の残りのデータベース列の値は挿入されていません。

処理は次の行から続けられます。行は挿入されません。

ユーザーの処置: 表のデータを編集するか、スプレッドシート・ファイルのデータがデータベース・マネージャー・データベースへの挿入に有効であることを確認してください。

SQL3180W ディスケット number をドライブ drive に挿入してください。

説明: これは、示されたドライブに示されたディスクを挿入するためのプロンプトを表示する、アプリケーションの要求です。

ユーティリティーは、ディスクがドライブに挿入されるまで、再呼び出しを待ちます。

ユーザーの処置: ディスクの挿入をユーザーに促して、処理を継続するか終了するかを指示する *callerac* パラメーターを使用して、ユーティリティーへ戻ってください。

SQL3181W 予期された終了レコードが見つからないうちに、ファイルの終わりに達しました。

説明: データベース・マネージャーによって作成された PC/IXF ファイルのロード中に、最後の A レコードとして予期されたサブタイプ E の A レコードが見つかりませんでした。

入力ファイルが壊れている可能性があります。

処理を続行します。

ユーザーの処置: ロードされなかったデータをチェックしてください。データが欠落している場合は、表を編集するか、または入力ファイルを変更して、コマンドを再サブミットしてください。PC/IXF ファイルをあるメディアから別のメディアにコピーしている場合は、コピーをオリジナルと比較するか、またはコピー処理を繰り返してください。

SQL3182W ディスケット number をドライブ drive に挿入してください。現在挿入されているディスクが正しいディスクでないか、あるいは継続ディスクが無効です。

説明: 複数ディスクに含まれている PC/IXF ファイルのロード中に、ディスクの挿入の要求がアプリケーションに送られ、ディスクがドライブに存在するという確認が戻されましたが、継続のディスクが存在しないか、または有効ではありません。このアクションは、最初のディスクには適用されません。

ユーティリティは、アプリケーションからの応答を待ち、処理を続けるか、または停止します。

ユーザーの処置: 正しいディスクがドライブに入っていることをユーザーに確認してください。正しいディスクがドライブに入っている場合は、処理の終了に設定された *callerac* パラメーターを指定して、もう一度ユーティリティを呼び出してください。

SQL3183W filemod パラメーターの複数の区切り文字オーバーライドが、ブランクで区切られていません。

説明: *filemod* パラメーターの少なくとも 1 つの COLDEL、CHARDEL、DECPT キーワードが、*filemod* パラメーターの先頭になく、その後にブランク (スペース) が続いていません。この状態は、区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの LOAD/IMPORT またはエクスポート中に発生する可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。誤りのある区切り文字オーバーライドは無視されます。

ユーザーの処置: 正しい *filemod* パラメーターを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3184W 表の作成中に、SQL 警告 SQLCODE が発生しました。

説明: 表は作成されましたが、元の表と異なる可能性があります。

ユーザーの処置: 新規に作成された表と作成予定であった表の定義を比較してください。ALTER TABLE などのコマンドを使用して、必要な修正を行います。状況についての詳細は、警告メッセージに示された SQLCODE を参照してください。

SQL3185W 入力ファイルの行 row-number からのデータの処理中に、前出のエラーが発生しました。

説明: このメッセージは、メッセージ・ファイル内にリストされている前のメッセージ (たとえば、SQL3306) に対して、エラーが起きた行の識別用に提供されます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3186W ログがいっぱいであるか、またはロック・スペースがすべて使用されているために、データがデータベースにロードされませんでした。SQLCODE sqlcode が戻されず。コミットが試みられ、コミットが成功すれば、操作が続行されます。

説明: データベース・トランザクション・ログがいっぱいであるか、もしくはアプリケーションで使用可能なロック・スペースがいっぱいであるために、ユーティリティが行データをデータベースに挿入できませんでした。

完了したデータベース・トランザクションがコミットされ、もう一度挿入が試みられます。再試行の挿入処理でも同様の失敗が示される場合、ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 引き続いてユーティリティの処理が失敗すると、データベースは最後のコミット後の状態にロールバックされ、ユーティリティが最初に呼び出される前の状態ではありませんので注意してください。

SQL3187W 索引の作成中に、エラーが発生しました。SQLCODE sqlcode が戻されます。

説明: エラーが起きたときに、IMPORT ユーティリティが索引を作成していました。いくつかの表には、索引がすでに存在している可能性があります。

このエラーは、PC/IXF ファイルのインポート中にのみ起きます。

ユーティリティは処理を続けます。ファイルはインポートされましたが、索引は表に作成されていません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: このエラーは、前にリストされた原因に加えて、CREATE NICKNAME ステートメントがフェデレーテッド・サーバーで発行され、データ・ソースの表の索引に列が多過ぎるとき、または合計索引行サイズがフェデレーテッド・サーバー・カタログで示されないときに発生します。メッセージの *sqlcode* は検出された問題について詳細情報を提供します。

ユーザーの処置: 作成されなかった索引の名前については、メッセージ・ログ内の次のメッセージ (SQL3189) を読んでください。CREATE INDEX コマンドを使用して、索引を作成してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: フェデレーテッド・サーバー・カタログに作成されていないカタログを判別するには、データ・ソース・カタログとフェデレーテッド・サーバー・カタログから選択してください。次のいずれかを行ってください。

- CREATE INDEX コマンドを使用して、索引を作成してください。列の切り捨ては、索引の作成を妨げないために制限に違反しないように適切に行ってください。
- なにもしないで、フェデレーテッド・サーバーが索引情報なしで機能することを許可します。

直前の両方のリストされたオプションが可能なパフォーマンス含意を持っています。

SQL3188N 表の内容の削除中に、エラーが起きました。

説明: REPLACE オプションを使用して LOAD/IMPORT 処理を実行している場合は、データを表に挿入直す前に、指定されたデータベース表が切り捨てられます。切り捨て処理中に、エラーが発生しました。

ユーティリティーはエラーで終了します。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。

SQL3189N 前のメッセージは、列 *column-list* の索引 *name* を示しています。

説明: 索引の作成中にエラーが起きたときは、常にこのメッセージがメッセージ SQL3187 の後に続きます。*name* は、作成が失敗した索引の名前です。*column list* は、索引列名のストリングです。ストリングの各列の前には、昇順または降順を示す正 (+) または負 (-) 符号が付けられます。

ユーティリティーは処理を続けます。

ユーザーの処置: CREATE INDEX コマンドを使用して、手操作で索引を作成してください。

SQL3190N *indexixf* オプションは、このインポート操作には無効です。

説明: INDEXIXF が IMPORT コマンドの *filemod* パラメーターで使用されている場合、以下のそれぞれも必要になります。

- IMPORT 処理は、表の内容を置き換える必要があります。
- *METHOD* パラメーターを NULL にする必要があります。
- 各 IXF 列は、同名のデータベースの列をターゲットにしている必要があります。

ユーティリティーは処理を停止します。データはインポートされません。

ユーザーの処置: INDEXIXF オプションを使用しないか、または INDEXIXF オプションで有効な他のパラメーターを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3191N *string* で始まる行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドが、ユーザー指定の **DATEFORMAT**、**TIMEFORMAT**、または **TIMESTAMPFORMAT** に一致していません。この行は拒否されます。

説明: データがユーザー指定の形式に一致していません。フィールドの欠落、列区切り文字の不一致、または範囲外の値が原因だと思われます。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。入力ファイルを訂正するか、あるいはデータに一致する **DATEFORMAT**、**TIMEFORMAT**、または **TIMESTAMPFORMAT** を指定し、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3192N *filemod* で、ストリング *string* で始まるユーザー指定の形式 *keyword* が無効です。

説明: 複数指定されているか、または無効な文字を含んでいるため、ユーザー指定の形式は無効です。

形式は 2 重引用符で囲まなければなりません。

有効な **DATEFORMAT** 指定子は “YYYY”、“M”、および “D” 文字です。

有効な **TIMEFORMAT** 指定子は “AM”、“PM”、“TT”、および “H”、“M”、および “D” 文字です。

有効な **TIMESTAMPFORMAT** 指定子は “UUUUUU”、および **DATEFORMAT** と **TIMEFORMAT** の指定子すべてです。ただし、日付形式指定子と時刻形式指定子の両方のとなりに “M” を置くことはできません。

データ・ファイル内の対応する値が可変長である場合、フィールド区切り文字が必要です。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 形式指定子を調べてください。形式を訂正し、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3193N 指定されたビューまたはマテリアライズ照会表は更新できません。このビューに **LOAD/IMPORT** したり、このマテリアライズ照会表に **LOAD** することはできません。

説明: LOAD/IMPORT ユーティリティーは、ビューが更新可能な場合にのみ、そのビューに対して実行するこ

とができます。指定されたビューは、その中のデータの変更を許さないように定義されています。

LOAD ユーティリティは、マテリアライズ照会表が複製されていない場合のみ、マテリアライズ照会表に対して実行できます。指定された表は複製されたマテリアライズ照会表です。

IMPORT ユーティリティは、マテリアライズ照会表がユーザー保守のマテリアライズ照会表である場合のみ、そのマテリアライズ照会表に対して実行できます。指定された表は、システム保守のマテリアライズ照会表です。

LOAD/IMPORT ユーティリティの処理を停止します。挿入されるデータはありません。

ユーザーの処置: 更新可能な表またはビューの名前を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3194N 指定された表はシステム表です。システム表はロードできません。

説明: ユーティリティは、システム表に対して実行できません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 有効な表名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3195W ドライブ *drive* のディスク *number* は、出力ファイルには使用できません。書き込み可能なフリー・スペースがあるフォーマット済みディスクを挿入してください。

説明: EXPORT ユーティリティは、以下のいずれかの理由のために、PC/IXF ファイルへのエクスポートに現在のディスクを使用できません。

- 出力ファイルをディスク上でオープンできません。ディスクがフォーマット (初期化) されていない可能性があります。

SQL3200 - SQL3299

SQL3201N 指定された表は、他の表がそれに依存しているために置換できません。

説明: 他の表とのリレーションシップにおいて親である表は、置き換えることができません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: INSERT などの別のオプションを選択するか、またはユーティリティ操作に対して別のターゲットを選択してください。

- ディスクの使用可能なフリー・スペースが十分ではありません。

この警告コードは、指定されたドライブに別のディスクを挿入するためのプロンプトを表示する、アプリケーションの要求です。

ユーティリティは、ディスクがドライブに挿入されるまで、再呼び出しを待ちます。

ユーザーの処置: ディスクの挿入をユーザーに促して、処理を継続するか終了するかを指示する *callerac* パラメータを使用して、ユーティリティへ戻ってください。

SQL3196N 入力ファイルが見つかりませんでした。

説明: データベースにロードされるソース・ファイルが、*datafile* パラメータで示されているパスに見つかりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 入力ファイルが存在し、そのファイルへのパスが正しいことを確認してください。

SQL3197N インポートまたはエクスポートの複数コピーを実行しようとしてしました。

説明: システムで、インポートまたはエクスポート・ユーティリティの複数インスタンスを実行しようとしてしましたが、これはサポートされていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 他の処理が同じユーティリティを実行しようとしていないときに、2 次操作の再サブミットを行ってください。

SQL3203N 指定されたターゲットが主キーを持っていないか、またはすべての列が主キーになっているために、そのターゲットに対して **INSERT_UPDATE** オプションを使用することができません。

説明: INSERT_UPDATE オプションは、ターゲット表が主キーを持っていて、ターゲット列に主キーのすべての列が含まれている場合にのみ有効です。さらに、ターゲット列のリストおよびターゲット表には、主キーの一

部ではない列が少なくとも 1 つは入っている必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: INSERT などの別のオプションを選択するか、またはユーティリティー操作に対して別のターゲットを選択してください。

SQL3204N INSERT_UPDATE オプションが、ビューに対して適用できない場合があります。

説明: INSERT_UPDATE オプションはビューには無効ですが、ユーティリティー操作のターゲットとしてビューが選択されています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: INSERT などの別のオプションを選択するか、またはユーティリティー操作に対して別のターゲットを選択してください。

SQL3205N 指定されたビューは、基本表がそれに依存しているために置換できません。

説明: 基本表が他の表 (それ自体を含みます) とのリレーションシップで親表であるビューは、置き換えることができません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: INSERT などの別のオプションを選択するか、またはユーティリティー操作に対して別のターゲットを選択してください。

SQL3206N 指定されたビューは、定義に副照会が含まれているために置換できません。

説明: 定義に副照会が入っているビューは、置き換えることができません。ビュー定義が他のビューの定義に依存している場合、他のビューは副照会を持つことはできません。ターゲット・ビューに基づいているビューの定義で副照会を使用する場合は、REPLACE オプションを使用することはできません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: INSERT などの別のオプションを選択するか、またはユーティリティー操作に対して別のターゲットを選択してください。

SQL3207N 無効な表のリストが指定されました。理由コード *reason-code*。

説明: 指定の traversal-order-list/subtable-list は無効です。理由コードの説明は以下のとおりです。

1. traversal-order-list で指定された表が PRE-ORDER 様式でない。

2. traversal-order-list で指定された表が接続されていない。

3. スキーマ名の不一致が traversal-order-list/subtable-list にある。

4. REPLACE オプションで、traversal-order-list で欠落している副表がある。

5. Subtable-list が等しくないか、あるいは traversal-order-list のサブセットである。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいて、ユーザー・アクションは以下ようになります。

1. traversal-order-list を PRE-ORDER 様式にする。
2. traversal-order-list のすべての表を接続する。
3. スキーマ名を同じにする。
4. REPLACE オプションが使用されている場合、階層にあるすべての副表が入っているか確認する。
5. subtable-list が等しいか、traversal-order-list のサブセットにする。

SQL3208W 型付き表から regular 表へデータをインポートしています。

説明: ユーザーは、型付き表から regular 表へのデータ・インポートを指定しました。object_id 列はインポート中にキャストされないことに注意してください。

ユーザーの処置: この操作は意図的なものであるか、確認してください。

SQL3209N CREATE オプションを指定したインポートでは、副表名および属性名の変更をすることができません。

説明: CREATE オプションが使用されている場合、副表名および属性名の変更はできません。

ユーザーの処置: IMPORT コマンドをチェックして、subtable-list の指定がないことを確認してください。

SQL3210N オプション *option* は、*command-name* の階層と非互換です。

説明: *option* は、EXPORT、IMPORT、または LOAD の階層と非互換です。

ユーザーの処置: 階層サポートのコマンド構文をチェックしてください。

SQL3211N LOAD は型付き表をサポートしません。

説明: LOAD は型付き表をサポートしません。IMPORT を使用するようにしてください。

ユーザーの処置: IMPORT を使用して階層データをデ

ータベースに入れてください。

SQL3212N DATALINK 列を持つ表または削除ペンディング状態の表スペースの **LOAD** コマンドの **TERMINATE** オプションは現在サポートされていません。

説明: DATALINK 列の入った表、または削除ペンディング状態の表スペースに存在する表に対する、破壊、割り込み、または強制された **LOAD** 操作の終了が試行されました。これは現在サポートされていません。

ユーザーの処置: 破壊、割り込み、または強制された **LOAD** 操作を回復するために、**LOAD** コマンドの **RESTART** オプションを使用してください。

SQL3213I 索引付けモードは *mode* です。

説明: 索引付けモード値は以下のとおりです。

REBUILD

索引は完全に再作成されます

INCREMENTAL

索引は拡張されます

DEFERRED

索引は更新されませんが、次にアクセスする前にリフレッシュが必要だとしてマークされます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3214N LOAD ユーティリティは、ユニーク索引を持つ表の据え置き索引付けをサポートしていません。

説明: ユニーク索引を持つ表に索引付けモード **DEFERRED** が指定されました。これは有効ではありません。

ユーザーの処置: 索引付けモード **AUTOSELECT**、**REBUILD**、または **INCREMENTAL** を指定してコマンドを再発行してください。

SQL3215W ロード・ユーティリティは現在、他のターゲット表のオブジェクトと同じ表スペースに表の索引オブジェクトが存在する表の **DMS** 表スペースにロードを行い、**COPY** オプションとともに指定されている場合の **INCREMENTAL** 索引付けをサポートしていません。 **REBUILD** 索引付けモードが代わりに使用されます。

説明: **INCREMENTAL** 索引付けモードはこの操作ではサポートされていません。 **REBUILD** 索引付けモードが代わりに使用されます。

ユーザーの処置: ユーザーは、ロードされる表内の他のオブジェクトと共有されていない表スペースに索引を定義することによって、この警告を回避できます。または **COPY** オプションの使用を避けてください。 **COPY** オプションの代わりに全リストについては、**DB2** の資料を参照してください。

SQL3216W 表の索引オブジェクトがロード・ユーティリティの開始時に不整合でした。 **INCREMENTAL** 索引付けは、このロード・ユーティリティ操作中には実行できません。 **REBUILD** 索引付けモードが代わりに使用されます。

説明: **INCREMENTAL** 索引付けは、整合性のある索引オブジェクトをロード・ユーティリティの開始時に持つ表のみで使用できます。 索引付けモード **REBUILD** を使用してロードを行うと、整合性のある方法で表索引が再作成されます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3217W INCREMENTAL 索引モードは、**INSERT INTO** アクションを使用してデータを付加するために **LOAD** を使用するときのみサポートされます。現在の **LOAD** アクションは *action* です。ユーティリティは索引付けモード *mode* を代わりに使用します。

説明: **INCREMENTAL** 索引付けは、ロード **INSERT** アクションを使用して表にデータを付加するときのみ使用できます。 **REPLACE**、**RESTART**、または **TERMINATE** アクションとともにロードを行うときは、この機能はサポートされません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3218C 損傷を受けた索引ファイルを見つけたため、**LOAD** ユーティリティは操作を続行できません。 データベースを再始動し、**LOAD** コマンドを再サブミットしてください。

説明: ターゲット表でディスク・データ構造の索引が不整合状態にあるため、**LOAD** ユーティリティは操作を続行できません。

ユーザーの処置: アプリケーションをすべて終了し、影響を受けたデータベースに **RESTART DATABASE** コマンドを出して、損傷を受けた索引を再作成してください。その後、**LOAD** コマンドを再サブミットしてください。

SQL3219N **LOAD** ユーティリティーは、ターゲット表の制約チェックを使用不可にできませんでした。

説明: ターゲット表の制約チェックを使用不可にしようと試みているときに、LOAD ユーティリティーが問題を見つけました。

ユーザーの処置:

- ターゲット表に SET INTEGRITY OFF コマンドを出してから、LOAD ユーティリティーを実行してください。
- 前に失敗した LOAD 操作の後、REPLACE モードで LOAD を試みている場合、LOAD TERMINATE コマンドを使用して表スペースにアクセス可能状態にしてから、LOAD REPLACE コマンドを出してください。

SQL3220W ボリューム *volume-name* が *directory-name* ディレクトリーで見つかりませんでした。このディレクトリーにボリュームをコピーして、LOAD/IMPORT を続行してください。

説明: 複数の IXF ファイルの LOAD/IMPORT が試みられましたが、いずれかのファイルが指定されたディレクトリーにありません。LOAD/IMPORT は、最初のファイルと同じディレクトリーで残りのファイルを探します。

インポートは終了します。

ユーザーの処置:

- 残りのファイルを見つけて、それを最初のファイルと同じディレクトリーに置いてください。その後で、*callerac* に SQLU_CONTINUE を指定して、もう一度 LOAD/IMPORT を呼び出してください。LOAD/IMPORT は、ファイルの処理を続けます。
- *callerac* に SQLU_TERMINATE を指定して LOAD/IMPORT を呼び出し、LOAD/IMPORT を終了します。

SQL3221W ...COMMIT WORK が開始されました。
入力レコード数 = *count*

説明: インポートは処理済みの作業を COMMIT 中です。

ユーザーの処置: このメッセージの直後に SQL3222W メッセージが表示されない場合は、COMMIT が失敗しており、表またはビューをチェックして、インポートされたレコードを調べる必要があります。その後で、正常にインポートされている行をスキップするために、そのレコード数を RESTARTCOUNT に設定してインポートを再開し、残りのファイルをインポートすることがで

きます。(CREATE、REPLACE_CREATE または REPLACE を使用していた場合、次のインポートは INSERT オプションを指定して呼び出してください。)

SQL3222W データベース変更の ...COMMIT は成功しました。

説明: COMMIT は成功しました。

ユーザーの処置: このメッセージには、処置は必要ありません。

SQL3223N タイプ・ポインター *parameter* のパラメーターが、正しく指定されていません。

説明: タイプ <parameter> のパラメーターが適切に指定されていません。タイプは "struct sqluimpt_in"、"struct sqluimpt_out"、"struct sqluexpt_out"、"struct sqluload_in"、"struct sqluload_out"、"struct sqluunld_in"、または "struct sqluunld_out" のいずれかです。ポインターは NULL ポインターであるか、適切な構造を指している必要があり、その sizeofStruct フィールドは、SQLUIMPT_IN_SIZE (struct sqluimpt_in の場合)、SQLUIMPT_OUT_SIZE (struct sqluimpt_out の場合)、SQLUEXPT_OUT_SIZE (struct sqluexpt_out の場合)、SQLULOAD_IN_SIZE (struct sqluload_in の場合)、SQLULOAD_OUT_SIZE (struct sqluload_out の場合)、SQLUUNLD_IN_SIZE (struct sqluunld_in の場合)、SQLUUNLD_OUT_SIZE (struct sqluunld_out の場合) のいずれかに初期化される必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいパラメーターを指定して、もう一度ユーティリティーを呼び出してください。

SQL3225N RESTARTCOUNT 値または SKIPCOUNT 値がファイルの行数より大きくなっています。行はロードされません。

説明: ユーティリティーが、行が表/ビューにロードされない結果となる、入力ファイルの行数より大きな RESTARTCOUNT 値または SKIPCOUNT 値を指定して呼び出されました。

ユーザーの処置: RESTARTCOUNT 値または SKIPCOUNT 値が正しいことを確認し、ユーティリティーを再呼び出ししてください。

SQL3227W レコード・トークン *token1* は、ユーザー・レコード数 *token2* を参照していません。

説明: 表のロード、インポートあるいはエクスポート中にエラーあるいは警告が発生しました。CPU 並列処理が、問題が発生した時に複数個あり特定のユニークなトークンを持つユーザー・レコードを識別する SQL メッセージが書き込まれます。このメッセージはソース・ユーザー・データのレコード番号に対して、ユニークなレコード・トークンをマップするために与えられます。

ユーザーの処置: 該当するアクションについては、オリジナルの SQL メッセージを参照してください。

SQL3228N DEFERRED INDEXING は、DATALINK 列を持つ表ではサポートされていません。

説明: ロード・ユーティリティの “indexing mode” オプションが “deferred” として指定されました。このオプションは、DATALINK 列を持つ表ではサポートされていません。

ユーザーの処置: 異なる索引付けモードを指定してロード・コマンドを出し直してください。

SQL3250N COMPOUND=*value* が無効値であるか、あるいは他のインポート・パラメータか、ターゲット表定義とともに使用できません。

説明: インポート・ユーティリティに COMPOUND=*x* オプションが指定されていますが、以下のいずれかの理由により処理できません。

- INSERT_UPDATE オプションが使用されているときは、これは無効です。
- これは、次のファイル・タイプ修飾子で無効です。IDENTITYIGNORE、IDENTITYMISSING、GENERATEDIGNORE、GENERATEDMISSING
- インポートされているデータベースが、前のリリースのサーバーまたはゲートウェイを通してアクセスされています。
- 値が許容範囲の 1 から 100 を超えています。(DOS または Windows の場合、最大値は 7 です)。
- インポートされている表は階層または型付き表です。
- インポートされている表は、列を生成しています。

ユーザーの処置: filemod オプションを COMPOUND=*x* の正しい使用方法に変更するか、ファイル・タイプ修飾子オプションから COMPOUND=*x* を除去してください。

SQL3251N インポート中に、“number” 以上のエラーが起きました。

説明: COMPOUND オプションの使用中に、ユーティリティが sqlca で中継できる (最大値は 7) 以上のエラーを見つけました。これらのエラーのメッセージは、メッセージ・ファイルには出力されません。

ユーティリティは処理を続けます。

ユーザーの処置: インポート中に挿入された行ごとのすべてのエラー・メッセージが必要な場合は、COMPOUND オプションを使用しないか、または COMPOUND 値を 7 以下で使用してください。

SQL3260N LDAP ディレクトリーにアクセス中、予期しないエラーが発生しました。エラー・コード = *error-code*

説明: LDAP ディレクトリーにアクセス中、予期しないエラーが発生しました。コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) とエラー・コードを記録してください。独立トレース機能を使用して DB2 トレースを取得してください。さらに IBM サービス技術員に連絡してください。

SQL3261N 必要な入力パラメーターが指定されなかったために、REGISTER LDAP コマンドが正常に完了しませんでした。理由コード = *reason-code*

説明: 以下の理由コードに示されているとおりに必要なパラメーターが指定されなかったために、REGISTER LDAP コマンドが正常に完了しませんでした。

- 1 ネットワーク ID パラメーターが指定されていませんでした。
- 2 パートナー LU パラメーターが指定されていませんでした。
- 3 トランザクション・プログラム (TP) 名パラメーターが指定されていませんでした。
- 4 モード・パラメーターが指定されていませんでした。
- 5 Netbios NNAME パラメーターが指定されていませんでした。
- 6 TCP/IP ホスト名パラメーターが指定されていませんでした。
- 7 TCP/IP サービス名パラメーターが指定されていませんでした。
- 8 IPX アドレスが指定されていませんでした。

9 コンピューター名が指定されていませんでした。

10 インスタンス名が指定されていませんでした。

ユーザーの処置: 必要な入力パラメーターを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3262N TCP/IP サービス名 *name* が無効です。

説明: 指定された TCP/IP サービス名が無効です。

ユーザーの処置: TCP/IP サービス名が構成されている、ローカル `etc/services` ファイルに予約済みであることを確かめてから、コマンドを再サブミットしてください。または TCP/IP サービス名に割り当てられているポート番号を指定してください。

SQL3263N サポートされていないプロトコル・タイプです。

説明: 指定されたプロトコル・タイプはコマンドでサポートされていません。

ユーザーの処置: サポートされているプロトコル・タイプを使用してコマンドを再サブミットしてください。

SQL3264N DB2 サービスが LDAP に登録されていません。

説明: DB2 サービスが LDAP に登録されていなかったために、コマンドは正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: REGISTER LDAP コマンドを使用して DB2 サーバーを LDAP に登録してください。次にコマンドを再サブミットしてください。

SQL3265N LDAP 認証の途中で予期しないエラーが起きました。

説明: 予期しない LDAP システム・エラーのために LDAP ユーザーの認証ができませんでした。

ユーザーの処置: 独立トレース機能を使用して DB2 トレースを取得してください。さらに IBM サービス技術員に連絡してください。

SQL3266N LDAP ユーザー・パスワードが間違っています。

説明: 指定されたパスワードは、指定されたユーザー識別名 (DN) の正しいパスワードではありません。

ユーザーの処置: 正しいパスワードを使用してコマンドを再サブミットしてください。

SQL3267N *authid* は、要求されたコマンドを実行するために十分な権限を持っていません。

説明: LDAP ユーザーが、要求されたコマンドを実行するために十分な権限を持っていなかったために、コマンドが正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: LDAP ユーザーに操作を実行するための許可があることを確認してください。

SQL3268N LDAP スキーマには、現在の DB2 のリリースとの互換性がありません。

説明: サーバーに定義された LDAP スキーマに、現在の DB2 のリリースで使用されている DB2 オブジェクト・クラスまたは属性、あるいはその両方の定義が入っていません。

ユーザーの処置: LDAP スキーマを DB2 オブジェクト・クラスおよび属性とともに拡張する方法については、「DB2 管理ガイド」を参照してください。

SQL3269N LDAP サーバーを使用できません。

説明: LDAP サーバーが使用できないために、DB2 は LDAP ディレクトリー内の情報にアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: 以下のアクションを実行してください。

1. LDAP サーバーがアクティブであることを確認してください。
2. TCP/IP がマシンに正常に構成されているかどうかを確認してください。
3. "db2set DB2LDAPHOST" コマンドを実行して、DB2LDAPHOST レジストリー変数が TCP/IP ホスト名と LDAP サーバーのポート番号に設定されているかどうかを確認してください。DB2LDAPHOST が設定されていない場合、"db2set DB2LDAPHOST=<host-name>:<port-number>" コマンドを使用して設定できます。<host-name> は LDAP サーバーの TCP/IP ホスト名で、<port-number> は LDAP サーバーの TCP/IP ポート番号です。デフォルト・ポート番号は 389 です。

SQL3270N LDAP ユーザーの識別名 (DN) が無効です。

説明: LDAP ユーザーの識別名 (DN) が無効です。

ユーザーの処置: 有効な LDAP ユーザー DN を使用してコマンドを再サブミットしてください。

SQL3271N LDAP ユーザーの識別名 (DN) またはパスワード、あるいはその両方が現在のログオン・ユーザーについて定義されていません。

説明: CLI 構成または DB2 レジストリー変数などのユーザー・プリファレンスの設定時に、LDAP ユーザーの DN およびパスワードが現在のログオン・ユーザーに定義されていなければなりません。

ユーザーの処置: 現在のログオン・ユーザーについての LDAP ユーザーの DN およびパスワードの構成方法については、IBM eNetwork LDAP 文書を参照してください。

SQL3272N ノード *node-name* が LDAP ディレクトリーに見つかりませんでした。

説明: ノード *node-name* が LDAP ディレクトリーに見つからなかったため、コマンドが正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: ノード名が正しいことを確認してから、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3273N データベース *database-alias* が LDAP ディレクトリーに見つかりませんでした。

説明: データベース *database-alias* が LDAP ディレクトリーに見つからなかったため、コマンドが正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: データベース名が正しいことを確認してから、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3274W データベースは正常に作成されました。ただし、データベースは LDAP ディレクトリーにカタログされませんでした。

SQLCODE = *sqlcode*

説明: データベースは正常に作成されました。ただし操作中にエラーが発生したため、データベースを LDAP ディレクトリーにカタログを作成できませんでした。

ユーザーの処置: SQLCODE に示されているとおりにエラーを訂正してください。次に CATALOG LDAP DATABASE コマンドを使用して、データベースを LDAP ディレクトリーにカタログを作成してください。

SQL3275W データベースは正常にドロップされました。ただしデータベースは LDAP ディレクトリーでアンカタログされませんでした。SQLCODE = *sqlcode*

説明: データベースは正常にドロップされました。ただし操作中にエラーが発生したため、データベースを

LDAP ディレクトリーでアンカタログできませんでした。

ユーザーの処置: SQLCODE に示されているとおりにエラーを訂正してください。次に UNCATALOG LDAP DATABASE コマンドを使用して、データベースを LDAP ディレクトリーでアンカタログしてください。

SQL3276N LDAP 命名コンテキストを取得できませんでした。

説明: LDAP サーバーで LDAP 命名コンテキストを照会できませんでした。

ユーザーの処置: LDAP ディレクトリー管理者に連絡して、使用中の LDAP サーバーの LDAP 命名コンテキストを取得してください。IBM eNetwork Directory V2.1 を使用している場合、これは LDAP 接尾部の名前です。次に "db2set DB2LDAP_BASEDN=<命名-context>" コマンドを使用して、現在のマシンの命名コンテキストを設定してください。

SQL3277N データベース *database-alias* は LDAP ディレクトリーにすでに存在します。

説明: 同じ名前のデータベースが LDAP ディレクトリーにすでに存在するために、コマンドが正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: 他の別名を使用してコマンドを再サブミットしてください。

SQL3278N ノード *node* は LDAP ディレクトリーにすでに存在します。

説明: 同じ名前のノードが LDAP ディレクトリーにすでに存在するため、コマンドが正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: 他の別名を使用してコマンドを再サブミットしてください。

SQL3279N LDAP が使用できないため、コマンドが正常に完了しませんでした。

説明: LDAP サポートが現在のマシンで使用できないため、コマンドが正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: LDAP サポートがインストールされている場合、コマンド "db2set DB2_ENABLE_LDAP=YES" を実行して LDAP サポートを使用可能にしてください。

LDAP サポートがインストールされていない場合は、セットアップ・プログラムを実行し、LDAP サポートのインストールを選択する必要があります。

SQL3280N DRDA サーバーへの接続に失敗しました。

説明: この DB2 クライアントに DB2 Connect がインストールされておらず、この LDAP データベースをカタログするときにゲートウェイ・ノードが指定されなかったため、DRDA サーバーへの接続に失敗しました。

ユーザーの処置: この DB2 クライアントに DB2 Connect をインストールするか、または有効なゲートウェイ・ノードでこの LDAP データベースを再カタログしてください。

SQL3281N OSTYPE パラメーターが無効です。

説明: 指定された OSTYPE パラメーターが無効であったため、データベース・サーバーは LDAP に登録されませんでした。 OSTYPE パラメーターは、サーバーのオペレーティング・システム・タイプを記述します。

ユーザーの処置: DB2 によってサポートされているオペレーティング・システム・タイプ (OSTYPE) を指定してコマンドを再サブミットしてください。

SQL3282N 与えられた認証は無効です。

説明: 指定されたユーザーの識別名 (DN) とパスワードのいずれか、あるいは両方が無効でした。

このエラーは、LDAP をサポートする Windows 2000 ドメイン環境のユーザーが、十分な権限のないローカル・アカウントにログインした場合に発生することがあります。

ユーザーの処置: ユーザーの識別名 (DN) とパスワードの両方に有効な値を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

Windows 2000 ドメイン環境では、十分な権限を付与されたアカウントでログオンするようにしてください。

SQL3283W データベース・マネージャー構成が正しく更新されました。ただし、LDAP ディレクトリーでプロトコル情報は更新されません。 **SQLCODE** = *sqlcode-value*

説明: データベース・マネージャー構成が正しく更新されました。ただし、LDAP 操作中にエラーが起こったため、LDAP ディレクトリーでプロトコル情報を更新できませんでした。

ユーザーの処置: SQLCODE に示されているとおりにエラーを訂正してください。その後、UPDATE LDAP NODE コマンドを使用して LDAP ディレクトリーのプロトコル情報を更新してください。

SQL3284N nodetype パラメーターが無効です。

説明: 指定された nodetype パラメーターが無効であったため、データベース・サーバーは LDAP に登録されませんでした。

ユーザーの処置: データベース・サーバーを LDAP に登録するとき、有効な nodetype を使用してください。有効な nodetype パラメーターの値は SERVER、MPP、および DCS です。

SQL3285N LDAP がサポートされていないため、コマンドが正常に完了しませんでした。

説明: LDAP がこのプラットフォームでサポートされていないため、コマンドが正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: LDAP がこのプラットフォームでサポートされていない場合、次のコマンドを発行して LDAP サポートを使用不可にしてください。

```
db2set DB2_ENABLE_LDAP=NO
```

SQL3300 - SQL3399

SQL3300N 入力ファイルのレコードの順序に、誤りがあります。

説明: ワークシート形式 (WSF) ファイルのレコードは昇順 (行 1、列 1 ... 行 1、列 256; 行 2、列 1 ...) であると予想されます。WSF ファイルが損傷を受けたか、または間違っ生成されました (Lotus 製品のレベルが、データベース・マネージャーによってサポートされていない可能性があります)。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: サポートされているレベルの Lotus 製品を使用して、WSF ファイルを再生成してください。

SQL3301N 入力ファイルの途中で、BOF レコードが見つかりました。

説明: ファイルの開始 (BOF) レコードは、ワークシート形式 (WSF) ファイルの最初のレコードでなければなりません。それは、ファイルの他のロケーションに存在することはできません。WSF ファイルが損傷を受けたか、または間違っ生成されました (Lotus 製品のレベルが、データベース・マネージャーによってサポートされていない可能性があります)。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: サポートされているレベルの Lotus 製品を使用して、WSF ファイルを再生成してください。

SQL3302N データを何もインポートしないうちに、EOF レコードが見つかりました。

説明: 入力ファイルは有効ですが、インポートで利用できるデータが含まれていません。最初のワークシート行は、タイトル情報のために予約されています。2 番目のワークシート行は、列ラベルに使用されます。データは 3 番目の行から始まります。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーがデータ用に使用する行に有効なデータを用意して、ワークシート形式 (WSF) ファイルを再生成してください。

SQL3303N Action String パラメーターに CREATE または REPLACE_CREATE キーワードを使用する場合、ファイル・タイプは IXF でなければなりません。

説明: IXF 以外のファイル・タイプは、Action String (たとえば "REPLACE into ...") パラメーターの CREATE または REPLACE_CREATE キーワードでは許可されていません。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。データはインポートされません。

ユーザーの処置: ファイル・タイプを IXF に変更するか、あるいは INSERT、INSERT_UPDATE、または REPLACE を使用してください。

SQL3304N 表が存在しません。

説明: コマンドに指定されたパラメーターには、存在する表が必要です。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

- 既存の表名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。
- 入力ファイルが PC/IXF ファイルの場合は、CREATE オプションを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3305N この表はすでに存在しているので、作成できません。

説明: CREATE キーワードは、新しい表が作成されるべきであることを示しますが、指定された名前の表がすでに存在しています。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。データはインポートされません。

ユーザーの処置: 既存の表を消去するか、または CREATE 以外のキーワードを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3306N 行を表に挿入している間に、SQL エラー *sqlcode* が起きました。

説明: 表へ行を挿入しているときに、SQL エラーが起きました。

SQL エラーが重大でない場合、その行は拒否され、ユーティリティは処理を続けますが、それ以外の場合、ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 実際のエラーの詳細については、メッセージ・ファイル内の他のメッセージを調べ、必要に応じて、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3307N METHOD パラメーターの列数が **Action String** パラメーターの項目数と一致しないか、または **METHOD** パラメーターに指定された列が存在しません。

説明: IMPORT コマンドに CREATE または REPLACE_CREATE オプションが指定されています。次のいずれかを行ってください。

- NAMES または POSITIONS 方法標識が **METHOD** パラメーターに指定されている場合、**METHOD** に明示的に指定された列数が、**Action String** (たとえば "REPLACE into ...") パラメーターに明示的に指定された列数と等しくありません。
- DEFAULT 方法標識が **METHOD** パラメーターに指定されている場合は、PC/IXF ファイルの列数が、**Action String** パラメーターに指定された列数より小さくなっています。
- **METHOD** パラメーターに指定されたある列が、PC/IXF ファイルに存在しません。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。表は作成されません。

ユーザーの処置: **METHOD** と **Action String** パラメーターに指定した列を訂正するか、または **METHOD** パラメーターに指定した列を訂正してください。

SQL3308N PC/IXF の列 *name* のコード・ページの値が、アプリケーションのコード・ページの値と互換性がありません。 **FORCEIN** パラメーターは指定されませんでした。

説明: 列とアプリケーションのコード・ページの値が互換性がありません。 **FORCEIN** パラメーターが指定されていないと、IXF ファイルのコード・ページから、アプリケーションのコード・ページへの変換がサポートされていない場合は、データがロードできません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: このようなコード・ページを持つデータをロードするには、**FORCEIN** オプションを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3309N PC/IXF ファイルの列 *name* が、**GRAPHIC** 列として定義されています。 **FORCEIN** パラメーターは指定されませんでした。

説明: PC/IXF ファイルのロード中に、**GRAPHIC** データ列が見つかりました。 **FORCEIN** パラメーターが使用されていないため、データがロードできません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: **GRAPHIC** データを持つデータをロードする場合は、**FORCEIN** パラメーターを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3310N PC/IXF ファイルの列 *name* が無効です。

説明: IMPORT コマンドに CREATE または REPLACE_CREATE オプションが指定されています。PC/IXF ファイルのインポート中に、無効な C レコードを持つ列が見つかりました。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。表は作成されません。

ユーザーの処置: 入力ファイルの列定義情報を確認してください。

SQL3313N ディスク がいっぱいです。処理は終了しました。

説明: ディスクまたはディスクセットがいっぱいです。PC/IXF ファイルへのエクスポート中に、PC/IXF データ・ファイルがハード・ディスクに存在するか、PC/IXF データ・ファイルとデータベースが同じドライブに存在するか、または PC/IXF データ・ファイルとメッセージ・ファイルが同じドライブに存在しています。

EXPORT ユーティリティは処理を停止します。エクスポートされたデータは完全ではありません。

ユーザーの処置: ディスクまたはディスクセットにもっと多くのスペースを確保するか、あるいはデータベースまたはメッセージ・ファイルとは別のドライブに、データ・ファイルが置かれるように指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3314N A レコードの「日付と時刻」フィールドが、**H** レコードの「日付と時刻」フィールドと一致しません。

説明: PC/IXF ファイルのロード中に、ヘッダー (H) レコードの実行識別情報 (「日付と時刻」フィールド内) とは異なる実行識別情報を持つ A レコードが、PC/IXF ファイルで見つかりました。このアクションは、継続フ

ファイルの先頭にある A レコードには適用されません。

入力ファイルが壊れている可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 壊れたファイルを再作成するか、または壊れたファイルを修復して、可能な限りのデータをリカバリーしてください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL3315N サブタイプ C の A レコードの「ボリューム」フィールドが無効です。

説明: データベース・サービスによって作成された PC/IXF ファイルのロード中に、無効なボリューム情報（「ボリューム」フィールド内）を持つ A レコードが、PC/IXF ファイルで見つかりました。

入力ファイルが壊れている可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 壊れたファイルを再作成するか、または壊れたファイルを修復して、可能な限りのデータをリカバリーしてください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL3316N 入力ファイルの一部をクローズ中に、入出力エラーが起きました。

説明: 複数 PC/IXF ファイルのロード中に、システムが入力 PC/IXF ファイルを構成しているファイルのいずれかをクローズしているときに、入出力エラーが起きました。このアクションは、PC/IXF ファイルを構成するファイルのグループの最後のファイルには適用されません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。

SQL3317N filemod パラメーターで示されたストリングに、矛盾する情報が含まれています。

説明: *filemod* ストリングが、出力 WSF ファイルに対して世代と製品ファミリーを定義しています。複数の世代または製品ファミリーが、ストリングに定義されています。

ユーティリティは処理を停止します。出力ファイルは作成されませんでした。

ユーザーの処置: *filemod* ストリングを変更して、1 つの世代および製品ファミリーのみを定義してください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL3318N filemod パラメーターで、キーワードが重複しています。

説明: COLDEL、CHARDEL、または DECPT キーワードが、*filemod* パラメーターに複数回現れます。この状態は、区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの使用に、発生する可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードまたはエクスポートされません。

ユーザーの処置: 正しい *filemod* パラメーターを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3319N 表の作成中に、SQL エラー *sqlcode* が起きました。

説明: 表を作成しているときに、SQL エラーが起きました。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。表は作成されませんでした。データはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージの SQLCODE (メッセージ番号) を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3320N filemod パラメーターのキーワードの後に、区切り文字または小数点がありません。

説明: COLDEL、CHARDEL、または DECPT キーワードが、*filemod* パラメーターの最後にあります。キーワードに続く区切り文字または小数点がありません。この状態は、区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの使用に、発生する可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードまたはエクスポートされません。

ユーザーの処置: 正しい *filemod* パラメーターを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3321C ログがいっぱいであるか、またはロック・スペースがすべて使用されているために、データはデータベースへインポートされませんでした。リカバリーは失敗しました。SQLCODE *sqlcode* が戻されます。

説明: データベース・トランザクション・ログがいっぱいであるか、もしくはアプリケーションで使用可能なロック・スペースがすべて使用されているために、IMPORT ユーティリティが行データをデータベースに挿入できませんでした。すべての作業はコミットされましたが、データベース・トランザクション・ログまたは

ロック・スペースがいっぱいであるため、ユーティリティーは行を挿入できませんでした。

ユーティリティーは処理を停止します。それまでのすべての変更はコミットされましたが、現在の行はインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ファイルおよびアプリケーションで使用可能な量のロック・スペースが含まれたファイル・システムに残っているスペースをチェックしてください。最大ログ・サイズ、ロック・リストの最大ストレージ、またはデータベース構成ファイルの単一アプリケーションで使用可能なロック・リストの割合を考慮してください。

SQL3322N オペレーティング・システムのセマフォア・エラーが起きました。

説明: wait/post セマフォアで、エラーが発生しました。

ユーティリティーは処理を停止します。EXPORT ユーティリティーの場合は、メディア上のデータが不完全になっている可能性があります。IMPORT ユーティリティーの場合は、まだコミットされていないデータがロールバックされます。

ユーザーの処置: DB2 の停止と再始動を行って、ユーティリティーの再サブミットを行ってください。

SQL3324N 列 *name* に、認識されないタイプの *type* があります。

説明: SQL ステートメントから戻されるデータの列はサポートされません。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 必要なデータのデータ・タイプは、フェデレーテッド・サーバー、またはアクセスしたいデータ・ソースによってサポートされていません。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再発行してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: サポートされているデータ・タイプを指定してプログラムを再サブミットしてください。

SQL3325W 行 *row-number* のすべての列の値が NULL なので、行は WSF データ・ファイルには含まれません。

説明: WSF ガジェットのエクスポート中で、SELECT ステートメントがすべて NULL 値の行になった場合、行は WSF ファイルに追加されません。SQL3105N メッセージに示される行の合計は、SELECT ステートメン

トから返された行数であって、WSF ファイル内の行数ではありません。

コマンドの処理は続けられます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。これは通知メッセージです。

SQL3326N Action String パラメーターの表名に続く列リストが無効です。

説明: 表名の後に列リストがある *Action String* (たとえば "REPLACE into ...") パラメーターを指定して IMPORT または LOAD を呼び出しても、これが無効だった場合、このメッセージが出されます。たとえば、以下の *Action String* パラメーターは失敗します。

tablea() に挿入
括弧内に列がない

tablea(2 語) に挿入
無効な列名

tablea(grant.col1) に挿入
列名は修飾できない

tablea(x1234567890123456789) に挿入
長すぎる列名

tablea(col1,col2) に挿入
列名の欠落

コマンドは続行されません。

ユーザーの処置: 有効な列リストで *Action String* パラメーターを変更して、もう一度ユーティリティーを呼び出してください。

SQL3327N システム・エラーが発生しました (理由コード 1 = "*reason-code-1* および理由コード 2 = *reason-code-2*)。)

説明: 処理中にシステム・エラーが起きました。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。メッセージ・ファイルを保存してください。データベースを使用しているすべてのアプリケーションを終了してください。システムをリブートしてください。データベースを再始動してください。コマンドをやり直してください。

十分なメモリー・リソースが十分にあってもこの問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能呼び出してください。

SQL3330W 行 *row-number* の文字フィールドの長さが奇数ですが、ターゲット・データベースの列は **GRAPHIC** 列です。行はロードされません。

説明: 偶数の長を持つ文字フィールドのみが、データベースの **GRAPHIC** 列にロードされます。

行はロードされません。

ユーザーの処置: **IMPORT** コマンドに **CREATE** オプションを使用して、データを新しい表にロードするか、またはこの列はこの表にロードしないでください。

SQL3331C 指定されたアクセスは、ファイル (またはディレクトリー) の許可設定で許されていません。

説明: これは、他のエラー・メッセージをともなう場合があります。このメッセージは、ファイル属性が一致していないにもかかわらず、ファイルまたはディレクトリーにアクセスしようとしたことを示しています。原因は、以下のいずれかであると考えられます。

- 書き込み処理のための読み取り専用装置上のファイルのオープン
- 書き込み処理のための読み取り専用ファイルのオープン
- ファイルではなくディレクトリーのオープン
- ロックまたは共用違反の検出

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ファイルが使用されていない時にユーティリティを再実行するか、または書き込みが許可されているパスとファイルへ出力を切り替えて、ユーティリティを再実行してください。

SQL3332C オープンできるファイルの最大数に達しました。

説明: このメッセージは、他のエラー・メッセージをともなう場合があります。このメッセージは、オープンできるファイルの数が最大値に達していることを示しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 他のアプリケーションを終了させて、オープンされているファイルの数を減らし、ユーティリティを再実行してください。

SQL3333C ファイルまたはディレクトリーが存在しません。

説明: このメッセージは、他のエラー・メッセージをともなう場合があります。このメッセージは、アクセスするファイルまたはディレクトリーが存在しないか、または見つからないことを示しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なパスの入った正しいファイル名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3334C 使用できる十分なストレージがありません。

説明: このメッセージは、他のエラー・メッセージをともなう場合があります。このメッセージは、ファイルを開くために使用できる十分なストレージがないことを示しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーションを停止してください。解決策は以下のとおりです。

- システムに十分な実メモリおよび仮想メモリがあることを確認してください。
- バックグラウンド処理を終了してください。

SQL3335C ファイル・システムがいっぱいです。

説明: このメッセージは、他のエラー・メッセージをともなう場合があります。このメッセージは、書き込み処理に使用できるスペースが装置にないことを示しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 装置に使用可能なスペースを確保するには、不要なファイルを削除するか、または使用可能なスペースがある装置に出カデータの宛先を変更してください。

SQL3337N サーバーへのデータの書き込み中に、入力エラーが起きました。

説明: サーバー上の一時ファイルへデータを書き込もうとしたときに、入力エラーが起きました。(一時ファイルは、データベース・マネージャーのインスタンスの `sqllib` ディレクトリーの下にある `tmp` ディレクトリーで作成されます。) サーバー上のファイル・システムが、いっぱいになっている可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。データベースは変更されません。

ユーザーの処置: サーバーのシステム管理者に連絡し

て、サーバー上のスペースを使用可能にし、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3338N サーバー上の一時メッセージ・ファイルの読み取り中に、入出力エラーが起きました。

説明: サーバー上の一時メッセージ・ファイルを読み取ろうとしたときに、システム入出力エラーが起きました。

IMPORT 処理は完了しますが、データベース・クライアント上のメッセージ・ファイルが空、または不完全となっている可能性があります。

ユーザーの処置: リモート・データベースへ照会して、ユーティリティの処理が正常に終了しているかどうかを確かめてください。

SQL3340N 表に対する同時読み取りアクセスを使ってロードを実行できません。理由コード = *reason-code*

説明: ロード・コマンドの ALLOW READ ACCESS オプションは、*reason-code* に指定されているように、以下の場合にはサポートされません。

1. LOAD REPLACE を使用している場合。
2. INDEXING MODE DEFERRED を使用している場合。
3. ターゲット表が CHECK PENDING 状態にあり、READ ACCESS ONLY 状態にない場合。
4. 索引が無効とマークされている場合。
5. ALLOW READ ACCESS オプションが使用されていないロードで LOAD TERMINATE または LOAD RESTART を使用した場合、または元のロードからの一時ファイルが欠落している場合。

ユーザーの処置: ALLOW NO ACCESS オプションを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3341N USE オプションに指定された表スペースが無効です。理由コード = *reason-code*

説明: 索引の表スペース以外の表スペースにおける索引の再ビルドに使用できるのは、SYSTEM TEMPORARY 表スペースだけです。SYSTEM TEMPORARY 表スペースのページ・サイズは、索引の表スペースのページ・サイズと一致している必要があります。

ユーザーの処置: 正しいページ・サイズを持つ

SQL3400 - SQL3499

SYSTEM TEMPORARY 表スペースを参照する表スペース名を使って、コマンドを再サブミットしてください。*reason-code* は、次のように失敗を記述します。

1. USE 文節の表スペース名が見つかりません。
2. 表スペースは、SYSTEM TEMPORARY 表スペースでなければなりません。
3. SYSTEM TEMPORARY 表スペースのページ・サイズは、索引表スペースのページ・サイズと一致している必要があります。

SQL3342N LOCK WITH FORCE オプションを使用するだけの十分な権限がありません。

説明: ロード・ユーティリティの LOCK WITH FORCE オプションには SYSADM または SYSCTRL 権限が必要です。

ユーザーの処置: 十分な権限のあるユーザー ID で、ロード・コマンドを再発行してください。

SQL3343N ロードが失敗してからのロールフォワード後には、ロードの再開は許可されません。

説明: ロールフォワードが終わる前に失敗したロードは、ロールフォワードが完了しても再開できません。

ユーザーの処置: TERMINATE モードを使用してロードを終了するか、表をドロップしてください。

SQL3346W USE TablespaceName オプションが無視されました。理由コード = *reason-code*

説明: USE TablespaceName は、INDEXING MODE REBUILD の ALLOW READ ACCESS ロードに対してのみ有効です。INDEXING MODE AUTOSELECT が指定されている場合、ロードは索引の再ビルドを選択した場合にのみ、代替表スペースを使用します。

ユーザーの処置: 理由コードの説明を参照してください。

1. 索引付けモードは USE TablespaceName オプションと非互換です。
2. 表に索引がありません。
3. LOAD TERMINATE は、別々の表スペースを使用する必要がありません。
4. USE TablespaceName は、ALLOW READ ACCESS ロードに対してのみサポートされています。

SQL3400N **METHOD** に指定された方法は、非区切り文字付き **ASCII** ファイルには無効です。これはロケーションの 'L' である必要があります。

説明: 非区切り文字付き **ASCII** ファイルからロードしている場合、列はファイル内のロケーションによって選択される必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ソース・ファイルの列に対する有効なロケーションのセットを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3401N **METHOD** に指定された方法は、どのような **filetype** にも無効です。

説明: ファイルの列の選択方法が、*filetype* に許されていない値です。以下のいずれかの方法標識を選択してください。

- P (位置の場合)
- N (名前の場合)
- L (ロケーションの場合)
- D (デフォルトの場合)

これ以上の制約は、*filetype* に基づきます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な方法の標識を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3402N ゼロの値を持つ一組の開始ロケーションと終了ロケーションが、**NULL** にはできない列 *name* に指定されました。

説明: 開始ロケーションと終了ロケーションがゼロに設定されている一組のロケーションが、示されている列に指定されましたが、列は **NULL** にすることができません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ソース・ファイルの列に対する有効なロケーションのセットを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3403N 列 *name* への挿入のための、開始ロケーションと終了ロケーションのペアが無効です。

説明: 入力の非区切り文字付き **ASCII** ファイル内の示されているデータベース列に対して、入力データを位置づけるフィールド指定が無効です。フィールド指定に以

下のいずれかのエラーがあります。

- 開始ロケーションが 0 未満です。
- 終了ロケーションが 0 未満です。
- 終了ロケーションが開始ロケーションより小さくなっています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ソース・ファイルの列に対する有効なロケーションのセットを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3404N 列 *name* への挿入のための開始ロケーションと終了ロケーションのペアが、無効な数です。

説明: 入力の非区切り文字付き **ASCII** ファイル内の示されているデータベース列に対して、データを位置づけるフィールド指定が無効です。ロケーションの対が、50 バイト以上のフィールドを定義しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ソース・ファイルの列に対する有効なロケーションのセットを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3405N 列 *name* への挿入のための、開始ロケーションと終了ロケーションのペアが、無効な日付です。

説明: 非区切り文字付き **ASCII** ファイル内の示されているデータベース列に対して、データを位置づけるフィールド指定が無効です。ロケーションの対が、日付の外部表現には無効なフィールド長を定義しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ソース・ファイルの列に対する有効なロケーションのセットを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3406N 列 *name* への挿入のための開始ロケーションと終了ロケーションのペアが、無効な時間です。

説明: 入力の非区切り文字付き **ASCII** ファイル内の示されているデータベース列で、データを位置づけているフィールド指定が無効です。ロケーションの対が、時刻の外部表現には無効なフィールド長を定義しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ソース・ファイルの列に対する有効なロケーションのセットを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3407N 列 *name* への挿入のための開始ロケーションと終了ロケーションのペアが、無効タイム・スタンプです。

説明: 入力の実区切り文字付き ASCII ファイル内の示されているデータベース列に対して、データを位置づけるフィールド指定が無効です。ロケーションの対が、タイム・スタンプの外部表現には無効なフィールド長を定義しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ファイルの列に対する有効なロケーションのセットを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3408W 列 *name* への挿入のための開始ロケーションと終了ロケーションのペアが、ターゲット列よりも長いフィールドを定義しています。データは切り捨てられる可能性があります。

説明: 入力の実区切り文字付き ASCII ファイルからのデータを含むためのフィールド指定が、ターゲット・データベース列のサイズ (または最大サイズ) よりも大きいフィールドを定義しています。

ユーティリティーは処理を続けます。必要に応じて、切り捨てが行われます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3409W 列 *name* への挿入のための開始ロケーションと終了ロケーションのペアが、ターゲット固定長列よりも短いフィールドを定義しています。データは埋め込まれます。

説明: 示されたデータベースの列は固定長列です。入力の実区切り文字付き ASCII ファイルからのデータを含むためのフィールド指定が、ターゲット・データベースの列のサイズより小さいフィールドを定義しています。

ユーティリティーは処理を続けます。示されたデータベースの列へ入力される値は、必要に応じて、右側にスペースが埋め込まれます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3410N 列 *name* への挿入のための開始ロケーションと終了ロケーションのペアが、無効 **GRAPHIC** 列です。

説明: 示されたデータベース列に挿入される、ASCII ファイルの入力データを位置づけるフィールド指定が、奇数バイトのフィールドを定義しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ソース・ファイルの列に対する有効なロケーションのセットを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3411W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が、**GRAPHIC** 列には無効です。 **NULL** が挿入されます。

説明: 示されたフィールドの値が、受け入れ可能な **GRAPHIC** 列の値ではありません。値に、奇数バイトが含まれている可能性があります。DEL ファイルの場合は、列番号の値が、示された行のフィールドを示します。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

行は挿入されません。

ユーザーの処置: **NULL** が受け付けられない場合は、入力ファイルを修正して、コマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3412W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が **GRAPHIC** 列には無効ですが、ターゲット列は **NULL** にすることができません。この行は挿入されません。

説明: 示されたフィールドの値が、受け入れ可能な **GRAPHIC** 列の値ではありません。値に、奇数バイトが含まれている可能性があります。ターゲット列が **NULL** にできないために、**NULL** が挿入できません。DEL ファイルの場合は、列番号の値が、示された行のフィールドを示します。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

行は挿入されません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。その行が必要な場合には、入力ファイルを修正して、コマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3413W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が、ターゲット列には短すぎます。 **NULL** が挿入されます。

説明: 示されたフィールドの値は、ターゲット列には短すぎるので、受け付けられません。列番号の値が、フィールドが始まる行内のバイト・ロケーションを示しています。

NULL の値が挿入されます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。**NULL** が受け付けられない場合は、内部フィールドを修

正して、コマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3414N 一時ファイル *filename* が見つかりませんでした。

説明: ロード・フェーズの終わりで、ロードを再始動するために、一時ファイルが必要な情報を指定して作成されます。この時点の前にロードに割り込みが行われると、このファイルは作成されません。

このメッセージは、ロードの再始動時にこのファイルを検出できなかったことを表します。

ユーティリティーは停止します。

ユーザーの処置: 割り込みが行われる時点によっては、ビルド・フェーズで、ロードを再始動できる場合があります。

SQL3415W 行 *row-number* および列 *column-number* のフィールド値を、入力データ・ファイルのコード・ページから、データベースのコード・ページへ変換できません。NULL 値がロードされました。

説明: 示されたフィールドの値が、入力データ・ファイルのコード・ページからデータベースのコード・ページへ変換できません。

ユーザーの処置: NULL が受け付けられない場合は、入力データ・ファイルを修正して、コマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3416W 行 *row-number* および列 *column-number* のフィールド値を、入力データ・ファイルのコード・ページから、データベースのコード・ページへ変換できません。行はロードされません。

説明: 示されたフィールドの値が、入力データ・ファイルのコード・ページからデータベースのコード・ページへ変換できません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。その行が必要な場合には、入力データ・ファイルを修正して、コマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3417N ロケーション・ペア *pair-number* の開始および終了がコード・ページ *codepage* で無効です。

説明: コード・ページが DBCS エンコードそのものであるため、ロケーション・ペアはコード・ページで無効

です。これは、コード・ページの文字すべてが 2 バイト長であることを意味します。偶数バイトすべてが、ロケーション・ペアに指定される必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ソース・ファイルの列に対する有効なロケーションのセットを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3418W データが DB2 を使用してエクスポートされた場合には、NOCHARDEL ファイル・タイプ修飾子は指定しないでください。これは、区切り文字のないベンダー・データ・ファイルをサポートするために提供されます。

説明: NOCHARDEL ファイル・タイプ修飾子は、区切り文字のないベンダー・データ・ファイルをサポートするために提供されます。これは、データ・ファイルが DB2 EXPORT で作成された時に使用される対象ではありません。DEL ファイル・フォーマットでは、区切り文字がデータ損失または破損を回避するために使用され、そのためデフォルトの動作の一部となります。

ユーザーの処置: NOCHARDEL が IMPORT または LOAD コマンドで必要であるかどうか確認してください。

SQL3419W 指定したソート・オプションは、ベンダー・ソートによってサポートされていません。操作を続行するために、デフォルトの DB2 ソートが使用されます。

説明: ベンダーのソート・ライブラリーは DB2 レジストリー変数 DB2SORT の設定により活動状態になりません。現在のソート指定には、このベンダー・ソート・ライブラリーではサポートされていない機能が必要です。DB2 は操作を続行するために、デフォルトのソートを使用します。ベンダー・ソートでサポートされない機能は以下のとおりです。

- IDENTITY_16BIT 照合を使用して作成されたデータベース。
- データベース構成パラメーター ALT_COLLATE の IDENTITY_16BIT への設定。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3500 - SQL3599

SQL3500W ユーティリティが *phase* フェーズを *timestamp* に開始します。

説明: これは、フェーズが開始されつつあることと、前のフェーズが終了したことを示す情報メッセージです。フェーズは、(現れる順序で) 以下のとおりです。

- LOAD
- BUILD
- DELETE

LOAD フェーズ中に、データが表にロードされます。作成するべき索引がある場合は、BUILD フェーズが LOAD フェーズに続きます。ユニーク索引で重複キーが見つかった場合は、DELETE フェーズが BUILD フェーズに続きます。

LOAD の完了前に、LOAD が終了した場合は、LOAD を再始動するフェーズを判別する必要があります。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3501W 順方向リカバリーがデータベースに対して使用できないため、表が存在する表スペースが、バックアップ・ペンディング状態に置かれません。

説明: データベースに対して順方向リカバリーが不可能な場合を除いて、バックアップ・ペンディング状態に置かれる、表が存在する表スペースとなる LOAD の呼び出しに、COPY NO が指定されました。

ユーティリティは処理を続けます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3502N 許される警告の合計数を超える *number* の警告を、ユーティリティが見つけた。

説明: コマンドの発行中に出された警告の数が、ユーティリティの呼び出しで指定された警告の合計数を超えました。

ユーティリティは終了します。

ユーザーの処置: 適切なオプションで、正しいデータがロードされていることを確認するか、または許容警告数を増やしてください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL3503W 指定された合計数と等しい *number* 行を、ユーティリティがロードしました。

説明: ロードされた行数は、ユーティリティの呼び出しで指定された行の合計数と同じでした。

ユーティリティは正常に終了しました。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

SQL3504W 整合点を確立中です。

説明: 以下の場合、呼び出し時の SAVECOUNT パラメーターに指定された通常インターバル以外の時点で整合点が確立されます。

- メモリーまたは一時ファイルに保持されているメタデータの容量のしきい値に達した場合。
- コピー・イメージおよびロードに対して、終了しなければならぬ装置エラーが起きた場合。

ユーザーの処置: このメッセージの後も LOAD が継続される場合、アクションは必要ありません。LOAD が終了した場合は、すべてのエラーを訂正 (装置を活動化するか、または整合点が確立されるインターバルを減らしてください) した後で、再始動することができます。

SQL3505N RECLEN オプションの *filetmod* に指定された長さが、1 から 32767 までの有効範囲内ではありません。

説明: *filetmod* パラメーターに、ASC ファイルに対する RECLEN オプションが指定されています。指定された長さが無効です。

ユーザーの処置: 指定した長さを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3506W 行 *row-number*、列 *column-number* の NULL 標識に指定された値が無効です。'N' が値として使用されます。

説明: ASC ファイルの場合、NULL 標識列は、データ列ごとに指定することができ、'Y' または 'N' を持っている必要があります。'Y' は、列が NULL 値であることを示し、'N' は、列がデータを含んでいることを示します。上記のいずれの値も NULL 標識列にない場合、'N' が値として想定され、データが列にロードされません。

ユーザーの処置: データまたは NULL 標識が正しくない場合は、入力ファイルを修正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3507N NULL 標識に指定された列番号が 0 から 32767 までの有効な範囲にないか、または null 標識 パラメーターが無効です。

説明: *null_ind* パラメーターで、NULL 標識の列が ASC ファイルに対して指定されましたが、いずれかの列が有効でないか、または NULL 標識に渡されるポインターが有効ではありません。

ユーザーの処置: パラメーターを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3508N ロードまたはロード照会中に、タイプ *file-type* のファイルまたはパスへのアクセスでエラー。理由コード: *reason-code*
パス: *path/file*。

説明: ロードまたはロード照会の処理中に、ファイルにアクセスしようとしてエラーが起きました。ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: ロードを実行していて、表スペースがロード・ペンディング状態にない場合には、その問題を修正して、ロード・ユーティリティをもう一度呼び出してください。表スペースがロード・ペンディング状態にある場合には、RESTART または REPLACE モードでロード・ユーティリティを呼び出すか、あるいは 1 つ以上の表スペースのバックアップをリストアしてください。表スペースの状態は、LIST TABLESPACES コマンドを使用して判別することができます。

以下が理由コードのリストです。

- 1 ファイルをオープンすることはできません。
これは、ファイル名が正しくないか、あるいはファイル/ディレクトリーに対して十分な権限がないためと考えられます。問題を訂正して、ロードを再始動または再実行してください。
ロードの一時ファイルが破棄されているか、または先行して行われたバックアップから、データベースがリストアされている可能性があります。ロードの再開はこれらの状況下ではサポートしません。ロードを終了し、表をロード・ペンディングの状態から解除してください。
- 2 ファイルの読み取り/スキャンを行うことができません。
これは、ハードウェア・エラーの結果と考えられます。エラーがハードウェア・エラーの場合は、適切なアクションを実施してから、ロードを再始動または再実行してください。
- 3 ファイルへの書き込みまたはサイズ変更ができません。

これは、ディスクがいっぱいの状態であるか、あるいはハードウェア・エラーと考えられます。下記のファイル・タイプ・リストを参照して、ロードの実行に十分なスペースがあることを確認するか、あるいは別のロケーションを使用するように指定してください。ロードを再始動または再実行してください。エラーがハードウェア・エラーの場合は、適切なアクションを実施してから、ロードを再始動または再実行してください。

- 4 ファイルに無効なデータが含まれている。
ロードに必要なファイルに、無効なデータが入っています。TEMPFILES_PATH に記述されているアクションを参照してください。
- 5 ファイルをクローズすることができません。
ロードを再始動または再実行できない場合には、IBM 技術員に連絡してください。
- 6 ファイルを削除することができません。
ロードを再始動または再実行できない場合には、IBM 技術員に連絡してください。
- 7 パラメーターが間違っていて指定されています。ファイル・タイプのリストを参照し、エラーのあるパラメーターを判別し、正しいパラメーターを指定してロードを再実行してください。

以下がファイル・タイプのリストです。

SORTDIRECTORY

workdirectory パラメーターが正しく指定されていることを確認してください。ロードされるデータの索引キーの 2 倍のサイズが入る、十分な結合スペースがすべてのディレクトリー内になければなりません。また、ロード挿入およびロード再始動では、表内の既存のデータの索引キーの 2 倍の余裕がなければなりません。

MSGFILE

messagefile パラメーターが適切に指定されている、ことを確認してください。ロード中に出されるメッセージを書き込むのに十分なディスク・スペースがなければなりません。

これがロード照会の場合には、ローカル・メッセージ・ファイル・パラメーターが、その状態が照会中であるロードに使用された *messagefile* パラメーターと同じでない、ことを確認してください。

TEMPFILES_PATH

tempfiles path パラメーターが正しく指定されているかどうか確認してください。このパラメ

ーターの詳細については、データ移動ユーティリティ・ガイドおよびリファレンスを参照してください。

SQL3509W ユーティリティが、表から *number* 行を削除しました。

説明: ユニーク索引を持つ表がロードされている場合は、削除フェーズ中に、索引のユニーク性に違反する行が表から削除されます。このメッセージは、削除された行数に関する情報を提供します。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3510N ソート・フェーズ用の作業ディレクトリーがアクセスできません。

説明: ソート・フェーズ用に指定された 1 つ以上の作業ディレクトリーが、存在しないか、または読み/書き許可を持っていません。

ユーザーの処置: 指定した作業ディレクトリーが存在し、読み/書き許可が正しくセットアップされていることを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3511W 行 *row-number*、列 *column-number* に指定されたファイルが見つかりません。
NULL がロードされました。

説明: 示されたフィールドのファイル名が見つかりません。データ・タイプが不一致である可能性があります。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

NULL 値がロードされます。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3512W 行 *row-number*、列 *column-number* に指定されたファイルが見つかりませんが、ターゲット列は **NULL** にすることができません。行はロードされません。

説明: 示されたフィールドのファイル名が見つかりません。表の出力列は NULL 可能ではないため、NULL をロードできません。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

行はロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3513N ファイルのコード・ページが、データベースのコード・ページと一致しません。ファイルはロードされません。

説明: オリジナル・データベースとは異なるコード・ページを持つ DB2CS ファイルは、そのデータベースにロードできません。

ユーザーの処置: データベースのコード・ページを変更してコマンドを再サブミットするか、または別のファイル・タイプ (PC/IXF など) を使用して、データをオリジナル・データベースから新しいデータベースに移してください。

SQL3514N ユーティリティ・システム・エラーが起きました。関数コード: *function*。理由コード: *reason-code* エラー・コード: *error-code*

説明: データベース・ユーティリティの処理中に、システム・エラーが起きました。

ユーザーの処置: *function* の値に応じて、以下の異なるアクションが必要です。

考えられる関数コードは以下のとおりです。

- 1 - ロードのソート中にエラーが発生しました。
ロードの再始動をやり直してください。エラーが続いて起こる場合には、関数、理由コード、およびエラー・コードを技術サービス担当者に連絡してください。
- 2 - ベンダーのソート・ユーティリティの使用中にエラーが起きました。
ベンダーのソートの代わりに、DB2 クライアント/サーバー・ソート・ユーティリティを使用して、ロードをやり直してください。これを実行するためには、サーバーのプロファイル・レジストリーの値をブランクにリセットしてください。新規プロファイル・レジストリーの値をピックアップするためには、データベース・マネージャーを再始動しなければならないことがあります。エラーが続いて起こる場合には、関数、理由コード、およびエラー・コードをベンダー・ソート技術サービス担当者に連絡してください。

SQL3515W ユーティリティは、*phase* フェーズを *timestamp* に完了しました。

説明: これは、フェーズが完了したことを示す情報メッセージです。フェーズは、(現れる順序で) 以下のとおりです。

- LOAD
- BUILD
- DELETE

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3516N ユーティリティは、指定されたロードを再始動できませんでした。

説明: 障害が起きる前に、ロード・ユーティリティが、ロードによって実行された最後の整合点に矛盾を見つけました。この状態は、システム・エラーまたは無効なログ・ファイルによって発生する可能性があります。

ユーザーの処置: Build フェーズからロードを再始動して、表を整合状態に戻し、索引を作成 (可能であれば) するか、または REPLACE オプションを指定して、ロードを実行してください。

SQL3517N 予期しないレコードが、入力ソースから読み取られました。

説明: ユーティリティが、無効な形式のレコードを見つけました。オリジナル・ソースからコピーしたときに、ソースが壊れていた可能性があります。

処理は終了しました。

ユーザーの処置: オリジナル・ソースから バイナリ形式でコピーして、LOAD を再始動してください。

SQL3518N ソースのデータが、ロードする表と互換性がありません。

説明: 以下のいずれかの理由で、ソースがこの表のロードに使用できません。

- 表定義が、ソースの表定義と一致しません。
- ソースが、ロードされる表とは異なるプラットフォームで作成されています。
- ソースが、ロードされる表とは異なるコード・ページを持つ表から作成されています。

ユーザーの処置: 表とソースの両方が正しく指定されていることを確認してください。異なる定義の表から、あるいは異なるプラットフォームまたはコード・ページからデータをロードする場合は、IXF または DEL などの別のファイル・タイプを使用してください。

SQL3519W ロード整合点が開始されました。入力コード・カウント = *count*。

説明: ロード・ユーティリティが、すでにロードされている表データをコミットするために、整合点を実行しようとした。

ユーザーの処置: このメッセージのすぐ後に、メッセージ SQL3520W が表示されない場合は、整合点が失敗しました。表が整合状態まで戻され、すべての索引 (複数の場合) が作成されたことを確認するために、ロードを Build フェーズから再始動する必要があります。そうすると、ロードされたレコードのチェックが可能になります。ロードが成功したレコードをスキップして、ファイルの残りのレコードをロードするために、その数を設定した RESTARTCOUNT を使用して、もう一度ロードを始動します。

このメッセージの後にメッセージ SQL3520W が続く場合、このメッセージは情報のみで、処置は必要ありません。

SQL3520W ロード整合点が成功しました。

説明: ロードによって実行された整合点が成功しました。

ユーザーの処置: これは単なる情報メッセージです。応答は必要ありません。

SQL3521N 入力ソース・ファイル *sequence-num* が提供されませんでした。

説明: 複数入力ファイルを使用するロードが呼び出されましたが、すべてのファイルが提供されたわけではありませんでした。DB2CS ファイル・タイプの場合は、固有に作成されたすべての入力ソース・ファイルを提供する必要があります。IXF ファイル・タイプの場合は、すべての入力ソース・ファイルを正しい順序で提供する必要があります。

ユーティリティは終了します。

ユーザーの処置: すべての入力ソース・ファイルを提供し、すでにロードされたデータに対して RESTARTCOUNT を適切に設定したユーティリティを再始動してください。

SQL3522N ログ・リテンとユーザー出口の両方が使用できないときに、コピー・ターゲットが提供されませんでした。

説明: ログ・リテンとユーザー出口の両方が使用不可になっているデータベースのロードの呼び出しに、コピー・ターゲットが指定されました。このようなデータベースには、コピー・ターゲットは無効です。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: データベースがログ・リテインとユーザー出口を使用不可にする必要を確認して、コピー・ターゲットを指定せずにロードを呼び出してください。

SQL3523W メッセージ・ファイルから取り出すメッセージがありません。理由コード: *rc*

説明: LOAD 一時メッセージ・ファイルの照会からメッセージが返されませんでした。考えられる戻りコードは以下のとおりです。

- 1 LOAD 一時メッセージ・ファイルが存在しません。
- 2 LOAD 一時メッセージ・ファイルにメッセージが存在しません。

ユーザーの処置: 有効な表名が指定されているかどうか確認してください。表名が正しく指定されていて、メッセージが予期される場合、データベース・モニターをチェックし、ユーティリティがアクティブで、ロックなどのリソースを待機していないことを確かめてください。LOAD ユーティリティが進行中になるまでLOAD 一時メッセージ・ファイルは作成されず、LOAD ユーティリティの完了の後で削除されることに注意してください。

CLP コマンドの構文には、次のようなキーワードTABLE が含まれます。

LOAD QUERY TABLE <tablename>

TABLE キーワードをネストすることにより、ロード照会でファイル名 *tablename* のバイナリー・ロード・メッセージ・ファイルがオープンします。

SQL3524N オプション *option* は、無効な値 *value* を持っています。

説明: 指定する値は整数でなければなりません。オプションごとの範囲は、以下のようになります。

1. TOTALFREESPACE : 値は、0 から 100 の範囲にある必要があり、フリー・スペースとしての表の最後に付加される表の合計ページのパーセントとして解釈されます。
2. PAGEFREESPACE : 値は、0 から 100 までの範囲にある必要があり、フリー・スペースとして残されるデータ・ページごとのパーセントとして解釈されます。
3. INDEXFREESPACE : 値は、0 から 99 までの範囲にある必要があり、索引のロード時に、フリー・スペースとして残される索引ページのパーセントとして解釈されます。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 値を訂正して、コマンドを再実行してください。

SQL3525N *option-1* オプションは、*option-2* オプションとは非互換です。

説明: 非互換オプションがユーティリティに対して提供されました。

ユーザーの処置: オプションの 1 つを除去または修正して、コマンドを再サブミットしてください。有効なオプションの詳細については、「コマンド・リファレンス」を参照してください。

SQL3526N 修飾子文節 *clause* は現行ロード・コマンドに矛盾しています。理由コード: *reason-code*

説明: 指示されたこのロード・ファイル・タイプ・モード (修飾子) は、ご使用のロード/インポート/エクスポート・コマンドに互換性がありません。これは次のいずれかの理由によります。

- 1 現行のオプションでは、RECLEN および NOEOFCHAR ファイル・タイプ修飾子を指定する必要があります。1 つ以上のオプションが、コマンドからなくなっている。
- 2 指示されたオプション (DEL または ASC など) が入力または出力データ・ファイルの形式と矛盾している。
- 3 生成された、または ID 関連ファイル・タイプ修飾子が指定されていても、このような列がターゲット表に入っていない。
- 4 バージョン 8 より前のクライアントが使用されている場合、ユニーク索引に非 ID 生成列を持つ表をロードすることはできない。ただし、この列が CREATE INDEX ステートメントの INCLUDE 文節に指定されているか、または GENERATEDOVERRIDE ファイル・タイプ修飾子が使用されている場合は除きます。バージョン 8 より前のクライアントの場合は、ORGANIZE BY 文節に非 ID 生成列がある表をロードするときに、GENERATEDOVERRIDE ファイル・タイプ修飾子を指定する必要があります。
- 5 IDENTITYOVERRIDE ファイル・タイプ修飾子は、GENERATED BY DEFAULT ID 列を持つ表をロードしている場合、使用できない。
- 6 生成された列 (パーティション・キーの一部) が長いフィールドまたは LOB 列に関して定義

されている場合、LOBSINFILE ファイル・タイプ修飾子を、パーティション化されたデータベース・ロードに指定することはできない。

- 7 GENERATEDMISSING または IDENTITYMISSING 修飾子を現在のロードまたはインポート・コマンドで使った場合、表のすべての列がロード操作から除外される結果となります。
- 8 ID 列がパーティション・キーの一部である場合、あるいはパーティション・キーに生成された列が、パーティション・キーにない ID 列に依存する場合で、現在のロード・モードが PARTITION_ONLY、LOAD_ONLY または LOAD_ONLY_VERIFY_PART であるか、もしくは SAVECOUNT オプションの値が 0 より大きい場合は、IDENTITYOVERRIDE ファイル・タイプの修飾子を指定しなくてはなりません。
- 9 ターゲット表に ID 列について定義済みの生成された列が含まれ、GENERATEDOVERRIDE ファイル・タイプ修飾子が指定されている場合、IDENTITYOVERRIDE ファイル・タイプ修飾子も同様に指定される必要があります。これにより、生成された列の値は常に、表の ID 列の値と整合した方法で計算されます。
- 10 DUMPFILEACCESSALL ファイル・タイプ修飾子が有効なのは、ユーザーがターゲット表のロードに対する SELECT 特権を持ち、DUMPFILE 修飾子を指定し、そして DB2 サーバー・データベースのパーティションが UNIX ベースのオペレーティング・システムに置かれている場合だけです。

ユーザーの処置: 使用しているオプションの必要項目をチェックしてください。一致する修飾子文節 (ファイル・タイプ・モード) およびユーティリティ・オプションを使用してコマンドを再発行してください。

SQL3527N CODEPAGE オプションに対して **FILETMOD** パラメーターで指定された数は無効です。

説明: FILETMOD パラメーターの CODEPAGE オプションは無効です。

ユーザーの処置: コード・ページの数を見直し、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3528W CLP コマンドで指定した区切り文字 (列区切り文字、ストリング区切り文字、あるいは小数点) が、アプリケーション・コード・ページからデータベースコード・ページに変換される可能性があります。

説明: CLP コマンドがクライアントからサーバーに送信されると、コード・ページが異なる場合、このコマンドは、クライアントのコード・ページから、サーバーのコード・ページへ変換される可能性があります。

ユーザーの処置: 区切り文字が変換されていないかどうかを確認するには、16 進の形式で指定する必要があります。

SQL3529N operation-name 操作が、サポートされていないデータ・タイプ *data-type* を列 *column-number* で見つけました。

説明: *operation-name* 操作は、列 *column-number* にあるデータ・タイプ *data-type* をサポートしていません。

ユーザーの処置: サポートされているデータ・タイプについては、表定義および「データ移動の手引き」を調べてください。

SQL3530I ロード照会ユーティリティは、パーティション *partitionnumber* での *agenttype* の進行状況をモニターしています。

説明: ロード照会ユーティリティが MPP 環境で呼び出されました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3531I LOAD RESTART が行われました。

説明: 現在照会されているロードに RESTART オプションが与えられました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3532I ロード・ユーティリティは現在 *phase* フェーズです。

説明: これは、現在照会されているロードのフェーズを示す情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3533I ロード・ユーティリティは現在、索引 *number* の *number* を作成中です。

説明: これは、現在照会されているロードが BUILD フェーズである場合に返される情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3534I ロードの **DELETE** フェーズのおよそ *number* パーセントが完了しています。

説明: これは、現在照会されているロードが **DELETE** フェーズである場合に返される情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3535W **LOAD** コマンド・パラメーター *parameter-name* は、現在サポートされていません。この値は **LOAD** ユーティリティによって無視されます。

説明: **LOAD** コマンドに、現在はサポートされていないパラメーターが入っています。

ユーザーの処置: **LOAD** のための一時ソート・スペースの情報および **LOAD** パフォーマンス調整に関する指示については、DB2 資料を参照してください。

SQL3536N **SYSTEM TEMPORARY** 表スペース *table-space-name* がいっぱいです。

説明: 索引キーをソートしているときに、**LOAD** ユーティリティは表スペースがいっぱいの状態であることを検出しました。

ユーザーの処置: **SYSTEM TEMPORARY** 表スペース *table-space-name* に割り振られているスペースが、作成される索引全体のサイズの少なくとも 2 倍であることを確認してください。 **LOAD** ユーティリティを再始動してください。

SQL3537N **LOAD** ユーティリティの実行中に、ソート・メモリーを割り振ることができませんでした。

説明: ソート処理のために、**LOAD** ユーティリティで使用可能な処理仮想メモリーが十分にありません。

ユーザーの処置: このメッセージを受け取ったアプリケーションを終了してください。 ソート処理のために使用可能な仮想メモリーが十分にあるかどうか確認してください。

解決策は以下のとおりです。

- すべてのアプリケーションをデータベースから切断し、対応するデータベース構成ファイルのソート・ヒープ・パラメーター (*sortheap*) のサイズを小さくします。
- バックグラウンド処理を中止、または現在実行中の他のアプリケーションを終了、あるいはその両方を行います。
- 使用可能な仮想メモリーの量を増やします。

SQL3538N 複数の **LOAD** で同じ一時ファイル・パスを使用しているため、**LOAD QUERY** ユーティリティが失敗しました。

説明: 少なくとも 1 つの他の **LOAD** が、照会された **LOAD** として同じ **TEMPFILES PATH** を使用して呼び出され、現在も進行中です。 **LOAD QUERY** ユーティリティは、照会する **LOAD** を一意的に決定できません。

ユーザーの処置: 代わりに、**LOAD QUERY** の **TABLE** パラメーターを使用してください。

SQL3539N **LOAD TERMINATE** が少なくとも 1 回試行されているため、**LOAD RESTART** を実行できません。

説明: **LOAD TERMINATE** は、**LOAD TERMINATE** の完了後でなければ実行できません。

ユーザーの処置: ユーザーは **LOAD TERMINATE** のみ実行することができます。

SQL3550W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールド値は **NULL** ではありませんが、ターゲット列は **GENERATED ALWAYS** として定義されています。

説明: 入力ファイルに **NULL** ではないフィールド値が見つかりました。ターゲット列がタイプ **GENERATED ALWAYS** であるため、値をロードできません。 *column-number* は、データが欠落している行のフィールドを示しています。

ユーザーの処置: **LOAD** では、**identityoverride** ファイル・タイプ修飾子が使用されている場合のみ、明示的に **NULL** ではないフィールド値を **GENERATED ALWAYS ID** 列にロードできます。 **ID** 列ではない **GENERATED ALWAYS** 列の場合、明示的に **NULL** ではない値を行にロードするために **generatedoverride** ファイル・タイプ修飾子を使用できます。これらの修飾子の使用が適切でなければ、**LOAD** が行を受け入れる場合、フィールド値を **NULL** で置き換えなければなりません。

IMPORT の場合、**GENERATED ALWAYS** 列をオーバーライドする方法はありません。 ユーティリティが行を受け入れる場合、フィールド値を除去して **NULL** で置き換えなければなりません。

SQL3551W ユーティリティがオーバーライドする **GENERATED ALWAYS** 列が少なくとも 1 つ、表に含まれています。

説明: “override” ファイル・タイプ修飾子 (たとえば **IDENTITYOVERRIDE** または **GENERATEDOVERRIDE**) が指定されています。

IDENTITYOVERRIDE の場合、**GENERATED ALWAYS**

SQL3600 - SQL3699

SQL3600N 表 *table-name* はユーザー保守のマテリアライズ照会表であるか、またはチェック・ペンディング状態にないため、**SET INTEGRITY** ステートメントの **IMMEDIATE CHECKED** オプションは無効です。

説明: 表がチェック・ペンディング状態の場合やユーザー保守のマテリアライズ照会表でない場合、または **CASCADE DEFERRED** オプションを使ってチェック・ペンディング状態になっているその表の上位レベルの表のいずれかも呼び出しリストに入っていて、さらに中間上位レベルのすべての表もそのリストに入っている場合のみ、データで制約違反のチェックが行われます。

ユーザーの処置:

1. **OFF** オプションを指定して **SET INTEGRITY** ステートメントを使用し、表をチェック・ペンディング状態にしてください。
2. ユーザー保守のマテリアライズ照会表については、**IMMEDIATE UNCHECKED** オプションを使用してください。
3. この表の上位表を、チェック対象の表のリストに含めてください。この上位表はチェック・ペンディング状態であり、すべての中間上位表もこのリストに入っている必要があります。
4. 表がデータなし動作モードの場合は、**SET INTEGRITY...FULL ACCESS** ステートメントを指定して、表に対して完全アクセス・モードを強制してください。チェック・ペンディング状態のままになっているすべての従属即時マテリアライズ照会表も、その後の **REFRESH** ステートメントで完全な再計算を強制され、チェック・ペンディング状態のままになっているすべての従属即時ステー징表は、従属するマテリアライズ照会表をリフレッシュするために使用できなくなります。

sqlcode: -3600

sqlstate: 51027

として定義された ID 列のユニーク性に違反する可能性があります。

GENERATEDOVERRIDE の場合、その列定義に対応しない値の入った、ID 列ではない **GENERATED ALWAYS** 列が生じる可能性があります。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3601W ステートメントにより 1 つ以上の表が自動的にチェック・ペンディング状態になりました。

説明: 従属表、下層表、下層リフレッシュ即時マテリアライズ照会表またはステーjing表は、チェック・ペンディング状態に置かれました。これは、参照保全制約を強制したり、基本表、従属マテリアライズ照会表、およびステーjing表の間のデータのリレーションシップを強制するために行われます。

ユーザーの処置: すべての従属表、下層表、下層リフレッシュ即時マテリアライズ照会表またはステーjing表に対する保全性の妥当性検査を行うには、これらの表に対して **SET INTEGRITY...IMMEDIATE CHECKED** ステートメントを実行してください。どの表がチェック・ペンディング状態かを判別するには、以下の照会を発行してください。

```
SELECT TABSCHEMA, TABNAME, STATUS
FROM SYSCAT.TABLES
WHERE STATUS = 'C'
```

sqlcode: +3601

sqlstate: 01586

SQL3602W CHECK DATA 処理が制約違反を見つけ、それらを例外表に移動しました。

説明: **SET INTEGRITY** ステートメントの実行でチェックされるように指定された制約に違反する行が存在します。それらの表は、例外表に移動されます。

ユーザーの処置: 制約に違反した行については、例外表をチェックしてください。行は、オリジナル表から削除されますが、訂正することが可能で、例外表から戻すことができます。

sqlcode: +3602

sqlstate: 01603

SQL3603N SET INTEGRITY ステートメントによるデータ・チェック処理が、名前 *name* の制約に関係する保安全性違反を見つけました。

説明: SET INTEGRITY ステートメントによってチェックされるよう指定された表に定義されている制約に違反する行が見つかりました。名前 *name* は、制約名か、または生成された列の名前です。

ユーザーの処置: FOR EXCEPTION オプションが使用されていないため、行は表から削除されませんでした。

データをチェックする場合、FOR EXCEPTION オプションを使用し、SET INTEGRITY ステートメントを実行するようお勧めします。例外表の情報を使用した、データの訂正が必要になる可能性があります。

sqlcode: -3603

sqlstate: 23514

SQL3604N SET INTEGRITY ステートメントまたは **LOAD** ユーティリティーの表 *table-name* に対応する例外表 *excp-table-name* が正しい構造になっていないか、ユニークの索引、制約、生成された列、またはトリガーを使用して定義されているか、またはそれ自体がチェック・ペンディング状態にあります。

説明: 表に対応する例外表は、オリジナル表の定義と同様な定義を持つ必要がある場合があります。ユーティリティーのオプション列は、例外表を記述している資料の関連するセクションに指定されています。生成された列が例外表にないと思われれます。例外表には、制約またはトリガーを定義することはできません。例外表自体は、チェック・ペンディング状態にすることはできません。

ユーザーの処置: 資料内の関連するセクションに示されているように例外表を作成し、ステートメントまたはユーティリティーを再実行してください。

sqlcode: -3604

sqlstate: 428A5

SQL3605N SET INTEGRITY ステートメントに指定されている表 *table-name* が、チェックのためにリストされていないか、または 2 回以上指定されている例外表です。

説明: FOR EXCEPTION 文節が SET INTEGRITY ステートメントに指定されている場合は、以下のいずれかによって、このエラーが起きた可能性があります。

- 表が、チェックされる表のリストにありませんでした。
- チェックされる表が、例外表と同じでした。
- 例外表が、チェックされる複数の表に指定されていません。

ユーザーの処置: 表名を訂正して、コマンドを再発行してください。

sqlcode: -3605

sqlstate: 428A6

SQL3606N チェック中の表の数が、**SET INTEGRITY** ステートメントに指定されている例外表の数に一致しません。

説明: 例外表と、呼び出しリストに指定されたマテリアライズ照会表またはステージング表でない表の間には、一対一の対応が存在します。呼び出しリストに指定されている、マテリアライズ照会表またはステージング表である表は、対応する例外表を持つことはできません。

ユーザーの処置: マテリアライズ照会表またはステージング表でない表の例外表が存在していない場合は、作成し、コマンドを再度実行するために、その例外表を呼び出しリストに指定してください。マテリアライズ照会表およびステージング表の例外表は指定しないでください。

sqlcode: -3606

sqlstate: 428A7

SQL3608N 親表または基本表 *parent-table-name* がチェック・ペンディング状態の場合や、**SET INTEGRITY** ステートメントによってチェック・ペンディング状態になるような場合には、**SET INTEGRITY** ステートメントを使って従属表 *dependent-table-name* をチェックできません。

説明: 親表や基本表は、SET INTEGRITY ステートメントの前または後にチェック・ペンディング状態になることはできません。また、従属表をチェックするために呼び出しリストに含まれている必要があります。

ユーザーの処置: SET INTEGRITY ステートメントを実行して親表をチェックし、親表がチェック・ペンディング状態になっていないことを確認してください。従属表がマテリアライズ照会表またはステージング表の場合は、SET INTEGRITY ステートメントを実行して基本表をチェックし、基本表がチェック・ペンディング状態でないことを確認してください。

従属表がマテリアライズ照会表またはステージング表でない場合は、最初に親表をチェックすることをお勧めし

ます。また、従属表をチェックしたり、親表を呼び出しリストに組み込むこともできます。この場合、親表に制約違反の行があり、これらの行が削除されずに例外表に入れられていると、ステートメントが失敗することがあります。これは、FOR EXCEPTION オプションが使用されていない場合に起こることがあります。

従属表がマテリアライズ照会表またはステージング表の場合は、最初に基本表をチェックすることをお勧めします。また、従属マテリアライズ照会表をリフレッシュして、基本表を呼び出しリストに含めることもできます。

この場合、親表に制約違反の行があり、これらの行が削除されずに例外表に入れられていると、ステートメントが失敗することがあります。これは、FOR EXCEPTION オプションが使用されていない場合に起こることがあります。

参照サイクルの場合は、すべての表を呼び出しリストに含める必要があります。

sqlcode: -3608

sqlstate: 428A8

SQL3700 - SQL3799

SQL3700W 装置 *device* がいっぱいです。他のアクティブ装置 *active-devices* があります。新しいメディアを取り付けるか、または適切なアクションを行ってください。

説明: 指定された装置上のメディアがいっぱいです。この装置は、いずれかの *active-devices* + 1 の、データのアンロード先ターゲット装置です。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを実行してください。

- 指定した装置に新しいターゲット・メディアを取り付け、呼び出し側アクション 1 (SQLU_CONTINUE) を使用してアンロードを呼び出すことにより、アンロードを続けてください。

または

- *active-devices* がゼロ以外の場合は、呼び出し側アクション 4 (SQLU_DEVICE_TERMINATE) で UNLOAD ユーティリティを呼び出すことにより、この装置なしでアンロードを続行します。

または

- 呼び出し側アクション 2 (SQLU_TERMINATE) を指定して、UNLOAD ユーティリティを呼び出すことにより、アンロードを続けてください。

SQL3701W *lobpaths* パラメーターが指定されましたが、表に LOB または長いデータが含まれていません。このパラメーターは無視されます。

説明: *lobpaths* パラメーターが、LOB および長いデータに対して独立したターゲットを指定しています。表に LOB または長いデータが入っていないために、*lobpaths* パラメーターによって指定されているターゲットは使用されません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3702W 警告。装置 *device* に対して SQLCODE *sqlcode* を受信しました。アンロードは、この装置なしで続けられます。

説明: アンロード先ターゲットの 1 つである、指定装置に対して、SQLCODE *sqlcode* が検出されました。アンロードは続けられますが、この装置は無視されます。

ユーザーの処置: 指定された装置上のロードされたメディアは、アンロードされたデータを含まず、アンロードされたデータをロードするときに、LOAD ユーティリティに指定するメディアに含んではなりません。装置に関する問題を修正するには、返された SQLCODE を「メッセージ・リファレンス」で調べてください。

SQL3703W タイプ *type* の *yyy* のうち *xxx* ページがアンロードされ、書き込みのためにターゲット・メディアに送られました。

説明: アンロードされる表は、指定されたデータ・タイプの *yyy* ページで構成されています。このうち *xxx* ページが UNLOAD ユーティリティによって処理され、データをターゲット・メディアに書き込むメディア・ライターに送信されました。

type は、次のいずれかです。

- 0 (通常データ)
- 2 (長いデータおよび割り振り情報)
- 3 (LOB データ)
- 4 (LOB 割り振り情報)

Long および LOB データの場合、未使用スペースはアンロードされないけれども、データの再ロードの際に再作成されるため、*xxx* が *yyy* より小さくなく可能性がある点に気を付けてください。

通常データの場合でも、*xxx* = *yyy* の場合、最終メッセージが発行されない場合があります。代わりに、メッセージ 3105 が、アンロードが正常に終了したことを示すために使用されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは必要ありません。

SQL3704N 指定された `num_buffers` パラメーターが無効です。

説明: `num_buffers` パラメーターは、ユーティリティが使用するバッファの数を決定します。最小値は、`lobpaths` パラメーターが指定されていない場合は 2 で、`lobpaths` パラメーターが指定されている場合は 3 です。これは、ユーティリティが作業するために最低限必要な値です。ただし、このパラメーターが指定されないと、最適なバッファ数をユーティリティが使用します。この最適な数は、ユーティリティが実行される内部処理の数、および `lobpaths` パラメーターが指定されているかどうかによって異なります。指定されたバッファの数が最適な数より小さい場合は、いくつかの処理が、使用するためにバッファを待つこととなります。従って、このパラメーターに 0 を指定して、ユーティリティにバッファ数を選択させることが推奨されます。このパラメーターのみを指定する場合は、ユーティリティ・ストレージ・ヒープのサイズのために、ユーティリティが使用するメモリの容量を制限する必要があります。

ユーザーの処置: 有効な `num_buffers` パラメーターを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3705N 指定されたバッファ・サイズ・パラメーターが無効です。バッファ・サイズは、0 または 8 から 250000 の間で指定する必要があります。複数バッファの場合は、バッファ・サイズの合計が 250000 を超えてはいけません。

説明: ユーティリティを呼び出しているアプリケーションが、無効な `buffer size` パラメーターを指定しました。バッファ・サイズは、内部バッファ・サイズの決定に使用されます。値は、このバッファ用に獲得される 4K ページの数です。値は、0 または 8 から 250000 の間で指定する必要があります。複数バッファがある場合、バッファ数にバッファ・サイズを掛けた値は 250000 以下でなければなりません。

0 が指定された場合は、以下のようになります。

- 通常データがデータベース管理記憶表スペースに存在する表の場合は、表スペースに対して、デフォルト・バッファ・サイズが、表スペースのエクステント・サイズまたは 8 の大きい方になります。
- 通常データがシステム管理ストレージ表スペースに存在する表の場合は、デフォルト・バッファ・サイズが 8 になります。

ユーザーの処置: 有効なバッファ・サイズを指定し

て、コマンドを再発行してください。

SQL3706N `path/file` で、ディスク・フル・エラーが起きました。

説明: データベース・ユーティリティの処理中に、ディスク・フル・エラーが起きました。ユーティリティは停止します。

ユーザーの処置: ユーティリティで使用可能な十分なディスク・スペースがあることを確認するか、または出力をテープなどの別のメディアに変更してください。

SQL3707N `size1` を指定した `sort memory size` パラメーターが無効です。最小許容値は `size2` です。

説明: ソート・メモリー・サイズが、索引のキーのソートに十分な大きさではありません。

ユーザーの処置: 有効なソート・メモリー・サイズを指定して、コマンドを再発行してください。

最小ストレージ容量のみを使用させるには、0 (これをデフォルトにします) を指定してください。ただし、最小値以上を使用すると、ソートのパフォーマンスに影響を与えます。

SQL3783N コピー・ロケーション・ファイルのオープン中に、エラーが起きました。ファイルのオープンのエラー・コードは `errcode` です。

説明: ロード・リカバリーでコピー・ロケーション・ファイルのオープン中に、エラーが起きました。オペレーティング・システムのファイルのオープンの戻りコードが返されます。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー・コードを調べてください。可能であれば、エラーを修正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3784W コピー・ロケーション・ファイルからの読み取り中に、エラーが見つかりました。行 `line-no` で、エラー・タイプ `errtype` の障害が起きました。

説明: ロード・リカバリーでコピー・ロケーション・ファイルの読み取り中に、無効なデータが見つかりました。行番号とエラー・タイプが返されます。ユーティリティは、続行の応答を待ちます。

ユーザーの処置: コピー・ロケーション・ファイルのデータを訂正して、処理を継続または終了するべきであることを示す正しい `caller action` パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL3785N エラー *sqlcode* (追加情報 *additional-info*) により、表 *schema.tablename* に対するロード・リカバリーが、ノード *node-number* で *timestamp* に失敗しました。

説明: ロード・リカバリー中に、重大エラーが起きました。ユーティリティーは処理を停止します。

(注：パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー・コードを調べてください。修正アクションを取った後で、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3798W ロールフォワード・リカバリー API を呼び出してロード・リカバリーを継続するためのパラメーター *parameter* に、無効な値が使用されています。

説明: ロード・リカバリーが進行中に、渡されたパラメーターのいずれかが、ロード・リカバリーの現在の状態には無効でした。

SQL3800 - SQL3899

SQL3802N 無効な静止モード *quiesce-mode* が見つかりました。

説明: 無効な静止モードが *quiesce* API に渡されました。

ユーザーの処置: 正しいパラメーターを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3804N 索引が無効です。

説明: ユーティリティー・コマンドの処理中に、無効な索引が見つかりました。

ユーザーの処置: 「管理ガイド」を調べて、索引をもう一度妥当性検査する適切な方法を決め、状態を修復した後でコマンドを再サブミットしてください。

SQL3805N アプリケーション、または指定された表の 1 つ以上の表スペースの状態が、*loadapi* アクションまたは *quiescemode action* を禁止しています。理由コード = *reason-code*

説明: *load* API に渡された *loadapi* アクション (*quiescemode* または *callerac*) が、アプリケーションの状態、または表の 1 つ以上の表スペースの状態と矛盾しています。

ユーザーの処置: エラーの値を訂正して、処理を継続または終了するべきかを示す正しい *caller action* パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL3799W 警告 *sqlcode* (追加情報 *additional-info*) により、表 *schema.tablename* のロード・リカバリーが、ノード *node-number* で *timestamp* にペンディングになっています。

説明: ロード・リカバリー中に、警告状態が見つかりました。ユーティリティーは、続行の応答を待ちます。

(注：パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー・コードを調べてください。リカバリー・アクションを取った後で、処理を継続または終了するべきかを示す正しい *caller action* パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

以下の理由コードが考えられます。

- 01 指定された表の 1 つ以上の表スペースが、*loadapi* アクションまたは *quiescemode* を禁止しています。
- 02 アプリケーションが、論理作業単位の開始になっていません。この状態は、指定された *load* アクションを禁止します。
- 03 アプリケーションの状態が、指定された *load* アクションを禁止しています。
- 04 表の 1 つ以上の表スペースが、静止状態の最大数によって、すでに静止されています。
- 05 システム・カタログ表スペースを静止することができません。
- 06 表スペースがバックアップ・ペンディング状態の時には、コピーのロードは許可されません。
- 07 不正なフェーズでロードを再始動しようとした。
- 08 パーティション・キーが ID 列に依存し、すべての表パーティションがロード・フェーズから再開されない表への、ロードの再試行です。再開されたロードが ID 列への依存により初期

ロードのハッシュと異なる可能性がある場合、このようなロードは行のハッシュとして許可されません。

ユーザーの処置: 上記のそれぞれの理由に対応して、以下を行ってください。

- 01 正しい loadapi アクションまたは quiescemode を使用してコマンドを再サブミットするか、または表の表スペースの状態を修正してください。
- 02 正しい load アクションでコマンドを再サブミットするか、COMMIT または ROLLBACK のいずれかをサブミットして現行の作業単位を完了してください。
- 03 正しいロード・アクションを使用して、コマンドを再サブミットしてください。
- 04 静止状態の最大数に達している表の表スペースを判別してください。これらの表スペースを QUIESCE RESET してください。
- 05 システム・カタログ表スペースに存在しない表を指定して、コマンドを再サブミットしてください。
- 06 copy パラメーターを除去して、コマンドを再サブミットしてください。
- 07 ロードが再始動するフェーズを判別して正しいフェーズでコマンドを再サブミットしてください。
- 08 TERMINATE アクションを使用し、その後元のロード・コマンドを再サブミットして、ロード操作を終了してください。

SQL3806N 表の制約のすべてが、ロードされる表に対してオフになっているわけではありません。

説明: load API が呼び出されたときに、ロードされる表に対する 1 つ以上の制約がオンになっていました。

ユーザーの処置: すべての表コンテナがオフになった後で、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3807N インスタンスまたはデータベース *name* 静止はペンディング状態にあります。

説明: 他のユーザーが quiesce コマンドをサブミットし、まだ完了していません。

ユーザーの処置: quiesce が完了するのを待ってください。

SQL3808N インスタンスまたはデータベース *name* は非静止状態にあります。

説明: 他のユーザーが unquiesce コマンドをサブミットし、まだ完了していません。

ユーザーの処置: unquiesce が完了するのを待ってください。

SQL3900 - SQL3999

SQL3901N 重大ではないシステム・エラーが起きました。理由コード *reason-code*。

説明: 重大ではないシステム・エラーにより、処理が終了しました。

ユーザーの処置: トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出してください。次に、以下の情報を用意して、テクニカル・サービス担当者に提供してください。

- 問題記述
- SQLCODE および組み込み理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

SQL3902C システム・エラーが発生しました。これ以上の処理を行うことはできません。理由コード = *reason-code*

説明: システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出してください。次に、以下の情報を用意して、テクニカル・サービス担当者に提供してください。

- 問題記述
- SQLCODE および組み込み理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

SQL3910I 同期セッションが正常に完了しました。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3911I テスト同期セッションが正常に完了しました。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3912I **STOP** が正常に完了しました。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3913I **STOP** を発行しましたが、現在アクティブな同期セッションはありません。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3914I ユーザー割り込みが行われました。同期セッションは正常に停止しました。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3915I 結果がサテライト・コントロール・サーバーにアップロードされる前にユーザー割り込みが行われました。結果は、次の同期セッション時にアップロードされます。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3916I **STOP** 要求を受け取りました。同期セッションは正常に停止しました。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3917I 結果がサテライト・コントロール・サーバーにアップロードされる前に **STOP** 要求を受け取りました。結果は、次の同期セッション時にアップロードされます。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3918I 同期進行情報を正常に取得しました。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3919I サテライトがサテライト・コントロール・サーバーに接触する前に **STOP** 要求を受け取りました。同期は正常に停止しました。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3920I このサテライトのアプリケーション・バージョンは、このサテライトのグループで使用可能なものと一致しません。同期を行うことはできません。

説明: サテライトによって報告されたアプリケーション・バージョンが、サテライト・コントロール・サーバーに存在しません。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3921I このサテライトは、サテライト・コントロール・サーバーで使用不可になっています。同期を行うことはできません。

説明: 使用不可のとき、サテライトは同期を行うことができません。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3930W 実行する同期スクリプトがありません。

説明: 同期スクリプトは、実行のためサテライトにダウンロードされませんでした。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡して、同期スクリプトがこのサテライトのためのサテライト・コントロール・データベースで使用可能であることを確認してください。

SQL3931W テスト同期セッションが正常に完了しました。ただし、サテライト ID をサテライト・コントロール・データベースで見つけれませんでした。

説明: サテライト ID がサテライトで正しく定義されていないか、このサテライトがサテライト・コントロール・データベースに定義されていません。

ユーザーの処置: DB2SATELLITEID レジストリー変数を使用する場合は、サテライトのユニークの ID に設定されていることを確認してください。オペレーティング・システム・ログオン ID をサテライト ID として使用している場合、それを使ってログオンしてください。

SQL3932W テスト同期セッションが正常に完了しました。ただし、サテライトのアプリケーション・バージョンがローカルで設定されていないか、このサテライトのグループのものがサテライト・コントロール・サーバーに存在しません。

説明: サテライトのアプリケーション・バージョンが、このサテライトのグループで使用可能なものとは異なります。

ユーザーの処置: サテライトのアプリケーション・バージョンが正しい値に設定されていることを確認してください。

SQL3933W テスト同期セッションが正常に完了しました。ただし、サテライトのリリース・レベルは、サテライト・コントロール・サーバーのリリース・レベルにサポートされていません。

説明: サテライトのリリース・レベルは、サテライト・コントロール・サーバーのレベルの 1 つ上から 2 つ下までの範囲内でなければなりません。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3934W テスト同期セッションが正常に完了しました。ただし、このサテライトはサテライト・コントロール・サーバーで使用不可になっています。

説明: サテライトは、サテライト・コントロール・サーバーで使用不可の状態に置かれています。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3935W テスト同期セッションが正常に完了しました。ただし、このサテライトはサテライト・コントロール・サーバーで障害状態になっています。

説明: サテライトがコントロール・サーバーで障害状態になっています。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3936W 進行情報がありません。

説明: 同期セッションが、進行情報が記録される段階に達していないか、このサテライトのためのアクティブな同期セッションがありません。

ユーザーの処置: 同期セッションがアクティブであることを確認するか、後で進行情報を照会してください。

SQL3937W このサテライトのアプリケーション・バージョンが、このサテライトのグループで使用可能なものと一致しません。

説明: サテライトは、そのグループの特定のアプリケーション・バージョンとのみ同期を行うことができます。このサテライトのアプリケーション・バージョンは、コントロール・サーバーでサテライトのグループのために使用できません。

ユーザーの処置: サテライトのアプリケーション・バージョンが正しい値に設定されていることを確認してください。

SQL3938W スクリプトの実行中に割り込みが行われました。同期セッションは停止しましたが、サテライトが不整合状態にある可能性があります。

説明: 同期化処理のスクリプト実行フェーズが実行されているときに、割り込みが行われました。同期セッションは停止しましたが、スクリプトが不適切な場所で停止された可能性があるため、サテライトが不整合状態になっている場合があります。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3942I 同期セッション ID がサテライト用に正しく設定されました。

説明: セッション ID がサテライト用に正しく設定されました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3943N 同期セッション ID が、最大長である *length* 文字を超えています。

説明: 指定された同期セッション ID が、許可されている最大長 *length* 文字よりも長くなっています。

ユーザーの処置: ID が *nnn* 文字を超えないことを確認してください。

SQL3944I サテライトの同期セッション ID が正しくリセットされました。

説明: サテライトのセッション ID が正しくリセットされました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3945I サテライトの同期セッション ID が正しく検索されました。

説明: このサテライトのセッション ID が正しく検索され、返されました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL3946N 同期セッション ID 操作が失敗しました。

説明: 同期セッション ID 操作が不明な理由で失敗しました。

ユーザーの処置: 製品が正しくインストールされていることを確認してください。問題が解決しない場合、DB2 サービスに連絡してください。

SQL3950N 同期セッションがアクティブになっていません。アクティブにできる同期セッションは 1 つだけです。

説明: 一度にアクティブにできる同期セッションは 1 つだけです。

ユーザーの処置: 現在の同期セッションが正常に完了するのを待ってから、別のセッションを開始してください。

SQL3951N サテライト ID がローカルで見つかりません。

説明: オペレーティング・システム・ログオンが行われなかったか、または DB2SATELLITEID レジストリー変数が設定されていません。

ユーザーの処置: オペレーティング・システム・ログオン ID をサテライト ID として使用している場合、オペレーティング・システムにログオンしてください。DB2SATELLITEID レジストリー変数を使用する場合は、サテライトのユニークの ID に設定されていることを確認してください。

SQL3952N サテライト ID をサテライト・コントロール・サーバーで見つけることができませんでした。

説明: サテライト ID がこのサテライトで正しく定義されていないか、このサテライトがサテライト・コントロール・サーバーで定義されていません。

ユーザーの処置: DB2SATELLITEID レジストリー変数を使用する場合は、サテライトのユニークの ID に設定されていることを確認してください。オペレーティング・システム・ログオン ID をサテライト ID として使用している場合、それを使ってログオンしてください。

それ以外の場合は、ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3953N このサテライトは、サテライト・コントロール・サーバーで使用不可になっています。

説明: サテライト ID がサテライト・コントロール・サーバーで使用不可になっています。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3954N このサテライトは、サテライト・コントロール・サーバーで障害状態になっています。

説明: 直前の同期セッションが失敗したため、サテライトが障害状態になっています。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3955N サテライト・コントロール・データベース名またはその別名が見つかりませんでした。

説明: サテライト・コントロール・データベースが正しくカタログされていません。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3956N このサテライトのアプリケーション・バージョンがローカルで定義されていません。

説明: アプリケーション・バージョンがこのサテライトでローカルに定義されていないか、または正しく定義されていません。

ユーザーの処置: アプリケーション・バージョンが正しい値に設定されていることを確認してください。

SQL3957N 通信障害のため、サテライト・コントロール・サーバーに接続できません:
SQLCODE=*sqlcode*、
SQLSTATE=*sqlstate*、**tokens=***token1*、
token2、*token3*。

説明: 通信サブシステムによって、エラーが見つけられました。詳細については、*sqlcode* を参照してください。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3958N 同期セッション時にエラーが起きました:
SQLCODE=*sqlcode*、
SQLSTATE=*sqlstate*、**tokens=***token1*、
token2、*token3*。

説明: 通信サブシステムが不明なエラーを見つけました。詳細については、*sqlcode* を参照してください。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3959N 通信障害のため、同期セッションを開始できません:
SQLCODE=*sqlcode*、
SQLSTATE=*sqlstate*、**tokens=***token1*、
token2、*token3*。

説明: 通信サブシステムによって、エラーが見つけられました。詳細については、*sqlcode* を参照してください。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3960N 通信障害のため、サテライト・コントロール・サーバーに結果をアップロードできません:
SQLCODE=*sqlcode*、
SQLSTATE=*sqlstate*、**tokens=***token1*、
token2、*token3*。

説明: 通信サブシステムによって、エラーが見つけられました。詳細については、*sqlcode* を参照してください。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3961N サテライト・コントロール・サーバーで認証を受けられません。

説明: サテライト・コントロール・データベースに接続中、認証エラーが見つかりました。

ユーザーの処置: サテライト・コントロール・データベースに接続するときに必要なリモート管理ユーザー ID またはパスワード、あるいはその両方が正しくありません。正しいユーザー ID およびパスワードを指定するか、ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3962N データベース・エラーのため、同期を開始できませんでした:
SQLCODE=*sqlcode*、
SQLSTATE=*sqlstate*、**tokens=***token1*、
token2、*token3*。

説明: サテライト・コントロール・サーバーで、同期を妨げるエラーが起きました。

ユーザーの処置: もう一度同期を行ってください。問題が解決しない場合、ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3963N データベース・エラーのため、結果をアップロードできません:
SQLCODE=*sqlcode*、
SQLSTATE=*sqlstate*、**tokens**=*token1*、
token2、*token3*。

説明: サテライト・コントロール・サーバーに結果をアップロード中、エラーが起きました。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3964N サテライトのリリース・レベルがサテライト・コントロール・サーバーにサポートされていないため、同期が失敗しました。

説明: サテライトのリリース・レベルは、サテライト・コントロール・サーバーのレベルの 1 つ上から 2 つ下までの範囲内でなければなりません。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3965N サテライト・コントロール・サーバー障害のため、同期スクリプトをダウンロードできません: **SQLCODE**=*sqlcode*、
SQLSTATE=*sqlstate*、**tokens**=*token1*、
token2、*token3*。

説明: サテライトが、サテライトとの同期に必要なスクリプトをダウンロードできません。この障害で考えられる原因の 1 つは、サテライトの属性を持つパラメータ化されたスクリプトをコントロール・サーバーがインスタンス化できないことです。もう 1 つの原因として、リソース制約のため、サテライト・コントロール・サーバーが一時的に要求を完了できなかったことが考えられます。

ユーザーの処置: 要求を再試行してください。問題が解決しない場合、ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3966N 同期セッションが失敗しました。理由コード *reason-code*。

説明: 同期セッションは、以下のいずれかの理由で完了できませんでした。

- (01) 認証情報がない。

- (02) 同期に必要ないくつかのスクリプトがない。
- (03) システム・ファイルがないか、または壊れている。
- (04) システム・エラーのため、スクリプトを実行できなかった。

ユーザーの処置: 要求を再試行してください。問題が解決しない場合、ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3967N 進行情報が見つかりません。

説明: このサテライトの同期セッションの進行を調べることができません。データが壊れているか、または存在しません。

ユーザーの処置: 同期セッションがアクティブで、進行情報がない場合、ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3968N スクリプト障害のため、同期を正しく完了できませんでした。ただし、実行の結果はサテライト・コントロール・サーバーに送られました。

説明: 同期スクリプトの 1 つが、実行中に失敗しました。戻りコードが定義された成功コード・セット内にないか、またはスクリプトの実行に失敗しました。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3969N スクリプト実行中に割り込みを受け取ったため、同期が失敗しました。

説明: 割り込みを受け取ると、スクリプト実行は失敗します。システムが不整合状態にあると思われるため、このタイプの異常終了によって同期セッションは失敗します。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3970N 同期セッションが **SQLCODE** *sqlcode* **SQLSTATE** *sqlstate* で失敗しました。このエラーはロケーション *location* で見つかりました。

説明: 不明なエラーのため、スクリプト実行が失敗しました。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL4000 - SQL4099

SQL4001N *line* 行目の *column* 列目の文字 *character* が無効です。

説明: 指定された文字は、SQL ステートメントでは有効な文字ではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 無効な文字を取り除くか、または置き換えてください。

SQL4002N *token-1* と *token-2* は宣言されていないホスト変数であり、どちらも単一 SQL ステートメントの中で記述子名として使用することはできません。

説明: 示された ID はホスト変数として宣言されていません。記述子名が使用前に宣言されていません。単一ステートメント内の複数の記述子名が無効なので、少なくともホスト変数の 1 つが無効です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメント内の記述子名または未宣言のホスト変数の使用を修正してください。ステートメントには、他の未宣言のホスト変数が入っている可能性があります。

SQL4003N *line* 行目の SQL ステートメントは、現在のバージョンのプリコンパイラーではサポートされていません。

説明: プリコンパイラーのリリース番号とデータベース・マネージャーのインストールされたバージョンが互換性がありません。指定されたステートメントはデータベース・マネージャーでサポートされていますが、プリコンパイラーでサポートされていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 現行バージョンのプリコンパイラーを使用して、プリコンパイル処理を繰り返してください。

SQL4004N パッケージ名が無効です。

説明: パッケージ名に、無効な文字が含まれています。名前が長すぎるか、または PACKAGE オプションを持つ名前が指定されていません。

パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: 有効なパッケージ名を指定するか、または PACKAGE オプションを指定しないで、コマンドを再サブミットしてください。

SQL4005N *line* 行目の位置 *position* で、無効なトークン *token* が見つかりました。

説明: SQL ステートメントの構文エラーが、指定されたトークン *token* で見つかりました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメント、特に示されたトークンの周辺を調べてください。構文を修正してください。

SQL4006N 構造のネストが深過ぎます。

説明: ネスト構造の数が、最大値 25 を超えています。ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ネスト構造の数を減らしてください。

SQL4007N ホスト構造 *host-structure* にフィールドがありません。

説明: ホスト構造 *host-structure* 内にはフィールドがありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ホスト構造にフィールドを追加してください。

SQL4008N 完全修飾であっても、ホスト変数 *name* をユニークに参照できません。

説明: 完全修飾であっても、ホスト変数 *name* が少なくとも 1 つの別の非修飾または部分修飾ホスト変数と一致しません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ホスト変数を名前変更してください。

SQL4009N データ長の式が無効です。

説明: データ長の式に構文エラーがあるか、または複雑すぎます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: サイズ式の構文をチェックしてください。

SQL4010N コンパウンド SQL ステートメントに不正なネストがあります。

説明: このエラーは、コンパウンド SQL ステートメントのサブステートメントとして、BEGIN COMPOUND 文節が見つかった場合に戻されます。

ユーザーの処置: ネストした BEGIN COMPOUND な

して、プリコンパイルの再サブミットを行ってください。

SQL4011N コンパウンド SQL ステートメントに、無効な SQL サブステートメントがあります。

説明: このエラーは、コンパウンド SQL ステートメントで、無効なサブステートメントが見つかったときに戻されます。有効なステートメントは、以下のとおりです。

- ALTER TABLE
- COMMENT ON
- CREATE INDEX
- CREATE TABLE
- CREATE VIEW
- 位置付けられた DELETE
- 検索済み DELETE
- DROP
- GRANT
- INSERT
- LOCK TABLE
- REVOKE
- SELECT INTO
- 位置付けられた UPDATE
- 検索済み UPDATE

ユーザーの処置: 無効なサブステートメントなしで、プリコンパイルの再サブミットを行ってください。

sqlcode: -4011

sqlstate: 42910

SQL4012N コンパウンド SQL ステートメントで、COMMIT の使用法が無効です。

説明: このエラーは、COMPOUND SQL ステートメントの COMMIT の後に、サブステートメントが見つかったときに戻されます。

ユーザーの処置: COMMIT サブステートメントを最後のサブステートメントにして、プリコンパイルの再サブミットを行ってください。

SQL4013N 対応する BEGIN COMPOUND ステートメントのない END COMPOUND ステートメントが見つかりました。

説明: このエラーは、先行する BEGIN COMPOUND のない END COMPOUND ステートメントが見つかったときに戻されます。

ユーザーの処置: END COMPOUND を取り除くか、または BEGIN COMPOUND を追加して、プリコンパイルの再サブミットを行ってください。

SQL4014N SQL コンパウンド構文が正しくない。

説明: このエラーは、コンパウンド SQL ステートメントに構文エラーが入っている時に戻されます。考えられる理由には、以下があります。

- END COMPOUND が脱落しています。
- サブステートメントの 1 つが空です (ゼロ長またはブランク)。

ユーザーの処置: 構文エラーを修正して、プリコンパイルをやり直してください。

SQL4015N プリプロセスでエラーが起きました。

説明: 外部プリプロセッサが、1 つ以上のエラーで終了しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 詳細については、対応するソース・ファイルの “.err” ファイルを参照してください。

SQL4016N 指定されたプリプロセッサが見つかりません。

説明: PREPROCESSOR オプションで指定されたプリプロセッサが見つかりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: プリプロセッサを現在のディレクトリーから実行できることを確認し、PREPROCESSOR オプションの構文もチェックしてください。

SQL4017W プリプロセスが正しく完了しました。

説明: PREPROCESSOR オプションで指定した外部コマンドを使用して、入力ファイルのプリプロセスを正常に完了しました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL4018W プリプロセス済みファイル *preprocessed-file* の処理を開始していません。

説明: プリコンパイラーは現在、プリプロセス済みファイルを処理しています。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL4019W プリプロセス済みファイル
preprocessed-file の処理を完了しました。

説明: プリコンパイラーが、プリプロセス済みファイルの処理を完了しました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL4020N 'long' ホスト変数 *token-1* が無効です。
代わりに 'sqlint32' を使用してください。

説明: プリコンパイル・オプション LONGERROR YES が有効か、あるいはプリコンパイル・オプション LONGERROR が指定されておらず、プラットフォーム

に 8 バイトの 'long' がある場合、INTEGER ホスト変数はデータ・タイプ 'long' ではなく 'sqlint32' で宣言されていなければなりません。

8 バイトの 'long' タイプを持つ 64 ビット・プラットフォームでは、'long' ホスト変数が BIGINT データ・タイプに使用されるよう指定するためにプリコンパイル・オプション LONGERROR NO を使用することができます。移行性を最大にするには、INTEGER および BIGINT データ・タイプには、それぞれ 'sqlint32' と 'sqlint64' を使用するようお勧めします。

ユーザーの処置: ホスト変数の現行のデータ・タイプを、メッセージに指定されたデータ・タイプと置き換えてください。

SQL4100 - SQL4199

SQL4100I *sqlflag-type* SQL 言語構文が、**flagger** によってチェックされる構文に使用されています。

説明: プリコンパイラー・チェックを渡す SQL ステートメントは、示された構文に対する **flagger** によるチェックを受けます。構文の逸脱がある場合は、ステートメントに対する警告メッセージが出されます。

処理を続行します。

ユーザーの処置: ありません。これは単なる情報メッセージです。

SQL4102W テキスト *text* で始まるトークンで、SQL 構文の逸脱が起きました。

説明: SQLFLAG プリコンパイラー・オプションに指定された SQL 言語構文から、**flagger** が逸脱を見つけました。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4103W データ定義ステートメント (DD ステートメント) が **CREATE SCHEMA** ステートメント内にありません。

説明: FIPS 標準は CREATE SCHEMA ステートメント内に入っているすべてのデータ定義ステートメント (DD ステートメント) が必要です。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4104W 非標準組み込みコメントがあります。

説明: SQL ステートメントの組み込みコメントが、フラグが付けられる標準の必要性に合致していません。このコメントが、少なくとも 2 つの連続したハイフンから始まっていません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4105W SQL 構文の逸脱が発生しました。このステートメントは完了していません。

説明: この SQL ステートメントはすべての必須エレメントが検索される前に終了していました。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4106W ID *identifier* が 18 文字以上あります。

説明: 許可 ID、表 ID、列名、相関名、モジュール名、カーソル名、手続き名、またはパラメーター名が 18 文字以上の長さがあります。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4107W 列 *column* に無効な長さ、精度、または位取り属性があります。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- 長さの値はゼロ以上の必要があります。
- 精度の値はゼロ以上の必要があります。

- 位取りの値は精度の値より大きくなってはいけません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4108W 標識変数に厳密な数以外のデータ・タイプまたは、非ゼロの位取りがあります。

説明: 標識変数のデータ・タイプはゼロの位取りを伴う厳密な数である必要があります。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4109W SET FUNCTION SPECIFICATION は列 *column* を参照します。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- DISTINCT SET FUNCTION の COLUMN REFERENCE は、SET FUNCTION SPECIFICATION から派生した列を参照できません。
- ALL SET FUNCTION の VALUE EXPRESSION 内の COLUMN REFERENCES は、SET FUNCTION SPECIFICATION から派生した列を参照できません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4110W *column* が入っている VALUE EXPRESSION は、演算子を含むことはできません。

説明: VALUE EXPRESSION は OUTER REFERENCE COLUMN REFERENCE に演算子を含むことはできません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4111W COLUMN REFERENCE がなくなっているか、ALL 列関数 *function* に対し無効です。

説明: ALL SET FUNCTION SPECIFICATION の VALUE EXPRESSION を COLUMN REFERENCE に組み込む必要があります。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4112W 列 *column* がユニークまたは必須修飾ではありません。

説明: 指定された列は、現行有効範囲内でユニークではありません。修飾は必須列をユニークに識別するために提供されなくてはなりません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4113W VALUE EXPRESSION に SET FUNCTION SPECIFICATION が入っていない可能性があります。

説明: ALL SET FUNCTION の VALUE EXPRESSION に SET FUNCTION SPECIFICATION が入っていない可能性があります。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4114W 列 *column* は現行有効範囲内の表の列を識別しません。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- 修飾子として使用される表または相関名が存在しません。
- 列名が現行有効範囲または修飾子の有効範囲内に存在しません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4115W 外部参照された列 *column* が入っている列関数は、HAVING 文節の副照会内にありません。

説明: 列関数は、OUTER REFERENCE COLUMN REFERENCE が入っている場合、HAVING 文節の副照会内に入っていないとはなりません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4116W SUM または **AVG** 関数の結果は文字スト
リングであることはできません。

説明: 文字ストリングは、SET FUNCTION
SPECIFICATION の SUM または AVG の結果に対して
無効です。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してくだ
さい。

SQL4117W 演算子 operator はこのコンテキストでは
無効です。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- DISTINCT SET FUNCTION が入っている VALUE
EXPRESSION は 2 項演算子を含むことはできませ
ん。
- 単項演算子に続く最初の文字は、正または負符号であ
ることはできません。
- 1 次が文字ストリング・タイプの場合、VALUE
EXPRESSION が演算子を含まないようにしてくださ
い。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してくだ
さい。

SQL4118W exptype EXPRESSION は非互換データ・
タイプと比較しています。

説明: 次のデータ・タイプのいずれかが一致していま
せん (exptype によって識別される)。

- exptype = COMPARISON - 比較演算子は一致しなく
てはなりません
- exptype = BETWEEN - 3 つの VALUE
EXPRESSION が一致しなくてはなりません
- exptype = IN - VALUE EXPRESSION、副照会および
すべての VALUE SPECIFICATION が一致しなくて
はなりません
- exptype = QUANTIFIED - VALUE EXPRESSION お
よび副照会が一致しなくてはなりません

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してくだ
さい。

SQL4119W LIKE 述部のオペランドが文字スト
リングではありません。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- LIKE 述部の列のデータ・タイプが文字スト
リングではありません
- LIKE 述部のパターンのデータ・タイプが文字スト
リングではありません

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してくだ
さい。

SQL4120W ESCAPE 文字は、1 バイト文字列でな
ければなりません。

説明: LIKE 述部の ESCAPE 文字は長さ 1 を伴う文字
ストリングのデータ・タイプを持っている必要がありま
す。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してくだ
さい。

SQL4121W WHERE 文節、**GROUP BY** 文節、また
は **HAVING** 文節は、グループ化されたビ
ュー *schema-name.view* に対しては無効で
す。

説明: FROM 文節の識別された表が GROUP ビューの
場合、TABLE EXPRESSION には WHERE 文節、
GROUP BY 文節、または HAVING 文節が含まれない
ようにしてください。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してくだ
さい。

SQL4122W schema-name.name が **FROM** 文節に複数
回指定されています。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- 表名は、FROM 文節で複数回発生します。
- 関連名は表名または FROM 文節の関連名と同一で
す。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してくだ
さい。

SQL4123W 1つの表参照のみが GROUP ビューの FROM 文節で許可されています。

説明: 表名によって識別された表が GROUP ビューの場合、FROM 文節は確実に1つの表参照が入っていません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4124W 列関数から派生した列 *column* の参照は、WHERE 文節内で無効です。

説明: WHERE 文節の SEARCH CONDITION に直接入っている VALUE EXPRESSION は、列関数から派生した列への参照を含んではいけません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4125W WHERE 文節に列関数があるとき、HAVING 文節に WHERE 文節が入っていません。

説明: SEARCH CONDITION に直接入っている VALUE EXPRESSION が列関数の場合、WHERE 文節は HAVING 文節に入っていないではありません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4126W *column* の COLUMN REFERENCE は OUTER REFERENCE でなくてはなりません。

説明: SEARCH CONDITION に直接入っている VALUE EXPRESSION が関数の場合、列関数式内の COLUMN REFERENCE は OUTER REFERENCE でなくてはなりません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4127W 列 *column* は現行有効範囲内で重複しています。

説明: 指定された列が現行有効範囲内で重複しています。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4128W *column-name* の COLUMN REFERENCE はグループ化列または列関数内で指定されたものでなくてはなりません。

説明: HAVING 文節の SEARCH CONDITION 内の副照会に入っている各 COLUMN REFERENCE は、GROUP 化列を参照するか列関数で指定されなくてはなりません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4129W 表 *schema-name.table* の DEGREE は、* の SELECT LIST を使用している場合、1 でなければなりません。

説明: TABLE EXPRESSION の DEGREE は、* の SELECT LIST が EXISTS 以外の述部の副照会で指定されている場合は1でなくてはなりません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4130W この列関数は、表 *schema-name.table* で開始される TABLE EXPRESSION に対して無効です。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- TABLE EXPRESSION が GROUP ビューの場合、副照会の SELECT LIST は SET FUNCTION SPECIFICATION を含むことができません。
- TABLE EXPRESSION が GROUP ビューの場合、QUERY SPECIFICATION の SELECT LIST は column function を含むことができません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4131W *column* の COLUMN REFERENCE が無効です。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- GROUP 表の場合、COLUMN REFERENCE は GROUP 列を参照または SET FUNCTION SPECIFICATION 内で指定されなくてはなりません。

- GROUP 表および SET FUNCTION SPECIFICATION の入った VALUE EXPRESSION の場合、各 COLUMN REFERENCE を SET FUNCTION SPECIFICATION で指定しなくてはなりません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4132W DISTINCT が 2 回以上指定されています。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- QUERY SPECIFICATION の副照会を除外するのに、DISTINCT を QUERY SPECIFICATION で複数回指定してはいけません。
- その副照会に入っているほかの副照会を除外するのに、DISTINCT を副照会で複数回指定してはいけません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4133W COMPARISON PREDICATE 副照会は GROUP BY または HAVING 文節を含むことはできません。

説明: 副照会が COMPARISON PREDICATE で指定される場合、FROM 文節の TABLE EXPRESSION が GROUP BY または HAVING 文節を含んでいない表名を識別します。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4134W COMPARISON PREDICATE 副照会は GROUP ビューを識別できません。

説明: 副照会が COMPARISON PREDICATE で指定される場合、FROM 文節の TABLE EXPRESSION が GROUP ビューを含んでいない表名を識別します。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4135W AUTHORIZATION IDENTIFIER *authid* が無効です。

説明: 表名に接頭部として付ける AUTHORIZATION IDENTIFIER が無効です。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4136W 表またはビュー *schema-name.name* はすでに存在しています。

説明: 指定された表名またはビュー名はすでにこのカタログ内に存在しています。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4137W COLUMN DEFINITION がありません。

説明: 少なくとも 1 つは COLUMN DEFINITION が CREATE TABLE に対して指定される必要があります。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4138W ターゲットのデータ・タイプ *type1* は、ソースのデータ・タイプ *type2* に互換性がありません。

説明: データ・タイプは一致する必要があります。

- FETCH ステートメントで、ソースおよびターゲット間のデータ・タイプ。
- SELECT ステートメントで、ソースおよびターゲット間のデータ・タイプ。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4139I *schema-name.table* に対して VIEW COLUMN LIST を指定しなくてはなりません。

説明: QUERY SPECIFICATION によって指定された表のほかの 2 つの列が同じ列名を持っている場合、または表の列に命名されていない列がある場合、VIEW COLUMN LIST を指定しなくてはなりません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4140W **flagger** を停止させるエラーが起きました。モジュール名 = *module-name* 内部エラー・コード = *error-code*

説明: **flagger** が内部エラーを見つけました。構文に、*bindfile* または *package* オプションも指定されている場合は、処理は継続されますが、**flagger** の処理は続けられません。その他の場合は、処理が続けられます。

ユーザーの処置: メッセージのこのメッセージ番号 (SQLCODE)、モジュール名、およびエラー・コードを記録してください。技術サービス担当者に連絡し、記録した情報を提供してください。

SQL4141W モジュール *module-name* でメッセージ *message-number* を作成しようとして、エラーが発生しました。

説明: **FLAGGER** は未定義メッセージの作成を試行していました。

処理を続行します。

ユーザーの処置: メッセージのこのメッセージ番号 (SQLCODE)、モジュール名、およびエラー・コードを記録してください。技術サービス担当者に連絡し、記録した情報を提供してください。

SQL4142W **flagger** の操作に十分なメモリーがありません。内部エラー・コード = *error-code*

説明: **flagger** の処理に十分なメモリーがありません。構文に、*bindfile* または *package* オプションも指定されている場合は、処理は継続されますが、**flagger** の処理は続けられません。その他の場合は、処理が続けられます。

ユーザーの処置: システムに十分な実メモリーと仮想メモリーがあることを確認して、不要なバックグラウンド処理を取り除いてください。

SQL4143W **flagger** のメモリーの解放時に、エラーが起きました。内部エラー・コード = *error-code*

説明: **flagger** が、割り振られているメモリーを解放できません。構文に、*bindfile* または *package* オプションも指定されている場合は、処理は継続されますが、**flagger** の処理は続けられません。その他の場合は、処理が続けられます。

ユーザーの処置: 標識機能が必要な場合は、プリコンパイルを再始動してください。

SQL4144W モジュール *module-name* 内で、**FLAGGER** への呼び出しで内部エラーが見つかりました。内部エラー・コード = *error-code*

説明: **FLAGGER** が内部エラーを検出しました。

プリプロセスは続行しますが、**FLAGGER** 操作は切断されます。

ユーザーの処置: メッセージのこのメッセージ番号 (SQLCODE)、モジュール名、およびエラー・コードを記録してください。技術サービス担当者に連絡し、記録した情報を提供してください。

SQL4145W システム・カタログに **FLAGGER** がアクセス中にエラーがありました。構文のみをチェックするのにフラグを付けて続行します。SQLCODE = *nnn* SQLERRP = *modname* SQLERRD = *nnn* 作成者 = *creatorname* 表 = *tablename*

説明: システム・カタログに **FLAGGER** がアクセス中に内部エラーがありました。

flagger を使用した構文チェックのみを続行します。

ユーザーの処置: メッセージのこのメッセージ番号 (SQLCODE)、モジュール名、およびエラー・コードを記録してください。技術サービス担当者に連絡し、記録した情報を提供してください。

SQL4146W セマンティクス処理の停止が原因で内部エラーが発生しました。モジュール名 = *module-name* 内部エラー・コード = *error-code*

説明: **FLAGGER** はセマンティクス分析ルーチンで重大な内部エラーを検出しました。

flagger を使用した構文チェックのみを続行します。

ユーザーの処置: メッセージのこのメッセージ番号 (SQLCODE)、モジュール名、およびエラー・コードを記録してください。技術サービス担当者に連絡し、記録した情報を提供してください。

SQL4147W **flagger** のバージョン番号が無効です。

説明: 無効な **flagger** のバージョン番号が、プリコンパイラー・サービス **COMPILE SQL STATEMENT API** に渡されました。構文に、*bindfile* または *package* オプションも指定されている場合は、処理は継続されますが、**flagger** の処理は続けられません。その他の場合は、処理が続けられます。

ユーザーの処置: 有効な **flagger** のバージョン番号を指

定してください。「コマンド・リファレンス」を参照してください。

SQL4170W NOT NULL として列 *column* を宣言しなくてはなりません。

説明: UNIQUE として識別された列は、NOT NULL オプションを使用して定義されなくてはなりません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4171W ビュー表 *schema-name.table* は、更新可能である必要があります。

説明: WITH CHECK OPTION 文節が指定されている場合、ビュー表は更新可能でなければなりません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4172W 列名数が無効です。

説明: VIEW COLUMN LIST の列名数は、QUERY SPECIFICATION で指定された表の DEGREE と同じものである必要があります。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4173W 使用する前に、カーソル *cursor* を宣言しなくてはなりません。

説明: 指定されたこのカーソルは、DECLARE CURSOR ステートメントで宣言されていません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4174W カーソル *cursor* はすでに宣言されています。

説明: 指定されたカーソルは、DECLARE CURSOR ステートメント内ですでに宣言されています。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4175W * または列名のみが、このコンテキストでは有効です。

説明: UNION を指定する場合、QUERY EXPRESSION および QUERY TERM で識別された 2 つの TABLE EXPRESSION の使用に対する SELECT LIST は、* または COLUMN REFERENCE を構成する必要があります。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4176W *schema-name1.table1* で始まる QUERY EXPRESSION と *schema-name2.table2* で始まる QUERY TERM で識別される表の記述は、同一である必要があります。

説明: UNION を指定する場合、2 つの表の記述は列名以外、同一である必要があります。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4177W SORT SPECIFICATION *number* はカーソル *cursor* の DEGREE の外側にありません。

説明: SORT SPECIFICATION が無符号の整数を含んでいる場合、0 より大きく、および表の列数より大きくなくてはなりません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4178W 表 *schema-name.table* は読み取り専用の表です。

説明: DELETE、INSERT、または UPDATE は読み取り専用の表で指定されました。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4179W 表 *schema-name.table* は **SEARCH CONDITION** に含まれるほかの副照会の **FROM** 文節で、識別される必要はありません。

説明: DELETE または UPDATE で指定される表を、SEARCH CONDITION に含まれている副照会の文節内で使用できません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4180W 表 *schema-name1.table1* は **DECLARE CURSOR** で指定された最初の表 *schema-name2.table2* ではありません。

説明: DELETE または UPDATE ステートメントで指定された表は、DECLARE CURSOR ステートメントの FROM 文節で指定された最初の表である必要があります。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4181W **TARGET SPECIFICATION** 数は、カーソル *cursor* の **DEGREE** と一致しません。

説明: FETCH ステートメントの TARGET SPECIFICATION 数が、指定された表の DEGREE と一致しません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4182W **INSERT** ステートメントのターゲット表 *schema-name.table* は、**FROM** 文節または副照会内にもあります。

説明: 命名された表は QUERY SPECIFICATION または QUERY SPECIFICATION に含まれるほかの副照会の FROM 文節で識別されなくてはなりません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4183W 指定された列数は、指定された値数と一致しません。

説明: INSERT ステートメントで、指定された列数が指定された値数と一致しません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4184W 指定された列数が、表 *schema-name.table* で始まる **QUERY SPECIFICATION** の **DEGREE** と一致しません。

説明: INSERT ステートメントで、指定された列数が QUERY SPECIFICATION で指定された表の DEGREE と一致しません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4185W データ・タイプまたは長さの不一致が列 *column* と **INSERT** または **UPDATE** 項目の間にあります。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- 列名のデータ・タイプが文字ストリングの場合、INSERT または UPDATE ステートメントの対応する項目は、列名の長さと同様またはそれ以下の文字ストリングである必要があります。
- 列名のデータ・タイプが絶対数の場合、INSERT または UPDATE ステートメントの対応する項目は、絶対数である必要があります。
- 列名のデータ・タイプが近似数の場合、INSERT または UPDATE ステートメントの対応する項目は、近似数である必要があります。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4186W このコンテキスト内で、**GROUP BY** または **HAVING** 文節を使用または、**GROUP** ビューを識別できません。

説明: SELECT ステートメントの TABLE EXPRESSION の FROM 文節で指定された表は、GROUP BY または HAVING 文節を含む必要はなく、GROUP ビューを識別する必要もありません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4187W **SELECT LIST** で指定されたエレメント数は、**SELECT TARGET LIST** の数と一致する必要はありません。

説明: **SELECT LIST** ステートメントで、**SELECT LIST** で指定されたエレメント数は、**SELECT TARGET LIST** のエレメント数と一致する必要はありません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4188W 列関数は **UPDATE** ステートメントの **SET** 文節で許可されていません。

説明: **UPDATE** ステートメントの **SET** 文節内 **VALUE EXPRESSION** は、列関数を含む必要はありません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4189W **NOT NULL** 列 *column* に対して **NULL** を指定できません。

説明: **NULL** が **UPDATE** ステートメントの **SET** 文節内で指定されている場合、対応する列が **null** 値を許可します。

処理を続行します。

SQL4300 - SQL4399

SQL4300N このプラットフォームには **Java** サポートがインストールされていないか、または正しく構成されていません。

説明: **Java** ストアード・プロシージャおよびユーザー定義関数に対するサポートはこのサーバー上にインストールも構成もされていません。

ユーザーの処置: サーバー用互換 **Java Runtime Environment** あるいは **Java Development Kit** がインストールされています。"**JDK_PATH**" 構成パラメーターが正しく設定されているかどうか確認してください。

sqlcode: -4300

sqlstate: 42724

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4190W 認識されないデータ・タイプのホスト変数が参照されています。ホスト変数位置は *position* です。

説明: 位置 *position* のホスト変数参照は、標準で認識されないデータ・タイプです。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4191W 列 *column-name* のデータ・タイプが認識されていません。

説明: 列のデータ・タイプは標準で認識されません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4192W 表 *schema-name.table* はカタログ内で検索されません。

説明: 命名された表またはビューは、システム・カタログ内に存在していません。

SQL4301N **Java** または **.NET** インタープリターの始動あるいは通信ができません。理由コード *reason-code*。

説明: **Java** インタープリターを開始、停止または通信を試行中に、エラーが発生しました。理由コードには、以下のものがあります。

- 1 **Java** 環境変数あるいは **Java** データベース構成パラメーターが無効です。
- 2 **Java** インタープリターに対する **Java** ネイティブ・インターフェースの呼び出しは失敗しました。
- 3 "**db2java.zip**" ファイルが壊れているか欠落しています。
- 4 **Java** インタープリターは自身を終了し、再始動できません。
- 5 従属 **.NET** ライブラリーをロードできませんでした。

6 .NET インタープリターの呼び出しが失敗しました。

ユーザーの処置: Java の場合、Java データベース構成パラメーター (jdk_path および java_heap_sz) が正しく設定されているかどうかを確認してください。サポートされる Java Runtime Environment がインストールされていることを確認してください。内部 DB2 クラス (COM.ibm.db2) がユーザー・クラスでオーバーライドされないことを確認してください。

.NET の場合、.NET プロシージャまたは関数を実行できるよう、DB2 インスタンスが正しく構成されていることを確認してください (システム PATH に mscoree.dll がなければなりません)。sqllib/bin ディレクトリに db2clr.dll が存在していること、およびグローバル・アセンブリー・キャッシュに IBM.Data.DB2 がインストールされていることを確認してください。

sqlcode: -4301

sqlstate: 58004

SQL4302N プロシージャまたはユーザー定義関数 *name*、特定名 *spec-name* が打ち切られました。例外 *string*。

説明: プロシージャあるいはユーザー定義関数が異常終了し、例外が送出されました。管理通知ログに、異常終了したルーチンのスタックのトレースバックが含まれています。

ユーザーの処置: ルーチンをデバッグして例外を除去してください。

sqlcode: -4302

sqlstate: 38501

SQL4303N Java ストアード・プロシージャあるいはユーザー定義関数 *name*、特定名 *spec-name* が外部名 *string* から認識できません。

説明: このストアード・プロシージャあるいはユーザー定義関数を宣言した CREATE PROCEDURE あるいは CREATE FUNCTION ステートメントには誤った形式の EXTERNAL NAME 文節があります。外部名は次のように形式化される必要があります:

"package.subpackage.class!method"

ユーザーの処置: CREATE PROCEDURE あるいは CREATE FUNCTION を訂正して再実行してください。

sqlcode: -4303

sqlstate: 42724

SQL4304N Java ストアード・プロシージャまたはユーザー定義関数 *name*、特定名 *spec-name* は、Java クラス *class* をロードできませんでした。理由コード *reason-code*。

説明: CREATE PROCEDURE あるいは CREATE FUNCTION ステートメントの EXTERNAL NAME 文節で与えられた Java クラスがロードできません。理由コードには、以下のものがあります。

- 1 クラスが CLASSPATH で見つからない。
- 2 クラスが必須インターフェース ("COM.ibm.db2.app.StoredProc" または "COM.ibm.db2.app.UDF") を実行しなかったか、あるいは Java "public" アクセス・フラグが欠落している。
- 3 デフォルトのコンストラクターが失敗したかあるいは使用できない。
- 4 "jdbc:default:connection" のドライバーをロードできなかった。
- 5 デフォルト・コンテキストを設定できなかった。

ユーザーの処置: コンパイルした ".class" ファイルが CLASSPATH たとえば "sqllib/function" の下にインストールされているか確認してください。必要な Java インターフェースを実行していて "public" であることを確認してください。

sqlcode: -4304

sqlstate: 42724

SQL4306N Java ストアード・プロシージャまたはユーザー定義関数 *name*、特定名 *spec-name* が、Java 方式 *method*、シグニチャー *string* を呼び出せませんでした。

説明: CREATE PROCEDURE あるいは CREATE FUNCTION ステートメントの EXTERNAL NAME 文節で与えられた Java 方式が見つかりません。宣言された引き数リストがデータベースの予想するものと一致しないか、あるいは "public" インスタンス方式でない可能性があります。

ユーザーの処置: Java インスタンス方式が "public" フラグとこの呼び出しの引き数リストを指定しているか確認してください。

sqlcode: -4306

sqlstate: 42724

SQL4400 - SQL4499

SQL4400N *authorization-ID* には、**DB2 Administration Server** で管理タスクを実行する許可がありません。

説明: ユーザーは、DB2 Administration Server で試行された管理アクションを実行するのに必要な権限を持っていません。

ユーザーの処置: DASADM 権限を持つユーザー ID を使って、DB2 Administration Server への要求をサブミットしてください。DB2 Administration Server に対して管理アクションを行うためには、DASADM 権限が必要です。DASADM グループは、DB2 Administration Server の構成パラメーターです。GET ADMIN CONFIGURATION コマンドを使って DB2 Administration Server の構成パラメーターを表示して、DASADM の現在の設定を確認してください。構成パラメーターの値を変更するには、UPDATE ADMIN CONFIGURATION コマンドを使用します。

SQL4401C **DB2 Administration Server** が起動中にエラーを検出しました。

説明: DB2 Administration Server の起動中にエラーが検出されました。

ユーザーの処置: 追加情報については DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log を参照してください。DB2 Administration Server を再始動するには必要に応じて該当するアクションをとってください。

問題が続く場合、技術サービス担当者に連絡してください。

SQL4402W **DB2ADMIN** コマンドが成功しました。

説明: すべての処理が正常終了しました。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

SQL4403N コマンドの構文が無効です。

説明: コマンドは無効な引き数または無効な数のパラメーターを使用して入力されました。

ユーザーの処置: 有効な引き数でコマンドを再サブミットしてください。

SQL4404N **DB2 Administration Server** が存在しません。

説明: DB2 Administration Server がこのマシンで見つかりませんでした。

ユーザーの処置: マシン上に DB2 Administration Server を作成してください。

- Windows オペレーティング・システムでは、次のコマンドを使用します。

```
db2admin create
```

- UNIX プラットフォームでは、ルート権限を持っていることを確認し、DB2DIR/instance ディレクトリー (DB2DIR は DB2 のインストール・パス) から次のコマンドを発行します。<ASName> は Administration Server の名前です。

```
dasrcrt <ASName>
```

SQL4405W **DB2 Administration Server** はすでに存在します。

説明: DB2 Administration Server がすでにこのマシンに存在しています。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

SQL4406W **DB2 Administration Server** を正常に開始しました。

説明: すべての処理が正常終了しました。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

SQL4407W **DB2 Administration Server** を正常に停止しました。

説明: すべての処理が正常終了しました。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

SQL4408N **DB2 Administration Server** はアクティブのためドロップされませんでした。

説明: DB2 Administration Server をドロップするには、その前に停止する必要があります。

ユーザーの処置: DB2 Administration Server を停止するには、次のコマンドを入力してください。

```
DB2ADMIN STOP
```

SQL4409W **DB2 Administration Server** はすでにアクティブです。

説明: DB2ADMIN START コマンドは DB2 Administration Server がすでにアクティブのため処理されません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

SQL4410W DB2 Administration Server はアクティブになっていません。

説明: DB2ADMIN STOP コマンドは DB2 Administration Server がアクティブになっていないため、処理されません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

SQL4411N サーバー・インスタンスが DB2 Administration Server でないため、要求された操作が許可されません。

説明: 要求された操作は、DB2 Administration Server に対して発行されたときにのみ有効です。

ユーザーの処置: DB2 Administration Server は DB2ADMIN コマンドを使用してセットアップします。DB2ADMIN コマンドの詳細情報については、「概説およびインストール」を参照してください。

SQL4412N DB2 Administration Server に対するログオン・ユーザー・アカウントが無効です。

説明: 要求されたタスクを実行するためには、DB2 Administration Server が有効なログオン・ユーザー・アカウントで実行されている必要があります。このエラーの発生原因は、アカウントがセットアップされていないか、またはログオン・ユーザー・アカウントに有効な DB2 ユーザー ID が入っていないかのいずれかです。

ユーザーの処置: ログオン・ユーザー・アカウントがセットアップされていた場合には、アカウントが有効な DB2 ユーザー ID を使用するようになしてください。

以下のコマンドを使用して DB2 Administration Server のログオン・ユーザー・アカウントをセットアップすることができます。

```
DB2ADMIN SETID <userid>
                <password>
```

SQL4413W 使用法 : DB2ADMIN が DB2 Administration Server の作成、ドロップ、開始、あるいは停止を行います。

説明: DB2ADMIN コマンドの構文は、次のとおりです。

```
DB2ADMIN CREATE [
                /USER:<username>
                /PASSWORD:<password>
                ]
DROP
```

SQL4900 - SQL4999

```
START
STOP [/FORCE]
SETID <username>

                <password>
SETSCHEDID <username> <password>
/h
```

コマンド・オプションは以下のとおりです。

CREATE

DB2 Administration Server を作成する

DROP DB2 Administration Server を削除する

START DB2 Administration Server を開始する

STOP DB2 Administration Server を停止する

SETID DB2 Administration Server に対するログオン・アカウントを設定する

SETSCHEDID

スケジューラーがツール・カタログ・データベースへの接続に使用するログオン・アカウントを設定する。スケジューラーが使用可能になっており、さらにツール・カタログ・データベースが DB2 Administration Server に対してリモートである場合にのみ必要です。

/USER DB2ADMIN CREATE 中のログオン・アカウント名を指定する

/PASSWORD

DB2ADMIN CREATE 中のログオン・アカウント・パスワードを指定する

/FORCE

要求に応答中かどうかに関係なく、DB2ADMIN STOP 中に DB2 Administration Server を停止する

/h 使用情報を表示する

ユーザーの処置: 上記の有効なコマンド・オプションのいずれかを指定して DB2ADMIN コマンドを発行してください。

SQL4414N DB2 Administration Server はアクティブになっていません。

説明: DB2 Administration Server がアクティブでない場合、要求は処理されません。

ユーザーの処置: DB2 Administration Server を、コマンド DB2ADMIN START を発行して開始し、要求を再発行してください。

SQL4901N 前出のエラーのために、プリコンパイラー・サービスを再び初期設定する必要があります。

説明: 前に関数呼び出しで、エラーが起きました。要求された関数呼び出しは、プリコンパイラー・サービスが再び初期設定されるまで処理されません。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: sqlainit 関数を呼び出して、プリコンパイラー・サービスを再び初期設定してください。

SQL4902N 関数 *function* のパラメーター *n* の少なくとも 1 つの文字が無効です。

説明: 示された関数の示されたパラメーターには、少なくとも 1 つの無効な文字が入っています。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: 示されたパラメーターを修正して、再び関数を呼び出してください。

SQL4903N 関数 *name* のパラメーター *n* の長さが無効です。

説明: 示された関数の示されたパラメーターの長さが無効です。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: 示されたパラメーターを修正して、再び関数を呼び出してください。

SQL4904N 関数 *function* のパラメーター *n* へのポインターが無効です。

説明: 示された関数の示されたパラメーターへのポインターが無効です。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: 示されたパラメーターを修正して、再び関数を呼び出してください。

SQL4905N 関数 *function* のパラメーター *n* の値が、有効範囲内ではありません。

説明: 示された関数の示されたパラメーターの値が、そのパラメーターの有効な範囲を超えています。示されたパラメーターが構造の場合、有効範囲内の値が入っているかもしれませんが、全体として見たときには有効ではありません。いくつかの構造には、割り振られたサイズと使用されているサイズを示すヘッダーが入っています。割り振られたサイズが、使用されたサイズより小さいのは無効です。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: 示されたパラメーターを修正して、再び関数を呼び出してください。

SQL4906N 指定された表スペース名のリストは、ロールフォワード操作の設定を完了していません。

説明: 表スペース名のリストは、次のいずれかの理由から、完了していません。

- ポイント・イン・タイムの表スペース・リカバリーでは、表スペース・リストを指定する必要があります。
- ポイント・イン・タイムの表スペース・リカバリーでは、表スペース名の内蔵タイプ・リストを指定する必要があります。リストにある表スペースには、表スペースに組み込まれる表ごとのすべてのオブジェクトが含まれている必要があります。
- ポイント・イン・タイムの表スペース・リカバリーはシステム・カタログでは許可されません。
- ログの終了表スペース・リカバリーはシステム・カタログで許可されていませんが、リスト内の唯一の表スペース名となります。
- ロールフォワードの CANCEL オプションには、“ロールフォワード進行中”状態の表スペースがない場合には、表スペースのリストが必要です。

ユーザーの処置: 表スペースのリストをチェックして、完全な表スペースのリストを指定してロールフォワード・コマンドを再サブミットしてください。

SQL4907W データベース *name* がリカバーされましたがロールフォワード処理に含まれる表スペースのリストにある 1 つ以上の表がチェック・ペンディング状態のままです。

説明: ポイント・イン・タイムの表スペース・リカバリーで必要な 1 つ以上の表では、リカバリーで使用する表スペースのリストの外部にある表による参照制約があります。これらの表はすべて、チェック・ペンディング状態にあります。これらの表以外では、ロールフォワード操作は正常に完了します。

ユーザーの処置: 表スペースの表の状態をチェックし、必要であれば適切なアクションを行ってください。

SQL4908N データベース *name* でロールフォワード・リカバリーに指定された表スペース・リストは、ノード *node-list* では無効です。

説明: 以下のうちの 1 つ以上の条件をチェックしてください。

- 表スペース・リストに含まれる名前が重複しています。

- 新規表スペースのロールフォワードを開始する場合、ロールフォワードされるリストで指定された表スペースのうち、指定のノードでロールフォワード・ペンディング状態にないものがあります。
- すでに進行状態の表スペースのロールフォワードを続行する場合、ロールフォワードされるリストで指定された表スペースのうち、指定のノードでロールフォワード進行状態にないか、またはオフラインのものがあります。

ユーザーの処置: リスト中に表スペース名の重複がないようにしてください。

ロールフォワードの準備ができていない表スペースを検索するために、指定されたノードで LIST TABLESPACES SHOW DETAIL を使用してください。表スペースのロールフォワード状況を判別するには、ロールフォワード・コマンドの QUERY STATUS オプションを使用してください。ロールフォワード状況が "TBS pending" である場合、新規の表スペース・ロールフォワードを開始できます。ロールフォワード状況が "TBS working" である場合、表スペース・ロールフォワードがすでに進行中です。

新規の表スペース・ロールフォワードを開始する場合、表スペースをリストアしてロールフォワード・ペンディング状態にしてしてください。

表スペースのロールフォワードを続行して、関係する表スペースがリストアされ、ロールフォワード・ペンディング状態になった場合、進行中の表スペースのロールフォワードは取り消される必要があります。CANCEL オプションと同じ表スペースのリストを指定して、再度ロールフォワード・コマンドを実行してください。進行中のロールフォワードが取り消されると、表スペースはリストア・ペンディング状態になります。表スペースをリストアして、元のロールフォワード・コマンドを再度実行してください。

表スペースのロールフォワードを続行して、関係する表スペースの 1 つ以上がオフラインになる場合、次の 3 つのオプションがあります。

- 表スペースを回復させ、元のロールフォワード・コマンドを再度実行してください。
- ロールフォワード・コマンドを再サブミットしますが、表スペースのリストからオフラインの表スペースを除去してください。これらの表スペースはリストア・ペンディングになります。
- CANCEL オプションと同じ表スペースのリストを指定して、再度ロールフォワード・コマンドを実行してください。進行中のロールフォワードが取り消されると、表スペースはリストア・ペンディング状態になります。

SQL4909W ロールフォワード・リカバリーは正常に終了していますが、1 つ以上の表スペースの表が **DRP/DRNP** 状態になっています。ノード *node-list* の詳細については、**管理通知ログ**をチェックしてください。

説明: 次のいずれかの理由に対し、1 つ以上の表スペースには、「DATALINK 調整ペンディング (DRP) 状態」または「DATALINK 調整不可 (DRNP) 状態」に表があります。

- WITHOUT DATALINK オプションを指定してリストアを行い、リストアのあとに、指定ポイント・イン・タイムまでのロールフォワードがあります。DATALINK 列を指定した表は DRP 状態となります。
- 別のデータベース名、別名、ホスト名、あるいはインスタンスでバックアップ・イメージをリストアし、このリストアのあとにロールフォワードが行われます。DATALINK 列を指定した表は DRNP 状態となります。
- 使用不能になったバックアップ・イメージからリストアし、このリストアのあとにロールフォワードが行われます。DATALINK 列を指定した表は DRNP 状態となります。
- ロールフォワードにポイント・イン・タイム指定で行われたが、ログの終わりまで行われなかった。この表スペースで、DATALINK 列を指定した表は DRP 状態となります。
- DATALINK 列情報が DB2 Data Links Manager に存在していない。影響を受ける表は DRNP 状態になります。
- ロールフォワードは、「リカバリーなし」オプションで定義された DATALINK 列を含みます。影響を受ける表は DRP 状態になります。

”、...” がノード・リストの終わりに表示されている場合、完全なリストを見るには診断ログを調べてください。

(注: パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: db2diag.log ファイルで、どの表が DRP/DRNP 状態に書き込まれているかを確認してください。DRP/DRNP 状態になっている表の調整についての情報は、「管理ガイド」を参照してください。

SQL4910N オーバーフロー・ログ・パス *log-path* が無効です。

説明: ROLLFORWARD コマンドで指定されたオーバーフロー・ログ・パスは無効です。オーバーフロー・ログ・パスはファイル・システムのディレクトリーである必要があります。このディレクトリーは、インスタンス所有者 ID によるアクセスが可能でなければなりません。

ユーザーの処置: 有効なオーバーフロー・ログ・パスで、コマンドを再実行してください。

SQL4911N ホスト変数のデータ・タイプが無効です。

説明: ホスト変数のデータ・タイプが有効ではありません。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: ホスト変数のデータ・タイプを訂正して、再び関数を呼び出してください。

SQL4912N ホスト変数のデータ長が範囲を超えています。

説明: ホスト変数の長さが無効です。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: ホスト変数の長さを訂正して、再び関数を呼び出してください。

SQL4913N ホスト変数のトークン ID は、すでに使用されています。

説明: ホスト変数のトークン ID がすでに使用済みです。トークン ID はモジュール内でユニークでなければなりません。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: ホスト変数のトークン ID を訂正して、再び関数を呼び出してください。

SQL4914N ホスト変数のトークン ID が無効です。

説明: ホスト変数のトークン ID が有効ではありません。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: ホスト変数のトークン ID を訂正して、再び関数を呼び出してください。

SQL4915N “sqlainit” 関数は、すでに呼び出されています。

説明: プリコンパイラー・サービスは、すでに初期設定されています。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。処理を続行します。

SQL4916N “sqlainit” 関数が、呼び出されていません。

説明: 要求された関数呼び出しが処理される前に、プリコンパイラー・サービスが初期設定されている必要があります。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: sqlainit 関数を呼び出して、プリコンパイラー・サービスを初期設定してください。

SQL4917N オプション配列の要素 *number* が無効です。

説明: オプション配列に、無効な *option.type* または *option.value* を持つ要素が入っています。メッセージ内の要素番号は、オプション配列のオプション部分の *n* 番目の要素です。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: オプション配列に格納されている値を訂正してください。再び関数を呼び出してください。

SQL4918N 関数 “sqlainit” の *term_option* パラメーターが無効です。

説明: *term_option* パラメーターが無効です。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: *term_option* パラメーターを訂正して、関数を再度呼び出してください。

SQL4919N 関数 “sqlacmpl” の *task_array* パラメーターが小さすぎます。

説明: sqlacmpl 関数呼び出しで、プリコンパイラー・サービスに渡されたタスク配列構造が、短すぎます。

関数は正常に処理されませんでした。

ユーザーの処置: プリコンパイラーによって割り振られるプリコンパイラー・タスク配列構造のサイズを増やしてください。アプリケーション・プログラムを再コンパイルしてください。

SQL4920N 関数 “sqlacmpl” の token_id_array パラメーターが小さすぎます。

説明: sqlacmpl() 関数呼び出しで、プリコンパイラー・サービスに渡されたトークン ID 配列構造が小さすぎます。

関数は正常に処理されませんでした。

ユーザーの処置: プリコンパイラーによって割り振られるプリコンパイラー・トークン ID 配列構造のサイズを増やしてください。アプリケーション・プログラムを再コンパイルしてください。

SQL4930N BIND またはプリコンパイル・オプション、あるいはオプションの値 option-name が無効です。

説明: option-name が無効な BIND またはプリコンパイル・オプションか、あるいはこれらのオプションに指定された値が無効です。バインドまたはプリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: BIND またはプリコンパイル・オプション、あるいはオプションの値を訂正して、BIND またはプリコンパイル・コマンドを再発行してください。

SQL4940N clause 文節が許可されていないか、または必須です。

説明: 示された文節は、SQL ステートメント内に現れる文脈では許されていないか、またはそれがステートメント内で必須とされています。

副照会、INSERT ステートメント、または CREATE VIEW ステートメントには、INTO、ORDER BY、または FOR UPDATE 文節を指定できません。組み込み SELECT ステートメントには、ORDER BY または FOR UPDATE 文節を指定できません。組み込み SELECT ステートメントには、副照会内を除いて、セット演算子を使用できません。カーソル宣言で 사용되는 SELECT ステートメントには、INTO 文節を指定できません。

組み込み SELECT ステートメントのは、INTO 文節を使用する必要があります。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: 文節の除去または追加を行って、ステートメントを修正してください。

SQL4941N SQL ステートメントがブランクまたは空です。

説明: EXEC SQL に続くテキストがブランクまたは空です。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: EXEC SQL に続いて有効な SQL ステートメントが記述されていることを確認してください。

SQL4942N ステートメントが、ホスト変数 name に適さないデータ・タイプを選択しています。

説明: 組み込み SELECT ステートメントが、ホスト変数 name に対する選択を行いました。変数のデータ・タイプと対応する SELECT リスト・エレメントの互換性がありません。列のデータ・タイプが日付と時刻の場合は、変数のデータ・タイプは適切な最小の長さを持つ文字でなければなりません。両方ともに数値、文字、または GRAPHIC でなければなりません。ユーザー定義のデータ・タイプの場合、ホスト変数は、ステートメントのトランスフォーム・グループで定義された FROM SQL トランスフォーム関数の結果タイプとは互換性のない関連した組み込みデータ・タイプを使用して定義される場合があります。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: 表定義が現在のものであり、ホスト変数が正しいデータ・タイプであることを確認してください。

SQL4943W INTO 文節内のホスト変数の数が、SELECT 文節内の項目数と一致していません。

説明: INTO 文節と SELECT 文節の両方に指定されたホスト変数の数は同じでなければなりません。

関数は処理されます。

ユーザーの処置: アプリケーションを修正して、SELECT リスト式の数と同じ数のホスト変数を指定してください。

SQL4944N 更新または挿入する値は NULL ですが、オブジェクトの列は NULL 値を含むことができません。

説明: 以下のいずれかが起きました。

- 更新値または挿入値は NULL ですが、オブジェクトとなる列が表定義で NOT NULL として宣言されています。従って、NULL 値はその列に挿入することができず、その列の値は更新によって NULL に設定することができません。
- INSERT ステートメントの列名リストに、表定義で NOT NULL として宣言されている列がありません。

- INSERT ステートメントのビューに、基本表定義で NOT NULL として宣言されている列がありません。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: オブジェクト表の定義を調べて、NOT NULL 属性を持っている列を判別して、SQL ステートメントを修正してください。

SQL4945N パラメーター・マーカーの使用法が無効です。

説明: パラメーター・マーカーは、動的 SQL ステートメント内でのみ使用できます。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: 静的 SQL ステートメントに対しては、パラメーター・マーカーの代わりにホスト変数を使用してください。

SQL4946N カーソルまたはステートメント名 *name* は定義されていません。

説明: ステートメントに指定されたカーソルまたはステートメント名 *name* が定義されていません。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムをチェックして、カーソルまたはステートメント名が完全で、しかもつづりが間違っていないことを確認してください。

SQL4947W INCLUDE SQLDA ステートメントが見つかりましたが、無視されました。

説明: データベース・マネージャーによって提供される FORTRAN プリコンパイラーは、INCLUDE SQLDA ステートメントをサポートしません。

ステートメントは無視されます。処理を続行します。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。このメッセージの出力を防ぐには、プログラムから INCLUDE SQLDA ステートメントを取り除いてください。

SQL4950N ユーザー定義 SQLDA が含まれているコンパウンド SQL ステートメントは、この環境でサポートされていません。

説明: ユーザー定義 SQLDA が入っているコンパウンド SQL ステートメントは、16 ビット・アプリケーションでサポートされていません。

ユーザーの処置: コンパウンド SQL ブロックの外にステートメントを移動するか、あるいは SQLDA の代わりに、

ホスト変数を使用するステートメントとこれを置き換えてください。

SQL4951N 関数 *name* の *sqllda_id* パラメーターが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムの指定関数の *sqllda_id* パラメーターが無効です。 *sqllda_id* パラメーターは NULL にはできません。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムの *sqllda_id* パラメーターを訂正してください。

SQL4952N 関数 *name* の *sqlvar_index* パラメーターが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムの指定関数の *sqlvar_index* パラメーターが無効です。 *sqlvar_index* が、SQLDA の *sqlvar* エレメントの数より大きい可能性があります。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムの *sqlvar_index* パラメーターを訂正してください。

SQL4953N 関数 *name* の *call_type* パラメーターが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムの指定関数の *call_type* パラメーターが無効です。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムの *call_type* パラメーターを訂正してください。

SQL4954N 関数 *name* の *section_number* パラメーターが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムの指定関数の *section_number* パラメーターが無効です。次の SQL ステートメントの場合は、関数 *sqlacall()* の *section_number* パラメーターが、ステートメント・タイプを渡すために使用されることに注意してください。

- CONNECT
- SET CONNECTION
- RELEASE
- DISCONNECT

関数は完了しません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムの *section_number* パラメーターを訂正してください。

SQL4970N ノード *node-list* のログ・ファイルがないため、データベース *name* のロールフォワード・リカバリーは、指定された停止ポイント (ファイルの終わりまたは、ポイント・イン・タイム) に達することができません。

説明: このメッセージは以下の状況で返されます。

- 呼び出し元のアクション
SQLUM_ROLLFWD_STOP、SQLUM_STOP、SQLUM_ROLLFWD_COMPLETE、または SQLUM_COMPLETE を指定してロールフォワードのペンディング状態以外の指定されたデータベースで要求が実行されましたが、実行された要求は、ロールフォワード・データベース・ユーティリティーはデータベース・ログ・ディレクトリーに必要なアーカイブ、または前の ROLLFORWARD DATABASE コマンドから停止位置に達する指定されたノードのログ・ディレクトリーのオーバーフローを検索できません。
- マルチノードの環境で、ロールフォワード・データベース・ユーティリティーが、カタログ・ノードを伴う同期へノードをもたらすのに必要なアーカイブ・ログ・ファイルを検索できません。

”、...” がノード・リストの終わりに表示されている場合、完全なリストを見るには管理通知ログを調べてください。

ロールフォワード・リカバリーは停止しました。データベースはロールフォワード・ペンディング状態になったままです。

注: パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーが発生したノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。

ユーザーの処置: ROLLFORWARD DATABASE コマンドと QUERY STATUS オプションを一緒に使用してどのログ・ファイルが欠落したかを判別してください。

以下のいずれかを実行します。

- すべてのアーカイブ・ログ・ファイルがデータベース・ログ・ディレクトリーまたはオーバーフロー・ログ・パスで使用可能であるかを確認し、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再度発行してください。
- 抜けているログ・ファイルが見つからない場合には、すべてのノードで、データベース/表スペースをリストアし、抜けているログ・ファイル一番早いタイム・スタンプより早いタイム・スタンプを使用して、指定ポイント・イン・タイムのリカバリーを行ってください。

SQL4971N ノード *node-number* のデータベース *name* のロールフォワードのリカバリーは、前の停止中に失敗しました。ロールフォワード・リカバリーを停止する必要があります。

説明: 呼び出し元アクション SQLUM_ROLLFWD の指定によって指定したデータベースのロールフォワードを続行する要求が出されました。直前のロールフォワード・リカバリーの反復は、停止中に失敗しました。データベース・レベルでのロールフォワードを行うと、ログ切り捨て中に失敗したことを意味します。このデータベースのロールフォワード・リカバリーは、呼び出し元アクション SQLUM_ROLLFWD_STOP、SQLUM_STOP、SQLUM_ROLLFWD_COMPLETE、または SQLUM_COMPLETE の指定で現在停止されています。

注: パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。

ユーザーの処置: 呼び出し元アクション SQLUM_ROLLFWD_STOP、SQLUM_STOP、SQLUM_ROLLFWD_COMPLETE、または SQLUM_COMPLETE を使用して ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再発行してください。指定された停止時間は、以前の停止時間がすでに処理されているため無視されます。

SQL4972N ノード *node-number* のログ・エクステン
ト *extent* を、データベースのログ・パス
に移動できませんでした。

説明: ロールフォワード・ユーティリティーは STOP オプションで呼び出されました。ロールフォワード処理の一部として、ログ・エクステン
ト *extent* は切り捨てられる必要があります。このエクステン
トはデータベース・ログ・パスに存在してはなりません。現在、エクステン
トはオーバーフロー・ログ・パスに存在しています。オーバーフロー・ログ・パスからデータベース・ログ・パスへエクステン
トを移動させよう
としました。処理は失敗しました。ロールフォワード処理は停止されています。

注: パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。

ユーザーの処置: オーバーフロー・ログ・パスからデータベース・ログ・パスへエクステン
トを移動し、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再サブミットしてください。

SQL4973N データベース *name* の順方向リカバリーはノード *node-list* のログ情報がカタログ・ノードの対応するレコードに一致しないため、完了できません。

説明: ロールフォワード・ユーティリティーは、それぞれのノードで見つかったログ・ファイルを処理しましたが、指定されたノードとカタログ・ノードの対応レコードの停止点が一致しません。原因は、カタログ・ノードまたは指定されたノード・ファイルが欠落したか、またはカタログ・ノードがロールフォワードされるノード・リストに含まれることです。

ROLLFORWARD DATABASE 処理を停止します。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

- カタログ・ノードをロールフォワードする必要があるかをチェックしてください。その必要がある場合、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再度サブミットし、カタログ・ノードを含めてください。
- ROLLFORWARD DATABASE コマンドと QUERY STATUS オプションを一緒に使用してどのログ・ファイルが欠落したかを判別してください。ログ・ファイルを検出したときは、それをログ・パスまたはオーバーフロー・ログ・パスに置き、順方向リカバリーを再開してください。
- ログ・ファイルが見つからない場合、すべてのノードのデータベースをリストアして、最も早く欠落したログ・ファイルより早い停止ポイント・イン・タイムを使用して、ポイント・イン・リカバリーを実行してください。

SQL4974W ROLLFORWARD DATABASE QUERY STATUS コマンドは、*sqlcode sqlcode* を検出しました。

説明: ROLLFORWARD DATABASE QUERY STATUS コマンドは、SQL コード *sqlcode* のエラーを検出しました。多数の原因で、いくつかのノードの照会が正常でない可能性があります。最も重大なエラーは *sqlcode* で指示されます。roll-forward status は正常なノードに対して戻ります。

ユーザーの処置: *sqlcode sqlcode* について、メッセージ・リファレンス、またはオンラインを参照して、失敗したノードの問題を判別してください。必要な訂正アクションを実行して、これらのノードの順方向リカバリーを継続してください。

SQL4975W ロールフォワード操作は正常にキャンセルされました。データベースまたは選択表スペースは、ノード *node-list* でリストアされる必要があります。

説明: ロールフォワード操作は正常終了する前に、キャンセルされました。データベースまたは選択表スペースは不整合状態で残されています。データベースまたは選択された表スペースは、リストされたノードで、リストア・ペンディング状態になっています。

”、...” がノード・リストの終わりに表示されている場合、完全なリストを見るには管理通知ログを調べてください。

注: パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーが発生したノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。

ユーザーの処置: リストされたノードで、データベースまたは選択された表スペースをリストアしてください。リストア・ペンディング状態にある表スペースは、LIST TABLESPACES コマンドあるいは db2dart ユーティリティーで指定されるノードで識別されます。

SQL4976N ROLLFORWARD DATABASE コマンド は、非カタログ・ノード上でサブミットできません。

説明: ROLLFORWARD DATABASE コマンドは、カタログ・ノード上のみで実行可能です。

ユーザーの処置: コマンドをカタログ・ノードでサブミットしてください。

SQL4977N ドロップされた表のエクスポート・ディレクトリー *directory* が無効です。

説明: ROLLFORWARD コマンドで指定されたエクスポート・ディレクトリーは無効です。エクスポート・ディレクトリー・パスはファイル・システムのディレクトリーである必要があります。このディレクトリーは、インスタンス所有者 ID によるアクセスが可能でなければなりません。

ユーザーの処置: 有効なエクスポート・ディレクトリー・パスを指定して、コマンドを再実行してください。

SQL4978N ドロップした表にアクセスすることはできません。

説明: ドロップした表にアクセスすることはできません。コピーなしの LOAD または NOT LOGGED INITIALLY 操作のため、表が選択不可の状態になっていることが原因だと思われます。

ユーザーの処置: DROPPED TABLE RECOVERY オプションを使用して表を回復することはできません。

SQL4979W ドロップされた表データをエクスポートすることができません。

説明: コマンドはリカバリー処理が試みられている、ドロップされた表のデータをエクスポートすることができませんでした。これは、ROLLFORWARD コマンドで指定された、ドロップされた表の ID が無効であるか、またはログのすべてがロールフォワードで使用できるわけではない場合に発生します。この警告は、ROLLFORWARD ... AND STOP コマンドを使用するドロップされた表のリカバリー時に、エラーが発生した時に生成されます。

ユーザーの処置: ドロップされた表の ID が有効で、ログのすべてがロールフォワードで使用できることを確認してから、コマンドを再実行してください。

SQL4990N 1 つの SQL ステートメントでサポートされるリテラル数の最大値は *number* です。各リテラルの長さは、最大 *value* バイトです。

説明: COBOL プリコンパイラにおいて、1 つの SQL ステートメントでサポートされるリテラル数の最大値は *number* です。各リテラルの長さは、最大 *value* バイトです。1 つのリテラルは、ホスト変数以外の任意の入力エレメントを表します (つまり、ストリング定数、区切り ID、非区切り ID)。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントの中のリテラルの数を少なくしてください。各リテラルの長さが *value* バイト以下になるようにしてください。

SQL4994N プリコンパイルは、ユーザーの割り込み要求によって終了されました。

説明: 割り込みが起きたために、プリコンパイルが終了しました。ユーザーが割り込みキー・シーケンスを押した可能性があります。

処理は終了しました。パッケージは作成されませんでした。

ユーザーの処置: 必要に応じて、プリコンパイルを再実行してください。

SQL4997N 許可 ID が無効です。

説明: アプリケーションに対する許可 ID が指定されましたが、その許可 ID が 8 文字より大きいか、また

は許可 ID には無効な文字を使用して定義されていません。

許可 ID は PUBLIC (public) であってはならず、SYS (sys)、IBM (ibm) または SQL (sql) で始めることはできません。また、許可 ID に下線文字またはデータベース・マネージャー基本文字セットに含まれない文字を使用することはできません。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: 有効な許可 ID を使用して、アプリケーションを再始動してください。

SQL4998C アプリケーションはエラー状態にあり、データベースとの接続は失われました。

説明: データベースへの接続が切り離されました。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: データベースに再接続してください。

SQL4999N プリコンパイラ・サービスまたはランタイム・サービスのエラーが起きました。

説明: プリコンパイラ・サービスおよびランタイム・サービスが、関数呼び出しを処理することができないデータベース・マネージャー・エラーが起きました。

プリコンパイラ・サービスまたはランタイム・サービス関数呼び出しは処理されません。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) と、可能であれば SQLCA からのすべてのエラー情報を記録してください。

トレースがアクティブの場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。

- 環境: プリコンパイラ・サービス API を使用する外部のプリコンパイラ

- 必要な情報:

- 問題記述
- SQLCODE
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

SQL5000 - SQL5099

SQL5001N *authorization-ID* には、データベース・マネージャー構成ファイルを変更する権限がありません。

説明: データベース・マネージャー構成ファイルを SYSADM 権限を取得せずに、更新またはリセットしようとした。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 適切な許可を取得せずに、データベース・マネージャー構成ファイルを変更しないようにしてください。変更が必要な場合には、SYSADM 権限を持つユーザーに連絡してください。

SQL5005C システム・エラー

説明: オペレーティング・システム・エラー、(入出力エラー) が構成ファイルのアクセス中に起きました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。

エラーが解消されない場合、詳細については db2diag.log ファイルをチェックし、構成ファイルがアクセス可能であることを確認してください。それでも問題が解決しない場合には、IBM サービス技術員に連絡してください。

SQL5010N データベース・マネージャー構成ファイルのパス名が無効です。

説明: データベース・マネージャー構成ファイルへのパスを判別しているときに、エラーが起きました。データベース・マネージャー・ディレクトリー構造が、変更されている可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。それでも、エラーが続く場合は、データベース・マネージャーを再インストールしてください。

SQL5012N ホスト変数 *host-variable* が正しい数値データ・タイプではありません。

説明: ホスト変数 *host-variable* が指定されましたが、これは使用されたコンテキストでは有効ではありません。ホスト変数 *host-variable* は FETCH ステートメントの ABSOLUTE または RELATIVE の一部として指定されたか、FETCH または INSERT ステートメントの ROWS 文節に指定されました。ホスト変数が以下のいずれかの理由で使用できませんでした。

- ホスト変数が正しい数値データ・タイプではありません。位取りがゼロの 10 進データ・タイプと整数データ・タイプが正しい数値データ・タイプです。
- ホスト変数は 10 進データ・タイプですが、位取りがゼロではありません。10 進データ・タイプは、位取りをゼロにするには、ゼロの 10 進数字を持っていないければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しいデータ・タイプになるようにホスト変数を変更してください。

sqlcode: -5012

sqlstate: 42618

SQL5018N データベース・マネージャー構成ファイル内の、ワークステーションへのリモート接続の数 (*numrc*) の最大値が有効範囲を超えています。

説明: ワークステーションへのリモート接続の最大値は、1 から 255 までの間でなければなりません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: ワークステーションへのリモート接続に有効な値を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL5020N データベース・マネージャー構成ファイル内のワークステーションのノード名 (*nname*) が無効です。

説明: configuration コマンドに指定されたノード名が無効です。ノード名は 1 から 8 文字でなければなりません。すべての文字は、データベース・マネージャー基本文字セットから選択する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なノード名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL5021N データベース・マネージャー構成ファイル内の索引の再作成時間 (*indexrec*) が無効です。有効な値は、1 (索引アクセス中) と 2 (データベースの再始動中) です。

説明: 構成サービスに対して、データベース・マネージャー構成ファイル内の索引の再作成時間フラグ (*indexrec*) の無効な値が渡されました。無効な値は、コマンド行プロセッサまたはプログラム API 呼び出しを使用して入力された可能性があります。API 呼び出

しに有効な値は、1 (索引アクセス中)、および 2 (データベースの再始動中) のみです。コマンド行プロセッサに有効な値は、ACCESS と RESTART です。

データベース・マネージャー構成ファイルに対する更新は拒否されました。

ユーザーの処置: 指定可能ないずれかの値を入力して、更新要求を再実行してください。

SQL5022N データベース構成ファイル内の索引の再作成時間 (indexrec) が無効です。指定可能な値は、0 (システム設定の使用)、1 (索引アクセス中)、および 2 (データベースの再始動中) です。

説明: 構成サービスに対して、データベース構成ファイル内の索引の再作成時間フラグ (indexrec) の無効な値が渡されました。無効な値は、コマンド行プロセッサまたはプログラム API 呼び出しを使用して入力された可能性があります。API 呼び出しに有効な値は、0 (システム設定の使用)、1 (索引アクセス中)、および 2 (データベースの再始動中) のみです。

コマンド行プロセッサに有効な値は SYSTEM、ACCESS、RESTART です。

データベース構成ファイルに対する更新は拒否されました。

ユーザーの処置: 指定可能ないずれかの値を入力して、更新要求を再実行してください。

SQL5025C データベース・マネージャー構成ファイルが現行のものではありません。

説明: データベースに接続した後で、データベース・マネージャー構成ファイルが更新されました。データベース・マネージャー構成ファイルが、接続されたデータベースの構成と互換性がありません。

データベース・マネージャー構成ファイルへのアクセスは許可されません。

ユーザーの処置: すべてのアプリケーションが、そのデータベースから切断されるまで待ってください。stop database manager コマンドを発行した後で、start database manager コマンドを発行してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

SQL5028N sysadm_group の値は、インスタンス所有者の 1 次グループでなければなりません。

説明: データベース・マネージャー構成ファイルの sysadm_group を更新しようとした。UNIX ベース・プラットフォーム上の DB2 のバージョン 2 の場合、インスタンス所有者の 1 次グループである値のみが使用できます。

ユーザーの処置: インスタンス所有者の 1 次グループを使用して、UNIX ベース・プラットフォームのデータベース・マネージャー構成ファイルのこのフィールドを更新してください。

SQL5030C リリース番号が無効です。

説明: データベース・マネージャー構成ファイルまたはデータベース構成ファイルのリリース番号が無効です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 使用中のデータベースと DB2 のリリース・レベルが一致していることを確認してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -5030

sqlstate: 58031

SQL5035N データベースを現在のリリースに移行する必要があります。

説明: データベースが、低いレベルのシステム・リリースで作成されました。Migrate Database コマンドを使用して、データベースを現在のリリース・レベルに変換する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 現在のシステム・リリースでデータベースを使用する前に、Migrate Database コマンドを実行してください。

リストア中にこのメッセージを受け取った場合は、処理を続ける前に、既存のデータベースをドロップしてください。

sqlcode: -5035

sqlstate: 55001

SQL5040N TCP/IP サーバー・サポートに必要なソケット・アドレスのいずれかが、別の処理で使用されています。

説明: サーバーに必要なソケット・アドレスのいずれかは、別のプログラムで使用されているか、あるいはデータベース・マネージャーが停止してから、TCP/IP サブシステムで完全に終了していません。

ユーザーの処置: db2stop を発行したばかりの場合には、TCP/IP サブシステムがリソースを解除するのに数分お待ちください。そうでない場合には、ワークステーションで、/etc/services ファイルにあるサービス名で予約されているポート番号を使用しているプログラムがワークステーションにないか確認してください。ポート番号はソケット・アドレスのコンポーネントです。

SQL5042N 通信プロトコル・サーバー・サポート処理のいずれかが開始できません。

説明: システム呼び出しができないため、あるいは通信サブシステムの呼び出しができないため、通信プロトコル・サーバー・サポート処理が正常に開始しません。

ユーザーの処置: 次のいずれかの方法で問題を調べることができます。

- システム・ログ・レコードを調べる
- トレースをオンにして、db2start を再度実行し、トレース・レコードを調べる

SQL5043N 1 つ以上の通信プロトコルに対するサポートが正常に開始できませんでした。ただし、コアのデータベース・マネージャーの機能は正常に開始されました。

説明: 通信プロトコル・サポートが、1 つ以上のプロトコルについて正常に開始されませんでした。理由として、以下が考えられます。

- 通信サブシステムの構成エラー
- 通信サブシステムの呼び出しエラー
- データベース・マネージャーの構成エラー
- システム呼び出しの障害
- データベース・マネージャーのライセンス・エラー

正常に開始された通信プロトコルを使用すれば、サーバーに接続することができます。ローカル・クライアントも、サーバーに接続することができます。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーが、DB2COMM 環境変数で指定されたすべての通信プロトコルを開始しようとした。

このエラーの詳細については管理通知ログをチェックしてください。ログには、エラーの原因に関するより詳細

な情報と、正常に開始されなかった通信プロトコルも入っています。

このエラーは、DB2COMM 環境変数によって指定された通信プロトコルにのみ影響を与えます。

SQL5047C この関数を実行するためのメモリーが不足しています。

説明: この関数の実行に使用できる十分なメモリーがありません。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: アプリケーションを停止してください。解決策は以下のとおりです。

- 他の処理を終了してください。
- メモリー割り振りを定義する構成パラメーターの値を減らしてください。
- システムに十分な実メモリーおよび仮想メモリーがあることを確認してください。

SQL5048N データベース・クライアントのリリース・レベルが、データベース・サーバーのリリース・レベルでサポートされていません。

説明: データベース・クライアントは、クライアントより 1 つ低いレベルから 2 つ高いレベルまでの範囲のリリース・レベルをもつデータベース・サーバーしかアクセスできません。

ユーザーの処置: 以下の 1 つ以上を行ってください。

- 現在のサーバーのリリース・レベルでサポートされる範囲まで、クライアント・リリース・レベルをアップグレードしてください。
- 現在のクライアント・リリース・レベルでサポートできるレベルまで、サーバー・リリース・レベルをアップグレードしてください。

SQL5050C データベース・マネージャー構成ファイルの内容が無効です。

説明: データベース・マネージャー構成ファイルが無効です。ファイルが、テキスト・エディターまたはデータベース・マネージャー以外のプログラムで変更されている可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーを再インストールしてください。

SQL5051N *qualifier* によって修飾されたオブジェクトは、スキーマ *schema-name* で作成されません。

説明: CREATE SCHEMA ステートメントで作成されたオブジェクトは、スキーマ名とは異なる *qualifier* によって修飾されています。CREATE SCHEMA ステートメントで作成されたすべてのオブジェクトは、スキーマ名 *schema-name* によって修飾されたものか、修飾されていないものかのいずれかです。修飾されていないオブジェクトは暗黙的にスキーマ名によって修飾されます。ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 明示的にスキーマのオブジェクトを *schema-name* で修飾するか、オブジェクト名から *qualifier* を除去してください。

sqlcode: -5051

sqlstate: 42875

SQL5055C データベース構成ファイルの内容が無効です。

説明: データベースのデータベース構成ファイルが無効です。ファイルが、テキスト・エディターまたはデータベース・マネージャー以外のプログラムで変更されている可能性があります。

ユーザーの処置: データベースを再作成するか、またはバックアップ・バージョンからリストアしてください。

sqlcode: -5055

sqlstate: 58031

SQL5060N 指定された構成パラメーター・トークンが無効です。

説明: 構成サービス API に渡された *sqlfupd* 構造に指定されたトークン番号が無効です。それは、サポートされているどの構成パラメーターでもありません。また、UPDATE が試みられた場合には、指定されたトークンは、変更できない構成パラメーターのものであることがあります。

ユーザーの処置: 「アプリケーション開発ガイド」の構成サービス API 記述に示されているトークン番号から有効なものを選択してください。API に対する呼び出しを修正して、プログラムを再実行してください。

SQL5061N 構造 *sqlfupd* への無効なポインターが、構成サービスに渡されました。

説明: パラメーターとしていずれかの構成サービス API に渡された構造 *sqlfupd* へのポインターが無効です。それが NULL か、または *count* パラメーターで

示されたサイズの割り振られたメモリーのブロックを指していません。詳細については、「アプリケーション開発ガイド」を参照してください。

ユーザーの処置: 構成サービス API を呼び出すコードを修正して、API 呼び出しを再実行してください。

SQL5062N *sqlfupd* 構造内の無効なポインターが、構成サービスに渡されました。

説明: パラメーターとして、いずれかの構成サービス API に渡された構造 *sqlfupd* に、無効なポインターが入っていました。ポインターが NULL か、または割り振られたメモリーのブロックを指していません。構造内の渡される各トークンは、API との間で受け渡されるフィールドに対応するポインターを持っている必要があります。詳細については、「アプリケーション開発ガイド」を参照してください。

ユーザーの処置: 構成サービス呼び出すコードを修正して、プログラムを再実行してください。

SQL5065C データベース・マネージャー構成ファイルの *nodetype* 値が無効です。

説明: データベース・マネージャー構成ファイルの *nodetype* パラメーターが無効です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーを再インストールしてください。

SQL5066W トークン *token-name* のデータベース構成パラメーター値が切り捨てられています。

説明: データベース構成パラメーター値が、示されているトークンが含むことができる大きさを超えています。

新しいトークンがこのデータベース構成パラメーター値を表し、古いトークンに含むことができる大きさを値が超えている場合にのみ使用されます。

ユーザーの処置: このデータベース構成パラメーターとして新しいトークンを使用してください。

SQL5070N 構成コマンドの *count* パラメーターが無効です。これは、0 より大きくなければなりません。

説明: パラメーターとして、構成サービス API に渡される *count* の値は、0 より大きくなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 構成サービス呼び出すコードを修正して、プログラムを再実行してください。

SQL5075N 構成ユーティリティが中断されました。

説明: 構成ユーティリティが割り込みを受けました。ユーザーが割り込みキー・シーケンスを押した可能性があります。

コマンドは処理されませんでした。要求した変更は行われません。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。

SQL5076W 更新が正常に完了しました。

NOTIFYLEVEL の現行値が原因で、一部のヘルス・モニターの通知が通知ログに発行されません。

説明: ヘルス・モニターは、通知ログと、指定された E メールおよびページ連絡先に通知を発行します。NOTIFYLEVEL の現行値の設定が低過ぎるため、アラームと警告の通知を発行できません。NOTIFYLEVEL は、アラーム通知の場合は 2 以上、警告通知の場合は 3 以上に設定する必要があります。

ユーザーの処置: データベース・マネージャー構成パラメーター NOTIFYLEVEL の値を増やしてください。

SQL5077N パラメーター *parameter* は、このサーバー・リリースの構成アドバイザーでサポートされていません。サポートされるパラメーターには、*supported-parameters* があります。

説明: 指定されたパラメーターは、このサーバー・リリースではサポートされていません。

ユーザーの処置: このパラメーターを指定せずにコマンドを再発行するか、サポートされる別のパラメーターと置き換えてください。

SQL5081N データベース構成ファイル内の、バッファ・プールのサイズ (**buffpage**) が有効範囲を超えています。

説明: バッファ・プール・サイズの最小値は、アクティブ・プログラムの最大数 (maxappls) の 2 倍です。バッファ・プール・サイズの最大値は、524288 (4KB ページの数) で、オペレーティング・システムによって異なります。AIX での最大値は 51000 (Extended Server Edition は 204000 です) (4KB ページ) です。HP-UX では、値が 16 から 150000 (4KB ページ) の間でなければなりません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: バッファ・プールのサイズに有効な

値を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL5083N データベース構成ファイル内の、初期ログ・ファイル・サイズ (**logfile**) が有効範囲を超えています。

説明: 初期ログ・ファイル・サイズの値は、12 と (2**32 - 1) の間でなければなりません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 初期ログ・ファイル・サイズに有効な値を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL5091N データベース構成ファイル内の、1 つのログ・ファイル拡張のサイズ (**logext**) が有効範囲を超えています。

説明: 1 つのログ・ファイル拡張のサイズの値は、4 から 256 の間でなければなりません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 1 つのログ・ファイル拡張のサイズに有効な値を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL5092N データベース構成ファイル内の、ログ・ファイル拡張の最大許容数 (**logmaxext**) が有効範囲を超えています。

説明: ログ・ファイル拡張の最大許容数の値は、0 から (2 * 10**6) の間でなければなりません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: ログ・ファイル拡張の最大許容数に有効な値を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL5093N データベース構成パラメーター内の、エージェント・ヒープのサイズ数が有効範囲を超えています。

説明: エージェント・ヒープのサイズの値は、2 から 85 の間でなければなりません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: エージェント・ヒープのサイズに有効な値を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL5099N データベース構成パラメーター *parameter* によって示されている値 *value* が無効です。理由コード *reason-code*。

説明: 次のいずれかの理由により、このパスは無効です。

- 1 パス・ストリングの長さが 242 バイト以上です。
- 2 パスが存在しません。
- 3 パスの 1 番目のディレクトリーに SQLNNNNN 形式の名前があります。(NNNNN は 00001 から 99999 までの値です)
- 4 正しい名前のファイルが指定されたパスに見つかりましたが、このデータベースのログ・ファイルではありませんでした。
- 5 このパスは、他のデータベースによって現在使用されています。
- 6 このパスは、他の目的のために同じデータベースによって現在使用されています。
- 7 パスによって指定された装置は、ログ・ファイルを保留するだけの大きさがありません。
- 8 ロー・デバイスを MIRRORLOGPATH、OVERFLOWLOGPATH、FAILARCHPATH、LOGARCHMETH1、または LOGARCHMETH2 として指定することはできません。

- 9 パスにアクセスできません。
- 10 パス・ストリングの長さが 206 バイト以上です。
- 11 メソッドの DISK を指定する際のターゲットは、ディレクトリーでなければなりません。
- 12 メソッドの VENDOR を指定する際のターゲットは、ディレクトリーでなければなりません。
- 13 LOGARCHMETH1 が USEREXIT または LOGRETAIN に設定されている場合、LOGARCHMETH2 は OFF に設定されていなければなりません。
- 14 DISK または VENDOR を指定する際には、ターゲット値を指定する必要があります。
- 15 LOGRETAIN または USEREXIT を使用する場合、ターゲット値は指定できません。
- 16 無効なメソッドが指定されました。有効な値には、DISK、TSM、VENDOR、USEREXIT、LOGRETAIN、および OFF があります。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: このパスに有効な値でコマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -5099

sqlstate: 08004

SQL5100 - SQL5199

SQL5100N データベース・マネージャー構成ファイル内の、並行して使用できるデータベースの数が大きすぎます。

説明: 要求した変更は、(1) 並行して使用可能なデータベースの許容数が大きくなりすぎるか、または (2) DB2 に許されているセグメント数が少なくなりすぎる原因になります。

並行して使用可能なデータベースの許容数は、DB2 に許される最大セグメント数によって制限されます。次の条件は常に真でなければなりません。

```
segments >=
((number of databases * 5) + 1)
```

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

- DB2 に許される最大セグメント数を増やしてください。
- 並行して使用可能なデータベース数を減らしてください。

SQL5101N データベース構成ファイル内の項目が、有効範囲を超えたログ・ファイル・パラメーター (**logprimary** と **logsecond**) を定義しています。

説明: 要求した変更では、ログ・ファイルの合計数が範囲外になります。次の条件は常に真でなければなりません。

```
logprimary + logsecond <= 128
```

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 以下のいずれか、または両方を行ってください。

- 1 次ログ・ファイル数を減らしてください。
- 2 次ログ・ファイル数を減らしてください。

SQL5103N データベース構成ファイル内の、バッファ・プールのサイズ (**buffpage**) が、アクティブ・アプリケーションの最大数 (**maxappls**) には小さすぎます。

説明: 要求した変更では、アクティブ・アプリケーションの最大数がバッファ・プールのサイズを超えています。次の条件は常に真でなければなりません。

```
bufferpool_size >
(number of active_processes * 2)
```

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 以下のいずれか、または両方を行ってください。

- バッファ・プールのサイズを増やしてください。
- アクティブ処理の最大許容数を減らしてください。

SQL5112N 構成パラメーター *parameter* の値は、0 または 1 のどちらかです。

説明: この要求は、*parameter* に与えられた値が無効のため、完了していません。

ユーザーの処置: *parameter* に指定された値が 0 または 1 であることを確認して、要求を再実行してください。

SQL5113N **ALT_COLLATE** は **Unicode** データベース用には更新できません。

説明: 代替照合シーケンス (**ALT_COLLATE**) データベース構成パラメーターは **Unicode** 以外のデータベースにのみ更新できます。 **Unicode** データベースでは、すべての表はデータベース作成時に指定した照合シーケンスを使用して照合する必要があります。

ユーザーの処置: **ALT_COLLATE** データベース構成パラメーターを **Unicode** データベース用に更新しないでください。

SQL5120N 新旧ログ・パラメーターは両方同時には変更できません。

説明: 前のログ・パラメーターと新しいパラメーターの両方を変更しようとしています。アプリケーションは、現行リリースのパラメーターのみをサポートするべきです。

要求は拒否されます。

ユーザーの処置: 現行リリースのパラメーターのみを修正して、コマンドを再試行してください。

SQL5121N データベース構成ファイルの構成オプションが無効です。

説明: データベース・オプション (**SQLF_DETS**) に設定された値が無効です。有効な設定は 0 から 15 までです。要求された変更は実行されません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 有効なデータベース・オプションの値を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL5122N マシン依存のチェックによって、データベースへのアクセスは無効です。

説明: データベースおよびデータベース構成ファイルが、コピー・プロテクトのためにアクセスできません。

ユーザーの要求は拒否されます。

ユーザーの処置: オリジナル・データベースに戻って、構成ファイルを変更し、コピー・プロテクトをオフにした後で、データベースのリストアに使用する可能性がある新しいバックアップを作成してください。これは、個別の **SYSADM** 権限で実行する必要があります。オリジナル・データベースが使用できない場合は、サービス技術員に連絡してください。

SQL5123N ログ・コントロール・ファイルのアクセス中に入出力エラーが発生したために、データベース *name* を構成できません。

説明: 示されたデータベースの **SQLLOGCTL.LFH** にアクセス中に、エラーが起きました。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: データベースをバックアップ・コピーからリストアするか、またはデータベースを再作成してください。

SQL5126N *node-type-code* のノード・タイプに無効なデータベース・マネージャー構成パラメーター *parm* を変更しようとした。

説明: 示されたノード・タイプに無効なデータベース・マネージャー構成パラメーターの変更が試みられました。 "*<node-type-code>*" は、以下のように定義されます。

- 1 ローカルとリモート・クライアントを持つデータベース・サーバー
- 2 クライアント
- 3 ローカル・クライアントを持つデータベース・サーバー

- 4 ローカルおよびリモート・クライアントを伴う、パーティション・データベース・サーバー
- 5 ローカル・クライアントを持つサテライト・データベース・サーバー

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 示されたノード・タイプに有効なパラメーターを指定して、要求の再サブミットを行ってください。

SQL5130N 構成パラメーター *parameter* に指定された値は、*start-of-range* から *end-of-range* の有効範囲内にありません。

説明: *parameter* の値が有効な範囲内にないために、この要求は行われていません。

ユーザーの処置: *parameter* の指定された値が有効範囲内にあるかを確認し、要求を再試行してください。

SQL5131N 構成パラメーター *parameter* に指定された値は、有効な範囲内にありません。有効範囲は "-1" か、または *start-of-range* から *end-of-range* の間です。

説明: *parameter* の値が有効な範囲内にないために、この要求は行われていません。

ユーザーの処置: *parameter* の指定された値が有効範囲内にあるかを確認し、要求を再試行してください。

SQL5132N 構成パラメーターが NULL か、あるいは長すぎます。最大長は *maximum-length* です。

説明: 構成パラメーターが設定されていないか、または長すぎます。

ユーザーの処置: 構成パラメーターの値を、示された最大長内に変更してください。

SQL5133N 構成パラメーター *parm* の値 *value* が無効です。有効な値のセットは *value-list* です。

説明: *value* は、構成パラメーター *parm* に指定されている値です。この値は、*value_list* に示されている有効な値の 1 つではありません。

これらの値の意味については、「アプリケーション開発ガイド」(SQLFUPD 項目) および「管理ガイド」を調べてください。

ユーザーの処置: 構成パラメーターの値を、有効なリストに示されている値のいずれかに変更してください。

SQL5134N 構成パラメーター *tpname* に、無効な文字が含まれています。

説明: *tpname* の 1 つ以上の文字が、有効範囲にありません。*tpname* の文字は、以下のいずれかでなければなりません。

- A - Z
- a - z
- 0 - 9
- \$
- #
- @
- . (ピリオド)

ユーザーの処置: *tpname* を変更して、コマンドまたは関数呼び出しを再実行してください。

SQL5135N 構成パラメーターの *maxlocks* と *maxappls* の設定は、ロック・リスト・スペースのすべてを使用するわけではありません。

説明: アクティブ処理数 (*maxappls*) に、アプリケーションごとのロック・リスト・スペースのパーセントの最大値 (*maxlocks*) を掛けた値は、100 以上でなければなりません。すなわち、以下のとおりです。

$\text{maxappls} * \text{maxlocks} \geq 100$

これで、割り振られたすべてのロック・リスト・スペースを使用できます。

ユーザーの処置: *maxappls*、*maxlocks*、またはその両方の設定を増やしてください。

SQL5136N データベース・マネージャー構成ファイル内の、デフォルトのデータベース・パス (*dftdbpath*) が無効です。

説明: *dftdbpath* によって無効な値が指定されました。UNIX ベース・システムのデフォルト・データベース・パスの規則は以下のとおりです。

1. パスはオペレーティング・システムの命名規則に従わなければならない。
2. パスは存在しなければならない。
3. パスは 215 文字以下でなければならない。

他のプラットフォーム (OS/2、Windows など) の規則は次のとおりです。

1. パスはドライブ名でなければなりません。
2. ドライブが存在しなければなりません。

ユーザーの処置: *dftdbpath* を変更して、コマンドまた

は関数呼び出しを再実行してください。

SQL5137N データベース・マネージャー構成ファイル内の、診断ディレクトリー・パス (*diagpath*) が無効です。

説明: *diagpath* によって無効な値が指定されました。診断ディレクトリー・パスの規則は、以下のとおりです。

1. パスはオペレーティング・システムの命名規則に従わなければならない。
2. パスは存在しなければならない。
3. パスは 215 文字以下でなければならない。

ユーザーの処置: *diagpath* を変更して、コマンドまたは関数呼び出しを再実行してください。

SQL5140N データベース・マネージャーの構成パラメーター “*authentication*” の項目は、**SERVER、CLIENT、DCE、KERBEROS、SERVER_ENCRYPT、DCE_SERVER_ENCRYPT、またはKRB_SERVER_ENCRYPT** のいずれかでない限りなりません。

説明: 構成パラメーター “*authentication*” として許可されている値は以下のとおりです。

- SERVER = 0
- CLIENT = 1
- DCE = 3
- SERVER_ENCRYPT = 4
- DCE_SERVER_ENCRYPT = 5
- KERBEROS = 7
- KRB_SERVER_ENCRYPT = 8

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: “*authentication*” に有効な値を使用して、コマンドを再実行してください。

SQL5141N 構成パラメーター *avg_appls* が範囲を超えています。有効な範囲は 1 から *maxappls* の値までです。

説明: *avg_appls* の許容範囲は、1 から *maxappls* の値までです。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 以下の 1 つ以上を行ってください。

- *avg_appls* の値を、有効な範囲の値に変更してください。

- *maxappls* の値をもっと大きな値にした後で、もう一度 *avg_appls* を設定してください。

SQL5142N 構成パラメーター *agentpri* が有効範囲にありません。

説明: *agentpri* の有効な値は -1 か、または 3 桁の数字で、最初の桁が 2 から 4 までの範囲の優先順位クラス、最後の 2 桁がクラス内の 00 から 31 までの範囲の優先順位レベルです。優先順位クラスは、以下のよう定義されています。

- | | |
|----------|------------------|
| 2 | REGULAR |
| 3 | TIMECRITICAL |
| 4 | FOREGROUNDSERVER |

たとえば、番号 304 は、優先順位レベル 4 を持つ優先順位クラス 3 (TIMECRITICAL) に対応します。

ユーザーの処置: 構成パラメーターの値を、有効範囲内の値に変更してください。

SQL5150N 構成パラメーター *parameter* に指定された値は、*minimum-value* の最小許可可能値以下です。

説明: この要求は、*parameter* に与えられた値が小さすぎるため、完了していません。*parameter* は *minimum value* より小さくはいけません。

ユーザーの処置: *parameter* の指定された値が有効範囲内にあるかを確認し、要求を再試行してください。

SQL5151N 構成パラメーター *parameter* に指定された値は、*minimum-value* の最小許可可能値以下および -1 ではありません。

説明: この要求は、*parameter* に与えられた値が無効のため、完了していません。-1 の許可可能値以外で、*parameter* は *minimum value* 以下であってははいけません。

ユーザーの処置: *parameter* の指定された値が有効範囲内にあるかを確認し、要求を再試行してください。

SQL5152N 構成パラメーター *parameter* に対して指定された値が *maximum-value* の最大許可可能値より大きくなっています。

説明: この要求は、*parameter* に与えられた値が大きすぎるため、完了していません。*parameter* は *maximum value* 以上であってはなりません。

ユーザーの処置: *parameter* の指定された値が有効範囲内にあるかを確認し、要求を再試行してください。

SQL5153N 次のリレーションシップが違反している恐れがあるため更新を完了できません:
condition

説明: 有効な構成ファイルは次のリレーションシップを保守していません。

condition

更新要求は、構成の結果がリレーションシップに違反しているため、完了できませんでした。

ユーザーの処置: 要求を再サブミットし、適切なリレーションシップであるかを確認してください。

SQL5154N "認証" と *parameter* に対する要求された構成値の結合は、許可されていません。理由コード = *reason-code*。

説明: 理由コードに対応する説明は、以下のとおりです。

1. このデータベース・マネージャー構成パラメーター "authentication" は、*parameter* の値が非デフォルトの場合、値 "CLIENT" がなくてはなりません。
2. データベース・マネージャー構成パラメーター *parameter* の設定の前に、データベース・マネージャー構成パラメーター AUTHENTICATION または SRVCON_AUTH を GSSPLUGIN または GSS_SERVER_ENCRYPT に更新することはできません。
3. データベース・マネージャー構成パラメーター *parameter* の設定の前に、データベース・マネージャー構成パラメーター AUTHENTICATION または SRVCON_AUTH を KERBEROS または KRB_SERVER_ENCRYPT に更新することはできません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

1. 有効な構成パラメーターの値の組み合わせを使用して、コマンドを再度実行してください。
2. データベース・マネージャー構成パラメーター *parameter* を設定してから、ステートメントを再サブミットしてください。
3. データベース・マネージャー構成パラメーター *parameter* を設定してから、ステートメントを再サブミットしてください。

SQL5155W 更新が正常に完了しました。
SORTHEAP の現行値がパフォーマンスに反対に影響を及ぼす可能性があります。

説明: SORTHEAP の値が、現在、データベース・マネージャー構成パラメーター SHEAPTHRES の値の半分より、大きくなっています。これは、パフォーマンスが最適状態より悪くなる原因となる可能性があります。

ユーザーの処置: データベース・マネージャー構成パラメーター SHEAPTHRES の値を増やすか、または SHEAPTHRES が少なくとも SORTHEAP の 2 倍の大きさになるように SORTHEAP の値を減らす、あるいはその両方を行ってください。

大きい方の比率が、たいていの場合、望ましい値です。構成パラメーターの調整の推奨については、*管理ガイド* を参照してください。

SQL5156N データベース・マネージャー構成パラメーター "trust_allcnlts" の値は、**NO**、**YES**、または **DRDAONLY** のいずれかでなければなりません。

説明: 構成パラメーター "trust_allcnlts" として許可されている値は以下のとおりです。

- NO = 0
- YES = 1
- DRDAONLY = 2

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: "trust_allcnlts" に有効な値を使用して、コマンドを再実行してください。

SQL5180N DB2 は、フェデレーション構成ファイル *file-name* を読み取ることができません。

説明: フェデレーテッド構成ファイルが見つからなかったか、または読み取りのためにオープンできませんでした。

ユーザーの処置: DB2_DJ_INI レジストリー変数にフェデレーション構成ファイルを指定してください。ファイルが存在し、読み取り可能であることを確認してください。

SQL5181N フェデレーション構成ファイル *file-name* で、行 *line-number* の形式が無効です。

説明: 指定された行が正しい形式ではありません。項目は <evname> = <value> の形式に従う必要があります。ここで、<evname> は環境変数名で、<value> は対応する値です。

項目は次の制限に準拠する必要があります。

- 環境変数名が 255 バイトの最大長で指定されている。
- 環境変数値が 765 バイトの最大長で指定されている。
- ファイル内のすべての行の最大長は 1021 バイトです。この長さを超えるデータは無視されます。

ユーザーの処置: ここで記述されている形式で指定してください。

SQL5182N 必須環境変数 *variable-name* が設定されていません。

説明: フェデレーテッド構成ファイル db2dj.ini において、環境変数 *variable-name* がリストされていないか、

SQL5500 - SQL5599

SQL5500N DB2 は、ベンダーの構成ファイル *file-name* を読み取ることができません。

説明: ベンダーの構成ファイルが見つからなかったか、または読み取りのためにオープンできませんでした。

ユーザーの処置: DB2_VENDOR_INI レジストリー変数にベンダーの構成ファイルを指定してください。ファイルが存在すること、DB2 からオープンするためのファイルの許可があることを確認してください。

SQL5501N ベンダーの構成ファイル *file-name* で、行 *line-number* の形式が無効です。

説明: 指定された行が正しい形式ではありません。項目は *<evname> = <value>* の形式に従う必要があります。

SQL6000 - SQL6099

SQL6000N QMF データの DB2 変換。

説明: これは正常な終了メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL6001N ファイル名に接頭部が指定されていません。

説明: SQLQMF 機能コマンドが使用されず、直接 SQLQMF 機能のモジュールが実行されました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 提供されている SQLQMF 機能コマンドを使用してください。

あるいはリストされていても値がありません。

ユーザーの処置: フェデレーテッド構成ファイルの更新の詳細は、「DB2 II データ・ソース構成ガイド」または「DB2 II フェデレーテッド・システム・ガイド」を参照してください。

SQL5185N *server-type* データ・ソースへのパススルーはサポートされていません。

説明: パススルー機能は、*server-type* データ・ソースにアクセスするために使用できません。

ユーザーの処置: 必要ありません。

sqlcode: -5185

sqlstate: 428EV

す。ここで、*<evname>* は環境変数名で、*<value>* は対応する値です。

項目は次の制限に準拠する必要があります。

- 環境変数名が 255 バイトの最大長で指定されている。
- 環境変数値が 765 バイトの最大長で指定されている。
- ファイル内のすべての行の最大長は 1021 バイトです。この長さを超えるデータは無視されます。

ユーザーの処置: 示されている行が直前に記述した形式と一致していることを確認してください。

SQL6002N コミュニケーション・マネージャーで、ダウンロード・エラーが発生しました。

説明: コミュニケーション・マネージャーが、ホスト・ファイルをダウンロードしている時にエラーを見つけました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コミュニケーション・マネージャー・メッセージ・ログを調べてください。

SQL6003N QMF からエクスポートされたファイルに、長すぎる行があります。その行の長さは *number* です。

説明: 計算された行のサイズ (計算された列のサイズの合計) が、最大値の 7000 バイトを超えています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: QMF ホスト・セッションに戻って、データ列の少ない照会を実行してください。再度データを EXPORT (エクスポート) した後で、SQLQMF 機能コマンドを発行してください。

SQL6004N *function* が予期しない戻りコード *code* を返しました。

説明: 処理中に、予期しないエラーが起きました。コミュニケーション・マネージャーまたは DB2 が、正しくインストールされていないか、または正しく構成されていない可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コミュニケーション・マネージャーがインストールされ、適切なホスト通信セッションがアクティブになっていることを確認してください。他のエラーの有無をチェックして、コマンドを再実行してください。問題が続く場合は、コミュニケーション・マネージャーのシステム管理者に連絡してください。

SQL6005N ダウンロードされた QMF ファイルの読み取り中に、エラーが発生しました。

説明: 以下のいずれかの状況が検出されました。

- ファイルをオープンできません。
- 早すぎるファイルの終わりが見つかりました。
- ファイルの読み取り中に、入出力エラーが起きました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コミュニケーション・マネージャー・メッセージ・ログを調べてください。コマンドを再実行してください。エラーが続く場合は、コミュニケーション・マネージャーのシステム管理者に連絡してください。

SQL6006N 出力ファイルへの書き込み中に、エラーが発生しました。

説明: 以下のいずれかの状況が検出されました。

- データを書き込む C: ドライブに、十分なスペースがありません。
- 出力ファイルがオープンできませんでした。
- ファイルの書き込み中に、入出力エラーが起きました。
- ファイルをクローズするときに、入出力エラーが発生しました。
- ファイルが別の OS/2 処理で使用されています。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: db2djlink 出力を保留するために十分なスペースがありません。db2djlink が作成し、使用する一時ファイルには、さらにスペースが必要です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: C: ドライブ上に、十分なディスク・スペースがあることを確認してください。コマンドを再発行してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: フェデレーテッド・サーバーがインストールされているファイル・システムのサイズを増やしてください。AIX オペレーティング・システムで db2djlink に必要なフリー・スペースの量を見積もるには、次のコマンドを実行します。

```
ls -e /  
install_directory/lib/libdb2euni.a
```

このコマンドはリストされたファイルに使用されているバイト数を返します。その数値を 3 倍にしてください。その結果が、ファイル・システムに必要なフリー・スペースの見積値です。必要に応じてファイルシステムのサイズを増加し、コマンドを再実行してください。

SQL6007N 行 *row*、列 *column* の 10 進数値を ASCII に変換できません。

説明: 示されている 10 進数フィールドが変換できませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ホスト列のデータ・タイプが DECIMAL であることを確認してください。QMF EXPORT を再実行した後で、再度 SQLQMF 機能 コマンドを発行してください。エラーが続く場合は、示された列を使用しないで QMF 照会を再実行してください。

SQL6008N コマンドに指定されたファイルは QMF データ形式ではありません。

説明: *filename* パラメーターによって指定されたファイルが、予期された QMF 形式ではありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 名前を正しくタイプしたことを確認してください。名前が正しい場合は、QMF ホスト・セッションに戻って、コマンド EXPORT DATA TO *filename* を再発行してください。QMF データ形式を使用して、エクスポートする必要があります。

SQL6009N QMF からエクスポートされたファイルに、長すぎる幅 *width* の列 *name* があります。列の最大幅は 4000 バイトです。

説明: ダウンロードされた QMF ファイルが、4000 バイトを超す幅を持つ列を含んでいます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: QMF ホスト・セッションに戻り、示された列を指定せずに QMF 照会を再実行して、もう一度データをエクスポートしてください。その後、SQLQMF 機能コマンドを再実行してください。

SQL6010N ダウンロードされた QMF ファイルには、255 を超えるデータ列があります。

説明: 処理されているファイルには、255 以上のデータ列が入っています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: QMF ホスト・セッションに戻り、データ列を 255 以下にして照会を再実行してください。再びデータを EXPORT (エクスポート) して、SQLQMF 機能コマンドを再実行してください。

SQL6011N 列 *name* (*number* 列目) のデータ・タイプ *number* (*type-text*) は処理できません。

説明: QMF ファイルに、サポートされていないデータ・タイプの列が入っています。

SQLQMF 機能は以下のデータ・タイプをサポートしていません。

- LONG VARCHAR
- LONG VARGRAPHIC

SQLQMF 機能 SQLQMFDB のみが、GRAPHIC データ・タイプをサポートします。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: QMF ホスト・セッションに戻り、示された列を選択しないで照会を再実行してください。その後で、SQLQMF 機能コマンドを再実行してください。

SQL6012N コマンドに指定したパラメーターが多すぎます。

説明: コマンドに指定したパラメーターが多すぎます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しい数のパラメーターを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL6013N ホスト・ファイル名 *host-filename* が長すぎるか、または英字で始まっていません。

説明: *host filename* が英字で始まっていないか、またはホストが VM システムの場合は *host filename*、*filetype*、または *filemode* が長すぎます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しい *host filename* 構文を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL6014N 無効なコマンド構文、コロンの (':') をキーワードの後に続ける必要があります。

説明: オペランドを持つキーワード・パラメーターには、すぐ後に “:” 文字が続き、その後にオペランドが続くキーワードが必要です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コマンド構文を確認して、コマンドを再発行してください。

SQL6015N キーワードが認識されません。

説明: キーワード・パラメーター標識 (“/”) の後に、キーワードではない値が続いています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 別のキーワードの値を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL6016N システム/370 ファイル名 *name* のオペランドが多すぎます。

説明: ホストが VM システムの場合は、ホスト・ファイル名に、3 つ以上のスペース分離トークンが入っています。ホストが MVS システムの場合は、ホスト・ファイル名に、組み込みブランクが入っています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 別のキーワードの値を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL6017N 追加情報が、インポート・メッセージ・ログ *name* に含まれている可能性があります。

説明: データベースの IMPORT 操作が、警告またはエラー・メッセージとともに終了しました。

コマンドは作業ファイルを割り振ったまま残していません。

ユーザーの処置: このメッセージに先行するメッセージと、存在する場合は、IMPORT メッセージ・ログを使用

して、IMPORT が成功したかどうかを判別し、修正アクションを決定してください。インポートが成功した場合は、DEL、CRE、COL、IML ファイルを消去してください。

SQL6018N S/370 ファイル名が指定されていません。

説明: S/370 ファイル名は必須パラメーターです。コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ホスト・ファイル名を指定して、コマンドを再発行してください。

SQL6019N 通信簡略セッション ID ID が長すぎるか、または無効です。

説明: 通信簡略セッション ID に指定された値が、1 バイトより長い、または英字ではありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な値を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL6020N データベース名を指定せずに、インポート・オプションが指定されました。

説明: データベース名が指定されずに、インポート・オプションが指定されました。

コマンドは終了します。

ユーザーの処置: データベース名を指定して、コマンドを再発行してください。

SQL6021N データのインポートが成功しました。

説明: これは、SQLQMF 機能がデータをデータベースにインポートしたときの通常の終了メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL6022N システム・データベース・ディレクトリー は、すべてのノードによって共有されていません。

説明: すべてのノードが、システム・データベース・ディレクトリーの 1 つの物理コピーにアクセスする必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: sqllib ディレクトリーに常駐するすべてのノードがシステム・データベース・ディレクトリーにアクセスしていることを確認して、要求を再試行してください。

SQL6023N このユーザーは、表 *name* で **Get Table Partitioning Information** ユーティリティーを実行する権限を持っていません。

説明: ユーザーは、適切な許可がないのに (SYSADM、DBADM 権限、または表の CONTROL、SELECT 特権) 指定された表でパーティション情報を検索しようとしていました。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 適切な許可なしで、GET Table Partitioning 情報ユーティリティーを呼び出そうとしないでください。操作については、システム管理者に連絡してください。

SQL6024N 表または索引 *name* がノード *node-number* で定義されていません。

説明: アプリケーションはノード *node-number* に接続されており、表または索引 *name* が定義されていません。

原因は以下のいずれかです。

- アプリケーションが接続しているノードは、表または索引が作成されたノード・グループのメンバーではありません。
- そのノード・グループはノードを使用していません。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: アプリケーション、表または索引が定義されたノードに接続してください。表が作成されたノード・グループを判別して、NODEGROUPDEF カタログ・ビューから適切な行選択して、ノードのリストを獲得してください。IN_USE 値が Y に設定されるノードは、表または索引を定義するノードです。

SQL6025N ノード *node1* のデータベース・バックアップをノード *node2* にリストアできません。

説明: リストアに使用されるバックアップ・イメージは、データベースの別のノードでのバックアップです。

ユーザーの処置: ノードの正しいバックアップ・イメージがあるかを確認して、要求を再試行してください。

SQL6026N カタログ・ノード *node1* を伴うデータベースをカタログ・ノード *node2* を伴うデータベースにリストアできません。

説明: カタログ・ノードは、1 つのノードだけに存在するため、バックアップ・イメージとリストアされたノード間に相違があります。これは、次の場合発生します。

- バックアップ・イメージ指定のカatalog・ノード *node1* およびリストアを、カatalog・ノードがノード *node2* の既存のデータベースで試行しようとした。
- リストアを新規データベースで試行して、カatalog・ノードは先にリストアされませんでした。(すべてのノードでデータベースを作成するため、先にカatalog・ノードをリストアしてください。)

ユーザーの処置: 正しいバックアップ・イメージがリストアされていることを確認してください。

既存のデータベースにリストアしていて、カatalog・ノードを *node2* に変更したい場合は、先に既存のデータベースをドロップする必要があります。

新規データベースにリストアしている場合は、カatalog・ノード *node1* を先にリストアしてください。

SQL6027N データベース・ディレクトリーのパス *path* が無効です。

説明: CREATE DATABASE または CATALOG DATABASE コマンドに指定されたパス *path* が文字 '.' で始まっているか、または文字ストリング '.' を含んでいます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 指定されたパスが完全修飾パスで、最初の文字が '.' ではなく、文字ストリング '.' を含んでいないことを確認してください。その後、要求を再試行してください。

SQL6028N カatalog・データベースはデータベース *dbname* がローカル・データベース・ディレクトリーに見つからないため失敗しました。

説明: システム・データベース・ディレクトリーにローカル・データベースをカatalogするときに、コマンド/API はデータベースが常駐するサーバー上のノードから発行される必要があります。

ユーザーの処置: データベースが常駐するノードから、コマンド/API を再度発行してください。

SQL6030N START または STOP DATABASE MANAGER が失敗しました。理由コード *reason-code*。

説明: 理由コードは、次のエラーを示しています。ステートメントは処理できません。

- (1) インスタンスの *sqllib* ディレクトリーにアクセスできません。

- (2) プロファイル・ファイル名に追加した絶対パス名が長すぎます。
- (3) そのプロファイル・ファイルをオープンできません。
- (4) *nodenum* パラメーター値が、*sqllib* ディレクトリーの *db2nodes.cfg* ファイルに定義されていません。
- (5) *nodenum* パラメーターは、コマンド・オプションが指定されるときに指定するようにしてください。
- (6) ポート・パラメーター値が無効です。
- (7) 新規のホスト名/ポートの対がユニークなものではありません。
- (8) FORCE オプションを NODENUM オプションが指定されるときに、指定できません。
- (9) ホスト名およびポート・パラメーターは、ADDNODE オプションを使用しているときに、指定されなくてはなりません。
- (10) ADDNODE または RESTART オプションに対し *sqllib* ディレクトリーの *db2nodes.cfg* ファイルを更新できません。
- (11) ホスト名パラメーターの値が無効です。
- (12) *sqleldbstrtopt* または *sqleldbstopopt* 構造のポインターが無効です。
- (13) ポートの値が、ご使用の DB2 インスタンス ID (UNIX ベース・システムの */etc/services* ファイル) に定義されていません。
- (14) ポートの値が、ご使用の DB2 インスタンス ID (UNIX ベース・システムの */etc/services* ファイル) の有効ポート範囲に定義されていません。
- (15) ホスト名の値は、*sqllib* ディレクトリーの *db2nodes.cfg* ファイルに定義されている対応するポート 0 がありません。
- (16) このコマンドまたはパラメーターに指定された値が無効です。
- (17) NODENUM オプションが指定されないときは、DROP オプションを指定できません。
- (18) *callerac* パラメーターに対して指定された値が無効です。
- (19) UNIX ソケット・ディレクトリー */tmp/db2_<ver>_<rel>/\$DB2INSTANCE* を作成できません。
- (20) ADDNODE オプション付きで指定されたノード番号は、*db2nodes.cfg* ファイルにすでに存在

- しているか、あるいは最後にデータベース・マネージャーの停止コマンドが発行されてから、ノードがすでに追加されているかのどちらかです。
- (21) ADDNODE オプション付きで指定された表スペースのタイプは無効です。
- (22) ADDNODE 付きで指定された表スペースのノードは範囲外です。
- (23) コンピューター名パラメーターを ADDNODE オプションで指定する必要があります。
- (24) ユーザー名パラメーターを ADDNODE オプションで指定する必要があります。
- (25) コンピューター名が無効です。
- (26) ユーザー名が無効です。
- (27) パスワードが無効です。
- (28) パスワードが期限切れです。
- (29) 指定されたユーザー・アカウントが、使用不可か、期限切れか、または制限付きです。
- (31) ネット名パラメーターが無効です。
- ユーザーの処置:** 理由コードに対応するアクションは、次のとおりです。
- (1) \$DB2INSTANCE ユーザー ID に、そのインスタンスの sqllib ディレクトリーにアクセスするのに必要な許可があるかを確認してください。
- (2) プロファイル名に追加される完全修飾パスの合計の長さが、ファイル sqlenv.h で定義された SQL_PROFILE_SZ より小さくするために、プロファイル名を短縮名に変更してください。
- (3) プロファイル・ファイルが存在しているかを確認してください。
- (4) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルに nodenum 値が定義されており、その値が 0 と 999 の間であることを確認してください。
- (5) nodenum パラメーターを指定して、コマンドを再度実行してください。
- (6) ポート値が 0 と 999 の間にあることを確認してください。値が指定されない場合、そのポート値は デフォルト値の 0 にセットされます。
- (7) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルに新規のホスト名/ポートの対が定義されていないことを確認してください。
- (8) NODENUM オプションを指定するときに FORCE オプションを指定しないでください。
- (9) ホスト名およびポート値が、ADDNODE オプションを指定するときに指定されていることを確認してください。
- (10) \$DB2INSTANCE ユーザー名に、そのインスタンスの sqllib ディレクトリーへの書き込みアクセス権があり、十分なディスク・スペースがあり、ファイルが存在しているかを確認してください。
- (11) 指定されたホスト名がシステムに定義されているかを確認してください。
- (12) ポインターが NULL ではなく、sqlpstr() API の sqledbstrtopt を指しているまたは、sqlpstr() API の sqledbstrtopt 構造を指しているかを確認してください。
- (13) サービス・ファイル (UNIX ベース・システムの /etc/services) にご使用の DB2 インスタンス ID の項目が入っているかを確認してください。
- (14) ご使用のインスタンスのサービス・ファイル (UNIX ベース・システムの /etc/services) に定義されているポート値のみを使用しているかを確認してください。
- (15) すべてのホスト名値が、再始動オプションの入った sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルに定義されているポート 0 を持っているかを確認してください。
- (16) オプション・パラメーターの指定された値が有効範囲内にあるかを確認してください。
- (17) DROP オプションを指定するときに NODENUM オプションを指定してください。
- (18) callerac パラメーターに対して指定された値が有効範囲内にあるかを確認してください。
- (19) すべての中間ディレクトリー /tmp/db2_<ver>_<rel>/\$DB2INSTANCE を作成できるかどうか確認するために、/tmp ファイル・システムの許可をチェックしてください。
- (20) 正しいノード番号を指定しているかどうか確認してください。データベース・マネージャーを停止して、db2nodes.cfg ファイルを、前のデータベース・マネージャー停止コマンドからシステムに追加されたノードを使用して更新してください。
- (21) 表スペース・タイプに対して指定された値が有効範囲内にあるかを確認してください。
- (22) db2nodes.cfg ファイルに表スペース・ノード値が定義されており、その値が 0 と 999 の間であることを確認してください。

- (23) COMPUTER オプションを使用して、新規ノードを作成するシステムのコンピューター名を指定してください。
- (24) USER および PASSWORD オプションを使用して、新規ノードの有効なドメイン・アカウント・ユーザー名とパスワードを指定してください。
- (25) 有効なコンピューター名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。
- (26) 有効なユーザー名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。
- (27) 有効なパスワードを指定して、コマンドを再サブミットしてください。
- (28) アカウント・パスワードを変更/更新して、コマンドを再サブミットしてください。
- (29) 有効なユーザー・アカウントを使用して、コマンドを再サブミットしてください。
- (31) ネット名の長さが SQL_HOSTNAME_SZ の長さを超えないことを確認してください。
- (9) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 *line* のホスト名/ポート結合がユニークではありません。
- (10) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 *line* のホスト名の値が無効です。
- (11) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 *line* のポートの値がサービス・ファイル (UNIX ベース・システムの /etc/services) の DB2 インスタンス ID に対して定義されていません。
- (12) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 *line* のポートの値がサービス・ファイル (UNIX ベース・システムの /etc/services) の DB2 インスタンス ID に対して有効なポート範囲に定義されていません。
- (13) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 *line* のホスト名の値が対応するポート 0 を持っていません。
- (14) 複数の項目を伴う db2nodes.cfg ファイルが存在しますが、データベース・マネージャー構成は MPP ではありません。
- (15) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 *line* にあるネット名が無効です。

SQL6031N db2nodes.cfg ファイルの行番号 *line* でエラーがありました。理由コード *reason-code*。

説明: 以下の理由コードによって示されているような db2nodes.cfg ファイルの問題のため、このステートメントを処理できません。

- (1) インスタンスの sqllib ディレクトリーにアクセスできません。
- (2) db2nodes.cfg ファイル名に追加した絶対パス名が長すぎます。
- (3) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルをオープンできません。
- (4) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 *line* に構文エラーが存在しています。
- (5) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 *line* の nodenum 値が無効です。
- (6) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 *line* の nodenum 値が順序外です。
- (7) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 *line* の nodenum 値がユニークではありません。
- (8) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 *line* のポートの値が無効です。
- (1) \$DB2INSTANCE ユーザー ID に、そのインスタンスの sqllib ディレクトリーにアクセスするのに必要な許可があるかを確認してください。
- (2) インスタンス・ホーム・ディレクトリーのパス名を短くしてください。
- (3) db2nodes.cfg ファイルが sqllib ディレクトリーに存在し、空でないことを確認してください。
- (4) 少なくとも 2 つの値が db2nodes.cfg ファイルの行ごとに定義され、そのファイルに空白行がないことを確認してください。
- (5) db2nodes.cfg ファイルに nodenum 値が定義されており、その値が 0 と 999 の間であることを確認してください。
- (6) db2nodes.cfg ファイルに定義されているすべての nodenum 値が昇順であることを確認してください。
- (7) db2nodes.cfg ファイルに定義されている各 nodenum 値がユニークであることを確認してください。
- (8) ポート値が 0 と 999 の間にあることを確認してください。

- (9) db2nodes.cfg ファイルに新規のホスト名/ポートの対が定義されていないことを確認してください。
- (10) 行 *line* の db2nodes.cfg に定義されているホスト名の値がシステムに定義され、操作可能であることを確認してください。
- (11) サービス・ファイル (UNIX ベース・システムの /etc/services) にご使用の DB2 インスタンス ID の項目が入っているかを確認してください。
- (12) ご使用のインスタンスのサービス・ファイル (UNIX ベース・システムの /etc/services) に定義されているポート値のみを使用しているかを確認してください。
- (13) ポート値 0 が db2nodes.cfg ファイルのホスト名に対応して定義されているかを確認してください。
- (14) 以下のいずれかのアクションを行ってください。
- db2nodes.cfg ファイルを除去する。
 - db2nodes.cfg ファイルを変更し、項目を 1 つだけ入れる。
 - Enterprise Server Edition をインストールする。
- (15) db2nodes.cfg の行 *line* に定義されているホスト名の値がシステムに定義され、操作可能であることを確認してください。

SQL6032W *total-number* ノードで、開始コマンドの処理が試行されました。 *number-started* ノードは、正常に開始されました。 *number-already-started* ノードはすでに開始されていました。 *number-not-started* ノードは、開始できませんでした。

説明: このデータベース・マネージャーはすべてのノードで正常に開始しませんでした。このデータベースのすべてのデータがアクセス可能でないかもしれません。正常に開始されている、あるいはすでに実行していたノードのデータがアクセス可能です。

ユーザーの処置: どのノードが開始していないか調べるインスタンスに関して、sqllib ディレクトリーのログ・ディレクトリーで作成されるログ・ファイルをチェックしてください。

SQL6033W *total-number* ノードで、停止コマンドの処理が試行されました。 *number-stopped* ノードが正常に停止されました。 *number-already-stopped* ノードはすでに停止されていました。 *number-not-stopped* ノードは、停止できませんでした。

説明: このデータベース・マネージャーはすべてのノードで正常に停止しませんでした。このデータベース・マネージャーは、停止できなかったノードでアクティブのままです。

ユーザーの処置: どのノードが停止していないか調べるインスタンスに関して、sqllib ディレクトリーのログ・ディレクトリーで作成されるログ・ファイルをチェックしてください。

SQL6034W ノード *node* は、ほかのデータベースによって使用されていません。

説明: DROP NODE VERIFY 処理中に、すべてのデータベースをスキャンして、このノードが、どのデータベースのノード・グループにも存在せず、イベント・モニターも定義されていないか調べてください。

ユーザーの処置: このノードは、'db2stop drop nodenum <node>' コマンドを実行して、システムからドロップすることができます。

SQL6035W ノード *node* はデータベース *database* によって使用されています。

説明: DROP NODE VERIFY 処理中に、データベースをスキャンして、このノードが、どのデータベースのノード・グループにも存在せず、イベント・モニターも定義されていないか調べてください。ノード *node* はデータベース *database* で使用中のため、ドロップできません。

ユーザーの処置: ノードをドロップする前に、以下を行う必要があります。

1. データを再配分し、REDISTRIBUTE NODEGROUP コマンドを使用してノードからデータを除去してください。REDISTRIBUTE NODEGROUP コマンドの DROP NODE オプションあるいは、ALTER NODEGROUP ステートメントを使用して、ノード・グループからノードをドロップしてください。ドロップするノードがメンバーに含まれるすべてのノード・グループに対して、これを実行してください。
2. ノードで定義されているイベント・モニターをドロップしてください。
3. 'db2stop drop nodenum <node>' コマンドを発行してノードをドロップしてください。

SQL6036N **START** または **STOP DATABASE MANAGER** コマンドはすでに進行中です。

説明: START DATABASE MANAGER または STOP DATABASE MANAGER コマンドはすでにシステム上で進行中です。

ユーザーの処置: 進行中のコマンドの終了を待ち、要求を再試行してください。

SQL6037N **START** または **STOP DATABASE MANAGER** タイムアウト値は到達しました。

説明: データベース・マネージャー構成で定義された start_stop_time 値がこのノードに達しました。この値は分単位での時間を指定し、ここでは、ノードは Start データベース・マネージャー、Stop データベース・マネージャー あるいは Add Node コマンドに対応している必要があります。

ユーザーの処置: 以下を行ってください。

- 管理通知ログにタイムアウトになったノードに関するエラー・メッセージが記録されているかをチェックしてください。エラーの記録がなく、タイムアウトの問題が残っている場合、データベース・マネージャー構成ファイルで指定された start_stop_time の値を増やす必要がある可能性があります。
- タイムアウトが Start データベース・マネージャー・コマンド中に起きた場合、タイムアウトを起こしているノードすべてに対して、Stop データベース・マネージャー・コマンドを発行してください。
- タイムアウトが Stop データベース・マネージャー・コマンド中に起きた場合、タイムアウトを起こしているノードすべてに対して、あるいはすべてのノードに対して Stop データベース・マネージャー・コマンドを発行してください。既に停止されているノードは、ノードが停止しているという旨のメッセージを戻します。

SQL6038N パーティション・キーが定義されていません。

説明: ユーザーが、パーティション・キーを指定せずに「行パーティション情報の取得」ユーティリティの使用を試行しました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: パーティション・キーを指定し、要求を再試行してください。

SQL6039N パーティション列 *column-number* は現在 NULL 値可能として定義されていません。

説明: NULL 可能ではないパーティション列 *column-number* に NULL 値を割り当てようとした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 非 NULL 値を割り当てるか、NULL 可能にするためにパーティション列のタイプを変更してください。

SQL6040C FCM バッファは使用可能ではありません。

説明: FCM バッファは使用可能ではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 要求を再試行してください。

エラーが持続する場合、データベース・マネージャー構成ファイルで指定された FCM バッファ (*fcm_num_buffers*) 数を増やし、要求を再試行してください。

sqlcode: -6040

sqlstate: 57011

SQL6041C FCM 接続項目が使用可能ではありません。

説明: FCM 接続項目が使用可能ではありません。最大値に達しているため、FCM は自動的に接続項目数を増加できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 他の処理がこのリソースをいくらか解放した後に、この要求を再試行してください。

sqlcode: -6041

sqlstate: 57011

SQL6042C FCM メッセージ・アンカーが使用可能ではありません。

説明: FCM メッセージ・アンカーが使用可能ではありません。最大値に達しているため、FCM は自動的にメッセージ・アンカーの数を増加できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 他の処理がこのリソースをいくらか解放した後に、この要求を再試行してください。

sqlcode: -6042

sqlstate: 57011

SQL6043C FCM 要求ブロックは使用可能ではありません。

説明: FCM 要求ブロックは使用可能ではありません。最大値に達しているため、FCM は自動的に要求ブロックの数を増加できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 他の処理がこのリソースをいくらか解放した後に、この要求を再試行してください。

sqlcode: -6043

sqlstate: 57011

SQL6044N データ・タイプ *datatype-value*、長さ *length* の値を持つストリング表記 *string* の構文が誤りです。

説明: 指定されたストリングをターゲット・データ・タイプと認識できません。(「アプリケーション開発の手引き」に、データ・タイプについての情報が記載されています。) 構文が無効か、値が範囲外のいずれかです。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: ストリング表示またはデータ・タイプが正しいことを確認し、要求を再試行してください。

SQL6045N 長さ *datatype-length* のデータ・タイプ *datatype-value* は、サポートされていません。

説明: このデータ・タイプおよび長さは、パーティション・キーではサポートされません。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: データ・タイプの詳細は、「管理ガイド」を参照してください。行パーティション情報 API の詳細については、「API リファレンス」を参照してください。

SQL6046N 指定された **DROP NODE** アクションは有効ではありません。

説明: DROP NODE コマンドのアクション・パラメーターに対する指定された値が無効です。確認モードのみが DROP NODE コマンドに対してサポートされています。このパラメーターは、値 SQL_DROPNODE_VERIFY にセットされなくてはなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アクションが

SQL_DROPNODE_VERIFY にセットされることを確認し、要求を再試行してください。

SQL6047N 表 *name* がパーティション・キーを持っていないため、ノード・グループを再分散できません。

説明: 単一ノードのノード・グループ内で、少なくとも 1 つの表がパーティション・キーを持っていません。ノード・グループをマルチノードのノード・グループに再分散できるようになる前に、単一ノードのノード・グループ内で、すべての表はパーティション・キーを持っていないてはなりません。

操作は実行されません。

ユーザーの処置: ALTER TABLE コマンドを使用して、持っていない表のパーティション・キーを指定してください。その後、要求を再試行してください。

SQL6048N **START** または **STOP DATABASE MANAGER** 処理中に通信エラーが発生しました。

説明: START または STOP DATABASE MANAGER コマンドを使用して、`sqllib/db2nodes.cfg` ファイルで定義されたすべてのノードで接続を確認しようとしている間に、TCP/IP 通信エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 以下を行ってください。

- ノードが、`.rhosts` または `host.equiv` ファイルの正しい許可を持っていることを確認してください。
- このアプリケーションが同時に $(500 + (1995 - 2 * \text{total_number_of_nodes}))$ 以上のファイル記述子を使用していないことを確認してください。
- すべての Enterprise Server Edition 環境変数がプロファイル・ファイルで定義されていることを確認してください。
- プロファイル・ファイルが Korn シェルのスクリプト形式で記述されていることを確認してください。
- すべてのホスト名値が、再始動オプションの入った `sqllib` ディレクトリーの `db2nodes.cfg` ファイルに定義されているホスト名を持っているかを確認してください。

SQL6049N データベース *name* のログのコントロール・ファイルをノード *node-list* で検索できませんでした。

説明: データベースに対する `SQLLOGCTL.LFH` ファイルは指定ノードのデータベース・ディレクトリーにありません。

データベースが開始していません。

"、..." がノード・リストの最後に表示された場合、完全なノード・リストについては、syslog ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 指定ノード上のバックアップからデータベースをリストアするか、データベースを作成し直してください。

SQL6050N ノード *node-list* にあるデータベース *name* のログ・コントロール・ファイルにアクセス中に、入出力エラーが発生しました。

説明: 指定ノードのデータベースに対して SQLOGCTL.LFH ファイルにアクセス中にエラーが発生しました。

データベースは使用することができません。

"、..." がノード・リストの最後に表示された場合、完全なノード・リストについては、syslog ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 指定ノード上のバックアップからデータベースをリストアするか、データベースを作成し直してください。

SQL6051N データベース *name* は、ノード *node-list* でのロールフォワード・リカバリー用に構成されていません。

説明: 指定されたデータベースは指定ノードで、-ロールフォワード・リカバリー用に構成されません。

データベースはすべてのノードでロールフォワードされません。

"、..." がノード・リストの最後に表示された場合、完全なノード・リストについては、syslog ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 指定ノードでリカバリーが必要か確認して、次にこのノードのデータベースのバックアップで最新のバージョンをリストアしてください。

SQL6052N ノード *node-list* でロールフォワード・ペンディング状態にないため、データベース *name* をロールフォワードできません。

説明: 指定のデータベースは指定ノードでロールフォワード・ペンディング状態にありません。これはデータベースがリストアされていないか WITHOUT ROLLING FORWARD オプションでリストアされたか、ロールフォワード・リカバリーがこのノードで完了したために起こる場合があります。

データベースはロールフォワードされません。

"、..." がノード・リストの最後に表示された場合、完全なノード・リストについては、syslog ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 以下を行ってください。

1. 指定ノードでリカバリーが必要か確認してください。
2. このノードのデータベースのバックアップ・バージョンをリストアしてください。
3. ROLLFORWARD DATABASE コマンドを発行してください。

SQL6053N エラーがファイル *file* にあります。理由コード = *reason-code*

説明: 次に示すように指定ファイルでエラーが起きました。

- (1) パーティション・マップ・ファイルの値の数が 1 または 4,096 ではありません。
- (2) 配布ファイルの値の数が 4,096 ではありません。
- (3) 配布ファイルのデータが有効な形式ではありません。
- (4) パーティション・マップのノード番号が 0 と 999 の間にありません。
- (5) 配布ファイルの値の合計が 4,294,967,295 より大きくなっています。
- (6) 指定のターゲット・パーティション・マップには指定のノード・グループに対して SYSCAT.NODEGROUPDEF で定義されていないノード番号が含まれます。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、次のとおりです。

- (1) パーティション・マップ・ファイルに、単一の値のみが入っている (結果ノード・グループが単一ノードのノード・グループの場合)、または 4,096 ちょうどの値が入っている (結果ノード・グループがマルチノードのノード・グループの場合) ことを確認してください。
- (2) 分散ファイルにはハッシュ・パーティションごとに 4,096 ちょうどの値が入っていることを確認してください。
- (3) 分散ファイルの値が 0 より大きい等しい整数で、すべての分散値の合計が 4,294,967,295 以下であることを確認してください。

- (4) ノード番号が 0 より大きいか等しい、あるいは 999 と等しいか少ない範囲にあることを確認してください。
- (5) 4,096 パーティションに対するすべての分散値の合計は 4,294,967,295 より大きいか同じです。
- (6) ALTER NODEGROUP を発行して抜けているノードを追加するか、あるいはパーティション・マップ・ファイルを変更して sysibm.sysnodegroupdef で定義されていないノードを排除してください。

SQL6054N アーカイブ・ファイル *name* は、ノード *node-number* のデータベース *name* にとって有効なログ・ファイルではありません。

説明: アーカイブ・ログ・ファイルが指定ノードのログ・ディレクトリーにあります。有効ではありません。

ROLLFORWARD DATABASE 処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいアーカイブ・ログ・ファイルを判別するには、QUERY STATUS オプションを付けて、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを発行してください。正しいアーカイブ・ログ・ファイルをデータベース・ログ・ディレクトリーに移動するか、あるいは、データベースが整合状態にある場合、ログ・パスを正しいアーカイブ・ファイルを示すように変更して再び ROLLFORWARD DATABASE コマンドを発行してください。

SQL6055N アーカイブ・ファイル *name* は、ノード *node-number* のデータベース *name* に属していません。

説明: 指定ノードにあるログ・ディレクトリーのアーカイブ・ログ・ファイルは、指定のデータベースに属していません。

ROLLFORWARD DATABASE 処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいアーカイブ・ログ・ファイルを判別するには、QUERY STATUS オプションを付けて、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを発行してください。正しいアーカイブ・ログ・ファイルをデータベース・ログ・ディレクトリーに移動するか、あるいは、データベースが整合状態にある場合、ログ・パスを正しいアーカイブ・ファイルを示すように変更して再び ROLLFORWARD DATABASE コマンドを発行してください。

SQL6056N ノード・グループを再分散できません。

理由コード = *reason-code*

説明: 処理は実行できません。理由コードは、次のエラーを示しています。

- (1) ノード・グループの指定が正しくありません。再分散後の結果ノード・グループにはノードが入っていません。
- (2) 前の再分散処理が正常に完了していませんでした。
- (3) 再分散処理がすでに進行中です。
- (4) CONTINUE または ROLLBACK に対して前に異常終了した再分散コマンドはありません。
- (5) ノード・グループのデータが指定されたようにすでに再分散されているため、データの再分散は実行されません。
- (6) REDISTRIBUTE NODEGROUP コマンドはカタログ・ノードから再サブミットされていません。
- (7) REDISTRIBUTE NODEGROUP コマンドは製品の非パーティション・バージョンでは使用可能でないか、適用できません。
- (8) 既存の宣言された一時表を持つノード・グループに USER TEMPORARY 表スペースが存在する場合、再分散は許可されていません。
- (9) アクセス・モードがデータなし動作 (SYSCAT.TABLES で ACCESS_MODE='D') の表を持つノード・グループに表スペースがある場合、REDISTRIBUTE NODEGROUP コマンドは許可されません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、次のとおりです。

- (1) 再分散中にノード・グループのすべてのノードをドロップしないでください。
- (2) 前の再分散が失敗した原因を調べ、必要な訂正アクションをとります。CONTINUE または ROLLBACK オプションを使用して、REDISTRIBUTE NODEGROUP コマンドを実行してください。CONTINUE で、前に異常終了した再分散処理を完了し、ROLLBACK で前に異常終了した処理の影響を取り消します。
- (3) 現行コマンド終了後に、次の REDISTRIBUTION NODEGROUP コマンドを発行します。
- (4) 失敗した再分散処理に関係のないノード・グル

ープで CONTINUE または ROLLBACK オプションを使うことはできません。

- (5) 別のターゲット・パーティション・マップあるいは再分散ファイルを使用してみてください。使用しない場合、再分散は不要です。
- (6) カタログ・ノードからコマンドを再発行してください。
- (7) 製品のこのバージョンを使用する REDISTRIBUTE NODEGROUP コマンドを発行しないでください。
- (8) USER TEMPORARY 表スペースを使用している宣言された一時表がノード・グループに存在しない状態で、再分散をもう一度要求してください。
- (9) データなし動作モードの表の従属即時マテリアライズ照会とステージング表に対して SET INTEGRITY IMMEDIATE CHECKED ステートメントを実行してから、REDISTRIBUTE NODEGROUP コマンドを再度発行してください。

SQL6057N アーカイブ・ファイル *name* はリストアされたデータベース *name* または前もってノード *node-number* で処理されたログ・ファイルに関係付けられていません。

説明: アーカイブ・ログ・ファイルは指定ノードのログ・ディレクトリーにあります。指定データベースにはありません。

ROLLFORWARD DATABASE 処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいアーカイブ・ログ・ファイルを判別するには、QUERY STATUS オプションを付けて、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを発行してください。正しいアーカイブ・ログ・ファイルをデータベース・ログ・ディレクトリーに移動するか、あるいは、データベースが整合状態にある場合、ログ・パスを正しいアーカイブ・ファイルを示すように変更して再び ROLLFORWARD DATABASE コマンドを発行してください。

SQL6058N ノード *node-number* のデータベース *name* のログ・ファイル *name* を検索中、ロールフォワード・リカバリーが、エラー *error* のために停止しました。

説明: ロールフォワード処理は、*db2uexit* を呼び出して、指定ノードのデータベースに対するログ・ファイルを検索します。このエラーは *db2uexit* で起きた可能性があります。

ROLLFORWARD DATABASE 処理を停止します。

ユーザーの処置: 「管理ガイド」にあるユーザー出口の資料でこのエラーの記述を確認し、ロールフォワード・リカバリーを再開または終了してください。

SQL6059N ロールフォワード・ユーティリティーに渡されるポイント・イン・タイムは、*timestamp* より大か等しくなければなりません。これはノード *node-list* のデータベース *name* に、指定されたポイント・イン・タイムよりも後の情報が含まれるためです。

説明: 詳細仮想タイム・スタンプがデータベース・バックアップにあります。

、... がノード・リストの最後に表示された場合、完全なノード・リストについては、*syslog* ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

- *timestamp* より大か等しいポイント・イン・タイムを指定して、コマンドを再発行します。
- ノードの前のバックアップをリストアして、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再発行します。

SQL6061N ノード *node-list* のログ・ファイルがないため、データベース *name* のロールフォワード・リカバリーは、指定された停止ポイント (ファイルの終わりまたは、ポイント・イン・タイム) に達することができません。

説明: ロールフォワード・データベース・ユーティリティーが、ログ・パスに必要なログ・ファイルで見つかりません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

- ROLLFORWARD DATABASE コマンドと QUERY STATUS オプションを一緒に使用してどのログ・ファイルが欠落したかを判別してください。ログ・ファイルが見つかったとき、それらをログ・パスに入力して、順方向リカバリーを再開してください。
- 欠落しているログ・ファイルが見つからない場合は、すべてのノードでデータベースをリストアし、一番古い欠落ログ・ファイルのタイム・スタンプより前のタイム・スタンプを使って、ポイント・イン・タイム・リカバリーを行ってください。

SQL6062N データベース *name* のロールフォワード・リカバリーは、ノード *node-list* のログ情報がカタログ・ノードの対応レコードと一致しないため、完了できません。

説明: ロールフォワード・ユーティリティは、それぞれのノードで見つかったログ・ファイルを処理しましたが、指定されたノードとカタログ・ノードの対応レコードの停止点が一致しません。原因は、カタログ・ノードまたは指定されたノード・ファイルが欠落したか、またはカタログ・ノードがロールフォワードされるノード・リストに含まれることです。

ROLLFORWARD DATABASE 処理を停止します。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

- カタログ・ノードをロールフォワードする必要があるかをチェックしてください。必要がある場合、ROLLFORWARD コマンドを再びサブミットして、カタログ・ノードを追加してください。
- ROLLFORWARD DATABASE コマンドと QUERY STATUS オプションを一緒に使用してどのログ・ファイルが欠落したかを判別してください。ログ・ファイルが見つかったとき、それらをログ・パスに入力して、順方向リカバリーを再開してください。
- 欠落しているログ・ファイルが見つからない場合は、すべてのノードでデータベースをリストアし、一番古い欠落ログ・ファイルのタイム・スタンプより前のタイム・スタンプを使って、ポイント・イン・タイム・リカバリーを行ってください。

SQL6063N データベース *name* でのロールフォワード・リカバリーがログ・ファイル・サイズの変更のため、ノード *node-list* で停止しました。

説明: ロールフォワード・データベース・ユーティリティは、ログ・ファイルのサイズに変更があったため、ロールフォワードを停止しました。新規のログ・ファイル・サイズを設定するために、再始動する必要があります。

”、...” がノード・リストの終わりに表示されている場合、完全なリストを見るには診断ログを調べてください。

ロールフォワード・リカバリーは停止しました。

(注: パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 処理を続行するには ROLLFORWARD コマンドを再発行してください。

SQL6064N データの再分散中に SQL エラー *sqlcode* が発生しました。

説明: データの再分散中にエラーが発生しました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージの SQLCODE (メッセージ番号) を調べてください。必要とされる変更を実行して、要求を再試行してください。

SQL6065N ファイル *file* への書き込み中に、エラーが発生しました。

説明: 以下のいずれかの状況が検出されました。

- ファイルをオープンできません。
- ファイルを書き込み中に、入出力エラーが発生しました。
- ファイルをクローズするときに、入出力エラーが発生しました。

コマンドまたはユーティリティを処理できません。

ユーザーの処置: ファイルが存在すること、およびファイルの書き込みアクセスの許可があることを確認してください。コマンドまたはユーティリティを再試行してください。

SQL6067W ROLLFORWARD DATABASE QUERY STATUS コマンドは、*sqlcode sqlcode* を検出しました。

説明: ROLLFORWARD DATABASE QUERY STATUS コマンドは、SQL コード *sqlcode* のエラーを検出しました。多数の原因で、いくつかのノードの照会が正常でない可能性があります。最も重大なエラーは *sqlcode* で指示されます。roll-forward status は正常なノードに対して戻ります。

ユーザーの処置: SQL コード *sqlcode* について、「DB2 メッセージ・リファレンス」、またはオンラインを参照して、失敗したノードの問題を判別してください。必要な訂正アクションを実行して、これらのノードの順方向リカバリーを継続してください。

SQL6068W ロールフォワードの操作は正常に取り消されました。データベースをノード *node-list* でリストアする必要があります。

説明: ロールフォワード操作は、正常に完了する前に取り消されたため、データベースが不整合状態です。リストされたノードのリストア・ペンディング・フラグがオンの状態です。

”、...” がノード・リストの最後に表示された場合、完全

なノード・リストについては、syslog ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: リストされたノードのデータベースをリストアしてください。

SQL6069N ROLLFORWARD DATABASE コマンド は、非カタログ・ノード上でサブミットできません。

説明: ROLLFORWARD DATABASE コマンドは、カタログ・ノード上のみで実行可能です。

ユーザーの処置: コマンドをカタログ・ノードでサブミットしてください。

SQL6071N 要求された処理は新規ノードがシステムに追加されていないため、処理できません。この処理が実行される前にシステムを停止し、開始し直してください。

説明: 以下のいずれかです。

- 新規ノードから要求が出されましたが、このノードは他のノードと通信できません。
- すべてのノードを停止し、再始動して、新規ノードを追加する前に、CREATE または DROP DATABASE 処理が要求されました。

ユーザーの処置: db2stop を発行してすべてのノードを停止してください。すべてのノードが正常に停止した時に、db2start を発行して新規ノードが含まれるすべてのノードを開始し、要求された処理の再試行をしてください。

sqlcode: -6071

sqlstate: 57019

SQL6072N RESTART オプションを伴う DB2START は指定したノードがすでにアクティブになっているため、続行できません。

説明: 再始動に指定されたノードは、すでにシステムでアクティブです。

ユーザーの処置: 必要に応じて、DB2STOP を発行して指定ノードを停止し、再び DB2START コマンドを発行して、ノードを再始動します。

SQL6073N ノードの追加操作に失敗しました。
SQLCODE = *sqlcode*

説明: ノード追加処理が *sqlcode sqlcode* で失敗しました。

ユーザーの処置: 「DB2 メッセージ・リファレンス」

またはオンラインで返される *sqlcode* に関係しているメッセージを調べてください。

必要な訂正アクションをとり、要求の再試行をします。

SQL6074N データベースの作成あるいはドロップが現在実行中のため、ノードの追加処理に失敗しました。

説明: ノード追加処理は、データベースの作成あるいはドロップ処理と同時に実行できません。

ユーザーの処置: データベースの作成あるいはドロップ処理が完了するまで待機し、要求を再試行します。

SQL6075W 「データベース・マネージャーの開始」操作は正常にノードを追加しました。このノードは、すべてのノードを再び停止および開始するまでアクティブになりません。

説明: すべてのノードが STOP DATABASE MANAGER (db2stop) コマンドで同時に停止されない限り、db2nodes.cfg ファイルが更新されて新規ノードが組み込まれることはありません。ファイルが更新されない限り、既存のノードは新規ノードと通信できません。

ユーザーの処置: db2stop を発行してすべてのノードを停止してください。すべてのノードが正常に停止したら、db2start を発行して、新規のノードを含め、すべてのノードを開始してください。

SQL6076W 警告!このコマンドは、このインスタンスのノードのすべてのデータベース・ファイルを除去します。処理を続行する前に、**DROP NODE VERIFY** コマンドの実行して、このノードにユーザー・データがないか確認してください。

説明: このプロシージャは、指定ノードからデータベース・パーティションを除去します。

ユーザーの処置: DROP NODE VERIFY コマンドが、このノードをドロップする前に実行されているか確認してください。API を使用している場合、callerac パラメーターが正しく指定されているか確認してください。

SQL6077W db2stop DROP NODENUM プロシージャが正常に終了しましたがすべてのファイルを除くできませんでした。詳細は、ファイル *file* を参照してください。

説明: db2stop DROP NODENUM プロシージャは正常に終了しましたが、ユーザー・ファイルのいくつかは、ノードに残っています。

ユーザーの処置: ファイル *file* の情報は、削除できなかったファイルからのディレクトリー構造を示していません。

SQL6078N db2stop DROP NODENUM プロシージャ ユーザーはデータベース *dbname* のデータベース情報を更新できませんした。

説明: db2stop DROP NODENUM プロシージャはデータベース *dbname* のカタログ・ノードにアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: 要求を再試行してください。問題が続く場合、サービス担当者に連絡してください。

SQL6079W db2stop DROP NODENUM コマンドは 正常に取り消されました。

説明: db2stop DROP NODENUM コマンドは処理を開始する前に停止しました。

ユーザーの処置: ありません。

SQL6080W 「データベース・マネージャーの開始」 操作はこのノードに正常に追加しましたが、データベース・パーティションがこのノードで作成されていません。このノードは、すべてのノードを再び停止および開始するまでアクティブになりません。

説明: すべてのノードが STOP DATABASE MANAGER (DB2STOP) コマンドで同時に停止されない限り、db2nodes.cfg ファイルが更新されて新規ノード

SQL6100 - SQL6199

SQL6100N データ・ファイルのパーティション・マップ およびデータベースのパーティション・マップが同じではありません。

説明: ロードしようとしているデータは、パーティション化していないか、または、表が所有する現行のノード・グループ以外のパーティション・マップでパーティション化されました。データをロードできません。

ユーザーの処置: データがパーティション化されていない場合、db2split プログラムを使用して、データをパーティション化して、パーティション化されたデータをロードしてください。

データがパーティション化された場合、以下のいずれかを行ってください。

- データ・ファイルのヘッダーからパーティション・マップを使用して、表が所属するノード・グループを再分散してください。その後、要求を再試行してください。

が組み込まれることはありません。ファイルが更新されない限り、既存のノードは新規ノードと通信できません。

ユーザーの処置: DB2STOP を発行してすべてのノードを停止してください。すべてのノードが正常に停止したら、DB2START を発行して、新規のノードを含め、すべてのノードを開始してください。すべてのノードが正常に開始したら、データベース・システムが使用できます。

SQL6081N 通信エラーが、このノードでタイムアウト になる **DB2STOP FORCE** コマンドを呼び出しました。

説明: 1 つ以上のデータベース・ノードで、コミュニケーション・エラーが発生し、DB2STOP FORCE コマンドが現行ノード上タイムアウトを起こしたか、あるいは 1 つ以上のノードでの FORCE 中にサーバーで重大にエラーが起こり、DB2STOP FORCE が終了しました。コミュニケーション・エラーが発生した任意のノードは、SQL6048N メッセージを受信します。

ユーザーの処置: 以下を行ってください。

1. SQL6048N メッセージを受信した、1 つまたはそれ以上のノードの通信エラーを訂正してください。
2. DB2START コマンドを発行して、SQL6048N メッセージを受信していたすべてのノードが正常に開始したかを確認してください。
3. 任意のノードから再び DB2STOP FORCE コマンドを発行してください。

-
- 現行のノード・グループのパーティション・マップでデータを再パーティションしてください。その後、新しくパーティション化されたデータをロードするために、要求を再試行してください。

SQL6101N このデータ・ファイルは、ノード *node-1* のデータが入っていますが、ロード・ユーティリティーがノード *node-2* に接続されています。

説明: ロードしようとしているデータは、アプリケーションが接続しているノードのノード番号と異なるノード番号に関連しています。データをロードできません。

ユーザーの処置: このノードに関連するデータ・ファイルを見つけて要求を再試行するか、または、このデータ・ファイルに関連するノードに接続して、そのノードで要求を発行してください。

SQL6102W パラメーター *name* はこれからの使用のために予約されています。値は *default-value* に設定してください。

説明: 将来の機能のために予約済みのパラメーターが、正しくないデフォルト値に設定されました。将来の互換性を保証するデフォルト値に設定する必要があります。

ユーザーの処置: パラメーター *name* が *default-value* 値に設定されたかを確認して、要求を再試行してください。

SQL6103C 予期しないユーティリティ・エラーが発生しました。理由コード = *reason-code*

説明: 予期しないユーティリティ・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: メッセージのメッセージ番号 (SQLCODE) と理由コードを記録してください。

トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。この機能の使用についての情報は、[管理ガイド](#)を参照してください。技術サービス担当者に、以下の情報を知らせてください。

- 問題記述
- SQLCODE および組み込み理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

SQL6104N ロード・ユーティリティは索引の作成をサポートしていません。

説明: ロード・ユーティリティは索引の作成をサポートしませんが、ロードしようとしている表には少なくとも 1 つの定義された索引があります。索引は明示的に CREATE INDEX ステートメントによって、または暗示的に、表の主キーが定義された時に、作成された可能性があります。

ユーザーの処置: 表で定義されたすべての索引を DROP INDEX ステートメントでドロップしてください。主キーを ALTER TABLE ステートメントでドロップしてください。コマンドを再サブミットしてください。

ロードが正常に完了したら、要求通り CREATE INDEX および ALTER TABLE を使用して、索引および主キーを再作成してください。

SQL6105W ロード・ユーティリティの処理は完了しました。ロード後のポイント・イン・タイムで完了したロールフォワードは成功しません。データベース・リカバリー機能が要求された場合にデータベース・バックアップを即時に実行します。

説明: ロード・ユーティリティはログオンしていません。ロードする前にとったバックアップでロールフォワードしようとする、ロードされたデータの参照を検出するときに、操作は失敗します。

ユーザーの処置: ロード後のデータベース・リカバリー機能を確認するため、データを修正する前にバックアップを取ってください。

SQL6106N このファイル・タイプ修飾子 "NOHEADER" を指定しましたが、定義されているこの表のノード・グループが単一ノード・グループではありません。

説明: ロードされるデータは、ヘッダー情報を持たないように指定されています。ただし、示されたターゲット表は、単一ノード表ではありません。データをロードできません。

ユーザーの処置: データを db2split を使用して分割してください。次に "NOHEADER" オプションなしでロードしてください。

SQL6107N データ・ファイルのパーティション・キー情報が正しくありません。

説明: データが db2split で分割されていないか、あるいは db2split 処理が成功していません。

ユーザーの処置: db2split プログラムを使用してデータをパーティション化して、パーティション化したデータで要求を再度試行してください。列挿入のオプションが使用されている場合、パーティション列のすべてが列リストで指定されていることを確認してください。

問題が解決しない場合、テクニカル・サービス担当者に以下の情報を知らせてください。

- 問題記述
- SQLCODE および組み込み理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

SQL6108N データ・ファイル・ヘッダーで定義されているパーティション・キーの番号 (*number-1*) が、表で定義されているパーティション・キーの番号 (*number-2*) と一致しません。

説明: db2split 構成ファイルで指定されたパーティション列が正しくありません。データが正しく分割されていません。

ユーザーの処置: 以下を行ってください。

1. 正しいパーティション列が db2split 構成ファイルで指定されていることを確認します。
2. データを分割します。
3. 新しくパーティション・データでロード処理を発行します。

SQL6109N ユーティリティはパーティション列 *column-name-1* を予期しましたが、パーティション列 *column-name-2* を検索しました。

説明: db2split 構成ファイルで、次のいずれかが起きました。

- 表で定義されたパーティション列のいずれかが、指定されていません。
- パーティション列の順序が正しくありません。
- 表のパーティション列でない列が指定されています。

ユーザーの処置: 以下を行ってください。

1. db2split 構成ファイルが正しいことを確認します。
2. データを分割します。
3. 新しくパーティション・データでロード処理を発行します。

SQL6110N ユーティリティは、列 *column-name-1* に対してパーティション列タイプ *column-type-1* を予期していましたが、データ・ファイルでは、この列はタイプ *column-type-2* としてリストされていません。

説明: db2split 構成ファイルが正しくありません。

ユーザーの処置: 以下を行ってください。

1. db2split 構成ファイルが正しいことを確認します。
2. データを分割します。
3. 新しくパーティション・データでロード処理を発行します。

SQL6111N *newlogpath* で指定されたパスの下に、サブディレクトリーを作成できません。

説明: 新規ログ・パス・パラメーターが更新された時、システムは、ノード名をサブディレクトリー名として使用して、指定されたパスの下にサブディレクトリーを作成しようとします。以下のいずれかのオペレーティング・システム・エラーのため、サブディレクトリーを作成できませんでした。

- ファイル・システムまたはパスにはファイルを作成するための適切な許可がありません。
- ファイル・システムには十分なディスク・スペースがありません。
- ファイル・システムには十分なファイル・ブロックまたは i ノードがありません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 次のいずれかを実行してから、要求を再試行してください。

- 指定されたパスが存在し、ファイル・システムおよびパスには読み取り/書き込み許可があることを確認してください。
- 別の新規ログ・パスを指定してください。

問題が続く場合、システム管理担当者に連絡してください。

SQL6112N 要求された変更を終了することができません。構成パラメーター設定の結果が有効ではありません。理由コード *reason-code*。

説明: 構成パラメーターによっては、3 つの設定規則があります。規則が正しくないと *reason-code* が表示されます。

- (1) $\text{max_coordagents} + \text{num_initagents} \leq \text{maxagents}$
- (2) $\text{num_initagents} \leq \text{num_poolagents}$
- (3) $\text{maxdari} \leq \text{max_coordagents}$

ユーザーの処置: 指定された値が以上の規則に準じていることを確認して、要求を再試行してください。

SQL6500 - SQL6599

SQL6500W ロード・コマンドの **RESTARTCOUNT** で問題が起きる可能性があります。

説明: 同一の表での複数のロード処理は、完全に独立しているため、これらの複数のロード処理に対して、同一の **restartcount** を有することはほとんど不可能です。

ユーザーの処置: 正しいロード・コマンドがあることを確認してください。

SQL6501N データベース名がロード・コマンドに指定されていません。

説明: ロード・コマンドにデータベース名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: データベース名を指定してコマンドをやり直してください。

SQL6502N データ・ファイルに対するパス名 (パラメーター: **data_path**) が指定されていません。

説明: 入力データ・ファイルがリモートの場合、ファイルはローカルに転送されます。リモート・マシンでのファイルへのパスを提供してください。

ユーザーの処置: リモート・データ・ファイルにパス名を指定して、コマンドをやり直してください。

SQL6504N 構成ファイルの出力ノード・リスト指定 (パラメーター: **outputnodes**) にエラーがあります。

説明: 出力ノード・リスト指定が無効です。

ユーザーの処置: サンプル構成ファイルを調べて、出力ノード・リスト指定を訂正し、コマンドをやり直してください。

SQL6505N ロード・コマンドの中で、パーティション・データベースのパーティション・リストの指定 (パラメーター: **PARTITIONING_DBPARTNUMS**) にエラーがあります。

説明: パーティション・データベースのパーティション・リストの指定が無効です。

ユーザーの処置: パーティション・データベースのパーティション・リストの指定を訂正して、コマンドをやり直してください。

SQL6506N プログラムは、システム・カタログ表から、表 *table-name* のパーティション・キー情報を取り出すことができません。

説明: 表は定義されていないか、または MPP 環境に定義されていません。

ユーザーの処置: 表が正しく定義されているか確認してください。

SQL6507N 構成ファイル内のチェック・レベル (パラメーター: **check_level**) が無効です。

説明: チェック・レベル (パラメーター: **check_level**) **CHECK** あるいは **NOCHECK** のいずれかです。デフォルトは **CHECK** です。

ユーザーの処置: 構成ファイル内のパラメーターを訂正して、コマンドをやり直してください。

SQL6508N プログラムが、**ftp** 処理に対する出力パイプを作成できません。

説明: 入力データ・ファイルがリモートの場合、ローカル・パイプに転送されます。このローカル・パイプがすでに存在している場合、処理ができません。

ユーザーの処置: ワークスペースが空であるかどうか確認してください。

SQL6509N プログラムは、パーティション・エージェントの入力パイプを作成できません。

説明: プログラムが、スプリッター処理に対する一時入力パイプを作成できません。

ユーザーの処置: ワークスペースが空であるかどうか確認してください。

SQL6510N プログラムは、パーティション *partition-num* のローカルの非 **NFS** スペースに一時ディレクトリーを作成できません。

説明: プログラムは、すべてのパーティションとパーティションのロードのために、ローカルの非 **NFS** スペースに一時作業ディレクトリーが必要です。

ユーザーの処置: ワークスペースが空であるかどうか確認してください。

SQL6511N ロードはパーティション *partition-num* にパーティション・エージェントの出力を作成できませんでした。

説明: プログラムは、パーティション *partition-num* にパーティション・エージェントの一時出力パイプを作成できません。

ユーザーの処置: ワークスペースが空であるかどうか確認してください。

SQL6512N ロードは、マージ・エージェントの入力パイプをパーティション *partition-num* に作成できませんでした。

説明: プログラムは、パーティション *partition-num* にマージ・エージェントの一時入力パイプを作成できません。

ユーザーの処置: ワークスペースが空であるかどうか確認してください。

SQL6513N ロードは、パーティション *partition-num* にロード・エージェントの入力パイプを作成できませんでした。

説明: プログラムは、パーティション *partition-num* にロード・エージェントの一時入力パイプを作成できません。

ユーザーの処置: ワークスペースが空であるかどうか確認してください。

SQL6514N プログラムが、ノード構成ファイル *node-cfg-file* を読み取りできません。

説明: ファイルが存在しないか、または読み取りができないかのいずれかです。

ユーザーの処置: ノード構成ファイルが存在しているか、またファイルの許可についても調べてください。

SQL6515N プログラムが、構成ファイルでロード・コマンドを検出できません。

説明: CLP ロード・コマンドは構成ファイルで提供される必要があります。

ユーザーの処置: 構成ファイルで CLP ロード・コマンドを指定してください。

SQL6516N プログラムがデータベース *db-name* に接続できません。

説明: データベース・マネージャーがまだ開始していないか、または問題が発生しているかのどちらかです。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーの状況を調べてください。

SQL6517N ロードは、表 *tbl-name* が定義されている区分化リストをシステム・カタログ表から抽出できませんでした。

説明: 表は定義されていないか、または MPP 環境に定義されていません。

ユーザーの処置: 表がデータベースでどのように定義されていたか調べてください。

SQL6518N レコード長 (ロード・コマンドの *reclen*) が無効です。

説明: 有効なレコードは 1 から 32768 の間です。

ユーザーの処置: レコード長を訂正して、コマンドをやり直してください。

SQL6519N 構成ファイルのモード (パラメーター: モード) *mode* が無効です。

説明: このプログラムの実行モードは以下のいずれかです。SPLIT_ONLY、LOAD_ONLY、SPLIT_AND_LOAD (デフォルト)、あるいは ANALYZE

ユーザーの処置: 構成ファイルのモードを訂正してください。

SQL6520N プログラムが、分割ファイルに対するヘッダー情報を生成する処理に対する出力パイプを作成できません。

説明: プログラムが、分割ファイルに対するヘッダー情報を生成する処理に対する出力パイプを作成できません。

ユーザーの処置: ワークスペースが空であるかどうか確認してください。

SQL6521N このプログラムの構成ファイル *cfg-file* がありません。

説明: プログラムには構成ファイルが必要です。

ユーザーの処置: 構成ファイルを作成してください。

SQL6522N プログラムがロード・コマンドの入力データ・ファイルに対するパス名を検出しました。

説明: ロード・コマンドで入力データ・ファイルにパス名を入れることはできません。このためには、分離パラメーター (*data_path*) があります。

ユーザーの処置: 構成ファイルを訂正してください。

SQL6523N パーティション・データベースのパーティション・リスト (パラメーター: **PARTITIONING_DBPARTNUMS**) のエレメント *partition-num* は、ノード構成 (**db2nodes.cfg**) ファイルに定義されていません。

説明: パーティション・データベースのパーティション・リストにあるすべてのパーティションは、ノード構成ファイルに項目を持っている必要があります。

ユーザーの処置: パーティション・データベースのパーティション・リストを訂正してください。

SQL6524N 出力パーティション・リスト (パラメーター: **OUTPUT_DBPARTNUMS**) のエレメント *partition-num* は、表が定義されているパーティション・リストのメンバーではありません。

説明: 出力パーティション・リストのすべてのパーティションは、表が定義されているパーティション・リストのメンバーである必要があります。

ユーザーの処置: 出力パーティション・リストを訂正してください。

SQL6525N プログラムは入力データ・ファイル *file-name* を読み取りできません。

説明: 入力データ・ファイルが見つからないか、あるいは読み取りできないかのいずれかです。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルが存在しているか、またファイルの許可についても調べてください。

SQL6526N プログラムが現行作業ディレクトリー *cwd* に書き込みできません。

説明: 現行作業ディレクトリーが書き込み可能ではありません。

ユーザーの処置: 現行作業ディレクトリーの許可を調べてください。

SQL6527N 統計データが収集されるパーティション (パラメーター: **RUN_STAT_DBPARTNUM**) が、出力パーティション・リストのメンバーではありません。

説明: 統計データが収集されるパーティションは出力パーティション・リストのメンバーである必要があります。

ユーザーの処置: **RUN_STAT_DBPARTNUM** パラメーターを訂正してください。

SQL6528N レコード長がロード・コマンドで指定されていません。

説明: **BINARYNUMERIC**s あるいは **PACKEDDECIMAL** 修飾子がロード・コマンドで指定されている場合、レコード長 (**reclen**) もロード・コマンドで指定してください。

ユーザーの処置: ロード・コマンドを訂正してください。

SQL6529N ヘッダーなしオプション (**NOHEADER**) がロード・コマンドで指定されていません。

説明: 表が単一ノード **nodegroup** で指定されている場合、**NOHEADER** 修飾子はロード・コマンドで指定されている必要があります。

ユーザーの処置: ロード・コマンドを訂正してください。

SQL6530N パーティション・キーのデータ・タイプが浮動あるいは倍精度です。

説明: 入力ファイルがバイナリー以外のデータ・ファイルである場合、浮動あるいは倍精度の列は、パーティション・キーとして定義されません。

ユーザーの処置: バイナリー・データ・ファイルを提供するか、あるいは表の定義を変更してください。

SQL6531N プログラムが表スペースの静止をリセットできません。

説明: 処理中のロード処理がある可能性があります。前のロード処理がすべて完了していなければ、別のオートローダー・セッションを開始することはできません。

ユーザーの処置: マシンの処理状況を調べてください。

SQL6532N ロード・コマンドの **savecount** はゼロ以外にはセットできません。

説明: 複数のパーティション・ノードがある場合、モードが **PARTITION_AND_LOAD** の場合、およびコマンドが **REPLACE INTO** または **INSERT INTO** ロード・コマンドの場合は、ロード・コマンドの **savecount** を非ゼロに設定することはできません。

ユーザーの処置: ロード・コマンドを訂正してください。

SQL6533N ロード・コマンドの `restartcount` はゼロ以外にはセットできません。

説明: 複数のパーティション・ノードは、ロード処理でレコードのランダムな順序を作成するため、`restartcount` を指定して `RESTART INTO` を使用した場合、リカバリーが正常に行われられない可能性があります。

ユーザーの処置: ロード・コマンドを訂正してください。

SQL6534N `netrc` ファイル `netrc-file` でエラーがあります。

説明: `netrc` ファイルが見つからないか、あるいはリモート・ホスト `machine` に入力がないか、またはファイルの許可が誤っているかのいずれかです。

ユーザーの処置: `netrc` ファイルが存在しているか、またファイルの許可についても調べてください。

SQL6535N モード `PARTITION_ONLY` または `ANALYZE` は無効です。

説明: 単一ノードのノード・グループに表が定義されている場合、パーティションまたは分析は必要ありません。

ユーザーの処置: モードを `LOAD_ONLY` または `PARTITION_AND_LOAD` に変更してください。

SQL6536N プログラム `progname` は、ファイル `filename` を読み取り用にオープンできませんでした。

説明: オートローダー処理は、読み取り用ファイルまたはパイプを正常にオープンできません。

ユーザーの処置: 構成ファイルがすべて正しいか、確認してください。

SQL6537N プログラム `progname` は、ファイル `filename` を書き込み用にオープンできませんでした。

説明: オートローダー処理は、書き込み用ファイルまたはパイプを正常にオープンできません。

ユーザーの処置: 構成ファイルがすべて正しいか、確認してください。

SQL6538N ロードは、パーティション化ファイル `partitioned-file` の読み取りに失敗しました。

説明: ロードが `LOAD_ONLY` モードで呼び出された場合、入力データ・ファイルはすでにパーティション化されており、パーティション化されたすべてのファイルはこのロードによる読み取りが可能でなければなりません。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルがパーティション化されているかどうか、およびプログラムの結果のパーティション・ファイルのアクセス許可をチェックしてください。

SQL6539N 作業環境で検出されない `cmd-list` には少なくとも 1 つのコマンドがあります。

説明: このプログラムの実行は共通 UNIX コマンドに依存します。コマンドのいずれかが作業環境で使用できない場合、処理は失敗します。

ユーザーの処置: ご使用のシステムに必要なコマンドがすべて正しくインストールされているか確認してください。

SQL6540N ロード・コマンドで指定されたファイル・タイプ `file-type` が無効です。

説明: 有効なファイル・タイプは `ASC` (定位置 ASCII) あるいは `0 DEL` (区切り付き ASCII) です。

ユーザーの処置: 構成ファイルのロード・コマンドを訂正してください。

SQL6550N パーティション・マップ・ファイル `map-file-name` を書き込み用にオープンできません。

説明: パーティション・マップのファイル名およびファイル・パスをオープンできません。エラーが起きました。

ユーザーの処置: パーティション・マップのファイル名およびファイル・パスが正しく指定されており、ファイルを書き込み用にオープンできることを確認してください。

SQL6551N パーティション・マップ・ファイルに書き込み中に、エラーが発生しました。

説明: パーティション・マップ・ファイルに書き込み中にファイル・システム・エラーが起きました。

ユーザーの処置: ファイル・パスが正しく、ターゲット装置にパーティション・マップの出力を保留するだけの

十分なスペースがあることを確認してください。

SQL6552N 書き込み用に、一時構成ファイル *filename* を開くときにエラーが発生しました。

説明: 一時ファイルのファイル名およびファイル・パスをオープンできません。エラーが起きました。

ユーザーの処置: ユーティリティー一時ファイルのストレージ・パスが正しく指定されており、そのパスでファイルを書き込み用にオープンできることを確認してください。

SQL6553N 一時構成ファイル *filename* を書き込み中に、エラーが発生しました。

説明: 一時ファイルに書き込み中にファイル・システム・エラーが起きました。

ユーザーの処置: ファイル・パスが正しく、ターゲット装置にファイル・データ用の十分なスペースがあることを確認してください。

SQL6554N 処理をリモート実行しようとしたときに、エラーが発生しました。

説明: ユーティリティーが異なるデータベース・パーティションで子処理を開始しようとしたましたが、エラーが起きました。

ユーザーの処置:

- ユーザー ID やパスワードがリモート・アクセス用にユーティリティーで提供されていない場合、ユーティリティーを呼び出すユーザー ID にターゲット・ノードのプログラムを実行する権限があることを確認してください。
- ユーザー ID やパスワードがユーティリティーに提供されている場合は、正しく提供されていることを確認してください。
- NT で実行している場合、すべてのノードでスプリッター操作の NT サービスが DB2 インストールで定義されていることを確認してください。
- 問題を解決できない場合は、DB2 サービス担当者に連絡してください。

SQL6555N ロード・ユーティリティーは、予期しない通信エラーを検出しました。

説明: ユーティリティーが、以下のいずれかの操作中に、エラーを見つけました。

- TCP/IP ソケットに接続中です。
- TCP/IP メッセージの読み取りまたは書き込み中です。

- TCP/IP 通信を初期化中です。
- 完全ホスト名を検索中です。
- アクティブ TCP/IP ソケットを選択中です。
- アクティブ・ソケットをクローズ中です。
- ポート番号を検索中です。

ユーザーの処置:

- 使用しているロード・ユーティリティーのバージョンについてサービス名のセットアップを要求された場合は、サービス名が正しく定義されていることを確認してください。
- 並行ロード・ユーティリティーを実行している場合は、並行ユーティリティー・ジョブ間の競合を避けるために、資料のセットアップ要件に従っていることを確認してください。
- 問題が解決しない場合は DB2 サービス技術員に連絡してください。

SQL6556W ファイル *filename* の最後に不完全なレコードが検出されました。

説明: ユーザーによってユーティリティーに提供されているデータ・ファイルの終わりで、不完全なデータ・レコードが検出されました。

ユーザーの処置: ソース・データを調べて構文を修正してください。

SQL6557N デフォルト・ノード番号の検索に失敗しました。

説明: ユーティリティーがデフォルト・ノード番号を判別しようとしたましたが、できませんでした。

ユーザーの処置: ユーティリティー構成ファイルでソースおよびターゲットのノード番号を明確に示すか、DB2 サービス技術員に連絡してください。

SQL6558N ユーティリティーは現行作業ディレクトリーまたはドライブあるいはその両方を判別できません。

説明: ユーティリティーが、現行作業ディレクトリーおよび/またはドライブを判別しようとしたましたが、エラーが起きました。

ユーザーの処置: DB2 サービス技術員に連絡してください。

SQL6559N オートローダー・ユーティリティに無効なコマンド行オプションが与えられました。

説明: サポートされていないか、または古いコマンド行オプションをオートローダー・ユーティリティに指定しました。

ユーザーの処置: サポートされているオプションおよび機能については、オートローダーの資料あるいはオンライン・ヘルプを参照してください。

SQL6560N パーティションの実行ノードであるノード *node-number* が、**db2nodes.cfg** ファイルに指定されていません。

説明: パーティションの実行ノードとして指定されているノードが、**db2nodes.cfg** ファイルにメンバーとして指定されていません。このノードを完了する作業を開始できません。

ユーザーの処置: ノードを **db2nodes.cfg** ファイルのノード・リスト定義に追加するか、または区分化操作の代替ノードに、ノード構成のメンバーを指定してください。

SQL6561N ロード用のターゲット・ノード *node-number* がノード・グループにありません。

説明: ノードがロード用にターゲット・ノードとして指定されましたが、明らかにロードされているノード・グループのメンバーではありません。

ユーザーの処置: ノード・グループ定義をチェックして、ロード用に指定されたターゲット・ノードがこのノード・グループの一部であることを確認してください。ノードがノード・グループの一部でない場合は、ノードの訂正リストを含むよう、ユーティリティ・ターゲット・ノード指定を訂正してください。ノードがノード・グループの一部である場合は、DB2 サービス技術員に連絡してください。

SQL6562N ユーティリティがインスタンス名を検索できません。

説明: ユーティリティがインスタンス名を検索しようとしたが、エラーが起きました。

ユーザーの処置: ユーティリティが DB2 がインストールされているノードで実行されており、実行中のインスタンスが有効であることを確認してください。さらに詳しくは、DB2 サービス技術員に連絡してください。

SQL6563N 現行ユーザー ID を検索できません。

説明: ID に対して現行ユーザー ID を検索しようとしたが、エラーが起きました。

ユーザーの処置: DB2 サービス技術員に連絡してください。

SQL6564N 提供されたパスワードは無効です。

説明: ユーザーによりユーティリティに明示パスワードが提供されましたが、パスワードが無効です。

ユーザーの処置: 有効なパスワードを提供してください。

SQL6565I 使用法: **db2atld [-config config-file] [-restart] [-terminate] [-help]**

説明:

- '-config' オプションはユーザー指定の構成ファイル (デフォルトは **autoload.cfg**) を使用して、このプログラムを実行します。
- '-restart' オプションは、このプログラムを再始動モードで実行します。完了しなかった最後のオートローダー・ジョブの後、構成ファイルを変更しないでください。
- '-terminate' オプションは、このプログラムを終了モードで実行します。完了しなかったオートローダー・ジョブの後、構成ファイルを変更しないでください。
- '-help' オプションはこのヘルプ・メッセージを生成します。

オートローダー構成ファイルは、実行される **LOAD** コマンド、ターゲット・データベース、およびユーザーが指定できるいくつかのオプション・パラメーターの入ったユーザー提供のファイルです。サンプル・ディレクトリで提供されるサンプル構成ファイル '**AutoLoader.cfg**' には、使用できるオプションやそれらのデフォルト値についてのインライン・コメントが入っています。このプログラムを '-restart' および '-terminate' オプションで実行するときは、完了しなかった最後のジョブの後、構成ファイルを変更しないでください。

ユーザーの処置: オートローダー・ユーティリティの詳細については、DB2 の資料を参照してください。

SQL6566N **LOAD** コマンドがオートローダー構成ファイルから欠落しています。

説明: **LOAD** コマンドがオートローダー構成ファイルから欠落しています。パラメーターを指定する必要があります。

ユーザーの処置: オートローダー用の正しい構成ファイルを指定しており、LOAD コマンドがその中で指定されていることを確認してください。

SQL6567N オートローダー構成ファイルに、複数の *option-name* オプションがあります。

説明: オートローダー構成ファイルの中で、オプション・パラメーターが複数回指定されました。

ユーザーの処置: 構成ファイルを訂正して、各オプションが多くても 1 つしか存在しないようにしてください。

SQL6568I ロード・ユーティリティは現在、すべての *request-type* 要求を出しています。

説明: ロード・ユーティリティは現在、各パーティションに対して *request-type* 操作をディスパッチしています。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6569I オートローダーは現在、すべての分割要求を出しています。

説明: オートローダーは、ターゲット分割区分のそれぞれにおいて分割操作を発行中です。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6570I オートローダーは、すべてのスプリッターの完了を待機しています。

説明: オートローダーは、すべてのスプリッターの完了を待機しています。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6571I ロード・ユーティリティは、すべての操作が完了するのを待機しています。

説明: ロード・ユーティリティは、操作が完了するのを待機しています。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6572I ロード操作が区分 *node-number* で開始しています。

説明: ロード操作が指定された区分で開始しています。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6573I 区分 *node-number* でのスプリッター・ユーティリティのリモート実行が、リモート実行コード *code* で完了しました。

説明: 指定された区分のスプリッター・ユーティリティのリモート実行が完了しました。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6574I ユーティリティはソース・データから *MB-count* メガバイトを読み取りました。

説明: この情報は定期的に生成され、大きなロード・ジョブの進行状況をユーザーに提供します。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6575I ユーティリティはユーザー・データからの *MB-count* メガバイトの読み取りに完了しました。

説明: このメッセージはロードの完了時に書き込まれ、処理されたユーザー・データの合計量を示します。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6576N オートローダー・ユーティリティがスレッド化エラーを見つけました。理由コード *reason-code*、戻りコード *ret-code*。

説明: 以下は、理由コード *reason-code* の説明です。

- 1 - オートローダー・ユーティリティがスレッドの作成を試みましたが、失敗しました。戻りコード *ret-code*。
- 2 - オートローダー・ユーティリティがスレッドの完了の待機を試みましたが、失敗しました。戻りコード *ret-code*。

ユーザーの処置: スレッド・アプリケーションをサポートするオペレーティング・システムで実行中であること、処理単位のスレッドの限度が十分であることを確認してください。スレッドの要件は以下のとおりです。

- 各ロード処理に 1 つのスレッドが開始している、
- すべてのスプリッター処理に 1 つのスレッド、
- スプリッター処理へのデータ送りに 1 つのスレッド。

SQL6577N オートローダー・ユーティリティは、ロード・コマンドの **ROWCOUNT** オプションをサポートしていません。

説明: ロード・コマンドの **ROWCOUNT** オプションは、オートローダー・ユーティリティではサポートされていません。

ユーザーの処置: オートローダー構成ファイルにあるロード・コマンドを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL6578N 無効なオートローダー・オプションです。
RESTART/TERMINATE オプションは、
SPLIT_AND_LOAD または
LOAD_ONLY モードのみで指定できません。

説明: オートローダーの **RESTART/TERMINATE** オプションは、**SPLIT_AND_LOAD** または **LOAD_ONLY** モードのみで使用できます。

ユーザーの処置: オートローダー構成ファイルまたはオートローダー・オプション・フラグをチェックしてください。

SQL6579N オートローダー構成ファイルの **LOAD** コマンドが無効です。オートローダーの **RESTART** および **TERMINATE** オプションはそれぞれ、**LOAD RESTART** および **LOAD TERMINATE** 操作を実行するために使用されます。

説明: **LOAD** コマンドに **RESTART** または **TERMINATE** を指定しないでください。代わりに、オートローダーの **RESTART** および **TERMINATE** オプションを使用してください。

ユーザーの処置: オートローダー構成ファイルを変更しない場合、オプション **RESTART** または **TERMINATE** で **db2atld** を開始しなければなりません。

SQL6580I **LOAD** は、ノード *node-num* において、フェーズ *restarting-phase* で再始動しています。

説明: オートローダーは、**LOAD** が **LOAD/BUILD/DELETE** フェーズのいずれかで再始動していることを確認しました。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6581I ロードをノード *node-num* で再始動することはできません。

説明: オートローダーは、示されているノードで **LOAD** を再始動できないことを確認しました。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6582I ノード *node-num* で **LOAD** を再始動する必要はありません。

説明: オートローダーは、示されているノードで **LOAD** を再始動する必要がないことを確認しました。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6583N パーティション・キー定義が、パーティション化データベース・ロード・モード *load-mode* と非互換です。

説明: ID 列がパーティション・キー定義の一部として定義されましたが、指定したロード・モードが **PARTITION_AND_LOAD** ではなく、**identityoverride** 修飾子が指定されていませんでした。

ユーザーの処置: ロード・モードを **PARTITION_AND_LOAD** に変更するか、**identityoverride** 修飾子を指定するか、または ID 列をパーティション・キー定義から除去してください。

SQL7000 - SQL7099

SQL7001N 不明なコマンド *command* が要求されました。

説明: REXX に対してサブミットされたコマンドが認識できませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コマンドが有効な SQL ステートメントであることを確認して、プロシーチャーを再実行してください。すべてのコマンドは大文字でなければならぬことに注意してください。

SQL7002N カーソル名が無効です。

説明: 正しくないカーソル名が指定されました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: カーソル名が、“c1” から “c100” の形式のいずれかであることを確認してください。

SQL7003N ステートメント名が無効です。

説明: 正しくないステートメント名が指定されました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ステートメントが、“s1” から “s100” の形式のいずれかであることを確認してください。

SQL7004N 要求の構文が無効です。

説明: REXX が、サブミットされたコマンド・ストリングを解析できませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいコマンド構文を使用してください。

SQL7005W この OPEN ステートメントで使用するカーソルが宣言されていません。

説明: OPEN ステートメントが実行されようとしたが、カーソルが宣言されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: OPEN ステートメントの前に DECLARE ステートメントを挿入して、プロシーチャーを再実行してください。

SQL7006N 無効なキーワード *keyword* が *request* に与えられました。

説明: ステートメントに、無効なキーワード *keyword* が入っています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいキーワード形式で指定してください。

SQL7007N REXX 変数 *variable* が存在しません。

説明: REXX 変数プールに存在しない REXX 変数が渡されました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 失敗したコマンドの前に、ホスト変数リストのすべての変数名が割り当てられていることを調べてください。プロシーチャーを再実行してください。

SQL7008N REXX 変数 *variable* に、矛盾するデータが含まれています。

説明: 矛盾するデータを含んだ変数が、REXX に渡されました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 変数が SQLDA の場合は、「データ」と「長さ」フィールドが正しく割り当てられていることを確認してください。REXX 変数の場合は、データのタイプが使用されるコマンドに適していることを確認してください。

SQL7009N REXX 変数 *variable* は切り捨てられました。

説明: REXX に渡された変数 *variable* に、不整合データが入っています。 *variable* からのデータ・ストリングは、切り捨てられました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データ長が、入力 SQLDA に指定された長さとも一致することを確認して、プロシーチャーを再実行してください。

SQL7010N スキャン ID *ID* が無効です。

説明: REXX に渡されたスキャン ID *variable* が存在しないか、矛盾を含んでいるか、またはデータが欠落しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: スキャン ID に含まれているデータが正しく割り当てられていることを確認して、プロシーチャーを再実行してください。

SQL7011N 必須パラメーター *parameter* が指定されていません。

説明: パラメーター *parameter* は REXX コマンド構文に必須であるのに、指定されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 必須パラメーター値を指定して、プロシージャーを再実行してください。

SQL7012N データベースに接続中に、ISL 変更を試みました。

説明: データベースに接続されているときは、分離レベル (ISL) が変更されない場合があります。

コマンドは無視されます。

ユーザーの処置: 分離レベルの変更が必要な場合は、現在のデータベースから切断した後で、分離レベルを設定してそのデータベースに再接続してください。

SQL7013N カーソルおよびステートメント名が一致しないか、または属性が保留になっています。

説明: REXX では、カーソルとステートメント名の形式は、'cnn' と 'snn' ('nn' は 1 から 100 の数字) でなければなりません。一組のカーソルとステートメントの数字は、同じでなければなりません。また、c1 から c50 は hold なしで宣言され、c51 から c100 は hold 付きで宣言されます。

コマンドは無視されます。

ユーザーの処置: カーソルとステートメント番号の一致を確認して、プロシージャーを再実行してください。

SQL7014N ホスト変数のコンポーネントの数が誤りです。

説明: REXX の場合、コンパウンド・ホスト変数の最初のコンポーネントが、実際に定義されているコンポーネントの数と等しくない数をリストします。

コマンドは無視されます。

ユーザーの処置: 最初のコンポーネントの数が、実際に定義されているエレメント数と一致していることを確認して、プロシージャーを再実行してください。

SQL7015N 変数名 *variable* は、REXX では無効です。

説明: 示された変数名は、REXX では無効です。名前は、言語の要求を満たしていなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 名前を REXX の要求に合った名前に変更して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL7016N 無効な構文が SQLDB2 インターフェースに指定されました。関連エラー: *db2-error* コマンドは処理されません。

説明: SQLDB2 インターフェースに無効な構文が提供されました (例: 入力ファイルとコマンドが両方とも指定されているなど)。

ユーザーの処置: 詳細情報については、関連するエラー・コードを参照してください。

SQL7032N SQL プロシージャー *procedure-name* は作成されていません。診断ファイルは *file-name* です。

説明: SQL プロシージャー *procedure-name* は作成されませんでした。以下のいずれかが起こりました。

- SQL ストアード・プロシージャーのサポートは、このサーバーでインストールも構成もされていません。SQL プロシージャーを作成するには、DB2 Application Development Client および C コンパイラーをサーバーにインストールしておく必要があります。DB2 レジストリー変数 DB2_SQLROUTINE_COMPILER_PATH を、プラットフォーム上の C コンパイラー用の環境設定が入っているスクリプトまたはバッチ・ファイルを指すように設定しなければならない場合もあります。
- DB2 は、SQL ストアード・プロシージャーをプリコンパイルまたはコンパイルできませんでした。DB2 は、組み込み SQL を含む C プログラムとして SQL プロシージャーを作成します。プリコンパイルまたはコンパイルの実行中、CREATE PROCEDURE ステートメントの初期解析中にエラーが見つからなかったと報告されることがあります。

UNIX プラットフォームの場合、診断情報が入っているファイルの絶対パスは以下のとおりです。

```
$DB2PATH/function/routine/sqlproc/ ¥  
$DATABASE/$SCHEMA/tmp/file-name
```

ここで \$DATABASE はデータベースの名前を表し、\$SCHEMA は SQL プロシージャーのスキーマ名を表します。

OS/2 および Windows オペレーティング・システムの場合、診断情報が入っているファイルの絶対パスは以下のとおりです。

```
%DB2PATH%¥function¥routine¥sqlproc¥ ¥  
%DATABASE%%¥%SCHEMA%%¥tmp¥file-name
```

ここで %DATABASE% はデータベースの名前を表し、%SCHEMA% は SQL プロシージャのスキーマ名を表します。

ユーザーの処置: 互換性のある C コンパイラーおよび DB2 Application Development Client の両方がサーバーにインストールされていることを確認してください。プリコンパイルまたはコンパイル・エラーが起こる場合、診断ファイル *file-name* で、プリコンパイラーまたはコンパイラーからのメッセージについて調べてください。

DB2 レジストリー変数

DB2_SQLROUTINE_COMPILER_PATH が、C コンパイラー環境をセットアップしているスクリプトまたはバッチ・ファイルを指していることを確認してください。

UNIX オペレーティング・システムの場合、たとえば“sr_cpath”という名前のスクリプトを

/home/DB2INSTANCE/sqlib/function/routine ディレクトリーに作成することができます。ここで DB2 レジストリー変数 DB2_SQL_ROUTINE_COMPILER_PATH を設定するには、以下のコマンドを使用してください。

```
db2set DB2_SQLROUTINE_COMPILER_PATH = ¥
" ¥
/home/DB2INSTANCE/sqlib/function/ ¥
routine/sr_cpath"
```

sqlcode: -7032

sqlstate: 42904

SQL7035W SQL プロシージャ *procedure-name* の実行可能プログラムはデータベース・カタログに保管されません。

説明: SQL プロシージャの実行可能プログラムは 2 メガバイトの制限を超えているので、データベース・カ

SQL8000 - SQL8099

SQL8000N DB2START 処理が失敗しました。有効な製品ライセンスが見つかりませんでした。

説明: 有効なライセンス・キーが見つかりません。評価期間が満了しました。

ユーザーの処置: 製品の完全許可版があるバージョンのライセンス・キーをインストールしてください。製品のライセンス・キーの取得に関しては、弊社または販売店でお尋ねください。

SQL8001N DB2 接続処理は失敗しました。有効な製品ライセンスが見つかりませんでした。

説明: 有効なライセンス・キーが見つかりません。評価期間が満了しました。

タログに保管されません。そのため、データベース・リストア時、または DROP PROCEDURE ステートメントの ROLLBACK の実行時にも、自動的にはりカバーされません。

ユーザーの処置: CREATE PROCEDURE ステートメントで警告が出された場合には、SQL プロシージャ *procedure-name* と関連した実行可能ファイルのバックアップが保管されていることを確認してください。この警告がリストア操作または DROP PROCEDURE ステートメントの ROLLBACK で出された場合には、*procedure-name* と関連した実行可能ファイルは、カタログで定義されている SQL プロシージャに手操作で同期化される必要があります。

sqlcode: +7035

sqlstate: 01645

SQL7099N 無効なエラー *error* が発生しました。

説明: REXX 内部エラーが起きました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: REXX が正しくインストールされていることを確認して、プロシージャを再実行してください。エラーが続く場合は、エラー番号を記録して販売業者に連絡してください。

ユーザーの処置: 製品の完全許可版があるバージョンのライセンス・キーをインストールしてください。製品のライセンス・キーの取得に関しては、弊社または販売店でお尋ねください。

sqlcode: -8001

sqlstate: 42968

SQL8002N 接続処理は失敗しました。有効製品ライセンスが見つかりませんでした。

説明: 有効なライセンス・キーが見つかりません。評価期間が満了しました。

ユーザーの処置: 製品の完全許可版があるバージョンのライセンス・キーをインストールしてください。製品の

ライセンス・キーの取得に関しては、弊社または販売店でお尋ねください。

IBM メインフレーム・データベースに接続するには、ライセンス交付を受けた DB2 Connect 製品か、または DB2 Connect をコンポーネントとして含むライセンス交付製品が必要です。

sqlcode: -8002

sqlstate: 42968

SQL8006W この製品 *product-name* には、有効なライセンス・キーがインストールされていません。この製品のライセンスを取得した場合、ライセンス・キーが適切にインストールされているかどうか、お確かめください。ライセンス・キーがインストールされていない場合も、評価期間の *number* 日間はこの製品が使用できます。評価期間の間製品をご使用いただければ、次のディレクトリー *directory-name* にある **EVALUATE.AGR** ファイルにまとめられた IBM の評価協約をご承諾いただけるはずです。

説明: この製品の有効なライセンス・キーがインストールされていません。一定の評価期間のあいだは、この製品が試用できます。評価期間は時間制の使用停止装置 (TIME DISABLING DEVICE) がコントロールします。

ユーザーの処置: この製品の完全許可版を購入なさった場合は、製品のインストール・ドキュメントの説明に従ってライセンス・キーをインストールしてください。ライセンス・キーがすでにインストール済みの場合は、ライセンス・ファイルをチェックして内容が正しいかどうか確認してください。

EVALUATE.AGR の IBM の評価協約に、評価期間内の試用が記載されています。評価期間のあいだご試用いただければ、IBM の評価協約をご承諾いただけるはずです。

IBM の評価協約をご承諾いただけない場合は、製品の使用権限がありませんので、インストールした製品を消去してください。IBM の担当者または販売店にご連絡いただければ、この製品と一緒にプログラムに完全許可を授与するライセンス・キーが取得できます。

SQL8007W 製品 *text* の評価期間はあと *number* 日で満了します。評価ライセンスの契約条件については、*text* ディレクトリーにある **EVALUATE.AGR** ファイルの評価協約を参照してください。

説明: この製品の有効なライセンス・キーがインストールされていません。評価期間は所定の日数で満了します。

ユーザーの処置: この製品は現在、評価モードで実行されており、一定期間のあいだだけ試用できます。評価期間が満了すると、この製品の完全許可版のライセンス・キーがインストールされるまで、実行しなくなります。

製品のライセンス・キーの取得に関しては、弊社または販売店でお尋ねください。

SQL8008N この製品 *text* にはインストールされた有効なライセンス・キーがありません。評価期間が満了します。この製品に固有な関数は使用可能ではありません。

説明: 有効なライセンス・キーが見つかりません。評価期間が満了しました。

ユーザーの処置: 製品の完全許可版があるバージョンのライセンス・キーをインストールしてください。製品のライセンス・キーの取得に関しては、弊社または販売店でお尋ねください。

SQL8009W DB2 Workgroup 製品の並行ユーザー数が、*number* のライセンスに規定された数を超えています。並行ユーザー数は *number* です。

説明: 並行ユーザーの数が、定義された DB2 ライセンスに規定された並行ユーザー数を超えています。

ユーザーの処置: IBM 担当者または販売店に連絡して、追加の DB2 ユーザー権利を取得し、ライセンス・センターで DB2 ライセンス情報を更新してください。

sqlcode: +8009

sqlstate: 01632

SQL8010W DB2 Connect 製品の並行ユーザーの数が、*number* のライセンスに規定された数を超えています。並行ユーザー数は *number* です。

説明: 並行ユーザーの数が、定義された DB2 ライセンスに規定された並行ユーザー数を超えています。

ユーザーの処置: IBM 担当者または販売店に連絡して、追加の DB2 ユーザー権利を取得し、ライセンス・

センターで DB2 ライセンス情報を更新してください。

sqlcode: +8010

sqlstate: 01632

SQL8011W 1 つまたは複数のデータベース・パーティションには *product-name* 製品にインストールされた有効な DB2 ライセンス・キーはありません。

説明: すべてのデータベース・パーティションで、この製品の有効なライセンス・キーがインストールされていません。一定の評価期間のあいだは、この製品が試用できます。評価期間は時間制の使用停止装置 (TIME DISABLING DEVICE) がコントロールします。

ユーザーの処置: この製品の完全許可版を購入なさった場合は、製品のインストール・ドキュメントの説明に従ってライセンス・キーをインストールしてください。ライセンス・キーがすでにインストール済みの場合は、ライセンス・ファイルをチェックして内容が正しいかどうか確認してください。

EVALUATE.ARG の IBM の評価協約に、評価期間内の試用が記載されています。評価期間のあいだご試用いただければ、IBM の評価協約をご承諾いただけるはずです。

IBM の評価協約をご承諾いただけない場合は、製品の使用権限がありませんので、インストールした製品を消去してください。IBM の担当者または販売店にご連絡いただければ、この製品と一緒にプログラムに完全許可を授与するライセンス・キーが取得できます。

SQL8012W DB2 Enterprise 製品の並行ユーザーの数が、*number* のライセンスに規定された数を超えています。並行ユーザー数は *number* です。

説明: 並行ユーザーの数が、定義された DB2 ライセンスに規定された並行ユーザー数を超えています。

ユーザーの処置: IBM 担当者または販売店に連絡して、追加の DB2 ユーザー権利を取得し、ライセンス・センターで DB2 ライセンス情報を更新してください。

sqlcode: +8012

sqlstate: 01632

SQL8013W DB2 Connect 製品の並行ユーザー数が、*number* のライセンスに規定された数を超えています。データベース接続数は *number* です。

説明: 使用している DB2 Connect 製品のライセンスは同時データベース接続の制限数をサポートします。こ

の制限を超えた接続数を要求しました。

ユーザーの処置: 同時更新する接続の制限を高くして、DB2 Connect 製品のバージョンにアップグレードしてください。

DB2 Connect Enterprise Edition のユーザー: 追加のユーザー・パックをお求めいただき、追加ユーザーのライセンスを取得してください。

sqlcode: +8013

sqlstate: 01632

SQL8014N 使用している DB2 Connect 製品のバージョンが、TCP/IP プロトコルで使用できるようにライセンスされていません。TCP/IP を使用できるように、DB2 Connect 製品の全関数をアップグレードしてください。

説明: DB2 Connect のこのバージョンは SNA 接続に限定されています。TCP/IP 接続はサポートされていません。

ユーザーの処置: TCP/IP を使用できるように、DB2 Connect Personal Edition または DB2 Connect Enterprise Edition のように、DB2 Connect 製品の全関数をアップグレードしてください。

sqlcode: -8014

sqlstate: 42968

SQL8015N 使用している DB2 Connect 製品のバージョンが同一トランザクションにある複数のデータベースをアップグレードするようにライセンスされていません。

説明: DB2 Connect このバージョンは、トランザクションのシングル・データベースで動作するように限定されています。2 フェーズ・コミット・プロトコルをサポートしません。

ユーザーの処置: 単一トランザクションで複数のデータベースを更新できるように、DB2 Connect 製品の全機能 (DB2 Connect Personal Edition または DB2 Connect Enterprise Edition など) にアップグレードしてください。

sqlcode: -8015

sqlstate: 42968

SQL8016N ユーザー *user-name* は、製品 *product-name* の登録済みユーザーとして定義されていません。

説明: ユーザーは、この製品を使用できるように登録されていません。

ユーザーの処置: IBM 担当者または販売店に連絡して、追加の DB2 登録済みユーザー権利を取得し、ライセンス・センターでこの製品のための登録済みユーザー・リストを更新してください。

SQL8017W このマシンのプロセッサ数が、製品 *product-name* についてライセンスに規定された数 *licensed-quantity* を超えています。このマシンのプロセッサ数は *processor-quantity* です。IBM 担当員または販売店からプロセッサ・ライセンスをさらに購入し、ライセンス・センターあるいは **db2licm** コマンド行ユーティリティを使用してライセンスを更新してください。プロセッサを基にしたライセンス更新については、「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。**db2licm** ユーティリティの詳細については、「コマンド・リファレンス」を参照してください。

ユーザーの処置: **sqlcode:** +8017

SQL8018W この製品の並行ユーザー数が、ライセンスに規定された数 *number* を超えています。並行ユーザー数は *number* です。

説明: 並行ユーザーの数が、定義されている並行ユーザー数のライセンスを超えています。

ユーザーの処置: IBM 担当者または販売店に連絡してユーザー権利をさらに取得し、ライセンス・センターで DB2 ライセンス情報を更新してください。

sqlcode: +8018

sqlstate: 01632

SQL8019N OLAP スターター・キットのライセンスを更新しているときにエラーが起きました。RC = *reason-code*。

説明: 不明なエラーが生じたため、ライセンス・ユーティリティは OLAP スターター・キットのライセンスを更新できませんでした。

ユーザーの処置: コマンドをやり直してください。問題が解決しない場合、IBM サービス担当者に連絡してください。

sqlcode: -8019

SQL8020W 1 つのサーバーでの並行コネクター数が、ライセンスに規定された数 *number-sources* を超えています。現在のコネクター数は *number-entitled* です。

説明: 現在の並行コネクター数は、ライセンスに規定された数を超えています。

ユーザーの処置: IBM 担当者または販売店に連絡して権利をさらに取得し、ライセンス・センターで DB2 ライセンス情報を更新してください。

sqlcode: +8020

SQL8021W データ・ソース *source-name* は、製品 *product-name* の登録データ・ソースとして定義されていません。

説明: データ・ソースが登録済みデータ・ソースとして構成されていません。すべての非 DB2 データ・ソースに関するライセンスを購入する必要があります。

ユーザーの処置: IBM 担当者または販売店に連絡して、追加のデータ・ソース権利を取得し、ライセンス・センターでこの製品のための登録済みデータ・ソースを更新してください。

sqlcode: +8021

SQL8022N データベース・パーティション・ライセンスなしで、データベース・パーティション・フィーチャーが使用されています。データベース・パーティション・ライセンスなしで、データベース・パーティション・フィーチャーが使用されていることが DB2 で検出されました。IBM 担当員または認定販売店からさらにデータベース・パーティション機能ライセンスを購入し、DB2 ライセンス・センターあるいは **db2licm** コマンド行ユーティリティを使用してライセンスを更新してください。ライセンスの更新の詳細は、ご使用のプラットフォーム用の「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。**db2licm** ユーティリティの詳細については、「DB2 コマンド・リファレンス」を参照してください。

SQL8023N **SQL8023N** *product-name* 製品の並行ユーザー数が、ライセンス要綱 *entitlement* に規定された数を超えています。並行ユーザー数は *count* です。IBM 担当員または認定販売店からさらに別のユーザー別ライセンスを購入し、ライセンス・センターあるいは **db2licm** コマンド行ユーティリティーを使用してライセンスを更新してください。ユーザー別ライセンスの更新の詳細は、ご使用のプラットフォーム用の「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。

SQL8024N 要求された機能に対して有効なライセンス・キーが見つかりません。
product_name 製品の現行ライセンス・キーでは、要求された機能を実行できません。IBM 担当員または認定販売店からこの機能用のライセンス・キーを購入し、ライセンス・センターあるいは **db2licm** コマンド行ユーティリティーを使用してライセンスを更新してください。ライセンスの更新の詳細は、ご使用のプラットフォーム用の「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。 **db2licm** ユーティリティーの詳細については、「DB2 コマンド・リファレンス」を参照してください。

SQL8100 - SQL8199

SQL8100N 表がいっぱいです。

説明: データベースの作成時に、以下のパラメーターが指定された可能性があります。

- 各ファイルのセグメントで指定できるページの最大数
- セグメントの数

現在、各表の部分がデータベース・セグメント内で複数ファイルを持っている可能性があります。ファイルは、セグメントの最大サイズ (セグメントごとの最大ページ数) まで拡張可能で、さらにデータを加えると、次のセグメントに移されます。これが、構成されたすべてのセグメントについて、セグメントごとの最大ページを使い果たすまで繰り返された後で、表がいっぱいになります。

従って、データベース部分ごとのスペースの合計量は、最大ページ数と最大セグメント数の積によって求められます。表の中に構成済みのスペース全体を使用する部分があるときには、表がいっぱいになります。

SQL8025W サーバー *server-name* に接続できません。
DB2 Information Integrator の有効なライセンスが見つかりませんでした。

説明: 現在の DB2 Information Integrator ライセンスでは、指定されたデータ・ソースに接続できません。

ユーザーの処置: このエラーの原因として可能性があることについては、管理通知ログを参照してください。この問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置:

- 表から行を削除してください。
- もっと大きいスペースを持つように、表を再構成してください。
- 最大ページ数および最大セグメント数を大きくした新しいデータベースを作成し、オリジナル・データベースをバックアップして、新しいデータベースにリストアしてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 要求の失敗を引き起こしたデータ・ソースに問題があると考え (「「トラブルシューティング・ガイド」」を参照して、SQL ステートメント処理の失敗のデータ・ソースを判別してください。) 以下を行ってください。

- データ・ソースで表のスペースを増加するステップをとってください。

- 表がフェデレーテッド・サーバー上にある場合には、セグメント当たりの最大ページ数およびセグメント数を大きくした新しいデータベースを作成してください。オリジナル・データベースをバックアップして、新しいデータベースをリストアしてください。

SQL8101N データベース・セグメントが間違っている可能性があります。

説明: このエラーは、以下の 2 つの状況で起こる可能性があります。

1. すべてのデータベース・セグメントは、ID ファイルを持っています。そのファイルが無くなったか、またはファイルの内容が正しくない可能性があります。

SQL9300 - SQL9399

SQL9301N 無効なオプションが指定されているか、オプション・パラメーターがありません。

説明: 指定されたオプションが無効か、またはオプション・パラメーターが指定されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: オプションを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL9302N 無効なオプション・パラメーター: *option-parameter*。

説明: 示されているオプション・パラメーターが無効です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: オプション・パラメーターを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL9303N *option* が指定されていません。

説明: 必須オプション *option* が指定されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 必須オプションを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL9304N 書き込みのためにファイル *filename* をオープンできません。

説明: コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: システムがそのファイルにアクセスできることを確認してください。

2. 以前に割り振られたデータベース・セグメントのいくつかが失われました。

ユーザーの処置:

- ファイル・システムが正しく取り付けられていることを確認してください。
- バックアップからデータベースをリストアしてください。
- IBM 担当者に連絡してください。

SQL9305N *name* が長すぎます。最大長は *max-length* です。

説明: <name> が最大長 <max-length> よりも長くなっています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: <name> が最大長を超えていないことを確認してください。

SQL9306N 1 つ以上のフィールド名が長すぎます。最大長は *max-length* です。

説明: フィールド名の合計の長さは、指定した接頭部か列接尾部、またはその両方を含みます。接頭部または接尾部は、名前または数字のいずれでもかまいません。この長さの合計が最大長を超えないようにしてください。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: すべてのフィールド名が最大長を超えていないことを確認してください。

SQL9307N 注釈をデータベースで検索できません。エラー・コード = *sqlcode*。

説明: 列の注釈をデータベースから検索しているときに、エラーが起きました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 詳細については、エラー・コードを調べてください。

SQL9308W 列 *colname* の SQL データ・タイプ *sqltype* はサポートされていません。

説明: SQL データ・タイプ *sqltype* は、指定されているホスト言語ではサポートされていません。

この列の宣言は生成されません。

ユーザーの処置: これが目的の表であるかどうか確認してください。

SQL9320I データベース *database* に接続しています...

説明: ユーティリティがデータベース *database* に接続しようと試みています。

ユーザーの処置: 失敗した場合は、詳細についてエラー・メッセージを参照してください。

SQL9321I ユーティリティを自動的にバインドしています...

説明: ユーティリティがデータベースにバインドしようと試みています。

ユーザーの処置: 失敗した場合は、詳細についてエラー・メッセージを参照してください。

SQL10000 - SQL10099

SQL10002N 指定されたパスワードが長すぎます。

説明: パスワードの長さは 18 文字以下です。ただし、パスワードが APPC 対話でチェックされる場合は、8 文字以下でなければなりません。

ユーザーの処置: パスワードが許容限界より長くないことを確認してください。

sqlcode: -10002

sqlstate: 28000

SQL10003C 要求を処理するための十分なシステム・リソースがありません。要求は処理できません。

説明: データベース・マネージャーが、システム・リソースが不十分なために、要求を処理できませんでした。このエラーを引き起こす可能性があるリソースは、以下のとおりです。

- システムのメモリー量
- システムで使用可能なメッセージ・キュー ID の数

ユーザーの処置: アプリケーションを停止してください。解決策は以下のとおりです。

- バックグラウンド処理を終了してください。

436 メッセージ・リファレンス 第 2 巻

SQL9322I 表 *table* で列情報を検索しています...

説明: ユーティリティが、表 *table* で列情報を検索しようと試みています。

ユーザーの処置: 失敗した場合は、詳細についてエラー・メッセージを参照してください。

SQL9323I ファイル *filename* への宣言を生成しています...

説明: ユーティリティが、ファイル *filename* への宣言を生成しようと試みています。

ユーザーの処置: 失敗した場合は、詳細についてエラー・メッセージを参照してください。

SQL9324I データベース *database* を切断しています...

説明: ユーティリティがデータベース *database* を切断しようと試みています。

ユーザーの処置: 失敗した場合は、詳細についてエラー・メッセージを参照してください。

- 上記のリソースを使用する他のアプリケーションを終了してください。
- リモート・データ・サービスを使用している場合は、アプリケーションごとに少なくとも 1 ブロックが使用されるので、サーバーとクライアント構成でリモート・データ・サービスのヒープ・サイズ (*rsheapsz*) を増やしてください。
注: これはバージョン 2 以前の DB2 のリリースにのみ適用されます。
- メモリーの割り振りを定義する構成パラメーターの値を減らしてください。UDF が失敗したステートメントに含まれている場合は、*ASLHEAPSZ* も減らしてください。
- ラージ・ファイルへのアクセスを回避するか、または非バッファ入出力を使用します。非バッファ入出力を使用するには、DB2 レジストリー変数 *DB2_DIRECT_IO* を YES に指定してください。

sqlcode: -10003

sqlstate: 57011

SQL10004C データベース・ディレクトリーにアクセス中に入出力エラーが発生しました。

説明: システム・データベース・ディレクトリーまたはローカル・データベース・ディレクトリーにアクセスできません。このエラーは、システムがデータベースをカタログまたはアンカタログしているときのみでなく、ディレクトリーにカタログされているデータベースにアクセスしているときにも起きる可能性があります。

このエラーが戻されるのは、32 ビットと 64 ビットのプラットフォームをつなぐ接続を確立しようとした場合です。32 ビットと 64 ビットのプラットフォームをつなぐ接続はサポートされていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 解決策は以下のとおりです。

- ローカル・データベース・ディレクトリーが壊れた場合は、そのディレクトリーにカタログされていたデータベースを、バックアップ・バージョンからリストアして、それをカタログしてください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -10004

sqlstate: 58031

SQL10005N CONNECT TO ステートメントのモード・パラメーター *parameter* が無効です。これは、共有アクセスの場合は **SHARE、排他使用の場合は **EXCLUSIVE**、または単一ノードの排他使用の場合は **EXCLUSIVE MODE ON SINGLE NODE** でなければなりません。DB2 Connect 接続の場合には、**SHARE** モードのみサポートされます。**EXCLUSIVE MODE ON SINGLE NODE** は、MPP 構成でのみサポートされています。**

説明: CONNECT TO ステートメントの *mode* パラメーターは、共有の場合は **SHARE**、排他使用の場合は **EXCLUSIVE**、単一ノードでの排他使用の場合には **EXCLUSIVE MODE ON SINGLE NODE** にしてください。DB2 Connect を使用してデータベースに接続している場合には、共有アクセスのみが許可されています。EXCLUSIVE MODE ON SINGLE NODE は、MPP 構成でのみサポートされています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な *mode* パラメーターを指定し

て、コマンドを再実行してください。

SQL10007N メッセージ *msgno* が検索できませんでした。理由コード: *code*

説明: 要求されたメッセージ <*msgno*> が、メッセージ・ファイルから検索できませんでした。理由コード <*code*> は以下のいずれかです。

- 環境変数 “DB2INSTANCE” が設定されていないか、または無効なインスタンスに設定されています。それを訂正して、もう一度やり直してください。
- メッセージ・ファイルは見つかりましたが、許可がないためにオープンできませんでした。メッセージ・ディレクトリー下のファイルに対するファイル許可をチェックしてください。
- メッセージ・ファイルが見つかりませんでした。ファイルが存在しないか、またはメッセージ・ファイルが存在するべきディレクトリーが存在しません。‘1 次’ ディレクトリー (デフォルト)、またはメッセージ・ディレクトリー下にある ‘LANG’ 環境変数と同じ名前のディレクトリーをチェックしてください。
- 要求されたメッセージがメッセージ・ファイルに存在しません。メッセージ・ファイルが古いか、正しいファイルではありません。
- データベースがサポートしていないコード・ページに DB2CODEPAGE が設定されているか、クライアントのロケールがデータベースでサポートされていないかのいずれかです。
- 予期しないシステム・エラーが発生しました。もう一度実行してください。問題が続く場合は、IBM 担当者に連絡してください。
- 十分なメモリーがありません。専用メモリーの獲得に失敗しました。もう一度やり直してください。

ユーザーの処置: 以下を確認した後で、コマンドを出し直してください。

- DB2INSTANCE 環境変数が、このコマンドを発行したユーザー名を表す正しいリテラル・ストリングに設定されていることを確認してください。
- このコマンドを発行したユーザー名に正しいホーム・ディレクトリーが指定されていることを確認してください (たとえば、/etc/passwd ファイル内)。
- このコマンドを発行したユーザー名で、LANG 環境変数が、インストールされた言語に対する正しい値、または ‘C’ (‘1 次’ ディレクトリーに対するデフォルト) にセットされていることを確認してください。

上記のすべてが正しくても、エラーが続く場合は、DB2 を再インストールしてください。

SQL1009N 指定されたコード・セット *codeset* または
テリトリー *territory*、あるいはその両方が
無効です。

説明: このバージョンのデータベース・マネージャー
は、`Create Database` コマンドで指定されたアクティ
ブ・コード・セットまたはテリトリー、またはその両方
をサポートしていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーでサポ
ートされている有効なコード・セットとテリトリーの詳細
については、「管理ガイド」でデータベースの作成コマ
ンドについて参照してください。

SQL10010N 指定されたライブラリー *name* はロード
されましたが、関数 *function* は実行でき
ませんでした。

説明: ライブラリー内に関数ルーチンが見つかりませ
ん。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置:

1. DARI ライブラリーの場合は、DARI ライブラリー
が正しく作成されていることを確認してください。
関数ルーチンが 'ファイルのエクスポート' を使用し
て、エクスポートされていることを確認してくださ
い。
2. その他のライブラリーについては、データベース・
マネージャー・インスタンスまたはデータベース・
マネージャー製品の再インストールが必要になる可
能性があります。

sqlcode: -10010

sqlstate: 42724

SQL10011N 指定された DARI ライブラリー *name* の
ロード中に、割り込みを受けました。

説明: DARI ライブラリーのロード中に、コマンドが割
り込みを受けたので、割り込みキー (通常 `Ctrl+Break`
または `Ctrl+C`) が押された可能性があります。

処理は停止します。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてくださ
い。

sqlcode: -10011

sqlstate: 42724

SQL10012N 指定されたライブラリー *name* のロード
中に予期しないオペレーティング・システ
ム・エラーを受け取りました。

説明: 「プログラム名」フィールドに指定されたライブ
ラリー・モジュールをロードしようとして、予期しない
エラーが起きました。

ユーザーの処置: 現在のコマンドを再サブミットして
ください。エラーが続く場合は、データベース・マネ
ージャーを停止して、再始動してください。それでも、エ
ラーが続く場合は、データベース・マネージャーを再イ
ンストールしてください。

再インストールでエラーが修正されない場合は、エラ
ー・メッセージ番号 (SQLCODE)、および可能であれば、`SQLCA`
内のすべての情報を記録してください。

トレースがアクティブの場合は、オペレーティング・シ
ステムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能
を呼び出してください。その後で、このガイドに記述さ
れているように IBM に連絡してください。

sqlcode: -10012

sqlstate: 42724

SQL10013N 指定されたライブラリー *name* がロード
できませんでした。

説明: ライブラリー・モジュールが見つかりませんで
した。

ユーザーの処置: DARI ユーザーの場合は、指定したラ
イブラリーが使用可能であることを確認してください。

- クライアント・アプリケーションが、DARI ライブラ
リーの指定に完全修飾パス名を使用する場合は、
DARI ライブラリーが指定されたディレクトリー・パ
スに格納されている必要があります。クライアント・
アプリケーションがパス名を使用しない場合は、
DARI ライブラリーが、デフォルト・ディレクトリー
(`<InstanceHomeDir>/sqllib/function`) に格納されてい
る必要があります。 `<InstanceHomeDir>` は、データバ
ス・マネージャー・インスタンスのホーム・ディレク
トリーです。
- データベース・マネージャーの始動時に、このエラ
ー・メッセージが出された場合は、`DB2` インスタ
ンスまたはデータベース・マネージャー製品のインス
トールが必要になる可能性があります。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: フェデレーテ
ッド・システムで `db2start` を発行した結果、エラー・メ
ッセージが出され、その *name* が "DB2_DJ_COMM" か
らのものであれば、`DB2_DJ_COMM` 環境変数で識別さ
れたラッパー・モジュールの 1 つをロードしていると
きにフェデレーテッド・サーバーが問題を見つけていま

す。DB2_DJ_COMM 環境変数を更新して、有効なラッパー・モジュールだけが組み込まれるようにしてください。

フェデレーテッド・システムで db2start を発行した結果、エラー・メッセージが出され、その *name* が “DB2_DJ_COMM” からのものであれば、ユーザーはフェデレーテッド・インスタンスを再インストールしなければなりません。

ライブラリーがラッパー・モジュールを識別している場合、モジュールをインストールし、(必要に応じて) リンク・エディットして、正しいディレクトリーで使用できるようにする必要があります。さらに、ラッパー・モジュールが使用するデータ・ソース・クライアント・ライブラリーも、正しいディレクトリーにインストールされ、使用可能となっている必要があります。ラッパー・モジュールの構成の詳細については、「インストールおよび構成 補足」を参照してください。

sqlcode: -10013

sqlstate: 42724

SQL10014N 指定された DARI プログラム名 *name* の呼び出しが無効です。

説明: DARI ライブラリー・モジュールまたは DARI プログラム名の構文が間違っています。

ユーザーの処置: DARI ライブラリーまたはプログラム名が正しく指定されていることを確認してください。

sqlcode: -10014

sqlstate: 42724

SQL10015N 指定されたライブラリー *name* のロードに十分なシステム・リソースがありません。

説明: ライブラリー・モジュールのロードに十分なメモリーがありません。

ユーザーの処置: アプリケーションを停止してください。以下に示す方法で解決してください。

- バックグラウンド処理を終了してください。
- メモリー割り振りを定義する構成パラメーターの値を減らしてください。
- メモリーを増やしてください。

sqlcode: -10015

sqlstate: 42724

SQL10017N データベース・アプリケーション・リモート・インターフェース (DARI) プロシージャ内では、SQL CONNECT RESET ステートメントは使用できません。

説明: リモート・プロシージャに、SQL CONNECT RESET ステートメントが入っています。

ユーザーの処置: SQL CONNECT RESET ステートメントを取り除いて、リモート・プロシージャを再実行してください。

sqlcode: -10017

sqlstate: 38003

SQL10018N ディスクがいっぱいです。処理は終了しました。

説明: ディスクがいっぱいです。PC/IXF ファイルへのエクスポート中に、PC/IXF データ・ファイルがハード・ディスクに存在するか、PC/IXF データ・ファイルとデータベースが同じファイル・システムに存在するか、または PC/IXF データ・ファイルとメッセージ・ファイルが同じファイル・システムに存在しています。

EXPORT ユーティリティーは処理を停止します。エクスポートされたデータは完全ではありません。

ユーザーの処置: ディスクにもっと多くのスペースを確保するか、データベースまたはメッセージ・ファイルとは別のファイル・システムにデータ・ファイルが置かれるように指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL10019N 指定されたパスでは、データベースにアクセスできません。

説明: 以下のいずれかの理由で、データベースにアクセスできません。

- パスにデータベース・イメージが入っていません。
- パスのアクセス許可が正しくありません。

ユーザーの処置: パスが有効なデータベースを示していること、および許可が正しいことを確認してください。

sqlcode: -10019

sqlstate: 58031

SQL10021N データベースへの書き込みアクセスが、ファイル許可によって許されません。

説明: 書き込みアクセスが認められていないファイル・システムに常駐するデータベースに対して、書き込み操作が行われました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: データベースが常駐するファイル・システムに対するファイル許可が、書き込みアクセスを許

可していることを確認してください。

SQL20000 - SQL20099

SQL20005N 内部 ID 制限 *limit* がオブジェクト・タイプ *object-type* で超過しました。

説明: 内部 ID は、タイプ *object-type* のオブジェクトをユニークに識別します。このタイプのオブジェクトの内部 ID の制限を超えました。これは、CREATE DISTINCT TYPE、CREATE TYPE、CREATE FUNCTION、CREATE PROCEDURE、CREATE SEQUENCE ステートメントか、ID 列を定義する ALTER TABLE または CREATE TABLE ステートメントで発生します。表の索引が最大数を越えた場合、CREATE INDEX で発生する可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 現在使用されていないタイプ *object-type* のオブジェクトをドロップしてください。

sqlcode: -20005

sqlstate: 54035

SQL20010N 構造化タイプのインスタンスが NULL の場合、変形方式 *method-ID* は許可されていません。

説明: 方式 *method-ID* は、構造化タイプが NULL のインスタンスで指定されている変形方式です。変形方式を NULL インスタンスで処理することはできません。方式名を使用できない場合もあります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 変形方式で使用される NULL インスタンスを判別してください。構成関数を使用して、インスタンスで変形方式を使用する前に構造化タイプの非 NULL インスタンスを作成してください。

method-ID に関連している方式名を判別するには、以下の照会を使用してください。

```
SELECT FUNCHEMA, FUNCNAME,  
       SPECIFICNAME  
FROM SYSCAT.FUNCTIONS  
WHERE  
       FUNCID = INTEGER(  
           method-ID  
       )
```

sqlcode: -20010

sqlstate: 2202D

SQL20011N トランスフォーム・グループ *group-name* は、すでにデータ・タイプ *type-name* のサブタイプまたはスーパータイプとして定義されています。

説明: トランスフォーム・グループ *group-name* は、すでに *type-name* と同じ階層のタイプとして存在していません。 *type-name* のスーパータイプまたはサブタイプとして定義されていると思われます。構造化タイプの階層の中で、トランスフォーム・グループ名を使用できるのは一度だけです。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: トランスフォーム・グループの名前を変更してください。

sqlcode: -20011

sqlstate: 42739

SQL20012N タイプ *type-name* には、ドロップする関連トランスフォーム・グループがありません。

説明: *type-name* にトランスフォームに定義されていません。ドロップする対象はありません。

ステートメントは、トランスフォーム・グループをドロップしませんでした。

ユーザーの処置: タイプ名 (必須の修飾子を含む) が SQL ステートメントに正しく指定されており、そのタイプが存在することを確認してください。

sqlcode: -20012

sqlstate: 42740

SQL20013N オブジェクト *super-object-name* は、オブジェクト *sub-object-name* のスーパータイプ、スーパー表、あるいはスーパービューとして無効です。

説明: エラーになったステートメントがタイプを作成している場合、*super-object-name* はユーザー定義の構造化タイプではないので、*sub-object-name* のスーパータイプではないタイプです。

エラーになったステートメントが表を作成している場合、*super-object-name* は、表 *sub-object-name* のスーパー表ではない表です。なぜなら、型付き表として定義されていないか、*super-object-name* が表 *sub-object-name*

の定義に使用されているタイプの直接のスーパータイプではないからです。

エラーになったステートメントがビューを作成している場合、*super-object-name* は、ビュー *sub-object-name* のスーパービューではないビューです。これは、型付きビューとして定義されていないか、ビュー *super-object-name* のタイプがビュー *sub-object-name* の定義に使用されているタイプの直接のスーパータイプではないためです。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: CREATE ステートメントの UNDER 文節に、有効なタイプ、表、あるいはビューを指定してください。

sqlcode: -20013

sqlstate: 428DB

SQL20014N タイプ *type-name* のトランスフォーム・グループ *group-name* *transform-type* トランスフォーム関数は無効です。理由コード = *reason-code*

説明: トランスフォーム・グループ *group-name* の *transform-type* トランスフォーム関数は無効です。原因は、以下の *reason-code* で示されています。

- 1 FROM SQL トランスフォーム関数に許可されているパラメーターは 1 つだけです。
- 2 FROM SQL トランスフォーム関数のパラメーターは、タイプ *type-name* でなければなりません。
- 3 TO SQL トランスフォーム関数の RETURNS データ・タイプは、タイプ *type-name* でなければなりません。
- 4 スカラーを返す FROM SQL トランスフォーム関数の RETURNS タイプは、DECIMAL 以外の組み込みデータ・タイプでなければなりません。
- 5 スカラーを返す FROM SQL トランスフォーム関数の RETURNS タイプはすべて、DECIMAL 以外の組み込みデータ・タイプでなければなりません。
- 6 TO SQL トランスフォーム関数には、パラメーターが少なくとも 1 つ必要です。
- 7 TO SQL トランスフォーム関数のパラメーター・タイプはすべて、DECIMAL 以外の組み込みデータ・タイプでなければなりません。
- 8 TO SQL トランスフォーム関数はスカラー関数でなければなりません。

9 FROM SQL トランスフォーム関数は LANGUAGE SQL で作成されていなければならないか、あるいは LANGUAGE SQL で作成された別の FROM SQL トランスフォーム関数を使用しなければなりません。

10 TO SQL トランスフォーム関数は LANGUAGE SQL で作成されていなければならないか、あるいは LANGUAGE SQL で作成された別の TO SQL トランスフォーム関数を使用しなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置:

- 1 パラメーターが 1 つしかないシグニチャーで FROM SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 2 パラメーターのタイプが *type-name* と同じである FROM SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 3 RETURNS タイプが *type-name* と同じである TO SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 4 DECIMAL 以外の組み込みデータ・タイプである RETURNS タイプで FROM SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 5 行の要素がそれぞれ、DECIMAL 以外の組み込みデータ・タイプである RETURNS タイプを持つ、FROM SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 6 少なくとも 1 つのパラメーターを持つシグニチャーで TO SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 7 パラメーター・タイプがすべて、DECIMAL 以外の組み込みデータ・タイプである、TO SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 8 スカラー関数である TO SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 9 LANGUAGE SQL で作成された、または LANGUAGE SQL で作成された別の FROM SQL トランスフォーム関数を使用する FROM SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 10 LANGUAGE SQL で作成された、または LANGUAGE SQL で作成された TO SQL トランスフォーム関数を使用する TO SQL トランスフォーム関数を指定してください。

sqlcode: -20014

sqlstate: 428DC

SQL20015N トランスフォーム・グループ *group-name* は、データ・タイプ *type-name* に定義されていません。

説明: 示されているトランスフォーム・グループ *group-name* は、データ・タイプ *type-name* に定義されていません。データ・タイプ *type-name* がステートメントに明示的に指定されているか、またはそのデータ・タイプのトランスフォーム・グループが存在していることを必要とする構造化タイプの使用に暗黙的に基づいていると思われる。

group-name が空である場合、TRANSFORM GROUP BIND オプションか CURRENT DEFAULT TRANSFORM GROUP 特殊レジスターのいずれかが指定されなかったため、*type-name* のトランスフォームがありませんでした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: CREATE TRANSFORM ステートメントを使用して、データ・タイプ *type-name* のトランスフォーム・グループ *transform-type* を定義してください。トランスフォームをドロップしているときにエラーが起こった場合、トランスフォーム・グループがデータ・タイプに存在していないため、アクションは必要ありません。

group-name が空である場合、TRANSFORM GROUP BIND オプションを CURRENT DEFAULT TRANSFORM GROUP 特殊レジスターに指定してください。

sqlcode: -20015

sqlstate: 42741

SQL20016N タイプまたは列 *type-or-column-name* と関連したインライン長さの値が小さ過ぎます。

説明: 構造化タイプ *type-or-column-name* の定義に対して、constructor 関数 ($32 + 10 * \text{number_of_attributes}$) によって戻されるサイズより小さく、また 292 に満たない INLINE LENGTH 値が指定されています。列 *type-or-column-name* の変更に対して、指定された INLINE LENGTH が現在のインライン長さよりも小さくなっています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 十分な長さの INLINE LENGTH 値を指定してください。構造化タイプの場合、この長さは少なくともそのタイプの constructor 関数によって戻されるサイズか、少なくとも 292 になります。列の場合

合、この長さは現在のインライン長さよりも大きくなります。タイプ (またはこのタイプのスーパータイプ) を変更して属性を追加しているときにエラーが起こった場合、その属性を追加することができないか、あるいはタイプをドロップして、より大きな INLINE LENGTH 値で再作成しなければなりません。

sqlcode: -20016

sqlstate: 429B2

SQL20017N このサブタイプの追加はタイプ階層のレベルの最大数を超過しています。

説明: タイプ階層のレベル最大数は 99 です。このタイプを追加すると最大を超過してしまいます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このタイプ階層へこれ以上サブタイプを追加しないでください。

sqlcode: -20017

sqlstate: 54045

SQL20018N 行関数 *function-name* は 1 行までしか返すことができません。

説明: この関数は単一行を返すよう定義されるものです。関数を処理した結果が複数行あります。

ユーザーの処置: 1 行までしか返せないような方法で関数が定義されていることを確認してください。

sqlcode: -20018

sqlstate: 21505

SQL20019N 関数本体から返される結果タイプは RETURNS 文節で定義されたデータ・タイプに割り当てられません。

説明: 関数本体から返される各列のデータ・タイプは、RETURNS 文節に定義されている対応する列に割り当てる必要があります。関数がスカラー関数の場合は、1 列しかありません。

ユーザーの処置: 対応する列のデータ・タイプが割り当て可能になるよう、RETURNS タイプまたは関数本体から返されるタイプを変更してください。

sqlcode: -20019

sqlstate: 42866

SQL20020N 操作 *operation-type* が型付き表で無効です。

説明: *operation-type* で識別された操作を、型付き表で実行することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ALTER ステートメントから ADD COLUMN 文節または SET DATATYPE 文節を除去してください。属性として新規列の入った構造化タイプの表を再定義してのみ、列を追加することができます。つまり、列のデータ・タイプは異なるデータ・タイプの列の入ったタイプの表を再定義してのみ変更できます。

sqlcode: -20020

sqlstate: 428DH

SQL20021N 継承された列あるいは属性 *name* の変更あるいはドロップはできません。

説明: *name* の値は、ステートメント・コンテキストによって、列名または属性名を識別します。それは、表、ビューまたはタイプ階層の上記の型付き表、型付きビュー、または構造化タイプから継承されています。

- CREATE TABLE ステートメントでは、WITH OPTIONS 文節を CREATE TABLE ステートメントの列 *name* に指定することはできません。表階層のスーパー表から継承しているためです。
- ALTER TABLE ステートメントでは、SET SCOPE 文節または COMPRESS 文節を列 *name* に指定することはできません。これは表階層のスーパー表から継承しているためです。
- CREATE VIEW ステートメントでは、WITH OPTIONS 文節を CREATE VIEW ステートメントの列 *name* に指定することはできません。ビュー階層のスーパービューから継承しているためです。
- ALTER TYPE ステートメントでは、DROP ATTRIBUTE 文節を属性 *name* に指定することはできません。タイプ階層のスーパータイプから継承しているためです。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 列のオプションは、列が導入されている型付き表階層または型付きビュー階層の表またはビューにのみ、設定または変更することができます。属性は、属性が導入されているタイプ階層のデータ・タイプからのみ、ドロップすることができます。

sqlcode: -20021

sqlstate: 428DJ

SQL20022N 参照列 *column-name* の有効範囲はすでに定義されています。

説明: 参照列 *column-name* の有効範囲はすでに定義されているので追加できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ADD SCOPE 文節を ALTER TABLE ステートメントから除去できません。

sqlcode: -20022

sqlstate: 428DK

SQL20023N 外部あるいはソース関数のパラメーター *parm-number* に定義済みの有効範囲があります。

説明: 参照タイプ・パラメーターは、外部またはソースのユーザー定義関数を使用するときは有効範囲を定義してはなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 有効範囲指定をパラメーターの定義から除去してください。

sqlcode: -20023

sqlstate: 428DL

SQL20024N 有効範囲表あるいはビュー *target-name* は、構造化タイプ *type-name* で定義されていません。

説明: 有効範囲表あるいはビュー *target-name* は、以下の理由からこの参照の有効範囲としての使用では無効です。

- 型付き表以外
- 型付きビュー以外
- REF タイプのターゲット・タイプとは異なる表あるいはビューのタイプ

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: REF タイプのターゲット・タイプと同じ型付き表あるいは型付きビューを使用して、参照の有効範囲を指定してください。

sqlcode: -20024

sqlstate: 428DM

SQL20025N SCOPE が外部関数の RETURNS 文節で指定されていないか、ソース関数の RETURNS 文節で定義されているかのいずれかです。

説明: 2つの原因が考えられます。

- 参照タイプは、ユーザー定義の外部関数の結果として使用される場合は有効範囲を定義する必要があります。
- 参照タイプは、ユーザー定義のソース関数の結果として使用される場合は有効範囲を定義できません。関数はソース関数の有効範囲を使用します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 外部関数を参照タイプと一緒に戻りタイプとして定義する場合は、SCOPE 文節が指定されていることを確認してください。参照を戻りタイプとして、SOURCED 関数を定義する場合には、SCOPE 文節が指定されていないことを確認してください。

sqlcode: -20025

sqlstate: 428DN

SQL20026N タイプ *type-name* は構造化タイプではないか、またはインスタンス化が可能な構造化タイプではありません。

説明: ステートメントには、インスタンス化することができる構造化タイプが必要です。タイプ *type-name* は以下のいずれかです。

- 構造化タイプではない
- インスタンス化できないよう定義されている構造化タイプである

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しいタイプ名がステートメントに使用されていることを確認してください。

sqlcode: -20026

sqlstate: 428DP

SQL20027N 副表あるいはサブビュー *sub-object-name* は、タイプ *type-name* を指定した副表あるいはサブビュー *object-name* がすでに存在するために作成されませんでした。

説明: 型付き表階層あるいはビュー階層内では、1つの副表あるいはサブビューのみが、特定のサブタイプに存在します。すでに定義されているタイプ *type-name* の表またはビューがあるので、表またはビュー *sub-table-name* を作成できませんでした。すでに存在している表またはビューは *object-name* です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 副表が正しいスーパー表の下で作成されていること、またはサブビューが正しいスーパービューの下で作成されていることを確認してください。

sqlcode: -20027

sqlstate: 42742

SQL20028N 表またはビュー *table-name* は、同じ階層にある他の表またはビューと異なるスキーマ名を持つことはできません。

説明: 型付き表階層にある表すべてが、同じスキーマ名を持つ必要があり、型付きビュー階層にあるビューすべてが同じスキーマ名を持つ必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 表またはビューのスキーマ名が正しいことを確認してください。階層名が指定されている場合は、そのスキーマ名がルート表またはルート・ビューと一致していることを確認してください。副表を作成する場合は、正しいスーパー表の下で作成されることを確認してください。サブビューを作成する場合は、正しいスーパービューの下で作成されることを確認してください。

sqlcode: -20028

sqlstate: 428DQ

SQL20029N *operation* は副表に適用されません。

説明: 操作 *operation* が、表階層のルートでない表に適用されました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 操作で、表階層のルート表を指定してください。

sqlcode: -20029

sqlstate: 428DR

SQL20030N 型付き表、型付きビュー、または索引拡張子 *object-name* がタイプに從属している場合、構造化タイプ *type-name* を追加またはドロップすることはできません。

説明: 構造化タイプの型付き表または型付きビュー、あるいはそのサブタイプが存在する場合、構造化タイプの属性を追加またはドロップすることはできません。また直接的に、あるいは間接的に *type-name* を使用している表に列が存在する場合も、構造化タイプの属性を追加またはドロップできません。さらにタイプ *type-name*、またはそのサブタイプのいずれかが索引拡張子で使用され

ている場合も、構造化タイプの属性を追加またはドロップできません。表、ビュー、または索引拡張子 *object-name* が、構造化タイプ *type-name* に従属する表、ビュー、あるいは索引拡張子になっています。タイプ、またはその適切なサブタイプに従属する、その他の表、ビュー、または索引拡張子が存在する可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しいタイプが変更されることを確認し、構造化タイプ *type-name* に従属する表、ビュー、および索引拡張子をドロップしてください。

sqlcode: -20030

sqlstate: 55043

SQL20031N *Object* が副表で定義されていない可能性があります。

説明: 主キーおよびユニーク制約は型付き表階層のルート表にのみ定義できます。同様に、ユニーク索引は型付き表階層のルート表にのみ定義できます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ユニーク索引、主キーまたはユニーク制約は、表階層のルート表にのみ定義してください。

sqlcode: -20031

sqlstate: 429B3

SQL20032N 指定された列の索引は、副表 *table-name* で定義されません。

説明: 索引に指定された列はすべて、副表 *table-name* ではなく型付き表階層の高いレベルで導入されました。よって、索引をこの副表に作成することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: まずすべての列が入っている表階層の表を判別してください。その名前を、索引を作成するときに表名として使用してください。

sqlcode: -20032

sqlstate: 428DS

SQL20033N *partial-expression* を組み込んでいる式に有効範囲参照が含まれていません。

説明: *partial-expression* の入った式が、有効範囲を定義した参照タイプのオペランドを要求しています。式が Deref 関数を含む場合、関数の引き数は有効範囲を定義した参照タイプである必要があります。

間接参照演算子 (->) の場合、左のオペランドは有効範囲を定義した参照タイプである必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQL ステートメント構文を修正して、オペランドまたは引き数が有効範囲を定義した参照タイプとなるようにしてください。

sqlcode: -20033

sqlstate: 428DT

SQL20034N データ・タイプ *list-type-name* は、TYPE 述部の左側のオペランドのデータ・タイプ *left-type-name* が含まれる構造化データ・タイプ階層に含まれていません。

説明: TYPE 述部にリストされているすべてのデータ・タイプが、TYPE 述部の左オペランドのデータ・タイプの入ったタイプ階層に含まれる必要があります。データ・タイプ *left-type-name* が構造化データ・タイプではない (タイプ階層の一部でない) か、またはデータ・タイプ *list-type-name* が *left-type-name* が含まれるデータ・タイプ階層に入っていない。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 式のデータ・タイプと TYPE 述部にあるリストされたデータ・タイプのすべてが同じデータ・タイプ階層内の構造化データ・タイプであるか、確認してください。 *left-type-name* が SYSIBM.REFERENCE の場合、DEREF を使用して、式の結果データ・タイプを構造化データ・タイプにしてください。

sqlcode: -20034

sqlstate: 428DU

SQL20035N 間接参照演算子の左側オペランドが無効です。パスの式は *expression-string* で開始します。

説明: パス式の間接参照演算子の左オペランドが無効です。考えられる原因は以下のとおりです。

- 左オペランドに、引き数としての列関数を使用している列関数が入っています。
- 左オペランドの式に、列関数と GROUP BY 文節にない列の参照が入っています。

ユーザーの処置: *expression-string* で開始するパス式の間接参照演算子の左オペランドを修正してください。

sqlcode: -20035

sqlstate: 428DV

SQL20036N オブジェクト ID の列 *column-name* は、間接参照演算子を使用して参照されません。

説明: 間接参照演算子が右オペランドとして *column-name* と一緒に使用されています。この列は間接参照のターゲット表のオブジェクト ID の列で、この演算子には無効です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 間接参照操作で列の名前を修正してください。

sqlcode: -20036

sqlstate: 428DW

SQL20037N オブジェクト ID の列は型付き表またはビュー階層のルート表またはルート・ビュー *object-name* を作成するために必要です。

説明: 型付き表階層のルート表を作成するときに、オブジェクト ID (OID) 列が (REF IS 文節を使用して) CREATE TABLE ステートメントに定義される必要があります。

型付きビュー階層のルート・ビューを作成するときに、オブジェクト ID (OID) 列が (REF IS 文節を使用して) CREATE VIEW ステートメントに定義される必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 必要な OID 列 (REF IS 文節) を CREATE TABLE または CREATE VIEW ステートメントに追加してください。

sqlcode: -20037

sqlstate: 428DX

SQL20038N *keywords* 文節を EXTEND USING 文節とともに使用することはできません。

説明: CREATE INDEX ステートメントの EXTEND USING 文節を *keywords* 文節とともに指定することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: *keywords* 文節の指定を除去するか、あるいは EXTEND USING 文節を CREATE INDEX ステートメントから除去してください。

sqlcode: -20038

sqlstate: 42613

SQL20039N 索引 *index-name* の定義が索引拡張子 *index-ext-name* の定義に一致しません。

説明: 索引定義と索引拡張子定義が一致しません。この定義が合っていないかを次にリストします。

- EXTEND USING 文節の索引拡張子名に続く引き数の数が、索引拡張子のインスタンス・パラメーターの数と一致していません。
- EXTEND USING 文節の索引拡張子名に続く引き数のデータ・タイプが、対応する索引拡張子のインスタンス・パラメーターのデータ・タイプと (長さ、精度および位取りを含めて) 正確に一致していません。
- 索引に指定されている列の数が、索引拡張子のソース・キー・パラメーターの数と一致していません。
- 索引列のデータ・タイプが、対応する索引拡張子のソース・キー・パラメーターのデータ・タイプと (長さ、精度および位取りを含めて) 正確に一致していません。サブタイプの文字のデータ・タイプの正確な一致の例外です。索引の列が、ソース・キー・パラメーターに対応するように指定されたデータ・タイプのサブタイプである可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 索引拡張子が一致するように索引定義を修正してください。

sqlcode: -20039

sqlstate: 428E0

SQL20040N 範囲生成関数 *range-function-name* の結果の数あるいはタイプが索引拡張子 *index-ext-name* のキー・トランスフォーメーション関数 *transform-function-name* の数あるいはタイプと一致しません。

説明: 範囲生成関数には以下の条件があります。

- キー・トランスフォーメーション関数として返される列の 2 倍までの列を戻す
- 偶数の列を持つ (戻り列の最初の半分は開始キーで、戻り列の残りの半分は停止キー)
- 各開始キー列が停止キー列に対応する同じタイプを持つ
- 各開始キー列のタイプが対応するトランスフォーメーション関数列と同じである

つまり、 $a_1:t_1, \dots, a_n:t_n$ を関数結果列とキー変換関数のデータ・タイプにしてください。範囲生成関数の関数結果列は、 $b_1:t_1, \dots, b_m:t_m, c_1:t_1, \dots, c_m:t_m$ でなければなりません。ここで $m \leq n$ および "b" 列は開始キー列、"c" 列は停止キー列です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: キー・トランスフォーメーション表関数と一緒に範囲生成表関数を指定してください。

sqlcode: -20040

sqlstate: 428E1

SQL20041N ターゲット・キー・パラメーターの数あるいはタイプが索引拡張子 *index-ext-name* のキー・トランスフォーム関数 *function-name* の数あるいはタイプと一致しません。

説明: ターゲット・キー・パラメーターの数は、キー・トランスフォーム関数から戻された結果の数と一致する必要があります。さらに、ターゲット・キー・パラメーターのタイプは、対応する関数結果タイプと完全に一致する必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ターゲット・キー・パラメーターに、正しい数とタイプのパラメーターを指定してください。

sqlcode: -20041

sqlstate: 428E2

SQL20042N 最大許可 *parm-type* パラメーターが索引拡張子 *index-ext-name* 内で超過しています。最大数は *max-value* です。

説明: 指定されたパラメーターが多すぎます。*parm-type* が索引拡張子の場合、*max-value* までのインスタンス・パラメーターを指定できます。*parm-type* が索引キーの場合、*max-value* までのキー・ソース・パラメーターを指定できます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: パラメーターの最大数より少ない数を指定してください。

sqlcode: -20042

sqlstate: 54046

SQL20043N ルーチン *routine-name* の引き数が無効です。理由コード = *reason-code*

説明: ルーチン *routine-name* はトランスフォーメーション関数、範囲指定関数、または FILTER USING 文節で参照されているルーチン (関数または方式) です。*reason-code* は、引き数が無効である理由を示しています。

1 キー・トランスフォーメーション関数の場合、

引き数は *observer* 方式または索引拡張子インスタンス・パラメーターではありません。

2 引き数として使用されている式が、LANGUAGE SQL を指定するルーチンを使用しています。

3 引き数として使用されている式が副照会です。

4 引き数として使用されている式のデータ・タイプを構造化タイプにすることはできません。

5 キー・トランスフォーメーション関数の引き数を構造化データ・タイプ、LOB、DATALINK、LONG VARCHAR、または LONG VARGRAPHIC のデータ・タイプにすることはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 関数に有効な引き数を指定してください。

sqlcode: -20043

sqlstate: 428E3

SQL20044N ルーチン *routine-name* または CASE 式は、CREATE INDEX EXTENSION または CREATE FUNCTION ステートメントでは無効です。理由コード = *reason-code*

説明: CREATE INDEX EXTENSION または CREATE FUNCTION ステートメントで使用されている場合、ルーチン (関数または方式) *routine-name* は無効です。*routine-name* が空である場合、フィルタのために使用されている CASE 式が無効です。理由コードは次の理由を示しています。

1 キー・トランスフォーメーション関数は表関数ではありません。

2 キー・トランスフォーメーション関数は外部関数ではありません。

3 キー・トランスフォーメーション関数は可変関数です。

4 キー・トランスフォーメーション関数は外部アクション関数です。

5 範囲生成関数は表関数ではありません。

6 範囲生成関数は外部関数ではありません。

7 範囲生成関数は可変関数です。

8 範囲生成関数は外部処理関数です。

9 索引フィルタ関数は外部関数ではありません。

10 索引フィルタ関数は可変関数です。

- 11 索引フィルターは外部処理関数です。
- 12 フィルター関数または CASE 式の結果タイプが整数データ・タイプではありません。
- 13 副照会が CASE 式で、またはフィルター関数の引き数として使用されています。
- 14 キー・トランスフォーメーション関数には、データベースと同じコード化スキームがありません。
- 15 範囲生成関数には、データベースと同じコード化スキームがありません。
- 16 索引フィルター関数には、データベースと同じコード化スキームがありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: *routine-name* が空でない場合、CREATE INDEX EXTENSION または CREATE FUNCTION ステートメントの特定の文節に指定されている関数または方式の規則に従うルーチンを指定してください。空である場合、FILTER USING 文節の CASE 式の規則に従う CASE 式を指定してください。

sqlcode: -20044

sqlstate: 428E4

SQL20045N インスタンス・パラメーター
parameter-name のデータ・タイプは索引拡張子 *index-ext-name* で無効です。

説明: インスタンス・パラメーターは次のデータ・タイプのいずれかです。VARCHAR、VARGRAPHIC、INTEGER、DECIMAL、または DOUBLE

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: インスタンス・パラメーター *parameter-name* に有効なデータ・タイプを指定してください。

sqlcode: -20045

sqlstate: 429B5

SQL20046N *predicate-string* に続く **SELECTIVITY** 文節は、有効なユーザー定義述部にのみ指定できます。

説明: SELECTIVITY 文節が、有効なユーザー定義関数を含んでいない述部とともに指定されています。有効なユーザー定義関数は、述部に一致する WHEN 文節とともに PREDICATES 文節を含んでいます。ユーザー定義述部の場合を除き、SELECTIVITY 文節を指定することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 述部に続く SELECTIVITY 文節を除去してください。

sqlcode: -20046

sqlstate: 428E5

SQL20047N 探索方式 *method-name* は索引拡張子 *index-ext-name* で見つかりません。

説明: ユーザー定義の述部の指数規則に参照されている方式 *method-name* は、索引拡張子 *index-ext-name* で指定されている検索方式の 1 つに一致する必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 索引拡張子で定義されている方式を指定してください。

sqlcode: -20047

sqlstate: 42743

SQL20048N 方式 *method-name* の検索引き数が索引拡張子 *index-ext-name* で対応する検索方式の検索引き数と一致しません。

説明: 方式 *method-name* に提供された検索引き数が索引拡張子 *index-ext-name* で対応する検索方式の引き数と一致しません。引き数の数または引き数のタイプが定義されているパラメーターの数またはタイプと一致しません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 索引拡張子に定義されたパラメーターに一致する検索引き数を指定してください。

sqlcode: -20048

sqlstate: 428E6

SQL20049N AS PREDICATE WHEN 文節にある比較演算子に続くオペランドのタイプは **RETURNS** タイプと一致しません。

説明: ユーザー定義の述部の定義が有効ではありません。AS PREDICATE WHEN 文節で、比較演算子に続くオペランドのタイプが関数の RETURNS タイプと一致しません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しいデータ・タイプのオペランドを指定してください。

sqlcode: -20049

sqlstate: 428E7

SQL20050N 検索ターゲットまたは検索引き数 *parameter-name* が、作成されている関数にある名前一致していません。

説明: 索引指数規則の検索ターゲットはそれぞれ、作成されている関数のパラメーター名に一致していなければなりません。また索引指数規則の検索引き数はそれぞれ、EXPRESSION AS 文節内の式名、または作成されている関数のパラメーター名に一致していなければなりません。関数のパラメーター・リストにパラメーター名が指定されていなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 検索ターゲットまたは検索引き数に、有効な関数の名前だけを指定してください。

sqlcode: -20050

sqlstate: 428E8

SQL20051N 引き数 *parameter-name* は同一の指数規則中で検索ターゲットおよび検索引き数の両方として出現しません。

説明: 指数文節で、関数パラメーターを、KEY に続く引き数、および USE キーワードに続いて指定される方式の引き数として指定することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: パラメーター名は、検索ターゲットまたは検索引き数の 1 つで指定してください。

sqlcode: -20051

sqlstate: 428E9

SQL20052N 列 *column-name* は更新されないオブジェクト ID の列ではありません。

説明: UPDATE ステートメントにはオブジェクト ID (OID) 列である列の設定が入っています。OID 列は更新できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: *column-name* の SET を UPDATE ステートメントから除去してください。

sqlcode: -20052

sqlstate: 428DZ

SQL20053N 型付きビューでの全選択 *view-name* は無効です。理由コード = *reason-code*

説明: 型付きビュー *view-name* の定義で指定された全選択は、規則に従っていません。理由コードとして、以下のものが推定されます。

- 1 サブビュー定義に共通の表の式が入っているか、サブビュー定義のブランチが単一の表、ビュー、ニックネーム、または別名に及んでいません。
- 2 表階層のブランチの行設定を、型付きビュー階層の残りにある同じ表階層のすべてのブランチの行設定と区別できるようにするため、データベース・マネージャーによって証明できません。
- 3 ルート・ビューの階層のブランチの最初の式が、以下の状態になっています。
 - FROM 文節で参照される型付き表または型付きビューのオブジェクト ID 列ではありません。REF IS 文節の UNCHECKED オプションが OR になっていません。
 - FROM 文節の表が入力されていない場合、列が NULL 可能ではないか、またはその列のみで定義されたユニーク索引を持っていません。REF IS 文節の UNCHECKED オプションが OR になっていません。
 - サブビュー内の同じ階層のブランチの式と同一ではありません。
- 4 サブビューのブランチの範囲が及ぶ表またはビューが、スーパービューのブランチで参照されている表またはビューの副表またはサブビューではありません。サブビューが EXTEND AS を使用しているか、ルート・ビューでは REF IS 文節の UNCHECKED オプションがオンになっていません。
- 5 全選択には、NODENUMBER あるいは PARTITION 関数、非 deterministic 関数、あるいは外部アクションを行うように定義された関数への参照が含まれます。
- 6 スーパービューのブランチの範囲が、OUTER を使用せずに同じ階層の表またはビューに及んでいる場合、そのサブビューのブランチは OUTER 表またはビューに及びません。
- 7 サブビューの範囲が、それ自身のビュー階層のビューに及んでいます。
- 8 サブビューが、その定義の中の UNION ALL 以外の設定操作を使用しているか、ルート・ビューの REF IS 文節の UNCHECKED オプションを指定せずに UNION ALL が定義の中で使用されています。
- 9 同じ表階層またはビュー階層に範囲が及ぶ UNION ALL の 2 つのブランチがサブビューに入っています。

- 10 サブビュー定義に GROUP BY または HAVING 文節が入っています。

ユーザーの処置: *reason-code* に基づいて、ビュー定義の全選択を変更してください。

- 1 FROM 文節の表あるいは表示を使用します。ルート表の REF IS 文節の UNCHECKED オプションを使用して範囲に含むことができる型付きビューに複合選択をカプセル化してください。
- 2 ビュー階層ですでに使用されているものとは異なる FROM 文節で、異なる表またはビューを指定するか、それぞれのブランチの行の設定を、型付きビュー階層にある別のブランチの行の設定と区別して比較できるように明確に定義する述部を使用します。
- 3 ルート・ビューの最初の列が、型付きビューに対する有効なオブジェクト ID の列である規則に従っているかどうか、確認してください。REF IS 文節で UNCHECKED オプションを使用することを検討してください。
- 4 スーパービューのブランチの FROM 文節で指定された表またはビューの副表あるいはサブビューを指定してください。または、サブビュー定義の AS (EXTEND なし) 文節との組み合わせでルート・ビュー定義の UNCHECKED オプションを使用してください。
- 5 全選択から関数への参照を除去してください。
- 6 これが、この階層のブランチの OUTER を使用するための最初のサブビューである場合、OUTER が使用されないように FROM 文節を変更してください。スーパービューが OUTER を使用する場合、サブビューの FROM 文節に OUTER を組み込んでください。
- 7 サブビューを、同じ階層の他のビューのソースにしないでください。
- 8 UNION ALL が使用された場合、ルート・ビューの REF IS 文節で UNCHECKED オプションを使用して、サブビュー定義の複数のブランチを許可します。他の設定操作の場合、設定操作をビューにカプセル化し、サブビューの UNCHECKED オプションを使用して、共通のビューでのソース化を可能にします。
- 9 ブランチを統一して、共通のスーパー表またはスーパービューを選択し、述部 (たとえば、*type* 述部) を使用して、目的の行のためにフィルターをかけます。
- 10 GROUP BY および HAVING 文節をビューにカプセル化し、ルート・ビューの

UNCHECKED オプションを使用して、共通のビューでのソース化を可能にします。

sqlcode: -20053

sqlstate: 428EA

SQL20054N 表 *table-name* が無効な状態にあるため、操作できません。理由コード = *reason-code*

説明: 表は、操作を許可しない状態になっています。理由コードは、この操作ができない表の状態を示します。

- 21 表がデータ・リンク調整ペンディング (DRP) 状態あるいはデータ・リンク調整不能 (DRNP) 状態になっている。

- 22 関数は、生成された列で使用されません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 理由コードを基に、以下のようにアクションを実行します。

- 21 データ・リンク調整ペンディング (DRP) およびデータ・リンク調整不能 (DRNP) 状態で該当するアクションを取るための情報については、「管理ガイド」を参照してください。

- 22 表を変更する前に SET INTEGRITY FOR <table-name> OFF を使用してください。次に表を変更し、SET INTEGRITY FOR <table-name> IMMEDIATE CHECKED FORCE GENERATED を使用して、新規または変更された列の値を生成してください。

sqlcode: -20054

sqlstate: 55019

SQL20055N 選択リストの結果列データ・タイプは、列 *column-name* の定義済みのデータ・タイプと互換性がありません。

説明: *column-name* に対応する選択リスト式のデータ・タイプは、構造化タイプの属性に対するデータ・タイプと互換性がありません。両方が、以下のデータ・タイプでなければなりません。

- 数値
- 文字
- GRAPHIC
- 日付または文字
- 時刻または文字

- タイム・スタンプまたは文字
- データ・リンク
- 同一の特殊タイプ
- 選択リスト式のターゲット・タイプが、属性のターゲット・タイプのサブタイプである参照タイプ

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 表の現在の定義と、関連する構造化タイプを調べてください。指定された列の選択リスト式のデータ・タイプが互換タイプかどうか、確認してください。

sqlcode: -20055

sqlstate: 42854

SQL20056N DB2 Data Links Manager *name* の処理で、エラーが見つかりました。理由コード = *reason-code*

説明: ステートメントを DB2 Data Links Manager が処理しているときに、以下の理由コードに示されているようなエラーが見つかりました。

- 01** DB2 Data Links Manager のデータと表の DATALINK 値の間で不整合が検出されました。
- 02** DB2 Data Links Manager が処理中にリソースの限界に達しました。
- 03** DB2 Data Links Manager では、128 文字以上のファイル・パス名はサポートされていません。
- 99** DB2 Data Links Manager が内部処理エラーを見つけました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 理由コードを基に、以下のようにアクションを実行します。

- 01** 表で調整ユーティリティーを実行してください。
- 02** DB2 Data Links Manager 管理者が診断ログからのリソースを識別し、訂正アクションを行わなければなりません。
- 03** DATALINK 列に保管するファイルのパス名 (ファイル・システム・プレフィックスを除く) が 128 文字を超えないようにしてください。たとえば、URL が "http://server.com/dlfiles/dir1/.../file1" の場合 (DLFS ファイル・システム・プレフィックスを

"/dlfiles" とすると)、"/dir1/.../file1" のファイル・パス名が 128 文字以上にならないようにしてください。

- 99** DB2 Data Links Manager およびデータベース・マネージャーからの診断ログを保管し、IBM サービスに連絡してください。

sqlcode: -20056

sqlstate: 58004

SQL20057N サブビュー *view-name* の列 *column-name* は、対応する列がスーパービューで更新可能な場合、読み取り専用として定義できません。

説明: サブビュー *view-name* の列 *column-name* で示される列は、読み取り専用として (暗黙的に) 定義されています。 *view-name* のスーパービューには、更新可能な対応列が含まれます。列は、更新可能から、型付きビュー階層での読み取り専用へと変更されません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: CREATE VIEW ステートメントを変更して、サブビュー *view-name* の列を更新可能にするか、あるいはスーパービューをドロップしてから READ ONLY 文節を使用して再作成し、列を強制的に読み取り専用にするかします。

sqlcode: -20057

sqlstate: 428EB

SQL20058N マテリアライズ照会表 *table-name* に指定された全選択が無効です。

説明: マテリアライズ照会表定義には、全選択の内容に関して特定の規則があります。 マテリアライズ照会表のオプション (REFRESH DEFERRED または REFRESH IMMEDIATE) を基にした規則と、表が複製されているかどうかを基にした規則があります。 この条件を返す CREATE TABLE ステートメントにある全選択は、「SQL リファレンス」で記述されている規則のいずれかに違反しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: マテリアライズ照会表のオプションを基にした規則と、マテリアライズ照会表が複製されているかどうかを基にした規則に準拠するように、CREATE TABLE ステートメントの全選択を変更します。

sqlcode: -20058

sqlstate: 428EC

SQL20059W マテリアライズ照会表 *table-name* は、照会の処理を最適化するために使用できません。

説明: マテリアライズ照会表は REFRESH DEFERRED で定義されており、全選択は現在、照会の処理を最適化するためにデータベース・マネージャーによってサポートされていません。この規則はマテリアライズ照会表オプション (REFRESH DEFERRED または REFRESH IMMEDIATE) を基にしています。この条件を返す CREATE TABLE ステートメントにある全選択は、「SQL リファレンス」で記述されている規則のいずれかに違反しています。

マテリアライズ照会表は、正常に作成されました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。マテリアライズ照会表が、照会処理の最適化するためのサマリー表として使用するよう意図されていた場合は、GROUP BY 文節を含む副選択になるように全選択を再定義してください。

sqlcode: +20059

sqlstate: 01633

SQL20060N *tblspace-id* にある表 *table-id* の索引 *index-id* の索引拡張子によって使用されているキー・トランスフォーム表関数が、重複する行を生成しました。

説明: 索引 *index-id* によって使用されている索引拡張子の GENERATE USING 文節で指定されたキー・トランスフォーム表関数が、重複する行を生成しました。キー・トランスフォーム表関数の呼び出しの場合、重複する行は作成されません。このエラーは、表スペース *tblspace-id* にある表 *table-id* の索引 *index-id* のキー値を挿入または更新しているときに起こります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 重複する行が作成されないよう、索引 *index-id* の索引拡張子によって使用されているキー・トランスフォーム表関数のコードを変更しなければなりません。

索引名を判別するには、以下の照会を使用してください。

```
SELECT IID, INDSHEMA, INDNAME
FROM SYSCAT.INDEXES AS I,
     SYSCAT.TABLES AS T
WHERE IID = <index-id>
      AND TABLEID = <table-id>
      AND TBSpaceID = <tblspace-id>
      AND T.TBASchema = I.TBASchema
      AND T.TABNAME = I.TABNAME
```

sqlcode: -20060

sqlstate: 22526

SQL20062N タイプ *type-name* のトランスフォーム・グループ *group-name* にあるトランスフォーム関数 *type-name* は、関数または方式として使用できません。

説明: タイプ *type-name* のトランスフォーム・グループ *group-name* に定義されている関数は SQL で作成 (LANGUAGE SQL で定義) されていないため、関数または方式として使用することができません。この関数または方式にトランスフォーム・グループを使用することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: LANGUAGE SQL で定義されたトランスフォーム関数を持つ、タイプ *type-name* のトランスフォーム・グループを指定してください。

sqlcode: -20062

sqlstate: 428EL

SQL20063N TRANSFORM GROUP 文節をタイプ *type-name* に指定しなければなりません。

説明: 関数または方式に、トランスフォーム・グループが指定されていないパラメーターまたは戻りデータ・タイプ *type-name* が入っています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: *type-name* に定義されているトランスフォーム・グループ名で TRANSFORM GROUP 文節を指定してください。

sqlcode: -20063

sqlstate: 428EM

SQL20064N トランスフォーム・グループ *group-name* は、パラメーターまたは戻りデータ・タイプとして指定されたデータ・タイプをサポートしていません。

説明: TRANSFORM GROUP 文節に指定されているトランスフォーム・グループ *group-name* は、パラメーター・リスト、あるいは関数または方式の RETURNS 文節に組み込まれているデータ・タイプに定義されていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 関数または方式定義からトランスフォーム・グループを除去してください。

sqlcode: -20064

sqlstate: 428EN

SQL20065N データ・タイプ *type-name* のトランスフォーム・グループ *type-name* は、クライアント・アプリケーション用の構造化タイプをトランスフォームするために使用できません。

説明: データ・タイプ *type-name* のトランスフォーム・グループ *group-name* は、クライアント・アプリケーションでのトランスフォーム実行時に使用できないトランスフォーム関数を定義しています。考えられる原因は、クライアント・アプリケーション用にサポートされていないトランスフォーム関数の定義に基づいています。サポートされていないトランスフォーム関数として、以下が考えられます。

- ROW 関数である FROM SQL 関数
- 複数のパラメータを持つ TO SQL 関数

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 静的組み込み SQL の場合、TRANSFORM GROUP BIND オプションを使用して異なるトランスフォーム・グループを指定してください。動的 SQL の場合、SET DEFAULT TRANSFORM GROUP ステートメントを使用して異なるトランスフォーム・グループを指定してください。

sqlcode: -20065

SQL20066N *transform-type* トランスフォーム関数は、データ・タイプ *type-name* のトランスフォーム・グループ *group-name* に定義されていません。

説明: 関数または方式定義で使用されているトランスフォーム・グループには、データ・タイプ *type-name* のトランスフォーム・グループ *group-name* の *transform-type* トランスフォーム関数が必要です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 関数または方式を作成している場合、その関数または方式定義に異なるトランスフォーム・グループを指定してください。動的 SQL ステートメントで構造化タイプを参照している場合、CURRENT DEFAULT TRANSFORM GROUP 特殊レジスターに異なるトランスフォーム・グループを指定してください。あるいは、*transform-type* トランスフォーム関数をデータ・タイプ *type-name* のトランスフォーム・グループ *group-name* に追加してください。

sqlcode: -20066

sqlstate: 42744

SQL20067N 複数の *transform-type* トランスフォーム関数が、データ・タイプ *type-name* のトランスフォーム・グループ *group-name* に定義されています。

説明: TO SQL または FROM SQL トランスフォーム関数は、トランスフォーム・グループに 1 つだけ指定できます。データ・タイプ *type-name* のトランスフォーム・グループ *group-name* には、少なくとも 2 つの FROM SQL または TO SQL トランスフォーム関数 (あるいは両方) が定義されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: それぞれ 1 つずつになるよう、TO SQL または FROM SQL 定義をトランスフォーム定義の *group-name* から削除してください。

sqlcode: -20067

sqlstate: 42628

SQL20068N その属性タイプが直接または間接的にそれ自身を使用するよう、構造化タイプ *type-name* を定義することはできません。属性 *attribute-name* によって、直接または間接使用が生じています。

説明: 直接使用: 以下のいずれかが真であれば、タイプ A はタイプ B を直接的に使用します。

- タイプ A はタイプ B の属性を持っている
- タイプ B は A のサブタイプ、または A のスーパータイプである

間接使用: 以下のいずれかが真であれば、タイプ A はタイプ B を間接的に使用します。

- タイプ A がタイプ C を使用し、タイプ C がタイプ B を使用している

その属性タイプのいずれかが直接または間接的にそれ自身を使用するよう、タイプを定義することはできません。直接または間接使用の原因は、属性 *attribute-name* のタイプです。

ユーザーの処置: タイプを調べて、直接または間接使用の原因である属性タイプを除去してください。

sqlcode: -20068

sqlstate: 428EP

SQL20069N *routine-type routine-name* の RETURNS タイプが、サブジェクト・タイプと同じではありません。

説明: 方式 *method-name* が SELF AS RESULT を指定しています。この方式の RETURNS データ・タイプ

は、サブジェクト・データ・タイプに一致していなければなりません。

ユーザーの処置: サブジェクト・タイプに一致するよう、方式 *method-name* の RETURNS タイプを変更してください。

sqlcode: -20069

sqlstate: 428EQ

SQL20075N *column-name* の長さが 255 バイトを超えているため、索引または索引拡張子 *index-name* を作成または変更することはできません。

説明: キー列の長さが 255 を超えているため、索引を作成または変更できませんでした。

- *index-name* は索引名です。
- *column-name* はキー列の名前です。このエラーが ALTER TABLE 操作または ALTER NICKNAME 操作から返された場合、*column-name* の値は列番号です。

GENERATE KEY 関数によって返された列が 255 バイトを超えているため、索引拡張子を作成できませんでした。

- *index-name* は索引拡張子名です。
- *column-name* は、GENERATE KEY 関数によって返された列名です。

ステートメントを処理できませんでした。示されている索引または索引拡張子が作成されなかったか、または表またはニックネームを変更できませんでした。

ユーザーの処置: 索引を作成する場合、索引定義から列を除去してください。表を変更する場合は、新しい列の長さを許可されている最大長まで短くしてください。索引拡張子を作成する場合、異なる GENERATE KEY 関数を指定するか、または列を除去するよう関数を再定義してください。

sqlcode: -20075

sqlstate: 54008

SQL20076N データベースのインスタンスは、指定されたアクションまたは操作のために使用可能ではありません。理由コード = *reason-code*

説明: エラーがインスタンス・レベルで検出されました。指定された機能エリアがインストールされなかったか、指定された機能エリアがそのインスタンスに使用されなかったため、要求された操作を完了できません。

理由コードのリストおよびインスタンス・レベルで使用可能にできる関連する機能エリアは、以下のとおりです。

1. 単一ステートメント内の複数のデータ・ソースに対する分散要求操作を実行する機能。

ユーザーの処置: 要求されたアクションまたは操作のインスタンスを使用可能にします。まず、指定された機能エリアがない場合、それをインストールします。次に、指定された機能エリアを使用可能にします。使用可能にするための手順は、*reason-code* によって異なります。

1. フェデレーテッド・サーバーの場合は、DBM 変数 <FEDERATED> を YES に設定して、データベース・マネージャーを再始動します。

sqlcode: -20076

sqlstate: 0A502

SQL20077N データ・リンク・タイプ属性を持つ構造化タイプ・オブジェクトは構成できません。

説明: データ・リンクまたは Reference タイプ属性、あるいはその両方を持つ構造化タイプのコンストラクターを呼び出そうとしました。この機能は現在サポートされていません。6.1 またはそれ以前のバージョンでは、Reference タイプ属性を持つ構造化タイプ・オブジェクトの場合にもこのエラーが起こることがあります。ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを行うことによってエラーを訂正することができます。

1. このタイプのコンストラクターの呼び出しをプログラムから除去します。
2. データ・リンク (あるいは Reference) タイプ属性を構造化タイプの定義から除去します。(そのタイプに従属している表があると、可能ではない場合もあります。)

sqlcode: -20077

sqlstate: 428ED

SQL20078N タイプ *object-type* の階層オブジェクト *object-name* を操作 *operation-type* で処理できません。

説明: 操作 *operation-type* はタイプ *object-type* の *object-name* という名前の階層オブジェクトを使用して試行されました。この操作は、階層オブジェクトの処理をサポートしません。

ステートメントを処理できませんでした。

ユーザーの処置: 正しいオブジェクト名が使用されたかどうか確認してください。オブジェクト・タイプ TABLE または VIEW の場合、オブジェクトは表またはビュー階層の副表の名前でなければなりません。場合によっては、オブジェクトで明確にルート表を指定しなければなりません。索引タイプのオブジェクトの場合、名前は副表で作成された名前にしてください。

sqlcode: -20078

sqlstate: 42858

SQL20080N 方式本体が存在しているため、*method-name* の方式指定をドロップできません。

説明: 方式本体をドロップしなければ、方式指定をドロップすることはできませんが、方式指定 *method-name* には方式本文が存在しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 同じ方式指定で DROP METHOD ステートメントを使用して方式本文をドロップした後、もう一度 ALTER TYPE ステートメントを出して方式指定をドロップしてください。

sqlcode: -20080

sqlstate: 428ER

SQL20081N LANGUAGE *language-type* 方式指定 *method-name* に方式本体を定義することはできません。

説明: 方式指定 *method-name* が、LANGUAGE *language-type* で定義されています。LANGUAGE が SQL であれば、方式本体は SQL 制御ステートメントでなければなりません。その他の言語の場合、EXTERNAL 文節を指定しなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 方式指定の LANGUAGE に一致するよう、方式本体を変更してください。

sqlcode: -20081

sqlstate: 428ES

SQL20082N 式の動的タイプ *expression-type-id* は、TREAT 指定のターゲット・データ・タイプ *target-type-id* のサブタイプではありません。

説明: TREAT 指定に指定されている式の結果の動的データ・タイプは *expression-type-id* です。示されているターゲット・データ・タイプ *target-type-id* は

expression-type-id の適正サブタイプですが、これは許可されていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: TREAT 指定の *target-type-id* を *expression-type-id* のスーパータイプに変更するか、あるいは結果の動的データ・タイプが *target-type-id* のサブタイプになるよう、式を変更してください。

expression-type-id および *target-type-id* のデータ・タイプ名を判別するには、以下の照会を使用してください。

```
SELECT TYPEID, TYPESCHEMA, TYPENAME
FROM SYSCAT.DATATYPES
WHERE TYPEID IN INTEGER(
    expression-type-id),
    INTEGER(
    target-type-id
)
```

sqlcode: -20082

sqlstate: 0D000

SQL20083N *routine-type routine-id* によって返された値のデータ・タイプが、RESULT として指定されているデータ・タイプに一致していません。

説明: 方式 *routine-id* が SELF AS RESULT を指定しているため、返される値のデータ・タイプは、方式を呼び出すために使用されているサブジェクト・データ・タイプと同じでなければなりません。SQL 方式本体にある、または外部方式のタイプの TO SQL トランスフォーム関数にある RETURN ステートメントによって、誤ったデータ・タイプが生じました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 方式またはトランスフォーム関数の RETURN ステートメントを変更して、戻りデータのデータ・タイプが常に、方式を呼び出すためのサブジェクト・タイプになることを確認してください。

routine-id に関連するルーチン名を判別するには、以下の照会を使用してください。

```
SELECT FUNCSCHEMA, FUNCNAME,
    SPECIFICNAME
FROM SYSCAT.FUNCTIONS
WHERE FUNCID = INTEGER(
    routine-id
)
```

sqlcode: -20083

sqlstate: 2200G

SQL20084N *routine-type routine-name* が、既存の方式とのオーバーライド・リレーションシップを定義しています。

説明: 以下の条件すべてが真であれば、サブジェクト・タイプ T の方式 MT は、サブジェクト・タイプ S の別の方式 MS をオーバーライドするよう定義されています。

- MT および MS が、同じ非修飾名と同じパラメーター数を持っている
- T が S の適正サブタイプである
- MT の非サブジェクト・パラメーター・タイプが、対応する MS の非サブジェクト・パラメーター・タイプと同じである (ここで「同じ」とは、長さや精度ではなく、VARCHAR のような基本タイプのことを指しています。)

関数と方式をオーバーライド・リレーションシップにすることはできません。つまり、関数が、最初のパラメーターがサブジェクト S の方式である場合、スーパータイプ S の別の方式をオーバーライドすることはできず、サブタイプ S の別の方式によってオーバーライドされることはありません。

さらに、次のものに対するオーバーライド・リレーションシップはサポートされていません。

- 表と行方式
- PARAMETER STYLE JAVA の外部方式
- システム生成の mutator と observer 方式

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 定義されているルーチンを変更して、*routine-name* とは異なるルーチン名を使用させるか、あるいはルーチンのパラメーターを変更してください。

sqlcode: -20084

sqlstate: 42745

SQL20085N **PARAMETER STYLE JAVA** で定義されたルーチンは、パラメーター・タイプまたは戻りタイプとして構造化タイプ *type-name* を持つことができません。

説明: ルーチンは PARAMETER STYLE JAVA で定義されていますが、パラメーター・タイプまたは戻りタイプが構造化タイプ *type-name* で定義されています。これは、この DB2 パージョンではサポートされていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ルーチンのパラメーター・スタイルを

変更するか、あるいは構造化タイプをルーチン定義から除去してください。

sqlcode: -20085

sqlstate: 429B8

SQL20086N 列の構造化タイプ値の長さがシステム制限を超えています。

説明: 構造化タイプ列の長さが、全体のサイズ (インスタンスの記述子データも含む) で 1 ギガバイトを超えています。この列は、直接挿入または更新されている列であるか、または生成されている列の場合もあります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 列に割り当てる構造化タイプ値のサイズを小さくしてください。

sqlcode: -20086

sqlstate: 54049

SQL20087N **DEFAULT** または **NULL** を属性割り当てに使用することはできません。

説明: 構造化タイプ列に属性の値を設定するため、UPDATE ステートメントが属性割り当てを使用しています。この割り当てステートメントの形式は、割り当ての右側にキーワード **DEFAULT** または **NULL** を使用することを許可していません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 属性割り当ての右側に式を指定するか、または属性割り当て構文を使用しないように割り当てを変更してください。

sqlcode: -20087

sqlstate: 428B9

SQL20089N 同じタイプ階層で、方式と構造化タイプを同じ名前にすることはできません。

説明: 指定された方式名は、構造化タイプのスーパータイプまたはサブタイプのいずれかに定義されている構造化タイプの名前と同じです。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 異なる名前を方式に指定してください。

sqlcode: -20089

sqlstate: 42746

SQL20090W タイプ **DATALINK** の属性 *attribute-name* を持つ構造化タイプの使用は、型付き表または型付きビューのタイプに制限されています。

説明: 属性 *attribute-name* は、タイプ **DATALINK** で、または **DATALINK** に基づく特殊タイプで定義されています。このような属性を含む構造化タイプは、表またはビューのタイプとしてのみ使用できます。表またはビューの列のタイプとして使用されている場合、**NULL** 値しか割り当てることができません。

ステートメントは処理を続行します。

ユーザーの処置: 構造化タイプ使用の意図を検討してください。このタイプが列データ・タイプとして使用される場合、属性 *attribute-name* を構造化タイプから除去するか、あるいはデータ・リンク以外のデータ・タイプを属性に使用してください。

sqlcode: +20090

sqlstate: 01641

SQL20093N 表 *table-name* をマテリアライズ照会表に変換できないか、マテリアライズ照会表をこの表に変換できません。理由コード = *reason-code*

説明: 表をマテリアライズ照会表から **DEFINITION ONLY** に変更したり、または通常表をマテリアライズ照会表に変換するために **ALTER TABLE** ステートメントが使用されています。以下の理由コードに示されているように、この **ALTER TABLE** ステートメントが失敗しました。

- 1 表は型付き表または階層表です。
- 2 この表はマテリアライズ照会表ではありませんが、**DEFINITION ONLY** が指定されました。
- 3 この表は複製されたマテリアライズ照会表ですが、**DEFINITION ONLY** が指定されました。
- 4 表に少なくとも 1 つのトリガーが定義されています。
- 5 表に少なくとも 1 つのチェック制約が定義されています。
- 6 表に少なくとも 1 つのユニーク制約またはユニーク索引が定義されています。
- 7 表に少なくとも 1 つの参照制約が定義されています。
- 8 この表は、既存のマテリアライズ照会表の定義で参照されています。

- 9 表は、全選択で直接または間接的に (たとえば表を経由して) 参照されています。
- 10 この表はすでにマテリアライズ照会表です。
- 11 既存の表の列数が、全選択の選択リストに定義されている列数に一致していません。
- 12 既存の表の列のデータ・タイプが、全選択の選択リストで対応する列に一致していません。
- 13 既存の表の列の列名が、全選択の選択リストで対応する列名に一致していません。
- 14 既存の表の列の **NULL** 可能特性が、全選択の選択リストの中の、対応する列の **NULL** 可能特性と一致していません。
- 15 同じ **ALTER TABLE** ステートメントに別の表変更がある場合、変換を行うことはできません。
- 16 この表は、照会最適化対応の既存のビューの定義で参照されています。

ユーザーの処置: 理由コードを基に、以下のようにアクションを実行します。

- 1 この表は、マテリアライズ照会表に変換できません。代わりに新しいマテリアライズ照会表を作成してください。
- 2 この表を変換する必要はありません。アクションは必要ありません。
- 3 複製された表は、マテリアライズ照会表にしかできません。代わりに、新しい表を作成してください。
- 4 トリガーをドロップして、もう一度 **ALTER TABLE** ステートメントを試みてください。
- 5 チェック制約をドロップして、もう一度 **ALTER TABLE** ステートメントを試みてください。
- 6 ユニーク制約およびユニーク索引をドロップして、もう一度 **ALTER TABLE** ステートメントを試みてください。
- 7 参照制約をドロップして、もう一度 **ALTER TABLE** ステートメントを試みてください。
- 8 この表を参照するマテリアライズ照会表をドロップして、**ALTER TABLE** ステートメントを再試行してください。
- 9 マテリアライズ照会表が、その表自身を照会することはできません。全選択を修正して、変更されている表への直接または間接的な参照を除去してください。

- 10 この表はすでにマテリアライズ照会表であるため、この操作は許可されていません。
- 11 全選択を変更して、正しい列数を選択リストに組み込んでください。
- 12 結果の列データ・タイプが対応する既存の列のデータ・タイプに一致するよう、全選択を変更してください。
- 13 結果の列名が対応する既存の列名に一致するよう、全選択を変更してください。
- 14 NULL 可能特性が一致しないかぎり、この表をマテリアライズ照会表に変換できません。代わりに新しいマテリアライズ表を作成してください。
- 15 SET MATERIALIZED QUERY AS 文節を含まない ALTER TABLE ステートメントで、他の表変更を実行してください。
- 16 この表を参照する照会最適化対応のビューを使用不可にしてから、ALTER TABLE ステートメントを再実行してください。

sqlcode: -20093

sqlstate: 428EW

SQL20094N 列 *column-name* は式によって生成されているため、**BEFORE** トリガー *trigger-name* で使用することはできません。

説明: 列 *column-name* の値は式によって生成されているため、BEFORE UPDATE トリガーの列名リストに指定、または BEFORE トリガーの新しい遷移変数として参照することはできません。

ユーザーの処置: トリガー *trigger-name* にある *column-name* への参照を除去してください。

sqlcode: -20094

sqlstate: 42989

SQL20100 - SQL20199

SQL20102N ルーチン *routine-name* の **CREATE** または **ALTER** ステートメントが、このルーチンに許可されていない *option-name* オプションを指定しました。

説明: ルーチン *routine-name* を作成または変更するときに、オプション *option-name* が指定されました。このルーチンの他の特性により、このオプションはこのルーチンには適用されません。

ユーザーの処置: ALTER ステートメントの場合、正しいルーチンが指定されていることを確認してください。または、失敗したオプションを除去して、ステートメントを再発行してください。

sqlcode: -20102

sqlstate: 42849

SQL20108N 結果セットには、ストアード・プロシージャ *procedure-name* によってオープンされたカーソル *cursor-name* の位置 *position-number* にサポートされていないデータ・タイプが含まれています。

説明: 列の少なくとも 1 つ、列 *position-number* に DRDA アプリケーション・リクエスト (クライアント) または DRDA アプリケーション・サーバー (サーバー) のいずれかにサポートされていないデータ・タイプが含まれているため、*procedure-name* で示されている

ストアード・プロシージャは、*cursor-name* で示されている照会結果の少なくとも 1 つを返すことができません。このようなストアード・プロシージャへの呼び出しは失敗します。

ユーザーの処置: サーバーのストアード・プロシージャ *procedure-name* のカーソル *cursor-name* のための OPEN ステートメント (およびその後の FETCH ステートメント) を変更して、列 *position-number* でサポートされていないデータ・タイプを選択しないようにしてください。ストアード・プロシージャを呼び出したクライアント・アプリケーションは、ストアード・プロシージャの変更を反映するように変更しなければならない場合があります。

sqlcode: -20108

sqlstate: 56084

SQL20109W DB2 デバッガー・サポートでエラーが起きました。理由コード: *reason-code*

説明: デバッガー・サポートで、デバッグを使用不可にするエラー状況になりましたが、通常の実行には影響ありません。以下が理由コードのリストです。

1. デバッガー・サポートがインストールされていません。
2. デバッガー表のデバッガー・クライアントの IP アドレスに構文エラーがあります。

3. デバッガー・バックエンドとデバッガー・クライアントとの通信でタイムアウトが起きました。
4. デバッガー表 DB2DBG.ROUTINE_DEBUG にアクセスしているときに、問題が起きました。

ユーザーの処置:

1. DB2 サーバー・マシンのデバッガー・オプションがインストールされているかどうか確認してください。
2. デバッガー表の IP アドレスが正しい構文になっていることを確認してください。
3. クライアントのデバッガー・デーモンが開始され、クライアントとサーバーのポートが一致していることをチェックしてください。
4. デバッガー表を正しいレイアウトで作成したことを確認してください。

sqlcode: +20109

sqlstate: 01637

SQL20111N このコンテキストでは **SAVEPOINT**、**RELEASE SAVEPOINT**、または **ROLLBACK TO SAVEPOINT** ステートメントを発行できません。理由コード = *reason-code*

説明: 次の理由コードによって示されているような制限に違反しているため、このステートメントを処理できません。

1. 保管点をトリガー内で出すことはできません。
2. 保管点をグローバル・トランザクション内で出すことはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: トリガーまたはグローバル・トランザクションにある **SAVEPOINT**、**RELEASE SAVEPOINT**、または **ROLLBACK TO SAVEPOINT** ステートメントを除去してください。

sqlcode: -20111

sqlstate: 3B503

SQL20112N **SAVEPOINT** がすでに存在し、ネストされた **SAVEPOINTS** はサポートされていないため、**SAVEPOINT** を設定することができません。

説明: **SAVEPOINT** または **ATOMIC** コンパウンド SQL ステートメントでエラーが起きました。保管点がすでに存在し、この環境ではネストされた保管点はサポートされていません。

ユーザーの処置: 既存の保管点名を再設定する必要がある場合、**RELEASE SAVEPOINT** ステートメントを出して既存の保管点を解放してから、**SAVEPOINT** ステートメントを出し直してください。 **ATOMIC** コンパウンド SQL の場合、コンパウンド・ステートメントの終わりに達するまで、**SAVEPOINT** を設定することはできません。

sqlcode: -20112

sqlstate: 3B002

SQL20113N **SELF AS RESULT** で定義された方式 *method-id* から **NULL** を返すことはできません。

説明: 方式 ID *method-id* の方式が **SELF AS RESULT** で定義されています。この方式の呼び出しが構造化タイプ **NULL** ではないインスタンスを使用していたため、**NULL** インスタンスを返すことはできません。

ユーザーの処置: 方式の戻り値として **NULL** が返されないよう、方式設定を変更してください。1つの方法として、返される構造化タイプの属性をすべて **NULL** に変更することが可能です。障害のあった方式の名前を判別するには、以下の照会を使用してください。

```
SELECT FUNCSHEMA, FUNCNAME,
       SPECIFICNAME
FROM SYSCAT.FUNCTIONS
WHERE FUNCID = method-id
```

sqlcode: -20113

sqlstate: 22004

SQL20114W 表 *table-name* の列 *column-name* の長さは、**USER** デフォルト値の定義された長さに対して十分ではありません。

説明: 列 *column-name* が、128 バイトに満たない長さで定義されています。この列に文節 **DEFAULT USER** が指定されました。 **USER** 特殊レジスターが **VARCHAR(128)** と定義されているため、列の長さを超えるユーザー ID を持つユーザーが *table-name* にデフォルト値を割り当てようとした場合、エラーが起きます。ユーザー ID が列の長さを超えているユーザーは、この列を挿入、あるいは列をデフォルト値に更新することができません。

ユーザーの処置: システム標準によって、列の長さを超える ID が許可されていない場合、この警告を無視できます。この警告が出されないようにするには、列の長さを少なくとも 128 バイトにしなければなりません。表をドロップしてから再作成することによって、またデータ・タイプが **VARCHAR** であれば、**ALTER TABLE**

で列の長さを大きくすることによって、この列の長さを変更できます。

sqlcode: +20114

sqlstate: 01642

SQL20115N トランスフォーム・グループ *group-name* で、*routine-type routine-name* を *transform-type* トランスフォーム関数として使用することはできません。

説明: *routine-type* が FUNCTION であれば、*routine-name* によって定義されている関数は組み込み関数であるため、これをトランスフォーム関数として使用することはできません。*routine-type* が METHOD であれば、*routine-name* によって定義されている方式は方式であるため、これをトランスフォーム関数として使用することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: トランスフォーム・グループ *group-name* の *transform-type* トランスフォーム関数として、異なる関数を指定してください。

sqlcode: -20115

sqlstate: 428EX

SQL20116N 検索ターゲット *parameter-name* のデータ・タイプが、索引拡張子 *index-extension-name* に指定されているソース・キーのデータ・タイプに一致していません。

説明: 検索ターゲットが組み込みまたは特殊データ・タイプである場合、そのタイプは、索引拡張子に指定されているソース・キーのデータ・タイプに一致していなければなりません。検索ターゲットのデータ・タイプが構造化タイプであれば、索引拡張子のソース・キーのデータ・タイプと同じ構造化タイプ階層になければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 索引拡張子のソース・キーに一致するデータ・タイプで検索ターゲットを指定してください。

sqlcode: -20116

sqlstate: 428EY

SQL20117N OLAP 関数のウィンドウ指定は無効です。理由コード = *reason-code*

説明: OLAP 関数呼び出しのウィンドウ指定 (OVER 文節) が正しく指定されていません。*reason-code* が、誤った指定について指示しています。

- 1 ウィンドウ指定で、ORDER BY なしで RANGE または ROWS が指定されています。
- 2 RANGE が指定されていますが、ウィンドウ ORDER BY 文節に複数の *sort-key-expression* が入っています。
- 3 RANGE が指定されていますが、ウィンドウ ORDER BY 文節の *sort-key-expression* のデータ・タイプを持つ減算式に、範囲値のデータ・タイプを使用することができません。
- 4 CURRENT ROW の後に UNBOUNDED PRECEDING が、あるいは CURRENT ROW の前に UNBOUNDED FOLLOWING が指定されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ウィンドウ指定を変更して、*reason-code* によって示されている無効な指定を訂正してください。

- 1 RANGE または ROWS を指定しているウィンドウ指定ごとにウィンドウ ORDER BY 文節を追加します。
- 2 RANGE を備えたウィンドウ指定が、ウィンドウ ORDER BY 文節ごとに *sort-key-expression* を 1 つずつ持つようにします。
- 3 RANGE を備えたウィンドウ指定ごとに、ウィンドウ ORDER BY 文節の *sort-key-expression* から範囲値 (数値タイプまたは日付時刻タイプでなければなりません) を減算できることを確認してください。日付時刻 *sort-key-expression* の場合、範囲値は、適切な精度および位取りを持つ特定の日付時刻期間 DECIMAL タイプでなければなりません。
- 4 “BETWEEN” および “CURRENT ROW” を使用しているウィンドウ指定で、“UNBOUNDED PRECEDING” を “AND CURRENT ROW” の前に、または “UNBOUNDED FOLLOWING” を “CURRENT ROW AND” の後に指定してください。

sqlcode: -20117

sqlstate: 428EZ

SQL20118N 構造化タイプ *type-name* で、属性の数が許可されている最大数を超えています。最大数は *max-value* です。

説明: 構造化タイプ *type-name* の定義で、構造化タイプごとに許可されている属性 (継承属性を含む) の最大

数を超えています。継承属性を含む属性の最大数は *max-value* です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 構造化タイプの属性の数が制限を超えないようにしてください。

sqlcode: -20118

sqlstate: 54050

SQL20119N ROW 関数は、少なくとも 2 つの列を定義していなければなりません。

説明: RETURNS 文節に ROW を指定する関数は、少なくとも 2 つの列がある列リストを備えていなければなりません。

ユーザーの処置: RETURNS 文節から ROW キーワードを除去してスカラー関数にするか、または RETURNS 文節の列リストに複数の列を指定してください。

sqlcode: -20119

sqlstate: 428F0

SQL20120N SQL TABLE 関数は表結果を返さなければなりません。

説明: RETURNS 文節に TABLE を指定する SQL 関数は、表である結果を返さなければなりません。スカラー全選択の場合は例外ですが、スカラー式は SQL TABLE 関数の結果として返されません。

ユーザーの処置: RETURNS 文節から TABLE キーワードを除去してスカラー関数にするか、または TABLE 関数本体の RETURNS ステートメントに全選択を指定してください。

sqlcode: -20120

sqlstate: 428F1

SQL20121N WITH RETURN または **SCROLL** はカーソル *cursor-name* にいずれか 1 つだけ指定できます。

説明: WITH RETURN と SCROLL の両方がカーソル *cursor-name* に指定されましたが、これは許されていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: DECLARE CURSOR ステートメントを変更して、NO SCROLL を指定 (または SCROLL キーワードを除去) するか、WITH RETURN 文節を除去してください。

sqlcode: -20121

sqlstate: 428F3

SQL20123N スクロール可能カーソルに対して戻された結果セットが、1 行目より前に位置付けられていないため、ストアード・プロシージャ *procedure* への CALL は失敗しました。

説明: スクロール可能結果セットがストアード・プロシージャ *procedure* への CALL によって戻され、1 つ以上のカーソルが 1 行目よりも前に位置付けられていません。

ストアード・プロシージャへの CALL は失敗しました。このストアード・プロシージャに定義されたすべての結果セットは、呼び出し元に戻る前にクローズされました。スクロール可能カーソルは、結果セットから FETCH するために使用できません。このストアード・プロシージャによって行われたアクションはロールバックされず、エラーがストアード・プロシージャの実行の終わりに検出されたため、このストアード・プロシージャによって開始された外部アクションは完了しました。

ユーザーの処置: 呼び出し元に戻る前に、結果セットカーソルが 1 行目より前に位置付けられるように、ストアード・プロシージャの内容を変更してください。

sqlcode: -20123

sqlstate: 560B1

SQL20128N カーソル *cursor-name* はスクロール可能ですが、結果表には表関数からの出力を組み込むことができません。

説明: カーソル *cursor-name* はスクロール可能になるよう定義されていますが、結果表には表関数からの出力が組み込まれます。この組み合わせはサポートされません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: スクロール可能にならないようにカーソルの定義を変更するか、または結果表に表関数からの出力が組み込まれないことを確認してください。

sqlcode: -20128

sqlstate: 428F6

SQL20131N タイプ *object-type* のオブジェクト番号 *object-number* が、オブジェクトのリストに複数回指定されました。

説明: タイプ *object-type* のオブジェクト名のリストに、オブジェクト番号 *object-number* が複数回指定されました。ステートメントの操作をオブジェクトで複数

回実行することはできません。

ユーザーの処置: リスト内の重複したオブジェクトを訂正し、重複するオカレンスを取り除いてください。(MDC の場合、オブジェクト・タイプは “dimension” となります。)

sqlcode: -20131

sqlstate: 42713

SQL20133N 操作 *operation-name* は外部ルーチン *routine-name* に対して実行できません。この操作は SQL ルーチンでのみ実行できます。

説明: 操作 *operation-name* を外部ルーチン *routine-name* に対して実行しようとした。しかし、この操作は SQL ルーチンに対してのみ実行が可能です。操作は正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: 指定した名前が SQL ルーチンを識別することを確認してください。

sqlcode: -20133

sqlstate: 428F7

SQL20134N ルーチン *routine-name* の SQL アーカイブ (SAR) ファイルがサーバーで作成できませんでした。

説明: DB2 が指定されたルーチンのライブラリーまたはバインド・ファイルを見つけられないため、ルーチン *routine-name* の SQL アーカイブ (SAR) の作成が失敗しました。バインド・ファイルは、DB2 バージョン 7.1、フィックスパック 2 以降を使用して作成された SQL ルーチンでのみ使用可能です。

ユーザーの処置: DB2 バージョン 7.1、フィックスパック 2 以降を使用して、サーバーにプロシージャを再作成し、操作をやり直してください。

sqlcode: -20134

sqlstate: 55045

SQL20135N 指定された SQL アーカイブがターゲット環境に適合しません。理由コード = *reason-code*

説明: 指定された SQL アーカイブが、以下のいずれかの理由でターゲット環境に適合しません。

- 1 ターゲット環境のオペレーティング・システムが、SQL アーカイブが作成されたオペレーティング・システムと異なります。
- 2 ターゲット環境のデータベース・タイプおよび

レベルが、SQL アーカイブが作成されたデータベース・タイプおよびレベルと異なります。

ユーザーの処置: SQL アーカイブが作成された環境がターゲット環境と一致しているかを確認して、コマンドを再発行してください。環境が一致しない場合は、ターゲット環境を使用して SQL ルーチンを手操作で作成する必要があります。

sqlcode: -20135

sqlstate: 55046

SQL20136N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) が、フェデレーテッド・オブジェクトにアクセスしようとした。

説明: SQL ステートメントは、1 つ以上のフェデレーテッド・オブジェクトにアクセスしようとした外部関数またはメソッドです。このステートメントは、ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) から実行されます。外部関数またはメソッドからフェデレーテッド・オブジェクトにアクセスすることは、現在サポートされていません。

ユーザーの処置: ルーチンからフェデレーテッド・オブジェクトへの参照を除去してください。

sqlcode: -20136

sqlstate: 55047

SQL20138N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) は **MODIFIES SQL DATA (SQL データの変更)** と定義されていないため、ステートメントは説明されない可能性があります。

説明: ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) は CONTAINS SQL (SQL を含む) または READS SQL DATA (SQL データの読み取り) と定義されていますが、SQL ステートメントを EXPLAIN しようとした。SQL ステートメントを説明するには、EXPLAIN 表への書き込みが必要ですが、これは MODIFIES SQL DATA (SQL データの変更) ルーチンでしか許可されません。

ユーザーの処置: CONTAINS SQL (SQL を含む) または READS SQL DATA (SQL データの読み取り) と定義されているルーチンから SQL ステートメントの EXPLAIN を試行しないでください。

sqlcode: -20138

sqlstate: 42985

SQL20139N 直前のステートメントが失敗したか割り込まれたため、**SQL** ステートメントはルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) で発行されない可能性があります。

説明: ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*)、またはネストされたルーチンの実行中、ステートメントが失敗してロールバックが必要であるか、割り込みが発生しました。データベース・マネージャーが必要なりリカバリーを実行できるように、最外部のステートメントから呼び出されるすべてのルーチンが実行を完了し、コントロールが最外部ステートメントに戻されることが必要です。このリカバリーが完了するまで、**SQL** ステートメントは発行されない可能性があります。

ユーザーの処置: ルーチンは実行を継続します。ルーチンはこの後の **SQL** ステートメントを実行せず、呼び出し元のステートメントにできるだけ速やかにコントロールを戻す必要があります。

割り込みの初期障害のリカバリーは、すべてのルーチンが完了した時点で、データベース・マネージャーにより自動的に実行されます。

sqlcode: -20139

sqlstate: 51038

SQL20140W **VALUE COMPRESSION** が表に対して非活動状態であるため、**COMPRESS** 列属性は無視されました。

説明: 以下の状態のいずれかが発生していると考えられます。

1. **VALUE COMPRESS** が表に対して非活動状態であるため、列に指定された **COMPRESS SYSTEM DEFAULT** が無視された。
2. **DEACTIVATED VALUE COMPRESSION** が指定され、列が **COMPRESS SYSTEM DEFAULT** とともに定義された。

ユーザーの処置: 列に指定された **COMPRESS** を許可するには、表を変更し、表の **VALUE COMPRESSION** を活動化してください。

sqlcode: 20140

sqlstate: 01648

SQL20142N シーケンス *sequence-name* を指定されているようには使用できません。

説明: *sequence-name* が、使用されないコンテキストで参照されました。 *sequence-name* は、ID 列用のシステムで生成されたシーケンスであってはなりません。これらのシーケンスは、**COMMENT ON**

SEQUENCE、**DROP SEQUENCE**、**GRANT** または **REVOKE** ステートメント、あるいは **NEXTVAL** か **PREVVAL** 式では参照されません。

ユーザーの処置: このコンテキストに、ユーザー定義のシーケンス・オブジェクトの名前を指定してください。

sqlcode: -20142

sqlstate: 428FB

SQL20143N **ENCRYPTION PASSWORD** 値が設定されていないため、暗号化または暗号化解除関数が失敗しました。

説明: **ENCRYPTION PASSWORD** 値が設定されていません。

ユーザーの処置: **SET ENCRYPTION PASSWORD** ステートメントを発行して、**ENCRYPTION PASSWORD** 値を設定してください。パスワードの長さは最小 6 バイトから最大 127 バイトまでです。

sqlcode: -20143

sqlstate: 51039

SQL20144N 指定されたパスワードの長さが 6 バイト未満か、または 127 バイトを超えていたため、暗号化パスワードが無効です。

説明: データは 6 バイトから 127 バイトの長さのパスワードで暗号化されなければなりません。

ユーザーの処置: パスワード長が 6 バイトから 127 バイトの範囲にあることを確認してください。

sqlcode: -20144

sqlstate: 428FC

SQL20145N 暗号化解除関数が失敗しました。暗号化解除に使用されたパスワードが、データの暗号化に使用されたパスワードと一致しません。

説明: データは、暗号化に使用されたものと同じパスワードを使用して暗号化解除されなければなりません。

ユーザーの処置: データの暗号化と暗号化解除に同じパスワードが使用されているかを確認してください。

sqlcode: -20145

sqlstate: 428FD

SQL20146N 暗号化解除関数が失敗しました。データは暗号化されません。

説明: データは ENCRYPT 関数の結果でなければなりません。

ユーザーの処置: データ・タイプが ENCRYPT 関数の結果であることを確認してください。

sqlcode: -20146

sqlstate: 428FE

SQL20147N ENCRYPT 関数が失敗しました。複数回の暗号化はサポートされていません。

説明: すでに暗号化されたデータを再び暗号化することはできません。

ユーザーの処置: データが暗号化されていないことを確認してください。

sqlcode: -20147

sqlstate: 55048

SQL20148N ルーチン *routine-name* (名前 *specific-name*) は、コンパウンド本体の最後の SQL ステートメントとして RETURN ステートメントを持っていません。

説明: RETURN ステートメントは、SQL ROW または TABLE 関数でコンパウンド本体の最後の SQL ステートメントでなければなりません。ルーチン本体内では、他の RETURN ステートメントは許可されていません。

ユーザーの処置: RETURN ステートメントが 1 つのみで、そのステートメントがコンパウンド本体の最後の SQL ステートメントであることを確認してください。

sqlcode: -20148

sqlstate: 429BD

SQL20149W バッファース・プール構成は完了しましたが、次にデータベースが再始動されるまでは有効になりません。

説明: バッファース・プールは正常に構成されましたが、変更は即時に有効になりません。変更は、データベースが再始動したときに有効になります。

ユーザーの処置: 次のデータベースの再始動時に変更が有効となるために、アクションを行う必要はありません。

sqlcode: 20149

sqlstate: 01649

SQL20150N バッファース・プールのブロック・ページ数が、バッファース・プールのサイズには大きすぎます。

説明: NUMBLOCKPAGES で指定されたブロック・ページ数を、SIZE で指定されたバッファース・プールのページ数の 98 パーセントより大きくしないでください。

ユーザーの処置: NUMBLOCKPAGES をゼロに設定することにより、このバッファース・プールのブロック・ベースの入出力を使用不可にするか、NUMBLOCKPAGES の値を SIZE の値の 98 パーセントより大きくしないようにしてください。

sqlcode: -20150

sqlstate: 54052

SQL20151N BLOCKSIZE に指定された値が有効範囲内にありません。

説明: BLOCKSIZE の値の有効範囲は 2 から 256 の間です。

ユーザーの処置: BLOCKSIZE の値を、2 以上、256 以下に変更してください。最適な値は、エクステンツ・サイズです。

sqlcode: -20151

sqlstate: 54053

SQL20152N 指定されたバッファース・プールが現在ブロック・ベースではありません。

説明: バッファース・プールのブロック・エリアで使用するページ数を指定せずに、BLOCKSIZE オプションが使用されました。

ユーザーの処置: BLOCKSIZE オプションと一緒に、NUMBLOCKPAGES の値を指定してください。

sqlcode: -20152

sqlstate: 428FF

SQL20153N データベースの分割イメージが延期状態にあります。

説明: データベースの分割イメージが延期状態にある間は使用できません。

ユーザーの処置: 以下の 3 つのオプションのいずれかを使用して db2inidb コマンドを発行し、このデータベースの分割イメージの入出力を再開してください。

- db2inidb <db-name> as mirror
- db2inidb <db-name> as snapshot

- db2inidb <db-name> as standby

マルチノード環境では、データベースを使用できるようにするためには、db2inidb ツールをノードごとに実行する必要があります。db2inidb ツールはマルチノード・データベースのノードごとに並行して実行することが可能です。

sqlcode: -20153

sqlstate: 55040

SQL20154N 行に対してターゲット表を決定できないため、要求されたビュー *view-name* への挿入または更新操作は許可されません。理由コード = *reason-code*

説明: 指定したビューに UNION ALL 照会が含まれています。*reason-code* は、指定した行が以下のいずれかであることを示します。

1. 基礎となる基本表のチェック制約を満たしていない。
2. 1 つ以上の基礎となる基本表のすべてのチェック制約を満たしている。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: データ・ソースの他の特定の制限により、行の挿入が妨げられている可能性もあります。

ユーザーの処置: 行セットをパーティションする、基礎となる基本表で使用されているチェック制約が、挿入される行のセットをカバーしていることを確認してください。さらに、更新により任意の既存の表から別の表に行が移動される場合、UNION ALL で全選択に定義されたビューに WITH ROW MOVEMENT も指定されていることを確認してください。たとえば、チェック制約 (T1.c1 in (1,2)) on T1、および (T2.c1 in (2,3)) on T2、およびビュー V1 を T1 と T2 の union として指定。

1. 行 c1 = 4 は、基礎となる基本表のチェック制約を満たしていない。
2. 行 c1 = 2 は、基礎となる基本表のチェック制約を満たしている。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 理由が不明な場合には、要求を失敗させたデータ・ソースに対して問題を分離し (「問題判別の手引き」を参照してください)、そのオブジェクト定義と更新制限を調べてください。

sqlcode: -20154

sqlstate: 23513

SQL20155N 指定したイベント・モニターのターゲット表が無効です。理由コード = *reason-code*

説明: CREATE EVENT MONITOR ステートメントの処理中に、あるいはイベント・モニターを活動化しているときに、ターゲット表が無効であると判別されました。*reason-code* は以下のいずれかです。

1. 少なくとも 1 つの列名が、イベント・モニターのデータ・エレメント ID と一致しない。
2. 少なくとも 1 つの列に、イベント・モニターのデータ・エレメント ID のデータ・タイプと互換性のないデータ・タイプがある。
3. 少なくとも 1 つの列名が、イベント・モニターのデータ・エレメント ID と一致するが、そのエレメントはターゲット表で許可されていない。
4. 表の行サイズが、表スペースのページ・サイズに対して大きすぎる。
5. 必須列がない。
6. Unicode データベース以外のデータベースの場合は、CCSID UNICODE で表を宣言しないでください。

ユーザーの処置: 詳細については、管理通知ログをチェックし、表の定義を訂正してください。

sqlcode: -20155

sqlstate: 55049

SQL20156W イベント・モニターは正常に活動化されましたが、いくつかのモニター情報が脱落した可能性があります。

説明: イベント・モニターは正常に活動化されましたが、以下のいずれかの理由により、イベント・モニターのいくつかの情報が脱落した可能性があります。

- 列のデータ・タイプが、イベント・モニター・エレメント ID を保留するのに必要なデータ・タイプよりも小さい。このデータは切り捨てられます。
- ターゲット表が SYSCAT.EVENTTABLES で見つかったが、表がデータベースに存在しない。対応する表のモニター情報は記録されません。

ユーザーの処置: 詳細情報については管理通知ログをチェックしてください。必要であれば、すべてのターゲット表を作成するイベント・モニターを再作成してください。

sqlcode: 20156

sqlstate: 01651

SQL20157N ユーザー *authorization-ID* に **QUIESCE_CONNECT** 特権がありません。

説明: 指定された許可 ID に、現在静止モードのデータベースまたはインスタンスにアクセスするための **QUIESCE_CONNECT** 特権がありません。静止状態のデータベースまたはインスタンスに接続する前に、**QUIESCE_CONNECT** 特権を付与される必要があります。

ユーザーの処置: 静止解除が完了するのを待機するか、データベースのシステム管理者またはデータベース管理者に連絡して、許可 ID に対して **GRANT QUIESCE_CONNECT** 要求を発行してください。コマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -20157

sqlstate: 08004

SQL20158N 関数は、接続されている **DB2 Data Links Manager** のレベルではサポートされていません。

説明: 基礎 **DATALINK** 機能は、接続されている **DB2 Data Links Manager** のレベルではサポートされていません。

ユーザーの処置: エラーを訂正するには、サポートされていない **DATALINK** 機能の使用を除去するか、**DB2 Data Links Manager** をデータベース・サーバーと同じレベルにアップグレードしてください。

sqlcode: -20158

sqlstate: 42997

SQL20159W ステートメント・コンテキストのために、分離文節は無視されます。

説明: インライン **SQL** として処理されるコンパウンド・ステートメントに含まれるステートメントで分離文節が指定されています。分離文節は無視され、分離レベルが、コンパウンド・ステートメント内のすべてのステートメントで使用されます。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。この警告を回避するには、分離文節を除去してください。

sqlcode: 20159

sqlstate: 01652

SQL20160W 許可は **USER** *userid* に対して付与されました。グループは、許可名が 8 バイトより長いために考慮に入れられませんでした。

説明: 許可名の長さが 8 バイトを超えています。特権は、一致する名前があるシステムで定義されたグループを認識せずに、認可名 *userid* でユーザーに認可されています。処理を続行します。

ユーザーの処置: 認可がユーザーに対してのものである場合、アクションは必要ありません。認可がグループに対してのものである場合、8 バイトを超えるグループ名はサポートされていないため、代替のグループ名を選択する必要があります。この警告メッセージを防ぐには、許可名の前に **USER** キーワードを指定してください。

sqlcode: 20160

sqlstate: 01653

SQL20161W 列名 *column-name* は、イベント・モニター表には無効な列です。

説明: **INCLUDES** または **EXCLUDES** 文節に指定された列名が、作成しているイベント・モニター表のどの有効な列とも一致しません。

ユーザーの処置: 指定した列名を確認して、訂正してください。

sqlcode: -20161

sqlstate: 428AA

SQL20162N バッファース・プールで、ブロック・ベースの入出力と拡張ストレージの両方を使用することはできません。

説明: ブロック・ベースの入出力と拡張ストレージの両方を使用するバッファース・プールを作成または変更しようとしてしました。

ユーザーの処置: バッファース・プールで、ブロック・ベースの入出力と拡張ストレージの両方を使用していないことを確認してください。

sqlcode: -20162

sqlstate: 428FF

SQL20165N **FROM** 文節内の **SQL** データ変更ステートメントは、それが指定されるコンテキスト内では無効です。

説明: **SQL** データ変更ステートメントは特定のコンテキスト内の **FROM** 文節に指定できます。**SQL** データ

変更ステートメントは、以下で使用される FROM 文節の唯一の表参照である必要があります。

- SELECT ステートメントの外部全選択
- SELECT INTO ステートメント
- 共通表式の外部全選択
- 割り当てステートメントの唯一の全選択

照会の他の部分で入力変数が使用されている場合、FROM 文節の複数の行 INSERT に USING DESCRIPTOR 文節を含めることはできません。FROM 文節の複数の行 INSERT ステートメントは NOT ATOMIC を指定できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: FROM 文節内の SQL データ変更ステートメントが、サポートされるコンテキストで使用され FROM 文節の唯一の表参照となるように、ステートメントを変更してください。

sqlcode: -20165

sqlstate: 428FL

SQL20166N SELECT 文節内の SQL データ変更ステートメントが、対称でないビュー、または対称なビューとして定義できなかったビュー *view-name* を指定しました。

説明: SELECT ステートメント内の SQL データ変更ステートメントのターゲット・ビューは WITH CASCADED CHECK OPTION で定義される必要があります。あるいは、ビュー定義の全選択 (または参照ビューのビュー定義の全選択) が WITH CASCADED CHECK OPTION を使用して定義可能である必要があります。

対称ビューは WITH CASCADED CHECK OPTION を使用して暗黙的または明示的に定義されたビューです。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 指定したビューで SELECT ステートメント内の SQL データ変更ステートメントを使用しないでください。

sqlcode: -20165

sqlstate: 428FM

SQL20167N 共有メモリーの設定が、要求を処理するのに十分な大きさではありません。

説明: 以下のいずれかのリソース要求に対して、共有メモリー設定のメモリーが不十分です。

- FCM 接続項目

- FCM メッセージ・アンカー
- FCM 要求ブロック

ユーザーの処置: 要求を再試行してください。エラーが続く場合は、インスタンスを停止および再始動し、(DB2 によって自動的に更新される) 共有メモリー設定サイズ拡大を有効にして、要求を再試行してください。

sqlcode: -20167

sqlstate: 57011

SQL20168N ALTER BUFFERPOOL ステートメントが現在進行中です。

説明: ALTER 操作が進行中の場合は、バッファー・プールをドロップまたは変更することはできません。

ユーザーの処置: ALTER 操作が完了するまで待機してください。進行中の ALTER 操作の進行を確認するには、スナップショット・モニターを使用してください。

sqlcode: -20168

sqlstate: 55051

SQL20169W バッファー・プールが開始されていません。

説明: ステートメントは成功しましたが、バッファー・プールが開始されてから有効になります。

ユーザーの処置: ステートメントは正常に完了しました。データベースが活動化されたときに有効になります。これは、すべてのアプリケーションが切断された後に起こります。即時にステートメントを有効にするには、バッファー・プールが開始されたときに再サブミットしてください。バッファー・プールを開始するには、IMMEDIATE オプションを使用してバッファー・プールをドロップおよび再作成する方法が可能な場合があります。

sqlcode: +20169

sqlstate: 01654

SQL20170N 指定したアクションを行うための十分なスペースが、表スペース *tablespace-name* ありません。

説明: DROP、REDUCE、RESIZE コンテナ・アクションのうち 1 つ以上を使用して、スペースを表スペースから除去しています。ところが、除去中のスペース量が、スペース量の上限基準点を超過しています。

ユーザーの処置: スナップショット・モニターを使用して、表スペースで使用できるページ数と、表スペースの上限基準点を調べてください。これらの値の差が、除去できるページの最大数です。

sqlcode: -20170

sqlstate: 57059

SQL20173W イベント・モニターが正常に作成されましたが、少なくとも 1 つのイベント・モニター・ターゲット表がすでに存在しています。

説明: イベント・モニターを作成中に、データベース・マネージャーが 1 つ以上のターゲット表を作成しようとしたが、それらの名前の表はすでに存在していることが判別しました。 イベント・モニターは正常に作成されましたが、ターゲット表は同じ名前のある表を置換せず、作成されませんでした。 イベント・モニターが活動化されると、これらの表の使用を試みます。 活動化処理でこれらの表が適切でないと判断されると、イベント・モニターの活動化で失敗する可能性があります。

ユーザーの処置: 詳細情報については管理通知ログをチェックしてください。必要であれば、すべてのターゲット表をドロップし、すべてのターゲット表を作成するイベント・モニターを再作成してください。

sqlcode: 20173

sqlstate: 01655

SQL20178N ビュー *view-name* には、すでに **INSTEAD OF** *operation* トリガーが定義されています。

説明: ビュー *view-name* には、すでに **INSTEAD OF** トリガーが指定された操作 (**UPDATE**, **DELETE**, **INSERT**) で定義されています。 ビューの操作ごとに 1 つの **INSTEAD OF** トリガーのみを定義できます。

ステートメントは処理できません。 **INSTEAD OF** トリガーは作成されませんでした。

ユーザーの処置: 新規 **INSTEAD OF** トリガーが必要であれば、既存のトリガーをドロップしてから、新規トリガーを作成してください。

sqlcode: -20178

sqlstate: 428FP

SQL20179N ビュー *view-name* は **WITH CHECK OPTION** を使用して定義されているか、または **WITH ROW MOVEMENT** 文節で定義されたビューにネストされているため、**INSTEAD OF** トリガーは作成できません。

説明: **INSTEAD OF** トリガーは以下では定義できません。

- **WITH CHECK OPTION** を使用して定義されたビュー
- 上記のようなビューが直接的または間接的に定義されたビュー

INSTEAD OF UPDATE トリガーは以下では定義できません。

- **WITH ROW MOVEMENT** 文節で定義されたビューにネストされたビュー

ビュー *view-name* は **INSTEAD OF** トリガーのターゲット・ビューである可能性があります。あるいは、トリガーのターゲット・ビューに直接または間接的に依存するビューである可能性があります。

ステートメントは処理できません。 **INSTEAD OF** トリガーは作成されませんでした。

ユーザーの処置: *view-name* が **WITH CHECK OPTION** を使用して定義されている場合、**WITH CHECK OPTION** 文節を除去してください。

view-name が **WITH ROW MOVEMENT** 文節で定義されたビューにネストされたビューである場合、**WITH ROW MOVEMENT** 文節を除去してください。

sqlcode: -20179

sqlstate: 428FQ

SQL20188N *name* によって識別される主キーまたはユニーク・キーは、**ORGANIZE BY** 文節の列のサブセットです。

説明: 主キーまたはユニーク・キーのすべての列が、表の **ORGANIZE BY** 文節に組み込まれています。 この場合、この表のページの各ブロックに 1 つの行しか含まれず、そのブロックの残りのスペースがすべて無駄になるため、これは許可されていません。

指定された場合、*name* は主キーまたはユニーク制約の制約名です。 制約名が指定されなかった場合は、*name* が 3 つのピリオドが後に続く主キーまたはユニーク制約文節に指定された最初の列名になります。 ユニーク索引が作成される場合、*name* がそのユニーク索引の名前になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: キーがディメンションのサブセットにならないように、主キーまたはユニーク・キーの定義、可能であれば、ユニーク索引定義または **ORGANIZE BY** 文節を変更してください。

sqlcode: -20188

sqlstate: 429BE

SQL20189W バッファー・プール操作

(CREATE/ALTER) は、メモリー不足により、次回データベースが再始動されるまで有効になりません。

説明: CREATE または ALTER BUFFERPOOL ステートメントが発行されて、正常に完了しましたが、メモリー不足のため、作成/変更は DEFERRED (延期) されました。この変更は、次回データベースが始動されたときに有効になります。

ユーザーの処置: バッファー・プールの活動化またはサイズ変更を、次の始動まで待ちたくない場合は、メモリー・リソースを解放し、(同じサイズか異なるサイズで) 再試行することができます。削減できるメモリー・リソースには、他のバッファー・プール、データベース・ヒープ、カタログ・キャッシュ、パッケージ・キャッシュ、およびユーティリティ・ヒープなどがあります。これらは、リソースに応じ、ALTER/DROP

BUFFERPOOL または UPDATE DATABASE CONFIGURATION コマンドを使って削減できます。今後、バッファー・プール・メモリーの動的割り振りのための余分なメモリーを予約するためには、DATABASE_MEMORY データベース構成パラメーターを増やすことができます。

再試行しない場合:

1. 失敗したのが ALTER BUFFERPOOL の場合は、バッファー・プールの現在のランタイム・サイズで実行を続けます。バッファー・プールの現在のランタイム・サイズは、データベース・モニターを使って確認できます。
2. 失敗したのが CREATE BUFFERPOOL の場合は、バッファー・プールで作成される表スペースは、一時的に (次の始動まで)、一致するページ・サイズを持つ、隠れたバッファー・プールに入れられます。隠れたバッファー・プールは小さいため、この結果、性能が低下する可能性があります。

再試行する場合:

1. ALTER BUFFERPOOL の場合、コマンドを再サブミットしてください。
2. CREATE BUFFERPOOL の場合、バッファー・プールをドロップして、コマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: 20189

sqlstate: 01657

SQL20190N データの不整合の可能性があるため、フェデレーテッド挿入、更新、または削除操作はコンパイルできません。

説明: データ・ソースがアプリケーション savepoint サポートを提供しておらず、サーバー・オプション 'iud_app_svpt_enforce' が 'Y' に設定されている場合、フェデレーテッド挿入、更新、または削除操作はプリコンパイル中にブロックされます。これにより、フェデレーテッド挿入、更新、または削除処理中にエラーを検出した場合、ランタイム実行時に発生する可能性のある、データ不整合の発生が回避されます。

ユーザーの処置: 解決策は以下のとおりです。

- サーバー・オプション 'iud_app_svpt_enforce' を 'N' に変更する。
- 挿入、更新、または削除を直接データ・ソースに適用する。

sqlcode: -20190

sqlstate: 0A503

SQL20191N 動的に準備された CALL ステートメントの INOUT パラメーターの場合、同じホスト変数を USING 文節と INTO 文節の両方で使用する必要があります。

説明: CALL ステートメントでは、INOUT パラメーターは単一ホスト変数に対応している必要があります。動的に準備された CALL ステートメントを実行する場合は、同じホスト変数を EXECUTE ステートメントの USING 文節と INTO 文節の両方に指定する必要があります。

ユーザーの処置: INOUT パラメーターのパラメーター・マーカーに対応するホスト変数を指定する場合は、EXECUTE ステートメントの USING 文節と INTO 文節の両方に同じホスト変数を使用してください。SQLDA を使って INOUT パラメーターのパラメーター・マーカーに対応するホスト変数を指定する場合は、対応する SQLVAR の SQLDATA ポインターが同じホスト変数を指している必要があります。

sqlcode: -20191

sqlstate: 560BB

SQL20192N 指定されたモードは、パーティション・データベース環境でしかサポートされていません。

説明: RECOMMEND PARTITIONINGS または EVALUATE PARTITIONINGS がパーティション・データベース環境で呼び出されませんでした。これら 2 つ

のモードは、パーティション・データベース環境でのみサポートされています。

ユーザーの処置: パーティション・データベース環境で RECOMMEND PARTITIONINGS または EVALUATE PARTITIONINGS を呼び出してください。

sqlcode: -20192

sqlstate: 56038

SQL20193N ファイル *file-name* にアクセス中にエラーが発生しました。理由コード =
reason-code

説明: ファイル名が *db2nodes.cfg* の場合、以下のような理由コードが考えられます。

1. *db2nodes.cfg* ファイルにフォーマット・エラーが含まれていることを示している。
2. 通信エラーのため、コマンドを完了できなかった。
3. メモリ割り振りエラーのため、コマンドを完了できなかった。

ユーザーの処置: *db2nodes.cfg* ファイルのフォーマット・エラーを修正します。 *db2diag.log* ファイルで、通信またはメモリ割り振りエラーを解決するための詳細情報をチェックします。アプリケーションを再実行します。

sqlcode: -20193

sqlstate: 560BC

SQL20194N バッファ・プール *bufferpool-name* は、データベース・パーティション *dbpartitionnum* に存在しません。

説明: ALTER BUFFERPOOL ステートメントは、バッファ・プール *bufferpool-name* を指定していますが、これはデータベース・パーティション *dbpartitionnum* に存在しません。

ユーザーの処置: ALTER DATABASE PARTITION GROUP ステートメントを使って、データベース・パーティション *dbpartitionnum* を、すでにバッファ・プール *bufferpool-name* が定義されているデータベース・パーティション・グループに追加します。バッファ・プールが特定のデータベース・パーティション・グループと関連付けられていない場合は、そのデータベース・パーティションを任意のデータベース・パーティション・グループに追加するか、このデータベース・パーティションのために新しいデータベース・パーティション・グループを作成します。ALTER BUFFERPOOL ステートメントを再度発行します。

sqlcode: -20194

sqlstate: 53040

SQL20195N パスの名前変更構成ファイル *config-file* の行番号 *line-number* を処理中に、エラーを検出しました。理由コード =
reason-code

説明: 現在のクラッシュまたはロールフォワード・リカバリー処理中に、パスの名前変更構成ファイル *config-file* が、コンテナの名前変更で使用されています。しかし、このファイルのステートメントを処理している間に、*line-number* 行目でエラーが検出され、それによりリカバリー処理の進行が妨げられました。このエラーの説明は、以下の理由コードで示されています。

1. 構文が無効である。
2. コンテナ・パスの長さがコンテナ・パスに許可されている最大長を超えている。
3. 指定されたコンテナ・パスが直前の行にすでにリストされている。
4. データベース・パスの長さがデータベース・パスに許可されている最大長を超えている。
5. 指定されたデータベース・パスが直前の行にすでにリストされている。
6. データベース・パスは、絶対パスでなければならない。
7. データベース・パスが誤って指定されている。
8. ワイルドカード文字 ("*") が間違って使用されています。

ユーザーの処置: 以下に記述されているように構成ファイルに該当する変更を行い、コマンドを再発行してください。

1. 構文エラーを訂正する。
2. 短いコンテナ・パスを指定する。
3. ファイルから重複するコンテナ・パスを除去する。
4. 短いデータベース・パスを指定する。
5. ファイルから重複するデータベース・パスを除去する。
6. 相対パスではなく、絶対パスでデータベース・パスを指定する。
7. ドライブ名の後にコロンを付ける形式でデータベース・パスを指定する (たとえば C:;)。
8. ワイルドカード文字を使用している場合、以前のパスと新しいパスの両方で最後の文字である必要があります。

sqlcode: -20195

sqlstate: 08504

SQL20196N FROM SQL 関数またはメソッドから戻される 1 つまたは複数の組み込みタイプが、TO SQL 関数またはメソッドのパラメーターである、対応する組み込みタイプと一致しません。

説明: FROM SQL トランスフォーム関数または方式から戻される組み込みタイプは、対応する TO SQL トランスフォーム関数または方式のパラメーター・リストにあるタイプと一致している必要があります。

ユーザーの処置: 別の FROM SQL トランスフォーム関数または方式か、TO SQL トランスフォーム関数または方式を選択するか、FROM SQL トランスフォーム関数または方式か TO SQL トランスフォーム関数または方式を変更して、FROM SQL 関数またはメソッドから戻される各組み込みタイプが、TO SQL トランスフォーム関数または方式のパラメーターである、対応する組み込みタイプと一致することを確認してください。

sqlcode: -20196

sqlstate: 428FU

SQL20197N *method-name* をオーバーライド方式として定義できません。理由コード *reason-code*。

説明: *method-name* をオーバーライド方式として定義しようとした。この方式と元の方式の間のオーバーライド・リレーションシップは、*reason-code* によって指定された次のいずれかの理由により作成できません。

- 1 同じ名前を持つ元の方式が見つからない。
- 2 元の方式とオーバーライド方式の持つパラメーターの数が同じではない。
- 3 オーバーライド方式のパラメーターのデータ・タイプが、元の方式の対応するパラメーターのデータ・タイプと一致しない。
- 4 オーバーライド方式のパラメーターのパラメーター名が、元の方式の対応するパラメーターのパラメーター名と一致しない。
- 5 オーバーライド方式のパラメーターのロケーター指示が、元の方式の対応するパラメーターのロケーター指示と一致しない。
- 6 オーバーライド方式のパラメーターの FOR BIT DATA 指示が、元の方式の対応するパラメーターの FOR BIT DATA 指示と一致しない。
- 7 オーバーライド方式の RETURNS 文節に、AS

LOCATOR 文節として CAST FROM 文節または FOR BIT DATA 文節が含まれています。

- 8 次の継承された方式属性の 1 つが指定されている: SELF AS RESULT、SQL ルーチン特性、または外部ルーチン特性。
- 9 オーバーライド方式の戻りタイプが、元の方式の戻りタイプと一致しない。
- 10 オーバーライド方式の戻りタイプが、次のいずれかサブタイプでもない構造型である。
 - 元の方式の戻りタイプ。
 - すでに元の方式をオーバーライドしているすべての方式の各戻りタイプ。

ユーザーの処置: 次のように、*reason-code* によって指定された理由に基づいて方式定義を変更してください。

- 1 構造型のスーパータイプに対する既存の方式を識別する方式名を使用する。
- 2 元の方式と同じ数のパラメーターをオーバーライド方式に定義する。
- 3 元の方式の対応するパラメーターのデータ・タイプと一致するように、データ・タイプを変更する。
- 4 元の方式の対応するパラメーターの名前と一致するように、パラメーター名を変更する。
- 5 元の方式の対応するパラメーターのロケーター指示と一致するように、ロケーター指示を変更する。
- 6 元の方式の対応するパラメーターの FOR BIT DATA 指示と一致するように、FOR BIT DATA 指示を変更する。
- 7 オーバーライド方式に対する AS LOCATOR 文節、CAST FROM 文節、および FOR BIT DATA 文節を除去する。
- 8 SELF AS RESULT 方式属性と、SQL ルーチン特性または外部ルーチン特性を除去する。
- 9 元の方式の戻りタイプと一致するように、戻りタイプを変更する。
- 10 元の方式と、元の方式をすでにオーバーライドしているすべての方式のサブタイプになるように、戻りタイプを変更する。

sqlcode: -20197

sqlstate: 428FV

SQL20198N 方式 *method-name* は、自分自身を再帰呼び出ししています。

説明: 方式が自分自身を再帰的に呼び出そうとしました。再帰の性質は、直接または間接の場合がありません。

SQL20200 - SQL20299

SQL20200N *url* が見つからなかったため、*jar-id* のインストールまたは置換が失敗しました。

説明: *jar* インストールまたは置換プロシージャで指定された URL が、有効な *jar* ファイルを表していませんでした。

ユーザーの処置: 有効な *jar* ファイルを識別する URL で、*jar* インストールまたは置換プロシージャを再実行してください。

sqlcode: -20200

sqlstate: 46001

SQL20201N *jar* 名が無効であるため、*jar-id* のインストール、置換または除去が失敗しました。

説明: *jar* インストール、置換または除去プロシージャに、無効な *jar* 名が指定されました。たとえば、*jar* ID が不適切な形式であるか、置換または除去の対象として存在しないか、あるいはすでに存在するためにインストールできない可能性があります。

ユーザーの処置: *jar id* が正しい形式であることを確認してください。*jar id* が存在する場合、インストールする前にそれを除去するようお勧めします。除去または置換プロシージャの場合は、*jar id* が存在することを確認してください。

sqlcode: -20201

sqlstate: 46002

SQL20202N *class* が使用中であるため、*jar-id* の置換または除去が失敗しました。

説明: *jar* ファイル内で指定されているクラスが定義済みプロシージャによって現在使用されているか、置換 *jar* ファイルにプロシージャが定義されている指定のクラスが入っていません。

ユーザーの処置: ドロップされるクラスを参照しているすべてのプロシージャがドロップされていることを確認し、置換または除去プロシージャを再サブミットしてください。

sqlcode: -20202

sqlstate: 46003

ユーザーの処置: 方式の定義を変更してください。

sqlcode: -20198

sqlstate: 55054

SQL20203N ユーザー定義関数またはプロシージャ *function-name* が、無効なシグニチャーのある **Java** 方式を持っています。

説明: 関数またはプロシージャを実装するために使用される *java* 方式のシグニチャーが無効でした。たとえば、方式が対応する *create* ステートメントのパラメーターにマッピング可能でないパラメーターを持っているか、プロシージャの方式が戻り値を指定している可能性があります。

ユーザーの処置: *Java* 方式に一致するパラメーターを指定して、対応する *CREATE* ステートメントを再発行するか、パラメーターまたは *Java* 方式の戻り値を訂正してクラスを再作成してください。

sqlcode: -20203

sqlstate: 46007

SQL20204N ユーザー定義関数またはプロシージャ *function-name* が単一の **Java** 方式にマッピングできませんでした。

説明: 示されている関数またはプロシージャが一致する *Java* 方式を見つけられなかったか、複数の一致する *Java* 方式を見つけました。

ユーザーの処置: *Java* 方式、あるいは対応する *create* ステートメントを訂正して、関数またはプロシージャ呼び出しが 1 つの *Java* 方式を決定できるようにしてください。

sqlcode: -20204

sqlstate: 46008

SQL20205N ユーザー定義関数またはプロシージャ *function-name* に、方式に渡すことができなかった **NULL** 値を持つ入力引き数があります。

説明: "CALLED ON NULL INPUT" で作成された関数、またはプロシージャが **NULL** 値を持つ入力パラメーターを持っていますが、この引き数の *Java* データ・タイプは **NULL** 値をサポートしていません。**NULL** 値をサポートしていない *Java* データ・タイプの

例は BOOLEAN、BYTE、SHORT、INT、LONG、または DOUBLE です。

ユーザーの処置: 方式が NULL 値で呼び出される場合は、入力 Java タイプが NULL 値を受け入れ可能であることを確認してください。関数の場合、“RETURNS NULL ON NULL INPUT” で関数を作成することができます。

sqlcode: -20205

sqlstate: 39004

SQL20206W プロシージャ *function-name* が返した結果セットが多すぎます。

説明: 示されているプロシージャが、CREATE PROCEDURE ステートメントで指定された数よりも多い結果セットを返しました。

ユーザーの処置: 返される結果セットが少なくなるようにプロシージャを変更するか、このプロシージャをドロップして再作成し、適切な数の結果セットを指定してください。

sqlcode: +20206

sqlstate: 0100E

SQL20207N *jar-id* の **jar** インストールまたは除去プロシージャが、デプロイメント記述子の使用を指定しました。

説明: jar インストールまたは置換プロシージャの DEPLOY または UNDEPLOY パラメーターが非ゼロでした。このパラメーターはサポートされていないので、ゼロにしなければなりません。

ユーザーの処置: DEPLOY または UNDEPLOY パラメーターをゼロに設定して、プロシージャを再実行してください。

sqlcode: -20207

sqlstate: 46501

SQL20208N 表 *table-name* を作成できません。理由コード = *reason-code*

説明: 以下の理由コードに示されているように、制限に違反しているため、表を作成できません。

1. ステージング表の定義に使用される表が、REFRESH DEFERRED オプションを指定したマテリアライズ照会表ではない。
2. ステージング表の定義に使用される表には、すでに関連するステージング表がある。
3. CREATE TABLE ステートメントが、カタログされていないデータベース・パーティションから発行さ

れた場合、ニックネームを参照するマテリアライズ照会表は作成されません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、次のとおりです。

1. ステージング表を定義するには、REFRESHED DEFERRED オプションを使ってマテリアライズ照会表を指定する。
2. ステージング表と関連しないマテリアライズ照会表を指定する。
3. カタログ・データベース・パーティションから CREATE TABLE ステートメントを発行する。

sqlcode:-20208

sqlstate:428FG

SQL20209N *option-type* オプションは、表 *table-name* には無効です。理由コード *reason-code*

説明: 以下の理由で、指定されたオプションは無効です。

1. チェック・ペンディング、no access 状態の表で READ ACCESS オプションを指定できない。
2. 表にチェックされていない保安全性タイプがある場合は、FULL ACCESS オプションは無効である。
3. データなし動作モードにない表で FULL ACCESS オプションは無効である。
4. 表がデータなし動作モードでない場合は、FULL ACCESS オプションを IMMEDIATE UNCHECKED 文節とともに指定することはできない。
5. ステージング表でない表で PRUNE オプションは無効である。
6. PRUNE および INCREMENTAL オプションを同時に指定することはできない。

ユーザーの処置:

1. READ ACCESS オプションを指定しない。
2. FULL ACCESS オプションを SET INTEGRITY ... IMMEDIATE CHECKED ステートメントとともに使用するか、あるいは SET INTEGRITY ... IMMEDIATE UNCHECKED ステートメントの保安全性オプションとして ALL を指定する。
3. FULL ACCESS オプションを IMMEDIATE CHECKED オプションとともに使用する。
4. FULL ACCESS オプションを IMMEDIATE UNCHECKED 文節なしで使用する。
5. ステージング表でない表をステートメントから除去する。

6. PRUNE または INCREMENTAL のいずれか 1 つを指定する。

sqlcode:-20209;

sqlstate:428FH;

SQL20210N ORDER OF 表指定子 が指定されました。この表指定子は ORDER BY 文節を含みません。

説明: 表指定子の順序に基づいて配列するよう指定されましたが、表指定子には ORDER BY 文節は含まれていないので配列されません。

ユーザーの処置: 表指定子の指定に ORDER BY 文節を追加するか、ORDER BY の代わりにソート・キー指定を使用してください。

sqlcode: -20210

sqlstate: 428FI

SQL20211N ORDER BY または FETCH FIRST n ROWS ONLY の指定が無効です。

説明: ORDER BY または FETCH FIRST n ROWS ONLY は以下においては使用できません。

- ビューの外部全選択
- SQL 表関数の RETURN ステートメントにおける外部全選択
- マテリアライズ照会表の定義
- 括弧で囲まれていない副選択

ユーザーの処置: 以下のケースでは、次のようにしてください。

subselect

ORDER BY または FETCH FIRST n ROWS ONLY を含む副選択を括弧で囲んでください。

FETCH FIRST n ROWS ONLY

where 文節の述部とともに ROW_NUMBER() OVER() 文節を使用してください。例：

```
SELECT name FROM
  (SELECT
    ROW_NUMBER() OVER() AS m, name
  FROM emp
  ) AS e
WHERE m < 10
```

ORDER BY

ビュー、マテリアライズ照会表、または SQL 表関数を代わりに使って、照会で ORDER BY を使用してください。

sqlcode: -20211

sqlstate: 428FJ

SQL20212N ユーザー定義ルーチン function-name が Java クラス class-name を JAR JAR-name からロードしようとして例外を検出しました。オリジナル例外 underlying-exception。

説明: ClassNotFoundException が発生しました。ClassNotFoundException は、クラスが見つからなかった原因をさらに詳しく説明するオリジナルの Java 例外を参照している可能性があります。たとえば、基となる例外は、JAR ファイルの読み取り試行中に発生した入力エラーか、またはデータ・ディクショナリーから JAR を読み取り中に発生した SQL エラーである可能性があります。以下のトークンのうち、SQLCA 制限内に収まるだけのトークンが戻されます。

function-name は、実行により ClassNotFoundException を検出した外部 Java 関数またはプロシーチャーの特定名を識別します。

class-name は、定義の見つからない Java クラスを識別します。

JAR-name は、識別されたクラスを含むことを予期されている、インストール済み JAR を任意で識別します。外部 Java 関数またはプロシーチャーがインストール済み JAR に含まれるよう定義されていないかぎり、(none) が指定されます。

underlying-exception には、この ClassNotFoundException の結果として発生した、基となる例外の toString() が任意で含まれます。基となる例外がない場合は、(none) が指定されます。

ユーザーの処置: ALTER PROCEDURE を実行して、クラスの場所を指定したり、指定された JAR またはシステム・クラスパスにクラスがあることを確認したり、underlying-exception によって報告された条件を訂正します。

sqlcode: -20212

sqlstate: 46103

SQL20214N ORDER OF 表指定子 が指定されましたが、この表指定子は配列されませんでした。

説明: ORDER OF 文節は、表指定子の順序に基づいて結果表の配列を指定しましたが、配列は実行されませんでした。表指定子に関連する照会に ORDER BY 文節がありません。または、ORDER BY 文節のソート・キーが定数式です。

ユーザーの処置: 表指定子に関連する照会に有効な

ORDER BY 文節を追加するか、ORDER OF 文節を使用する代わりにソート・キー指定を使用してください。

sqlcode: -20214

sqlstate: 428FI

SQL20223N ENCRYPT または DECRYPT 関数が失敗しました。暗号化機能は使用できません。

説明: 暗号化または暗号解除要求を実行するための暗号化機能が使用できません。

ユーザーの処置: 暗号化機能がインストールされていない場合は、ENCRYPT または DECRYPT 関数を使用する前にインストールしてください。暗号化機能がインストールされている場合は、それが正しく機能していることを確認してください。

sqlcode: -20223

sqlstate: 560BF

SQL20225W バッファ・プール操作 (DROP) は、バッファ・プールが使用中のため、次回データベースが再始動されるまで有効になりません。

説明: DROP BUFFERPOOL ステートメントが発行されて、正常に完了しましたが、表スペースがこのバッファ・プールをまだ使用しています。表スペースを他のバッファ・プールに再割り当てることはできますが、データベースを再始動するまでは、表スペースの再割り当ては有効になりません。この操作を確定する前に問題の表スペースがドロップされると、その時点で、メモリーからバッファ・プールが削除されます。このバッファ・プールは、次にデータベースを再始動するまでメモリー内に残るので、その他のバッファ・プールを作成または変更を行うと、そのことでこのバッファ・プールが再利用される場合は、その作成または変更操作は据え置かれます。

ユーザーの処置: メモリーからバッファ・プールを削除するには、データベースを再始動してください。

sqlcode: 20225

sqlstate: 01657

SQL20230N プロシージャ名が CALL ステートメントのホスト変数で指定されておらず、引き数が USING DESCRIPTOR 文節で指定されていない可能性があります。

説明: プロシージャ名は、CALL ステートメントの ID として指定する必要があり、引き数を明白に指定しなくてはなりません。ホスト変数はプロシージャ名に

使用されない可能性があります。USING DESCRIPTOR 文節が引き数の指定に使用されない可能性があります。

ユーザーの処置: CALL ステートメントは、プロシージャ名の ID を指定するためと、引き数を明白にリストするために書き直す必要があります。プロシージャ名または引き数のいずれかがランタイムまで識別されない場合は、動的に準備された CALL ステートメントを使用してください。

V8 以前のリリースから移行されたアプリケーションの場合、CALL_RESOLUTION DEFERRED プリコンパイル・オプションは動的に準備された CALL ステートメントを使用するためにアプリケーションが書き直されるまで使用できます。

sqlcode: -20230

sqlstate: 42601

SQL20238N 表 *table-name* は、CCSID UNICODE として定義されており、SQL 関数または SQL メソッドで使用することができません。

説明: 非 Unicode データベースでは、ASCII コード化スキームを使用した表だけが SQL 関数または SQL メソッドの内部で参照される可能性があります。表 *table-name* が CCSID UNICODE として定義されているため、SQL 関数または SQL メソッドで使用されない可能性があります。

ユーザーの処置: CCSID UNICODE 表を SQL 関数または SQL メソッドで使用しないでください。

sqlcode: -20238

sqlstate: 560C0

SQL20239N Unicode コード化スキームで作成された表を型付き表にはできません。また、GRAPHIC タイプまたはユーザー定義タイプをその中で使用することもできません。

説明: 非 Unicode データベースでは、Unicode コード化スキームで作成された表を型付き表にはできませんし、GRAPHIC タイプまたはユーザー定義タイプで定義された列には含まれません。

ユーザーの処置: CCSID UNICODE 文節、GRAPHIC タイプ、またはユーザー定義タイプを表定義から除去してください。

sqlcode: -20239

sqlstate: 560C1

SQL20241N ドロップされた表 *table-name* に対する履歴ファイル項目の書き込みが失敗しました。

説明: ドロップされた表のリカバリーは、ドロップされた表 *table-name* が常駐する表スペースで可能です。表スペースがドロップされた表のリカバリーを可能にすると、履歴ファイル項目が、表のドロップの一部として作成されます。この履歴ファイルには、ドロップされた表のリカバリー中に役立つデータが含まれます。ドロップされた表に新規履歴ファイル項目を書き込むことはできませんでした。その結果、表のドロップを完了できませんでした。

履歴ファイルがあるファイル・システム全体に、このような失敗の原因があると考えられます。

ユーザーの処置: 履歴ファイルがデータベース・マネージャによる書き込みができるかどうか確認してください。ドロップされた表のリカバリーに関心がない場合は、この機能を使用不可にし、DROP TABLE ステートメントを再発行してください。

sqlcode: -20241

sqlstate: 560C2

SQL20242N TABLESAMPLE 文節で指定されたサンプルのサイズは無効です。

説明: TABLESAMPLE 文節で指定されたサンプルのサイズは、100 以下の正の数値である必要があります。

このステートメントは処理されませんでした。

ユーザーの処置: TABLESAMPLE 文節で指定されたサンプルのサイズを、100 以下の正の数値に変更してください。

sqlcode: -20242

sqlstate: 2202H

SQL20243N ビュー *view-name* は MERGE ステートメントのターゲットですが、*operation* 操作の INSTEAD OF トリガーが欠落しています。

説明: ビュー *view-name* は、MERGE ステートメントの直接または間接ターゲットで、INSTEAD OF トリガーをターゲットように定義していますが、すべての操作に対して、INSTEAD OF トリガーを定義しているわけではありません。 *operation* 操作に対するトリガーはありません。

ユーザーの処置: ビュー *view-name* に、UPDATE、DELETE、および INSERT 操作に対する INSTEAD OF トリガーを作成するか、またはビューに

対するすべての INSTEAD OF トリガーをドロップしてください。

sqlcode: -20243

sqlstate: 428FZ

SQL20253N 競合する削除規則のマルチ・リレーションシップにより、BEFORE トリガーまたは生成列が定義されている表を、少なくとも 1 つの上位表に連結削除することになるため、BEFORE トリガーまたは生成列 *name* を作成または変更できません。制約 *constraint-name1* および *constraint-name2* 削除規則間に競合があります。理由コード = *reason-code*。

説明: CREATE TRIGGER、CREATE TABLE、または ALTER TABLE ステートメントの BEFORE トリガーまたは生成列 *name* の定義は、次の *reason-code* で指定された理由により、無効です。

1. 制約 *constraint-name1* の削除規則を実行すると、BEFORE トリガー *name* および BEFORE トリガーの本文が、制約 *constraint-name2* の外部キーの一部である列を変更、または、制約 *constraint-name2* の外部キーの一部である生成列が参照する列を変更する。
2. 制約 *constraint-name1* の削除規則を実行すると、生成列 *name* および制約 *constraint-name2* の外部キーの一部である生成列自体の更新を実行する。
3. BEFORE トリガーまたは生成列、*name* を追加すると、制約 *constraint-name1* と *constraint-name2* の両方が同じ列を更新する。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、次のとおりです。

1. 制約 *constraint-name1* の削除規則の実行時に BEFORE トリガーを発生しないよう BEFORE トリガー定義を変更するか、または制約 *constraint-name2* の外部キーの一部である列を変更せず、かつ 制約 *constraint-name2* の外部キーの一部である生成列が参照する列を変更しないよう BEFORE トリガーの本文を変更してください。
2. 制約 *constraint-name1* の削除規則の実行時に生成列が更新されないよう生成列式を変更、または、制約 *constraint-name2* の外部キーが生成列を含まないように変更してください。
3. 制約 *constraint-name1* と *constraint-name2* の両方の実行時に同じ列を更新しないよう BEFORE トリガー定義または生成列式を変更してください。

sqlcode: -20253

sqlstate: 42915

SQL20254N 外部キー *name* は、表 *table-name* を **RESTRICT** または **SET NULL** のいずれかの削除規則が含まれるサイクルにより、このキー自身に連結削除することになるため無効です。理由コード = *reason-code*。

説明: 参照サイクルに **RESTRICT** または **SET NULL** の削除規則が含まれてはいけません。CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの外部キー *name* に指定された削除規則は、次の *reason-code* で指定された理由により、無効です。

1. 指定された削除規則が **RESTRICT** または **SET NULL** であり、参照リレーションシップにより、表 *table-name* が表自身に連結削除される。
2. 指定された削除規則が **CASCADE** でありながら、参照リレーションシップは、**RESTRICT** または **SET NULL** のいずれかの削除規則が含まれるサイクルによって表 *table-name* が表自身に連結削除される。

FOREIGN KEY 文節で指定すると、*name* は制約名になります。制約名を指定しなかった場合、*name* は FOREIGN KEY 文節の列リストで指定された、3 つのピリオドが後に続く最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、次のとおりです。

1. 削除規則を **CASCADE** または **NO ACTION** に変更するか、あるいは CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントから特定の FOREIGN KEY 文節を取り除いてください。
2. 削除規則を **NO ACTION**、**RESTRICT**、または **SET NULL** に変更するか、または CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントから特定の FOREIGN KEY 文節を取り除いてください。

sqlcode: -20254

sqlstate: 42915

SQL20255N 外部キー *name* は、下層表 *descendent-table-name* を、競合する削除規則とのマルチ・リレーションシップにより、下層表の上位表 *ancestor-table-name* に連結削除することになるため、無効です。下層表の制約 *constraint-name1* および *constraint-name2* の削除規則間に競合があります。理由コード = *reason-code*。

説明: CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの外部キー *name* に指定された参照制約は、次の *reason-code* で指定された理由により、無効です。

1. リレーションシップが自己参照で、**RESTRICT** または **SET NULL** の削除規則により指定されており、表が **CASCADE** 削除規則とのリレーションシップにある従属表である。
2. リレーションシップが **CASCADE** 削除規則により指定されており、**RESTRICT** または **SET NULL** 削除規則との自己参照リレーションシップが表にすでに存在する。
3. 外部キーは、既存リレーションシップの外部キーとオーバーラップしており、これらの削除規則が同じでないか、またはどちらかが **SET NULL** である。
4. リレーションシップが **CASCADE** 削除規則で指定されており、この規則によって、少なくとも2つのリレーションシップにオーバーラップする外部キーがあり、これらの削除規則が同じではなく、いずれかが **SET NULL** である複数のリレーションシップを介して、下層表がその上位表に連結削除される。
5. 競合する参照制約の少なくとも1つが **SET NULL** 削除規則で指定されており、その外部キー定義がパーティション化キーまたは MDC 表のディメンションのいずれかとオーバーラップしている。
6. リレーションシップが **CASCADE** 削除規則で指定されており、この規則によって、少なくともリレーションシップのいずれかが **SET NULL** 削除規則に指定されており、オーバーラップする外部キーがあり、外部キー定義がパーティション化キーまたは MDC 表のディメンションとオーバーラップしている複数のリレーションシップを介して、下層表がその上位表に連結削除される。
7. BEFORE トリガーと生成列では、新規の参照制約定義が既存の参照制約と競合する。
8. BEFORE トリガーと生成列では、新規の参照制約により、連結削除されたグラフで別の競合する参照制約の共存が発生する。

FOREIGN KEY 文節で指定すると、*name* は制約名になります。制約名を指定しなかった場合、*name* は

FOREIGN KEY 文節の列リストで指定された、3つのピリオドが後に続く最初の列名になります。同一の規則が *constraint-name1* および *constraint-name2* に適用されます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、次のとおりです。

1. 削除規則を CASCADE または NO ACTION に変更するか、あるいは CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントから特定の FOREIGN KEY 文節を取り除いてください。
2. 削除規則を NO ACTION、RESTRICT、または SET NULL に変更するか、または CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントから特定の FOREIGN KEY 文節を取り除いてください。
3. 既存の外部キー定義にすでに含まれている外部キー定義に列を定義しないようにするか、または既存の参照制約の削除規則が SET NULL でない場合は、新規参照制約の削除規則を同じになるように変更してください。
4. 削除規則を NO ACTION、RESTRICT、または SET NULL に変更するか、または CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントから特定の FOREIGN KEY 文節を取り除いてください。
5. 既存のパーティション化キー定義にすでに含まれている外部キー定義に列を指定しないようにするか、または CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントから特定の FOREIGN KEY 文節を取り除いてください。
6. 削除規則を NO ACTION、RESTRICT、または SET NULL に変更するか、または CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントから特定の FOREIGN KEY 文節を取り除いてください。
7. 削除規則を NO ACTION に変更するか、参照制約で発生するトリガーを除去するか、または、新規の参照制約を作成しないでください。
8. 削除規則を NO ACTION、RESTRICT、または SET NULL に変更するか、または ALTER TABLE ステートメントから特定の FOREIGN KEY 文節を取り除いてください。

sqlcode: -20255

sqlstate: 42915

SQL20256N 外部キー *name* は、2つの表 *table-name1* と *table-name2* を、CASCADE リレーションシップにより同一の上位表 *ancestor-table-name* に連結削除される一方で、相互に連結削除することになるため、無効です。理由コード = *reason-code*。

説明: 2つの表が CASCADE リレーションシップによって同じ表に連結削除される場合、それぞれのパスの最後のリレーションシップの削除規則が RESTRICT または SET NULL である2つの表を相互に連結削除してはいけません。CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節内に指定された削除規則が、次の *reason-code* で指定される理由により無効です。

1. リレーションシップが RESTRICT または SET NULL 削除規則により指定されており、2つの表が相互に連結削除される。
2. リレーションシップが CASCADE 削除規則により指定されており、それぞれのパスの最後のリレーションシップの削除規則が RESTRICT または SET NULL である2つの表を相互に連結削除する。ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、次のとおりです。

1. 削除規則を CASCADE または NO ACTION に変更するか、あるいは CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントから特定の FOREIGN KEY 文節を取り除いてください。
2. 削除規則を NO ACTION、RESTRICT、または SET NULL に変更するか、または CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントから特定の FOREIGN KEY 文節を取り除いてください。

sqlcode: -20256

sqlstate: 42915

SQL20257N 全選択中の SQL データ変更ステートメントのターゲット・ビュー *viewname* に INSTEAD OF トリガー定義がある場合、FINAL TABLE は無効です。

説明: 全選択には、SQL データ変更操作に INSTEAD OF トリガーを定義されたビューをターゲットとする INSERT または UPDATE ステートメントなどがあります。INSTEAD OF トリガーでの FINAL TABLE の結果を戻すことはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: FINAL TABLE を NEW TABLE に

変更するか、または INSTEAD OF トリガーをドロップします。

sqlcode: -20257

sqlstate: 428G3

SQL20258N INPUT SEQUENCE 配列の使用が無効です。

説明: ORDER BY 文節は INPUT SEQUENCE を指定しているのに対して、全選択の FROM 文節は INSERT ステートメントを指定していません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 全選択の FROM 文節が INSERT ステートメントを指定する場合は、INPUT SEQUENCE を使用してください。

sqlcode: -20258

sqlstate: 428G4

SQL20259N 全選択の FROM 文節中のデータ変更ステートメントのターゲットから、列 *column-name* を選択できません。

説明: この照会の選択リストに指定できない列を選択しました。NEW TABLE または FINAL TABLE を使って FROM 文節に指定された INSERT または UPDATE ステートメントのターゲットであるビューまたは全選択内の列が、この列のベースになっています。選択する列のベースは、以下のとおりです。

- 副照会
- SQL データの読み取りまたは変更を行う関数。
- 決定論的であるかまたは外部アクションをとまなう関数。
- OLAP 関数。
- シーケンスの次の値。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 選択リストを変更して、列を除去してください。

sqlcode: -20259

sqlstate: 428G6

SQL20260N UPDATE ステートメントの割り当て文節は、INCLUDE 列以外の 1 つ以上の列を指定する必要があります。

説明: UPDATE ステートメントに INCLUDE 列を指定しましたが、INCLUDE 列に対してしか割り当ては行われていません。UPDATE ステートメント内の割り当て

のうちの少なくとも 1 つは、UPDATE ステートメントのターゲットの列に対するものでなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: UPDATE ステートメントのターゲットの列に対する割り当てを指定するようにステートメントを変更してください。

sqlcode: -20260

sqlstate: 428G5

SQL20261N UNION ALL ビュー *view-name* 内の表 *table-name* への行移動は無効です。

説明: 表 *table-name* 上のチェック制約が原因で、更新済みの行が拒否されました。 *view-name* の別の基礎表にその行を挿入しようとしたときは、表 *table-name* はその行を受け入れました。移動される行の宛先表は、元の表と同じであってはなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ターゲット表での before update トリガーと before insert トリガーの相互作用を確認してください。行移動を実行すると、DB2 では最初に更新前トリガーが実行されて、それによって行が修正されることがあります。次に、拒否された行は before insert トリガーによって処理される可能性があり、その場合、ターゲット表のチェック制約であらためて受け入れられるようにその行が再び修正されることとなります。

このように処置されないように、トリガーを変更してください。

sqlcode: -20261

sqlstate: 23524

SQL20262N ビュー *view-name* での WITH ROW MOVEMENT の使用は無効です。理由コード = *reason-code*。

説明: ビュー *view-name* は、WITH ROW MOVEMENT 文節を使って定義されています。以下のうちの 1 つが原因で、この文節をビューで用いることはできません。

1. そのビューの最も外側の全選択が UNION ALL ではない。
2. そのビューには、最も外側の全選択のもの以外のネストされた UNION ALL 操作が入っている。
3. すべてのビュー列が更新可能というわけではない。
4. ビューの 2 つの列が、基本表の同一列をベースにしている。

5. 基本ビューのうちの 1 つで、INSTEAD OF UPDATE トリガーが定義されている。

ビューを作成できません。

ユーザーの処置: 理由コードに応じて、以下の処置を行ってください。

1. WITH ROW MOVEMENT 文節を省略します。これは、UNION ALL のないビューには適用されません。
2. 最も外側の全選択でのみ UNION ALL が出現するように、ビュー本体を書き直してください。
3. ビュー定義から更新できない列を省略してください。
4. 基本表の各列が、ビュー定義内で 1 回のみ参照されるように、ビュー本体を書き直します。
5. 新たに定義したビュー上で、WITH ROW MOVEMENT 文節を省略して、INSTEAD OF UPDATE トリガーを使用してください。

sqlcode: -20262

sqlstate: 429BJ

SQL20263N ビュー *view-name2* は、WITH ROW MOVEMENT を使って定義されているので、ビュー *view-name1* の更新の試みは無効です。

説明: *view-name1* を更新する試みは失敗しました。これには、WITH ROW MOVEMENT 文節を指定して定義されているビュー *view-name2* が関与した UNION ALL 操作が直接的または間接的に組み込まれているからです。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ビュー *view-name2* をドロップし、WITH ROW MOVEMENT 文節を使わないで再作成してください。

sqlcode: -20263

sqlstate: 429BK

SQL20267N 関数 *function-name* (具体的な *specific-name*) は、SQL データを修正しますが、正しくないコンテキストで起動されました。理由コード = *reason-code*。

説明: 具体名 *specific-name* を使った関数 *function-name* は、MODIFIES SQL DATA プロパティを使って定義されています。このプロパティをもつ関数を使えるのは、選択ステートメント、共通表式、副選択である RETURN ステートメント、SELECT INTO ステートメ

ント、またはSET ステートメント内の行全選択内の最後の表参照としてのみです。また、表関数に対するどの引き数も、表関数と同じ FROM 文節内の表参照と相互に関連付けられていなければならない、さらにどの表参照も、表関数内のいずれかの引き数と相互に関連付けられていなければならない。引き数が表参照と相互に関連付けられるのは、その表参照の列である場合です。

理由コード:

1. 表関数の後に表参照が続いています。
2. 最も外側の副選択中で表関数が参照されていません。
3. 関数の引き数によって参照されていない表参照が、表関数の前に置かれています。
4. ビュー定義の本体内で表関数が使われています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置:

1. 表関数が、FROM 文節の最後の表参照になるように、照会を書き直してください。
2. 最も外側の副選択内に入るように表関数を移動してください。
3. 表関数内で相互に関連付けられていない表参照を除去するか、または表参照と相互に関連付けられている引き数を表関数の中に組み込んでください。
4. ビュー定義の本体から表関数を除去してください。

理由コード 1、2、および 3 の場合、共通表式を使って照会を書き直して、表関数の呼び出しを個別化することができます。

例:

```
SELECT c1 FROM
  (SELECT c1 FROM t1, t2,
   TABLE(tf1(t1.c1) AS tf), t3)
  AS x, t4
```

上記を次のように書き直すことができます。

```
WITH cte1 AS (SELECT c1 FROM t1,
  TABLE(tf1(t1.c1) AS tf),
  AS (SELECT c1 FROM t2, cte1, t3)
  SELECT c1 FROM x, t4;
```

sqlcode: -20267

sqlstate: 429BL

SQL20269 適用されている参照制約の中でニックネーム *nickname* を参照することはできません。

説明: CREATE TABLE ステートメントの参照制約が無効です。その制約定義で ENFORCED が指定されていますが、ニックネームが参照されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: NOT ENFORCED を指定するように参照制約を変更するか、またはニックネームへの参照を削除してください。

sqlstate: -20269

sqlcode: 428G7

SQL20271W 名前 *column-or-parm-name* のステートメントの中の位置 *number* にある名前は、切り捨てられました。

説明: 示されているステートメントの中の 1 つ以上の名前が切り捨てられました。切り捨てられた最初の名前は、順序位置 *number* および *column-or-parm-name* で識別されるものです。準備済み照会の describe output を実行している場合、この順序位置は、その照会の選択リスト列に対する相対値です。CALL ステートメントの describe output を実行している場合、この順序位置は、その CALL の解決先プロシーチャーの OUT または INOUT パラメーターに対する相対値です。CALL ステートメントの describe input を実行している場合、この順序位置は、その CALL の解決先プロシーチャーの IN または INOUT パラメーターに対する相対値です。

列名またはパラメーター名が長すぎるか、またはコード・ページ変換後の結果が長すぎます。

ユーザーの処置: 列名の場合、列の正確な名前を指定することが必要なら、列の名前がもっと短くなるように表、ビュー、またはニックネームを変更するか、または列名の展開結果がサポートされている最大長を超えないようなコード・ページのクライアントを使用してください。パラメーター名の場合、パラメーターの正確な名前を指定することが必要なら、パラメーターの名前がもっと短くなるようにプロシーチャーを変更するか、またはパラメーター名の展開結果がサポートされている最大長を超えないようなコード・ページのクライアントを使用してください。

SQL20273N データベースはフェデレーション可能になっていないので、ニックネーム統計を更新できません。

説明: エラーがインスタンス・レベルで検出されました。このインスタンスのフェデレーションは使用可能になっていないので、要求された操作を完了できません。

ユーザーの処置: DBM 変数 FEDERATED を YES に設定してから、データベース・マネージャーを再始動してください。

sqlcode: -20273

sqlstate: 55056

SQL20274W 一部のニックネーム統計を更新できません。

説明: DB2 は、ニックネームに対して照会を実行して統計を収集できないか、または DB2 は、フェデレーテッド・データベース・システムのカatalogに更新結果を書き込めないかのどちらかです。

ユーザーの処置: ログ・ファイルのパスを指定していた場合、ニックネーム統計の更新エラーはログ・ファイルに一覧で示されています。

sqlcode: +20274

sqlstate: 550C8

SQL20275N XML 名 *xml-name* は無効。理由コード = *reason-code*。

説明: 以下の理由コードで示されている制約に対する違反のため、ステートメントを処理できません。

1. xmlns が属性名として、またはエレメントまたは属性の名前の接頭部として使用された。
2. 修飾名中のネーム・スペース接頭部は、その有効範囲内で宣言されていない。
3. エレメントまたは属性の名前は XML QName ではない。

ユーザーの処置: XML 名を訂正して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -20275

sqlstate: 42634

SQL20276N XML ネーム・スペース接頭部 *xml-namespace-prefix* は無効です。理由コード = *reason-code*。

説明: 以下の理由コードで示されている制約に対する違反のため、ステートメントを処理できません。

1. ネーム・スペース接頭部は XML NCName ではありません。
2. xml または xmlns をネーム・スペース接頭部として再宣言することはできません。
3. 重複するネーム・スペース接頭部が宣言されました。

ユーザーの処置: XML ネーム・スペース接頭部を訂正して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -20276

sqlstate: 42635

SQL20277W コード・ページ *source-code-page* からコード・ページ *target-code-page* への変換を実行中に、文字が切り捨てられました。ターゲット域の最大サイズは、*max-len* でした。ソース・ストリングの長さは *source-len* で、その 16 進数表記は *string* でした。

説明: SQL ステートメントの実行中に、コード・ページ変換処理の結果が、ターゲット・オブジェクトの最大サイズより大きなストリングになりました。ターゲット領域に入るよう、文字が切り捨てられました。

ユーザーの処置: 切り捨てにより予期しない結果になった場合には、ターゲット列の長さを大きくしてからステートメントを再び発行してください。

sqlcode: +20277

sqlstate: 01004

SQL20278W 照会の処理の最適化にビュー *viewname* を使用することはできません。

説明: ビューが照会内で直接参照されない場合にはビュー上の統計を最適化に使用することを禁止するエレメントが、ビューの全選択に組み込まれています。全選択中のそのようなエレメントには次のものがあります。

- 集約関数
- 別個の操作
- SET 操作 (UNION、EXCEPT、または INTERSECT)

照会の最適化を使用可能にするためのビューの変更は正常に完了します。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。ビューを直接参照しない照会の最適化がビューの目的であれば、ビューをドロップするか、または最適化を使用不可にすることができます。また、最適化の妨げとなるエレメントの除去のために、ビューの全選択を定義することを検討してみることもできます。

sqlcode: +20278

sqlstate: 01667

SQL20279N ビュー *view-name* を照会の最適化に使用できません。理由コード = *reason-code*。

説明: ビューでは ENABLE QUERY OPTIMIZATION オプションは許可されません。この機能の利点を活用する一連の照会に対して全選択が適合していないからです。ステートメントは次の理由のいずれかで失敗しました。

1. ビューは、既存のマテリアライズ照会を直接または間接に参照している。
2. ビューは、型付きのビューである。
3. ビューが外部アクションを含む関数を参照している。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 理由コードを基に、以下のようにアクションを実行します。

1. マテリアライズ照会表への参照を除去してください。
2. 型付きビュー上で統計を指定する手段はありません。型付きビューではない似通ったビューを定義すれば、統計を使った最適化を使用可能にすることができます。
3. ビュー照会から、外部アクションを含む関数への参照をすべて除去してください。

sqlcode: -20279

sqlstate: 428G8

SQL20280W *log-file-path* ファイルの作成または書き込みの許可が不十分です。

説明: ステートメントは正常に完了しましたが、ユーザーは、指定したログ・ファイル *log-file-path* の作成や書き込みの許可を受けていません。

ユーザーの処置: ログ・ファイルに詳細を書き込むには、指定したログ・ファイル・パスへの書き込みアクセス権をもっていることを確認してください。または、ログ・ファイル・パスを省略してください。

sqlcode: -20280

sqlcode: 42501

SQL20282N .NET プロシージャまたはユーザー定義関数 *name*、特定名 *specific-name* で、.NET クラス *class* をロードできませんでした。理由コード *reason-code*。

説明: CREATE PROCEDURE あるいは CREATE FUNCTION ステートメントの EXTERNAL NAME 文節に指定された .NET クラスをロードできませんでした。理由コードには、以下のものがあります。

1. .NET ルーチンのアセンブリーが見つかりませんでした。
2. 指定されたアセンブリーの中にクラスが見つかりませんでした。

3. データベース・カタログの中で指定されたタイプに合致するタイプのメソッドが、指定されたクラスの中に見つかりませんでした。

ユーザーの処置:

1. ファイル拡張子も含め、正しいアセンブリー・ファイルを指定してください。絶対パスを指定しない場合は、アセンブリーのインスタンスのうち PATH の中で検出される最初のインスタンスがロードされるため、システム PATH の中にそのアセンブリーのインスタンスが 1 つだけ存在することを確認してください。
2. 応答 1 での記述に従って、アセンブリーが正しく指定されていることを確認してください。クラス名が大文字と小文字の区別も含めて正確に指定されていること、また指定されたアセンブリーの中にそれが存在していることを確認してください。
3. 応答 2 での記述に従って、クラスが正しく指定されていることを確認してください。メソッド名が大文字と小文字の別も含めて正確に指定されていること、また指定されたクラスの中に "public static void" メソッドとしてそれが存在していることを確認してください。

sqlcode: -20282

sqlstate: 42724

SQL20284N フェデレーテッド・データ・ソース *server-name* 用のプランを作成できません。理由 = *reason-code*。

説明: フェデレーテッド照会アクセス・プランの立案中に、以下の理由コードに示されているとおり、述部が欠落しているか、または照会構文上の問題が原因で、1 つ以上のデータ・ソースの照会フラグメントを処理できません。

1. 必要な述部が欠落しています。
2. データ・ソースで処理できる述部が、OR 演算子または BETWEEN 述部を使って別の述部に結合されています。

ユーザーの処置: このデータ・ソースに関する DB2 Information Integrator の資料を参照してください。必要に応じて照会構文を訂正して、ステートメントを再サブミットしてください。理由コードに対応するアクションは、次のとおりです。

1. 欠落した述部を付け加えてください。
2. OR 演算子ではなく AND 演算子を使って、データ・ソースの述部どうしが互いに隔絶されるようにステートメント構文を変更してください。

sqlcode: -20284

sqlcode: 429BO

SQL20287W 指定されたキャッシュ・ステートメントの環境は、現在の環境とは違うものです。現在の環境を使用して、指定された SQL ステートメントを最適化しなおします。

説明: 前に REOPT ONCE を指定して再最適化されたステートメントの Explain のために Explain 機能が呼び出されましたが、現在の環境は、キャッシュに入っているステートメントが当初コンパイルされた環境とは異なっています。現在の環境を使用して、指定されたステートメントを最適化しなおします。

ステートメントは処理されます。

ユーザーの処置: プランがキャッシュに入っているプランと一致するために、オリジナルのステートメントが再最適化され、キャッシュに入れられた際の環境に一致する環境で、EXPLAIN を再発行してください。

sqlcode: -20287

sqlstate: 01671

SQL20288N タイプ *object-type* のオブジェクト *object-name* の統計データを更新できませんでした。理由コード = *reason-code*。

説明: 理由コードによって示される理由により、RUNSTATS または UPDATE のターゲット・オブジェクトの統計データを設定できませんでした。可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

1. そのターゲット・オブジェクト・タイプで統計データがサポートされていない。
2. そのターゲット・オブジェクト・タイプには適用されない 1 つ以上の統計データを更新しようとした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置:

1. RUNSTATS または UPDATE のターゲットとして指定されたオブジェクト名について、統計が可能であることを確認してください。
2. 最適化対応のビューに対して禁止されている RUNSTATS オプションを除去してください。

sqlcode: -20288

sqlstate: 428DY

SQL21000 - SQL21099

SQL21000N DB2 Net Search Extender がこのプラットフォームにインストールされていないか、正しく構成されていません。

説明: このサーバーには、DB2 Net Search Extender のサポートがインストールされておらず、また構成もされていません。このサポートは、次のいずれかの関数を使用するのに必要です: CONTAINS、SCORE または NUMBEROFMATCHES。

ユーザーの処置: DB2 Net Search Extender がインストールされていることを確認してください。

sqlcode: -21000

sqlstate: 42724

SQL22000 - SQL22099

SQL22000W オブジェクト *object-name* に対して要求された構成が見つかりません。 *object-type* に対してデフォルト構成を戻します。

説明: このオブジェクトは、そのオブジェクト独自の特定の構成を持っていないため、そのオブジェクト・タイプに対してデフォルト構成が戻されます。

ユーザーの処置: デフォルト構成の振る舞いが正しい場合、アクションは必要ありません。

場合、アクションは必要ありません。

SQL22006N 存在していないため、*object-action-or-contact-name* を更新または削除できません。

説明: API が、存在しないエレメントの構成の更新を要求されました。

ユーザーの処置: このエレメントを作成してから、API 呼び出しを再発行してください。

SQL22001W オブジェクト *object-name* のデフォルト構成が見つかりません。 *object-type* に対してインストール構成を戻します。

説明: このオブジェクトは、そのオブジェクト独自の特定の構成を持っていないため、そのオブジェクト・タイプに対してインストール構成が戻されます。

ユーザーの処置: インストール構成の振る舞いが正しい場合、アクションは必要ありません。

SQL22007N 指定されたヘルス・インディケーターの ID または名前 *Health-Indicator-name* が無効です。

説明: 要求されたアクションは、有効なヘルス・インディケーターにしか実行できません。指定されたヘルス・インディケーターは存在しません。

ユーザーの処置: 正しい ID または名前を判別して、要求を再サブミットしてください。

SQL22004W 指定されたオブジェクトに対して要求された構成が見つかりません。 *object-name* に対してデフォルト構成を戻します。

説明: このオブジェクトは、そのオブジェクト独自の特定の構成を持っていないため、そのオブジェクト・タイプに対してデフォルト構成が戻されます。

ユーザーの処置: デフォルト構成の振る舞いが正しい場合、アクションは必要ありません。

SQL22008N パラメーター *parameter-name* の値 *parameter-value* のフォーマット、タイプ、または値が正しくありません。

説明: このパラメーターに対して指定された値が受け入れ可能なフォーマット、タイプ、または値でないため、要求されたアクションは実行できません。

ユーザーの処置: このパラメーターの正しいフォーマット、タイプ、または値を判別して、要求を再サブミットしてください。

SQL22005W 指定されたオブジェクトのデフォルト構成が見つからないため、*object-name* のインストール構成を戻します。

説明: このオブジェクトは、そのオブジェクト独自の特定の構成を持っていないため、そのオブジェクト・タイプに対してインストール構成が戻されます。

ユーザーの処置: インストール構成の振る舞いが正しい

SQL22009W このインスタンスに対するヘルス連絡先情報がありません。

説明: このインスタンスに対するヘルス連絡先情報がありません。

ユーザーの処置: 現在の連絡先情報が正しい場合、アクションは必要ありません。

SQL22010N パラメーター *parameter-name* の値 *parameter-value* がこのパラメーターの受け入れ可能範囲内にありません。この値は、*parameter-max-value* より大きいか、*parameter-min-value* より小さいか、またはその両方です。

説明: このパラメーターに指定された値が受け入れ可能範囲内の値でないため、要求されたアクションは実行できません。

ユーザーの処置: このパラメーターに許容値を指定して要求を再サブミットしてください。

SQL22011W *object-name-or-type* の構成が見つかりません。

説明: オブジェクトまたはオブジェクト・タイプがそれ自身の特定の構成またはデフォルトの構成を持っていません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL22012W 暗黙的なインスタンス・アタッチが失敗しました。

説明: 明示的なインスタンス・アタッチメントが存在せず、デフォルト・インスタンスへの暗黙的なアタッチメントが失敗しました。コマンドを実行できません。

ユーザーの処置: DB2 が開始されていて、環境変数が正しく設定されていることを確認してください。

SQL22013N すでに存在するため、*obj-act-contact* を追加できません。

説明: API はすでに存在するアクションまたは通知を追加するよう要求されました。

ユーザーの処置: 既存のアクションと通知を変更または削除してください。

SQL22014W ヘルス・モニターは、ヘルス関連のデータを戻しませんでした。

説明: このインスタンスのヘルス・データが存在しないか、またはヘルス・モニターがオフになっています。

ユーザーの処置: このインスタンス上でヘルス・モニターが実行されていることを確認してください。

SQL22015N 指定されたヘルス・インディケーターの ID または名前 *Health-Indicator-name* は、このオブジェクト・タイプには無効です。

説明: このオブジェクト・タイプには、指定されたヘルス・インディケーターは存在しません。

ユーザーの処置: オブジェクト・タイプと ID または名前を確認してから、要求を再サブミットしてください。

SQL22016N ヘルス・モニターから、ヘルス・インディケーター *Health-Indicator-name* の推奨値が戻されませんでした。理由コード = *reason-code*。

説明: ヘルス・モニターが推奨値を戻すことができませんでした。理由コードに対応する説明は、以下のとおりです。

1. ヘルス・インディケーターがアラート状態でない。
2. ヘルス・インディケーターがまだ評価されていない。
3. ヘルス・インディケーターが使用不可になっている。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、次のとおりです。

1. ヘルス・インディケーターがアラート状態であることを確認します。問題は既に解決している場合もあります。ヘルス・インディケーターは、アラート状態と通常の状態との間で変動することがあります。インディケーターが変動する場合には、ヘルス・インディケーターの感度の設定値が低すぎて、ヘルス・インディケーターがシステムの使用状況の変化に反応している可能性があります。その場合には、UPDATE ALERT CONFIGURATION コマンドを使用することにより、感度を高く設定することを考慮してください。
2. ヘルス・インディケーターが評価されるようにするため、少なくともそのヘルス・インディケーターの 1 回のリフレッシュ・インターバルが完全に経過するまで待ちます。要求を再サブミットしてください。
3. UPDATE ALERT CONFIGURATION コマンドを使用することによって、ヘルス・インディケーターを使用可能にします。ヘルス・インディケーターが評価されるまで待ってから、要求を再サブミットしてください。

問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

SQL22017N ヘルス・モニターで推奨値を生成中に、軽度のエラーが発生しました。 **SQLCODE** = *sqlcode*

説明: ヘルス・モニターが指定されたヘルス・インディケーターの推奨値を取り出そうとして、軽度のエラーが検出されました。

ユーザーの処置: SQLCODE に示されているとおりにエラーを訂正してください。推奨要求を再サブミットしてください。

問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

SQL22018W このヘルス・インディケーターのコレクション・データを取り出すことができませんでした。

説明: コレクション・データは、データベース中の表の中に格納されます。表にアクセスできなかったため、または表がオリジナルの定義から変更されていて該当する列が存在しないため、表データを取り出すことができませんでした。

ユーザーの処置: 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

SQL22019N 予期しないエラーが発生したため、ヘルス・モニターの処理が停止されました。理由コード = *reason-code*。

ユーザーの処置: 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

SQL22020N 共用メモリー・セグメントの上限値に達したため、ヘルス・モニターの処理が停止されました。現在のサイズは *size* です。

ユーザーの処置: 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

SQL22021N 自動化はオフです。

説明: 自動化スイッチが現在オフになっているため、必要なユーティリティを実行できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行してください。

- ヘルス・モニターから提供される推奨に従って、問題を解決してください。
- 対応する自動化スイッチをオンにしてください。

SQL22022N 保守ウィンドウの期間が短すぎるため、保守活動を実行できません。

説明: 自動保守構成の中で定義されている保守ウィンドウの期間が不十分であるため、必要なユーティリティを実行できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行してください。

- ヘルス・モニターから提供される推奨に従って、問題を解決してください。
- 対応する自動保守アクティビティの保守ウィンドウの期間を長くしてください。

SQL22200 - SQL22299

SQL22200N DB2 Administration Server を停止できません。

説明: DB2 Administration Server は、現在クライアントからの要求を少なくとも 1 つ処理中であるため、停止できません。

ユーザーの処置: DB2ADMIN STOP コマンドを /FORCE オプションを指定して発行し、DB2 Administration Server が現在処理しているすべての要求を取り消して、DB2 Administration Server を停止します。

SQL22201N DB2 Administration Server は、ホスト *hostname* でユーザー *authorization-ID* の認証に失敗しました。理由コード *reason-code*。

説明: DB2 Administration Server は、次の理由により、ユーザー *authorization-ID* を認証できませんでした。

1. ユーザー ID またはパスワードが無効です。
2. パスワードの期限が切れました。
3. ユーザー・アカウントが使用不可になっています。
4. ユーザー・アカウントが制限されています。
5. DB2 Administration Server は、ルート・ユーザーとしてサブミットされた要求を処理できません。
6. 許可に失敗しました。

ユーザーの処置: 理由コードに応じて、以下の処置を行ってください。

1. ホスト *hostname* に有効なユーザー ID とパスワードが指定されていることを確認します。
2. ホスト *hostname* 上でユーザー *authorization-ID* のパスワードを変更します。操作については、システム管理者に連絡してください。パスワードが変更されたら、再度要求を実行してください。
3. アカウントをアンロックするには、システム管理者に連絡してください。
4. アカウントに対する制限事項については、システム管理者に連絡してください。
5. ルート以外のユーザーとして要求を再サブミットしてください。
6. 内部認証エラーが発生しました。

提案されたソリューションの試行後もこのメッセージを受け取る場合は、IBM サポートに連絡してください。

SQL22202W DB2 Administration Server を静止できません。理由コード *reason-code*。

説明: 次のいずれかの理由により、DB2 Administration Server の静止操作が失敗しました。

1. DB2 Administration Server がすでに静止されています。
2. DB2 Administration Server が現在 DB2 クライアントの代わりに要求を処理中です。

ユーザーの処置: 失敗の理由に応じて、次のいずれかを実行してください。

1. アクションは必要ありません。
2. DB2 Administration Server が要求の処理を終了するまで待機するか、*force* オプションを指定して静止要求を再サブミットします。静止を強制した場合、現在処理中の要求はすべて終了されます。

SQL22203W DB2 Administration Server の静止を解除できません。理由コード *reason-code*。

説明: 次のいずれかの理由により、DB2 Administration Server の静止解除操作が失敗しました。

1. The DB2 Administration Server が静止されていません。
2. 少なくとも 1 つの管理要求の処理が進行中です。

ユーザーの処置: 失敗の理由に応じて、次のいずれかを実行してください。

1. アクションは必要ありません。
2. DB2 Administration Server がすべての管理要求の処理を完了するまで待機するか、*force* オプションを指定して静止解除要求を再サブミットします。静止解除操作を強制した場合、管理要求と並行して通常要求を処理できるため、これにより管理要求が正常に完了しない場合があります。

SQL22204N DB2 Administration Server が、要求の実行中に重大でないエラーを検出しました。

説明: DB2 Administration Server が要求を処理中、重要でないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 追加情報については DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log を参照してください。

トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。以下の必須情報を用意して、IBM サポートに連絡してください。

- 問題記述

- SQLCODE またはメッセージ番号
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

SQL22205C DB2 Administration Server が要求の実行中に、予期しないエラーを検出しました。

説明: DB2 Administration Server が要求を処理中に、予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 追加情報については DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log を参照してください。

トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出して下さい。以下の必須情報を用意して、IBM サポートに連絡してください。

- 問題記述
- SQLCODE またはメッセージ番号
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

SQL22206N メッセージ・キューのアクセス中に、エラーが起きました。理由コード *reason-code*。

説明: メッセージ・キューに対して、予期しないエラーまたは悪いメッセージを受信しました。以下が理由コードのリストです。

1. メッセージ・キューを作成できません。メッセージ・キューの許容数に達しました。
2. メッセージ・キューからの読み取り中に、エラーが起きました。
3. メッセージ・キューへの書き込み中に、エラーが起きました。
4. メッセージ・キューから、無効なメッセージを受け取りました。
5. メッセージ・キューのオープン中に、エラーが起きました。
6. メッセージ・キューのクローズ中に、エラーが起きました。
7. メッセージ・キューの照会中に、エラーが起きました。
8. メッセージ・キューの削除中に、エラーが起きました。

ユーザーの処置: メッセージ・キューの許容数に達していないことを確認してください。必要に応じて、使用

中のメッセージ・キューの数を減らし、要求を再サブミットしてください。

提案されたソリューションの試行後もこのエラー・メッセージを受け取る場合は、IBM サポートに連絡してください。

SQL22207N DB2 Administration Server ホスト *hostname* スクリプトを実行できません。理由コード *reason-code*。

説明: 次のいずれかの理由により、DB2 Administration Server はスクリプトの実行に失敗しました。

1. ユーザーは既存のスクリプトを指定しましたが、そのスクリプトが存在しません。
2. スクリプトの作業ディレクトリーが無効です。
3. ステートメントの終了文字が見つからなかったため、スクリプトの最後の行の実行が失敗しました。
4. スクリプトの実行中に、システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 失敗の理由に応じて、次のいずれかを実行してください。

1. 指定したスクリプトがホスト *hostname* に存在することを確認します。
2. 作業ディレクトリーがホスト *hostname* で有効であることを確認します。
3. スクリプトの内容を確認して、要求を再サブミットします。
4. 追加情報については DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log を参照してください。

提案されたソリューションを試行した後もこのエラー・メッセージを受け取る場合は、DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log で追加情報を確認するか、または IBM サポートまでご連絡ください。

SQL22208N DB2 Administration Server は、ホスト *hostname* のライブラリー/クラス *library-name* で、関数/方式 *function-name* の実行に失敗しました。理由コード *reason-code*。

説明: 次のいずれかの理由により、DB2 Administration Server は、ライブラリー/クラスで関数/方式を実行中にエラーを検出しました。

1. ライブラリー/クラス *library-name* が見つかりませんでした。
2. 関数/方式 *function-name* がライブラリー/クラス *library-name* に見つかりませんでした。

3. DB2 Administration Server で呼び出された関数/方式のバージョンがサポートされていません。

ユーザーの処置: 失敗の理由に応じて、次のいずれかを実行してください。

1. ライブラリー *library-name* がホスト *hostname* に存在することを確認します。
2. 追加情報については DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log を参照してください。トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出してください。以下の必須情報を用意して、IBM サポートに連絡してください。
 - 問題記述
 - SQLCODE またはメッセージ番号
 - SQLCA の内容 (ある場合)
 - トレース・ファイル (可能であれば)
3. 理由コード 2 の応答を参照。

SQL22209N DB2 Administration Server は、ホスト *hostname* で予期しない Java エラーを検出しました。

説明: DB2 Administration Server が Java インタープリターを開始、または Java インタープリターとの通信を試行中に、エラーが発生しました。問題の原因として、以下のことが考えられます。

1. ホスト *hostname* 上の Java が正しく構成またはインストールされていません。
2. DB2 Administration Server の *jdk_path* 構成パラメーターが正しく設定されていません。

ユーザーの処置: 以下を試行してください。

1. ホスト *hostname* のシステム管理者に連絡して、Java が正しくインストールされて、構成されていることを確認します。
2. DB2 Administration Server の *jdk_path* 構成パラメーターが正しく設定されていることを確認します。
jdk_path 構成パラメーターは、CLP を使って表示できます。このパラメーターは、Java がホスト *hostname* 上でインストールされているロケーションを示している必要があります。

提案されたソリューションの試行後もこのエラー・メッセージを受け取る場合は、IBM お客様サポートに連絡してください。

SQL22210N DB2 Administration Server が、静止中、指定された要求を実行できません。

説明: DB2 Administration Server は現在静止されているため、要求の実行に失敗しました。DB2 Administration Server の静止中は、管理要求しか実行できません。

ユーザーの処置: DB2 Administration Server が静止されていないときに、再度要求を実行してください。DB2 Administration Server がいつ静止解除されるかについては、データベース管理者に連絡してください。

SQL22211N DB2 Administration Server 構成パラメーター *parameter-token* の設定中にエラーが発生しました。理由コード *reason-code*。

説明: 次のエラーにより、DB2 Administration Server の構成は更新されませんでした。

1. 構成パラメーターが不明です。
2. 構成パラメーター値が正しい範囲内にありません。
3. DB2 Administration Server の構成パラメーターを更新中に、システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 理由コードに応じて、次のことを確認してください。

1. 構成パラメーターが存在している。
2. 構成パラメーターに対して指定された値が正しい範囲内にある。構成パラメーターの記述については、「DB2 管理ガイド: パフォーマンス」の中で、許可可能値の範囲の記述を参照してください。
3. DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log で追加情報を確認するか、または IBM サポートまで連絡してください。

SQL22212N DB2 Administration Server 通信エラーが検出されました。クライアント・システム: *client-ip-address*。サーバー・システム: *server-ip-address*。

説明: DB2 Administration Server 通信エラーが検出されました。原因として、次のことが考えられます。

1. サーバー・システムのサーバーの DB2 Administration Server がシステム管理者によってシャットダウンされた。
2. サーバー・システムの DB2 Administration Server が、内部エラーまたはシステム・エラーにより終了した。
3. DB2 Administration Server がサーバー・システムにインストールされていない。

4. DB2 Administration Server はクライアント・システムで正しくカタログされていない。
5. クライアント・システムまたはサーバー・システムの通信サブシステムが正しく構成されていないか、正常に開始されていない。
6. ネットワーク・エラーにより、接続が切断された。
7. DB2 Administration Server における内部エラーにより、接続が切断された。

ユーザーの処置: 以下のことを検証してください。

1. DB2 Administration Server がシャットダウンされていない。
2. DB2 Administration Server が終了されていない。
3. DB2 Administration Server がサーバー・システムにインストールされている。
4. リモート DB2 Administration Server がクライアント・システムで正しくカタログされている。
5. クライアント・システムとサーバー・システム両方の通信サブシステムが正しく構成され、開始されている。
6. ネットワークが正しく実行されている。
7. 検証するものはありません。

問題が続く場合は、ネットワーク管理者または IBM サポートまで連絡してください。

SQL22213N DB2ADMIN 処理が正常に行われました。 スケジューラーが正常に開始されています。

説明: DB2ADMIN コマンドは正常に DB2 Administration Server を開始しましたが、DB2 Administration Server はスケジューラーを開始できませんでした。

ユーザーの処置: 以下のことを検証してください。

- DB2 Administration Server 構成パラメーターのツール・カタログ・データベース構成が正しいことを確認してください。 ツール・カタログ・データベースの構成方法については、「DB2 管理ガイド」の DB2 Administration Server に関する項を参照してください。
- ツール・カタログ・データベースが組み込まれているデータベース・マネージャーが開始されていることを確認してください。
- ツール・カタログ・データベースがツール・カタログ・インスタンスのリモートとなっている場合は、スケジューラーのユーザー ID とパスワードが正しく設定されていることを確認してください。スケジューラーのユーザー ID には、ツール・カタログ・データベースに対する SYSADM 権限が必要です。スケジュー

ラーのユーザー ID とパスワードは、DB2ADMIN SETSCHEDID コマンドで変更できます。

- ツール・カタログ・データベースが別のスケジューラーに使用されていないことを確認してください。

上記の確認を行ってから、DB2 Administration Server を停止して、再始動してみてください。提案されたソリューションの試行後もこのエラー・メッセージを受け取る場合は、IBM お客様サポートに連絡してください。

SQL22214N 管理ノード *node-name* は、DB2 ノード・ディレクトリーに存在しません。

説明: 管理ノード *node-name* は無効です。このノード名は、DB2 ノード・ディレクトリーに存在しません。

ユーザーの処置: LIST ADMIN NODE DIRECTORY コマンドを使って、ノード名 *node-name* が管理ノード・ディレクトリーに正しくカタログされていることを確認してください。この管理ノードが管理ノード・ディレクトリーにリストされていない場合は、CATALOG ADMIN ... NODE コマンドをサブミットして、この管理ノードをカタログに入れてください。提案されたソリューションの試行後もこのエラー・メッセージを受け取る場合は、IBM お客様サポートに連絡してください。

SQL22215W DB2 Administration Server 構成パラメーターが正常に更新されました。

説明: 構成パラメーターは正常に更新されましたが、変更を有効にするためには、DB2 Administration Server を再始動する必要があります。

ユーザーの処置: 変更を有効にするために、DB2 Administration Server を再始動してください。

SQL22216N 拡張コンソール操作を実行中に、エラーが発生しました。理由コード = *reason-code*

説明: この操作を実行中に、予期しないエラーが発生しました。以下の理由コードが考えられます。

- 1 コンソールのアクティブ化に使用されたコンソール名の長さが 8 文字を超えている。
- 2 発行されたオペレーター・コマンドが、許可されている 126 文字を超えている。
- 3 活動化要求に対して、発行者がリソース名 MVS.MCSOPER.* (この場合、* はコンソールの名前) に対する読み取り権限を持っていない。
- 4 アクティブ化要求に対して、コンソールがすでにアクティブであった。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、次のとおりです。

- 1 コンソール名として指定されたユーザー名が 8 文字を超えているかを確認する。
- 2 オペレーター・コマンドの長さが 126 文字を超えているかを確認する。
- 3 リソース MVS.MCSOPER.* (この場合、* はコンソールの名前) に対して必要な読み取り権限を提供する。
- 4 アクティブ化しようとしている拡張コンソールがアクティブ化されていないことを確認する。

SQL22220N DB2 Administration Server がスクリプト・エラーを検出しました。スクリプト・エラー・コード *error-code*。

説明: DB2 Administration Server がスクリプトを実行中、エラーを検出しました。スクリプトは終了されました。エラー・コード *error-code*。

ユーザーの処置: スクリプトが正しいことを確認してください。

提案されたソリューションを試行した後もこのエラー・メッセージを受け取る場合は、DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log で追加情報を確認するか、または IBM サポートまでご連絡ください。

SQL22221N スケジューラーが非アクティブです。理由コード *reason-code*。

説明: 次の 1 つ以上の理由でスケジューラーがアクティブでないため、スケジューラーは要求を処理できませんでした。

1. スケジューラーが使用可能になっていない。
2. スケジューラーが正しく構成されていない。

ユーザーの処置: 以下のことをチェックしてください。

1. スケジューラーが使用可能になっていることを確認してください。スケジューラーは、`SCHED_ENABLE` DB2 Administration Server 構成パラメーターを使って使用可能になります。GET ADMIN CONFIGURATION コマンドを使って DB2 Administration Server の構成パラメーターを表示して、`SCHED_ENABLE` パラメーターの現在の設定を確認してください。構成パラメーターの値を変更するには、UPDATE ADMIN CONFIGURATION コマンドを使用します。

2. スケジューラーが正しく構成されていることを確認します。スケジューラーを構成するには、「DB2 管理ガイド」の DB2 Administration Server に関する項を参照してください。

提案されたソリューションを試行した後もこのエラー・メッセージを受け取る場合は、DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log で追加情報を確認するか、または IBM サポートまでご連絡ください。

SQL22222N スケジューラーのログオン・ユーザー・アカウントが無効です。

説明: ツール・カタログ・データベースが DB2 Administration Server に対してリモートである場合、スケジューラーにはツール・カタログ・データベースに接続するための有効なログオン・アカウントが必要です。このエラーは、そのアカウントがセットアップされていないか、ログオン・ユーザー・アカウントに有効な DB2 ユーザー ID が入っていないことが原因で発生しました。

ユーザーの処置: ログオン・ユーザー・アカウントがセットアップされていた場合には、アカウントが有効な DB2 ユーザー ID を使用するようしてください。以下のコマンドを使用して、スケジューラーのログオン・ユーザー・アカウントをセットアップすることができます。

```
DB2ADMIN SETSCHEDID <userid> <password>
```

SQL22223N インスタンス *instance-name* がホスト *hostname* に存在しません。

説明: 要求に指定されたインスタンス *instance-name* がホストに存在しないため、ホスト *hostname* 上の DB2 Administration Server は要求の実行に失敗しました。

ユーザーの処置: 以下のことを検証してください。

- インスタンス *instance-name* に対応する、ローカル・ノード・ディレクトリーにあるノード項目のリモート・インスタンス・フィールドは正しいです。
- インスタンス *instance-name* はホスト *hostname* に存在します。

提案されたソリューションを試行した後もこのエラー・メッセージを受け取る場合は、DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log で追加情報を確認するか、または IBM サポートまでご連絡ください。

SQL22230N データ・セット *dataset* がシステムで見つかりません。

説明: 次のいずれかの理由が考えられます。

1. データ・セットがカタログされていない。
2. データ・セットが置かれているボリュームがマウントされていない。
3. このデータ・セットがカタログに指定されたボリューム上に存在しない。
4. この操作に必要なデータ・セットまたは PDS/E メンバー名が指定されていない。
5. データ・セットまたは PDS/E メンバー名に、無効文字が含まれているか、システムで許可されている最大長を超えている。

この最初の 3 つの理由の詳細については、MVS システム・メッセージの IGW01021T、IGW01508T、および IGW01511E を参照してください。

ユーザーの処置: データ・セットの名前が正しく入力されており、データ・セットがカタログされており、そのデータ・セットが置かれているボリュームがシステムにマウントされていることを確認してください。

SQL22231N 要求された操作は、データ・セット *dataset* ではサポートされていません。

説明: 指定されたデータ・セットの特定のプロパティーのため、要求された操作でこのデータ・セットを使用できません。適用できないレコード・フォーマットまたはデータ・セット・タイプなどが考えられます。たとえば、メンバー名が PS データ・セットに対して指定できないなど。

ユーザーの処置: データ・セットに対して、選択された操作に適切なプロパティーが設定されていることを確認してください。追加情報については DB2 Administration Server (DAS) の First Failure Data Capture Log を参照してください。

SQL22232N ジョブ ID *jobid* が、ジョブ入力サブシステム (JES) に見つかりませんでした。

説明: 理由として考えられるのは、以下のとおりです。

1. 指定されたジョブ ID を持つジョブが JES にサブミットされていない。
2. 指定されたジョブ ID を持つジョブが JES からパーージされている。

ユーザーの処置: このジョブ ID が、JES にサブミットされたジョブに属しており、まだパーージされていないことを確認してください。

SQL22236N ファイル入出力エラーが発生しました。
理由コード = *reason-code*

説明: ファイル・システムにアクセス中に、エラーが発生しました。理由コードは、以下の通りです。

1. 無効なディレクトリーが指定されました。
2. 存在しないファイルをオープンしようとしてしました。
3. 既存ファイルを作成しようとしてしました。

ユーザーの処置: 理由コードを基に、以下のようにアクションを実行します。

1. 有効なディレクトリーを指定します。
2. 存在するファイルを指定します。
3. すでに存在しないファイルを指定します。

SQL22237N *path* に対する操作中にファイル・システムのエラーが発生しました。理由コード = *reason-code*

説明: ファイル・システムにアクセス中に、エラーが発生しました。理由コードに対応する説明は、以下のとおりです。

- 1 指定されたパスはすでに存在しています。
- 2 指定したパスは存在しません。
- 3 現在は読み取り専用になっているファイルまたはディレクトリーを指定して変更しようとしてしました。
- 4 現在別のアプリケーションで使用中のファイルまたはディレクトリーを指定して変更または削除しようとしてしました。
- 5 指定したファイルまたはディレクトリーにはアクセスできません。
- 6 指定したパスまたは装置は使用可能ではありません。
- 7 指定した空でないディレクトリーは、不適切なコンテキスト中で指定されています。たとえば、空でないディレクトリーを非再帰的に削除しようとしています。
- 8 指定したパスは、ディレクトリーを参照していません。
- 9 指定したパスは無効です。
- 10 指定したパス名は長すぎます。
- 11 ファイル・システム上に使用可能なスペースがありません。
- 12 オープンできるファイルの最大数に達しました。

- 13 指定したファイルの終わりに達しました。
- 14 物理入出力エラーが発生しました。
- 15 不明のエラーが発生しました

ユーザーの処置: 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

- 1 存在しないパスを指定してください。
- 2 存在するパスを指定してください。
- 3 指定したファイルまたはディレクトリーが読み取り専用でないことを確認してください。
- 4 指定したファイルまたはディレクトリーが別のアプリケーションで使用されていないことを確認してください。
- 5 指定したファイルまたはディレクトリーに現行ユーザーからアクセスできることを確認してください。
- 6 指定したパスまたは装置は現在も使用可能であることを確認してください。
- 7 指定したディレクトリーが空であることを確認してください。
- 8 指定したパスは、ディレクトリーを参照していることを確認してください。
- 9 指定したパスは有効であることを確認してください。
- 10 指定したパスが、特定のオペレーティング・システム上のパス名の上限数内であることを確認してください。
- 11 ファイル・システム上に使用可能なスペースがあることを確認してください。
- 12 1 つ以上のファイルをクローズしてから、操作をやり直してください。
- 13 ファイル・マークを越えて読み取りまたはシークを操作で行おうとしていないことを確認してください。
- 14 操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。
- 15 操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

SQL22245N JCL 生成が失敗しました。理由 (コード [, トークン]) = *reason-code*

説明: JCL 生成は、以下の理由コードに示される理由により失敗しました。

- 01 予約済み JCL スケルトン・パラメーター &JOB を持つカードが見つからないか、メイン

JCL スケルトンの中の誤った場所に置かれています。このカードは、メイン JCL スケルトンの中で、TEMPLATE カードの後にある、最初の非コメント・カードでなければなりません。

- 02 予約済み JCL スケルトン・パラメーターの使用が誤りです。このメッセージの中のトークンに、問題の原因となったパラメーターの名前が含まれています。
- 03 メイン JCL スケルトンに、予期されているより多くの、予約済み JCL スケルトン・パラメーター &CTLSTMT が指定されています。このメッセージの中のトークンは、&CTLSTMT パラメーターの予期しない数に設定されています。
- 04 メイン JCL スケルトンに、予期されているより多くの、予約済み JCL スケルトン・パラメーター &STEPLIB のオカレンスがあります。このメッセージの中のトークンは、&STEPLIB パラメーターの予期しない数に設定されています。
- 05 メイン JCL スケルトンが、TEMPLATE ステートメントで開始されていません。このステートメントは、メイン JCL スケルトンの中で最初の非コメント・ステートメントでなければなりません。
- 06 JCL スケルトンの中のジョブ名またはステップ名に、ジョブまたはステップの順序付けに必要な JCL スケルトン組み込み関数 &SEQ が含まれていません。JCL スケルトン組み込み関数 &SEQ を JCL スケルトンのジョブ名またはステップ名に指定してください。このメッセージの中のトークンに、誤った JCL ステートメントのフラグメントが含まれています。
- 07 キーワード JOB が、//JOB-statement に対する、JCL スケルトンの中の最初の非コメント・ステートメントに見つかりません。コメント化されているか、誤ってタイプされているか、区切りスペース (特にキーワードの後) が抜けている可能性があります。
- 08 メイン JCL スケルトンは完了していないか、構造に誤りがあります。特にインストリーム JCL プロシージャがこの JCL スケルトンで使用されている場合、必須の標準 JCL ステートメントがコメント化されているか、欠落しているか、または誤った位置に指定されている可能性があります。
- 09 JCL スケルトンの中のジョブ名、ステップ名、または DD 名の構文が無効です。この理由としては、名前フィールドの長さが誤りである

か、またはフィールドに英数字以外の文字が含まれていることが考えられます。このメッセージの中のトークンに、誤った JCL ステートメントのフラグメントが含まれています。

- 10 JCL スケルトンの中でアンパーサンド記号が誤って使用されています。JCL スケルトンに、1つ以上の孤立したアンパーサンド記号が含まれています。アンパーサンド記号は、JCL スケルトン・パラメーターの最初の記号であり、IDと一緒に使用しなければなりません。このメッセージの中のトークンに、誤った JCL ステートメントのフラグメントが含まれています。
- 11 予約済み JCL スケルトン・パラメーター &OBJECT が、JCL スケルトンに見つかりません。
- 12 ユーザー定義 JCL スケルトン・パラメーターは、JCL スケルトンに指定できません。このメッセージの中のトークンに、問題の原因となった JCL スケルトン・パラメーターの名前が含まれています。
- 13 予約済み JCL スケルトン・パラメーターは、JCL スケルトンに指定できません。このメッセージの中のトークンに、問題の原因となった予約済み JCL スケルトン・パラメーターの名前が含まれています。
- 14 生成された JCL は長過ぎて、バッファーを割り振れません。このメッセージの中のトークンに、問題の原因となった要求サイズが含まれています。この問題を回避するには、処理オブジェクトとして選択したデータベース・オブジェクトの数を減らしてください。

ユーザーの処置: 提供された説明に応じて、問題を訂正してください。問題が続く場合は、データベース管理者または IBM サポートに連絡してください。

SQL22247N 既知のディスカバリー操作が失敗しました。

説明: ターゲット DB2 Administration Server でディスカバリーが使用不可になっています。

ユーザーの処置: DB2 Administration Server で DISCOVER 構成パラメーターの値を変更して、ディスカバリーを使用可能にしてください。既知のディスカバリーだけを使用可能にしたい場合は、値を KNOWN に変更してください。既知と検索両方のディスカバリーを使用可能にしたい場合は、値を SEARCH に変更してください。構成パラメーターの値を変更するには、UPDATE ADMIN CONFIGURATION コマンドを使用します。

SQL22250W 使用法: DASMIGR は DB2 Administration Server を移行します。

説明: DASMIGR コマンド構文は次のとおりです。

```
DASMIGR <source server> <target server>  
  
/h
```

コマンド・オプションは以下のとおりです。

source server

移行する DB2 Administration Server の名前

target server

source server から移行された情報を含む新しい DB2 Administration Server の名前

/h ヘルプ情報を表示する

ユーザーの処置: 有効なコマンド・オプションの 1 つを指定して DASMIGR コマンドを発行してください。

SQL22251N source-dasname から target-dasname への DB2 Administration Server の移行が失敗しました。理由コード reason-code。

説明: DB2 Administration Server source-dasname は、次のいずれかの理由により移行できませんでした。

1. ツール・カタログ・データベースがターゲット DB2 Administration Server に作成されていない。
2. ツール・カタログ・データベースがターゲット DB2 Administration Server で正しく構成されていない。

ユーザーの処置: ターゲット DB2 Administration Server target-dasname で以下のことを試行してください。

1. ツール・カタログ・データベースが存在していることを確認する。
2. TOOLSCAT_DB および TOOLSCAT_SCHEMA DB2 Administration Server 構成パラメーターが正しいことを確認する。これらのパラメーターは、ツール・カタログ・データベースの名前とスキーマに設定されている必要があります。GET ADMIN CONFIGURATION コマンドを使って、TOOLSCAT_DB と TOOLSCAT_SCHEMA の現在の設定値を表示してください。DB2 Administration Server 構成パラメーターの値を変更するには、UPDATE ADMIN CONFIGURATION コマンドを使用します。

提案されたソリューションの試行後もこのエラー・メッセージを受け取る場合は、IBM お客様サポートに連絡してください。

SQL22252N DAS 移行は理由コード *reason-code* で失敗しました。

説明: DB2 Administration Server を移行中にエラーが発生しました。理由コードは以下のとおりです。

1. 移行を完了するための使用可能なシステム・リソースが不十分でした。
2. DB2 Administration Server の構成パラメーターが有効なツール・カタログを示していません。
3. 移行中に重大ではないエラーが発生しました。

ユーザーの処置:

1. DAS 移行に使用可能なシステム・リソースが十分であることを確認してください。
2. ツール・カタログが作成されており、DB2 Administration Server の構成パラメーターで正しく示されていることを確認してください。
3. 追加情報については DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log を参照してください。

SQL22255W 使用法 :

dasauto [-hl-?] -onl-off

説明: 間違った引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-hl-? 使用情報を表示する

-onl-off

DB2 Administration Server の自動開始を使用可能または使用不可にする

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

dasauto [-hl-?] -onl-off

SQL22256W dasauto コマンドが成功しました。

説明: すべての処理が正常終了しました。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

SQL22270N 名前 *name* の連絡先または連絡先グループを連絡先リストに追加できません。

説明: この連絡先または連絡先グループは、すでに連絡先リストに存在します。

ユーザーの処置: ユニーク名を使って、新しい連絡先または連絡先グループを作成してください。

SQL22271N 名前 *name* の連絡先または連絡先グループの情報が見つかりません。

説明: この連絡先または連絡先グループは、連絡先リストに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 名前をチェックおよび訂正して、もう一度やり直してください。

SQL22272N キー *key* を持つレコードは挿入できません。

説明: システムはレコードを挿入しようとしたのですが、新規レコードのキー *key* はすでにシステムに存在します。

ユーザーの処置: システムから重複を除去するか、別のキーを使って新規レコードを挿入してください。

SQL22273N キー *key* を持つレコードが見つかりませんでした。

説明: キー *key* を持つレコードは、このレコードが存在しないため見つかりませんでした。

ユーザーの処置: キーをチェックおよび訂正して、もう一度やり直してください。

SQL22280N スケジューラーが静止されているため、このアクションは実行できません。

説明: スケジューラーが再度活動化されるまでは、アクションを実行できません。

ユーザーの処置: スケジューラーを活動化してください。

SQL22281N スケジューラーはすでにアクティブです。

説明: スケジューラーはすでにアクティブなので、アクティブ化できません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

SQL22282N スケジューラーは、ツール・カタログ・データベースにアクセスできません。理由コード = *reason-code*、SQLCODE *sqlcode*。

説明: 以下の理由コード *reason-code* によって指定された理由により、スケジューラーがツール・カタログ・データベースにアクセスできないため、スケジューラー関数を処理できません。

1. 指定されたユーザー ID またはパスワードが誤りである。

2. DB2 Administration Server 構成パラメーターのツール・カタログ・データベース構成が誤りである。以下の 1 つ以上の DB2 Administration Server 構成パラメーターが誤りである。

- TOOLSCAT_DB
- TOOLSCAT_SCHEMA

3. ツール・カタログ・データベースは、すでに同じシステム上の別のスケジューラーによって使用されている。

4. ツール・カタログ・データベースは、通信プロトコルとして TCP/IP を介してしてサポートされていない。

5. 予期しないエラー。詳しくは、SQLCODE *sqlcode* を参照してください。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、次のとおりです。

1. ユーザー ID とパスワードをチェックして、再試行してください。
2. DB2 Administration Server TOOLSCAT_DB および TOOLSCAT_SCHEMA 構成パラメーターが正しく設定されていることを確認してください。GET ADMIN CONFIGURATION コマンドを使って、TOOLSCAT_DB と TOOLSCAT_SCHEMA の現在の設定値を表示してください。DB2 Administration Server 構成パラメーターの値を変更するには、UPDATE ADMIN CONFIGURATION コマンドを使用します。提案されたソリューションの試行後もこのエラー・メッセージを受け取る場合は、IBM お客様サポートに連絡してください。
3. システム管理者に連絡してください。
4. 以下を試行してください。
 - ツール・カタログ・データベースがスケジューラーに対してローカルである場合は、DB2 Administration Server 構成パラメーター *toolscat_inst* によって指定されているインスタンスが TCP/IP 通信を使用するようセットアップしてください。
 - ツール・カタログ・データベースがスケジューラーに対してリモートの場合は、*toolscat_db admin* 構成パラメーターによって使用されるノードが通信プロトコルとして TCP/IP をサポートしていることを確認してください。
5. 追加情報については DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log を参照してください。

提案されたソリューションを実行したあともこのメッセージを受け取る場合は、IBM お客様サポートに連絡してください。

SQL22283N タスク *taskid.suffix* がツール・カタログ・データベースに存在しません。

説明: スケジューラーは、ツール・カタログ・データベースからタスクを検索できません。タスクは、ツール・カタログ・データベースから除去されているか、存在していなかった可能性があります。

ユーザーの処置: タスク・センターを使って、タスクが存在しているかチェックしてください。

SQL22284N タスク *taskid.suffix* はスケジュールされていません。

説明: 要求アクション「スケジュールされたタスクを今実行する」は、このタスクが現在実行するようスケジュールされていないために実行できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行してください。

- 代わりに「今実行する」を実行する
- このタスクのスケジュールをすべて活動化し、再度「スケジュールされたタスクを今実行する」を実行する。

SQL22285N スケジューラーは、パーティション・データベースから *partition-number* の対応するホスト名を取得できません。

説明: 要求されたパーティション番号は、このパーティション・データベースに存在しません。

ユーザーの処置: LIST DBPARTITIONNUMS コマンドを使ってノードのリストを表示し、このパーティション番号が存在するか確認してください。

SQL22286N 必須タスクを実行できません。

説明: 予期しないエラーが発生したため、スケジューラーはタスクの実行に失敗しました。

ユーザーの処置: 追加情報については DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log を参照してください。

トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能を呼び出してください。

SQL22287N ユーザー *userid* には、タスク *taskid.suffix* を実行する許可がありません。

説明: ユーザーにタスクを実行する権限がないために、タスクは実行されませんでした。

ユーザーの処置: ユーザーがタスクを実行できるように

するには、タスクの所有者がユーザーに実行許可を付与する必要があります。

SQL22295N ポート *port-number* を使って、ホスト *host-name* の SMTP サーバーと正常に通信できません。理由コード = *reason-code*

説明: ポート *port-number* を使用する、ホスト *host-name* の SMTP サーバーは、メールを送信するためのプロトコルのネゴシエーションに失敗しました。このエラーの説明は、以下の理由コードで示されています。

1. ポート *port-number* の *host-name* で実行されている SMTP サーバーがなかった。
2. SMTP サーバーとの通信中に、予期しないエラーが検出された。

ユーザーの処置:

1. SMTP サーバー名が正しく指定されており、サービス・ファイルに指定されている SMTP ポートが SMTP サーバーによって使用されているポート番号に対応していることを確認してください。
2. オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから独立トレース機能呼び出してください。問題が解決されない場合は、IBM サポートに連絡してください。

SQL22296N 受信側アドレスが無効なため、SMTP プロトコルを使ってメールを送信できません。

説明: SMTP サーバーは、指定されたすべての受信側に対するメール送信プロトコルを正常にネゴシエーションできませんでした。

SQL22400 - SQL22499

SQL22400N 関数または機能の名前 *function-or-feature-name* が無効です。

説明: 関数または機能の名前 *function-or-feature-name* が無効です。有効な関数名および機能名については、DB2 のドキュメンテーションを参照してください。

ユーザーの処置: 有効な関数名または機能名を指定して、要求を再試行してください。

sqlcode: -22400

sqlstate: 5U001

ユーザーの処置: 受信側アドレスが正しく指定されていることを確認してください。

SMTP サーバーが受信側アドレスに到達できないときにも、このエラーが戻されることがあります。他のメール・クライアントを使い、同じ SMTP サーバーを使用する受信側にメールを送信することにより、独立して検査することができます。これが成功した場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから独立トレース機能呼び出してください。問題が解決されない場合は、IBM サポートに連絡してください。

SQL22297I 構成変更は、DB2 Administration Server を再始動するまで有効になりません。

説明: DB2 Administration Server は正常に構成されましたが、変更はすぐに有効にはなりません。変更は、DB2 Administration Server を再始動すると有効になります。

ユーザーの処置: 次回 DB2 Administration Server を再始動したときに変更を有効にする場合は、何のアクションも必要ありません。

SQL22401N エージェント ID *agent-ID* のアプリケーションが存在しません。

説明: エージェント ID *agent-ID* のアプリケーションは現在存在しません。アクティブなデータベース・アプリケーションをすべて表示するには、LIST APPLICATIONS コマンドを使用します。

ユーザーの処置: アクティブなアプリケーションのエージェント ID を指定して、要求を再試行してください。

sqlcode: -22401

sqlstate: 5U002

SQL22402N アクティビティ・モニター・レポートが見つかりません。

説明: 指定されたレポート ID またはレポート・タイプが無効であるため、アクティビティ・モニター・レポートが見つかりません。

ユーザーの処置: 有効なレポート ID または有効なレポート・タイプを指定して、要求を再試行してください。

sqlcode: -22402

sqlstate: 5U003

SQL22403N モニター・タスク *monitoring-task-name* の保管中に指定された 1 つ以上の値が無効です。理由コード: *code*。

説明: 理由コード *code* で示される理由のため、モニター・タスク *monitoring-task-name* の保管中に指定された 1 つ以上の値が無効です。以下の理由コードが考えられます。

- アクション・モード *action-mode* が無効です。
- 指定されたモニター・タスク名 *monitoring-task-name* が無効であるため、そのモニター・タスクの作成要求が失敗しました。
- 指定されたモニター・タスク名 *monitoring-task-name* と同じ名前の別のモニター・タスクが検出されたため、そのモニター・タスクの作成要求が失敗しました。
- アプリケーション・ロック・チェーンの使用可能性に対して指定された値が無効であるため、モニター・タスクの保管要求が失敗しました。
- モニター・タスクの保管要求が失敗しました。関連するレポートが存在しないため、*report-IDs* のうちの 1 つ以上のレポート ID が無効です。
- 指定されたモニター・タスク ID *monitoring-task-ID* が無効であるため、そのモニター・タスクの変更またはドロップ要求が失敗しました。関連するモニター・タスクが存在しないか、またはシステム定義のモニター・タスクです。システム定義のモニター・タスクは、変更したりドロップしたりできません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、次のとおりです。

- 新しいモニター・タスクを作成するには、アクション・モード C を指定します。既存のモニター・タスクを変更するには、アクション・モード M を指定します。要求を再試行してください。
- モニター・タスクの名前として NULL またはブランクを指定することはできず、128 文字を超える名前

も指定できません。有効なモニター・タスク名を指定してから、要求を再試行してください。

- モニター・タスクの名前はユニークでなければなりません。新しいモニター・タスクのためのユニークな名前を指定して、要求を再試行してください。
- このモニター・タスクでアプリケーション・ロック・チェーンを使用可能にするには 'Y' を指定します。そうでない場合は 'N' を指定します。要求を再試行してください。
- 存在するアクティビティ・モニター・レポートの ID を 1 つ以上指定してから、要求を再試行してください。
- 既存のユーザー定義モニター・タスク ID を指定してから、要求を再試行してください。

sqlcode: -22403

sqlstate: 5U004

SQL22404N 関数または機能 *function-or-feature-name* のためのデータベース・オブジェクトを作成またはドロップする際に指定されたアクション・モード *action-mode* が無効です。

説明: アクション・モード *action-mode* が無効です。*function-or-feature-name* のデータベース・オブジェクトを作成するには、アクション・モード C を指定します。*function-or-feature-name* のデータベース・オブジェクトをドロップするには、アクション・モード D を指定します。

ユーザーの処置: 有効なアクション・モードを指定してから、要求を再試行してください。

sqlcode: -22404

sqlstate: 5U005

SQL22405N アクティビティ・モニターは、モニター・スイッチ *monitor-switch* がデータベース・マネージャー・レベルでオンになっていないため、必要なスナップショット・データを収集できません。

説明: アクティビティ・モニターは、モニター・スイッチ *monitor-switch* がデータベース・マネージャー・レベルでオンになっていないため、必要なスナップショット・データを収集できません。

ユーザーの処置: モニター・スイッチ・データベース・マネージャー構成パラメーターを使用することによって、指定されたモニター・スイッチをオンにしてから、要求を再試行してください。

sqlcode: -22405

SQL27900 - SQL27999

SQL27902N ロードの再始動/終了は、ロード・ペンディング状態でない表では許可されません。

説明: 再始動または終了は必要ありません。ロード・ユーティリティの再始動および終了モードは、以前に失敗/割り込みのあったロード操作を再開または取り消すために使用されます。これらは、以前にロード操作が失敗している表で、その表がロード・ペンディング状態にある場合のみサポートされます。ロード・ペンディングでない表では、ロード・ユーティリティの挿入モードと置換モードだけがサポートされます。

ユーザーの処置: 入力ソースの内容を表に移植するには、挿入モードか置換モードを使ってロード・コマンドを再発行してください。現在の表の状態を確認するには、ロード照会ユーティリティを使用できます。

SQL27903I *agenttype* がパーティション *partitionnumber* で *timestamp* に開始されました。

説明: これは、DB2 エージェントが指定されたパーティションで開始されようとしていることを示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27904I 入力ファイルが見つかりませんでした。標準入力を入力として使用します。

説明: これは、DB2 エージェントが指定されたパーティションで開始されようとしていることを示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27907I 最大入力レコード長 *record-length*。

説明: これは、ロード操作に対して使用されるレコード長を示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27908I プログラムを実行しているチェック・レベル: *check-level*。

説明: これは、切り捨てチェックが使用可能になっているかどうかを示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27909I 区切り文字のないレコードを *numberofrecords* 個トレース中です。

説明: これは、最初の *numofrecords* 個のレコードに対してトレースが使用可能になっていることを示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27910I スtring区切り文字は *chardel*、列区切り文字は *coldel*、小数点は *decept* です。区切り文字のあるレコードを *numofrecords* 個トレース中です。

説明: これは、String、列、および小数点に対してどの区切り文字が使用されているかを示す通知メッセージです。さらに、このメッセージは、最初の *numofrecords* 個のレコードに対してトレースが使用可能になっていることも示しています。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27911I 入力パーティション・マップ・ファイル *filename* を読み取り用に正常にオープンしました。

説明: この通知メッセージは、入力パーティション・マップ・ファイルが読み取り用に正常にオープンされたことを示しています。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27912I 入力パーティション・マップの読み取り中です。

説明: この通知メッセージは、入力パーティション・マップ・ファイルの読み取りが進行中であることを示しています。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27913I 入力パーティション・マップを正常に読み取りました。

説明: この通知メッセージは、入力パーティション・マップ・ファイルが正常に読み取られたことを示しています。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27914I 操作モードは *mode* です。

説明: この通知メッセージは、パーティション・エージェントの操作モードを示しています。

次の 2 つの操作モードがあります。

- PARTITION
- ANALYZE

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27915I 出力パーティション・マップ・ファイルが使用されていません。

説明: これは、出力パーティション・マップ・ファイルが使用されていないことを示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27916I 出力パーティション・マップ・ファイル *filename* を正常にオープンしました。

説明: これは、出力パーティション・マップ・ファイルが正常にオープンされたことを示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27918I 分散ファイル名: *filename*。

説明: これは、ユーティリティで使われる分散ファイルの名前を示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27919I 分散ファイル *filename* を書き込み用に正常にオープンしました。

説明: この通知メッセージは、分散ファイルが書き込み用に正常にオープンされたことを示しています。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27920I このユーティリティは *numkeys* パーティション・キーを使用しています。

説明: この通知メッセージは、ユーティリティで使われているパーティション・キーの数を示しています。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27921I *keyname* 開始:*index* 長さ:*length* 位置:*position* タイプ:*type*。

説明: この通知メッセージは、パーティション・キーの属性を記述しています。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27922I 実行タイプが **ANALYZE** であるため、出力データ・ファイルは作成されません。

説明: これは、操作モードが ANALYZE であるため、出力データ・ファイルが作成されないことを示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27926I パーティション *partitionnum* の出力データは、標準出力に送られます。

説明: これは、パーティション *partitionnum* の出力データが標準出力に送られることを示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27927I *numofrecords* 個のレコード (または行) を処理しました。

説明: これは、*numofrecords* レコード (または行) が処理されたことを示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27928I レコード番号 *num* を処理中です。

説明: これは、どのレコードが処理されているかを示す通知メッセージです。このメッセージは、TRACE オプションが指定されている場合のみ報告されます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27929I ハッシュ関数がパーティション番号を返しました: *hexvalue* (16 進) *decvalue* (10 進)

説明: この通知メッセージは、ハッシュ関数の結果を 16 進数形式と 10 進数形式の両方で報告します。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27930N パーティション中に理由コード *reason-code* およびパーティション関連レコード番号 *rec-num* でレコードが拒否されました。

説明: レコードが属するパーティションを判別しているとき、レコードがロード中に拒否されました。

'dumpfile' ロード修飾子が指定された場合、上記リストのパーティション関連レコード番号 *rec-num* のパーティション関連 dumpfile で、拒否されたレコードを検出できます。

reason-code で指定されるエラーの説明は、以下のとおりです。

1. パーティション列のデータ・タイプのストリング標記が無効です。構文が無効か、または値が範囲外のいずれかです。
2. パーティション・キーに対応する列の値がレコードの最初の 32KB に含まれていません。
3. レコードが空 (すべてスペース文字) です。
4. レコード長が予定した長さとは一致しません。
5. レコードが不完全です。
6. 生成された列の値を処理中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: *reason-code* に対応するアクションは、以下のとおりです。

1. ストリング表示またはデータ・タイプが正しいことを確認します。
2. パーティション・キーを含む列の値がレコードの最初の 32KB に含まれている必要があります。
3. レコードが空である可能性がある場合は、データが正確であるか確認します。
4. レコード長が予定した長さより長くないか、または短くないことを確認します。
5. 入力データ・ファイルが完全であることを確認します。
6. 生成された列の値が正しく、準拠していることを確認します。

SQL27931I 出力パーティション・マップをファイル *filename* に書き込み中です。

説明: これは、出力パーティション・マップが *filename* に書き込まれていることを示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27932I 分散マップを *filename* に書き込み中です。

説明: これは、分散マップが *filename* に書き込まれていることを示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27935I *agenttype* は、パーティション *partitionnumber* で *timestamp* に終了しました。

説明: これは、DB2 エージェントが指定されたパーティションでの操作を完了したことを示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27936I 経過時間: *hr* 時間、*min* 分、*sec* 秒。

説明: これは、合計経過時間を報告する通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27937I スループット: *throughput* レコード/秒

説明: これは、指定された DB2 エージェントのスループットを示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27939I 出力パーティションのレコード・カウント : パーティション番号 *partitionnum*。レコード・カウント: *numofrecords*。

説明: この通知メッセージは、指定されたパーティションに対して処理されたレコードの数を示しています。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27941I プログラムが異常終了しました。

説明: この通知メッセージは、ユーティリティ・プログラムが異常終了したことを示しています。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27942I 警告メッセージが *numofwarnings* 個と破棄レコードが *numofdisrec* 個あります。

説明: この通知メッセージは、操作中に *numofwarn* 個の警告メッセージと *numofdisrec* 個の破棄レコードを検出したことを報告しています。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27945I キー索引: *index*。データ *data1 data2 data3 data4 data5*。

説明: この通知メッセージは、指定されたパーティション・キーの属性を報告しています。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27947I 構成ファイルの行 *linenum* に指定された入力データ・ファイルは無視されます。

説明: 構成ファイルの行 *linenum* に指定された入力データ・ファイルは無視されます。コマンド行オプションが指定されている場合は使用されますが、指定されていない場合は、構成ファイルの中の 1 つ目の入力データ・ファイルの指定が使用されます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27948I 構成ファイルの行 *linenum* に指定された出力データ・ファイルは無視されます。

説明: 構成ファイルの行 *linenum* に指定された出力データ・ファイルは無視されます。 コマンド行オプションが指定されている場合は使用されますが、指定されていない場合は、構成ファイルの中の 1 つ目の出力データの指定が使用されます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27949I 構成ファイルの行 *linenum* に指定された分散データ・ファイルは無視されます。

説明: 構成ファイルの行 *linenum* に指定された分散ファイルは無視されます。 コマンド行オプションを指定すれば使用できますが、指定しない場合、構成ファイルにある分散ファイルの最初の指定を使用します。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27950I 入力データ・ファイルのタイプは *filetype* です。

説明: これは、入力データのフォーマットが *filetype* であることを示す通知メッセージです。

- 0-ASC
- 1-DEL
- 2-BIN
- 3-CUR

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27951I バイナリー数または区切り付き入力データ・ファイルである場合、**NEWLINE** フラグは無視されます。

説明: この通知メッセージは、バイナリーまたは区切り文字付き入力データ・ファイルについて **NEWLINE** フラグが無視されることを報告しています。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27952I **NEWLINE** フラグが **on** になっています。

説明: この通知メッセージは、**NEWLINE** フラグが有効であることを報告しています。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SQL27953I 使用法: **db2split**
[-c *configuration-file-name*]
[-d *distribution-file-name*]
[-i *input-file-name*]
[-o *output-file-name*]
[-h *help message*]

説明:

- c オプションはユーザー指定の構成ファイルを使用して、このプログラムを実行します。
 - d オプションは、分散ファイルを指定します。
 - i オプションは、入力ファイルを指定します。
 - o オプションは、出力ファイルを指定します。
 - h オプションはヘルプ・メッセージを生成します。
-

SQL27959N パーティション・データベース構成オプション *option-name* が無効です。 理由コード = *reason-code*

説明: エラー・メッセージの中で示されているパーティション・データベース構成オプションは、誤って指定されているか、指定されているほかのロード・オプションの 1 つと非互換です。

以下の理由コードが考えられます。

- 1 パーティション・データベース構成オプションは非パーティション・データベース環境、または **DB2_PARTITIONEDLOAD_DEFAULT** レジストリー変数が **OFF** に設定されているときには指定できません。
- 2 パーティション・データベース構成オプションを複数回指定することはできません。
- 3 **db2Load** API に渡された **piPartLoadInfoIn** 入力構造で、無効なポインターが検出されました。
- 4 **db2Load** API に渡された **poPartLoadInfoOut** 出力構造で、無効なポインターが検出されました。
- 5 **MODE** オプションに指定する引き数は、次のいずれかでなければなりません。
 - **PARTITION_AND_LOAD**
 - **PARTITION_ONLY**
 - **LOAD_ONLY**
 - **LOAD_ONLY_VERIFY_PART**
 - **ANALYZE**
- 6 パーティション・エージェントの最大数は、1

- つのクラスターで許可されるパーティションの最大数より小か等しくなければなりません。
- 7 パーティション・リストのパーティション数の最大数は、1 つのクラスターで許可されるパーティションの最大数より小か等しくなければなりません。
- 8 ISOLATE_PART_ERRS オプションに指定する引き数は、次のいずれかでなければなりません。
- SETUP_ERRS_ONLY
 - LOAD_ERRS_ONLY
 - SETUP_AND_LOAD_ERRS
 - NO_ISOLATION
- 9 STATUS_INTERVAL オプションに指定する値は、1 から 4000 の範囲内ではなければなりません。
- 10 最大ポート番号は、最小ポート番号より大か等しくなければなりません。
- 11 CHECK_TRUNCATION、NEWLINE、および OMIT_HEADER オプションには TRUE または FALSE の引き数しか指定できません。
- 12 RUN_STAT_DBPARTNUM に指定する引き数は、有効なパーティション番号でなければなりません。
- 13 モードが ANALYZE の場合は、MAP_FILE_OUTPUT オプションを指定する必要があります。
- 14 モードが PARTITION_ONLY または LOAD_ONLY の場合は、リモート・クライアントが使用されており、PART_FILE_LOCATION オプションを指定する必要があります。モードが PARTITION_ONLY または LOAD_ONLY で、ファイル・タイプが CURSOR の場合は、PART_FILE_LOCATION オプションを使用し、ファイル名を指定する必要があります。
- 15 ロード・アクションの RESTART と TERMINATE は、モードが PARTITION_AND_LOAD、LOAD_ONLY、または LOAD_ONLY_VERIFY_PART の場合にのみ使用できます。
- 16 FILE_TRANSFER_CMD オプションも指定されていないかぎり、HOSTNAME オプションは指定できません。
- 17 パーティションの分離エラー・モードである LOAD_ERRS_ONLY と SETUP_AND_LOAD_ERRS は、ロード・コマ

ンドの ALLOW READ ACCESS または COPY YES オプションの両方が使用される場合、使用できません。

- 18 LOAD_ONLY と LOAD_ONLY_VERIFY_PART モードは、ロード・コマンドの CLIENT オプションと非互換です。

ユーザーの処置: 正しいパーティション・データベース構成オプションを使って LOAD コマンドを再サブミットしてください。

SQL27960N ファイル・タイプが **CURSOR** の場合、**PART_FILE_LOCATION** は完全修飾基本ファイル名を指定する必要があります。

説明: タイプ CURSOR の入力ファイルからロードしている場合、PART_FILE_LOCATION オプションは、ディレクトリーではなく、完全修飾基本ファイル名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: PART_FILE_LOCATION パーティション・データベース構成オプションに正しい引き数を指定して、LOAD コマンドを再サブミットしてください。

SQL27961N モードが **ANALYZE** でない限り、**ROWCOUNT** をパーティション・データベース環境に指定することはできません。

説明: ロード・コマンドの ROWCOUNT オプションは、モードが ANALYZE である場合を除き、サポートされていません。

ユーザーの処置: ROWCOUNT オプションを指定せずに、ロード・コマンドを再サブミットしてください。

SQL27965N **DB2_LOAD_COPY_NO_OVERRIDE** レジストリー変数の値 = *value* は無効です。

説明: リカバリーの可能性を決める COPY NO プロパティーを指定した LOAD が発行されましたが、DB2_LOAD_COPY_NO_OVERRIDE レジストリー変数は無効です。

ユーザーの処置: DB2 インフォメーション・センターでレジストリー変数の詳細を確かめるか、または、このレジストリー変数の設定を解除して、リカバリーの可能性を決める COPY NO を指定した LOAD のオーバーライドを停止してください。

SQL27966W DB2_LOAD_COPY_NO_OVERRIDE レジストリー変数の値 *value* は、**LOAD** に指定されている **COPY NO** パラメーターをオーバーライドします。

説明: リカバリーの可能性を決める **COPY NO** パラメーターを指定した **LOAD** コマンドが発行されましたが、**DB2_LOAD_COPY_NO_OVERRIDE** レジストリー変数はこのパラメーターをオーバーライドします。

ユーザーの処置: DB2 インフォメーション・センターで **DB2_LOAD_COPY_NO_OVERRIDE** レジストリー変数の詳細を確かめるか、または、このレジストリー変数の設定を解除して、リカバリーの可能性を決める **COPY NO** を指定した **LOAD** のオーバーライドを停止してください。

SQL27967W LOAD 中のリカバリーの可能性を決める **COPY NO** パラメーターは、**HADR** 環境内で **NONRECOVERABLE** に変換されました。

説明: **LOAD** 中のリカバリーの可能性を決める **COPY NO** パラメーターは、**NONRECOVERABLE** に変換されました。これが発生したのは、**LOAD** が **HADR** 環境で発行され、しかも **DB2_LOAD_COPY_NO_OVERRIDE** レジストリー変数が設定されていないためです。

ユーザーの処置: **COPY NO** ロード・パラメーターは、**HADR** 環境では無効です。 **COPY NO** パラメーターをオーバーライドするように **DB2_LOAD_COPY_NO_OVERRIDE** レジストリー変数を設定することができますが、 **COPY NO** パラメーターが **NONRECOVERABLE** に変換されるのを容認してもかまいません。

SQL27970N 互換性のないインポート・オプションの組み合わせが指定されました。理由コード = reason-code

説明: 互換性のないインポート・オプションの組み合わせがユーザーにより指定されました。

コマンドは処理されません。

reason-code で指定されるエラーの説明は、以下のとおりです。

1. **SKIPCOUNT** および **RESTARTCOUNT** オプションは同時に指定できません。
2. オンライン・インポート・モード (**ALLOW WRITE ACCESS**) は **REPLACE**、**CREATE** および **REPLACE_CREATE** インポート・オプションと互換性がありません。

3. オンライン・インポート・モード (**ALLOW WRITE ACCESS**) はバッファ挿入を使用してインポート・コマンドに指定されました。
4. オンライン・インポート・モード (**ALLOW WRITE ACCESS**) はビューに挿入するインポート・コマンドに指定されました。
5. オンライン・インポート・モード (**ALLOW WRITE ACCESS**) は表ロック・サイズを使用してターゲット表に指定されました。
6. コミット・カウント **AUTOMATIC** はバッファ挿入を使用してインポート・コマンドに指定されました。
7. コミット・カウント **AUTOMATIC** がインポート・コマンドに指定されましたが、サーバーはこのオプションをサポートしません。自動コミット・カウントをサポートするサーバーは **DB2 UDB LUW V8.1** フィックスパック 4 以上です。
8. オンライン・インポート・モード (**ALLOW WRITE ACCESS**) がインポート・コマンドに指定されましたが、サーバーはこのオプションをサポートしません。オンライン・インポートをサポートするサーバーは **LUW**、**zSeries** および **iSeries** です。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

1. **SKIPCOUNT** または **RESTARTCOUNT** オプションのいずれかを使用して、コマンドを再実行してください。
2. **ALLOW WRITE ACCESS** を指定せずに、あるいは **INSERT** または **INSERT_UPDATE** インポート・オプションを使用して、コマンドを再実行してください。
3. **ALLOW WRITE ACCESS** を指定せずに、または **INSERT BUF** オプションを使用せずにインポート・パッケージ (bind files **db2uimtb.bnd** and **db2uimpb.bnd**) を再バインドして、コマンドを再実行してください。
4. **ALLOW WRITE ACCESS** を指定せずに、コマンドを再実行してください。
5. **ALLOW WRITE ACCESS** を指定せずに、あるいは **LOCKSIZE ROW** を使用して表を変更して、コマンドを再実行してください。
6. 自動コミット・カウントを指定せずに、または **INSERT BUF** オプションを使用せずにインポート・パッケージ (bind files **db2uimtb.bnd** and **db2uimpb.bnd**) を再バインドして、コマンドを再実行してください。
7. 非互換サーバーではこのコマンド・オプションを使用しないでください。

8. 非互換サーバーではこのコマンド・オプションを使用しないでください。

SQL27971N インポート・ユーティリティの開始以降、ターゲット表が変更されました。

説明: オンライン・インポートの実行中、並行アプリケーションがターゲット表をドロップし、同じ名前の表を新規作成しました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 必要であれば、新規作成した表で操作を再実行してください。

SQL27972N *first-failed-row* から開始し *last-failed-row* で終了する行の範囲が、入力ファイルから表に挿入されませんでした。 **SQLCODE** = *sqlcode*

説明: アトミック・コンバウンド・データベース操作が入力ファイルからのデータ読み取りの行シーケンスの挿入に失敗しました。入力ファイルの 1 つ以上のフィールドが、データベース内の挿入先のフィールドと互換でない可能性があります。

入力データの次の行から処理が継続されます。

ユーザーの処置: 入力ファイルとデータベースの内容を調べてください。必要に応じて、データベースまたは入力ファイルを変更して、もう一度やり直してください。

SQL27990W ロード中、少なくとも 1 行が誤ったパーティションにあることが検出されました。

説明: **LOAD_ONLY_VERIFY_PART** モードでロード・ユーティリティを使ってパーティション・データベースをロードしているときに、誤ったパーティションにあることが検出された入力ファイルの行はすべて破棄されます。“*dumpfile*” 修飾子が指定されている場合は、破棄された行はダンプ・ファイルに保管されます。このメッセージは、複数のパーティション違反がある場合でも、1 つのロード・ジョブの 1 つのパーティションに対して 1 回しか表示されません。

ユーザーの処置: 廃棄された行がダンプ・ファイルに保管された場合は、単に **MODE** オプションを **PARTITION_AND_LOAD** に設定して別のロード・コマンドを発行することにより、その行を正しいパーティションにロードすることができます

SQL27991W ロード・コマンドに指定されたパーティション・エージェントの数が多過ぎます。

説明: ロード・コマンドの **PARTITIONING_DBPARTNUMS** パーティション・データベース構成オプションに指定されたパーティション化エージェントの数が多過ぎます。

MAX_NUM_PART_AGENTS ロード・オプションにより最大数のパーティション・エージェントが指定されています。この数が指定されていない場合は、デフォルトで 25 になります。

ユーザーの処置: 正しい数のパーティション・エージェントを指定してコマンドを再サブミットしてください。または、**PARTITIONING_DBPARTNUMS** オプションを省略すると、ロード・ユーティリティが自動的にパーティション・エージェントの適切な数を選択します。

SQL27992N データ・ファイルには有効なパーティション・マップが入っていますが、ロード・モードが **LOAD_ONLY** ではありません。

説明: ロードは、ファイルの先頭に有効なパーティション・マップを検出しました。指定されたロード・モードによって、ユーティリティはこれをユーザー・データとして扱うため、その結果予期しない結果となる可能性があります。

ユーザーの処置: ファイル内のデータがすでにパーティション化されているために、データ・ファイルがパーティション・マップ・ヘッダーで開始されている場合は、**LOAD_ONLY** モードでファイルをロードしてください。この場合は、**OUTPUT_DBPARTNUMS** オプションを使ってデータのロード先である単一パーティションを指定することも必要です。

ロードによってファイルの先頭に検出されたパーティション・マップが実際にユーザー・データである場合は、**IGNOREHEADER** 修飾子を使用してパーティション・マップの検出を使用不可にし、そのデータ・ファイル全体をロードしてください。

SQL27993W ロード・ユーティリティの **STATISTICS USE PROFILE** オプションが指定されましたが、統計プロファイルが存在しません。

説明: カタログ表 **SYSIBM.SYSTABLES** の中に統計プロファイルが存在しません。ロードを実行するには、その前に統計プロファイルを作成する必要があります。

ロード・ユーティリティの処理が続行されます。

ユーザーの処置: 統計プロファイルを作成するには、**RUNSTATS** ユーティリティの **SET PROFILE** または **PROFILE ONLY** オプションを使用します。このユーテ

イリティーのオプションについては、RUNSTATS のド

キュメンテーションを参照してください。

SQL29000 - SQL29099

SQL29000N DYN_QUERY_MGMT に指定されている値が無効です。DB2 Query Patroller はこのサーバーにインストールされていません。

説明: データベース構成パラメーター DYN_QUERY_MGMT を ENABLE に更新しようとしたが、DB2 Query Patroller がインストールされていないため、更新に失敗しました。

ユーザーの処置: DB2 Query Patroller サーバーをインストールしてください。

SQL29001N このデータベース・クライアント・レベルには、実行している DB2 Query Patroller サーバーのレベルとの互換性がありません。

説明: クライアント・コードとサーバー・コードに互換性がありません。

SQL29002N DB2 Query Patroller はこのサーバーにインストールされていません。

説明: DB2 Query Patroller サーバー表がサーバーに存在しません。

ユーザーの処置: DB2 Query Patroller サーバーをインストールしてください。

SQL29003N DB2 Query Patroller は Java クラス *class-name* をロードできませんでした。理由コード: *reason-code*

説明: Java クラス *class-name* のロードを試みているときにエラーが起きました。理由コードには、以下のものがあります。

1 クラスが CLASSPATH で見つからない。

ユーザーの処置: *class-name* が CLASSPATH にインストールされていることを確認してください。

SQL29004N DB2 Query Patroller クラス *class-name* は、シグニチャー *signature* の方式 *method-name* を呼び出すことができません。

説明: Java 方式 *method-name* が見つかりません。

ユーザーの処置: 正しいバージョンの DB2 Query Patroller クライアントがインストールされていることを確認してください。

SQL29005N ユーザー *user-ID* には、有効な Query Patroller サブミッター・プロファイルがありません。

説明: ユーザー *user-ID* には、Query Patroller の有効なサブミッター・プロファイルがありません。これは、次の理由から発生する可能性があります。

1. ユーザーにサブミッター・プロファイルがない。
2. ユーザーに所属するユーザーまたはグループ、あるいはその両方のサブミッター・プロファイルが一時停止している可能性がある。

ユーザーの処置: データベース管理者に、サブミッター・プロファイルを作成するか、またはサブミッター・プロファイルを再度アクティブにするよう要求してください。

SQL29006N Java 例外 *exception-string* が起きました。

説明: Java 例外 *exception-string* が起きました。

ユーザーの処置: 問題が続く場合、技術サービス担当者に連絡してください。

SQL29007N クエリー・コントローラーと通信できません。

説明: クエリー・コントローラーが実行中でないか、または通信がタイムアウトになっています。

ユーザーの処置: データベース管理者に、クエリー・コントローラーを開始するよう要求してください。

SQL29008N ジョブ・シーケンス番号の生成でエラーが発生しました。

説明: ジョブ・シーケンス番号の生成中にエラーが起きました。

ユーザーの処置: 問題が続く場合、技術サービス担当者に連絡してください。

SQL29009N 照会が拒否されました。理由コード *reason-code*。

説明: 照会が拒否されました。理由コードは以下のとおりです。

1. DB2 によって、照会が結果セットを生成することはできません。あるいは照会にホスト変数、パラメーター・マーカー、特殊レジスター、宣言済みグロー

バルー時表、セッション変数、IDENTITY_VAL_LOCAL 関数、NEXTVAL 式、または PREVVVAL 式 (またはこの両方の式) が含まれています。照会が実際に実行される時に、状態が無効である可能性があるため、照会の保留またはバックグラウンドでの実行ができません。

2. 照会には DB2 表を更新しますが、照会が実際に実行される時に状態がもう有効ではない可能性があるため、照会の保留またはバックグラウンドでの実行ができません。
3. 照会にはネストしたルーチンが含まれるため、照会は待機されません。
4. 照会にはネストしたルーチンが含まれるため、保留またはバックグラウンドでの実行ができません。
5. DB2 によって、この照会を待機することはできません。照会に配列の挿入が含まれる場合、これが発生する可能性があります。
6. DB2 では、コンセントレーターがオンのときに照会をキューに入れることはできません。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡して理由コードを検査し、該当するコストしきい値を必要に応じて増やしてください。

SQL29010N 照会サブミットが取り消されました。

説明: ユーザーが照会サブミットを取り消しました。サブミットされた照会はありません。

SQL29011I 照会 *query-ID* はバックグラウンドで実行されます。

説明: ユーザーは、照会をバックグラウンドで実行する選択をしました。

SQL29012N 照会 *query-ID* が打ち切られました。

説明: 照会 *query-ID* が打ち切られました。

説明: クエリー・パトローラー・センターを起動するか、または qp コマンドを発行して照会が打ち切られた理由を判別してください。

SQL29013I 照会 *query-ID* は保留されています。

説明: 照会は Query Patroller によって保留状態になっています。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡し、照会を開放してください。

SQL29014N DB2 レジストリー変数 *registry-variable* に指定されている値は無効です。

説明: *registry-variable* による以下の制限のため、*registry-variable*: に指定されている値は無効です。

DQP_NTIER

値は OFF、RUN[:timeout]、または CHECK[:timeout] のいずれかでなければなりません。

DQP_LAST_RESULT_DEST

32 文字を超える長さは許可されていません。

DQP_TRACEFILE

256 文字を超える長さは許可されていません。

ユーザーの処置: db2set コマンドで DB2 レジストリー変数 *registry-variable* の値を訂正し、照会を再サブミットしてください。

SQL29015N ジョブを取り消しているときにエラーが見つかりました。理由コード : *reason-code*

説明: ジョブの取り消しを試みているときに、エラーが見つかりました。理由コードは SQL または DB2 メッセージをマップしています。

ユーザーの処置: 理由コードを調べ、エラーを訂正し、操作を再試行してください。

SQL29016N クライアント上のデータ・ソースは、DB2 Query Patroller サーバー上のデータ・ソースに一致していません。

説明: クライアントが接続されているデータ・ソースは、DB2 Query Patroller サーバーによって使用されているデータ・ソースに一致していません。

ユーザーの処置: DB2 Query Patroller サーバー上の DB2DBDFT プロファイル変数が、クライアント・データ・ソース名に一致していることを確認してください。

SQL29017N 照会 *query-id* が取り消されました。

説明: ユーザーが照会を取り消しました。

SQL29018N DB2 Query Patroller クライアントがインストールされていません。

説明: ユーザーは、データベース構成パラメーター DYN_QUERY_MGMT を使用可能にしたデータベースを照会しています。しかし、DB2 Query Patroller のクライアント・コードがクライアント・マシンにインストールされていません。

ユーザーの処置: DB2 Query Patroller QueryEnabler コ

ンポーネントをインストールしてください。

SQL29019N ジョブは、DB2 Query Patroller サーバーにスケジュールされています。

説明: ジョブは、DB2 Query Patroller サーバーにスケジュールされています。

ユーザーの処置: ありません。

SQL29020N 内部エラーが発生しました。 エラー = *error*。

説明: 内部処理中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サポートに連絡し、db2diag.log

SQL30000 - SQL30099

SQL30000N 後続のコマンドまたは SQL ステートメントの正常な実行に影響を与えない分散プロトコル・エラーのために実行が失敗しました: 理由コード *reason-code(subcode)*。

説明: 現在の環境コマンドまたは SQL ステートメントの正常な実行を妨げるシステム・エラーが起きました。このメッセージ (SQLCODE) は、ステートメントのコンパイル時、または実行時に出されます。

コマンドまたはステートメントは処理できません。現在のトランザクションはロールバックされず、アプリケーションはリモート・データベースに接続されたままです。

ユーザーの処置: メッセージ番号と理由コードを記録してください。可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。アプリケーションを再実行してください。

十分なメモリー・リソースが十分にあってもこの問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能呼び出ししてください。

必要な情報:

- 問題記述
- SQLCODE と理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

sqlcode: -30000

sqlstate: 58008

および qpdiag.log ファイルを提供してください。

SQL29021N ユーザー *user-ID* が一時停止しました。

説明: ユーザー *user-ID* は、データベースへの照会のサブミットを一時停止しています。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡し、サブミッター・プロファイルを再活性化してください。

SQL30002N 一連のステートメントでの前の条件のために、SQL ステータスを実行できません。

説明: SQL ステートメントは PREPARE にチェーンされていましたが、PREPARE ステートメントが、プログラムまたはエンド・ユーザーがチェーン・ステートメントを再発行する必要のある、または異なる SQL 要求を発行する必要のある警告 SQLCODE を受け取りました。このエラーは、クライアント/サーバー環境でのみ発生します。

- DRDA を使用している分散クライアントが OPEN ステートメントを PREPARE に連結しましたが、PREPARE ステートメントが SQLCODE +1140 を受け取りました。

ステートメントはチェーンして実行されません。

ユーザーの処置: ステートメントを別の要求としてもう一度送信する必要があります。

sqlcode: -30002

sqlstate: 57057

SQL30005N サーバーでサポートされていない機能のため、実行できませんでした: ロケーション *location* 製品 ID *pppvrrm* 理由 *reason-code(subcode)*。

説明: SQL ステートメントが要求機能をサポートしていないサーバーに経路指定されているため、現行の SQL ステートメントを実行できませんでした。このエラーが、この先の SQL ステートメントの実行完了を妨げることはありません。

ステートメントは処理できません。SQLCA はフォーマット済みです。

ユーザーの処置: この SQL コードをプロンプトする

SQL ステートメントを分析する際は支援用の DBA に通知してください。

location は、要求機能の実行に必要なデータベース・プロトコルをサポートできなかったサーバーの名前を示します。製品 ID の形式は <pppvrrm> です。英数字で 8 バイトのフィールドで、機能をサポートできなかった製品を示します。ppp は特定のデータベース製品を示します。vv は、製品のバージョンを示します。rr は、製品のリリースを示します。m は、製品の修正レベルを示します。

pppvrrm で使用できる値は以下のとおりです。

ppp	zOS の場合は DSN、VM/VSE の場合は ARI、Linux/Unix/Windows の場合は SQL、iSeries の場合は QSQ、Java の場合は JCC です。
vv	バージョン番号
rr	リリース・レベル
m	修正レベル

サポート外の機能を確認し、問題を訂正してください。サポート外の機能とその理由については、指定された *reason-code* を参照してください。reason-code で使用可能な値と、各コードが対応する機能は以下のとおりです。

0010	LONG_STMTS
0020	LONG255_IDS
0030	EXTENDED_DESCRIBE
0040	EXTENDED_DIAGNOSTICS
0050	KEEP_DYNAMIC
0060	MULTI_ROW_FETCH
0070	MULTI_ROW_INSERT
0080	SQL_CANCEL
0090	SCROLLABLE_CURSORS
0100	CURSOR_ATTRIBUTES
0110	MONITORING
0120	SELECT_WITH_INSERT
0130	DATA_ENCRYPTION
0140	PACKAGE_PATH

最後に、*subcode* 値を使用してさらに問題を調べることもできます。非ゼロの場合、*subcode* は 1 バイト・コードで作られ、ネットワークにおけるエラーの検出方法を示します。

- '01'x の場合は、リクエスターとして作用するローカル DB2 がエラーを検出します。ロケーションと PRDID はエラーのあるサーバーを示します。
- '02'x の場合は、サーバーがエラーを検出します。ロケーションと PRDID はローカル DB2 サーバーのロケーションとレベルを示します。
- '03'x の場合は、中間サーバー (ホップ・サイト) がエラーを検出し、エラーの発生したサーバーがそのエラー、その場所、および PRDID によって特定されます。
- '04'x の場合は、中間サーバー (ホップ・サイト) がエラーを検出し、エラーの発生したサーバーがそのエラー、その場所、および PRDID によって特定されません。

sqlcode: -30005

sqlstate: 56072

SQL30020N 後続のコマンドおよび SQL ステートメントの正常な実行に影響を与える分散プロトコル・エラーのために実行が失敗しました: 理由コード *reason-code(subcode)*。

説明: 後続のコマンドまたは SQL ステートメントと同様に、現在の環境コマンドまたは SQL ステートメントの正常な実行を妨げるシステム・エラーが起きました。

サブコードは、非ゼロで高位バイトなど 2 バイトで構成される場合、エラーが検出されたサイトを示します。これは、エラーがローカル DB2 サーバーで検出された場合、X'01'です。これは、エラーがリモート・サーバーで検出された場合、X'02'です。下位バイトは理由コードに特化したエラー・コードです。

理由コード 124C は、この要求の DRDA データ・ストリームに構文エラーがあることを示します。

コマンドまたはステートメントは処理できません。現在のトランザクションはロールバックされ、アプリケーションはリモート・データベースから切断されます。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) と理由コードを記録してください。可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。リモート・データベースに接続して、アプリケーションを再実行してください。

十分なメモリー・リソースが十分にあってもこの問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能呼び出ししてください。

必要な情報:

- 問題記述

- SQLCODE と理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

いくつかの考えられる理由コードは以下のとおりです。

121C ユーザーが、要求したコマンドを実行する権限を持っていないことを示しています。

1232 永続エラーのために、コマンドが完了できませんでした。ほとんどの場合、サーバーは異常終了の処理に入ります。

1254 クライアントから送信されたコマンドにより、クライアントに戻す、設計済みメッセージのないリモート・サーバーで、非設計済みの、インプリメンテーション特有の条件が作成されました。

リモート・サーバーが DB2 UDB for OS/390、z/OS の場合は、コンソール・ログにこのエラーの情報がないか確認してください。

リモート・サーバーが DB2 UDB for iSeries の場合は、通常、エラーを判別するためには、サーバー・ジョブのジョブ・ログまたは FFDC (First Failure Data Capture) スプール・ファイル、あるいはその両方が必要です。

リモート・サーバーが DB2 UDB for Unix/Windows の場合は、リモート・データベース・サーバーの管理通知ログにこのエラーに関する情報がないか確認してください。

220A ターゲット・サーバーが、無効なデータ記述を受け取りました。ユーザー *SQLDA* を指定した場合は、フィールドが正しく初期化されていることを確認してください。また、その長さが、使用するデータ・タイプの最大許容長を超えていないことを確認してください。

下位レベル・クライアントを持つゲートウェイ・サーバー環境で DB2 Connect製品を使用している場合、アプリケーションのホスト変数および照会した表の列の記述が一致しないときに、このエラーが発生する可能性があります。

sqlcode: -30020

sqlstate: 58009

SQL30021N 後続のコマンドおよび SQL ステートメントの正常な実行に影響を与える分散プロトコル・エラーのために実行が失敗しました。レベル *level* のマネージャー *manager* はサポートされていません。

説明: アプリケーションのリモート・データベースへの正常な接続を妨げるシステム・エラーが起きました。このメッセージ (SQLCODE) は、SQL CONNECT ステートメントに対して発生します。 *manager* と *level* は、クライアントとサーバー間の非互換性を識別するための数値です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: メッセージ番号、 *manager*、 *level* の値を記録してください。可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。もう一度、リモート・データベースへの接続を試みてください。

問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能呼び出してください。その後で、サービス技術員に以下の情報を渡してください。

- 問題記述
- SQLCODE と理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

sqlcode: -30021

sqlstate: 58010

SQL30040N 後続のコマンドおよび SQL ステートメントの正常な実行に影響を与えない使用可能なリソースのために実行が失敗しました。理由 *reason*、リソースのタイプ *resource-type*、リソース名 *resource-name*、製品 ID *product-ID*

説明: 示されたリソースが足りないため、アプリケーションがコマンドまたは SQL ステートメントを実行できません。現在のトランザクションはロールバックされず、アプリケーションはリモート・データベースに接続されたままです。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 示されたリソースのサイズを増やして、コマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -30040

sqlstate: 57012

SQL30041N 後続のコマンドおよび SQL ステートメントの正常な実行に影響を与える使用不能なリソースのために実行が失敗しました。

理由 *reason*、リソースのタイプ *resource-type*、リソース名 *resource-name*、製品 ID *product-ID*

説明: リモート・データベースでリソースが使用できないために、アプリケーションがコマンドまたは SQL ステートメントを処理できません。SQLCODE はステートメントのコンパイルまたは実行時に出力されます。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

resource name が「暗号化」または「暗号解除」の場合には、パスワードの暗号化または暗号解除のユーザー出口が使用できないか、またはエラーを含んでいません。

コマンドまたはステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: リモート・データベースのシステム環境を調べてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー:

- パスワードの暗号化または暗号解読のユーザー出口が失敗した場合、*reason* はユーザー出口が呼び出されたときにフェデレーテッド・サーバーが受け取った整数値です。暗号化および暗号解読がフェデレーテッド・サーバーによってリンク・エディットされたときにエラーが発生していないかどうかを確認してください。

ユーザーが提供したユーザー出口を使用している場合には、ユーザー出口のソース・コードを調べて *reason* の返された原因を判別してください。ユーザー出口のソース・コードでエラーが見つかった場合、そのエラーを修正してフェデレーテッド・サーバーでオブジェクト・コードをリンク・エディットし、失敗したコマンドまたはステートメントを再発行してください。

- その他の場合には、要求を失敗させたデータ・ソースに問題がある（「問題判別の手引き」を参照して、SQL ステートメントの処理に失敗したデータ・ソースを判別してください）と考え、データ・ソースの問題を訂正し、失敗したコマンドまたはステートメントを再発行してください。

sqlcode: -30041

sqlstate: 57013

SQL30050N バインドの進行中の *number* コマンドまたは SQL ステートメントは無効です。

説明: アプリケーションが、進行中のプリコンパイル/バインド時には無効なコマンドまたは SQL ステートメントを発行しようとしています。<number> は、エラーのあるコマンドまたは SQL ステートメントを識別する数値です。

コマンドまたはステートメントは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーションがデータベース・マネージャーのプリコンパイラ/バインド・プログラムでない場合は、コマンドおよび SQL ステートメントを出す前に、バインドがアクティブでないことを確認してください。

アプリケーションがデータベース・マネージャーのプリコンパイラ/バインド・プログラムの場合、メッセージ番号 (SQLCODE) と <number> の値を記録しておいてください。可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。もう一度バインド操作を行ってください。

十分なメモリー・リソースが十分にあってもこの問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能呼び出ししてください。

以下の情報を用意して、テクニカル・サービス担当者に提供してください。

必要な情報:

- 問題記述
- SQLCODE と理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

sqlcode: -30050

sqlstate: 58011

SQL30051N 指定したパッケージ名と整合性トークンを持つバインド処理がアクティブではありません。

説明: プリコンパイル/バインドがアクティブでない場合に、プリコンパイル/バインド操作を発行しようとしたか、またはアクティブなプリコンパイル/バインド操作中に、無効なパッケージ名と整合性トークンのいずれか、またはその両方の使用が試みられました。

コマンドまたはステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: アプリケーションがデータベース・マネージャーのプリコンパイラ/バインド・プログラムでない場合、プリコンパイル/バインドがバインド操作の前

にアクティブになっており、正しい情報がバインド操作に渡されていることを確認してください。

アプリケーションがデータベース・マネージャーのプリコンパイラ/バインド・プログラムの場合は、メッセージ番号 (SQLCODE) と、可能であれば、SQLCA からのすべてのエラー情報を記録してください。もう一度やり直してください。

十分なメモリー・リソースが十分にあってもこの問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能呼び出ししてください。

以下の情報を用意して、テクニカル・サービス担当者に提供してください。

必要な情報:

- 問題記述
- SQLCODE と理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

sqlcode: -30051

sqlstate: 58012

SQL30052N プログラム準備の前提事項に誤りがありません。

説明: コンパイルされている SQL ステートメントが、プリコンパイラによって認識されないために、データベースによって処理されません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントが正しいことを確認して、もう一度やり直してください。問題が続く場合は、プログラムからそのステートメントを取り除いてください。

sqlcode: -30052

sqlstate: 42932

SQL30053N OWNER の値が、リモート・データベースでの許可チェックに合格しませんでした。

説明: プリコンパイラ/バインドの OWNER オプションに指定した値が、リモート・データベースでの許可チェックで拒否されました。この SQLCODE はプリコンパイラ/バインド中に出されます。これは、データベース・マネージャーのプリコンパイラ/バインド・プログラムからは出されません。

プリコンパイラ/バインド操作は処理されません。

ユーザーの処置: OWNER オプションに指定した ID を使用する権限を持っていることを確認するか、または OWNER オプションを使用しないでください。

sqlcode: -30053

sqlstate: 42506

SQL30060N *authorization-ID* は、操作 *operation* を実行する特権を持っていません。

説明: 許可 ID <authorization-ID> が適切な許可を付与せずに、示されている <operation> を実行しようとした。SQLCODE はステートメントのコンパイルまたは実行時に出されます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: <authorization-ID> が、必須の処理の実行に必要な許可を付与されていることを確認してください。

sqlcode: -30060

sqlstate: 08004

SQL30061N データベース別名またはデータベース名 *name* が、リモート・ノードで見つかりません。

説明: データベース名は、リモート・データベース・ノードでの既存のデータベースではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しいデータベース名または別名でコマンドを再サブミットしてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー:

SYSCAT.SERVERS の項目が、データ・ソースのデータベース名を正しく指定しているかどうかチェックしてください。

sqlcode: -30061

sqlstate: 08004

SQL30070N *command-identifier* コマンドはサポートされていません。

説明: リモート・データベースが、認識できないコマンドを受け取りました。現在の環境コマンドまたは SQL ステートメントは正常に処理されず、後続のコマンドまたは SQL ステートメントも正常に処理されません。

現在のトランザクションはロールバックされ、アプリケーションはリモート・データベースから切断されます。ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) とメッセージ ID を記録してください。可能であれば、SQLCA

からすべてのエラー情報を記録してください。リモート・データベースに接続して、アプリケーションを再実行してください。

十分なメモリー・リソースが十分にあってもこの問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能呼び出ししてください。

以下の情報を用意して、テクニカル・サービス担当者に提供してください。

必要な情報:

- 問題記述
- SQLCODE とコマンド ID
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

sqlcode: -30070

sqlstate: 58014

SQL30071N *object-identifier* オブジェクトはサポートされていません。

説明: リモート・データベースが、認識できないデータを受け取りました。現在の環境コマンドまたは SQL ステートメントは正常に処理されず、後続のコマンドまたは SQL ステートメントも正常に処理されません。

現在のトランザクションはロールバックされ、アプリケーションはリモート・データベースから切断されます。コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) とオブジェクト ID を記録してください。可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。リモート・データベースに接続して、アプリケーションを再実行してください。

メモリー・リソースが十分にあってもこの問題が発生する場合には、以下の情報が必要になります。

トレースがアクティブの場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。

以下の情報を用意して、テクニカル・サービス担当者に提供してください。

必要な情報:

- 問題記述
- SQLCODE とオブジェクト ID
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

sqlcode: -30071

sqlstate: 58015

SQL30072N *parameter-identifier* パラメーターはサポートされていません。

説明: リモート・データベースが、認識できないデータを受け取りました。現在の環境コマンドまたは SQL ステートメントは正常に処理されず、後続のコマンドまたは SQL ステートメントも正常に処理されません。

コマンドは処理されません。現在のトランザクションはロールバックされ、アプリケーションはリモート・データベースから切断されます。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) とパラメーター ID を記録してください。可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。リモート・データベースに接続して、アプリケーションを再実行してください。

十分なメモリー・リソースが十分にあってもこの問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能呼び出ししてください。

以下の情報を用意して、テクニカル・サービス担当者に提供してください。

必要な情報:

- 問題記述
- SQLCODE とパラメーター ID
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

sqlcode: -30072

sqlstate: 58016

SQL30073N *parameter-identifier* パラメーターの値 *value* はサポートされていません。

説明: リモート・データベースが、認識できないデータを受け取りました。現在の環境コマンドまたは SQL ステートメントは正常に処理されず、後続のコマンドまたは SQL ステートメントも正常に処理されません。

現在のトランザクションはロールバックされ、アプリケーションはリモート・データベースから切断されます。コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) とパラメーター ID を記録してください。可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。

リモート・データベースに接続して、アプリケーションを再実行してください。

メモリー・リソースが十分にあってもこの問題が発生する場合には、以下の情報が必要になります。

トレースがアクティブの場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。以下の情報を用意して、テクニカル・サービス担当者に提供してください。

必要な情報:

- 問題記述
- SQLCODE、パラメーター ID、および値
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

パラメーター ID の中には以下の入ったものがあります。

002F ターゲット・サーバーが、アプリケーション・リクエスターの要求するデータ・タイプをサポートしていません。たとえば、DB2 Connect が DB2 2.3 への接続に使用されている場合、適切な PTF が DB2 2.3 に適用されていないかぎり、このエラーが返されます。サーバーのレベルが、リクエスターによってサポートされていることを確認してください。

119C, 119D, 119E

ターゲット・サーバーが、アプリケーション・リクエスターの要求する CCSID をサポートしていません。リクエスターの使用する CCSID が、サーバーによってサポートされていることを確認してください。

- 119C - 1 バイトの CCSID を検証します。
- 119D - 2 バイトの CCSID を検証します。
- 119E - 混合バイトの CCSID を検証します。

sqlcode: -30073

sqlstate: 58017

SQL30074N *reply-identifier* 応答はサポートされていません。

説明: クライアントが、認識できない応答を受け取りました。現在の環境コマンドまたは SQL ステートメントは正常に処理されず、後続のコマンドまたは SQL ステートメントも正常に処理されません。

現在のトランザクションはロールバックされ、アプリケーションはリモート・データベースから切断されます。ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) と応答 ID を記録してください。可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。リモート・データベースに接続して、アプリケーションを再実行してください。

十分なメモリー・リソースが十分にあってもこの問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能呼び出ししてください。

以下の情報を用意して、テクニカル・サービス担当者に提供してください。

必要な情報:

- 問題記述
- SQLCODE と応答 ID
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

sqlcode: -30074

sqlstate: 58018

SQL30080N リモート・データベースとのデータの送信で、通信エラー *reason-code* が発生しました。

説明: *reason-code* には、コミュニケーション・マネージャーによって報告されたオリジナルのエラー・コードが入っています。

APPC エラー・コードの場合、形式は、*pppp-sssssss-dddddddd* で、*pppp* は 1 次戻りコード、*sssssss* は 2 次戻りコード、*dddddddd* はセンス・データです。これらのエラー・コードの値は、16 進数表記で行われます。1 次エラー・コードと 2 次エラー・コードには、データベース・サーバーとの対話が割り振れなかったことを示す、0003-00000004 および 0003-00000005 が入っています。センス・データは、APPC ALLOCATE エラーに対してのみ表示されます。

コマンドは処理されません。データベースへの接続が失敗するか、またはデータベースに接続されている現在のトランザクションがロールバックされ、アプリケーションがリモート・データベースから切り離されます。

APPC 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの説明については、「*IBM Communications Manager 1.0 APPC Programming Guide and Reference (SC31-6160)*」を参照してください。APPC センス・データの詳細については、「*IBM Communications Manager 1.0 Problem Determination Guide (SC31-6156)*」を参照してください。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーとコミュニ

ニケーション・マネージャーの両方が、データベース・サーバーで始動されていること、およびすべてのコミュニケーション・マネージャー構成パラメーターが正しいことを確認してください。

注: メッセージに示されている理由コードが 0003-084C0001 の場合は、サーバーではないワークステーションにリモート接続しようとしたことが、このメッセージの原因の 1 つと考えられます。リモート・ワークステーションがサーバーであることを確認してください。それがサーバーでない場合は、データベース・マネージャーをサーバーとしてインストールしてください。

sqlcode: -30080

sqlstate: 08001

SQL30081N 通信エラーが検出されました。使用中の通信プロトコル: *protocol*。使用中の通信 API: *interface*。エラーが検出されたロケーション: *location*。エラーを検出した通信関数: *function*。プロトコル固有エラー・コード: *rc1*、*rc2*、*rc3*。

説明: 通信サブシステムによって、エラーが見つけられました。

接続がすでに確立されている場合、考えられる原因は以下のとおりです。

- クライアント・ノードまたはサーバー・ノードの通信サブシステム・エラーのために、接続がダウンしてしまいました。
- SOCKS サーバーを使用している場合、SOCKS サーバー上の通信サブシステム・エラーのため接続がダウンした。
- ネットワーク・エラーにより、接続が切断された。
- サーバーのデータベース・エージェントが、システム管理者によって強制的にオフにされました。
- 主要データベース・マネージャー処理の異常終了のために、サーバーのデータベース・エージェントが終了しました。

新しい接続の確立を試みていた場合、考えられる原因は以下のとおりです。

- リモート・データベース・サーバーが、クライアントで正しくカタログされていません。
- サーバーのデータベース・マネージャー構成ファイルが、正しい構成パラメーターで構成されていません。
- クライアント・ノードまたはサーバー・ノードの通信サブシステムが正しく構成されていないか、または正常に始動されていません。

- SOCKS サーバーで通信サブシステムが使用されている場合には、それが正しく構成されていないか、正常に開始されていません。
- サーバーの DB2COMM 環境変数に、クライアントが使用する通信プロトコルが指定されていません。
- サーバーのデータベース・マネージャーが始動されていないか、または正常に始動されていません。DB2COMM によって指定されている 1 つ以上の通信プロトコルの開始が、成功していない可能性があります。

詳細については、トークンの値を参照してください。使用しているプロトコルと呼び出した通信関数によっては、いくつかのトークンが適用されない場合があります。以下は、トークンの値の説明です。

<protocol>

実際に使用されている通信プロトコル。有効なトークン値は以下のとおりです。

- TCP/IP
- APPC
- NETBIOS
- IPX/SPX

<interface>

上記の通信プロトコル・サービスを呼び出すために使用したアプリケーション・プログラミング・インターフェース。有効なトークン値は以下のとおりです。

- SOCKETS
- SOCKS
- CPI-C
- DLR または DD
- TLI または Connection/Bindery
- SOAP
- MQI-CLIENT

<location>

エラーが見つかったノードを特定するプロトコル・ユニークの ID。使用中のプロトコルに応じて、以下のようになります。

- TCP/IP
ID の形式は、ドット表記による Internet アドレスです。
- APPC
ID の形式は、完全修飾 LU 名 (networkID.LUname) です。
- NETBIOS

ID の形式は、ワークステーション名 (nname) です。

- IPX/SPX

ID の形式は、16 進数表記によるネットワーク・アドレスとノード・アドレス (network.node) です。

- MQ

ID の形式は MQ キュー名です。

- SOAP

ID の形式は、ドット表記による Internet アドレスです。

エラー発生時に location 情報が使用可能でない場合、このトークンは空のままです。

<function>

エラー・コードを戻した通信サブシステム関数の名前。

<rc1>、<rc2>、<rc3>

使用している各プロトコルに固有で使用可能なエラー・コードとサブコードのリスト。適用できないトークンは、"*" を含んでいます。

使用中のプロトコルに応じて、以下のようになります。

- TCP/IP

- <rc1> が存在し、それに TCP/IP ソケット関数呼び出しからのグローバル *errno* の値が入っている場合。Windows Sockets を使用しているときは、存在する場合、<rc1> には、WSAGetLastError() によって返された TCP/IP ソケット関数呼び出しからのエラーが含まれています。
- <rc2> が存在し、それに TCP/IP ネーム解決関数呼び出しからのグローバル *h_errno* の値が入っている場合。Windows Sockets を使用しているときは、存在する場合、<rc2> には、WSAGetLastError() によって返された TCP/IP データベース関数呼び出しからのエラーが含まれています。
- <rc3> が存在し、"0" が含まれている場合は、TCP/IP 接続がクローズされていることを意味します。これは、以下のいずれかの原因で発生した可能性があります。
 - サーバーのデータベース・エージェントが、システム管理者によって強制的にオフにされました。
 - *maxagents* データベース・マネージャー構成パラメーターを超えたために、データベース・エージェントが、サーバ

ーで始動できませんでした。管理通知ログにエラー・メッセージが記録されているかをチェックしてください。

- 接続は、TCP/IP レベルでリモート・サーバーによってクローズされたと考えられます。
- 主要データベース・マネージャー処理の異常終了のために、サーバーのデータベース・エージェントが終了しました。

注: Windows Sockets を使用している場合、<function> が WSAStartup で、<rc1> が 0 のときは、<rc2> には、DB2 が要求した Windows Sockets 仕様のバージョン・レベルが入っていて、<rc3> には、Windows Sockets DLL がサポートしている Windows Sockets 仕様のバージョン・レベルが入っています。

- APPC

<rc1> は、CPI-C 関数からの戻りコードを備えています。存在する場合、<rc2> は、CPI-C 関数呼び出しからのグローバル *errno* 値を備えています。<rc3> は適用されていません。

- NETBIOS

<rc1> は、NetBIOS に対する呼び出しからの戻りコードを備えています。<rc2> および <rc3> は適用されていません。

- IPX/SPX

<rc1> は TLI サービスに対する呼び出しからのグローバル *t_errno* 値、あるいは NetWare 接続またはバインダリー・サービスに対する呼び出しからの戻りコードを備えています。<rc1> *t_errno* が TLOOK の場合は、<rc2> に、発生した TLI イベントが入っています。<rc2> イベントが T_DISCONNECT の場合には、切り離された理由コードが <rc3> に入っています。AIX では、<rc1> *t_errno* が TSYSERR の場合には、システム *errno* (sys/errno.h に定義される) が <rc3> に入っています。AIX NetWare 接続またはバインダリー・サービスに対する呼び出しからのエラー戻りコードが <rc1> に入っている場合には、エラー・ジェネレーターは <rc2> に入っています。

- MQ

<rc1> には、関数の完了コードが入られませんが (警告なら 1、エラーなら 2)。<rc2> に

は、MQ 固有のエラー・コードが入れられます。 <rc3> は、MQ では使用されません。

- SOAP

<rc1> には、SOAP 通信関数からの戻りコードが入れられます。 <rc2> は、<rc3> の値に依存します。 <rc2> は以下のいずれかです。

- UNIX の場合は TCP/IP ソケット・エラーの `errno` の値、Windows オペレーティング・システムの場合は `WSAGetLastError`。
- Secure Socke Layer (SSL) の Global Security Kit (GSK) からの戻りコード。
<rc3> の値が "0" の場合、これが高水準 SOAP エラーである (ソケット・エラーや GSKit エラーではない) ことを示しています。 <rc3> の値が "1" の場合、これがソケット・エラーであったことを示しています。 <rc3> の値が "2" の場合、これが GSKit エラーであったことを示しています。

特定の通信エラー・コードに関する情報については、メッセージ・リファレンス の付録の中の通信エラーを参照してください。

ユーザーの処置:

接続がすでに確立されている場合は、以下の項目について調べてください。

1. サーバーのデータベース・エージェントが強制的にオフにされました。
2. サーバーのデータベース・マネージャーが異常終了しました。
3. 通信サブシステムまたはネットワーク・エラーが起きました。特定の通信エラー・コードに関する情報については、メッセージ・リファレンス を参照してください。

新しい接続を試みている場合は、以下の項目について調べてください。

1. リモート・データベース・サーバーが、クライアント・ノードで正しくカタログされました。
2. サーバーのデータベース・マネージャー構成ファイルが、正しい通信関連パラメーターで構成されています。データベース・マネージャー構成パラメーターが、サーバーで更新された場合は、変更を反映するために、データベース・マネージャーの停止と再始動を行ってください。
3. クライアントとサーバーの両方のノードの通信サブシステムが、正しく構成されて始動されています。

4. サーバーの DB2COMM 環境変数に、クライアントが使用する通信プロトコルが指定されています。
5. サーバーのデータベース・マネージャーが正常に始動されました。サーバーでのデータベース・マネージャーの始動処理は、SQL1063 を返し、SQL5043 ではありません。SQL5043 が戻されている場合は、管理通知ログで詳細情報をチェックしてください。
6. 通信サブシステムまたはネットワーク・エラーが起きました。

問題が続く場合は、ネットワーク管理者または通信の専門家、もしくは両者に連絡し、提供されたトークンのセットを使用して、問題の原因を判別してください。

sqlcode: -30081

sqlstate: 08001

SQL30082N 接続確立の試行は、セキュリティ上の理由 *reason-code (reason-string)* により失敗しました。

説明: リモート・データベース・サーバーの接続の試みは、セキュリティ情報が無効または正しくないために、拒否されました。セキュリティ・エラーの原因は、<reason-code> および対応する <reason-string> 値によって記述されています。

理由コードのリストおよび対応する理由のストリングは次のとおりです。

0 (NOT SPECIFIED)

特定のセキュリティ・エラーは指定されません。

1 (PASSWORD EXPIRED)

要求に指定されたパスワードの有効期限が切れています。

2 (PASSWORD INVALID)

要求に指定されたパスワードが無効です。

3 (PASSWORD MISSING)

要求にパスワードが組み込まれていません。

4 (PROTOCOL VIOLATION)

要求がセキュリティ・プロトコルに違反しています。

5 (USERID MISSING)

要求にユーザー ID が組み込まれていません。

6 (USERID INVALID)

要求に指定されたユーザー ID が無効です。

7 (USERID REVOKED)

要求に指定されたユーザー ID が取り消されています。

8 (GROUP INVALID)

要求で指定されたグループが無効です。

9 (USERID REVOKED IN GROUP)

要求に指定されたユーザー ID がグループ内で取り消されています。

10 (USERID NOT IN GROUP)

要求で指定されたユーザー ID がグループ内にありません。

11 (USERID NOT AUTHORIZED AT REMOTE LU)

要求に指定されたユーザー ID がリモート LU で許可されていません。

12 (USERID NOT AUTHORIZED FROM LOCAL LU)

要求に指定されたユーザー ID はローカル LU から来る時に、リモート LU で許可されていません。

13 (USERID NOT AUTHORIZED TO TP)

要求に指定されたユーザー ID がトランザクション・プログラムへのアクセスで許可されていません。

14 (INSTALLATION EXIT FAILED)

インストール・システム出口が正常に実行されていません。

15 (PROCESSING FAILURE)

サーバーでのセキュリティ処理が失敗しました。

16 (NEW PASSWORD INVALID)

パスワード変更要求で指定されたパスワードは、サーバーの要件に合致しませんでした。

17 (UNSUPPORTED FUNCTION)

クライアントの指定したセキュリティ機構は、このサーバーでは無効です。いくつかの典型例をあげます。

- クライアントが、パスワードの変更関数をサポートしていないサーバーに、新しいパスワードの値を送信しました。
- クライアントが、パスワードの暗号化をサポートしていないサーバーに SERVER_ENCRYPT 認証情報を送信しました。
- クライアントが、ユーザー ID だけでは認証をサポートしていないサーバーにユーザー ID (パスワードなし) を送信しました。
- クライアントが認証タイプを指定しておらず、サーバーがサポートされたタイプで応答していません。これには、クライアントが選択できない複数のタイプをサーバーが戻すことが含まれている可能性があります。

18 (NAMED PIPE ACCESS DENIED)

セキュリティ違反のため、Named PIPE にアクセスできません。

19 (USERID DISABLED または RESTRICTED)

ユーザー ID が使用不能であるか、あるいは今回の処理環境にはアクセスできないよう使用制限されています。

20 (MUTUAL AUTHENTICATION FAILED)

接続中のサーバーが、相互認証チェックの受け渡しに失敗しました。サーバーが偽であるか、または送り返されてきたチケットが損傷を受けています。

21 (RESOURCE TEMPORARILY UNAVAILABLE)

リソースが一時的に使用不可であるため、サーバーでのセキュリティ処理が終了しました。たとえば AIX では、有効なユーザー・ライセンスがないと思われます。

24 (USERNAME AND/OR PASSWORD INVALID)

指定されたユーザー名または指定されたパスワード、あるいはその両方が無効です。

25 (接続不許可) 接続は、セキュリティ・プラグインによって不許可になっています。

26 (サーバー・セキュリティ・プラグイン・エラー) データベース・サーバー上で想定外のエラーがセキュリティ・プラグインで検出されました。

27 (サーバー・セキュリティ・プラグイン・エラー) サーバーの証明書は無効です。

28 (サーバー・セキュリティ・プラグイン・エラー) データベース・サーバー上のサーバーの証明書の期限が切れています。

29 (サーバー・セキュリティ・プラグイン・エラー) データベース・サーバー上のセキュリティ・プラグインで無効なセキュリティ・トークンが受信されました。

30 (クライアント・セキュリティ・プラグイン・エラー) 要求した API は、クライアント・セキュリティ・プラグイン内では欠落していません。

31 (クライアント・セキュリティ・プラグイン・エラー) クライアント・セキュリティ・プラグインのタイプは誤っています。

32 (クライアント・セキュリティ・プラグイン・エラー) データベースへの接続に使用可能な GSS-API セキュリティ・プラグインがクライアント上にありません。

33 (クライアント・セキュリティ・プラグイン・

- エラー) クライアント・セキュリティ・プラグインをロードできません。
- 34** (クライアント・セキュリティ・プラグイン・エラー) クライアント・プラグインの名前は無効です。
- 35** (クライアント・セキュリティ・プラグイン・エラー) クライアント・プラグインから報告された API のバージョンに、DB2 との互換性がありません。
- 36** (クライアント・セキュリティ・プラグイン・エラー) クライアント・セキュリティ・プラグイン上で想定外のエラーが検出されました。
- 37** (クライアント・セキュリティ・プラグイン・エラー) クライアント・セキュリティ・プラグイン上で無効なプリンシパル名が検出されました。
- 38** (クライアント・セキュリティ・プラグイン・エラー) クライアントの証明書が無効です。
- 39** (クライアント・セキュリティ・プラグイン・エラー) クライアント・セキュリティ・プラグインは、期限切れの証明書を受信しました。
- 40** (クライアント・セキュリティ・プラグイン・エラー) クライアント・セキュリティ・プラグインは、無効なセキュリティ・トークンを受信しました。

ユーザーの処置: 適切なユーザー ID またはパスワード (あるいはこの両方) が提供されたことを確認してください。

ユーザー ID が使用できず、特定のワークステーションへのアクセスに制限があるか、あるいは一定の時間処理に制限があります。

理由コード 17 の場合、サポートされている認証タイプでコマンドを再実行してください。

理由コード 20 で、サーバーに対する認証機構が開始済みかどうかを確認してもう一度試してください。

理由コード 26、33、および 36 の場合に詳しくは、クライアントおよびサーバー上の管理通知ログ・ファイルを参照してください。管理通知ログのエラー・メッセージ・テキストに示された問題を解決してください。

理由コード 27 の場合、セキュリティ・プラグインの初期化時にサーバーの証明書が与えられていて、それがセキュリティ・プラグインで認識されるフォーマットになっていることを確認してください。証明書は、コンテキストの受諾に使用されるので、ACCEPT または BOTH 証明書でなければなりません。

理由コード 28 の場合、サーバーの証明書を更新してか

ら、ステートメントを再サブミットしてください。その更新によって証明書のハンドルが変わる場合、db2stop および db2start が必要になります。

理由コード 29 と 40 の場合、ステートメントを再サブミットしてください。問題が続く場合、パートナーのセキュリティ・プラグインが有効なセキュリティ・トークンを生成することを確認してください。

理由コード 30 の場合、管理通知ログ・ファイルで、欠落している必須の API の名前を調べてから、欠落している API をセキュリティ・プラグインに追加してください。

理由コード 31 の場合、該当するデータベース・マネージャー構成パラメーター内に、正しいタイプのセキュリティ・プラグインを指定してください。たとえば、ユーザー ID/パスワード・ベースのセキュリティ・プラグインを SRVCON_GSSPLUGIN_LIST データベース・マネージャー構成パラメーターに指定しないでください。

理由コード 32 の場合、データベース・サーバーがクライアント上で使用したものと一致するセキュリティ・プラグインをインストールしてください。指摘されたセキュリティ・プラグインは、client-plugin ディレクトリに置かれていることを確認してください。

理由コード 34 の場合、有効なセキュリティ・プラグイン名を指定してください。その名前には、ディレクトリ・パス情報を記入してはなりません。

理由コード 35 の場合、サポートされているバージョンの API がセキュリティ・プラグインで使用されていて、正しいバージョン番号が報告されることを確認してください。

理由コード 37 の場合、管理通知ログ・ファイルで、プリンシパル名を調べてください。そのプリンシパル名が、セキュリティ・プラグインで認識されるフォーマットになっていることを確認してください。

理由コード 38 の場合、クライアント証明書 (db2secGenerateInitialCred で生成されたものか、またはインバウンドの代行証明書として用意されたもの) が、セキュリティ・プラグインで認識されるフォーマットになっていることを確認してください。証明書は、コンテキストの開始に使用されるので、INITIATE または BOTH 証明書でなければなりません。

理由コード 39 の場合、ステートメントをサブミットするユーザーは、該当する認証を取得し (または最初の証明書を再取得し) てから、そのステートメントを再サブミットする必要があります。

sqlcode: -30082

sqlstate: 08001

SQL30083N ユーザー ID *uid* に対するパスワードの変更試行は、セキュリティ上の理由 *reason-code* (*reason-string*) により失敗しました。

説明: パスワード変更は、無効あるいは誤ったセキュリティ情報のために、拒否されました。セキュリティ・エラーの原因は、*reason-code* および対応する *reason-string* 値によって記述されています。

理由コードのリストおよび対応する理由のストリングは次のとおりです。

0 (NOT SPECIFIED)

特定のセキュリティ・エラーは指定されません。

1 (CURRENT PASSWORD INVALID)

要求に指定された旧パスワードが無効です。

2 (NEW PASSWORD INVALID)

要求に指定されたパスワードは、パスワードが変更されたシステムによって定められたパスワード規則の下では無効です。

3 (CURRENT PASSWORD MISSING)

要求に旧パスワードが組み込まれていません。

4 (NEW PASSWORD MISSING)

要求に新規パスワードが組み込まれていません。

5 (USERID MISSING)

要求にユーザー ID が組み込まれていません。

6 (USERID INVALID)

要求に指定されたユーザー ID が無効です。

7 (USERID REVOKED)

要求に指定されたユーザー ID が取り消されています。取り消されたユーザー ID に対して、パスワードを変更することはできません。

14 (INSTALLATION EXIT FAILED)

インストール・セキュリティ出口が失敗しました。

15 (PROCESSING FAILURE)

サーバーでのセキュリティ処理が失敗しました。

17 (UNSUPPORTED FUNCTION)

パスワード変更機能は、システムによってサポートされていません。

19 (USERID DISABLED または RESTRICTED)

ユーザー ID が使用不能であるか、あるいは今回の処理環境にはアクセスできないよう使用制限されています。

23 (DCS 項目内の CHGPWD_SDN は構成されていません。) SNA を介して接続されたホスト・システムで MVS パスワードを変更するには、,,,,,CHGPWD_SDN パラメーター・ストリングを使って DCS データベースをカタログしなければなりません。,,,,,CHGPWD_SDN パラメーター・ストリングは、Password Expiration Management (PEM) の記号宛先名を識別します。

24 (USERNAME AND/OR PASSWORD INVALID)

指定されたユーザー名または指定されたパスワード、あるいはその両方が無効です。

ユーザーの処置: 正しいユーザー ID と、現行パスワードおよび新規パスワードが提供されているか、確認してください。

ユーザー ID が使用できず、特定のワークステーションへのアクセスに制限があるか、あるいは一定の時間処理に制限があります。

特定の理由コードに関する解説を以下に述べます。

14 発生した問題の詳細記述に関しては、インスタンス・サブディレクトリー (通常は "db2") の db2pem.log ファイルをチェックしてください。

23 *DB2 Connect* ユーザーズ・ガイドに指定されているとおり、,,,,,CHGPWD_SDN パラメーターを使って DCS データベースをカタログします。

sqlcode: -30083

sqlstate: 08001

SQL30090N 操作がアプリケーション実行環境で無効です。理由コード = *reason-code*

説明: 操作がアプリケーション実行環境で無効です。たとえば、ステートメントまたは API の特殊制約事項を持つアプリケーションでは操作が無効な可能性があります。そのアプリケーションは、XA 分散トランザクション処理環境で操作するものや、CICS や、CONNECT タイプ 2 接続設定で操作するものや、あるいはフェデレーテッド・システムの機能を使用して複数の異機種データ・ソースを更新するものです。処理は拒否されます。

考えられる理由コードは次のとおりです。

01 データの変更を行う SQL 要求 (INSERT または CREATE など) が読み取り専用データベースに対して発行されたか、または読み取り専用データベースに対してストアード・プロシージュ

- ャーが呼び出されました。読み取り専用データベースには、以下のタイプがあります。
- 同期点マネージャーが使用されていない時、あるいはリモート DRDA データベースがレベル 2 DRDA プロトコルをサポートしていない時に、接続設定 SYNCPOINT TWOPHASE を持ち、非 XA/DTP 環境で実行されている作業単位で操作されるときに、DRDA を使用してアクセスされるデータベース。
 - 同期点マネージャー・ゲートウェイが使用不能か、またはリモート DRDA データベースがレベル 2 DRDA プロトコルをサポートしない場合に、XA/DTP 環境の DRDA によってアクセスされるデータベース。
 - SYNCPOINT ONEPHASE 接続設定が作業単位に有効なときに、最初に更新されたデータベースではないデータベース。
- 02** 内部コミットを引き起こすプリコンパイル、バインド、表の再編成などの API が、CONNECT タイプ 2 の設定を持つアプリケーション、または XA/DTP 環境で操作されているアプリケーション内で発行されました。
- 03** XA/DTP 環境にいる間、ENCINA または TUXEDO トランザクション処理モニターを使用する際に、保留カーソルに対して SQL OPEN が発行されました。
- 04** XA/DTP 環境にいる間に、DISCONNECT ステートメントが発行されました。
- 05** CONNECT type 2 または XA/DTP 環境で COMMIT ステートメントを含むコンパウンド SQL ステートメントが発行されました。
- 06** XA/DTP 環境で SET CLIENT API が発行されました。
- 07** トランザクション・マネージャーによって 2 フェーズ・コミット調整が提供されていない作業単位内で、2 番目のデータベースがアクセスされています。データ保全性を確保するために、処理は許可されません。
- 08** 並行して接続されているデータベースとは異なるソースから、コミット調整を使用するために、データベースのアクセスが試みられました。2 つのタイプの調整は混合できず、現在のデータベースに対する処理は拒否されます。
- 09** 同期点マネージャー調整のもとにアクセスされるデータベースに対して、XA/DTP ローカル・トランザクションを実行しようとした。
- 10** 次のいずれかの場合に、保留カーソルに対して SQL OPEN が発行されました。
- XA/DTP 環境あるいは
 - フェデレーテッド・サーバーが、2 フェーズ・コミット・データ・ソースに定義されているニックネームにアクセスしている
- カーソル保留は次の環境ではサポートされません。
- 11** パススルーに対する操作は、サポートされていません。
- 12** 挿入/更新/削除操作にはタイム・スタンプ列が存在しており、またデータ・ソースに対する制限のため、ユニーク索引が必要です。データ・ソースにアクセスしている更新/削除処理に対して、
- Fujitsu RDB2 ではユニーク索引が必要です。
- 13** 位置付けられた UPDATE あるいは DELETE 処理では、カーソルの SELECT リストに列が存在している必要がありますが、その列がカーソルの SELECT リストに存在しません。
- 14** 更新可能カーソル、カーソル保留、および反復可能読み取りの分離レベルの組み合わせに誤りがあります。無効な組み合わせは、以下のとおりです。
- 分離レベル反復可能読み取りと WITH HOLD カーソル
 - WITH HOLD カーソルと FOR UPDATE
- 15** 将来の利用のために予約済み
- 16** SYSCAT.SERVERS におけるタイプ列とプロトコル列値の組み合わせが誤りです。
- 17** REORG ユーティリティーはニックネームに対して発行できません。
- 18** 作業単位内の 1 つ以上のデータ・ソースが 1 フェーズ・コミットしかサポートしていないときに、複数のデータ・ソースを更新する更新要求 (または、システム・カタログ表を更新する DDL 操作) が発行されました。考えられる原因は以下のとおりです。
- 1 フェーズ・コミットのみサポートするデータ・ソースを更新しようとしたが、別のデータ・ソースが、同じ作業単位内にすでに存在している。
 - 2 フェーズ・コミットをサポートするデータ・ソースを更新しようとしたが、1 フェーズ

ズ・コミットをサポートのみする別のデータ・ソースが同じ作業単位内にすでに存在している。

- ローカルフェデレーテッド・サーバー表を更新しようとしたが、1 フェーズ・コミットをサポートのみするデータ・ソースが同じ作業単位内にすでに存在している。
- CONNECT タイプ 2 接続設定でアプリケーションが動作しているときに、1 フェーズ・コミットをサポートするだけのデータ・ソースを更新しようとした。

- 19 アプリケーションのホスト変数のデータ・タイプは、パススルー・セッションのデータ・ソースでサポートされていません。
- 20 作業単位の進行中に、SET CLIENT INFORMATION が発行されました。
- 21 指定したデータ・ソースで実行したい操作は、DB2 がデータ・ソースへのアクセスに使用するラッパーでサポートされていません。このラッパーがサポートしている操作については、資料を参照してください。
- 22 フェデレーテッド挿入、更新、または削除操作は、関数、データ変更表参照、動的コンパウンド・ステートメント、トリガー、および次のアプリケーション実行環境では無効です。
- SAVEPOINT が有効になっている
 - スクロール可能カーソルが使用されている
 - ターゲット・ビューに、複数の表またはニックネームが含まれている
- 23 API、データ構造、または設定がサポートされていません。
- 24 指定されたラッパーでは、データ・タイプ・マッピングがサポートされていません。
- 25 指定されたラッパーでは、関数マッピングがサポートされていません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのステップを行うことによって、問題を訂正してください。

理由 01、02、03、04、06、または 19 の場合

サポートされていないステートメントまたは API を除去します。

01、02、03、04、または 06 に対する代替方法

失敗したステートメントまたは API をサポートする別の環境でアプリケーションを実行します。

理由 05 の場合

COMMIT 要求をコンパウンド・ステートメントの外に移動します。

理由 07 の場合

EXEC SQL COMMIT または EXEC SQL ROLLBACK が、外部トランザクション・マネージャーに対する同期点要求の代わりに発行される作業単位内でアクセスされるデータベースが 1 つだけであることを確認します。作業単位内で複数のデータベースにアクセスする必要がある場合は、外部トランザクション・マネージャー製品によって提供されるコミットメント・コントロール・インターフェースを利用してください。

理由 08 の場合

作業単位内でアクセスされているすべてのデータベースが、(CICS SYNCPOINT など) 外部トランザクション処理モニター、またはローカル COMMIT および ROLLBACK EXEC SQL など、同じタイプの要求のコミットメント制御下にあることを確認してください。

理由 09 の場合

次のいずれかのステップを実行します。

- トランザクションを XA/DTP グローバル・トランザクションとして実行する。
- 非 XA/DTP 環境のデータベースにアクセスする。
- トランザクションが読み取り専用の場合には、データベースの接続に対して同期点マネージャーのサービスを使用しないでください。

理由 10 から 17 (フェデレーテッド・サーバー・ユーザー) の場合

要求を失敗したデータ・ソースに問題を分離して (「トラブルシューティング・ガイド」を参照)、そのデータ・ソースの制約事項を調べてください。

理由 18 の場合

次のいずれかのステップを実行します。

- 別のデータ・ソースに対して更新をサブミットする前に、COMMIT または ROLLBACK をサブミットする。
- 複数のデータ・ソースを 1 つの作業単位内で更新する必要がある場合は、更新が必要なすべてのデータ・ソースに対して two_phase_commit server オプションが 'Y' に設定されていることを確認する。

two_phase_commit 設定に使用する値の設定方法については、「SQL リファレンス」を参照してください。

- 更新されるデータ・ソースが、1 フェーズ・コミットしかサポートしておらず、アプリケーションが CONNECT タイプ 2 接続設定で操作されている場合は、CONNECT タイプ 1 接続の設定で操作されるように、アプリケーションを変更する。

理由 20 の場合

API を呼び出す前に、コミットまたはロールバックを実行します。

理由 22 の場合

フェデレーテッド挿入、更新、または削除操作を除去するか、以下を実行します。

- フェデレーテッド挿入、更新、または削除操作を関数、データ変更表参照、動的コンパウンド・ステートメント、またはトリガーの外で実行する
- または、有効になっている savepoint を解放する
- スクロール可能カーソルの使用を除去する
- 1 つの表またはニックネームだけを参照するように、ターゲット・ビューを再定義する
- フェデレーテッド挿入、更新、または削除操作をトリガーの外で実行する

理由 23 の場合

サポートされる API のリスト、データ構造、および設定については、「IBM DB2 Universal Database 管理 API リファレンス」を参照してください。

理由 24 の場合、

障害の発生したステートメントが CREATE TYPE MAPPING の場合は、ステートメントを再サブミットしないでください。障害の発生したステートメントが CREATE SERVER の場合は、DB2 II カタログの中にサーバー・タイプのタイプ・マッピングが含まれているかどうかを調べ、それらのマッピングをドロップしてください。いずれの場合も、データ・ソースのドキュメンテーションを参照して、そのデータ・ソースでサポートされるタイプおよびタイプ・マッピングについて調べてください。

理由コード 25 の場合、

障害の発生したステートメントが CREATE FUNCTION MAPPING の場合は、ステートメントを再サブミットしないでください。障害の発生したステートメントが CREATE SERVER の場合は、DB2 II カタログの中にサーバー・タイプの関数マッピングが含まれているかどうかを調べ、それらのマッピングをドロップしてください。いずれの場合も、データ・ソースのドキュメンテーションを参照して、そのデータ・ソースでサポートされる関数および関数マッピングについて調べてください。

sqlcode: -30090

sqlstate: 25000

SQL30100 - SQL30199

SQL30101W REBIND 要求に指定された BIND オプションは、無視されます。

説明: BIND オプションが REBIND 要求に指定されましたが、データベース・サーバーは、BIND オプションの再指定をサポートしていません。指定された BIND オプションは無視され、オリジナル BIND 要求のオプションが使用されます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。これは単に警告状況です。

データベース・マネージャーが追加警告 SQLCA を戻した場合は、"sqlerrmc" トークンが、この追加 SQLCA に関する以下の情報を、以下の順序で示します。

- sqlcode (SQL 戻りコード)
- sqlstate (ユニバーサル SQL 戻りコード)

- sqlerrp (製品名)
- sqlerrmc (SQL メッセージ・トークン)

sqlcode: +30101

sqlstate: 01599

SQL30104N BIND または PRECOMPILE オプション option-name、値 value-name にエラーがあります。

説明: BIND または PRECOMPILE パラメーターの処理中に、BIND または PRECOMPILE オプション、あるいは値が受け入れられなかったか、オプションと値の組が正しくありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: コマンド・オプションおよび値を調べてエラーを判別し、コマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -30104

sqlstate: 56095

SQL30106N 複数行の **INSERT** 操作に対して無効な入力データが検出されました。 **INSERT** 処理を終了します。

説明: 複数行の **INSERT** 操作の 1 行に対する入力データで、エラーが検出されました。これ以上行の挿入は行われません。 **ATOMIC** 操作の場合、挿入された行はすべてロールバックされます。非 **ATOMIC** 操作の場合、無効な入力データが含まれた行が検出される前に正常に挿入された行は、ロールバックされません。

ユーザーの処置: 無効な入力データの含まれた行を訂正し、挿入されなかった行に対して再度、複数行の **INSERT** をサブミットしてください。

sqlcode: -30106

sqlstate: 22527

SQL30108N 接続は失敗しましたが、再確立されました。ホスト名または **IP** アドレスは *host-name*、サービス名またはポート番号は *service-name* です。特殊レジスターのやり直しは可能なことも不可能なこともあります (理由コード = *reason-code*)。

説明: サーバーへの接続は失敗しましたが、クライアントはその接続を再確立することができました。特定の特殊レジスターの値を除き、すべてのセッション・リソースはそれぞれの元のデフォルト値に設定されます。詳細は、「管理ガイド」を参照してください。アプリケーションは直前の **COMMIT** にロールバックされません。

ホスト名または **IP** アドレス *host-name* およびサービス名またはポート番号 *service-name* に対する接続が再確立されます。

特殊レジスターの場合、以下の理由コードで、やり直しが可能なことも不可能なこともあります。

1. オリジナルのサーバーでは、失敗した接続の一連の特殊レジスターを戻す操作がサポートされています。特殊レジスターのステートメントはやり直されます。
2. オリジナルのサーバーでは、失敗した接続の一連の特殊レジスターを戻す操作がサポートされていませんでした。特殊レジスターのステートメントはやり直されません。

ユーザーの処置: セッション・リソースの再ビルドは、アプリケーションが担当します。アプリケーションでロールバックされた操作を反復する必要があります。

sqlcode: -30108

sqlstate: 08506

第 3 章 SQLSTATE メッセージ

このセクションには、SQLSTATE とその意味がリストされています。SQLSTATE はクラス・コードによってグループ化されており、サブコードについては、対応する表をご覧ください。

表 1. SQLSTATE クラス・コード

クラス・コード	意味	サブコードについては、「...」を参照してください。
00	無条件正常終了	526 ページの表 2
01	警告	526 ページの表 3
02	データなし	529 ページの表 4
07	動的 SQL エラー	529 ページの表 5
08	接続例外	530 ページの表 6
09	トリガー・アクション例外	530 ページの表 7
0A	機能がサポートされていない	530 ページの表 8
0D	ターゲット・タイプ指定が無効	531 ページの表 9
0F	トークンが無効	531 ページの表 10
0K	RESIGNAL ステートメントが無効	531 ページの表 11
20	CASE ステートメントにケースが見つからない	531 ページの表 12
21	カーディナリティー違反	531 ページの表 13
22	データ例外	532 ページの表 14
23	制約違反	533 ページの表 15
24	カーソル状態が無効	533 ページの表 16
25	トランザクション状態が無効	534 ページの表 17
26	SQL ステートメント ID が無効	534 ページの表 18
28	許可指定が無効	535 ページの表 20
2D	トランザクション終了が無効	535 ページの表 21
2E	接続名が無効	535 ページの表 22
34	カーソル名が無効	535 ページの表 23
36	カーソル感度例外	535 ページの表 24
38	外部関数例外	536 ページの表 25
39	外部関数呼び出し例外	537 ページの表 26
3B	SAVEPOINT が無効	537 ページの表 27
40	トランザクションのロールバック	537 ページの表 28
42	構文エラーまたはアクセス規則違反	538 ページの表 29
44	WITH CHECK OPTION 違反	548 ページの表 30
46	Java DDL	549 ページの表 31
51	アプリケーション状態が無効	549 ページの表 32
53	無効なオペランドまたは矛盾する指定	550 ページの表 33

表 1. SQLSTATE クラス・コード (続き)

クラス・コード	意味	サブコードについては、「...」を参照してください。
54	SQL または製品の限界を超過	550 ページの表 34
55	オブジェクトが前提条件の状態にない	551 ページの表 35
56	その他の SQL または製品エラー	552 ページの表 36
57	リソースが使用不可またはオペレーターの介入	554 ページの表 37
58	システム・エラー	555 ページの表 38

クラス・コード 00 無条件正常終了

表 2. クラス・コード 00: 無条件正常終了

SQLSTATE 値	意味
00000	操作は正常に実行されました。警告または例外状態は発生していません。

クラス・コード 01 警告

表 3. クラス・コード 01: 警告

SQLSTATE 値	意味
01002	DISCONNECT エラーが起きました。
01003	NULL 値が、列関数の引き数から除去されました。
01004	ストリングの値をそれより短いストリング・データに代入する際に、切り捨てられました。
01005	SQLDA の項目数が不足しています。
01007	特権が付与されていません。
0100C	1 つ以上の adhoc の結果セットが、プロシージャから返されました。
0100D	クローズしていたカーソルが、チェーン内の次の結果セットで再度オープンしました。
0100E	プロシージャは結果セットを、最大許容数を超えて生成しました。最初の整数結果セットのみが呼び出し元に戻されました。
01503	結果列の数が、指定されたホスト変数の数よりも大きくなっています。
01504	UPDATE または DELETE ステートメントに、WHERE 文節がありません。
01506	算術演算の結果である無効な日付を訂正するため、DATE または TIMESTAMP の値が調整されました。
01509	ユーザーの仮想計算機に十分なストレージがないため、カーソルについてはブロッキングが取り消されました。
01515	列の非 null 値がホスト変数の範囲外にあるため、null 値がホスト変数に割り当てられました。
01516	不適当な WITH GRANT OPTION が無視されました。
01517	変換できない文字を、置換文字で置き換えました。

表3. クラス・コード 01: 警告 (続き)

SQLSTATE 値	意味
01519	数値が範囲外であるため、null 値がホスト変数に割り当てられました。
01524	列関数の結果には、算術式を評価することで発生した null 値は含まれません。
01526	分離レベルがエスカレートされました。
01527	SET ステートメントが AS に存在しない特殊レジスターを参照しています。
01539	接続は成功しましたが、SBCS 文字のみが使用できます。
01543	重複した制約が無視されました。
01545	修飾されていない列名が、相関参照として解釈されました。
01550	指定された記述を持つ索引がすでに存在しているため、索引が作成されませんでした。
01560	冗長 GRANT は無視されます。
01562	データベース構成ファイル内のログへの新たなパス (newlogpath) が無効です。
01563	ログ・ファイルへの現在のパス (logpath) が無効です。ログ・ファイル・パスはデフォルトにリセットされました。
01564	ゼロで割り算を行ったため、null 値がホスト変数に割り当てられました。
01586	参照構造の親表についての制約を OFF に設定したため、1 つ以上の下位表が自動的にチェック・ペンディング状態に置かれました。
01589	ステートメントに余分な指定があります。
01592	SOURCE 関数を参照する CREATE FUNCTION ステートメントが、以下のいずれかの状態になっています。 <ul style="list-style-type: none"> • 入力パラメーターの長さ、精度、または位取りが、対応するソース関数のそれよりも大きい。 • RETURNS または CAST FROM パラメーターの長さ、精度、または位取りが、ソース関数のそれよりも小さい。 • CREATE FUNCTION ステートメントの CAST FROM パラメーターの長さ、精度、または位取りが、RETURNS パラメーターのそれよりも大きい。 ランタイムに切り捨てが実行される可能性があります (また、ランタイムにエラーが起きる可能性があります)。
01594	ALL 情報のための SQLDA の項目数が不足しています (明確に区別された名前を返すために十分な記述子がありません)。
01595	ビューが、既存の無効にされたビューと置き換えられました。
01596	長ストリング・データ・タイプに基づいた異なるタイプに対して、比較関数が作成されませんでした。
01598	アクティブなイベント・モニターをアクティブ化しようとしたか、または非アクティブのイベント・モニターを非アクティブ化しようとした。
01599	BIND オプションが REBIND で無視されました。
01602	最適化レベルが低下しました。
01603	CHECK DATA 処理が制約違反を見つけ、それらを例外表に移動しました。
01604	SQL ステートメントが解釈されましたが、実行されませんでした。
01605	再帰共通表式に無限ループが入っている可能性があります。
01606	ノードまたはシステム・データベース・ディレクトリが空です。

表3. クラス・コード 01: 警告 (続き)

SQLSTATE 値	意味
01607	読み取り専用トランザクションのノードの時間の間の違いが、定義されているしきい値を超えました。
01609	プロシージャーは結果セットを、最大許容数を超えて生成しました。最初の整数結果セットのみが呼び出し元に戻されました。
01610	1 つ以上の ad hoc の結果セットが、プロシージャーから返されました。
01611	クローズしていたカーソルが、チェーン内の次の結果セットで再度オープンしました。
01616	見積もり CPU コストがリソースの限度を超過しています。
01618	データのパーティションを変更するには、ノード・グループの再分散が必要です。
01620	UNION ALL の基本表の一部は、同一の表です。
01621	検索した LOB の値は変更されています。
01622	ステートメントは正常に完了しましたが、その後でシステム・エラーが発生しました。
01623	DEGREE の値は無視されます。
01625	スキーマ名が CURRENT PATH ステートメントに複数回出現します。
01626	データベースにアクティブ・バッファ・プールは 1 つだけです。
01627	表が調整ベンディングまたは調整不能状態のため、DATALINK 値は無効である可能性があります。
01632	同時接続の数が製品のライセンスに規定された数を超えました。
01633	マテリアライズ照会表は、照会の処理を最適化するために使用することはできません。
01636	非増分データの保安全性はデータベース・マネージャーによる確認がされないままになっています。
01637	デバッグは使用できません。
01639	フェデレーテッド・オブジェクトでは、呼び出し側がデータ・ソース・オブジェクトに対して必要な特権を持っていることが必要です。
01641	データ・リンク・タイプ属性が、構造化タイプの使用を制限しています。
01642	列の長さは、許可されている USER デフォルト値の最大長のために十分ではありません。
01643	SQL ルーチンで SQLSTATE または SQLCODE 変数への割り当てが上書きされたと思われるため、ハンドラーを活動化しません。
01645	SQL プロシージャーの実行可能プログラムはデータベース・カタログに保管されません。
01648	VALUE COMPRESSION が表に対して非活動状態であるため、COMPRESS 列属性は無視されました。
01649	バッファ・プール構成は完了しましたが、次にデータベースが再始動されるまでは有効になりません。
01650	索引と表の統計が矛盾しています。
01651	イベント・モニターは正常に活動化されましたが、いくつかのモニター情報が脱落した可能性があります。
01652	ステートメント・コンテキストのために、分離文節は無視されます。

表 3. クラス・コード 01: 警告 (続き)

SQLSTATE 値	意味
01653	許可は ユーザーに対して認可されました。 グループは、許可名が 8 バイトより長いために考慮に入れられませんでした。
01654	バッファ・プールが開始されていません。
01655	イベント・モニターが正常に作成されましたが、少なくとも 1 つのイベント・モニター・ターゲット表がすでに存在しています。
01657	メモリー不足のため、バッファ・プール操作は、次回データベースの始動まで有効になりません。
01665	列名またはパラメーター名が切り捨てられました。
01667	照会の処理の最適化にビューを使用することはできません。
01669	リモート・カタログとローカル・カタログのスキーマに矛盾があるため、指定したニックネームの統計は完全には更新されませんでした。
01670	新しい表のデフォルト PRIMARY 表スペースは存在しません。
01671	キャッシュに入っているステートメントの環境は、現在の環境とは違うものです。現在の環境を使用して、指定されたステートメントを最適化しなおします。
01H51	MQSeries Application Messaging Interface メッセージが切り捨てられました。
01HXX	有効な警告 SQLSTATE が、ユーザー定義関数または外部プロシージャー CALL によって返されました。

クラス・コード 02 データなし

表 4. クラス・コード 02: データなし

SQLSTATE 値	意味
02000	以下のいずれかの例外が起きました。 <ul style="list-style-type: none"> • SELECT INTO ステートメントの結果、または INSERT ステートメントの副選択の結果が、データのない表になった。 • 探索型の UPDATE または DELETE ステートメントで指定された行の数がゼロになった。 • FETCH ステートメントで参照されたカーソルの位置が、結果表の最終行の後になった。
02501	カーソル位置が現在行の FETCH に対して無効です。
02502	削除または更新で欠陥が検出された。

クラス・コード 07 動的 SQL エラー

表 5. クラス・コード 07: 動的 SQL エラー

SQLSTATE 値	意味
07001	ホスト変数の数がパラメーター・マーカースの数として正しくありません。
07002	呼び出しパラメーター・リストまたは制御ブロックが無効です。

表 5. クラス・コード 07: 動的 SQL エラー (続き)

SQLSTATE 値	意味
07003	EXECUTE ステートメントで識別されたステートメントが、select ステートメントであるか、または準備された状態にありません。
07004	動的パラメーターに USING 文節または INTO 文節が必要です。
07005	カーソルのステートメント名が、カーソルと関連付けられない準備されたステートメントを識別しました。
07006	データ・タイプが適切でないため、入力ホスト変数を使用できません。

クラス・コード 08 接続例外

表 6. クラス・コード 08: 接続例外

SQLSTATE 値	意味
08001	アプリケーション・リクエスターが接続を確立できません。
08002	接続がすでに存在します。
08003	接続が存在しません。
08004	アプリケーション・サーバーが、接続の確立を拒否しました。
08007	不明なトランザクション解像度です。
08502	トランザクション・マネージャーが使用できないため、TWOPHASE の SYNCPOINT を使用して実行中のアプリケーション処理によって発行された CONNECT ステートメントが失敗しました。
08504	指定されたパスの名前変更構成ファイルの処理中に、エラーが検出されました。

クラス・コード 09 トリガー・アクション

表 7. クラス・コード 09: トリガー・アクション

SQLSTATE 値	意味
09000	トリガー SQL ステートメントが失敗しました。

クラス・コード 0A サポートされていない機能

表 8. クラス・コード 0A: サポートされていない機能

SQLSTATE 値	意味
0A001	処理が接続可能状態にないため、CONNECT ステートメントは無効です。
0A502	このデータベース・インスタンスではアクションまたは操作ができません。
0A503	データの不整合の可能性があるため、フェデレーテッド挿入、更新、または削除操作はコンパイルできません。

クラス・コード 0D ターゲット・タイプ指定が無効

表 9. クラス・コード 0D: ターゲット・タイプ指定が無効

SQLSTATE	意味
0D000	ターゲット構造化データ・タイプ指定は、ソース構造化データ・タイプの正しいサブタイプです。

クラス・コード 0F 無効なトークン

表 10. クラス・コード 0F: 無効なトークン

SQLSTATE	意味
0F001	LOB トークン変数は、現在何も値を表していません。

クラス・コード 0K RESIGNAL ステートメントが無効

表 11. クラス・コード 0K: RESIGNAL ステートメントが無効

SQLSTATE	意味
0K000	RESIGNAL ステートメントがハンドラー内にありません。

クラス・コード 20 CASE ステートメントにケースが見つからない

表 12. クラス・コード 20: CASE ステートメントにケースが見つからない

SQLSTATE	意味
20000	CASE ステートメント用のケースが見つかりませんでした。

クラス・コード 21 カーディナリティー違反

表 13. クラス・コード 21: カーディナリティー違反

SQLSTATE	意味
21000	SELECT INTO の結果が複数行の結果表になったか、または基本述部の副照会の結果が複数の値になっています。
21501	自己参照表への複数行の INSERT は無効です。
21502	主キーの複数行 UPDATE は無効です。
21504	RESTRICT または SET NULL の削除規則を持つ自己参照表からの複数行 DELETE は無効です。
21505	行関数は 1 行のみを戻さなければなりません。

表 13. クラス・コード 21: カーディナリティー違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味
21506	表の同じ行を、更新、削除または挿入操作のうち、複数のターゲットにすることはできません。

クラス・コード 22 データ例外

表 14. クラス・コード 22: データ例外

SQLSTATE 値	意味
22001	文字データの右側が切り捨てられました。たとえば、更新または挿入の値が、列には長すぎるストリングである、またはホスト変数が小さすぎるため、日時の値をそのホスト変数に割り当てられない、などが考えられます。
22002	値が NULL、または標識パラメーターがないことが見つかりました。たとえば、標識変数が指定されていないため、NULL 値がホスト変数に割り当てられない、などが考えられます。
22003	数値が範囲を超えています。
22004	PARAMETER STYLE GENERAL と定義されているプロシージャから、または NULL ではない引き数で呼び出されているタイプ保護方式から NULL 値を返すことはできません。
22007	無効な日時形式が検出されました。これは、無効なストリング表現または値が指定されたことが考えられます。
22008	日時フィールドにオーバーフローが起きました。たとえば、日付またはタイム・スタンプの算術演算の結果が、有効な日付の範囲内でないことが考えられます。
2200G	最も特定のタイプが一致しません。
22011	サブストリング・エラーが起きました。たとえば、SUBSTR の引き数が範囲内でないことが考えられます。
22012	0 による除算は無効です。
22018	CAST、DECIMAL、FLOAT、または INTEGER スカラー関数については、文字の値は無効です。
22019	LIKE 述部に無効なエスケープ文字があります。
22021	文字がコード化文字セットにありません。
22024	NUL で終了する入力ホスト変数またはパラメーターに、NUL がありません。
22025	LIKE 述部ストリング・パターンに、無効なエスケープ文字のオカレンスがあります。
2202D	NULL インスタンスは mutator 方式で使用されます。
2202H	TABLESAMPLE 文節のサンプルのサイズは無効です。
22501	可変長ストリングの長さコントロール・フィールドが、負の値になっているか、または最大値を超えています。
22504	混合データの値が無効です。
22506	TOD クロックが誤動作しているか、またはオペレーティング・システムの timezone パラメーターが範囲外であるため、日時特殊レジスターに対する参照が無効です。

表 14. クラス・コード 22: データ例外 (続き)

SQLSTATE 値	意味
22522	CCSID の値が、完全に無効であるか、データ・タイプまたはサブタイプに対して無効であるか、またはエンコード・スキーマに対して無効です。
22526	キー・トランスフォーム関数が行を生成しなかったか、または重複する行を生成しました。
22527	複数行の INSERT 操作に対して無効な入力データが検出されました。

クラス・コード 23 制約違反

表 15. クラス・コード 23: 制約違反

SQLSTATE 値	意味
23001	親キーの更新または削除が、RESTRICT 更新または削除の規則によって妨げられています。
23502	挿入または更新の値が NULL ですが、列に NULL 値を入れることはできません。
23503	外部キーの挿入または更新の値が無効です。
23504	親キーの更新または削除が、NO ACTION 更新または削除の規則によって妨げられています。
23505	ユニーク索引またはユニーク制約で定められている制約に対する違反が起きました。
23510	RLST 表によるコマンド使用時の制約違反が発生しました。
23511	チェック制約が削除を制限しているため、親行を削除できません。
23512	表に制約定義を満たしていない行があるため、チェック制約を追加できません。
23513	INSERT または UPDATE の結果の行が、チェック制約定義に合いません。
23514	データ・チェック処理が制約違反を見つけました。
23515	表にある指定されたキーの値が重複しているため、ユニーク索引を作成できないか、またはユニーク制約を追加できませんでした。
23520	外部キーの値が、親表の親キーとすべて等しくないため、外部キーを定義できません。
23521	カタログ表の更新が、内部制約に違反します。
23522	ID 列またはシーケンスの値の範囲を使い果たしました。
23524	UNION ALL ビュー内の無効な行移動

クラス・コード 24 無効なカーソル状態

表 16. クラス・コード 24: 無効なカーソル状態

SQLSTATE 値	意味
24501	識別されたカーソルがオープンしていません。

表 16. クラス・コード 24: 無効なカーソル状態 (続き)

SQLSTATE 値	意味
24502	OPEN ステートメントで識別されたカーソルが、すでにオープンしています。
24504	UPDATE、DELETE、SET、または GET ステートメントで識別されたカーソルが、行に位置付けられていません。
24506	PREPARE で識別されたステートメントは、オープン・カーソルのステートメントです。
24510	UPDATE または DELETE 操作が削除ホールまたは更新ホールに対して試行されました。
24512	結果表が基本表と一致しません。
24513	カーソル位置が不明のため、FETCH NEXT、PRIOR、CURRENT、または RELATIVE は許可されません。
24514	以前のエラーによって、このエラーを使用できません。
24516	カーソルが結果セットにすでに割り当てられています。
24517	カーソルが、外部関数または方式によりオープンされたままになっています。

クラス・コード 25 無効なトランザクション状態

表 17. クラス・コード 25: 無効なトランザクション状態

SQLSTATE 値	意味
25000	挿入、更新、または削除操作は、それらが指定されたコンテキストでは無効です。
25001	ステートメントは、作業単位の最初のステートメントとしてのみ許可されません。
25501	ステートメントは、作業単位の最初のステートメントとしてのみ許可されません。

クラス・コード 26 無効な SQL ステートメント ID

表 18. クラス・コード 26: 無効な SQL ステートメント ID

SQLSTATE 値	意味
26501	識別されたステートメントが存在しません。

クラス・コード 27 トリガー・データ変更違反

表 19. クラス・コード 27 トリガー・データ変更違反

SQLSTATE 値	意味
27000	MERGE ステートメントのターゲット表を、制約またはトリガーによって変更しようとした。

クラス・コード 28 無効な許可指定

表 20. クラス・コード 28: 無効な許可指定

SQLSTATE 値	意味
28000	許可名が無効です。

クラス・コード 2D 無効なトランザクション終了

表 21. クラス・コード 2D: 無効なトランザクション終了

SQLSTATE 値	意味
2D521	SQL COMMIT または ROLLBACK が、現在のオペレーティング環境では無効です。
2D522	COMMIT と ROLLBACK は、ATOMIC コンパウンド・ステートメントでは許可されません。
2D528	動的 COMMIT が、アプリケーション実行環境では無効です。
2D529	動的 ROLLBACK が、アプリケーション実行環境では無効です。

クラス・コード 2E 無効な接続

表 22. クラス・コード 2E: 無効な接続名

SQLSTATE 値	意味
2E000	接続名が無効です。

クラス・コード 34 無効なカーソル名

表 23. クラス・コード 34: 無効なカーソル名

SQLSTATE 値	意味
34000	カーソル名が無効です。

クラス・コード 36 無効なカーソル指定

表 24. クラス・コード 36: 無効なカーソル指定

SQLSTATE 値	意味
36001	SENSITIVE カーソルは、指定したselect ステートメントには定義できません。

クラス・コード 38 外部関数例外

表 25. クラス・コード 38: 外部関数例外

SQLSTATE 値	意味
38XXX	外部ルーチンまたはトリガーにより、有効なエラー SQLSTATE が戻されました。
38001	外部ルーチンは、SQL ステートメントの実行を許可されません。
38002	ルーチンがデータを変更しようとしたが、このルーチンは MODIFIES SQL DATA (SQL データの変更) として定義されていません。
38003	ステートメントはルーチンでは許可されていません。
38004	ルーチンがデータの読み取りを試みましたが、このルーチンは READS SQL DATA (SQL データの読み取り) として定義されていませんでした。
38501	ユーザー定義の関数、外部プロシージャ、またはトリガー (SIMPLE CALL または SIMPLE CALL WITH NULLS 呼び出し規則を使用) の呼び出し中にエラーが発生しました。
38502	外部関数は、SQL ステートメントの実行を許可されていません。
38503	ユーザー定義関数が異常終了しました (ABEND)。
38504	ユーザーが予想されるループ状態を停止するために、ユーザーによってユーザー定義関数が中断されました。
38505	SQL ステートメントは、FINAL CALL のルーチンでは許可されません。
38506	OLE DB Provider で、関数がエラーを起こして失敗しました。
38552	SYSFUN スキーマの関数 (IBM 提供) が異常終了しました。
	メッセージ・テキストで次の理由コードの 1 つを検出することができます。
01	数値が範囲外
02	ゼロによる除算
03	算術オーバーフローまたはアンダーフロー
04	無効なデータ形式
05	無効な時刻形式
06	無効なタイム・スタンプ形式
07	タイム・スタンプ期間の無効な文字表示
08	無効なインターバル・タイプ (1、 2、 4、 8、 16、 32、 64、 128、 256 のいずれかでなければならない。)
09	ストリングが長すぎる
10	ストリング関数の長さまたは位置が範囲外になっている
11	浮動小数点数では無効な文字表示である
38553	システム・スキーマ内のルーチンがエラーにより終了しました。
38H01	MQSeries 関数が初期化に失敗しました。
38H02	MQSeries Application Messaging Interface がセッションを終了できませんでした。
38H03	MQSeries Application Messaging Interface がメッセージを正常に処理できませんでした。
38H04	MQSeries Application Messaging Interface がメッセージを送信できませんでした。
38H05	MQSeries Application Messaging Interface がメッセージの読み取りまたは受信に失敗しました。

表 25. クラス・コード 38: 外部関数例外 (続き)

SQLSTATE 値	意味
38H06	MQSeries Application Messaging Interface サブスクリプション (サブスクリプション解除) 要求が失敗しました。
38H07	MQSeries Application Messageing Inteface が作業単位のコミットに失敗しました。
38H08	MQSeries Application Messaging Interface のポリシー・エラー。
38H09	MQSeries XA (2 フェーズ・コミット) API 呼び出しエラー。
38H0A	MQSeries Application Messaging Interface が作業単位をロールバックできませんでした。

クラス・コード 39 外部関数呼び出し例外

表 26. クラス・コード 39: 外部関数呼び出し例外

SQLSTATE 値	意味
39001	ユーザー定義関数が無効な SQLSTATE を返しました。
39004	IN または INOUT 引き数では NULL 値は許可されません。
39501	引き数に関連する目印が修正されました。

クラス・コード 3B SAVEPOINT が無効

表 27. クラス・コード 3B: SAVEPOINT が無効

SQLSTATE 値	意味
3B001	保管点が無効です。
3B002	保管点が最大数に達しました。
3B501	重複する保管点名が削除されました。
3B502	RELEASE または ROLLBACK TO SAVEPOINT が指定されましたが、保管点は存在しません。
3B503	SAVEPOINT、RELEASE SAVEPOINT、または ROLLBACK TO SAVEPOINT は、トリガーまたはグローバル・トランザクションでは許可されていません。

クラス・コード 40 トランザクション・ロールバック

表 28. クラス・コード 40: トランザクション・ロールバック

SQLSTATE 値	意味
40001	自動ロールバックでデッドロックまたはタイムアウトが起きました。
40003	ステートメント完了が不明です。
40504	システム・エラーのため、作業単位がロールバックされました。

表 28. クラス・コード 40: トランザクション・ロールバック (続き)

SQLSTATE 値	意味
40506	現在のトランザクションは、SQL エラーのためロールバックしました。
40507	現在のトランザクションは、索引を作成するのに失敗したためロールバックしました。

クラス・コード 42 構文エラーまたはアクセス規則違反

表 29. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反

SQLSTATE 値	意味
42501	許可 ID に、識別されたオブジェクトに対して指定された操作を実行する権限がありません。
42502	許可 ID に、指定された操作を実行する権限がありません。
42504	指定された許可名から、指定された権限を除去できません。
42506	所有者の許可が失敗しました。
42508	指定されたデータベース権限は PUBLIC にはできません。
42509	SQL ステートメントは STATICRULES オプションのため許可されません。
42511	DATALINK 値を検索できません。
42601	文字、トークン、または文節が、無効もしくは欠けています。
42602	名前に無効な文字が見つかりました。
42603	未終了ストリング定数が見つかりました。
42604	無効な数値またはストリング定数が見つかりました。
42605	スカラー関数に指定された引き数の数が無効です。
42606	無効な 16 進定数が見つかりました。
42607	列関数のオペランドが無効です。
42608	VALUES での NULL または DEFAULT の使用は無効です。
42609	演算子または述部のオペランドが、すべてパラメーター・マーカースです。
42610	パラメーター・マーカースは許可されていません。
42611	列または引き数の定義が無効です。
42612	ステートメント・ストリングが、示されているコンテキストでは受け入れられない SQL ステートメントです。
42613	文節が相互に排他的です。
42614	重複キーワードは無効です。
42615	無効な代替が見つかりました。
42616	無効なオプションが指定されています。
42617	ステートメント・ストリングがブランクまたは空です。
42618	ホスト変数は許可されていません。
42620	読み取り専用 SCROLL が UPDATE 文節で指定されました。
42621	チェック制約が無効です。
42622	名前またはラベルが長すぎます。

表 29. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味
42623	DEFAULT 文節を指定できません。
42625	CASE 式が無効です。
42627	RETURNS 文節は EXPRESSION AS 文節を使用して、述部を指定する前に指定する必要があります。
42628	複数の TO SQL または FROM SQL トランスフォーム関数が、トランスフォーム定義に定義されています。
42629	SQL ルーチンにパラメーター名を指定しなければなりません。
42630	ネストされたコンバウンド・ステートメントに SQLSTATE または SQLCODE 変数宣言を指定することはできません。
42631	SQL 関数またはメソッド内の RETURN ステートメントには、戻り値が入っていないければなりません。
42634	XML 名は無効です。
42635	XML ネーム・スペース接頭部は無効です。
42701	INSERT または UPDATE 操作、あるいは SET 遷移変数ステートメントで、重複列名が検出されました。
42702	重複する名前があるため、列の参照が未確定です。
42703	未定義の列、属性、またはパラメーター名がありました。
42704	未定義のオブジェクトまたは制約名が見つかりました。
42705	未定義のサーバー名が見つかりました。
42707	ORDER BY の列名が、結果表の列を識別していません。
42709	PRIMARY、UNIQUE、または FOREIGN KEY 文節で重複する列名が見つかりました。
42710	重複するオブジェクトまたは制約名が見つかりました。
42711	オブジェクト定義または ALTER ステートメントの中で、列名または属性名が重複していました。
42712	重複する表指定が FROM 文節で見つかりました。
42713	オブジェクトのリストで、重複オブジェクトが検出されました。
42720	リモート・データベースのノード名が、ノードのディレクトリーに見つかりませんでした。
42723	同じシグニチャーを持つ関数が、すでにスキーマに存在します。
42724	ユーザー定義関数またはプロシージャに使用される外部プログラムにアクセスできません。
42725	関数または方式が (シグニチャーまたは特定のインスタンス名を使わずに、) 直接参照されましたが、その関数または方式の特定インスタンスが複数存在します。
42726	名前派生表に重複する名前が見つかりました。
42727	新しい表に、デフォルト 1 次表スペースがありません。
42728	重複するノードが、ノード・グループ定義に見つかりました。
42729	ノードが定義されていません。
42730	コンテナ名が、別の表スペースによってすでに使用されています。
42731	コンテナ名が、この表スペースによってすでに使用されています。

表 29. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味
42732	SET CURRENT PATH ステートメントで、重複スキーマ名が見つかりました。
42734	重複するパラメーター名、SQL 変数名、カーソル名、条件名、またはラベルが見つかりました。
42735	表スペースのノード・グループがバッファ・プールに定義されていません。
42736	LEAVE ステートメントに指定されているラベルが見つからないか、または無効です。
42737	ハンドラーに指定されている条件が定義されていません。
42738	重複する列名または名前のない列が、FOR ステートメントの DECLARE CURSOR ステートメントに指定されました。
42739	重複するトランスフォームが見つかりました。
42740	指定されたタイプのトランスフォームが見つかりませんでした。ドロップされたトランスフォームはありません。
42741	トランスフォーム・グループがデータ・タイプに定義されていません。
42742	型付き表または型付きビュー階層の中に、同じタイプの副表またはサブビューがすでに存在しています。
42743	索引拡張子の中に検索方式が見つかりません。
42744	TO SQL または FROM SQL トランスフォーム関数が、トランスフォーム・グループに定義されていません。
42745	ルーチンが、既存の方式とのオーバーライド・リレーションシップを定義しています。
42746	同じタイプ階層で、方式と構造化タイプを同じ名前にすることはできません。
42802	挿入値または更新値の数が、列の数と同じではありません。
42803	列がグループ列ではないため SELECT または HAVING 文節での列の参照が無効であるか、または GROUP BY 文節での列の参照が無効です。
42804	CASE 式の結果式に互換性がありません。
42805	ORDER BY 文節の整数が、結果表の列を識別していません。
42806	データ・タイプに互換性がないため、ホスト変数に値を割り当てられません。
42807	INSERT、UPDATE、または DELETE は、このオブジェクトでは許可されません。
42808	INSERT または UPDATE 操作で識別された列は更新できません。
42809	識別されたオブジェクトは、ステートメントが適用するタイプのオブジェクトではありません。
42810	基本表が FOREIGN KEY 文節で識別されません。
42811	指定された列数が、SELECT 文節の列数と同じではありません。
42813	指定されたビューには、WITH CHECK OPTION を使用できません。
42815	データ・タイプ、長さ、位取り、値、または CCSID が無効です。
42816	式の日時の値または期間が無効です。
42818	演算子または関数のオペランドに互換性がありません。
42819	算術演算のオペランド、または数値を必要とする関数のオペランドが数値ではありません。

表 29. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味
42820	数値制約が長すぎるか、またはそのデータ・タイプの範囲内にはない値を持っています。
42821	更新または挿入の値に、列との互換性がありません。
42823	1 つの列しか許可されていない副照会から複数の列が返されました。
42824	LIKE のオペランドが文字列ではないか、または最初のオペランドが列ではありません。
42825	UNION、INTERSECT、EXCEPT、または VALUES の行に、互換性のある列がありません。
42826	UNION、INTERSECT、EXCEPT、または VALUES の行が、同じ数の列を持っていません。
42827	UPDATE または DELETE で識別された表が、カーソルによって指定された表と同じではありません。
42828	UPDATE または DELETE ステートメントのカーソルによって指定された表を修正できないか、またはカーソルが読み取り専用です。
42829	カーソルによって指定された結果表を修正できないため、FOR UPDATE OF が無効です。
42830	外部キーが親キーの記述に適合しません。
42831	主キーまたはユニーク・キーの列では、NULL 値は許可されていません。
42832	操作がシステム・オブジェクトでは許可されていません。
42834	外部キーのいずれの列にも NULL 値を割り当てられないため、SET NULL は指定できません。
42835	名前派生表の間では、循環参照は指定できません。
42836	再帰的な名前派生表の指定は無効です。
42837	列の属性が現在の列属性と非互換であるため、列を変更できません。
42838	無効な表スペースの使用が見つかりました。
42839	索引と長い列は、表から独立した表スペースには入れられません。
42840	無効な AS CAST オプションの使用が見つかりました。
42841	パラメーター・マーカーは、ユーザー定義タイプまたは参照タイプにはできません。
42842	指定されたオプションが、列の記述と矛盾するため、列の定義が無効です。
42845	無効な VARIANT または EXTERNAL ACTION 関数の使用が見つかりました。
42846	ソース・タイプからターゲット・タイプへのキャストはサポートされません。
42852	GRANT または REVOKE で指定された権限が無効であるか、または矛盾しています。(たとえば、ビューでの GRANT ALTER など)
42853	オプションの代替が両方とも指定されていたか、または同じオプションが複数回指定されています。
42854	選択リストの結果列データ・タイプは、型付きビューまたはマテリアライズ照会表定義に定義されているタイプと非互換です。
42855	このホスト変数に対する LOB の割り当ては許可されません。このカーソルでの、この LOB のすべてのフェッチに対するターゲット・ホスト変数は、ローケータあるいは LOB 変数である必要があります。

表 29. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味
42858	操作を指定オブジェクトに適用させることができません。
42863	REXX で未定義のホスト変数が見つかりました。
42866	CREATE FUNCTION ステートメントの中の CAST FROM 文節または RETURNS 文節に入っているデータ・タイプが、ソース関数から戻されたデータ・タイプまたは関数本体内の RETURN ステートメントに適合しません。
42867	指定されたオプションが矛盾しています。
42872	FETCH ステートメント文節がカーソル定義と非互換です。
42875	CREATE SCHEMA で作成するオブジェクトには、スキーマ名と同じ修飾子を付ける必要があります。
42877	列名は修飾できません。
42878	無効な関数またはプロシージャ名が EXTERNAL キーワードで使用されました。
42879	CREATE FUNCTION ステートメントの 1 つ以上の入力パラメーターのデータ・タイプが、ソース関数の対応するデータ・タイプに適合しません。
42880	CAST TO と CAST FROM のデータ・タイプが一致しないか、または固定ストリングが必ず切り捨てられる可能性があります。
42881	行ベース関数の使用が無効です。
42882	特定のインスタンス名の修飾子が、関数名の修飾子と等しくありません。
42883	一致するシグニチャーの関数または方式が見つかりませんでした。
42884	指定された名前と互換性のある引き数を持つルーチンが見つかりませんでした。
42885	CREATE FUNCTION ステートメントで指定した入力パラメーターの数が、SOURCE 文節で指定した関数によって与えられた数と一致しません。
42886	IN、OUT、または INOUT パラメーター属性が一致しません。
42887	コンテキストとの関係で関数が無効です。
42888	表に主キーがありません。
42889	表にはすでに主キーがあります。
42890	列リストが参照文節で指定されていますが、識別された親表が、指定された列名によるユニーク制約を持っていません。
42891	重複する UNIQUE 制約がすでに存在します。
42893	別のオブジェクトが従属しているため、オブジェクトまたは制約をドロップできません。
42894	DEFAULT 値が無効です。
42895	静的 SQL で、入力ホスト変数のデータ・タイプにプロシージャまたはユーザー定義関数のパラメーターとの互換性がないため、その入力ホスト変数は使用できません。
428A0	ユーザー定義関数が基づいている関数でエラーが起きました。
428A1	ホスト・ファイル変数によって参照されたファイルにアクセスできません。
428A2	表がパーティション・キーを持っていないため、マルチノード・ノード・グループに表を割り当てられません。
428A3	無効なパスがイベント・モニターに指定されています。

表 29. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味
428A4	無効な値がイベント・モニターのオプションに指定されています。
428A5	SET INTEGRITY ステートメントに指定されている例外表が、正しい構造ではないか、あるいは生成された列、制約、またはトリガーによって定義されています。
428A6	SET INTEGRITY ステートメントに指定されている例外表は、チェック中表の 1 つと同じにはできません。
428A7	チェック中の表の数が、SET INTEGRITY ステートメントに指定されている例外表の数に一致しません。
428A8	親表がチェック・ペンディング状態であるときに、下位表で SET INTEGRITY ステートメントを使用してチェック・ペンディング状態をリセットすることはできません。
428A9	ノード範囲が無効です。
428AA	列名が、イベント・モニター表には無効な列です。
428B0	ROLLUP、CUBE、または GROUPING SETS に違法なネストがあります。
428B1	特定のノードについて指定していない表スペースのコンテナ指定の数が誤りです。
428B2	コンテナのパス名が無効です。
428B3	無効な SQLSTATE が指定されました。
428B7	SQL ステートメントで指定された数値は、有効範囲外です。
428B0	フェデレーテッド・データ・ソース用のプランを作成できません。
428C0	ノード・グループで唯一のノードであるため、そのノードをドロップすることはできません。
428C1	1 つの ROWID 列のみ表に指定できます。
428C2	関数本体を調べた結果、指定された文節は CREATE FUNCTION ステートメントで指定されていなければならないことがわかりました。
428C4	述部演算子の各サイドにあるエレメントの数が同じではありません。
428C5	データ・ソースからのデータ・タイプについて、データ・タイプのマッピングが見つかりません。
428C9	INSERT または UPDATE のターゲット列として ROWID 列を指定することはできません。
428CA	追加モードの表にはクラスター索引を作成できません。
428CB	表スペースのページ・サイズは、それに関連するバッファー・プールのページ・サイズと一致していなければなりません。
428D1	DATALINK の値によって参照されたファイルにアクセスできません。
428D4	FOR に指定されているカーソルを OPEN、CLOSE、または FETCH ステートメントで参照することはできません。
428D5	終了ラベルが開始ラベルに一致しません。
428D6	UNDO は NOT ATOMIC ステートメントでは許可されていません。
428D7	条件値は許可されていません。
428D8	SQLSTATE または SQLCODE 変数の宣言あるいは使用は許可されていません。

表 29. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味
428DB	スーパータイプ、スーパー表、またはスーパービューとしてのオブジェクトは無効です。
428DC	関数または方式は、このタイプのトランスフォームとして無効です。
428DD	必要なトランスフォームが定義されていません。
428DE	PAGESIZE 値はサポートされていません。
428DF	CREATE CAST に指定されているデータ・タイプが無効です。
428DG	CREATE CAST に指定されている関数が無効です。
428DH	操作は型付き表で無効です。
428DJ	継承された列あるいは属性の変更あるいはドロップができません。
428DK	参照列の有効範囲はすでに定義されています。
428DL	外部あるいはソース関数のパラメーターに、定義済みの有効範囲があります。
428DM	参照タイプの有効範囲表またはビューが無効です。
428DN	SCOPE が外部関数の RETURNS 文節で指定されていないか、ソース関数の RETURNS 文節で定義されているかのいずれかです。
428DP	タイプは構造化タイプではありません。
428DQ	副表またはサブビューに、スーパー表またはスーパービューでない別のスキーマ名を指定することはできません。
428DR	操作を副表に適用させることができません。
428DS	指定された列の索引は、副表には定義できません。
428DT	式のオペランドの有効な有効範囲参照タイプは無効です。
428DU	タイプが必須タイプ階層の中に入っていません。
428DV	間接参照演算子の左側オペランドが無効です。
428DW	オブジェクト ID 列は間接参照演算子を使用して参照できません。
428DX	型付き表または型付きビュー階層のルート表またはルート・ビューを定義するために、オブジェクト ID の列が必要です。
428DY	ターゲット・オブジェクト・オブジェクト・タイプの統計データを更新できません。
428DZ	オブジェクト ID 列を更新できません。
428E0	索引の定義が索引拡張子の定義と一致しません。
428E1	範囲作成表関数の結果が、索引拡張子のキー・トランスフォーメーション表関数の結果と矛盾しています。
428E2	キー・ターゲット・パラメーターの数あるいはタイプが索引拡張子のキー・トランスフォーム関数の数あるいはタイプと一致しません。
428E3	索引拡張子内の関数の引き数が無効です。
428E4	関数は、CREATE INDEX EXTENSION ステートメントでサポートされていません。
428E5	ユーザー定義述部で指定できるのは SELECTIVITY 文節だけです。
428E6	ユーザー定義述部にある方式の検索引き数が、対応する索引拡張子の検索方式内の検索引き数と一致しません。
428E7	ユーザー定義の述部中の比較演算子の後に続くオペランドのタイプが RETURNS データ・タイプと一致しません。

表 29. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味
428E8	検索ターゲットまたは検索引き数パラメーターが、作成された関数のパラメーター名に一致しません。
428E9	引き数パラメーター名は同一の指数規則中で検索ターゲットおよび検索引き数の両方として出現しません。
428EA	型付きビューの全選択は無効です。
428EB	スーパービュー内の列が更新可能であるなら、そのサブビュー内のそれに対応する列を読み取り専用にはできません。
428EC	マテリアライズ照会表に指定された全選択が無効です。
428ED	データ・リンクまたは参照タイプ属性を指定した構造化タイプは構成されません。
428EE	オプションがこのデータ・ソースでは無効です。
428EF	オプションの値はこのデータ・ソースで無効です。
428EG	このデータ・ソースに必要なオプションが欠落しています。
428EH	すでに定義済みのオプションを追加できません。
428EJ	追加されていないオプションは設定 (SET) またはドロップ (DROP) できません。
428EK	宣言されたグローバル一時表の修飾子は SESSION でなければなりません。
428EL	トランスフォーム関数は、関数または方式での使用では無効です。
428EM	TRANSFORM GROUP 文節が必要です。
428EN	使用されていないトランスフォーム・グループが指定されています。
428EP	直接的に、または間接的に構造化タイプをそれ自身に依存させることはできません。
428EQ	ルーチンの戻りタイプをサブジェクト・タイプと同じにすることはできません。
428ER	方式本文がドロップする前に、方式指定をドロップさせることはできません。
428ES	方式本文が、方式指定の言語タイプに対応していません。
428EU	TYPE または VERSION がサーバー定義に指定されていません。
428EV	パススルー機能は、データ・ソースのタイプのためにサポートされていません。
428EW	この表をマテリアライズ照会表に変換できないか、マテリアライズ照会表からこの表に変換できません。
428EX	組み込み関数または方式であるため、ルーチンをトランスフォーム関数として使用できません。
428EY	ユーザー定義述部にある検索ターゲットのデータ・タイプが、指定された索引拡張子のソース・キーのデータ・タイプに一致していません。
428EZ	OLAP 関数のウィンドウ指定は無効です。
428F0	ROW 関数は少なくとも 2 つの列に組み込まれなければなりません。
428F1	SQL TABLE 関数は表結果を返さなければなりません。
428F2	SQL プロシージャ内の RETURN ステートメント値のデータ・タイプは INTEGER でなければなりません。
428F3	SCROLL および WITH RETURN は同時に指定できません。

表 29. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味
428F4	FETCH で指定された SENSITIVITY はカーソルには許可されていません。
428F6	カーソルはスクロール可能ですが、結果表には表関数からの出力が関連しません。
428F7	SQL ルーチンにのみ適用する操作が、外部ルーチンで行われました。
428F9	シーケンス式はこのコンテキストでは指定できません。
428FA	10 進数の位取りをゼロにする必要があります。
428FB	シーケンス名は、ID 列用のシステムで生成されたシーケンスではいけません。
428FC	暗号化パスワードの長さが無効です。
428FD	暗号化解除に使用されたパスワードが、データの暗号化に使用されたパスワードと一致しません。
428FE	データが ENCRYPT 関数の結果ではありません。
428FF	バッファ・プールの指定が無効です。
428FG	ステージング表の定義に使用される表が無効です。
428FH	SET INTEGRITY オプションが無効です
428FI	ORDER OF が指定されましたが、この 表指定子 は ORDER BY 文節を含みません。
428FJ	ORDER BY は、ビューまたはマテリアライズ照会表の外部全選択では許可されません。
428FL	SQL データ変更ステートメントは、それが指定されるコンテキスト内では無効です。
428FM	SELECT 文節内の INSERT ステートメントが、対称でないビューを指定しました。
428FP	サブジェクト・ビューでの各操作では、1 つの INSTEAD OF トリガーが許可されています。
428FQ	INSTEAD OF トリガーが、WITH CHECK OPTION 文節を使用して定義されるビュー、WITH CHECK OPTION 文節で定義されるビューに定義されるビュー、または WITH ROW MOVEMENT 文節で定義されるビューにネストされるビューを指定することはできません。
428FU	FROM SQL トランスフォーム関数または方式から戻された組み込みタイプが、TO SQL トランスフォーム関数または方式の対応する組み込みタイプと一致しません。
428FV	方式をオーバーライド方式として定義できません。
428FZ	いくつかの操作に対してのみ INSTEAD OF トリガーの定義を行ったビューは、MERGE ステートメントでのターゲットとして使用することができません。
428G3	全選択中の SQL データ変更ステートメントのターゲット・ビューに INSTEAD OF トリガーが定義されている場合、FINAL TABLE は無効です。
428G4	INPUT SEQUENCE 配列の使用が無効です。
428G5	UPDATE ステートメントの割り当て文節は、INCLUDE 列以外の 1 つ以上の列を指定する必要があります。

表 29. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味
428G6	全選択の FROM 文節中のデータ変更ステートメントのターゲットから選択できない列が指定されています。
428G8	ビューを照会の最適化に使用できません。
428GA	フェデレーテッド・オプションの追加、ドロップ、変更はできません。
42901	列関数に列名がありません。
42903	WHERE 文節または SET 文節に、列関数などの無効な参照があります。
42904	コンパイル・エラーのため、SQL プロシージャは作成されませんでした。
42907	ストリングが長すぎます。
42908	必要な列リストがステートメントにありません。
42910	このステートメントは、コンパウンド・ステートメントでは許可されません。
42911	10 進数の除算で、結果の位取りが負の値になるものは無効です。
42912	列がカーソルの select ステートメントの UPDATE 文節で識別されていないため、この列を更新できません。
42914	副照会で参照された表が影響を受けるため、DELETE は無効です。
42915	無効な参照制約が見つかりました。
42916	別名が反復チェーンになるため、別名を作成できません。
42917	オブジェクトを明示的にドロップまたは変更できません。
42918	システム定義のデータ・タイプ名 (たとえば INTEGER) で、ユーザー定義のデータ・タイプを作成することはできません。
42919	ネストされたコンパウンド・ステートメントは許可されていません。
42921	コンテナを表スペースに追加できません。
42925	再帰的名前派生表は SELECT DISTINCT を指定できません。UNION ALL の指定が必要です。
42928	WITH EMPTY TABLE は、この表に指定できません。
42932	プログラム準備の前提事項に誤りがあります。
42939	指定された ID はシステム使用のために予約されているため、この名前は使用できません。
42962	長い列、LOB 列、または構造化タイプ列は、索引、キー、または制約では使用することができません。
42968	現行ソフトウェア・ライセンスがないため、接続が失敗しました。
42969	パッケージは作成されませんでした。
42972	結合条件の式または MERGE ステートメントの ON 文節が、複数のオペランド表の列を参照しています。
42985	ステートメントはルーチンでは許可されていません。
42987	ステートメントが、プロシージャまたはトリガーで許可されていません。
42989	式に基づいている GENERATED 列を BEFORE トリガーで使用することはできません。
42991	BOOLEAN データ・タイプは、現在内部的にのみサポートされています。
42993	定義された列が、ログに記録するには大きすぎます。
42994	ロー・デバイス・コンテナは、現在このシステムではサポートされていません。

表 29. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味
42995	要求された関数は、グローバル一時表に適用されません。
42997	このバージョンの DB2 アプリケーション・リクエスター、DB2 アプリケーション・サーバー、または両者の組み合わせでは、機能はされていません。
429A0	最初にログを取得しないように定義されている親表を、外部キーで参照することはできません。
429A1	ノード・グループが表スペースについて有効ではありません。
429A9	DataJoiner が SQL ステートメントを処理することはできません。
429B2	構造型タイプまたは列に指定されているインライン長さの値が小さ過ぎます。
429B3	オブジェクトが副表に定義されていない可能性があります。
429B4	データ・フィルター関数は LANGUAGE SQL 関数にはなれません。
429B5	索引拡張子内のインスタンス・パラメーターのデータ・タイプが無効です。
429B8	PARAMETER STYLE JAVA で定義されたルーチンは、パラメーターまたは戻りタイプとして構造化タイプを持つことができません。
429B9	DEFAULT または NULL を属性割り当てに使用することはできません。
429BA	FEDERATED キーワードは、フェデレーテッド・データベース・オブジェクトと一緒に使用する必要があります。
429BB	パラメーターまたは変数に指定されているデータ・タイプは、SQL ルーチンではサポートされていません。
429BC	ALTER TABLESPACE ステートメントに、複数のコンテナ・アクションがあります。
429BE	主キーまたはユニーク・キーは、DIMENSIONS 文節にある列のサブセットです。
429BG	この機能は範囲がクラスター化された表ではサポートされません。
429BJ	ビューの WITH ROW MOVEMENT の使用が無効です。
429BK	基礎を成すビューが行移動に関連しているため、ビューを更新する試みは無効です。
429BL	SQL データを修正する関数が不正なコンテキストで呼び出されています。
429BO	フェデレーテッド・データ・ソース用のプランを作成できません。
429BP	ニックネーム列の式が無効です。

クラス・コード 44 WITH CHECK OPTION 違反

表 30. クラス・コード 44: WITH CHECK OPTION 違反

SQLSTATE 値	意味
44000	結果の行がビュー定義を満たしていないため、INSERT または UPDATE は許可されません。

クラス・コード 46 Java DDL

表 31. クラス・コード 46: Java DDL

SQLSTATE 値	意味
46001	Java DDL - 無効な URL。
46002	Java DDL - 無効な jar 名。
46003	Java DDL - 無効なクラスの削除。
46007	Java DDL - 無効なシグニチャー。
46008	Java DDL - 無効な方式指定。
46103	Java ルーチンが ClassNotFound 例外を検出しました。
46501	Java DDL - オプションのコンポーネントが設定されていません。

クラス・コード 51 無効なアプリケーション状態

表 32. クラス・コード 51: 無効なアプリケーション状態

SQLSTATE 値	意味
51002	SQL ステートメントの実行要求に対応するパッケージが見つかりませんでした。
51003	整合性トークンが一致しません。
51004	SQLDA のアドレスが無効です。
51005	以前のシステム・エラーによって、このエラーを使用できません。
51008	プリコンパイルされたプログラムのリリース番号が無効です。
51015	バインド時にエラーが検出されたセクションを実行しようとしてしました。
51017	ユーザーはログオンしていません。
51021	アプリケーション処理がロールバック操作を実行するまで、SQL ステートメントを実行できません。
51022	接続 (現行または休止のどちらか) が CONNECT ステートメントで指定されたサーバーにすでに存在するときは、許可名を指定した CONNECT は無効です。
51023	データベースは、データベース・マネージャーの他のインスタンスがすでに使用中です。
51024	ビューの操作不能のマークが付いているため、ビューは使用できません。
51025	XA トランザクション処理環境のアプリケーションが、SYNCPOINT TWOPHASE でバインドされていません。
51026	イベント・モニターのターゲット・バスが、すでに他のイベント・モニターによって使用されているため、イベント・モニターをオンにできません。
51027	表がユーザー保守のマテリアライズ照会表であるか、チェック・ペンディング状態でないため、SET INTEGRITY ステートメントの IMMEDIATE CHECKED オプションは無効です。
51028	パッケージが操作不能とマークされているので、使用できません。

表 32. クラス・コード 51: 無効なアプリケーション状態 (続き)

SQLSTATE 値	意味
51030	ALLOCATE CURSOR または ASSOCIATE LOCATORS ステートメントで参照されているプロシージャは、アプリケーション処理内で呼び出されていません。
51034	MODIFIES SQL DATA (SQL データの変更) を使って定義されたルーチンは、そのルーチンが呼び出されたコンテキストで無効です。
51035	値がこのセッションでまだシーケンスについて生成されていないため、PREVVAL 式は使用できません。
51038	SQL ステートメントは、このルーチンによって最早発行されない可能性があります。
51039	ENCRYPTION PASSWORD 値が設定されていません。

クラス・コード 53 無効なオペランドまたは矛盾する指定

表 33. クラス・コード 53: 無効なオペランドまたは矛盾する指定

SQLSTATE 値	意味
53040	指定されたバッファ・プールは、指定されたデータベース・パーティションに存在しません。
53090	コード化スキーム (ASCII、EBCDIC または Unicode) のうちの 1 つのスキームからのデータのみが、同じ SQL ステートメントで参照できます。
53091	指定されたコード化スキームが、含まれるオブジェクトで現在使用中のコード化スキームと同じではありません。

クラス・コード 54 SQL または製品の限界の超過

表 34. クラス・コード 54: SQL または製品の限界の超過

SQLSTATE 値	意味
54001	ステートメントが長すぎるか、または複雑すぎます。
54002	ストリング定数が長すぎます。
54004	ステートメントの SELECT または INSERT リストにある表名または項目が多すぎます。
54006	連結の結果が長すぎます。
54008	キーが長すぎるか、キーの持っている列が多すぎるか、またはキー列が長すぎます。
54010	表のレコード長が長すぎます。
54011	表またはビューに指定されている列の数が多すぎます。
54023	関数またはプロシージャのパラメーターまたは引き数の数が、限界を超えています。
54028	並行 LOB ハンドルが最大数に達しました。
54029	オープン・ディレクトリー・スキャンの最大数に達しました。

表 34. クラス・コード 54: SQL または製品の限界の超過 (続き)

SQLSTATE 値	意味
54030	イベント・モニターの最大数がすでにアクティブです。
54031	最大数のファイルが、すでにイベント・モニターに割り当てられています。
54032	表が最大サイズに達しました。
54033	パーティション・マップの最大数に達しました。
54034	表スペースのすべてのコンテナ名を結合した長さが長すぎます。
54035	内部オブジェクトの制限を超えました。
54036	コンテナのパス名が長すぎます。
54037	表スペースのコンテナ・マップが複雑すぎます。
54038	ネストされたルーチンまたはトリガーの最大の深さを超えました。
54045	タイプ階層の最大レベルを超えています。
54046	索引拡張子内の最大許容可能パラメーター数を超えています。
54047	表が最大サイズを超えました。
54048	十分なページ・サイズの TEMPORARY 表スペースが存在しません。
54049	構造化タイプのインスタンスの長さがシステム制限を超えています。
54050	許可されている最大属性が構造化タイプで超過しています。
54052	バッファ・プールのブロック・ページ数が、バッファ・プールのサイズには大きすぎます。
54053	BLOCKSIZE に指定された値が有効範囲内にありません。

クラス・コード 55 前提条件の状態にないオブジェクト

表 35. クラス・コード 55: 前提条件の状態にないオブジェクト

SQLSTATE 値	意味
55001	データベースを移行する必要があります。
55002	説明表が正しく定義されていません。
55006	オブジェクトが現在同じアプリケーション処理によって使用されているため、オブジェクトをドロップできません。
55007	オブジェクトが現在同じアプリケーション処理によって使用されているため、オブジェクトを変更できません。
55009	システムが、読み取り専用ファイルまたは書き込み保護ディスクに対して書き込みを試みました。
55012	クラスタリング索引はすでに表に存在しています。
55019	表が無効な状態にあるため、操作できません。
55022	ファイル・サーバーは、このデータベースに登録されていません。
55023	ルーチン呼び出しエラーが起きました。
55024	表に関連するデータも他の表スペースにあるため、表スペースをドロップできません。
55025	データベースを再始動する必要があります。
55026	TEMPORARY 表スペースをドロップできません。

表 35. クラス・コード 55: 前提条件の状態にないオブジェクト (続き)

SQLSTATE 値	意味
55031	エラー・マッピング・ファイルの形式に誤りがあります。
55032	このアプリケーションが始動された後に、データベース・マネージャーが停止されたため、CONNECT ステートメントは無効です。
55033	イベント・モニターが作成または修正された同じ作業単位で、イベント・モニターを活動化できません。
55034	イベント・モニターが操作に対して無効な状態にあります。
55035	表は保護されているため、ドロップできません。
55036	ノードがパーティション・マップからドロップされていないため、ノードをドロップできません。
55037	表がマルチノード・ノード・グループにないため、パーティション・キーをドロップできません。
55038	ノード・グループが再平衡されているため、ノード・グループを使用できません。
55039	表スペースが適切な状態にないため、アクセスまたは状態の遷移は許可されません。
55041	再平衡の進行中は、コンテナを表スペースに追加できません。
55043	タイプに基づく型付き表または型付きビューが存在している場合、構造化タイプの属性は変更できません。
55045	必要なコンポーネントがサーバーで使用可能になっていないため、ルーチンの SQL アーカイブ (SAR) ファイルを作成できません。
55046	指定された SQL アーカイブがターゲット環境に適合しません。
55047	外部関数またはメソッドが、フェデレーテッド・オブジェクトにアクセスしようとした。
55048	暗号化されたデータは暗号化できません。
55049	イベント・モニター表が正しく定義されていません。
55051	ALTER BUFFERPOOL ステートメントが現在進行中です。
55054	方式をオーバーライド方式として定義できません。
55056	データベースはフェデレーション可能になっていないので、ニックネーム統計を更新できません。

クラス・コード 56 その他の SQL または製品エラー

表 36. クラス・コード 56: その他の SQL または製品エラー

SQLSTATE 値	意味
56031	混合データと DBCS データが、このシステムではサポートされていないため、文節またはスカラー関数が無効です。
56033	長ストリング列の挿入または更新値は、ホスト変数または NULL である必要があります。
56038	この環境ではサポートされない要求機能です。

表 36. クラス・コード 56: その他の SQL または製品エラー (続き)

SQLSTATE 値	意味
56072	下位レベルのサーバーによってサポートされない機能のために、実行できませんでした。これは、後続の SQL ステートメントの実行には影響しません。
56084	DRDA では、LOB データはサポートされていません。
56091	コンバウンド SQL ステートメントを実行した結果、複数のエラーが起きました。
56092	許可名が、ユーザー ID とグループ ID の両方であるため、許可のタイプを判別できません。
56095	BIND オプションが無効です。
56097	LONG VARCHAR および LONG VARGRAPHIC フィールドは、DEVICE 上にビルドされる TABLESPACE では許可されません。
56098	暗黙の再バインドまたは準備中に、エラーが発生しました。
56099	REAL データ・タイプがターゲット・データベースによってサポートされていません。
560A0	LOB 値におけるアクションが失敗しました。
560AA	このシステムで UCS-2 がサポートされていないため、文節またはスカラー関数が無効です。
560AC	ラッパー定義は、データ・ソースの指定されたタイプまたはバージョンに使用できません。
560AF	ゲートウェイ・コンセントレーターを使用している場合、PREPARE ステートメントはサポートされていません。
560B0	新しいサイズ値は、表スペース・コンテナのサイズ変更には無効です。
560B1	ストアード・プロシージャのカーソル指定が無効です。
560B7	複数行 INSERT の場合、シーケンス式の使用は各行について同じでなければなりません。
560BB	動的に準備された CALL ステートメントの INOUT パラメーターの場合、同じホスト変数を USING 文節と INTO 文節の両方で使用する必要があります。
560BC	ファイルにアクセス中にエラーが発生しました。
560BD	フェデレーテッド・サーバーは、データ・ソースから予期しないエラー・コードを受け取りました。
560BF	暗号化機能は使用できません。
560C0	Unicode コード化スキームで作成された表を SQL 関数または SQL メソッドで使用することはできません。
560C1	Unicode コード化スキームで作成された表を型付き表にはできません。また、GRAPHIC タイプまたはユーザー定義タイプをその中で使用することもできません。
560C2	ドロップされた表に対する履歴ファイル項目の書き込みが失敗しました。
560C3	AFTER トリガーが INSERT ステートメント用に挿入される行を修正できません。
560C6	参照制約が全選択内の SQL データ変更ステートメントにより修正される行を修正できません。
560C8	一部のニックネーム統計を更新できません。

表 36. クラス・コード 56: その他の SQL または製品エラー (続き)

SQLSTATE 値	意味
560C9	指定されたステートメントは Explain できません。

クラス・コード 57 リソースが使用不可、またはオペレーターの介入

表 37. クラス・コード 57: リソースが使用不可、またはオペレーターの介入

SQLSTATE 値	意味
57001	1 次索引がないため、その表は使用できません。
57003	指定されたバッファ・プールはアクティブではありません。
57007	DROP または ALTER がペンディングのため、オブジェクトを使用できません。
57009	仮想記憶またはデータベース・リソースが一時的に使用不能になっています。
57011	仮想記憶またはデータベース・リソースを使用できません。
57012	非データベース・リソースを使用できません。これは、以降のステートメントの正常な実行には影響しません。
57013	非データベース・リソースを使用できません。これは、以降のステートメントの正常な実行に影響する可能性があります。
57014	要求に従って処理が取り消されました。
57016	表スペースがアクティブではないので、アクセスできません。
57017	文字変換が定義されていません。
57019	リソースに問題があるため、ステートメントが失敗しました。
57020	データベースのあるドライブがロックされています。
57021	ディスク・ドライブのドアが開いています。
57022	ステートメントの許可 ID が適切な DB スペースを所有していないため、表が作成されませんでした。
57030	アプリケーション・サーバーへの接続が、インストール先定義の限界を超えている可能性があります。
57032	並行処理できる最大数のデータベースが、すでに始動しています。
57033	自動ロールバックなしで、デッドロックまたはタイムアウトが発生しました。
57036	このトランザクション・ログは、現在のデータベースにはありません。
57046	データベースまたはインスタンスが静止しているため、新しいトランザクションを開始できません。
57047	ディレクトリーがアクセス不能のため、内部データベース・ファイルを作成できません。
57048	表スペースのコンテナにアクセス中に、エラーが起きました。
57049	オペレーティング・システム処理限界に達しました。
57050	ファイル・サーバーは現在使用できません。
57051	見積もり CPU コストがリソースの限界を超過しています。
57052	そのノードは、すべての TEMPORARY 表スペースについてコンテナがないため使用できません。

表 37. クラス・コード 57: リソースが使用不可、またはオペレーターの介入 (続き)

SQLSTATE 値	意味
57053	操作が競合するため、この表に対してこの操作を実行することはできません。
57055	使用できる TEMPORARY 表スペースのページ・サイズが不足しています。
57056	データベースが NO PACKAGE LOCK モードであるため、パッケージは使用できません。
57057	SQL ステートメントの一連の DRDA での前の条件のため、SQL ステートメントは実行されません。
57059	指定したアクションを行うための十分なスペースが、表スペースにありません。

クラス・コード 58 システム・エラー

表 38. クラス・コード 58: システム・エラー

SQLSTATE 値	意味
58004	システム・エラー (必ずしも後続の SQL ステートメントの正常な実行を妨げるものではありません) が起きました。
58005	システム・エラー (後続の SQL ステートメントの正常な実行を妨げます) が起きました。
58008	分散プロトコル・エラーのため、実行が失敗しました。このエラーは、後続の DDM コマンドまたは SQL ステートメントの正常な実行には影響しません。
58009	会話の割り振り解除の原因となる分散プロトコル・エラーのため、実行が失敗しました。
58010	分散プロトコル・エラーのため、実行が失敗しました。このエラーは、後続の DDM コマンドまたは SQL ステートメントの正常な実行に影響を与えません。
58011	バインド処理の進行中は、DDM コマンドは無効です。
58012	指定したパッケージ名と整合性トークンを持つバインド処理がアクティブではありません。
58014	DDM コマンドはサポートされていません。
58015	DDM オブジェクトはサポートされていません。
58016	DDM パラメーターはサポートされていません。
58017	DDM パラメーターの値がサポートされていません。
58018	DDM 応答メッセージがサポートされていません。
58023	システム・エラーのため、現行プログラムが取り消されました。
58030	入出力エラーが起きました。
58031	システム・エラーのため、接続が失敗しました。
58032	fenced モードのユーザー定義関数に処理を使用できません。
58034	DMS 表スペース内のオブジェクトについてページを検索しているときに、エラーが見つかりました。
58035	DMS 表スペース内のオブジェクトのためにページを解放している間に、エラーが見つかりました。
58036	指定された内部表スペース ID が存在しません。

表 38. クラス・コード 58: システム・エラー (続き)

SQLSTATE	意味
ZZZZZ	開発時専用のプレースホルダー sqlstate。コードを配送する前に変更しなければなりません。

付録 A. 通信エラー

アプリケーションで -30081 の `sqlcode` が戻される場合、通信エラーが検出されたことを意味します。通信サブシステムによって検出された実際のエラーは、30081 エラー・メッセージのエラー・トークン・リストで戻されます。以下に、戻される可能性がある通信エラーがリストされています。

エラー・コードはプロトコルによって次のようにグループ化されています。

- 『TCP/IP』
- 560 ページの 『APPC』
- 562 ページの 『NETBIOS』
- 564 ページの 『MQ』
- 564 ページの 『SOAP』

TCP/IP

UNIX 環境で TCP/IP を使用する際に、ユーザーが最も頻繁に検出する可能性がある `errno` が以下の表にリストされています。これは、エラーをすべて示したリストではありません。`Errnos` は、`/usr/include/sys/errno.h` ファイルで検出できます。Linux では、`errno` は `/usr/include/asm/errno.h` で見付けることができます。オペレーティング・システムごとの `errno` 番号が記載されています。

表 39. UNIX の TCP/IP `errno`

Errno	Errno 番号				記述
	AIX	HP-UX	Solaris	Linux	
EINTR	4	4	4	4	割り込まれたシステム呼び出し。
EAGAIN	11	11	11	11	一時的にリソースは利用不能です。
EBUSY	16	16	16	16	リソースは使用中です。
EMFILE	24	24	24	24	プロセスごとのファイル記述表はいっぱいです。
EPIPE	32	32	32	32	パイプ接続が切れています。
EADDRINUSE	67	226	125	98	指定されたアドレスは既に使用中です。
ENETDOWN	69	228	127	100	ネットワークはダウンしています。
ENETUNREACH	70	229	128	101	ネットワークへの経路が利用不能です。
ENETRESET	71	230	129	102	ネットワークによってリセット時に接続がドロップされました。

表 39. UNIX の TCP/IP errno (続き)

Errno	Errno 番号				記述
	AIX	HP-UX	Solaris	Linux	
ECONNRESET	73	232	131	104	パートナーによって接続がリセットされました。
ENOBUFS	74	233	132	105	システムで呼び出しを完了するには不十分なバッファ・スペース・リソースしか利用できません。
ENOTCONN	76	235	134	107	ソケットが接続されていません。
ETIMEDOUT	78	238	145	110	接続はタイムアウトになりました。
ECONNREFUSED	79	239	146	111	接続は拒否されました。データベースへの接続を試みている場合には、サーバーのデータベース・マネージャーおよび TCP/IP プロトコル・サポートが正常に開始されたことを確認してください。 SOCKS プロトコル・サポートを使用している場合には、SOCKS サーバーの TCP/IP プロトコル・サポートも正常に開始されるようにしてください。
EHOSTDOWN	80	241	147	112	ホストがダウンしています。
EHOSTUNREACH	81	242	148	113	ホストへの経路は存在しません。

UNIX の TCP/IP 通信エラーについて詳細は、適切なオペレーティング・システムのテクニカル解説書を参照してください。以下のコマンドを発行することもできます。

`man function-name`

function-name は、エラーを戻した関数の名前を表します。特定の関数によって戻されるエラーに関する追加情報は、マニュアル・ページに記載されています。

Windows オペレーティング・システム上で TCP/IP を使用する際に、ユーザーが最も頻繁に検出する可能性があるエラー・コードを以下のリストに示します。これは、エラーをすべて示したリストではありません。WSAGetLastError() によって戻されたエラーは、**winsock2.h** ファイルで検出できます。開発環境をインストールしていないと、このファイルをインストールできません。特定の関数によって戻されるエラーに関する詳細情報は、Windows Sockets 2 Application Programming Interface に記述されています。この仕様のコピーは、以下の Web サイトから入手できます。 <http://www.sockets.com/winsock2.htm#Docs>

- **WSAEINVAL (10022)**: 引き数が無効です。ソケットの現在の状態が、呼び出された TCP 機能と互換性がないか、あるいはソケットがもはや有効でないことを意味している可能性もあります。
- **WSAEMFILE (10024)**: オープンされているファイルが多すぎます。オープンされているソケットが多すぎます。各インプリメンテーションでは、使用可能なソケット・ハンドルの最大数が、グローバルに、またはプロセスごとに、あるいはスレッドごとに定められています。
- **WSAEWOULDBLOCK (10035)**: 一時的にリソースは利用不能です。このエラーは、即時に完了できない非ブロッキング・ソケットでの操作から戻されます。
- **WSAEINPROGRESS (10036)**: ブロッキング Windows Sockets 操作が進行中です。Windows Sockets では、タスク (またはスレッド) ごとに、未解決のブロッキング操作は 1 つしか許されません。そして、他の関数呼び出しが行われた場合、その関数は **WSAEINPROGRESS** で失敗します。
- **WSAENOPROTOOPT (10042)**: プロトコル・オプションが不正です。 `getsockopt()` または `setsockopt()` 呼び出しで、不明、無効、またはサポートされないオプションまたはレベルが指定されました。
- **WSAEADDRINUSE (10048)**: アドレスがすでに使用されています。通常は、各ソケット・アドレス (プロトコル/IP アドレス/ポート) は 1 箇所でのみ使用できます。このエラーが発生するのは、アプリケーションがソケットを IP アドレス/ポートに `bind()` しようとし、その IP アドレス/ポートが既存のソケット用にすでに使用されている場合や、ソケットが適切にクローズされていなかったり、クローズの過程の途中であったりする場合です。
- **WSAENETDOWN (10050)**: ネットワークはダウンしています。ソケット操作が非活動のネットワークに遭遇しました。これはネットワーク・システムの深刻な障害 (WinSock DLL が暴走するプロトコル・スタックなど) や、ネットワーク・インターフェースまたはローカル・ネットワーク自体の深刻な障害を示している可能性があります。
- **WSAENETUNREACH (10051)**: ネットワークが到達不能です。到達不能のネットワークに対してソケット操作が試行されました。これは普通、ローカル・ソフトウェアからリモート・ホストに到達するための経路がわからないことを意味します。
- **WSAENETRESET (10052)**: リセット時にネットワークが接続をドロップしました。操作の進行中に「キープアライブ」アクティビティが障害を検出したために、接続が切れました。すでに失敗した接続上で `SO_KEEPALIVE` をセットしようとした場合に、 `stsockopt()` によってこのエラーが戻されることもあります。
- **WSAECONNABORTED (10053)**: ソフトウェアが接続を打ち切りました。ユーザーのマシンのソフトウェアが、確立された接続を打ち切りました。おそらく、データ伝送タイムアウトかプロトコル・エラーによるものです。
- **WSAECONNRESET (10054)**: 相手側で接続がリセットされました。リモート・ピアにより、既存の接続が強制クローズされました。これは通常は、リモート・マシンのピア・アプリケーションが突然停止したか、マシンがリポートされたか、あるいはピア・アプリケーションがリモート・ソケットで「ハード・クローズ」を使用した結果として生じます。また、このエラーは、1 つかそれ以上の操作の進行中に、「キープアライブ」アクティビティが障害を検出したために、接続が切れた結果として生じることもあります。進行中の操作は **WSAENETRESET** で失敗します。後続の操作は **WSAECONNRESET** で失敗します。

- WSAENOBUFFS (10055): バッファ・スペースは使用可能ではありません。システムでバッファ・スペースが不足したか、またはキューがいっぱいになったために、ソケット上の操作が実行できませんでした。
- WSAENOTCONN (10057): ソケットは接続されていません。
- WSAETIMEDOUT (10060): 接続がタイムアウトになりました。一定時間がたっても接続の相手側が適切に応答しなかったために、接続の試行が失敗しました。
- WSAECONNREFUSED (10061): 接続は拒否されました。インスタンスへのアタチまたはデータベースへの接続を試みている場合には、サーバーのデータベース・マネージャーおよび TCP/IP プロトコル・サポートが正常に開始されたことを確認してください。
- WSAEHOSTUNREACH (10065): ホストへの経路がありません。到達不能のマシンに対してソケット操作が試行されました。
- WSASYSNOTREADY (10091): 基礎ネットワーク・サブシステムは、ネットワーク通信をする用意ができていません。適切な Windows Sockets DLL が現行パスに入っており、複数の WinSock インプリメンテーションを同時に使用しようとしていないことを確認してください。システムに複数の WinSock DLL がある場合には、パス内で最初のもので、現在ロードされているネットワーク・サブシステムに適したものであること、また、すべての必要なコンポーネントが現在インストール済みで正しく構成されていることを確認してください。
- WSAVERNOTSUPPORTED (10092): 要求されている Windows Sockets API サポートは、この Windows Sockets のインプリメンテーションでは提供されていません。古い Windows Sockets DLL ファイルにアクセスしていないことを確認してください。
- WSA_E_NO_MORE (10110), WSAENOMORE (10102): 使用可能なデータがもうありません。Windows Sockets バージョン 2 では、WSAENOMORE と WSA_E_NO_MORE とでエラー・コードが競合しています。エラー・コード WSAENOMORE は将来のバージョンで取り除かれる予定であり、WSA_E_NO_MORE だけが残されます。
- WSAHOST_NOT_FOUND (11001): ホストは見つかりません。
- WSATRY_AGAIN (11002): ホストは見つかりません。ローカル・マシンがネーム・サーバーから応答を受信しなかったため、ネーム・サーバーからホスト名の IP アドレスを検索する要求は失敗しました。
- WSANO_DATA (11004): 有効な名前で、要求されたタイプのデータ・レコードはありません。ネーム・サーバーまたはホスト・ファイルはホスト名を認識しません。または、サービス・ファイルではサービス名は指定されていません。

Windows での TCP/IP 通信エラーの詳細については、Windows ソケットの文書を参照してください。

APPC

以下のリストでは、ユーザーが最も頻繁に検出する可能性がある CPI-C 関数戻りコードが示されています。これは、戻りコードをすべて示したリストではありません。括弧内の数字は、戻りコードに対応する定義された数を示します。

- CM_ALLOCATE_FAILURE_NO_RETRY (1): 一時的ではない状態のために割り振り失敗しました。たとえば、システム定義エラーまたはセッション活動化プロ

トコル・エラーのためにセッションを活動化できない場合があります。対話を割り振る前にセッション・プロトコル・エラーが生じてセッションが非活動化される際にも、この戻りコードは戻されます。

- **CM_ALLOCATE_FAILURE_RETRY (2):** 一時的な状態のために割り振りは失敗しました。ローカル・システムまたはリモート・システムでの一時的なリソースの不足のためにセッションを活動化できない場合があります。
- **CM_CONVERSATION_TYPE_MISMATCH (3):** リモート・プログラムが割り振り要求の対話タイプをサポートしないので、割り当ては失敗しました。これは、おそらくサーバー側の TP の問題でしょう。サーバーの TP が基本 の会話タイプをサポートするように構成してください。
- **CM_TPN_NOT_RECOGNIZED (9):** このエラーは、割り振り要求がリモート・システムに送られる際に起こります。これは、リモート・システムが要求内で指定されたトランザクション・プログラム名を認識しないことを示します。グローバル・ディレクトリー・サービスを使用していないならば、クライアントの CPI-C サイド情報プロファイルで指定された TP 名がサーバーで指定された TP 名と合致していることを確認してください。グローバル・ディレクトリー・サービスを使用しているならば、データベース管理者の助言を受けてグローバル・ディレクトリー項目で指定されている TP 名がサーバーで指定されている TP 名と合致していることを確認してください。
- **CM_TP_NOT_AVAILABLE_NO_RETRY (10):** このエラーは、割り振り要求がリモート・システムに送られる際に起こります。これは、リモート LU が送られた TP 名を認識しても、プログラムを開始できないことを示します。サーバーの TPN プロファイルで指定されるユーザー ID が有効であることを確認してください。
- **CM_TP_NOT_AVAILABLE_RETRY (11):** このエラーは、割り振り要求がリモート・システムに送られる際に起こります。これは、リモート LU が送られた TP 名を認識しても、おそらく一時的な理由でプログラムを開始できないことを示します。サーバーのデータベース・マネージャーおよび APPC プロトコル・サポートが正常に開始されたことを確認してください。
- **CM_DEALLOCATED_ABEND (17):** このエラーは、リモート・プログラムが対話の割り振りを解除する場合に起こります。これは、リモート・プログラムが異常終了した場合、または致命的エラー状態を検出した場合に起きることがあります。
- **CM_PRODUCT_SPECIFIC_ERROR (20):** 製品固有のエラーが検出され、エラーの説明が製品のシステム・エラー・ログに格納されました。ローカル APPC サブシステムが正常に開始されたことを確認してください。Communication Server for AIX で製品固有のエラーに関する情報をさらに得るには、グローバル変数 *errno* の値を確認する必要があります。戻すことができる *errnos* の詳細については、以下のセクションを参照してください。
- **CM_RESOURCE_FAILURE_NO_RETRY (26):** このエラーは、リソースに関連するエラーが原因で (セッションまたはリンク)、対話が途切れる際に起こります (相手側またはローカル側のいずれかで)。
- **CM_RESOURCE_FAILURE_RETRY (27):** このエラーは、上記で説明した NO_RETRY 状態とほぼ同じ理由で、対話が途切れる際に起こります (相手側またはローカル側のいずれかで)。唯一の相違点は、このエラーが永続的なものである可能性があるということです。

ほとんどの場合、CPI コミュニケーション戻りコードを使用すれば、エラーの原因を見つけることができます。CM_PRODUCT_SPECIFIC_ERROR が戻されると、追加情報が提供されます。

Communication Server for AIX では、*errno* が追加情報を提供します。一般的な *ermos* のいくつかは以下のようなものです。これは、すべてを示したリストではありません。101 番以上の *ermos* は、**/usr/include/luxsna.h** ファイルにあり、Communication Server for AIX 固有の *ermos* を含んでいます。これらの *ermos* のほとんどは、CPI-C 戻りコードに変換されます。もっと小さな番号の *ermos* は AIX の問題に関連しており、**/usr/include/sys/errno.h** ファイルで見つけられます。*errno* 番号自体は括弧で囲まれています。

- EBADF (9): これは「間違ったファイル記述子」エラーです。データベースに接続を試みる際にこのエラーが起きる場合には、通常はサーバーの SNA サブシステムが開始されていないことを意味しています。または、SNA 構成プロファイルに問題があることを示しています。サーバーの SNA サブシステムが開始されたかどうかを检查してください。サーバー・ノードへのリンク・ステーションが活性化できるかどうかを检查してください。
- EACCESS (13): これは「許可の拒否」エラーです。データベースに接続を試みる際にこのエラーが起きる場合には、通常は SNA 構成プロファイルに問題があることを示しています。

HP-UX の SNAPplus2 では、**/usr/include/sys/errno.h** ファイルを参照してエラーの記述を調べてください。

CPI 通信エラーの詳細については、「システム・アプリケーション体系 共通プログラミング・インターフェース コミュニケーション・インターフェース解説書」を参照してください。

NETBIOS

NetBIOS を使用する際に、ユーザーが最も頻繁に検出する可能性がある 16 進数の戻りコードが示されています。これは、戻りコードをすべて示したリストではありません。

- 01** 無効なバッファ長
- 03** 無効なコマンド
- 05** タイムアウトになったコマンド
- 06** 不完全なメッセージ
- 07** 受信されていないデータ
- 08** 無効なローカル・セッション番号
- 09** 使用可能なリソースがありません。
- 0A** セッションはクローズされています。

このエラーは以下のいずれかの原因で発生した可能性があります。

- サーバーのデータベース・エージェントが、システム管理者によって強制的にオフにされました。
- *maxagents* データベース・マネージャー構成パラメーターを超えたために、データベース・エージェントが、サーバーで始動できませんでした。サーバーの First Failure Service Log (DB2DIAG.LOG) をチェックして、エラー・メッセージが記録されているかどうかを判別してください。

- 主要データベース・マネージャー処理の異常終了のために、サーバーのデータベース・エージェントが終了しました。
 - 0B** コマンドがキャンセルされました。
 - 0D** 重複する名前がネットワーク上で使用されています。データベース・マネージャー構成ファイルに定義されている `nname` パラメーターがネットワーク上でユニークであることを確認してください。
 - 0E** 名前表がいっぱいです。
 - 0F** コマンドが完了しました (名前にはアクティブ・セッションがあり、登録が解除されました)。
 - 11** ローカル・セッション表がいっぱいです。
 - 12** セッションのオープンが拒否されました。
 - 13** 無効な名前番号
 - 14** リモート名が見つかりませんでした。
- データベースに接続を試みる際にこのエラーが起きる場合には、次のことを確認してください。
- データベース・マネージャーがサーバーで正常に開始されたこと、また NetBIOS サポートも正常に開始されたこと。
 - クライアントの NETBIOS ノード項目で指定されたサーバー `nname` がサーバーのデータベース・マネージャー構成ファイルのワークステーション名と合致すること。
- 15** ローカル名は検出されませんでした。
 - 16** リモート・ノードで使用されている名前
 - 17** 名前は削除されました。
 - 18** セッションは異常終了しました。
 - 19** 名前の競合が検出されました。
 - 21** インターフェースは使用中です。
 - 22** 未解決のコマンドが多すぎます。
 - 23** 無効なアダプター
 - 24** 既に完了されたコマンド
 - 26** キャンセルすることができないコマンド
 - 30** 別の環境によって定義された名前
 - 34** 定義されていない環境、RESET を発行する必要があります。
 - 35** 必須なオペレーティング・システムのリソースが使い果たされているので、後で再度試してみてください。
 - 36** 最大数のアプリケーションを超えました。
 - 37** 使用可能な SAP がありません。
 - 38** 要求したリソースが使用不可です。
 - 39** 無効な NCB アドレスです。
 - 3A** 無効なリセットです。
 - 3B** 無効な NCB DD ID です。
 - 3C** セグメント・ロックが失敗しました。
 - 3F** デバイス・ドライバーのオープン・エラー
 - 40** OS エラーが検出されました。
 - 4F** 永続的なリング状況です。
 - F6** 予期しない CCB エラーです。
 - F8** アダプター・オープン・エラー
 - F9** アダプター・サポート・ソフトウェアの内部エラー

- FA** アダプター・チェック
FB NetBIOS は操作不能です。
FC オープン障害です。
FD 予期しないアダプター・クローズです。
FF プロセス中のコマンドです。

NetBIOS 戻りコードの詳細については、ローカル・エリア・ネットワークのテクニカル解説書を参照してください。

MQ

MQ を使用する際に発生するプロトコル・エラー・コードのいくつかを以下にリストします。このリストにすべてが掲載されているわけではありません。括弧内の数字は、戻りコードに対応する定義された数を示します。詳細については、MQ のプロトコルの資料を参照してください。

- MQRC_CHAR_ATTR_LENGTH_ERROR (2006)
- MQRC_CONNECTION_BROKEN (2009)
- MQRC_HANDLE_NOT_AVAILABLE (2017)
- MQRC_HCONN_ERROR (2018)
- MQRC_HOBJ_ERROR (2019)
- MQRC_MSG_TOO_BIG_FOR_Q (2030)
- MQRC_MSG_TOO_BIG_FOR_Q_MGR (2031)
- MQRC_NO_MSG_AVAILABLE (2033)
- MQRC_OBJECT_CHANGES (2041)
- MQRC_Q_FULL (2053)
- MQRC_Q_SPACE_NOT_AVAILABLE (2056)
- MQRC_Q_MGR_NAME_ERROR (2058)
- MQRC_Q_MGR_NOT_AVAILABLE (2059)
- MQRC_UNKNOWN_OBJECT_NAME (2085)

SOAP

SOAP を使用する際に発生するプロトコル・エラーを以下にリストします。括弧内の数字は、戻りコードに対応する定義された数を示します。

- SOAP_UNEXPECTED_NULL (38301)。SOAP 通信関数への入力の 1 つ (SOAP アクション、SOAP エンドポイント、または SOAP 本文) が NULL でした。
- HTTP_INITSOCKET (38302)。ソケットの初期化エラー。
- HTTP_ERROR_UNKNOWN_PROTOCOL (38303)。URL で使用されるプロトコルが不明です。
- HTTP_INVALID_URL (38304)。URL の構文が無効です。
- HTTP_ERROR_CREATE_SOCKET (38305)。ソケットの作成エラー。
- HTTP_ERROR_BIND_SOCKET (38306)。ソケットのバインド・エラー (バインド関数)。

- HTTP_ERROR_RESOLVE_HOSTNAME (38307)。指定されたホスト名を解決できませんでした。
- HTTP_ERROR_GET_PROTO (38308)。TCP プロトコル名を取得できませんでした (getprotobyname 関数)。
- HTTP_ERROR_SET_SOCKETOPT (38309)。ソケット・オプションの設定エラー (setsockopt 関数)。
- HTTP_ERROR_UNEXPECTED_RETURN (38310)。予期しない HTTP 戻りコード。
- HTTP_ERROR_RETURN_CONTENTTYPE (38311)。予期しない HTTP コンテンツ・タイプ・ヘッダー属性値。
- SOAP_SAX_INIT (38312)。SAX パーサーの初期化エラー。
- SOAP_SAX_CREATE_PARSER (38313)。SAX パーサーの作成エラー。
- SOAP_SAX_CREATE_HANDLER (38314)。SAX パーサー・ハンドラーの作成エラー。
- SOAP_SAX_ERROR (38315)。SOAP の XML 構文解析中に例外が発生しました。
- SOAP_SAX_OUTENCODING (38316)。XML メッセージのコード・ページ変換中にエラーが発生しました。
- HTTP_ERROR_WRITE_SOCKET (39817)。ソケットへの書き込みエラー。
- HTTP_ERROR_READ_SOCKET (38318)。ソケットからの読み取りエラー。
- HTTP_ERROR_SELECT_WAITREAD (38319)。select 関数でソケット・エラーが発生しました。
- SOAP_ERROR_XML_SERIALIZE (38320)。XML SOAP メッセージの書き込みエラー。
- SOAP_ERROR_NO_NS_END (38321)。ネーム・スペース処理エラー。
- SOAP_ERROR_FAULT (38322)。Web サービスから SOAP の問題が戻されました。
- HTTP_SSL_ERROR (38323)。SSL ライブラリーにエラーがあります。

付録 B. DB2 Universal Database 技術情報

DB2 資料とヘルプ

DB2[®] 技術情報は、以下のツールと方法を介して利用できます。

- DB2 インフォメーション・センター
 - トピック
 - DB2 ツールのヘルプ
 - サンプル・プログラム
 - チュートリアル
- ダウンロード可能な PDF ファイル、CD 上の PDF ファイル、および印刷された資料
 - ガイド
 - リファレンス・マニュアル
- コマンド行ヘルプ
 - コマンド・ヘルプ
 - メッセージ・ヘルプ
 - SQL 状態ヘルプ
- インストール済みソース・コード
 - サンプル・プログラム

ibm.com[®] にある技術資料、白書、Redbooks[™] その他の DB2 Universal Database[™] 技術情報にオンラインでアクセスできます。DB2 Information Management ソフトウェア・ライブラリー・サイト (www.ibm.com/software/data/pubs/) にアクセスしてください。

DB2 資料の更新

IBM[®] は、DB2 インフォメーション・センターの資料のフィックスパックやその他の資料更新を定期的に発行しています。DB2 インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/>) にアクセスすれば、常に最新の情報が掲載されます。DB2 インフォメーション・センターをローカル・インストールしている場合、更新記事を表示するには、まず手動で更新をインストールしてください。新しい情報が発表されたときに資料を更新することにより、DB2 インフォメーション・センター CD からインストールした情報を更新することができます。

インフォメーション・センターの方が、PDF 資料やハードコピー資料よりも頻繁に更新されます。DB2 の最新の技術情報を入手するには、資料更新が発行されたときにそれをインストールするか、または www.ibm.com サイトの DB2 インフォメーション・センターにアクセスしてください。

関連概念:

- コール・レベル・インターフェース ガイドおよびリファレンス 第 1 巻の『CLI サンプル・プログラム』

- アプリケーション開発ガイド アプリケーションの構築および実行 の 『Java サンプル・プログラム』
- 568 ページの 『DB2 インフォメーション・センター』

関連タスク:

- 589 ページの 『DB2 ツールからコンテキスト・ヘルプを呼び出す』
- 579 ページの 『コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 インフォメーション・センターの更新インストール』
- 590 ページの 『コマンド行プロセッサからメッセージ・ヘルプを呼び出す』
- 590 ページの 『コマンド行プロセッサからコマンド・ヘルプを呼び出す』
- 591 ページの 『コマンド行プロセッサから SQL 状態ヘルプを呼び出す』

関連資料:

- 581 ページの 『DB2 PDF 資料および印刷された資料』

DB2 インフォメーション・センター

DB2[®] インフォメーション・センターを使用すると、DB2 Universal Database[™]、DB2 Connect[™]、DB2 Information Integrator および DB2 Query Patroller[™] などの DB2 ファミリー製品を最大限に活用するのに必要なすべての情報にアクセスできます。また、DB2 インフォメーション・センターは、DB2 の主な機能とコンポーネントに関する情報を提供します (レプリケーション、データウェアハウジング、および DB2 の種々の Extender など)。

Mozilla 1.0 以上または Microsoft[®] Internet Explorer 5.5 以上で表示する場合、DB2 インフォメーション・センターには以下の機能があります。以下のいくつかの機能では、JavaScript[™] のサポートを使用可能にする必要があります:

柔軟なインストール・オプション

以下の中から、ご使用の環境に最も適したオプションを使って DB2 資料を表示できます。

- 最新の資料を常に自動的に利用できるようにするには、IBM[®] の Web サイト (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/>) にある DB2 インフォメーション・センターからすべての資料に直接アクセスします。
- 更新処理を最小化し、イントラネット内のネットワーク・トラフィックだけに制限するには、イントラネット上の 1 つのサーバーに DB2 資料をインストールします。
- 柔軟性を改善し、ネットワーク接続への依存を軽減するには、個々のコンピューターに DB2 資料をインストールします。

検索 「検索」テキスト・フィールドに検索語を入力することにより、DB2 インフォメーション・センターのすべてのトピックを検索できます。複数の語句を引用符で囲めば、完全一致を検索できます。また、ワイルドカード演算子 (*、?) とブール演算子 (AND、NOT、OR) を使用して検索を絞り込むことができます。

タスク指向の目次

単一の目次の中から、DB2 資料のトピックを見付けることができます。目

次は、主に実行するタスクの種類に従って編成されていますが、そのほかに製品概要、特定のゴール (目的) の情報、参照情報、索引、および用語集も含まれます。

- 製品概要では、DB2 ファミリーで使用可能な製品間の関係、そうした各製品で提供される機能、および各製品の最新リリース情報について説明されています。
- インストール、管理および開発などのゴール・カテゴリには、タスクを迅速に完了し、そのための背景情報をよく理解できるようにするトピックが含まれています。
- 「参照」トピックでは、その対象に関する詳細な情報 (ステートメントとコマンドの構文、メッセージ・ヘルプ、構成パラメーターなど) が説明されています。

現在のトピックを目次に表示する

現在のトピックが目次のどの部分に該当するかを表示するには、目次フレーム内の「リフレッシュ/現在のトピックの表示 (Refresh/Show Current Topic)」ボタンをクリックするか、コンテンツ・フレーム内の「目次に表示 (Show in Table of Contents)」ボタンをクリックします。幾つかのファイルで関連トピックへの複数のリンクをたどった場合、または検索結果からトピックにアクセスした場合には、この機能が役立ちます。

索引 索引から、すべての資料にアクセスすることができます。索引では、用語が 50 音順に編成されています。

用語集 用語集を見れば、DB2 資料で使われているさまざまな用語の定義を調べることができます。用語集では、用語が 50 音順に編成されています。

組み込まれているローカライズ情報

DB2 インフォメーション・センターは、ブラウザで設定された言語でトピックを表示します。設定された言語のトピックが利用できない場合、DB2 インフォメーション・センターにはそのトピックの英語版が表示されます。

iSeries™ 技術情報については、IBM eServer™ iSeries Information Center (www.ibm.com/eserver/series/infocenter/) を参照してください。

関連概念:

- 570 ページの『DB2 インフォメーション・センターのインストール・シナリオ』

関連タスク:

- 579 ページの『コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 インフォメーション・センターの更新インストール』
- 580 ページの『DB2 Information Center のトピックを希望の言語で表示する』
- 578 ページの『DB2 Information Center の起動』
- 572 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (UNIX)』
- 575 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (Windows)』

DB2 インフォメーション・センターのインストール・シナリオ

さまざまに異なる業務環境のもとでは、DB2[®] 情報にどのようにアクセスするかの要件もそれぞれ異なります。DB2 インフォメーション・センターにアクセスするには、IBM[®] の Web サイト、サーバーまたは組織のネットワーク、あるいはコンピューターへのインストールという 3 つの方法が可能です。この 3 つのケースのいずれも、資料は DB2 インフォメーション・センター内に置かれます。インフォメーション・センターは、ブラウザを使って表示できるように設計されたトピック・ベースの情報の Web サイトです。デフォルトでは、DB2 製品から、IBM Web サイト上の DB2 インフォメーション・センターにアクセスします。これに対して、イントラネット・サーバーまたはご自分のコンピューターから DB2 インフォメーション・センターにアクセスしたい場合、製品メディア・パック内にある DB2 インフォメーション・センター CD から DB2 インフォメーション・センターをインストールする必要があります。以下では、DB2 資料へのアクセス・オプションの要約、および 3 つのインストール・シナリオを示します。これを参考にして、お客様の業務環境で DB2 インフォメーション・センターにアクセスするにはどの方法が最適か、どのようなインストール上の問題に配慮する必要があるかを判別してください。

DB2 資料にアクセスするオプションの要約:

以下の表は、お客様の実際の業務環境で、DB2 インフォメーション・センターの DB2 製品情報にアクセスする方法としてどんなオプションが推奨されるかを示します。

インターネット・アクセス	イントラネット・アクセス	推奨されるアクション
はい	はい	IBM Web サイト上の DB2 インフォメーション・センターへのアクセス、またはイントラネット・サーバーにインストール済みの DB2 インフォメーション・センターへのアクセス
はい	いいえ	IBM Web サイト上の DB2 インフォメーション・センターへのアクセス
いいえ	はい	イントラネット・サーバーにインストール済みの DB2 インフォメーション・センターへのアクセス
いいえ	いいえ	ローカル・コンピューター上の DB2 インフォメーション・センターへのアクセス

シナリオ: コンピューター上の DB2 インフォメーション・センターへのアクセス:

Tsu-Chen 氏は小さな町で工場を経営していますが、その町には、インターネット・アクセスを提供する地元のインターネット・サービス・プロバイダーがありません。彼は、在庫、製品オーダー、銀行口座情報、および営業経費を管理するために DB2 Universal Database™ を購入しました。Tsu-Chen 氏は以前に DB2 製品を利用したことがないので、DB2 の使用方法を習得するために、DB2 製品資料を参照する必要があります。

Tsu-Chen 氏は 標準インストール・オプションを使って DB2 Universal Database を自分のコンピューターにインストールした後、DB2 資料にアクセスしようとしてみます。しかし、開こうとしているページが見つからないというエラー・メッセージがブラウザから通知されました。Tsu-Chen 氏は DB2 製品のインストール・マニュアルを調べた結果、DB2 資料を自分のコンピューター上で利用するには、DB2 インフォメーション・センターをインストールしなければならないことに気がきます。そしてメディア・パックの中にあった DB2 インフォメーション・センター CD を見つけ出して、インストールしました。

これで、Tsu-Chen 氏はオペレーティング・システムのアプリケーション・ランチャーから DB2 インフォメーション・センターにアクセスできるようになり、より良い業務成果をあげるために DB2 製品を利用する方法を習得できます。

シナリオ: IBM Web サイト上の DB2 インフォメーション・センターへのアクセス:

Colin は、あるセミナー企業に所属する情報技術コンサルタントです。彼の専門はデータベース・テクノロジーおよび SQL で、DB2 Universal Database を使って北米一帯の企業を対象にこれらの科目のセミナーを開催しています。Colin のセミナーでは、教材として DB2 資料も使用されます。たとえば、SQL の講習コースでは、データベース照会の基本構文と拡張構文を教えるために SQL に関する DB2 資料が使用されます。

Colin が教えている企業の大半はインターネット・アクセスを配備しています。このような状況から判断して、Colin は、最新バージョンの DB2 Universal Database を自分のモバイル・コンピューターにインストールしたとき、IBM Web サイト上の DB2 インフォメーション・センターにアクセスするよう構成しました。この構成によって、Colin はセミナーで教えるときに最新の DB2 資料にオンライン・アクセスすることができます。

しかし、時折、Colin は移動中にインターネット・アクセスを利用できないことがあります。これは問題となります。担任するセミナーの準備のために DB2 資料にアクセスする必要のある場合には、とくにそうです。このような事態が起きないようにするために、Colin は自分のモバイル・コンピューターに DB2 インフォメーション・センターのコピーをインストールしました。

こうして、Colin は常に DB2 資料のコピーを自在に活用できるようになりました。**db2set** コマンドを使って自分のモバイル・コンピューターのレジストリー変数を簡単に構成し、どこにいるかに応じて、IBM Web サイトまたは自分のモバイル・コンピューターから DB2 インフォメーション・センターにアクセスできます。

シナリオ: イン트라ネット・サーバー上の DB2 インフォメーション・センターへのアクセス:

Eva は、生命保険会社のデータベース上級管理者です。彼女は管理業務の一環として、会社の UNIX[®] データベース・サーバーに最新バージョンの DB2 Universal Database をインストールおよび構成します。彼女の会社は最近、セキュリティ上の理由から、インターネット・アクセスをもはや業務で利用できないようにすると社員に通知しました。同社はネットワーク環境を装備しているため、Eva は DB2 インフォメーション・センターのコピーをイントラネット・サーバー上にインストール

ールして、社内のデータウェアハウスを定期的に利用するすべての社員（営業担当者、営業部長、および業務分析担当者）から DB2 資料へのアクセスを可能にすることにしました。

Eva は、応答ファイルを使って全社員のコンピューター上に最新バージョンの DB2 Universal Database をインストールするようデータベース・チームに指示します。その際、イントラネット・サーバーのホスト名とポート番号を使って DB2 インフォメーション・センターにアクセスできるよう、確実に各コンピューターを構成します。

しかし、Eva のチームの下級データベース管理者である Migual の誤解によって、数人の社員のコンピューター上で、イントラネット・サーバーの DB2 インフォメーション・センターにアクセスするよう DB2 Universal Database を構成する代わりに、DB2 インフォメーション・センターのコピーをそれらのコンピューターにインストールしてしまいました。これを訂正するために、Eva は、**db2set** コマンドを使ってこれらのコンピューター上の DB2 インフォメーション・センターのレジストリー変数（ホスト名は DB2_DOCHOST、ポート番号は DB2_DOCPORT）を変更するよう Migual に指示しました。これで、ネットワーク上の適切なすべてのコンピューターが DB2 インフォメーション・センターにアクセスできるようになり、社員は DB2 に関する質問の答えを DB2 資料から見つけることができます。

関連概念:

- 568 ページの『DB2 インフォメーション・センター』

関連タスク:

- 579 ページの『コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 インフォメーション・センターの更新インストール』
- 572 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (UNIX)』
- 575 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (Windows)』
- 『DB2 インフォメーション・センターへのアクセスのロケーションの設定: Common GUI help』

関連資料:

- コマンド・リファレンス の 『db2set - DB2 プロファイル・レジストリー・コマンド』

DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (UNIX)

DB2 製品資料にアクセスする方法として、IBM Web サイト、イントラネット・サーバー、またはコンピューターにインストールしたバージョンの 3 つがあります。デフォルトでは、DB2 製品は IBM Web サイト上の DB2 資料にアクセスします。イントラネット・サーバーまたはコンピューター上の DB2 資料にアクセスしたい場合には、DB2 インフォメーション・センター CD から資料をインストールする必要があります。DB2 セットアップ・ウィザードを使用すれば、インストール設

定を定義し、UNIX オペレーティング・システムを使用するコンピューターに DB2 インフォメーション・センターをインストールできます。

前提条件:

このセクションでは、UNIX コンピューターに DB2 インフォメーション・センターをインストールするためのハードウェア、オペレーティング・システム、ソフトウェア、および通信の諸要件を一覧で示します。

• ハードウェア要件

以下のいずれかのプロセッサが必要です。

- PowerPC (AIX)
- HP 9000 (HP-UX)
- Intel 32 ビット (Linux)
- Solaris UltraSPARC コンピューター (Solaris オペレーティング環境)

• オペレーティング・システム要件

以下のいずれかのオペレーティング・システムが必要です。

- IBM AIX 5.1 (PowerPC 上)
- HP-UX 11i (HP 9000 上)
- Red Hat Linux 8.0 (Intel 32 ビット上)
- SuSE Linux 8.1 (Intel 32 ビット上)
- Sun Solaris バージョン 8 (Solaris オペレーティング環境の UltraSPARC コンピューター上)

注: DB2 インフォメーション・センターは、DB2 クライアントをサポートする UNIX オペレーティング・システム上で稼動します。このため、IBM Web サイトから DB2 インフォメーション・センターにアクセスするか、イントラネット・サーバーに DB2 インフォメーション・センターをインストールしてそれにアクセスすることをお勧めします。

• ソフトウェア要件

- 以下のブラウザがサポートされています。

- Mozilla バージョン 1.0 以上

• DB2 セットアップ・ウィザードは、グラフィック・インストーラーです。ご使用のマシンで DB2 セットアップ・ウィザードのグラフィカル・ユーザー・インターフェイスを表示可能にする X Window システム・ソフトウェアをインプリメントする必要があります。DB2 セットアップ・ウィザードを実行する前に、ディスプレイを正しくエクスポートしたことを確認してください。たとえば、コマンド・プロンプトで

```
export DISPLAY=9.26.163.144:0.
```

というコマンドを入力します。

• 通信要件

- TCP/IP

手順:

DB2 セットアップ・ウィザードを使用して DB2 インフォメーション・センターをインストールするには、以下のようにします。

1. システムにログオンします。
2. DB2 インフォメーション・センター製品 CD を挿入してシステムにマウントします。
3. 次のコマンドを入力して、CD がマウントされているディレクトリーに移動します。

```
cd /cd
```

`/cd` は、CD のマウント・ポイントを表します。

4. **`/db2setup`** コマンドを入力して、DB2 セットアップ・ウィザードを開始します。
5. IBM DB2 セットアップ・ランチパッドが開きます。DB2 インフォメーション・センターのインストールに直接進むには、「製品のインストール」をクリックします。残りのステップについて説明しているオンライン・ヘルプを利用できます。オンライン・ヘルプを呼び出すには、「ヘルプ」をクリックします。「キャンセル」をクリックすれば、いつでもインストールを終了できます。
6. 「インストールしたい製品を選択します」ページでは、「次へ」をクリックします。
7. 「DB2 セットアップ・ウィザードによるこそ (Welcome to the DB2 Setup wizard)」ページで、「次へ」をクリックします。DB2 セットアップ・ウィザードは、プログラムのセットアップ操作を案内します。
8. インストールを続行するには、使用許諾条件に同意する必要があります。「ご使用条件」ページで、「ご使用条件に同意します (I accept the terms in the license agreement)」をクリックして、「次へ」をクリックします。
9. 「インストール・アクションの選択」で、「このコンピューターに DB2 インフォメーション・センターをインストールする (Install DB2 Information Center on this computer)」を選択します。応答ファイルを使用して、このコンピューターまたは他のコンピューターに DB2 インフォメーション・センターをあとでインストールしたい場合には、「設定を応答ファイルに保管する」を選択します。「次へ」をクリックします。
10. 「インストールする言語の選択」ページでは、DB2 インフォメーション・センターをインストールする言語を選択します。「次へ」をクリックします。
11. 「DB2 インフォメーション・センター・ポートの指定」ページでは、DB2 インフォメーション・センターへの着信通信を構成します。「次へ」をクリックしてインストールを続けます。
12. 「ファイルのコピーの開始」ページでは、インストールの選択項目を確認します。設定を変更するには、「戻る」をクリックします。「インストール」をクリックすると、DB2 インフォメーション・センターのファイルがコンピューターにコピーされます。

このほか、応答ファイルを使って DB2 インフォメーション・センターをインストールすることもできます。

インストール・ログ db2setup.his、 db2setup.log、 および db2setup.err は、デフォルトでは /tmp ディレクトリーに置かれます。

db2setup.log ファイルは、エラーも含めた DB2 製品のインストール情報をすべてキャプチャーします。 db2setup.his ファイルは、コンピューター上の DB2 製品インストール内容をすべて記録します。 DB2 は、db2setup.log ファイルを db2setup.his に付加します。 db2setup.err ファイルは、 Java から戻されるすべてのエラー出力 (例外やトラップの情報など) をキャプチャーします。

インストールが完了したら、ご使用の UNIX オペレーティング・システムに応じて、 DB2 は以下のいずれかのディレクトリーにインストールされます。

- AIX: /usr/opt/db2_08_01
- HP-UX: /opt/IBM/db2/V8.1
- Linux: /opt/IBM/db2/V8.1
- Solaris オペレーティング環境: /opt/IBM/db2/V8.1

関連概念:

- 568 ページの『DB2 インフォメーション・センター』
- 570 ページの『DB2 インフォメーション・センターのインストール・シナリオ』

関連タスク:

- インストールおよび構成 補足 の『応答ファイルによる DB2 のインストール (UNIX)』
- 579 ページの『コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 インフォメーション・センターの更新インストール』
- 580 ページの『DB2 Information Center のトピックを希望の言語で表示する』
- 578 ページの『DB2 Information Center の起動』
- 575 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (Windows)』

DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (Windows)

DB2 製品資料にアクセスする方法として、 IBM Web サイト、イントラネット・サーバー、またはコンピューターにインストールしたバージョンの 3 つがあります。デフォルトでは、DB2 製品は IBM Web サイト上の DB2 資料にアクセスします。イントラネット・サーバーまたはコンピューター上の DB2 資料にアクセスしたい場合には、 DB2 インフォメーション・センター CD から DB2 資料をインストールする必要があります。 DB2 セットアップ・ウィザードを使用すれば、インストール設定を定義し、 Windows オペレーティング・システムを使用するコンピューターに DB2 インフォメーション・センターをインストールできます。

前提条件:

このセクションでは、Windows に DB2 インフォメーション・センターをインストールするためのハードウェア、オペレーティング・システム、ソフトウェア、および通信の諸要件を一覧で示します。

- **ハードウェア要件**

以下のいずれかのプロセッサが必要です。

- 32 ビット・コンピューター: Pentium または Pentium 互換の CPU

- **オペレーティング・システム要件**

以下のいずれかのオペレーティング・システムが必要です。

- Windows 2000
- Windows XP

注: DB2 インフォメーション・センターは、DB2 クライアントをサポートする Windows オペレーティング・システム上で稼動します。このため、IBM Web サイトの DB2 インフォメーション・センターにアクセスするか、イントラネット・サーバーに DB2 インフォメーション・センターをインストールしてそれにアクセスすることをお勧めします。

- **ソフトウェア要件**

- 以下のブラウザがサポートされています。
 - Mozilla 1.0 以上
 - Internet Explorer バージョン 5.5 または 6.0 (Windows XP の場合はバージョン 6.0)

- **通信要件**

- TCP/IP

制約事項:

- DB2 インフォメーション・センターをインストールするには、管理権限をもつアカウントが必要です。

手順:

DB2 セットアップ・ウィザードを使用して DB2 インフォメーション・センターをインストールするには、以下のようになります。

1. DB2 インフォメーション・センターのインストールで定義したアカウントで、システムにログオンします。
2. CD をドライブに挿入します。自動実行機能が使用可能になっていれば、IBM DB2 セットアップ・ランチパッドが起動します。
3. DB2 セットアップ・ウィザードは、システム言語を判別して、その言語用のセットアップ・プログラムを立ち上げます。英語以外の言語でセットアップ・プログラムを実行したい場合、またはセットアップ・プログラムの自動始動が失敗した場合には、DB2 セットアップ・ウィザードを手動で開始できます。

次のようにして、DB2 セットアップ・ウィザードを手動で開始します。

- a. 「スタート」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」を選択します。
- b. 「開く」フィールドで、以下のコマンドを入力します。

```
x:%setup.exe /i 2-letter language identifier
```

ここで、x: は CD ドライブ、2-letter language identifier (2 文字の言語識別子) はセットアップ・プログラムを実行する言語を表します。

- c. 「OK」をクリックします。

4. IBM DB2 セットアップ・ランチパッドが開きます。DB2 インフォメーション・センターのインストールに直接進むには、「製品のインストール」をクリックします。残りのステップについて説明しているオンライン・ヘルプを利用できます。オンライン・ヘルプを呼び出すには、「ヘルプ」をクリックします。「キャンセル」をクリックすれば、いつでもインストールを終了できます。
5. 「インストールしたい製品を選択します」ページでは、「次へ」をクリックします。
6. 「DB2 セットアップ・ウィザードによるこそ (Welcome to the DB2 Setup wizard)」ページで、「次へ」をクリックします。DB2 セットアップ・ウィザードは、プログラムのセットアップ操作を案内します。
7. インストールを続行するには、使用許諾条件に同意する必要があります。「ご使用条件」ページで、「ご使用条件に同意します (I accept the terms in the license agreement)」をクリックして、「次へ」をクリックします。
8. 「インストール・アクションの選択」で、「このコンピューターに DB2 インフォメーション・センターをインストールする (Install DB2 Information Center on this computer)」を選択します。応答ファイルを使用して、このコンピューターまたは他のコンピューターに DB2 インフォメーション・センターをあとでインストールしたい場合には、「設定を応答ファイルに保管する」を選択します。「次へ」をクリックします。
9. 「インストールする言語の選択」ページでは、DB2 インフォメーション・センターをインストールする言語を選択します。「次へ」をクリックします。
10. 「DB2 インフォメーション・センター・ポートの指定」ページでは、DB2 インフォメーション・センターへの着信通信を構成します。「次へ」をクリックしてインストールを続けます。
11. 「ファイルのコピーの開始」ページでは、インストールの選択項目を確認します。設定を変更するには、「戻る」をクリックします。「インストール」をクリックすると、DB2 インフォメーション・センターのファイルがコンピューターにコピーされます。

応答ファイルを使って DB2 インフォメーション・センターをインストールすることができます。また、**db2rspgn** コマンドを使って、既存のインストール内容に基づく応答ファイルを生成することもできます。

インストール時に検出されるエラーの詳細については、「マイ ドキュメント」¥DB2LOG¥ ディレクトリー内の db2.log ファイルと db2wi.log ファイルを参照してください。「マイ ドキュメント」ディレクトリーの場所は、ご使用のコンピューターの設定によって異なります。

db2wi.log ファイルは、DB2 の最新のインストール情報をキャプチャーします。db2.log は、DB2 製品のインストールの履歴をキャプチャーします。

関連概念:

- 568 ページの『DB2 インフォメーション・センター』
- 570 ページの『DB2 インフォメーション・センターのインストール・シナリオ』

関連タスク:

- インストールおよび構成 補足 の 『応答ファイルによる DB2 製品のインストール (Windows)』
- 579 ページの 『コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 インフォメーション・センターの更新インストール』
- 580 ページの 『DB2 Information Center のトピックを希望の言語で表示する』
- 578 ページの 『DB2 Information Center の起動』
- 572 ページの 『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (UNIX)』

関連資料:

- コマンド・リファレンス の 『db2rspgn - 応答ファイル生成プログラム・コマンド』

DB2 Information Center の起動

DB2 Information Center を使用すると、Linux、UNIX、および Windows オペレーティング・システムで稼動する DB2 製品 (DB2 Universal Database、DB2 Connect、DB2 Information Integrator、および DB2 Query Patroller など) を使用するために必要なすべての情報にアクセスできます。

DB2 Information Center は、以下から呼び出すことができます。

- DB2 UDB クライアントまたはサーバーがインストールされているコンピューター
- DB2 Information Center がインストールされているイントラネット・サーバーまたはローカル・コンピューター
- IBM Web サイト

前提条件:

DB2 Information Center を起動する前に、以下を行う必要があります。

- オプション: 希望する言語でトピックが表示されるようにブラウザを構成します
- オプション: コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールされている DB2 Information Center を使用するように DB2 クライアントを構成します

手順:

DB2 UDB クライアントまたはサーバーがインストールされているコンピューターで DB2 Information Center を起動するには、以下のようになります。

- スタート・メニューから (Windows オペレーティング・システム): 「スタート」 → 「プログラム」 → 「IBM DB2」 → 「Information」 → 「Information Center」 をクリックします。
- コマンド行プロンプトから:
 - Linux および UNIX オペレーティング・システムの場合、 **db2icdocs** コマンドを発行します。
 - Windows オペレーティング・システムの場合、 **db2icdocs.exe** コマンドを発行します。

イントラネット・サーバーまたはローカル・コンピューターにインストールされている DB2 Information Center を Web ブラウザーで開くには、以下のようにします。

- Web ページ `http://<host-name>:<port-number>/` を開きます。ここで、<host-name> はホスト名を表し、<port-number> は DB2 Information Center を利用できるポート番号を表します。

IBM Web サイトの DB2 Information Center を Web ブラウザーで開くには、以下のようにします。

- Web ページ `publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/` を開きます。

関連概念:

- 568 ページの『DB2 インフォメーション・センター』
- 570 ページの『DB2 インフォメーション・センターのインストール・シナリオ』

関連タスク:

- 589 ページの『DB2 ツールからコンテキスト・ヘルプを呼び出す』
- 579 ページの『コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 インフォメーション・センターの更新インストール』
- 590 ページの『コマンド行プロセッサからコマンド・ヘルプを呼び出す』
- 『DB2 インフォメーション・センターへのアクセスのロケーションの設定: Common GUI help』

関連資料:

- コマンド・リファレンス の 『HELP コマンド』

コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 インフォメーション・センターの更新インストール

`http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/` から利用できる DB2 インフォメーション・センターは、資料の新規追加または変更によって定期的に更新されます。さらに、更新された DB2 インフォメーション・センターをコンピューターまたはイントラネット・サーバーにダウンロードしてインストールできる場合もあります。DB2 インフォメーション・センターを更新しても、DB2 クライアント製品またはサーバー製品は更新されません。

前提条件:

インターネットに接続されたコンピューターへのアクセスが必要です。

手順:

DB2 インフォメーション・センターの更新をコンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールするには、以下のようにします。

1. IBM の Web サイト (`http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/`) にある DB2 インフォメーション・センターを開きます。

2. 「DB2 インフォメーション・センターによるこそ」ページの見出し「サービスおよびサポート」の「ダウンロード」セクションで、「DB2 資料」リンクをクリックします。
3. 最新のドキュメンテーション・イメージのレベルと、インストール済みのドキュメンテーション・レベルを比較して、DB2 インフォメーション・センターを更新する必要があるかどうかを確認します。「DB2 インフォメーション・センターによるこそ」ページに、インストール済みのドキュメンテーションのレベルがリストされます。
4. より新しいバージョンの DB2 インフォメーション・センターが存在する場合、ご使用のオペレーティング・システムに対応する最新の DB2 インフォメーション・センター・イメージをダウンロードします。
5. 最新の DB2 インフォメーション・センター・イメージをインストールするには、Web ページの指示に従ってください。

関連概念:

- 570 ページの『DB2 インフォメーション・センターのインストール・シナリオ』

関連タスク:

- 578 ページの『DB2 Information Center の起動』
- 572 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (UNIX)』
- 575 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (Windows)』

DB2 Information Center のトピックを希望の言語で表示する

DB2 Information Center は、ブラウザーに設定されている言語でトピックを表示しようとします。設定されている言語にトピックが翻訳されなかった場合、DB2 Information Center はそのトピックを英語で表示します。

手順:

Internet Explorer ブラウザーでトピックを希望の言語で表示するには、以下のようになります。

1. Internet Explorer で、「ツール」→「インターネット・オプション」→「言語...」ボタンをクリックします。「言語の優先順位」ウィンドウがオープンします。
2. 言語のリストで、希望する言語が最初の項目として指定されていることを確認します。
 - 新しい言語をリストに追加するには、「追加...」ボタンをクリックします。

注: 言語を追加しても、その希望する言語でトピックを表示するのに必要なフォントがコンピューターに追加されるわけではありません。

- 言語をリストの最上位に移動するには、言語を選択して、その言語がリストの最上位になるまで「上へ」ボタンをクリックします。
3. DB2 Information Center が希望の言語で表示されるようにページを最新表示します。

Mozilla ブラウザーでトピックを希望の言語で表示するには、以下のようにします。

1. Mozilla で、「編集 (Edit)」→「設定 (Preferences)」→「言語 (Languages)」ボタンを選択します。「設定 (Preferences)」ウィンドウに「言語 (Languages)」パネルが表示されます。
2. 言語のリストで、希望する言語が最初の項目として指定されていることを確認します。
 - 新しい言語をリストに追加するには、「追加... (Add...)」ボタンをクリックして、「言語を追加 (Add Languages)」ウィンドウから言語を選択します。
 - 言語をリストの最上位に移動するには、言語を選択して、その言語がリストの最上位になるまで「上に移動 (Move Up)」ボタンをクリックします。
3. DB2 Information Center が希望の言語で表示されるようにページを最新表示します。

関連概念:

- 568 ページの『DB2 インフォメーション・センター』

DB2 PDF 資料および印刷された資料

以下の表は、正式な資料名、資料番号、および PDF ファイル名を示しています。ハードコピー版の資料を注文するには、正式な資料名を知っておく必要があります。PDF ファイルを印刷するには、PDF ファイル名を知っておく必要があります。

DB2 資料は、以下のカテゴリーに分類されています。

- DB2 中核情報
- 管理情報
- アプリケーション開発情報
- ビジネス・インテリジェンス情報
- DB2 Connect 情報
- 入門情報
- チュートリアル情報
- オプション・コンポーネント情報
- リリース・ノート

以下の表は、DB2 ライブラリー内の各資料について、その資料のハードコピー版を注文したり、PDF 版を印刷または表示したりするのに必要な情報を示しています。DB2 ライブラリー内の各資料に関する詳細な説明については、www.ibm.com/shop/publications/order にある IBM Publications Center にアクセスしてください。

DB2 の基本情報

こうした資料の情報は、すべての DB2 ユーザーに基本的なもので、プログラマーおよびデータベース管理者にとって役立つ情報であるとともに、DB2 Connect、DB2 Warehouse Manager、または他の DB2 製品を使用するユーザーにとっても役立つ内容です。

表 40. DB2 の基本情報

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「IBM DB2 Universal Database コマンド・リファレンス」	SC88-9140	db2n0j81
「IBM DB2 Universal Database 用語集」	資料番号なし	db2t0j81
「IBM DB2 Universal Database メッセージ・リファレンス 第 1 巻」	GC88-9152 (ハードコピーな し)	db2m1j81
「IBM DB2 Universal Database メッセージ・リファレンス 第 2 巻」	GC88-9153 (ハードコピーな し)	db2m2j81
「IBM DB2 Universal Database 新機能」	SC88-9158	db2q0j81

管理情報

これらの資料の情報は、DB2 データベース、データウェアハウス、およびフェデレーテッド・システムを効果的に設計し、インプリメントし、保守するために必要なトピックを扱っています。

表 41. 管理情報

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「IBM DB2 Universal Database 管理ガイド: プランニング」	SC88-9135	db2d1j81
「IBM DB2 Universal Database 管理ガイド: インプリメンテー ション」	SC88-9133	db2d2j81
「IBM DB2 Universal Database 管理ガイド: パフォーマンス」	SC88-9134	db2d3j81
「IBM DB2 Universal Database 管理 API リファレンス」	SC88-9136	db2b0j81
「IBM DB2 Universal Database データ移動ユーティリティー ガイドおよびリファレンス」	SC88-9142	db2dmj81
「IBM DB2 Universal Database データ・リカバリーと高可用性 ガイドおよびリファレンス」	SC88-9143	db2haj81
「IBM DB2 Universal Database データウェアハウス・センター 管理ガイド」	SC88-9165	db2ddj81
「IBM DB2 Universal Database SQL リファレンス 第 1 巻」	SC88-9155	db2s1j81
「IBM DB2 Universal Database SQL リファレンス 第 2 巻」	SC88-9156	db2s2j81

表 41. 管理情報 (続き)

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「IBM DB2 Universal Database システム・モニター ガイドおよびリファレンス」	SC88-9157	db2f0j81

アプリケーション開発情報

これらの資料の情報は、DB2 Universal Database (DB2 UDB) のアプリケーション開発者またはプログラマーが特に興味を持つ内容です。サポートされるさまざまなプログラミング・インターフェース (組み込み SQL、ODBC、JDBC、SQLJ、CLI など) を使用して DB2 UDB にアクセスするのに必要な資料とともに、サポートされる言語およびコンパイラーについても紹介されています。また、DB2 インフォメーション・センターをご使用の場合には、サンプル・プログラムのソース・コードの HTML バージョンにアクセスすることもできます。

表 42. アプリケーション開発情報

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「IBM DB2 Universal Database アプリケーション開発ガイド アプリケーションの構築および実行」	SC88-9137	db2axj81
「IBM DB2 Universal Database アプリケーション開発ガイド クライアント・アプリケーションのプログラミング」	SC88-9138	db2a1j81
「IBM DB2 Universal Database アプリケーション開発ガイド サーバー・アプリケーションのプログラミング」	SC88-9139	db2a2j81
「IBM DB2 Universal Database コール・レベル・インターフェース ガイドおよびリファレンス 第 1 巻」	SC88-9159	db211j81
「IBM DB2 Universal Database コール・レベル・インターフェース ガイドおよびリファレンス 第 2 巻」	SC88-9160	db212j81
「IBM DB2 Universal Database データウェアハウス・センター アプリケーション統合ガイド」	SC88-9166	db2adj81
「IBM DB2 Universal Database XML Extender 管理およびプログラミングのガイド」	SC88-9172	db2sxj81

ビジネス・インテリジェンス情報

これらの資料の情報は、さまざまなコンポーネントを使用して、DB2 Universal Database のデータウェアハウジング機能および分析機能を拡張する方法を説明しています。

表 43. ビジネス・インテリジェンス情報

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「IBM DB2 Warehouse Manager Standard Edition インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」	SC88-9167	db2dij81
「IBM DB2 Warehouse Manager Standard Edition インストール・ガイド」	GC88-9164	db2idj81
「IBM DB2 Warehouse Manager Standard Edition DB2 Warehouse Manager を使用時の ETI ソリューション・コンバージョン・プログラムの管理」	SC88-9894	iwhe1mstx80

DB2 Connect 情報

このカテゴリの情報は、DB2 Connect Enterprise Edition または DB2 Connect Personal Edition を使用して、メインフレーム・サーバーおよびミッドレンジ・サーバー上のデータにアクセスする方法を説明しています。

表 44. DB2 Connect 情報

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「IBM コネクティビティ 補足」	資料番号なし	db2h1j81
「IBM DB2 Connect Enterprise Edition 概説およびインストール」	GC88-9145	db2c6j81
「IBM DB2 Connect Personal Edition 概説およびインストール」	GC88-9146	db2c1j81
「IBM DB2 Connect ユーザーズ・ガイド」	SC88-9147	db2c0j81

入門情報

このカテゴリの情報は、サーバー、クライアント、および他の DB2 製品をインストールして構成する場合に役立ちます。

表 45. 入門情報

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「IBM DB2 Universal Database DB2 クライアント機能 概説およびインストール」	GC88-9144 (ハードコピーなし)	db2itj81
「IBM DB2 Universal Database DB2 サーバー機能 概説およびインストール」	GC88-9148	db2isj81
「IBM DB2 Universal Database DB2 Personal Edition 概説およびインストール」	GC88-9150	db2i1j81
「IBM DB2 Universal Database インストールおよび構成 補足」	GC88-9149 (ハードコピーなし)	db2iyj81
「IBM DB2 Universal Database DB2 Data Links Manager 概説およびインストール」	GC88-9141	db2z6j81

チュートリアル情報

チュートリアル情報は、DB2 機能を紹介し、さまざまなタスクを実行する方法を示します。

表 46. チュートリアル情報

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「ビジネス・インテリジェンス・チュートリアル: データウェアハウス・センターの紹介」	資料番号なし	db2tuj81
「ビジネス・インテリジェンス・チュートリアル: データウェアハウジングの上級者向けガイド」	資料番号なし	db2taj81
「インフォメーション・カタログ・センター チュートリアル」	資料番号なし	db2aij81
「Video Central for e-business チュートリアル」	資料番号なし	db2twj81
「Visual Explain チュートリアル」	資料番号なし	db2tvj81

オプション・コンポーネント情報

このカテゴリーの情報は、DB2 のオプション・コンポーネントを使用する方法について説明しています。

表 47. オptional・コンポーネント情報

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「IBM DB2 Cube Views Guide and Reference」	SC18-7298	db2aax81
「IBM DB2 Query Patroller インストール、管理、使用法のガイド」	GC88-9154	db2dwj81
「IBM DB2 Spatial Extender and Geodetic Extender ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」	SC88-9171	db2sbj81
「IBM DB2 Universal Database Data Links Manager 管理ガイドおよびリファレンス」	SC88-9169	db2z0x82
「DB2 Net Search Extender 管理およびユーザーズ・ガイド」	SH88-8546	N/A

注: この資料の HTML 版は、HTML ドキュメンテーション CD からインストールされません。

リリース・ノート

リリース・ノートは、ご使用の製品のリリースおよびフィックスパック・レベルに特有の追加情報を紹介します。また、リリース・ノートには、各リリース、アップデート、およびフィックスパックで組み込まれた資料上の更新の要約も含まれています。

表 48. リリース・ノート

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「DB2 リリース・ノート」	「注」を参照。	「注」を参照。
「DB2 インストール情報」	製品 CD-ROM でのみ参照可能。	使用できません。

注: リリース・ノートは以下の形式で入手できます。

- XHTML およびテキスト形式 (製品 CD 内)
- PDF 形式 (PDF ドキュメンテーション CD 内)

さらに、リリース・ノートの中で、『既知の問題と予備手段』および『リリース間の非互換性』に関する部分は DB2 インフォメーション・センターにも表示されます。

UNIX ベースのプラットフォームでテキスト形式でリリース・ノートを確認するには、Release.Notes ファイルを参照してください。このファイルは、DB2DIR/Readme/%L ディレクトリーに収録されています。%L はロケール名を表しています。DB2DIR は以下になります。

- AIX オペレーティング・システムの場合: /usr/opt/db2_08_01
- その他のすべての UNIX ベースのオペレーティング・システムの場合: /opt/IBM/db2/V8.1

関連概念:

- 567 ページの『DB2 資料とヘルプ』

関連タスク:

- 587 ページの『PDF ファイルからの DB2 資料の印刷方法』
- 588 ページの『DB2 の印刷資料の注文方法』
- 589 ページの『DB2 ツールからコンテキスト・ヘルプを呼び出す』

PDF ファイルからの DB2 資料の印刷方法

DB2 PDF ドキュメンテーション CD に収録されている DB2 資料を印刷することができます。 Adobe Acrobat Reader を使用すれば、資料全体または特定のページを印刷できます。

前提条件:

Adobe Acrobat Reader がインストールされていることを確認してください。 Adobe Acrobat Reader をインストールする必要がある場合、 Adobe Web サイト (www.adobe.com) から入手できます。

手順:

PDF ファイルから DB2 資料を印刷するには以下のようにします。

1. *DB2 PDF* ドキュメンテーション CD をドライブに挿入します。 UNIX オペレーティング・システムの場合、 *DB2 PDF* ドキュメンテーション CD をマウントします。 UNIX オペレーティング・システムで CD をマウントする方法については、「概説およびインストール」を参照してください。
2. `index.htm` を開きます。ブラウザ・ウィンドウにファイルが開きます。
3. 参照したい PDF のタイトルをクリックします。 Acrobat Reader で PDF が開きます。
4. 「ファイル」 → 「印刷」を選択して、所要の資料の任意の部分を印刷します。

関連概念:

- 568 ページの『DB2 インフォメーション・センター』

関連タスク:

- *DB2 Universal Database* サーバー機能 概説およびインストール の『CD-ROM のマウント (AIX)』
- *DB2 Universal Database* サーバー機能 概説およびインストール の『HP-UX 上での CD-ROM のマウント』
- *DB2 Universal Database* サーバー機能 概説およびインストール の『CD-ROM のマウント (Linux)』
- 588 ページの『DB2 の印刷資料の注文方法』

- *DB2 Universal Database* サーバー機能 概説およびインストールの『CD-ROM のマウント (Solaris)』

関連資料:

- 581 ページの『DB2 PDF 資料および印刷された資料』

DB2 の印刷資料の注文方法

ハードコピー版の資料を望む場合には、以下のいずれかの方法で注文できます。

印刷資料の注文方法:

一部の国または地域では、印刷された資料を注文することもできます。お客様がお住まいの国または地域でこのサービスが利用可能かどうかを確認するには、お住まいの国または地域の IBM Publications Web サイトをご覧ください。資料のご注文が可能な場合、以下のようにすることができます。

- 正規の IBM 製品販売業者または営業担当員に連絡してください。お客様がお住まいの地域の IBM 担当員の情報については、お手数ですが IBM の Web サイト (www.ibm.com/planetwide) の IBM Worldwide Directory of Contacts で確認してください。
- IBM Publications Center (<http://www.ibm.com/shop/publications/order>) にアクセスしてください。なお、IBM Publications Center から資料を注文できない国もあります。

DB2 製品がご利用可能になった時点で、印刷された資料は *DB2 PDF* ドキュメンテーション CD にある PDF 形式の資料と同じものです。さらに、*DB2* インフォメーション・センター CD に収録されている印刷された資料の内容もまた、これらと同じです。ただし、*DB2* インフォメーション・センター CD には、PDF 資料にない追加情報も含まれます (たとえば、SQL 管理作業や HTML サンプル)。DB2 PDF ドキュメンテーション CD に収録されている資料の中には、ハードコピーとしてご注文できない資料もあります。

注: *DB2* インフォメーション・センターは、PDF またはハードコピーの資料よりも頻繁に更新されます。ドキュメンテーションの更新が入手可能になった時点でインストールするか、*DB2* インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/>) を参照して最新の情報を入手してください。

関連タスク:

- 587 ページの『PDF ファイルからの DB2 資料の印刷方法』

関連資料:

- 581 ページの『DB2 PDF 資料および印刷された資料』

DB2 ツールからコンテキスト・ヘルプを呼び出す

コンテキスト・ヘルプは、特定のウィンドウ、ノートブック、ウィザード、またはアドバイザーに関連したタスクまたはコントロールの情報を提供します。コンテキスト・ヘルプは、グラフィカル・ユーザー・インターフェースのある DB2 管理ツールおよび開発ツールから利用できます。コンテキスト・ヘルプには、以下の 2 種類があります。

- それぞれのウィンドウまたはノートブックにある「ヘルプ」ボタンからアクセス可能なヘルプ
- infopop (ポップアップ情報ウィンドウ)。これは、マウス・カーソルを特定のフィールドまたはコントロール上に置いたとき、またはウィンドウ、ノートブック、ウィザード、アドバイザー内でフィールドまたはコントロールを選択して F1 を押すと表示されます。

「ヘルプ」ボタンを押すと、概説、前提条件、およびタスク情報が表示されます。infopop は、それぞれのフィールドおよびコントロールについて説明します。

手順:

コンテキスト・ヘルプを呼び出すには、以下のようになります。

- ウィンドウおよびノートブックのヘルプを表示するには、いずれかの DB2 ツールを開始して、任意のウィンドウまたはノートブックを開きます。ウィンドウまたはノートブックの右下隅にある「ヘルプ」ボタンをクリックして、コンテキスト・ヘルプを呼び出します。

また、それぞれの DB2 ツール・センターの上部にある「ヘルプ」メニュー項目からコンテキスト・ヘルプにアクセスすることもできます。

ウィザードおよびアドバイザーでは、最初のページの「タスクの概要」リンクをクリックすると、コンテキスト・ヘルプを表示できます。

- ウィンドウまたはノートブック上の各コントロールの infopop ヘルプを表示するには、コントロールをクリックしてから、**F1** を押します。コントロールの詳細情報を示すポップアップ情報が、黄色いウィンドウに表示されます。

注: フィールドまたはコントロールにマウス・カーソルを置いておくだけで infopops が表示されるようにするには、「ツール設定」ノートブックの「**文書 (Documentation)**」ページの「**infopops の自動表示**」チェック・ボックスを選択します。

infopop に似た別のコンテキスト・ヘルプに、診断ポップアップ情報があります。これにはデータ入力規則が示されます。診断ポップアップ情報は、無効または不十分なデータが入力されたとき、紫色のウィンドウに表示されます。診断ポップアップ情報は、以下に関して表示されます。

- 必須フィールド。
- 日付フィールドのように、正確なフォーマットを必要とするデータのフィールド。

関連タスク:

- 578 ページの『DB2 Information Center の起動』
- 590 ページの『コマンド行プロセッサからメッセージ・ヘルプを呼び出す』

- 590 ページの『コマンド行プロセッサからコマンド・ヘルプを呼び出す』
- 591 ページの『コマンド行プロセッサから SQL 状態ヘルプを呼び出す』
- 『DB2 インフォメーション・センターへのアクセス: Concepts help』
- 『DB2 UDB ヘルプの使用方法: Common GUI help』
- 『DB2 インフォメーション・センターへのアクセスのロケーションの設定: Common GUI help』
- 『DB2 コンテキスト・ヘルプと資料へのアクセスを設定する: Common GUI help』

コマンド行プロセッサからメッセージ・ヘルプを呼び出す

メッセージ・ヘルプは、メッセージが出された原因と、エラーへの応答として実行すべきアクションを説明します。

手順:

メッセージ・ヘルプを呼び出すには、コマンド行プロセッサを開いて以下のように入力します。

```
? XXXnnnnn
```

ここで、*XXXnnnnn* は有効なメッセージ ID を表します。

たとえば、? SQL30081 と入力すると、メッセージ SQL30081 に関するヘルプを表示します。

関連概念:

- 1 ページの『第 1 章 メッセージの概要』

関連資料:

- コマンド・リファレンスの『db2 - コマンド行プロセッサの呼び出しコマンド』

コマンド行プロセッサからコマンド・ヘルプを呼び出す

コマンド・ヘルプは、コマンド行プロセッサでのコマンドの構文を説明します。

手順:

コマンド・ヘルプを呼び出すには、コマンド行プロセッサを開いて以下のように入力します。

```
? command
```

ここで *command* はキーワードまたはコマンド全体を表します。

たとえば、? catalog と入力すると、すべての CATALOG コマンドに関するヘルプが表示され、? catalog database と入力すると、CATALOG DATABASE コマンドのヘルプだけが表示されます。

関連タスク:

- 589 ページの『DB2 ツールからコンテキスト・ヘルプを呼び出す』
- 578 ページの『DB2 Information Center の起動』
- 590 ページの『コマンド行プロセッサからメッセージ・ヘルプを呼び出す』
- 591 ページの『コマンド行プロセッサから SQL 状態ヘルプを呼び出す』

関連資料:

- コマンド・リファレンス の 『db2 - コマンド行プロセッサの呼び出しコマンド』

コマンド行プロセッサから SQL 状態ヘルプを呼び出す

DB2 Universal Database は、SQL ステートメントの結果の原因となったと考えられる条件の SQLSTATE 値を戻します。SQLSTATE ヘルプは、SQL 状態および SQL 状態クラス・コードの意味を説明します。

手順:

SQL 状態ヘルプを呼び出すには、コマンド行プロセッサを開いて以下のように入力します。

```
? sqlstate または ? class code
```

ここで、*sqlstate* は有効な 5 桁の SQL 状態を、*class code* は SQL 状態の最初の 2 桁を表します。

たとえば、? 08003 を指定すると SQL 状態 08003 のヘルプが表示され、? 08 を指定するとクラス・コード 08 のヘルプが表示されます。

関連タスク:

- 578 ページの『DB2 Information Center の起動』
- 590 ページの『コマンド行プロセッサからメッセージ・ヘルプを呼び出す』
- 590 ページの『コマンド行プロセッサからコマンド・ヘルプを呼び出す』

DB2 チュートリアル

DB2® チュートリアルは、DB2 Universal Database のさまざまな機能について学習するのを支援します。このチュートリアルでは、アプリケーションの開発、SQL 照会のパフォーマンス調整、データウェアハウスの処理、メタデータの管理、および DB2 を使用した Web サービスの開発の各分野で、段階的なレッスンが用意されています。

はじめに:

インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/>) から、このチュートリアルの XHTML 版を表示できます。

チュートリアルの中で、サンプル・データまたはサンプル・コードを使用する場合があります。個々のタスクの前提条件については、それぞれのチュートリアルを参照してください。

DB2 Universal Database チュートリアル:

以下に示すチュートリアルのタイトルをクリックすると、そのチュートリアルを表示できます。

ビジネス・インテリジェンス・チュートリアル: データウェアハウス・センターの紹介
データウェアハウス・センターを使用して簡単なデータウェアハウジング・タスクを実行します。

ビジネス・インテリジェンス・チュートリアル: データウェアハウジングの上級者向けガイド
データウェアハウス・センターを使用して高度なデータウェアハウジング・タスクを実行します。

インフォメーション・カタログ・センター・チュートリアル
インフォメーション・カタログを作成および管理して、インフォメーション・カタログ・センターを使用してメタデータを配置し使用します。

Visual Explain チュートリアル
Visual Explain を使用して、パフォーマンスを向上させるために SQL ステートメントを分析し、最適化し、調整します。

DB2 トラブルシューティング情報

DB2[®] 製品を使用する際に役立つ、トラブルシューティングおよび問題判別に関する広範囲な情報を利用できます。

DB2 ドキュメンテーション

トラブルシューティング情報は、DB2 インフォメーション・センター、および DB2 ライブラリーに含まれる PDF 資料の中にご利用いただけます。DB2 インフォメーション・センターで、(ブラウザ・ウィンドウの左側の) ナビゲーション・ツリーの「サポートおよびトラブルシューティング (Support and troubleshooting)」ブランチを参照すると、DB2 トラブルシューティング・ドキュメンテーションの詳細なリストが見つかります。

DB2 Technical Support の Web サイト

現在問題が発生していて、考えられる原因とソリューションを検索したい場合は、DB2 Technical Support の Web サイトを参照してください。Technical Support サイトには、最新の DB2 出版物、TechNotes、プログラム診断依頼書 (APAR)、フィックスパック、DB2 内部エラー・コードの最新リスト、その他のリソースが用意されています。この知識ベースを活用して、問題に対する有効なソリューションを探し出すことができます。

DB2 Technical Support の Web サイト

(<http://www.ibm.com/software/data/db2/udb/winos2unix/support>) にアクセスしてください。

DB2 Problem Determination Tutorial Series

DB2 製品で作業中に直面するかもしれない問題を素早く識別し、解決する方法に関する情報を見つけるには、DB2 Problem Determination Tutorial Series の Web サイトを参照してください。あるチュートリアルでは、使用可能な DB2 問題判別機能およびツールを紹介し、それらをいつ使用すべきかを判断する助けを与えます。別のチュートリアルは、『データベース・エ

ンジン問題判別 (Database Engine Problem Determination)』、『パフォーマンス問題判別 (Performance Problem Determination)』、『アプリケーション問題判別 (Application Problem Determination)』などの関連トピックを扱っています。

DB2 Technical Support

(<http://www.ibm.com/software/data/support/pdm/db2tutorials.html>) には、DB2 問題判別チュートリアルがすべて揃っています。

関連概念:

- 568 ページの『DB2 インフォメーション・センター』
- 『Introduction to Problem Determination - DB2 テクニカル・サポートのチュートリアル』 in the 「問題判別の手引き」

アクセス支援

アクセス支援機能は、身体に障害のある (身体動作が制限されている、視力が弱いなど) ユーザーがソフトウェア製品を十分活用できるように支援します。DB2[®] バージョン 8 製品に備わっている主なアクセス支援機能は、以下のとおりです。

- すべての DB2 機能は、マウスの代わりにキーボードを使ってナビゲーションできます。詳細については、『キーボードによる入力およびナビゲーション』を参照してください。
- DB2 ユーザー・インターフェースのフォント・サイズおよび色をカスタマイズすることができます。詳細については、594 ページの『アクセスしやすい表示』を参照してください。
- DB2 製品は、Java[™] Accessibility API を使用するアクセス支援アプリケーションをサポートします。詳細については、594 ページの『支援テクノロジーとの互換性』を参照してください。
- DB2 資料は、アクセスしやすい形式で提供されています。詳細については、594 ページの『アクセスしやすい資料』を参照してください。

キーボードによる入力およびナビゲーション

キーボード入力

キーボードだけを使用して DB2 ツールを操作できます。マウスを使って実行できる操作は、キーまたはキーの組み合わせによっても実行できます。標準のオペレーティング・システム・キー・ストロークを使用して、標準のオペレーティング・システム操作を実行できます。

キーまたはキーの組み合わせによって操作を実行する方法について、詳しくは キーボード・ショートカットおよびアクセラレーター: Common GUI help を参照してください。

キーボード・ナビゲーション

キーまたはキーの組み合わせを使用して、DB2 ツールのユーザー・インターフェースをナビゲートできます。

キーまたはキーの組み合わせによって DB2 ツールをナビゲートする方法の詳細については、キーボード・ショートカットおよびアクセラレーター: Common GUI help を参照してください。

キーボード・フォーカス

UNIX® オペレーティング・システムでは、アクティブ・ウィンドウの中で、キー・ストロークによって操作できる領域が強調表示されます。

アクセスしやすい表示

DB2 ツールには、視力の弱いユーザー、その他の視力障害をもつユーザーのためにアクセシビリティを向上させる機能が備わっています。これらのアクセシビリティ拡張機能には、フォント・プロパティのカスタマイズを可能にする機能も含まれています。

フォントの設定

「ツール設定」ノートブックを使用して、メニューおよびダイアログ・ウィンドウに使用されるテキストの色、サイズ、およびフォントを選択できます。

フォント設定に関する詳細情報は、メニューおよびテキストのフォントを変更する: Common GUI help を参照してください。

色に依存しない

本製品のすべての機能を使用するために、ユーザーは必ずしも色を識別する必要はありません。

支援テクノロジーとの互換性

DB2 ツールのインターフェースは、Java Accessibility API をサポートします。これによって、スクリーン・リーダーその他の支援テクノロジーを DB2 製品で利用できるようになります。

アクセスしやすい資料

DB2 形式は、ほとんどの Web ブラウザーで表示可能な XHTML 1.0 形式で提供されています。XHTML により、ご使用のブラウザーに設定されている表示設定に従って資料を表示できます。さらに、スクリーン・リーダーや他の支援テクノロジーを使用することもできます。

シンタックス・ダイアグラムはドット 10 進形式で提供されます。この形式は、スクリーン・リーダーを使用してオンライン・ドキュメンテーションにアクセスする場合にのみ使用できます。

関連概念:

- 595 ページの『ドット 10 進シンタックス・ダイアグラム』

関連タスク:

- 『キーボード・ショートカットおよびアクセラレーター: Common GUI help』
- 『メニューおよびテキストのフォントを変更する: Common GUI help』

ドット 10 進シンタックス・ダイアグラム

スクリーン・リーダーを使用してインフォメーション・センターを利用するユーザーのために、シンタックス・ダイアグラムがドット 10 進形式で提供されます。

ドット 10 進形式では、各シンタックス・エレメントは別々の行に書き込まれます。複数のシンタックス・エレメントが常に同時に存在する (または常に同時に不在の) 場合、単一のコンパウンド・シンタックス・エレメントとみなせるので同一行に表示できます。

各行は、ドット 10 進数で開始します。たとえば、3 または 3.1 ないしは 3.1.1 です。こうした数を適切に聞き取るには、スクリーン・リーダーが句読点を読み取るように設定されていることを確認してください。同じドット 10 進数を持つすべてのシンタックス・エレメント (たとえば、3.1 という数値を持つすべてのシンタックス・エレメント) は、相互に排他的な代替エレメントです。3.1 USERID および 3.1 SYSTEMID という行を聞き取る場合、シンタックスには両方ではなく USERID または SYSTEMID のどちらかが含まれることが分かります。

ドット 10 進レベルは、ネストのレベルを表示します。たとえば、ドット 10 進数 3 のシンタックス・エレメントの後に、一連のドット 10 進数 3.1 のシンタックス・エレメントが続きます。3.1 の番号が付されたシンタックス・エレメントすべては、番号 3 の付されたシンタックス・エレメントに従属します。

シンタックス・エレメントに関する情報を追加するため、ドット 10 進数の次に特定のワードおよびシンボルが使用されます。時折、こうしたワードおよびシンボルはエレメントの最初に表示される場合もあります。簡単に識別するため、ワードやシンボルがシンタックス・エレメントの一部である場合には、円記号 (¥) 文字が先頭に付きます。* シンボルはドット 10 進数の次に使用でき、シンタックス・エレメントが反復することを示します。たとえば、ドット 10 進数 3 のシンタックス・エレメント *FILE は、3 ¥* FILE という形式になります。3* FILE という形式は、シンタックス・エレメント FILE が反復されることを示します。3* ¥* FILE という形式は、シンタックス・エレメント * FILE が反復されることを示します。

シンタックス・エレメントのストリングを分離するのに使用されるコンマなどの文字は、シンタックス内の分離する項目の直前に表示されます。こうした文字は、それぞれの項目と同一行に表示するか、同じドット 10 進数を持つ関連する項目のある別の行に表示できます。またその行には、シンタックス・エレメントに関する情報を提供する別のシンボルを表示することも可能です。たとえば、複数の LASTRUN および DELETE シンタックス・エレメントを使用している場合には、5.1*、5.1 LASTRUN、および 5.1 DELETE という行は、エレメントをコンマで区切る必要があります。区切り文字が指定されないと、各シンタックス・エレメントを区切るのにブランクが使用されると想定されます。

シンタックス・エレメントの前に % シンボルが付く場合、他の箇所で定義されている参照であることを示します。% シンボルの後のストリングは、リテラルではなくシンタックス・フラグメントの名前です。たとえば、2.1 %OP1 という行は別のシンタックス・フラグメント OP1 を参照すべきことを意味します。

以下のワードおよびシンボルが、ドット 10 進数の次に使用されます。

- ? は、オプションのシンタックス・エレメントであることを表します。? シンボルが後に続くドット 10 進数は、対応するドット 10 進数のシンタックス・エレメント、および任意の従属のシンタックス・エレメントがオプションであることを示します。ドット 10 進数の付いたシンタックス・エレメントが 1 つしかない場合、? シンボルはそのシンタックス・エレメントと同じ行に表示されます (たとえば、5? NOTIFY)。ドット 10 進数の付いたシンタックス・エレメントが複数ある場合、? シンボルだけで行に表示され、その後にオプションのシンタックス・エレメントが続きます。たとえば、「5 ?, 5 NOTIFY、および 5 UPDATE」という行を聞き取る場合、シンタックス・エレメント NOTIFY および UPDATE がオプションである、つまりそのいずれかを選択でき、どちらも選択しないこともできることが分かります。? シンボルは、線路型ダイアグラムのバイパス線に相当します。
- ! は、デフォルトのシンタックス・エレメントであることを表します。! シンボルおよびシンタックス・エレメントが後に続くドット 10 進数は、そのシンタックス・エレメントが、同じドット 10 進数を共有するシンタックス・エレメントすべてのデフォルト・オプションであることを示します。同じドット 10 進数を共有するシンタックス・エレメントのうち 1 つだけに、! シンボルを指定できます。たとえば、「2? FILE、2.1! (KEEP)、および 2.1 (DELETE)」という行を聞き取る場合、FILE キーワードのデフォルト・オプションは (KEEP) になります。この例では、FILE キーワードを含めてもオプションを指定しない場合には、デフォルト・オプション KEEP が適用されます。デフォルト・オプションは、次に高位のドット 10 進数にも適用されます。この例の場合、FILE キーワードが省略されると、デフォルトの FILE(KEEP) が使用されます。しかし、「2? FILE、2.1、2.1.1! (KEEP)、および 2.1.1 (DELETE)」という行を聞き取る場合、デフォルト・オプション KEEP は次に高位のドット 10 進数 2.1 (関連キーワードを持っていない) にのみ適用され、2? FILE には適用されません。キーワード FILE が省略されると、どれも使用されません。
- * は、0 回以上反復できるシンタックス・エレメントを示します。* シンボルが後に続くドット 10 進数は、このシンタックス・エレメントが 0 回以上使用できること、つまりオプションであり、なおかつ反復できることを表します。たとえば、5.1* データ域という行を聞き取る場合、1 つまたは複数のデータ域を含めるか、またはデータ域を全く含めないことが可能です。「3*, 3 HOST、および 3 STATE」という行を聞き取る場合、HOST、STATE をどちらか一方または両方同時に含めるか、どちらも含めないことができます。

注:

1. ドット 10 進数の後にアスタリスク (*) が付き、ドット 10 進数の付いた項目が 1 つしかない場合には、同じ項目を複数回反復できます。
 2. ドット 10 進数の後にアスタリスクが付き、ドット 10 進数の付いた項目が複数ある場合、リストから複数の項目を使用できますが、各項目を複数回使用することはできません。前述の例では、HOST STATE と書くことはできますが、HOST HOST とは書けません。
 3. * シンボルは、線路型シンタックス・ダイアグラムのループバック線に相当します。
- + は、1 回以上含める必要のあるシンタックス・エレメントであることを示します。+ シンボルが後に続くドット 10 進数は、このシンタックス・エレメントを 1 回以上含める必要があること、つまり少なくとも 1 回は含める必要があり、反

復できることを表します。たとえば、「6.1+ データ域」という行を聞き取る場合、データ域を少なくとも 1 回は含めなければなりません。「2+, 2 HOST、および 2 STATE」という行を聞き取る場合には、HOST、STATE、またはその両方を含める必要があります。* シンボルと同様に、+ シンボルは、ドット 10 進数の付いた項目が 1 つしかない場合に限り、その特定の項目のみを反復できます。* シンボルと同様に、+ シンボルは線路型シンタックス・ダイアグラムのループバック線に相当します。

関連概念:

- 593 ページの『アクセス支援』

関連タスク:

- 『キーボード・ショートカットおよびアクセラレーター: Common GUI help』

関連資料:

- *SQL* リファレンス 第 2 巻 の 『構文図の見方』

DB2 Universal Database 製品の共通基準認証

DB2 Universal Database は、Common Criteria の評価検定レベル 4 (EAL4) で認証の評価を受けています。Common Criteria の詳細については、以下の Common Criteria の Web サイトを参照してください。 <http://niap.nist.gov/cc-scheme/>

付録 C. 特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム(本プログラムを含む)との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Canada Limited
Office of the Lab Director
8200 Warden Avenue
Markham, Ontario
L6G 1C7
CANADA

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生した創作物には、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

ACF/VTAM	iSeries
AISPO	LAN Distance
AIX	MVS
AIXwindows	MVS/ESA
AnyNet	MVS/XA
APPN	Net.Data
AS/400	NetView
BookManager	OS/390
C Set++	OS/400
C/370	PowerPC
CICS	pSeries
Database 2	QBIC
DataHub	QMF
DataJoiner	RACF
DataPropagator	RISC System/6000
DataRefresher	RS/6000
DB2	S/370
DB2 Connect	SP
DB2 Extenders	SQL/400
DB2 OLAP Server	SQL/DS
DB2 Information Integrator	System/370
DB2 Query Patroller	System/390
DB2 Universal Database	SystemView
Distributed Relational Database Architecture	Tivoli
DRDA	VisualAge
eServer	VM/ESA
Extended Services	VSE/ESA
FFST	VTAM
First Failure Support Technology	WebExplorer
IBM	WebSphere
IMS	WIN-OS/2
IMS/ESA	z/OS
	zSeries

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。
他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アクセス、ヘルプへの 1
アクセス可能性
機能 593
ドット 10 進構文図 595
印刷
PDF ファイル 587
インストール
Information Center 570, 572, 575
オンライン
ヘルプへのアクセス 589

[カ行]

概要、メッセージの 1
キーボード・ショートカット
サポート 593
検索
DB2 文書 568
更新
DB2 Information Center 579
コマンド・ヘルプ
呼び出し 590

[サ行]

身体障害支援 593
その他のメッセージ・ソース 3

[タ行]

チュートリアル 591
トラブルシューティングおよび問題判別 592
ドット 10 進構文図 595
トラブルシューティング
オンライン情報 592
チュートリアル 592

[ハ行]

ハードコピー資料の注文 588

文書
表示 578
ヘルプ
コマンドの 590
表示 578, 580
メッセージの 590
SQL ステートメントの 591

[マ行]

メッセージ 1, 5
ADM 3
AUD 3
DIA 3
GOV 3
SQL 5
SQL0000 - SQL0099 5
SQL0100 - SQL0199 13
SQL0200 - SQL0299 29
SQL0300 - SQL0399 50
SQL0400 - SQL0499 64
SQL0500 - SQL0599 87
SQL0600 - SQL0699 105
SQL0700 - SQL0799 117
SQL0800 - SQL0899 124
SQL0900 - SQL0999 133
SQL1000 - SQL1099 151
SQL10000 - SQL10099 436
SQL1100 - SQL1199 170
SQL1200 - SQL1299 186
SQL1300 - SQL1399 205
SQL1400 - SQL1499 219
SQL1500 - SQL1599 230
SQL1600 - SQL1699 235
SQL1700 - SQL1799 242
SQL1800 - SQL1899 252
SQL1900 - SQL1999 261
SQL2000 - SQL2099 261
SQL20000 - SQL20099 440
SQL20100 - SQL20199 458
SQL20200 - SQL20299 472
SQL2100 - SQL2199 272
SQL21000 - SQL21099 484
SQL2200 - SQL2299 274
SQL22000 - SQL22099 484
SQL22200 - SQL22299 487
SQL22400 - SQL22499 497
SQL2300 - SQL2399 277
SQL2400 - SQL2499 280
SQL2500 - SQL2599 284
SQL2600 - SQL2699 297

メッセージ (続き)
SQL2700 - SQL2799 299
SQL27900 - SQL27999 499
SQL2800 - SQL2899 305
SQL29000 - SQL29099 506
SQL3000 - SQL3099 308
SQL30000 - SQL30099 508
SQL30100 - SQL30199 523
SQL3100 - SQL3199 321
SQL3200 - SQL3299 335
SQL3300 - SQL3399 343
SQL3400 - SQL3499 349
SQL3500 - SQL3599 352
SQL3600 - SQL3699 359
SQL3700 - SQL3799 361
SQL3800 - SQL3899 363
SQL3900 - SQL3999 365
SQL4000 - SQL4099 370
SQL4100 - SQL4199 372
SQL4300 - SQL4399 380
SQL4400 - SQL4499 382
SQL4900 - SQL4999 384
SQL5000 - SQL5099 392
SQL5100 - SQL5199 397
SQL5500 - SQL5599 402
SQL6000 - SQL6099 402
SQL6100 - SQL6199 417
SQL6500 - SQL65099 420
SQL7000 - SQL7099 428
SQL8000 - SQL8099 430
SQL8100 - SQL8199 434
SQL9300 - SQL9399 435
SQLSTATE 525

メッセージ、概要 1
メッセージ構造 1
メッセージ接頭部 1
メッセージ接尾部 1
メッセージ・ヘルプ 1
呼び出し 590
問題判別
オンライン情報 592
チュートリアル 592

[ヤ行]

呼び出し
コマンド・ヘルプ 590
メッセージ・ヘルプ 590
SQL ステートメント・ヘルプ 591

A

ADM メッセージ 3
AUD メッセージ 3

D

DB2 Information Center 568
 更新 579
 異なる言語で表示 580
 呼び出し 578
DB2 資料
 PDF ファイルの印刷 587
DB2 資料の注文 588
DB2 チュートリアル 591
DIA メッセージ 3

G

GOV メッセージ 3

I

Information Center
 インストール 570, 572, 575

S

SQL ステートメント・ヘルプ
 呼び出し 591

IBM と連絡をとる

技術上の問題がある場合は、お客様サポートにご連絡ください。

製品情報

DB2 Universal Database 製品に関する情報は、
<http://www.ibm.com/software/data/db2/udb> から入手できます。

このサイトには、技術ライブラリー、資料の注文方法、製品のダウンロード、ニュースグループ、フィックスパック、ニュース、および Web リソースへのリンクに関する最新情報が掲載されています。

米国以外の国で IBM に連絡する方法については、IBM Worldwide ページ (www.ibm.com/planetwide) にアクセスしてください。



Printed in Japan

GC88-9153-01



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12